講 義 内 容

自 動 登 録 科 目

科目名	必修基礎演習	曜日時限	クラス１～３３ 月2 or 火3 or 木3 or 金3
コーディネーター	文化構想学部　橋本　一径		

授　業　概　要

「必修基礎演習」の目的は、これから大学で勉強をしていくために必要な、「読む」力と「書く」力を養成することです。具体的には、おおむね次の三つのステップからなります。

・一定以上の難度をもつ文章（論文・評論など）を読み、それを手がかりにして、何らかの問い（論題）を立てる。
・問いに答えていくための情報（文献など）を収集する。
・集めた情報をもとに考察を加えて、問いに対する答えを導き、それを一定以上の長さの文章（レポート）にまとめる。

「必修基礎演習」では、担当教員の指導のもとで、このような作業を進めていきますが、レポートをまとめる前に、その過程で調べたことや考えたことを教室で発表し、他の学生や教員とディスカッションを行います。自分の発表に対する質問に答えたり、他の学生の発表に対して積極的に質問を投げかけたりすることは、考えを練り上げていく上で、大きな助けとなるはずです。

授業の到達目標

文献を読み解き、それをもとに論理的に考え、文章化する能力を身につけることを目標とします。

教　科　書

『必修基礎演習ガイドブック』：文献を読み、レポートを書くための手引きです。授業には持参してください（科目登録関係書類に同封しています）。

参　考　文　献

「必修基礎演習テキスト100」：「必修基礎演習」で読むにふさわしい文献として論系・コースから推薦された図書です。初回授業時に持参してください（科目登録関係書類に同封しています）。

「基礎演習教材論文」：文学学術院の教員が執筆した論文で、「必修基礎演習」用にアレンジされています。「基礎演習データベース」から検索できます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　自分で問いを立て、文献を調べるなどして考察を進め、結論に至る道筋を示すことが必要です。
●**平常点**　50%　　発表やディスカッションに積極的に参加してください。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連ＵＲＬ

・「必修基礎演習」の担当教員が、1年次のクラス担任となります。
・成績評価の目安として、「A+」は総履修者の10%以内、「A」は30%以内となります。

自動登録科目

科目名	基礎演習（JCulP）1							
担当者名	高井　詩穂							
共通	2単位	春クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is part of a sequence designed to help students develop the essential skills required to conduct research in the Humanities, with an emphasis on learning how to read academic articles and think critically and logically. Throughout the semester, students will become acquainted with and critically discuss various key articles on Japanese culture.

This is a required course for JCulP first-year Japanese students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:
1) Acquire exposure to key articles on Japanese culture in English.
2) Summarize and critically discuss academic articles.
3) Convey ideas logically and coherently based on readings.

成績評価方法

20% Final Project

30% Attendance and Class Participation

50% Weekly Assignments and Presentations

科目名	基礎演習（JCulP）2							
担当者名	スミス　ジョーダン・アントニー・ヤマジ							
共通	2単位	秋クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is part of a sequence designed to help students develop the essential skills required to conduct research in the Humanities. The theme of the course is "Japanese Culture in a Global Context." Students will learn how to structure and write a research paper, how to find relevant secondary sources, interpret them and incorporate them in their own writing.

This is a required course for all JCulP first-year students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:
1. Design and implement a writing plan to produce a research paper.
2. Find, interpret and incorporate secondary sources in their own writing.
3. Draft, edit, and peer-review, a research paper.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　（Final Project）
●**平常点**　30%　（Weekly Attendance/Participation）
●**その他**　30%　（Weekly Assignments and Presentations）

科目名	基礎演習（JCulP）3							
担当者名	由尾　瞳							
共通	2単位	冬クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is part of a sequence designed to help you develop the essential skills required to conduct research in the Humanities. Continuing with the theme of "Japanese Culture in a Global Context," you will revise and complete your final research paper, and learn how to work in groups, to use digital technology, and to create multimodal projects.

This is a required course for all JCulP first-year students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:

1. Revise, peer-review, and polish a research paper.
2. Effectively use digital technology and resources.
3. Work collaboratively and develop group presentation skills.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Final Research Paper (50%)
3. Multi-Modal Project & Presentation (30%)

科目名	基礎講義	曜日時限	フルオンデマンド授業
コーディネーター	文化構想学部　橋本　一径		

授　業　概　要

2年次に進級する文化構想学部6論系各プログラム・文学部18コースの総合案内として、フルオンデマンド授業により実施する科目です。各自が何を学びたいのかを探る助けとなるように、各論系・コースが作成したコンテンツが用意されています。そのうち30コンテンツ以上を、所定期間内に受講してください。なお、「学部総説」コンテンツをのぞく各論系・コースの全コンテンツには「レビューシート」（小テスト）が設定されていますので、コンテンツを視聴のうえ、コンテンツごとに150字以上300字以内の感想を書き込むことが必須となります。（150字に満たない感想は、受講とみなされませんのでご注意下さい。）

学期末にレポート課題一覧が出されますので、一つを選んでレポートを提出してください。（原則として、次の学期開始時までに、提出されたレポートに対して担当教員からコメントが返されます。）

各コンテンツをしっかりと受講し、各論系・コースの特徴をよく理解することが、進級先を決めるのに役立ちます。BBSを利用して、興味のあるコンテンツの担当者に質問することもできます。

授業の到達目標

受講者は、この基礎講義を通じて、文化構想学部・文学部で展開されるさまざまな学問領域について基礎的な知識を得て、さらに個々の講義の内容に基づいて教養を深めるとともに、2年次からの論系・コース進級に向けて学習の指標を見出すことを目標とします。

教　科　書

なし

参　考　文　献

本科目についてはとくにありませんが、各論系・コースの専門領域に関しては「基礎演習データベース」に参考となる文献が掲載されています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末に掲出のレポート課題一覧から1つを選び提出（1800字-2200字）
●**平常点**　50%　　30コンテンツ以上の出席（所定期間内の視聴＋レビューシートへの感想の書き込み（各150字以上300字以内））が必須です。 ※「学部総説」コンテンツには「レビューシート」の設定はありません。
●**その他**　0%　　成績評価はP（合格）、Q（不合格）の2種類です。 レポートと平常点評価の2つを併せて総合的に評価します。いずれかの条件を満たしていない場合はQ（不合格）となります。

備考・関連ＵＲＬ

（1）コンテンツの内容に関わる質問はBBSで受け付けます。
（2）レポート提出はCourse N@vi上で行います。

自動登録科目

科目名	1年フランス語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年フランス語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	瀬戸　直彦		

授業概要

フランス語の文法事項と日常表現の習得を2本の柱として、「読む・書く・聞く・話す」の総合的な語学力を養成します。それは、2年次以降の中級・上級クラス（テクスト講読、文化紹介、会話、作文、等々）に対応できる基礎学力を身につけることでもあります。

授業の到達目標

イ〜ニのクラスの基本的な内容は次のとおりです。

イ・ハは文法の授業で、春学期・秋学期ともに同一の日本人教師が担当し、フランス語学習の骨格となる基本文法を、体系的・段階的に学んでいきます。

ロ・ニはオーラル・コミュニケーションが中心で、春学期・秋学期ともに、ロはフランス語ネイティヴの教師が、ニは日本人教師が担当します。共通教材を用い、リレー形式で授業を行います。

以上のイ〜ニを通じて、フランス語の基礎知識の習得、および「読む・書く・聞く・話す」の4能力の総合的な養成をめざします。

なお授業計画については、クラスによって進度が異なることがあり、必要に応じて学習項目の加除を行うこともあります。

教科書

春学期イ・ハおよび秋学期イ・ハは『新システマティックフランス語文法』（早美出版社）、春学期ロ・ニおよび秋学期ロ・ニは『コンヴェルサスィオン・エ・グラメール』（アルマ出版）

＊再履修クラスの教科書については、担当教員から指示があります。

参考文献

仏和辞典は必携です。『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）を推奨します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　イ・ハは共通試験を、各学期の最後に実施するか、各学期数回に分けて行います。ロ・ニは個別の試験を、原則として各学期の最後に実施します。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　出席を重視し、授業準備や授業態度、小テストの成績等を加味して総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」を30%以内とします。これは自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

科目名	1年ドイツ語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年ドイツ語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	山本　浩司		

授　業　概　要

初めて学ぶ皆さんのために，ドイツ語の基礎知識の習得を目標として，「読む・聴く・話す・書く」の4能力を総合的に養成する授業を行います。

各科目の基本的な内容は以下の通りです。

春学期イ・ハ：週2回の授業を同一の日本人教員が担当。文法項目のうち主に基礎的なものを学びます。

春学期ロ・ニ：週2回の授業をネイティヴ教員と日本人教員が連携して担当。国際標準の教科書を使って、さまざまな「場面」や「話題」に即したドイツ語の表現を学びます。

秋学期イ・ハ：春学期イ・ハと同様に週2回の授業を同一の日本人教員が担当。重要な文法項目のすべてを教えます。文法を終えた後は，ドイツ語テキストの読解に進みます。

秋学期ロ・ニ：春学期ロ・ニと同様に，ネイティヴ教員と日本人教員が連携してさまざまな「場面」や「話題」にふさわしい表現を教えます。

なお，いずれの科目も授業計画については，必要に応じて，その項目の配列変更、項目の加除を行うことがあります。

授 業 の 到 達 目 標

ドイツ語の基礎知識の習得，および「読む・聴く・話す・書く」の4能力の総合的な養成。春学期と秋学期を続けて学習すれば、欧州共通参照レベルA1に到達します。

教　　科　　書

イ・ハに関しては全クラス共通の文法教科書、ロ・ニに関しても全クラス共通の教科書（Schritte International NEU 1, 2）を使用します。

参　考　文　献

辞書・参考書に関しては，イ・ハの最初の授業時に担当教員から紹介があります。

成 績 評 価 方 法

●**試験**　50%　　イ・ハは原則として各学期末に全クラス共通の統一試験を行います。ロ・ニは個別の試験を原則として各学期の最後に実施します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　イ・ロ・ハ・ニともに、出席状況、授業準備（予習）や授業態度のほか、クラス毎の小試験や中間試験によって平常点を評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として，「A+」を総履修者の10%以内，「A」30%以内とする。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

備 考 ・ 関 連 U R L

欧州共通参照レベルについては以下を参照してください。

https://ja.wikipedia.org/wiki/ヨーロッパ言語共通参照枠

自動登録科目

科目名	1年ロシア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年ロシア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	八木　君人		

授　業　概　要

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象にした授業です。
春学期イ・ニでは、日本人教員とともにロシア語の初級文法について学びます（教科書：『はじめてのロシア語』）。
春学期ハは、イ・ニで学んだ文法知識を確実に運用できるようにするための授業です。
日本人教員から文法事項の補足説明を受けながら、復習したり、練習問題を解いたりします。
あわせて、ロシア語の文化的背景についても理解を深めていきます。
春学期ロでは、ロシア語ネイティブの教員のもとで正確な発音、基本的単語、構文、語順等を習得していきます（教科書：『ロシア語教程』）。
秋学期イ・ニでは、春学期イ・ニの続きを学びます。
秋学期ロでは、春学期ロの続きを学びます。
秋学期ハでは、春学期ハの続きを学びます。

授業の到達目標

ロシア語の初級レベルの文法知識、および会話力の習得を目標にします。

教　科　書

1）桑野隆『はじめてのロシア語』（白水社）
2）狩野亨／A.アキーシナ『ロシア語教程』（ナウカ出版）
3）『新ロシア語習字帳』（日ソ）
辞書　『博友社ロシア語辞典』（博友社）
＊持ち運びに便利な電子辞書は2冊目の辞書としてはよいのですが、中・上級者向けで、初級者がそれだけで済ませるにはやや難があります。
また、もし2年生以上もロシア語学習を長く続けていくならば、初級者向けではありませんが、辞書は『研究社露和辞典』（研究社）を購入しても良いと思います。

参　考　文　献

1）城田俊『現代ロシア語文法』（東洋書店新社）：1年生で学ぶことのみならず、基本的な文法事項が網羅的に説明されています。
2）桑野隆『初級ロシア語20課』（白水社）：授業で使う上記教科書と同レベルのものです。
同じ著者のもので、練習問題なども重複していますが、万が一、授業についていけなくなったときの予習・復習には便利です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　但し、イ・ニ、ロ、ハは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　但し、イ・ニ、ロ、ハは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。
●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

語学の学習はきわめて地味なものですが、みなさんのこれからの勉強にとって重要な意味をもっています。
何のために学ぶのかという動機づけを自分なりにはっきりさせることが、学習を長続きさせる決め手になるでしょう。
授業では、アニメ・映画を観たり、音楽を聴いたり、モスクワ、ペテルブルクやロシア文化の話もしていきます。
ときにはロシア料理を食べに行くこともあるかもしれません。
学習上必要なのは、なんといっても地道な反復練習です。どうか授業を休まないで、遅刻もしないように心がけてください。
ひとりでは厄介なことでも、みんなで学べば楽しくなるものです！ロシア語クラスは和やかな雰囲気の中で学ぶことができるでしょう。
教員と学生の距離が近いために、学生は気軽に質問ができ、教員は一人一人の学生のキャラクターを把握できます。
これも、第二外国語でロシア語を学ぶ上での利点と言えると思います。

科目名	1年中国語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年中国語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	楊　達		

授　業　概　要

中国語を初めて学ぶ方のために、中国語の基礎知識習得を目標とする。全クラス統一教材を用い、イ・ロ・ハ・ニをリレー式で授業を行う。週4回の授業のうち、2回はPC教室、2回は一般の教室を使う。授業方式は春学期と秋学期は同じ。

授業の到達目標

春学期は、発音の基礎を定着させ、簡単な会話ができることをめざす。秋学期は、春学期で習得した基礎を前提とし、中国語運用能力の基本となる文法の習得、リスニング、会話、作文力の向上をめざす。

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　統一試験と各クラス別の試験があり、総合的に評価する。
●**レポート**　0%　　.
●**平常点**　50%　　各クラスの担当教員が評価する。Dig学習システムの進捗、小テスト、出席、授業態度などが評価の基準になる。
●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

自動登録科目

科目名	1年スペイン語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年スペイン語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	四宮　瑞枝		

授業概要

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象に、スペイン語文法の基礎を学び、4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるようにするとともに、スペイン語圏諸国への理解を深め、異文化能力を高める活動を行います。

週4コマ「イ」「ロ」「ハ」「ニ」のクラスで連携されます。

「イ」と「ロ」：文法事項の説明と演習活動が中心ですが、スペイン語圏の社会文化事情を紹介し、異文化理解のための活動も取り入れていきます。

「ハ」：「イ」と「ロ」の学習事項を活かしながら、身近なテーマについて話したり聞いたりする活動をネイティブ教員が担当します。

「ニ」：「イ」と「ロ」で学ぶ文法の補足説明を適宜行いながら、簡単な文を書いたり、まとまった文章を読んだりする活動を行います。

授業の到達目標

スペイン語基礎文法の全体像をとらえ、身近なテーマに関連する基本語彙と表現を使って、スペイン語を運用できるようになることを目指します。また、スペイン語圏の事情に関心を向け、異文化を理解する態度を養います。

1.「イ」と「ロ」：初級文法（直説法現在、直説法過去、未来・過去未来、接続法現在まで）を学習し、日常生活や身近な社会の問題に関連する語彙を身に付け、自己表現力を高める。

2.「ハ」：身近なテーマについて、自分の考えを述べたり相手の話を聞いたりして、簡単なやりとりができる。

3.「ニ」：辞書を効果的に使って、身近なテーマでまとまった内容の文を理解できる。日常生活に必要な簡単な情報を得たり、メッセージを書いたりできる。

教科書

「イとロ」：四宮瑞枝他. 『アクシオン！<改訂版>』白水社

「ハ」：Juan Carlos Moreno, et al. !Muy bien! 1 朝日出版社

「ニ」：プリント配布など

参考文献

辞書は以下の4点から：『西和中辞典』小学館、『現代スペイン語辞典（改訂版）』白水社、『新スペイン語辞典』研究社、『クラウン西和辞典』三省堂

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験を実施します。

●**レポート**　0%　　.

●**平常点**　50%　　中間試験や小テストなど習得過程の到達度、出席、授業参加度、課題達成度などを総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連URL

学習に役立つお奨めサイト：

・セルバンテス文化センター東京 http://tokio.cervantes.es/ はスペイン語とスペイン語圏文化の普及を目的に、スペイン政府により設立された公的な文化施設です。各種イベントや検定試験などの情報も豊富です。

科目名	1年イタリア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年イタリア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	ウジッコ　フランチェスカ		

授　業　概　要

イタリア語を初めて学ぶ学生を対象に、「話す、聴く、読む、書く」の基礎的な能力が無理なく身につくよう、週4コマの授業を日本人教員とイタリア人教員が交互に担当し、同一の教科書を使用して共同で指導していきます。

必要な語彙と正確な文法に基づく会話の練習をペアあるいはグループで行い、実践的コミュニケーションを繰り返すことで、表現力の上達を図ります。

また、マルチメディアを活用して、イタリアの地理や歴史、映画や音楽、さらに多彩な食文化、各地に残る伝統的なお祭りといった、イタリアの諸事情に触れる機会も積極的に作っていきます。

授業の到達目標

基本的な文法や語彙を習得し、「旅行」、「仕事」、「家族」、「日常生活」、「レストランで」等の具体的なシチュエーションで、平易な会話が自然にできる表現能力を獲得すること、また、長い歴史の積み重ねや地域の多様性によって育まれたイタリア文化の豊かさについて理解を深めることを目指します。

「1年イタリア語」はCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）「A1～A2」（入門～初級）レベルの語学教育を実施します。

教　科　書

＜全クラス共通教科書＞

★ D. Piotti – G. De Savorgnani – E. Carrara,『UniversItalia 2.0 – A1/A2. 1 』, Alma Edizioni, 2018.

★ プリント配布など。

参　考　文　献

＜辞　書＞

郡 史郎・池田 廉（編集）『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』、小学館、2001年。

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

「1年イタリア語」履修後は、実用イタリア語検定5級あるいは4級、イタリア政府認定cils 試験A1あるいはA2レベルのイタリア語能力試験を受けることができます。

学習に役立つお奨めサイト：

‣イタリア文化会館 東京　http://www.iictokyo.com/

イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

自動登録科目

科目名	1年朝鮮語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年朝鮮語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	印　省熙		

授　業　概　要

週4回の授業は、4人の教師が共通のテキストを用いて、リレー形式で講義を行います。また、ネイティブの先生とは適宜テキストを離れてのフリートーキングや会話テストも行われます。

春学期の中旬までは文字・発音の習得に重点をおきながら、簡単な日常会話を通して基礎的な文法事項を学びます。春学期の後半は、初級の文法・文型を習得します。

秋学期は、実質、初級後半・中級前半レベルとなりますが、秋学期の前半は、日常生活でよく用いられる表現を元にした例文を用い、基礎文法事項、および規則的な活用、語尾の習得に努めます。秋学期の後半は、より高度の文法事項、連体形、変格活用を習得します。K・POPを聞いたり、応用作文演習なども組み入れていき、表現の幅を広げます。

学習事項の定着と確認のため、適宜、小テスト・中間テストを行います。

韓国の歌、映画や文化についての映像などできるだけヴィジュアル教材も用いたいと思っています。

授業の到達目標

朝鮮語をはじめて学ぶ学生を対象に、初級文法及び中級文法前半の習得を目標とします。1年後は、ハングル能力検定試験4級レベルの実力を身につけることを目指します。

教　科　書

布袋敏博・沈元燮・李美江『学ぼう韓国・朝鮮語　入門・初級編』アルク、2310円（税込）

※早大生協ブックセンターにて1割引で購入できます。

参　考　文　献

辞書：『朝鮮語辞典』（小学館）と『日韓辞典』（小学館）がお勧めです。

電子辞書の場合、小学館の『朝鮮語辞典』『日韓辞典』の両方が収録されているものがカシオから出ています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　春学期、秋学期の定期試験は、クラス共通の試験を行います。

●**レポート**　0%　　.

●**平常点**　50%　　出席、授業態度や参加度、小テスト、課題などを総合的に評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」を30%以内とします。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

早稲田大学では、韓国の協定校と提携して、夏季・春季短期留学プログラムを用意しています。積極的に活用して、語学習得に役立ててください。

科目名	1年アラビア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年アラビア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	五十嵐　大介		

授　業　概　要

☆アラビア語を初めて学ぶ人を対象とした授業です。一般的な文法学習と、時事アラビア語、ネイティブ教員による会話の授業から構成されています。

▪（イ・ロ）は文法の授業です。文字と基本文法を教えます。読み書きに必要な文法事項を学ぶ授業ですが、補助的にアラブ文化や口語についての説明を加えることもあります。

▪（ハ）は時事と作文の授業です。アラビア語の二ュース記事を題材に、時事や文化への理解を深めると同時に、基本的な表現や語彙の習得を目指します。

▪（ニ）はネイティブ教員が担当するアラビア語会話の授業です。イ・ロで学習した事項を生かしながら、会話で使用される表現の学習・練習を行います。

授業の到達目標

アラビア語文法の基礎を学び、4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるようにすることを目指します。

▪（イ・ロ）前期は、基本文法を学びつつ、文字および規則動詞の活用まで習得する。後期は、不規則動詞活用や派生形を含む基本文法を習得し、辞書を引けるレベルにまで到達する。

▪（ハ）国際情勢の理解に不可欠なアラブ時事問題に対する理解を深める。アラビア語の記事の中から、必要な情報を取り出すことができる。CEFRのA1～A2レベルの表現力を身につける。

▪（ニ）アラビア語の基本的な会話表現を身につけ、使えるようになる。

教　科　書

▪イ・ロは佐々木淑子『新版　アラビア語入門』（翔文社）を使用します。

▪ハ、ニは教員作成の教材を使用します。

参　考　文　献

▪（イ・ロ）新妻仁一著　『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年
竹田敏之著　『アラビア語表現とことんトレーニング』白水社、2014年
Hans Wehr; J. Cowan (ed.), A dictionary of modern written Arabic (Arabic- English), 4th ed., Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994.

※もっと深く勉強をしたい方向けです。授業自体は教科書のみで問題ありません。これ以外の参考文献については各授業で担当教員が随時紹介します。

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　但し、イ・ロ、ハ、ニは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。イ・ロは各期末に理解度を確認する試験を実施します。

●**レポート**　0%　　.

●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

▪イ・ロでは、授業内容のフォローのため、単語テストを実施します（得点は成績評価対象にしません）。

▪ハでは、授業のはじめに、前回の授業で学んだ語彙・表現の確認テストをします。確認テストの成績は平常点につながるので、しっかり復習をしてから、授業に臨んでください。

自動登録科目

科目名	Academic Skills in English 1							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	２単位	春クォーター	月１時限	木１時限	１年以上	—	—	—

授業概要

The aim of this course is to acquire the skills to understand and actively discuss reading materials written in English. This course will introduce students to a variety of texts including news articles, literary essays, and short stories. Students will learn to recognize the main idea of the text and think critically through rigorous class discussion and presentations.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

1. Gain the tools to read effectively and critically.
2. Learn to summarize main ideas, arguments, and sub-arguments.
3. Understand audience, purpose, and genre.

成績評価方法

●**試験**　30%　　There will be quizzes throughout the term.
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　This will be evaluated by 1) attendance 2) in-class writing 3) active participation in both group and class discussions.
●**その他**　30%　　Each student will give an individual presentation.

科目名	Academic Skills in English 2　Writing Analytically About Literature							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	２単位	春クォーター	月２時限	木２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course is an introduction to writing analytically about literature. Students will learn the skills of close reading and organizing evidence to develop their analysis of literary texts. The reading content will focus on literary essays, short-stories and poetry ranging from the canonical to the contemporary. Through the course, students will learn to write critical response papers and two longer analytical papers.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Become familiar with literary genres, such as poetry, drama, and short stories.
- Gain the critical tools to read, analyze, and write about literary works.
- Develop an effective thesis for analytical and research papers.
- Learn to use the MLA formatting and style.

成績評価方法

Class Participation: 25%
Response Papers: 20%
Analytical Paper #1: 25%
Analytical Paper #2: 30%

備考・関連ＵＲＬ

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Course N@vi.

科目名	Academic Skills in English 3							
担当者名	梅宮　悠							
共通	２単位	春クォーター	火２時限	金２時限	１年以上	—	—	—

授業概要

This course will provide opportunities for students to learn the skills required to give an effective academic presentation. As a start, students will consider the structure of the presentation, as well as the means to heighten its impact through various external aids.

The materials will focus on themes from English-speaking countries, but students are encouraged to take a comparative approach by analyzing these topics in the context of other countries, including Japan.

In each class, students are required to write a summary on a specific theme and give a short presentation as a group and/or as an individual, followed by a discussion.

授業の到達目標

The aim of this module is to master the skills for an effective academic presentation and to communicate through discussion.

Students will gain the following skills:

1. Develop reading, writing, speaking, and listening skills

2. Increase vocabulary
3. Understand current events
4. Discover similarities and differences between Japan and other countries

成績評価方法

●**試験** 30% This grade will be based on the quality of the final presentation.
●**レポート** 0% No report.
●**平常点** 70% This grade will be based on 1）attendance, 2）summaries, 3）positive participation in each class.
●**その他** 0% 0

科目名	Academic Skills in English 4 Tokyo's Linguistic Landscape (Part One)							
担当者名	由尾　瞳　他／カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	集春	無	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

This is the first section of an intensive course that is designed to enhance the academic skills in English that students acquired during 1Q. The theme of the course is "Tokyo's Linguistic Landscape," which allows students to explore the visibility of written languages in the public sphere in several Tokyo neighborhoods. By conducting Linguistic Landscape activities over multiple excursions, students will learn to challenge the myth of Tokyo as a monolingual and homogeneous society, and discover instead a multilingual, multicultural, and multiethnic city.

授業の到達目標

- Become familiar with the concept of Linguistic Landscape.
- Gain firsthand experience of traversing through different Tokyo neighborhoods.
- Acquire the essential skills of listening, speaking, reading, and writing in English through lectures, group work, class discussions, and excursions.
- Situate Tokyo in a global context alongside other cosmopolitan cities.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Group Work & Presentations (50%)
3. Final Reflection Paper (20%)

備考・関連URL

Class Schedule:
6/10 (Mon) 1-4 periods
6/11 (Tue) 1-5 periods
6/12 (Wed) 1-4 periods
6/13 (Thu) 1-2 periods

科目名	Academic Skills in English 5 Tokyo's Linguistic Landscape (Part Two)							
担当者名	由尾　瞳　他／カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	集春	無	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

This is the second section of an intensive course that is designed to enhance the academic skills in English that students acquired during 1Q. The theme of the course is "Tokyo's Linguistic Landscape," which allows students to explore the visibility of written languages in the public sphere in several Tokyo neighborhoods. By conducting Linguistic Landscape activities over multiple excursions, students will learn to challenge the myth of Tokyo as a monolingual and homogeneous society, and discover instead a multilingual, multicultural, and multiethnic city.

授業の到達目標

- Acquire understanding of Tokyo as a diverse and multilingual city.
- Gain firsthand experience of traversing through different neighborhoods.
- Effectively use digital technology and resources in conducting research.
- Work collaboratively and develop group presentation skills.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Group Work & Presentations (50%)
3. Final Reflection Paper (20%)

備考・関連URL

Class Schedule:
6/13 (Thu) 3-5 periods
6/14 (Fri) 1-4 periods
6/17 (Mon) 1-4 periods
6/18 (Tue) 1-4 periods

自動登録科目

科目名	Academic Skills in English 6 Reading and Writing Through Cultural Criticism							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	秋クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This class will introduce students to several key works of cultural criticism that explore the idea of "cuteness" in contemporary popular culture. We will critically examine our cultural obsession with cuteness, and how certain minor emotions (or "ugly feelings") have become the prevalent mode of discourse in art, literature, film, television, and music in contemporary society. By introducing several scholarly works of cultural criticism, the course will guide students to read and use theoretical writing as a lens to develop their own argument. Through the course, students will give individual and group presentations, write annotations on criticism, and write a research paper.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Gain exposure to a variety of theoretical writing.
- Develop sophisticated methods of building an argument.
- Develop the ability to use sources analytically.
- Learn effective strategies for revision.

成績評価方法

Class Participation: 15%
Annotation #1: 15%
Annotation #2: 20%
Research Paper: 35%
Presentations: 15%

備考・関連URL

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Course N@vi.

科目名	Academic Skills in English 7 Introduction to Creative Non-Fiction							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	冬クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

In this course, students will read, write, and investigate an array of literary works in the genre of creative non-fiction. The class introduces students to various forms of the creative essay such as memoir, profile, lyric essay, and writings on popular culture. Throughout the course, students will respond to the course readings by producing their own creative work. All student will be required to submit a revised portfolio at the end of the semester.

This course is taught entirely in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Learn the techniques of voice, scene, description, and structure.
- Learn meter and rhyme, and form and diction.
- Identify literary devices and utilize these techniques in your own work.
- Engage in rigorous, constructive, and encouraging peer critique.
- Learn how to assemble and revise a writing portfolio.

成績評価方法

Class Participation: 20%
Writing Assignments: 30%
Final Portfolio: 50%

備考・関連URL

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Course N@vi.

科目名	必修EGC	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	ライアン　スティーブン		

授　業　概　要

This course will cover four skills -- speaking, listening, reading, writing -- in English. Students will participate in class discussion, in pairs and in small groups, complete reading and writing tasks in class, and listen to audio and watch video materials. The units covered in the course textbook deal with a variety of global situations and current issues. Students are required to be active and responsive in class, and to take part fully in all tasks and activities.

授業の到達目標

Grammar and Functional English: students will learn to use a number of structures and functions in English

Listening and Speaking: realistic audio and video materials; pair/group discussion to develop fluency in communicative skills

Reading: students will improve vocabulary and fluency by reading several texts in each unit of the course

Writing: small writing tasks will be included in each class, and longer written tasks for homework will be undertaken frequently throughout the course.

Critical thinking: students will learn skills in a variety of critical thinking methods.

教　科　書

Life Student's Book 4, 2nd Edition 著者: Helen Stephesnson, John Hughes, and Paul Dummet, 出版社　National Geographic Learning.

生協戸山店で購入してください。

成績評価方法

●**試験**　20%　　Mid-term 10 points　Final 10 points
●**レポート**　10%　　Writing tasks will be given throughout the course
●**平常点**　60%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　10%　　Online workbook

備考・関連ＵＲＬ

成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

講 義 内 容

選択基礎演習

（１年次のみ）

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　1　フォーラムシアターで考える「わたし」の身体とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ							
担当者名	熱田　敬子							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

本基礎演習では、フォーラム・シアターという演劇的手法を用いて、ジェンダーとリプロダクティブ・ヘルス／ライツについての学習を行う。受講生に演劇経験は必要ないが、実際に声を出し、立って動くような活動、ジェンダー、性についての表現を行うことが講義に含まれることをあらかじめ了解すること。

※必ずしも自らのセクシュアリティなどを公にしなければならないということではない。そうした個人情報はもちろん、参加者それぞれが表現したいと思ったときだけ表現するということが前提である。この点はすべての参加者に強く了解することを求める。

※一部課外活動を含むことがありえる。事前に了解すること。

フォーラム・シアターは国内での試みもあるが、中国の若手フェミニズム運動、ジェンダー教育の中で南米のアウグスト・ボアールの「抑圧された者たちの劇場」を参照した「ヴァギナ・モノローグス」創作演劇が大きな成果をあげている。「ヴァギナ・モノローグ」はもともとはアメリカのイブ・エンスラーが創作した、女性器に関する演劇脚本であり、北米でも大学生を中心に上演されるほか、全世界でプロ、アマチュアによって公演されている。

中国のジェンダー教育の中では、この脚本をそのまま演じるのではなく、学生たちが自ら取材を行い、「モノローグス」として複数形になった、自分たちの性をめぐる物語を創作している。受講生は、

（1）ジェンダー、リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関しての基本的学習を行った後、
（2）女性器をめぐる演劇『ヴァギナ・モノローグス』を様々に創作、上演するフォーラム・シアター活動について学び
（3）インタビューや資料調査の方法を学び
（4）実際に演じるテーマを決めてそのための調査、取材をおこない
（5）最終的に短い「ヴァギナ・モノローグ」を創作する予定である。

具体的な実施方法は、受講生の人数、受講生各自の状況によって相談しつつ決定する。

授業の到達目標

自分自身に関わる具体的な事柄として、性・セックス・生殖について考え、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの意識を持てるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末課題を課す
●**平常点**　40%　　コースナビで毎回書くレビューシートで判断する
●**その他**　20%　　授業内の課題実施で評価する

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　2　イメージ遊歩：映画×美術×ダンス×音楽							
担当者名	大石　雅彦							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

「イメージ」という概念はシネマ、アート、詩的比喩、自我、夢の形象性、印象、等々を含むとてつもなく広範なもので、それゆえにすごく曖昧です。この演習では、数々の芸術作品に具体的にふれながらイメージの生態を確認し、その曖昧さを豊かさに替えてゆきます。過去の授業では、実験映画、アートアニメーション、メディアアート、ヴィジュアル・ポエトリー、コンテンポラリーダンス、総合芸術、等々と、さまざまなものを対象としてきました。今現在、とりわけアートは、従来の枠を大きくはみ出し弾けています。われわれはそこからほとばしる大きな力を感じるでしょう。その力にふれ、再びアートとは何であるのかを考えてみるのも無駄ではありません。今年度も、できるだけいろいろなものを取り上げたいと思います。実験映画、アートアニメーション、アートアクティヴィズム、アウトサイダーアート、ネオ総合芸術の中からいくつかの分野を選ぶ予定です。具体的な作品については、授業で発表します。

どうか狭い領域に閉じこもらないで、幅広い関心を持って下さい。

授業では分野別のグループにわかれて活動します。

作品鑑賞・解説のあとに、グループで所属する分野について発表してもらいます。

■

毎回、その週おすすめの美術展、新作映画を紹介してゆきます。

できれば、プチフィールドワークとして、1回展覧会に出かけたいと思います。

授業の到達目標

現代芸術の基本的理解

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　12月の最初に授業で指示
●**平常点**　50%　　出席・発表の質、討論参加の積極性を見ます
●**その他**　0%　　0

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　3　早稲田の文化財を観る							
担当者名	奥間　政作							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

創立から137年を迎える早稲田大学には数多くの文化財が所蔵されており、演劇博物館や會津八一記念博物館ではこうした文化財を中心とした展覧会が開催されています。本講義では様々な学内所蔵の文化財についての知見を得ると同時に、校舎やキャンパスのこしかたなど、学生のみなさんにとって身近な建築についても理解をうながし、大学の文化財について理解を深めることを目的とします。

授業の到達目標

大学内の文化財に対する理解を深めると当時に、文化財一般についての基本的事項を伝え、身近な文化財に対する理解や考察を深めるようにする。

成績評価方法

レポート　50%　講義内容にかんする事項について学期末にレポート（3000字以上）を提出。詳細は講義内で解説します。
平常点　50%　レビューシートの提出やプレゼンテーションへを含む、授業への参加態度を総合的に判断します。

備考・関連URL

※授業の最新計画は最初の講義にてお知らせします。見学会の日程によって内容が一部変更となる場合もあります。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　4　小説のいじり方　実践編							
担当者名	貝澤　哉							
共通	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

これは、小説を読む／書く技術を実践的に学びたくてうずうずしている学生を対象に、小説というものを完膚なきまでに「いじりたおす」ための各種攻略法や職人技を、このさいとことん伝授してやろうじゃないか、というまことにありがたい授業なのである。

もちろん、攻略法や一発芸がちょっとばかり身についたからといって、すぐ作家になれたり文学賞が取れるなんて思うのは、世間をナメるにもほどがあるというものであろう。世の中そんなに甘いものではない。

しかし、である。職業作家や批評家、編集者、ライター、優秀な研究者たち――要するにプロの人たちが、文章を書くため読むための高度な職人技を身につけて、日々駆使しているのも事実だろう。そんな職人芸にすこしでも近づくことができたら、それだけでも儲けものではないか。なによりまず、小説を読むことが断然面白く楽しくなる。これまで自分は一体なにを読んでいたんだろう、と思えるほど、目から鱗のまったく新鮮な感覚で小説を読み、書く、という革命的体験にヤミツキになれるかもしれないのだ。

少なくとも、高校までの18年間に学生のみなさんが散々洗脳され、骨の髄まで染み付いてしまった「作文」「読書感想文」「小論文」的な学校的でダサい読み方や書き方を、すっかり洗い流すくらいの効能はじゅうぶんあるはずだ。《ストーリーが面白い》とか、《キャラクターに共感できる》とか、《作者の言いたいことは○○だ》なんて口走ってしまうのは、なんとも情けない、素人もいいところである。

せっかく大学に、しかも早稲田という場所に来たのだから、高校までの教育では絶対に教えてくれないプロの「小説のいじり方」に少しでもふれてみることをお勧めする。

授業の到達目標

授業は学生による文章の執筆、発表を中心におこなわれる。小説読解の攻略法と文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

備考・関連URL

受講生には、週に最低1冊本を読んでもらい、学期中数度の文章執筆を課すので、読むことや書くこと自体が苦手な学生には向かない。登録のさいじゅうぶん注意すること。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　5　美と健康への人文系アプローチ							
担当者名	草野　慶子							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

文化構想学部の学びは、私たちが生きる毎日の細部に、いまとここの真率な思いとふるまいに、人文学の知見と成果を通じて向き合い、その結果、人文学と私たちの生の双方を豊かにする絶えざる試みであると、担当教員である私は思っています。

今年度のこの選択基礎演習では、健康志向、そして美容とアンチエイジングの問題を扱います。

美と健康？　それってこの文化構想学部で、まじめに学問するようなことなの？　そう思われるかもしれません。でもちょっと考えてみてください。

健康で、そしていつまでも若く美しくありたい、という私たちの願いは、死への恐怖を背景にしています。

一例ですが、度を過ぎたダイエット、痩身願望は、若さや美しさへの希求を反転させ、死の願望をそこに隠しているようにも見えないでしょうか。（だって痩せるということは自分の肉体がどんどん消滅していくことだし、事実、死を前にしたひとはみなたいがい痩せています）

あるいはもっと単純に、健康や美、そして若さは、私たちの生においてなぜ価値を持つのか、考えてみたことがありますか？
もっともっと身も蓋もなく言ってしまいましょう。なぜ美人やイケメンはトクをするんでしょうか？（笑
こうした問題を文化研究の課題としてとらえるとき、ジェンダーをめぐる諸問題も、当然のこと浮かび上がってくるでしょうし、
そしてまた、愛や死や美、私たちの生を条件づけるそうした根元的な価値と宿命への、真摯な思考がそこではすでに始まっているのです。

授業の到達目標

上記「授業概要」に記した問題意識を共有し、文化研究の手法でそれに相対することができるようになること。
「健康」「美容」という日常的主題を学問的視点でとらえ、扱い、またジェンダー研究の初歩的手法を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　主体的・積極的な授業参加度　個人およびグループ発表の充実度：発表内容と提出されるパワーポイント資料　＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、コースナビにアップロードしていただき、評価の対象とします。 なお、演習なので発表はしていただきますが、負担の少ないものにするつもりですから、おそれず気軽にどうぞ。発表自体よりもむしろ、クラスで積極的に話し合う姿勢が大事です。
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

授業計画は、受講者数によって変わるもので、上記はあくまで仮のものです。
演習なので発表はしていただきますが、負担の少ないものにするつもりですから、おそれず気軽にどうぞ。

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　6　『法華経』の譬え話を読み解く―仏教思想・文化研究入門―							
担当者名	佐藤　晃							
共通	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年のみ	―	―	―

授業概要

「仏教」は、古くから続く異文化交流の興味深いサンプルの1つと言えます。その空間的広がりはアジア諸地域（現在では欧米でも受容される）にまたがり、また古代から現在に至るまで変容され続け、多様な文化を生み出しています。本演習では、仏教の祖国インドから日本を含むアジア諸地域で読まれ、多様な思想・文化を展開させた『法華経』という大乗仏教の代表的な経典を取り上げ、特にその中で示される「譬喩」を受講生と共に読み解いていきます。

『法華経』には数多くの譬喩が用いられます。それらを通して、人々に『法華経』自体の偉大さ、そしてその信仰による功徳の偉大さが説示されました。「譬喩」は思想を間接的に提示するものですが、難解な思想・教理を象徴的に伝える非常に優れた方法と言えるでしょう。『法華経』が広く受容された背景の1つに、この譬喩の巧みさがあったと考えられます。一方で、譬喩が人々に受け入れられるためには、それを提示する側とそれを聞く側との間に文化的な背景が共有されていることが前提になります。まずは、各譬喩を読解し、その譬喩によって如何なる思想・主張が説示されているのかを少しずつ明らかにしていきます。さらに、読解の過程では様々な問いが生じてくると思います。例えば、「譬喩が説かれた当時の人々がどのような文化を有していたのか」、「どういった思考方法を持っていたのか」、また、「異なる地域に伝播していく過程でどのような変容や受容があったのか」等が考えられるでしょう。そうした発展的な問いにも取り組んでみたいと思います。この演習では、古典読解に必要な調査方法、そして、発表方法や論述方法を、具体的なテキストの丁寧な読解、そこに潜む問いの発見、そして、それをどのように解釈し、理解していくのか、といった過程を実践しながら学ぶことを目指します。

本演習では、現代日本語に翻訳された『法華経』を使用します。『法華経』にはサンスクリット語原典、漢訳、チベット語訳等があり、また現代諸語にも翻訳されています。授業の中ではそれらも随時紹介し、より専門的な研究方法等も紹介できればと考えています。第1回・第2回の授業で『法華経』及び「譬喩」について概説し、予備的な知識を提供します。第3回では、担当教員自身が発表を行い、調査方法・発表方法を提示します。第4回以降は、受講生に調査・発表をしてもらいます。

※仏教思想・文化研究に関心のある方のみならず、広く古典研究、思想研究、文化の伝播や受容に関心のある方等の受講も歓迎致します。

授業の到達目標

・古典読解のための調査方法、口頭発表及びレポートの書き方を学ぶ。
・『法華経』の譬喩の読解を通して、仏教の思想や文化の基礎知識、研究方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　50%　　・口頭発表に基づくレポートを課します。
●**平常点**　50%　　・発表内容、また授業への積極的な参加を評価します。　・2/3以上の出席を必須とします。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　7　中東・イスラーム研究への誘い							
担当者名	佐藤　尚平							
共通	２単位	秋学期	火曜日	３時限	１年のみ	―	―	―

授業概要

これから初めて中東とイスラームの文化・社会・歴史に触れようとする参加者に、研究とは何か、その醍醐味を感じてもらうことが何よりの願いです。中東とイスラームについて、単に知識を増やすだけでなく、自分の知性を解放して、能動的に学んで欲しい。「教科書に書いてないから関係ない」「よく分からない」「馴染みがない」から、「何となく面白そう」「もっと知りたい」「現地に行ってみたい」「実際に感じてみたい」へと、知的好奇心を育てて欲しい。そして最終的には、「これまで言われてきたことは本当なのかな」「どうしたら自分なりに調べられるだろう」という自立した知性も養って欲しい。授業では、グループ内やクラス全体に対する発表を積極的に行います。

授業の到達目標

中東とイスラームの文化・社会・歴史について、各参加者自身の心と知性の内から湧き出る興味を涵養することが何よりの目標です。また、各テーマについて、複眼的に検討する姿勢を持つことも授業のテーマの一つです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点評価とします。発表のほか、必要に応じてレポートを課します。
●**その他**　0%

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　8　美術と落語の見かた・聞きかた・伝えかた							
担当者名	楢山　満照							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

高度に情報化しグローバルな環境が確立された現在、世界の距離は驚くほどに縮まりました。コンピューターデバイスさえ使えば、即座に地球の裏側にいる友人とお互いの顔を見ながら会話を楽しむことだってでき、自作の動画で瞬く間に世界的な有名人なることさえできるのです。それに伴い、東洋や西洋といった既存の文化的・民族的な枠組みは曖昧になり、それを自覚しているかどうかはさておき、一昔前では考えられないほどに、皆さんは、多種多様な文化要素が複合的に重なり合い構成される社会に身を置くことになりました。ライフスタイルも然り、食文化も然り、娯楽もまた然りです。

そのようなシチュエーションにおいて、自身のアイデンティティや個性をどのように他者に伝えるべきなのか、あるいはどのように他者のそれを理解すればよいのか。例えば、スマホの画面に映し出された人種も国籍も異なる友人に、「いま日本で一番クールなカルチャーを教えてくれ」と言われたら、皆さんはどう答えますか。

皆さんは、大学に入学してしばらくが経ち、これから各論系の専門教育へといよいよ進んでいこうという段階です。無論、皆さんの興味や関心は多様でしょうが、何を探究するにせよ、複合的な構造をもつ現代社会で学ぶ以上、既成の学問ジャンルをあえて超え、文化の成り立ちを地域や時代に縛られずに学ぼうとする姿勢が今後は有効になってくるはずです。そこでこの演習では、地域も、時代も、成立背景も、表現方法も大きく異なる「美術」と「落語」をあえてピックアップし、受講生にその魅力や問題点を自分の言葉でまとめてもらいます。その内容を他者に伝えるまでの工程を一通り経験してもらい、次年度からの専門教育の導入にしたいと思います。

授業の到達目標

この授業は、各論系の専門教育へと進んでいくための準備段階と位置づけています。よって、パワーポイントのコツやレジュメの作成方法を学び、プレゼンに場慣れしておくことも目標のひとつです。授業で取りあげるトピックは、美術と落語を計画していますが、受講生の人数にもよりますので、初回の授業で受講生と相談のうえ提案する予定です。各自の興味関心を、自分の言葉で明確に他者に伝えることができるようになることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　40%　　ここでいうレポートとは、授業でそのつど提出してもらうミニレポート（特定の回で自身の考えをまとめた文章）のことです。
●**平常点**　60%　　ここでいう平常点とは、プレゼンの内容、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうかを指します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

落語に関しては、教室で映像を観るだけではなく、受講生の人数や他の授業の履修状況によっては、授業の一環として寄席に落語鑑賞に行く可能性もある。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　9　近世・近代イギリスと大西洋世界							
担当者名	日尾野　裕一							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

本演習では、現代世界においても非常に重要なトピックとなっている移民について、歴史学の観点から考えていきます。近世・近代・現代イギリス大西洋世界の事例を中心に取り扱い、移民とそれへの対応がどのようになされていったのかを検討してきます。日本語文献と英語文献を用いつつ、グループ発表とディスカッションを通じて、移民とそれへの対応の歴史について検討していきます。英語文献については、受講者の関心からトピックを選びつつ、読み方についても授業の中で説明していきますので、今後の英語文献利用に向けての練習にもなると思っております。

授業の到達目標

イギリスと大西洋世界の関係についての理解を深める。
歴史学の見地から現象としての移民について理解を深める。
日本語文献を適切に読み、それをもとに自身の考えを構築し、発表する力を養う。
英語論文の読解についての基本的な力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業にて用いた文献を対象としたレポートにて、理解度の確認を行います。
●**平常点**　50%　　授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの参加度から総合的に評価いたします。
●**その他**　0%

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　10　読んで書く、書いて読む。							
担当者名	堀江　敏幸							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

文学作品を読み、議論する。また、取り上げた作品について、毎回400字から800字程度の文章を書き、互いに読み合う。

授業の到達目標

形式にとらわれず、自由に書いて考える習慣をつける。また、他者の作品に対する口頭でのコメント力を鍛える。

成績評価方法

通常授業内でのレポート（3回）、および最終レポートを総合的に評価する。
合評の参加度、発言内容等を総合的に評価する。

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　11　インターネット発達史							
担当者名	和田　修							
共通	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

わたしたちの生活とは切っても切れない関係になってしまったインターネット。その発達の歴史を振り返りながら、わたしたちのコミュニケーションがどのように変わったのか、あるいは音楽・映像の鑑賞にどのような変化が生じたのかを考えてみたいと思います。

予備知識は必要ありませんが、デジタルコンテンツに興味がない人は厳しいかもしれません。

授業の到達目標

インターネットの基本的な技術を知るとともに、そのコンテンツの変遷について、認識を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　インターネットの発達と社会の変化についての理解度で評価します。
●**平常点**　50%　　出席と発表で評価します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化構想学部　選択基礎演習　12　音とことば、ノンセンス							
担当者名	小沼　純一							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

ふつうにつかっていることば。ことばは意味だけを伝えるわけではありません。
意味のないことを伝えることもあるし、それが表現として成りたつことがあります。
ことばの音楽的な側面や、視覚的側面に着目する、というのもひとつの見方です。
ここではそうした多角的な視点でことばにふれてみられればと考えています。

授業の到達目標

高校時代までにはあまり接する機会がなかった（かもしれない）ことばの多面性にふれる。
ことばへの視野を広げる。
さまざまな作品に好奇心を持つ。
そうしたところを目標にしたいと考えます。

成績評価方法

出席と参加度合いによって評価します。

講 義 内 容

講　　義

科 目 名	初級ギリシャ語1							
担当者名	高梨　誠							
共通	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ギリシャのアテナイで，紀元前5-4世紀用いられた古典ギリシャ語を学びます。この言語を学ぶことで，ソフォクレス・アリストファネスによる悲喜劇，ヘロドトス・トゥキュディデスの歴史書，プラトン・アリストテレスによる哲学書などの原典に直接触れることができるようになります。約2500年前に，9500km離れたギリシャの地で記されたこれらの優れた作品の数々を，まさに時空をこえて私たちは直接読むことができるのです。そのこと自体，とても驚くべきことではないでしょうか。

この授業では教科書に沿って基礎的な文法を学びます。毎回1〜2課ずつ，受講生の理解の程度に応じて進みます。ギリシャ語の大きな特徴は，動詞の法・相・時称の変化と名詞等の格変化ですが，春学期は，まず動詞の直説法能動相各時称の変化と，名詞・形容詞・代名詞の格変化について学んでいきます。講師が各項目の解説を行い，受講生には練習問題に解答してもらうという形で進みますが，受講生の理解度によっては，取り扱う項目を変更することもあります。

英・仏・独語などの近代語に比べて，古典語であるギリシャ語は，複雑な文法の学習に重点が置かれることもあり，学ぶのがとても困難であることは否めませんが，ギリシャ・ローマ文化に関するさまざまな映像などをも随時交えながら授業を進めていく予定です。予備知識は必要ありませんが，ラテン語や英・仏・独語などを学んだ経験は役に立ちます。また，これからそれらの言語を学習するさいにも，ギリシャ語の知識は大いに役立つでしょう。

授業の到達目標

やさしく短いギリシャ語の文であれば，読解ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　0%　　レポート等の課題はありません。
●**平常点**　100%　　受講者に教科書にある練習問題に解答してもらうことで主に評価しますが，大きな項目ごとに簡単な小テストなども実施する予定です。できる限り毎回休まずに出席することが重要です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業の内容は，秋学期に開講される「初級ギリシャ語2」に続きます。あわせて履修することで，ギリシャ語文法の全体像が見えてきます。ぜひ「初級ギリシャ語2」も受講してください。

科 目 名	初級ギリシャ語2							
担当者名	高梨　誠							
共通	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この「初級ギリシャ語2」では，春学期に「初級ギリシャ語1」で学んだ内容を踏まえ，動詞の直説法中・受動相，接続法・希求法・命令法の各相・時称、分詞の用法などについて学んでいきます。可能であれば少し長いの散文の読解練習にも取り組む予定です。なお，初級ギリシャ語1の進度によっては，取り扱う項目を変更することもあります。

授業の到達目標

ギリシャ語文法の骨格を理解し、やさしい散文の読解に取り組むことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　0%　　レポート等の課題はありません。
●**平常点**　100%　　受講者に教科書にある練習問題に解答してもらうことで主に評価しますが，大きな項目ごとに簡単な小テストなども実施する予定です。できる限り毎回休まずに出席することが重要です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業は，春学期に開講される「初級ギリシャ語1」の内容を踏まえて進められます。履修登録のさいには注意してください。

科 目 名	ギリシャ・ローマ世界入門　西洋思想と文化の根幹とその発展							
担当者名	宮城　徳也　他／内川　勇海／加藤　喜市／小石　絵美							
共通	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ギリシャ・ローマ世界は西洋の母胎であり、現代に生きるわれわれが、西洋世界の強い影響下にある以上、多くの人にとって興味の対象となるはずである。現代の「アメリカの平和」が古代における「ローマの平和」を連想させるばかりでなく、広域多民族国家であるアメリカ合衆国の国内の政治体制もまた共和制及び帝政のローマに似ている所が多い。

政治体制やローマ法、土木技術などにおいて後世に影響を与え、現代ヨーロッパの枠組みをも作ったローマに思想的、文化的支柱を与えたのが古代ギリシャであり、古代ギリシャ文化を意味するヘレニズムは、キリスト教を生み出したヘブライズムとともに欧米文化の思想的根幹を形成している。

こういったギリシャ・ローマ世界の思想と文化を、専門を異にする複数の研究者が半期で、分かり易くダイジェストするのが、本講義の趣旨である。「ギリシャ・ローマ世界入門」は古代ギリシャ・ローマ文化そのものの紹介を中心とし、「後世」への影響に関しては、秋期（後期）科目の「ギリシャ・ローマの思想と文化」が関連している。別の科目なので、どちらか片方でも、両方連続でも履修できる。

授業の到達目標

後世に大きな影響を与えたギリシャ・ローマ文化の多様性を、様々な側面からのアプローチによって理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価

●**レポート**　40%　　学期末に、3000字程度で、学習成果の報告を求める（コースナビ提出）
●**平常点**　60%　　毎回、授業内容の要約とそれに関する見解を記したレヴューシートの提出を求める
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

多様な興味を持った広い範囲の受講者の積極的参加を期待する。秋期（後期）の「ギリシャ・ローマの思想と文化」は関連するが別内容なので、連続して両方でも、どちらか一方でも履修できる。

科 目 名	初級ギリシャ語（速修）　古典ギリシャ語文法の全体を1セメスターで修得する							
担当者名	兼利　琢也							
共通	４単位	春学期	火５時限	金５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

このコースでは，1セメスター週2回計30回の集中学習で古典ギリシャ語文法の基礎を学ぶ．講読を行う秋学期の「中級ギリシャ語」等に接続し，計1年間でギリシャ語文献を読解するための基礎的な知識をつけるのが目標である．最初からしっかりギリシャ語を学びたい人，「入門ギリシャ語」や自習で学んだが基礎固めをしたい人を念頭に置いている．

西洋の文化を調べるとたいていどこかでギリシャ語につきあたる．西洋文化と教養の基礎に直接触れたい，自分にそれが必要だと感じる人にはこの言葉を学ぶことを勧めたい．

ギリシャ語は古来むずかしい言葉の代表であり，その面は否めないが（それだけ学ぶ楽しみも大きい），戸山では週二回という恵まれた状況で学習できる．春学期の30回でも文法の全項目を網羅するには不足だが基礎は十分に学べるだろう．秋学期は講読の合間に復習や補足をするので，年間を通して学べば古典ギリシャ語について全般的な理解が得られる．

なお，この授業で学ぶギリシャ語は現代ギリシャ語ではなく，西洋古典文学，紀元前8世紀頃のホメロスに始まって5世紀頃まで続く古代文化が遺した膨大な言語遺産の言葉である．

ギリシャ語は古典の傑作：叙事詩・叙情詩・劇・歴史・演説・哲学・小説などを生み出しただけでない，今日に繋がる学問の礎はギリシャ人が敷いた（数学や哲学など抽象度の高い学問はギリシャ語の独壇場である．古代ではラテン語は学術語ではない）．また，これら異教古代の遺産と並んで西洋文化の基礎をなすキリスト教は，ギリシャ語圏ユダヤ世界で生まれ，新約聖書はローマ時代の日常語のギリシャ語で綴られた．西洋の言葉と文化の知識を深めたいと思うのであれば，古典ギリシャ語を学ぶのが確実である．

授業の到達目標

古典ギリシャ語文法の習得

成績評価方法

●**試験**　0%　　学期末試験はしません．
●**レポート**　0%　　期末の提出物はありません．
●**平常点**　100%　　毎回の練習問題の回答，変化形の書取りの出来，クイズの成績などです．　時折小テストや小さな課題を出すことがあるかもしれません．
●**その他**　0%　　とくにありません．

備考・関連ＵＲＬ

週2回授業があります，時間割に気をつけてください（片方だけだとたぶん挫折します）．

科 目 名	中級ギリシャ語1　古典ギリシャ語散文の基礎講読							
担当者名	兼利　琢也							
共通	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

秋学期の「中級ギリシャ語1」は，春「初級ギリシャ語（速習）」を履修した人，またはこれまでに「入門（初級）ギリシャ語」等を学んだか，それと同程度のギリシャ語に関する基礎知識を持っている人を対象に，実際の文章に直接当たることで読解力を養成することを念頭に置いています．

講読なので文法の大枠を理解していることを前提にしますが，多くの人はまだ始めて3か月です（し夏の休止があります）から，基礎知識の説明と復習は常に繰り返します．平易な散文で読む意義の大きな古典を（可能であれば比較的速めに）読んで読解力を鍛えたいと思います．

今年は，プラトーン『小ヒッピアース』とホメーロス『イーリアス』からの抜粋を読む予定です（ただし場合によっては別のプラトーン対話篇その他に変更する可能性もあります．『小ヒッピアース』は短いので，そのあとのホメーロスを変更してリクエストに応えることも可能です）．『小ヒッピアース』はプラトーンの初期対話篇の典型で，ソフィストのヒッピアースが披露したホメーロスを扱う演示演説とその内容に対するソークラテースの批判です．ソークラテースの哲学的手法を，古代における修辞とホメーロスの重要性とともに直に学ぶことができます．これを読み終えたら，ホメーロス『イーリアス』からの抜粋を読む予定です（古代ギリシャとは結局のところホメーロスの文化ですから，これに一度は触れておくべきです）．

講読ですから毎回少しずつ訳読していきます（あらかじめ割り当てをしておきます）．細かな文法的な説明をしますが，あわせて教科書や文法書の該当個所を復習して変化や文法の知識を固めます．毎回ごとに復習と訓練を積み重ねていきますから，半年でもギリシャ語文法の全域を学べます．（なお，ホメーロスの文法は，アッティカ散文を読むために作られている教科書では足らないところが間々ありますので，それらは毎回説明を加えます．）

大切なのは，自分で形を確かめて暗記する努力をすることです．当然ですが聞いているだけでは理解はできるにせよ，独力で読みこなせる力は身に付きません．予習復習を欠かさないでください．助力は惜しみません．ただし単語と変化は，あるレベルまで必ず覚えなければいけません．頑張って下さい．

授業の到達目標

古典ギリシャ語文献の初歩的な読解能力の養成

成績評価方法

●**試験**　0%　　テストは行いません．
●**レポート**　0%　　期末提出物はありません．

●**平常点**　100%　　毎回の訳読です.
●**その他**　0%　　なし.

科 目 名	ギリシャ語講読1　プラトン『国家』講読							
担当者名	松浦　和也							
共通	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシアが残した文献が現在においてもなお文化の基盤である、すくなくとも重要な参照軸あることを否定することは難しい。そうであるならば、現代に生きるわれわれが古代ギリシアの文献に立ち戻ることは、思索や文芸を新たに創造する際にきわめて有効な手段である。

しかし、古典的な一次文献に対峙するためには、専門的な修練を必要とすることも事実である。古典語文法の大枠を把握するだけでも一朝一夕に達成することは困難である。

本講義は、その修練の場を受講者に提供するために、プラトン『国家』を講読する。この作品の重要性はもはや説明する必要はないだろうが、ギリシア語講読の訓練にも極めて有益である。

ただし、プラトン『国家』は10巻から構成される長い著作であるので、文法的事項を確認しながらでは、わずかな部分しか講読できないだろう。それゆえ、『国家』の中からいくつか有名な個所を講読の対象とすることにしたい。

本講義では、訳読担当箇所を事前に受講者に割り振り、担当となった者は該当箇所の訳読を作成してもらう。しかし、担当以外の受講者も、自分自身で訳読を作成することが、ギリシア語の技能を早期に習得し、「教養」という名の価値が測れぬ財産を獲得することにつながるだろう。

授業の到達目標

古代ギリシア語文法と基本単語の定着度の向上

成績評価方法

訳読の担当：50%
出席：50%

科 目 名	初級ラテン語1　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
共通	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテン語とは，古代にイタリア半島中部のラティウム地方に源を発しローマ帝国と共に西地中海世界の共通語となった言語で，同時期に文語として完成して多くの古典作品を生み出した．中世以降もカトリック教会と法律と学問の言葉として西洋の普遍的教養の伝統を担い，18世紀まで学問の伝達手段であった．他方，口語（俗ラテン語）はしだいに変化してロマンス諸語（イタリア語，スペイン語，フランス語など）へ変貌する．西洋の古文であるラテン語に直接の実用性はないが，言葉に興味のある人，真の教養に触れたい人はこの言葉を学ぶとよい．今のアメリカでも既修外国語としてスペイン語，フランス語に次ぐ．英語の語彙も3/4がラテン語に由来するのみならず，文法はすべてラテン語文法が元だから，近代語学習には必ず役立つはずである．

春学期の本科目では，教科書の半分程度（9課辺り）まで進む予定．

授業の到達目標

ラテン語文法の基礎の学習と習得，ラテン語の詩文の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配布回収する変化形書取り＋クイズの成績（と不定期に実施予定の基礎的な少テストの予定）
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	初級ラテン語2　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテン語とは古代ローマ帝国の言葉である．前1世紀後半の共和政末期，カエサル，キケローによって技巧的文語として完成し，アウグストゥスに始まる元首政の2世紀の間に幾多の古典文学を生み出した．歴史（サッルスティウス，リーウィウス，タキトゥス），哲学（キケロー，セネカ），文学（ルクレーティウス，ウェルギリウス．ホラーティウス，オウィディウス他）にわたる古典は，ルネサンス以降の西洋文化に深く広い影響を及ぼしている，またラテン語は，ローマ帝国滅亡後も教会と法と学術の言語として西洋の教養を担いつづけた．それゆえ西洋のすべての学問と文化はこの言葉が源である．秋学期は，教科書の後半を進める（第10課から第20課），余裕があれば何らかの古典作品を読む予定（文法学習中にも随時紹介する．また希望があれば優先したいと思う）．

授業の到達目標

ラテン語文法の学習と習得，ラテン語の詩文の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配布回収返却する変化形書取り＋少クイズ，不定期に実施する予定の復習小テスト，講読の出来など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	初級ラテン語（速修）							
担当者名	小倉　博行							
共通	４単位	春学期	月５時限	木５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていたラテン語の初級文法を学びます。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨー ロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。また、古い時代に存在した言語とはいえ、外国語を学ぶという点では、ラテン語の学習方法は現代語のそれと基本的には異なりません。課ごとに文法項目を説明し、その上でみなさんに練習問題を解いていってもらいます。現代語に比べてやや複雑な仕組みを持つラテン語ですが、少しずつ確実に学べば必ず身につくものです。

授業の到達目標

ラテン語の初級文法の知識を身につけることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない予定です.
●**レポート**　0%　　レポートはありません
●**平常点**　100%　　課が終わるごとに，教科書の作文問題を提出してもらいます．20点満点で添削し，平均6割（12点）以上を合格とします.
●**その他**　0%　　上記が成績判定の基準です.

講義

科 目 名	中級ラテン語1							
担当者名	小倉　博行							
共通	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期科目「初級ラテン語（速習）」を履修した人、あるいはすでに何らかのかたちでラテン語の初級文法を学んだ人を対象にした講座です。とくに後者に該当する人は、動詞とその分詞、そして名詞と形容詞の変化形を身につけていることを前提とします。「中級ラテン語1」では接続法と呼ばれる、ラテン語読解には不可欠な動詞の用法を徹底的に学びます。具体的には『標準ラテン文法』（中山恒夫著、白水社）の16課以降の内容です。

授業の到達目標

課ごとに練習問題を解き、ラテン語の文法のさらなる理解を深めることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　0%　　レポートは行いません
●**平常点**　100%　　課ごとに練習問題を提出してもらい、20点満点で添削して返却。また，課ごとに20点満点の小テストを行ないます。両者とも平均点が6割である12点以上を合格とします。
●**その他**　0%　　上記が成績判定の方法です

科 目 名	中級ラテン語2　古典ラテン語の原書講読入門							
担当者名	小倉　博行							
共通	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中級ラテン語2」は，ラテン語の初級文法を学び終えた人を対象にした、平易なラテン語で書かれた文献を使ってラテン語読解力の基礎作りを目標とする授業です。ラテン語の読解で無視できない存在が「接続法」と呼ばれる動詞の用法で、これを克服することなくしてラテン語が読めるようにはなりません。この用法を中心に学ぶための併設科目「ラテン語中級文法」に対して、本講座では実際のラテン語の文献にあたりながら、この接続法を学んでいってもらいたいと思います。講読なので実際には輪読形式の授業になります。毎回予習して臨んでください。

授業の到達目標

初級文法を学んだ皆さんが古典ラテン語の原文を読むことによって、読解力を向上させることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　これまで行なってきませんでしたが，受講者の数によっては最終授業時に，読解力を判断する簡単なテストを実施する可能性もあります．柔軟に対応したいと思います.
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席50%, 訳出発表50%
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ラテン語講読2　キケロを読む							
担当者名	土屋　睦廣							
共通	２単位	春学期	金曜日	６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

春期科目「ラテン語講読2」は、「詳しく学ぶラテン語」、「入門ラテン語」等を学んだ人、もしくはそれと同等程度のラテン語に関する基礎知識を持っている人が、古典古代のラテン語作品を原典で読むための科目です。

今期は、古代ローマを代表する散文作家であるキケロの作品を、文法的知識を踏まえながら、丁寧に講読します。短い作品な

ら半期で読了できますが、大きな作品の場合は、有名な箇所を抜き出して読むことになります。作品の選択は受講者の希望をできるだけ尊重するので、とくに希望がある場合は初講時に申し出てください。
受講者の語学力に応じて、毎回数十行を精読します。受講者には、数行ずつ区切りながら、音読して訳をつけてもらいます。接続法の用法など、基本的な文法事項も繰り返し確認しながら進めていきます。
前1世紀の代表的弁論家・政治家・思想家であるキケロのラテン語は、古典ラテン語の模範とされる名文です。古典作品を原典で読む喜びを、受講者の皆さんと分かち合いたいと思います。

授業の到達目標

ラテン語文法に関してはすでに大筋を理解していることを前提とし、基礎事項も繰り返し復習しながら、古典ラテン語の文献を独力で読めるようになるための語学力の養成を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回の訳読により評価します。語学力のレベルだけでなく、積極的な取り組みと努力を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ラテン語に限らず、外国語の習得には多大な労力と時間を要しますが、努力をいとわぬ者には必ずやそれを上回る喜びが得られるはずです。ラテン語を学んだ経験のある人は、是非とも果敢に挑戦してください。

講義

科 目 名	初級サンスクリット語（思想）1　初めて学ぶサンスクリット語							
担当者名	飛田　康裕　他／野武　美弥子							
共通	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット語は、宗教、文学、政治、法制等古代インドのあらゆる分野の古典文献で使われて来た言語です。また、現代インドの諸言語にも少なからぬ影響を与えており、「インド」を理解する上でとても有用な言語です。サンスクリット語はヨーロッパの諸言語とも起源を同じくし、そのなかでも古い言語の一つですので、言語に関心を持つ人にもサンスクリット語の知識は有益でしょう。授業では、サンスクリット語の基礎的な文法事項を学びながら、実際にサンスクリット語の文章を講読していきます。文字と発音から始めて、サンスクリット語がどのような文法に則った言語であるのか一通り理解できるようになることを目指します。また、古代インドの宗教・思想文献からの短い抜粋文をじっくりと読み、学習した文法についての理解をさらに深めることを目標とします。文法・講読ともに丁寧に解説しながら授業を進めていきますので、語学の学習が苦手な方でも是非挑戦してみて下さい。

授業の到達目標

サンスクリット語の初等的な文法知識、特に、文字や発音、名詞の曲用(格変化)、動詞の活用(数・人称変化)、連声法(音変化の規則)などを学び、サンスクリットの文法構造を大まかに理解して、サンスクリットの文に慣れることを主な目標とします。

成績評価方法

●**試験**　35%　　前半（第8回目予定）に一度簡単な小テストを行います。
●**レポート**　45%　　講読したテキスト等の逐語訳等を、最終回(第15回)に提出してもらいます。
●**平常点**　20%　　授業中に発音や名詞の曲用の練習、あるいは、文法の練習問題をしますので、これらへの取り組みも評価に加えます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

まったくの初心者を対象に、言語への興味と思想への興味の両方を想定して授業を行います。サンスクリット語への関心がある人、また語学そのものが好きな人、古代インドに興味のある人も大歓迎です。
なお、初級サンスクリット語(思想)1 と2 は独立の授業ですが、内容は関係していますので、なるべく続けて受講してください。
また、初級サンスクリット語(思想)1と初級サンスクリット語(文学)1は取り扱う文法事項は共通していますが、講読で取り扱うテキストが異なります。文法事項を異なるテキストを通して繰り返し学ぶことで学習効果が上がりますので、意欲のある人は本講義に加えて初級サンスクリット語(文学)1 と2も併せて受講することを勧めます。

科 目 名	初級サンスクリット語（思想）2　はじめて読むサンスクリット語の文章							
担当者名	飛田　康裕							
共通	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初歩文法を復習しながら（初歩文法を学びながら）インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読みます。
この授業では、初歩文法の知識を復習しながら、一連のサンスクリット語の文章を講読します。古典語の場合には、文法を一通り学んだ後には、実際の文章を読んで、実践の中で文法の知識を深めていくことが実用的です。よって、文法の知識に不安のある場合でも、是非、挑戦してみてください。授業の終わりには、文法についての理解が深まったことをきっと実感できると思います。また、思想や宗教の文献は、一見、難しそうに思われるかもしれませんが、文法事項は比較的易しく取り組みやすいものです。
なお、初級サンスクリット語（思想）2においては、初級サンスクリット語（思想）1では余り詳しく扱わない動詞についての文法事項を丁寧に説明する予定です。また、思想や宗教の文献に頻出する特有の表現についても、折に触れて、重点的に説明します。

授業の到達目標

初歩文法を復習しながら（初歩文法を学びながら）インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読む。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　100%　　授業中に行う練習問題や授業中に扱うテキストの一部分を逐語訳して、最終回(第15回)にレポートとして提出してもらいます。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

初級サンスクリット語（思想）1と2は独立の授業ですが、内容は連続していますので、なるべく続けて受講してください。
なお、この授業は、サンスクリット語の初歩文法を一通り学習した人を対象としていますが、文法事項の復習をしながら進みますので、サンスクリット語が全く初めての人でも受講可能です。ただ、全く初めての人は多少の努力が必要であることを心にとめておいてください。
また、初級サンスクリット語(思想)2と初級サンスクリット語(文学)2は、取り扱う文法事項の大部分は共通していますが、講読で取り扱うテキストが異なります。学んだ文法事項を異なるテキストを通して確認することで学習効果が上がりますので、意欲のある人は本講義に加えて初級サンスクリット語(文学)2も併せて受講することを勧めます。

講義

科 目 名	初級サンスクリット語（文学）1　はじめて学ぶサンスクリット語							
担当者名	三代　舞							
共通	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

全くの初心者を対象に、インドの古典語であるサンスクリット語を初歩から学びます。
サンスクリット語は、紀元前1500年頃から今日に至るまで、インドの哲学・宗教・文学の標準語として用いられてきた言語です。インドの二大叙事詩『ラーマーヤナ』や『マハーバーラタ』を始めとする多くの文学作品や『マヌ法典』などの法典類、バラモン教や仏教などの宗教・哲学文献等の膨大なテキストがこのサンスクリット語によって著されました。
授業では、サンスクリット語の基礎的な文法事項を学びながら、サンスクリット語の文章を講読していきます。文法は、文字と発音から始めて、名詞の語形変化や動詞の活用などを学びます。講読は、古代インドの文学や思想文献からの短い選文を丁寧に読み、学習した文法についての理解をさらに深めることを目指します。
インド学や仏教学を目指す学生はもちろん、インドの文化や古典語一般に興味のある学生、なんとなくめずらしいことをやってみたい学生など、多方面の興味からの受講を歓迎します。古典語の習得は容易ではありませんが、その先には自ら原典を読む喜びが待っています。

授業の到達目標

サンスクリット語の初等的な文法知識を身につける。
①名詞の曲用（格変化）に慣れる。
②デーヴァナーガリー文字（一般的サンスクリット文献で用いられる文字）に慣れる。
③連声法（音変化の規則）に慣れる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　80%　　最終回に提出してもらう課題（選文の和訳と文法的説明）によって評価します。
●**平常点**　20%　　授業への積極的な参加や授業中に行う練習問題によって評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

初級サンスクリット語（文学）1（春学期）と2（秋学期）は独立の授業ですが、連続性を念頭においていますので、なるべく続けて受講してください。初級サンスクリット語（思想）2（秋学期）への接続も可能です。
また、特に意欲のある学生は、初級サンスクリット語（思想）1と併せて受講することをお勧めします。繰り返しによる文法知識の定着が望めますし（教場配布する文法の教科書は共通です）、異なった文献の講読を行いますので、より多くの実例に触れることができます。

科 目 名	初級サンスクリット語（文学）2　はじめて読むサンスクリット語							
担当者名	三代　舞							
共通	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初歩的な文法を復習しながら（学びながら）、インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読みます。
本授業では、文法事項を復習および補足しながら、実践的にサンスクリット語の文章を読み進めていきます。基本的には、初歩文法（初級サンスクリット語1相当、思想・文学は問いません）を一通り終えた学生を対象としています。古典語の場合には、文法を一通り学んだ後には、実際に文献を読みながら文法の知識を深めていくことが実用的です。丁寧に説明しながら進めますので、文法の知識に不安がある場合でも積極的に挑戦してください。授業の終わりには、サンスクリット文法についての理解が深まったことをきっと実感できると思います。
なお、文法については、春学期の授業ではあまり詳しく扱わない動詞を中心に説明する予定です。また、講読のテキストについては、長編叙事詩『マハーバーラタ』の中から，ヒンドゥー教の重要な聖典の一つである『バガヴァッド・ギーター』もしくは愛の物語『ナラ王物語』のいずれかを扱う予定です。

授業の到達目標

①サンスクリット語の初歩文法を復習しながら（学びながら）、インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読む。
②自力で辞書と文法書を扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　80%　　最終回に提出してもらう課題（選文の和訳と文法的説明）によって評価します。
●**平常点**　20%　　授業への積極的な参加や授業中に行う練習問題によって評価します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本授業は、初級サンスクリット語（思想あるいは文学）1（春学期）との連続性を念頭においていますので、なるべく続けて受講してください。秋学期単独での受講も可能ですが、その場合には自主的な努力が求められます。

また、特に意欲のある学生は、初級サンスクリット語（文学）2と併せて受講することをお勧めします。繰り返しによる文法知識の定着が望めますし（教場配布する文法の教科書は共通です）、異なった文献の講読を行いますので、より多くの実例に触れることができます。

科 目 名	サンスクリット語基礎講読1							
担当者名	伊藤　康裕　他／山部　能宜							
共通	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教やインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、空の思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『中論』をテキストとして講読する。また、梵語原典の解読の一助として、漢訳文献を中心に『中論』諸注釈の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。すなわち、たんに知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し、原典を正確に読解して、その思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれる、という学問的な経験が得られることを目標とするものである。

「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。また、サンスクリット語文法事項の復習もカリキュラムに含めており、必要に応じて基本文法の復習を講読と併修する。

以上、サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. インド仏教における空の思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得し、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

希望あるいは必要に応じて、Course N@viによるサンスクリット文法習得のための添削指導を行います。

科 目 名	サンスクリット語基礎講読2							
担当者名	伊藤　康裕　他／山部　能宜							
共通	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教やインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、唯識思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『唯識三十頌釈』をテキストとして講読する。また、梵語原典の解読の一助として、諸注釈や他の唯識論書の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。すなわち、たんに知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し、原典を正確に読解して、その思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれる、という学問的な経験が得られることを目標とするものである。

「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。また、サンスクリット語文法事項の復習もカリキュラムに含めており、必要に応じて基本文法の復習を講読と併修する。

以上、サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. 唯識思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得、可能ならば応用を幅広く習得し、、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

希望あるいは必要に応じて、Course N@viによるサンスクリット文法習得のための添削指導を行います。

科 目 名	サンスクリット語講読　唯識の基礎文献および宗教風刺戯曲を読む							
担当者名	齋藤　直樹　他／野武　美弥子							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

齋藤及び野武担当授業において、それぞれ以下の文献を取り上げる。

齋藤担当：Vasubandhu（世親, ca. 400-480A.D.), Viṃśikā Vijñaptimātratāsiddhiḥ（唯識二十論）を読む。サンスクリット原典の講読を中心としながら、仏教を、宗教的もしくは実践的側面においてではなく、世界史上における一つの重要で顕著な思想的成果として捉えようとするときに重要となる諸概念の分析にも時間を割く。特に「因果関係」「空間」「全体と部分」「実体と属性」「現実性と可能性」といった哲学的な諸観念の解説に注力することで，ひろく人文科学一般の理解のための基礎付けにも役だつような授業構成となるであろう。

野武担当：ジャヤンタ・バッタによる戯曲『アーガマダンバラ』（聖典騒動）を取り上げる。ジャヤンタ・バッタは9世紀のカシュミールにおいて活躍した人物であり、バラモン教の伝統的立場に立った宗教哲学書の著者として知られる。戯曲『アーガマダンバラ』では、ヴェーダ聖典の学習を終えた人物が、ヴェーダの敵を負かしてやろう、と、仏教徒をはじめ各宗派の人々と哲学論争を繰り広げていく。コミカルな会話形式の中、当時の諸宗教の考え方や議論の様子が描写される。本授業では、いくつかのシーンを取り上げ、思想的・社会的背景について解説を加えながら読み進める。

授業の到達目標

サンスクリット原典の読解を通じて、大乗仏教の教義の二大潮流の一つである「唯識」において展開された諸概念を理解すること。そのうえで、抽象的な思考を組みたてるための基本的な構図に習熟すること。

『アーガマダンバラ』講読を通し、生き生きとしたサンスクリット会話の表現に親しむこと。また、中世インドにおける諸宗派の理論上の立場の違いを理解すると共に、当時の現実的な宗教観を知ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　授業中に解読したサンスクリットテキストのローマ字表記とその和訳等。
●**平常点**　30%　　授業への取り組みかた。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

サンスクリット文法を多少勉強したことがあり、文献講読に興味を持つ人であればどなたでも歓迎します。文法はこれからという人は、初級サンスクリットやサンスクリット基礎講読の授業をあわせて受講することをお勧めします。

科 目 名	古典ギリシャ文学　ギリシャ・ローマ文学の中のテーマとしてのエロス・・ギリシャ的「愛」							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

この講義はオンデマンド授業としてウェブ上で行います。本年度は「エロス」をテーマとし、春期科目の「古典ギリシャ文学」では、プラトンの哲学作品『饗宴』（シュポシオン・・「一緒に」シュン、「酒を飲むこと」ポシオンの意味で、シンポジウムという日本語の語源です）で話題となった様々な「エロス」（性愛とその寓意としての愛の神）像と、ソクラテスが報告する上昇する階梯としての「愛の秘儀」を考察した後、ホメロスの「欲望」、ヘシオドスの「宇宙生成原理」など叙事詩に見られるエロス、女流詩人サッポーなどの抒情詩に見られる「愛」とその展開を考えます。トロヤ戦争の直接の原因はスパルタの王妃ヘレネに対するトロヤの王子パリスの不倫の愛でした。トロヤ戦争を背景とするホメロスの叙事詩『イリアス』、『オデュッセイア』に様々な「愛」の思想が見られるのは当然のことでしょう。

ギリシア語で「愛」を表す語として、エロス（性愛）、ピリア（友愛、親族愛）、アガペ（キリスト教的愛）があるのは良く知られていますが、エロスについて考えるには少なくともピリアに関する理解も必要で、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』などに見られる「愛」の分析を参考に、ピリアとの対比からプラトン的エロス像を浮き彫りにし、ギリシャ的「愛」の本質を考察します。最終的にはそうした思想としての「愛」の影響が文学作品のどのように反映し、一方でどれほどの乖離が見られかも分析することを目標とします。ギリシャ文学に関しても、常にラテン文学との対比を意識します。教科書によって、ギリシャ文学からラテン文学への流れが、後世のヨーロッパ文学に大きな影響を与えたからです。

授業の到達目標

「エロス」（愛）をキーワードとして、古典ギリシャ文学の概要を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　オンデマンド授業の機能を使った小テストを学期中に毎回課し、学期末にまとめの試験をします。 評価のポイントは次のように整理されると思います。1．個々の知識に対する理解度、2．作品や事項に関する理解、3．討論の場での問題提起　その他　0%
●**レポート**　0%　　レポートは課しません
●**平常点**　30%　　BBS（電子掲示板）を使った討論への参加度を平常点として総合的に評価します。評価のポイントは次のように整理されると思います。1．個々の知識に対する理解度、2．作品や事項に関する理解、3．討論の場での問題提起
●**その他**　0%　　試験（小テスト形式）と平常点（BBS）のみで評価します

備考・関連URL

備考
評価のポイントは次のように整理されると思います。
1．個々の知識に対する理解度
2．作品や事項に関する理解
3．討論の場での問題提起

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	古典ローマ文学　ギリシャ的「愛」のローマ文学的展開							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

この講義はオンデマンド授業としてウェブ上で行います。

「古典ローマ文学」は紀元前3世紀から、紀元後5世紀くらいまでラテン語で書かれた文学作品を扱いますが、この時代にはギリシャ語でも文学作品が書かれ、ラテン語作品もギリシャ文学の影響を抜きにしては考えられません。本授業では、ローマ文学の中心ではある、叙事詩、演劇、恋愛詩をモデルとなったギリシャ文学と関連させながら、紹介します。

本年度は「エロス」をテーマとし、春期（前期）科目の「古典ギリシャ文学」では、プラトンの哲学作品『饗宴』のエロス論を出発点に、叙事詩に始まる古代ギリシャ文学の中のエロスを分析して、ギリシャ的「愛」に関する基礎知識を得ました。秋期（後期）科目である「古典ローマ文学」においては、このような思想が、言語を異にするローマ文学でどのように展開したかを考えます。エウリピデスの『メデイア』の主人公メデイアは裏切った夫イアソンへの復讐のために愛しいわが子たちを殺してしまいますが、この二人も出会ったときはエロスの神に祝福された幸せなカップルでした。その物語を描いたのが、前3世紀ヘレニズム時代の叙事詩『アルゴ船物語』ですが、この作品に見られるヘレニズム文学の特徴を指摘しながら、エロスが女性に及ぼす作用、「恋におちる女性」というモティーフを文学史を踏まえながら考察します。このモティーフは都市の洗練された世界文学としてのヘレニズム文学の特徴とともに前1世紀後半のローマの大詩人ウェルギリウスの叙事詩『アエネイス』の第四巻に引き継がれます。ここに描かれたディドーの悲恋は後のヨーロッパの絵画、音楽の主題となって、後世の文化に大きな影響を与えました。

ウェルギリウスの作品としては『アエネイス』の他に、『牧歌』と『農耕詩』があります。これらの作品がいかにヘレニズムの精神に満ちていながらローマ的独創性を発揮したものであるかは、授業で紹介しますが、『牧歌』に活かされた恋愛詩のモティーフ、『農耕詩』に取り上げられたオルフェウス伝説を分析することによって、彼の「恋愛」思想の背景にエピクロス哲学があることがわかります。エピクロスの思想をストア哲学などと対比しながら紹介して、ウェルギリウスのエロス観への影響を考察します。

授業の到達目標

ギリシャの影響を受けた「エロス」（愛）の思想が、古代ローマでどのように展開したかをヒントにして、後世に大きな影響を与えた古典ローマ文学の概要を理解する

成績評価方法

●**試験**　70%　　オンデマンド授業の機能を使った小テストを学期中に毎回課し、学期末にまとめの試験をします。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません
●**平常点**　30%　　BBS（電子掲示板）を使った討論への参加度を平常点として総合的に評価します。
●**その他**　0%　　試験（小テスト形式）と平常点（BBS）で評価します

備考・関連URL

評価のポイントは次のように整理されると思います。
1. 個々の知識に対する理解度
2. 作品や事項に関する理解
3. 討論の場での問題提起

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	ギリシャ・ローマの思想と文化　ギリシャ・ローマ文化とその後世への影響							
担当者名	宮城　徳也　他／内川　勇海／加藤　喜市／小石　絵美							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「古典文化」と称されるギリシャ・ローマの文化はそれ自体としても、興味の尽きない存在だが、どの時代においても様々な文化に創造力の源泉を提供してきた。キリスト教はギリシャ哲学との葛藤を通じてその神学を築き上げたし、イスラムの文化が古典古代の文献を一部アラビア語に訳すなどしながら、多くのこと（哲学、医学、天文学、数学、法学）を学んで独自の文化を構築して、さらに中世ヨーロッパに大きな影響を与えたことは良く知られている。

本講義は春期（前期）科目の「ギリシャ・ローマ世界入門」と連動しながら、随時古典古代文化に言及しながら、主としてそれが後世に与えた影響に焦点をあて、様々な事例をわかりやすく紹介してゆく。中世、近代、現代の文化、芸術、思想、宗教、科学、政治その他にとってギリシャ・ローマの思想と文化がどのような意味を持つかを考える機会を提供したい。

授業の到達目標

ギリシャ、ローマの思想と文化が、後世に多様で重大な影響を及ぼしたことの理解を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価
●**レポート**　40%　　学期末に3000字程度で、学習の成果をまとめた報告を求める（コースナビ提出）
●**平常点**　60%　　毎回、授業の内容の要約とそれに対する見解を記したレビューシートの提出を求め、それを平常点として評価する
●**その他**　0%　　レポートと平常点で評価

備考・関連URL

多様な興味を持った広い範囲の受講者の積極的参加を期待する。春期（前期）の「ギリシャ・ローマ世界入門」は関連するが別内容なので、連続して両方でも、どちらか一方でも履修できる。

科 目 名	サンスクリットの世界1　古代インドの宗教と思想							
担当者名	齋藤　直樹　他／野武　美弥子							
共通	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現在、世界人口のほぼ半数がインド・ヨーロッパ語族に属する言語を使用している。その語族のインド・イラン語派に属するサンスクリットは「(知的に) 整備された言語」であり，その言語によっておそるべき数の「文学」が生みだされた。そして南アジア全域における「普遍語」たるその言語で書かれたあまたの書物が周辺の地域に伝播し翻訳され，その一端がアジアの東端に位置する日本にまで到達した．ヨーロッパにおけるギリシア語あるいはラテン語に匹敵するような，アジアにおけるサンスクリットの知的ならびに文化的影響力の重要性は，現在もっと注目されてよい．　齋藤担当の授業においては、その言語でかたられた神話と宗教的理論のなかからいくつかの論題を取りあげ、それらの解釈の可能性を提示して、インド的思考の基礎への理解を図っていく。たとえばヴァルナ、インドラといった神々にかかわる諸表象の分析、あるいは世界原理としてのブラフマンという観念への評価などである。

また野武担当の授業においては，後代のバラモン哲学諸派において人間や世界がどのように見られていたのかということについて考える。

講義

授業の到達目標

サンスクリットによってかたちづくられた諸宗教あるいは諸思想は、その言語的厳密さからもたらされる難解さや排他性ないしは保守性をもつ一方で、非常にふかい倫理性を湛えたものである。ダルマ（法)、すなわちただしい規範に則った行為を宗教的救済＝解脱の基本的な条件の一つとすることにおいて、インドの諸宗教は、教理上のさまざまな差異を超えて、共通する。その倫理的な基礎付けがいかなる思想的背景をもつのかを理解することは、倫理や道徳が変質し崩壊しつつあるように見えるわれわれの時代へのなんらかの指針を探りだすためにも、いくばくかの意義をもつことであるとおもわれる。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし
- **レポート**　75%　　期末の4千字程度のレポート
- **平常点**　25%　　授業への取り組みかた
- **その他**　0%　　なし

備考・関連URL

サンスクリットの語学の授業ではありません。おもに古代のインド・ヨーロッパ語族において形成された思想と宗教にかかわる知識への初歩的な導入を主旨とします。

科 目 名	サンスクリットの世界2　インド哲学入門							
担当者名	林　慶仁　他／野武　美弥子							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット語はインドの古典文化を担ってきた言語である。インドの哲学者たちはこのサンスクリット語を使用して様々な思想を展開してきた。日本人になじみの深い仏教の経典類の多くも、サンスクリット語で書かれた。このクラスでは、サンスクリット語で展開されてきたインドの諸思想を紹介したい。

ヒンドゥー教系思想としては、通称六派哲学と呼ばれる思想について、入門的な形で講義する。また、仏教のテキストを幾つか取り上げ、その思想やスタイルの違いを見ることを通して仏教の発展を概観する。さらに、仏教とヒンドゥー教系諸哲学学派が同じように関心を持ったトピックを取り上げ、彼らの考え方の違いを確認する。また、サンスクリット語のインド諸言語における位置付けや、仏教の発展とサンスクリット語の関係を見る。

サンスクリット語については、必要に応じて適宜単語等を説明するにとどまり、サンスクリットテキストそのものの原文読解は行わない。

授業の到達目標

インドの哲学思想の基本的な内容を押さえ、インド人特有の思考方法を理解する。また、サンスクリット語とインド諸思想や仏教との関係を理解する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　試験は特に行わない。
- **レポート**　50%　　教場提出（内容と日時は追って指示する）
- **平常点**　50%　　授業への取り組みかた
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	アラビア語1　読解の基本							
担当者名	竹村　和朗							
共通	4単位	春学期	月2時限	水4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、アラビア語の初学者向けクラスです。読解の基本を学んでいきます。本講義は、春学期に開講され、週2回（月曜と木曜)、授業時間があります。

アラビア語の文法規則は多岐にわたり、文章を正確に読み書きするためには、多くの文法知識と実践的訓練を必要とします。本講義では、アラビア語の読み書き能力の土台づくりとして文法を学び、アラビア語の文章を正確に読むこと、すなわち、母音記号を正確に振り、母音記号に則って文章を読むことができるようになることを目指します。

教科書は、黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林、2013年。もとは、泰流社、1976年）を用います。同書は、文法規則を幅広く含み、初級以上の段階でも参考になる一冊です。授業は、同書の内容によりながら、進めていきます。アラビア語文章の筆写・読解を毎回の課題とします。

授業の到達目標
・アラビア語の文章に母音記号を正確に振ることができる
・アラビア語の文章を正確に発音することができる

成績評価方法
●**試験** 30%　最終回（第30回）の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 20%　毎回の課題提出状況の合計をレポート点とします。
●**平常点** 50%　授業への積極的な参加を評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL
・本講義「アラビア語1」は、春学期の授業です。秋学期の「アラビア語2」とは別科目です。「アラビア語2」については、シラバスを参照してください。

科 目 名	アラビア語2　作文の基本							
担当者名	竹村　和朗							
共通	4単位	秋学期	月2時限	水4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
本講義は、アラビア語の初学者向けクラスです。作文の基本を学んでいきます。本講義は、秋学期に開講され、週2回（月曜と木曜）、授業時間があります。
アラビア語の文法規則は多岐にわたり、文章を正確に読み書きするためには、多くの文法知識と実践的訓練を必要とします。本講義では、アラビア語の読み書き能力の土台づくりとして作文の基本を学び、アラビア語の文章を作ること、すなわち、文法規則に則って文章を作り、正確に発音することができるようになることを目指します。
教科書は、竹田敏之『アラビア語表現とことんトレーニング』（白水社、2013年）を用います。同書は、アラビア語の文章を作る技術を磨くための練習問題を多く含んでおり、自習にも適した一冊です。毎回の授業は、同書の内容によりながら、進めていきます。授業で扱った練習問題の筆写・解答を毎回の課題とします。

授業の到達目標
・アラビア語の文章を正確に作ることができる
・アラビア語の文章を正確に発音することができる

成績評価方法
●**試験** 30%　最終回（第30回）の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 20%　毎回の課題提出状況の合計をレポート点とします。
●**平常点** 50%　授業への積極的な参加を評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL
・本講義「アラビア語2」は、秋学期の授業です。春学期の「アラビア語1」とは別科目です。「アラビア語1」については、シラバスを参照してください。

科 目 名	イギリス民衆文化論　現代イギリス文化							
担当者名	小田島　恒志							
多元	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
イギリスの文化人類学者 Kate Fox の *Watching the English* を読み、イギリス人の生態にせまる。ベストセラーになるほどの「面白い」本でありながら、学者の文章であるため、しっかりとした学問的手順を（半分は洒落で）踏んでいる。今後の専門研究に必要な文献読解の練習を兼ねるつもりで読み込んでほしい。

授業の到達目標
書かれている内容を知識として体得するだけでなく、書かれている英語そのものから「イギリスらしさ」を感じられるようにする。

成績評価方法
●**試験** 80%　14回目の授業中に試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 20%　出席などの activity を総合的に評価する。
●**その他** 0%

科 目 名	ポストコロニアリズム							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
Postcolonialism is an intellectual school of thought that deals with the phenomenon of colonialism and its effects on the cultures and peoples of the countries that are former colonies. Postcolonialism is practiced in several disciplines, but came to prominence in Western universities mostly through literary studies. This course will provide an overview of the various theories, issues, and situations that constitute what we call "postcolonialism." The course is modeled after John McLeod's Beginning Postcolonialism (2010). Class sessions will be conducted entirely in English.

授業の到達目標
Students will learn about the various aspects of postcolonialism and how to apply postcolonial theory to

real-world situations. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

Two exams 60%
Presentation 30%
Participation/In-class activities 10%
TOTAL 100 %

科 目 名	アジアの近代　清朝から近代中国へ							
担当者名	柳澤　明							
多元	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「アジアの近代」を包括的に論じることは、対象があまりに巨大で茫洋としてしまうので、本講義では、現代中国の領土・民族的枠組のもとを築いた清朝を扱う。まず、清朝の形成・拡大過程、清帝国を中心とした広域秩序の構造を概観し、続いて、19世紀以降の社会変動と「西洋の衝撃」によって伝統的秩序が解体していく過程を検討するが、その際、特に「国境」に着目したい。前近代のアジアにも国境が存在しなかったわけではないが、厳密に管理された国境によって国土が隙間なく取り囲まれていなければならない、という観念はなかった。このことは、もちろん清朝にも当てはまる。ところが、清帝国の解体と並行して、そこに明確な国境をもつ近代国家としての「中国」が姿を現すのである。そのダイナミズムを検討することを通じて、現代世界に見られる国境問題の背景・意味についても考えてみたい。 本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

清朝を例にして、アジアにおける前近代から近代への移行のありかたに対する理解を深め、現代東アジアに残された諸問題の淵源を探る手掛かりとする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　期末に授業内容に関連するレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　30%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

図像資料なども積極的に利用して、できるだけわかりやすく進めていきたい。

科 目 名	アジア社会とイスラーム　イランの歴史と文化							
担当者名	大塚　修							
多元	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この授業では、アジアの中でも特にイランを中心とする地域の歴史と文化を扱う。1979年のイラン・イスラーム革命以降、イスラーム的価値観に基づく国家づくりを掲げ、国際的に孤立してきたイランであるが、その歴史や文化の実態についてはあまり知られていない。前近代において、イスラーム文化は非アラブ圏においても、イラン地域を中心に独自の発展を遂げてきた。その影響は中央アジア、インド、トルコなど広範囲に及び、イスラームという宗教やその文化を考える上で看過できない重要な位置をしめている。この授業では、イスラーム以前の在来文化と融合しながら発展してきたイラン地域固有のイスラームの在り方を提示し、アラブ世界に代表される一般的なイスラーム認識を相対化することを目指す。その上で、現代のイランに関する諸問題を考えるための基礎的な知識を提供したい。

授業の到達目標

1. イランの歴史と文化に関する基礎的知識を習得する
2. イスラームという宗教の多様性を理解する
3. イランをはじめとするアジア社会に関する諸問題を自分の頭で考える能力を身につける

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に記述式の試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業終了後にコメントシートを提出してもらいます。授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	伝統文化概論1　日本の絵解き							
担当者名	吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義では、日本の絵解きについて、映像や絵画資料を参照しながら概説します。絵解きとは、物語性・思想性のある絵画の内容を解説・説明することです。宗教的な絵画を利用しながら、参詣者を教導したり、啓蒙したりすることを目的としていました。文字の読めない庶民にとって、絵画によって説明される宗教的事跡は、具体的なイメージが眼前に展開するため、理解しやすいものであったでしょう。

まず、インド・中国・朝鮮半島などにおける絵解きの展開を概説した後、日本の絵解きについて、個別の事例を見ていきます。具体的には、『五趣生死輪図』『熊野観心十界曼荼羅』などの仏教的世界観を示す絵画、『善光寺如来絵伝』や寺社参詣曼荼羅など寺社縁起・境内図、『聖徳太子絵伝』や『親鸞聖人絵伝』などの偉人・高僧伝、『苅萱親子御絵伝』など在地の物語について、

吉原自身が撮影した貴重なビデオや、市販のDVDの映像、そして中世以来の絵画資料を利用しながら検討します。
また、講義と並行して、オンデマンド授業により、インターネットと図書館を利用した参考文献の検索などについて指導します。

授業の到達目標

仏教の世界観や寺社の縁起・高僧の伝記などを、庶民にもわかりやすく説いた絵解きの歴史と実態についての基本的な知識を持ち、映像や絵画、各種文献資料を通して理解することを目的とします。

成績評価方法

レポート80%：期末に絵解きに関するレポートを課しますが、詳細は授業中に指示します。
出席20%：三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。

科目名	伝統文化概論2　『易』の思想とその展開							
担当者名	江波戸　亙							
多元	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

『易経』、つまり『易』は占いの書としてよく知られているが、また同時に哲学の書でもある。本書は儒教の重要経典である「五経」の筆頭として、そして最も深遠な思想を内包する文献として、非常に重視されてきた。
また『易経』は、読み手の様々な解釈を許容する、いわば「懐が深い」文献でもある。ゆえに『易経』の思想は、儒教という枠を飛び越えて他の多様な思想と結びつき、常に中国思想の中心に在り続けたのである。
そこで本講では、「占い」と「哲学」という二面性に着目しながら、『易経』の思想を講ずる。さらに、後世の思想家たちが『易経』の思想をいかに解釈し、発展させていったのかを確認することで、中国思想の歴史と性格を深く理解することを目指す。

授業の到達目標

『易経』における「占い」と「哲学」について、基本的な知識を得る。
さらに、後世の様々な『易経』解釈を知ることによって、中国思想の性格と歴史を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　授業全体の内容に関するまとめをレポートとして提出（2000字程度）。
●**平常点**　50%　　教場での参加姿勢。毎回レビューシートに授業内容に対する感想・質問を記入してもらう。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

単位取得にあたっては、出席は原則として授業回数の3分の2以上を必須とする。また、授業内容は学生の理解度に応じて随時調整していく。

科目名	伝統文化研究1　インドから中央アジア・東アジアに至る禅観の展開							
担当者名	山部　能宜							
多元	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

インドにおこった仏教の禅定（禅観）実践は，やがて中央アジア（シルクロード）を経て東アジアに伝えられ，多彩な展開を遂げることとなる．本講義では，そのような実践の諸相を紹介したい．はじめに，インド仏教に対する導入的な説明を行い，その後禅観実践のさまざまな側面を考察する．講義の後半では，『観無量寿経』等漢文のみで現存する禅観経典に焦点をあて，それを関係するインド・中国文献，さらには中央アジア（シルクロード）の石窟壁画と比較検討することにより，その成立背景を明らかにすることを試みる．そのような多角的な検討を通じて，シルクロードにおける東西文化交流の一端を明らかにするとともに，学際的な研究手法を身につけることを目指したいと思う．なお，上述の通り最初に導入的講義を行うため，その内容が「仏教概論」と一部重なる部分がある．

授業の到達目標

人文系の研究において，文献資料が重要な位置を占めることはいうまでもないことであるが，それ以外にも，石窟の構造・壁画の内容・現在の僧院に伝わる実践など，さまざまな手掛かりを使って，五世紀前後の中央アジアにおける行者達の実践形態を多角的に解明していきたい．そのための方法論を提示できればと思う．思想系の学生のみならず，美術史等を専攻する学生にも，参考となる授業にしたいと考えている．

成績評価方法

●**試験**　80%　　講義内容を正確に理解した上で，自らの問題意識に基づく考察ができているかどうかをみる．
●**レポート**　0%　　今回は課さない．
●**平常点**　20%　　授業への積極的な参加を評価する．休講した場合の課題も平常点に含める．
●**その他**　0%　　0

科目名	伝統文化研究2　ヨーロッパ史のなかのキリスト教――《西方キリスト教の展開》と《ヨーロッパ史の諸問題》							
担当者名	蝶野　立彦							
多元	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパの伝統的宗教の一つであるキリスト教は、古代から近世にかけてのヨーロッパの歴史との緊密な相関関係のなかで形成と発展を遂げ、ヨーロッパ史の展開に大きな影響を及ぼすとともに、それぞれの時代の歴史状況の影響の下で変容を遂げ、多様な宗派（教派）・運動・思潮を生み出していった。本講義では、主に「古代・中世・近世の西方キリスト教の展開」に焦点

を合わせ、《西ヨーロッパ世界の歴史的変動》と《キリスト教の発展・変容・多様化》との間の相互作用を読み解いてゆくことによって、「西方キリスト教の歴史的変化」のプロセスとその特徴について考察する。

授業の到達目標

「古代・中世・近世の西ヨーロッパ世界のキリスト教文化の特徴」を歴史学的視点から把握するとともに、キリスト教史的な問題設定を通して「古代・中世・近世の西ヨーロッパ史」についての理解を深めることが本授業の目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末レポートによって評価する。
●**平常点**　50%　　出席とリアクションペーパーによって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

各回の講義内容は、受講者の関心に応じて変更することもあります。

講義

科目名	神道概論　日本のカミ信仰の具体相							
担当者名	久野　俊彦							
多元	２単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

神道について、一般には「神道は、太古の昔から連綿と続く、自然発生的な日本固有の民族宗教であり、現在の神社は、古代以来の神道を伝えている場所である」と理解されています。しかし、今私たちが目にする神道や神社は、古代以来のものではなく、仏教・儒教などの影響を受けつつ理論化され、明治初期の神仏分離政策によって、近代の創造ともいえる変容を経て現在に至っています。日本の神（カミ）信仰は、固有・不変なのではなく、歴史的に変容して現在の神道や神社として目の前にあらわれています。

本講義では、まず現在見られる神社や神道の儀礼から考え始め、近代の国家神道についてとらえます。次に日本の神話を理解し、神観念の変遷を古代・中世・近世に概観したうえで、神と仏の関係史を理解します。仏と神は出会って融合し、古代・中世・近世には神仏習合という形態をとって、ホトケが人びとを救済するために、かりにカミの姿なって現れるという本地垂迹説が成立しました。神仏習合の実態を、思想・文学・美術・祭礼などの具体的な事例からとらえていきます。人がカミ・ホトケとしてまつられることもありました。カミ・ホトケになるべき、かりの姿としての人の物語もありました。カミ・ホトケが現れる聖地への信仰として、山岳信仰と他界観（異界や死後の世界）、エコロジーとカミ信仰についても考えます。さらに、年中行事や祭礼を事例として、神を迎えもてなし送る神祭りや、盛大な装飾をほどこして神威を高める神祭りの基本構造を理解します。こうしたさまざまなカミ・ホトケの信仰形態と神仏習合の文化を理解していきます。

授業の到達目標

授業の題目は「神道概論」ですが、神道という語にとらわれずに、日本のカミ観念やカミ信仰、神仏習合の特質と実態を認識し、神道を入り口として、日本の信仰や行事・儀礼について、多面的な考え方を持つことが目標です。

成績評価方法

●**試験**　60%　　記述式の試験を行います。
●**レポート**　30%　　レポートの課題内容と作成要領を授業の中で説明します。
●**平常点**　10%　　授業でのリアクションシートを提出してください。
●**その他**　0%　　ありません。

科目名	日本の伝統文化　日本禅の歴史と文化							
担当者名	西山　美香							
多元	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「ZEN（禅）」は現在、世界で通用する言葉です。
日本人にとっても、禅と関わる思想や文化は、日本の思想・文化として認識されています。
しかし本来、禅は中国で大きく発展した思想・文化であり、憧れの最先端の思想・文化として日本人が輸入したものでした。
つまり中国的な思想・文化が、現在は日本の思想や文化として、日本人にも世界的にも認識されています。
禅文化を手がかりに、日本文化の形成の過程や、日本人の美意識について考えてみたいと思います。

授業の到達目標

日本禅の歴史と文化について基本的な知識を習得する。
日本の思想や文化について考える、方法や論点について習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　期末レポートにより到達度を評価する。
●**平常点**　20%　　質問やコメントなど授業参加の姿勢を評価する。
●**その他**　0%

科目名	チベット文化論　チベット仏教入門							
担当者名	伊藤　康裕							
多元	２単位	秋学期	木曜日	６時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

古くから仏教国として知られるチベットは、8世紀後半に仏教が本格的に受容されてより現在に至るまで、仏教思想がその文化の柱となっています。また、思想的にはインド仏教の伝統を直接的に受け継いで発展しており、チベット仏教を学ぶことにより、仏教の全体像を知ることができます。

本講義では、チベットの文化を理解するための重要な手がかりとして、チベットにおける仏教思想と歴史について、その特色と意義を学ぶことを主眼とします。とくに、チベットでもっとも重要かつ根本的な教義であるとされる中観思想については、哲学的な考察を加えていきたいと思います。

また、チベット仏教を深く理解するためには、インド仏教思想などとの比較考察も必要であるため、チベット以外の仏教思想についても適宜概説します。

教理的思想的側面だけではなく、可能な限り、チベット人の風土や生活・土着の信仰などの文化的側面についても、映像資料を援用しつつ紹介していき、チベット文化に対する関心や問題意識を涵養できるよう講義を進める予定です。

授業の到達目標

チベット仏教における基礎知識をやしない、チベットの文化に対する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　40%　　出席や授業に対する取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科目名	英米演劇の伝統と変容							
担当者名	梅宮　悠							
多元	2単位	夏クォーター	火6時限	金3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

演劇と聞くと、テレビや映画に出演している有名俳優を揃えて大型の劇場で上演されるものから、街中の小さなスペースで演じられるものまで様々な形態があります。それらの差異は一概に質の違いとして片付けることはできず、表現・伝達手法の差としても認識されます。種々の主張を内包しつつも、民衆の娯楽として存在している演劇はどのようにして現状にたどり着いたのでしょうか。本授業では英国演劇に焦点を合わせて、その初期から現代に至るまでの流れをいくつかの作品に触れながら概観します。これにより各時代ごとに特徴的な切り口で演劇というものが作られ、人々の心に訴えかけ、保存されてきたかが明らかになるでしょう。講義の中では翻訳だけに頼らず、原文にも触れ、作家が意図した表象を解析しつつ、より具体的なイメージを持ってもらいます。後世の人がそれらをどのように解釈し、表現したかを確認するために、可能な限り映像資料も駆使していく予定です。

なお、英文が紹介されることが多いですが、必ず解説が加わるので、特に高度な英語力は求められません。また、毎授業ごとに提出を求められるレビューシートには意見、感想、質問を書いてもらい、それも成績の一環とさせてもらいます。優れたコメントや返答の必要を感じたものは次回の講義に匿名で触れていきます。

授業の到達目標

演劇史として作家名や作品名、それらの概略を覚えるのではなく、全体的な流れの中での作品同士の関連性や各時代における位置づけの理解を目指します。

成績評価方法

平常点評価 100%（出席 20% / コメントシート 80%）

科目名	アジア・日本文化概論1　中国の神々とその信仰							
担当者名	廣瀬　直記							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

昨今、学校や町で中華圏（中国や台湾）からの留学生や旅行客、労働者をたくさん見かけるようになりました。町には新たな中華料理店が次々にオープンしていますし、日常生活のなかで中国語を耳にすることも多くなったのではないでしょうか。これらはいずれも私たちの目につきやすいものですが、実際には知らず知らずのうちにいろいろなものが日本に入ってきています。あるいは、これから入ってくるかもしれません。

そして、そのようなものの一つに宗教、信仰があります。中国から日本に伝わった宗教といえば、まずは仏教が思い浮かぶかもしれませんが、それ以外にも媽祖信仰や関帝信仰などの民間信仰、道教あるいは新宗教など、今も昔もさまざまなものが日本に入ってきています。この授業では、現代日本において見られる中国関係の宗教施設や宗教遺跡を取り上げ、そこでまつられている神々やその信仰、歴史および日本における展開などについて説明してゆきたいと思います。写真と動画による紹介が多くなると思いますが、授業時間内の校外学習も予定しています。

授業の到達目標

中国の神々や信仰について興味をもち、それらを通して中華圏の文化について新たな理解を得てもらいたいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行ないません。
●**レポート**　70%　　2000字程度のレポートを課す予定です。
●**平常点**　30%　　毎回、出席カードの裏に質問を書いてもらい、それをもとに平常点をつけます。
●**その他**　0%　　ありません。

科目名	アジア・日本文化概論2　前近代の日本文化							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現在に至る日本文化の基底はいかにして形成されてきたのか。古代から近世まで、前近代における日本文化の諸相を概観する。

言語、思想、宗教、文学、芸術など、各方面における事象を通時的に見ていくとともに、それら相互の関連性にも目を配りながら、分野横断的、総合的に日本文化のありようを捉えていく。また、中国など、日本以外の地域との文化交流、影響関係も視

野に入れつつ、日本文化の特質について見ていく。
なお授業では、歴史史料や文学作品などの文献資料や、美術品、遺物などを幅広く扱い紹介していきたい。

授業の到達目標

前近代における日本文化についての理解を深める。また、さまざまな資料や文物に触れ、それらに内包されている文化遺産としての意義を多角的に読み取っていくことができるようにする。

成績評価方法

●**試験** 50%　理解度の確認
●**レポート** 0%　行わない
●**平常点** 50%　授業への参加状況
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

※2012年度からこの科目は名称を変更しています。2011年度まで「日本文化概論1」において単位取得をしている場合、この科目を履修できません。

講義

科目名	アジア・日本文化研究1							
担当者名	ティネッロ　マルコ							
多元	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本授業では、近世から近代初期にかけての日本と東アジアの国々との外交的・文化的な関係について考察するとともに、近代アジア史の大きな転換点にあったアヘン戦争、日本の開国、明治維新や、「琉球処分」といった大きな出来事を国際的・グローバルな観点で捉えなおし、アジア及び日本文化の新しい側面を認識する。

授業の到達目標

日本・アジアの文化・歴史について基礎的な知識を身に付ける
日本・アジアの歴史を国際的・グローバルな視点から考察し、説明することができる

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 80%　学期末にレポートを提出してもらいます。
●**平常点** 20%　授業の出席状況。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

初回に、受講に際しての諸注意を行います。また、レポート提出方法などについて指示するので、必ず視聴してください。

科目名	アジア・日本文化研究2　多元帝国としての清朝							
担当者名	柳澤　明							
多元	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国東北（満洲）の一隅を占める小集団であった満洲（Manju）人は、16世紀末から勢力を拡大し、中国内地（旧明朝の領域）に加えて、モンゴルや東トルキスタン（新疆）なども統合し、世界有数の大帝国―清朝を作り上げた。現代中国の原型となったこの帝国においては、多様な文化をもつ諸地域・諸民族が相互に影響しあい、微妙なバランスを保っていたが、そこには同時に、後の帝国解体につながる矛盾もひそんでいた。そこで、特に「言語」と「宗教」をキーワードとして、同時代に世界の他地域に存在したいくつかの「帝国」との比較も視野に入れながら、多元帝国としての清朝の実像を探る。
本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

歴史上の多元帝国である清朝の成り立ち・構造に対する検討を通じて、中国をはじめとする現代の多民族国家が抱える諸問題の淵源を理解する手がかりを得る。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない。
●**レポート** 70%　授業内容に関連するレポートを期末に課す。テーマ設定、先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点** 30%　授業への参加度による。
●**その他** 0%　特になし

備考・関連URL

授業内容の理解を助けるため、画像資料などもできるだけ利用して、わかりやすく進めていきたいと考えています。

科目名	アジアの思想的基盤　老荘思想の世界観と倫理							
担当者名	森　由利亜							
多元	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この授業では、老荘思想の内容を紹介しながら、それが中国思想史の中で果たした役割を考えます。近代以前に発達した中国の世界観・宇宙観・倫理観を考える上で、老荘思想への理解は不可欠です。とりわけ老荘思想のなかで結実した「自然」という視点は、古代中国の思想界に根本的な転換をもたらしました。「自然」とは、この世界のいきとしいけるものには、その本来のありようがそなわっているとする世界観です。また、この世界観からは、人や社会のいとなみにおける幸福は、その本来的ありようを保つことで保証されるという価値観が生じます。これは後世の儒家の世界観にも重大な影響を与え、気の思想や陰陽五行の宇宙観が成立するための土台を提供した思想です。さらに、仏教の世界観を中国の文明が摂取する上での下地となった観点で

あるともいえます。後世の道教における世界観・倫理観の基礎を築いた思想でもあります。さらに、中国の影響を受けた諸々のアジアの諸思想・諸文化を理解する上で、老荘思想を理解することは非常に重要な基礎となるでしょう。

授業の到達目標

中国の思想のありように興味をもち、またアジアや中国における独自の世界観の魅力を感じていただくことがこの授業の目標です。

成績評価方法

●**試験** 0%　行わない
●**レポート** 90%　少なくとも学期中に1回レポートを課します。『老子』の思想、『荘子』の思想についてテーマを出題し、それについて3000字程度で執筆していただきます。ただし、状況（受講生の人数等）により細かい条件は変更します。
●**平常点** 10%　大学の規則により、全体の3分の2以上の出席が必要です。その要件を満たさなければ、評価対象とはしませんのでご注意ください。出席条件を満たした上で、毎回の授業で配布するレビューシートの内容を成績評価においては勘案します。
●**その他** 0%　0

科目名	内陸アジア史							
担当者名	鈴木　仁麗							
多元	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

内陸アジアは、中央ユーラシア、中央アジアとも呼べる地域で、その自然生態や居住民族、宗教、文化が複雑に交差し、遊牧民と定住民が相互に関係を持ちながら歴史を築いてきました。また、ロシアと清朝という東西の帝国による支配を受け、長くその周縁という地位にあったこともこの地域の一つの特徴です。しかし、清朝の崩壊、ソ連解体後の今も、国際社会に、経済、社会、民族、文化などのさまざま問題を提起する存在でありながら、決して主要なプレイヤーとはなっていないように見えます。

本講義は、中華世界と遊牧民社会の歴史的な相互連関を主要な学習テーマとします。内陸アジアの諸地域の内、モンゴル民族が暮らす地域を取り上げ、近代以降に関しては、特に、中国の中にある内モンゴル（内蒙古自治区）の動向に重点を置き、日本との関係にも焦点を当てます。講義を通して、内陸アジアの多様性や現代世界で占める位置について考えます。

授業の到達目標

内陸アジアに関する基礎知識と関連する歴史事実を学び、いわゆる「周縁」から、多角的に歴史を見つめなおす力を養い、それにより、内陸アジアの歴史を現代世界の中で相対化できるようにします。

成績評価方法

●**試験** 70%　講義内容に沿って出題する設問に対して、的確な解答ができるか、理解度を評価します。
●**レポート** 25%　1回は課す予定です。提出がない場合は、評価の対象となりません。
●**平常点** 5%　毎回出席することを求めます。
●**その他** 0%　0

科目名	日本の英語教育　English Education in Japan							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

This course will begin by looking at the historical background to English education in Japan and come up to date through discussions of the demands globalisation requires of Japanese learners and educators. While deepening understandings of the role of English as a language of international communication in the era of globalisation, the classes will consider the linguistic content and teaching approaches suitable for Japanese education. The seminar will also encourage students to reflect on their understandings of English education in Japan.

授業の到達目標

The main aim of the course is to develop an understanding of the linguistic content for primary and secondary level English education in Japan..

成績評価方法

In-class participation, including assignments……50%
Research paper……50%

科目名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化概論1　ジャーナリズムから見るロシアの近代							
担当者名	松本　隆志							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパの周縁に位置するロシアは17世紀末頃から西欧の進んだ社会的・文化的諸制度を取り入れることで近代化をはかってきました。そのように外部から移入された「近代」は当時のロシアの人々にどのように受け取られ、どのようにロシア社会に根付いたのでしょうか。

この授業では18世紀から帝政末期（20世紀初頭）までのロシアの定期刊行物（新聞・雑誌）の歴史を概観し、その中で繰り広げられる時事的な言説やそれと関連する文化史的事象を取り上げて、ロシアという外側の視点から「西欧近代」の諸制度を考察していきます。

授業の到達目標

ロシアの近代化の流れを知り、西欧近代的な価値観を同時代の文脈で理解すること。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート**　70%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　30%　　出席状況および毎回のレビューシートの内容から総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進度や取り上げるトピックは受講生の習熟度および関心に応じて変更する可能性があります。

科 目 名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化概論2　映画『戦争と平和』から見るヨーロッパの近代							
担当者名	源　貴志							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現在のEUの統合・拡大・動揺の状況を視野に、現代ヨーロッパの枠組みの根底をなす近代国家の成立の問題を、歴史・思想・文化の観点から再確認するため、とくに18世紀末から19世紀前半のヨーロッパ（ならびに日本）の近代国家の成立、とくに近代の「国語」や「文学」の成立の構図を検討する。

具体的には《ナポレオン戦争》に焦点をあてる。その歴史的・思想的な背景はもちろん、ヨーロッパ各地域の、その前後の時代における「国民のことば」や「小説（国民の文学）の時代」の成立を、「《ナポレオン戦争》をめぐる事件」としてとらえ、いわゆる近代国家、近代国語、近代文学の成立の過程を政治・経済から衛生学まで、さまざまな観点から追う。また、その延長の問題として、日本の明治期におけるナポレオン崇拝から、東アジアにおける近代国語、近代文学の成立の問題についても触れたい。

なお、講義の手がかりとして、トルストイの長篇小説の映画化超大作、『戦争と平和』（1965-1967年モスフィルム制作作品）にコメントを加えながら鑑賞する。

授業の到達目標

暗記的な「世界史」の知識・理解を脱して、歴史・文学・思想の問題を「人間」の問題として、履修者が個性的かつ柔軟な発想でとらえることができる援けとなることを目標とする。

成績評価方法

レポート：95%　講義の内容を参考に各自考察したところをレポートにまとめてもらい（2000字以上。CourseN@viによる提出を予定）、出席状況を勘案して、総合的に評価します。
平常点評価：5%

科 目 名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究1　中東の社会・文化からヨーロッパ・地中海・イスラームを眺める							
担当者名	安田　慎							
多元	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義は、中東・イスラームを本格的に学ぼうとする学生を対象とする。そのための基本的な知識を得るとともに、中東という「地域」の「社会・文化」という観点から、ヨーロッパ・地中海・イスラームの特性を描き出そうというものである。中東の事例研究を学ぶことを通じて、社会・文化から地域の歴史・現代を描き出す魅力について、受講者とともに考えていきたい。

授業の到達目標

1. 中東の事例から、ヨーロッパ・地中海・イスラームについて説明することができる。
2. 社会史・文化史、社会研究・文化研究の基本的な概念や項目（研究史）を押さえることができる。
3. 社会史・文化史、社会研究・文化研究を調べる際の基本的な作法について、説明することができる。
4. 社会史・文化史、社会研究・文化研究の観点から、自分の興味関心のある事例についてまとめることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　「ヨーロッパ・地中海・イスラームを社会史・文化史（もしくは社会研究・文化研究）の立場から、受講者の興味関心のあるテーマを設定したうえで、調べてきた内容をまとめよ」（4000字）
●**平常点**　60%　　講義毎の小レポート課題（A4で1枚程度）
●**その他**　0%

備考・関連URL

・希望者がいる場合、東京都内のヨーロッパ・地中海・中東に関連する場所（宗教・文化施設、料理店）への半日から1日のツアーを実施する。なお、ツアーの費用については参加者の負担となる。詳細は講義内で案内する。

科 目 名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究2　「ヨーロッパ」世界の形成を歴史的に把握する							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパ諸国は現在、17世紀以来慣れ親しんできた国家システムから脱皮して、グローバル化時代に対応した新しい形態の国家へと変貌しようとしている。EUという超国家システムの出現は、まさに、そうしたヨーロッパ人の歴史的挑戦を端的に表している。ではなぜ、ヨーロッパ世界は従来の国家の枠組みを超える動きを展開しているのか。その理由はなにか。この講義はヨーロッパ世界の形成と発展を2期にわけて分析し、ヨーロッパ世界が背負い続けている歴史的課題を明らかにする。

授業の到達目標

この講義は、ヨーロッパの歴史的形成と発展を全2期（第1期＝「第一のヨーロッパ」（中世）、第2期＝「第2のヨーロッパ」（近世・近代）にわけて分析するが、その際に導きの糸となるのが「政体」のありようと「統治の技法」である。なかでも、ヨーロッパが生み出した2つの政体、「世襲王政」と「選挙王政」を軸に、ヨーロッパ諸国の統治の技法と特質、その問題点を把握できるようになることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　正確かつ論理的な試験答案を作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　60%　　30%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。 30%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	**東欧世界とその歴史**　現代ヨーロッパのナショナリズムの根源を探る―東欧を事例に―							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

なぜ近現代のヨーロッパの人びとは、国民や民族、あるいは国家のために命を賭してまで戦えたのだろうか。ナショナリズムの根源を探求し、これを正確に把握できるようになるための授業構成とする。授業は時系列に沿って歴史学的方法のもとに行うが、歴史補助学としてのナショナリズム・スタディーズ（近代論系構築主義、社会構成主義、原初論系本質主義、エスノ象徴主義）の諸学説の基礎もその都度学ぶ。上記の諸学説は、特に文化構想学部の学生にとっては必ず習得してほしい基本的知見である。なお、理解の一助のために、文献史料のほか画像資料、民俗資料、映像資料も活用し、パワーポイントを使用した授業を行う。

授業の到達目標

現代のヨーロッパの国々は根深い問題を抱えている。近年では、イギリスのEU離脱問題、シリア難民受入問題、パリやブリュッセルでのテロがその典型例である。こうした問題の背後には、言語、宗教、移民、ネオナチなどと複雑に絡み合ったナショナリズムが存在する。相対的に安定した社会秩序を作り上げてきたと言われるヨーロッパで、なぜ今、こうした問題が起こるのだろうか。東欧における「国民（ネイション）」の内実の変化を切り口に、近現代ヨーロッパの重層的なナショナリズムの根源を把握できるようになること、そして、日本を含む現代世界のナショナリズムを理解する際に、以上の知見を（その限界も踏まえて）比較史的に応用できるようになること、これら2つを本講義の到達目標とする。そのため、毎回の予習・復習も必須とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　正確かつ論理的な試験答案を作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　60%　　30%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。 30%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	**現代中欧世界とその歴史**　ウィーン：都市のモダニズムとポストヒストリー							
担当者名	森　元孝							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	3年以上	オープン科目	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

都市と人間、生活、文化という大きく抽象的な問題を素材にして、欧米においても、また日本においても、美しいとして好きになる代表的な都市「ウィーン」について講じていく。とりわけ19世紀後半の近代都市設計とその実践、またそれに深くかかわる思想とイデオロギーを取り出しながら、また毎回、私のオリジナルの写真類を多数示しながら、そもそも「都市」とは何かということを、過去、現在、そして未来に向けて考えていく。

早稲田大学のある東京と、根本的な点で何が異なるのか、また何が同じかということを考えつつ、都市についての理論的な思考のための材料を提供していくので、皆さんが知る東京、新宿、早稲田、所沢を思いながら、これからの都市と人間、都市と生活、そして文化ということを考えて、皆さんのオリジナルな意見提示の糸口となってくれれば幸いである。

授業の到達目標

たくさんの画像を提供する授業であるが、受動的鑑賞にならないように、適宜、課題に応えてもらいつつ、諸問題を現在に結びつけて考えていく能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　.

●**レポート**　25%　　最終課題レポートの内容。

●**平常点**　75%　　講義進行中に提出していただく小レポートの内容。

●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

※ご迷惑をおかけしますが、この科目はカリキュラム改良のため名称を2度変更しています。2011年度まで「ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究2」において単位取得をしている場合、2012年度「中欧世界とその歴史」において単位を取得している場合、この科目を履修できません。

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

科 目 名	**地中海文化概論**　古代ローマの文化							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

イタリア半島の一都市国家ローマは、その領土を地中海周辺域へ拡大すると共に、その文化も各地に広げていった。ローマ領となった地域では、ローマ文化と在地の伝統的な文化が融合し、新たな文化が生み出され、続く時代に継承されていった。本講

義では、ローマ文化とそれが生み出した諸文化の様相を見ていきたい。 本講義は「ディプロマポリシー」の「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成する」という目的に沿ったものである。

授業の到達目標

古代ローマの文化についての知見を深めるだけではなく、ヨーロッパの文化や歴史をより深く理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験** 60%　試験（持ち込み不可）によって評価する。
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 40%　リアクションペーパーの内容によって評価する。
●**その他** 0%　0

科 目 名	イスラーム文化世界							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

現代の中東地域やイスラーム教徒の国家、社会、文化について考察する。初級レベルの授業であり、基礎的な内容から説明する。可能な範囲内で、モノや視聴覚教材を使用する。

授業の到達目標

中東やイスラーム教徒についての理解を深める。各テーマについて調査する場合の基礎的な方法に触れる。

成績評価方法

●**試験** 100%　最終回の試験により評価する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%
●**その他** 0%　0

科 目 名	近代外交史　プロイセン・ドイツの外交政策とその伝統（1701～1914）							
担当者名	飯田　洋介							
多元	2単位	夏季集中	無	その他	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパの中央部に位置するドイツでは、自国の外交路線における歴史的「伝統」の意識が強い。それは地政学的な理由もあれば、とりわけ20世紀にドイツが辿った歴史的経緯の故であることは言を俟たないのだが、ここでいうドイツ外交の歴史的「伝統」とは具体的には一体どのようなものなのだろうか？ それはドイツ帝国を創建したビスマルクの外交路線に求められるのだろうか、それともっと以前に遡ることができるのだろうか？ 本講義ではこのような問題意識の下、王国が成立してから第一次世界大戦が勃発するまでのプロイセン・ドイツの外交政策を「伝統」という視角から概観する。

授業の到達目標

本講義を通じて西洋史の知識・教養を身につけてもらうとともに、プロイセンやドイツに対する理解を深めてもらいたいと思います。

成績評価方法

●**試験** 60%　論述形式の試験を行います。詳細は授業時に説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　授業終了時に毎回コメントシートを提出してもらいます。
●**その他** 0%

備考・関連URL

講義予定日・時限：
8月19日（月） 3～5時限
20日（火） 3～5時限
21日（水） 3～5時限
22日（木） 3～5時限
23日（金） 3～5時限

科 目 名	英語圏文化概論1							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

Learning a language is a very complex phenomenon, one has to move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently English is not viewed as something imposed from the outside, but as something belonging to, and becoming an intrinsic part of the national culture. People are encouraged to express matters that are important to their lives, and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints and personal interests by taking ownership of English and using it as a meaningful interchange with people of other countries, and to relate what it means to be a member of their specific societies and cultures in a positive way to others in the world community. Students will be able to understand how English varieties according to social context, including class, gender, and culture.

授業の到達目標

Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are

inevitably reflected in their speech. Language can be studied as a social phenomenon. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs a useful function in the multilingual society. People are not forced to master English at all costs. There are people who adopt English and use it alongside their own culture, and combine it with. In this class we will look at how English varies around the world as well as at issues that affect language usage such as age, gender, and class. Difference among countries as well as within countries will be considered. Additional topics will include the treatment bilingualism in English-speaking world and language standards.

成績評価方法

Group presentation……30%
In-class writing……20%
Long paper……40%
Portfolio, home work, participation……10%

科 目 名	英語圏文化概論2　Britain in the 21st century... through the eyes of popular culture							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

England is widely considered to be at the heart of the English-speaking world. To the outside world, England is often seen as society and culture based in tradition, but England, and Britain, are societies that are rapidly changing. This course looks at some of the major changes that are taking place in that society, the language, the people, and their cultural values. Using the lens of popular culture, the course will not only discuss changes in British society, it will also explore some of ways in which British people's understandings of themselves are changing.

授業の到達目標

At the end of the course, students should be able to:
1) Understand some of major changes taking place in British society and culture today
2) Understand the diverse cultural groups that make up modern British society
3) Understand how the changes occurring in Britain connect to the wider English-speaking world

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examinations
●**レポート**　70%　　Final report written in English and including citations and references where needed.
●**平常点**　30%　　Active attention and participation
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

科 目 名	英語圏文化研究1　20世紀イギリス大衆文化の隆盛							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春クォーター	水1時限	無その他	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今でこそ文化とは、博物館や美術館にある過去の遺産や芸術鑑賞といったいわゆる高級文化のほかに、大衆文化、若者文化、サブ・カルチャーなど、わたしたちの身のまわりにあるあらゆる次元のあらゆる現象をあらわすようになったが、20世紀初頭までのイギリスでは、限られた人たちが、それまでに培われてきた高尚な伝統を継承、追求することが「カルチャー」であり、教養であった。しかし、第二次世界大戦を経ると国内における経済的荒廃と大英帝国の崩壊という事実が人々の喪失感を増長し、また地球規模におよぶマス・メディアの浸透によって、既成の価値概念が疑問視されはじめ、それまでほとんど「カルチャー」としてとらえられることのなかった「大衆(mass)」による新しい文化形態が広く許容され、生産・消費されるようになる。上流・中流階級ならずとも、労働者にだって社交のためのコミュニティー(共同体)が存在し、日々の労働が終われば、パブ(酒場)に出かけてダーツを楽しむ。現代の若者がフットボールに熱中したり、それが乗じてフーリガンに走ったり、はたまたロックンロールやポップスに夢中になるのもみな、さまざまなレベルの文化の一面を語っているのである。この講義では、第二次世界大戦後、大衆による文化がイギリス国内にどのように興隆したのかを文化史的側面から概観し、それが当時の政治・社会状況とどのように関連し、どのような役割を果たしたのか、大衆文化論的観点から考察する。

本講義は教場授業とオンデマンド授業を併用した授業となる。教場の導入のあと、戦前の大衆文化の嚆矢をおさえ、大衆文化(mass/popularculture)を考える上での理論的支柱を「ジェンダー」、「階級」、「帝国・人種・エスニシティ」、「メディアとオーディエンス」、「ネイション」というテーマごとに、オンデマンド講義によって理解する。一方の教場授業では、大体10年ごとに20世紀後半期を区切り、それぞれの時代の特性を当時の歴史的事象と併せて概観してゆく。その際に注目される政治・社会的事象のおもなものは「冷戦」、「(ニュー)メディア」、「グローバリズム」、脱植民地化、イギリス国内の多文化化であり、文化的事象としては大衆映画、テレビの普及、ビートルズ旋風、パンクファッション、モンティー・パイソン、ブリットポップといった諸ブームの検証を予定している。オンデマンド授業で扱うテーマと教場で行う各時代の特性が必ずしも合致するわけではないが、教場授業の各回で、関連する事象を紹介していく。

授業の到達目標

・20世紀後半のイギリスの文化状況をとらえる。
・「文化」のはらむ政治性・イデオロギー性について考える。

成績評価方法

教場授業への出席、オンデマンド授業の受講と小テスト、学期末課題（筆記試験を予定）から総合的に評価する。

備考・関連URL

★可能であれば、春学期火曜日2時限開講の多元文化論系演習「イギリス文化史」（セメスター科目）、秋学期水曜日1時限開講の多元文化論系演習「思想の文化史」（セメスター科目）もあわせて履修すると、理解がさらに深まるであろう。Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

科目名	英語圏文化研究2　オーストラリアの演劇							
担当者名	澤田　敬司							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

オーストラリアの代表的な演劇作品を通して、オーストラリアの社会・文化・歴史について学ぶ。

英米演劇と違い、オーストラリア演劇は短い歴史しか持っていない。しかし、自己表現の手段として「演劇」というメディアを持っていなかった人々に、そのメディアが与えられたときに生じる新しさこそが、オーストラリア演劇の魅力である。そしてその中には、オーストラリアの先住民も含まれる。

授業では、この20年あまりで上演された演劇作品の中から代表的な舞台を選び、戯曲を読んで鑑賞し、社会的、文化的、歴史的背景について考える。

授業の到達目標

オーストラリア社会における多様で複雑な文化の形を理解する。

ナショナリズムや脱植民地主義など、日本と共通する問題について理解を深める。

現代の舞台メディアが、社会をどのようにとらえ何を伝えようとしているのかを考える。

成績評価方法

●**試験**　70%　　記述式の試験を行い、授業内容の正しい理解に加えて、そこから自身の思考を発展させた答案を高く評価する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　毎回のリアクションペーパーと授業への参加度を評価する。
●**その他**　0%　　0

科目名	アメリカ音楽の世界							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	春クォーター	火6時限	金3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

In this course, students will learn about the history of American popular music, starting from the late 19th century to the end of the 20thcentury. We will cover the various musical styles that have developed in the United States, including jazz, Tin Pan Alley, the blues, R&B, rock, soul, and hip hop. (The framework of the course is based on the textbook American Popular Music: From Minstrelsy to MP3s by Larry Starr and Christopher Waterman.) The course will be conducted entirely in English. Please note that this is neither an ethnomusicology nor a musicology course, but more like cultural history and popular culture studies. It provides an overview of American popular music and an opportunity to think about its historical and social context.

授業の到達目標

Students will become familiar with the various forms of American popular music. Students will also have the opportunity to develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

Two exams 60%
Presentation 30%
Participation/In-class activities 10%

科目名	変貌する英語圏世界　イギリス帝国の遺したもの							
担当者名	武藤　浩史							
多元	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近現代史におけるイギリス帝国の盛衰は、世界の多くの地域に英語圏の社会・文化を残した。その主たる地域の歴史と現在を、文学・映画などの芸術メディアを効果的に用いながら、概観してみたい。ここで考察の対象となる地域は、アイルランド、カナダ、オーストラリア、インド、南アフリカ、シンガポールなどである。近現代史の大きな流れとそれぞれの地域の現在がどのように関係し、どのように関係していないかを明らかにしてゆきたい。

授業の到達目標

長くイギリスが主導権を握った近現代の世界史の中で、どのように世界各地に英語圏社会・文化が生まれ、それらがその後どのように発展してどのような現在に至っているかを履修者に理解させることを本講義の目標とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回に小テストを実施し、理解度を確認します。
●**レポート**　40%　　期末レポートを課します。第11回授業で配布予定のリーディングリストの中から書籍・映画を一つ選び、それについて論じていただきます。
●**平常点**　20%　　出席・授業内発言・発表・受講態度など
●**その他**　0%

科 目 名	現代イギリス社会におけるスポーツ文化							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Sport is central to modern life, influencing everything from national identity to daily conversation. A full understanding of any contemporary society must include a discussion of the role of sport in that society. This course explores the development of sporting culture in Britain, which is of particular interest since so many of the world's major sports originated in Britain. Through a consideration of the development of sporting culture in Britain, this course will deepen students' understanding of twenty-first century British society, its values, customs and practices.

授業の到達目標

At the end of this course, students should be able to:
1) Understand the connections between sport, society and cultural values
2) Understand the development of major sports in Britain
3) Understand some of the major issues concerning sport in Britain in the 21st century

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　80%　　Final report written in English, including citations and references.
●**平常点**　20%　　Active attention and participation
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

科 目 名	多元文化特論2　軍記物語の生成と展開							
担当者名	滝澤　みか							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

高校の国語の授業で『平家物語』に触れたことがあるという人は多いかと思いますが、これら「軍記物語」に分類される作品は、どのように歴史上起きたいくさを消化し、時代ごとの変遷を経て、現代の私たちの前に今なお残ってきたのでしょうか。

軍記物語は、史実からの改変や他作品からの影響による改変、その時々の社会状況による改変など、様々な変化を伴いながら生成され、人々に読まれていくことになります。あるいは芸能や御伽草子、説話集など、他の文学作品等に軍記物語が影響を与えた例も多くあります。本講義では、『保元物語』、『平治物語』、『平家物語』、『承久記』という、鎌倉前期に成立した四つの軍記物語に焦点を当て、これらがどのように成立したのか、そしてその後どのように展開していったのか、周辺の作品にも触れながら作品を読んでいくことで、現代の私たちが軍記物語と向き合う意味を考えていきたいと思います。

授業の到達目標

各作品の内容と変化を、文学と歴史・教育・美術との関わり、あるいは文学と社会との影響関係などと共に理解することで、多角的に物事を捉える視座を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　0
●**レポート**　70%　　学期末のレポートの評価。
●**平常点**　30%　　授業への出席状況。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	多元文化特論3　「色即是空」の世界―大乗仏教「空」思想の形成と展開―							
担当者名	佐藤　晃							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「色即是空　空即是色」という一節、またこれが示される『般若心経』という仏教の経典名を耳にしたことのある人も多いでしょう。実に、ここに示される「空」は、インドで誕生した大乗仏教の代表的な思想の1つと言えます。

大乗仏教の「空」思想は、1世紀頃から登場したとされる般若経典の中に現れ、その理論化は2世紀頃のナーガールジュナによってなされます。その後インドでは、彼の主著『中論』を拠り所とする「中観派」という学派が形成され、「空」とは如何なる概念か、それを悟るにはどうすべきか（認識論、修行論、救済論）、また他者に語る方法はどうあるべきか（論理学、論争術）等の点が議論されました。さらに「空」思想は、中国、チベット、そして、日本等の周辺諸国・諸地域へも伝播し、インドとは異なる特徴的な思想的展開を見せるに至ります。本講義では、インド大乗仏教における「空」思想の形成及び展開を、中観派思想史に則して理解することを目指します。また、中国、日本、チベットといった周辺の諸国・諸地域の議論にも触れていきたいと思います。

授業の到達目標

インド大乗仏教の根本的な思想である「空」思想を理解し、その展開を思想史的に理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　20%　　出席（原則として3分の2以上）、毎回のレビューシートを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

講義は予備知識を前提とせず進めますので、仏教、東洋思想、宗教などの分野に関心のある学生のみならず、専門外の学生の受講も広く歓迎します。

科目名	多元文化特論4　芸術文化史（バレエの発祥から現代のダンスまでの変遷）							
担当者名	柳下　恵美							
多元	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

舞踊はその時々の文化、社会によって形作られ、時には相互に影響し合うことがあります。ダンサーが自身の舞踊を披露する場合、通常その舞踊に見合った空間と伴奏が必要となり、美術、音楽、詩、演劇、文学、歴史等の理解が重要な要素となります。これらを踏まえ、芸術文化史は舞踊（バレエとダンス）に主眼を置き、

・舞踊以外の芸術（美術、音楽、詩、演劇等）や文学、歴史に興味を持っている学生
・舞踊について知識がないが興味がある学生
・舞踊についてもっと専門的に知りたい学生

いずれをも対象に、幅広く門戸を開きます。

この授業は、16世紀に発祥した舞踊（バレエ）から現代のダンスに至るまでどのような経緯があったのかについて、其々の時代の代表的ダンサーを注視しつつ、舞踊のスタイルと特徴、身体のムーブメントの進化、文化、社会、歴史的背景についても講義します。さらに、教員自身のバレエ・ダンス経験も交え、国内外で鑑賞した作品やダンサーについても触れます。

授業では、関連文献や資料（写真、絵画、雑誌、舞踊の映像ほか関連するあらゆる資料）を用い、パワーポイントを使用して解説します。

授業の到達目標

・舞踊（バレエ、ダンス）の基本的知識の習得
・其々の時代に活躍したダンサーの舞踊スタイルと特徴、身体のムーヴメントの進化への理解
・舞踊の変遷に応じた文化、社会的、歴史的背景ついての理解

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　30%　　授業で取り上げたテーマに関する自分なりの考え・意見を提出
●**平常点**　70%　　出席、リアクションペーパーなど
●**その他**　0%　　特になし

科目名	日本史・世界史再発見　「あっ」と驚く、歴史の世界にようこそ！							
担当者名	渡辺　愛子　他/井上　文則/小田島　恒志/河野　貴美子/佐藤　尚平/高井　詩穂/高屋　亜希/中澤　達哉/ホサイン　タニア/森　由利亜/八木　君人/由尾　瞳/吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この講義は、文化構想学部多元文化論系専任教員が中心となって行うオムニバス形式の授業です。「日本史・世界史再発見」と題し、斬新な視点から、さまざまな論点を提供して、学生とともに深く考えます。

私たちは、教科書やマスコミなどから得られる知識によって、何となく持っている「常識」を共有しています。この講義では、その「常識」が、時として歴史的な事実とかけ離れている場合もあることを示しながら、学問の深さについて再発見する契機となることを目指します。

一回完結のオムニバス形式の授業になりますが、各教員によるさまざまな切り口を楽しんでください。具体的な内容と、担当者は以下の通りです。日程は「シラバス」に記載されていますが、諸事情による変更もあり得ますので、メール配信を通じての連絡に注意してください。

講義題目は以下の通りです。

渡辺愛子「'Horrible Histories'—BBC子供番組に見るもうひとつのイギリス史—」／吉原　浩人「飛翔する達摩と聖徳太子—南岳衡山転生譚を読む—」／高井詩穂「『悪所』の歴史」／小田島恒志「現代英米戯曲の翻訳作業で気が付く歴史」／タニア・ホサイン「国際言語としての英語の歴史」／佐藤尚平「『中東』という地理区分の歴史」／中澤達哉「日本と似ていたヨーロッパ？—『長い16世紀』の日欧資本主義革命論—」／井上文則「カエサルの『ガリア戦記』を読む」／由尾瞳「The Birth of the New Woman: The Women's Rights Movement in the U.S. and Japan （「新しい女」の誕生：日本とアメリカにおける女権運動の歴史」）／河野貴美子「『源氏物語』を通してみる東アジア文化交流」／八木君人「ロシア革命を表象する」／高屋亜希「纏足をほどいた女たち」／森由利亜「中国史の中の道教」。

授業の到達目標

日本史・世界史について、さまざまな方面・角度から知識を得て、学問の方法について、ともに深く考えることを目標とします。

成績評価方法

レポート80%：期末にレポートを提出してもらいます。詳細は、オンデマンド授業において指示します。
出席20%：三分の二以上出席しないと、単位を授与することはできません。

備考・関連URL

初回に、受講に際しての諸注意を行います。また、学期の半ば以降に公開するオンデマンド授業において、レポート提出方法などについて指示するので、必ず視聴してください。また、一斉メールを送ることもありますので、注意してください。

授業について質問がある場合は、＜多元文化論系室＞に常駐する助手に、遠慮なく問い合わせてください。

科 目 名	仏教文化の世界―インド・チベットを中心に― インド・チベットを中心に							
担当者名	佐藤　晃							
多元	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

紀元前5世紀頃にインドで誕生した仏教は、インドのみならず、アジア諸地域へと伝播し、長い歴史の中で各地域固有の仏教文化を生み出してきました。またそれらは日本を含む多くの地域で現在も生き続け、さらなる変化を続けています。本講義では、地域をインドとチベットに限定し、仏教のインドでの興起からチベットへの伝播・その後の展開を歴史的に辿りつつ、それらの地域で展開した仏教文化の多様な側面の理解を目指します。

仏教文化と言うと建築や美術を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、それらを十分に理解するためには、その基盤となる思想や思考方法を理解しておく必要があります。そこで講義全体を、思想史的観点から①原始仏教・②部派仏教・③大乗仏教・④密教（1）・⑤チベット前伝期・⑥チベット後伝期（＝密教（2））の6つに区分します。各回では、まず代表的で比較的理解し易い思想を取り上げ解説します。その上で、文学的作品（仏伝や本生譚）、僧団生活、戒律、瞑想方法、マンダラ、建築等の関連する文化的諸事象を取り上げていきます。仏教は、思想、文学、芸術、建築、身体論等、多様な文化的側面を持つ、いわば文化の複合体であり、また文化的運動と言えるかもしれません。様々な関心を持つ学生の受講を歓迎します。

授業の到達目標

インド及びチベットの多様な仏教文化を多角的に理解することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　20%　　出席（原則として3分の2以上）、毎回のレビューシートを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	仏教伝播のダイナミズム							
担当者名	佐藤　晃							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

インドで誕生した仏教思想は、その後、長い歴史の中でアジア諸地域へと伝播していきました。本講義では、特にインド、中国、チベットという地域に限定して、そこで展開される仏教思想の伝播・継承・変容について考えていきたいと思います。

仏教思想の中国初伝は後漢期（1世紀半ば）とも言われますが、中国では時代また地域、また王朝によってその伝播・受容の在り方に特徴が見られます。仏教典籍の翻訳、宗派の形成史等の観点から概観していきます。さらに、チベットへの仏教伝播にも目を向けます。チベットへの仏教初伝は6世紀頃、本格的な受容は8世紀後半とされます。そこで注目される点として、そのチベット仏教初期にインドのみならず中国からも仏教が伝播された点、チベットでの宗派形成に中国仏教の影響が見られる点、さらにチベットで成立した宗派・思想が元朝や清朝といった王朝に伝播し独特の仏教文化を展開させた点等が挙げられます。仏教思想の伝播には、時代・地域に応じた多様且つ複雑な文化的事象の展開が付随します。この講義でそのすべてを扱うことは難しいですが、可能な限り多くの事例を紹介したいと思います。

授業の到達目標

インド・中国・チベットで展開した仏教伝播の諸相を多角的に理解することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　20%　　出席（原則として3分の2以上）、毎回のレビューシートを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	比較文学入門 「比較文学」の中の「伝統」と「革新」							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

「比較文学」に対する考えは多様で、様々な「比較文学」が存在するが、時代、地域による差異や共通性が注目されるのは共通していると言えよう。「比較文学」の考え方を、まず教科書的に整理し、その上で、具体例として、小説，悲劇，喜劇，冒険物語，怪奇小説，SF小説，ピカレス小説，寓話，童話，を取り上げ、共通のモティーフと影響関係、顕著な差異と独自性に注目しながら、「文学」を楽しんで、その背景にある「文化」を考える授業にしたい。「放浪（漂流）→冒険→帰還」を骨子とする「冒険物語」の要素を持つ『オデュッセイア』や、その影響を受けたり、独自に展開した諸作品、絵画、彫刻、音楽、映像について考えていく。最終的には「比較文学」的視点から，西欧文学，日本文学におけるギリシア・ローマ文学の影響を整理，考察する.

授業の到達目標

諸作品を「比較文学」の視点から考察することにより、それぞれの背景にあるギリシャ・ローマ文化についての知見を深める.

成績評価方法

●**試験**　40%　　「理解度の確認」：教場で、知識の確認をし、それぞれの見解を述べてもらう試験を行います。
●**レポート**　0%　　教場試験と平常点で評価します
●**平常点**　60%　　毎回、授業内容の要約とそれぞれの見解を提出してもらい、それを平常点として評価します。授業で述べられなかった知見を書いてくれた場合は、高く評価したいと思います。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	神話の世界　古代ギリシャの神話と宗教							
担当者名	兼利　琢也							
複合	２単位	春学期	水曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

神話は，人類が太古の昔から普遍的に抱いてきた世界観の表明，物語の形で表された原初の哲学であり，素朴なだけに喚起力に満ちた意味深いメッセージを与えてきている．本講義では，西洋文化の重要な一部分を形成する古代ギリシャの宗教と神話を扱う．ギリシャ神話でなじみ深い神々について，その機能や祭儀や物語を解説する．あわせてそれに対する近現代の神話分析を紹介し，その意義の解明に関する様々なアプローチを解説する．

授業の到達目標

古代西洋異教世界の宗教と神々に関する歴史的に正確なイメージの獲得，神話学の歴史と方法に関する知識の習得

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容の理解を問う記述式のテスト．
●**レポート**　0%　　なし．なお出席不足等の代わりのレポートの申し出は受け付けません．
●**平常点**　0%　　出席は評価の前提です．
●**その他**　0%　　0

講義

科 目 名	神話と芸術　西洋近現代におけるギリシャ・ローマ神話の変容							
担当者名	兼利　琢也							
複合	２単位	秋学期	水曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ギリシャ神話を基礎におく古典古代文化の多種多様な姿形は，西洋世界において中世にその大部分が衰滅したものの，ルネサンス（古代再生）期――現代文化の思春期――に蘇った．以来それらは，18世紀前期まではおもに古代ローマの文学芸術を通じて，18世紀後期以降は（ローマの文物に加えて）古代ギリシャの芸術そのものが，各時代の文化的模範として常に仰がれてきた．本講義では，西洋文化の影響と関係性に直接的な連関の明らかないくつかの主題について，芸術全般にわたり現代に到るその受容と変容をたどりたい．

20世紀後半より以前では，西洋の文化教養の基礎と頂点がギリシャローマの古典だったため，どの時代どの国でも，その時代にのみ可能な形で特定の神話や観念を再生させ，再発見・再創造を行ってきている．この講義で取り上げられる事例も，基本的にどれも各時代の芸術家の自覚的な取り組みと創造である以上，それ自体が各専門家の研究対象だが，私個人の趣向と関心に基づいて，古典学徒の目からその独自な変形を時代を縦断する形で探りたいと思う．基本的に19世紀以降から20世紀初期までを扱う．20世紀大衆文化（おもに映画）との連関では，古代ローマが中心になるため神話より古代異教文化全般に関わる．古典の普遍的な影響力を認識してもらうことがこの講義の到達目標だが，そこから古代そのものに対する新たな理解が拓けることを願っている．

授業の到達目標

古典古代文化の普遍的な影響力の再認識

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません．
●**レポート**　100%　　講義主題に関わる独自調査のレポート．
●**平常点**　0%　　（出席は成績評価の前提です．）
●**その他**　0%　　とくにありません．

科 目 名	異文化受容と文学の変容　異文化受容に文学はどのように関わるか（ヘレニズムの東漸とその変容）							
担当者名	宮城　徳也							
複合	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

独自の文化を持つ集団が，異文化と接触し，それを受容することによって，自身の文化にも変容が生まれ，新しい文化が創造されます．例えば，日本の場合は古代には中国と朝鮮半島の先進文化を受容しましたが，その中にはインドで生まれた仏教もありました．また，中国やインドもシルクロードなどを通じて，西方世界の影響を受け，それを独自の文化形成に活かしています．16世紀に大航海時代が現出し，東西の交流が盛んになり，日本では南蛮文化と呼ばれる西洋の影響が流行しました．幕末から明治維新，第二次世界大戦後の大変革など，現代に至るまで，日本は様々な外来文化を受容し，それを独自に変容させて新たな文化を創り上げてきました．これは，日本だけに限りません．ヨーロッパ文化の根幹と言えるヘレニズムとキリスト教の影響に焦点を当てながら，詩や小説に限定されない広義の「文学」（演劇，歴史，思想を含む）が，異文化の受容と，新たな文化の創造にどのような力を持ったかを考察したいと思います．

授業の到達目標

文学に見られる異文化受容と，それによる文学の伝統の変容を，幾つかの作品，ジャンルの場合を検証しながら，考察します．

成績評価方法

●**試験**　40%　　教場で「理解度の確認」として行なう。授業内容の理解と、独自の見解を問う試験を行う
●**レポート**　0%　　試験と平常点で評価します
●**平常点**　60%　　授業内容の要約とそれに対する見解を毎回提出してもらい、平常点として評価する。授業で語られなかったことへの言及は特に高く評価したい
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	芸術と社会　都市と美術							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

美術と社会の接点を、都市を切り口に見ていきます。とくに、パリ、ニューヨークを中心とし、都市の特徴と成立の歴史を捉えたうえで、芸術、とりわけ美術が人びとの生活のなかでどのようにかかわり、生活を豊かにしてきたのかについて考察します。そこでは、都市計画、土木、建築、美術コレクション、美術館などがおもなテーマとなります。現代のダイナミックな芸術と社会との関係を知るには、現在、それぞれの都市がいかなる美術館、パブリックアートを有し、芸術と人びとを結びつけようとしているかを見る必要があります。また、そのほかのヨーロッパの都市やアジアにおける諸都市の試み、東京についても、そのつど比較検討する予定です。

授業の到達目標

世界の代表的都市を、美術と人びとの生活を視点に考察するなかで、私たちの住む日本の環境と比較検討し、日本における都市のありかたを考え、人びとを豊かにするものとは何かについて自分なりの見解をもつことができるようにするのが目標です。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の趣旨を理解し、自分なりの展望が構想できているかについてみます。
●**レポート**　0%　　必要に応じて課し、平常点に組み込みます。
●**平常点**　40%　　多くの図像を授業中に提示します。そのため関連のイメージを授業中にしっかり見ることを重視します。遅刻と早退は、2回で1回欠席として数えます。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	翻訳とその諸問題　日本児童文学界における外国文学作品（主にロシア文学）の翻訳をめぐって							
担当者名	南平　かおり							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本授業では、「日本児童文学界における外国文学翻訳作品」の諸問題について取り上げる。
日本の児童文学界の中で「翻訳」をめぐる問題は大変重要であり、検討すべき要素をはらんでいる。
大正7（1918）年の「赤い鳥」誌誕生から、昭和25（1950）年に日本の児童文学の世界に新風を巻き起こした「岩波少年文庫」創刊までの時期を中心に、「翻訳」の在り方の歴史を辿る。「原語からの直接訳でなければならないのか」、「抄訳ではなく完訳であるべきなのか」、さらには「訳者による再話は許されるのか」という大きな問題について、様々な角度から検討していく。具体的には、主だった翻訳者を取り上げ、その翻訳方法について考察しながら、授業を進めていく。
この授業では、特にロシア文学作品を例にとって学んでいくが、折に触れ他の外国作品についても取り上げる。
児童向けの翻訳の場合は、漢字の使い方や、言葉の言い回しなど大人向けの翻訳とは違った心遣いが必要になってくる。「花」を「お花」といえば、児童文学になるわけではない。
児童文学についての知識も学びながら、「翻訳」における様々な問題についてじっくり考えていきたい。
また受講者間での意見交換の機会をもつため、「ワールドカフェ」形式の討論会を2回行う。
さらに、毎回希望した受講生に授業に関する発表（5分～10分程度）を行ってもらう。

授業の到達目標

「日本児童文学界におけるロシア文学の移入の歴史」を理解した上で、外国児童文学作品の「翻訳の在り方」について自らの視点で捉え直し、各々の研究テーマに応用できることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　課題は第7回の授業で提示します。授業の内容をしっかり理解した上で、独自の視点から論を展開してください。
●**平常点**　30%　　毎回の授業で考えたことを感想シートに書いて、提出していただきます。授業への積極的な参加を期待します。
●**その他**　0%

科 目 名	言語学入門　ヒトは、どのようにして「ことば」に迫ったか							
担当者名	森田　彰							
複合	2単位	春学期	土曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

言語は、人々が日々、半ば無意識のうちに使用しているものです。そして、人々はその中に魔的なものをみたり、identity のよりどころにしたり、単なるコミュニケーションのツールと見なしたり、時には差別の対象ともしてきました。また、言語の方も人間の思考や世界観に影響を与えていると言われています。「言語学」は言語をその研究の対象にしているのですが、言い換えれば、ヒトが言語をどのように見ているか、また、ヒトとことばとの関わりを体系的に論じたものです。また、ある意味で、ヒトとは何かを問うものです。ヒトが、言語にどのように迫り、言語とは何かを、どのような「記述」方法によって説明しようとしてきたか、これらを振り返ることによって、言語学の目指した、そして目指すものを考えていきます。
言語も他の人間活動と同様、大層複雑なものなので、その実態をより正確に捉えようとするには、様々な切り口が必要です。そうした様々な切り口の主要なものを整理しながら、この地球でヒトにのみ備わったと思われる言語の姿と言語を操る力に焦点を当てて論じていきます。その中には、ヒトがどのように言語を習得するか（したか）も含まれます。それと同時に、言語学がどのような方法で言語を説明しようとし、発展してきたかを見ていきます。
言語の研究は何よりも「例示」が大切です。多くの受講生の既習外国語である英語と日本語は当然その中心となりますが、主としてヨーロッパの他の言語についても触れていきたいと思っています。
なお、この講座は、言語学の特定の理論を通して言語のあり方に迫るものではありません。しかし、近代的言語学の黎明から、

20世紀の後半くらいまでの言語学、言語へのアプローチの流れを見ていくので、そこまでの言語理論から見た（違った視点による）言語の姿を語ることになります。

授業の到達目標

・言語学の目指しているものについて理解できること
・科学のあり方について理解できること
・言語の記述の様々なあり方を知る。
・人間と言語の関係を自分のものとして考えることができること
・言語学の諸理論のあらましについて、理解できること
・構造あるいは体系について理解できること
・言語学の発展を通して、ある探求分野がどのように生まれ、発展してきたかを知る。

成績評価方法

●**試験**　100%　「理解度の確認」。講義の内容の範囲で、言語学のなしてきたことを整理し、言語学の目指すものを理解できているかどうか。一般の定期試験と同じ準備と態度で臨むこと。
●**レポート**　0%　備考参照
●**平常点**　0%　備考参照
●**その他**　0%　0

備考・関連URL

［本科目は早稲田キャンパスで実施する可能性があります］履修者の数が20人を切った場合には、ゼミ形式に近い形で行います。それ以上の場合は、講義形式になります。ゼミ形式の場合は、評価の方法も変ります。また、教科書を指定するかもしれません。どの形式で講座を行うかは、初回の講義で履修者の状況を見、調整を行います。ゼミ形式、講義形式ともに、学生諸君の積極的な関わりを期待します。講義形式の場合も出席をとりますが、それは単位を保証するものではなく、主たる目的は諸君の自己管理のためなので、過大に考えないように。ただし、欠席超過者には、単位は与えられません。これも、試験、レポート等の評価方法とともに第1回講義で解説します。

講義

科目名	ヨーロッパのことばと文化							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今日の日本人の思考が無意識のうちに時間的にも地理的にも遠く隔たったヨーロッパのことばと文化の影響を受けていることを論じます。たとえば、フランス語がもつ「洗練されている」というイメージは、フランス語の系統のみによっては説明することができません(「洗練されていない」言語も同じ系統に含まれるため)。このイメージの起源を理解するためには、ノルマン征服以降の仏語圏と英語圏の関係、絶対王政期以降のフランスの国際的地位、言語政策などを理解する必要があります。このように、「現在の日本」との見えないつながりという観点から「ヨーロッパのことばと文化」を捉えなおしていきます。

授業の到達目標

1. ヨーロッパの言語のあいだの系統的な関係を理解する。
2. ヨーロッパの言語のあいだの文化的な関係を理解する。
3. ヨーロッパのことばと文化を「現在の日本」との関係で捉えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　毎回、課題の解答をCourse N@viのレビューシートに記入していただきます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. この講義で扱う言語は時代的にも地理的にも広範囲にわたりますが、受講にあたって(大学受験程度の)現代英語以外の知識は必要ありません。この講義で扱われる言語の例: 古ノルド語、現代アイスランド語、スウェーデン語、ノルウェー語、ドイツ語、古英語、中英語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、フランス語、ポーランド語。
2. この講義では、言語文化の歴史的考察に重点を置き、理論的考察は最小限にとどめます。理論的考察に関心のある方は、春学期開講「フランス語学概論」などをあわせて履修するとよいでしょう。

科目名	世界の言語と日本語							
担当者名	吉田　健二							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

言語類型論（LinguisticTypology）は，世界の言語の特徴をできるかぎりひろくしらべ，ヒトの言語にとって普遍的な要素は何か（そもそも普遍的な要素はあるのか），逆に，言語はどこまで多様にことなりうるのかなどの問題を探求する研究分野です．この授業では，世界の言語の類型論的な傾向にてらしたときの日本語の位置・特徴を考察し，またひるがえって、日本語の研究が，世界言語の類型論的研究にどのような洞察をもたらすか検討します．

主要なテキスト・資料は、ドイツのMax-Planck研究所が開発したWorld Atlas of LanguageStructure（WALS）という言語類型論の研究者むけオンライン書籍＆データベースです．WALSは，言語の構造タイプ（類型）にかんする192の項目について，総数2697、平均400言語の情報を分類し，地図上にしめしたもので，インターネット上で公開されています．授業では毎回，2〜3名の受講者に，その回のテーマに関連したWALSの章の記述を要約して説明し、日本語のタイプ、特徴を検討する発表をおこなってもらいます．授業計画の末尾の数字は，予定している章番号です．また講師・吉田も各回の内容に関連した講義を行います．

授業の到達目標

言語類型論の研究上の目標と研究アプローチを理解し，類型論的視点を導入した言語研究を計画・実行するための基礎知識を

身につける．また，類型論的視点からみた，日本語の特徴についての洞察を深める．

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません
●**レポート**　70%　　期末レポート
●**平常点**　0%　　（とくにかんがえていませんが、受講生の人数によっては、リアクションペーパーの記載内容も勘案します）
●**その他**　30%　　授業における発表・報告の内容を評価します。

備考・関連URL

質問などは kenjiyo.work@gmail.com まで

科 目 名	言語史の方法　上代日本語研究の方法と考え方							
担当者名	澤崎　文							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

日本語において、まとまった言語資料となる文献が初めて存在したのは、上代であった。上代語は日本語の起源を探る上でも高い価値をもち、また日本語史の原点としても必ず言及されるべきことばである。しかし、上代語の文献は今日における現代日本語を書きあらわしたものとは大きく隔たりがあり、一見してどのようなことばが反映されているのかわかりにくい。

この授業では、上代語を反映する文献について、まずそこにどのようなことばがどのように書かれているのかを知るために、資料の読み解き方を中心として説明する。このことを通じて、音韻・語彙・文体など、そこに見える日本語のすがたと、それを明らかにする方法も示していく。文献の性格や扱い方、問題点などを概説した上で、文献にあらわれた具体的な言語事象を確認していくことで、日本語史資料としての「みかた」を身につけられるようにしたい。

授業の到達目標

・文献それぞれの日本語史における資料的性格を理解できるようになる。
・文献にあらわれた日本語学的現象の解釈ができるようになる。
・日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。
・日本語学的な分析の観点を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場で文章を書く形式の試験を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　毎回、授業内容についてのコメントを求め、評価に入れます。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ことばの統計　コーパス日本語学入門							
担当者名	市村　太郎							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義では、言語研究に関心のある文科系の学生を想定し、コンピュータやコーパスを利用して日本語を言語学的に研究するための基礎的な方法を学ぶ。

主として国立国語研究所で作成されたコーパスを例に、コーパスとは何かを理解し、コーパスを検索し、集計・分析する基礎的な方法を身に着ける。また実際にコーパスを作成する基礎的な方法を学ぶ。そのうえで、日本語研究（言語研究）に応用する方法を検討する。

授業の到達目標

コーパスを利用するための基本的な知識を身に着け、日本語研究に活用することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　80%　　コーパスを利用した日本語の分析を適切に行うことができる。
●**平常点**　20%　　授業への参加状況。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・Webコーパス等を使用するため、PCを使用します。
・教室環境等によって内容を変更する可能性があります。
・本講義は言語学的観点からの初歩的なデータベース利用を想定しており、情報工学的な自然言語処理を対象とするものではありません。

科 目 名	ことばと社会							
担当者名	山岡　華菜子							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この講義では、日本語のバリエーションについて考えていきます。具体的には、近代以降の日本語社会における「方言」を巡る動きを中心にしながら、外国語としての日本語など、現代社会にあらわれる日本語の様相について取り上げます。それらが社会のあり方とどのように関わるのか、みなさんと観察したいと思います。

授業の到達目標

この講義を通じて、言語という視点から社会を捉える方法の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　70%　　学期末レポートを課します。
●**平常点**　30%　　授業の出席状況とコースナビ上に設置する掲示板への書き込み等から評価します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学の最前線1　文化人類学的研究の広がりを学ぶ							
担当者名	西村　正雄　他／酒井　貴広／三浦　恵子／箕曲　在弘／山本　まゆみ							
複合	2単位	春学期	土曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

文化人類学は、人間の営みを総合的に扱う学問として知られる。文化人類学の発達の中で、従来研究の対象としてきたのがいわゆる辺境と呼ばれる地域に存在する、比較的規模の小さな社会であった。

しかし、世界システムが急速に拡大し、グローバリゼーションがいたるところで唱えられている今、文化の境界が極めて不明確となってきている。こうした状況の中で、文化人類学研究に2つの大きな傾向が見られる。一つは文化人類学の終焉を唱えるグループであり、他は文化人類学が過去培ってきた知識と研究方法を、積極的に「現代の文化現象」の分析と解釈に応用してゆこうというグループである。

本科目では、この後者に重点を置きながら、授業の目的を、文化人類学という学問が、今どのような状況に置かれているのかを示し、それぞれの細分野における最新の研究成果をわかりやすく解説してゆき、その上で文化人類学が、私たち人間が考えてゆくべき方向性について、どのような問題提起を行っているのか、それに対して自らどのような答えを導き出そうとしているのかを示すことを目的としている。

授業では、現代世界を文化人類学がどのように見て、分析しているのか、どのような点に着目しなければならないのか、そしてもしそうした問題を分析してゆくとしたらどのようなアプローチがあるのか、さまざまなトピックを取り上げて述べてゆく。

授業の到達目標

文化人類学のもっとも新しい研究課題について、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業内容の理解度を評価の対象とする。
●**平常点**　20%　　出席の具合を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

本科目を受講する前に、または授業と平行して、基礎的な文化人類学の授業を受講しておくことが望ましい。また、この授業は、後期（秋学期）に行われる「文化人類学の最前線2」の授業と対をなしている。文化人類学の最前線1、2の授業両方受講して初めて、現代文化人類学の最前線が見えてくる。そこで本科目を受講する皆さんは、後期の授業も合わせて受講することを強くお勧めする。

科 目 名	文化人類学の最前線2　文化人類学の多様なアプローチを学ぶ							
担当者名	西村　正雄　他／牛山　美穂／黒崎　岳大／成田　弘成／三浦　恵子							
複合	2単位	秋学期	土曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

文化人類学は、人間の営みを総合的に扱う学問と表現できる。この文化人類学の発展過程で従来研究の対象とされてきたものは、いわゆる「辺境」と呼ばれる地域に存在する、比較的小規模な社会であった。

しかし、世界システムが急速に拡大し、グローバリゼーションがいたるところで唱えられている今、文化の境界が極めて不明瞭になってきている。こうした状況下で、近年の文化人類学には2つの大きな潮流が見られる。一つは文化人類学の終焉を唱える悲観的な見方であり、他方は文化人類学がこれまで培ってきた知識と研究方法を、「現代の文化現象」の分析と解釈へ積極的に応用しようとする挑戦的・萌芽的試みである。

本講義では、この後者に重点を置きながら、文化人類学という学問が置かれている現況を示し、各細目領域における最新の研究成果をわかりやすく解説する。その上で、文化人類学が、人間社会の未来についてどのような問題提起を行っているのか、それに対して自らどのような答えを導き出そうとしているのかを示す。

授業では、現代世界を文化人類学がどのように見て、分析しているのか、どのような点に着目しなければならないのか、さらにはそうした問題を分析していくにはどのようなアプローチが有効なのか等、さまざまなトピックを取り上げながら解説していく。

授業の到達目標

文化人類学のもっとも新しい研究課題について、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業内容の理解度を評価の対象とする。
●**平常点**　20%　　出席状況を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

この授業は春学期に開講する「文化人類学の最前線1」と対になるものである。文化人類学の幅広い研究を理解するため、できるだけ「文化人類学の最前線1」も受講することが望ましい。

科 目 名	文化人類学1　今につながる文化人類学の基盤とは							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

人類学（Anthropology）とは、anthropos（ギリシャ語で人間を意味する）について研究する学問（logy）であ。アメリカの文化人類学（Cultural Anthropology）、イギリスの社会人類学（Social Anthropology）、フランスの民族学（Ethnology）など、名称は地域によって異なり、また学史的な違いもあるが、今日では研究の射程における違いは然程見られなくなっている。文化人類学1の授業では、西洋で誕生した人類学の発展に貢献してきた先駆者たちの業績を紹介しながら、それらが現代社会に生きる私たちにとってどのような意義があるのかについて考える。異文化に生きる人々の生活に関する人類学的研究の蓄積を通じて、私たちの身近にある出来事のなかに彼らとの共通項をどのようにして見出すことができるのか。諸文化の多様性のなかに普遍性を見出す為に不可欠な比較の視座の持ち方について学ぶことを目指す。

授業の到達目標

人類学で求められる思考力を鍛えることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　授業内容の理解度、記述の的確さを評価の対象とする。
●**平常点**　50%　　各講義に対するリアクションの記述内容を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

履修者のリアクション記述の内容に応答するかたちで、各回の講義内容を変更する場合がある。

科 目 名	文化人類学2　ヨーロッパへの人類学的アプローチ							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この授業では、文化人類学の基礎的な知識にもとづく応用として、ヨーロッパ地域を対象とした文化・社会人類学的研究について解説します。ヨーロッパをフィールドとする人類学的研究は、人類学においては後発の分野ですが、近年、新たな研究が蓄積されつつあります。本授業では、いわゆる西欧だけでなく東欧も視野に入れ、とくに人の移動・移住、体制転換とEU拡大、ジェンダー、共同性といったテーマに注目しながら、これまでのヨーロッパ人類学の議論を概観します。ヨーロッパ地域への人類学的アプローチの可能性について学ぶとともに、そこから人類学全体の議論につなげて、人類学的思考についての理解を深めることが授業の目標です。

授業の到達目標

1. ヨーロッパを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. ヨーロッパに対する一般的な見方について、フィールドワークにもとづく知見から自分なりに再考できるようになる。
3. 人類学的アプローチの特徴を知り、現代ヨーロッパの諸課題・諸現象を考える視角のひとつとして理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらいます。授業内容を充分に理解した上で考察し、正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点**　50%　　授業への参加状況とともに、講義へのリアクションの内容から授業の理解度を判断し、評価の対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	環境と人間1（マクロな視点）　環境への文化人類学的アプローチ							
担当者名	西村　正雄							
複合	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今日環境は、人々が最も注目するトピックの一つである。それは地球温暖化など、人々のもつ危機意識に基づいて、関心が高まっているせいである。本授業では、文化人類学がもともと考えてきた環境と人々の生き方に注目し、マクロな視点（天候、大きな生態系など）がどのように人々の生き方と関連しているのか述べてゆく。具体的な地域として、東南アジアの地域を中心に、上記の問題について考えてゆく。また授業の最後で、環境破壊の問題についても考察してゆく。

授業の到達目標

文化人類学が、環境をどのように考え、そこからどのような問題を見出し、それを分析し、また解決策を提案してきたのか総体的に理解し、常識的に考えて生きてきた環境の問題について、違った視点や考え方について理解してもらうことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の全体像をどのくらい理解できたかが、評価の対象となる。
●**レポート**　0%　　レポートでは評価しない。
●**平常点**　20%　　授業中の態度、特に発言、ディスカッションへの参加度を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

2009年度以前に「東南アジアの社会と文化1」の単位を修得済みの方は、この科目を登録できません。
関連URL： http://www.waseda.jp/bun-anthropology/

科 目 名	環境と人間2（ミクロな視点） 東南アジアの環境と人間社会							
担当者名	三浦　恵子							
複合	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義は、環境と人間社会の相関関係を、主に東南アジア社会の事例を取り上げて、人類学的観点から総合的に学んでゆく。まず、東南アジア地域の異なる環境で生活するさまざまな人々の暮らし（ミクロの視点）について紹介する。次に、第2回から第6回までは、それぞれの異なった環境における民族社会の環境順応と生存（生活）戦略について考察する。第7回と第8回は、環境が人間社会へ及ぼす現象や実践面での影響について考察する。第9回から第15回までは、人間の活動や政策が環境に与える影響と、環境変化が人間社会に投げかけるさまざまな問題について歴史的観点を踏まえて考察する。第11回は、「日本人の生活と東南アジアの環境との関係」について各グループがそれぞれ東南アジアの環境にある特定の物（木材、やし油製品、養殖エビなど）の日本への流通の例を挙げて、そのことが東南アジア地域の環境へどのような影響を与えているかについて詳しく調べて発表する。

授業の到達目標

1. さまざまな自然環境における人間の順応の過程と、変化への対応について理解する。
2. 自然環境と人間社会の相互作用とメカニズムを理解する。
3. 異なった環境と多様な社会に住む人々の生活や現象の関わりについて理解する。
4. 東南アジアの環境と社会について基礎的な知識を習得する。
5. 環境と人間社会の関係性について多角的に議論するための基礎知識、方法論や観点を習得する。
6. 日本人の生活と東南アジアの環境問題との関係について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。

●**レポート**　70%　　レポート課題は、第2回から第15回目までの課題（教場で配布）の中から一つ選択すること。適切な文献を3冊以上参照し、理論的に説得力をもって書いてあること。参照文献リストは必ず添付すること。インターネットからの引用のみや切り張りは不可。2,500～3,000字。

●**平常点**　20%　　グループワークにおける貢献度と通常授業への積極的な参加（質疑応答やコメント）を評価する。

●**その他**　10%　　10

備考・関連URL

英文の文献を読みこなせ、英語のビデオ・DVDも大方理解できることが重要である。

科 目 名	異文化の伝播と受容 グローバル化と東アジア美術コレクションの形成							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

アメリカやヨーロッパで美術館に立ち寄ると、思いもよらず日本や中国の美術品の充実したコレクションを目にする、ということがあります。こうしたコレクションの核となる作品の多くは19世紀後半から20世紀初頭にかけて蒐集されたもので、その背景には、東アジアを取り巻いていた緊迫した政治情勢のほか、運輸システムと情報ネットワークのグローバル化がありました。ただし、オリエンタルでエキゾチックなものを求める欧米人の蒐集欲を、図像と漢字から構成されるシンボリックな東アジアの美術品が満たしていた、と単純に解釈することはできません。というのも、興味深いことに、同じ時期にここ日本でも、自国の文化の母胎である中国の美術品をコレクションする現象がみられたからです。

とすると、東アジアの美術品の伝播は世界規模でおこなわれていたことになり、それをコレクションすることは何を目的とした行為であったのか、とりわけ、中国の伝統を受容してそれを理解することは何を意味していたのでしょうか。さらに、文化の基盤が異なる欧米と日本とでは、コレクションの内容と形成過程、そして思惑に違いがあったと想定されます。

東洋や西洋といった各文化圏の枠組みが曖昧になり、世界の距離が目まぐるしい速さで縮まってきている昨今、過去に世界規模で起きた東アジア美術コレクションの形成過程をグローバル化という視点から分析することは、多様な文化が複合的に重なり合い構成される現代の文化をあらためて考え直すためのひとつの題材になるはずです。

授業の到達目標

本科目では、まず全体の内容に関わるガイダンスとして、初回に中国皇帝コレクションの概要とその流転の経緯について説明します。2回目以降は、毎回トピックを設けて、中国の伝統文化と異文化の接触、そして美術品の異文化圏への伝播の具体例を提示します。その後、世界各地にある「中国美術の殿堂」といわれるような美術館を特集し、そのコレクションの形成過程を比較検討していきます。

全体を通して、東アジアの美術品というローカルな文化遺産が巻き起こしたグローバルな展開を知り、自分の身近にもある異文化の接点に気づくことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回に理解度の確認をおこないます。東アジア美術というローカルな文化遺産にみるグローバルな展開を具体的に理解し、自分の身近にもある異文化の接点について、自身の見解を明確に述べることができているかをみます。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　40%　　出席および授業への主体的な参加。ここでいう主体的な参加とは、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	異文化接触と日本文化　仏像、海を渡る							
担当者名	楢山　満照							
複合	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

近年、巷では、にわかに仏像ブームがきているとのこと。ひょっとするとそれは、ゆるキャラやフィギュアが現代的な文化現象として市民権を獲得してきたことと連動しているのかもしれません。その是非はともかく、祈りの心を受け止めてくれる信仰の対象、という本来の宗教的な枠にとらわれず、自由な感覚で自分好みの仏像を探そうという人が増えてきているのは事実であるように見受けられます。

本科目では、そうした現象を自他の文化理解を考察するための格好の題材ととらえ、仏像という立体彫刻に焦点を当てながら、アジアを舞台とした異文化の接触と交流の様相をみていきます。日本人にとって、仏教は本来、異国の宗教でした。当然、日本で定着するまでには、他の宗教との衝突もあったはずです。そこで、「そもそも誰が最初に仏像をつくったのか？」、「日本にしかない仏像はあるのか？」、「キリスト像との影響関係は？」、「仏像をフィギュアや美術品と考えるのは不謹慎なのか？」など、いくつかのトピックを設け、受講生とともにその問いについて考えながら、実践的な他者理解の思考を養っていきます。

授業の到達目標

本科目は仏像の鑑賞そのものを目的としたものではなく、鑑賞のための基礎知識を身につけるためのものでもありません。異文化接触の観点から、仏像が生まれ日本にたどりついて定着するまでの道程を追いながら、現代の我々にも共感できる「日本的な現象」がそこにあるのかどうか、講義を通して自分なりの見解をもつことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回に理解度の確認をおこないます。鑑賞のための基礎知識にとどまらず、異文化の接触と交流という視点から仏像の変容について理解し、それについて自身の見解を明確に述べることができているかをみます。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　40%　　出席および授業への主体的な参加。ここでいう主体的な参加とは、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	民族音楽論　世界音楽入門							
担当者名	早稲田　みな子							
複合	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

世界の諸民族の音楽・芸能を紹介し、音楽構造や理論の多様性、音楽と歴史・宗教・社会とのかかわり、音楽の意義・役割、さらに音楽文化の流動性・可変性等について様々な観点から考察する。取り上げる地域は、アフリカ、北米（アフリカ系アメリカ）、南米（ブラジル、アルゼンチン、ペルー）、太平洋諸島（ハワイ）、東南アジア（インドネシア）、南アジア（インド）、西アジア（イスラム圏）、東アジア（中国）、中央アジア（モンゴル）等を予定している。

授業の到達目標

多様な具体例を通じて音楽文化に対する視野を広げるとともに、音楽に関する既成概念や価値観を見直す。また異文化との比較を通じて、自文化に対する認識・態度についても再考する。

成績評価方法

試験　45%
小テスト1：　15%　（Course N@viで実施。範囲は第1回～第5回の授業内容）
小テスト2：　15%　（Course N@viで実施。範囲は第6回～第10回の授業内容）
小テスト3：　15%　（Course N@viで実施。範囲は第11回～第15回の授業内容）
平常点　55%
出席　＊単位取得には2/3以上の出席が必要です。

備考・関連URL

1．ミニ発表の募集
履修生による音源、楽器、舞踊などの授業内ミニ発表を募集します（15分程度）。
サークル有志による発表も歓迎します。興味のある方は担当教員までお知らせください。
2．出席管理
Course N@vi上で作成した「出席カード」を授業中に配布し、履修者自身で授業後に登録を行っていただきます。
出席重視のため、15分以上の遅刻・退出は出席点減点の対象となります。30分以上の遅刻・退席は出席と認めません。

科 目 名	国民国家と文化							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	２単位	春学期	火曜日	１時限	２年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

21世紀を生きる多くの人びとにとって「国民国家」は所与の存在であり、帰属すべきものとされている。しかし、長い人類の歴史を見れば「国民国家」がきわめて新しい枠組みであり、人類社会が築き上げてきた「文化」という枠組みと必ずしも一致しない、という事態も生じている。現在、世界各地で起きている民族紛争は、こうした矛盾に起因するとも考えられる。そこで、本講義においては、「国民国家」の中で「文化」がどのように変容し、あるいは、抵抗し、今の世界を形作ったのかを考える。そのため、本講義で取り扱う領域は、人類学はもとより、考古学、歴史学、場合によっては政治経済システムまで多岐にわたる。

授業の到達目標

本講義が、受講生のみなさんにとって、世界の在り方を問い、自らの未来を切り拓く契機となることことを期待したい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　受講生の理解度を確認するための試験を最終回実施する。

●**レポート**　10%　　レポート内容の充実度。
●**平常点**　40%　　出席状況。なお、受講生は受講後にコースナビ上のレビューシートに記入すること。一定期間内のレビューシートの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代の国際法							
担当者名	清水　章雄							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
法の一分野である国際法の基本的事項について，できるだけ実際の事例を題材として講義を行う。なお，受講者がこれまでに法律科目をまったく履修していないことを前提とする。

授業の到達目標
国際関係において何が国際法の問題であるかを認識することができ，「国際法」という用語を誤って使うことがないようにすること。

講義

成績評価方法
●**試験**　80%　　学期末の筆答試験により，授業内容の理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし。ただし，他の履修科目等との関係で授業を欠席する場合に提出を求められるものを除く。
●**平常点**　20%　　出席状況および授業中に与えられた論題について書いた小論に基づく評価。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL
http://legal.un.org/avl/lectureseries.html
https://www.lcil.cam.ac.uk/lectures-events
https://podcasts.ox.ac.uk/series/public-international-law-discussion-group-part-ii

科 目 名	感性の哲学　近世以降の感性論の展開							
担当者名	桑原　俊介							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
17世紀は「方法の世紀」とも呼ばれ、哲学がその根底から、つまりその方法から刷新された時代です。それに伴い、人間の認識能力にも新たな問いが立てられ、知性のみならず感性に関しても様々な理論の樹立が試みられました。この流れは、18世紀前半から中葉にかけての「芸術」概念の成立や、「美学」という新しい学問の成立に結びくことになります。本講義では、この歴史的展開を、「認識」（感性）と「存在」をキーワードとして再構成することを試みます。認識と存在の間にある複雑な認識論的・存在論的関係性の下で、感性のあり方、芸術のあり方が問い直されることになります。そして最終的には、現代哲学のホット・トピックである思弁的実在論と関係付けることを目指します。
内容は多少高度になりますが、各種テクストを丹念に読解しつつ、それぞれの理論の根幹となる図式を正確に捉え、その歴史的展開を可能な限り精密に描き出すことを試みます。

授業の到達目標
概念や理論の成立には、それを可能にする歴史的条件が不可欠です。感性に関する様々な理論の成立にも、広い哲学的な思考条件が複雑に関連しています。本講義では、個々の感性論を単に時系列的に羅列するのではなく、哲学の全体的な概念の動きの下で捉え返すことを目指します。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　80%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

科 目 名	芸術論　芸術とは何か――美術、音楽、文芸、映画、その他――							
担当者名	伊野　連							
複合	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
我々はふだん芸術に対して、特別な意識をせずに接していることが多いであろう。この授業ではそうした現状を改革することに努めたい。
芸術作品を受容するという基本的な姿勢から脱却することを心がける。
①そこでまず、芸術鑑賞において、特別な意識を研ぎ澄ませることから始めよう。
我々が芸術作品と向かい合うというのは、多くの場合、それは趣味としての芸術鑑賞であったり、あるいは場合によっては、より専門的に、芸術作品の分析であったりする。
また、それぞれの芸術ジャンルにおいて、自らが創作する立場となる場合も当然ながらあるであろう。鑑賞者としても、創作者としても、
②したがって次に、自分の主な目標となる芸術作品を見出すため、何を目的として芸術作品に向き合うかが問われることとなる。
すると実際には、芸術ジャンル、時代、地域、作家、等々が具体的な問題となってくる。
③そこでさらに、地歴の上でも、古今東西の、幅広い領域を対象とするよう努める。
現実の授業では、まずはこちらが提案する古典的な諸作品を通じてこうした意識改革を促されることとなる。次の段階では、各自が主体的に選択した芸術作品に対し、種々様々な接し方を模索していってくれることを期待する。

なお、特別講義として期間中一回、音楽家の齋藤徹氏（コントラバス奏者、作曲家、パフォーマー）をお招きして、いろいろお話を伺った後、実際に演じていただく。齋藤氏はジャズ、クラシック、タンゴ、ブルース、トラディショナル、等々といったカテゴリーに一切とらわれることなく、まさしく「齋藤徹」という音楽を一貫して展開する、世界的にも活躍している稀有な8音楽家である。授業担当者の招きで早稲田大学戸山キャンパスにて講義していただくのはこれで五回目になる。

授業の到達目標

①自分が志向する芸術作品に関する定説をひととおり承知しておく。
②その上で、可能なかぎり独自の見解を備えられるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　全15回終了までに期末レポートを作成して提出
●**平常点**　20%　　毎回の授業で提出してもらうコメント用紙（出席確認を兼ねる）により評価
●**その他**　0%

備考・関連URL

作品鑑賞時、特に音楽や映画などでは沈黙が必須であるから、他の受講者の鑑賞の妨げになることのないように十分に配慮すること。

科目名	生活環境美学							
担当者名	宮崎　薫							
複合	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義では、「美」や「感性」について、わたしたちの生活環境の場面に、結びつけながら考察します。
衣食住や日本に関わる事象を取り上げ、身のまわりのさまざまな事柄が、「感性」に関わることに気づき、日常生活に潜む美、感覚世界の多様性を探ります。 本講義は、ディプロマポリシーの中の「多様な文化・価値観の交流を育む」に対応し、人間と社会の本質に迫り、新たな価値の創造する力を養います。

授業の到達目標

本講義では、日常のさまざまな事象に意識を働かせ、「美」や「感性」との関わりを見い出し、考察・批判することを通じて、問題認識力と思考力を高めることを目指します。学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とします。本講義を通じて、感性的経験を広げ、美学がよりよく生きるための一助になることを理解します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　- - -
●**レポート**　0%　　- - -
●**平常点**　100%　　毎回のレヴューシートと出席状況により評価します。（レポート・試験はありません。）
●**その他**　0%　　- - -

備考・関連URL

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。

科目名	現代美学の射程　都市の美学：世界の審美化がもたらすものは何か							
担当者名	椎原　伸博							
複合	2単位	春学期	火曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「美学」とは、人間の感性的な関心全般に関わり、それらを理論的に考えようとする学問です。この講義では、人間の感性的な関心が複雑にからまっている「都市」に注目し、そこから「美学」の問題を抽出することを目的とします。本講義はパリの事例を中心に、それと日本の事例を織り交ぜながら、具体的な都市の審美化の現状に注目し、そこから美学的問題を考察します。

授業の到達目標

現代社会におけるさまざまな感性的経験を分析し、美学的な思考ができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　50%　　美術館やパブリックアート等の実地調査に基づくもの、具体的な調査対象を第7回目までに提示します。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	美の諸相							
担当者名	小林　信之　他／小林　留美／利根川　由奈							
複合	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

例えば私たちは、「何を美しいと思うかは、時代や民族によって違っている」と思う一方で、「この美しさは、どんな人にとっても絶対のもののはずだ」と思うことがないでしょうか。あるいはまた、「グロテスクだけど、惹かれる」とか「かわいくてたまらない」という感情に支配されることはないでしょうか。本講義は、そのような様々な相を見せる「美しさ」の謎について、主に古代ギリシャから現代にいたる西洋の美と芸術に関わる思想のポイントを押さえながら、具体的な芸術作品をできるだけ多く例にあげて、受講生の皆さんと考えていきたいと思います。

授業の到達目標

実利的な到達目標が設定されているわけではありません。美や芸術に関する西洋の思考の一端を知り、歴史の中にある多様な表現に触れることで、感性を養い、深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業のトピックに合わせてのレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	**愛の諸相**　“胸キュン”の映像文化論　―― 現代の「恋愛ドラマ」を読みとく							
担当者名	柿谷　浩一							
複合	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

講義

数年前ほどの勢いはなくなったものの、未だにラブストーリーの多くが「胸キュン」をキーワードとしている現代。そうした状況にありながらも、作品の中にある「胸キュン」とは、そもそも何なのか。どのような視聴体験を指すのか。その本質や映像手法について、立ち止まって考えてみたことのある人は、おそらく少ないはずです。私たちは、どのようなシーンに、そこにあるどういった要素に、どんな形でキュンキュンし、それを「胸キュン」として鑑賞・受容・消費しているのでしょうか。「胸キュン」の用語自体は広く浸透していますが、その文化的な位置づけや学術的な定義は、十分に定まっていないのが現状です。定番の告白やキスシーンが、必ずしも「胸キュン」に相当するわけでもありません。そこには、大衆（視聴者）の中で、暗黙のうちにある程度了解される条件や規則性といったものがあります。お決まりのシチュエーションや動作でも、作品によって、また時間が経過する中で、その中身も意味も変化していく。

本講義では、そうした現代の“恋愛ドラマ”に必要不可欠で、変容めまぐるしい「胸キュン」の実体と、それを取りまくドラマ文化の実相に迫っていきます。

授業初回に、受講生の皆さんに投げかける問いを、問題提起として記しておきます（これが正しいというわけではなく、あくまで思考の「叩き台」のようなものです）。

「胸キュン」は、作品に《描かれている》ものではありません。もっといえば、そこに《存在してある》ものではない。幾つかの要件を満たす時、物語の断片に立ち上がってくる《現象》と考えられます。想像力を用いて、観る側が生成する《経験》と言い換えてもよいかもしれません。その条件には、出来事の状況性、言動のリアルさ、キャラクターの強度、場面の意外性、恋愛をめぐる価値観の反映具合、台詞や音楽（劇伴）との相関など……多くの事柄が複合して関係してきます。もちろん、そこには「（二次元から三次元への）写実化」というメディアミックスの問題も含まれてきますが、授業では、漫画等の原作との比較といった方向ではなく、あくまで一つの映像作品＝シーンの中における「胸キュン」で、いったい何が起こり、視聴者が何を経験しているか（何を観ているのか／観ていないのか）に主に焦点を当て、「胸キュン」のエッセンスを確認・蓄積しながら、それを可能な限り学際的に体系化していくことを目指します。ですので、授業のイメージとしては、個別の映像シーンの分析や演出の解釈が多くなります。

考えるべき問題はたくさんあります。なぜ、「ドキドキ」「トキめく」「萌える」といった言葉＝概念ではダメなのか。これらと何が違うのか（違わないのか）。なぜ、必ずしもそうした性格を持たない作品にまで、「胸キュン」（の要素）を積極的に抽出しようとするのか。「壁ドン」「顎クイ」「頭ポンポン」といった名前を付して文化現象となりうるのか……。さまざまな「胸キュン」をめぐる文化事象とそこにある問題を、複数のラブストーリーを横断しながら、つぶさに考察していきます。

●研究対象は「月9」のラブストーリーを中心にしますが、昨年を振り返ってみても明らかなように、近年の「月9」は“恋愛もの”から“エンタメもの”へと作品の主軸を移行しつつあります。同じフジテレビ系でいうと、代わって「木10」の方が、新たな形で恋愛ドラマを提供し始めている感さえあります。そうした現状も踏まえて、今年は「月9」のラブストーリーに、近年話題を呼んだ“恋愛ドラマ”を広く加えて、現代の“恋愛ドラマ”を考察するスタイルをと考えています。もちろん、そこには《月9のラブストーリーが消えた》その文化的意味と諸問題の考究にも当然含まれてくることになります。

具体的には、まず2018年に放送された作品群から、◆『花のち晴れ～花男 Next Season～』（主演＝杉咲花）、◆『おっさんずラブ』（主演＝田中圭）、◆『もみ消して冬』（主演＝山田涼介）、◆『トドメの接吻』（主演＝山﨑賢人）の分析を通して、恋愛ドラマの現在地を確認します。その後は、「月9」の代表作を順に遡って、◆『突然ですが、明日結婚します』（主演＝西内まりや、2017）、◆『好きな人がいること』（主演＝桐谷美玲、2016）、同作の下敷きとなった同じ作り手（プロデュース・脚本）による◆『恋仲』（主演＝福士蒼汰、2015年）、◆『失恋ショコラティエ』（主演＝松本潤、2014）などへと展開していく予定でいます。もちろん、月9の「胸キュン」ラブストーリーの原点をなす◆『プロポーズ大作戦』（主演＝山下智久〔以下同〕、2007年）、◆『ブザー・ビート～崖っぷちのヒーロー～』（2009年）、◆『SUMMER NUDE』（2013年）も避けて通ることはできません。その意味では、かつて『世界の中心で愛をさけぶ』（映画・ドラマともに2004年）などの作品を中心に、いわゆる「純愛もの（ラブストーリー）」が社会ブームになった2000年代半ばから、2010年代にいたる「胸キュン」現象へ……そして路線を変更し「恋愛もの」から次第に離れつつあるて「月9」の歩みを、テレビドラマ史と共に検証していくような側面も持つことになるでしょう。

テレビドラマは楽しく、面白く見るものです。とりわけ「胸キュン」なラブストーリーは、その傾向が強いかもしれません。実際、難解な作品は多くありません。しかし一方で、分かりやすい表層のストーリーの下に、目を凝らすことで初めて見えてくる、奥深い巧妙な「演出」が潜んでもいるのも事実です。それは、まるで〈小説〉や〈文学〉のようです。そうした一つが「胸キュン」を支えています。空間（シーン設定）、カメラワーク、台詞の構図、主題歌・劇伴を含む音響効果、衣装（ファッション）、キャストのイメージ……ワンシーンに凝縮された、さまざまなものが交わり「胸キュン」は生まれ、私たちに届けられています。そのメカニズムを、そのダイナミズムを、その本性を、一緒に検証してみましょう。

最後に「授業方針」について、少し触れておきます。

現代の映像作品における「胸キュン」に関しては、研究がまだ多く存在しません。そうした意味でも、教室では、作品や現象について誰々がこう述べているといった、いわゆる「先行研究」に拠った考察は多く行いません。むしろ、私なりの視点と方法で、作品そのものを相手に分析・解釈し、問題を独自に浮かび上がらせることを大事にしたいと考えます（補助線としてコラムの紹介や、文学理論・現代思想を参照することはもちろんありますが）。時に失敗もあるかもしれませんが、臆することなく、毎回毎回、シーンと作品に挑んでいく「文化構想学部」らしい、「複合文化論系」らしい実践の場を作れたらと願っています。ですので、学問的知識や情報を体得するような類の授業とはタイプが違います。受講生の皆さんも、一緒にあれこれ積極的に考えることが必要となります。そして、時には「それは違うのではないか」、「私ならこう考える」、「最新の現状からみるとこうではないか」といった反応＝反論を、リアクションペーパーを通して、ぶつけてほしいと思います。皆さんの面白い見方や、授業と異なる解釈も、折にふれて紹介していきます。

人によって、あるいは見方によって「胸キュン」は、一過性のうわべの消費・現象にすぎないという意見もあるかもしれません。ですが、ここまで多くの人を惹きつけ、その文脈に沿って話題作が作られ、大衆に認められている現状に顔をそむけるのは、文化を柔軟かつ自在に研究する「文化構想学部」という場として、違うだろうと思います。そこには何かしら、重要な文化的意味と意義が必ずあるはず。それを時に映像シーンに隠された技巧の発見に悩み、時に分析資料に実際にキュンキュンする追体験をしながら、「胸キュン」を学問する一歩を踏みだしてみましょう。

15回の授業の中で、1回でも「あっ」という驚きに似た発見が見えたり、皆さん自身から「こうかもしれない」と納得できる解釈が出てきたりすれば、この講義はまず成功です。まだ書物や論文には書かれていない、誰も十分に正面から向き合いきれていない、リアルタイムに進行する文化現象について、その方法論の模索を含めて、真剣に考えてみようという意欲ある学生の履修を心待ちにしています。

授業の到達目標

「ラブストーリー」（愛をめぐる物語・表現）への柔軟な視点を体得し、それを取り巻く文化現象に対する洞察力と柔軟な感性、創造力を鍛える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　授業を受けて、どれだけ考えたか。（出席＋リアクションペーパーの内容による）
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

●毎回「リアクションペーパー」を配布します。これが出席カードの代わりになります。授業に積極的に反応し、思考を巡らして下さい。

●出席する以上は、授業を聞いて、しっかり考えて下さい。その態度（リアクションペーパーを含む）を最重視します。（病欠等のよんどころない事情による）欠席は仕方ありませんが、授業に取り組む姿勢がなっていない学生には、厳しく対応します。私語（胸キュンに関わる反応は除く）、遅刻、無断退席、内職等、受講態度の悪い学生には口頭で注意を与えます。 ●受講態度の確認のために、ノートの点検を適宜行います。

・受講者数や学生の関心、授業の展開、さらには2019年のカルチャーシーンの動向によって、内容や計画の一部を変更する場合があります。

★本当に関心があって、受講したい人に履修してほしい。安易な気持ちで登録し、特別の事由なく「空席」を作るようなことはしないで下さい。

科 目 名	**死の諸相**　〈死〉をめぐる表現の諸相							
担当者名	堀内　正規							
複合	２単位	春学期	月曜日	５時限	２年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

人間にとって〈死〉はもっとも基本的なものの一つでしょう。どう生きるかという問題は〈死〉とのかかわりにおいて、強く意味を持ってきます。

この講義では、〈死〉というテーマをめぐって、日本ではどのようなすぐれた表現があるのかを、わたしなりの（その意味ではかたよった）視点から、具体的な事例に即して考え、それぞれ固有の問題からより大きな問題を考える糸口を探ってみたいと思います。

感性文化論プログラムの科目の一つとして、感性の面にあらわれた〈死〉の諸相を、芸術創造の表現と結びつけながら、しかし芸術論の枠からずれる形で、とらえてみます。

とはいえ、〈死〉のような問題について、わたしが学問上のディシプリンを持って何かを「教える」ようなことはとても不可能ですし、わたしが学生のみなさんよりも〈死〉のことを深く知っているということもないでしょう。その意味で、体系だった教育とはほど多く、ほとんど手探りの姿勢で、〈死〉というファクターから表現されたものに近づいていく試みをする講義になります。客観的な、あるいはアカデミックな考証をともなうような〈死〉についての知識を求める方は、この授業を履修しないようにしてください。

さまざまな表現者の〈感性〉を通して、命題的な思想内容と重なりながらもそこから逸れた、表現によってしか形にならないような部分に着目してみます。そのような講義であるので、一段高いところから教えるのではなくて、できれば聴いているみなさんが、部分的にではあっても、毎回何かを感じたり考えたりするヒントやきっかけを提示できればと思っています。つまりこの授業はみなさんをいい意味で刺激することを目標とします。

とりあげる予定の作品ですが、まず藤原新也の『メメント・モリ』（新版・旧版）、『納棺夫日記』と『おくりびと』、「千の風

になって」、山田太一のドラマ『早春スケッチブック』、宮澤賢治「銀河鉄道の夜」とアニメ版、天童荒太『悼む人』、古屋誠一の写真、『もののけ姫』とマンガ版『ナウシカ』、高畑勲のアニメ『火垂るの墓』、村上春樹『ノルウェイの森』、出崎統『家なき子』第26話、河瀬直美『もがりの森』、手塚治虫『火の鳥・鳳凰編』、茨木のり子や岩成達也や長田弘の詩、古井由吉『白暗淵』などを考えています。紹介をしながら、結論を出すのでなく、教室で一緒に感じとってもらえるような話し方をしたいと思います。（予定は一部変更になったり順序が入れ替わったりすることもありますので、あらかじめご了承ください。）

身近な人の死、自らの死、一般的な人間の死、大量死、物体としての死（死体）、生命の死、普遍的な死の観念など、死に向き合うポイントはさまざまですが、ひとが身に迫る感覚とともに死と向き合う機会は、〈わたしが死ぬ〉ということか、さもなければ〈愛する者が死んだ〉といった事態ではないか――そんな仮説から出発して、できるだけ偉そうな物言いをしないようにして、そのつどの試みのように話してみます。自分で感じ考えたい人に履修してほしいと思います。

なおこの科目は2016年度まで「死の制度」というタイトルでおこなわれていた内容と重なります。その科目を履修済みの方は、履修しないようにしてください。

授業の到達目標

学生個々人が〈死〉を観念や情報としてでなく、感性の次元でとらえ、自ら思考を働かせる。

講義

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　50%　　自分なりの視点を打ち出せているかどうか。真摯に思考しようとしているかどうか。論理的にアウトプットができているかどうか。
●**平常点**　50%　　出席は重視されます。3分の2以上を必須とします。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	グローバリゼーションとメディア							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

デジタル化やグローバル化の進む現代社会において、「文化」はこれまでのように所与のものとして捉えられなくなってきました。今日のグローバル化において文化の「境界」がより一層不明瞭になっているため、「文化」を定義することがますます困難になってきています。人の移動ばかりではなく、衛星放送やインターネット、携帯電話などの普及によって、異なる文化に住む人との出逢いや異なる文化的資源との相互作用がより稠密になり日々拡大しています。これまで「場」に制約を受け、一期一会であった人と人との出逢いも、TwitterやFacebookなどのソーシャル・メディアによって、時空を超えて半永久的につながることも可能となっているのです。

この授業では、「グローバリゼーションとは何か？」という問を出発点として、多様な理論や概念を解説すると共に、日本、アメリカ、イギリスにおける若者の多様なコミュニケーション行動から、グローバル化、デジタル化の進む現代社会の変容について考察していきたいと思います。この講義では、「文化」を理解するために必要な知識や諸概念について理解するとともに、グローバル社会を生きるための能力 - グローバル・リテラシー - を身につけていきましょう。異文化との出会いによって自己を再発見するとともに、新たな自己や文化を創造していきましょう。そして、今日のグローバル社会において、新たなコスモポリタン的文化を創造するための力を身につけましょう。

本授業は教室授業を基本とし、一部オンデマンド授業で実施します。教室授業では、グローバリゼーションやメディアに関する理論や概念のより深い理解を図るために、双方向型、対話型の授業を行います。受講者は、ディスカッションやプレゼンテーションなどへの積極的な参加を通して、コミュニケーション能力を磨きましょう。

授業の到達目標

1）「文化」について、一定の視点から明快な議論ができるようになるための知識を習得し、その基礎能力を身につけましょう。
2）グローバル化、デジタル化における他者への理解を深め、現代社会における好機とリスクについて理解しましょう。
3）参加型・対話型の授業を通してコミュニケーション能力を高めていきましょう。

成績評価方法

●**試験**　100%　　理解度の確認によって評価します。
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　0%　　—
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本授業は、参加型・対話型の授業により、グローバリゼーションやメディアに関する理論や概念のより深い理解を図るために、受講者の人数などによって変更する場合があります。

科 目 名	語用論入門　人間のコミュニケーションを科学する							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「ことばの意味」を研究する学問分野には「意味論」のほかに「語用論」があります。「意味論」はその名のとおりですが、どうしてこれとは別に「語用論」なる分野が存在するのでしょうか。それは、言語表現が実際のコミュニケーションの中で用いられることにより、プラスαの意味が伝わることがあるためです。そこで、言語学では「意味論 = 言語表現の辞書的意味（文脈独立的意味）を扱う分野」、「語用論 = 言語表現が文脈中で使用されたことによって伝わるプラスαの意味を扱う分野」という棲み分けが行われることになります。この講義では、意味論と語用論の関係に留意しながら、含み、前提、言語行為などの語用論の基本概念を論じ、人間のコミュニケーションのあり方について理解を深めます。

授業の到達目標

1. 意味の研究において、意味論とは別に語用論が必要とされる理由を理解する。

2. 日常のコミュニケーションの実態に即しつつ、語用論の基本概念を理解する。

成績評価方法

●**試験** 70%　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　毎回、課題の解答ををCourse N@viのレビューシートに記入していただきます。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

語用論は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、論理的に一歩一歩思考を進める楽しさをこの講義で身につけていただきたいと思います。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	認知言語学入門							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

生成文法と並んで現代言語学の二大潮流をなす認知言語学の基礎を学びます。「ことばの研究」と聞いて真っ先に思いつくものは何でしょうか。この問いに対して「ことばの意味の研究」という答えを思いつく人がいるかもしれません。しかし、意外なことに、欧米の言語学では、意味の研究は後回しにされ、長いあいだ、語の形態や文の構造といった「ことばの形式の研究」ばかりが行われていました。非常におおざっぱに言えば、「ことばの形式を先に研究して、それに後から意味をくっつければ言語の分析が完成するはずだ」と考えられていたのです。この考え方に真っ向から勝負を挑んだのが「認知言語学」と呼ばれる立場です。認知言語学は、「ことばの形式にはことばの意味が反映されており、意味と独立に形式だけを研究したのでは、ことばの本質を捉えることはできない」と考えます。さらに、「ことばの意味はありのままの現実を写し取ったものではなく、人間の世界の捉え方を反映している」と考えます。この講義では、そうした認知言語学の言語観を、従来の理論との相違に注目しながら論じます。

授業の到達目標

1. 認知言語学の基本概念を理解する。
2. 認知言語学と他の言語理論との相違を理解する。

成績評価方法

●**試験** 70%　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　毎回、課題の解答をCourse N@viのレビューシートに記入していただきます。
●**その他** 0%

備考・関連URL

1. 認知言語学の特徴は、それと対立する生成文法の考え方を学ぶことでより深く理解することができます。生成文法の基礎を学びたい方は秋学期開講「複合文化論系演習(文法の理論)」を履修するとよいでしょう。2. 言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、論理的に一歩一歩思考を進める楽しさをこの講義で身につけていただきたいと思います。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	文化の哲学							
担当者名	小林　信之　他／嶋田　久美／田原　彰太郎							
複合	2単位	春クォーター	土3時限	土4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

さまざまな文化的営為を哲学的に考察します。他者経験と倫理、美的経験と感情、詩や言語文化と記号、知覚や身体感覚と想像力、性愛と死の文化などをキーワードとし、哲学的に主題化します。

とくに体系的な知識を順序だてて伝授するような講義ではありません。考え、感じることの自由な可能性を構想することがこの講義のめざすところです。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。文化の多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることで、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験** 60%　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　授業の各単元終了後のレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

煩瑣な哲学的議論もふくみますが、何より、ものを考えるわたしたちの力を研ぎ澄ませることに主眼があります。
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	人工知能とポストヒューマン思想							
担当者名	高橋　透							
複合	２単位	秋学期	水曜日	２時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

昨今人工知能（AI)がおおきな話題となっています。この授業では、AIや先端テクノロジーを取り挙げつつ、サイボーグ学を講じます。サイボーグはもう、SFの世界の話ではありません。自分をサイボーグ化した研究者がいるし、サイボーグのパフォーマンスをしているアーティストもいる。それから、「バイオ･アート」という、バイオテクノロジーを用いた作品を作っているアーティストもいます。

この講義では、映画とアニメを観ながら、来たるべきサイボーグ世界について想いを巡らしてみたいと思います。映画やアニメはすでに、機械を通じて、世界をサイボーグ化することなのですから。

扱う予定のテーマ以下の通りです：押井守『攻殻機動隊』＋庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』＋宮崎駿『となりのトトロ』、吉浦康裕『イヴの時間』、『マトリクス』、脳科学と脳のサイボーグ化、チャップリン『モダンタイムズ』、エドゥアルド・カッツの「バイオアート」、メタファーとしてのナノテクノロジーなど。

講義

授業の到達目標

先端テクノロジーの現況ならびにその意義を各自理解し判断することができるようになること

成績評価方法

●**試験**　100%　　最終日に教場でレポートを書いてもらいます
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　0

科 目 名	アジアのジェンダーとセクシュアリティ							
担当者名	國弘　暁子							
複合	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ジェンダー研究の領域において、非西洋社会に生きる人々のジェンダーやセクシュアリティはどのように記述されてきたのか。この授業では、西洋の研究者たちによって特殊なジェンダーとして取り上げられてきたインドのヒジュラに関する事例を中心に、西洋の帝国主義的発想が与えた非西洋社会のジェンダー、セクシュアリティに係わる研究のあり方について学び、さらには、ジェンダー研究と他の研究領域（宗教やエスニシティ）との関連性について考えることを目的とする。

授業の到達目標

西洋社会でつくられたジェンダー、セクシュアリティの概念が非西洋社会に与えた影響について理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　授業全体の理解度を対象とする。
●**平常点**　50%　　講義内容に対するリアクションの記述内容を対象とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

レヴューシートの記述内容に応答するために、講義の順序や内容を変更する場合もある。

科 目 名	近代日本の思想空間　明治期を中心とした近代日本の知識人による「宗教」の探求							
担当者名	長谷川　琢哉							
複合	２単位	秋学期	火曜日	６時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

･「西洋」との出会いが本格的に始まった明治以降の日本において、人々はいかなる思想的営みを行ってきたのか。本講義では、この問題について「宗教」を軸に考えてみたい。

･ただしこの際重要となるのは、私たちが日常的に用いている「宗教」という概念が、近代において作られたものだという視点である。「宗教」（あるいは「非宗教」）という概念が、何らかの仕方で私たちのリアリティの一部をなしているとすれば、その概念を反省的に捉え直すことは有意義であり、また不可欠でもある。そしてこのような視点は、「日本思想」や「東洋思想」と呼ばれてきたものについての批判的反省を促すことにもなるだろう。

･そこで本講義では、近年の「宗教」概念再考論などの成果を踏まえつつ、あらためて近代日本思想へとアプローチすることを試みる。思想史を「逆撫で」しながら考えていくことで、私たちのリアリティがどのように構築されてきたのかを確かめることが本講義の目的となる。

授業の到達目標

･「宗教」概念を反省的に捉え直す視点を身につけること。
･近代日本思想の基本的な流れを理解すること。
･近代日本思想の読解を通して、自分自身の生を再考すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　･学期末レポート。　･授業の中で扱った題材について自由に記述してもらう。
●**平常点**　40%　　･授業中に行う小レポート。　･授業の内容を理解出来ているかどうか。またそれについて自分で考えることが出来たかどうかを確認する。　･複数回行う小レポートには出席点も含まれる。
●**その他**　0%

科 目 名	人工知能とサイボーグ-先端テクノロジーを哲学する							
担当者名	高橋　透							
複合	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

昨今人工知能（AI)がおおきな話題となっています。この授業では、AIや先端テクノロジーを取り挙げつつ、サイボーグ学を講じます。サイボーグはもう、SFの世界の話ではありません。自分をサイボーグ化した研究者がいるし、サイボーグのパフォーマンスをしているアーティストもいる。それから、「バイオ･アート」という、バイオテクノロジーを用いた作品を作っているアーティストもいます。

この講義では、映画とアニメを観ながら、人工知能や来たるべきサイボーグ世界について想いを巡らしてみたいと思います。映画やアニメはすでに、機械を通じて、世界をサイボーグ化することなのですから。

扱う予定のテーマ以下の通りです：押井守『攻殻機動隊』＋庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』＋宮崎駿『となりのトトロ』、吉浦康裕『イヴの時間』、『マトリクス』、脳科学と脳のサイボーグ化、チャップリン『モダンタイムズ』、エドゥアルド・カッツの「バイオアート」、メタファーとしてのナノテクノロジーなど。

授業の到達目標

先端テクノロジーの現況ならびにその意義を各自理解し判断することができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　最終授業日に教場でレポートを作成してもらい、それを基準にして評価する
●**平常点**　0%
●**その他**　0%　　0

科 目 名	音から見ることばと文化　楽しい音と音声の世界							
担当者名	竹内　京子							
複合	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

音とことば、そして文化とのつながりを様々な観点から探る。例えば、ことばで使われる音声も耳の聴こえもひとりひとり違うのに、なぜお互い理解できるのか。よく聞こえない時、人はどうする？日常的に共通した音を聞いていると集団になるのか？音声だけでなく、音が我々の生活の中でどのように存在し、我々をつなぐよう機能しているのか、それらを受講者と一緒に考えるきっかけになるような内容を目指す。

授業の到達目標

音や音声に関する様々な分野の存在を知り、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　30%　　課題は初回の授業で説明する。第15回授業が提出期限である。
●**平常点**　30%　　授業中の小テストなど
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

http://francais.la.coocan.jp/　フランス語の部屋

科 目 名	東アジアの美術工芸　異文化との接触と変容する価値							
担当者名	楢山　満照							
複合	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「china」といえば陶磁器（やきもの)、「japan」といえば漆器、という意味があるように、東アジア世界の手仕事は、これまで西洋世界で驚嘆のまなざしで受け止められ、羨望の的にもなりながら、確固たる地位を築いてきました。そこで本科目では、主に東アジアの美術工芸に焦点を当て、それが異文化と接触し、受け入れられ、新たな価値を付加されてきた様相を追いながら、自他の文化理解を促す文化史的考察を試みます。

取り上げる対象は、金工品、陶磁器、玉器などになります。超絶技巧を駆使したそれらの作品群は、とりわけ中華帝国の威信そのものでもありました。そしてそれらは、東アジア文化圏での交流の場だけではなく、時には西洋世界との政治交渉の場において影響力をもつことさえありました。そのような東洋世界の作品群に対して、西洋世界は何を求め、それをどう理解し、どう利用してきたのか。本科目では、異文化交流の視点から、そうした芸術と政治の接点について分析していきます。

授業の到達目標

本科目は、異文化の接触と交流の場における美術工芸の作用を、文化史的な関心から分析するものです。よって、個別具体的な様式や技法の変遷といった歴史的考察に積極的に関心をもつ必要は必ずしもありません。ただし、「他者理解」という現代的で恒久的な問題について常に関心をもち、身近な美術工芸の話題をその問いに還元しながら、自ら主体的に考えていくことが求められます。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回に理解度の確認をおこないます。鑑賞のための基礎知識にとどまらず、異文化の接触と交流の場において、かつて美術工芸がどのように作用してきたのか、その具体例を理解し、自身の見解を明確に述べることができているかをみます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　出席および授業への主体的な参加。ここでいう主体的な参加とは、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	メディア論1　歴史から見るメディア							
担当者名	チェン　ドミニク　他／岡室　美奈子／長谷　正人／藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、メディア論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替でそれぞれの専門分野からメディアをめぐる諸問題について概説する。

「メディア」という言葉から、たとえばマス・メディアが連想されるかもしれない。が、「メディア」とはメッセージや情報の伝達媒体であるとともに、知識や感情を共有する手段でもあり、その意味では、書物、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画、マンガ、インターネット、携帯電話、iPod等はもちろん、人間の身体もまたメディアであると言える。(実際、メディアの単数形メディウムには、死者の言葉を伝達する霊媒という意味もある。)したがって、メディア論の研究対象はきわめて広く多種多様である。

この講義では、身体、テクノロジー、オカルティズムなど多角的な視点から、私たちを取り巻くさまざまなメディアのありようについて考察する。対象とするのは、テレビ、映画、演劇、文学、音楽、アニメ、メディアアート、CG、ロボット、ヴァーチャル・リアリティ、写真、地図、広告、落書きなど、私たちを取り巻くさまざまなメディアとその周辺の事象である。講義の内容は、当然、表象・メディア論系の身体論プログラム、イメージ論プログラムと密接な関わりを持つことになるだろう。

メディア論1では、歴史に目を向け、現在のメディアがどのように成立し発展してきたかを考察する。

授業の到達目標

メディアの多様性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回に理解度を問う試験を実施する。各教員がそれぞれの講義に基づいて出題し、受講者は計5題の中から1題を選択して論じる。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席状況を見る。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

冊子の「講義要項」をご覧の方は、詳細をWeb上のシラバスで確認すること。各回の担当者と具体的内容を記載しています。

科 目 名	メディア論2　メディアの現代的展開							
担当者名	長谷　正人　他／岡室　美奈子／チェン　ドミニク／藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、メディア論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替でそれぞれの専門分野からメディアをめぐる諸問題について概説する。

「メディア」という言葉から、たとえばマス・メディアが連想されるかもしれない。が、「メディア」とはメッセージや情報の伝達媒体であるとともに、知識や感情を共有する手段でもあり、その意味では、書物、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画、マンガ、インターネット、携帯電話、iPod等はもちろん、人間の身体もまたメディアであると言える。(実際、メディアの単数形メディウムには、死者の言葉を伝達する霊媒という意味もある。)したがって、メディア論の研究対象はきわめて広く多種多様である。

この講義では、身体、テクノロジー、オカルティズムなど多角的な視点から、私たちを取り巻くさまざまなメディアのありようについて考察する。対象とするのは、テレビ、映画、演劇、文学、音楽、アニメ、メディアアート、CG、ロボット、ヴァーチャル・リアリティ、人工知能、写真、地図、広告、落書きなど、私たちを取り巻くさまざまなメディアとその周辺の事象である。講義の内容は、当然、表象・メディア論系の身体論プログラム、イメージ論プログラムと密接な関わりを持つことになるだろう。

メディア論2では、メディアのリアルとは何か、メディアのポリティックスおよびメディアの現在と、それを取り巻く社会などについて考察する。

授業の到達目標

メディアの現代的展開を理解すること

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業の理解度を問う
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席点
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象文化の政治経済学1　メディアのエロス論							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「メディアはエロい！」――意外かもしれませんが、メディアは古来からエロスと深い関係にあります。洋の東西を問わず、覗き見を可能にしたり、他者の声を傍受するツール（＝メディア・媒体）に関する神話や伝説は枚挙に暇がありません。人形（フィギュア）やアンドロイド（ロボット）に対するフェティシズムの物語も無尽蔵にあります。なぜ人間はメディアを通して世界や対象を見ることに「萌える」のか？　なぜ現実や直接的なものよりも、メディア（媒介）を介した間接的なものや代替物、ヴァーチャルなもののほうに欲望を抱くのか？　そこには人間の本質にかかわる根源的な構造があるのではないか？　この講義では、こうしたメディアがもつ「エロス」について、芸術・思想・政治・経済・自然科学などの多様な知見を活用しながら考察し、なぜ「メディアはエロいのか？」という謎に迫ります。

授業の到達目標
メディアと欲望との関係について領域横断的な知識を身につける。
成績評価方法
登録者数によって変わります。40名以内ならばレポート、それ以上なら「理解度の確認の試験」。出席は取りません。

科 目 名	表象文化の政治経済学2　ヴァーチャル・リアリティの哲学							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
「ヴァーチャル・リアリティ」とは、コンピューターが生成するいわゆる「仮想現実」だけではない！　言語や社会、国家や貨幣、さらに言えば「心」でさえ「ヴァーチャル・リアリティ」とみなすことができると考えます。それらはいわば「伝統的」なヴァーチャル・リアリティであり、それらは「フィクション」でありながらも歴史的に人間を大きく拘束してきました。今日コンピューターが生成する「仮想現実」が問題になるとすれば、それはこうした伝統的なヴァーチャル・リアリティに電脳的なヴァーチャル・リアリティが加わってきて、その布置を変えようとしているからです。今日生じているのはヴァーチャル・リアリティの再編なのです。 本講義では、人間とは「ヴァーチャル・リアリティによって生きる動物」である（アリストテレスの「ロゴスを持った動物」という人間定義をもじって言えば）という見立てにもとづいて、人間と機械と宇宙のネットワークが織りなすヴァーチャル・リアリティの世界の根源性と奥深さを探究します。そのとき、生命や社会、人間や個は、物理法則に抵抗する「特異点」として、その価値を主張することになるでしょう。「ヴァーチャル・リアリティ」の言葉と概念を拡張することによって、物理宇宙から生命、心から社会・文化までをも貫く巨大なパースペクティブを構築することを目指します。
授業の到達目標
ヴァーチャル存在としての「人間」の可能性を、政治や経済、心や社会、文化や思想といった多層的な水準で理解すること。
成績評価方法
登録者数によって変わります。40名以内ならばレポート、それ以上なら「理解度の確認の試験」。出席は取りません。

科 目 名	映像メディアの社会学							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
映像メディア文化はいま大きな変化を遂げようとしています。20世紀を支配したハリウッド映画産業の大量生産式映画の大衆的受容体験やテレビ放送による生中継の国民的視聴体験といったようなマスコミュニケーション形式は、インターネットやデジタル放送やDVDなどのデジタル複製技術の隆盛によって変容しつつあります。大衆文化はいまやパーソナルな文化としてその姿を変えようとしているかのようです。この現代の映像文化の歴史的変容の意味を、過去の歴史的出来事を振り返って考え直してみようというのがこの授業の目的です。
まず最初に映画というメディアについて考えます。最初に映画を見た観客がどのような反応を示したかを見ることで私たちの常識とは違った映画受容のありようへの想像力を働かせます。さらにその後の映画がいかにして大衆を熱狂させるメディアとして成長していったかを考えます。
次に写真というメディアがいかなる社会的機能を果たしてきたかを、私的な写真と大量複製写真とを比較することによって考えます。
最後にテレビについて考えます。テレビというメディア文化がいかに20世紀後半の社会を作り出してきたかを考えます。
授業の到達目標
映像文化が自明のものではなくなること
成績評価方法
●**試験**　80%　　授業内容の理解度を問う
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代映画論　ハリウッドの現在							
担当者名	藤井　仁子							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
1990年代以降のハリウッド映画は、CG技術の普及、人種的・性的マイノリティからの権利主張を受けての政治的公正さ（PC）の導入などにより、内容面で深刻な変化を強いられました。それに加えて、DVDやケーブルテレビ、インターネット配信等の普及によって受容面においても、また複数の産業が業種・国家の境界を越えて結びつき巨大メディア・コングロマリットを形成したことによって産業面においても、根本的な変化が引き起こされました。本講義では、こうした新しい事態について具体的な作品分析の実践を通して考察します。 講義形式によりますが、受講生は授業と並行して各自で教科書を読み進めなければなりません。また、講義中に作品を全篇上映する余裕はないので、受講生は課題作品を事前に各自で見てから講義に臨むように（自分の眼で見ることなしに出席だけしても学習効果は期待できません）。
学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材」の育成を目指します。
授業の到達目標
上記のような現代の映画を取り巻く新しい状況にかんする知識と方法論はもちろんのこと、併せて映画学の基本発想についても学んでもらいます。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」として論述式の試験を行ないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

100年を超える映画史の遠近法のなかに「現代映画」を位置づけることを目指すので、ただたんに最近の映画だけが好きという人には向きません。

科 目 名	**アジア映画論**　中国映画をどう考えるか							
担当者名	刈間　文俊							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

講義

映画は国境を超えるというが、それは本当だろうか。超えるとすれば、あるいは超えたように見えるならば、それはどのように超えているのだろう。いちど異文化として映画を観察したとき、たとえば中国映画からは何が見えてくるだろう。映像表象を凝視することで見えてくるものを手掛かりに、いくつかのテーマを設定し、中国映画を横軸と縦軸から考えていく。横軸とは同時代の東西の比較であり、縦軸は映画史的な考察である。異文化としての映像、中国人はどのような映像を見て来たのか、映像の多重性、ナラティブの可能性、ニューウェーブ、ドキュメンタリー映画、映画の悪役、中国的美意識とはなにか等が、テーマとして想定されている。映像の紹介をなるべく多く行うとともに、複数回の課題映画の上映とそのレポートの提出により、レポートの講評を行いつつ、授業を進める。

授業の到達目標

映像を自明のものとせず、なぜ自分にはそう見えたのか、あるいは見させられたのか、映像を自覚的に見る意識を、普段は接することがまだ多くはないかもしれない中国映画を通して養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　講義終了時に指定する課題映画に関するレポートを最終レポートとする。
●**平常点**　60%　　課題映画の上映後に提出する複数回のレポートを平常点とする。
●**その他**　0%

科 目 名	**映像アーカイブ**　映画アーカイブの役割とその実際							
担当者名	大傍　正規							
表象	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画とその関連資料を網羅的に収集し、散逸や劣化等から防ぐために、安全な環境で保護し、長期保管を行う映画アーカイブの役割とその実際について、収集・保存・復元・公開等の具体例を示しながら、概説していく。

授業の到達目標

デジタル時代における映画アーカイブの使命と役割について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　講義の理解度を確認するとともに、アーカイブの考え方を各自の研究や活動に活かすため方法を考えることを期待する。
●**平常点**　60%　　毎回出席することを原則とする。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	**写真論**　写真とは何か——写真史入門							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

広告、グラビア、新聞、写メール……。私たちの身の回りには、さまざまな種類の写真があふれている。このように身近なはずの写真も、その本質は何なのかと、改めて問い直してみると、実は答えることが非常に難しい。同じ写真といっても、たとえばパスポートや学生証の証明写真と、火星探査機が宇宙から送信してきた画像との間に、共通点を見つけだすことは難しいだろう。このように被写体や環境の変化によって多様な姿を見せる点こそが、むしろ写真の本質なのだと言うこともできるのかもしれない。

そこで本講義は、19世紀に発明されたこの技術の、さまざまな応用例を歴史的に概観しながら、「写真とは何か」という問いに対する答えを見つけだすことを試みていく。それはすなわち、「写真」と呼ばれるものを通して、私たちが何を見てきたのかを問うことでもある。デジタル写真が隆盛を極める現代は、写真技術の歴史にとって決定的な変化がもたらされている時代である。この変化は、私たちが写真を通して見るものをも、これまでとは別の何かに変えてしまうのだろうか。写真の歴史を学ぶことで、本講が最終的に問い直すことを目指すのは、このような現代的な問いかけである。

授業の到達目標

写真史の大まかな流れを理解し、「写真」という言葉で名指されるイメージの多様性について考察を深め、その考察に基づいたレポートや写真作品を制作する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　レポートを提出してもらいます。課題や締切は授業内で指示します。

●**平常点**　20%　　コメントシート等によるフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	テレビ文化論							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

テレビとは何かを、具体的な番組のありようを通して考える。たとえば音楽を聴くのに、それを歌っている人間の姿を見ながらというのは、邪魔ではないか。しかしテレビを通してだからこそ表現される歌のありようが、沢田研二や山口百恵を通して実践されてきた。あるいはテレビを通して笑いの番組を作ることは無茶ではないか。会場の聴衆のなかにいてこそはじめて人は芸を楽しめるのだ。にもかかわらずテレビは、お笑いを主要なジャンルとして確立させてきた。このようにいま私たちが自明のものとしてみなしているテレビ文化を自明でないものとして見なすことを目的としながら、テレビの多様な表現を見渡していく。取り上げるのは、スポーツ中継番組、歌番組、クイズ番組、旅番組などである。

授業の到達目標

現在のテレビ文化を自明の文化とは見ないようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の理解度を問う
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%　　0

科 目 名	サブカルチャー論1							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サブカルチャーはしばしば、「サブカル」と略されて言葉にされる。けれど、そうした話法で単純に語られるのは正しいだろうか。たしかに「正しい」という価値や基準で、〈もの〉や〈こと〉を規定することが,そもそも、非サブカルチャー的だ。最初に書いておくが、「サブカルチャー」と「サブカル」はまったく異なる概念だ。言葉の概念を歴史的にとらえなければいけない。その具体的な、つまりサブカルチャーを構成する音楽や美術、コミックや映画をはじめとする多くの〈もの〉や〈こと〉に対し、イメージだけの視点でそれらを否定する、いわばハイカルチャーしか認めない者らがいる一方、肯定し、むしろその内側にこもる者（しばしばオタクと呼ばれる人たち）からも距離を置き「サブカルチャー」をあらためて考える。それが講義の全体を包括するテーマになるだろう。

授業の到達目標

いま現在ここにあるものは、突然、生まれたのではなく、ある系譜によって生まれたことを理解する。そのことによって、ものの見方、新しいものだけが、すぐれているのではないといった考え方を提示する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　50%　　授業の理解がどれほどだったか、そして、個々の関心領域について、どれだけ言語化できるか。
●**平常点**　50%　　出席はチェックします。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	サブカルチャー論2							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期で授業した概論から、さらに具体的現象を俯瞰し、サブカルチャーを様々な側面から捉え直す。たとえば、「サブカル」と「サブカルチャー」は異なる意味を持つ規定ではないかという考察は、サブカルチャーを歴史的に考えたのちにはじめて登場する考え方だ。そして、現在的な課題として浮上する。様々なサブカルチャー的な現象（ポップミュージック、ポップアート、映画、演劇、アニメ、コミック……）を引用しつつ現在を「サブカルチャー」、あるいは、「サブカル」というキーワードを通じて解読する試み。秋季の「サブカルチャー論2」では、70年代まで語った「1」を基礎にそれを展開して、さらに80年代へ、さらに90年代へ話を進め、現在的なサブカルチャーの役割を考える。

授業の到達目標

いま現在ここにあるものは、突然、生まれたのではなく、ある系譜によって生まれたことを理解する。そのことによって、ものの見方、新しいものだけが、すぐれているのではないといった見方を提示する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　50%　　授業の理解度と、自身の関心領域をいかに言語化できるか。
●**平常点**　50%　　出席はチェックします。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	オカルト芸術論　闇の文化史							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる「オカルト」は人を惹きつけてやまないと同時に、うさん臭いものと考えられがちである。が、実は文化の深層に地下水脈のように流れる知の源泉として、今日に至るまで多くの芸術家に思想的影響を与えてきた。オカルティズムは合理主義への強烈なアンチテーゼと言えるが、また同時に、たとえばかつては化学と錬金術が不可分であったように、幻燈や映画が死者や亡霊を視覚化する技術であったように、あるいは降霊術や念写が科学的な調査の対象であったように、オカルトは科学やテクノロジーとも密接に関わっている。

この講義では、ルネサンスから近・現代までを視野に入れつつ、オカルティズムという闇の文化史について学術的に考察する。「錬金術」「降霊術」「心霊主義」などの概念を押さえつつ、心霊写真やファンタスマゴリア、初期映画などオカルトとメディア・テクノロジーの関係を分析し、小説、演劇、詩、テレビ、映画、アニメなど多様なジャンルの作品を考察する。「ひとはなぜ亡霊を見てしまうのか（見たと思ってしまうのか）」という根源的な問題にも迫りたい。

講義

具体的な考察対象については、シェイクスピア、イェイツ、ベケット、ジョイス、コナン・ドイル、メリエス、川端康成らの文学・演劇作品のほか、『リング』、『もののけ姫』、『テンペスト』、『蟲師』、『シャーロック・ホームズ』、『雨の午後の降霊祭』、『アザーズ』、『フィネガンズ・ウェイク』などの映画、文学、アニメやマンガ、メディアミックスの作品も取り上げる予定。

授業の到達目標

UFOや超常現象などさまざまなメディアで安易に消費されがちな「オカルト」ではなく、ヨーロッパのオカルティズムの主要概念である「錬金術」「降霊術」「心霊主義」等を文化史のなかで正しく理解するとともに、メディア・テクノロジーとオカルトの関連を考察し、「隠された知」であるオカルティズムを欧米や日本の芸術作品のなかに見出し、その意味を考察すると同時に、なぜ多くの芸術家たちがオカルティズムに魅せられてきたのかを明らかにする。

成績評価方法

- **試験**　70%　　講義で解説した、オカルティズムに関する基本的な知識を身につけたかどうかを問う。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　30%　　3分の2以上の出席が必要。
- **その他**　0%　　0

備考・関連URL

毎回出席カードの裏にコメントを書いてもらう。授業に生かしていくことで、講義科目ではあるが、インタラクティヴなものとしたい。充実した（量ではなく質）コメントを期待する。

科 目 名	メディア・アートとデジタル表現　表現メディアの過去、現在、そして未来							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

なぜ人はものを創り、事象を表現するのか。この原初の問いを考えるためには、人がどのように創る方法そのものを鍛えてきたかという歴史を知ることが重要である。

メディア・アートとは、メディア（媒体）と人間の関係を浮き彫りにしてしまうような、自己言及的な表現全般を指す。

この意味において、メディア・アートはデジタル表現に限定されない。だから、ペンと紙のような太古から存在するメディアを使ってもメディア・アート的表現は可能である。

その上で、デジタル技術を用いた表現は何が特殊なのか。このことを深く理解するためには、現代のデジタル技術の新奇性に注目するだけではなく、人間がメディアとどのような関係性を構築してきたのかという歴史を知り、常に変容し続ける人間の知覚と認識、そして社会状況に注意を向ける必要がある。

この講義では、多くの作品やプロジェクトや研究成果を通じて、身体と言語という原初の「技術」の考察から始めて、文学、音楽、現代美術、そしてメディア考古学を経由しつつ、現代のインターネット以降のスマートフォンやVRディスプレイといった情報インタフェース、バイオテクノロジーに至るまでの歴史を振り返りながら、これからの時代の表現（アート）と技術（アルス）の可能性に光をあてていく。

授業の到達目標

メディアアートとは何か、どのような表現があるのか、その存在理由はどこにあるのかについて理解を深めると同時に、デジタル技術がどのように使われ、われわれの社会や文化をどのように変えつつあるのか、科学技術の発展と文化はどのような関係にあるのか、自分で気づき、考える力を身につける。

成績評価方法

- **試験**　34%　　期末試験を行う。講義内容を踏まえた上で自分の考えがきちんと展開されていることが重要である。
- **レポート**　33%　　メディア・アートの観点から任意の展覧会を鑑賞し、レポートを書くという中間課題を提出。
- **平常点**　33%　　出席を重視する。コメントシートでの講義に対するフィードバックを評価に加える。
- **その他**　0%　　0

科 目 名	デジタル・メディアと社会							
担当者名	キム　キョンファ							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、最も身近なメディアである携帯電話（スマートフォン）を入り口にデジタル・メディアについて学ぶ。メディア論、歴史社会学、情報社会論など、複数のディシプリンに基づいて、デジタル・メディアのあり方を検討する。理論と実践の両側面からメディア社会の可能性とリスクを理解することを目指す。単にデジタル・メディアについての知識を学ぶのではなく、

自らの問題意識を養うことを目指すため、レクチャーのみならず、受講生の間、受講生と講師の間のディスカッションを適宜に行う。

授業の到達目標

1. デジタル・メディアに関わるメディア論ならびに情報社会論の論点を体系的に理解する。
2. デジタル・メディアに関して浮上した様々なイシューを、理論と実践の両側面から立体的に理解する。

成績評価方法

●**試験** 50% 期末試験に基づき、評価を行う
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 50% 授業中のディスカッションへの参加、提出物などで総合的に判断する。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

・受講生数など、学期が始まってから分かる諸事情などによって、授業の詳細計画は変更されることがあります。

科目名	**身体論1** 身体/リアル/バーチャル							
担当者名	坂内 太 他／細馬 宏通／宮沢 章夫／村井 翔／和田 修							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、身体論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員5名が交替で各々の専門分野から身体をめぐる諸問題について概説します。

波瀾万丈な物語の最後が「全ては夢でした」と締めくくられることがあります。こうした結末の付け方は、夢と現実との境界が明瞭に認識される場が存在することを前提としています。しかし、物語の初めから「全ては夢の中の話」という仕掛けが明かされていながら、極めて「リアルな」感覚を与えるような物語もあるでしょう。あるいはまた、主人公が死者やバーチャルな世界の住人に出会ったり、自分の身体が異世界での変容を被ったりしていながら、それら一つ一つのディテールにおいて、この上なく「リアル」だと感じさせるような芸術作品に出会ったことはないでしょうか？ 実生活の睡眠においても、「自分は夢を見ている」と半ば自覚しながら、リアルな感覚を伴う夢を見ることもあるように思われます。

我々の身体にとって「リアル」とは何でしょうか？ 我々の身体を巡る「リアル」にはどのような多様性があり、逆にまた、どれほど多様なコンテクストに、我々の身体のリアルさは位置づけられているのでしょうか？ こうした問いを一つの鍵としながら、本講座では、リアルとバーチャル、人間機械論、身体の精神分析、人間と異形の者との接触や変身、幽霊、サイバーパンク、アニメ作品における〈ゴースト〉など、人間身体を巡る〈虚と実〉や〈夢幻と現実〉の境の探求を試みます。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、身体論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、「身体/リアル/バーチャル」の視点から、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 50% 講義を十全に理解した上で、身体論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。
●**レポート** 0% 実施しない。
●**平常点** 50% 原則として出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末の「理解度の確認」試験の採点対象とする。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

CourseN@viのお知らせ機能などを通じてフィードバックを行う。

科目名	**身体論2** 仮面/変身/人形							
担当者名	坂内 太 他／細馬 宏通／宮沢 章夫／村井 翔／和田 修							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、身体論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員5名が交替で各々の専門分野から身体をめぐる諸問題について概説します。とりわけ、演劇や芸能といった立場から身体の意味を論ずること、テクノロジーの進展につれて変わりつつある私たちの身体の意義を問い直すことという、二つの方向性で身体論について学びます。

演劇や芸能、パフォーミング・アーツは身体をメディアとする芸術です。戯曲そのものの文芸性と実際の舞台の芸術性とは、そこに身体が関わるか否かによって異なります。舞台の芸術性を支える要素にはどのようなものがあり、その中で身体はどのような重要性を担うのでしょうか。また、私たちはなぜ、演劇や芸能といった身体を使用したアートを必要とし、それを享受するのでしょうか。

また、現代では、テクノロジーが私たちの身体に入り込みつつあります。たとえば整形手術。これは、身体が自在に変更可能となることを意味しています。つまり、身体はソフトウェアとなるのです。身体は、もはや確実でリアルなものでなくなっていくのであり、ヴァーチャル化されるわけです。その他の様々なテクノロジーの進展についても、身体との関わりにおいて、私たちはどのように対処していくべきなのでしょうか。また、それらの問題が、様々な芸術作品や社会的な事象の中で、どのように表象されてきたのでしょうか。

こうした様々な点をふまえた上で、秋期の身体論は、とくに「人間の身体」と「仮面/変身/人形」というテーマの探求を試みます。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、身体論2の対象となりうる様々な作品・事象に関し、「身体/仮面/変身」の視点から、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 50% 講義を十全に理解した上で、身体論2の対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を

行っているかどうか。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　0%　　実施しない。
●**その他**　50%　　50

備考・関連URL

CourseN@viのお知らせ機能などを通じてフィードバックを行う。

科 目 名	**身体メディア論**　日本の古典芸能と霊魂							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

霊魂（幽霊・神霊）の存在を信じる人は少なくないようです。
日本の古典芸能とも密接な関係があり、霊魂を呼び出すのが古典芸能の機能ということもできます。
CGのない時代に、霊魂を表現するメディアとして、芸能の身体が最適だったのではないでしょうか。

この授業では、古典芸能における霊魂の表現を取り上げて、その特色を考えます。
※レポートでは、実際に霊魂が登場する芸能を見て、その特色を考えていただきます。
開講期間中に芸能を見に行けるかどうか、注意して履修して下さい。

授業の到達目標

霊魂の身体表現を通して、日本古典芸能の特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　100%　　開講期間中に霊魂の登場する芸能を見た上で、芸能と霊魂の関係について論じる。いつどこで何を見たのかを明示すること。
●**平常点**　0%　　とくになし。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	**バレエ・ダンス論**							
担当者名	桜井　圭介							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「ダンス」について考えていきます。「ダンス」と何か？「踊る」という「行為」が「カラオケで歌う」並みにありふれたものになっている今、あえてダンスを「見るもの」として、なんなら「芸術」として（「パーフォーミング・アーツ＝上演芸術」）、さらに言うなら「（身体による）思考」として扱うこと。
キーワードとしては、「規則・規律／自由・逸脱」「快楽／修行」「共同性／個人／公共性」「ノイズ」「ダイアローグ／モノローグ」「ファルマコン毒＝薬」「人間／機械」などなど。
具体的には、「自分で踊るダンス」（恋ダンス、よさこいソーラン、ヒップホップ、盆踊り）や今日の演劇・美術・音楽など「ダンスに隣接する表現」、体操を始めとするスポーツや格闘技あるいはデモやモッシュといった「ダンスと隣接する行動」を常に参照しつつ、歴史的に重要な／今日の先端的な「ダンス」を見ていきます。

授業の到達目標

ダンスを（「踊る」のではなく）「見る」という「特殊」な（？）作業を訓練することになるので、その能力の開発が目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末に課題レポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席は取りません。が、期末レポートで授業内容をどの程度理解したかが測られるでしょう。
●**その他**　0%

科 目 名	**オペラ論**　ドイツ・オペラへの招待							
担当者名	村井　翔							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ドイツ・オペラとは何かと言えば、ドイツ語の台本に作曲されたオペラのことですが、実際にはイタリア語台本に作曲されたモーツァルトの3つのオペラ・ブッファ（『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』）も含みます。この授業はモーツァルトの『後宮からの逃走』（1782）からツィンマーマンの『兵士たち』（1965）に至るドイツ・オペラの魅力をお伝えしようとするものですが、この種の授業はオペラのあらすじを喋ったら、ビデオを流しておしまい、ということになりがちなので、一回ごとにテーマを設定し、それに沿って二つの作品を組み合わせて話すことにしました。各回の「切り口」は社会思想史的なもの、精神分析的なものなど様々です。そして二つ目の作品については、ドイツ・オペラというジャンルの枠にはとらわれずに選びました。
オペラはすでに「終わった」芸術ジャンルで、今後も新作が書かれるとしても、ヴァーグナーやR. シュトラウスの新作初演が社会的事件となり、観劇のための特別列車まで仕立てられるような時代の再来はもはやありえません。それでも日本の伝統芸能などと違って、現代的な新演出によって過去の文化遺産に新たな生命を吹き込む余地がまだ残されていますし、音楽、文学、美術、舞踊が文字通り力を合わせる総合芸術であるオペラは確かにヨーロッパ芸術の一つの精華。食わず嫌いのまま終わるのはいかにも惜しいです。200年を概観するには、正直言って30作品では不足なのですが、ともあれ以下のテーマと作品名（ウェブ上のシラバス参照）にピンときたら履修してみて下さい。

授業の到達目標
レポートが提出できれば、とりあえずOKですが、全15回の講義を聞き終われば、オペラは「歌つきの演劇」ではないという私の主張が理解していただけるはず。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　以上、30作品のいずれかについて感想文を書いてください。 レポート提出はCourse N@vi上でのみ受け付けます。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	芸能論　古典芸能の「中央」と「地方」							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
日本の古典芸能というと、能狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃などがあげられますが、これはかつて行われていた多数の芸能が、中央（都市）で生き残った結果に過ぎません。
近世までの都市では、次々と新しい芸能が生まれて地方に伝えられ、それぞれの土地の文化のなかで独自の展開を遂げて今日に伝えられているものがあります。
現在、民俗芸能と総称される各地の芸能を通覧すると、かつて都市で行われていた頃の姿を知ることもできます。
この授業では、中世から近世の日本の芸能文化を、中央と地方という視点からとらえてみたいと思います。

※レポートでは「地方の芸能」を実際に見たうえで、古典芸能の伝承について考えていただきます。
東京23区と関東地方の政令指定都市は「地方」には含みません。開講期間中に「地方の芸能」を見に行ける方が履修して下さい。

授業の到達目標
「中央」と「地方」という観点から、日本の古典芸能の特色を理解する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　100%　　開講期間中に「地方の芸能」を見に行き、それを踏まえて日本の古典芸能の伝承の特色を論じる。東京23区と関東地方の政令指定都市は「地方」に含めないので、期間内に行われる地方の芸能の情報を把握し、実際に訪れることが必須となる。いつどこで何を見たのか明示すること。
●**平常点**　0%　　平常点は評価しない。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	パフォーマンス・スタディーズ							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
パフォーマンス・スタディーズは、様々な芸術ジャンルと関わりながら成り立っていて、ジャンルとして厳密な定義を下すのが難しいほど複雑に展開しているが、各々のアーティストが持つ身体が重要な点では共通している。パフォーマンス・スタディーズは基本的にはアーティストと観客が「いま、ここで」を共有する時間芸術・空間芸術だが、そのパフォーマンスは撮影・記録され、様々なメディアに流され、むしろ時間と空間を共有しなかった「より多くの第三者」の視線に晒される芸術でもある。この講義では、「パフォーマンス・スタディーズ」を取り巻く多様な議論の経緯と実際について考察する。なお、扱う項目については、受講生の理解と関心の度合いに応じて、適宜変更することがある。

授業の到達目標
上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、パフォーマンス・スタディーズの対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法
●**試験**　50%　　講義を十全に理解した上で、パフォーマンス・スタディーズの対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末の「理解度の確認」試験の採点対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL
Course N@vi等を用いてフィードバックを行う。

科 目 名	舞踊論　洋舞の移入・浸透と浅草オペラ							
担当者名	杉山　千鶴							
表象	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
日本モダンダンス史の前史に相当する浅草オペラを主に取り上げる。その前史として、1911年3月に開場した帝国劇場に設置された養成機関である歌劇部（同年8月～1916年5月末、途中「洋劇部」に改称）の概要と、そこにいかに西洋舞踊（バレエ）が移入されたのか、そしてその成果について技術特性に触れながら講義する。帝劇歌劇部は1916年5月末をもって解散するが、その後、バレエを身体に刷り込んだ元・歌劇部員の多くが活動の場としたのが浅草オペラ（当時は「浅草のオペラ」）であった。

この浅草オペラは1917年1月に浅草は常盤座で高木徳子一座が歌舞劇「女軍出征」（作・伊庭孝）を上演したのを嚆矢とし、同年秋に元・帝劇歌劇部員らが浅草・日本館に旗揚げした東京歌劇座をもってブレイクし、浅草という一地域のオペラから全国区の現象になるに至ったが、1923年9月1日の関東大震災以後急速に衰退し消滅する。この浅草オペラでは日本のモダンダンスのパイオニアが試作的段階の作品を発表した他、多くの舞踊作品が上演された。本講義では上演の場である浅草オペラについての理解を深めるために概要やこれにまつわる様々なトピックと共に、上演された舞踊や舞踊の位置づけについても扱う。日本における洋舞の移入と浸透について考えることとなろう。

授業の到達目標

異文化の移入と浸透について、一つの事例をについて理解すること。並びに他の事例についての関心を喚起すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回における理解度の確認による
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　50%　　出席点およびリアクションペーパー

備考・関連ＵＲＬ

講

上記授業計画は、場合により変更となることがある。初回授業のガイダンスでは、授業に関わる事項を記載したプリントを配布する。初回に欠席した者は、第2回目意向に必ずこのプリントを取りに来ること。
なお浅草オペラの雰囲気を知る一助として音響では以下の2点などがある。
CD「浅草オペラからお伽歌劇まで〜和製オペレッタの黎明〜」（ぐらもくらぶ、B01DVG05AE）
CD「あゝ浅草オペラ　女軍出征100年と魅惑の歌劇」（ぐらもくらぶ、B071VBHSBP）

義

科 目 名	**精神分析入門**　映画で学ぶ精神分析							
担当者名	村井　翔							
表象	２単位	春学期	月曜日	６時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

精神分析はもはや過去の学問です。その本来の用途であった心の病気の治療に関しては、精神分析はその歴史的使命をほぼ終えたと言ってもいいでしょう。では、そんな終わった学問になぜ今さら「入門」する必要があるのでしょうか。理由の第一。自分がエセ科学であることを良く自覚していた精神分析は「事後性」「重層決定」「転移」といった用語に代表される自らの解釈手順の自己反省、いわば科学批判の契機をふんだんに含んでいました。フロイトは現代思想の始祖と言われますが、われわれの目の前に見えるものは決して「実体」ではなく、常に既に「痕跡」でしかないという認識を現代思想にもたらしたこと、この一点だけをとってもフロイトの業績は不滅と言えるのです。

理由の第二。「心の中心は自我（意識）にあらず」という革命思想とあいまって、精神分析のある種の分かりやすさは多くの20世紀知識人を魅了してきました。そのため精神分析的な発想は現代人の一般教養の一部となってしまっていますし、精神分析的な解釈がわれわれの「腑におちる」現代社会の現象もまだ多いのです。たとえば、現代日本の言論界において「心の闇」などという言い回しが何の留保もなしに流通してしまっている事態にも精神分析の根深い影響力を見ることができるでしょう。近年のハリウッド映画でも、主人公がトラウマ（心の傷）を抱えていて、それを克服することが映画の重要なサブ・ストーリーになるというような精神分析的設定が常態化しています。副題に反するようですが、この授業では映画を例にして精神分析の理論を説明するというよりは、逆に映画を通して20世紀における精神分析の受容のされ方を批判的にふり返ってみたいと思います。

しかし、そのためにはまず精神分析の正しい理解が欠かせないので、最初の三回はフロイトのテクストをまじめに読みます。映画を援用するとしても、第3回までは説明のための補助手段に過ぎません。一方、第4回以降は名だたる「心理的」映画の名作がずらりと並んでいます。スラヴォイ・ジジェクのようなカッコいい話は到底無理ですが、何らかの面白い視点を皆さんに提供できればと思います。

授業の到達目標

レポートが提出できれば、一応OKですが、以下のような精神分析の基本用語については分かるようになってもらいたいと考えています。「抑圧」「転移」「事後性」「重層決定」

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　上記15作品のいずれか、または皆さんの選んだ「心理的」映画の感想を書いてください。 レポート提出はCourse N@vi上でのみ受け付けます。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	**イメージ論1**　イメージを考える							
担当者名	石岡　良治　他／大石　雅彦／奥間　政作／丹尾　安典／橋本　一径							
表象	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「現代はイメージの時代である」と言われだしてから久しいのですが、イメージとは何かということを考え始めると、意外にわかっていないことに気がつきます。

確かに、自分や恋人のイメージ（心像）、画像や映像のイメージ、比喩表現としてのイメージ、大学や企業のイメージ（印象）、夢の形象性、シミュラークル・ハイパーリアリティとしてのイメージといった具合に、イメージはわれわれの生活の隅々にまで拡く深く浸透しています。それにもかかわらず、またそれゆえに、イメージはかぎりなく捉えがたいのです。

イメージが捉えにくいのは、それが物質、知覚、観念、表象のいずれでもなく、そしてこれらのいずれでもあるからです。このヌエ的なものがイメージなのです。そして、われわれにとって重要なのは、イメージが想像力に導かれてやってくることです。想像力と緊密に結びついているために、イメージはわれわれがリアルと考えるものからつねにズレたりブレたりします。このズレ、ブレの中に、リアルなものを考えるための重要な手掛かりも隠されています。

イメージを共通テーマとしながら、5人の講師がそれぞれに具体的なイメージ表現について語ってゆきます。

「建築空間とイメージ」（丹尾安典）：赤門や安田講堂が東京大学のイメージを形作るように、また大隈講堂や演劇博物館が早稲田大学のシンボリックなイメージとなっているように、建築もまたイメージの考察のなかで重要な役割をになっています。この講義では早稲田が生んだ代表的な建築家である村野藤吾と今井兼次の作例をとおして、建築空間とイメージのかかわりについて理解をうながしてゆきたいと思っております。

「イメージにみる南洋1」（奥間政作）：南国に憧れたゴーギャンの如く、日本にも南洋に強い憧れをもった土方久功のような美術家たちが多く存在していました。こうした作家による作品の読み解きを通じて、近代日本における南洋表象のありようを探ります。

「イメージ論の輪郭1，2」（大石雅彦）：古代ギリシア・ローマから現代までのイメージ論の変化をたどります。あわせて、自我＝イメージの形成についても説明します。説明の合間に、具体例をはさんでいきます。また、美術展・新作映画の紹介も毎週行います。

「イメージの背景1」（石岡良治）：洞窟壁画が壁面を必要としているように、イメージの歴史は同時に「イメージが何に描かれてきたのか」についての歴史でもある。絵の支持体の形状、額縁、装飾文様などについて考えることで、イメージの背景に目を向けることをめざす。

「指紋イメージ論」（橋本一径）：自分の全身は鏡や写真などのイメージを通してしか見ることができないことからも明らかなように、「アイデンティティ」とはそもそもイメージであるといえます。「指紋」はそのようなアイデンティティのイメージとして、今日においてますます重要な役割を果たすようになっています。この「指紋」の歴史を通して、イメージとしてのアイデンティティの意義を考察します。

授業の到達目標

イメージ研究のための基礎知識の獲得および応用的思考の養成

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回の授業時に教場試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席およびコメントシートを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	イメージ論2　イメージを考える							
担当者名	石岡　良治　他／大石　雅彦／奥間　政作／丹尾　安典／橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「現代はイメージの時代である」と言われだしてから久しいのですが、イメージとは何かということを考え始めると、意外にわかっていないことに気がつきます。

確かに、自分や恋人のイメージ（心像）、画像や映像のイメージ、比喩表現としてのイメージ、大学や企業のイメージ（印象）、夢の形象性、シミュラークル・ハイパーリアリティとしてのイメージといった具合に、イメージはわれわれの生活の隅々にまで拡く深く浸透しています。それにもかかわらず、またそれゆえに、イメージはかぎりなく捉えがたいのです。

イメージが捉えにくいのは、それが物質、知覚、観念、表象のいずれでもなく、そしてこれらのいずれでもあるからです。このヌエ的なものがイメージなのです。そして、われわれにとって重要なのは、イメージが想像力に導かれてやってくることです。想像力と緊密に結びついているために、イメージはわれわれがリアルと考えるものからつねにズレたりブレたりします。このズレ、ブレの中に、リアルなものを考えるための重要な手掛かりも隠されています。

イメージを共通テーマとしながら、5人の講師がそれぞれに具体的なイメージ表現について語ってゆきます。

「でろり論」（丹尾安典）：われわれの感性は「美」の教育によって、飼育されてきています。しかし、そのなかで埋もれかけてしまった生身の表現を回復しようとした人たちもいます。この講義では、美の既製品をしりぞけて、自分の実存を賭けたイメージを生みだそうとした人たちについて語ろうと思っております。

「イメージにみる南洋2」（奥間政作）：明治期のいわゆる「からゆきさん」から戦前の「大東亜共栄圏」を讃えるプロパガンダ映画まで、南洋地域のイメージは様々に表象されてきましたが、こうした表象が戦後の日本にどのような影響を与えたかについて文学・博覧会・映像を通じて考察します。

「イメージ論の輪郭1，2」（大石雅彦）：古代ギリシア・ローマから現代までのイメージ論の変化をたどります。あわせて、自我＝イメージの形成についても説明します。説明の合間に、具体例をはさんでいきます。また、美術展・新作映画の紹介も毎週行います。

「イメージの背景2」（石岡良治）：現代社会におけるイメージの氾濫状況を把握するためには、イメージの由来についての批判的考察を必要とするだろう。写真誕生以降の「産業」とのかかわりに触れつつ、デジタルイメージのあり方について様々な作品を通じて考察する。

「変身イメージ論」（橋本一径）：「制服ディズニー」や「ハロウィン」など、「変身」がブームになりつつある。「制服」「なりすまし」などのテーマを手がかりに、変身の問題とイメージの関わりについてを考察する。

授業の到達目標

イメージ研究のための基礎知識の獲得および応用的思考の養成

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回の授業時に教場試験を実施します。
●**レポート**　0%

●**平常点**　40%　　出席やコメントシートなどを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	イメージのリテラシー1　消費社会と視覚文化のリテラシー							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

インターネット環境が普及し、スマートフォンによる動画の視聴が日常の一部となっている現代を、イメージが氾濫する「情報過多の時代」とみなすことができるだろう。だが文字の読み書き教育すなわち「リテラシー」と比べると、イメージについての批判的考察すなわち「イメージのリテラシー」は、相対的に立ち遅れる傾向にある。本講義は消費社会における視覚イメージの役割について、肯定的側面と否定的側面の両者をふまえた歴史的察を行うことで、「イメージのリテラシー」を高めることを目指す。

講義前半では、現代における「教養」と「文化」の役割の変動について学んだ後、1950年代アメリカにおける大衆消費社会の様相を検討することで、現代と共通する側面・すでに「過去」となった側面・今なお汲み尽くされていない側面（未来の要素）について考えていきたい。次に、「メロドラマ」と「ノスタルジア」の消費をめぐる諸問題を考察する。いずれも「現代の視点からの再解釈」を重視した系譜学的なものとなるだろう。

講義後半では、文化における「ホビー」の位置付けについて考察しつつ、文化批評における「○○文化は好きだがファンが苦手」という事態が頻発するケースを手がかりに、「ファンコミュニティ」が担う解釈共同体としての役割について学ぶ。また、コンテンポラリーアートが物議を醸すことが多い理由として、美醜の尺度を問い直す側面から考察する。最後に、近年の文化表象における「ポリティカル・コレクトネス」をめぐる議論についても考えてみたい。

授業の到達目標

消費社会と視覚文化の関係を掘り下げることで「イメージのリテラシー」獲得を目指す

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末レポート
●**平常点**　30%　　コメントシートやアンケートの内容で判断
●**その他**　0%

科 目 名	イメージのリテラシー2							
担当者名	竹田　恵子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

インターネット環境が普及し、スマートフォンによる動画の視聴が日常の一部となっている現代は、イメージの氾濫する時代と言ってよいであろう。しかし、文字の読み書き教育（リテラシー）と比べてイメージの批判的考察である「イメージのリテラシー」は相対的に立ち遅れる傾向にある。そこで、本講義では現代社会における視覚イメージについて的確に分析を行えること、すなわち「イメージのリテラシー」を高めることを目指す。

現代社会におけるマジョリティ/マイノリティについて主にジェンダー／セクシュアリティの視点から基礎的知識を学んだうえで、アート、ポピュラーカルチャーや広告、メディアにおける視覚イメージの考察を具体的事例を用いながら行う。

授業の到達目標

歴史的な論点、理論をふまえながら、現代社会における視覚イメージのリテラシーを獲得することを目指す

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末レポート（詳細は授業中に説明する）
●**平常点**　50%　　授業態度やコメントシートの内容から総合的に判断を行う
●**その他**　0%

科 目 名	性とイメージ　エロティシズム：映画×美術×ダンス×音楽×ファッション							
担当者名	大石　雅彦							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、芸術作品にあらわれた性愛表現をみてゆきます。ひとくちに〈性愛〉といっても、そこには、エロティシズム、セクシュアリティ、ジェンダー等の要素が複雑微妙に絡まり合っています。したがって性愛表現を読み解くには、それなりの理論的準備が必要になります。

講義では、タナトス／エロス、エディプス・コンプレックス、去勢コンプレックス、サディスム／マゾヒズム、多形倒錯、人形愛・逆人形愛、フェティシズム、トランスジェンダー・セクシュアリティ、エクスタシー（脱自・法悦）、等々が鍵となっている作品を扱います。

まず最初の3回の授業で性愛を考えるさいに必要となる、一般的な理論・ことがら（フロイト、ラカンの性別化、バタイユ、フーコー、タントリズム、エクスタシー［脱自・法悦］、等々）について概略を説明します。この3回をさぼると、のちの授業でまごつくことになるので、注意して下さい。それから、いよいよ作品を鑑賞することになります。そのさい、最初に作品を見てもらい、そのあとで作品にコメントを加えながら理論的な説明をします。取りあげる作品は、いずれもいわゆる「市民社会」の論理・倫理を逸脱するものばかりです。原理的に、性愛表現は多形倒錯的で酷薄なものです。

刺激の強いグロテスクな作品も含まれているので、よく考えたうえで履修して下さい。

■

今まで扱ってきたシネマ、アート、事象、今年度扱う予定のものとしては、以下のものがあげられます。受講者の志向・反応

をみながら、一回一回慎重に作品を決めてゆきたいと思います。
《薔薇の葬列》（松本俊夫）、《ファスター・プッシーキャット・キル！キル》（ラス・メイヤー）、《ピンクフラミンゴ》（ジョン・ウォーターズ）、《愛の嵐》（リリアーナ・カヴァーニ）、《ソドムの市》（パゾリーニ）、《ナイトレイト・キス》（バーバラ・ハマー）、《W.R.：オルガニズムの神秘》（マカヴェイエフ）、ジョエル＝ピーター・ウィトキン、ハンス・ベルメール、バルテュス、三浦悦子、空山基、豊浦正明、ロマン・スロコンブ、『Sex Pistols』、『テンペスト』、シュルツ、谷崎潤一郎、ファッション《身体の夢》、ルブタン、マノロ・ブラニク、メヴレヴィー教団の回旋舞踊、等々。

■

なお授業の最終日（予備日）には、希望者にパゾリーニ《ソドムの市》をみせます。
今年度もゲストを考えています。これまでには、ヴィヴィアン佐藤、ろくでなし子、都築響一、大沼瞳（ヴァニラ画廊）、川合健一（エディシオン・トレヴィル）の各氏に来ていただきました。

授業の到達目標

性の理論と芸術における性表現の基本的理解

成績評価方法

●**試験** 50%　第14回目の授業で試験を実施し、理解度の確認をします。
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 50%　出席・レビューシート
●**その他** 0%　0

講義

科目名	戦争とイメージ　戦争の〈視（sight）〉——目撃、想像、幻視、不可視をめぐって							
担当者名	向後　恵里子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦争は、とにかくいつかの過去のこと、どこか他の場所のこと、自分とは遠いもの——そう感じる方は多いでしょう。身近に戦争の記憶を有する人は少なくなりました。それ自体はとても幸いなことです。その一方、私たちは歴史上の戦争について、教科書や歴史書を通じて知っています。いままさにどの地域で空爆が行われているかをニュースで見て知っています。兵士たちのヒロイックで悲惨な姿を映画で見て知っています。FPS（ファストパーソン・シューティング）ゲームで、戦場を駆けることも、知っています。　戦争は常にイメージとともにあります。それは、戦場に身を置かない人々の日常だけでなく、前線にのぞむ兵士たちにとっても同様です。戦場にあっては、対象の視認の可否が生死をわかつ時代が長くありました。戦場の視覚は兵器の技術的発達とともに変容し、砲火の飛距離、空爆の登場を経てさらに現代では宇宙空間へと拡散しています。肉眼をこえて戦場を"見る"ことができるのは、多様なイメージング技術によるものです。
現実と虚構のあいだ、虚実の輻輳するこの戦争のイメージ群は、戦争が戦場だけで完結しない近代以降の今日において、戦争遂行の重要な要素であるばかりか、個人と社会と想像力とをむすぶ力を発揮して、いっそう重要度をましています。この戦争とイメージのむすびつきは、往々にして私たちの生と死をめぐる極限的な状況と不可分です。戦争において人々は勝利と栄華の夢を見ますが、それは同時にだれかを殺すこと、殺されること、しかも大量に、という暴力と死のイメージに結びついています。戦争のイメージは、この夢をいかに見せ、そして避けられない死（だれかの／自分の）にどのように直面させるか、または隠蔽するのかに深くかかわってきます。イメージの力が、大きくふるわれるのです。
＊　本講義は戦争とイメージの不可分の結びつきとして、その〈視（sight）〉のありかたに注目し、社会とイメージの地平をとらえようとこころみます。キーワードは目撃、想像、幻視、そして不可視です。戦争に人はなにを見たのか。なにを見たと思ったのか。そして、なにを見なかったのか——戦争とイメージをめぐる問いを、ここからはじめましょう。

授業の到達目標

本講義は、美術史や視覚文化論、表象文化論、メディア論、文化社会学といった領域を戦争という具体的な観点から横断的にむすび、イメージの有する政治的・社会的な性格へ注目しながらその力学をとらえる、イメージ学の応用的ケース・スタディをおこないます。したがって、戦争というテーマにもとづく複合的な視点の獲得を第一の目標とします。
最終的な目標は、自分自身の、また私たちの社会の、見えるもの・見えないものについての新たな批評的観点の涵養です。イメージとともに生き、またイメージによって殺し・殺される私たちの姿を再検討していきます。

成績評価方法

●**試験** 0%　行いません。
●**レポート** 50%　学期末レポートを課します。
●**平常点** 50%　毎回のコメントや授業参加を総合的に判断します。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

本講義は応用的な授業であるとはいえ、史実と虚構をともに重視しながら、それらを結ぶ具体的なイメージをとりあげて考えるこころみです。したがって、イメージについて学ぶ初心者にとっても入門しやすいと思います。歴史と社会とイメージについて、戦争という場にたちあがる夢と現実に興味のある方の受講をはばひろく歓迎します。

科目名	イメージと祝祭　イメージと「観ること」							
担当者名	菅　香子							
表象	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イメージを「見る」「観る」ことは、人々に何をもたらしてきたのか。また、絵画はどのようにして生まれ、私たちに何を見せてきたのか。絵画について、「描くこと」と「観ること」の両方の観点から考察し、絵画・イメージの変遷を辿りながら、私たちにとって絵画や写真を含めイメージとは何だったのかを検討する。そして、見ること（観ること）の政治性、共同性、祝祭との関連性について探る。

授業の到達目標

絵画や写真のイメージを意識的に捉え、イメージとは何なのかを自分で考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%　－
●**レポート** 0%　ただしレポートによる評価を希望する場合は応じます。
●**平常点** 100%　毎回の授業の後に短いコメント・感想などをCourse N@viのレビューシートに入力して頂き、それをもとに評価します。
●**その他** 0%　－

科 目 名	デザイン論　Design of WHAT ?							
担当者名	加島　卓							
表象	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

デザインは自分で作れないものを誰かに作ってもらうことである。こうしたギャンブルみたいなことを、私たちは様々なジャンルで当たり前のようにやっている（グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、コミュニケーションデザイン…）。本講義ではどうしてこんなギャンブルみたいなことを止められないのかに注目し、私たちはデザインという名において一体何を達成しているのかを具体的に検討しながら、デザインに関する基礎知識や基本的な考え方を身につけていくことにしたい。

授業の到達目標

この授業では、社会学の立場からデザインについて論じていく。そのために授業の前半では、デザインの基礎知識および社会学やメディア論の考え方を身に付ける。授業の中盤では、様々な事例を紹介しながら、デザインという職業への理解を深めていく。授業の終盤では、価値の多様化およびグローバル化が進む現代社会のデザインに対していかなる考え方があり得るのかを示していく。これらを通じて、デザインという融通無碍な言葉を使い続ける私たち自身への理解を深めていくことが最終的には目指される。

成績評価方法

●**試験** 70%　講義の内容を踏まえ、自らの考えを展開できるかどうかを評価します。
●**レポート** 0%　ありません。
●**平常点** 30%　出席点やコメントなどで評価します。
●**その他** 0%　0

科 目 名	広告イメージ論							
担当者名	岩切　信一郎							
表象	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

広告はメディアを必要とし、メディアは広告に支えられて来た歴史をもっている。本講義では商品広告・情報広告における、文字・絵画・デザイン・写真による表現で表象された紙媒体広告をおもに扱う。広告すべき事やモノを消費者にどのように伝達してきたのか、広告の作り手の側がイメージしたものは何であったのか、検討したい。15回の内で、前半が広告の基礎基本の理解で、5回程度をあてる。残りの後半は「広告の歴史編」で主に日本での広告の展開の歴史をたどり実例を示す。もちろん欧米の広告史にも触れ、現代広告の現状（状況）にも言及しつつ授業を進める。日本の商業美術、広告とメディア、印刷などの歴史的展開をも補足しながら、広く「広告の意義」を考えたい。広告は時代の鏡、時代の反映でもある。こうした観点も大事にしたい。

授業の到達目標

授業内容をよく理解し、広告に関する理解を深め、「広告」に対する自らの考えを持つことを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　平常点での評価
●**レポート** 0%　平常点での評価
●**平常点** 100%　授業の出席状況や理解度、課題への取り組みや熱意、努力などの総合的判断。授業時記述での理解確認、課題への回答といった小テスト等を3，4回実施する。
●**その他** 0%　0

備考・関連ＵＲＬ

授業への積極的な各自の取り組みを歓迎し、期待します。

科 目 名	アニメーション文化論　アニメーションの中の「アニメ」							
担当者名	石岡　良治							
表象	２単位	秋学期	火曜日	６時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

多種多様なアニメーション表現を、実写映像との緊張関係をふまえつつ概観したあと、マンガとの密接な関係をもつ日本の「アニメAnime」の特性について考える。しばしば静止画像が多用されるなど、「平面の美学」を発達させてきたといわれる「アニメ」表現は、CG表現の普及によって大きく様相を変えている。そこでは従来の「実写vsアニメーション」という対比も再定義を余儀なくされるだろう。本講義はこうした展望に基づき、主として物語表現の媒体としてマンガやゲーム文化と結びつき展開してきた「アニメ」を、視聴覚イメージとして検討することによって、現代のアニメーション文化への再定位を試みる。

授業の到達目標

1現在のメディア状況を踏まえつつ、アニメーション史のなかのアニメについて考察し、現在起きている表現上の変容を捉える

2「無生物に魂を吹き込むこと」を原義とする"Animation"の歴史における「アニメAnime」に顕著な性質を、日本特殊論に陥ることなく批評的に捉え返す

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　コメントシートやアンケートの内容。および小レポート。小レポート提出を学期末レポートの条件として課す。
●**その他**　0%

科 目 名	実物のアウラ　質感の認識							
担当者名	丹尾　安典　他／岩切　信一郎							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
われわれはパソコンを通じ、いとも簡単にさまざまな情報を手に入れている。しかし、絵画情報を例にあげるなら、それらは液晶画面に翻訳されたものであって、実物の絵画そのものではない。恋人の写真に向かいあうことと、実際の恋人を前にすることとの間には、大きな差異がある。この講義では、実物のみが放ちうる特質を、受講者各人に体感させつつ、その意味を考察する手がかりを与えてゆく。実物にしか宿らぬ質をしっかりと見つめ、把握してゆくことは、コンピュータ社会の渦に呑みこまれぬための足場を築くことにもつながるであろうし、受講生それぞれがたしかに保持している触覚的な認識を再確認してゆくことにもなるだろう。
講義は丹尾・岩切のふたりが担当する。
丹尾は、実物の大きさや重さ、質感などに焦点をあてながら、実物の放つアウラを実感的に把握し、モノそれ自体にしか宿らない質について考えてゆく。
岩切は、江戸時代の浮世絵や明治以降の版画、印刷物などを中心に、「実物」を紹介しながら講義をすすめる。紙や墨やインクなどの物質が、それぞれの特性をおびて顕現してくることに理解をうながしたい。
なお、適宜展覧会の見学も課題として指示する。

授業の到達目標
複製メディアでは伝わらぬ実物の質感に託されたメッセージを把握する感性と知性を培うこと。

成績評価方法
●**試験**　80%　　実物からのみ伝達されるコトの理解度による評価
●**レポート**　0%　　試験とするので基本的にはレポートは課さないが、受講者数が少ない場合には、レポートにする場合もある。
●**平常点**　20%　　展覧会見学を課すことがあるのでその場合にはその実行を評価判断に含める。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	コンテンポラリー・アート　眼の現代							
担当者名	丹尾　安典　他／石井　香絵							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
いまの美術は理解できない、と多くの人がいう。過去の表現よりも、自分たちと同時代の表現がわかりにくいということは、浪花節はシビレルけど、ラップはピンとこない、といっているようなもので、ちょっと変なのである。現在進行形の表現と、現在進行形で生きている自分たちとの接続が、なんだかうまくいっていないような具合である。この授業では、受講生たちに、今日の表現にアクセスしうる接続回路をととのえていくことをこころみる。

授業の到達目標
現代美術が現代を生きる我々の現代の問題と密接に結びついていることへの理解を深めること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　レポートが不可能になった場合には試験を課すこともある。
●**レポート**　70%　　授業で見た作品の理解度を基本とする評価
●**平常点**　30%　　展覧会見学やコメントシートの提出などを課すことがあるので、それも評価判断にいれる。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL
毎時間、スライド使用。

科 目 名	比較イメージ論　東洋文化をめぐる視覚イメージ							
担当者名	濱田　瑞美							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
視覚イメージは、言葉では尽くしきれない膨大な情報を、目にした瞬間に伝えることのできる媒体である。例えば2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムは、大会ビジョンとともに、世界の中での「日本」「東京」の存在意義を強烈に印象付けていくものである。それらは具体的にどのような形：イメージで視覚化されたのか。
一つの視覚イメージを前にした時、日本に在住する我々は、東洋の伝統文化のなかで培われた古典イメージを無意識に感じつつ、あるいはそれとの比較によって、そこに託されたメッセージを受け取るだろう。一方、同じ視覚イメージでも、東洋文化圏外の例えば欧米人は違った受け取り方をする可能性がある。視覚イメージの解釈は、見る者をとりまく文化によって異なることも念頭に入れておきたい。
いつ、どこで、誰に向けて、どのような目的でつくられたのか。視覚イメージの理解には、それが形成された社会・文化における古典的・シンボル的なイメージとその意味を探るとともに、さまざまに比較・分析しながら読み解く手法が有効であるといえる。またそれは視覚イメージをめぐる文化や、イメージの歴史的な形成過程をあぶり出す作業に他ならない。
本講義では、日本を含めた東洋において形成された視覚的イメージについて、諸方面から比較分析して多角的に読み解く。東

洋文化の特徴の一つである「書」をめぐるイメージ、「石」「山」をめぐるイメージ、および宗教美術における東西のイメージ比較を通して、東洋文化の様相の一端を明らかにしていく。

授業の到達目標

視覚イメージの比較・分析の手法を理解・習得する。
東洋イメージの形成について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　比較イメージの諸問題のなかで各自の興味に沿ったテーマを選んでレポート作成、学期末の提出を求める。
●**平常点**　50%　　教場での質疑応答など授業に取り組む姿勢や、授業後のレビュー・コメントによって評価する。
●**その他**　0%

講義

科 目 名	演劇文化論1							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

主として、六〇年代以降の現代演劇を取り上げるが、それ以前、そこに普遍性があるという意味でギリシア悲劇についても考えたい。そのことで、演劇をより、歴史的に深い場所から知ることができるのではないか。あるいは、坪内逍遥がいかに日本語と格闘して、言文一致にたどりついたか。演劇を狭い範囲で認識するのではなく、様々な視点から見つめることで、また新たな「演劇観」が生まれると考える。

授業の到達目標

もし「演劇知」という言葉があるなら、そのことによって、社会をあらためて見つめることができるのではないか。娯楽を否定するつもりはまったくないが、もっと異なる「知」をこの授業を通じて獲得してもらいたい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　講義内容を、どれだけ理解し、把握できたかを確認する。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　50%　　授業への貢献度、出席などを確認します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	演劇文化論2　人形とホラー番外編							
担当者名	菊地　浩平							
表象	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

一般的に人間と「人形」の間には、有機物と無機物という越えられない壁がそびえ立っていると考えられています。

その一方で、我々は「人形」を見てしばしば、「彼ら」がその一線をもしかしたら越えてくるんじゃないかという不安や喜びに駆られてしまいます。そうした話を聞くと、1988年に公開された傑作人形ホラー『チャイルド・プレイ』のように、持ち主の少年アンディの肉体を奪おうと凶器を手に襲いかかる「チャッキー」を思い浮かべる人がいるかもしれません。

もちろんチャッキーもとても重要（だし私も大好き）なのですが、例えばAさんにとって極めて重要な「人形」が存在するとして、それを知らないBさんが「人形」をぞんざいに扱い、Aさんはとても気分を害したとします。そのことが原因で両者の関係が悪化、するばかりかAさんから何らかの「リアクション」がなされた場合、Bさんは「不安」を覚えるでしょう（取り返しのつかない事態になることもあるかもしれません）。その場合、Bさんにとって「人形」は単なる「モノ」ですが、Aさんにとっては全く異なる「モノ」以上の存在であり、十分に「一線」を越えているといえます。

つまりこの「人形」にはAさんの主観が投影されており、本来触ることも見ることもできないはずのものを垣間見ることが出来るのです。人間の主観を言語化するには一定のハードルが付きまとうものですが、それをしていくためのひとつの手がかりとして「人形」について考察することは一定の意義があると考えました。

というわけで本講義では諸作品、諸事象をじっくり鑑賞／観察し、とりわけそこで「人形がどんな役割を担い、なにを媒介しているのか」を検討することで、「われわれ」について考察してみたいと思います。

その際対象となるのは、広義の演劇文化です。演劇と聞くといわゆる劇場でいわゆる俳優たちがいわゆる演技をして、それを見た観客が泣いたり笑ったり帰りたくなったりするものを思い浮かべる方がほとんどでしょう。しかし、シェイクスピアの『お気に召すまま』における「世界は劇場」というセリフにも象徴されていますが、演劇はいわゆる劇場という場所にだけ見出されるわけではありません。様々な時代の様々な場所におけるあらゆる人間の営みが演劇たりえます。（着ぐるみやプロレス、アイドル、Perfumeが講義予定に含まれているのはそうした事情によるものです。ほんとうです。） そこで、広義の演劇やその文化を取り上げながら、改めて人形について考えてみたいと思います。

取り上げる対象となるものの一例としては、人形劇、わら人形、腹話術、蝋人形、お化け屋敷、着ぐるみ、プロレス、アイドル文化（Perfume、ジャニーズ、芦田愛菜から天皇まで）などです。

※なお受講者の反応や人形をめぐる社会情勢等によって講義内容を変更することがあり、シラバス掲載の授業計画通りに進むとは限りませんので、その点はご了承ください。

授業の到達目標
「人形」や「ホラー」や「アイドル」について演劇文化論的視点からとらえるための基盤をつくること

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　講義で扱った内容を踏まえ、期末レポートを書いていただく予定です。（文字数は受講者数によって決定します。）
●**平常点**　50%　　3分の2以上の出席は最低条件ですが、それに加え、各講義の最後にコメントシートの提出を義務付けています。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ポスト／モダニズム論　ドゥルーズの『差異と反復』を読む							
担当者名	鹿野　祐嗣							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
★★注意：この授業は、ドゥルーズの思想あるいはフランス現代哲学を真剣に学びたい受講生のためだけにおこなうつもりなので、内容の密度と質は保証するが、他の授業に比べると負担はかなり大きくなる。必要な予習復習量、課題量も多い。哲学の知識がある程度ない場合、救済策はあるが、相当な覚悟がないと単位取得も難しい。履修の前に、こうした点をよく知っておくこと。★★

建築や美術の分野でならともかく、少なくとも哲学の分野においては、現在真っ当な研究者であればもう「ポストモダン」という語を使うことはない。モダニズムに対する「ポストモダニズム」や、構造主義に対する「ポスト構造主義」（あるいは「ポスト・ポスト構造主義」？）などといった曖昧でいかがわしい標語で何かを語った気になれる時代の空気は、もはや過去のものになりつつあるし、早晩その滑稽さを手厳しく批判されることになるだろう。少なくとも哲学研究にかんして言えば、これから必要になるのは、浮ついた「現代思想」的な戯れではなく、かつて不用意に「ポストモダン」と呼ばれて誤解されていた現代フランス哲学の文献を真摯に読解していくことなのである。

したがって本講義では、現代フランス哲学を象徴する人物の一人ジル・ドゥルーズ（1925-1995）の第一の主著『差異と反復』（1968）を精読し、その内容の思想史的な革新性と理論的かつ実践的な射程とを把握していくことにしたい。今年度は、主に第三章と第四章で展開される「超越論的経験論」に焦点を当てていくが、『差異と反復』は全体が一つの大きな体系をなしているので、他の章で扱われる事柄にも随時言及していくことになる（第一章の存在の一義性、第二章の出来事の時間、第四章と第五章の発生論など）。

ドゥルーズは『差異と反復』において、A＝Aという同一性の原理を不可侵の前提とすることなく、同一性によって媒介されない純粋な差異から出発する新たな哲学の体系を築いたことで知られている。その際にドゥルーズは、哲学史の再解釈を基軸に据えつつ、文学や精神分析、芸術、数学、自然科学、政治思想等の領野を自由に横断し、それらの知を巧みにコラージュすることで現代思想の新たな地平を切り開いた。それゆえ『差異と反復』は、その難解さと敷居の高さにもかかわらず、現代哲学や思想、文芸批評、芸術論等の理論的基盤をなす著作の一つとして、今でもなお変わらずに読まれ続けている。しかしながら、ドゥルーズが要求する背景知識の膨大さや論述構成の複雑さ、研究の日の浅さ、そして何より内容上の難しさから、『差異と反復』の哲学はいまだによく理解されていない。それどころか、思想の革新性を裏切るような誤解が蔓延しているとさえ言ってよい。したがって本講義では、ドクサにとらわれることなく、背景知識をしっかりと押さえつつ『差異と反復』のテクストそれ自体を精読する作業にたちかえることで、ドゥルーズの哲学を正確に把握する作業に取り組んでいく。それはまた同時に、ドゥルーズを取り巻く現代思想そのものを再考する作業にもなるだろう。

授業にあたっては、できる限り基礎的な内容から説明し、自習用に参考となる著作も紹介はしていくが、やはりある程度は哲学の知識があることが望ましい。哲学の知識がない場合は、相当な覚悟をもって授業に臨んでもらわないと単位取得は厳しいということを明記しておく。成績評価は、それぞれ5000字以上の中間レポートと期末レポートからおこない、中間レポートは添削して返却するが、出席点がつかない以上、ただ漫然と参加しているだけでは単位にならないであろうことも、先に明記しておく。

また、残念ながらあまり実感されていないのだが、現在の日本のドゥルーズ研究やそれを用いた批評の水準は、デリダやラカンの研究水準と比べて極めて低く、もはやほとんど研究とは呼べない水準の文献が溢れていると言わざるをえない。肯定的にせよ否定的にせよ、既にある程度ドゥルーズ哲学に対する何らかのイメージをもっている人は、そのイメージ自体が偽物である場合が多いことを指摘しておきたい。よって、本講義に「現代思想」的な批評や研究ごっこの延長を期待しても、それは叶わぬ望みである。ただしその代わりに、ドゥルーズ哲学それ自体がもつ唯一無二の革新性を伝えられるよう、担当者は力を尽くすつもりである。

授業の到達目標
『差異と反復』の内容を、思想史的背景を踏まえたうえで正確に理解できるようになること。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　中間レポートと学期末レポートから評価する。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%　　0

科 目 名	マンガ文化論　『週刊少年ジャンプ』とマンガ雑誌文化							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
1968年の創刊以来、現代日本のマンガ文化において大きな存在感を見せ続けている『週刊少年ジャンプ』は、2018年には創刊50周年を迎えた。今なおマンガ雑誌として最大発行部数を誇るものの、『ジャンプ』の現状は、マンガの電子化やメディア

ミックスの常態化などを考えると必ずしも盤石とはいえず、週刊少年マンガ誌文化そのものの検討を要する時期を迎えている。本講義はこうした現状認識のもと、『ジャンプ』を通じて現代日本マンガ文化の現状について考察を試みる。（第二次世界大）戦後日本の大衆文化における週刊少年マンガ誌の役割と『ジャンプ』、雑誌の時代的変遷と主要作品の傾向性の分析、受容層の変動など、マクロな状況から、各週の誌面上で繰り広げられるファンによる「打ち切り」をめぐる諸議論のようなミクロな状況に至るまで、可能な限り多様な分析視座を組み合わせた講義を行う予定である。

授業の到達目標

1マンガ文化の広がりの中における『ジャンプ』の役割について歴史的に考察していく
2マンガ作品の分析における、「内在分析」（イメージの読解やシナリオの構造分析）と「外在分析」（社会的要因や時代相との関連）の双方の重要性を認識する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　コメントペーパーやアンケートを含む。 小レポートの提出を学期末レポート提出条件とする
●**その他**　0%

講義

科 目 名	**視聴覚表象研究**　身体に統合される映像と音声							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アニメーション・映像における視覚と聴覚の時間論を扱う。映像史の中で、身体器官は音声と映像とを結びつけるための重要な役割を担ってきた。口を開閉して話すこと。歌うこと。口に食物を入れ、咀嚼とともに顔を動かすこと。手をたたき、足を踏みならし、踊ること。複数の身体が近づき、離れること。これらの基本的な活動が、映像・音声の同期によっていかに表現されてきたかについて、映画前史から現代までを通観する。

授業の到達目標

・アニメーションや映像を、単に印象に頼るのではなく、映像や音声の時間構造から論じることができるようになる。
・映像と音声との関係史を踏まえた上で、現在の映像文化について考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　最終レポート（必須）の内容を採点する
●**平常点**　60%　　2-3回に1回の割合で簡単なレスポンス・ペーパーの記入や小レポートの執筆を講義中に課す。その結果を採点する。
●**その他**　0%

科 目 名	**身体行為論**　相互行為の中で時間はいかに組織されるか							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

わたしたちはさまざまな環境下で、他者と互いに声を交わし、身体を動かしながら何らかの相互行為を達成していく。そのとき、お互いの身体はいつ、どのように動くのか。発声はそこにどう関わるのか。そこではどのような制約が働き、お互いにどのような調整が行われるのか。この講義では、さまざまな環境内で行われる相互行為を取り上げ、その多様性を紹介するとともに、わたしたちの発声や身体動作が持っている認知的制約、環境による制約について考える。

授業の到達目標

・身体の動きを、単なる個人の表現としてではなく、他者との相互行為として捉えることができるようになる。
・身体の動いている環境に注目し、ヒトがそこからどのような手がかりを得ているかを考えることができるようになる。
・発声と身体の相互作用を、時間に沿って考え、分析することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　最終レポートを課す。課題は講義中に紹介する。
●**平常点**　60%　　2-3回に一度の割合で、レスポンス・ペーパーもしくは小レポートの提出を課す。
●**その他**　0%

科 目 名	**沖縄文化表象論**							
担当者名	奥間　政作							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世」と沖縄民謡に唄われるように、かつて「琉球」とよばれていた沖縄は明治12年の所謂「琉球処分」によって日本の一部となり、沖縄戦を経て米軍統治下に置かれることとなりました。こうした独自の歴史と文化を持つ沖縄のイメージは、近代では明治期の雑誌に掲載された挿絵から昭和戦前期の展覧会に出品された美術作品に至るまで数多く生み出されることとなります。現代では、観光を中心とした楽園としての表象や、基地の島としての表象が我々に身近なものといえるでしょう。本土とは異なる沖縄文化の表象のありようを辿ることは、「内地」であるような「外地」であるような、あいまいな「場」に置かれ続けてきた「内なる他者」としての沖縄へのまなざしそのものを再確認することにもつながります。具体的な講義内容としては「画家の見た沖縄」、「方言札と民芸」、「ひめゆりと慰霊碑」、などトピックを設け、歴史的文脈のなかで沖縄に向けられたまなざしがどのように形成され、継承されてきたのかについて講義を行います。

授業の到達目標
沖縄の地理的・歴史的位置づけを確認すると同時に、そこに向けられた様々なイメージを読み解くことを目標とします。
成績評価方法
レポート　50%
平常点　　40%
その他　　10%

科 目 名	現代文学史2　村上春樹以後の日本文学							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
いわゆる「日本近代文学」の歩みが坪内逍遥・二葉亭四迷らによって始まってから百二十余年。いまや、第二次世界大戦の終戦後の時間の方が長くなりつつあります。日本近代文学の折返点以降の約六十年を「現代」ととりあえず定義するならば、その期間に「文学」はどのように描かれ、時代や環境とともにどう変化してきたのか。そして、今日の（エンターテインメント作品やコミックなどまでを遠望した）広義の文学に、それらはどう反復されているのか。
本講義では、村上龍・村上春樹の1970年代以降、2010年代までの「日本文学」像を、いくつかの作家像や具体的作品を抽出しながら観察してゆきます。さらに、そこに至る影響関係として、「第三の新人」や「内向の世代」といった、半世紀ほど前の日本文学に流布した、ともすればいまや耳慣れないキャッチフレーズが、なぜ、どのように今日の「私たち」と無関係ではないのか――そうした言葉を知らないひとにも、知っているひとにも、あらたな視点を手にして、新しい時代の文化を構想してほしいと思っています。
授業の到達目標
日本の近代文学史の大枠を理解したうえで、現在の「文学」が直面する課題や変化について歴史的な文脈のもとで理解する。
成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　30%　　出席状況等による。
●**その他**　0%

科 目 名	短詩型文学論1　声と詩。詩の発生。呪いあるいは祈りと詩。							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
詩とはなにかを考える。探る。つきつめる。
授業の到達目標
自分なりの短詩型文学を知る。広い視野で詩をとらえる。逸脱することをおそれない。
成績評価方法
出席重視。レポート課題多いです。授業の取り組み。寝たり騒いだりは減点。

科 目 名	短詩型文学論2　語りと詩。移動と詩。							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
「語り」としての詩に注目して、いろいろなものを読み、また見、その楽しさ、楽しみかた、効用を考えていく。説経節のおもしろさを知る。
授業の到達目標
広い視野で詩をとらえる。逸脱する自由を知る。
成績評価方法
出席重視。レポート課題多いです。授業の取り組み。寝たり騒いだりは減点。

科 目 名	20世紀小説表現史1（日本）「日本文学」の磁場							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
「文学」いうものが、言語に対して一種のねじれや歪みをもたらす作用のことだとするなら、「日本文学」と呼ばれる磁場におけるねじれとはいかなるものか。それが、本講義を貫く問いである。中村光夫は、「小説」を輸入した日本における「自然主義」の歪みを痛烈に批判したが、まずはこの中村の批判を再検証しながら、「日本文学」のうちに、別様なねじれや歪みをもたらす小説や批評を、主に戦後の作品を中心に論じてゆく。
授業の到達目標
「文学」という制度に対するまなざし
成績評価方法
●**試験**　0%　　.
●**レポート**　100%　　3000字程度のレポート。
●**平常点**　0%　　.

●**その他**　0%　.

科 目 名	20世紀小説表現史2（英米） Art of Fiction							
担当者名	小田島　恒志							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

David Lodge の *Art of Fiction*の中から、とくに現代イギリス小説の技巧にかかわる章について精読する。テキストを単に訳すのではなく、書かれていることについていろいろと考察することを目的とする。

授業の到達目標

原書の内容をしっかりと読み取れる読解力と、その内容を他のテキストに当てはめて考えられる思考力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　14回目の授業で試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　出席など、授業に対するactivity を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

講義

科 目 名	20世紀小説表現史3（ヨーロッパ） なぜ書くのか、どう語るのか							
担当者名	森井　良							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「小説」というジャンルをとおして、二十世紀文学の潮流、とりわけフランスを中心とした西洋文学の流れを実際のテクストとともに見ていきましょう。その流れが世紀を超えた現在に投げかける問いとインパクトについても考えていくつもりです。個々の作家の「語り」や「エクリチュール」（≒書き方）の特質だけでなく、彼らが作品のうちに反映させた社会動向や知的潮流も俎上にのせることになるでしょう。

担当者の専門の関係で、フランス系の作家を軸に章立てをしましたが、なるべくリンクを飛ばして横断的に論じていきたいと思っています（たとえばロブ＝グリエなら、カフカ、ジョイス、筒井康隆、ゴダールあたりまでいけそうだ）。小説テクストだけでなく、作品に関連する同時代の批評や表象（映画など）も紹介するつもりです。受講生の方々、どうぞつつきまわしてください。みんなで授業を○可塑的／×過疎的にしていきましょう。

授業の到達目標

世紀のはじめから後半にかけての小説表現の流れを同時代的文脈やテクストの読解をとおして把握しながら、二十一世紀の現在から見た個々の作家のアクチュアリティを受講生各自が見定めていってほしい。また、小説を書くとはどういうことか、小説とは何なのかという根源的な問題についても、自らに引きつけて考えてもらいたい。「書く≒語る」とは人間にとって基本的な営為なのだから。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマや作家についてのレポート。
●**平常点**　30%　　出席、コメントカードなど。
●**その他**　0%

備考・関連URL

外国語の知識は問いません。原文について言及することもありますが、その言語が読めない人でもわかるように解説しますのでご安心を。

科 目 名	20世紀小説表現史4（アジア） 帝国と国民国家を生きる							
担当者名	逆井　聡人							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀に基盤を固めた近代国家日本は、20世紀に入ってますますその勢力を拡大していき、東アジアを睥睨する近代的帝国となった。そして帝国に囲い込まれた民は、社会が求める規範に自らの生をすり合わせていかなくてはならなかった。しかし、そこには必ず枠に収まりきらない残余がある。この残余を切り捨てなければならないのか、隠さなければならないのか、そうした葛藤が苦渋の表現を生み出していく。

アジア太平洋戦争が終わったからといって、この表現をめぐる格闘が止んだわけではない。むしろ、国際政治の非情な荒波は「解放」という希望を飲み込んで窒息させようとしてきた。それでも人々は空気を求めて、跼き抗い、浮上する。そして抑圧された記憶と身体を間欠泉のように吹き上げる。

20世紀の東アジアという時空間において本講義が見ようとするのは、まさにその生きんがための抗いである。それぞれの時代においての「今の身体」を、そして各々の持つ「過去の記憶」を、どのように結い合わせながら文学作品として昇華させてきたのか。その必死の闘いから学んでいきたい。

授業の到達目標

本講義を受講することで、学生は国籍や民族、ジェンダーという概念を相対化し、過去から連なる現在を批評的視座から考察することが可能となる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　中間レポート 20%、期末レポート 30%
●**平常点**　50%　　毎回、授業の最後に提出するコメントシート 40%　授業中の議論への参加度 10%

●**その他**　0%

科 目 名	**大衆小説論1**　世相との接点から小説を読む							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では「大衆小説」を「その面白さによって大衆に愛された小説」と解釈する。それぞれの時代の人びとは小説にどんな「面白さ」を求め、ベストセラー小説や人気作家は、それにどんなふうに応えることで広範な読者を獲得したのだろう。小説作品はもとより、時には流行歌や映画、テレビドラマ、漫画へも目配りしつつ、講義を進めたい。過去の作品の解説が講義の中心になるが、学生諸君には、常にそれを「いま」に置き換える意識を持っていただきたい。現役の実作者である担当講師と若い読み手の学生諸君が、それぞれの立場から、過去のベストセラー作品と当時の世相との接点を探ることを入り口に、たとえば「そもそも『面白さ』とはなんであるか」「そもそも『大衆』とはなんであるか」というような問いが浮上してくることを期待している。

授業の到達目標

過去のベストセラー小説や人気作家の作品を、世相との接点を中心に読み直すことで、「大衆小説」のイメージを具体的なものとして理解し、小説を「どういう面白さが読者にどんなふうに受け容れられたか」の観点でとらえる力を養っていただきたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末に800～1600字程度のレポートを課す。授業の理解度と、その応用。
●**平常点**　50%　　出席状況。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。それに満たない場合は、残念ながら自動的に「不可」とする。私語などで他の受講生に迷惑をおよぼすと判断した場合、退出を命じることもある。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

間口を広く取った講義になるので、1年生の受講を歓迎する。むろん2年生以上の学生諸君も、喜んで迎えたい。また、本講義は「大衆小説」史の概説でもあるので、秋期配当の「大衆小説論2」を続けて受講することが望ましい。授業中の私語は慎んでもらう。近隣の席の受講生の迷惑である。度が過ぎていると判断した場合、退出を命じることもある。

科 目 名	**大衆小説論2**　世相との接点から小説を読む							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では「大衆小説」を「その面白さによって大衆に愛された小説」と解釈する。それぞれの時代の人びとは小説にどんな「面白さ」を求め、ベストセラー小説や人気作家は、それにどんなふうに応えることで広範な読者を獲得したのだろう。小説作品はもとより、時には流行歌や映画、テレビドラマ、漫画へも目配りしつつ、講義を進めたい。過去の作品の解説が講義の中心になるが、学生諸君には、常にそれを「いま」に置き換える意識を持っていただきたい。現役の実作者である担当講師と若い読み手の学生諸君が、それぞれの立場から、過去のベストセラー作品と当時の世相との接点を探ることを入り口に、たとえば「そもそも『面白さ』とはなんであるか」「そもそも『大衆』とはなんであるか」というような問いが浮上してくることを期待している。

授業の到達目標

過去のベストセラー小説や人気作家の作品を、世相との接点を中心に読み直すことで、「大衆小説」のイメージを具体的なものとして理解し、小説を「その面白さが読者にどんなふうに受け容れられたか」の観点でとらえる力を養っていただきたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　800～1600字程度のレポートを課す。授業の理解度と、その応用。
●**平常点**　50%　　出席状況。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。それに満たない場合は、残念ながら自動的に「不可」とする。私語などで他の受講生に迷惑をおよぼすと判断した場合、退出を命じることもある。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

間口を広く取った講義になるので、1年生の受講を歓迎する。むろん2年生以上の学生諸君も、喜んで迎えたい。春学期配当の「大衆小説論1」を受講のうえ履修してもらうのが理想だが、「大衆小説論2」のみでも理解できるよう配慮する。授業中の私語は慎んでもらう。近隣の受講生の迷惑である。度が過ぎていると判断した場合、退出を命じることもある。

科 目 名	**児童文学**　児童文学の変遷――童話の成立からライトノベルまで							
担当者名	久米　依子							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

児童文学は、〈大人〉と〈子ども〉が区分されていく近代社会において成立した。この講義では欧米の児童文学の成立を確認後、明治時代の学制制定後に発生し、時代の情勢に応じて発展した日本の児童文学の軌跡を、社会の変化を踏まえながら追う。明治期には立身出世する子ども、大正期には童心主義による無垢な子ども像が主流となり、昭和期にはリアリズムの手法が取り入れられ、第二次大戦後には、より子ども読者に接近した、活発な成長する子ども像が描かれる。やがて80年代以降の社会の変容に従い、描かれる〈大人〉と〈子ども〉の関係も揺らぎ始め、児童文学は新たな表象に向けて模索し、それまで暗黙のタブーとされてきた死、いじめ、親への疑義、クラスでの孤立など、成長神話を相対化するような要素を次々と取り上げていく。しかし先鋭的作品群が生まれた後、確たる方向性が掴みにくい時代に入り、そこに、大衆的児童文化としてのライトノベルやアニメーションなど、サブカルチャーが青少年文化として隆盛する事態が重なった。現在の児童文学は、ライトノベルとの境界をふまえ

て考えなければならない状況を迎えている。1世紀の歴史を超えた日本の児童文学を、今後どのように考えるべきか――過去の主要作品をたどった上で、後半の授業では、今日的問題としてライトノベルとの関係に特に注目し、受講者と共に考えてみたい。

授業の到達目標

日本の児童文学の変遷と現在の青少年文化の状況を理解し、受講者自身が見解を持つことを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 50%　15回目の授業時間内に、児童文学の変遷と現状についての理解と、それをふまえて自分の見解が示せるかどうかの確認のために試験を行う。教科書を使用するので、教科書不携帯の場合は受験不可。

●**レポート** 30%　授業で取り上げた日本の児童文学作家の作品を読み、どのような時代的意義があったかを、授業内容をふまえて論述する。800字程度の小レポート。12回目以降に提出。感想文ではないので注意。

●**平常点** 20%　5回以上の欠席は原則として単位不認定。出席を満たしていても、試験とレポートの結果によっては単位不認定の可能性あり。

●**その他** 0%　0

備考・関連URL

成績評価欄に記したように、教科書を使用した試験を行うので、試験の時には必ず携帯すること。教科書不携帯の場合は受験不可。

また試験とは別に児童文学を実際に読み、小レポートを書いてもらう予定。

講義

科目名	横断文学論							
担当者名	陣野　俊史							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「横断」とはどういうことを指すのだろうか。横断するためには、まずどこからどこまでを「横断」するのか、考えなくてはならない。世界を、とひとまず書く。世界文学という呼び方はしていない。ヨーロッパを出発点にして、必ず、日本に折り返し、かつ、アフリカ、南米、台湾、中国を経て、地球を「横断」する、ことのみを目指したい。

授業の到達目標

世界を横断する以上、世界を一周することが目標であり、それ以外の目標はない。最後までついてきて欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 60%　講義内容をどれほど理解しているか、講義を入口にどれくらい自分の理解を深められているか、丁寧に時間をかけて調べているか（結果的に、長く書くことが必要になる）

●**平常点** 40%　出席して、積極的に授業に参加すること。リアクションとして積極的に参加すること。

●**その他** 0%　0

科目名	マイナー文学論							
担当者名	陣野　俊史							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆるメジャーな文学とは何か、という問いがすぐに浮かぶのだが、ここではまず様々な意味で「マイナー」を定義しておきたい。言語的・人種的・性的指向性あるいはジェンダー的な意味でのマイノリティを意識しつつ、そうした「文学」に目を向けたい。

授業の到達目標

それぞれのテーマの説明を十分に理解し、かつそこを入口にしてできるかぎりの文献から、そのテーマの真の姿を描き出すこと。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 70%　講義を正確に理解し、自分なりにその理解を深めているか、時間をかけて丁寧に資料を読み、アウトプットできているか、最終的にそうしたことを、長く書けているか

●**平常点** 30%　積極的に授業に参加したか、リアクション・ペーパーなどを緻密に書いたか

●**その他** 0%　0

科目名	文学とジェンダー1 「わたしはわたし」のジェンダー論							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

女として63年、詩人として41年、日系移民として22年、生きてきて、ジェンダーとセックスとセクシュアリティとダイバーシティとマイノリティーの諸問題には苦労してきました。その経験値を生かして、みんなに、人生の諸問題に、みんなの悩みに、社会の在り方に、真摯に親身に向き合います。大きい教室ですが、みんなと議論した感、「自分は自分」感が得られる・・といいなーーと思っています。

授業の到達目標

自分らしく生きられるように。

自分らしさとは何だ？

成績評価方法

●**試験** 0%　しません

●**レポート** 50%　提出。内容。

●**平常点**　50%　　出席は感想シートの提出による。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文学とジェンダー2　「わたしはわたし」のジェンダー論							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

女として63年、詩人として41年、日系移民として22年、生きてきて、ジェンダーとセックスとセクシュアリティとダイバーシティとマイノリティーの諸問題には苦労してきました。その経験値を生かして、みんなに、人生の諸問題に、みんなの悩みに、社会の在り方に、真摯に親身に向き合います。大きい教室ですが、みんなと議論した感、「自分は自分」感が得られる・・といいなーーと思っています。

授業の到達目標

自分らしく生きられるように。
自分らしさとは何だ？

成績評価方法

●**試験**　0%　　しません。
●**レポート**　50%　　提出。内容。
●**平常点**　50%　　出席は感想シートの提出による。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	暴力と文学1　戦争と文学							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ギリシャ古典から始めて、ヨーロッパ（特にドイツ語圏）の文学を中心に、文学作品における戦争の表象のしかたや、戦争と文学者の関わりを見ていくつもりです。単なる作品鑑賞ではなく、それぞれの作品が現代において持つ意味についても考えていきたいと思います。歴史記述に対して文学にはどのような可能性があるのか、授業を通して明らかになる部分があれば嬉しいです。昨今いろいろと出版されている暴力論の本についても、紹介していけたらと思います。

授業の到達目標

さまざまな作品に触れつつ、戦争と文学の関わりについて、文学史も参照しつつ主体的に考えること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　学期末に指定する図書リストから一冊を選んで2000字前後で書いてもらいます。本を読んだうえで、自分の意見がはっきり出せていることを期待します。
●**平常点**　50%　　授業時に質問などをしますので、レビューシートでお答え下さい。単なる出席だけでなく、レビューシートも重視します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	暴力と文学2　戦争における暴力の諸相							
担当者名	鳥羽　耕史							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

トロツキーが「暴力の上に基礎づけられている」とし、ウェーバーが「支配手段としての正当な物理的暴力行使の独占」に本質を見た近代国家においては、軍隊と警察がその暴力の行使を担ってきた。ここでは、特に戦争における軍隊の暴力に焦点を絞り、近代日本の戦争とその周辺を描いた様々な文学テクストを読解する。教科書の第1部「戦場の光景」では特に外地における戦場での直接的暴力の問題が、第2部「戦争の日常」では内地と沖縄における別の形の暴力の問題が、そして第3部「記憶としての戦争」においては戦争から派生した暴力の問題が取り上げられるだろう。

授業の到達目標

戦争を描いた文学から暴力と文学一般の問題について理解し、自分なりに考察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義を踏まえた上で、自分なりの議論ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義を理解してコメントできているか。
●**その他**　0%

科 目 名	中南欧の文学　タブッキとカルヴィーノを読む							
担当者名	和田　忠彦							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

中南欧」というとき、地図の上でどのあたりを思い描くでしょうか？この講義では、通常「南欧」として位置づけられるイタリア語圏の作品を手掛かりに、「南欧」と「中欧」ふたつの地域をつなぐ想像力のありようについて、それぞれの作品が生まれた同時代の状況をも視界におさめつつ考えていきましょう

まずさしあたり関心を寄せていただきたい作家は、ふたり。アントニオ・タブッキ（1943−2012）とイタロ・カルヴィー

ノ（1923−1985）です。
なお、シラバスは授業中のみなさんの反応などにより適宜変わる可能性があります。

授業の到達目標

文学作品を読むこと考えることをとおして知ること見ることの閾値をひろげる.

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　70%　　授業中に指定する図書リストから一冊もしくは複数を選んで2800字前後で書いてもらいます。本を読んだうえで、自分の意見がはっきり出せていることを期待します。
●**平常点**　30%　　授業時に質問などをしますので、レビューシートで答えてください。単なる出席というより、レビューシートを重視します。
●**その他**　0%　　0

講義

科目名	ラテン・アメリカ文学という視点　コノ・スールの文学とその背景							
担当者名	内田　兆史							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリティ、政治との関わりとともに考察する。
イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。

授業の到達目標

いわゆる「ラテンアメリカ」地域を、それ以外のアメリカやヨーロッパとの比較し、またそれぞれの関係をとらえられるようになり、そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　イスパノアメリカの文学作品に関するレポート
●**平常点**　50%　リアクションペーパーに基づく
●**その他**　0%

科目名	世界文学としてのシェイクスピア　シェイクスピアとは何か							
担当者名	梅宮　創造							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

世界文学という語を、まず「世界」と「文学」とに分割してみよう。そうしてそれらに「シェイクスピア」をからませて考えるとどうなるか。シェイクスピアの名は世界に広く知られているが、なぜ、そういうことになったのか。あえていうまでもなく、東西南北の国々は、それぞれ異なる文化をもち、それぞれが固有の姿をもって生きている。それにもかかわらず、めいめい異質の土壌にシェイクスピアの種子がこともなげに根をおろし、誇らしげに花を咲かせているというのは、やはり不思議な現象というべきだろう。なぜ、こういうことが可能なのか。それからもう一つ、文学の視点から見るに、シェイクスピアは文学の巨匠であり、ときに神であり、ときに言葉の魔法使いと一部の人たちから評されてきた。しかしそれを思うとき、シェイクスピアの言葉が「英語」であることを忘れてはいないだろうか。世界の多くの人びとにとって英語は外国語であり、従って広い意味で、「翻訳」を通じてのみシェイクスピアの言葉、また文学に触れるほかはない。そうしながらも、シェイクスピアの劇作品とは何々であるなどと自信たっぷりに論じたりもする。そのあたりをどう考えるか。このように、世界文学に成りおおせたシェイクスピアは一個の現象として、非常に興味ぶかい問題を私たちの前に提示してくれる。本講義ではまず外濠を埋めながら、くだんの問題の周辺から丹念に検討してゆくことになるだろう。シェイクスピア劇の特質、時代背景、演劇一般についての概説に始まり、それらの知識を土台に据えながら、ドイツ、フランス、ロシア、東欧、アメリカ、中国、日本、そしてもちろんイギリス本国におけるシェイクスピア受容の実態にふれる。併せて、シェイクスピアの原典『ハムレット』の言葉のアヤに触れながら、ディスカッションおよび実演を試みる。

授業の到達目標

シェイクスピアにまつわる周辺事項と、その代表作を通してシェイクスピアなるものを理解すること。

成績評価方法

授業時の発表、積極的参加。レポートを課すかどうかは未定。試験はなし。

科目名	文芸批評理論1							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、20世紀フランスにおける文学／哲学／政治の交叉の諸相を、その変貌を見極めつつ検討する。具体的には、爆発的な影響力をもったヘーゲル哲学の受容、サルトルの流行、ベルクソンの復権、言語学の隆盛、マルクス主義との連関といった主題を、扱うことになるだろう。同時代の映画などにも、適宜触れてゆく。
20世紀のフランス思想は、国際的に言っても、いまや「教養」の域に入ったと言ってよく、現に世界中の大学で教えられている。「教養」とはつまり、「知識なき感性」が存在しうるという幻想を、徹底的に打ち砕く作用のことである。同時に、そこに「批評」というものがありうるとするなら、教養人と同等以上の教養を持ちつつ、そこから割って出ることである。批評とは、何もおのれを保証してくれないところで獲得される、宙吊り状態の危険な自由であろう。教養によって優雅になるのか、あるい

は、野生化するのか。それは各自の資質によるが、ひとまず本講義では現代の基礎教養の習得を目指す。

授業の到達目標

批判的知性のための教養

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 100% 3000-4000字程度のレポート。
●**平常点** 0% .
●**その他** 0% .

科 目 名	文芸批評理論2							
担当者名	堀 千晶							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、フランスの思想家ドゥルーズの文学論を中心に、映画論や、政治論をまじえつつ読んでゆく。対象となる作家についても、適宜紹介してゆく。また同時代のフーコー、バルト、ブランショ、デリダといった批評家や思想家にも、言及してゆくことになるだろう。前期「文芸批評理論1」が20世紀思想史の概論だとするなら、本講義はその特殊例をめぐるものである。

授業の到達目標

批判的知性のための教養

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 100% 3000-4000程度のレポート。
●**平常点** 0% .
●**その他** 0% .

科 目 名	装丁と文学 書籍のリバースエンジニアリング							
担当者名	和久田 頼男							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本の内容ではなく、書籍の外側（装丁）に注目する授業です。 紙に印刷して綴じたモノが、現代の書籍です。単純なつくりのようですが、解体してみるとさまざまなパーツからなることがわかります。そして、一つ一つのパーツには、書籍の歴史がこもっています。

文学作品を、その「頁を束ねるデザイン」という観点から考えてみましょう。

まずは、手近にある小説や文芸誌や単行本を、実際に「解体」してみるところからはじめましょう。

いわば「書籍のリバースエンジニアリング」といった作業によって、書籍の歴史のなかで培われてきた装丁の方法論やテクニックの数々に気づくことができます。

おもに文学作品の装丁をとりあげつつ、書籍の内容と形式との関係について、実例を通して理解していきます。

授業の到達目標

装丁の思惑を感じ取ることができるようになり、書籍の形式にまつわる叡智をカスタマイズできるようになること。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% 授業中の発表・学期末のレポート
●**平常点** 50% 授業への出席状況
●**その他** 0%

備考・関連URL

出席状況と課題の提出状況や内容、取り組み態度などを総合的に評価します。 授業計画は、受講人数や受講者の理解度に応じて適宜変更します。

科 目 名	音楽文化論1							
担当者名	小沼 純一							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本的には「音楽」のさまざまなありようをみていきます。

その点では、春学期／秋学期ともに変わりはありません。

1年かけても無数にある音楽の一部しか扱えませんが、あまり学生諸君がふだん触れることのないようなものを扱いたいと考えています。

ただ、隠しテーマとして、音楽と「場」というのは想定されているかもしれません。それが、前期から後期にむけて、深化させたいというのがこちらの希望ではあります。

授業の到達目標

従来の「音楽」観が揺らいでくれることが望ましい。

成績評価方法

出席はとりません。
試験のみで成績評価をおこないます。

科 目 名	音楽文化論2							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本、「音楽文化論1」の延長上と考えてください。内容はもちろん変わります。

授業の到達目標

上記同様です。

成績評価方法

試験をします。
出席はとりません。

科 目 名	非文字媒体論							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

はじめにお伝えしておきますが、昨年までの「非文字媒体論」と担当が変わっています。当然、内容も変わってきます。
☆
タイトルどおり、「非文字媒体」がテーマとなります。
文字ではない、というところが中心ですが、通常の文字とは異なったもの、というのも含ませ、
同時に、そうしたところから文字が照射できれば、と考えています。
具体的には、文字で書かれていても、それが発音・発声されることで変化するテクストであったり、
コンクリートポエトリーであったり、音響詩であったりします。
口頭伝承や声、にふれたりもするでしょう。

授業の到達目標

これまで接していた文字によるテクストに接する姿勢がすこしでも変化すること。

成績評価方法

基本、教場試験をします。
出席は、人数によって、とるかとらないかを決めたいと考えています。

科 目 名	日本近代文学とマスメディア1　初期映画と近代文学のメディア横断的な交流を中心として							
担当者名	佐藤　未央子							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀末に生まれ、20世紀初頭にかけて普及した映画は、人々に視聴覚のスペクタクルを与えたのみならず、〈いま・ここ〉と世界をつなぐメディアとしても重要な役割を果たした。
日本近代文学の展開と映画の発展は時を同じくしており、両者が相互に与えた影響は大きいと見られる。
本講義では、映画が技術や表現面で模索期にあった明治末期から昭和初期に焦点を当て、作家がいかなる形で映画を語り、映画に携わったか、同時代の雑誌や映像資料を用いながら明らかにする。

授業の到達目標

・映画やメディアの知識を援用して、テクストを解釈することができる。
・資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
・言説を相対化し、客観的に分析することができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業で扱った事項に関する問題と、授業の理解度を測る記述問題を課します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業ごとにコメントシートへ感想や意見、質問を記入してもらい、授業への参加度を評価します。 授業回数の3分の2以上の出席を合格の条件とします。
●**その他**　0%

科 目 名	近・現代ジャーナリズム論1　サブカルチャーから現代社会を考える							
担当者名	大澤　真幸							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

毎回、ヒットしたり、大きな社会的インパクトを与えたりした「フィクション」をとりあげ、それを哲学的・社会学的に分析・解釈しながら、現代社会の意識と構造について考察する。今年度の秋学期の（緩やかな）統一テーマは、「サブカルチャーの想像力は資本主義を超えられるか」である。なお、ここで「フィクション」というのは、小説、マンガ、映画、テレビドラマ、ゲーム等である。分析・解釈においては、次の二つの主題のいずれか、または両方が考察の対象となる。
① なぜその作品がヒットしたのかを考えることから、現代社会のあり方を推測する。
② その作品自体が、人間や社会についてどのような「真理」を語っているのか。
基本的には大澤が講義する。数回に一度の割合で、質疑応答の時間をとる。原則的には、以下の授業計画の順に進めていくが、2019年度の中で、考察するにたるヒット作が出てきたり、重要な出来事が起きたりしたときには、緊急に、その作品や出来事についての講義を入れることもある。

授業の到達目標

ある作品に接して感動しても、それが「おもしろかった」（あるいは「つまらなかった」「わからなかった」）の一言で終わってしまえば、その感動は何も残さず、消えていく。どこに感動したのか、何に感動したのかを「概念」によってとらえることができたとき、それは、私たちの「現在」や「社会」や「アイデンティティ」について何かを教えてくれていたことにはじめて気づく。作品の享受を媒介にして、社会や自己について深く考える方法を身につけることが、この授業の目標である。

成績評価方法

●**試験** 0%　以下の期末のレポートが試験の代わりになる。
●**レポート** 70%　期末にレポートを提出してもらう。 課題は授業中に指示する。
●**平常点** 30%　5回に1回程度の割合で、授業中に、それまでの講義に対する感想や意見を書いてもらう。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

講義時の社会的情況にできるだけ敏感に対応しながら講義を進めていくので、必ずしもシラバス通りに進行するとは限らない。

科 目 名	**近・現代ジャーナリズム論2** 近代日本の言説空間と天皇（制）							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代日本の言説空間を思考するにあたって、天皇（制）の問題を回避することはできない。この言説空間は、天皇（制）をいかに表象し、その表象をいかに誘導し、禁止し、（自己）検閲し、弾圧してきたか。天皇制機械は、この言説の磁場でどのように作動しているのか。本講義は、このきわめて限定された具体的問題から出発して、小説と批評の双方を読み、「言説」と「権力」の交叉を、検討しようとするものである。それは、テクスト外部における暴力ばかりでなく、テクスト内部で働く力の相剋を批判的に分析することでもあるだろう。また、天皇制をめぐる言説の歴史的な変遷過程を辿ることにもなるにちがいない。

授業の到達目標

言説そのものに張り巡らされた政治性に自覚的にまなざしを向けること。

成績評価方法

●**試験** 0%　未定
●**レポート** 100%　3000字程度のレポート。
●**平常点** 0%　未定
●**その他** 0%　未定

科 目 名	**編集論1** 文学・メディア・社会にあらわれる無数の「エディット」							
担当者名	和久田　頼男							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの思考は、それが言葉によってなされる限り、逃れようもなく他者の言葉の再構成です。テキストもまた、かつてフランスの哲学者ロラン・バルトたちも口にしたように「引用の織物」にほかなりません。「私の文章」や「私だけの思考」というものは、そうした認識の先にはじめて存在します。

ヒトは、誰しも、無意識に、エディットを行ないながら生きています。そしてその行為を意識化することは、「私」を編集しなおすことでもあります。

編集を論じるにあたり、リチャード・ドーキンスによる「生物＝遺伝子の乗り物」という考えにもとづき、彼が提唱した「ミーム（文化的遺伝子）」という考えを倣うところからはじめます。

書籍、新聞、雑誌、マンガ……いわゆる紙の出版物は、ミームの「のりもの」です。情報の載った原版（オリジナル）を複製（コピー）し、文化を後世に伝えてゆくための装置なのだから。そしてその伝でゆくなら、映画やTV、アニメ、ゲームといった表現媒体も、ミームの「のりもの」として考えることができます。また、電子書籍はもちろん、YouTubeやニコニコ動画など動画系アーキテクチャ、ラジオ放送や音楽産業やボーカロイドも、同様の視座から捉えなおせます。

新しい環境に適応して生き存えるためには、どのような編集力が必要でしょう？　ただたんに文化を消費してよしとするのではなく、何をどのように編集して発信してゆくべきか問われるところです。

本講義は、「A·M·P」という3つの頭文字からなるキーワードをおさえたうえで、メインカルチャーのみならずサブカルチャーも周遊しつつ、受講生たちがサバイバルのために理論武装するさいの導きとなることをめざします。宗教、国家、プライバシー、ライシテ、ポルノグラフィー、LGBT、ヘイトスピーチ、デザインベビー、ゲノム編集、GDPR……これからを生きるための問題系を考えるために。

受講人数によりますが、討論の場として機能する講義にもしたいと考えます（討論のテーマは、受講者の志向を鑑みつつ今日的なものを設定）。

授業の到達目標

「エディット」という視座が作品あるいはその周辺にどのように存在するか、あるいはどのような影響を相互に与えているかについて、いくつかの実例とともに理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 80%　授業の理解・到達度を確認するためのレポートです。
●**平常点** 20%　毎回出席カードを配布します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

授業計画は、受講人数や受講者の理解度に応じて適宜変更します。

科 目 名	編集論2　文学・メディア・社会にあらわれる無数の「エディット」							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの思考は、それが言葉によってなされる限り（そしてそのようなものを「思考」とふだん私たちは呼ぶわけですが）、逃れようもなく他者の言葉の再構成です。テキストもまた、かつてフランスの哲学者ロラン・バルトたちも口にしたように、引用の織物にほかなりません。「私の文章」「私だけの思考」は（よしんばそれが存在するとしても）そうした認識の先にはじめて存在します。

そのように考えるならば、私たちはふだん、誰もが無意識に行っているその行為＝エディットを行なっていることになります。それを意識化することは、ひとつの思考訓練、「思考をエディットする者」である自分自身を意識し再構成することでもあるでしょう。

そうした側面を、現実の世界で運用してゆくことの一例が、小説や批評を書くことであり、さらにはメディアを構築すること、さらにはそれを製作・流通することでもあります（もちろん、そうした一義的に「文芸」や「メディア」的な事柄ばかりでなく、あらゆる「生」がそのようなものであることは、言うまでもありません。つまるところ、世界そのものは無数のカタチと方法で「エディット」されており、そのひとつの方法として、上記の一連の事項があるわけです）。

この授業では、それら複数のレイヤーについて、個々に様々な表象の実例を見てゆきます。文学・コミック・映像と複数のカテゴリーにまたがったいくつかの作品を対象に、「思考をエディットする者」としての感覚を（自覚の有無とは別に）伴って書かれた作品とそうでない作品、それぞれの特質や魅力、退屈さなどについてみてゆくほか、それらが「作品」として形成されてゆく過程、さらにはメディア化されてゆくさまなど、その一連の流れと、それらがどのようにひとつの世界を構築してゆくかについて追ってゆきます。

授業の到達目標

「エディット」という視座が作品あるいはその周辺にどのように存在するか、あるいはどのような影響を相互に与えているかについて、いくつかの実例とともに理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　30%
●**その他**　0%　　0

科 目 名	出版文化論　日本の近代出版史							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

あらゆる文化同様、出版もまた、他の文化領域のみならず、政治・経済・社会と強く結びつき、歴史のなかでみずからを形成していきます。したがって、今日における出版文化について考えようとするならば、必然的にその歴史に学び、現在を見据える視座を獲得せねばなりません。

本講義では、円本・豪華本・文庫本という三本の柱を据えて、日本のいわゆるマスプロ出版の出発点である関東大震災以降、主として戦前の出版史を追っていきます。その功罪を学びつつ、歴史のなかにアクチュアルな問題を見出していきましょう。

授業の到達目標

政治・経済・社会と結びついた

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　授業で学んだことを生かしつつ、出版文化について論じてもらいます（分量は1000〜1500字ほどを予定）。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。
●**平常点**　30%　　出席カードを配布します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	全体主義文化論序説　ソ連、ドイツ、イタリアにおけるファシズム・全体主義期の芸術文化							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

革命後のソヴィエト・ロシアでは、スターリンの権力掌握以降、特に1930年代から、「社会主義リアリズム」といわれる公認の芸術様式が、文学、美術、建築、音楽、映画などあらゆる領域で発達したが、奇妙なことに、この芸術様式は、ソヴィエトの社会主義とイデオロギー的に対立していたはずのナチス・ドイツ、ファシスト期のイタリアの芸術文化ときわめて似たスタイルを持っていた。また、毛沢東時代の中国や戦時中の日本でも、類似の芸術様式や文化統制が行われていた。

ロシアにおいては、社会主義リアリズム様式は、社会主義政権が崩壊した現在でも、現代美術や文学のなかできわめて重要な役割を果たしている。

そこで、この講義では、当時の芸術作品や映画などを実際に見ながら、これまであまり取り上げられることのなかった、20世紀文化のなかでもきわめて特異でまた興味深いこうした現象を、主にソヴィエトとドイツ、イタリアの芸術との比較のなかで明らかにし、その文化史的な意味を考えたい。

授業では、スライドショーやビデオなどを使い、ふだん触れる機会のないこの時期の珍しい作品をできるだけ多く紹介する。

授業の到達目標

これまであまり触れられる機会のなかった全体主義、文化統制下の文化について、少しでも多く具体的なその作品や文化現象に触れ、その出現の意味や、現代の私たちにとって持つ意義を自分で考えることが、この授業の目標である。

そのためには、高校生的な「お勉強」ではなく、自分の頭でものを考え、自分独自の見方を自分の言葉で、しかし他の人にわかるように表現することが重要だ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　下記を参照。
●**レポート**　0%　　下記を参照。
●**平常点**　0%　　下記を参照。
●**その他**　100%　　授業状況により、レポートと出席により評価する。

科 目 名	**欧米文化事情1**　イギリス演劇の歴史を通して演劇知を探る							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、中世から17世紀の王政復古期までのイギリス演劇の歴史を概観しながら、「近代の成立」がどのように演劇に影響を与えてきたか、また演劇がどのように近代の成立に関わり、表象してきたのかを具体的に戯曲の断片に当たりながら確認していきます。

この流れの中で最も重要な劇作家は、言うまでもなく、ウィリアム・シェイクスピアで、最も重要な戯曲は、そうです、『ハムレット』です。その『ハムレット』が書かれたと推定されるのは1600－1年です。この1600年は世界にとってとてつもなく大きな意味を持つ年です。中世と近代の接合点の中心となる年だからです。野外劇場で太陽光のもと、装置もなく、男性だけで演じられていたシェイクスピアの演劇は現代のものとはまったく異質であり、明らかに中世の文化に深く根付いたものでした。

しかし、シェイクスピアの死後、半世紀ほどたったところで上演されるシェイクスピア劇を見ると、シェイクスピア劇の根幹にあったはずの中世的要素が見事なまでに排除されています。その排除の基準となっているのが、形を整えつつあった近代的精神に他なりません。そして、21世紀の現在、袋小路に入った近代の終焉期に、この「近代的精神」が排除してきたものを再考察することには大きな意義があると思います。近代の成立は、人間をどのように「変質」させてしまったのか。この講義は、演劇の歴史を通して、近代を批判できる視点を探り出し、2019年の「今」にその視点を活かそうとする試みです。逆に言えば、演劇知を通して、人間の在り方を考える試みでもあります。

★　この講義は秋学期の「欧米文化事情2」と連続しています。「欧米文化事情1」と「欧米文化事情2」を連続して取ると、「演劇知」を通して近代人の形成とその限界がより鮮明に見えてきます。

授業の到達目標

演劇を通して世界を見る目を養うことが目標と言えば目標です。

成績評価方法

●**試験**　100%　　出席は一切取りませんので、試験だけが成績評価の対象となります。試験は持ち込み自由ですが、「授業の内容をどれだけ深く理解しているか」が評価の基準になりますので、授業を聞いていないと意味がありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	**欧米文化事情2**　「近代」に抗う演劇（ソーントン・ワイルダーを中心に）――「わたし」はどこに立っているのか							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

★　「欧米文化事情2」は独立した科目ですが、内容的には、春学期の「欧米文化事情1」と連続しています。「欧米文化事情1」を受講していると、より深く学ぶことができます。

アメリカの劇作家ソーントン・ワイルダー（1897-1875）は、日常的な生活を淡々と描く地味な作家というイメージが強いのですが、演劇史の流れを背景においてみると、かなり過激な劇作家であることがわかってきます。ワイルダーは「近代」に反抗することにおいて、きわめて過激でした。何もない舞台を使うことも、物語を断片化することも、客席を使うことも、舞台で演じられていることはすべて虚構であるとネタばらしをしてしまうことも、「近代演劇」に対する反逆であり、それらは劇的な技巧のレベルにとどまらず、近代的な「生」のあり方そのものに対する反逆でもありました。21世紀の日本の演劇では当たり前になっているこれらの技巧を、演劇史的な視点から考え直すことは日本の演劇にとっても極めて重要なことだと思います。

この講義では、まず近代演劇がどのように近代に寄り添って成立してきたかを概観し、近代演劇と前・近代的な演劇を比較できる視野を得ます。その後、彼の代表作である『わが町』（1938）の台詞をていねいに読み、ワイルダーが細部にいたるまで仕掛けた劇的な技巧を取り上げ、その意味について解読していきます。すべてを解読し終わったとき、わたしたちはそこに「近代」に絡みとられない緻密に組み立てられた「リアル」な人間の姿を見ることになるでしょう。

また時間が許せば、ワイルダーに3度目のピューリツァー賞（ピューリツァー賞を3度も受賞し、しかも小説と戯曲という異なったジャンルで受賞している作家はワイルダーしかいません）をもたらした壮大なヴォードヴィル・ショー、『危機一髪』について、またワイルダーの戯曲に魅力を感じている日本の若い演劇人、中野茂樹とフランケンズの中野茂樹（演出家）、ままごとの柴幸男（劇作家）らにも言及する予定です。

授業の到達目標

ワイルダーの戯曲を理解し、「在る」ことの不思議を味わえるようになり、さらに欲張れば、「近代的な生」を批判的に見ることができる視点を獲得できることが目標と言えば目標です。

成績評価方法

●**試験**　100%　　出席は一切取りませんので、試験だけが成績評価の対象となります。試験は持ち込み自由ですが、「授業の内容をどれだけ深く理解しているか」が評価の基準になりますので、授業を聞いていないと意味がありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は、2019年1月6日現在においての「予定」にすぎません。
※今年度からこの科目は名称を変更しています。前年度まで「英米文化事情2」において単位取得をしている場合、この科目を履修できません。

講義

科目名	欧米文化事情3　写真と絵とジャーナルによる庶民の生活風景							
担当者名	梅宮　創造							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は19世紀イギリスの文化事情に焦点を絞り、そこから今日の諸問題を考える。
今さら古い19世紀の、はるか彼方のイギリス事情など知って何になろうというような疑問は、誰でも一度は持つかもしれない。しかし一方、「現代」と「自国」とは、私たちに身近な問題を投げかけながら、距離が近すぎるためにかえってよく見えないことがあるだろう。あるいは、うっかり見落としがちな側面もあろう。そういう盲点なり、ぼんやりとした影なりを強く自覚するためにも、遠い外国に眼を向けてみることは無意味どころか、たいへん意義深いはずだ。古い生活形態に根ざした品物にしても事象にしても、そこにははっきりとした個々の形があって、輪郭も濃く、目に映る図柄も大きい。ここから現代文化の不分明な、“浮遊せる病原体”を摘出してみることは、すこぶる興味深い試みではないだろうか。ついでにもう一つ、「文学」をより深く理解するためにも、その時代その国の文化事情を知る作業はどうしても欠かせない。すなわち知の拡充、そして本当の意味での教養の深化が、ここに期待される。
本講義では、珍しい話題が多いかと思う。また学生の皆さんが従来抱いてきたイギリスなるもののイメージが壊されることになるかもしれない。それはしかし、新しい一歩の始まりでもあろう。ただの知識の集積がここでの狙いではなく、知識の果てに自己の“目ざめ”と“発見”が、いや、そこまで欲張らなくても、何か手ごたえのある、小さな芽が頭をのぞかせてくれるならば、本講の目標は達成されたことになる。

授業の到達目標

国や時代を異にするそれぞれの文化のちがいを理解すること。

成績評価方法

主に試験による。出席や意欲はそれなりに評価するが、ひどく怠けないかぎり問題なし。

科目名	欧米文化事情4　写真と絵とジャーナルによる庶民の生活風景（続）							
担当者名	梅宮　創造							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は19世紀イギリスの文化事情に焦点を当てる。そこから今日のもろもろの問題に思いを馳せる。春期の話のつづきとなる。
今さら古い19世紀の、はるか彼方のイギリス事情など知って何になろうというような疑問は、誰でも一度は持つかもしれない。しかし一方、「現代」と「自国」とは、私たちに身近な問題を投げかけながら、距離が近すぎるためにかえってよく見えないことがあるだろう。あるいは、うっかり見落としがちな側面もあろう。そういう盲点なり、ぼんやりとした影なりを強く自覚するために、遠い外国に眼を向けてみることは無意味どころか、たいへん意義深い。古い生活形態に根ざした品物にしても事象にしても、そこにははっきりとした個々の形があって、輪郭も濃く、目に映る図柄も大きい。ここから現代文化の不分明な、“浮遊せる病原体”を摘出してみることは、すこぶる興味深い試みではないだろうか。ついでにもう一つ、「文学」をより深く理解するためにも、その時代その国の文化事情を知る作業はどうしても欠かせない。すなわち知の拡充、そして本当の意味での教養の深化が、ここに期待されるはずだ。
本講義では、珍しい話題が多いかと思う。春期同様に写真や映像などの資料を駆使しながら話を進める。学生の皆さんが従来抱いてきたイギリスなるもののイメージが壊されることになるかもしれない。それはしかし、新しい一歩の始まりでもあろう。ただの知識の集積がここでの狙いではなく、知識の果てに自己の“目ざめ”と“発見”が、いや、そこまで欲張らなくても、何か手ごたえのある、小さな芽が頭をのぞかせてくれるならば、本講の目標は達成されたことになる。

授業の到達目標

国や時代を異にするそれぞれの文化のちがいを理解すること。

成績評価方法

主に試験による。出席や意欲はそれなりに評価するが、ひどく怠けないかぎり問題なし。

科目名	翻訳文化論　翻訳を通して日本の近代と2019年現在の関係を考えてみる							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、「言葉」の翻訳とそれに必然的に伴う「文化」の翻訳について考えていきます。

普段、私たちは当たり前のように言葉（日本語）を使い、日本語そのものに気をとめることはほとんどありません。しかし、今日わたしたちが使っているその日本語は長い歴史の中で、「翻訳」を通してこのような形になりました。日本人は漢字を取り入れながらも、中国語としては受け入れず、訓読みを作り出しましたが、これはすでに一種の翻訳だと考えられます。また漢語を受け入れることで、それまで日本には存在しなかった異質の概念、文化を移入しました。

同様の日本語の一大変革が明治期にも起こりました。ヨーロッパの近代文化を一挙に取り入れようとした明治期の日本には、ヨーロッパ近代がつくり上げてきた様々な概念を受け入れるだけの日本語がまだありませんでした。近代的な概念そのものが存在していなかったからです。そこで急遽、ヨーロッパの書物を翻訳する過程で、それに相応する日本語を新たに作り上げていきました。それが、いわゆる「翻訳語」といわれるものです。

明治期に作られた翻訳語には、2019年に生きる私たちにとって直接影響のある言葉がたくさん作られました。たとえば、民主主義の根幹をなす「個人」「自由」「権利」というような言葉は、すべて明治期に作られた翻訳語です。さらに言えば、「社会」「近代」「憲法」という現在誰もが日本語だと考えている言葉も明治期の知識人たちが苦悩しながら翻訳の過程で作り上げてきた翻訳語です。それらの言葉は明治以前には存在しませんでした。

明治期に急いで作り上げられた人工的なこれらの翻訳語は、その意味する実体が曖昧なまま、その実体を模索し続ける中で、言葉だけが先行してしまいました。従って、同じ言葉を使っていても、その意味するところは必ずしも一致していないという状況が起こります。「自由」のようにたとえ漢語として存在していたにしても、それはLibertyとはまったく異なった意味で使われていましたから、話はややこしくなります。ここに大きな混乱が生じる原因があり、その混乱は現在にまで確実に波及しています。「個人」も「自由」も「憲法」も、使う人によってずいぶんとその意味するものが異なっているのはそのあたりに原因があるように思われます。

この講義では、翻訳という行為を通して見えてくる言葉の機能を確認した後、主に明治期に必死に西欧近代の諸概念を日本語に置き換えようとした先人の悪戦苦闘の跡を追い、さらに混迷混乱の渦中にある現在の日本の言語状況を「翻訳」という観点から考察していきます。

授業の到達目標

現在の日本の状況を言葉、特に翻訳語から捉えることのできる視点を自分のものとし、客観的に、歴史的に「現代」を見ることのできる謙虚な態度を持てることが目標といえば目標になると思います。

成績評価方法

●**試験**　100%　　出席は一切取りませんので、試験だけが成績評価の対象となります。試験は持ち込み自由ですが、「授業の内容をどれだけ深く理解しているか」が評価の基準になりますので、授業を聞いていないと意味がありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2019年1月6日現在の〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	ウェブ文化論1　現代ジャーナリズム論							
担当者名	津田　大介							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代のジャーナリズムにウェブ文化が与えた社会的影響や最新動向を論じながら、現代のメディアのあり方や、ネットの情報発信全般について自ら考えられる力を身につけるとともに、ソーシャルメディア時代のメディアリテラシーについて実践的な理解を深める。秋学期に「ウェブ文化論（現代ジャーナリズム論）2」を履修することが望ましい。大きな時事ニュースがあった場合はそれに合わせて授業内容を適宜差し替える。

授業の到達目標

現代のメディアのあり方や、ネットの情報発信全般について自ら考えられる力を身につけるとともに、ソーシャルメディア時代のメディアリテラシーについて実践的な理解を深め、主体性をもってメディアやウェブの情報と接する力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　80%　　7月22日の第15回に期末試験（教場試験）を実施
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　任意のタイミングで行う講義内ミニレポートもしくはコミュニケーションペーパー提出
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席は取らない。成績は期末試験の結果と任意のタイミングで行う講義内レポートもしくはコミュニケーションペーパー提出の内容を総合的に評価する。授業中のパソコン・スマホ使用は問題なし。

科 目 名	ウェブ文化論2　現代ジャーナリズム論							
担当者名	津田　大介							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代のジャーナリズムにウェブ文化が与えた社会的影響や最新動向を論じながら、現代のメディアのあり方や、ネットの情報発信全般について自ら考えられる力を身につけるとともに、ソーシャルメディア時代のメディアリテラシーについて実践的な理解を深める。「ウェブ文化論（現代ジャーナリズム論）1」を受講済みであることが望ましい。大きな時事ニュースがあった場合

はそれに合わせて授業内容を適宜差し替える。

授業の到達目標

現代のメディアのあり方や、ネットの情報発信全般について自ら考えられる力を身につけるとともに、ソーシャルメディア時代のメディアリテラシーについて実践的な理解を深め、主体性をもってメディアやウェブの情報と接する力を身につける。

成績評価方法

●**試験** 80%　1月27日の第15回に期末試験（教場試験）を実施
●**レポート** 0%
●**平常点** 20%　任意のタイミングで行う講義内ミニレポートもしくはコミュニケーションペーパー提出
●**その他** 0%

備考・関連URL

出席は取らない。成績は期末試験の結果と任意のタイミングで行う講義内レポートもしくはコミュニケーションペーパー提出の内容を総合的に評価する。授業中のパソコン・スマホ使用は問題なし。

講義

科目名	書店文化論							
担当者名	小沼　純一　他／笈入　建志／幅　允孝／星野　渉							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代の文化は、誰もがさまざまなかたちで「印刷された文字」その流布による影響下にあったという点で、とりもなおさず活字の文化・本の文化だった。そのなかで「書店」は、もっとも影響力の強いアクセスポイントのひとつとして、洋の東西を選ばず、またその形態を問わず、高い存在感を誇っていた。

だが、だからこそ、デジタルテクノロジーとネットワーク化を軸とした20世紀末以降の社会構造の変化は、アクセスポイントとしての「書店」の存在にもさまざまな影響を及ぼしている。第一には「本屋さん」としてのありかたの変化において、近景には産業としてのその存立要素や経済構造の変質、そして遠望においては「書店」という存在の本質がなんであるかの問い直しや未来についてゼロから捉え直す契機に、現在の「書店文化」は直面している。

書店・本屋、さらには「本」を旧来の情報伝達メディアと位置づけるとき、そこにはどのような変化が求められるのか。人々の「知識や情報」への態度の変化は書店の店頭風景をどのように変えてきたのか……この講義では、たんなる一産業としてにとどまらず、上記のような強い影響を近代に与えた「書店」文化を、俯瞰とクローズアップ、過去から未来へ、など複数の視点で立体的に観察してゆくことを目的に、業界新聞のジャーナリストとして同時代の書店および周辺産業を観察してきた星野渉（「文化通信」編集長）、80〜90年代の書店文化を築いた大手書店を出発点に、現在は象徴的な小規模書店を運営しつつ書店の枠にとらわれない取り組みをつづける生粋の書店人・笈入建志（往来堂書店）、「ブック・ディレクター」という職業を開拓して人と本との関係を考え続ける幅允孝（BACH代表）、以上3名が連続して、また、小沼純一（講義1回）があいだに1回（シラバスでの笈入氏の回のどこか）、分担して講義を行う。

授業の到達目標

大きな過渡期にある「本」と「書店」の状況を様々な角度から学び、そのなかでも行われている新たな試みや過去の書店文化の歴史などから、現在の状況を把握するとともに今後の展望を考えてゆく。

成績評価方法

出席はとります。
試験ではなく、レポートで評価をおこないます。
のちに講義中で発表しますが、講師のどなたかにむけてのレポートを提出することになるでしょう。

備考・関連URL

レポートの提出方法、回数については、講義開始後に教場で伝達します。

科目名	現代人間論系総合講座1							
担当者名	宮田　裕光　他／熱田　敬子／阿比留　久美／大久保　孝治／大藪　泰／岡部　耕典／小塩　真司／草野　慶子／小村　優太／御子柴　善之／村松　聡／森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	水曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

文化構想学部現代人間論系は、人間に対する多面的なアプローチを通じて、現代社会の諸問題に立ち向かうたくましい叡知を備えた人材を育てることを目的としている。現代人間論系総合講座1では、現代を生きる人間を対象として多彩な学問を探求している各教員が、それぞれの問題関心をもとに講義を行う。

現代人間論系は、「多様性を生きる人間」論プログラム、「関係を生きる人間」論プログラム、「発達を生きる人間」論プログラム、「心身を生きる人間」論プログラムの4プログラムで構成されている。これらのプログラムに所属する各教員および講師による講義を各回に行う。

本講座は、主として現代人間論系論系への進級を検討している1年生を対象として、導入的内容とし、論系選択に向けた理解を深める場とすることを意図している。そのため、現代人間論系への進級を考えている1年生はぜひ履修してほしい。また、現代人間論系および他論系に所属する2-4年生の履修も歓迎する。現代人間論系総合講座2（春学期）の事前受講は必須ではない。

授業の到達目標

・現代を生きる人間をテーマとした学問的探究について、多方面から学び理解を深める。
・現代人間論系の全体像を把握し、より幅広い観点から人間という存在の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない
●**レポート** 70%　2つのプログラムの教員を選択し、テーマに沿った最終レポートを2つ作成する。各教員の講義に基づいて論題を設定し、論拠・根拠に基づいて適切に論が展開していることを評価の対象とする。
●**平常点** 30%　リアクションペーパーによる小レポートを課す。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

現代人間論系HP： http://www.waseda.jp/gendainingen/

第1回目の授業は教室では実施しません。オンデマンドでの実施となりますので、Course N@vi を確認してください。なお、My WASEDA にログインしている場合は、以下の「講義動画」から事前に初回講義を視聴することができます。 レポート提出期日などはCourse N@vi 上で伝達するので、Course N@vi およびEメールの確認を怠らないようにしてください。

科 目 名	現代人間論系総合講座2							
担当者名	森山 至貴 他／熱田 敬子／阿比留 久美／大久保 孝治／大藪 泰／岡部 耕典／小塩 真司／草野 慶子／小村 優太／御子柴 善之／宮田 裕光／村松 聡							
人間	2単位	春学期	水曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代人間論系は，人間に対する多面的なアプローチを通じて，現代社会の諸問題に立ち向かうたくましい叡知を備えた人材を育てることを目的としている。現代人間論系総合講座2では，特に社会におけるさまざまな課題に直面しながらも解決を模索する，現代に生きる人間のあり方に注目する。 現代人間論系は、「多様性を生きる人間」論プログラム、「関係を生きる人間」論プログラム、「発達を生きる人間」論プログラム、「心身を生きる人間」論プログラムの4プログラムで構成されている。これらのプログラムに所属する各教員および講師による講義を各回に行う。

本講座は文化構想学部現代人間論系に所属する2年生以上の学生を想定して設計されているが，それ以外の学生の受講も歓迎する。また、現代人間論系総合講座1の事前受講は必要としない。

授業の到達目標

・現代人間論系が主題のひとつとしている現代社会に生きる人々の様相について，幅広い観点から理解を深める。

・とりわけ、現代人間論系に所属する学生においては，自論系の全体像を把握し，より幅広い観点から人間という存在の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 70% 2つのプログラムの教員を選択し，テーマに沿った最終レポートを2つ作成する。各教員の講義に基づいて論題を設定し，論拠・根拠に基づいて適切に論が展開していることを評価の対象とする。

●**平常点** 30% リアクションペーパーによる小レポートを課す。

●**その他** 0%

備考・関連URL

現代人間論系HP：http://www.waseda.jp/gendainingen/

第1回目の授業は教室では実施しません。オンデマンドでの実施となりますので、Course N@viをご確認ください。なお、My WASEDAにログインしている場合は、以下の「講義動画」から事前に第1回目の講義がご覧いただけます。

科 目 名	宗教思想							
担当者名	小村 優太							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、宗教にかんして人間がこれまでおこなってきた思索を全般的に考察する。授業は複数回のテーマで構成されており、それぞれ「超越」、「聖典」、「人間」、「社会」、「科学」となっている。講義では特定の宗教に限定することなく、各回のテーマに合った内容を幅広く取り扱い、個々の断片的な事例に留まらない、綜合的な理解を目指す。

講義の各回では、最初に前回の講義のリアクションペーパーをいくつか選んで紹介する。その後それぞれの講義内容に入り、終了10分前にリアクションペーパー執筆の時間を取る。

授業の到達目標

・現代に生きる我々と宗教の関係を理解する。

・宗教の概念を多角的に理解し、それを我々自身の問題として捉えなおす。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 70% 学期末提出のレポートを課す。レポートの内容、書式については授業中に指示する。

●**平常点** 30% 授業への参加、リアクションペーパーの執筆（内容は問わない）など。

●**その他** 0% 0

備考・関連URL

特になし

科 目 名	キリスト教概説 キリスト教の内在的論理と現代							
担当者名	廣石 望							
人間	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

キリスト教は、イエス・キリストが人間に対する神の決定的な働きかけのできごとであると信じる宗教である。キリスト教に特徴的な現実理解や行動のさまざまなあり方も、ここから生じてくる。本講義は、その基本的な特徴と現代的意味について考察する。

授業の到達目標

主として『聖書』にもとづいて、キリスト教の輪郭とその中心的な発言を理解し、現代社会で宗教がもちうる可能性と限界について考察する力を養う。

成績評価方法

●**試験** 60% 第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。複数の問題から選択し、記述式で答える形式

(持込は可)。講義内容をよく理解し、要点を抑えながら論理的に書かれているかどうかを重視する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業終了時に、自身の理解度や授業の感想などをリアクション・ペーパーで提出。授業への積極性を重視する。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

私語および居眠り厳禁。

科 目 名	キリスト教図像学　現代社会とキリスト教美術							
担当者名	武田　一文							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代の世界は、欧米のキリスト教徒によって主導されていると言っても過言ではない。宗教に無関心な私たち日本人にも、キリスト教の知識は不可欠である。キリスト教徒が何を信じ、どういう思考法をするのか、それを学ぶには美術が有効な手段のひとつである。

まずキリスト教図像学（キリスト教美術の約束事の体系）の基本を講義したのち、応用編として、現代の社会にキリスト教美術がどのように生きているか、数冊の絵本を題材に考察する。

以上を通じて、欧米人の思考の根底に存在する文化的背景を知ることになるだろう。

授業の到達目標

キリスト教主題の絵画を見て、それが何を意味しているかおおよそ理解すること。欧米の美術・文学等に触れる際に、キリスト教的な背景を意識すること。

成績評価方法

●**試験**　100%　　キリスト教美術の基本的な知識を問います。主題名（「受胎告知」等）や登場人物（大天使ガブリエル等）を理解すること。聖堂名や制作年代等のデータの暗記は不要。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

資料やパワーポイントの文字部分はコースナビにアップするので、必要に応じてダウンロードしてください。

科 目 名	応用倫理学							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

倫理学は現実に生きる人々の迷いを出発点とし、常に現実の課題との接点の中で鍛え上げられてきました。この講義では、そういった現実の課題を様々な分野から取り上げます。その中で、自己愛は倫理に反するのか、悪いことしかできないときどうすればいいのか、死刑をどう考えるか、などの私たちを悩ます根本的な問題を取り上げていきます。

授業の到達目標

現実に問題にぶつかったときのために、広い視野、重層的なものの見方を養い、的確な判断ができるための基礎を形成することが目的です。

そのために、多岐にわたる応用倫理学の問題に触れることで、倫理学的問題の広さと深さを理解し、同時に問題に取り組むために必要とされるさまざまな分野の知識、洞察へのオリエンテーションをつけます。

成績評価方法

試験：100パーセント　期末の試験で決まります。ただし、出席が足りない場合は、試験を受けることができません。

備考・関連URL

出席は3分の2以上していることが基本です。

科 目 名	社会倫理学　「ともに生きる」ための原理							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会倫理学という学問分野は、いくつかの歴史的経緯の中では既存のものです。しかし、この講義では、「個人倫理」と対比されるものとして「社会倫理」を捉えることで、新たな社会倫理学を構想します。私たちの住む世界には、各人が「どうでもよくない」と思う問題が山積していますが、その中にはその解決が個人のちからでは「どうしようもない」と思われるものも多く含まれます。たとえば、地球環境問題対策や高齢社会における介護です。そうした問題も、ともに生きる人々がそれを社会や社会制度の問題として明確に捉え、社会を改善する方向を見定めることで、解決できるかもしれません。したがって、この講義で構想する社会倫理学は「社会はどうあるべきなのか」という問いを立て、それに答えることを課題として引き受けるものです。この授業を通して、社会倫理学という学問の広がりを体験し、自らの研究テーマを確立するための一助としてもらいたいと思います。

授業の到達目標

この講義は、社会倫理の諸原理に統一的体系性を見出そうとするものでもあります。講義する側はその点を到達目標とするので、受講する方も、ともに社会のあるべき姿を構想できる「構え」を自分のものにできるように、そのための知識を得てください。これが授業の到達目標です。

成績評価方法

●**試験**　95%　　理解度を確認するための試験を行います。
●**レポート**　0%　　特にレポートは課しません。
●**平常点**　5%　　授業回数の三分の二以上、出席していることを成績評価の条件とします。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

この授業では、ときに新聞記事を参照します。参加者も自分で日々の新聞報道に目を向け、「どうでもよくない」問題を見つけて、それがどうして「どうでもよくない」のかを考えてみてください。それが授業理解の手がかりになるでしょう。
毎回配布する出席カードの裏に、授業に対する質問・感想・要望を書いてください。代表的な質問に次回の授業でお答えする予定です。
関連URL: 特になし。

科目名	哲学的人間学　「自律性」概念の展開～関係的自律性のアプローチの概要							
担当者名	石田　安実							
人間	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

哲学・倫理学（生命医療倫理学をふくむ）できわめて重要とされる「自律性（autonomy）」概念について、英語圏で論じられている自律性、とりわけ、近年、新たに登場してきた「関係的自律性」（relational autonomy）のアプローチについて、基本的な項目から講義する。「自律性」は、古来、哲学・倫理学において人間を説明する重要な概念の一つとして中心的な役割をになってきた。最近の生命医療倫理学の文脈でも、医師患者関係、臓器移植、生殖医療、人体を対象とする研究等において、自己決定や自由選択の核となる役割を担い、「自律性尊重の原則」は多くの国で生命倫理原則の一つとされている。そのように哲学・倫理学的に重要な自律性概念について、英語圏の哲学・倫理学では、その定義や説明に多くの議論論がなされてきた。しかし、近年、その理性主義的な傾向と個人主義的な側面が批判されている。とりわけ、feminismの立場に立つ論者は、伝統的な自律性概念は人間の持つ社会性、依存性、人間関係的側面を無視していると批判し、「関係的自律性」などの新たな自律性概念を提示しようとしている。
本講義では、「自律性」の理解についての歴史的流れを追いながら、「関係的自律性」が、なぜ、どのように生まれて来たのかを確認し、自律性概念をどう捉えるべきかを検討しながら議論する。

授業の到達目標

哲学・倫理学において人間理解のためにきわめて重要とされる「自律性（autonomy）」概念について、その歴史的発展と意義、および課題について学ぶ。

成績評価方法

・　授業中の態度：携帯スマホ使用や私語は禁止。
・　授業中も、参加者の発言や感想を期待するが、発言はなくとも、RPに簡単なコメントを書いて提出してもらう。
・　採点の割合：
　　平常点【40%】：3分の2以上の出席を義務とする。
　　レポート【60%】：講義あるいはクラスでの議論に関係するトピックをレポートとして学期末に提出のこと（長さや提出方法については、期末の時期に指示する）。

科目名	西洋近代思想							
担当者名	田原　彰太郎							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

哲学を学ぶ人であれば、その学びの途上で西洋近代哲学の基礎知識が必要になります。この講義では、その基礎知識の獲得を目的とした西洋近代哲学の概説を行います。この講義で扱うのは、デカルトからドイツ観念論までの思想家です。この講義では、教科書的な知識を暗記するというよりは、それぞれの思想家のテクストの邦訳に実際に触れ、自分で考え、自分で理解するという経験ができるように各回の授業を構成する予定です。基本的には、近代西洋哲学を代表する各哲学者の思想を、一人ずつ1～2回の授業を使い解説する予定ですが、近代哲学の流れや文脈も同時に理解できるように「中間考察」や「全体のまとめ」といった回も設け、その際に各哲学者間の関連などについても考察します。この授業で扱う哲学者の詳細は、授業計画をご覧ください。なお、受講生の理解度や関心などに応じて、授業計画をある程度変更する場合があります。

授業の到達目標

この講義を通じて皆さんには、西洋近代哲学の基礎知識を獲得するとともに、この講義で扱う哲学者の言葉に向き合い、自分で考え理解する能力も身に付けてほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　80%　　15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を単位取得の条件とし、試験で評価を行います。
●**その他**　0%

科目名	公共性の哲学思想　公共性再考							
担当者名	浜野　喬士							
人間	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

公共性の問題は、哲学、倫理学、社会思想等の各領域において、この数十年、非常に重要な問題として扱われてきた。それは近年各国で見られる民主主義の動揺、グローバル資本主義の圧倒的席巻、移民・難民問題の深刻化という事態を前に、深刻の度

を増している。本講義ではこうした今日的現象を、広く思想的な観点から再考するために、参考となる哲学者の基礎的な文献を辿り、問題を深く問い直すための視座への足掛かりを探すものである。主要検討対象としては、カント、アーレント、ハーバーマス、サンデル等であるが、折に触れ関連する様々な哲学思想を見ていくことになる。

授業の到達目標

公共性の問題を、たんに表層的に捉えるだけでなく、哲学的な観点から立体的に思考するための批判的思考力を養う。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の理解度を確認するために試験を行う。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　20%　　レビューシートを場合により配布する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	論理的思考法							
担当者名	小口　裕史							
人間	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

論理的に思考するための基礎を学ぶ。日常生活やビジネスなどにおける思考を扱う「クリティカル・シンキング」は広く知られているが、その論理部門である「クリティカル・リーズニング」の理論を学んで、推論を批判的に分析・評価する練習をおこなう。

扱う内容は以下の通りである：
(1)推論とは何か
(2)推論の分析
(3)推論の評価
(4)含意の理解
(5)言語使用におけるスキル
(6)長めの文章で提示された推論の評価

授業の到達目標

1. 論理的に思考するために必要とされる基本概念を理解する。
2. レポートや卒論などを書く際に、資料の中で提示されている推論を批判的に検討し、かつ、自ら良い推論を構成することができるようなスキルを向上させる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回の授業内に、筆記試験を実施する。
●**レポート**　50%　　不定期で、授業中にテキストの練習問題の解答を書いて提出してもらう。5回実施する予定である。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	論理学　述語論理入門							
担当者名	秋吉　亮太							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代論理学を初歩から解説する．「かつ」や「ならば」などの命題結合子，さらには「すべて」や「ある」といった量化子を取り扱う述語論理の意味論・証明論に慣れることを目指す．時間があれば言語哲学への応用なども概観する．

授業の到達目標

自然言語で書かれた推論を自ら形式化し，その正しさを判定できることを第一の到達目標とする．また，こうした論理学の技能習得のみならず，どうして現在の論理学が枠組みが誕生したのかに関する背景の理解も目標とする．

成績評価方法

●**試験**　100%　（1）自然言語の文の述語論理への翻訳，（2）意味論的な妥当性の概念の理解，（3）証明論的な妥当性の概念の理解．
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%　0

備考・関連URL

授業は講義だけではなく演習を含みます．講義を聞いただけではわからず，自分の手を動かすことによって初めて論理学は身につくと考えてください．授業内では回答の発表，ならびに学生の皆さんのつまずきやすいポイントを適宜解説しますので，授業への積極的な参加を期待します．

科 目 名	グローバル化と日常生活　人間と社会のさまざまな側面からグローバル化を考える							
担当者名	大橋　容一郎							
人間	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代世界は、政治経済・情報・文化・交通などの面ではすでに近代以来のグローバル化が大きく進展しているにもかかわらず、民族紛争やヘイトスピーチなどのようなローカリズムの暴発が相次いでいます。人間観や共同体論・平和論などが急転する現実に追いつかないという、基本的な困難に対して、この講義では、「近代的な人間像の光と影」、「個人の人格と共同体」、「ケア的発想と身体論」「理性と情動」などについて考えることで、これまであまり考えられてこなかった観点から、グローバル化の根本的な問題点を再考します。

特に前半の講義では社会や情報などの観点、後半では身体やケアなどの観点を取りあげます。

授業の到達目標

グローバル化している世界の問題点を見るための多面的な視座を確立する。
グローバル化の背後にある世界観や人間観についての基本的理解をもつ。
近代世界の基本的理念と、ケアや身体、情動などとの関係について理解可能となる。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　講義で扱ったテーマからひとつを選び、「グローバル化とそのテーマの関連」についてのレポート（2000〜4000字）を書く。レポートの詳細については講義内で指示する。
●**平常点** 50%　毎回提出するリアクションペーパーの内容による。
●**その他** 0%　0

科 目 名	コミュニケーション論　コミュニケーションと社会							
担当者名	小藪　明生							
人間	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では「コミュニケーション」をキーワードにした社会分析について解説する。「コミュニケーション」という概念は、自然科学から社会科学に至る幅広い学問分野で、関係性や構造を含む多様な現象を解明する新しい視点として欠かせないものである。この授業においては、これらの重要な先行研究を紹介しつつ、コミュニケーション論の基本的な考え方、概念、分析用具などについて学ぶ。そしてこれらの理論を理解することを通して、観察対象となる社会集団を取り巻く社会的環境や現代社会の特徴を読み解く力を修得することを目標とする。

授業の到達目標

コミュニケーションに関連する研究事例について、およびそれによる社会への影響・社会の成り立ちについて理解を深める。またこのような発想を用いて身近な社会的事象を分析する力を養う。

成績評価方法

・試験：75%　内容理解の選択問題、および論述問題からなる試験を行う。
・平常点評価：25%　不定期に授業内容やそこで取り上げたテーマに関するコメントシートを提出してもらい、その記入内容および提出回数をもって、授業への積極的関与の評価とする。

科 目 名	消費社会論							
担当者名	畑山　要介							
人間	2単位	春学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

消費社会論は、近代社会における日常生活や社会関係の変容を消費という側面から分析的・批判的に検討してきた社会学の一領域である。特に1980年代以降、消費社会論はJ.ボードリヤールの記号消費論を中心に発展してきたが、しかしその中では消費は一種の「疎外」の文脈で捉えられてきた。それは、大衆が「誰かに消費させられている」という構造主義的な消費観であり、その疎外に対する抵抗と解放を論じる学問として消費社会論は受容されてきたのだった。しかし、こうした構造主義的社会観に基づく疎外論的消費論は理論的にも経験的にも既に時代遅れのものとなりつつある。この講義では、消費を疎外として捉える制度派経済学やフランクフルト学派、J.ボードリヤール、G.リッツァらの消費論に対して批判的に検討していく。また、構造主義的社会観を批判しつつも結局は疎外論的に消費を論じるJ.ヒースの議論に対しても批判的な検討を加えていく。大衆とは何か、消費とは何か、これらを考えることは近代社会について考えるひとつの道である。この授業では20世紀初頭の大衆消費社会の誕生から現代におけるロードサイド消費文化の形成、そしてサステナブルな消費文化の形成にいたるまでを、疎外論とは異なる視点から再検討しつつ、近代とはいかなる時代かについて考えていきたい。

授業の到達目標

（1）大衆消費社会の形成と展開を理解する。
（2）大衆消費社会に対する批判とその問題点を理解する。
（3）構造主義的な社会観を超えて、現代の消費文化を捉えることができるようになる。
（4）現代の消費文化について、理論的な洞察を交えながら自分なりの視点から論じることができるようになる

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 60%　（1）授業の内容を正確に理解しているか　（2）消費文化に関する様々なテーマに関して、自分なりの意見や考え方をもっているか
●**平常点** 40%　授業態度や課題の提出など。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

本講義は、どうやって消費を活況づかせて景気を回復させるかという政治経済学的な知識を教えるものではない。また、いかにして人々に商品を売り込むかというマーケティング的な知識を教えるものでもない。そういった関心を持つ人に何らかの手がかりを与えることはあるかもしれないが、それ自体を目的に教える授業ではないということを予め理解して受講すること。

科 目 名	社会変動論							
担当者名	河野　昌広							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会は常に、変化する部分と変化しない部分とを併せ持っていますが、その社会の変化をマクロな視点からとらえようとする

学問が社会変動論です。その際に、変化の要因、担い手、趨勢などに着目します。現代社会に見られる変化としては、情報化、消費化、個人化、グローバル化などがあげられますが、これらの社会の変化をとらえる理論について、具体的な事例をとりあげながら考察していきます。その他にも少子高齢化、世俗化、大衆化、医療化などについてとりあげます。

授業の到達目標

社会変動論の方法論や基本的知識を理解した上で、社会の趨勢をとらえる視点を養うことを目標とします。

成績評価方法

●**試験** 40%　学期末の試験
●**レポート** 0%
●**平常点** 60%　Course N@viかコメントシートを活用して、毎回コメントをしてもらい、それを評価の対象とします。
●**その他** 0%　0

講義

科 目 名	日常生活の社会学							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日常生活の中のあれこれの現象を素材として取り上げて、それを社会学的に考察する。そのことを通して、社会学とはどのような学問なのか、社会学的にものを見る、考えるとはどのようなことなのかをわかりやすく説明したいと考えている。

社会学に限らず、どのような学問にも、その学問に固有の言葉（専門用語）というものがある。ある学問を学ぶとは、その学問に固有の言葉を学ぶことだといってもいい。社会学を学ぶということは、社会学に固有の言葉（社会学用語）を学ぶことである。そうやって習得した言葉を使って、あなたは社会学のレポートや試験の答案を書くことになるだろう。しかし、おそらくそれだけではなくて、社会学の言葉を学んだ人は、自分の周囲の世界を社会学の言葉を通して眺め、語り、ときには変えようと試みるようになるだろう。言葉にはそうした力があるのだ。

社会学の専門用語を網羅した辞典がある。ハンディなものから片手では持ち上げられないものまで、大小の社会学辞典（事典）が出ている。しかし、だからといって、社会学辞典を最初のページから読んでいくという勉強法は（まさか実践しようとする人はいないとは思うが）賢明ではない。辞典というものは、通常、アイウエオ順ないしアルファベット順で言葉を配列している。隣接する言葉同士は、見かけが近似していても、必ずしも意味は近似してはいない。意味がバラバラの言葉を頭の中に順次インプットしていっても、言葉のシステムは構築できない。ある言葉の意味というものは、それと近似した言葉や対立する言葉との関連において、はじめてはっきりとするものである。具体的には、あるキーワードを設定して、それを中心に据えて、類似語や反対語とリンクさせながら、言葉のシステムを作っていくのがよい勉強法だろう。というわけで、まず最初に「社会」という言葉を取り上げて、社会学的思考のシステムの構築の第一歩を踏み出そうと思う。

授業の到達目標

日常の中のありふれた現象を社会学の目で観察し、考察する力を身につける

成績評価方法

●**試験** 80%　授業の内容を理解し、その上に立って、自分自身の考察を展開できているかどうか。
●**レポート** 0%
●**平常点** 20%　毎回のレビューシートの提出状況。
●**その他** 0%

備考・関連URL

教室では紙の出席カードは配布しない。授業後一週間以内にコースナビから提出されるレビューシートを出席カードの代わりとする。

科 目 名	ライフストーリーの社会学							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「人生をいかに生きるか」にかかわる規範のシステムを「人生の物語」（ライフストーリー）とここでは呼ぶ。どのような社会も「人生の物語」をもっている。日常生活を構成する諸々の活動が「人生」として組織化されることは、個人のためというより、社会の秩序と発展にとって必要なことだからである。したがって「人生の物語」はその社会の構造的特質と適合するものでなくてはならない。たとえば、江戸時代の日本では、身分相応に生きること（生まれた階層の内部で一人前になること）が「人生の物語」のメインテーマであったが、明治以降の日本では、立身出世（出身階層よりも上の階層へ移動すること）が「人生の物語」のメインテーマとなった。

では、現代のわれわれの社会における「人生の物語」とはどのようなものだろうか。「人生の物語」は人々の意識の中に存在するが、決して意識の中にのみ存在するのではない。それは制度として、すなわちデュルケイムの言うところの社会的事実として、個人の外部に一定の強制力をもって存在している。ポピュラーカルチャーは「人生の物語」の陳列棚である。そこにはさまざまな「人生の物語」が並んでいて、われわれは小説を読んだり、映画やTVドラマを観たり、Jポップを聴いたり歌ったり、商品広告に接したり、他人のブログを読んだり自分でブログを書いたり・・・・そうした行為を通して「人生の物語」を知らず知らずに、ときには意識的に、吸収している。

授業では、個人の成長に伴うライフストーリーの変容と、近代日本におけるライフストーリーの型の生成過程を歴史的にたどりながら（日露戦争後から現代までのおよそ100年間）、現代において「人生の物語」はどのように機能し、あるいは機能不全を起こしているのか、そしてこれからどのように変容しようとしているのかを考える。

授業の到達目標

「人生を生きる」という行為も、他の社会的行為と同じように、社会的規範の影響を受けていることを理解し、かつその社会的規範（＝人生の物語）は時代と共に変化してきたことを理解すること。

成績評価方法

●**試験** 80%　授業において説明されたことを理解しているか。そして、そうした理解の上に立って、自分自身の考察を行

えているか。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　毎回のレビューシートの提出状況。
●**その他**　0%

備考・関連URL

教室では紙の出席カードの配布は行わない。授業後一週間以内にコースナビから提出するレビューシートが出席カードの代わりである。

科目名	子どものこころ（発達心理学）							
担当者名	大藪　泰							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

人間の心の仕組みとその働きは、受精から死に至るまでの間に大きな発達的変容を示します。胎児期、乳児期、児童期、青年期には、その時期に特有な心の働きが見られます。発達心理学は、そうした心の変化の背後にある一般法則や、そこに見られる個人差を見出し、人間の心の健康に役立とうとする心理学の主要な領域です。

きわめて有能な能力を備えて誕生する人間の赤ちゃんの心は、養育者との関わりを支えにして劇的に発達していきます。文化という人間に特有な意味世界と能動的に出会おうとする子どもの心は、他の動物の心とは異なる精神世界を生みだしていきます。人間の子どもの心は、その発達過程でどんな出来事に出会い、それにどう対処し、そこからどんな能力を生み出していくのでしょうか。この講義では、発達心理学が明かにしてきた子どもの心の有能な働きとその不思議な世界について取り上げてみたいと思います。

私たちにも子ども時代があり、子どもの世界を体験してきました。しかし、その子ども時代の体験を皆さんはほとんど忘れてはいませんか。子どもはどんな世界に生きているか想像できますか。子どもたちは、何を感じ、何を考えているのでしょうね。

この講義で、子どもの心の世界に触れ、人間の一生の始まりにあった出来事に出会うことによって、人間という存在の本質を考える手がかりを得ていただければと思います。

授業の到達目標

子どもの心の発達を、情動、認知、社会的認知の視点から学び、子どもの心が自己・他者・モノに対してもつ豊かで有能な働き理解すること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に教場で試験を行います。持ち込みを可とします。
●**レポート**　20%　　数回の小レポートで評価します。
●**平常点**　20%　　出席状況とリアクションペーパーで評価します。
●**その他**　0%　　0

科目名	大人のこころ（発達心理学）　人生の後半を見渡す							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

従来、発達心理学は青年期以降を発達的変化の「完成」とみなし、生まれてからその「完成」に向けての変化を追究する心理学の研究領域であった。しかし現在では、人間の平均寿命の伸びとともに、生まれてから成長し、老い、死に至るまでの発達的変化を研究の対象とするようになっている。また「生涯発達心理学」と呼ばれるように、従来は「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」など時期による研究の区分が行われてきたが、現在では人生の一連の変化を統合的に捉えようと試みられてもいる。

この授業では、この生涯発達心理学的な視点に立ちつつ、特に青年期以降から成人期、老年期にかけての人間の発達に注目する。

授業の到達目標

人間の発達について幅広い視点を持ち、統合的に考えることができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　授業内で感想や疑問、質問を提出してもらう。授業への積極的な参加態度を評価する。
●**その他**　70%　　CourseN@vi上で試験を実施する。詳細は授業内で指示する。

科目名	人間の発達と進化　進化心理学入門							
担当者名	福川　康之							
人間	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

個としての人の発達と種としてのヒトの進化との結びつきについて，国内外の研究成果を紹介しながら論じていく．

授業の到達目標

「適応」という概念を正しく理解する

成績評価方法

●**試験**　85%　　講義内容の理解度
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　出席
●**その他**　0%　　0

科 目 名	人間の発達と文化							
担当者名	大藪　泰							
人間	２単位	秋学期	火曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

人間は、文化というの豊かな意味世界を構築した稀有な生物です。ヒトの「ココロ」は、この文化と出会い、それを学習することによって、人間の「心」になります。乳児期から文化という意味世界に能動的に参入し、新たな意味を創り出してくる有能な人間の心の世界とその発達を探究します。

この講義では、次の3つの視点から、人間の心の発達と文化との関係を論じます。

第1に、人間の文化がもつ特徴を他の霊長類の文化と比較をしてみます。人間の文化がもつ固有な特徴を探ってみましょう。第2に、文化という目には見えない意味世界に、人間の子どもはどのように気づき、学んでいけるのでしょうか。文化の学習ができるために、人間の子どもの心にはどんな能力が備わっているのでしょうか。第3に、異なる文化で発達した子どもの心にはどんな違いがあるのでしょうか。

近年の文化心理学は、日本文化と欧米文化に生きる人々の心の発達とその働きに違いを見出してきています。その違いを検討しながら、文化がもつ人間の心の発達への影響を考えてみたいと思います。

講義

授業の到達目標

文化という意味世界に気づき、子どもの文化学習がいかに生じるかを理解し、人間の心の発達を文化との関連で考える視点を得ること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　講義最終日に、持ちこみ可の教場試験を行います。
●**レポート**　20%　　数回の小レポートで評価します。
●**平常点**　20%　　出席とリアクションペーパーによって評価します
●**その他**　0%　　0

科 目 名	障害学　ディスアビリティ・スタディーズ							
担当者名	岡部　耕典							
人間	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

障害（disability）とは、その人の心身の機能や能力の問題ではなく、社会との関係のなかで立ち現れる「できないこと（dis-ability）」である。そのように考えるとき、「障害をもつ人（person with disability）」は、差別や偏見や配慮の欠如を含む社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人（disabled person）」としてたちあらわれる。障害学（disability studies）とは、このような「障害の社会モデル」の考え方を手掛かりとして、障害をめぐる既存の知を問い直し、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方の提示をめざす知の体系である。

本年度は、まず、障害の概念、そして障害の在る人たちが抗いつつも支えられる福祉制度や政策の概要やその歴史について概観する。障害者権利条約が求める差別禁止の射程はその焦点となるだろう。さらに当事者の語りを聴き、その助けも借りつつ、〈施設〉ではなく地域で自律／自立して生きて暮らすために必要な「新たな福祉のかたち」について検討する。

最終的に本講義がめざすのは、障害（できない／できなくされること）について知り／考えることを通じて、差別・人権・支援・共生・再分配をめぐる現代社会の閉塞と私たちひとりひとりの生き方の窓をひらくことである。

・障害の社会モデル／障害学
・障害者権利条約／差別禁止の射程
・障害当事者の語りを聴く
・障害が在って、生きて／働き／アートすること
・障害福祉の歴史／施設（total institution）という問題
・障害者総合支援法と区分され規律される「自立」
・障害者運動／自立生活運動の実際
・〈支援〉はそもそもズレている　―知的障害／自閉の人たちの自律／自立生活
・「発達障害」という記号

授業の到達目標

障害（できない／できなくされること）について知り／考えることを通じて、差別・人権・支援・共生・再分配をめぐる現代社会の閉塞と私たちひとりひとりの生き方の窓をひらく。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートにより評価する。
●**平常点**　40%　　コースナビ・レビューシートにより評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/
生きて在るを学ぶ：生存学創成拠点　http://www.arsvi.com/

科 目 名	福祉文化論　福祉を文化の「メガネ」で分析する							
担当者名	馬場　清							
人間	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

福祉文化とは福祉領域固有の文化的特徴のことをいいます。そうした福祉領域固有の文化的特徴を記述し、その背景や基盤を考察し、それが持つ問題点や課題を明らかにし、問題の解決や事態の改善の方策を検討することが福祉文化研究です。

本講義では、こうした問題意識に立ちながら、福祉の現場で起きている事象を"文化"のメガネで見ることで見えてくる「福祉文化」を取り上げ、そのあり方を問い直し、新たな福祉文化創造のための方向性を考えていきます。

なお授業はできる限り「双方向性」で行う予定です。授業時に行うアクティビティ、グループワーク等に積極的に参加することを求めます。

授業の到達目標

・なぜ福祉文化研究が必要なのか、その理由について自分なりの意見をもつことができるか。

・日本固有の「福祉文化」（特に負の福祉文化）について、その実態や背景、さらには課題解決の方向性について、自分なりの意見を持つことができるか。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　授業中に課すレポート課題の内容
●**平常点**　50%　　授業の出席状況及びリアクションペーパーの内容
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ユートピアと性							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ユートピア、すなわち万人にとっての理想郷、理想社会などどこにもないと、人間は知ってはいるけれども、明日は今日より良きものだと思わない限り生きていくのは困難だとすれば、個人の生を包む社会の未来の完成形、ユートピアの具体像を構築することは人類にとって必然の課題だし、歴史を振り返っても、事実、われわれはそうしてきました。

その作業に際して、性愛にまつわる問題をどう解決するかは、富や階級や戦争に関する諸問題と並んで、決定的なものです。有史以来、人間が愛だの恋だの色だのの問題でどれだけ悩み苦しんできたかを考えれば、最重要問題とさえ言えるかもしれません。

本講義では、近現代を中心にいくつかのユートピア像を紹介し、そこで性愛がどう扱われているかを検討し、考察していきます。そのなかで、われわれが日頃当然のものと受けとめている、恋愛や結婚や家族のあり方について、受講者の皆さんが再考する機会を受けとってくださったら、担当者としてこれ以上の幸せはありません。

担当者の専門がロシア文学であるため、近現代のロシア文学や芸術、思想が題材としてとりあげられることがどうしても多くはなりますが、ロシア語やロシア文化に関する知識はまったく必要としません。

受講する学生の皆さんにむしろお願いしたいのは、遠い国や遠い時代の出来事や思いを、いまここにある自分の問題とリンクさせようとする用意をもつことです。そうした想像力なくして、深く強い学問的思考は不可能だと、私は信じています。

授業の到達目標

上記授業概要の内容について一定の知見を得ること。

同時に、それを自らの生、生の表現にとって親しい主題として考えていく素地をつくること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　講義内容の理解度。そこからの個々の考察の展開のオリジナリティ。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　0

科 目 名	愛と性の現象学　「芸術作品」に表象された「性」「愛」現象の「思想」的解釈							
担当者名	神田　浩一							
人間	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

人間も動物の一種である以上、他の動物と同じように生物としての特性から生じる〈本能〉に行動を深く規定されています。しかし、他の動物とは異なり、人間は、〈本能的〉と言われる〈性〉現象すら、すでに〈文化〉によって深甚な影響を被っていて、〈恋愛〉の複雑な行動様式を作り出しており、純粋な〈本能〉の発露はありません。

本講義では、〈現象〉という言葉を「人間界や自然界に形として現れるもの」という辞書における最も一般的な意味に解し、社会制度として現れた行為の総体としての〈愛〉と〈性〉に関わる〈現象〉を考察の対象とします。そして、その際に主に芸術作品に表象された〈愛〉や〈性〉を中心に取り上げ、解釈をしていきます。人間の誕生とともにある芸術の中にこそ〈愛〉と〈性〉の現象が典型的に凝縮した形で現れると考えるからです。また芸術作品の解釈の際に合わせて〈愛〉や〈性〉の現象に関する代表的な思想家の思想も紹介したいと思っています（なお、本講義は、フッサールの提唱した「現象学」による〈愛〉と〈性〉の哲学的解釈を目指すものでもなく、〈愛〉や〈性〉の本質とは何かというような哲学的考察を目指すものでもありません）。

授業の到達目標

大きく次の3の目標があります。

1. 芸術作品（文学・映画・漫画など）に表現された〈愛〉と〈性〉に関わる現象を考察することで、芸術作品を読み取る技術を深め、同時に〈愛〉と〈性〉に関する代表的な思想的な解釈を理解すること。

2. 〈愛〉と〈性〉に関する〈制度〉の歴史的な変遷や文化や伝統による多様性を認識することで、自分たちの〈愛〉や〈性〉

に関する観念の有効性が歴史的・地理的に極めて限定されたものであることを自覚し、その結果、自分と異なる考えを持った人々に寛容になること。
3. 1と2をもとにして、来るべき（ありえうべき？）〈愛〉と〈性〉に関する観念について、思想の問題として理論的かつ倫理的に考察できるようになること。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 90% 講義期間にあらかじめ示された課題に対して書かれたレポートを指定日にCourseN@viで提出します。
●**平常点** 10% コメントシートの内容
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

*上に示すのはおおまかなスケジュールであり、受講生の関心・理解度に応じて変更する可能性がありことをご了承下さい
*講義は講師の一方通行の知識の伝達にならないように、ツイッターによる授業内アンケートや意見募集などの様々な仕掛けを凝らして行います。学生の側でも一方的に話を聞くだけでなくコメントペーパー、レポート、講義中の作業などで積極的に参加して下さい。〈文学〉や〈人間〉や〈恋愛〉に興味のある人の受講を希望します。

講義

科目名	生命倫理							
担当者名	村松 聡							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

生命倫理は、急速な生命科学の発展、とりわけ、遺伝子の解明、再生医療の進展によって、20世紀後半から大きなテーマとなってきた分野である。この講義では、安楽死問題、妊娠中絶、遺伝子治療とエンハンスメントなど生命倫理の諸問題を取り上げ解説する。

授業の到達目標

目標は二つある。生命倫理の諸問題についてオリエンテーションをつけることが第1の目標、倫理的な問題に対してどのように議論を行っていくのか、その作法を実際の議論から理解することが第2の目標である。

成績評価方法

成績は一回の試験で決定しますので、注意してください。
なお、出席は3分の2以上していることが基本です。

備考・関連URL

受講人数が多い場合、教室、試験の関係から、受講制限を行うことがあるので、必ず、最初の回出席すること。（受講制限する場合、最初の回に出席していない学生はまず受講資格対象外となるので注意すること。）

科目名	個性の発達と差異 我々はこころの個人差をどのように捉えるのか							
担当者名	小塩 真司							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

人々は互いに異なる存在であり，それぞれに個性がある。しかしその「個性」をどのように捉えるのかを考える機会は多くはない。たとえば，人が自分や他者を評価する際には，どのような評価軸で見るのだろうか。また，その評価軸は時代や文化によってどのように変化するのであろうか。さらにその評価軸を「良い」「悪い」と判断する際に我々はどのようなことを考えるのであろうか。以上のことを踏まえこの授業では，個性の捉え方に関して，(1)個人差の捉え方についての考え方，(2)個人差の測定方法，(3)個人差把握の歴史，(4)個人差把握の先入観と実際，について講義を行う。心理学，特に個人差を扱う「パーソナリティ心理学（性格心理学・人格心理学）」の研究に立脚しつつ，歴史や社会状況も考慮しながら論じる。

授業の到達目標

人間が自分や他者をどのように捉えるのか，またその歴史的変遷がどのようなものであるのかいついて学修する。そのうえで，人間の物事の捉え方，望ましいあり方についてメタ的な視点から考えることができるようにする。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 30% 毎回の授業において小レポートを提出する。
●**その他** 70% CourseN@vi上で試験を実施する。詳細は授業内の指示に従うこと。

備考・関連URL

小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科目名	情報社会論 メディアの現在・過去・未来							
担当者名	辻 泉							
人間	2単位	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

情報化社会と言われる今日、インターネットやスマートフォンなどに代表される新たなメディアの普及が進み、メディアに対する社会的関心は、ますます高まっている。この講義では、これらの新しいメディアから、これまでの古いメディアにいたるまで、メディアに関するさまざまな現象を社会学的に考えていくことを目的としている。
我々が日々接するメディアに関心を向けることからスタートして（"現在"）、そうしたメディアやそれにまつわる主な研究の歴史を振り返りつつ（"過去"）、これからのメディアについても考えていきたい（"未来"）。

授業の到達目標

この講義では、メディア論について学ぶことを目的とするが、特に、メディアを「なんとなく使う」、あるいはメディアに「使

われてしまう」のではなく、各自が主体的にメディアを「使いこなせるようになること」を最終目標としたい。そのためには、①どんなメディアにも「功罪」があることに気づくこと、②そしてそれがこれまでの社会にどのように影響してきたのかを知ること、が重要である。そしてその上で、③これからどうすればよいのか、という点について、自分自身の考え方を展開できるようになってほしい。

成績評価方法

●**試験**　90%　　第15回目の授業時間中に論述式の試験を実施する予定です。
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%　　Course N@viかコメントシートを活用して、毎回コメントをしてもらう予定です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

講義中の私語やスマホ・携帯電話の使用などは、他の学生の迷惑になるので厳禁。また講義では板書を多用するが、スマホなどを用いてのその撮影も厳禁。

なお、受講生数など、開講後に明らかになる諸事情によって、授業の予定などが変更されることがある。

科目名	ジェンダーを知る　文学作品の読解を通して、ジェンダーの問題を考える							
担当者名	黒岩　裕市							
人間	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ジェンダーとは社会的・文化的に構築された性差（いわゆる「男らしさ」や「女らしさ」）と説明されるが、それは規範となり、身体や振る舞い、生き方や関係性を「望ましい」「自然」とみなされるものと、「奇妙」「おかしい」とみなされるものに区分していく。この講義では1990年代以降のいくつかの文学作品を丁寧に読むことから、ジェンダー規範の問題性を問いなおし、さらには、それに対する抵抗や交渉の試みを検討する。

授業で取り上げる作品は、松浦理英子の『親指Pの修業時代』（1993年）とエッセイ、村田沙耶香の『ハコブネ』（2011年）、『殺人出産』『トリプル』『清潔な結婚』（2014年）を予定している。

これらの作品では、「右足の親指がペニスになった」女性が「一般の男性とは全く違った道筋を辿って性的成長を遂げた少年」との「静かな遊戯」や「性にまつわる器官に普通の人と大きく違った特徴がある」人々による「見世物一座」への参加を通じて経験する「成長」（『親指Pの修業時代』）、「性別を脱ぐ」、あるいは、「アース［という星］とセックスをする」という発想（『ハコブネ』）、「10人産んだら一人殺してもいい」というシステム（『殺人出産』）や「三人で付き合うという恋人の在り方」（『トリプル』）、「性別のない結婚」（『清潔な結婚』）…といった多くの人々が「普通」とはみなさないかもしれない設定を通して、身体、女性性や男性性、家族や結婚、出産、性愛における「普通」というものが再考されることになる。その可能性や限界を探っていきたい。

なお、ガイダンスでは、ジェンダーに関わるいくつかの用語を紹介するが、この講義では基礎知識から応用編へ進むような段階的なアプローチは行なわず、個々の作品から抽出できる論点を考察することになる。講義全体を通して、さまざまな論点相互の重なりやズレについても考えたい。

授業の到達目標

「あたりまえ」や「普通」とみなされるジェンダーやセクシュアリティのあり方の前でいったん立ち止まり、問いなおすことができるようになること。

文学作品を読み解き、自分なりの解釈を作り、他者に対して説得的に語ることができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験。論述問題。 授業の内容を踏まえつつ、各自の解釈が出来ているかどうか。また、それを説得的に語ることが出来ているかどうか。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　50%　　「平常点評価」は、毎回の授業で書いて提出してもらうコメントの内容で判断する。単なる出席点ではないことに注意すること。 原則として、授業の感想ではなく、授業で取り上げた作品に関する問いを出す。前の週に予告し、宿題の形式で準備してもらうこともある。 この授業では「平常点評価」の割合が大きいため、継続的に出席できない学生は単位取得が非常に困難になる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

この講義で扱う作品には性的な表現が多く登場するため、受講に際しては十分に注意をすること。もっとも、「性的」とは何か、ということを再検討させる作品でもあるため、一つの単語だけに着目するのではなく、前後の文脈や作品全体の流れに置いて考えてほしい。

科目名	発達障害の心理臨床							
担当者名	伊藤　英夫							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講では、さまざまな発達障害の特性について学び、発達的観点に基づいたアセスメントの方法、早期発見、早期療育、統合保育、学童期の療育、成人期の支援について、幅広く心理臨床の方法について学ぶ。カリキュラムポリシーの「教養・専門を幅広くカバーし、古典から先端・新領域まで学ぶことができる」に位置付いている。

授業の到達目標

発達障害の基礎的な理解ができ、心理臨床的支援の実際を知ることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　85%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説は、最終回の学習の総括の中で行います）。
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　出席状況や授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	福祉社会論　ケアと再分配の新たなかたちのために							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

市場経済至上主義・新自由主義の進展と医療や社会保障の財政危機が喧伝されるなかで、格差や社会的排除、貧困の拡大とケアと再分配をめぐる政策のほころびが顕在化している。

本講義では、まず閉塞する〈福祉国家〉の現在を確認する。医療・福祉・労働の領域における現代社会の課題を概観し、ケアや政策を読み解く理論や思想への架橋を試みる。そのうえで、〈当事者〉概念を手掛かりとしつつ、「援助の対象者」としてまなざされる人々の生と主体性の視座からケアの政策と実践をとらえ直していく。

このような営みを通じて最終的にめざされるのは、社会の多様な構成員にとって望ましい社会／世界の在り方とバルネラブルでプレカリアスな生に寄り添う〈新たな福祉のかたち〉の構想である。

講義

福祉社会の現在を読み解くための手がかりとなるゲストスピーカーを招く予定である。また、ケアの政策と実践にかんする時事問題も積極的に取り上げていきたい。

・「福祉国家」の閉塞／「健康と医療」の政策と理論
・〈ソーシャルワーク〉の脱構築／臨床の場とケア社会問題と社会政策
・福祉政策／福祉社会のアポリア／「新たな福祉のかたち」を求めて
・ニーズとはなにか？／必要の社会的構築／ケアの自律
・ベーシックインカムと分配する最小国家

授業の到達目標

福祉社会の現在進行形について学び、そのあるべき姿を構想する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートにより評価する。
●**平常点**　40%　　CourseN@viレビューシートにより評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/　岡部耕典研究室

科 目 名	セクシュアリティの社会学							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

性に関する諸研究の蓄積は、性的欲望やポルノグラフィ、セクシュアル・マイノリティといったトピックと出会うことによって、従来ジェンダーという語に包含されてきたテーマからはみ出す性にまつわる現象を指すものとしてセクシュアリティという術語を彫琢してきた。本講義ではセクシュアリティという語で指し示される多様なトピックを概括的に紹介しつつ、それらを社会学的に考察する視座と手つきを提示する。

講義全体を通じて、セクシュアリティという語で指し示されるトピックを論じるために必要な広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・セクシュアリティという語の指し示す範囲を把握する
・セクシュアル・マイノリティについての基本的な知識を習得する
・現代日本の性に関する現象を社会学的に考察する

成績評価方法

●**試験**　100%　　理解度をはかる期末試験をおこなう。試験の詳細については授業内で説明する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	クィア・スタディーズ入門							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

主にセクシュアル・マイノリティに関する学術的議論および社会運動の中から生まれた、人々の性と身体のあり方およびそれを支える社会制度を検討する包括的・学際的な学問分野がクィア・スタディーズである。

この新しい分野について概括的に紹介し、性に関する最先端の学術的視座とその現代的意義を提示する。

講義全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・ジェンダー・セクシュアリティについての歴史の中にクィア・スタディーズを位置づけることができる
・クィア・スタディーズの基本的な知識を習得する
・現代日本の性に関する現象をクィア・スタディーズの視座から分析できる

成績評価方法

●**試験** 100%　理解度をはかる期末試験をおこなう。試験の詳細については授業内で説明する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%
●**その他** 0%　0

科 目 名	脱植民地主義のジェンダー							
担当者名	熱田　敬子							
人間	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ジェンダーとは人間を、男と女の二種類に乱暴にわけ、境界をつくっていくカテゴリー化作用である。ジェンダーを理解するためには、現在だけを見るのではなく、この差異化の過程を歴史的にとらえ、変容し続けていくカテゴリー化のプロセスを捉え、ジェンダー化作用が作り出す社会構造を明らかにしなければならない。

この作業を、現在の日本社会において行う際、もう一つ視野に入れなければならない必要不可欠な要素が、日本社会の植民地主義である。日本は、敗戦によって植民地を失ったことで、戦争責任とそれ以前からの植民地支配の責任を同一視してしまい、植民地支配についての責任追及を十分に行ってこなかった。しかし、日本は他国を植民地にするプロセスの中で、自らを宗主国化していった。その深い影響は、支配された側だけではなく、現在に続くアジア諸国への蔑視となって、日本社会にも残り続けている。

本講義では、現在、ジェンダーと植民地主義の結節点として政治的な焦点になり続けている日本軍戦時性暴力・性奴隷制問題を中心的な事例とし、ジェンダーと植民地主義の関係を読み解いていく。

授業の到達目標

社会問題をジェンダーと脱植民地主義の視点から考えられるようになること。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%　学期末にレポートを課す
●**平常点** 20%　コースナビでのコメント記入で評価
●**その他** 20%　中間課題とディスカッションへの参加で評価する

備考・関連URL

授業計画、内容は、受講生の興味・理解度によって変更する可能性がある。

科 目 名	東アジアにおけるフェミニズム							
担当者名	熱田　敬子							
人間	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

フェミニズムとは、「女が人間だというだけの過激な思想のこと」（Feminismis the radical notion that women arepeople.）だ。

第二派フェミニズムと呼ばれる60年代からの女性解放運動は、「個人的なことは政治的なこと」というスローガンを掲げ、性、家族、労働など、あらゆる分野での女性の解放を求めた。それは、多様な、また相互に矛盾しうるニーズや欲望を抱える個人である女性が、自分を肯定しつつ、一人の人間として自由に生きるとはどういうことかを問いなおし、「女が人間だ」ということが「過激」な思想になってしまう社会の変革を求める運動であった。

第二派フェミニズムの中では歴史的なジェンダーとして形作られる「女性」の経験自体も民族、階層、病気や障害の有無、セクシュアリティなどによって多様であることが指摘され、現在はインターセクショナリティ（差別の複合性）の視点が必要だとされている。女性をはじめとするマイノリティの運動を、換骨奪胎して国家や市場に取り込もうとする新自由主義の下で、ある差別を是正するために、他の差別に目をつぶることはできないというインターセクショナリティの思想と実践は、あらゆる差別の禁止というフェミニズムの本来の目的を常に思い出させる。

フェミニズムを欧米発の思想だと誤解している学生も多いが、日本でも、また他の地域でも、フェミニズムの思想と運動が生まれ、育ってきた。その運動のあり方を理解し、今の私たちの現実に生かすためには、それぞれの地域の社会と歴史を理解しなければならない。差別的な社会制度は、突然出現するのではなく、歴史的な積み重ねの中で徐々に「必然」として個人の生をしばるものになっていくからだ。

ここ十数年、東アジアの諸地域では第二波フェミニズム以後の新しい、若手のフェミニズムの担い手が現れている。こうしたフェミニズムの運動は、そもそも「女」とは誰のことなのかを問い直し、他の社会的弱者による当事者運動と関係を深める一方、あらゆる女性への差別の撤廃を目指すうえでの現代的課題にさらされている。

本講義では、日本、中国、台湾、香港、韓国など、東アジアの諸地域における現在のフェミニズム運動の展開と課題を、セクシュアリティ、リプロダクション、民主化運動との関係、世代間の葛藤など、いくつかのトピックをとりあげて論じる。

授業の到達目標

・様々なフェミニズムの運動について学び、自分の人生を切り開き、社会を変える実践に生かすこと。
・東アジアのフェミニズム運動の展開を横断的に見ることで、受講生が生きる日本の国家、社会のジェンダー枠組みを相対化

すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートで評価する。
●**平常点**　20%　　コースナビでのコメント記入で評価する。
●**その他**　20%　　中間課題とディスカッションへの参加で評価する。

備考・関連URL

・授業計画・内容は、受講生の興味、理解度によって変更の可能性がある。
また、社会的に大きな事件が発生した場合などは、臨時のトピックとしてそれを扱う可能性もある。
・受講生同士の活発なディスカッションを期待する。授業中に発言することを学期中の目標にしてほしい。

科 目 名	心身論　心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が大きく変容しており、ストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も多様化、複雑化している。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本講義では、臨床心理学、認知心理学、生理心理学、脳神経科学、哲学などの幅広い学問分野を基礎から概観しつつ、心と身体にかかわる現代の諸問題についての見取り図を提示する。またそれらに基づいて、心と身体についての統合的、調和的な見方を科学がどのように創りあげていくべきか考える。

具体的には、表情、呼吸や対人空間などの身近な心身の問題や、ストレス低減やうつ予防、心理的健康や幸福の増進に役立つとして近年注目を集めているマインドフルネス、感情・情動と身体についての脳神経科学、東洋と西洋の心身観などを紹介する。また授業内で、5分間瞑想やマインドフルネスなど、いくつかの実践を実際に体験する機会も設ける。これらを通して、ストレス管理や心身の健康など、日常生活にも応用できる実践の基礎的理解を得ることを目指す。いずれも予備知識は必要とせず、初めてでも学習、参加できる内容とする。

授業の到達目標

（1） 心と身体にかかわる主題について、心理学、脳神経科学、哲学などを含む幅広い学問分野の視点から、基礎的な知識と理解を得る。
（2） マインドフルネスや瞑想などの実践技法について、各自の日常生活にも活かせるように、基本となる内容を体得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　70%　　毎回の授業において小レポートを課し、出席記録を兼ねる。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

本講義の関連内容をさらに学習する意欲のある学生には、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」（春学期）、「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）、「こころとからだの関係を考える」（春学期）と合わせての履修を勧める。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	生活世界と身体　心と身体の実践と科学							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や他者、社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、生活世界を日々生きる存在である。心と身体の多様なあり方から人間を統合的に捉える試みは、むしろ、ますます重要性を増しているといえる。

本講義では、まず前半において、主に東洋のさまざまな身体的実践について紹介する。具体的には、武道・禅・マインドフルネス、整体・マッサージ・東洋医学、ヨガ・瞑想・笑い、天台宗比叡山、断食（ファスティング）・食事療法などの具体的内容を、ビデオ映像も交えて説明し、それらに底流する心身観について考える。講義後半では、脳と心、身体に関わる心理学や神経科学の研究を紹介するとともに、身体的実践と科学研究を統合する視点について考察する。さらに、こうした心身の研究が幸福感や医学、生命観など、さまざまな学問分野とも関連し、影響をおよぼす可能性について、発展的に展望する。

心と身体の研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持つものである。そのため、本講義では、心理学、脳神経科学、哲学、東洋医学、生命科学など、さまざまな分野の知見が取り上げられる。これらのいずれも、予備知識は必要とせず、初めてでも学習、理解ができるよう解説する。また、日常生活にも活かせる実践的、学術的知識を提供したい。

授業の到達目標

（1）東洋のさまざまな身体的実践の内容を具体的に知り、日常生活にも活かすことができる。
（2）心理学や脳神経科学からの心と身体についての知識、理解を深める。
（3）心と身体に関連する主題について、幅広い学問分野の視点から展望できる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　70%　　毎回の授業において小レポートを課し、出席記録を兼ねる。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前

提とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

本講義は、講義「心身論」（春学期）の内容を応用、発展させたものと位置づけられるが、事前の履修は必須ではない。
本講義の関連分野をさらに学習する意欲のある学生には、講義「心身論」（春学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」（春学期）、「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）、「こころとからだの関係を考える」（春学期）と合わせての履修を勧める。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	現代人と居場所　少子高齢化、個人化社会の多様な「居場所」のあり方							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

少子高齢化、個人化、リスク社会化、格差社会化が進むポストモダン的状況のなかで、非婚化、家族の多様化、雇用の流動化、地域のつながりの希薄化が進行し、ライフコースは多様化している。これまで個々人の「居場所」として機能していた（と思われていた）家庭・職場・地域社会のありようが激変し、現代人はみずからの「居場所」を意識的に模索し獲得しようと動くことを求められるようになった。
不登校、非正規雇用、社会的ひきこもり、「負け犬」、「おひとりさま」、イクメン、ワンオペ育児といった現代的トピックは、社会のどこに「居場所」を見いだし、また「居場所」を見失っているかを示すものともいえる。
そのような社会のなかで、「ほっと安心できる場所」（受容的居場所）や、自分が必要とされ役割を発揮できる場所（能動的居場所、社会的居場所）や、自分を取り戻すことのできる場所（人間的居場所）はどこに求めうるのかという課題について考えていく。

授業の到達目標

・現代社会で起きていることを把握する
・さまざまな属性・年代の「居場所」のありようをとらえる
・ありうべき望ましい社会とはどのようなものか提言できるようになる

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末に論述試験を実施します
●**レポート**　0%　　実施しません
●**平常点**　50%　　毎回授業終了後にコースナビにレビューシートを記入していただきます
●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	「弱さ」を生きる							
担当者名	杉田　俊介							
人間	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、私たちの「弱さ」について考える。私たちは様々な弱さに苦しんでいる。一般的に弱さはネガティヴなもの、乗り越えられるべきものと見なされている。しかし、人文学や宗教の中では、弱さや無力さは避け難いものであるばかりか、人間や社会をより豊かで深みのあるものにする、と考えられてきた。とはいえ、己の弱さや無力さに対峙するには、様々な葛藤や矛盾がつきまとうだろう。そこをどう考えるか。
本講義では、ジェンダー研究、男性学障害学、当事者研究（精神障害者、発達障害者、依存症者など）などの知見を紹介しながら、人間の弱さの意味を理論的に考察する（『ドラえもん』などのサブカルチャーも随時参照する）。後半では、弱さをめぐる様々なテキストを熟読し、さらに思考を深めていく。

授業の到達目標

「弱さ」の意味を多角的に理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　2回の授業内テスト（記述式）を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業における理解度や感想など。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	老いの政治							
担当者名	天田　城介							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「ポスト経済成長時代」と呼びうる現代における「超高齢社会／人口減少社会」において立ち現れている諸問題について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会／人口減少社会のもとでの新たな生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会をダイナミックに構想する。

授業の到達目標

超高齢社会において立ち現れている諸問題――少子高齢化、人口減少、人口の都市集中、産業構造の変化、労働者人口の減少／年金生活者の増大、世代間関係の変容、労働の変容、社会保障の変容、世代間関係の変化、貧困の変容、障害の変容、日本型生存保障システムの変容、戦後日本型分配システムの機能不全など――について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会のもとでの生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会を社会学的に構想するものとする。戦前から戦後、そして現在にいたるまでの歴史的変容を

ダイナミックに捉えたうえで、「ポスト経済成長時代」と呼ばれる「超高齢社会／人口減少社会」に求められる社会を構想することが本授業の到達目標となる。

成績評価方法

小レポート（45%）、学期末レポート（40%）、平常点（15%）で評価します。

備考・関連URL

天田城介のウェブサイト（http://www.josukeamada.com/）参照。

科目名	グローバリゼーションと性　戦時性暴力・被害・解決運動から考察する「性」をめぐる権力構造							
担当者名	永山　聡子							
人間	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「性」をめぐる課題は、生物学的性＜セックス＞と社会的性＜ジェンダー＞の分断と複雑性が、どのようなプロセス・メカニズムを経て社会制度（政治・経済・教育・文化・言語・慣習）を創造し、人々の認識を規定しているのかを考える必要がある。当然ながらこの課題は、一国家・一地域・一時代だけにとどまらず、世界全体を巻き込んだ形で再構成し、時間・空間を越境し続けている、グローバリゼーションが成し得るものである。では何を見ればこの課題へたどり着け、そこに横たわる問題をあぶり出すことができるのだろうか。本講義では、戦時性暴力・被害・被害回復・解決運動、特に日本軍がアジア太平洋戦争で行った戦時性暴力問題を中心にこれらの課題に取り組む。

授業の到達目標

「性」をめぐる権力構造とは何かを理解する。そして諸処のカテゴリーがどのように生成し、同じ人間同志の＜連帯＞を阻み、＜分断＞正統化するのか、プロセス・メカニズムを明らかにする糸口を見つけられるようにする。

成績評価方法

中期レポート（40%）
期末レポート（40%）
平常点（コースナビでのコメントを評価）（20%）

備考・関連URL

参考URL
（1）Bookブログ本棚：http://booklog.jp/users/ianfu
（2）女たちの戦争と平和資料館（wam):http://wam-peace.org
（3）日本軍「慰安婦」～忘却への抵抗・未来の責任:FighForJustice http://fightforjustice.info

科目名	エスニシティ論　「多文化社会アメリカ」の軌跡――公民権運動からトランプまで							
担当者名	明戸　隆浩							
人間	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、エスニシティにかかわるさまざまな問題を「多文化社会アメリカ」を通して考えなおします。アメリカはさまざまなエスニシティに属する人々が一つの社会をつくりあげる「多文化社会」の典型とされてきましたが、2017年1月にドナルド・トランプがアメリカ大統領に就任して以降、これは必ずしも自明なことではなくなっています。この授業では、1960年代の公民権運動にまで遡ってそれ以降の多文化社会アメリカの展開を確認しつつ、トランプ政権以降それがどのように変わりつつあるのかについて考えます。なお授業でおもに扱う対象はアメリカですが、現代日本の問題との関連は常に意識し、後半では日本のエスニシティについても扱います。

授業の到達目標

（1）この半世紀の「多文化社会アメリカ」の軌跡をたどることで、「エスニシティ」「多文化社会」「マジョリティ／マイノリティ」といった概念について応用可能な知識を身につける
（2）アメリカで展開されたエスニシティの歴史を現在の日本の状況と関連づけることで、日本におけるエスニシティについて考える際の基本的な視座を得る

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業最終回に提出する最終レポートで評価します
●**平常点**　30%　　毎回提出するリアクションペーパーで評価します
●**その他**　20%　　最終ディスカッションへの参加で評価します

備考・関連URL

リアクションペーパーの入力などにインターネットを利用しますので、タブレットやノートPCの持ち込みを歓迎します。その他の受講態度についても基本的に各自の裁量に任せますが、他人に迷惑をかける行為（私語など）は禁止します

科目名	霊性と身体　宗教的人間論							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、これまで古今東西の人々によって育まれてきた宗教的、哲学的思索を手掛かりにして、「人間とは何か」という問いを通奏低音としながら数々のテーマを取り扱ってゆく。講義はいくつかのテーマに分かれており（「自己」、「生命」、「死」、「救済」、「世界」）、それぞれのテーマは複数回の講義から成っている。それぞれのテーマは一見別々の方向を向いているように思えるかもしれないが、それらはすべて最終的に「人間」（現代に生きる我々、過去に生きた、そして未来に生きるであろう人間）へと収斂してゆくだろう。講義では個々の哲学的思想、宗教思想に限定されることなく、人間が思索したもの全般を幅広く考察の対象とする。

講義の各回では、最初に前回の講義のリアクションペーパーをいくつか選んで紹介する。その後それぞれの講義内容に入り、終了10分前にリアクションペーパー執筆の時間を取る。

授業の到達目標

・宗教や哲学を手掛かりにして「人間とは何か」という問いを問う。
・古今東西の思想に触れることで、人間にたいする多様なパースペクティブを得る。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70% 学期末提出のレポートを課す。レポートの内容、書式については授業中に指示する。
●**平常点** 30% 授業への参加、リアクションペーパーの執筆（内容は問わない）など。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

特になし

科 目 名	子ども文化論							
担当者名	阿比留 久美							
人間	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

子どもは、子どもの生活を取り巻く様々な文化の影響を受けながら、またみずから文化を生み出しながら、育ってゆきます。この授業では、子どもの遊び、絵本、アニメ、おもちゃ、文化活動といった子ども文化をとりあげつつ、子ども文化と生活のつながりや、子ども（社会）と大人（社会）の関係について考えていきます。そのなかで、子どもとはどのような存在なのか、子どもと社会のあいだに存在する問題とはどのようなものか、ということについての理解を深めていきます。

授業の到達目標

・子ども文化についての理解を深める
・子ども文化と子どもという存在のかかわりを考察することにより、子ども理解を深める
・時代や社会が子どもに与える影響やそこから生まれる問題について把握する

成績評価方法

●**試験** 50% 論述試験を実施します
●**レポート** 50% 子ども文化について調べるレポートを1回出します
●**平常点** 0% 特にありません
●**その他** 0% 特にありません

科 目 名	グローバル化の社会分析							
担当者名	樽本 英樹							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

われわれはグローバル化という急激な社会変動に巻き込まれており、逃れることができない。いかに生きていけばよいのか。いかに社会を維持すればよいのか。身近な事例に引きつけてグローバル化においてどのような社会問題が生じているのかを学ぶ一方、社会学など社会科学の基礎的な用語、理論、方法論などを体得し、グローバル化に伴う社会問題がなぜ生じているのか、どのようにしたら解決できるのかなど社会分析の手法について学ぶ。授業の内容や順番については受講生の反応を見ながら柔軟に対応していく。

授業の到達目標

高校までは学校で学ぶこと少ない国際社会学など社会科学の基礎を学び、われわれを巻き込んでいるグローバル化という急激な社会変動を理解できるようにすることを目指す。これまでの人生で当たり前と見えた社会現象を疑うことができるようになり、学問的および実践的基礎を身につけることが最終目標である。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70% 授業全体の理解度を確認するため学期末に行う。
●**平常点** 30% グループワークなどの参加度を確認する。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

授業への出席および参加をする者だけが履修すること。

科 目 名	西洋市民社会史 近代市民社会の比較史的考察							
担当者名	松園 伸 他／井出 匠／紀 愛子／前川 陽祐							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では4名の講師により、近代市民社会の形成過程を比較史的に考察する。講師の関心に従い、分担し講義する。平明な講義を心がけるが、その中でヨーロッパ社会の本質を理解できればと考えている。

（松園伸）18世紀以降の新聞、雑誌などのメディアの発達、都市の成長と関連づけて市民社会の成長を論じる。その際、イングランド中心史観に陥ることなくスコットランドの状況にも触れていきたい。
（井出匠）中東欧の広大な領域を支配し、多彩な地域や言語集団を包摂していたハプスブルク帝国の近代化と市民社会の展開を、帝国内のナショナリズム運動の発展と関連づけつつ跡づけていく。
（前川陽祐）ドイツにおける市民社会に関して、19世紀を軸に論じる。「ドイツ史においてなぜ市民社会が問題となるのか」

という問題意識を念頭に、ドイツ統一運動やドイツ帝国との市民社会の関わりに着目する予定である。
（紀愛子）20世紀のドイツにおける市民社会の歴史を扱う。特に「戦争」と「市民運動」の視点から、ドイツ市民社会の形成と変容を捉えていく予定である。

授業の到達目標

イギリス、ドイツなどを軸に広くヨーロッパ市民社会の形成について理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない
●**レポート** 70%　論題などは教室で指示する
●**平常点** 30%　出席状況
●**その他** 0%　0

科目名	国家と軍隊　歴史にみる軍・国家関係							
担当者名	岡田　泰介							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

狭義の戦術や戦略に対象を限定する伝統的な軍事史いわゆる「参謀本部の軍事史」に対して、近年、より広い社会的文脈の中で軍と社会の相互関係をとらえようとする「新しい軍事史」が提唱されている。軍と国家の関係を歴史的に見た場合、国内の軍事力を独占しようとする国家と、ともすれば国家のコントロールから離脱しようとする軍事力という二つのベクトルのせめぎ合いを、古代から現代までを貫く一つの潮流としてとらえることができるであろう。講義では、この潮流を縦糸とし、「新しい軍事史」の問題意識を横糸として、軍と国家・社会との関係がそれぞれの時代の歴史的条件によってどのように規定され、展開・変遷してきたのかを、欧米の軍・社関係の原型である古典古代（ギリシア・ローマ）から説き起こして論じる。

授業の到達目標

おもに西洋（ヨーロッパと南北アメリカ）において軍と国家・社会の関係が歴史的にどのように展開・変遷してきたのかを理解する。

成績評価方法

授業毎のリアクションペーパーと期末試験にもとづいて評価する。配点はリアクションペーパー30%、期末試験70%である。

備考・関連URL

上記の講義計画は一部変更されることがある。

科目名	社会主義・共産主義論							
担当者名	奥広　啓太							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

東西冷戦終結から三十年近くが経過し、資本主義と共産主義のイデオロギー的二項対立を軸として国際秩序が語られていた時代は歴史となりつつある。それでも社会主義・共産主義について学ぶことの意義は失われていない。近現代史の理解に不可欠だというだけでなく、グローバル資本主義の「暴走」が批判される際に、それに対抗的な社会経済思想としての役割を（時に安易に）与えられ続けているからである。実際に、先進国のいくつかでは冷戦後初めて「社会主義」をかかげる政治運動が存在感を発揮しつつある。また中国は公式には革命的社会主義（マルクス・レーニン主義）を放棄していないのである。社会主義と共産主義については、その「理論」と「実践」との間に特筆すべき乖離が見られる（社会主義・共産主義と独裁政治の間に理論的な相関関係はあるのだろうか）点に着目して授業を進めていきたい。講義は原則通時的な形式をとり、基本的に英語資料を用いる。

授業の到達目標

①社会主義・共産主義「理論」の基本的理解。
②社会主義・共産主義「実践」の国際的・時代的比較を通じて、思想と社会構造の関係性を考察する。
③学術論文（英語・日本語）を用いてのレポート作成能力を身につける。

成績評価方法

●**試験** 20%　第14回の講義終了後から5日間に提出。
●**レポート** 15%　第8回の講義日に提出。
●**平常点** 65%　レポート提出と期末試験の週を除く13回×5点（出席＋レビューシート）　補足的に小テストを数回行なう。
●**その他** 0%　0

科目名	経済と社会　近代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら検討を行う。
時系列的に講義を進めながら、研究史上、何が問われ、何が明らかにされ、何が今後の課題として残されているのか、についても考える。

授業の到達目標

本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について理解を深めることを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 60%　学期末の試験（持込み不可）
●**レポート** 0%　—
●**平常点** 40%　出席状況他

●**その他**　0%　　—

科 目 名	軍隊と社会							
担当者名	松田　英里							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦後70年を迎えた日本社会では、戦争体験の風化が深刻化しています。戦争の傷痕をかかえながら生きてきた人は、年々減少しています。戦後の日本社会は、「平和」を謳歌する一方で、戦争で亡くなり、傷ついた人たちを十分には省みてきませんでした。戦後補償の問題は、80年代末から強い関心が寄せられ、研究が進展しました。また、日本の戦後補償のあり方の問題点を指摘する研究も、進展してきています。本講義では、軍隊と社会というテーマのもと、戦後補償をめぐる諸問題をはじめ、戦争被害者が抱えた心の傷や身体の障がいをめぐる差別などの問題も取り上げていきます。その際に、よりリアリティを感じてもらうために、本講義では体験者一人一人のミクロな視点からアプローチを試みます。受講生にはミクロな視点を通じて、戦後補償をめぐる日本社会の問題点と軍隊と社会という本講義のテーマについて考えてほしいと思います。

授業の到達目標

この授業の目的は、戦後補償の諸課題とその枠組みの構造的な問題点について理解するとともに、現代の軍隊と社会が抱える諸問題を歴史学的視点から考察する能力を身につけることです。到達目標は、①軍事史についての諸知識を習得すること、②戦後補償の諸課題について、理解し説明できるようになること、③講義を通して得られた知識や資料をもとに戦後補償の構造的な問題点について、論理的に思考し、論述できるようになること、の三点です。

授業は講義形式とし、毎回レジュメを配布します。レジュメでは、毎回のテーマに関わる研究文献や証言・体験記などの資料を提示します。先行研究や資料をもとに、歴史を論理的に理解する力を身に着けます。また、映像や写真なども使用します。板書も行いますので、ノート等の筆記用具を持ってきてください。

なお、毎回講義の最後にコメントシートを提出してもらいます。講義のなかで感じたことや疑問点などを書いてください。次回の授業では、受講生から出された疑問点について回答します。そのやり取りを通じて、受講生にも講義に参加する双方向的な講義を目指します。

成績評価方法

●**試験**　70%　　期末試験は講義の内容を正確に理解しているか、講義でとりあげた各諸問題に対して講義の内容をふまえて、自分の考えをしっかりと論述できているかという点を評価します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　授業のコメントシートは授業内容を正確に理解しているか、授業内容を踏まえて自分の意見をきちんと述べているかという点を評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

学生アンケートの結果は積極的に授業内容の改善に取り入れます。

科 目 名	家族と社会　日常生活から社会システムへ							
担当者名	品田　知美							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

家族は誰もが経験しうる場でありながら、社会の文化や制度のありかたとも深く関わる集団である。この講義では、家族と日常生活について主に歴史的な変遷や国家や地域による違いを比較するなどの方法により、日本の現代家族と社会システムのあり方への理解を深める。この学びにより、ディプロマポリシーに掲げられている多様な価値観の受容および地球的視野で活動できる文化を日常生活において醸成することが期待される。

授業の到達目標

この講義では家族と日常生活について歴史的な変遷や国家／地域による違いを比較することを通じて、日本の家族と社会システムのあり方への理解を深め、私的な領域と公的な領域とのつながりを意識できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第15回の授業時間に理解度の確認を行います。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　20%　　なし

●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

講義内で質問やディスカッションなど対話型を取り入れたりすることもあり、問題発見的な観点を重視している。

科 目 名	労働と社会　労働社会の変容、労働のリアル、労働運動							
担当者名	文　貞實							
構築	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、新自由主義とポストフォーディズム時代における労働社会／雇用システムの変容がもたらすフレキシブルな労働の実態（雇用不安、長時間労働、ハラスメント、職場のメンタルヘルスなど）をとりあげ、若者を搾取するやりがい系・自己実現系の労働観など「新しい労働観」の生成とそれに抗する労働運動の<いま・ここ>について考えることで、労働社会のありようを理解し、「働くこと」について深く考えることを目指す。

授業の到達目標

1、グローバル化の進展のなかで、雇用システムの現状とその変化、働き方の多様化が進むなかで、雇用環境、職場で何か起きていて、今後、社会のなかでどのような働き方が求められているかについて理解し、考察する。

2、働くことの意味、労働価値観や労働者の権利を守る雇用労働の基礎知識を習得し、自分自身や周囲のひとの仕事状況について、それらを活用・判断し、職場の諸問題に対応する力を身に着ける。

成績評価方法

●**試験** 60% 学期末の最終試験で評価する。
●**レポート** 40% 課題は第1回の授業時間に提示する。
●**平常点** 0% 0
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

・授業時間内に受講生の「アルバイト・アンケート」を実施し、その結果をもちいて議論する予定である。
・授業の進度によって、シラバス内容を変更する場合がある。

講義

科目名	文化と社会 近現代日本社会における記憶と文化の解体と再構築							
担当者名	野坂 真							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、理論編（第1部）と事例編（第2部）の二部構成である。理論編では、社会学における文化概念や集合的記憶論などから、社会を観察するうえでなぜ文化という概念が重要なのか、また、社会、文化、記憶といった概念の関係性を検討する。事例編では、理論編で紹介した分析枠組みを手掛かりに、戦後から現在までの近現代日本で実際に起こってきた事象（地方から都市部への人口移動および機関の集積、長期的な景気停滞期における開発の行き詰まりと地方創生、そして東日本大震災）を基に、文化やアイデンティティが再構築されている現場で何が起こっているのかを学ぶ。

授業の到達目標

社会、文化、記憶の概念の関係性に関する社会学の知識を理解し、それを用いて現代の日本社会における記憶と文化の再構築が行われている現場で起こっている事象を考察できる能力を習得する。

成績評価方法

●**試験** 0% 特に実施しない。
●**レポート** 70% 授業後半でテーマや提出方法などを発表する。
●**平常点** 30% 2/3以上出席することは前提として、リアクションペーパーの内容や授業中のディスカッション参加への主体性、コースナビや授業前後での質問・意見の内容などを総合的に評価する。
●**その他** 0% 特になし。

科目名	国家形成論 天皇制を考える							
担当者名	仁藤 敦史							
構築	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

古代に形成された天皇制が変容しつつも現代にまで連続している。
本講義は、天皇制の歴史を古代を中心に制度の変遷により概説する。その構成は、近代においても重要な意味を有した『古事記』『日本書紀』における古代天皇のあり方について述べたうえで、譲位・太上天皇・女帝・改元・陵墓など個別の天皇制度の変遷を考察する。

授業の到達目標

天皇の制度の成立過程を中心に、変容しながらも各時代に与えた影響を説明できる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%
●**平常点** 50%
●**その他** 0%

科目名	前近代政治社会思想論 前近代日本における宗教の社会統合と国家・社会							
担当者名	徳永 健太郎							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では前近代日本社会における社会統合のあり方とその変容を考えていきます。現代と異なり、前近代の社会統合に大きな役割を果たしてきたのは宗教であり、特に日本では神社が、国家レベルから村落の鎮守レベルに至るまで社会統合において大きな役割を果たしてきました。しかしこうした社会統合機能は、現代私たちが目にする神社の姿からはあまり見えてこないのが実情です。また昨今では、神社を安易に日本社会の「伝統」や「固有性」に結びつけるナショナリスティックな動きも見られますが、そうした見方を過去に投影しても、前近代社会における社会統合の実像を見きわめることはできません。そこで本授業では、前近代社会における宗教、特に神社における社会統合機能の具体像やその思想を、歴史学的なアプローチから探っていきます。

授業の到達目標

日本の前近代社会における宗教の果たした役割を把握し、前近代社会についての認識を深めていきます。また日本中世の大まかな流れと歴史学（中世史）における重要な論点・争点を把握できるようになります。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 80% 前近代の国家や社会のなかに神社を位置づけていく上での歴史的な論点を授業に即して理解し、神社と国家や社会との関係とその変容について、各自が自分なりの観点から具体的に把握できているかどうかを評価します。提出方法

などくわしくは授業において告知します。
●**平常点**　20%　　レビューシートの提出状況とその内容を授業への参加度として評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	**民衆世界論**　民衆と戦国大名							
担当者名	糟谷　幸裕							
構築	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
戦国時代は日本史上、民衆が歴史を動かす主体として、はじめて明確に現れた時代とも評されるなど、重大な画期とされている。一方で、一般に「戦国大名」と呼ばれる、自立的な地域権力が列島各地に分立した時代でもあり、そのなかには現在、地域の〝英雄〟として根付いているものも少なくない。
本講義では、民衆と戦国大名の関係を、後者による支配の正当化のありかたに着目しながら考察していく。フィールドとしては関東・東海地域を中心に、適宜各地の事例にも触れていく。

授業の到達目標
地域の〝英雄〟が生まれる背景の追究をとおして、民衆と政治権力の関係を考える。

成績評価方法
●**試験**　75%　　学期末におこなう（論述式）
●**レポート**　0%
●**平常点**　25%　　毎回、感想ペーパーの提出を求める。
●**その他**　0%

科 目 名	**近代日本社会論**　「働くこと」の日本近現代史							
担当者名	佐川　享平							
構築	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
本講義では、明治初年からを戦後までを対象に、日本社会における民衆の働き方の歴史をたどり、そこに示される社会の特徴や変化を捉えてゆきます。具体的には、いくつかの時期区分を設定し、社会の変容過程を踏まえながら、各時期における働き方の実相や労働に対する考え方、そして、労働に関わって生じる諸問題について論及します。人々の働き方はもとより多様ですので、講義では、各時期の社会において特徴的ないし象徴的な職種・働き方などに焦点をあてて、議論を展開してゆくことになります。

授業の到達目標
1．近代から現代に至る日本社会の変遷と各時期の時代状況を理解できる。
2．近現代日本史における労働のあり方とその変化を、多角的に捉えることができる。

成績評価方法
●**試験**　60%　　第15回の授業時間中に試験（記述式）を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回実施の小レポート（感想・コメント・質問などを記入）によって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	**アジア地域社会論**							
担当者名	日吉　秀松							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
言語や文化や民族の多様性をもつアジア社会の一員である中国社会自身も複数の民族や言語が存在している。こうした同質性の低い中国社会を如何に制御するかが中国研究にとって重要な課題である。それも改革開放性先政策を実施して40年以上の歳月を経った今現在の中国を認識するためのカギとなっている。
本講義は、1949年以降の中国政治を二つの時代、すなわち、毛沢東時代（1949年10月～1978年12月）と改革開放時代（1979年1月～現在）に分けて、それぞれの特徴を確認していく。そのため、1949年以降の中国政治に大きな影響を与えた延安整風運動の本質に迫りながら、毛沢東時代の中国政治を分析する。前半の講義内容として、文化大革命を含むさまざまな政治運動の原因、目的や過程を分析し説明する。また、改革開放政策のもとで、経済発展を遂げた中国は内外に期待されていた政治の民主化がいまだに実現されず、政治権力が一個人に集中されつつ、一党独裁ないし個人独裁を維持しているという現状を踏まえて、後半の講義内容は、鄧小平から習近平までの各段階の特徴を説明し、そして、中国政治の行方を展望することとする。

授業の到達目標
1949年以降の中国政治における変動性と不変性を分析しけんしょうすることによって、各時代と各段階の特徴を考察し、中国の全体像をつかむことと多様な文化・価値観の交流力を身に付けることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　75%　　第15回目に期末試験を実施。講義内容の理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　25%　　リアクションペーパーの内容と出席状況を合わせて総合的に判断する。
●**その他**　0%　　無し

科 目 名	西洋社会構造論1　19世紀ヨーロッパ史を考える							
担当者名	小原　淳							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパ地域はもともとは比較的生産力が低く、文化・文明の中心から遠く離れた周縁地域であった。しかし、近世・近代に進行した世界の一体化のなかで、ヨーロッパは先進地域としての地位を確立し、19世紀以降は、政治、経済、文化の各分野において、世界に大きな影響を及ぼした。本講義では、19世紀を中心に、かつては後進的であったヨーロッパが世界史において飛躍を遂げた過程を概観する。その際、世界規模での環境変動や人口移動、文化交流、経済システムの構築と再編といった問題を意識し、グローバル・ヒストリーの文脈のなかでヨーロッパの歴史を検討する。

授業の到達目標

第一に、19世紀ヨーロッパ史の概略を把握すること、第二に、グローバル・ヒストリーの視点を理解すること、第三に、自分の研究対象をそうした視点から捉え、考える力を養うことを目的とする。

成績評価方法

講義

●**試験**　40%　　授業の理解度を問う。毎回の授業で配布する資料に記載された事柄のみならず、授業中に板書や口頭で強調した事柄についても、出題の対象とする。
●**レポート**　30%　　毎回の授業の度に、理解度を問う簡単なレポートの提出を求める。
●**平常点**　30%　　遅刻、授業中の入退出、私語、居眠り、スマートフォン等の使用は出席を認めない。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋社会構造論3　グローバル化する国際移民							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然になった。その結果、分析視点や手法も国民国家を超えたものが必要とされてきた。本講義ではヨーロッパ諸国を対象とし日本など他の諸国と比較しながら、1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を分析していく。なかでも国境を越える人の移動とその影響を中心的な対象とする。国際社会学を中心に政治学、経済学、文化人類学などにディシプリン横断的な授業となる。ディスカッションの時間もつくりながら、刺激ある空間をつくりあげたい。

授業の到達目標

脱国境・超国家的な社会現象のなかでも、国境を越える人の移動とそれに伴う社会問題を理解し、各人がグローバル化を社会現象のひとつとして分析できるようになることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義全体の理解度を確かめるため学期末に実施する。
●**平常点**　30%　　授業時に行うグループワークの参加度合いを見る。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

授業に出席し参加する者のみが履修すること。

科 目 名	近代日本の社会制度と社会思想　近代日本における制度・経済・社会							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解する。

授業の到達目標

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の試験（持込み不可）
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　40%　　出席状況他
●**その他**　0%　　—

科 目 名	現代日本社会論　国際移民と市民権の諸問題							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動のなか、国境を越える人の移動はますます活発になっている。その結果、社会において「メンバーでない人」や「メンバーと見なされにくい人」が居住・滞在していることが常態となっている。日本も例外ではない。少なからぬ外国人・移民が流入し滞在し定住しているのである。いかにして社会秩序を維持していくことができるのだろうか。

いかにして外国人・移民とマジョリティ双方のライフチャンスを保障することができるのだろうか。以上の問題に関して、日本を対象とし英国など他の先進産業国と比較しながら市民権論の視角から論じていく。授業の内容や順番については受講生の反応を見ながら柔軟に対応していく。

授業の到達目標

人の国際移動に関して、英国など他の先進産業国と比較しつつ日本の特徴を理解すること。移民・外国人に対するホスト社会における市民権付与の重要性を理解すること。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70% 授業全体の理解度を見るために学期末に行う。
●**平常点** 30% 授業時のグループワークの参加度を見る。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

授業に出席および参加する者のみが履修のこと。

科目名	**市民意識論** 愛情と労働による市民意識の形成							
担当者名	麦倉 泰子							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代における市民意識のあり方は、「労働」という公的な場面における活動と、「ケア」という私的な場面における愛情による活動という2つの側面から形成されてきた。しかしながら人口変動と価値観の多様化にともなって、人々のライフスタイルは変化し、ケアは専門職によって担われる「ケア労働」として外部化されつつある。「愛と労働」という市民意識を規定する二分法もまた揺らいでいる。この講義では、新たな市民意識を形成する可能性を持つ「愛の労働」、すなわち「ケア労働」の特徴に焦点を当て、分析を行う。

授業の到達目標

市民意識が労働と家族関係の変化と密接に関係しながら変化するものであることを理解する。

成績評価方法

●**試験** 80% 学期末に行う試験
●**レポート** 20% 授業中のレポート
●**平常点** 0% なし
●**その他** 0% なし

科目名	**地域・都市の歴史** 近代都市形成の諸相							
担当者名	森田 貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、近代都市がいかに形成されてきたのか、前近代から近代への移行について、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会、インフラストラクチャーなど、近代都市形成の諸相を取り上げる。

授業の到達目標

本講義は、近代日本において、都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察することを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 60% 学期末の試験（持込み不可）
●**レポート** 0% —
●**平常点** 40% 出席状況他
●**その他** 0% —

科目名	**近代日本都市論** 首都東京を歴史的に解剖する							
担当者名	大日方 純夫							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

歴史学の方法に即して、多様な視点から近代都市に迫ることを通じて、学問のダイナミックな広がりを感得し、社会・文化に対する豊かな着想力を養います。具体的には、有数の巨大都市、東京を対象にすえて、まず、近代都市の原形がどのように形づくられたのかを、①政治、②強制装置（軍隊・警察など）、③生活（産業・交通・暮らし）、④娯楽（芸能・娯楽・盛り場など）、⑤裏面と底辺（病気・災害・貧困など）、⑥都市のなかの「世界」（国際関係・外国人など）、といった観点から解明します。そのうえで、1945年8月の第二次世界大戦敗戦に至る近代都市の姿を、この6つの観点に即して展望します。講義にあたっては図像・地図などを活用・解読し、また、イギリス・フランス・ドイツなどの都市（首都）と比較しながら、日本近代都市の一般性と特殊性を明らかにすることに心がけます。

授業の到達目標

日本における近代都市の形成と展開の過程を具体的に明らかにすることを目標とします。それを通じて、近代日本の都市に関する認識を深めるとともに、歴史を介して都市がかかえる問題をつかみ、解決すべき課題を発見していくことをめざします。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない
●**レポート** 60% 期末のレポート
●**平常点** 40% 毎回実施の小レポート（質問・感想・意見を記入）
●**その他** 0% 0

科 目 名	アジアの地域・都市の歴史　近代朝鮮の地域・都市の変容							
担当者名	加藤　圭木							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義は、近代から植民地期、すなわち19世紀半ばから1945年までを対象として、朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国・大韓民国）の地域・都市について論じます。侵略と植民地支配のなかで、人びとの生活の場である地域・都市はどのように変容していったのでしょうか。また、人びとはそこでどのような経験をしたのでしょうか。

本講義では次の視点を重視します。

（1）民族・階級・ジェンダーといった諸要素に留意しながら、地域・都市の歴史を読み解いていきます。

（2）一国史の枠組みを超えて、日本本国や中国との関係を重視しながら、地域・都市の歴史を論じます。同時に、朝鮮の地域・都市の歴史を通じて、「日本史」の枠組みを相対化する方法を提起します。

以上の作業を通じて、植民地支配とは何かといった問題についても考えて見たいと思います。

講義

なお、日本だけではなく、韓国の最新の研究成果も紹介するつもりです。

授業の到達目標

第一に、近代朝鮮の地域史・都市史研究の最新の成果を知ること。第二に、植民地主義、地域・都市について考察する方法を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　0

●**レポート**　70%　　課題を的確に把握し、論理的に考察することができているかどうかで評価します。

●**平常点**　30%　　授業に対するコメントペーパーなど。コメントペーパーは、授業内容を適切に踏まえて書くことができているかどうか。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	環境変容と地域・都市の社会変動							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義では、現代社会において顕在化する環境変容や災害現象を取り上げ、それに伴って起こる（あるいはその環境変容を促進する）社会変動過程を明らかにしながら、その過程で発生する社会問題の質や内容について検討する。扱う環境変容としては、東日本大震災に代表される地震災害等の自然災害をはじめ、各種の人為災害、ダム建設等の大規模開発や公害等の環境破壊などを射程に入れていく予定である。自然災害においても、災害が中長期化していく段階では、社会組織のあり方や社会秩序の形成、社会のしくみが、災害過程を契機に変動を余儀なくされたり、コミュニティの再建や生活再建を契機にして社会変動を誘発させていったりする現象がみられる。環境変容と社会変動との関係を見ていくうえで、大規模災害は有効な事例であるが、それ以外にも、日本の高度経済成長期においてさまざまな住民運動がターゲットにした開発行為（電源開発や水資源開発、工業団地開発などの巨大開発）とその社会過程は、現代社会やその歪みを分析するうえで貴重な素材になりうる。

授業の到達目標

本授業の到達目標は、環境変容を市民生活の面からリアルに捉え、それにどのように対応していったらよいか、自分なりの視点を養い自ら考えていけるようにすることである。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　　小レポート及び最終レポートの総合評価による。

●**平常点**　40%　　出席及び毎回のBBS書込みによる。

●**その他**　0%

備考・関連URL

受講生には、各自の問題関心に沿った集中的な文献検討と独自の考察が要求される。本講義の内容は、環境問題、公害問題、災害と危機管理に関わる問題、まちづくりや地域活性化、ボランティアやNPOなどの支援組織、自治体政策やこの領域での国際協力などに関わってくるので、環境問題や災害現象に関心をもつ学生だけでなく、都市や地域社会、自治体行政、ボランティアやNPO、国際協力などに関心を持つ学生にも是非受講してほしい。なお、コースナビの利用は必須であり、BBSでの発言はもちろん、教材についてもコースナビで提供されるものを前提として授業を進めていく。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定である。

科 目 名	ローカル・ガバナンス論　多様な主体によるパートナーシップ							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「グローバルガバナンス」論は国境を超えた課題や国際秩序に関心を向けたものだが、グローバル化に伴う多くの課題が、人々の生活が実際に営まれる地域社会にも表れている。課題への対応には、行政だけでなく、多元的な意思決定メカニズムが模索され、ガバメントからガバナンスへが世界での潮流とされる。

そこにおいて、内外の諸主体の連携・協働による活動である「パートナーシップ」が重視されてきている。またそれは本来、課題への対応、ということにとどまらず、どのような地域または社会を目指すのかというビジョンの共有が大切であるはずだ。

この講義では、まず世界共通の課題である「持続可能性」の概念について触れ、環境、経済、社会、政治、文化のつながりを理解する。その上で、ガバナンス概念が台頭する背景、パートナーシップの考え方を概観する。行政・NGO/NPO・コミュニ

ティー・諸グループ・個人がパートナーシップを組み、地域の諸課題に取り組んでいる国内外の事例を見ながら、形式的なのか、実質的に役割を果たしているのか、現状と課題、問題点を考え、地域パートナーシップの望ましいあり方を考察する。
日本のさまざまな「地域」で、持続可能な社会を目指して起きていることとその課題（環境全般、まちづくり、福祉、貧困、偏見や差別などの分野）、解決に向けてのパートナーシップの取り組みについて履修生らが調べて発表しあう。その可能性と課題、地球課題とのつながりなどを議論する。
多様な主体によるパートナーシップは、目の前の課題解決だけでなく、社会づくりにも大きな可能性を持つ。当然学生自身も関わることができる。自分自身がある課題に取り組むつもりで、具体的にイメージしながら授業に臨んでほしい。

授業の到達目標

ガバメントからガバナンスへの変化を知り、その背景や課題を理解する。地域振興や環境保全などで重要な諸主体のパートナーシップについて、その現状を把握し、あり方について考える。

成績評価方法

●**試験** 0%　0
●**レポート** 20%　最終回の教場レポートの評価
●**平常点** 80%　コースナビを通した課題評価、授業への積極的参加、グループワーク
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

＊4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	**比較文明論** 東南アジア諸文明の歴史							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

比較文明の観点から東南アジア諸文明の歴史を取り上げ、人類の生み出した文化の多様性と普遍性について考えます。東南アジアとその歴史を、「中国とインドのはざま」や、植民者によって「発見」された地域という視点ではなく、主体としての東南アジアの人々とその軌跡としてとらえます。 授業では、東南アジア世界への導入として、「東南アジア」という概念の成り立ちを講義し、そののちに歴史理解の背景となる東南アジアの自然環境についての講義をおこない、さらに先史時代から近現代にいたるまでの東南アジアの歴史についての講義をおこないます。

授業の到達目標

単なる東南アジア各国史ではなく、特に植民地時代以前の東南アジアに存在した社会・経済・政治的諸関係の構造 ― 東南アジア世界 ― を理解することを目指します

成績評価方法

各回ごとに小テストを実施し、さらに最終レポートで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

出席（聴講・小テスト）は100パーセントを基本とし、欠席（未聴講・未受験）はやむを得ない事情以外にはみとめない。
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	**産業考古学** 産業遺産の歴史と活用							
担当者名	近藤　二郎　他／永田　史子							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

産業考古学とは、歴史の浅い学問分野である。この学問分野は、イギリスにおいて、「産業革命」を画期として誕生したIndustrial Archaeologyを規準として誕生した学問分野ではあるが、イギリスと日本との相違についても考える必要がある。社会の近代化にとって重要な意味を持つ産業遺産（近代化遺産）を紹介することで、身近な文化財を考える基礎とする。

授業の到達目標

本講義では、私たちの身近に残る産業遺産（近代化遺産）を題材として、それらの文化財が、私たちの地域でどのような形で残っているのかを概観し、その意義と活用について、ひとりひとりが考えることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない。
●**レポート** 40%　毎回に小レポートの提出を課す。必ず、授業終了後に提出すること。
●**平常点** 50%　受講生は受講後、コースナビ上のレビューシートに必ず授業内容について、記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他** 10%　ディスカションの内容などを加味するので、積極的に掲示板の使用を推奨する。

備考・関連URL

本授業は、フルオンデマンド形式で実施されるため、曜日・教室は指定されないので注意すること。

科 目 名	**建築史1** 日本の建築の通史を考える							
担当者名	小岩　正樹							
構築	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アジア的環境下において建築文化を築いてきた日本を対象に、先史から近世および近代にいたるまでの建築の歴史を、形式、技術、社会背景などに着目しながら辿ってゆく。特に、現代においても、日本の伝統建築に対する評価はいまだに曖昧なままであり、様式概念のみでもノスタルジーのみでも語り尽くせない可能性が潜在している。その可能性の所在を探り、どのように現代や自分にとって展開できるか、受講者各自が考える時間とする。
※建築史のうち、西欧建築は、秋期科目「建築史2」にて取り上げるため、あわせて受講することを勧める。

授業の到達目標

日本建築の通史をみることで、歴史的事柄の理解と知識の蓄積を通じて、それぞれの時代性が建築へと結実する仕組みを考え、現代へと続く建築史観を受講者各自で構築できるようになることを目標とする。受講後には、自分なりの建築観（建築への見方・考え方・感じ方）ができていることを目指す。

成績評価方法

各回の感想文と期末レポートを提出。これらレポートの合計評点で最終評価を行う。

1．各回授業感想文（全部を合わせて配点30%、各回講義室のその場で簡単に書いてもらう。必ずしも全回分が揃っていなくとも採点の対象となる）

2．期末レポート（配点70%、A4版3～4枚程度を予定）

・期末レポートを未提出の場合は、配点上自動的に不可となるので注意すること。

・期末レポートは期日内に提出すること。期日後の提出は原則不可。健康上の理由等事情によっては受理する場合がある。

・具体的な課題については講義中で発表する。

講義

科目名	建築史2　西洋建築史							
担当者名	奥田　耕一郎							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1）西洋の建築のうち、イタリア・フランス・ドイツ・イギリスなどの建築事例を取り上げ、技術・歴史・意匠の面から解説する。通史的に連なる各回のテーマに基づいて建築を紹介し、その特徴や見どころ、それがつくられた社会背景などについて解説し、西洋建築と西洋における建築の考え方について、理解を養っていく。

2）家、学校、駅、オフィスビル、店舗、図書館・・・。これらを「建築 architecture」として君たちが意識するようになったのはいつからだろうか。建築は物としてのそれ自体だけでなく、関連するさまざまな行為、思考、概念を含めた総体として把握される。日本建築をあつかう春期「建築史1」に引き続き、こんどは西洋建築のあゆみをたどりながら、建築についての理解をさらに深めていこう。

授業の到達目標

この講義は、西洋の建築や歴史様式についての基礎的知識を習得しつつ広範に理解し、その観察上のポイントや、建築を歴史的に捉えることの意義について学習できるよう計画されている。しかし、これは目標にいたる前提にすぎず、受講者それぞれが自身の知的関心を展開・拡張させることを目指す。すなわち、各自の知的背景に、講義を通じて獲得・蓄積・醸成されていく建築史的知見や建築に対する考え方、建築・都市への想いを重ねることで、現代の世界・現代の社会を理解する視点をより積極的かつ多角的なものとすること、これを目標とする。計3回のレポート（小レポート2回・期末レポート1回）はこの観点から出題する。

成績評価方法

・2回の小レポートと期末レポートを提出。これらレポートの合計評点で最終評価を行う。

1．小レポート　2回　（配点各10%、各800字～1,000字程度を予定）

2．期末レポート（配点80%、3000字程度を予定）

・レポートを3つ全て提出した場合に、上記配点に基づいて評価を行う。1つでも未提出の場合は不可とする。

・各レポートは期日内に提出すること。期日後の提出は原則不可。健康上の理由等事情によっては受理する場合がある。

・具体的な課題については講義中に伝える。

科目名	都市景観の保存学　ユーラシア大陸の都市景観　西アジアで誕生した都市は、地域や民族、時代によってさまざまに変容を遂げる。本講義では、そうして都市の姿を時代・地域にそって紹介し、それぞれの代表的な都市の構造を理解する。							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

西アジアで誕生した都市は、地域や民族、時代によってさまざまに変容を遂げます。この講義では、そうして都市の姿を時代・地域にそって紹介し、それぞれの代表的な都市の構造を理解します。

授業の到達目標

都市とはどのような空間であり、どのような景観をもつのか、それぞれの都市の特徴と背景を理解することを授業の到達目標とします。

成績評価方法

各回ごとに小テストを行い、さらに最終レポートで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

出席（聴講・小テスト）は100パーセントを基本とし、欠席（未聴講・未受験）はやむを得ない事情以外にはみとめない。本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	子ども支援論　自己肯定感の獲得と子ども支援							
担当者名	喜多　明人							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

子どもは「教えられて育つ」だけでは人間にはなれない。子どもは親や教師の作品ではない。子どもは、自分の育ちや生き方、人生そのものを、自分自身の意思と力でデザインしていく権利があります。子どもには誰でも生まれながらにして「自分で自分を育てる力」がある。その力に気づき、その力を信頼し、その力を生かして成長し、自分らしく生きていくことは、子どもの人間としての権利です。子ども自身がそんな自分育ちをしていくために欠かせない活動、とくにその能動的な活動意欲の源としての「自己肯定感」の獲得を支援していくことを、「子ども支援」と呼びます。

この講義では、上記のような趣旨に依拠した子ども支援のあり方について論じます。いままでは、親や教師、保育士など育てる側の支援である子育て支援や教育支援がもっぱら注目されてきましたが、それだけなく、これからは子ども自身が自分の意思と力で育っていけるような"子ども参加の支援2が実践的に深められなければなりません。

授業の到達目標

本講義は、上記の趣旨をふまえて、第一に、子どもの現状について共通理解を得ます。第二には、子どもの自己肯定感を高めていくこと、そのための支援のあり方、とりわけ市民NPO、学校その他の学びの場における子ども参加の支援の視点から捉えなおしていく実践（テキスト『子どもの権利』を活用）について総合的に検討していきます。第三に、子どもの生活の場である地域のあり方について子ども支援の立場から分析し、子ども参加支援の先進的な実践事例に学び、必要な知見をもつことを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

1990年代以降発展してきた「子ども支援NPO、NGO」の活動や、子どもの権利救済や子ども参画事業に熱心な自治体の紹介をしていきます。こうした活動に関心のある学生の参加を期待しています。

科 目 名	子どもの権利論　子どもの権利条約の基礎理論							
担当者名	喜多　明人							
構築	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

1994年5月に国連・子どもの権利条約が国内発効し、「子どもの権利」は日本の子ども法制、子ども政策、子ども関係の実践、研究において欠かせない理念、目的となった。子どもの権利論は、「子どもの権利」の視点を欠いては決して解決しえない子ども問題、たとえばいじめ問題や体罰、虐待問題、あるいは子どもの意見表明・参加活動などの実践的研究のほか、これをさらに深めていくための理論研究の成果を学ぶ。本講義では、今後の子ども政策、実践、法制度研究に欠かせない子どもの権利の基礎理論について、できる限り平易にかつ実践的に学べるように配慮し、必要な知見をもつことを到達目標としたい。

授業の到達目標

本講義は、子育ての当事者、教職員ほかの子どもの現場スタッフなどをめざす学生などに向けて、実践的な力量をつけていくために、その軸になる子どもの権利の基礎理論研究を行う。主なテーマは、（1）子どもの権利（条約）とはなにか、なぜ、日本社会は受け入れないのか、について基礎的な理解を深め、(2)「権利より義務」、「権利はわがまま」論など実践的な課題にせまり、総じては、（3）子どもの権利条約全体を読み解いていくような学びをめざす。そのうえで、（4）現代の子どもの権利に問われているもの、実践課題について、権利行使主体としての子どもの視点に立ち、学ぶ権利、意見表明・参加の権利、安心して生きる権利に言及したい。（5）なお、子どもの権利条約の「精神的な父」（ユニセフ）と称されたポーランドの小児科医、かつ孤児院校長であったヤヌシュ・コルチャックに学ぶなど、子どもの権利規範の歴史的な形成過程についても検討していく。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	子ども支援特論　災害と子ども支援を手がかりに							
担当者名	安部　芳絵							
構築	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

2018年の日本は、度重なる災害に襲われた。災害は、戦争と並んで子どもの権利を侵害しやすい状況をもたらすものである。そこで、2019年度は、災害と子ども支援を手がかりに、子どもの支援についてより専門的・実践的に考えたい。 本授業のターゲットは、将来、子ども支援専門職をめざす学生であるが、将来、子育てをしたいという人も歓迎すす。子ども支援専門職とは、教職員、児童福祉施設職員、自治体職員、NGO／NPO職員、プレイリーダー、ファシリテーターなどであり、まちづくり計画・政策にかかわるにあたっての基礎的な実践力を身につけるためアクティブラーニングで実施する。子どもを対象とする相談・調査がおとなとはどのように異なるのかも取り上げる。そのため、子どもに関連する企業（おもちゃやおむつ、お菓子メーカーなど）やデベロッパーとしてまちづくりにかかわりたい学生も歓迎する。

授業の到達目標

この授業では、
1）「子ども」を参加の権利の視点から捉えなおし
2）「支援者」のまなざしについて考え
3）支援職希望：子ども参加のまちづくりにかかわる計画・政策が立案できる
支援職を希望しない：支援職に就かない者は、子育てや自分の仕事においてどのように活かせるか考えることができる
ことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　課題レポー（1回）トおよび教場レポートを実施し、授業の理解度をはかる。
●**平常点**　40%　　1）授業とくにグループワークに積極的に参加しているかどうか、2）授業後のコメントシートの記入内容の2つを評価の対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

あなたは、子どものことが好きですか。子ども支援は、子どもが「好きだから」できることではありません。好き嫌いにかかわらず、理論を学び、実践を省察することが求められます。ですから、この講義は子どもが好きな人も、そうでない人も歓迎です。子ども支援を理論的に学び、自分なりの支援の軸をつかんでください。また、教員や公務員など子ども支援に直接かかわる人だけでなく、不動産、鉄道、デベロッパー、出版など、子どもや「家族」とかかわる仕事につきたい人も歓迎。

■少年院の見学を予定しています（希望者のみ）。

科 目 名	ジェンダー論							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義は、ジェンダーに関して基礎から学びたいと考える人向けの「ジェンダー論」です。ジェンダー論に関して網羅的に学ぶことはできませんが、ジェンダー論を学ぼうとしている人にとっての導入になることを目指します。ジェンダーやセクシュアリティの視点を用いることは、社会現象や身のまわりの出来事を理解し、見落としがちな差別やそれに伴う暴力について考え、世界を今までとは違う視点で見ることにつながるでしょう。講義では、わたしたちがふだん疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思いこみに気づき、それらを打ち破っていくことを目指します。みなさんにとって身近な自分の問題としてとらえられるように、できる限りディスカッションやグループワークを導入します。

授業の到達目標

「ジェンダー」や「セクシュアリティ」という分析概念を理解し、駆使できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　理解度の確認（選択式の論述問題）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　クラス内パフォーマンス　10%、レスポンス・ペーパー（学期中に3回行う予定）　30%
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

初回講義時にレスポンス・ペーパー等、成績評価に関する説明をしますので、なるべく出席してください。

科 目 名	多民族社会アメリカ							
担当者名	奥広　啓太							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

2008年のバラク・オバマ大統領の当選は、建国以来多民族の統合という課題を背負ってきたアメリカ合衆国にとって、一つの到達点のように思われた。しかしそれからわずか十年弱、民族間の分断はむしろ顕在化し、統合の理念そのものが揺らいでいる。アメリカの多民族性から生じる問題についてはしばしば感情的な議論に支配され、近視眼的な議論に陥りがちである。『多民族社会アメリカ』はより客観的な現状分析に必要な歴史的視座を得ることを主な目的とする。（「歴史」そのものが対立点となっているのは周知のとおりである。）講義は通時的な形式をとり、各時代においてアメリカ社会がその多民族性をいかに自己定義に組み入れてきたのかに焦点を当てる。（言うまでもなく、どの時代においても自己定義は一つではない。）また間接的ながら、現在世界中で政治争点となっている移民・難民問題についても関心を払うことになる。

授業の到達目標

①アメリカ社会の民族構成及び民族間関係の現状把握、またその歴史的変遷の理解。
②アメリカ社会の多民族性について、現在進行形の議論に触れる。またその議論が行われている媒体に詳しくなる。
③「民族」概念自体の流動性を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　15%　　第14回の講義日（7月15日）から7月20日まで提出を受けつける。
●**レポート**　20%　　第8回の講義日に提出。その後修正を行ない、第13回の講義日に完成稿を提出。
●**平常点**　65%　　レポート初回提出と期末試験の週を除く13回×5点（出席とレビューシート）　補足的に小テストを数回行なう。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	歴史のなかの人権　ジェンダーの視点から戦争を考える							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

2018年12月、ナディア・ムラドさん、デニ・ムクウェゲさんの2人がノーベル平和賞を受賞しました。それは、国際社会が性暴力という人権侵害の不処罰の連鎖を止めることを決意した瞬間であったともいえます。戦時／紛争下の性暴力（レイプを含む）は、現在の国際社会では「人道に反する罪」として国際刑事裁判所（オランダのハーグ）で訴追される犯罪とされています。その背景には、20世紀を通して戦争をいかに犯罪化するかという国際社会の努力があります。二度にわたる世界大戦を防げなかったことを反省して創設された国際連合は、1948年12月に「世界人権宣言」を採択しました。それは、戦争は最大の人権侵害であり、人権の尊重こそが平和の基礎であるという認識に基づいています。それゆえ、21世紀は、「人権の世紀」とも呼ばれているのです。本講義では、こうした「人権の世紀」の基盤となった戦争について、ジェンダーの視点から考察していきます。

授業の到達目標

ジェンダーの視点から人権と戦争の問題について歴史的に考察できる

成績評価方法

●**試験**　60%　　到達度の確認（選択式の論述問題）

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　クラス内パフォーマンス　10%、レスポンス・ペーパー（学期中に3回行う予定）　30%
●**その他**　0%　　0

科 目 名	**社会システム論**　理論社会学　　―社会構築のための媒体と論理							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	オープン科目	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

私たちは「社会」という言葉を使い、つねに一定のイメージを持っている。しかしながら、それがどのようであるかについて、一般論として述べてみることはたいへん難しい。社会システム論は、20世紀に前半に生まれてきた考え方である。しかしながら、20世紀は科学と技術の急速な発展を見た100年でもあり、その間に「社会」は、その形を大きく変化させたと考えられる。この変化を一般的水準で十分に捉えつつ、「社会のかたち」について理論的で精密な研究を行うための概念装置を学んでいく。

2年生の初学者には少し難しいところもあるが、やってやれないことはない。社会学についての概説、概論、入門などについて学んだことがあれば、多少役に立つかもしれないが、この授業は、「社会システム論」であり、いわゆる社会学の一分野ではなく、独立したもっと壮大な学問領域であるので、ほとんどの人が初学者である。

秋学期の「社会理論」と対をなしている。そちらが、かなり具体的な社会についての講義であるのに対して、こちらは徹底的に抽象的で理論的なものとなっている。「社会」を知り、そして語るには、両方を学ぶ必要があるからである。

授業の到達目標

「社会」ということを、感覚的、情緒的、感情的、イデオロギー的に表現するのではなく、すなわち、好き嫌い、難しい、辛いなどという表現で語るのではなく、徹底的に論理的に表現していくための認識、論理、作法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　.
●**レポート**　25%　　最終レポート課題の内容。
●**平常点**　75%　　講義進行中で回答いただく小課題の内容。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

授業と、次の教科書とは並行して進んでいきます。　http://wienmoto.at.webry.info/201410/article_5.html

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

文化構想学部　森　元孝ゼミナール　プロモーションビデオ　http: //www. f. waseda. jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	**社会理論**　現象としての石原慎太郎：　日本の政治・経済・社会　1955年から2017年							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

政治家であり作家でもある石原慎太郎について、その全体像を捉える試みである。1950年代から現在まで、この人の存在は、日本にとって間違えなく大きなものがある。一方で多くの信奉者、他方で多くの批判者を生んできた、この人の「フィロソフィー」について、社会科学データとともに、この人の作品を追いながら、再構成をしていく。

一橋大学に社会科学を学ばんと入学したが、希有の作家として、そして政治家として活動してきた半世紀を超える事実は、戦後復興、バブル崩壊、世界における地位低下など、20世紀後半から現在にいたるまでの日本と、今、現在、未来に向けて日本を考える糸口を提供してくれるはずである。断っておくが私は、この人の信奉者ではない。「人」を、ひとつの社会事象として、社会科学的に捉えた講義をする。

授業の到達目標

社会学、経済学、そして政治学を代表とする社会科学は、原理上、理想主義モデルを前提に理論、思想を創り上げることを常としてきた。これに対して、不条理、反主知主義を軸にした作品に人と人のつながり、日本とその質を提示してきた代表的作家、政治家を主題として、現代日本をどう考えるべきか、その拠り所について理解してもらう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　.
●**レポート**　30%　　最終レポートの提出
●**平常点**　70%　　適宜、まとめの意味で、小テストを行う。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

科 目 名	**国際教育論-国際化・グローバル化と教育**							
担当者名	山西　優二							
構築	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

国際教育とは、現代社会において貧困、環境破壊、民族紛争、人権侵害など数多くの地球的規模での諸問題が顕在化し深刻化する中で、私たち一人一人が地球的視野にたって、従来の国際化・グローバル化を批判的に捉える視点から、諸問題の様相と原因を理解し、その解決方策を考え、そして解決にむけての行動に参加することをめざす教育と定義づけることができる。またこの国際教育は、これまでそれぞれの社会的文脈の中で独自の展開を見せてきた平和教育、人権教育、開発教育、環境教育、多文

化教育、などを総称する概念でもある。
この授業では、国際教育の歴史を踏まえつつ、国際教育の実践を「グローバル」「地球市民」「人間関係づくり」「文化理解」「問題解決」「未来想像」「ことば」などの視点から読み解き、さらには国際教育のもつ教育目標・教育内容・教育方法、教師・指導者、教育制度などの改革に向けての意味について、これまでの教育との比較を通して検討することを目的としている。

授業の到達目標

本授業では、国際教育に関する知識を単に獲得することにとどまらず、これまでの教育との比較を通して、その特質や教育改革に向けての意味を見い出し、さらには新たな教育づくりに向けての視点や方策を描き出す力を身につけることを目標としている。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は実施しない
●**レポート** 80% 中間教場レポート・最終提出レポート
●**平常点** 20% 授業参加
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

講義

この授業は講義科目であるため、講義という形態を基本的にはとるが、可能な限り、討議型、対話型、ワークショップ型で授業を進めたいと考えている。授業に積極的に参加できる学生の受講を望む。なおこの授業は、同時間帯の春期科目と関連づけて展開するため、履修者は、文学部の「比較・国際教育学-教育改革の視点とその方策-」を履修することが望ましい。

科 目 名	ボランティアとNPO・NGO NGOによる国際協力活動の理念と実際							
担当者名	湯本 浩之							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今日の地球社会は、開発・環境・平和・人権・文化などに関わる地球的規模の諸課題（global issues）に直面している。こうした諸問題の改善や解決に向けては、各国政府や国連機関をはじめ、NGOなどの市民組織による国際協力活動が展開され、その是非や賛否が常に論じられてきた。
本講では、国内外で展開されている多様なボランティア活動の中でも、いわゆる"発展途上国"の開発問題や貧困問題などに取り組む市民組織、すなわち「開発NGO」に焦点をあてることとするが、その前に、授業計画の前半では、NPOやNGOの組織的特徴や「ボランティア」の原意をはじめ、ボランティア活動の原点や歴史を確認する。また、NPOやNGOが取り組もうとする社会的課題を「グローバル・イシューズ」にとして整理し、その地球社会を読み解くキーワードとして解説する。そして、後半では、"（海外に）援助する"ことの功罪や"（NPOやNGOなどのボランティア団体に）寄付すること"の是非を検討するとともに、国内外の開発NGOの歴史や現状を概観しながら今後の課題を検討していく。 なお、本講では講義の他に、ワークショップやゲスト講師による講話を交えた授業展開を予定する。

授業の到達目標

国内外の開発NGOによる国際協力活動の理念と実際に学びながら、次のような点について理解を深めることを目標としたい。
1）「ボランティア」の原意をはじめ、国内外のボランティア活動や市民活動の歴史や現状を理解すること。
2）地球社会が直面する地球的規模の問題群を「グローバル・イシューズ」として認識できるようになること。
3）NPOやNGOなどの市民組織が持つ「非政府性」や「非営利性」について理解すること。
4）国際協力における「援助」や「協力」の意義や課題について理解すること。
5）ワークショップやグループワークにおいて、他者と協働することや自分の意見・立場を表明できるようになること。

成績評価方法

●**試験** 46% 第15回目の授業中に試験を行い、理解度の確認を行います。
●**レポート** 0% -
●**平常点** 54% 平常点は出席回数（30%）のほか、ワークショップやゲスト講師の講話などに対するコメントカード（6回を予定）の内容（24%）を参考に判断します。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

1）本講では、講義のほかに、ワークショップ（学年や専攻を異にする履修者で構成されるグループでの議論や履修者全員による協働作業）で進める回がありますので、履修者の積極的かつ協力的な参加を期待します。
2）NGO関係者をゲスト講師として招聘した授業を複数回予定しますが、先方の都合により日程や回数を変更する場合があります。
3）履修者の人数やワークショップの進捗状況によっては、授業計画の内容や順序を一部変更する場合があります。特に、履修者数が40名を越えた場合は、履修者全員でワークショップを実施することが困難なため、その代替案として、簡便なグループワークを実施する予定です。
4）本講は、NGOスタッフや開発ファシリテーターの養成講座ではありませんので、NGOの組織運営（総務・経理・広報など）や海外プロジェクトの計画・実施・評価などに関する実務的な方法論や実践的なスキルの習得を目的としたものではないことを予めお断りしておきます。
5）授業概要や授業計画のほか、成績評価や欠席・遅刻等に関する履修の際のルールについては初回の授業で説明しますので、初回の授業は必ず出席してください。2回目以降の授業準備のため、初回の授業に出席できない場合は、必ず事前にその旨を連絡して下さい。
＜関連URL＞
（特活）国際協力NGOセンター http://www.janic.org
（特活）開発教育協会 http://www.dear.or.jp

科 目 名	平和・人権論　環境平和学。平和＝暴力克服に資する脱開発主義の学び							
担当者名	平井　朗							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「平和の反対語は？」と尋ねると多くの場合「戦争」という答が返ってくる。しかしたとえ戦争がなくても栄養失調などで3秒に1人の子どもが死ぬ世界、「豊かな」電力を支えた筈の原発のために何万人もが故郷に帰れない現在の世界を平和であり、人権が守られているといえるのだろうか。

戦争に限らずあらゆる暴力を減らしていくことをめざすのが平和研究であり、平和学である。開発や利益の増大よりも、生命とその生存基盤（サブシステンス）を志向する。

格差が拡大して人間同士の関係性が破壊され、多様な生命のつながり／生態系としての地球環境が壊されるいま、具体的な現場で暴力をとらえ，それを克服していくことが課題である。永続可能な社会をめざす環境平和学をアジア太平洋地域の現実やNGOなどの実践から学び，世界に満ちあふれる暴力は私たちにとって決して他人事ではないこと、いま何をしてはならず、何をすべきなのかを考える。

授業の到達目標

本講義では、可能な限り視聴覚資料をはじめとする生の情報を取り入れ、受講者同士での意見のシェア（バズセッションと呼ぶ）、レビューシートなどでの積極的な参加を求める。

貧富の格差の拡大や環境破壊が私たちの日常を取り巻く構造的暴力であることを理解し、私たち自身もその構造に関与する当事者であるという視座を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終回授業時間に、それまでの授業での配布テキスト、資料、ノートを参照可の、教場レポート形式の「理解度の確認」を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　出席とレビューシート。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

毎回授業時に、次回テキスト資料等を配布するので授業時までに必ず熟読すること。授業はその前提で行う。

原則として、3分の2を超える出席がなければ評価の対象としない。

受講者の人数、問題関心、ゲストスピーカーの予定、等々によって、内容・日程を調整する場合がある。

科 目 名	社会構築論1　東アジア共生論―隣国との葛藤を乗り越えるために―							
担当者名	川尻　秋生　他／大日方　純夫／金　敬黙／豊田　真穂／中野　敏男／柳澤　明／李　成市							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現在、日本と近隣諸国との関係は良好ではない。このような関係になってしまった原因を過去に学び、現状を分析し、将来を展望することは、現代を生きる我々にとって喫緊の課題であると言える。

そこで、本講義では、社会構築論系ならびに東アジアに関心を持つ教員が集まり、過去・現在・未来の3つのクラスターに分けて講義を実施する。すなわち、①日本が東アジアの国々と歴史的にどのような関係を築き、日本が近代化する過程でその関係がどのように変化し、どんな影響を与えたのかという点を検証し（東アジアの歴史を考える）、②現代の日本と近隣諸国との間に横たわっている問題点を洗い出し（東アジアの歴史認識を考える）、③将来、日本がこれらの国々と共生し、より良き関係を築くための方法（東アジアの共生を考える）を、受講生とともに模索したいと考える。

なお、本講義は、社会構築論系ならびに社会構築論の副専攻「東アジア共生論」の導入科目も兼ねている。

授業の到達目標

現在、アジア諸国に対するヘイトをはじめて負の情報が溢れ、一定の支持を集めているようにも思われる。しかし、こうした見解は、自分で考え、検証したものではなく、マスコミなどによるステレオタイプの言説を鵜呑みにしている場合が少なくない。

本講義では、知識の吸収はもちろん、自分自身で今の東アジアに横たわる諸関係を読み解き、他者の見解に惑わされず、将来への展望についての意見を持つことをめざす。

成績評価方法

●**試験**　40%　　クラスターごと（東アジアの歴史を考える・東アジアの歴史認識を考える・東アジアの共生を考える）に小レポートを課します。
●**レポート**　40%　　学期末に課します。
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%　　0

科 目 名	子どもの参加と学び支援論							
担当者名	喜多　明人　他／安　ウンギョン							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本来、子どもにとって学びとは、自己の成長要求に根差した自発的な行為であって、教える行為とは相対的に区別される子ども固有の営みです。しかし、実際にはおとな社会の圧倒的な期待感、要求を背負って、子どもたちは教えられすぎて、自分の本来的な学びへの要求を見失いがちです。たとえば、おとな社会が良かれと用意した学校についても、義務教育段階だけで年間14万4000人（2018年10月文科省公表）、高校段階までであれば、中退を含めて20万人の子どもたちが学校を離れているのです。その高止まり傾向は20年近く続いています。

このような学校の「教える」行為の限界の中で、地域や市民の中でこれを学校外から支える多様な学びの場が創られてきました。2016年12月7日には、普通教育機会確保法が成立し、学校外の多様な学びの場に対する公的支援の道が拓かれました。

たとえば、学校外の多様な学びの場としては、日本国内だけでも、フリースクールやフリースペース、ホームエデュケーションさらには、欧米市民社会から発展してきたサドベリ、シュタイナー、フレネなどのオルタナティブな学びの場があります。これらの多様な学びの場は、＜子ども参加を軸とした学び支援＞を行ってきたところに共通の実践原理があるといえます。

授業の到達目標

上記のとおり、本講義「子ども参加と学び支援論」は、演習14「学校外の多様な学び実地演習」とともに、2016年12月に成立した普通教育機会確保法をうけて、学校外の多様な学び支援に関する基礎研究を行うとともに、学校外の多様な学びを支えるスタッフ、支援者の育成等のために必要な教養および実地の学習支援力を培うことを狙いとします。

日本ではこの受け皿となる支援機構も人材養成の場も機関も不在状況にあります。そのなかで、大学がその一翼を担うことの社会的役割を自覚しつつ、本講義では、以下のように、多様な学びの場と子ども参加を支えていくスタッフとして、さまざまな力量を形成していく事が当面の目標となります。

なお、詳細な計画は講義時に示しますが、講義の柱と担当教員は以下のとおりです。

1 「子どもの参加と学び支援」論ガイダンス（喜多）
2 地域における多様な学びの場の形成（喜多・安）
3 子どもの参加と学ぶ権利保障の理論（喜多）
4 多様な学びの支援と制度（喜多・安）

講義

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%
●**平常点** 40%
●**その他** 0%

科 目 名	アジア社会構造論 「満蒙」と日本							
担当者名	柳澤 明							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「満蒙」とは、現在の中国東北地方（マンチュリア）と内モンゴル東部を合わせた概念であるが、この地域と日本の関わりを理解することは、近代日本の軌跡をたどる上で一つの鍵となる。そこで、この講義では、19世紀後半から20世紀前半にかけての「満蒙」の歴史を扱う。ただし、日本を主体とした対外関係史・植民地史として描くのではなく、多民族が複雑に入り組んだ現地社会の変容や、この地域を取り巻く国際関係の推移を基軸として、その中に日本を一つのアクターとして位置づける視点をとる。また、講義の順序はだいたい時間軸に沿っているが、平板な概説におちいらないよう、各回に一つの中心的なトピックを設定して、時代を前後に飛び越えながら論ずるスタイルめざす。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

「満蒙」の歴史に対する全般的な理解を深めるとともに、近代日本の歴史を国際的な文脈の中で読み解く視座を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない。
●**レポート** 70% 期末に授業内容に関連するレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点** 30% 授業への参加度による。
●**その他** 0% 特になし。

備考・関連URL

図像資料なども積極的に利用して、できるだけわかりやすく進めていきたい。

科 目 名	アジアのトランスナショナル関係論 主権国家を超えるアジアは実現するのか？							
担当者名	金 敬黙							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

政治面においてはナショナリズムや国民国家の影響力が強く残るアジア地域ですが、経済や文化面においては地域統合や相互依存の動きも活発に見えています。

本講義ではトランスナショナリズムの理論的な側面と実証的な分析を行います。

授業の到達目標

具体的な事象を活用しながら、手触りのある人、モノ、情報、カネの移動と脱国家関係の進展を理解することを意識します。

国家単位に限らず、市民社会や個人、企業などの取り組みを重視することから21世紀における現象を検証します。

国際文化論やトランスナショナル関係論の文脈から分析します。

成績評価方法

出席と毎週の定期課題で70%、レポートや試験で30%の評価を行うことを目安とします。

備考・関連URL

この科目は、キャンパスアジア「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」プログラムの関連科目でもあります。この科目の2単位を含む、計12単位以上のキャンパスアジアプログラム科目（含：北京大学もしくは高麗大学校への留学）を履修・取得すると、キャンパスアジア修了証が授与されます。

キャンパスアジアプログラムの詳細：https://www.waseda.jp/campus-asia/

科 目 名	アジアにおける人間の安全保障 「人間の安全保障」をアジアの視点から再考する							
担当者名	金　敬黙　他／春名　展生							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今日、アジア地域はさまざまな課題を抱えています。紛争、暴力、環境破壊、格差などのアジェンダは一国では解決できない問題です。同時に、従来の国家の安全保障でも取り組めない課題になります。したがって、国家の安全保障と人間の安全保障の両方を視野に入れた「共通の安全保障」をテーマにしつつ、理論と実践的な分析力を高めることをねらいとします。

授業の到達目標

欠乏からの自由と恐怖からの自由という「人間の安全保障」の理論的な取り組みに加え、アジア地域の共通課題について実務専門家の講師陣とのケース分析型の授業スタイルを通じて、実践力と想像力・創造力を育むことを目指します。とくに、2019年はG20の会議が日本の大阪で6月に開催されます。したがって、G20サミットの議題などを取り上げつつより具体的なアジェンダに取り組む予定とします。

成績評価方法

毎回の授業と関連した内容で作成するレポートで70%の成績をつけます。
出席を含む平常点を30%としてします。

備考・関連URL

この科目は、キャンパスアジア「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」プログラムの関連科目でもあります。この科目の2単位を含む、計12単位以上のキャンパスアジアプログラム科目（含：北京大学もしくは高麗大学校への留学）を履修・取得すると、キャンパスアジア修了証が授与されます。
キャンパスアジアプログラムの詳細：https://www.waseda.jp/campus-asia/

科 目 名	サステナビリティ論 世界で起きていること、早大生ができること							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「未来」はいつの時代も不透明で予測不能なものだ。その中で、人は懸命に前を向いて歩いていく。あらゆる将来設計や夢も、この社会が、変化はあっても基本的にはこのまま続いていくことが前提だ。しかし実は今、その基盤がぐらつき始めており、文明の存続すら危ぶまれている。なんとか延命をするためにすべての政府が様々な対応を取ろうとしている。

このことを表現する言葉が「サステナビリティ」だ。

この授業では、「サステナビリティ」の概念について理解するとともに、これが重要な議題として国際政治の舞台に登場してきた背景をたどる。それが地球共通の課題であり、環境課題と経済、社会、政治、文化の密接な関係性について認識する。

関連して、地球の現状を、気候変動やエネルギー、汚染、資源と廃棄物、生物多様性、食料と水、安全や経済格差などから概観する。遠い彼方で起きている、自分の日常とは無縁と思われる問題が、実は自分とつながっていることを、幾つかのトピックを取り上げて検討する。

持続可能な社会を構築するためにどのようなことが必要なのか、「経済成長」や「開発」など、一般的に「良い」とされているコンセプトを多角的に考察し、価値観を問い直す機会を持つ。とても大きすぎて自分には何もできないと思うような地球規模のテーマに関して、実際に大学生たちが行動を起こした例などを紹介し、これまで見てきたさまざまな課題に対し、日常で一人でできるアクションは何か、同じ志を持った何人かでできることは何か、何に対して何ができるかを、グループディスカッションを通して考えていく。

広い視野で価値観の転換も含めて考察し、行動へのスタートラインに立つのがこの科目の目的だ。

授業は導入的ではあるが学際的で、社会学を基盤として、生態学や開発学、地理学、人類学などに及ぶ。授業運営は一方通行の講義ではなく、課題を踏まえてのディスカッションや発表など、履修生の積極的な参加が必要となる。

授業の到達目標

「サステナビリティ」の議論が起きる背景と現代までの流れを押さえる。概念について理解し、「持続可能な開発」との違いを認識する。世界の現状を理解し、自分の日常との関連について意識できるようになる。日常のできごとについて、多角的な視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　10%　　15回授業時の教場レポート試験における理解度
●**レポート**　10%　　リーディングノート課題など
●**平常点**　80%　　出席、授業への積極的参加、提出課題（毎回の授業後、指示された題目に沿ってコースナビから提出する）
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

＊履修生の関心、進行状況によって、柔軟に授業内容を変更していく。＊4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	社会実践論 課題解決のアクターたち							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Think globally, act locallyという表現は100年以上前からあります。社会も人々も、異なるレベルで多種多様な課題を抱えている現代、様々な立場にいる個々人が、まさに地球的な視野を持ち、足元で課題解決のために行動することが求められています。

かつては国や自治体が、課題解決の主体と見なされていましたが、「新しい公共」という概念が日本でも登場し、異なるアクターらが時には連携しながら活動をしています。

この授業では、近年社会実践の主体としての役割を担うNPO／NGO、社会的企業、社会起業家、企業のCSRなどを取り上げ

ます。米国や英国での状況も含め、それらが登場してきた歴史的背景や現状、それらを支える制度などに触れ、どのような条件が支えるために必要なのか、課題は何か、検討していきます。
後半は、社会実践をしている人へのインタビューや、履修生自ら、それぞれなんらかの「社会実践」を経験してもらい、そこから見えてくるものについて検討を重ねます。小グループで課題別に、社会実践のあり方を検討し、意見交換します。
どのような目標のもと、どのような社会実践があり、何が達成できているでしょう。
授業のアプローチは原則として参加型体験型です。小グループでのディスカッション、クラス全体の討議、各自の調査と発表などを取り入れます。
授業内容と進行は、履修生の数や状況に応じて変更します。

授業の到達目標

課題解決のためのアクターにどんな形があるのかを理解します。特にNPO／NGOの歴史と特徴、現状を知り、他のセクター（行政、企業）との関係を学びます。現実に体験することを通して、社会課題に対する理解や、社会実践とは何かについて考察します。

成績評価方法

●**試験**　10%　　最終回の教場レポート
●**レポート**　20%　　インタビューと実践課題の評価
●**平常点**　70%　　授業への積極的参加、各講義に対するレスポンス（毎回終了時に指示された題目に沿って、コースナビから提出する）
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

＊4回以上の欠席は単位を認めない。

講義

科目名	近代イギリス帝国のネットワーク：ヒト、モノ、情報の移動と帝国							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、近世・近代イギリス大西洋世界を主な対象とし、本国と植民地のあり方について17世紀、18世紀の言説を明らかにしつつ、当時のイギリス帝国における人の移動、通商、情報網といったものを検討していきます。それにより、当時のイギリス大西洋帝国において、多様なネットワークを媒介に本国（ブリテン島）と諸地域（北米大陸、西インド諸島、アフリカ）とが双方向的に結びついていく様相を示していきます。なお、学生の興味関心や理解度に応じて、授業内容は小幅な変更が加えられることがあります。

授業の到達目標

イギリス大西洋世界についての知識を獲得する。
近世・近代イギリス帝国の持つ多面的、重層的、双方向的な性格についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業にて、理解度を確認するための試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席とコメントシートの内容から総合的に評価します。
●**その他**　0%

科目名	近代ヨーロッパと海：地中海から太平洋まで							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古来より海は障壁であるとともに回廊として機能してきました。本授業では、ヨーロッパ世界と海との関係を主に近世・近代を対象に取り扱っていきます。ブローデルの『地中海』やベイリンの『アトランティック・ヒストリー』などを用いつつ、海域史（maritime history）の展望や理論について取り扱うとともに、地中海から太平洋まで様々な事例を取り扱っていきます。それにより、海と地域、人々との関わりについて理解を深めていきます。なお、授業の内容については学生の理解度、関心に応じて小幅な変更が加えられることがあります。

授業の到達目標

海域史についての基本的な知識を得る。
海を媒介にした国家、地域、人の歴史についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業にて、理解度を確認するための試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席及びコメントシートの内容から総合的に評価します。
●**その他**　0%

科目名	哲学専門講義1（ドイツ哲学／現代哲学）　歴史をめぐるベンヤミンとハイデガーの思索　―　1920-30年代のテクストから							
担当者名	鹿島　徹							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義はベンヤミンとハイデガーの名を標題に掲げながらも、20世紀を代表するふたりの思想家の所説を比較しようとするものではありません。そもそも共約不可能な両者の思想を交互に読み進めるなかで生じる不協和音から、「歴史」という哲学的問題を考えるための意想外の手がかりを見いだそうとするものです。 おもに1920年代から30年代にかけてのかれらのテク

ストを各回読み切りで取り上げてゆきますが、それらをより開かれたしかたで理解するために、関連する他の20世紀の思想書を取り上げてゆきます。その書き手の名前をいま挙げるなら、ヴェーバー、ホルクハイマー／アドルノ、アーレント、リクールとなります。、

授業の到達目標

20世紀前半の哲学的歴史論についての理解を得たうえで、それを手がかりに21世紀の状況ついて各自が省察する力をつけること。

成績評価方法

中間試験と期末試験による。

科 目 名	哲学専門講義2（英米哲学／現代哲学） 科学哲学入門							
担当者名	吉田　敬							
哲学コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義の目的は、科学と疑似科学の境界線はどのように引くことができるのかという線引き問題を手がかりに、科学哲学の基礎を学ぶことである。講義で扱われる具体例としては、創造科学、占星術、超能力研究、代替医療などが挙げられる。こうした具体例の検討を通して、帰納主義、反証主義、パラダイム論、科学的実在論、反実在論などの科学哲学上の重要な立場を学んでいく。

授業の到達目標

疑似科学の検討を通して科学とは何なのかを理解し、両者の違いを自分の言葉で説明できるようになること。
科学哲学上の重要な立場を学び、その長所と短所を自分の言葉で説明できるようになること。

成績評価方法

教場試験（100%）による。なお、出席点とはしないけれども、出欠確認回数の3分の2以上の出席が単位取得には必要である。

科 目 名	哲学専門講義3（中世哲学）							
担当者名	村上　寛							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中世哲学は古代、近代の哲学と連続するものである一方、古代及び近代とは区別される明確な特徴を備えている。それは、およそ6世紀から15世紀までの中世ヨーロッパが、文化や思想、社会制度といったあらゆる面において「キリスト教社会」であったことに起因するものである。しかしこのことは中世哲学が、理性ではなく啓示真理が優先される、ある種隔絶した「哲学」であるということを意味するのではない。信仰と真理の一致ということは確かに一つの大きなテーマではあるが、そのような観点に限定されることなく、むしろ古代哲学を継承しつつキリスト教社会を基盤として展開された普遍的な哲学の営みとして中世哲学を捉え、その理解を目指すものである。

本講義では、各回ごとに中世哲学における重要なトピックを取り上げるが、人物ごとや時代ごとといった取り上げ方ではなく、トピックごとにおよそ千年という中世全体を広く射程に捉えて講義を行っていく。

授業の到達目標

受講生が中世哲学の特徴及び概要について理解した上で、本講義で扱ったテーマやトピックの内、少なくとも一つについて理解を深め、論じられるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを課す。
●**平常点**　20%　　各回の授業終わりにレビューシートの記入時間を設けるので、その提出による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

評価基準としてはレポートが80%だが、特別な事情がない限り3分の2以上の出席が前提となる。

科 目 名	哲学専門講義4（フランス哲学／現代哲学） 現代における思考のプラクシス							
担当者名	西山　達也							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちは、なぜ、どのような時に、「思考する」という行為をおこなうのだろうか。

なぜ私たちは、時として思考停止に陥り、あるいは突然、何かに取り憑かれたように思考を開始するということがあるのだろうか。思考はそもそも何を〈為す〉のだろうか。

フランス近現代の哲学は、思考するという行為をめぐって、たえず自己反省を積み重ねてきた。そのよく知られた例がデカルトの「コギト」であり、パスカルの「パンセ」であるが、こうした探求は現代哲学において発展的に継承されている。本講義においては、現代フランスの哲学者たちが「思考というプラクシス」をめぐって展開した様々な学説を概観する。講義の第一の目標は、これらの学説を理解し、比較検討する技法を身に着けることにあるが、同時に、それらがいかなる歴史的文脈において形成されたのか、哲学以外の領域（人文科学の隣接領域、自然科学、芸術、宗教思想、等々）からいかなる影響を受けたのか、そして新たな時代にいかなる発展可能性を有するかという点にも意識的でなければならない。

授業の到達目標

20世紀フランス哲学の特殊性と普遍性を学ぶことで、混沌とした現代世界を考え抜く思考力を身に着けることが最終目標となる。

成績評価方法

授業は基本的に講義形式で進めるが、ミニアンケートや授業終了時に提出するレスポンスカード、授業時の積極的な質問、討議への参加も成績評価の対象とする。

科 目 名	哲学専門講義5（宗教哲学／キリスト教思想） 中世ドイツ神秘思想における人間理解							
担当者名	松澤　裕樹							
哲学コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中世ドイツ神秘思想が後世に及ぼした思想的影響は多大である。神学においては宗教改革者ルターを通じて、哲学においてはドイツ観念論者であるシェリング、ヘーゲルを通じて、その思想は脈々と現在に到るまで受け継がれている。本授業では、ドイツ神秘思想の中心的人物であるマイスター・エックハルトにおける人間理解について体系的に学んでいく。

授業の到達目標

中世ドイツ神秘思想における人間理解を体系的に把握するとともに、キリスト教神学の基礎となる三位一体論・創造論・人間論・キリスト論・救済論について理解を深める。

講義

成績評価方法

小レポート50%　議論への参加度20%　理解度確認試験30%

備考・関連URL

本授業は一般的な講義形式をとらず、高度授業TAを利用したアクティブラーニング形式をとる。具体的には、講義に加え、学生同士の議論、発表を中心とした総合的な授業を行う。

科 目 名	哲学専門講義6（古代ギリシア哲学） 古代ギリシアの芸術論							
担当者名	加藤　喜市							
哲学コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシアにおける芸術論について，とくに「音楽・文芸（ムーシケー）」の位置づけや美学と倫理学の関係性といった観点から，プラトン・アリストテレスの著作を手がかりに概説していく．プラトンについては初期・中期・後期の対話篇をそれぞれ取り上げることで，プラトン内部における思想の変遷を跡づけることを目指す．アリストテレスに関しては重要な『詩学』と『政治学』の二著作に絞るが，とりわけ『ニコマコス倫理学』における行為論・性格論・快楽論との対応に着目して紹介したい．

プラトン・アリストテレスについて見た後，「ハルモニア論の系譜」として，ピュタゴラス派からボエティウスへと至る古代ギリシアにおける音階理論の歴史をたどっていく．各回の授業内容はおおよそ以下のものを予定している．

授業の到達目標

古代ギリシアの芸術論に関する基礎的な知識を学び，理解を深める．

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終授業時に教場で試験を行なう．
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況・授業態度・小課題に基づいて評価する．　出席回数が10回に満たない場合，単位の取得は不可とする．
●**その他**　0%

科 目 名	西洋思想史1（古代） 古代ギリシア哲学史							
担当者名	加藤　喜市							
哲学コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシアの哲学史を（1）初期ギリシア哲学（2）プラトン（3）アリストテレス（4）ヘレニズム哲学という四つの区分にわけて概説していく．それぞれの範囲に関して，自然哲学・存在論・認識論・倫理学・美学など，いくつかの観点から取り上げることで，古代ギリシアの思想史全体をバランスよく学べるように配慮する．各回の授業内容はおおよそ以下のものを予定している．

授業の到達目標

古代ギリシアの哲学史に関する基礎的な知識を学び，理解を深める．

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終授業時に教場で試験を行なう．
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況・授業態度・小課題に基づいて評価する．　出席回数が10回に満たない場合，単位の取得は不可とする．
●**その他**　0%

科 目 名	西洋思想史2（中世） 西洋中世哲学史概説							
担当者名	高橋　厚							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

西洋中世（四世紀～十五世紀）の哲学について、主要な哲学者を取り上げながら概説する。中世哲学の一般的な講義では、十三世紀のキリスト教神学者たちの作品を頂点としたキリスト教神学と古代ギリシア的な形而上学との総合が論じられる。しかし、近年の研究では、自然哲学や物質理論、また古代末期の哲学やアラビア哲学の遺産の継承、さらに過去の研究では衰退期と

すら考えられていた十四世紀からルネサンス期にかけての思想の展開なども盛んに議論の対象となっている。そのような研究の現状を踏まえ、「中世哲学とは何か？」という問いを幾度も反芻しつつ、中世哲学の主要な流れをよりダイナミックな形で概観していく。

授業の到達目標

西洋中世哲学の人名や概念を単に覚えるのではなく、中世において人間の「知」がどのような歴史的過程を経て生まれてきたのかを理解し、かつ人に説明できるようになることを目指す。その結果として、物事を理論的かつ体系的に分析し説明する習慣を身に付けることができる。

成績評価方法

学期末レポート: 60%
平常点評価: 40%

「レポート」は「感想文」と異なります。書き方を習得していない学生は、河野哲也（著）『レポート・論文の書き方入門』や類書を参照し、事前に書き方を学習してください。

備考・関連ＵＲＬ

シラバスに記載された内容は受講生の関心や理解度に応じて、講義開始後に変更となる場合があります。

講義

科 目 名	西洋思想史3（近代） 人間としての〈私〉とは何か							
担当者名	橋詰　史晶　他／西村　雄太／峰尾　公也							
哲学コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代とは、キリスト教的世界観から脱した西洋文明が、人間としての〈私〉とは何か、そして〈私〉はどのような地位を持つ存在であるのかということを、不断に問い続けた時代であった。本講義では、近代哲学の軸をなすこの問題について、前史としての中世・ルネサンス思想を踏まえながら、〈私〉との関係で他者の問題がクローズアップされる現代哲学をも含む幅広い時代にわたって論じる。

西村：デカルト、スピノザ、ライプニッツといった17世紀の哲学者の思想について論じる。この時期には、人間と世界・神との関係性を如何に合理的に説明するかが哲学者の主要な関心事となった。人間はこの世界で如何なる位置を占めるのか、このことについて考えていきたい。

橋詰：〈私〉あるいは自我という概念は、ヒュームによっていったんは解体されたものの、カントによって認識のアプリオリな根拠という決定的に重要な位置づけを与えられた。自我のこのような特徴づけは、フッサールの現象学にも形を変えて受け継がれている。この三者を中心としつつ、他の哲学者にも適宜触れながら近代自我論の流れを辿る。

峰尾：近代自我論が残した「相互主観性」や「他我」の問題に対する現代の哲学者たちの取り組みを検討する。はじめに、近代的な「主観 - 客観」関係を問い直し現存在の存在論的構造を分析した、ハイデガーの哲学を紹介する。次に、このハイデガーの哲学を継承しつつも批判を展開した、サルトル、レヴィナス、リクールそれぞれの「自己 - 他者」関係の分析を考察し、現代フランス哲学における近代批判の足跡を辿る。

授業の到達目標

哲学的な用語法を身に着け、西洋近代哲学史上の様々な学説を理解する。またこれらの学説における多様な論点とその相互連関を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　70%　　期末レポートに基づき評価する。
●**平常点**　30%　　出席のほか、毎回提出するリアクションペーパー上での意見や感想なども評価に含める。
●**その他**　0%

科 目 名	西洋思想史4（近現代） 分析哲学入門							
担当者名	鈴木　雄大							
哲学コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

分析哲学の基本的なテーマを概観していく。本講義では、過去の哲学者の思想を理解すること（人ベース）よりも、様々な哲学的テーマをめぐる議論を理解し（テーマベース）、自らの哲学的立場を持つことを重視する。

本講義で扱うテーマは、形而上学（存在論）、認識論（＆知覚の哲学）、言語哲学、科学哲学、心の哲学、倫理学、行為論などである。「分析哲学」といっても、哲学の中の特別な一分野を指すのではなく、国際的にはスタンダードになりつつある哲学のスタイルを指す。そのスタイルとは、「思考を明晰な言葉で表現し、論理性を重視する」という、学問の一般的な条件に忠実であることである。

授業の到達目標

「思考を明晰な言葉で表現し、論理性を重視する」という態度を、哲学を通して身につける。哲学は、ともすれば「深遠で難解」というイメージを持たれがちだが、本来は求められさえすれば、誰にでも分かる明晰な言葉で説明可能なはずのものである。本講義では、哲学を通して、たとえば以下の一般的な議論能力を身につけることができる。

① 必要条件を十分条件へと近づけていくことによる、概念・事象の分析
② そうした分析に対して「反例」を挙げることによる批判
③ ある主張を批判する際、その主張を導く前提を全て明示し、その前提の一部を否定すること

成績評価方法

●**試験**　65%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。
●**レポート**　0%
●**平常点**　35%　　講義ごとにコメントを書いてもらい、その内容で評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	美学1							
担当者名	渡辺　洋平							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

美学とは人間の感性や芸術表現を主たる対象とする哲学的な学問です。この意味において、美学的な思考は古代より連綿と続いてきたということができます。しかし20世紀初頭から相次いで登場してきたさまざまな芸術運動や表現様式は、新たな知覚や思考、さらには生のあり方を追求することで、人間の感性のあり方を変えるとともに、従来の芸術観を大きく変容させることになりました。その傾向は現代にいたるまで続いており、したがって美学もまた、対象の変容とともに変化していかなくてはなりません。本講義では特に20世紀後半の芸術を主たる考察対象としながら、芸術や芸術表現のあり方、多様性、意義について考察するとともに、それらを考察するための美学的な思考法の習得を目指します。それは芸術実践に対する知識の獲得というだけでなく、各自の感受性や思考の幅を拡げることにもなるはずです。

講義

授業の到達目標

現代芸術、美学の基礎的な知識や考え方を習得するとともに、さまざまな作品の鑑賞・考察を通じて各人の感受性や思考の幅を拡げることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　自分なりの考えを読み手に納得してもらえるように展開できているかを評価する。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	美学2							
担当者名	小林　信之							
哲学コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

これまで美学という学問の仕事は、真理や善とならぶ「美的なもの」を研究し、その価値の具体化である芸術を解釈することでした。しかしそもそも美的なものとは何なのでしょう。たとえばわたしたちの目の前の薔薇において、ただ一回かぎりの出来事として出会われるほかないようなもの、それが美的なものではないでしょうか。この世界は無限に多様で豊かなアスペクトを秘めていて、一瞬たりと同じ相貌をわたしたちに見せることはありません。美的なものは一般化や抽象化の力を逃れ、ただ、今ここに現れたものの個別性と特異性において輝き現れます。ボードレールは近代芸術が「束の間のもの、移ろいやすいもの、偶然的なもの」によって形作られることを強調しましたが、わたしも美的なものの「本質」をそのように考えます。

したがってまた美的なものをめぐる経験は、今ここに立ち現れる現実の有りようと切り離すことができません。今日わたしたちをとりまく状況は、わたしたちの知覚・身体・想像・感情等のあり方を大きく変容させ、西欧近代の枠組みを突き崩しつつあります。わたしたちは、現代文化の諸現象をより広範な文脈のなかで考える必要があるのです。

この講義は、これまで提起されてきた美学上の諸問題を再検討しつつ、広く現代の感性の多彩な展開に目を向けていきます。そもそも美学（aesthetics）という言葉は、感性を意味するギリシア語のアイステーシス（aisthesis）に由来するのですから。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の各単元終了後のレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

煩瑣な哲学的議論もふくみますが、何よりわたしたちの感受性を研ぎ澄ませることに主眼があります。
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	哲学2　現代における「哲学すること」の意味を考える							
担当者名	大沢　啓徳　他／内藤　麻央							
哲学コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

二人の担当者が、それぞれの問題意識から、この時代において「哲学すること」の意味について、考察を行う。今日的な諸問題に、あるいはそれらを包含する普遍的な人間的課題に言及しつつ、幾人かの哲学者の言説を検討していく。

1：内藤

哲学史のおおまかな流れを追いながら、「私たち一人ひとりが生きるうえで哲学がどのような意味をもちうるのか」という観点から、さまざまな哲学者の思想を概説していく。具体的なトピックとしては、善、自己愛、気晴らし、理性、自由、本来的自己、存在欲求などを扱う予定である。過去の哲学者の思想を学ぶことを通じて、今現在を生きる私たち自身の存在を理解することを目指す。

2：大沢

主として実存哲学、あるいは生の哲学の思想家を論じながら、抽象に対する具体性の問題、交わりの問題、宗教性（特定の宗教ではなく）の問題、日常性の問題について反省する。

授業の到達目標

「哲学する」という営みが、私たち一人独りにとっての課題であることを実感してもらう。それと同時に、先哲のさまざまな言説に触れることで、複数の視点を獲ることができるようにする。哲学の基礎的な概念、哲学特有の言葉づかいを理解することで、自分で哲学書を読むための力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験ではなく、記述式のレポートを行う。
●**レポート**　70%　　最終回に教場にて作成していただきます。
●**平常点**　30%　　2／3以上の出席を前提とします。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	**倫理学2**　近代倫理学と現代社会の問題							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

倫理学は、ひとの世に日常的に存在している道徳・倫理を対象として、その根拠を問い尋ねようとする哲学的な営みです。また、哲学にさまざまな学説があるように、倫理学にもさまざまの学説があります。倫理学2では、まず近代倫理学の代表としてのカントの倫理学と功利主義の倫理学の特色を明らかにします。加えて、カント倫理学を批判した代表的な哲学者の主張を検討します。その上で、それぞれの主張の限界を現代社会の倫理的問題によって照らし出すことを試みます。

次に、現代倫理学の代表としての正義論と共同体主義の主張を理解し、それらが現代社会のどのような問題と関連しているかを明らかにします。これらの過程で、さまざまな哲学者の所説にも目を配り、全体として、重要な倫理学説の歴史的展開を照らし出すことをも試みます。もっとも、この講義は歴史の話を意図するものではなく、各学説の意義を現代の観点から照らし出すことを意図するものです。現代社会に生きる私たちがその諸問題を自分の問題として考えることによってこそ、古代以来のさまざまな倫理学説がもつ重要性を明らかにすることができるでしょう。

授業の到達目標

この講義の到達目標は、現代を生きるわたしたちを何ほどか規定し続けている近代倫理学の特色と限界を理解し、現代の倫理問題に立ち向かうための知識を得ることです。

成績評価方法

●**試験**　95%　　理解度を確認するための試験を行います。
●**レポート**　0%　　特にレポートは課しません。
●**平常点**　5%　　授業回数の三分の二以上出席していることを、成績評価の条件とします。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

毎回配布する出席カードの裏に、授業に対する質問・感想・要望を書いてください。代表的な質問に次回の授業でお答えする予定です。

関連URL: 特になし。

科 目 名	**宗教学1**　イスラーム思想							
担当者名	小村　優太							
哲学コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義ではイスラームという宗教において展開された様々な思想を概観する。具体的には法学、神学、スーフィズム、哲学という四つの要素を取り上げる。イスラーム思想においてこれら四つの要素は、ときに反発し合いながら、お互いに影響を与えながら発展してきた。

イスラーム思想においてすべての基礎になるのは法学である。一部の哲学者などの例外を除き、基本的にイスラームの知識人は何らかの法学派を学び、それによって知識人と見なされる。その上に、神について議論する思弁神学（カラーム）が存在し、これがイスラーム思想の中核を構成する。この幹に対して、ときに近づき、ときに反発しながら発展したのがスーフィズムである。最後に、ギリシア哲学を移入し、イスラームにとっては外来の学問でありながら、後にはイスラーム思想の重要な道具（オルガノン）として取り入れられたのが哲学である。

この講義では、まずイスラームの最初期を概観したうえで、法学、神学、スーフィズム、哲学それぞれの形成期について論じる。その後イブン・シーナー、ガザーリー、スフラワルディー、イブン・アラビーというイスラーム思想の転換期の人物を取り上げる。その後、上記四つの要素の発展的段階を概説する。

授業の到達目標

・イスラームという宗教における思想の個々の要素を理解する。
・それぞれの思想同士の影響関係を学ぶことにより、イスラーム思想全体にたいする複合的な視点を手に入れる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末に提出するレポートによって評価する
●**平常点**　30%　　出席などの平常点によって評価する
●**その他**　0%

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	インド哲学特論 「空性」を知る							
担当者名	齋藤　直樹							
東哲コース	2単位	春学期	金曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

『般若心経』の「色即是空」というよく知られた一節にある「空」の原語はśūnyatāという抽象名詞であり，より正確には「空性」と訳されるべき語である．その語が基本的には「欠如」「—がないこと」という否定的な意味をもつことが，仏教に虚無主義の烙印が捺される一因ともなった．大乗仏教の思想的徴標の一つともなるその「空性」を捉えかえして，それに明確で肯定的な意味をあたえ，仏教の思想展開に画期をもたらした典籍がナーガールジュナ作『中論』である．その作者によれば「空性」という概念は「非有」あるいは「無」を意味しない．それはたしかに「存在」を否定する語ではあるけれども，その一方で「生成」と「関係」を標示するという積極的な機能をもつ．世界は「存在」の集合ではなく，「生成」の系列すなわち「縁起」として捉えられるべきことを説示することによって，ブッダとその教えへの崇敬の念を刷新することを目ざす『中論』から，その重要箇所のいくつかを題材として取りあげ，その意味内容を解説する．

授業の到達目標

『中論』の論理構成のなかで重要な役割を果たす「戯論」「分別」「空性」「縁起」「取得」「無自性」などの意味を明確に把握することによって，仏教思想全般の理解のための一つの指針または足ばを確保すること．

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　75%　　期末の四千字程度のレポート
●**平常点**　25%　　参加状況等
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	中国哲学特論 宋明儒学思想の展開とその言語							
担当者名	原　信太郎　アレシャンドレ							
東哲コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は中国宋明時代の儒教のトータルな理解を目指すものである。

南宋期、朱熹という天才的哲学者によって後世「朱子学」と称されることになる精緻な体系が打ち立てられた。朱子学はおよそ700年にわたって東アジアにおけるもっとも正統的・規範的な学問として、科挙はもとより、真理探究の学として、人間修養の学として、大きな権威を持った。明代に入ると、社会的・経済的基盤の変動を背景として、朱子学を思想資源としつつ陽明学（王守仁思想）のような新たな思潮が次々に興起した。

本講義ではこのような思想史の流れをトレースするとともに、宋明文献の読解のための基礎知識の習得も目指す。宋明の儒者たちの発話は「語録」というかたちで弟子たちによって書き留められたが、「語録」は白話文といわれる話し言葉に近い文体が用いられており、それは通常の文言文とやや異なるものである。江戸時代の訓点本を利用しつつ、受講者にも白話文の読み解きにトライしてもらいたい。

授業の到達目標

宋明時代の代表的な儒学者の思想の梗概を把握するとともに、白話によって書かれた「語録」を読み解くための基礎知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　40%　　授業全体の内容について、あるいは授業に関わる範囲で学生自身が興味のあるテーマを選択し、それをレポート（2400字程度）する。授業最終回で総評を行う。
●**平常点**　60%　　授業ごとにレビューシートを配り、授業内容に対する理解・感想・質問などを記入する。独創性のあるものや質問などは次の授業で取り上げたい。また、授業期間内に1度、論述式の小テストを実施する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

最終授業においてレポートに対するフィードバックを行う。

科 目 名	日本思想特論 日本仏教諸宗の思想							
担当者名	大久保　良峻　他／庵谷　行遠／田戸　大智／柳澤　正志							
東哲コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本仏教は、奈良時代に法相宗、三論宗、華厳宗、律宗、倶舎宗、成実宗という南都六宗が学派として成立した。それらは、学問としての価値を持っていたが、現在に宗として伝わっているのは、法相宗・華厳宗・律宗である。そして、平安時代に至ると天台宗と真言宗という二宗が台頭することになる。更に、天台宗からは鎌倉仏教の祖師達を輩出し、現代に至っている。現在の宗派は極めて多彩であるとしても、同時に、仏教の基本的区分からは幾つかに分類される。本講義では、現在に生きる宗派を念頭に置きつつも、必ずしもそのことのみにとらわれず、学派的な宗の意義を考慮した上で、三人の担当者が、それぞれ二宗の解説を行う。本年度は、浄土宗・法相宗・日蓮宗・禅宗・真言宗・三論宗を解説する。（コーディネーター、大久保良峻）

授業の到達目標

日本仏教は、一口に仏教と言うとしても、各宗が独自の特色ある教義を提唱しているのであり、基本的な思想を理解する。そして、それぞれが、日本の思想や文化に対して多大な影響を与えてきたことについての知識を持つことも目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　講義の内容に関するテーマを提示する。
●**平常点**　30%　　参加状況を考慮する。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	**東洋思想特論**　中国の自然観とその展開							
担当者名	江波戸　亙							
東哲コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国においては、古代から多種多様な「自然観」が提出されてきた。陰陽五行説や、老子の「無」の思想、道教における神仙思想などはその典型であろう。このような「自然観」は、発達変化を繰り返し、宇宙観・生命論・身体論などの諸領域と相互に影響しながら、中国思想を特徴付けている。本講では、古代から宋代を範囲として儒教・道教の主要な文献を取り上げ、中国における様々な「自然観」、及びその発達変化について講ずる。また、「自然観」の周辺領域として、煉丹術・養生法・医学・化学・占術・暦法といった諸分野についても随時解説を行う。

彼らの「自然観」は現代の我々のそれとは大きく隔たっているものではあるが、どこが異なっていたのか、そしてなぜ異なっていたのか、本講がそれを考えるための一助となれば幸いである。

授業の到達目標

中国における様々な自然観についての基本的な知識を得る。

さらに、その発達変化の過程を通して、中国思想の特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　授業全体の内容に関するまとめをレポートとして提出（2000字程度）。
●**平常点**　50%　　教場での参加姿勢。毎回レビューシートに授業内容に対する感想・質問を記入してもらう。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

単位取得にあたっては、出席は原則として授業回数の3分の2以上を必須とする。また、授業内容は学生の理解度に応じて随時調整していく。

科 目 名	**インド思想史**　インドの諸学派における理論と実践							
担当者名	山部　能宜							
東哲コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

多くの日本人にとってもっとも馴染み深いインド思想は仏教思想であろうが，仏教思想がそれを取り巻くインド思想の大きな流れの中から出てきたものであることもまた論を俟たないところである．ヴェーダの権威を承認する主流の諸学派とそれを否定する仏教・ジャイナ教のような非主流の諸学派の間の議論の応酬を一つの軸としてインド思想は展開してきた．そのような諸学派の思想の概要を紹介する．インド思想のもつ哲学的な側面と信仰的な側面の双方に注意を払う。

授業の到達目標

インド諸学派における考え方の違いを理解し，そのことを通じて仏教の諸論書に展開される議論の背景をつかむ．

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容を消化し，それを自分の言葉で説明できているかどうかを基準に評価する．
●**レポート**　0%　　今回は課さない．
●**平常点**　0%　　今回は課さない．ただし，休講課題を課した場合は，平常点として評価に含める．
●**その他**　0%　　今回は課さない．

科 目 名	**中国思想の世界**　中国思想史							
担当者名	土田　健次郎							
東哲コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国は世界でも屈指の古い歴史を持ちながら、現在でも世界に強大な影響力を持っている国である。この中国の思想史を通観する。

とかく思想史と銘打ちながら、実際には一時代の概説に終わることが多いが、本授業では文字通り古代から現代に至るまでの中国思想の流れを追う。また古代から綿々と継承された儒教、道家、法家などの伝統思想のみならず、仏教、キリスト教、イスラム教、西洋近代思想など外来思想の動向も視野に入れる。

なお本講義は、ディプロマポリシーに則り、受講者に伝統的文化についての深い認識を持たせるとともに、カリキュラムポリシーに則り、ブリッジ科目としてこの方面の広く正確な識を提供するものである。

授業の到達目標

中国思想史について基本的な知識を習得する。

また中国思想の特色や、中国における思想展開の特徴についての基本的な認識を得る。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。なお本授業のまとめも同時間内に行う。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　教室で授業への参加姿勢を見る。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	仏教漢文の世界							
担当者名	大久保　良峻							
東哲コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

インドで生まれた仏教は、その言語が中国語に翻訳されることで新たな展開を遂げることになった。漢字で表記された仏教語は、日本に伝えられて日本語ともなり、現在でも日常語として多くの語が用いられている。要するに、仏教は中国において漢字の意味を豊かにし、それを日本人は引き継いだのである。そして、その漢字で表された思想は、日本の文化の核心部分となった。本講義はそういった観点から、言語や思想に注目しつつ仏教漢文の世界を探索することを目的とする。幾つかの著名な経典の講義も行う予定であるが、仏教と日常生活との関わり、仏教の人生観、自然観等というような見地から問題点を探ることにしたい。仏教漢文の読み方にも論及することになる。毎回テーマを決め、ほぼ一回で完結するかたちで講義する。

授業の到達目標

様々な仏教漢文を読むことにより、それらが日本人の思索や文化に与えた影響を考えられるようにする。

成績評価方法

- **試験**　70%　　点数に応じて評価する。
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　30%　　参加状況を考慮する。
- **その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

大正新脩大藏經テキストデータベース
http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/

講義

科 目 名	仏教概論　禅定を軸とした仏教思想の展開について							
担当者名	山部　能宜							
東哲コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

仏教は釈尊の菩提樹下での禅定（坐禅）による正覚を原点とすると伝えられており，その後の仏教の展開においても禅定は重要な位置を占めている．本講義では，禅定を軸として仏教の展開を実践的観点から論ずる．その際，仏教の実践のもつ身体的・心理的な側面に注意を払いつつ，さらには教理と信仰の両方の側面を視野に入れて，実践的な仏教思想展開史の構築を試みてみたい．古典語の資料は和訳で提示し，特に仏教に関する予備知識を前提とすることなく講義を進めるので，専門外の学生の受講も歓迎する．

授業の到達目標

仏教に対する先入観を除き，生きた人間の問題解決の道として仏教をとらえなおすこと．抽象的な理論面のみにとどまらず、身心相関的な観点から仏教の実践を再考察し、仏教のもつ現代的意義を提示してみたい。

成績評価方法

- **試験**　100%　　講義内容を消化して，自らの言葉で説明できているかどうかを基準として評価する
- **レポート**　0%　　今回は課さない．
- **平常点**　0%　　今回は課さない．ただし，休講課題を課した場合は，平常点として評価に含める．
- **その他**　0%　　今回は課さない．

科 目 名	儒教概論							
担当者名	梶田　祥嗣							
東哲コース	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

儒教は古代中国に誕生し、現代まで2500年あまり命脈を保ってきた思想・教説の体系である。その思想は中国のみならず、日本、朝鮮、ベトナム等において広く受け入れられ、東アジアの精神文化を支えてきた。一般には封建的であるとか、過去の遺物とみられがちだが、その内実は、道徳はもとより、政治、経済、文化等を対象とし、日常倫理から国家の政治学までを包摂する壮大なスケールをもつ。

近年、中国の台頭著しいが、それに伴い、儒教の存在意義についても見直されつつある。中国をはじめとする東アジアを正確に認識するうえで、儒教を避けて通ることはできないだろう。

本講義では、儒教の基本思想を学びながら、周辺の思想との関係、社会への影響といったより広い範囲を射程に入れ、重層的な構造の把握を目的とする。

なお授業では、ディプロマポリシーに則り、受講者に伝統的文化についての深い認識を持たせるとともに、カリキュラムポリシーに則り、ブリッジ科目としてこの方面の広く正確な知識を提供する。

授業の到達目標

儒教の基礎知識を習得し、全体像を把握する。

成績評価方法

- **試験**　60%　　第15回に教場試験を実施する。
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　40%　　出席率、授業内でのリアクションペパーによって授業への参加姿勢を見る。
- **その他**　0%　　なし

科 目 名	道教概論　知られざる中国の宗教的伝統							
担当者名	森　由利亜							
東哲コース	２単位	秋学期	土曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

道教は儒教、仏教とならぶ中国の最も根本的な宗教的伝統のひとつです。しかし、重要であることが当然とされる割には、儒教や仏教に比べて研究の歴史も浅く、いまだに謎に満ちた宗教であるといってよいでしょう。特に、教義・教理によるしばりが少なく、信仰者たちの懐くイメージによってさまざまな形をとってきたため、移り変わりが激しく、ひとつかみに把握することは至難です。しかし、それでもそこには重要な核となる内容がやはりそなわっています。この授業では、中国で展開した道教の歴史とその信仰の内容について、なるべく分かりやすくお話しすることに努めます。この授業を通じて、受講生の皆さんが中国の伝統文化に興味をもち、また宗教という謎にみちた対象に想像力を働かせていただけるようになることを願ってやみません。

授業の到達目標

道教の歴史的な概略と、信仰のあらましについて理解し、中国の伝統文化への理解を広げることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　90%　　期末レポートを課す。
●**平常点**　10%　　授業で回収するレビューシートの内容や、授業時の発言に基づいて評価を行う。なお、全授業の三分の二以上出席していることを合格の最低条件とする。これを満たしていない場合は落第とする。
●**その他**　0%　　なし。

講義

科 目 名	日本思想概論　日本古代の宗教と文化							
担当者名	吉原　浩人							
東哲コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本思想史を研究することは、日本人としてのアイデンティティを探求することでもあります。また、外国籍の学生にとっても、日本人の拠って立つ根源の部分を理解することは、今後の人生にとって重要なこととなるでしょう。

今期は、日本古代の宗教と文学をテーマに、さまざまな事象を概観していきます。下記の各テーマについて深く知ることは、日本思想史研究ばかりでなく、文学・歴史・美術史等の研究のためにも有益なこととなるでしょう。講義を進めるにあたっては、中国の大学で同様の講義を行った経験を踏まえ、常に大陸文化との対比を意識していきます。

なお、講義やオンデマンド授業においては、中国・日本古典の資料検索方法や辞書の使い方、参考文献検索の方法、論文の書き方について指導します。

授業の到達目標

日本古代の宗教思想ならびに古典文学について、基礎的な知識を身につけ、個別の課題について深い理解を得るための調査方法を会得することを目標とします。

成績評価方法

レポート80%：期末に講義内容と関連するレポートを課しますが、詳細は授業中に指示します。
出席20%：三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連ＵＲＬ

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。

科 目 名	漢文講読1　『論語』を読む							
担当者名	渡邉　義浩							
東哲コース	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国思想史は、古典の解釈史です。最も有名な古典である『論語』は、日本と中国を合わせると3000種以上の注釈（解釈）があると言われています。本講義は、『論語』の章ごとに何晏の『論語集解』を中心としながら、皇侃の『論語義疏』、朱子の『論語集注』、伊藤仁斎の『論語古義』、荻生徂徠の『論語徴』などを取り上げ、諸家の説の違いを確認しながら、『論語』を読解することで、東洋哲学の基礎知識と方法を学び、あわせて、中国古典文（漢文）読解力の深化をめざします。

授業の到達目標

『論語集解』を中心とする諸家の説に触れ、中国古典解釈学の手法を学び、白文を読みこなせる力を涵養します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　20%　　積極的に授業に参加してください。
●**その他**　0%　　その他はありません。

科 目 名	漢文講読2　仏教漢文―中古天台の本覚思想文献『自行略記注』を読む―							
担当者名	大久保　良峻							
東哲コース	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本中世の天台宗、すなわち中古天台で隆盛をみた思想を本覚思想（天台本覚思想）と呼ぶことが一般的になされている。現実を仏の世界であるとして極端に肯定する教義を有することもあり、堕落思想との見方がなされる一方、哲学的には高度な思索として注目されて来た。いわば、天台本覚思想とは中国天台の教学に基づき、その一面を強調したもの捉えうる。その思想が日

本における思想の核心として、文化面に多大な影響を与えてきたことも事実である。本覚思想文献として分類される書物は多いが、今回はその代表的な文献の一つである『自行略記注』を講読する。『自行略記注』は、源信の『自行略記』に覚超が注を施したとされるが、中古天台の文献は著名な学匠に仮託している場合が多く、本書もその例に漏れない。本書を読むことにより、以上のような天台本覚思想の特質を確認する。

授業の到達目標

『自行略記注』の講読を通じ、天台本覚思想文献の基本思想を理解すると共に、仏教漢文に興味を持てるようにしたい。

成績評価方法

●**試験**　70%　　点数に応じて評価する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　参加状況を考慮する。
●**その他**　0%　　特になし。

講義

科 目 名	日本中世思想							
担当者名	松本　知己							
東哲コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

院政期から鎌倉時代にかけて、社会の枠組に大きな変動があったことは知られている。大陸からの伝来以降、人々に哲学的基盤を提供してきた仏教は、変革期にどのように対応したのだろうか。本講義では、二つの観点から考察する。

まずは、国家権力と仏教の関係を確認する。その一環として、東大寺の宗性（1202－1278）が残した記録をもとに、南都北嶺の僧侶が一堂に会して行われた大規模な法会における論義の実態と意義を明らかにする。

次に、いわゆる鎌倉新仏教の祖師達が打ち出した新機軸を解明する。彼らの出現によって、日本仏教における主要な教理がほぼ出揃うことになる。共通の母胎である日本天台の教学との関係に留意しながら、思想史の流れの中で、その独創性を理解することにしたい。

授業の到達目標

院政期から鎌倉時代における仏教諸宗の動向を知るとともに、日本中世仏教の多様な思想的展開を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　主題において講義内容に関連し、水準において到達目標を満たすレポートを作成する。
●**平常点**　40%　　参加状況、リアクションペーパーのコメント内容等を重視する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本近世思想　「日本」と「日本人」							
担当者名	大場　一央							
東哲コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「日本」という国は、単なる地理的な区分でもなければ、多様な価値観が尊重し合う空間でもない。いや、むしろそうした空間に秩序と安寧とをもたらそうと試みた政治家・思想家たちがいて、彼らの試行錯誤によって単なる東アジア島嶼部に生息するヒトの集団に、「日本」と「日本人」いう枠組みが与えられてきたというべきであろう。少なくとも本講で取り扱う政治家・思想家たちの議論はそのように展開される。本講は、「日本」のあり方について、安直な日本賛美とは一線を画しつつも強固な世界観や人間観に基づいて議論しようとした政治家・思想家をとりあげ、今日既に失われた、我々の知らない「日本」と「日本人」とを探っていく。

授業の到達目標

近世日本思想における「日本」観について、世界観や人間観との関係から総合的に理解することを目指す。近世儒教と日本思想との関係を多面的に理解することができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　毎回の講義ごとに、理解度を測る小テストを実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の講義ごとに、理解度を測る小テストを実施するが、その論述中で積極性を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

特別な事由がある場合を除き、5回をこえた欠席者には平常点を与えない。

科 目 名	心理統計学1（心理学統計法）							
担当者名	豊田　秀樹							
心理コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学の研究を進めるために必要となる統計学を教授する。

授業の到達目標

統計学的な考え方を身につける。

成績評価方法

出席・宿題の出来栄え、などの平常点で成績を付ける。

備考・関連URL

出席し、授業内レポートを提出することが大切である。

科 目 名	心理統計学2（心理学統計法）							
担当者名	豊田　秀樹							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理データ解析の知識を学習する。

授業の到達目標

心理データ解析の知識を身に着ける。

成績評価方法

出席・宿題の出来栄え、発表の出来などの平常点で成績を付ける。

備考・関連URL

出席し、授業内レポートを提出することが大切である。

科 目 名	学習心理学							
担当者名	神前　裕							
心理コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

動物の学習・行動に関する実験的研究を通じて、私たちヒトを含む動物に広く共通する様々な認知機能の基盤が明らかになってきました。本講義では、学習・行動研究に用いられる研究手法およびそこから明らかにされてきた学習・行動の基本原理について紹介します。これらの理解を通じて、「私たちはなぜ今自分がそうするように行動するのだろうか？」「その行動はどのように形成され、何故今生じるのか？」「私たちの行動はどこまで自由意志の産物なのか？」といった人間の意識・行動に関する根本的な問いに対して、実験科学としての心理学がどのように回答しうるかについて考えます。また、予測や強化といった学習・行動の基礎過程を脳内で実現する神経基盤についても適宜紹介します。

授業の到達目標

・学習心理学分野で用いられる基本的な手法・概念・用語について正確に理解する。
・観察可能な行動指標を用いながら行動の内的・認知的側面を客観的に捉える方法について学ぶ。
・学習・行動の基礎的原理の理解にもとづき、様々な場面でヒトや動物がなぜそのように行動するのか説明できるようになる。
・学習・行動を支える神経基盤について基礎的な知見を習得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　ミニレポート、小テスト等
●**その他**　0%

科 目 名	経済心理学　行動経済学および消費者行動論の心理的基礎							
担当者名	竹村　和久							
心理コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

経済心理学の中でも、特に消費者心理学に焦点を当て、マーケティングとの関係について論じる。たとえば、「なぜ卵やキャベツなどの特売商品が売られていると、わざわざ遠くまで買いに行く消費者いるのか？」、「なぜ教科書を買うのは痛いのに、コンパの料金はそれより高いのに痛くないのか？」、「なぜ旅行に行くと気前がよくなるのか？」、「コンビニの商品の陳列を変えるとどうして売り上げが伸びるのか？」、「ジャムの品数を多くしたほうがかえって売り上げが落ちたのはなぜか？」、「WEBの背景の模様で売り上げが変わるのはなぜ？」といったような身近な問題に、この授業では答えていく。

このような身近な問題は、2002年のノーベル経済学賞の受賞者のカーネマンらの経済心理学やプロスペクト理論と深く関係しており、授業でもこの研究についても取り上げる。また、近年の意思決定の脳科学などとも、経済心理学は深い関係を持っており、そのような研究についても紹介する。

授業では、経済学における効用理論との関係、プロスペクト理論、消費者意思決定過程、店舗内消費者行動などのトピックについて学習する。

授業の到達目標

経済心理学は、経済状況における人々の判断、意思決定、行動を説明し、予測するための学問である。本講義では、特に消費者行動の問題に重点をおいて、マーケティングや経済学との関係についても考察しながら、経済心理学の基礎知識を習得することを目標とする。この授業を履修することにより、経済心理学の専門誌を理解できるようになることを目標とし、実務的な思考もできることも目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業時に行う予告なし小試験と最終日に行う総合試験の結果で知識を評価する
●**レポート**　20%　　授業時に課すいくつかのレポートの内容を評価する
●**平常点**　30%　　出席、実験参加、調査参加、授業態度をもとに評価する
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

高校数学（ベクトル演算、微積分など）、統計学の基礎知識を受講に際して学生に要求する。
授業中は、学生間のディスカッションの時間なども多く設ける。
また、授業時に、レポートや予告なし試験なども行う予定である。
関連URL
竹村和久研究室（http://www.waseda.jp/sem-takemura/）

科 目 名	言語心理学（学習・言語心理学） 言語への認知心理学によるアプローチ							
担当者名	楠瀬　悠							
心理コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

言語は、私たちにとって重要なコミュニケーションの媒体であるとともに、私たちの思考を支える媒体でもある。また、言語を使用する能力は、人という種に固有の能力であるとも言われている。私たちの言語はどのような構造を持っているのだろうか。また、私たちの言語を運用するとき、そこにはどのような心の仕組みが関わっているのだろうか。この授業では、言語(特に単語)処理に関わる諸問題を認知心理学の視点から主に紹介する。

授業の到達目標

言語心理学がどのような研究領域なのかを紹介するとともに、実際の研究がどのように行われているのか、人が持つ情報処理システムをどのように把握しようとしているのか等を理解してもらうことを目標とする。

成績評価方法

成績評価は、試験の成績を80%、授業への出席状況を20%として評価する。
試験は、第15回の授業時に穴埋め形式の試験を実施する。

備考・関連URL

受講者には、言語心理学実験への被験者としての参加を通して研究の場を体験してもらう予定である。積極的な参加を期待する。
授業で使用する教材等は適宜、配布する。

講義

科 目 名	感情・人格心理学 人間のパーソナリティを理解する							
担当者名	小塩　真司							
心理コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では，人格心理学（パーソナリティ心理学）およびそれに伴う感情心理学について概説する。人格，性格，パーソナリティという用語は混乱しがちであるが，これらに決定的な違いがあるわけではない。近年，パーソナリティに関する研究は，心理学のみならずその周辺研究領域も巻き込みながら発展を続けている。この授業では，パーソナリティ心理学の歴史，パーソナリティの把握方法，類型的把握と特性的把握の相違点，個別のパーソナリティ理論と概念，パーソナリティの形成過程，感情に関する理論および感情の生起過程，感情と行動との関連，そして最新の研究動向について学ぶ。

授業の到達目標

パーソナリティ心理学および感情心理学の歴史と知識を学び，人間のパーソナリティについての理解を深める。

成績評価方法

リアクションペーパー：毎回の授業で疑問・質問を提出する（30%）
CourseN@vi上での試験：CourseN@vi上で，知識の確認を中心とした試験を行う。アクセス開始から制限時間を設け，一定の時間内に回答を求める。最低点を設けており，それ以下の場合には試験設定期間内に自動的に再試験を行う。（70%）

備考・関連URL

小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科 目 名	神経・生理心理学 脳の病理を通して健常の認知を知る							
担当者名	福澤　一吉							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

脳に損傷を受けると我々の精神活動の様々な側面が破綻する。このことは人間のあらゆる精神活動（言語、感情、認知、行為、記憶等々）は脳がその生物学的基礎であることを示している。
神経心理学は脳損傷患者に対する臨床的観察、実験を行うことで脳と心の関係を探求する脳科学の一分野である。
授業では脳の機能神経解剖学的背景を説明したのち、脳の損傷により生じる以下のような症状とそれを引き起こしたと考えられる脳病変部位について講義をする。
講義に含まれる症状は、言語の障害（失語症）、読みの障害（失読症）、書くことの障害（失書症）、認識の障害（物体失認症、相貌失認）、などである。
尚、担当者の講義以外に、本講義では外部から数名の脳科学の研究者をゲストスピーカーとして招聘し、様々な分野の話題を提供する。
なお、このクラスは講義クラスとして設定されているが、実際には受講生との意見の交換を重視している。講義の最中に症状に関する様々な
質問が教員からだされ、受講者はそれに関して各自答えを要求される。各自の意見は他の受講者と共有する。

授業の到達目標

脳がもつ認知機能をそれをつかさどる脳の部位との関係で理解する。
脳の部位とその機能について知る。
症状の把握にどのような理論が構築されてきたかを知る。
自分の症状解釈にどんな仮定が含まれているかに気づく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場試験はしない。
●**レポート**　80%　　ある病変部位を伴う神経心理学的症状について課題が提示される。 受講生はその課題について自分なりの神経心理学的説明モデルをつくり、提出する。
●**平常点**　20%　　毎週、臨床的症状に関する質問がだされる。受講生はそれについて配布されている用紙に自分なりの答えを書く。 毎月の最終週においてそれを提出していただく。

●**その他**　0%　　欠席は4回までみとめているが、5回以上欠席する場合は単位はでない。

科 目 名	精神疾患とその治療　精神医学							
担当者名	加藤　隆							
心理コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

健常な人のこころの成り立ちを知ろうとするのがPsychology(心理学)であれば、「異常な」こころの働きからその仕組みを探ろうとするのがPsychiatry(精神医学)である。とはいえ「健常なこころ」を明確に規定できないことからも、両者は切っても切れない関係にあり、心理の解明には双方の理解が必須である。本講義では、精神科学が扱う様々な疾患と、その背景に推定される脳やからだの機能障害を概説する。特に後半では、実際に臨床場面で見かける症例の提示からその諸症状・状態像の把握法を学び、背景に存在する精神病理学的な理解を深めたい。臨床場面をありありとイメージできるような症例提示を行い、学生自らが治療者としてどのように接するべきか、また実際の問診の手技・手法についても「実践的に」学ぶことを目標とする。

授業の到達目標

本講義を通じて受講生は精神医学の基礎を理解し、代表的な精神疾患についてその成因・症状・診断法・治療法・経過について把握する。授業計画のうち精神科総論では、精神症候学や診断基準などを学び、その神経基盤についても理解を深める。精神科各論では、精神医療が扱う代表的な疾患についてその症状・病態像について理解し、本人や家族への支援の観点から説明でき、かつどのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できることを目標とする。また治療場面においてしばしば用いられる向精神薬についてもその心身への影響を理解する。授業全般において、教科書的な「知識」を問うことはせず、精神医学への興味・関心を喚起することを第一の目的とする。

成績評価方法

●**試験**　10%　　教科書的「知識」は問わない。総論的な精神医学に対する関心の有無を評価する。
●**レポート**　40%　　了解不能な現象に遭遇した際の、個々人の説明的解釈を求めたい。
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	知覚・認知心理学							
担当者名	北村　美穂							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

知覚・認知心理学は、五感を通して世界を認識する心の仕組みを科学的に理解する学問です。この講義では、これまで明らかになっている知覚・認知に関する重要な知見を通して、ヒトの心に科学的にアプローチする手法と考え方を概説します。

授業の到達目標

知覚・認知心理学の考え方と知見を理解できる。
日常生活に見られる現象を心理学的視点から考察できる。

成績評価方法

試験の成績で判断する

備考・関連URL

その都度、授業内で指示する

科 目 名	司法・犯罪心理学							
担当者名	藤野　京子							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

まず、我が国の犯罪や非行の現状やその処遇の流れについて解説する。つづいて、犯罪や非行について、これまでどのような理論づけがなされてきたかについて解説する。また、非行少年や犯罪者の個別事例を取り上げ、その実情についての臨床的理解を深める。加えて、非行や犯罪に走った者への社会適応や犯罪予防に向けての心理学的働きかけのいくつかの手法を取り上げる。このほか、犯罪被害者への支援や犯罪捜査等の刑事司法過程において、心理学の知見がどのように生かされてきたか、また今度どのような役割を果たせる可能性があるかについても併せて考える。

授業の到達目標

司法・犯罪分野に関連する心理学の学部レベルにおける基礎知識の習得をめざす

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業で扱った内容をどの程度理解できているかを評価対象とします。
●**レポート**　0%　　該当なし
●**平常点**　20%　　平常点評価には出席（20分以上の遅刻は出席とみなしません）を含みます。
●**その他**　0%　　該当なし

科 目 名	臨床心理学概論							
担当者名	越川　房子							
心理コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

臨床心理学は、人間の精神に関する理論、科学的知見、実践を統合して、クライエントの問題（悩み）の解決や精神的な成長をサポートするとともに、不適応やこころの悩みの原因を研究し、問題を予測し、加えてそれらの問題を軽減、解消することを目指す心の科学である。本講では、心の問題のアセスメント方法および臨床心理学の主要理論とその技法について学ぶ。扱う理

論としては、精神分析、分析心理学、クライエント中心療法、交流分析、認知行動療法などを予定している。

授業の到達目標

心の問題のアセスメント方法および臨床心理学の主要理論とその技法について理解する

成績評価方法

●**試験** 60%　60点：日常生活への応用も含めて、学習した内容をよく理解している、50点：学習した内容をよく理解している、40点：学習した内容をかなり理解している、30点：学習した内容をある程度理解している、20点：学習した内容の理解が不十分である、10点：学習した内容を全く理解していない、0点：試験を欠席した
●**レポート** 0%　実施しない
●**平常点** 40%　出席回数と出席カードに自由に記入するコメントを基に評価する。
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	行動の科学							
担当者名	板口　典弘							
心理コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

行動の科学としての心理学が明らかにしようとする問題について，以下のような観点から解説する。(1)ヒトや動物の複雑な行動はどのように獲得され，発現するのだろうか？ (2)観察可能な行動から内的変化（心的過程）を推測することは可能なのだろうか？ (3)心的機能と神経機構はどの程度対応しているのだろうか？

授業の到達目標

心理学が研究対象とし，明らかにしようとする事象，およびその事象を解明するための研究手法を理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 100%　加えて，講義内で理解度の確認テストをおこなう。
●**平常点** 0%　なし
●**その他** 0%　なし

科 目 名	心と体の世界　知られざる心と体の関係を探る							
担当者名	駒田　陽子							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

心と体の関係を理解するための基礎として、私たちの体に存在する体内時計、脳と神経系について概説します。気分の落ち込みや疲労感、身体の不調はどのように発生しているのでしょうか。心と体は如何に関係し合っているのでしょうか。現代社会における「心と体」の問題、健康状態と生理機能の問題、医療における心身の問題、伝統的な心身の考え方、健康行動に見る心と体の関係、意識と無意識の奥深さなどを考えるきっかけを提供できればと考えています。

授業の到達目標

生物的 - 心理的 - 社会的存在としての人間を、「心と体」、「心身論」、「生体リズム」の側面から理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 50%　理解度を確認します。
●**レポート** 20%　課題は授業内に提示します。与えられた課題について、独自に検討を行ったことについて評価します。
●**平常点** 30%　講義支援システムやリアクションペーパーを用いて出席状況、受講者の理解度や関心を把握します。
●**その他** 0%　なし

科 目 名	心の哲学・心の科学　心理学、哲学、精神分析、それぞれの「心」へのアプローチ							
担当者名	村井　翔　他／鈴木　貴之／高瀬　弘樹／吉原　将大							
心理コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学とはいつ始まった学問でしょうか。心理学史を講ずる多くの人々はドイツの学者、ヴィルヘルム・ヴント(1832-1920)がライプツィヒ大学に心理学研究室を設けた1879年を心理学の始まりの年としています。思いのほか新しい学問なのです。では、心理学ができるまで人類は「心」について考えたことはないのでしょうか。もちろんそんなことはありません。古代ギリシアの昔から「心」は哲学の主要テーマでしたし、哲学は今もなお「心」について考え続けています。「心」を研究対象とする学問には19世紀末にユダヤ系オーストリア人、ジクムント・フロイト(1856-1939)が神経症の治療法として始め、ほぼ半世紀後にフランス人、ジャック・ラカン(1901-1981)が有力な改訂新版を作った精神分析もあります。皆さんはまだ心理学と精神分析の区別がつかないかもしれませんが、精神分析は後述するような理由(ウェブ上のシラバス参照)により、心理学ではありません。この授業は本来、別の土俵にいる心理学、哲学、精神分析の研究者がそれぞれの分野における「心」へのアプローチについて概説する異種格闘技戦。文学部の複数のコースを横断するような科目です。

授業の到達目標

心理学、哲学、精神分析という異なる分野の研究者は、それぞれどのような仕方で「心」を研究しようとしているのか。異なる分野からの「心」へのアプローチの仕方の違いを理解するとともに、こうしたアプローチの違いが個々の分野のどのような特徴によるものなのかについても理解を深めてして欲しい。

成績評価方法

成績評価は、レポートの成績を80%、授業への出席状況を20%として評価します。

レポートは、授業担当者、村井、鈴木、高瀬、吉原のいずれか一名が出題するテーマを選択して作成・提出してください。

科 目 名	心を測る　心理学研究のための多変量解析							
担当者名	大橋　洸太郎							
心理コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学の研究では実験や調査から得られたデータに対して様々な統計解析手法を適用し，心理的な側面の把握が試みられます。本授業では，心理学研究においてしばしば利用される解析手法を取り上げ，分析の目的や手法の理論背景を説明するとともに，データへの適用例から分析結果の解釈の仕方について示します。

授業の到達目標

・解析手法の使用目的を理解する
・解析手法の理論の概要を把握する
・データに対して解析手法を正しく適用できるようになる
・出力結果を適切に解釈できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　ほぼ毎回，簡単なと学習した内容に関連した課題を提示します。問題に対する取り組みの姿勢を評価します。
●**平常点**　40%　　授業への出席状況
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

心理統計学に関する基礎知識を有していることが望まれます。したがって，基本的には心理学専修／コースで基礎統計の授業を履修済みの（もしくは，履修している）学生を想定した授業となります。もちろん，授業内容に興味のある他専修／コースの学生の履修も歓迎しますが，統計に関する基礎知識を補うための学習努力が求められます。また，扱う内容の性質上，数学的内容も若干扱います。データ分析のソフトウェアとしてRを使うことを想定して解説を行います。

科 目 名	心理学の歩み							
担当者名	鈴木　朋子							
心理コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学がどのように生まれ、どのように発展したかを知る学問が心理学史である。心理学は、はじめから現代の心理学のような形で存在したのではない。社会や文化との相互作用の中で、心理学は形づくられてきた。本講義を通して、心理学とは何か、研究と実践とは何かを考える機会としていただきたい。また、歴史的観点から学問と実践を見る視点を養う機会としていただきたい。

なお、本授業は教室授業を基本とし、一部オンデマンド授業で実施します。

授業の到達目標

心理学の発展を時代の流れに沿って理解する。歴史研究の意義を理解する。自分の関心のあるテーマについて、歴史を踏まえて説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　実施しない。（オンデマンド授業のレポートは実施します。）
●**平常点**　50%　　毎回の授業において自身の理解度や授業の感想を書いてもらいます。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

第1回目の授業は教室では実施しません。オンデマンドでの実施となりますので、Course N@viをご確認ください。
第3回・第8回・第13回の授業もオンデマンドとなります。

最終授業で全体に対するフィードバックを行います。

科 目 名	健康・医療心理学							
担当者名	福川　康之							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では，特に人の健康や適応と関連する様々な要因とその影響メカニズムを概説する．各回のテーマに即した国内外の研究成果を紹介しながら論じていく．

授業の到達目標

種種の病気や不適応にと心身の関係について概説できる．
医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる．
さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援について説明できる．
災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる．

成績評価方法

●**試験**　85%　　講義内容について，専門用語と自分の言葉を駆使して説明できるか，確認する
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　授業中の発現，授業後の質問など，積極的な授業への参加度
●**その他**　0%

科 目 名	人体の構造と機能及び疾病							
担当者名	坂本　正裕							
心理コース	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの健康は，人体を構成している細胞，組織，器官の形態や構造および器官系の機能が正常な範囲に維持されて初めて可能となっている。循環系や呼吸系などの器官系は，いくつかの器官が緊密に協力して働いており，各器官系は身体が全体としてうまく機能するための役割を持つ。人体においては形態や構造（解剖学）と機能（生理学）は補完的な関係であり，疾病を理解するためには各器官系の正常な形態や機能の理解が必要である。本講義では，まず細胞，組織，器官の構造を学び，次に各器官系の機能について理解を深める。また，近年ではがんなどの難病の精神的ケアや心身症など心理的支援が要請される疾病が多くなってきた。その点を踏まえて各器官系ごとに関連する疾患について概説する。

授業の到達目標

1. 人体の構成要素である細胞，組織の基本構造と働きを理解すること。
2. 人体の各部の骨格，筋，臓器の形態と構造を理解し，その構造と機能の関連を説明できること。
3. 各器官系の正常な機能が概説できることおよび正常な機能からの逸脱がどのよう疾病を引き起こすかを概説できること。
4. 心理的支援が必要な疾病について概説できること。

講義

成績評価方法

●**試験**　95%　　定期試験期間中に試験を実施し，評価を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　5%　　出席を考慮します。
●**その他**　0%　　特にありませんが，授業態度は考慮します。

備考・関連ＵＲＬ

公認心理師の受験に必要な科目なので注意すること。

科 目 名	宣伝文研究　広告・コミュニケーションと社会							
担当者名	荒井　誠							
心理コース	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

・広告は、企業と人、人と人を結びつける現代社会のコミュニケーションにおいて重要な役割を果たしている。
・コミュニケーションメディアは、テレビ・新聞などのマスメディアだけでなく、ソーシャルメディアに代表される新しいメディアの時代へと拡大しており、広告の形態も多岐にわたり進化を遂げている。
・本講座では、メディアの変化を踏まえ、「生活者の心理・価値観の変化」や「ライフスタイルの変化」を把握し、広告によって生活者の意識や消費行動がどのように影響を受けていくか、を明らかにしていく。
・実際の広告の映像・画像を分析しながら、広告を構成するヘッドラインやボディコピー、ビジュアルや音楽・ネーミングまで、広く広告制作の仕組みを習得する。
・受講生自ら広告を創作し、他の受講生の創作した広告のフィードバックを通し、実践的な広告創作も体験する。
・広告だけでなく、企業・自治体が取り組む、広報・PR領域の研究も行う。

授業の到達目標

・受講者は、広告コミュニケーションが人間社会の中でどのような役割を果たし、どのように機能しているのかを理解し、それが創り出され、送り出されるメカニズムを知る。
・その背後にある送り手側の意図を読み解き、日常的に接する広告に対して主体的な「判断力」を養い、高度な情報社会における優れた「リテラシー」を身につけることを目標とする。
・さらに、社会人となって役に立つ、自分の意思をいかにして伝えるかという「コミュニケーション能力」習得へのヒントを掴む。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度・広告／コミュニケーションへの見識の拡がり。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席状況。 授業後に提出のコメントシートによる、授業内容への理解度と自らもつ独自の視点・考え。
●**その他**　20%　　自ら制作・提出する2つの広告創作で、いかに広告創作の難しさ、楽しさを実感できたか。

備考・関連ＵＲＬ

・広告・PR・メディア・マーケティング・クリエイティブ・ライフスタイル・価値観変容などに関心のある学生の受講を望む。
・講師は、広告会社電通のマーケティング部門・営業部門において、多くの広告キャンペーン・開発プロジェクトの企画・立案・実践に従事中。

科 目 名	認知のシステム　情報処理システムの構造							
担当者名	楠瀬　悠							
心理コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

我々は、眼を開いただけでそこにあるものを見ることができるし、耳をすませば周囲から発せられる様々な音を聞くことができる。しかしこの知覚のプロセスは外界をそのままに写し取ってくるわけではない。そこには複雑な解釈のプロセスが介在しており、また我々は、既に保持している知識を利用することによって、速やかかつ適切に外界を認識することができる。物理的世界の中に存在する様々な情報をどのようにして我々の心は認識するのだろうか。さらに、知覚入力のプロセスを通して獲得した知識をどのように貯蔵し、その結果、どのように世界を認識しているのだろうか。この授業では、我々が持つ情報処理システム（主に視覚情報）の構造について考察するとともに、外界の認識を支える知覚のシステムと知識との間の交互作用がどのように行われているのかという問題を考察する。

授業の到達目標

視覚情報処理のシステムがどのようにして実現されているかについて、理解してもらうとともに、認知心理学が人の情報処理システムをどのような枠組みでとらえようとしているのかを理解してもらう。

成績評価方法

成績評価は、試験の成績を80%、授業への出席状況を20%として評価する。
試験は、第15回の授業時に穴埋め形式の試験を実施する。

備考・関連URL

受講者には、心理実験への被験者としての参加を通して研究の場を体験してもらう予定である。積極的な参加を期待する。
また，授業で使用する教材等は適宜，配布する。

科 目 名	心理学概論1							
担当者名	越川　房子　他／小塩　真司／北村　美穂／竹村　和久／豊田　秀樹／藤巻　峻							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

5名の教員がそれぞれ2回あるいは3回ずつ担当して構成されるオムニバス講義である。心の働きや行動に見られる法則性やパターン、関係性、個人差等について、担当教員の専門領域から話題が提供される。具体的内容は授業計画を参照されたい。

授業の到達目標

心理学の諸領域をそれぞれの担当者が紹介することで、心理学がどのような研究領域を含むものであるのかを理解してもらうとともに、心理学の基礎的な考え方を学びとってもらうのがこの授業のねらいである。

成績評価方法

授業への出席回数を考慮の上、学期末のレポート課題により評価する。

科 目 名	心理学概論2							
担当者名	藤野　京子　他／大藪　泰／日野　泰志／福川　康之／福澤　一吉／宮田　裕光							
心理コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学がどのように進展してきたかについて、心理学の分野ごとに解説していく。

犯罪心理学領域：臨床心理学的アプローチにより、非行少年の診断・査定の実際を紹介するほか、非行少年への介入及びそれによる変化について扱う。加えて、犯罪被害者における心理的影響についても扱う（藤野京子）。思考心理学領域：動物およびヒトの思考や問題解決、計画能力に関する実験的研究について、各研究領域の視点から紹介する(宮田裕光)。神経心理学領域：科学的議論の基礎と、脳損傷例にみられる神経心理学的臨床症状と脳機能について紹介する（福澤一吉)。発達心理学領域：子どもと青年の精神世界の発達について、エリクソンの自我発達論を基盤に論じる（大藪　泰)。高齢者心理学領域：人のライフサイクルにおける高齢期を2期に分けて、それぞれの心理的特徴を健康や適応の観点から論じる（福川康之)。認知・言語心理学領域：1）語の認識や知覚における「表象」という概念の重要性と2）語の読みのメカニズムに関する問題を紹介した上で、語の読みに関する最近の研究について紹介する（日野泰志)。

これらを通じて、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。

授業の到達目標

心理学における様々な分野についての知見を広め、心理学とは何かについて理解を深める。

成績評価方法

成績については各教員により評価方法、評価基準は異なる。

科 目 名	産業・組織心理学							
担当者名	福川　康之　他／大塚　泰正							
心理コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

講義は、2名によって行われる。

本講義では職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング，教育研修，職場復帰支援など）について学び，産業・組織心理学領域で活躍できる心理実践家としての基礎を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標

（1）産業・組織心理学の基礎的知識を学ぶ
（2）職場のストレスの実際を理解し今後の職業生活に活かす手掛かりを得る

成績評価方法

●**試験**　75%　　理解度を確認するために教場試験を行う
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　出席
●**その他**　10%　　小テストを行う

科 目 名	社会・集団・家族心理学　個人、集団、家族、社会における認知・判断・行動の理解							
担当者名	竹村　和久							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、広義の社会心理学を取り扱う。すなわち、社会心理学は、政治、経済、経営、日常生活などの社会的状況における人間の知覚、認知、判断、意思決定、行動の仕組みを解明する学問であると考えることができる。例えば、社会心理学では、

以下のようなことが問題になる。なぜみんなで充分な話し合いをすると、本当に良い社会的決定ができるのであろうか？　日本は安心社会なのか？　人間の社会行動や心理過程をどのように表すことができるのか？　などである。
本講義では、社会心理学、集団心理学、の基礎的考え方と方法論・理論、そして研究知見を総合的に概説する。また、本講義では、方法論や理論などに力点を置きながらも、社会政策や経営・経済政策などの実務的な観点をも考慮した講義を行い、学生に「社会心理学がどんな役に立つか」ということを積極的に考えていただくことを目指している。
テキストは1冊であるが、かなりの分量を学習してもらうことになると思われる。その分、備考欄にも書いたように、学生には、充分な予習や復習をしていただくことを講義の前提としている。本講義を受講することによって、人間の社会的行動への理解が促進し、社会心理学、集団心理学、家族心理学関係の学術雑誌や学会発表もある程度理解でき、研究の具体的応用を考察できるようにすることを目標とする。

授業の到達目標

本講義を受講することによって、人間の社会的行動への理解が促進し、社会心理学、集団心理学、家族心理学関係の学術雑誌や学会発表もある程度理解でき、研究の具体的応用を考察できるようにすることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　単元ごとの授業時の予告なし試験、授業終了時の試験での理解力をみる
●**レポート**　20%　　平常のレポート課題の内容を評価する
●**平常点**　30%　　授業への出席状況、授業での態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

初回の講義の段階では、社会心理学についての知識は前提としない。ただし、一般心理学や心理学研究法についての初歩的知識、多変量解析や実験計画などの統計解析に関する初等的知識、微積分、多項式関数、ベクトルに関する高校で履修可能な数学的知識、新聞で入手可能な時事問題に関する初歩的知識を前提とする。また、積極的な授業への参加を期待する。テキスト以外に、指定した参考文献なども次回の授業までに読んで来るように随時指示を与える。また、授業時間中に、学生同士のディスカッションや社会心理学に関連した実験参加募集なども行う予
関連URL:　http://member.nifty.ne.jp/highway/dm/decbooks.htm　http://www.soc.nii.ac.jp/jssp/

講義

科目名	社会学概論1							
担当者名	池田　祥英							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会について理論を作り上げようという動きは太古の昔からあったが、それが独立した学問分野として成立したのはそれほど昔のことではない。フランス革命で王権が打倒され、それに代わる新たな秩序を模索していた19世紀のフランスにおいて「社会学」という言葉が編み出され、それが各国に広まっていくことになる。そしてフランスのデュルケーム、ドイツのヴェーバー、アメリカのパーソンズというように、それぞれの言語圏で傑出した社会学理論が生み出された。これらの学説は、現代の社会を考えるうえでそのまま適用されることはないが、彼らが作り出した概念図式は修正されながらも利用され続けており、現代の社会学理論を作るうえでの土台となっている。本講義では、このような主要な社会学理論を取り上げ、単に社会学者の名前と概念を結びつけて覚えようというのではなく、どのような時代背景があってそうした理論が生み出されたのかを中心に考えていく。

授業の到達目標

1．社会学における基本的な概念について理解し、説明できる。
2．社会学的な思考を用いて、現代社会が抱える問題点について論理的に議論を展開できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　社会学に関する基本的な概念について理解しているかどうか、社会学的な考え方を用いて、社会問題について論理的に説明できるかどうかを評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　各回終了後のレビュー（Course Navi）等への参加度、コメント内容の論理性によって評価する。
●**その他**　0%

科目名	社会学概論2							
担当者名	池田　祥英							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「社会学概論1」での学習を背景に、本講義ではもう少し具体的な場面においてどのような社会学的概念が用いられているのかを考察するために、「社会集団」について取り上げる。人間は生まれてから死ぬまで、つねに何らかの集団に属している。たとえ学校や会社に属さず、共に暮らす家族がいないという人でも、かつては家族や施設、義務教育の学校の一員であったはずであるし、あるいは少なくとも今住んでいる地域の一員としての立ち位置から逃れることはできない。その集団のなかでわれわれは直接的に協力しあう場合もあれば、顔を合わせず、また特定の誰ともわからないまま同じ目標に向かって協力しあう場合もあるだろう。この授業では、そうしたさまざまな局面から見た人間の集団について考察する。

授業の到達目標

1．社会学における社会集団研究の分析視点を理解できる。
2．家族や地域といった個別の社会集団について、これまでの変化についての議論と現代における動向を理解し、それらを説明できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業で扱った重要な概念について理解し、文章で説明できるかどうか、社会集団の変容に伴う問題点について論理的に説明できるかどうかを評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　各回のレビューの内容と参加度により評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	社会調査法1							
担当者名	岡本　智周							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会学は様々な方法で社会を認識した上で成立する学問である。そのための主要かつ有効な方法の一つが社会調査である。社会調査の領域では、具体的な社会事象を客観的に把握するため様々な手法が開発され、また多くの先行研究が蓄積されている。本講義は、先行研究例をふまえつつ、実践に向けての基礎知識を習得することを目的とする。なお、本講義は社会調査法2と併せて履修することが望ましい。

授業の到達目標

社会調査の基礎知識を習得することを目標とする。社会調査法1においては、とくに調査票の作成のスキルを習得することを課題とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　10%　　授業内で提出してもらうレポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	社会調査法2							
担当者名	岡本　智周							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンプリングから実査後の集計方法までの手順を学習する。変数間の関連性についての社会学的想像力を駆使した集計が、社会現象についていかに多くの知見を提供してくれるのかを理解する。また、社会調査における計量的研究の方向性と現象学的な質的研究への方向性を学習し、両者が実証研究において相互補完的であることを理解する。なお、本講義は社会調査法1と併せて履修することが望ましい。

授業の到達目標

社会調査の基礎知識を習得することを目標とする。社会調査法2においては、とくにクロス集計結果の理解の仕方を習得することを課題とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　10%　　授業内で提出してもらうレポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	データ解析2（質的分析）　質的調査の技法と質的データの分析							
担当者名	畑山　直子							
社会コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、社会調査が量的調査と質的調査に大きく分類されることを理解した上で、質的調査に含まれるフィールドワークや参与観察、インタビュー調査など、個々の調査技法を具体的に解説していく。また、これらの調査技法によって集めることができる質的データ（ライフヒストリーデータやビジュアル記録等）の分析方法を学ぶ。

授業の到達目標

質的調査の考え方と方法に関する基礎的な知識を習得し、調査の目的に合わせて適切な調査技法とデータの分析方法を選ぶことができるようになる。

成績評価方法

第8回に行う小テスト（20%）と第15回に行う授業内容の理解度の確認（80%）で評価する。

備考・関連URL

卒業論文で質的調査（インタビュー調査など）を実施しようと考えている人は、質的調査を具体的に企画し、実施するためのスキルを身につけるために、ぜひ受講してほしい。

科 目 名	社会学研究1（グローバリゼーション論1）　グローバリゼーションとは何か？							
担当者名	田辺　俊介							
社会コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

グローバリゼーション（あるいはグローバル化）は、現代社会を論じる際に多用される言葉の一つである。しかしその「グローバリゼーション」という言葉は、論者や文脈によって意味内容が異なることも多く、使用上の混乱が多い概念でもある。さらに社会に対する影響についても、論者の立場や思想によって、その意見は大きく分かれる。世界全体を塗り替え、国民国家を解体させる強力な社会変動と考える論者も多い。だが一方で、伝統的な国民国家の社会的影響力を大きく損なうような力ではない、と断ずる研究者も、実は少なくないのである。

そこで本講義では、まずグローバリゼーションという言葉の内実について、それを複数の側面に分けた上で、その影響力や実態を学ぶ。その上で、グローバリゼーションと関連深いと考えられる諸概念（例えば、移民、マクドナルド化やネオリベラリズ

ム）や対立するとされる概念（反グローバリゼーション運動やナショナリズム、ポピュリズム）についての議論を学習する。それらを通じて、グローバリゼーションと呼ばれる社会変動に関する理論とその実態に関する幅広い知識と認識を得ることを目的とする。

授業の到達目標

グローバリゼーションとその関連諸概念に関する複数の理論を学ぶことで、グローバリゼーションに関する議論を、自分なりに整理するための社会学的な視点の獲得を目指す。さらに可能な限り、グローバリゼーションに関する諸理論を深く知るプロセスを通じて、同じように曖昧に語られやすい社会に関する諸概念についても、それらをまず理論的に理解し、その上で自分なりに論じる力を身につける「方法論」を身につけて欲しい。

成績評価方法

●**試験**　100%　　期末試験の得点による評価
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

講義

科 目 名	社会学研究2（グローバリゼーション論2）　グローバリゼーションとナショナリズムの相互関連							
担当者名	田辺　俊介							
社会コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

グローバリゼーションの進展にともなって、「政治的な単位と文化的あるいは民族的な単位を一致させようとする思想や運動」（Geller 1983=2000）と定義されるナショナリズムが衰退する、との予想もされていた。しかし21世紀の現代社会においては、アメリカファーストを唱えるトランプ大統領の誕生、英国のEU離脱、欧州における移民排斥を主張する政党の伸張、東アジア諸国間の相互不信など、ある種のナショナリズムに基づいた社会現象は頻出し続けている。そのため、グローバリゼーションにともなって、むしろ特定の種類のナショナリズムは強まっているかにも思われる。このようなナショナリズムは、「賛成派」と「反対派」の間でとかく感情的な議論になりやすい対象である。しかし、そもそもお互いの用いる「ナショナリズム」の意味が異なったままの、不毛な議論も少なくない。そこで本講義では、まずナショナリズムに関する古典的理論を学ぶ。その上で、ナショナリズムとグローバル化の関連を読み解くために必要な諸概念（日本人論や多文化主義など）に関する理論的・実証的諸研究を学ぶ。

授業の到達目標

ナショナリズムやグローバリゼーションのような「国」にまつわる様々な現象についての基礎理論や実証研究を学ぶことで、受講者各自が、それら現象を相対的・複眼的視点から理解・検討できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　100%　　期末試験の得点による評価
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究5（集団・組織論1）　集合的アイデンティティ研究1							
担当者名	山田　真茂留							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

集団なるものは、行為と制度とをつなぐきわめて重要な結節点と言えるが、最近の社会学の基礎理論においては、残念なことにこの次元が閑却されることが少なくない。そこで本講義では、集団をめぐる様々な問題を取り上げながら、集団現象についての原理論的な検討を行っていく。その際、従来集団論や組織論の俎上に載せられてきたトピックは勿論のこと、他の領域の素材であっても集合的な現象に関わるものであれば積極的に取り上げていくことにしたい（例えば下位文化や宗教団体等をめぐる諸問題）。

授業の到達目標

社会学的集団論の射程を刷新しつつ、結果として集団現象についてのより深い理解を得ることを大きなねらいとする。授業全体が終わった際、受講者1人ひとりが集団現象の様々なトピックに通暁し、またその根底に潜む共通の問題を抉り出すセンスが身についていることを願う。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終試験の比率はそれなりに高いが、それだけで決まるわけではないので注意すること。
●**レポート**　30%　　中間レポートとして実施する。レポート課題は、授業期間中に提示するが、教科書として掲げた『集団と組織の社会学』をもとにする予定。レポート提出期日は学期末ではなく、中間的な日程になるので注意（授業期間中に伝達する）。
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　出席をとる可能性はゼロではない。

備考・関連URL

担当者が所属する複合文化論系（文化構想学部）ならびに当科目を管理する社会学コース（文学部）以外の方々の受講も大歓迎です。

なお評価は中間レポートだけでも最終試験だけでも決まらないので注意してください。例えば試験以外の評価がゼロの場合、試験が85点でも、これに0.7を乗じれば59.5点となってしまうため、合格点には達しなくなります。

科 目 名	社会学研究6（集団・組織論2） 集合的アイデンティティ研究2							
担当者名	山田　真茂留							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

諸個人の生活世界における意味は、各人が所属ないし帰属している集合体によって備給されることが少なくない。それでは、集団の存立それ自体は、そもそもどのような基盤によっているのであろうか。また、諸個人が集合体に対してアイデンティファイするというのは、いったいいかなる現象なのか。そして、集合体の有する境界ならびに文化は、かかるアイデンティフィケーションとどのように関連しているのか。本講義では、社会学的集団論の系譜を批判的に検討したうえで、社会心理学における自己カテゴリゼーション論ないし社会的アイデンティティ論の最新の展開を導きの糸としながら、これらの問題にアプローチしていく。

授業の到達目標

生活の私事化が急速に進行するなか、それでもなお、いやそうであればこそ強く希求される集団帰属意識（ないし社会的カテゴリー帰属意識）の根幹に迫るというのが、本講義の大きなねらい。とくに成員性に関する原理的な考究の仕方を身につけることを重要な到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終試験の比率はそれなりに高いが、それだけで決まるわけではないので注意すること。
●**レポート**　30%　　中間レポートとして実施する。レポート課題は、授業期間中に提示するが、教科書として掲げた『集団と組織の社会学』をもとにする予定。レポート提出期日は学期末ではなく、中間的な日程になるので注意（授業期間中に伝達する）。
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　出席をとる可能性はゼロではない。

備考・関連URL

担当者が所属する複合文化論系（文化構想学部）ならびに当科目を管理する社会学コース（文学部）以外の方々の受講も大歓迎です。

なお評価は中間レポートだけでも最終試験だけでも決まらないので注意してください。例えば試験以外の評価がゼロの場合、試験が85点でも、これに0.7を乗じれば59.5点となってしまうため、合格点には達しなくなります。

科 目 名	社会学研究7（現代家族論1） 歴史のなかの家族：家族の私化をめぐって							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

われわれは、基礎的な社会関係として家族関係をもっている。「人間にとっての家族」「社会にとっての家族」について整理し考察する家族研究は、社会学の重要なテーマであり、社会構造を知るための多くの示唆をあたえてくれる。現代家族の種々な現象・課題への社会学的接近が、種々の理論的立場から活発に展開されている。一方で、家族は時間的志向性を含んだものである。家族のライフコースはもちろんのこと、社会制度としての家族、実態としての家族は、歴史的、文化的規定と相互作用を繰り返しながら多様な形態で現出してきた（たとえば「家族が崩壊している」という言説は日本では大正時代からすでにみられる）。時間次元をとりこむことは、現代家族を考察する際に不可欠であり、社会変動を知るてがかりとなる。ここでは、家族をめぐる社会制度、社会規範水準の変化（家族変動）に焦点をあて、歴史のなかに家族を位置づけ考察することで、現代社会における家族の普遍性ならびに「家族の私化」という特異性へ接近したい。

手順として、研究・観察対象として家族をとらえる際の基本的概念を整理し、そのうえで具体的な考察を加えたい。こうした作業をとおして、われわれが通常抱く家族に関する認識が、いかにステレオタイプな言説に影響されているかが明らかになる。

授業の到達目標

家族を観察する際の基本的概念と方法を理解する。その際、歴史的な視点を組み込むことで、現代家族への洞察を深化させる。

成績評価方法

試験によって評価する。

科 目 名	社会学研究8（現代家族論2） ライフコースと家族過程：家族の個人化をめぐって							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「家族が個人化している」といわれて久しい。そこには「家族が崩壊し、それは社会にとって望ましくない状況だ」という含意があるようだ。確かに家族生活や家族関係のありようは、人間発達過程における重要な因子と考えられている。しかし、近年その家族による影響は過剰に評価・判断される傾向にある。あたかも、個人は家族生活・家族関係から一方的に影響・刺激を受けているかのようにみなされている。

他方で、家族自体も変化していることをわすれてはならない。その変化には、家族の発達過程における変化（家族過程）と家族をめぐる社会制度、社会規範水準の変化（家族変動）とがある。個人の発達過程においては、とりわけ前者の家族過程が重要となる。なぜなら、家族過程は家族成員の発達過程の相互作用によってなされるのだ。

本講義では、個人のライフコースと家族過程との相互作用（ダイナミズム）を考察し、そこから現代社会の諸現象の解明（家族の個人化、ライフスタイル中立論）へと接近する。

授業の到達目標

現代日本で標準的とみなされている人間発達、家族過程の諸局面を理解する。

成績評価方法

試験による評価

科 目 名	社会学研究11（現代社会への視角1） 現代社会におけるマジョリティとマイノリティの関係を考える							
担当者名	関水　徹平							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本社会は同化主義（マジョリティ＝多数派の生き方への同化をよしとし、マイノリティ＝少数派の生き方を抑圧・軽視する価値観・考え方）が根強いといわれます。そのような社会で、少数派と位置づけられる人びとは、さまざまな困難を経験し、不利な条件下で生活することを余儀なくされます。この授業では、障害、階層、ジェンダー・セクシュアリティ、人種など、さまざまな側面から、マジョリティとマイノリティの関係について理解を深めること、そしてマジョリティであろうとマイノリティであろうと尊厳をもって生きられる社会のあり方を考える力を養うことを目的とします。

授業は、以下のように進める予定です。まず前半で毎回マイノリティ問題を取り上げた映像（20〜30分程度）を視聴し、その後、映像のテーマに関する各自ワークシートに取り組んでもらいます。書いたワークシートを受講生の間で交換し、受け取ったワークシートにコメントをつけてから元の学生に戻します。 次の週の冒頭でワークシートについての講評と補足説明をおこないます。

講義

授業の到達目標

マイノリティの立場にたつ人々が、マジョリティの立場にたつ人々とのどのような関係性のなかで、どのような困難や不利を経験しているのかを理解すること。そのような不利や困難が、どのように生み出されるのかを理解すること。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　　最終週に提出してもらうレポートにもとづきます
- **平常点**　70%　　授業内でおこなうワークシートの評価にもとづきます
- **その他**　0%

科 目 名	社会学研究12（現代社会への視角2） 現代社会の諸問題への社会学的接近							
担当者名	草柳　千早							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代社会で生活することは容易ではない。ひとりひとりの抱えるさまざまな問題がある。社会には問題が山積している。解決不可能と思えるような困難が常態化している。誰もが多かれ少なかれ社会の現状に疑問を持ち、変化を求めているではないだろうか。

本講義では、現代社会における私たちの生きづらさに対して社会学はどのようにアプローチしうるのかを考える。構成は大きく3つに分けられる。第1に、社会学がこれまで社会の諸問題を研究するという課題にいかに取り組んできたかを、理論・学説を中心に概説する。その上で、第2に、1で得る学説・理論的知見から、現代日本社会において私たちが直面する問題事例を取り上げて考察する。具体的に取り上げる問題は、その時期の社会状況を見ながら決めていくが、履修生に関わりの深いものを選びたい。第3に、社会問題、諸個人の問題経験・生きづらさに対する取り組み、異議（クレイム）申し立て、さまざまなアクションへと目を転じ、人びとのこうした活動への社会学的アプローチについて考える。以上を考えていくことは、私たちが埋め込まれている現代社会の「当たり前」の「日常」を問いなおすことと繋がっている。履修生には、それぞれが日常感じる違和感や疑問を大切にし、それらが社会学的研究の契機となることを感得してほしい。

授業の到達目標

社会問題および諸個人の生きづらさへの社会学的まなざしとアプローチを学ぶことを通して、現代社会とそこでの私たちの日常生活に対する分析的・批判的思考を鍛えていく。

成績評価方法

- **試験**　70%　　授業内容の理解度と応用力
- **レポート**　30%　　課題への取り組みの的確さと独自性
- **平常点**　0%　　評価対象外
- **その他**　0%　　評価対象外

科 目 名	社会学研究15（比較社会学1）							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

民藝運動の創始者の一人、柳宗悦の思想と行動を、比較社会学者と見立てて、読み解いていく。民藝という言葉からは、日本の地方の無名の工芸品というイメージが湧いてくる。確かにその通りかもしれないが、他方で、柳宗悦は、日本以外の場所からの様々な思想的・美的・社会的インパクトから、民藝という立場を作り出したのも事実である。それゆえに民藝には、今現在実現しているかどうかは別として、比較社会的な視点の可能性が散りばめられていると思われる。それらの可能性の萌芽を見つけ出すことを試みたい。

授業の到達目標

工芸という具体的な物を通して一種の比較社会的な視点が可能であることを、理論的側面に強調点を置きながら学ぶこと。

成績評価方法

- **試験**　50%　　第15回目の授業中に「理解度の確認」を一回行う。授業の内容全体を受講生各自が自分なりに消化した上で自論を構成できるかどうかを評価する。
- **レポート**　50%　　毎回の授業中にミニレポートを書いて、その場で提出してもらう。その回の授業内容を理解するための努力をしたかどうかの確認が中心である。
- **平常点**　0%　　なし。
- **その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会学研究16（比較社会学2）							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

民藝運動の創始者の一人、柳宗悦の思想と行動を、比較社会学者と見立てて、読み解いていく応用編。しかし、春期の「社会学研究15（比較社会学1）」を受講していなくてもそれなりに理解出来るように、最初の数回は、柳と民藝についての紹介を行う。扱うトピックは、郷土・環境・茶道・無意識などと、春期に比べて多彩であるが、それらすべての中心には、柳の比較論的な文化と社会へのまなざしがあると思う。

授業の到達目標

工芸という具体的な物を通して一種独特の比較社会的な視点が可能であることを、さらに多面的に学ぶこと。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業中に「理解度の確認」を一回行う。授業の内容全体を受講生各自が自分なりに消化した上で、自論を構成できるかどうかを評価する。

●**レポート**　50%　　毎回の授業中にミニレポートを書いて、その場で提出してもらう。その回の授業内容を理解するための努力をしたかどうかの確認が中心である。

●**平常点**　0%　　なし。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	社会統計学1							
担当者名	津田　好美							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会調査によってえられたさまざまな形式のデータを整理、分析するために必要となる基礎的な手法を学ぶ。量的調査から得られたデータを処理する基本的な方法を扱い、次にデータの分布を記述する指標の読み方や算出の仕方を扱う。その上で、2変数間の相関関係を読み解く方法や統計量、疑似相関などの概念について講義する。社会統計学の基礎的な分析結果の統計的意味や社会的含意を理解できるようになることを目指す。

授業の到達目標

データの分布、記述統計量を理解し、社会調査のリテラシー（読み書き能力）を習得する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　期末試験

●**レポート**　0%

●**平常点**　0%

●**その他**　20%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会統計学2							
担当者名	津田　好美							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会調査から得られたデータが標本のデータである場合、母集団に関する一般的な結論を導出するには、推定ならびに検定とよばれる統計的処理を経る必要がある。この講義では、確率論の基礎、確率分布、検定・推定の基礎、平均の差の検定、カイ二乗検定、相関係数や回帰分析について、その理論と実践的な意味の両面について扱う。受講生は、推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること、その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになることが期待される。

授業の到達目標

推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること。その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　期末試験

●**レポート**　0%

●**平常点**　0%

●**その他**　20%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会学特論1　社会学から見る宗教と日本社会							
担当者名	平野　直子							
社会コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「社会学特論1・2」では、社会学における宗教の考え方について解説し、それを用いて現代日本社会の諸現象を読み解いてい

く。前期の「特論1」では、「近代社会」としての日本社会の歩みのなかで、宗教とそれに類する現象がどのような役割を果たしたか、また現在のわれわれにはどのようなものとして現れているのかに焦点を当てて論じる。

授業の到達目標

社会学における宗教の捉え方を理解し、現代日本社会における宗教およびそれに類する諸事象について社会学の観点から考察できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　成績は基本的に試験の結果によって決定する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	社会学特論2　社会学から見る宗教と日本社会							
担当者名	平野　直子							
社会コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

「社会学特論1・2」では、社会学における宗教の考え方について解説し、それを用いて現代日本社会の諸現象を読み解いていく。特論2では前期の内容を踏まえ、（1）政治と宗教または国家と宗教、（2）消費社会と宗教、の2点に焦点を当て掘り下げた議論を行う。

授業の到達目標

社会学における宗教の捉え方を理解し、現代日本社会における宗教およびそれに類する諸事象について社会学の観点から考察できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　成績は基本的に試験の結果によって決定する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	現代社会論1							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代社会の中で生きるという視点から自閉症者の世界を捉えようと試みる。現代社会の中で生きる自閉症者の姿から何が読み取れるか。それは、自閉症についての理解というだけでなく、現代社会に関する考察の面でどのような示唆を与えてくれるのだろうか。

授業の到達目標

社会学の枠組みを越えた広範な問題について学ぶことによって、逆に、社会学的考察の必要性を実感できるようにすること。個別的知識の習得を主な目的とはしない。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業中に「理解度の確認」の形式で一回行う。授業の内容全体を受講生各自が自分なりに消化した上で自論を構成できるかどうかを評価する。
●**レポート**　50%　　毎回の授業中にミニレポートを書いて、その場で提出してもらう。その回の授業内容を理解するための努力をしたかどうかの確認が中心である。
●**平常点**　0%　　実施しない。
●**その他**　0%　　実施しない。

科 目 名	現代社会論2							
担当者名	中川　宗人							
社会コース	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、私たちが生きている現代社会について何かしらの問いを立て、学問的に考察することを通じて、社会学のアプローチを身につけることを目標としています。

社会学に限らずすべての人文社会科学は何らかの形で現代社会を対象としていますが、本講義では、諸科学のなかでも社会学ならできることは何かを、これまで実際になされてきた研究を素材として議論していきます。

・事前に指定された文献の講読が必須となります。
・講義形式のほかに、適宜グループワークを課すことがあります。

授業の到達目標

（1）日常生活で接する様々な事柄に対して、社会学的な問題意識をもつことができる。
（2）社会学の入門的な概念や理論について理解し、説明することができる。

成績評価方法

期末レポート　55%
平常点　　45%
平常点は、出席、授業内で提示する課題の提出内容を総合的に勘案する。

科 目 名	社会学の考え方1							
担当者名	土屋　淳二							
社会コース	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目では、社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の重要トピックスを拾いながら、その基本的な考え方を俯瞰し、「社会学的に考える」ことの意味や今日的な意義、その学問姿勢にみられる特徴について解説する。社会学をひとつの道具として、時代の流れや世界の広がりのなかで繰り広げられる人間と社会の営みについて考察していきたい。

授業の到達目標

社会学の基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や見方を習得すること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　最終授業時に試験（論述式）を実施し，理解度の確認を行う.
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　20%　　レビューシートの提出状況を加点対象とする.
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会学の考え方2							
担当者名	土屋　淳二							
社会コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目では、社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の重要トピックスを拾いながら、その基本的な考え方を俯瞰し、「社会学的に考える」ことの意味や今日的な意義、その学問姿勢にみられる特徴について解説する。社会学をひとつの道具として、時代の流れや世界の広がりのなかで繰り広げられる人間と社会の営みについて考察していきたい。

授業の到達目標

社会学の基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や見方を習得すること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　最終授業時に試験（論述式）を実施し，理解度確認を行う.
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　レビューシートの提出状況を加点対象とする.
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	社会学原典講読2 「社会的加速化」と後期近代社会							
担当者名	原科　達也							
社会コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、現在、ドイツを中心に注目を浴びているHartmut Rosaの社会の「Beschleunigung」（加速化）に関する議論を英語文献で精読するものである。本講義で扱う文献は主に学術誌"Constellations, vol., 10, No.1, 2003"においてローザ本人を含む、この概念や現象について論じられた数本の論文や論評である。

ローザによれば 「加速化」は、近代社会の大きな特徴の一つであるとされる。ローザはこれをフランクフルト学派や再帰的近代化論などを援用しつつ、社会のある部分における加速化が他の部分との調和を喪失してしまうほどにまで進んでしまった状態を批判理論的に論じていく。直感的な水準で考えてみても「加速化」の問題は容易に思いつくだろう。例えば目まぐるしく変化するグローバル市場に政治が追いついていかず、次第に政治が場当たり的なものへと変貌する。あるいは個人のアイデンティティの点でも社会状況の次々に訪れる素早い変化によって、安定的で一貫したアイデンティティの構築が次第に困難になる。技術革新が起きるたびに、人々の雇用環境も変化し、要求されるスキルや知識が次々と古臭いものに転じて、失業者を生んでしまうことになる・・・等々。個人や組織あるいは国家は周囲環境のあまりにも素早い変化に対応することを常に求められ、この変化に対応できない場合には社会的排除の憂き目にあう。また同時に社会は加速化によってもたらされるその排除を防ごうとして、ますます別の部分を加速化させることになる（そしてその加速化が別のところでの脱同期化や排除を生み出してしまうかもしれない）。こうした我々をとりまく状況を、ローザは「加速化」という言葉で表現するのである。本講義は、我々が生きる後期近代社会の状況を「加速化」というキーワードのもとで理論的に分析し、批判的に思考する能力を身に着けるための場としたい。

また今回扱う文献は、ローザの「加速化」の議論をベースに何名かの社会学者などが批判的に検討した、学術誌の特集を扱うものである。今後、卒業論文などの人文 - 社会科学的な研究に際して、ある概念の様々な解釈の可能性を考慮し、それらを比較検討しながら自らの思考を批判的に彫琢するためのトレーニングするための機会ともなるだろう。

なお、講義の進め方は、初回の講義時に担当を決め、その後、個人もしくはチームで（この点は履修者数に応じて決定する）担当箇所を可能な限り厳密に翻訳を行う（輪読形式）。また中間考察においては、翻訳の原稿をベースに議論し、内容に踏み込んで議論する。そして最終討論において、社会的加速化理論に関する各自の論評を報告してもらう。

そして、最終的に履修者にこの「社会的加速化」に関する論評をレポートという形にまとめてもらい、それによって成績評価を行う。

授業の到達目標

1. 英語文献を精読し、適切に文意を把握し、それを正確な日本語にて表現できるようになること。
2. 加速化に関する現在の潮流を把握し、比較的新しい海外の理論的トピックについて理解すること。
3. 「加速化」というこの社会分析が優れている点と批判すべき点を、自分の観点から検討し、指摘することができること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　下記の提出課題によって成績評価を行う。 ①第1回にて割り当てられた箇所の翻訳　②ローザの社会的

加速化に関する書評レポート　①の課題は、適切な日本語表現によって翻訳ができているか、社会学の専門用語を適切に翻訳することができているか、を評価基準とする。 ②の課題は、社会的加速化理論についてある程度説得力のある解釈を形成することができているか、またこの理論に対して他者の論評を踏まえて、批判的に検討できているか、を評価基準とする。
●**平常点**　40%　　本講義では、講読時および中間考察、最終討論における積極的な議論への参加を重視する。 また、自らの報告担当以外の際に、十分な予習がなされていると発言を通じて判断できる場合には、これに高い評価を与える。
●**その他**　0%

科 目 名	**教育学概論1**　教育思想の諸相と歴史的展望							
担当者名	梅本　洋							
教育コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
本科目は、著名な教育思想家や教育家が人間と教育に関してどのようなことを考えたのかを探り、教育の理念と思想にかかわる諸問題を取り扱う。具体的には、西洋の教育思想に限定して、特に有名な人物や影響力の大きい人物として、ソクラテス、プラトン、コメニウス、ルソー、フレーベル、デューイ、イリイチをとりあげ、教育や人間形成に関するそれぞれの基本的発想の特徴や今日的意義を論ずるとともに、その限界についても検討を加える。
古代ギリシャのソクラテスから現代のイリイチまでを時代を追ってとりあげることを通じて、教育に対する歴史的な展望も合わせて行い、さらに教育の背景としての社会的・制度的要因にも適宜触れることとする。

授業の到達目標
さまざまな教育思想を学ぶことによって、教育の理念についての理解を深め、教育の歴史的展開の背景である社会的・制度的要因の重要性を把握することが授業の到達目標である。

成績評価方法
●**試験**　70%　　基本的には試験（論述式）の評点によって成績評価をおこなう。試験の評点が、AとBの中間といった場合には、出席状況などの平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　上の試験の評価基準を参照のこと。
●**その他**　0%　　その他として記載する事項はない。

科 目 名	**教育制度論**　教育学概論2							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
本講義は、広範な領域をカバーする教育学全体の概論として、特に制度面に関する領域の概論として位置づけられる科目である。特に「公教育」概念を理解してもらうために、現在の教育改革の進捗状況を確認するために、毎回の授業では論点を1つ設定し、関連する議論や情報を組み合わせて説明する。合わせて、主に教員免許取得を希望する学生にとって履修が必要とされている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」について理解し修得することを主たる目的とする講義を実施することで、単に免許取得のためだけでなく「教育・教育学とは何か」という教育学の原点となる課題を考察する機会となる授業として構成されている。日本の現状を表層的な評論ではなく、深く理解するために歴史的な視点及び国際比較的な観点も踏まえて講義を進める。

授業の到達目標
(1)教育に関する社会的事項として、現在の教育危機と呼ばれる状況を把握し、教育改革の状況を説明できる。
(2)教育に関する制度的事項として、学校教育の現在・実情を理解し、課題を説明できる。
(3)教育に関する制度的事項として、公教育の意義と課題について自分の言葉で説明できる。
(4)教育に関する経営的事項として、学校経営の視点を理解し、現在の課題を説明できる。

成績評価方法
●**試験**　80%　　試験は定期試験期間内に実施し、教育の制度的・経営的・社会的事項に関する個別知識を問う短答問題に4割程度、総合形式の論述問題に6割程度を按分して出題する。
●**レポート**　15%　　毎回の授業終了時に提出してもらう小レポートで評価する。
●**平常点**　5%　　授業内での各種作業に対する主体的な参加状況に基づき評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL
(1)本講義は教育学概論1と合わせて履修することが望ましい。特に教職課程を履修する場合は注意すること。(2)評価方法の詳細については、第1回講義で説明する。(3)オンデマンド形式での講義を提供する場合がある。(4)授業計画は国内の教育改革の進捗状況に応じて一部修正される可能性があるので、秋学期科目登録の際にコースナビの当該欄で変更の有無を確認すること。
■オンデマンド授業受講環境（以下のURLで確認してください） http://www.waseda.jp/dlc/on-demand/2012.html
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。
関連URL: http://www.f.waseda.jp/okikiyo/index.html

科 目 名	**教育哲学**　人間の特性と人間形成の可能性							
担当者名	梅本　洋							
教育コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
人間の教育に関する探究はさまざまなレヴェルで展開されているが、本科目では、まず巨視的に人間を他の動物との対比においてとらえることを通じて人間の特異性に着目し、その特異性との関連で人間にとっての教育の意義を探ることにしたい。その

際、具体的には人間の自己家畜化に関する自然人類学の往年の学説やA. ポルトマンによる有名な人間の新生児に関する生理的早産説などにも言及しつつ、人間の生活環境が文化的に多様な歴史的社会であることと人間における教育の意義とが不可分である事実を明らかにする。

教育を考えてゆくにあたってこのように環境はきわめて重要な要因である点にかんがみて、人間にとって環境とは何であるのかという問題を次にとりあげる。さらには、それとの関連で、遺伝か環境かをめぐる古くからの論争にも論及し、分子レベルで特定の遺伝子に焦点をあてつつ遺伝と環境の相互作用を探る近年の先端的な研究にも触れる。

教育は学習を前提としつつも学習とは別個の営為である。この点に関しては概念的混乱が生じやすい。そこで次に教育概念の問題をとりあげて、特に教育概念の多様性に留意しつつ概念分析を行う。そして、この概念分析をふまえて、教育行為の顕著な特性としてその試行的性格をきわだたせることにしたい。そのうえで、最後に、カリキュラムの構成と教育資源の配分に関する事例をとりあげて、教育における価値や規範にかかわる問題に論及する。その際、ロールズの正義論の問題も取り上げる。

授業の到達目標

教育を通じて人間の特異性を学ぶとともに、教育行為の際立った特性を理解し、教育における価値や規範の問題の重要性を実感すること、および、人間形成における遺伝と環境の意義や教育概念の多様性について基本的な論点を整理することが授業の到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　70%　　基本的には試験（論述式）の評点によって成績評価をおこなう。試験の評点が、AとBの中間といった場合には、出席状況などの平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　上の試験の評価基準を参照のこと。
●**その他**　0%　　その他として記載する事項はない。

科 目 名	**教育史学**　中等教育問題の歴史的研究–イギリスと日本							
担当者名	細金　恒男							
教育コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦後（第二次世界大戦後）の日本とイギリスの教育の変化の跡を、ときどきの社会・経済・政治の変動とかかわらせながらたどってみたい。

二つの国の戦後教育のあゆみを全体的にとりあげることはできないので、考察の対象は、中等教育とその周辺の歴史に主として絞られる（必要があれば、戦前の歴史にさかのぼることもある）。それとて、戦後の中等教育にかかわる政策とシステムの変転の表層をなぞる程度のものではあるけれど、近代国家がその社会統合上の難題としてかかえ、つねに地域政治の争点でもあり続けてきた中等教育問題の歴史をふり返ることによって、教育と社会・経済・政治の関係史を描くひとつの試みとしたい。

授業の到達目標

教育と社会・経済・政治の関係について、歴史的な視野からの理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　前後2回にわたって、講義内容の理解度を確認するレポートを提出してもらう。1度目は日本編講義終了後、2度目はイギリス編講義終了後に一定期間をおいて、それぞれ2000字程度のレポートを予定している。
●**平常点**　50%　　出席状況を評価する
●**その他**　0%

科 目 名	**学校教育学**　地域と学校							
担当者名	細金　恒男							
教育コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

子ども・若者の成長と、教育の存続にとって、〈地域〉のささえが大事であるということに関しては、おそらく誰にとっても異論がない。しかし、そこでいう〈地域〉とはどのような意味をもつのか、あるいは教育の存続や人間の成長をささえる〈地域〉とはいったいどのような要件からなるのかということについて、共通理解があるわけではない。

戦後日本の地域史にはつねに、近代化、工業化を普遍的価値とみて開発を進める側と、風土と民衆の生業のもつ個性的価値をまもろうとする側との相克があった。「開発」や「近代化」の必要を唱える中央や支配層の側からみた〈地域〉とは、経済成長のための「対象」「手段」としかみなされてこなかった。戦後日本の学校もまた、「近代化」の先鋒をになわされたため、〈地域〉とは学校教育をささえる「条件」か、啓蒙の「対象」としてしかみなされてこなかった。

これにたいして、民衆のことばとして〈地域〉を掲げてきた人びとの論理には、自然と人間と文化とが融合された土着の響きがあり、その個性ある自然と人間と文化とからなる「価値としての地域」を断固としてまもり育てようとする気迫がある。自然と人との結びつきは、生業としての農によってまもられ、そこから文化が紡がれてきた。そうした維持可能な地域づくりのうえに教育を築くことが求められている。

上記の観点を持ちながら、この講義では、戦後日本の〈地域と学校〉の関係について再検討する。

なお筆者は、東日本大震災と原発事故以来、福島県相馬・双葉地域の避難自治体と避難先で再開された学校への調査をつづけてきている。原発避難が地域と学校の営みにもたらした困難と、その困難に立ち向かい苦闘をつづけているさまざまな人びとの姿を、本年度の講義のなかでも紹介していきたいと考えている。

授業の到達目標

講義全編をつうじて伝えたいメッセージを一言で表せば、「地域あっての学校、学校あっての地域」という思いである。都市に住む人間の感覚からは縁遠いかもしれないが、とりわけ農山村社会に息づいてきたこのことばの含意を理解してもらえればと思う。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　講義内容の理解度を確認するためのレポートを学期末に提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席状況を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	**社会教育学**　現代社会と社会教育の役割							
担当者名	村田　晶子							
教育コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

第二次大戦後の民主主義社会の形成は、社会を構成する判断主体、法を作る主体を育てることが鍵であった。社会教育法立法当時の社会教育課長寺中作雄は、社会教育とは「国民の自己教育・相互教育」なのだといった。今日、人々の生活の基盤である地域コミュニティの崩壊に直面し、若者や女性の貧困、格差社会、少子高齢化、様々な災害は、私たちに人と人との豊かな関係とそれを支える学びあうコミュニティの創造を求めている。知識基盤社会の形成と地域のコミュニティの再生のキーワードは「学びあうコミュニテイを培う」ことにある。

日本社会が培ってきた社会教育の理論、各種の社会教育実践に学ぶ。具体的には、公民館、博物館等の施設、生活記録運動や識字、夜間中学運動、女性問題学習等をとりあげ、それらに内在するおとなの学びの価値やその方法論が意味することを教育学の課題としてとりあげていく。

授業の到達目標

社会教育、生涯学習、成人教育理論の基礎を学ぶ。
日本における社会教育実践について学ぶ。
おとなになってから学ぶことの意味や価値について考える機会を持つ。

成績評価方法

●**試験**　50%　　社会教育、成人教育に関する基礎的認識の構築
●**レポート**　20%　　中間レポートの提出
●**平常点**　30%　　出席
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	**比較・国際教育学（教育改革の視点とその方策）**							
担当者名	山西　優二							
教育コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

比較教育または比較教育学とは、比較研究や外国研究を通して、自他の教育の特性を把握し、教育の法則性・規則性を探究し、国内外の教育改革に寄与・貢献することをねらいとする研究領域である。また最近では、いわゆる国際化・グローバル化が進展する中で、異文化にまたがって生きる子どもたちにとっての教育のあり方や地域での多文化化・多言語化への対応、開発問題・環境問題・人権問題・民族紛争などの地球的諸問題の解決をめざす教育のあり方などを問う国際教育という領域を含めて、比較・国際教育学と称せられることもある。

本授業では、このような比較・国際教育学的立場から、近代以降、特に戦後にみる世界の教育改革の動向を読み解きつつ、各論として、識字・生涯教育などのテーマをとり上げ、具体的に教育改革の視点やその実現に向けての課題・方策について論じることを目的としている。

授業の到達目標

本授業は、単に知識を獲得することではなく、参加者が世界の教育改革の動向を読み取る力と、識字・生涯教育などの具体的テーマに即して、教育改革への具体的な視点や方策を提示できる力を身につけることを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　80%　　中間教場レポート・最終提出レポート
●**平常点**　20%　　授業参加
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

この授業は講義科目であるため、講義という形態を基本的にはとるが、可能な限り、討議型、対話型で授業を進めたいと考えている。授業に積極的に参加できる学生の受講を望む。なおこの授業は、同時間帯の秋期科目と関連づけて展開するため、履修者は、文化構想学部の「国際教育論-国際化・グローバル化と教育-」を履修することが望ましい。

科 目 名	**教育法・教育行政**　実践的教育法学と教育行政							
担当者名	喜多　明人							
教育コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、主に以下の二つのテーマからアプローチしていきます。
（1）　子どもの安心して生きる権利と教育法・教育行政
いま、学校は、「不審者」問題や、いじめ・虐待、学校災害などの子ども問題に対応することが緊急の課題になっています。学校が十分な教育活動を展開していくためには、子どもが安心して生き、学べる条件を確保しなければなりません。学校の安全、安心の問題を法制度・実態レベルで検討し、学校の福祉的支援のあり方にせまります。
（2）　教育の国家管理主義政策と教育法・教育行政
国・教育行政レベルで現在進行している重要な教育の国家管理主義政策、とくに教育内容・教員・学校の管理主義政策（学力テスト、教員免許更新制度、教員の階層化、厳罰主義）などについて、教師の教育権、学校自治など教育法学の見地から検討していきます。

授業の到達目標

この講義では、現実に動いている子ども問題、社会状況の中で、これに対応した教育改革のあり方、教育法制度、教育・子ども政策上の課題に迫ることをねらいとし、必要な知見をもつことを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	**教育福祉論**　教育福祉と子ども・若者の育つ権利							
担当者名	阿比留　久美							
教育コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

人は家庭・学校・地域・制度といった社会のあらゆる影響を受けながら育っていくが、みずからの生きる環境の選択権をもちづらい子ども期は特にその影響が大きい。

子ども・若者に対する社会的支援のあり方は、「教育」「福祉」「文化」「司法」といった領域ごとにわかれ、制度間の分断や連携の貧弱さによって「制度の谷間」にいる子ども・若者への支援が十分におこなわれないという問題が存在している。

そのような「制度の谷間」に発生している子ども・若者の育ちの困難を考えていくための視点を教育福祉の観点から検討していく。

授業の到達目標

・教育・福祉現場をはじめとした子どもや若者にかかわる場所で、子ども・若者にかかわる際の視野を広げ、領域横断的に子ども・若者の育ちをとらえられるようになる。
・子ども観・人間観を豊かにする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容について筆記試験を実施する。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　50%　　毎週授業終了後に、レビューシートへの記入を各自おこなっていく。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	**特殊教育学**　特別支援教育・特別ニーズ教育の基本理解は21世紀に生きる市民の教養							
担当者名	高橋　智							
教育コース	2単位	春学期	土曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

特別支援教育・特別ニーズ教育の基本理解は、教育の専門家だけではなく、21世紀に生きる市民に不可欠の教養である。特別支援教育・特別ニーズ教育の問題の検討を通して、多様な市民の人権と発達が保障される多文化協同・インクルージョン社会のあり方を考えていく。

障害・特別ニーズを有する子どもの脳研究・認知神経科学・リハビリテーションに関する最新の知識・情報、障害・特別ニーズを有する子どもの発達の可塑性・再生力の理解、特別支援教育・特別ニーズ教育の基本的システムや北欧を中心とした国際動向、障害・特別ニーズを有する当事者調査研究にもとづいた支援方法などについて、講義担当者のこれまでの当事者調査研究、児童発達支援センター・子ども家庭支援センター・少年院等における発達相談、小・中・高校における巡回指導・教育相談・アクションリサーチ、少年院・少年鑑別所・保護観察所の矯正機関におけるインタビュー調査、北欧の特別ケアの調査研究にもとづいて講義を行う。

授業の到達目標

特別支援教育・特別ニーズ教育の基本理解は、教育の専門家だけではなく、21世紀に生きる市民に不可欠の教養である。特別支援教育・特別ニーズ教育の問題の検討を通して、多様な市民の人権と発達が保障される多文化協同・インクルージョン社会のあり方を考えていく。また障害・特別ニーズを有する子どもは「発達の可塑性・再生力」を有しており、当事者のニーズにもとづいた「最善の発達支援によって顕著に発達する」ことを理解していく。

成績評価方法

●**試験**　30%　　第15回目の講義時間中において試験を実施して、理解度の確認を行う。試験を受けない場合には評価の対象外である。
●**レポート**　30%　　講義内容を踏まえた課題テーマについて4000字以上のレポートを作成し、講義最終日に提出する。レポートを提出しない場合には評価の対象外である。
●**平常点**　20%　　講義の出席状況および受講態度（遅刻・中途退出・スマホいじりは論外）にもとづいて評価する。
●**その他**　20%　　特別支援学校の学校公開への参加と参加レポートの提出にもとづいて評価する。レポートを提出しない場合には評価の対象外である。

備考・関連URL

受講者の中には、東京学芸大学大学院（修士課程・博士課程）や特別専攻科（1年課程）に進学して、当該分野の教師や研究者の道に進む方もいる。 講義担当者は早稲田大学第一文学部教育学専攻卒業OB、現在、東京学芸大学特別支援科学講座教授。博士（教育学）。専門は特別ニーズ教育学、具体的には発達障害・知的障害を中心とした当事者調査研究、社会的養護・矯正教育と特別ニーズ教育、北欧の特別ニーズ教育、日本特別教育史などの研究に取り組んでいる。毎年、北欧諸国（スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、アイスランド）に調査・学術交流のために出かけている。

現在の主な学界・社会活動として、日本ニーズ教育学会代表理事、日本特殊教育学会理事のほか、法務省矯正局外部アドバイザー、放送大学客員教授、日本大学客員教授、小金井市地域自立支援協議会会長、小金井市児童発達支援センター運営協議会会長、国分寺市立こどもの発達センター発達相談員などを務めている。

科 目 名	教育とジェンダー							
担当者名	近藤　牧子							
教育コース	２単位	春学期	水曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、社会的・文化的性差であるジェンダーの形成過程とその問題点および課題解決に向けての道筋を主として教育という観点から受講生と共に考えていく。

受講生自身の中にある、そして身近にとりまく「ジェンダー」を意識化していくために、ディスカッションやアクティビティを交え、「性別二元制」のもとにある「差異」「境界線」などを問う。フェミニズム運動が獲得しようとしてきたことや、性暴力を含む女性問題を捉えつつ、男性学にもふれる。そのうえで日本の教育の歴史をたどっていく。明治以降、男女別学体制が形成されていく過程とその背景、および女子に対する良妻賢母主義教育について考えるとともに、現代との連続性を考える。次いで、戦後の憲法改正および男女共学の実施、新しい家庭科の出発から高校における女子のみ必修、さらに男女共修にいたる過程、性的マイノリティに関する教育現場の対応、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツについて考えていく。そして、現代のジェンダーの問題に取り組む教育実践について考え、主として女性・男性を取り巻く様々な問題・新たな国際的動向について共に考えていく。

以上を通じて、新たな男女の関係に基づく社会を作り出していく手がかりを得ることを目指したい。

授業の到達目標

①ジェンダーに敏感な視点から物事を考える力を養う。
②自分の女性・男性としての生き方を考える。
③性やジェンダーを学ぶことの重要性を理解する。
④国際的比較の中から日本のジェンダー平等への取り組みの程度を知る。

成績評価方法

●**試験**　40%　　事前に問題を提示し（4問程度を予定）、試験当日は持ち込み不可の形で行う。欠席が5回を超えた場合は試験を受けることはできない。
●**レポート**　20%　　個人レポートをグループで相互評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況およびレビューシートの提出、授業への参加度。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

インタラクティブに授業を行う予定であるため、受講生の積極的な姿勢を望む。

科 目 名	教育・学校心理学　教育現場で用いる心理学の基礎							
担当者名	藤野　京子							
教育コース	２単位	春学期	火曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

学校での教育場面において、教師が習得していると役立つと思われる心理学の基礎知識を学習する。具体的には、思春期・青年期までの発達過程（感情・認知・社会性の各領域での発達のほか、教育と発達の関係を含む）、学習（動機づけ、学習の過程、教授法を含む）、学校内で繰り広げられる対人関係（教師と生徒との関係、生徒同士の関係を含む）、生徒にとって有意義な学校のあり方、適切な教育評価の仕方について、その基本を学ぶ。加えて、教育現場において生じる問題及びその背景を考察し、さらに、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について検討する。

授業の到達目標

乳幼児期から青年期までの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する。
乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する。
様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。
心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
教育現場で生じやすい問題への防止及び必要な支援について理解する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業で扱った内容をどの程度理解できているかを評価対象とします。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　20%　　各回提出を求めるコメントシートの記載内容を評価対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	教職論							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	２単位	春学期	月曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、教職に就くということについて多様な観点から考察し、学生自身の教職への意欲を確認し、その適性を自ら考え、進路を判断するために必要となる知識を提供することを目的とする。また、教員養成の世界的動向や今後の教員養成システム改革の動向も踏まえつつ、現代社会における教職および教員養成の重要性とそれに伴う社会的評価・責任を理解し、教職の職務の多様性、およびキャリアとしての教職の独自性に関する理解を受講生が深められることを目指して、「教職の制度論的・教師論的探求」「教職の社会学的探求」「直面する課題と希望」の三部構成で講義を展開し、適宜受講生相互のペアワーク、グループワークで理解を深める。

授業の到達目標

（1）教職の意義、教員の役割、教員の職務内容に関する法制、国内外の教員養成や教職に関する改革動向などの知識を獲得す

る。
（2）教職希望者が現状において教員が抱えている課題を理解し、説明できる。
（3）教職を将来の選択肢にすることの希望を抱き、多様な課題に対応する覚悟を育む。
（4）教職の意義に関する知識に基づいて一定の分量・水準の文章をまとめる力量を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容について重要な知識が獲得できているか（4割）、および教職をめぐる課題について論理的に文章をかけるか（6割）を定期試験で確認します。
●**レポート**　20%　　GW明けに800字程度の感想文を提出してもらう予定です。詳細については第1回の講義で説明します。
●**平常点**　10%　　授業での作業等に対する主体的・積極的な参加状況を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

（1）本科目は教職履修の入門的性格を有しています。履修登録前に資格科目に関する手引きなどでこの科目の位置づけ、内容についての説明を把握しておくと良いでしょう。（2）出席が求められる回数の3分の1以上の欠席がある場合には、単位は認定されません。また故なき遅刻は平常点に反映されます。（3）この授業に関する情報は適宜、コースナビ経由でお知らせします。メールをきちんと受信し、内容を確認する習慣をつけておいてください。（4）本科目は一部の授業をオンデマンドコンテンツで提供する場合があります。第1回の授業時に説明します。この科目のオンデマンドコンテンツには、一部Mac環境で再生できないものが含まれています。
関連URL: http://www.f.waseda.jp/okikiyo/index.html

科 目 名	**生涯学習概論1**　教育と学習の問い直し							
担当者名	古市　将樹							
教育コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

生涯学習という言葉が使われるようになってから久しいが、一般的にその理解が進んでいるかどうかは疑わしい。もともとユネスコで提唱された生涯教育の考えにもとづく生涯学習構想は、日本の教育の組み直しを図るものであったが、それは制度的な改変のみを意味するのではない。生涯学習の考え方には、その目的、内容、方法他、学校教育とは異なる教育や学習のあり方が示される。つまり生涯学習は学校教育中心的な教育観の転換を迫るものであり得るはずであった。ところが、そうした理解が進んでいないのは、未だに学校教育中心的な教育観が根強く残り、さらに、実際に社会的に機能しているからでもあろう。この授業では、生涯学習が求められるようになった現在の教育や学習の諸問題を視野に入れるために、日本における〈教育〉の誕生から現在のそれが形成されてきた過程を、主に、明治期から1980年代までの歴史にそってみていくことで、現在的な教育観の基盤を確認する。特に、それにあたっては、学校教育とならんで、教育の大きな領域である社会教育についての基礎的な理解をすすめていく。なお、社会教育全般においてはもちろんのこと、特に、授業予定の自由大学運動には、文化構想・文学部のDPにある文化や学問の交流の具体的なあり方を看取できる授業を意識するつもりである。

授業の到達目標

日本における教育・学習の変遷についての受講者の理解の深まりに基づいて、教育や学習のあり方を分析・評価できること。さらに、受講者自身の教育・学習観を見直し、今後の教育や学習のあり方を創案できることが最終的な目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　80%　　平常点と合わせて最低基準（60%）以上を合格とする。
●**平常点**　20%　　出席状況と提出物の状況。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は秋期の生涯学習概論2と連続しているため、受講者は、可能な限り、ぜひそちらもあわせて受講してもらいたい。
なお、使用する資料の都合、および受講者の人数によっては、シラバスの順番・内容に変更の可能性があることを承知願いたい。

科 目 名	**生涯学習概論2**　教育・学習の問い直し							
担当者名	古市　将樹							
教育コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、1960年代以降、生涯学習の考え方が登場した経緯を、特に、ちょうどその時期にさかんに論じられた学校教育批判の各論とともに確認する。もともと生涯学習の考え方には、従来の学校教育への批判の観点が含まれていた。しかしながら、日本の生涯学習においては、そこからの学校教育の大きな見直しが実際に行われてきたとはいいにくい。それどころか、生涯学習は、学校教育的な教育観から位置づけられているところも見受けられる。と同時に、生涯学習では、学校教育的な教育／学習の枠に収まりきらない実践も行われている。そこで、生涯学習を考えるにあたって、近代学校教育批判の各論や、実践からふり返っての、その問題点と先駆性の両方を考えていきたい。また、教育の現代的課題、特に、近年主題化してきた、「教育における他者」の問題に注目し、その観点からの、現行の生涯学習の検討もおこなう。そして、後半では、講義内容をふまえて生涯学習の講座を企画・立案するワークショップをおこなう予定にしている。また、そのときのテーマは、DPにある学問・文化・言語・価値観などに関係するものを予定している。
なお本授業は、一部オンデマンドのハイブリッド型でおこなう（下記備考欄注意）。

授業の到達目標

近代学校批判の各論を乗り越え、教育の現代的課題を踏まえながら、今後の生涯学習のあり方を考案・創案できること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　60%　　平常点と合わせて最低基準（60%）以上を合格とする。

●**平常点**　40%　　出席状況と提出物の状況による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は春期の生涯学習概論1から連続しているため、受講者は、可能な限り、ぜひそちらもあわせて受講してもらいたい。
繰り返しになるが、本授業はハイブリッド型（4回分を予定）でおこなう。オンデマンドのスケジュールに注意すること。スケジュールは第1回のガイダンスの時に確認する。
なお、招聘講師による特別授業も計画しており、その都合によって、また、受講者の人数によって、シラバスの順番や内容（特にワークショップに関して）に変更があり得ることを承知願いたい。

科目名	学校教育改革と社会変容							
担当者名	岡田　聡志							
教育コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

本授業では、学校教育改革の中でも高等教育に焦点を当てて、現代の大学に関する問題や論争を端緒に、教育理論や教育に対するアプローチについて学習を進めます。
「大学生」という当事者として身近な問題群から、実践領域と教育をはじめとする様々な理論との関係性やアカデミックなアプローチのあり方について学習することにより、経験論や居酒屋談義とは異なるより客観的・全体的な視点から教育問題を考え、議論することが出来るようになることを目標とします。
授業の主な進め方としては、2回の授業に渡って大学教育に関連する論争的なテーマを指定し、テーマに関連する文献や資料を読み込み、その知見をもとにグループ・ディスカッション等を実施して意見を交換・共有することにより、教育についての確かな知識に基づいた自分の考えを構築し、より深い議論ができることを目指します。

授業の到達目標

本授業の履修を通じて、学生は以下のことができるようになることを目標とします。
（1）教育問題やその論争の背景にある教育に関連する理論や概念枠組みを理解する。
（2）教育問題に対するアカデミックなアプローチのあり方を理解する。
（3）自分とは異なる意見を踏まえ、より客観的・学術的な視点から自分の考えを主張することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　40%　　2000字以上のレポート課題を設定します。 なお、レポートについては7月上旬に一度提出し、返却されたレポートの指摘事項等を修正した上で期末にもう一度提出するという二回提出方式で実施する予定です。
●**平常点**　60%　　各回の授業における提出物と参加の度合い（プレゼンテーションやディスカッション等）を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	日本語日本文学研究1（上代文学）『古事記』の神話を読む							
担当者名	松本　直樹							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

『古事記』は和銅5年に成立したとされる大和王権国家の史書である。その上巻は、「神代」（かむよ）の記事であって、一般に「神話」と呼ばれる神々の物語によって構成されている。イザナキ・イザナミの国生み、オホクニヌシとイナバノシロウサギ、アマテラスのイハヤ籠もりなど馴染み深い話も多い。
『古事記』の「神話」は、大和王権の天下統治権の由来と正当性を説くという極めて政治色の濃い主題のもとに編纂されたものであり、天地創成から初代神武天皇の誕生までを歴史的時間軸に沿う形で叙述しており、民間に伝承され、共同体社会を形成、維持していた純粋な神話ではない。ただ、その素材には、世界の諸民族の神話とも共通する型を持つ、本来の神話があったと思われる。たとえば、スサノヲのヲロチ退治は、世界中にみられるペルセウス・アンドロメダ型神話であって、そこには世界の諸民族に共通する自然と人間と祭りに関する古代的思想を読み取ることができるが、『古事記』においては、皇祖アマテラスの実弟であるスサノヲによる国土の秩序化などの意味を担わされていると思われる。
歴史学・比較神話学・民俗学など周辺諸分野の学問の成果をとりいれながら、『古事記』の「神話」を立体的にみてゆきたい。

授業の到達目標

『古事記』を読むことを通して、神話の本質を理解し、合わせて国家の成り立ち、「日本文化」の形成過程などを考える。

成績評価方法

学期末試験85%程度
出席状況・授業への参加態度などの平常点15%程度
なお、授業回数の3分の2以上の出席を単位認定の必須条件とする。

備考・関連URL

初めの授業で、『古事記』についての丁寧な解説を行うので、初めて本格的に『古事記』を読む学生も安心して受講してほしい。
授業の性格上、続けて欠席すると内容がつかみづらくなるので、努めて出席して欲しい。

科目名	日本語日本文学研究2（中古文学）　空海の文学							
担当者名	河野　貴美子							
日文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

空海の『三教指帰』を読む。遣唐使に随って唐に渡った空海は、当時最先端の中国の学問・思想・文化を学び伝えた、奈良末・平安初期における一流の知識人である。この授業では、漢文による著述に熟達した空海の作品の講読を通して、日本文学史・文

化史における空海の著作の意義を考えるとともに、古代日本において中国文化の受容がいかに行われ、日本の漢文作品がいかにして生み出されたのか、古代の知の世界を見ていきたい。授業では、空海の人と時代などについて概観した後、『三教指帰』を読み進める。『三教指帰』は、登場人物の言葉をかりて、空海が儒教、道教、仏教の何たるかを説き、またそれら三教に対する自らの考えを述べていくものである。まずは序文から始め、巻上・亀毛先生論（儒教の立場）、巻中・虚亡隠士論（道教の立場）、巻下・仮名乞児論（仏教の立場）の中から幾つかの場面、段落を選び読んでいく。対象が漢文であるため、日本のみならず中国の文献にもしばしば触れることになろうが、漢文を扱う際の基本的な工具書なども適宜紹介しながら進めていきたい。

授業の到達目標

日本古代の漢文学への理解を深め、漢文の読解に必要な基本的知識を身につけることを目指す。

成績評価方法

- **試験** 50%　理解度の確認
- **レポート** 0%　行わない
- **平常点** 50%　授業への参加状況
- **その他** 0%　なし

科目名	日本語日本文学研究3（中世文学） 中世私家集への展開							
担当者名	兼築　信行							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

中世への和歌の展開を、私家集の歴史から考究する。和歌を集めて編集したテクストが歌集だが、それは、さまざま歌人の作を編した撰集（天皇または上皇の命で作られた勅撰集と、それ以外の私撰集に分かつ）と、原則として個人の単位で詠作を編した家集（私家集）に分類される。私家集は、すでに万葉時代からその存在が知られるが、平安期以降さまざまな形態の集が編まれた。これを巨視的に検討することで、それぞれの時代の和歌的状況を把握することが可能となる。本講義では、特に12世紀以降の、中世前期の私家集への展開に焦点を当てながら、そうした問題を考察する。

ハンドアウトは毎回、事前にCourse N@viにアップする。これを事前に読んでおくこと。また専門性が高い講義なので、相応の復習を要する。事前、事後の学習に90〜120分を要するか。

授業の到達目標

和歌ならびに私家集の歴史と展開について知識を獲得し、その意義について理解する。

成績評価方法

- **試験** 80%　第15回に理解度の確認のクイズを行う。
- **レポート** 0%　該当なし。
- **平常点** 20%　出欠を評価する。
- **その他** 0%　該当なし。

科目名	日本語日本文学研究4（近世文学） 井原西鶴以降の浮世草子の展開							
担当者名	長谷川　正江							
日文コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

浮世草子が井原西鶴を出発点としていることは周知の事実である。西鶴の功績が多大であることは認めるとしても、西鶴以降の浮世草子は、八文字屋本を始めとして西鶴の亜流・模倣・剽窃に過ぎないといった否定的な評価が長く続いてきた。本講義ではそうした通説を見直し、浮世草子研究の新たな可能性を考察する。

近世小説史を概観した場合、浮世草子の果たした役割は、大別して2点ある。ひとつは、小説技巧・趣向の進化を促した点である。もうひとつは、“浮世”つまり現実の風俗に密着する新鮮な情報を採り込む時事小説の作風を確立した点である。浮世草子作者の生きた近世中期の多様な時代状況に対して、理解を深めることに努めたい。

授業の到達目標

・日本近世文学史における浮世草子の意義を理解し、的確に説明できるようになる。

・くずし字や変体仮名に接することで、未翻刻の作品を原典から読解できるようになる。

・近世の庶民生活や社会状況を現代と比較して追究できるようになる。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 70%　概略は最初の授業時に、詳細は最終授業時に説明する。
- **平常点** 10%　影印を読解する際の積極性など。
- **その他** 20%　リアクションペーパーの内容・着眼点。

科目名	日本語日本文学研究5（近代文学） 昭和期の文学・文化研究							
担当者名	鳥羽　耕史							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

1920年代から80年代にかけての「昭和」の時代は、出版メディアが大きく成長したのみならず、演劇、映画、放送などのメディアも発達した時代である。この時期の文学を研究するにあたっては、そうしたメディアに関する知識を身につけ、アーカイブを使いこなせるようになる必要がある。また、同時代の政治運動、芸術運動と文学の関わりについても、目配りができるようになってもらいたい。この授業では、作家や雑誌などの具体的な対象に即しながら、昭和期の文学・文化研究の諸問題を扱う。各自の研究テーマへの応用を考えながら参加してもらいたい。

授業の到達目標

昭和期の文学・文化の研究対象や方法を理解する。そうした知識をもとに、各自の研究テーマについて、自分なりの考察を表現できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業内容を理解して各自の研究テーマが論じられているか。
●**平常点**　30%　　毎回のコメントシートと、授業での議論への参加ができているか。
●**その他**　0%

科 目 名	日本語日本文学研究6（日本語学）　日本語の文章・文体と文法							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

文章とは、文の集合である。そのしくみを検討するのが文章論である。文体論とは、文学作品などのさまざまな文章の特性を分析するのが文体論である。したがって文章論と文体論は相互に関連している。最近、記述的な文法研究の進展に伴って、文法研究を応用した日本語の文章と文体についても一定の検討ができるようになってきた。ここでは、具体的な表現をとりあげながら、文章と文体を文法的観点から検討する。

まず、一般的な文章・文体の分析概念を検討し、詩や俳句などの韻文の分析、歌詞の分析、小説の分析などを行っていく。

授業の到達目標

日本語の文章と文体について、一定の知見と文法的な考え方を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　概念の理解、考え方の応用力
●**レポート**　10%　　自分なりの思考
●**平常点**　20%　　出席と積極的参加を重視します。授業中での近隣席とのディスカッションもします。
●**その他**　0%

科 目 名	日本語日本文学特論1　古典籍の書誌学							
担当者名	兼築　信行							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の古典籍、写本や版本を調査・研究するための基礎知識と、基本的な手順を習得する。この講義では、写本・版本を取り扱い、実際に調査を行う手順に従いながら、書誌学の基礎を講義する。日本語日本文学の領域、とくに前近代の資料を扱うために、こうした知識、スキルは必須の要件となる。

その内容は、伝本リストの作成、装丁、調査の準備と実施、調査記録の扱いといった項目となる。あくまでも具体的かつ実際的な内容を織り込みたい。

専門性が高い講義内容なので、事前の課題を出す場合がある。また、講義内容の復習にかなりの時間を要する。事前事後の学習に90～120分は要するか。

授業の到達目標

写本・版本の基本を理解するとともに、調査を実際に行い、書誌報告が書けるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回に理解度の確認を実施する。
●**レポート**　25%　　各自の関心に従い、任意の写本または版本を調査し、報告を提出する。
●**平常点**　25%　　出欠ならびに普段の課題への取り組みなどを評価する。
●**その他**　0%　　該当なし。

備考・関連URL

この科目を受講するためには、変体仮名・くずし字の読解能力を習得しておことが望ましい。変体仮名・くずし字が読めない人は、「くずし字を学ぶ」（フルオンデマンド／兼築信行・宗像和重担当）を受講し、あらかじめ読解力をつけておくことを勧めたい。

科 目 名	日本語日本文学特論2　文献学への招待―歴史・理論・実践的処理――							
担当者名	梅田　径							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

文献学とは、古典文学を素材として、現存する様々な異本を調査し、各書の適切な関係性を考える学問です。

日本近代の黎明と共に発達した文献学は、芳賀矢一、池田亀鑑、西下経一ら、優れた文献学者たちによって現在でも有効な方法論と、古典文学に対する固定化した観点を生み出してきました。現代においても有効とされる文献学の方法は、中国における校勘学とのかかわりや、古筆切や諸本探求の深化、系統学や文化情報学の発展によって改めて再評価されています。

この授業では、著名な文学作品を対象とした講義を中心とするセクションと、崩し字読解や文献評価を目的とするアクティブラーニングを中心としたセクションに分けて展開します。 様々な古典文学作品に関する文献学的な知識を涵養し、実践的な翻刻と文献比較の技術を課題をこなすことで習熟し、書誌文献学的な研究をするための基礎的な技能を習得することを目的とします。真面目に受けていれば、仮名だけではなく漢字を推定できるレベルにまで崩し字の読解力を得ることができるでしょう。

授業ではGoogleスライドを利用し、4回の課題の提出にはウェブアプリ「SLACK」を使います。スマートフォン、あるいは

PCの利用を推奨します。

成績は問題を提示したレポートの提出と、課題の提出によって行います。

授業の到達目標

この授業では、知識面と技能面において以下の達成目標を設定しています。

知識面―理解と態度
①文献学における基礎的な用語を理解し、説明できる。
②日本古典文学作品における近代以降の文献学上の成果を答えられる。
③貴重な典籍に対する敬意をもち、適切な取り扱い方法を理解している。
④博物館や美術館などに蔵される古典籍を観察し、その重要性や価値を把握できる。

技能面――読解と文献取り扱いの基礎。
①基本的な崩し字が読み翻刻ができる。
②影印・原本から序跋、奥書等の情報を読み取れる。
③基礎的な本文異同の調査、本文校訂ができる。
④本文異同や奥書の記載から系統分類を推定することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　比較的容易な崩し字読解を必要とする問題を解決するレポート課題を出します。文字数の制限はありませんが、提示された問題を解決できているかどうかを判断基準とします。出席が3分の2以下であった場合にはレポート点を0点とします。
●**平常点**　20%　　授業内の取り組みを課題とともに評価します。重篤な遅刻者は課題量が増えます。
●**その他**　30%　　授業内の取り組みを課題とともに評価します。早退は欠席扱い（理由があれば別）。遅刻は出席としますが課題量がとっても増えます。

備考・関連URL

①参考URL　【崩し字の検索】
『木簡画像データベース・木簡字典』『電子くずし字字典データベース』連携検索http://r-jiten.nabunken.go.jp/kensaku.php

【崩し字学習アプリ】
くずし字学習支援アプリKuLA iOS版
https://itunes.apple.com/jp/app/kuzushi-zi-xue-xi-zhi-yuanapurikula/id1076911000?l=en&mt=8

くずし字学習支援アプリKuLA Android版
https://play.google.com/store/apps/details?id=yuta.hashimoto.kula
②実習期間のやむをえない欠席、自然災害や列車遅延については若干配慮します。
③授業の感想などを書いてもらいますが、質疑はSLACKにおいて返答します。

科 目 名	日本語日本文学特論3　寺社縁起の世界――文学の地平〈文化・思想〉『清涼寺縁起絵巻』をよむ							
担当者名	小島　裕子							
日文コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

平安時代から室町時代にかけて制作された様々な絵巻の中に、寺院や神社の草創・沿革、霊験・利生などを物語る寺社の縁起絵巻がある。それらに描かれた宗教にまつわる文化や思想の諸相は、政治史を主とする歴史学や教学研究を主とする宗教学などのアプローチからは、ともすると零れ落ちてしまう歴史でもある。しかしそこには寺社の文化圏において確かに記憶すべき文化や思想が横たわっている。学問の地平を押し広げ、寺社縁起という物語化されたひとつの歴史的資料からそれらを掬い上げてゆくことは、言語による時代の所産を読み解いてゆく文学研究の担うべき一角であると考える。歴史・宗教（経典）・美術（仏像）・法会（唱導）などを含めた様々な分野の文献資料を用いながら、寺社縁起の絵とことばの世界の奥底に眠る豊穣な宗教史の一風景を繙いてみたい。

本講座では具体的に、「釈迦堂」の名で知られる嵯峨清涼寺の『清涼寺縁起絵巻』（『釈迦堂縁起』）を取り上げる。三国観のもと、天竺篇では巻一・巻二で仏伝（釈迦八相）を、巻三で優塡王釈迦如来造像の由来を、震旦編の巻四では中国に伝来した瑞像遷座の経緯を、本朝篇の巻五では奝然（ちょうねん）の本尊請来と清涼寺草創を、また巻六では以後の同寺の本尊の霊験譚が物語られる。後に「清涼寺式釈迦」と称する釈迦像の源となる仏像を本朝に請来し、清涼寺を開いた奝然の事蹟は東アジア仏教史において注目されるが、縁起絵巻はそれを如何に寺院草創と信仰の物語として描いたのか。各巻々に収められた種種（いろいろ）の物語を要約・紹介した上で、いくつかの視座を提示し、当該絵巻が生み出された背景を深く読み解いてゆく。

授業の到達目標

寺社縁起というテキストの特質・魅力を知り、講義で取り上げた清涼寺の寺社縁起から、注目する段を選び、要語注釈を経て、その先に独自の視座によって文化・思想の歴史の諸相を見いだすことをめざす。

成績評価方法

課題：20%　講義の三分の一（5回）経過前後に、受講者が関心をもつ段を一つ選び、指定（講義時に指示する）の活字資料から当該段を複写して手元に備える作業を行う。

レポート：60%　寺社縁起の読解。縁起のことばを通して、その背景にある文化・思想を見いだし、読み解くことができるかを評価の対象とする。形式については、講義で解説を加えた縁起の中から注目する段を選択し、要語注釈を経た上で小論を展開する。但し、独自の関心から三本以外の、たとえば概論で取り上げた縁起などからもレポートの対象を選択可能とする。

平常点：20%　講義の全体を満たす教科書や参考文献のない講義であるため、聴講することが自ずと第一の条件となること

を留意して出席するよう。

科 目 名	日本語日本文学特論4　速記本を読む							
担当者名	宮　信明							
日文コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

落語や講談の口演を速記技術によって筆録した速記本は、文字言語を前提としたジャンルとは異なる、独自の特徴を備えている。聴客とのコミュニケーションの痕跡を残しつつ、身体言語をも含め、口頭・音声言語を文字として定着させた速記本には、いささか淫靡で猥雑ながらも、飄々、溌溂とした魅力に溢れている。そこで本講義では、その魅力を味わいつつ、速記本を取り巻く様々な問題について考察する。なお、講義科目ではあるが、受講者には積極的な発言を求める。

授業の到達目標

速記本の基礎知識を理解するとともに、落語や講談などの舌耕芸能を調査・研究するために必要なスキルの習得を目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　講義内容の理解度を測る試験において60点満点で評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　積極的に授業に参加しているか、および出席票兼コメントカードの記載内容などを総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は2019年1月現在のものであり、履修者数等により若干の変更の可能性がある。

講義

科 目 名	神話と伝説の世界							
担当者名	松本　弘毅							
日文コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の上代文学に載る神話・伝説・伝承を見渡す。特に古事記・日本書紀を中心として扱い、その特徴を紹介していく。我が国の先人たちが考え、表現しようとしたものを捉えてみてほしい。

授業の到達目標

日本上代文学に見られる神話・伝説・伝承について、受講生各々が一定の知識を有し、その構造や構成について意見を持つことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末試験を課す。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　出席状況等を考慮に入れる。三分の二以上の出席は最低条件とする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

受講態度により、成績評価方法の割合の配分を変更する場合がある。

科 目 名	物語文学の世界　物語の受容と物語学（文法）							
担当者名	緑川　真知子							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

明治のお雇い外国人学者、バジル・ホール・チェンバレンは、『日本事物誌』の最終版（1939年）において、源氏物語を評して「最高峰」と讃えた。チェンバレンによってこの評価をなさしめた過程は単純ではないのであるが、源氏物語が外国人によってこのような高い評価を得たのは、なぜであろうか。平安朝を中心に繚乱したいわゆる物語文学はどのようなものであったのか。文学研究と文学理論が進展を遂げている現代社会から物語文学を見るときには多かれ少なかれそれらの理論を通して物語文学をみることになるが、そこに何が見えてくるであろうか。またそもそも現代の理論は有効であろうか。現代においては、一般には、例えば源氏物語などは、現代語に翻訳されたものや時には外国語に翻訳されたもの、または諸本を校訂し、注釈などを加えた校訂本文で読む。更には、ビジュアル化されたもので鑑賞することもある。ビジュアル化と言っても、源氏絵の歴史は古く、更には注釈の歴史もいわゆる「源氏学」と称されるが、本講座においては、このような源氏物語の受容史も踏まえ、いわばそれまでの物語の集大成でもあり、その後の物語の起点でもある源氏物語を中心的な素材として、大きくは古典とは何かという命題を念頭に、物語世界に切り込んでいきたい。

授業の到達目標

基本的には少しでも物語文学そのものに触れ、実際に読み、少なくとも文化遺産としての物語文学を一つぐらいは読了していただきたいと願うが、現代と生活習慣や倫理観などが異なる物語世界に少しでも近づき、王朝世界の感覚を捉えるために物語そのものの構造（物語の文法）を理論的な側面の助けを受けながら把握する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特に試験は行わない。
●**レポート**　50%　　授業最終日に行う小論文をもってレポートにかえる。
●**平常点**　40%　　時折、授業内容についてコースナビを使用して課題をだすので、必ずコースナビから返答を送ること。また短くても良いので、出来るだけ毎回、感想や気付いた点についてコースナビに書き込む事。
●**その他**　10%　　授業時の積極性など。

備考・関連URL

関連URLなどがある場合は、授業時に伝える。授業は大半は、パワーポイントのスライドを見ながら進める。

科 目 名	和歌文学の世界 『万葉集』を読む							
担当者名	土佐　秀里							
日文コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

講義名は「和歌文学の世界」であるが、本講では例年の慣行に従い、専ら『万葉集』を講読する。『古今和歌集』などについては参考程度に言及するにとどまるので、履修を検討する際にはその点に注意してもらいたい。また、作品講読を主とする講義であるので、テキストの購入・持参の意思のない者の受講は認めない。古典文法を理解し、自力で辞書を引き、現代語訳をつけることができる能力が最低限の受講資格となるので、現代語訳がないと内容が理解できない者の受講も認めない。これらの注意を無視して受講した結果の不合格に対しては何ら救済を講じないので、その点を認識して受講してもらいたい。『万葉集』については、誰もが「知っている」と呟く。しかしそれを本当に「読んだ」ことのある者は殆どいない。本講の主たる目的は、誰もが「読まずに」勝手なイメージを膨らませている虚妄のファンタスマゴリアに対して、ただ愚直に「読む」、という最高最善の対処法を施すことにある。従って大方の「文学史的常識」というものは通用しないことになろう。ただし、日本政治史・制度史についての最低限度の知識は必要であり、なおかつ先述した通り、最低限度の古代語の文法知識は必要である。こうした基礎知識とそれを習得する努力なくして「和歌文学の世界」を味到することはできない。

具体的な内容は授業計画の項目に譲るが、基本的に、『万葉集』の時代とその言語の特質を把握し、表現の形成過程を歴史的に辿ることが講義の中心となる。そのため、「歴史」と「言語」に対する関心と基礎知識が受講者に求められることになる。また漢字文である『万葉集』の特質に鑑み、漢詩文についての知識や、漢文訓読の基本的な知識も必要になる。

授業の到達目標

①日本古典文学の社会的存在意義を考え、認識できるようになる。
②日本の伝統文化に対して、科学的なアプローチが可能になる。
③文学を研究する方法とその意味について自覚することができる。
④形式化と個我の葛藤について思索を深める契機が与えられる。
⑤上記①～④の具体例として、万葉集および古典和歌文学について一定以上の（ある程度専門性を有する）見識が得られる。

成績評価方法

●**試験**　60%　①講義内容を正しく理解しているかどうか。 ②『万葉集』の歌が正確に読めているかどうか。 ③基本的な文法知識を身につけているかどうか。 ④自分なりの文学史観を持とうと努力しているかどうか。 なお、指定のテキストのみ持ち込みを許可するので、テキストを購入しない者には受験資格がない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　①毎回遅刻をせず出席し、私語などせず、自主的に学ぼうとしているか。 ②欠かさずテキストとノートを持参し、きちんと細かくノートをとっているか。 ③指定された事前事後学習にきちんと取り組んでいるか。 上記の点については授業中に確認し、違反した者は注意の上、平常点および試験の点数から相当の減点を行う。
●**その他**　0%

備考・関連URL

すでに述べた通り、
①古典文学に対する関心および基礎的な知識のない学生には受講を薦めない。
②テキストを購入・持参しない学生は受講資格を認めない。（単位を認定しない）
という条件を付帯する。この二点を十分に理解認識した上で履修してもらいたい。
単位認定に際しては、所属の学部学科の専門性の違いや、学年の違いなどは一切顧慮せず、とにかく公平・公正に同一の基準をもって評価する。
※なお、昨年度までとは担当教員も授業内容も変わっており、テキストも変更しているので注意すること。

科 目 名	鎌倉・室町の文学 『平家物語』を読む							
担当者名	井上　翠							
日文コース	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

中世文学において特徴的なジャンルである軍記物語の中から、代表的な作品である『平家物語』を取り上げ、主要な章段を講読する。

『平家物語』は、平清盛をはじめとして実在の人物が多く登場し、治承・寿永の内乱といった実際の出来事を素材としているが、そのような歴史的事実をどのように描き出しているであろうか。

多彩な『平家物語』諸本の中から、琵琶法師の座である当道を中興し惣検校となった明石覚一が制定した、当道の正本と位置づけられている覚一本を中心として読み解いてゆく。

授業の到達目標

『平家物語』を読んでその特徴を理解し、授業内容をふまえて各自で関心をもった事柄について論じることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　55%　課題は教場で指示する。
●**平常点**　45%　各回のリアクションペーパーによって判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

単位取得の前提として、授業回数の3分の2以上の出席が必要となる。

科 目 名	近世小説と俳諧　筆跡類を読む							
担当者名	堀川　貴司							
日文コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

近世文学の作り手である詩人・歌人・俳諧師・小説家たちが残した自筆の作品（詩歌俳諧など）や書簡類などを対象に、原資料の取り扱い方や読解のコツを学びます。

授業の到達目標

原資料の多様な形態やくずし字を知り、読みやすいものは自力である程度読めるようになるのが目標です。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間内に試験を実施し、理解度を確認します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　第14回までの間に小テストを数回行い、理解度を確認します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

小テストについては当日または次の回において解答解説を行います。
小テストを含め、実習的な内容を多く含みますので、積極的な参加態度を望みます。
くずし字に関しては、参考書のほか、東京大学史料編纂所のデータベース「電子くずし字字典データベース」が役立ちます。
http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/

講義

科 目 名	近代の文学と文化　肉筆原稿の文化誌							
担当者名	宗像　和重							
日文コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代の文学は、端的にいえば「活字的世界」の産物であり、新聞や雑誌などの新しい活字メディアの発達と切り離して考えることができない。私たちも、どのようなテキストであれ、通常は活字を通して近代の文学を享受しているが、言葉で何かを表現するというのはどのような営みなのかを教えてくれるのは、むしろ、推敲や訂正の跡が生々しい作家の肉筆原稿に優るものはない。この授業では、近代の作家たちが、新しい時代の到来のなかでどのように言葉と格闘し、それぞれの表現を紡ぎだしてきたかを、彼らの肉筆原稿を通して探ってみたいと思う。

たとえば森鷗外や夏目漱石は、どんな用紙や筆記用具を使って、どんな筆跡で彼らの「作品」を書いていたのか。また、和紙に筆で書かれていた時代から、原稿用紙に万年筆で書かれていた時代、さらにワープロやパソコンによる執筆が一般的になってきた時代に至るまで、作家の原稿は、近代日本の筆記環境の変遷の証言者であるとともに、執筆や推敲の過程を教えてくれる貴重な資料でもある。この授業では、実際の原稿（の複製やコピー）に触れることで、従来とは異なった角度から、言葉やものを書くことの意味について考えてみたい。具体的には、今年度の授業では、森鷗外・北村透谷・樋口一葉・夏目漱石など、おもに明治・大正期を中心とする近代文学の原稿について、取り上げる予定でいる。

授業の到達目標

ほとんど手書きの機会がなくなってきた現在、肉筆の資料を読むことで、あらためて言葉や文字のもっている意味について考え、またその魅力に触れることを、この授業の目標としたい。そのことを通して、近代の筆記環境の変遷とその文化的背景にも目を向けていくことができればと思う。また、受講生それぞれの言語表現のあり方や、言葉でなにかを伝えることを、より深く考える機会になることを願っている。

なお、授業はおおよそ下記の予定で行う。一つの作品の原稿の代表的な箇所を何回かにわたってとりあげ、その筆記具や用紙、表記や推敲の特色、印刷との関わりなどを読み解いていきたい。また、おおむね時代をたどりながら、それぞれの時代の文化的な背景と筆記環境の関わりにも目を向けていきたいが、学習効果を高めるために、以下の内容や順序については変更することがある。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　各自が関心をもつ近代作家の原稿についての考察を、学期末のレポートとして提出してもらう予定。
●**平常点**　30%　　出席および授業中に随時提示する課題などを、レポートに加えて評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代の文学と文化1　ノンフィクション論――ポスト真実の時代に抗う							
担当者名	高橋　敏夫　他／加古　陽治／芝田　暁／田村　景子／吉田　敏浩							
日文コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

2019年の今、社会と人間の闇に鋭くきりこむノンフィクションの登場が、つよく、つよく求められています。わたしたちは現在、情報・文化から政治・経済にいたるまで、混沌とした世界に直面しています。もちろん、多様性と共存がうみだす豊かな混沌ではありません。いたるところで顕著な対立と分断、差別と排外が、互いの憎悪をかきたて、暴力へ、戦争へと人びとを誘う黒々とした混沌です。

思わず眼をそむけたくなる混沌とはいえ、こんなときこそ一つ一つの事実を直視したい。暴言や妄言、フェイクニュースなどに逆らって、事実をねばりづよく追い、真実を見極めたい。「ポスト・ファクト（事実）」「ポスト・トゥルース（真実」と呼ばれる今だからこそ、すぐれたノンフィクションが求められるのです。

ただし、ノンフィクション（ルポルタージュ）は、事実をただ記述する事実追認型のジャンルではありません。個々のノンフィクション作家（ライター）が、確固とした思想と、独自の取材方法と、独特な文体によってつくりだす事実発見型のジャンルであり、その発見にもとづく事実批判型（さらに「事実をのせている構造」批判型）のジャンルなのです。

本講座は、社会と人間の闇に鋭くきりこんできたノンフィクションを、その歴史、その方法、その具体的な実践、その様々な

テーマなどから明らかにします。講師は、個性的なノンフィクション作家の中でもとりわけ個性的な作家たち、出版社でノンフィクション制作にかかわってきた編集者、ノンフィクションを研究対象にしてきた文学研究者です。
現役の作家、新聞記者、編集者に接するまたとない機会になるでしょう。
この講座をきっかけに、ノンフィクションのおもしろさ、意義、そして可能性をつかみ、今日のノンフィクション読者から、明日のノンフィクション作家へ、また、明日のノンフィクション評論家、研究者へ、その第一歩をふみだしてください。
さあ……。（コーディネーター・高橋敏夫）

授業の到達目標

ノンフィクション作家の話を聞き、ノンフィクション作品を読み、かつ理論と歴史を学んで、ノンフィクションの実践または研究の第一歩をふみだす。

成績評価方法

試験　0%
レポート　50%　成績評価においては、その成績をA+（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A+、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。
平常点評価　50%　出席回数は授業回数の三分の二以上を必要とする。
その他　0%

科目名	現代の日本語　日本語は乱れているか							
担当者名	笹原　宏之							
日文コース	２単位	秋学期	水曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「近頃の日本語は乱れている」という指摘がしばしばなされている。しかし、日本語の歴史を振り返れば、古い時代にも言語の「乱れ」を嘆く声はある。また、「乱れ」とされるものには、実際には「揺れ」と見るべきものが少なくない。「揺れ」と「乱れ」とを分ける基準は何なのか。
現代の日本語について問題とされるさまざまの現象について、変化と変異、原理化と合理化と効率化、体系化と個別化、規範意識と歴史的動態などの視点を日本語学などの研究成果から加えつつ、その意識と背景にあるもの、多様性のもつ意味の解明を進める。
音声・音韻・語彙・文法・敬語・方言・文字・表記・地名・姓名など、現代の日本語全般にわたるトピックを、原則として下記の計画に沿って広く扱っていく。

授業の到達目標

日本語とその文字・表記に対して、希薄な根拠による硬直した規範意識に囚われることなく、客観的に対座し、観察、内省、考察する姿勢と、使用と受容・鑑賞に際して適切な判断を行うための分析・調査の方法とを身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　70%　　テーマ違い、枚数不足、引用不備は採点対象外となりかねないので、注意して下さい。
●**平常点**　30%　　提出物、探究姿勢、受講姿勢など。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

関連URL:
http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn0601/sin_k274.html
http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/ja/ateji_ateyomi/

科目名	日本語の文化史　文字・表記から見る日本語の歴史							
担当者名	澤崎　文							
日文コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「この授業のテーマは日本語の歴史です。」という文のように、現代日本語では通常、漢字平仮名交じりに加え外来語など特定の語のみを片仮名で書くという方法を用いている。なぜこのように書くのだろうか？例えば中世の『平家物語』の写本には、漢字片仮名交じりで「祇園精舎ノ鐘ノ聲」と書かれた本と、漢字平仮名交じりで「祇園精舎の鐘の聲」と書かれた本とが存在する。これらは漢字に対する片仮名と平仮名のあり方が対等であると言え、現代の表記との間には片仮名・平仮名の役割に変化が見られるのである。
また、現代日本語では、「おおきい（大）」「おうさま（王様）」のように、同じ「オー」と発音する部分を語によって「おお」「おう」と書き分けている。なぜこのように書き分けるのだろうか？実はこの書き分けには、歴史的仮名遣いが深く関わっている。
現在あたりまえに使っている日本語の文字・表記が、「なぜそうなっているのか」を知ろうとするとき、今ある日本語を見ているだけでは答えは出ず、日本語の歴史を観察して初めてその理由が分かることがある。これが、日本語史を学ぶためのひとつの動機となるであろう。
本授業では、上代から現代に至る日本語の文字・表記の様々な側面を取りあげ講義する。そもそも文字とはどのようなものであって、書かれたものと音声言語とがどのように対応しているのか（もしくは、対応していないのか）といった前提から考え、漢字、平仮名、片仮名の発生や用途の違いとその変遷、仮名遣いの原理と変遷、補助符号やローマ字の使用など、日本語と文字の関係の歴史を見ていく。終盤では、それまで見てきた文字・表記の歴史的変遷をふまえた上で、現代日本語の文字・表記がどのようにあるかを改めて観察することで、現在私たちが使用している日本語がなぜそのようになっているのかを、日本語史的観点から自覚的に捉えていきたい。

授業の到達目標

・日本語における文字・表記の機能と意義を理解する。
・日本語の文字・表記に関わる問題点を理解し、自らの意見を持つ。
・現代日本語の文字・表記のあり方を、日本語の歴史に照らして説明できる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場で文章を書く形式の試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回、授業内容についてのコメントを求め、評価に入れます。
●**その他**　0%

科 目 名	日本の文学論　平安朝文学における漢籍の受容と展開							
担当者名	柳川　響							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、平安時代の文学作品を中心に、日本文学が中国の古典籍をいかに受容し、展開していったかを考察する。また、その前後の時代の作品も取り上げながら、各種の著述や著作がどのような文学的背景の中で生まれ、後の文学に影響を与えていったのか、平安朝文学の史的展開を概観する。漢文と和文の様々なジャンルの作品を読解することで、それぞれの作品の文学史上における意味や、日本文学の特質について明らかにしたい。

講義

授業の到達目標

平安時代の文学の流れを把握し、日本の文学や文化に対する理解を深める。また、和漢の古文献を扱ううえでの基礎的な技術や知識についても会得することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　50%　　授業への参加状況
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	くずし字を学ぶ　古典から近代まで							
担当者名	兼築　信行　他／宗像　和重							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

くずし字を解読する力を身につける。古典から近代までの文学資料を教材に用いながら、各時代の文字の特色や、書写上の要点、資料の内容についても説明する。授業は完全なオンデマンド形式で実施する。変体仮名は、今から百十年余ほど前に仮名字体が統一されるまでは、日常生活の中でごく普通に用いられていた。くずし字も、毛筆を使うことが少なくなった現代では、読むことが難しくなっている。しかし、日本の古い文献や資料を取り扱い、専門的に研究するためには、変体仮名やくずし字を読解する力が必須となる。本講義では、独自のワークブックを使用しながら、昔の文字を読むことができるよう練習を重ねていく。前半は兼築信行が担当し、主として鎌倉時代から江戸時代までの写本・版本等の文字を学ぶ。後半は宗像和重が担当し、主として近代の文学資料の文字を学ぶ。学習方法が会得できたら、各自の関心にしたがい、さまざまな文字を読む応用訓練もできるだろう。オンデマンド授業の利点として、理解できなかった点は、何度でも繰り返し受講することが可能である。意欲と根気さえあれば、変体仮名・くずし字を読解する力は、必ず身につけることができる。

テクストの事前学習と、各講の課題を行うため、事前事後に90〜120分程度の学習が必要となる。

授業の到達目標

くずし字のうち、少なくとも変体仮名については、「主要仮名変体表」等を参照しながら、完全に読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　90%　　最終講に理解度の確認を実施する。
●**レポート**　0%　　該当なし。
●**平常点**　10%　　受講状況、BBSへの参加などを評価する。
●**その他**　0%　　該当なし。

備考・関連URL

オンデマンド授業受講環境をよく確認すること。

※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。なお、すべての授業コンテンツのうち3分の2以上を、所定期間に受講していない場合は、たとえ試験を受けても評価は「不可」となる。バックナンバーでの受講は、出席としてカウントされないので、注意すること

科 目 名	日本語学概論1　日本語学の基礎を学ぶ							
担当者名	森山　卓郎　他／澤崎　文							
日文コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本語という言語の性質やしくみについて、主に現代の日本語を対象として講義する。本授業では特に音声・音韻、文字・書記、方言を扱い、秋学期に開講する「日本語学概論2」と併せて受講することで、日本語学で扱う主な領域全体を学習できる内容となっている。

授業の到達目標

・日本語の音声・音韻、文字・書記、方言について、基礎的な知識を習得する。
・自らの使用することばについて、日本語学的な観察眼をもって考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場での試験を課す。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回のコメントシートを授業への参加度として評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	**日本語学概論2**　日本語学の基礎を学ぶ							
担当者名	森山　卓郎　他／澤崎　文							
日文コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本語という言語の性質やしくみについて、主に現代の日本語を対象として講義する。本授業では特に文法、語彙、文章・談話を扱い、春学期に開講する「日本語学概論1」と併せて受講することで、日本語学で扱う主な領域全体を学習できる内容となっている。

授業の到達目標

・日本語の文法、語彙、文章・談話について、基礎的な知識を習得する。
・自らの使用することばについて、日本語学的な観察眼をもって考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場での試験を課す。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回のコメントシートを授業への参加度として評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	**日本語史1**　倒叙　近代日本語史							
担当者名	鈴木　豊							
日文コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代日本語から時代をさかのぼって、安土桃山時代までの日本語を概観する。

授業の到達目標

日本語を歴史的にみる視点を身につけ、現代語の問題をそのような展望のもとに観察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　90%　　授業内容の概略を理解し、キーワードを正しく使いこなせること。
●**レポート**　0%　　とくに予定していない。
●**平常点**　10%　　授業に参加する姿勢をみる。
●**その他**　0%　　とくに予定していない。

科 目 名	**日本語史2**　古代日本語史							
担当者名	鈴木　豊							
日文コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

先史日本語から時代をくだって、室町時代までの日本語を概観する。日本語系統論・漢字の導入・万葉仮名・上代特殊仮名遣い・五十音図といろは歌・定家仮名遣い・平安時代のアクセント・『和名類聚抄』・『類聚名義抄』・『日葡辞書』などを中心テーマとして古代日本語の歴史について解説する。

授業の到達目標

日本語を歴史的にみる視点を身につけ、現代語の問題をそのような展望のもとに観察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　90%　　授業内容の概略を理解し、キーワードを正しく使いこなせること。
●**レポート**　0%　　とくに予定していない。
●**平常点**　10%　　授業に参加する姿勢を見る。
●**その他**　0%　　とくに予定していない。

備考・関連URL

とくにない。

科 目 名	**日本文法1**　日本語文法の形態論を中心とした検討							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「文法」といえばややこしいことを覚える分野と思われがちです。が、まったく違います。考えていくのは、「無意識に使っている日本語」に秘められた「規則性」の発見。

学校文法にも配慮しつつ、語形態を中心とした日本語文法の諸現象について検討します。「よんだ。書いた」のように「た」が「だ」になるのはどんな時かといった基礎的なところから、語と発音、品詞論の見直し、古典語文法と現代語文法の違い、現在の言語表現への応用、方言文法のおもしろさ、といった様々な観点まで、広く取り上げていきたいと思います。

現代共通日本語を中心としますが、適宜古典語や方言にもふれたいとおもいます。国語教育的な観点や日本語教育的な観点にも配慮します。

授業の到達目標

日本語文法の形態的側面について研究の現状の基本的事項を把握する。
あわせて学校文法などの知識もその問題も含めてたしかなものにする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業での内容の理解を見ます。
●**レポート**　5%　　コメントカードはあります。
●**平常点**　35%　　公欠は配慮しますが、出席を基本的に重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文法2　文論							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本語文法研究の各種のトピックを、できるだけ包括的に、なるべく広い視点と関連させながら考えます。

・例えば「おいしそうだ」と「おいしいようだ」「おいしいらしい」はどう違うのでしょう。日常言語の奥にある使い分けを考える記述的日本語研究の現状を概説しつつ、言語についての考え方を深めていくことを目指します。
・「は」「が」の使い分けなど、いろいろな問題を深めていきたいと思います。
・日本語教育の文法や国語教育の文法にも配慮します。
・授業にあたっては、受講者との対話や受講者どうしの対話を重視します。
・2は文論的なアプローチを中心とします。

授業の到達目標

現代語を中心とした文法研究現状を理解し、自分なりに文法的に言語表現について考えられるようにすること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回に内容理解の確認を行い、その後解説をします。
●**レポート**　5%　　特別なレポートはありませんが、コメントカードを毎回配布します。
●**平常点**　25%　　出席を重視します。公欠には配慮します。
●**その他**　0%　　必要があれば簡単な理解度確認クイズを行います。

科 目 名	日本文学概論1　古典の文体と展開							
担当者名	和田　琢磨							
日文コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、古典文学作品を中心に、古典から近代にかけての作品がどの様に書かれ読まれてきたのかについてを講義する。前半では作品の文体・構成・表現についての通史を、後半では享受という観点から古典から近代までの作品の特徴についてを講義する。

授業の到達目標

古典から近代に至る様々な作品の特徴を理解し、日本文学に関する深い理解を獲得することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業で理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　毎回、ミニレポートを提出してもらう。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学概論2　古典はいかにして読み継がれてきたか							
担当者名	和田　琢磨							
日文コース	2単位	秋学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、古典文学作品が現代に至るまでどの様にして読み継がれてきたのかという観点から、日本文学の特徴について講義する。前半では書誌学・文献学の観点から、後半では注釈学の歴史という観点から講義する。

授業の到達目標

日本の古典文学が時代により様々に異なった態度で享受され、現代まで読み続けられてきたことを理解し、日本文学に関する深い理解を獲得することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業で理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　毎回、ミニレポートを提出してもらう。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学史1（上代文学）							
担当者名	高松　寿夫							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本上代文学（奈良時代以前の文学）について概説する。文献名でいえば、万葉集・古事記・日本書紀・風土記といったものが話題の中心となるであろうが、それらを個々にとりあげるのではなく、文学史の〈流れ〉といったものに配慮しながら、文献や作品どうしのつながりや時代性を重視した講義になる。

授業の到達目標

奈良時代以前の日本文学の流れについてひととおり理解する。併せて、文学史上の諸作品を、個々の作品としてとらえるだけではなく、ひとつの歴史的流れの中で捉える見方・態度を養う。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容の理解度を総合的に確認する。
●**レポート**　10%　　Course N@vi　上に質問・意見を受け付けるBBSを設定し、受講者の書き込みに随時対応する。
●**平常点**　40%　　出席状況等。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学史2（中古文学）　作中人物像の把握のされ方の変遷や展開から『源氏物語』の読まれ方をたどる							
担当者名	栗山　元子							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

『源氏物語』には様々な個性ある人物が登場し、物語に彩りを添えている。それゆえ『無名草子』などに見られるように、こうした作中人物たちを取り上げその人物像をあれこれ批評し楽しむといった鑑賞のされ方は古くより存在した。ただし個々の人物像の把握のされ様は一様ではなく、時代相あるいは享受者の立場などを反映しての違いも見られる。そこでこの授業では、そうした『源氏物語』の作中人物像の把握のされ方の変遷やその多様な展開を古典としての『源氏物語』がどのように読まれてきたのかという享受史の問題として捉え、『源氏物語』についての評論や古注釈、また『源氏物語』を源泉とした物語・小説・映像作品などを取り上げて考究していく。更にそうしたアプローチにより『源氏物語』の新たな<読み直し>がなされる可能性についても言及していく。昨年に引き続きのテーマとなるが、昨年には言及しきれなかった点や脇役的人物などにも視点を広げて考えていきたい。なお今年度は正編の人物のみに限っての講義となる。

授業の到達目標

『源氏物語』の作中人物像の把握のされ方という観点から、この物語がどのように後世に解釈されたか、またそのような解釈を基盤として生み出された作品としてどのようなものがあるかということ等を知り、『源氏物語』が文学史上に与えた影響およびさまざまな時代における古典の摂取のあり方や古典としての『源氏物語』に求めたものなどについて知ることを目標とする。更には享受者層の多様化による読み方の変化などについての理解も深めていく。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末に行う
●**レポート**　0%　　レポートは行わない
●**平常点**　50%　　毎回のコメントシートの点数の集積で評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・講義回数の三分の二以上の出席を単位取得の条件とします。
・毎回の授業で提出するコメントシートを評価し、その累算で平常点を計上するため、出席状況が悪ければ当然点数は低くなります。平常点が占める割合が高いので、欠席が重ならないように注意してください。

科 目 名	日本文学史3（中世文学）　時代背景と作品の関係を考える							
担当者名	和田　琢磨							
日文コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

12世紀後半から16世紀にかけての日本文学の流れについて講義する。中世といわれる時代はどのような時代で、そのような時代にどういったジャンルや作品が登場したのか。当時の時代背景、思潮、文化を広く見渡しながら、中世文学の特徴について考えてみたい。

ただし、中世という時代は400年以上にも及ぶ範囲を占めるため、そのすべてを扱うことはできない。したがって、本講義では、和歌文学・軍記物語・説話文学・室町物語を中心に取り上げることになる。

授業の到達目標

中世という時代の特徴とその中で誕生した文学作品の特徴について理解し、その知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第14回目の授業時に試験を実施し、理解度の確認を行います。また、第15回目の授業時に試験の解説を行い、授業のまとめを行います。試験は、基本的に授業で扱った問題に関する重要事項について問う問題と、短い論述で構成した問題とする予定です。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　毎回ミニレポートを書いてもらいます。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

何事も本物を見ることが重要です。本で勉強するだけでなく、美術館や博物館に積極的に足を運び、自分の目で様々な物を見るよう心がけてください。

科 目 名	日本文学史4（近世文学）　近世文学の特質と近代文学への影響							
担当者名	廣嶋　進							
日文コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近世文学は18世紀後半を境として、上方文学と江戸文学に分かれる。前者は元禄文学、後者は天明文学と化政文学から成る。これらの三時期の文学の特色を代表的なジャンル、作者、作品を把握しながら講ずる。

授業の到達目標
前期・中期・後期の近世文学の特色と魅力を理解する。また各時期の代表的な小説のジャンル、作家、作品を把握する。

成績評価方法
●**試験**　50%　　文学史の流れとジャンル名・作品名を把握しているか。
●**レポート**　50%　　西鶴作品とその翻案作の相違を理解しているか。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学史5（近代文学）　原稿・原典で読む明治・大正文学史							
担当者名	宗像　和重							
日文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中村真一郎は著書『近代文学への疑問』のなかで、「わが国の近代文学とは、一体、いかなるものか。第一にそれはわが国の文学史のなかで、王朝や中世や江戸期に対して、もうひとつの別の時代を画すだけの、独立した完結性と独自性とを持っているか。第二にそれは、西欧諸国の近代文学とどのような共通性と異質性とを持っているか。つまり、どれだけ「日本文学」であり、同時に、「近代文学」であるのか」と問うている。この問いは、日本の近代文学、とくに明治・大正期の文学をたどろうとしている私たちにとっても、最も大きな関心事であるといわなければならない。果たして漱石や鷗外は、紫式部や西鶴とは異なるどのような仕事をしたのだろうか。そして彼ら近代の小説家・文学者は、日本の近代社会にどのような独特の表現を与えることになったのだろうか。――そのような問題意識をもちながら、19世紀後半から20世紀初頭にいたる明治・大正文学の試みと達成の諸相に目を向けていきたい。とくにこの授業では、同時代の読者が手にした新聞・雑誌・単行本などの本文、また活字になる前の作家の原稿などにも目を向け、言葉や表現がどのようにして生みだされてきたのかを考えたい。なお、下記の授業計画は、学習効果を考慮して適宜変更されることがある。

授業の到達目標
文学史の目標は、作家や作品の名前を覚えたり、作品の発表年や概要を覚えたりすることにはない。そうではなくて、一人の作家のなかから言葉がいかに紡ぎだされてくるか、それはどのような言葉としてあらわれてくるのか、それが同時代においてどのような意味をもっていたのかを、どれだけ生き生きと感得できるか、ということではないだろうか。とりわけ明治・大正期の文学は、「近代文学」とはいっても、現代からみると非常に遠くて「古い」時代の文学に思われるけれども、実際には人間の生き方と言葉が大きく変貌して、「若い」表現者による「新しい」言葉が次々と生まれてきた。その一人である島崎藤村は、「新しき言葉はすなはち新しき生涯なり」と語っているが、彼らにとっては、言葉を新しくすることが、その生き方を新しくすることにほかならなかった。そうした明治・大正期の文学をより親しいものとして受容するだけでなく、言葉で表現することの意味を、作家の原稿なども材料にして考えることができれば、それに過ぎる達成はない。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業中にそのつど課題を提示し、そのなかからいくつか選択して学期末にレポートとして提出する。具体的には最初の授業で説明する。
●**平常点**　30%　　毎時間の出席、ならびに授業への積極的な参加やレビューシートへの記入などを、平常点として評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学史6（現代文学）　1920年代～2010年代の文学							
担当者名	鳥羽　耕史							
日文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
1923年の関東大震災にはじまり、日中戦争と太平洋戦争を経て、2011年の東日本大震災にいたる時代の文学の流れについて講義する。授業の中では、それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ、文学史の展開を考えていきたい。

授業の到達目標
現代文学史の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　「昭和文学史」を理解した上で自分なりに文学の読解ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義に積極的に参加できているか。講義を理解してコメントが書けているか。
●**その他**　0%

科 目 名	中国近現代文学史1（作品で読む中国20世紀文学）　作品で読む中国20世紀文学史							
担当者名	千野　拓政							
中文コース	2単位	夏クォーター	月5時限	木5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
20世紀初頭から1930年代前半（日中戦争）までの中国近・現代文学の流れを概観します。
じつは、「近・現代」も「文学」も19世紀（すなわち近代以降）に形成された概念にほかなりません。では、新たに生まれた近・現代の「文学」とは、それまでの物語や詩とどう異なり、どんな特徴を持っているのでしょう。
講義では、実際に作品を読みながら、中国で「近・現代文学」がどのように誕生し、どのように変遷し、どのような課題を抱えてきたかを、最新の成果を交えて考察します。
文学テクストだけでなく、多様な資料を手がかりに、文学の「生産」「消費」「再生産」行為としての側面や、文学とともに中国の近・現代文化を構成している諸事象、社会的背景についても考察します。
児童文学・エンターテインメント・映画・マンガ・アニメなどの関連分野、同時代の日本文学・世界文学との関わりにも言及

することになるでしょう。

授業の到達目標

20世紀初頭から1930年代までの中国文学について、基本的な知識と概観できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場で説明する。
●**レポート**　40%　　教場で説明する。
●**平常点**　40%　　教場で説明する。
●**その他**　20%　　教場で説明する。

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に2回行います。
原典はもちろん、翻訳も利用してできるだけ多くの作品に接し、自分なりの文学観・文学史観を形作っていただきたいと思います。活発な議論を期待します。
受講者は、あわせて秋学期（秋クォーター）科目「中国近現代文学史2」を受講することが望ましい。
関連URL:（中国近・現代文学作品の原文が読めるサイトの一部） 中国青少年新世紀読書網：http://gd.cnread.net/cnread1/（「文学」の項） 新語絲：http://www.xys.org/library.html　網絡新時代：http://www.mypcera.com/（「現代文学」「名家小説」の項）

科目名	中国近現代文学史2（作品で読む中国20世紀・21世紀文学） 作品で読む中国20世紀・21世紀文学史							
担当者名	千野　拓政							
中文コース	2単位	秋クォーター	月3時限	木2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1930年代後半から今日までの中国近・現代文学の流れを概観します。
じつは、「近・現代」も「文学」も19世紀（すなわち近代以降）に形成された概念にほかなりません。では、新たに生まれた近現代の「文学」とは、それまでの物語や詩とどう異なり、どんな特徴を持っているのでしょう。
講義では、実際に作品を読みながら、中国で「近・現代文学」がどのように誕生し、どのように変遷し、どのような課題を抱えてきたかを考察します。
文学テクストだけでなく、多様な資料を手がかりに、文学の「生産」「消費」「再生産」行為としての側面や、文学とともに中国の近・現代文化を構成している諸事象、社会的背景についても考察します。
児童文学・エンターテインメント・映画・マンガ・アニメなどの関連分野、同時代の日本文学・世界文学との関わりにも言及することになるでしょう。

授業の到達目標

1940年代から現在までの中国文学について、基本的な知識と概観できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場で説明する
●**レポート**　40%　　教場で説明する
●**平常点**　40%　　教場で説明する
●**その他**　20%　　教場で説明する

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に2回行います。
原典はもちろん、翻訳も利用してできるだけ多くの作品に接し、自分なりの文学観・文学史観を形作っていただきたいと思います。活発な議論を期待します。
受講者は、春学期（夏クォーター）科目「中国近現代文学史1」を受講していることが望ましい。
関連URL: 中国近・現代文学作品の原文が読めるサイトの一部） 中国青少年新世紀読書網：http://gd.cnread.net/cnread1/（「文学」の項） 新語絲：http://www.xys.org/library.html　網絡新時代：http://www.mypcera.com/（「現代文学」「名家小説」の項）

科目名	中国幻想怪異小説史							
担当者名	川　浩二							
中文コース	2単位	夏クォーター	水5時限	水6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、中国文学の小説のうち、「怪異」「幻想」を主とする作品を取り上げ、その展開をたどる。あるテーマを俯瞰した講義と、具体的な作品に即した講読を組み合わせた形式で行う。講読については、毎回、出席者による質問・感想を先に募ってから授業を行い、授業中にできるだけ意見を述べてもらう。 評価は期末のレポートによる評価と、授業における発言、レビューシートの内容、講読の授業における評価を主とする。
『支那怪奇小説集』を編んだ岡本綺堂が「支那は怪談の総本家で、実に世界無比といつて好い」といったように、中国の小説、とくに文言小説は志怪・伝奇の類はもちろん、いわゆる筆記の類にも、あるいは事件や裁判について記したものにも、幽霊や妖怪の話にことかかない。岡本綺堂がこのアンソロジーで試みたように、六朝志怪から唐宋伝奇、明清の筆記小説という文言小説史をそのまま怪異幻想小説史にあてることさえできるだろう。
しかしそれではかならずしも「怪異」「幻想」という言葉に答えたことにはならない。「ふしぎだ」「おそろしい」という感情から名状しがたい感覚まで、それがどのように引き起こされるのか、というところに分け入るための方法を考える必要がある。
そのためこの講義では文言小説についてはできるだけ主題を設けて類話を集め、その展開をたどる。
また短編・長編の白話小説や戯曲への展開も見据えることで、幻想や怪異の伝え方、語りのありかたにふみこむことにする。
そもそも、近代が近世以前を完全に克服したとするならば、なぜ近代を経た現代（現代以後？）を生きるわれわれば、なぜ今でも幽霊や妖怪といったものに惹かれてやまないのか。
中国は現在、超自然ホラーや幽霊、妖怪を迷信として否定し、それらを扱う新たな作品の創作と流通を禁ずるが、それこそが

幻想と怪異の物語の、文学の、小説の力を認めているともいえる。
　幽鬼や狐精があたりまえに暮らし、神魔も妖怪もひどく人間くさい世界から、呪術や精霊の憑依が古代そのままに行われる世界まで、狭い意味でのいわゆる「怪談」のイメージとは異なる作品を広く取り上げて進めていきたい。

授業の到達目標

　中国文学の各時期の小説作品について基礎的な知識を得ること、日本の物語文学や絵画との関係、現代中国における映画・TVドラマとの関係について知ること。また文学研究に関する基礎的なレポート作成の手続きに習熟することも目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末にレポートを課し、その評価を反映する。
●**平常点**　50%　　授業における発言、レビューシートの内容、講読の授業における評価を反映する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。

講義

科目名	中国語学史1							
担当者名	内藤　正子							
中文コース	2単位	夏クォーター	月3時限	木2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

　中国における言語研究を主に文法学史の観点から概説する。
　ことばとは何かという問いがどのように形成され、また言語に関する知見がどのように得られてきたかということを考察する場としたい。日本における中国語研究史も視野に入れ、相互の交流にも気を配りながら進める予定である。

授業の到達目標

　中国語研究史についての基礎的な知識を得、重要な文献について読解力を養い、また文献相互の関連を理解すること等を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回の授業中に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席及び授業に対する積極性等を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　人間とことばとの係わりについて関心をもつ学生の積極的な参加を歓迎する。共通の関心と異なる視点を持つ人たちが授業という場を共有し、問題の本質を捉え、多様な解決方法を追究することを期待する。
　中国語だけでなく、現代の身近な言語現象についても適宜取り上げ、理解が深まるようにしたい。

科目名	中国語学史2							
担当者名	内藤　正子							
中文コース	2単位	冬クォーター	月3時限	木2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

　中国における言語研究史を、新中国成立以後を中心に考察する。
　将来、中国語を教えることを希望する人たちにとっても、中国語の研究史についての知識は必須である。新中国成立以後の研究成果や問題等を、主な人物や著作を取り上げながらホリスティックに捉える予定である。

授業の到達目標

　建国後の言語研究の成果について、基礎的な知識を得ること。重要な文献を相互に関連させながら読むこと。こうしたことを基に言語研究の奥底にある言語観、世界観を読み解くことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回の授業中に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席及び授業に対する積極性等を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　※2か月で完結する授業です。週に2回行います。
　生命現象と同様に、我々の使うことばも、モノではなくコトと捉えることができる。ことばとものの見方とは密接に繋がっている。ある言語の特徴は、その研究の方向付けにどのように係わるのだろうか。こうした問題に関心をもつ学生の積極的な参加を歓迎する。
　将来、中国語を教えたいと思っている人にも是非受講をすすめる。なお、「中国語学史1」の内容とは重複しないので、順序に関わらず両方を履修することが望ましい。

科目名	中国比較文化論1（中国民族文化の諸相(南部編)）　多民族国家・中国を考える							
担当者名	金丸　良子							
中文コース	2単位	春クォーター	水3時限	水4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

　中国は人口の圧倒的多数（92%）を占める漢族と、それ以外の少数民族からなる複雑な多民族国家である。これらの諸民族の歴史的起源・分布状況を把握することは「中国」を総合的に理解するために極めて大切である。

授業の到達目標

授業では漢民族の多様な地方文化を理解するための基礎知識を習得する。自然風土の違いからくる「南方人」「北方人」の伝統的な違い、「農民」と「都市住民」との違い、急速な近代化が生み出した「格差社会」の実態にも迫りたい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　30%
●**その他**　20%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。
授業では、ビデオ・DVDなどの映像教材を多用する予定。

科 目 名	中国比較文化論2　多民族国家・中国を考える							
担当者名	金丸　良子							
中文コース	2単位	秋クォーター	水3時限	水4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国は人口の圧倒的多数（92%）を占める漢族と、それ以外の少数民族からなる複雑な多民族国家である。これらの諸民族の歴史的起源・分布状況を把握することは「中国」を総合的に理解するために極めて大切である。

授業の到達目標

授業では55もの少数民族を言語系統別に紹介し、その民族文化を明らかにしたい。
また、2000年から本格化した「西部大開発」の政策により、漢民族が少数民族地帯に大量に経済進出したことの影響にもふれたい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　30%
●**その他**　20%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。
授業では、ビデオ・DVDなどの映像教材を多用する予定。

科 目 名	中国伝統演劇概論　京劇を通して知る中国伝統演劇							
担当者名	波多野　眞矢							
中文コース	2単位	春クォーター	月5時限	木5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国伝統演劇について、主に京劇を例にとり、構造や要素、特徴を理解する。また、伝統演劇を通して中国の歴史や文化、風俗習慣、民族性、思想や感情なども理解し、他国の伝統演劇や現代演劇との相違などについても考える。一部、実際に身体を動かし声を出す、所作や武器の扱いなど演技術の実践も交えつつ理解を深める。

授業の到達目標

中国伝統演劇の歴史、種類、特徴や要素の概要を理解する。またそこに表れた中国文化や民族性などについて理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容の理解度、問題意識、思考力、文章表現力などを総合して評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回最後に提出するコメントペーパーにより、授業内容の理解度、問題意識、思考力、文章表現力などを総合して評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	中国詩歌概論1（古代の詩歌と文化）							
担当者名	石　碩							
中文コース	2単位	冬クォーター	水3時限	水4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

漢詩は中国を代表する文学形式の一つであり、そこには様々な時代の風物と、多くの人々の感情が読み込まれてきた。この授業では、詩経から唐詩まで、多くの漢詩作品に触れ、漢詩に対する基礎的な知識を修得する。また、詩中に詠じられる言葉（詩語）を分析し、中国古典詩の魅力に迫る。

授業の到達目標

多くの漢詩作品に触れることで、漢詩に対する基礎的な知識を修得し、漢詩の鑑賞能力を身につける。
また、個別の詩人の生涯や作品の時代背景を知ることで、中国の古典世界全般に対する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　学期末にレポートのテーマを出題する
●**平常点**　30%　　出席および授業態度、コメントシートで評価する　（三分の二以上の出席を要す）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context1　Utopianism in Western Culture							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
英文コース	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will survey the idea of utopianism in Western culture. The term “utopia” references, among other things, a generalized notion of paradise, a “philosophy of hope,” and a dream of planned political and social transformation. People are often ambivalent about the idea, using it to express both their deepest desires for an ideal society, as well as a denunciation of overly optimistic naiveté; a compelling vision of human potential and capability, as well as a nightmarish fear of totalitarianism. Officially coined in 1516 by Sir Thomas More in England, precursors stretch back to ancient times with dreams of the good life, heaven, and perfection. Thomas More constructed the term from the Greek root words “ou” (“no” or “not”) and “topos” (“place), thus suggesting “no place”; however, his neologism simultaneously signifies “eu-topia” (or “good place”). Scholars often begin the written tradition of utopianism with Plato’s Republic (381 B.C.E.), and since then writers have continuously tried, and continue to try, to envision a perfect society. Utopianism encompasses philosophical tracts, fiction, satire, architecture, social planning, and intentional communities. On the other hand, the tradition has also generated a parallel stream of thought that we know as “dystopia,” or the “bad place.” The dystopian tradition has historically been as, if not more, compelling for audiences than the original. The course will be conducted entirely in English and is structured as a series of lectures with occasional reaction papers, video screenings, and written exams. Students should have a reasonable level of English language ability.

授業の到達目標

Students will learn the basic tradition of utopia in Western culture and will be able to identify the key issues related to it. Students will also exercise their English language skills.

成績評価方法

Exams (2 x 40 points)　　80%
Reaction papers (4 x 5 points)　20%

科 目 名	英文学講義Ideas in Context2　アメリカの短編小説を英語で読む							
担当者名	都甲　幸治							
英文コース	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀と20世紀を代表するアメリカ作家たちが書いた4ページから15ページほどの短編を毎週読みながら、アメリカ文学を読むとはどういうことかを考えていきたい。

授業の到達目標

アメリカ文学の面白さを体感する。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

科 目 名	英文学講義Ideas in Context3　アメリカのロマン主義							
担当者名	堀内　正規							
英文コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、19世紀のいわゆる「アメリカン・ルネサンス」と呼ばれるアメリカ文学について、ロマン主義という大きな時代の文脈の中で紹介しながら、重要なポイントをつかみとってもらいたいと思います。

19世紀半ばのアメリカ合衆国には、たとえば「黒猫」や「アッシャー家の崩壊」で知られるエドガー・アラン・ポーや『緋文字』の作者ナサニエル・ホーソーン、『白鯨』を書いたハーマン・メルヴィル、『自然』をはじめとしたエッセイで有名なラルフ・ウォルドー・エマソンや『ウォールデン』のヘンリー・D・ソロー、『草の葉』の詩人ウォルト・ホイットマンや、生涯ほとんど作品を公けにせず、自宅の敷地から一歩も外に出ないで1800近くの詩を書き続けたエミリー・ディキンスンなど、きわめて重要な書き手たちがいっせいに登場しました。それは、18世紀終盤にアメリカ合衆国がイギリスから独立してまだそれほど間もない時代の、いわばアメリカ独自の文学の最初の（といってもいい）豊かな実りでした。（彼らの多くは南北戦争後まで書き続けましたが、この授業の中心になるのは南北戦争以前になります。）

その世界は罪や悪といったダークなものから、人間のnatureに善なるものを見て、おおらかにどこまでも広がる世界を歩むような明るいものまで、実にコントラストに富んでいますが、いずれも、いま在る〈ありのまま〉の社会（世界）の現状には満足できず、想像力の世界、紙の上の世界で理想をとことん追求するような、〈反 - 現実〉の側面を強く持っています。それはある意味では、アメリカ合衆国建国の理想が実現されていない現状の社会の在りように対する批判でもあり、〈ここではないどこか〉から現実を逆照射するような機能を持っていました。

本講義では、こうした書き手たちの主要なテクストの「極めつけ」のところを原文で紹介しながら、「自然」、「想像力」、「革命」、「民主主義」といった言葉をキーワードとして、今のアメリカにもつながる〈原点〉のようなものを提示したいと思います。

授業の到達目標

19世紀アメリカ文学についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　50%　　授業で出された論点を理解しているか、自分なりの視点を持っているか、論理的に書けているか。

●**平常点**　50%　　出席は重視します。3分の2以上必須。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context4　アメリカ・モダニズム詩と反近代							
担当者名	江田　孝臣							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1830年代に産業革命が本格化したアメリカ合衆国は、1890年頃にはイギリス、ドイツを抜いて世界最大の工業国となった。今日の合衆国からは想像しにくいが、ビジネス優先の当時のアメリカ社会では、詩や芸術は冷遇され、詩人の地位は低かった。そのようなアメリカ社会を敬遠して、Ezra PoundやT. S. Eliotといった詩人たちは、イギリスの、そしてヨーロッパの伝統に憧れて、ロンドンやパリなどに移り、国外在住の詩人としてアメリカ・モダニズム運動を主導した。ダダ、未来主義、キュビスムといったヨーロッパのモダニズム運動の影響を受けながら、文学的な指向性としては古典主義を信奉した。一方で、アメリカ国内、とりわけニューヨーク周辺にとどまりながらも、ヨーロッパのモダニズム運動の影響をPoundやEliot以上に強く受け、しかし、彼らの古典主義とは一線を画した一群の詩人たち（William Carlos Williams, Hart Craneなど）もいた。この講義では、この両方のグループの詩人たちを中心に、彼らの作品を、反近代（Anti-Modernity）とりわけ産業主義批判、市場経済批判という観点から考察する。Pound, Williamsの影響という観点からPostmodernismの詩人たち（Allen Ginsberg, Gary Snyder）も紹介する。また、19世紀を代表する散文作家Henry David Thoreauについても、20世紀の反近代性を先取りしている側面を論じる。アメリカの詩に馴染みのない受講生も多いと思われるので、適宜日本語訳も利用しながら、アメリカ詩紹介も兼ねて、丹念に説明するつもりである。テクストはプリントで配布するが、詩の解説はPower Pointを使ってスクリーン上で行なう。音声、映像資料も適宜用いる。

授業最終回にレポート（3,000字以上）を提出すること。

授業の到達目標

文学に内在する観点からでなく、他の学問領域の観点からも、詩（文学）を眺め、研究することが可能であることを学んで欲しい

成績評価方法

レポート　61点（%）　授業最終回にレポート（3,000字以上）を提出すること。

出席・コメント点　3x13=39点（%）　初回と最終回を除いてレビューシートに授業についてのコメントを書いてもらう。コメントの内容によって1〜3点を与える。授業に貢献するコメントは、次週の授業冒頭に名前を伏せて読み上げる。

出席回数が2/3を下回る場合は、コメント、レポートの出来と無関係に不可とする。

電車の遅延証明書は、遅刻3回を越えた受講生のみ、授業の最終回に提出することができる。裏面に遅刻した日付と学籍番号、氏名を書き入れ、ホッチキスで綴じたものを提出すること。

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/te21/eda-top.htm
（江田孝臣研究室ホームページ）

科 目 名	英文学講義Ideas in Context5　ポストコロニアルの短編を英語で読む							
担当者名	都甲　幸治							
英文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アイルランド、カナダ、中南米、アフリカ諸国など、過去にイギリスなどの植民地だった地域出身の作家たちが書いた3ページから20ページほどの短編を毎週読む。Daniel Halpern, ed. The Art of the Tale. Penguin, 1986. から選んだ作品を扱いながら、ポストコロニアル文学を読むとはどういうことかを考えていきたい。

授業の到達目標

ポストコロニアル文学の面白さを体感する。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

科 目 名	英文学講義Ideas in Context6　ジョージ・スタイナーに學ぶ							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

『トルストイかドストエフスキーか』（1959）、『言語と沈默』（1960）、『悲劇の死滅』（1961）、『青鬚の城にて——文化の再定義に向けての若干の覺書』（1971）、『バベル以降』（1975）、『眞に現前するもの』（1991）等の著者であり、現在も精力的に批評活動を續けるジョージ・スタイナー（1929-　）の諸論攷を讀む。文學と文化に關する本質的思索の所産である彼の批評文はいづれも、現代文明に對する強烈な危機意識に裏打ちされてをり、袋小路に陷つた感のある徒に難解で不毛な現代の文學批評（家）に反省を迫る、生きた文章と言へる。そこでは、例へば以下のやうな事が論じられてゐる：

・教養は野蠻に對する防波堤たりうるか？
・言葉の空洞化・無效化の進行
・「大いなる物語」の消滅による現代社會の平準化と斷片化
・ホロコーストはヒットラーがゐなければ起らなかつたか？
……等々。

授業の到達目標

スタイナーを手掛りにして「歴史」「傳統」「古典」等についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　Course N@vi より提出
●**平常点**　10%　　出席點等
●**その他**　0%

備考・関連URL

初回の講義には教科書『スタイナー讀本』の'Introduction'に目を通して臨むこと。

科 目 名	英文学特殊講義1　〈異界への入口〉をめぐる文学表現							
担当者名	江田　孝臣							
英文コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

C. S. Lewis, The Chronicles of Narnia（1950-56）のうち、最初に発表された3作（The Lion, the Witch and the Wardrobe（1950）, Prince Caspian: The Return to Narnia（1951）, The Voyage of the Dawn Treader（1952））を中心に、〈異界への入口〉をめぐる記述を原語で読み、Disney制作の映画と比較する。またナルニア国の起源についての物語The Magician's Nephew（1955）における〈異界への入口〉についての記述を原語で精読する。 授業では、語義と文法に注意を払いながらできるだけ丹念にテキストを読み、受講者の読解力と、活字から映像を想像する力を鍛えたい。

授業の到達目標

授業で取り上げる箇所についてはプリントを配布するが、受講者は4作のうち少なくとも1作は原語で読み通して欲しい。児童文学であっても英語の本を1冊読み通せば、大きな自信がつく。

成績評価方法

初回と最終回をのぞき、毎回簡単なテストを行ない、正解なら3点、不正解でも1点（出席点）を与える。全回出席し全回正解なら計39点。最終回に提出する期末レポートを61満点とし、計100満点で評価する。レポートでは授業で取り上げる4作品のうち1作品を取り上げて論じてもらう（引用は英語）。A4横書き、3,000字以上。プリントアウトしたものを最終回に教場で提出すること。

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/te21/eda-top.htm
（江田孝臣研究室ホームページ）

科 目 名	英文学特殊講義2　T. S. エリオットの代表的な批評を讀む							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「傳統と個人の才能」（1919）から『文化の定義に向けての覺書』（1948）へと至る、20世紀英米文壇の雄T. S. エリオット（1888-1965）の代表的な批評を丹念に讀む。批評の對象は、初期に於ては專ら文學それ自體であるが、徐々に變遷して、後年は廣く現代社會の諸問題に及ぶ。文學と文化に關する本質的思索の所産であるエリオットの批評文はいづれも、現代文明に對する強烈な危機意識に裏打ちされてをり、袋小路に陷つた感のある徒に難解で不毛な現代の文學批評（家）に反省を迫る、生きた文章と言へる。さういふ文章を讀む事によつて吾々現代日本の讀者も、現代に於て自明の理とされてゐる事どもを一旦は疑つてみる事を餘儀なくされるであらう。

授業の到達目標

エリオットを通して西洋文化の本質に觸れる事を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　Course N@vi より提出
●**平常点**　10%　　出席點等
●**その他**　0%

科 目 名	英文学特殊講義3　シェイクスピアの悲喜劇							
担当者名	冬木　ひろみ							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

シェイクスピアの劇には、歴史劇もあれば喜劇、悲劇もあり、問題劇やロマンス劇と呼ばれるものもある。しかし、シェイクスピアの時代に出た最初の全集では、歴史劇・悲劇・喜劇という分け方しかしていない。観客も恐らく、楽しい劇か悲しい劇か、というくらいの感覚しかなかったと考えられているし、実際のところ、シェイクスピア劇の場合、主人公を含めたくさんの人物が死ぬ劇が悲劇で、結婚で終わるのが喜劇と受け止められていた。だが、シェイクスピアの悲劇と喜劇は紙一重の違いでどちらかになるものが多い。例えば、『夏の夜の夢』の妖精がいなければ、恐らくこの劇は『ロミオとジュリエット』になってしまったであろう。『ハムレット』と『十二夜』にも、わずかな違いのアイデンティティの揺らぎが見出される。ハムレットが迷いの中で語る'to be, or not to be' の状態が、『十二夜』では'this is, and is not'（どちらもありというandに注目！）という言葉となって現われてくる。また『ヴェニスの商人』も、アル・パチーノがシャイロックを演じた映画を見る限りでは、とても喜劇とは言えない。この講義では、シェイクスピアの喜劇と悲劇の違いと同一性、そしてとりわけその中間である「悲喜劇」に注目して、いくつかの劇をじっくり見てみたい。さらに、ジャンルの異なった劇が、それぞれどのように響きあっているのかを、舞台・映画の映像を毎回使いながら検証してみようと思う。最後の方では、日本の舞台・映画などにおける悲喜劇の感覚と、シェイクスピアの劇との差異についても言及したいと思う。

授業の到達目標

・悲喜劇という概念を考察することを通して、演劇のジャンルを知る。
・シェイクスピアの劇のいくつかを悲劇と喜劇の両面から考え、作品解釈ではない視点から鋭く切り込めるような読み方・考え方をできるようにする。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 80%　授業最後の時まで（締め切りは後日連絡）に、指定の題目で書いて提出するレポートの内容（論理性や独自性）による。
●**平常点** 20%　出席点（3分の2）
●**その他** 0%　特になし

備考・関連URL

シェイクスピアのみならず、演劇という、ある種文字化できない部分の大きい世界に興味のある人歓迎。ただし、受講中、1回くらいはシェイクスピアの舞台か映像を見てほしい。割引チケットも随時出す予定。

科目名	英文学特殊講義4　英語圏詩――多様な作者、地域、時代、詩型の詩を学ぶ							
担当者名	諏訪　友亮							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

詩人は詩でしかコミュニケーションを取れないものを詩にしているわけですが、その凝縮された詩行のすきまには、それこそ聖書の解釈学が膨大であるように、膨大な数の解釈の仕方が横たわっています。どの解釈も平等であると言える一方で、いくつかの読み方には説得力があり、作品に一定の理解を与えてくれます。

この授業で講じるのは、かなりオーソドックスな詩を読む方法論です。詩型や音に耳を澄ませ、作者の背景や地域性、属する時代を考察する方向、語句の意味を出来るだけ正確に把握する方向、授業で行うのは、その2つの方向を絶えず意識しながら詩を読む試みです。さらに、映画などにおける引用のされ方を題材に、いま現在ではどのように読まれているのか、ということも紹介します。

扱うのは、英語圏であるイギリス(イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド)、アメリカ、アイルランド、英語圏カリブ海出身の詩人たちの詩です。彼らが持つ時代背景やスタイルに加え、それぞれの詩の形式にも着目し、多面的なアプローチによって詩を解釈していきましょう。

授業の到達目標

1. 作品の背後にある地域性や時代を踏まえ、詩を読み論じることができる。

2. 詩の形式、韻律、音について一定の理解を得られる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70%　初回授業時に内容を提示し、15回目の授業で（またはCourse N@vi上で）回収します。
●**平常点** 30%　授業時の発言（20%）、出席票裏のレビューシート（10%）で判断します。
●**その他** 0%

科目名	イギリス文学史1　イギリス文学とは何か							
担当者名	冬木　ひろみ　他／梅宮　創造／及川　和夫／桑子　利男／吉田　雅之							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

イギリス文学と一口に言っても対象とする作品はきわめて多く、また連綿と今に続く長い伝統がある。この授業ではその中から代表的な、またこれをぜひ知ってほしいという作品・作家を取り上げ、イギリス文学を概観する。まずチョーサーの時代から始めて、シェイクスピア、ミルトン、コールリッジ等を経て、18世紀、19世紀の小説へと至る大きな流れを、各専門分野の教員がリレー方式で講義してゆく。それぞれの講義日程（予定）と内容は以下の「授業計画」を参照のこと。

授業の到達目標

イギリス文学を広く、深く理解することが最終目標である。本目標を達成するために、時代別、ジャンル別に各講義を配し、全体としてイギリス文学とはどのような特徴を持つものなのかを理解できるようにしてゆく。

成績評価方法

教場試験の点（7/16）：　80%
教場レポート（及川先生の2回分）：　20%

出席は3分の2以上必要です。

備考・関連URL

オリエンテーションでは授業方針や評価についての説明をします。必ず出席してください。

科目名	イギリス文学史2　イギリス文学とは何か（続）							
担当者名	岡田　俊之輔　他／小田島　恒志／諏訪　友亮／渡辺　愛子							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

イギリス文学の大きな流れを、各専門分野の教員がリレイ方式で講義する。

授業の到達目標
イギリス文学を広く、深く理解することが最終目標。

成績評価方法
出席の回数と試験の点数を総合評価

備考・関連URL
オリエンテイションでは授業方針や評価についての重要な説明を行うので、必ず出席のこと。

科 目 名	アメリカ文学史1　17世紀から20世紀初めまで							
担当者名	江田　孝臣　他／石原　剛／チャン　エドワード　ケイ／堀内　正規							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
17世紀から20世紀初めまでのアメリカ文学について、複数の教員が交替で講義する。一回ごとに代表的な詩人、作家、思想家を取り上げ、主要な著作を紹介する。注目すべき出来事、社会情勢、文学運動などにもふれながら、作品や作家がアメリカの歴史や社会のどんな文脈において理解されるべきかを示す。

講義

授業の到達目標
受講者はアメリカ文学の基礎知識を学びながら、単なる名前の羅列ではなく、生身の人間の活動が集積されたものとして文学史をとらえ、連続性や断絶の歴史としてイメージすることができるようになるだろう。それはアメリカとアメリカ文化の形成および変容の過程をたどることでもある。

成績評価方法
試験：　90%　期末教場試験（3問選択方式）、90点満点
レポート：　0%
平常点評価：　10%　出席点、10点満点
その他：　0%

備考・関連URL
http://lang.nagoya-u.ac.jp/~matsuoka/EngLit.html
http://vos.ucsb.edu/index.asp

科 目 名	アメリカ文学史2　20世紀初めから現在まで							
担当者名	江田　孝臣　他／チャン　エドワード　ケイ／都甲　幸治／堀内　正規							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
20世紀初めから現在までのアメリカ文学について、複数の教員が交替で講義する。一回ごとに代表的な詩人、作家、思想家を取り上げ、主要な著作を紹介する。注目すべき出来事、社会情勢、文学運動などにもふれながら、作品や作家がアメリカの歴史や社会のどんな文脈において理解されるべきかを示す。

授業の到達目標
受講者はアメリカ文学の基礎知識を学びながら、単なる名前の羅列ではなく、生身の人間の活動が集積されたものとして文学史をとらえ、連続性や断絶の歴史としてイメージすることができるようになるだろう。それはアメリカとアメリカ文化の形成および変容の過程をたどることでもある。

成績評価方法
試験：　90%　期末教場試験（3問選択方式）、90点満点
レポート：　0%
平常点評価：　10%　出席点10点
その他：　0%

備考・関連URL
http://lang.nagoya-u.ac.jp/~matsuoka/EngLit.html
http://vos.ucsb.edu/index.asp

科 目 名	英米比較文化論1　American Subcultures							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will survey a variety of different subcultures in the United States in categories such as entertainment, music, lifestyle, sports, etc. Our goal is to understand some of the many other aspects of America beyond mainstream culture. We will also think about and discuss Japanese versions of American subcultures. The course will be conducted entirely in English.

授業の到達目標
Students will learn about various American subcultures, and how to study popular culture in an academic fashion. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法
Two exams 60%
Presentation 30%
Participation/In-class activities 10%
TOTAL 100 %

科 目 名	英米比較文化論2 ローカル／グローバルな英米文化の歴史的展開・空間的転回――グローバリゼーションの「起源」としての英国初期近代とその宮廷文化							
担当者名	大谷　伴子							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

旧来のナショナルなイギリス文化論・文化史を批判的に学び直すことにより、ローカル／グローバルな英米文化の歴史的展開・空間的転回の過程を学び、その過程で生じるさまざまなコミュニケーション・ネゴシエーションあるいは比較・翻訳・移動の諸問題を学ぶ。第2回、第4回、第9回で、それぞれに関する英国映像文化テクストを視聴・考察し、さらに第14回でそのまとめとして、英米文化圏にとどまらない多様な文化的経験を実際に有するゲストとの交流の場を設け、その機会を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について、体験的に、理解する。

授業の到達目標

代表的・範例的なテーマ・表象・イメージの集合体からなるイギリス文化の特質を、アメリカ文化との比較において、ナショナルだけでなく、ローカル／グローバルにも、狭義のイギリス文化を含む現在の英語メディア文化の空間において学ぶことにより、他者や異文化に関わるコミュニケーションあるいはさらにネゴシエーションをおこなうことの意味を理解しその基礎的なちからを具体的に身につけることができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　30%　　中間レポート
●**平常点**　20%　　主体的な授業参加度(出席と小テストなどの提出物を含む)
●**その他**　0%　　その他

備考・関連URL

質問等は、授業時あるいは授業後に、教室で受け付けます。

文学・文化と経済・政治（マネー・パワー）との対立・区別をフレキシブルに乗り越えながら、英国・ヨーロッパの初期近代の過去とグローバル化とネオリベラリズムに特徴づけられる21世紀現在との関係についての歴史的センスを、少しでも身につけるよう関心をもってほしい。

科 目 名	英語の歴史1							
担当者名	十重田　和由							
英文コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

英語の歴史を、英語以前から初期中英語（13世紀）まで通時的に検証するのが本講義の目的である。ノルマン人による征服をへてラテン言語の影響を強く受ける以前の、ゲルマン語の特徴が強い古英語の構造、およびその変化を中心に学ぶ。英語という言語が辿った変化を外面史と内面史の両方の側面から考察する。

授業の到達目標

古英語（700－1100）の構造とその時代の作品の理解を通して、英語の歴史の理解を深める。それにより、現代英語の構造へのより深い理解を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　13世紀までの英語史に関する知識および古英語の構造に関する理解度
●**レポート**　15%　　13世紀までの英語史に関する課題について分析力・考察力を評価
●**平常点**　15%　　授業における貢献および出席
●**その他**　0%

科 目 名	英語の歴史2							
担当者名	十重田　和由							
英文コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

英語の歴史を、初期中英語（13世紀）から、チョーサーの中英語、シェイクピアの初期現代英語を経て、国際語として通用する現代英語に至る過程を通時的に検証するのが本講義の目的である。英語という言語が辿った変化を外面史と内面史の両方の側面から考察する。

授業の到達目標

中英語から現代英語までの歴史とその背景および言語構造について理解する。それにより現代英語の構造、そしてその背景に関する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　13世紀以降の英語史に関する知識および中英語の構造に関する理解度
●**レポート**　15%　　13世紀以降の英語史に関する課題について分析力・考察力を評価
●**平常点**　15%　　授業における貢献および出席
●**その他**　0%

科 目 名	英語学1							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

標準英語とは何だろうか。英語話者の英語表現には、受験参考書を通して学習してきた英文法の知識では説明しきれない現象がいくつもあります。私たち日本人が、英文法の知識に照らして正しいと思って使う表現が、必ずしも正しいと言い切れないも

のもあります。さらには、英語を和訳したとき、日本語としての自然さを欠いたり、日本語を英訳したとき、英語らしさが現れないといったことがよく起こります。授業では、そうした現象に焦点を当て、受講生が親しんできた英語学習とは違った視点で英語という言語を見てみようと思います。

授業の到達目標

受験文法とは異なった視点で英語文法をとらえる

成績評価方法

試験の成績(80%)と授業に臨む姿勢(20%)をもとに判定する

科 目 名	英語学2							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語教育において、語彙の獲得は学習指導上最重要課題であるはずだが、英語教育の歴史を見ても、その認識は低いように思える。授業では、語彙論と形態論(語形成の在り方)という2つの観点から、語彙そのものに対する理解と関心を高め、語彙の獲得が効果的に行われるための素地づくり、方法論を検討していく。

授業の到達目標

1. コトバを知るとはどういうことか。
2. 語彙の獲得の効果的学習指導法とは。
3. コトバ(語)はどのように形成されるか。

上記3点に関する理解を深める

成績評価方法

教場での試験の成績(80%)と授業に臨む姿勢(発言力・出席率：20%)を考慮に入れて成績は判定する

科 目 名	英語音声学1							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語の子音、母音の発音に関する基本的な事柄を学習する。最初に、子音、母音の発音の仕組みについて学習する。その次に、個々の子音、母音が、特定の音声環境の中で実際にどのような形で発音されるのかを学習する。発音練習に関しては、リッスン・アンド・リピート方式を採用。次に、音声表記に関して学習する。音声表記に関しては、単に辞書にある発音記号を学習するだけでなく、特定の音声環境を考慮に入れた精密表記についても学習していく。

授業の到達目標

1. 子音・母音の発音の仕方を学習し、その音の発音記号が読めて、書けるようになること
2. 音が出現する実際の音声環境の中でとる「音の実際の形態」を学習し、その発音記号が読めて、書けるようになること。

成績評価方法

教場試験の結果 (80%) と授業に臨む姿勢 (20%) をもとに成績は判定される

備考・関連URL

この授業は、秋学期の「英語音声学2」と合わせて受講することが望ましい。
2つの授業を合わせて初めて英語音声学の体系が完成する

科 目 名	英語音声学2							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語の韻律、すなわち、リズム、語句のアクセントパターン、イントネーションの仕組みを、日本語との比較をもとに考察する。加えて、コンピューターを使用した音声分析法を学ぶ。

授業の到達目標

1. 英語らしさが現れる発音の獲得をめざす。
2. 音声分析ソフトの活用の仕方を学ぶ。

成績評価方法

試験の成績(80%)と授業に臨む姿勢(20%)を考慮に入れて成績の判定をする

科 目 名	イングリッシュ・スタディーズへの招待　英語によって表現されたあらゆるものを研究対象に							
担当者名	岡田　俊之輔　他／江田　孝臣／都甲　幸治／平埜　雅久／冬木　ひろみ／堀内　正規							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

イングリッシュ・スタディーズ（English Studies）とは、英語と英文学の研究を意味する。対象となる地域としては、イギリスの他に、旧イギリス植民地である、アメリカ合衆国、カナダ、アイルランド、カリブ海諸国などの英語圏地域が含まれる。6名の専任教員がそれぞれトピックを選んで、毎回入門的な講義を行い、専門とする領域を具体的な例を用いながら紹介する。担当者によっては、イングリッシュ・スタディーズの学問としての成立過程と現状の課題についても言及し、イングリッシュ・スタディーズが発生した歴史的背景、英文学教育における性役割分担、英語教育と英文学の分化、アメリカ文学の認知、文学から文化へのシフトなどの問題を取り上げる。半年間の講義で「顔見せ」できる内容は限られるが、通して聴けば、イングリッシ

ュ・スタディーズの基礎から専門的な研究の面白さまで、一通り垣間見ることが出来るように工夫してある。

授業の到達目標

イングリッシュ・スタディーズに入門してもらい、その様々な問題の広がりについて理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60% 興味を持った1回分について Course N@vi より提出
●**平常点** 40% 出席3分の2以上必須
●**その他** 0%

科 目 名	シェイクスピアと現代 シェイクスピアは今を生きているか							
担当者名	冬木 ひろみ							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

このところ、2014年のシェイクスピア生誕450年、2016年の没後400年というシェイクスピアの記念の年が続いた。イギリスだけでなく、日本でも、無論早稲田でもさまざまなシェイクスピア劇やイベントが行われ、シェイクスピアはへの関心は比較的集まったように思う。また、実際にここ10年ほどを見ると、東京ではシェイクスピアが舞台で上演されない月はないし、映画も次々と封切られる。だが、実際に日本に住んでいて、シェイクスピア（の劇）は現代に生きていると言えるのだろうか。

シェイクスピアの劇には当時のイギリス特有の問題、例えば人種・社会制度・結婚問題などが描かれているのだが、それは当時の時代を映す鏡であると同時に、現代のわれわれの時代を映し出す反射鏡（良い面でも悪い面でも）ともなっているように思われる。さらに言えば、2011年の日本の震災直後の状況は『リア王』の荒涼とした不条理の世界そのものと言えるかもしれない。あるいはアメリカの9.11の同時多発テロの際に声高に叫ばれた「正義(justice)」という言葉は、復讐という極めて危険な問題を孕むという点で『ハムレット』や『オセロー』へとつながり得るだろう。

この授業では、シェイクスピアのいくつかの劇を取り上げ、それらの中の現代に通ずる問題を検討するとともに、映像と舞台の中の現代のシェイクスピアの変遷についても考えてみたい。取り上げる作品は『ヴェニスの商人』『ハムレット』『リア王』『マクベス』などで、それに合わせて舞台・映画のシェイクスピア作品の違いも時間の許す限り見てゆく予定。アメリカの名優アル・パチーノの『ヴェニスの商人』、藤原竜也の『ロミオとジュリエット』や『ハムレット』、野村萬歳の『ハムレット』、吉田鋼太郎の『タイタスアンドロニカス』など、私の劇評を交えて見てもらうことにしたいと思う。また、現代を写したシェイクスピア現象の一つとも言えるadaptation（翻案）、つまりシェイクスピアを元として作り直された舞台・映画・小説などにも随時触れたいと思っている。

授業の到達目標

・シェイクスピアの劇を英語と日本語両面で部分的に読み、劇の内容を知ることにより、シェイクスピアの劇の特異性とともに、現代との近さ（遠さ）をテクスト上と舞台・映画と通して実際に知り、考察する。
・文学的な意味だけでなく、心理的・社会的、あるいは政治的な意味でも、シェイクスピアの言葉が現代を生きる者にどのような影響を与えるのかを感受できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 80% 授業最後の時まで（締め切りは後日連絡）に、指定の題目で書いて提出するレポートの内容（論理性や独自性）による。
●**平常点** 20% 出席点（3分の2）
●**その他** 0% 特になし

備考・関連URL

シェイクスピア初心者も熟達者も歓迎。
生の舞台を実際に見てもらいたいと思うので、随時割引チケットを紹介する予定。

科 目 名	イギリスの神話と伝説							
担当者名	ロビンソン ピーター							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will look at three of the most powerful British myths/legends: Queen Boudicca, King Arthur and Camelot, and Robin Hood. We will analyse the process by which these myths and legends emerged, exploring their historical, cultural and social contexts, and following them through the ages to the present. A range of print and visual materials will beused.

授業の到達目標

Students will learn the specific background to each of the myths/legends. By the end of the course students will understand the importance of national and regional myths in the creation of identities. Listening, reading and writing skills in English will be enhanced.

成績評価方法

●**試験** 0% no
●**レポート** 60% In-class written paper
●**平常点** 40% Individual and group presentations
●**その他** 0% no

備考・関連URL

Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	イギリス小説の愉しみ　小説の人類学							
担当者名	武田　将明							
英文コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「小説の人類学」をテーマに授業を行う。
4回の講義と1回の演習の組み合わせを3回実施する。
それぞれのテーマは、
1. 文明と野蛮
2. 退化への恐怖
3. 生命の根拠
に分かれているが、実際にはどれも相互に関係している。
講義はプリントを配布して進める。講義の際は、引用の読解について、ランダムに受講者に訊ねることがある。第4週、第9週、第14週の授業時までに、短いレポート（日本語1600-2000字あるいは英語400-500words）を提出。第5、10、15週には、レポートの内容を基に演習をおこなう。
レポート課題としては、以下の文学作品を読み、必ず本授業との関連を意識しながら自分の考えをまとめること（版については、「教科書」欄を参照）。
レポート1：DanielDefoe, Robinson Crusoe.
レポート2：H. G.Wells, The Island of Doctor Moreau.
レポート3：Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go.
レポートを書く際、日本語訳を参考にしても構わないが、必ず原文も読むこと。
学期の終了後、本授業に関する最終レポート（日本語3200-6000字あるいは英語800-1500 words）を提出すること。

授業の到達目標

近年の人類学には、自己と他者との境界、人間と他の生物との境界や、さらには現実と神話（フィクション）との境界について、根源的に問い直す試みが見られる（春日直樹に倣い、これを「存在論的転回」と呼ぼう）。こうした観点から近代以降のイギリス文学（主に小説）を読み直すことで、ポストコロニアル批評以降の文学論の可能性を模索する。また、「近代イギリス小説」の伝統的な枠組みを相対化することで、イギリス文学・文化への新鮮な見方を提供し、ひいては現代日本でイギリス文学・文化を学ぶことの意義を、受講生と共に考えたい。本授業を通じて、文学テクストの読み方に習熟し、英語で文学作品を読むことの愉しさを感じ、文学と文学教育の未来についてじっくり考えていただくことが到達目標となる。

成績評価方法

小レポート3本（45%）、最終レポート（30%）、主体的な授業参加度（25%）。
小レポートは課題の作品に対する自分なりの理解を示しているかを主に評価するので、2次文献（研究書）を参照にする必要はない。
最終レポートは、授業内容を踏まえているかも評価の基準とする。ただし、授業での解釈と同じことを書けばよいのではなく、ここでも自分なりに考えたことを明晰に言語化できているかどうかが重要である。
授業参加については、授業時に当てたときの反応を見るが、評価の公平性を確保するため、リアクションペーパーなどを利用することもある。

科 目 名	現代詩の愉しみ　アメリカ詩の紹介							
担当者名	江田　孝臣							
英文コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀のEdgar Allan Poeから20世紀前半のモダニズム詩を経て20世紀後半のポストモダニズム詩までを取り上げるが、半期15回の授業で重要な詩人たちを網羅することは不可能である。詩人の選択は主として文学上の系譜と、担当者の好みによる。毎回、代表的な作品数点を丹念に読みながら、その愉しみ方を紹介し、歴史的背景等について話す。教科書、プリント（適宜配布）、パワーポイントを用いる。詩の朗読はできる限り詩人自身による録音を用いる。入手可能な映像資料も用いる。授業最終回にレポート（3000字以上）を提出すること。

授業の到達目標

19世紀と20世紀のアメリカの詩に親しみ、その展開と詩人の多様性について一定の理解を得ることを目標とする。

成績評価方法

レポート点　　61点（%）　授業最終回にレポート（3000字以上）を提出すること。
出席・コメント点　3x13=39点（%）　初回と最終回を除いてレビューシートに授業についてのコメントを書いてもらう。コメントの内容によって1〜3点を与える。授業に貢献するコメントは、次週の授業冒頭に名前を伏せて読み上げる。
出席回数が2/3を下回る場合は、コメント、レポートの出来と無関係に不可とする。
電車の遅延証明書は、遅刻3回を越えた受講生のみ、授業の最終回に提出することができる。裏面に遅刻した日付と学籍番号、氏名を書き入れ、ホッチキスで綴じたものを提出すること。

備考・関連ＵＲＬ

http://www.f.waseda.jp/te21/eda-top.htm
（江田孝臣研究室ホームページ）

科 目 名	1960年代アメリカ　アメリカ文化の60年代							
担当者名	堀内　正規							
英文コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

アメリカ合衆国の1960年代は大きな変化の時代でした。政治的にはキューバ危機、黒人公民権運動、ケネディ暗殺、ヴェト

ナム戦争、人種暴動、学生運動といった大きな指標がありますが、文化的に見ても実に重要なことが起こっていたのがこの時代です。現代の文化を考えるときにも、この領域の影響は絶大でした。

この講義では、アメリカの60年代のさまざまな文化的事象を、わたしなりに紹介してみます。文化的事象とはいっても、そのほとんどが当時の政治的・社会的な状況となんらかの形でつながっているので、その点も考慮しながら進めます。予備知識は必要ありません。あらかじめお断りしておかねばならないのは、この講義でこの時代のアメリカ文化が万遍なく、全方位的にカヴァーされているわけではないということです。自分なりにある程度確信をもって話ができそうなことがらに絞った内容になりますが、入り口を作るという意味で受けとめていただければと思います。できるだけ、みなさんには〈本物〉に直に触れてもらいたいと思っています。教室にもよりますが、できればパソコン上では体験できない、大画面・大音量で……。

トピックとしては、文学・音楽・映画それに政治の分野から、人種を扱った小説、ビート、ロックンロール、フォーク、ロック、サイケデリック、フラワームーヴメント、ソウル、カウンターカルチャー、アメリカン・ニューシネマ、黒人公民権運動、キングとマルコムX、ヴェトナム戦争など。実際の音楽を聴き、映像を観てもらって、遠い昔の知識としてではなく、現在のわたしたちにびりびりと響いている力を伝えたいと思います。

トランプが大統領になって以降、アメリカも世界も先行きの読めない時代になっていますが、だからこそ、過去のアメリカからたいせつなものを掬い取りたいと思います。トランプとは違うアメリカを。

授業の到達目標

アメリカの1960年代文化についての理解を深める。

成績評価方法

- **試験** 0%　試験はしません。
- **レポート** 50%　授業で出された論点が理解できているか、自分なりの視点が打ち出せているか、論理的に書けているか。
- **平常点** 50%　出席は3分の2以上を必須とします。
- **その他** 0%　なし。

科目名	政治と文学　ジョージ・オーウェルの評論							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

ジョージ・オーウェル（1903-1950）が活躍したのは左翼思想全盛の政治の季節で、自らも政治には多大なる關心を寄せた。けれどもオーウェルは、自分なりの政治的理想を持ちつつも、決してイデオロギーの虜にはならず、あくまでも一人の作家として、政治に翻弄される人間の姿を描いたのである。評論に於ても小説に於ても、彼が政治を論ずる場合、それは只の政治現象論ではなく、人間や文化の在り方にも目を向けた本質論となつてゐる。

人は誰しも「政治」と無縁ではあり得ない。「政治的動物」たる人間が二人以上集れば、そこには必ず「支配／被支配」の關係が生ずる。それまで支配されてゐた者たちが權力を握れば、今度は彼等の間にもまた同じやうな情況が生れる。それは革命の歴史を見ても明らかであり、傑作小説『動物農場』の主題でもある。

本講義ではオーウェルの普及版エッセイ集から興味深い文章を適宜選んで讀み進め、その今日的意義を再確認したい。例へば今日、オーウェルが徹底的に批判した共産主義者の精神的祖國ソヴィエト聯邦は既に存在しないが、彼の論じ方そのものは今なほ大いに應用が利くからである。

最初は自傳的エッセイから始めて、最後は知識人論に至る豫定。

授業の到達目標

オーウェルがあばく知識人たちの無節操を反面教師として、知的誠實とはどういふ事かを考へる。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 90%　Course N@vi より提出
- **平常点** 10%　出席點等
- **その他** 0%

備考・関連ＵＲＬ

取敢へず「共産主義」について、Wikipedia でも構はないから閲覧しておくこと。
https://ja.wikipedia.org/wiki/共産主義

科目名	アイルランドへの招待　アイルランド文学・文化入門							
担当者名	小林　広直							
英文コース	２単位	春学期	火曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパ西端、ブリテン島の西に浮かぶアイルランド島は、北海道ほどの面積で約8万平方キロメートル、現在の人口は南北を合わせて、約700万人です（南のアイルランド共和国と北の英領北アイルランド）。

この島国から、4人のノーベル文学賞作家（イェイツ、ショー、ベケット、ヒーニー）だけでなく、20世紀最大の小説家と称されるジェイムズ・ジョイス、あるいは英国の「近代」の始まりを象徴するとされるオスカー・ワイルドなど、数多くの世界的作家が今なお輩出されています。

また、約700年に及ぶ英国の政治的支配（植民地支配）によって、カトリックとプロテスタントの対立が長く続いており、ここには自治や独立を巡る暴力の応酬、IRAのテロリズム、そしてカトリック教会による宗教的支配、などの問題があります。アイルランド系移民の子孫は、全世界で7000万人（うち、4000万人がアメリカ国民）いるとも言われていますが、かつて国外への移民によって人口が流出し続けたアイルランドは、2004年の拡大EU以後、東欧からの移民を受け入れる国家になりました。今日、「移民」の問題は、戦争（テロリズム）や宗教、コロニアリズムやナショナリズムと関わる、大変アクチュアルな主題です。アイルランド文化を学ぶことは、（部分的であれ）今の世界と私たちを映し出す鏡のような役割を果たすことでしょう。

同時に、アイルランドと聞いて、最初に書いたような著名な英語圏文学の作家たちだけでなく、ケルト神話や妖精（レプラコーン）、U2やエンヤ、あるいは黒ビールのギネスや、アイリッシュ・ウィスキー、リバーダンスを想起する人もいることでしょう。その独自の文化にも目を向けてみたいと思います。

本講義は3つのパートから成ります（①アイルランドの歴史②アイルランドの文化③アイルランドの文学）が、これら3つの観点からアイルランドの文化と文学を概略的に学んでいきます。
講義で学んだことを中心に、受講者の皆さんはそれぞれの興味と関心に沿って自らリサーチや作品鑑賞を行い、タームペーパー（レポート）を作成します。

授業の到達目標

1. アイルランドの歴史について、概略を語ることができるようになる
2. 講義で取り上げたアイルランド文化の特徴を説明することができる
3. 講義で取り上げたアイルランドの代表的な作品の特徴を説明することができる

ただし、アイルランドに興味を持ち、好きになってもらうことが最も重要です。

講義

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　リサーチペーパーとして、内容・形式ともに整っているかどうかを評価する（内容・形式・論理・文章・締切の5項目、各10点）。
●**平常点**　50%　　出席回数と授業への貢献度（出席点30点＋コメントシート20点）を評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

https://www.stephens-workshop.com/

科 目 名	カナダへの招待　多文化主義に至る道のりを文学とともにたどる							
担当者名	馬場　広信							
英文コース	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

カナダは「幸福」を感じている国民の割合が高いことで知られており、好感を抱いている人が日本でも少なくないようです。しかし、2014年に対 IS 空爆参加を表明した結果、テロの標的となり悲惨な事件が起きています。それでも他の国々とは異なり、カナダは2018年末現在、「多文化主義（multiculturalism）」を「失敗」だと宣言していません。 イギリス・合衆国・オーストラリアで「多文化主義」「多様性（diversity）」という語は、絵空事のようにやや批判的文脈において用いられるのに対し、カナダの場合は異なります。それは我が国で昨今唱えられている「多様性を重んじる社会」とも全く別の形態です。本講座はその理由を、「カナダ」史と英語で書かれた文学を通じ、理解することを目的とします。
まず日本で根強い人気を持つ小説『赤毛のアン』は、カナダの国民的文学なのか、という問題を入り口として、カナダについて考えるための基礎知識を学びます。そしてかつてイギリスとフランスの植民地支配を受け、現在英語とフランス語を公用語としているカナダの歩みを、18世紀から20世紀のトピックを中心に講義してゆきます。
またカナダは、合衆国に先立ち先住民の土地所有権を認める傍ら、第二次大戦中に日系の国民を「敵国民（enemy alien）」とみなし、強制収容所に入れた歴史も持ちます。それが20世紀後半に少数派の権利を重んじる "multiculturalism" 政策へと大きく舵を切り、カナダ連邦政府は差別撤廃施策を徐々に採用してゆきました。
カナダを知ることを通じ「国家とは何か？」「国民とは何か？」という問を改めて考えることも、この講義の目的となります。また、カナダへの留学やホームステイを検討している皆さんに、有用な情報を提供することも試みます。
採り上げる文学作品は英語原文と邦訳のハンドアウトを配布します。英語が苦手な学生にも配慮して講義を進めます。
ただし、毎回の授業で多くの知識を学びます。講義終了時のレヴュー・シートは、感想を書くのではなく、講義内容を正確に理解できているかの確認作業となります。毎回集中力をもって講義に臨んでください。
加えて、ティモシー・フィンドリー『戦争』のブック・レヴューを試験で書いてもらいますので、各自試験前に読了してください。試験受験は単位取得の必要条件です。計画的に読み、準備を進めておきましょう。（教科書の欄参照のこと。）。
＊　授業展開の都合上、第5回以降は順序変更ないし複数トピックを併せて1回の講義で採り上げる可能性があります。変更する場合は原則2回前の授業で予告します。

授業の到達目標

文学と歴史を中心にカナダという国家が持つ特徴を学び、カナダ地域研究ないし他の国家と比較して考察する基礎を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　ブック・レヴュー。教科書・印刷物・ノート・辞書・通信端末使用不可。
●**レポート**　0%　　課しません。
●**平常点**　60%　　毎回講義の最後に、当日の講義で何を学んだか、10分でレヴュー・シートに書いて提出してもらいます。各回のレヴュー・シートを評価し、平常点とします。詳細は第1回講義で説明します。
●**その他**　0%　　課しません。

備考・関連URL

＊　教場には鉛筆ないしシャープペンと消しゴム、ノートを持参してください。
＊　携帯電話・スマートフォンは必ずマナー・モードに設定して鞄などにしまい、教場に臨んでください。教場ではいかなる通信端末も使用を認めません。電子辞書使用も不可です。使用した場合、その回の平常点は0点とします。
参考 URL: 日本カナダ学会編著『メイプル豆事典』http://jacs.jp/modules/xwords/

科 目 名	フランス語学概論　一般言語学から見たフランス語							
担当者名	酒井　智宏							
仏文コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語学とはフランス語を主たる対象とする言語学の分野です。基礎外国語科目等の外国語科目が「フランス語を身につける」ことを目標とするのに対して、フランス語学の講義では「フランス語について考える技術を身につける」ことが目標となります。「フランス語について考える」ためには、「フランス語以外の言語について考える」視点も必要になります。そのような一般的な視点を提供してくれるのが(一般)言語学という学問です。一般言語学的な視点のもとでフランス語を捉えてはじめて、(つぶやきやエッセイの水準ではなく)学問的な水準で「フランス語について考える」ことができるようになります。そこで、本講義では、言語学の下位分野である音韻論、形態論、統語論(統辞論、構文論)、意味論の観点から、フランス語の特徴を考えていきます。

授業の到達目標

1. 一般言語学の基本的な考え方を身につける。
2. 一般言語学の観点からフランス語の特徴を捉えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をCourse N@viのレビューシートに記入していただきます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. 受講にあたってフランス語の高度な運用能力は要求されません。「(基礎外国語等で)いくらか勉強したことがある」「講義と並行して学ぶつもりでいる」という程度でも大丈夫です。

2. フランス語の歴史的な成り立ちや社会文化的背景については、「フランス語史」および「ヨーロッパのことばと文化」で扱われますので、この講義ではオリエンテーションでふれるにとどめます。

3. 語用論については、「語用論入門」「フランス語フランス文学演習9(フランス語学1)」「フランス語フランス文学演習14(フランス語学2)」で扱われますので、この講義で意味論の一部で言及するにとどめます。ただし、「フランス語フランス文学演習9(フランス語学1)」「フランス語フランス文学演習14(フランス語学2)」の受講にあたっては、フランス語の読解力が必要となります。

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	フランス語史　クレチアン・ド・トロワの『イヴァンまたは獅子の騎士』(1170年ころ)を題材にして							
担当者名	瀬戸　直彦							
仏文コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代のフランス語はどのように成立したのだろうか。文法体系と語彙の多くはラテン語を継承している。しかし，それはどのような過程を経ているのだろうか？ラテン語について簡単な解説をほどこしてから、西欧各地でそれが変化し、ロマンス語（フランス語、オック語、イタリア語、スペイン語、カタロニア語、ポルトガル語、ルーマニア語、サルディニア語など）へと変貌していくさまを、ガリアの地域を中心に概説する。あわせて、13世紀の文学作品を読むことにより、フランス語の古い姿に親しみ，現代のフランス語への変化を知る機会を作りたい。具体的には、1170年ころに成立したといわれる古フランス語による『イヴァンまたは獅子の騎士』（クレチヤン・ド・トロワ）を，とくに史的言語学の視点から読み解く作業を，受講者とともにおこなう。テクストの解読は初歩から始めるので安心して受講してください。

［注意］（1）フランス語の歴史であるから，フランス語既習者が登録すること。なおラテン語や他のロマンス語を学習していれば、興味はより増すことであろう。

（2）テクストとして用いる写本はプリントして配布するが，フランス国立図書館(BnF)のサイトGallicaからカラーの美しいデジタル版を参照できる。

授業の到達目標

フランス語の史的変遷を理解して、その語彙と文法の特徴を知るとともに、フランス語を正確に読むための仏仏辞書の使い方を学ぶ。とくにインターネットで簡単に参照できるDECT（Dictionnaire électronique de Chrétien de Troyes)，DMF(Dictionnaire du moyen français)をじっさいに教室で一緒に参照して，使い方に慣れるようにしたい。

成績評価方法

平常点

科 目 名	フランス文学史1　中世から19世紀まで							
担当者名	川瀬　武夫　他／久保田　静香／瀬戸　直彦							
仏文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

どの言語による文学も豊かな歴史を持っているはずだが、フランス文学の魅力はそのなかでも際立っているように思われる。英文学ならシェイクスピア、ドイツ文学ならゲーテ、スペイン文学ならセルバンテス、イタリア文学ならダンテと、フランスの周辺にある国々を例にとると、それぞれに代表的な文学者がいるものである。だが、フランス文学ではその代表が見つけられない。代表的な文学者がいないのではなく、多すぎて絞れないのである。それほどまでに豊穣なこの文学をひとことでいえば、繊細にして洒脱、深遠かつドラマティックな大人の文学といえるかもしれない。

その内容と歴史的な流れを、中世から始めて「近代＝現代性」の成立する19世紀末まで、それらの時代ごとの社会的・文化的な背景に留意しつつ、できるだけ分かりやすくたどってみる。無味乾燥な講義は避けて、受講者が積極的に参加できるような、また紹介された作品を是非とも読んでみたいと思うような、そのような授業にしてみたい。

3名の専任教員が各人の専門分野を生かして、時代順にリレー方式で5回ずつ講義をおこなう。時代の分担は以下のとおり―
瀬戸直彦：中世（842年）から16世紀まで
久保田静香：17世紀から18世紀まで
川瀬武夫：19世紀

授業の到達目標

秋学期開講の「フランス文学史2」とあわせて受講すれば、千年以上にわたってフランス語という言語で書かれてきた「フランス文学」についての必須の知識が確実に得られることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業最終日に教場試験をおこなう（資料持ち込み不可）。
●**レポート**　0%　　―
●**平常点**　30%　　試験結果に出席点を加味する。
●**その他**　0%　　―

講義

科目名	フランス文学史2　フランス文学にとっての20世紀							
担当者名	鈴木　雅雄　他／佐々木　匠／藤本　一勇							
仏文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

「フランス文学史1」のあとを受けて、20世紀においてフランス文学（および思想）がいかなる課題を負い、いかなる変貌を遂げたのかを概観する。

まずは「小説」というジャンルをとおして20世紀文学の流れを総括する。その流れが世紀を超えた現在に投げかける問いとインパクトについても考えていきたい。

次に、しばしば同時代の文学的前衛を代表していたとみなされるフランス現代詩のさまざまな動向を、20世紀における文学言語の課題とは何だったかという問いを念頭に置きながら解説する。

最後に、第二次世界大戦以後のフランスの文学・批評の流れを、サルトル、ヌーヴェル・クリティック、クレオール文学に焦点を当て概観する。

授業の到達目標

20世紀フランス文学について考えるための大まかな見取り図を持てるようになることが目標だが、この過程で学生がさまざまな作家や詩人、思想家に出会い、こうした領域で研究していきたいと思うテーマを見つけるための助けになるよう、努力したい。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末に試験を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　30%　　出席点。

備考・関連URL

関連URL: http://www.waseda.jp/bun-bonjour/

科目名	フランス中世・ルネサンス文学　クレチヤン・ド・トロワの『イヴァンまたは獅子の騎士』を読む							
担当者名	瀬戸　直彦							
仏文コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	―	合併科目	―

授業概要

フランス中世・ルネサンス文学について概説を行った後に、古フランス語 （＝中世フランス語）で作品をじっさいに読んでいく。中世語に慣れていれば、ルネサンス期以降のことばの読解も基本的にはそれほど困難ではないからである。テクストとしては、1170年ころに成立したといわれる『イヴァンまたは獅子の騎士』という散文による作品を，写本（ギヨという写字生の書写したもの）と校訂版から読む。最初は担当教員が写本の読み方など一から指導するので，安心して受講されたい。出席者による写本の読解，テクストの解釈が中心である。なお前期の「フランス語史」（おなじ金曜日5限）でもこのテクストを用いるので，両方を受講すれば広い視野が得られるかと思う。

（注意）（1）フランス語既習者であること。
（2）前期の同一時間帯の「フランス語史」の授業とおなじテクスト（その続き）を用いるが，前期のその授業の履修は必須ではない。

授業の到達目標

辞書（電子辞書がインターネットで引ける）や語彙集を使えば、独力で中世フランス語が読めるようにするのが目標であるが、前期に「フランス語史」を受講すればさらに力がつくはずである。

成績評価方法

平常点

科目名	フランス詩　その起源からロマン派まで							
担当者名	川瀬　武夫							
仏文コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	―	合併科目	―

授業概要

まず中世以来のフランス詩の歴史を簡単にたどってから、フランス語による定型韻文詩を原語で読むために必要な韻律法versificationの基本的な規則を平易に解説します。

そのうえで主として19世紀前半のロマン派の作品のなかから、人口に膾炙した代表作をとりあげて、詳細に味読していきます。

定型韻文詩は韻律やリズムといった音声的（＝音楽的）要素も大切ですので、ネイティヴによる朗読や歌曲のCDなども常時

参考にします。

授業の到達目標

詩は分かりにくいものと決めつけている学生諸君も多いと思いますが、なによりも原語で読んで、その言葉の繊細にして優美な響きを聴きとることで、フランス詩の真の魅力に到達することを目標とします。

成績評価方法

●**試験** 60%　授業最終日に教場試験をおこないます（仏和辞書持ち込み可）。
●**レポート** 0%　—
●**平常点** 40%　試験結果に出席状況や授業への積極的な参加態度についての評価を加味します。
●**その他** 0%　—

備考・関連URL

当然のことながら、受講者にはフランス語の基礎的な読解能力が求められます。

科 目 名	フランス小説　アルベール・カミュ『異邦人』を読む							
担当者名	芳川　泰久							
仏文コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス20世紀小説の代表作をフランス語で読むことを通し、フランス文学とフランス的表現に触れ、その後のフランス小説にどのような変化をもたらしたかを学習し、フランス語の能力を高める。

授業の到達目標

平明な散文によるフランス語を読めるようになり、20世紀のフランス小説の重要な転回点を理解する。

成績評価方法

●**試験** 50%　授業中に1回、「達成度確認試験」を行なう。
●**レポート** 0%
●**平常点** 50%　授業中に担当した個所へ対応と出席から総合評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

受講者には、予習が望まれる。毎回、辞書をもって授業に出席すること。
出席については、大学の規定を厳守するので、三分の二以上の出席が必要となる。

科 目 名	フランス思想　デリダの「主権の脱構築」							
担当者名	藤本　一勇							
仏文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

「脱構築」で有名なジャック・デリダは、初期から後期まで一貫して「主権」（la souvraineté）の問題、さらに広くは「権力」や「力」の問題にこだわっていた。その背景には、西洋近代システムの先進国フランスの植民地アルジェリア出身のユダヤ人として、フランス国民国家から、そののちにはフランスを占領したナチス・ドイツ体制から受けた「抑圧」や「排除」の経験があるだろう。いわば近代西洋体制の二重・三重の「力の暴力」を被ったデリダとしては、近代の（そして近代にとどまらない人間社会や世界の存在それ自体がはらむ）「力」・「権力」・「暴力」（これらはドイツ語ではすべてGewaltと一語で表現される）こそ、まっさきに「脱構築」の標的だったであろう。

そうした脱構築にとっての第一のターゲットである「主権」の問いを、「主体」（個人主体であれ国家主体であれ）や「神的なもの」（伝統的な宗教における「神」からコンピューター的な「神」、あるいは近年のサブカルにおける「神」という言葉までをも含む）の根源的な分析を通して、デリダはどのように提出し、批判し、さらには新たな来たるべき世界へ向けて構想しなおしたのか、これを思考していきたい。

デリダの「主権の脱構築」を通して、単に西洋思想の脱構築にとどまらず、現代あるいは将来における様々な問題——たとえば、憲法9条問題、AIによるシンギュラリティ、情報の海に浮かぶ「個人」、生と死を超える「亡霊論」、来たるべきデモクラシー、機械化する「新人類」（ポスト・ヒューマン）、メディア化する「性」、貨幣や人形（ロボット）へのフェティシズムといった問題——を抜本的に考える。

＊西洋哲学からメディア論、情報科学論から政治思想・社会思想、さらには芸術文化論まで、教員が基礎から身近な例を用いながら教えるので、思想や科学や政治学・経済学などの知識がなくても大丈夫です。むしろそういう「色眼鏡」的な知識をもたない学生のほうが歓迎！（かな？）

授業の到達目標

デリダの脱構築思想の基礎を理解し、それが主権の脱構築とどのように結びついているか、さらには現代および未来の高度情報メディア社会・先端テクノロジー社会の問題とどのように関係するかを理解し、「来たるべき世界」（デリダの言葉です）において真に開かれたアイディアと文化を切り開くための土台を身につけること。

成績評価方法

登録者数によって変わります。40名以内ならレポート、それ以上なら「理解度の確認の試験」を行います。出席は取らないので、いわゆる平常点はありません。詳しくは最初の授業のときに話します。

科 目 名	フランス文学の現在　ベケットの小説三部作における主体のアポリアについて							
担当者名	梶田　裕							
仏文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

構造主義以来、主体はそれに先立つ何らかの下部構造（無意識、あるいは経済的・社会的・文化的環境など）の産物であると

いうことが、支配的な考え方となっています。しかし、この主体の二次性には、単に主体が外部の何かに依存しているという以上の、存在論的な問題があります。ベケット以上にこの問題に深く直面した作家はいないように思われます。ベケットの思想は、単に主体が起源ではなく結果であることを主張するだけにとどまりません。ベケットは、主体の二次性がもたらす根源的なアポリアの経験に真に向き合ったと言えるでしょう。ベケットにおける根源的な存在論的テーゼは、「無よりも現実的なものは何もない」というものです。つまり真に現実的な「あるもの」としての存在そのものは未規定の無でしかなく、主体を含め、我々の経験の対象となる通常の「現実」は、存在の無の上に言語によって構築されたフィクションでしかないということです。こうして主体は、存在としての無と実体を欠いたフィクションとしての無との間に捉えられることになります。主体をめぐるこのようなアポリアの経験が、ベケットの散文作品、とりわけ小説三部作（『モロイ』、『マロウンは死ぬ』、『名づけえぬもの』）および『反古草子』のなかでどのように組織され、またその後の作品（1961年の『事の次第』以降の散文作品）のなかでどのような展開を見せるのかを考察することが、本講義の展望となります。

授業の到達目標

20世紀のもっとも重要な作家のひとりの創作の道程を辿ることで、フランス文学および思想のアクチュアルな問題を把握することを目指す。

成績評価方法

講義

- **試験** 0%
- **レポート** 70%　学期末にレポートを提出。分量は3000字以上。主題は、ベケットに限らず、20世紀以降のフランス文学に関わるものであればよい。ただし、講義内で扱う問題系に関連づけることが求められる。
- **平常点** 30%　出席とコメントシート等による授業に対するリアクションを総合的に評価する。
- **その他** 0%

備考・関連URL

フランス語の文献を配布することもあるかもしれないが、フランス語の知識がなくとも理解できるよう配慮する。

科目名	フランス表象文化論　近代的視覚体験とマンガの生成――フランス、アメリカ、日本の事例から							
担当者名	鈴木　雅雄							
仏文コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

マンガはいつ誕生したのでしょうか。答はマンガの定義によって大きく変わってきますが（洞窟絵画をマンガの起源とするような考え方さえあるのですから）、ここ何十年かのうちに、19世紀前半にスイスで活躍したロドルフ・テプフェールをマンガの発明者とする見方が大きな力を持つようになりました。ではテプフェールの作品はどのような点で決定的な発明であり、その発明は近代の視覚文化史のなかでどのように位置づけるべきものなのでしょうか。この講義はそれを考えることから出発し、我々がいまだにそのパラダイムのなかにいる近代的な視覚の体制にとってマンガとは何だったかを考えていこうとするものです。

テプフェールや彼に続いたフランス語圏の「マンガ家」たちを扱ったのち、現代に直接つながるマンガの文法を確立したといえる、19世紀末から20世紀はじめのアメリカのマンガ家へと焦点を移します。この作業を通じて、テプフェールの「発明」やマッケイの革新が、写真や種々の光学機械、映画といった同時代の視覚文化とどのような関係にあったか、またそのようにして成立した視覚体験がポスターや新聞広告、絵本や挿絵などのイメージの変化と何を共有していたか（あるいはいなかったか）を見極めたいと思います。

また我々にとってのマンガの文法がいかなるものであるかを考えるために、現代日本のマンガのなかに、テプフェール以降に生成・確立した視覚的なルールを確認していきますが、したがってこの授業は、19世紀半ば～20世紀はじめのフランス、アメリカと、現代日本を何度も往復するようなものになるでしょう。

授業の到達目標

マンガについて、あるいはより広く我々を取り巻く視覚文化現象一般について、作品としての良し悪し、好き嫌いではなく、それらを支える構造という視点から考えられるようになることが目標です。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 80%　学期末に、授業で扱ったテーマに関するレポートを課する。
- **平常点** 20%　出席点。
- **その他** 0%

備考・関連URL

授業形態はごく普通の講義ですが、レポートはやや書きにくいかもしれません。決まった内容を調べれば書けるといったものではなく、「自分でこの授業の内容に関係があると思ったことを自由に書いてください」といった、いささか投げやりなレポート題目になることが予想されます。どんなレポートが書けそうか、いろいろ考えながら授業を聞いてください。

科目名	フランスの映画・映像論							
担当者名	北村　陽子							
仏文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画を見ることとは、映画館の暗闇の中で、スクリーンに投影された映像を見ることである。その始まりを告げたのは、1895年のリュミエール兄弟によるシネマトグラフの上映であった。映画は本来、教室などで見るものではない。学校で映画を見たりするのは、「おかしい」ことなのである。ゆえに仕方なく、私なりの選択で、見てもらいたい映画のシーンをDVDなどで部分的に紹介する。映画史的な視点も考慮するが、講義時に映画館で上映されているものも取り上げ、授業から映画館への繋がりを産み出せればと願う。

見てもらいたい映画作家としては、リュミエールからメリエス、ヴィゴ、ルノワール、ベッケル、ブレッソン、メルヴィル、カルネ、ロメール、ピアラ、ロジェ、リヴェット、ゴダール、トリュフォー、ドゥミー、ユスターシュ、テシネ、アサイヤス、デプレシャンなど。フランス（語）の映画は、フランス人だけが撮っているのではない。だから、ダルデンヌ兄弟（ベルギー）、イオセリアーニ（ジョージア）、カウリスマキ（フィンランド）、オリヴェイラ（ポルトガル）、ルイス（チリ）、キアロスタミ（イ

ラン)、大島渚、黒沢清といった監督たちも扱うかもしれない。また、フランスにおける外国映画の受容（何よりアメリカ、それから日本）にも、できれば踏み込みたい。写真や絵画との関わりにも言及する予定。かなり独断的な選択をしてしまうかもしれないので、偏りを補うために、教科書として、中条省平『フランス映画史の誘惑』を使う。学期の中程で、この教科書を通読した上でのレポートの提出を求める。

授業の到達目標

フランス映画を見るという体験を通じて、自分なりの映画の嗜好を自分で作ってゆくこと。（フランス語の「cinéma」は、「映画」と「映画館」の両方を意味することを忘れずに。）

成績評価方法

授業内小レポート、出席、平常点、中間レポート、学年末レポートを、総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

＊映画鑑賞中にパソコンやスマートフォンを見ている学生は、以後授業への参加の資格を失う。
＊映画鑑賞の妨げになるので、授業開始後20分以降の入室は認めない。
＊レポートについて
・授業内小レポート
毎週一本、何か映画を見て、それについて100～200字程度の小レポートを、次週の教場で提出すること。見る映画は、自分で選ぶように。フランス映画には限らなくてよい。（フランス語圏の人は、フランス語の映画だけ見ているのではない。それは日本も同じことである。）いずれの小レポートの場合も、冒頭に以下のデータを記すこと。
－日本語タイトル。日本以外の映画は、可能な限りその原題。
－鑑賞した日。映画館で見た場合は、その映画館名。DVDなどの場合は、購入したか借りたか。借りた場合は店舗名や、図書館などの施設名。その他、配信サービス、Youtubeなど、鑑賞方法に関する情報。
－映画の制作年。
－監督名。
－主な出演者名。
・中間レポートと学年末レポート
－しかるべき時期に指示する。

講義

科 目 名	フランス比較文化論							
担当者名	佐々木　匠							
仏文コース	２単位	春学期	火曜日	６時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

「フランス文化」という言葉から連想される事柄は非常に豊かです。それは、習俗であれ、芸術であれ、フランス文化がそれぞれの分野で長い歴史と伝統を持っているからにほかなりません。この授業では、そうした多様なフランス文化のうち、いくつかを具体的に取り上げ、日本文化との比較や、相互の影響関係を考えていきます。また、日本人にとってのフランス体験、フランス人にとっての日本体験がどのようなものであったかも、とりわけ日本の開国から20世紀半ば頃までの文献を中心に見ることで探ってみたいと思います。

なお、「授業計画」に挙げた項目は変更する可能性があります。また、あくまで日本文化との比較を通してフランス文化を考察するのが主目的です。それぞれの分野の歴史を概観することはあっても、徹底的に掘り下げることはしませんのでご了承ください。

授業の到達目標

日本とフランスの文化の比較を通して、フランス文化の知識を得て、日本文化を見つめ直すことを目指します。あえて多くの分野を扱うため、それぞれの議論が浅くなってしまう懸念はありますが、そのなかから興味を持てるものを一つでも見つけ、各自で調査・研究を続けていくための足がかりにしてほしいです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマのいずれかについて、2000字程度のレポートを書いてもらう予定です。
●**平常点**　30%　　出席状況、コメントカード。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	フランスの歴史と社会							
担当者名	佐々木　匠							
仏文コース	２単位	秋学期	火曜日	６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスの社会や文化について書かれた文献を読むと、「複層的」や「多様」といった言葉をよく目にします。事実、文化に関して言えば、フランスのそれは、ケルト文化が、ローマ、ゲルマン、ノルマンなど、いくつもの文化の影響を受けることではぐくまれてきたようです。それらは時代ごとにキリスト教や王政といったものの下で統合され、一つの国家が形成されてきました。この授業では、そうしたフランスの歴史を古代から順にたどっていくことにします。同時にそれは、現代のフランス社会を理解するための手段の一つにもなるはずです。

とはいえ、年号や事実をひたすら列挙しても単調になってしまうでしょうし、何より皆さんは大学に入るためにそういう段階をすでに越えてきたはずです。フランス社会の変遷を追いつつも、背景にある論理や思想、精神、文化にもなるべく注目し、それらがいかに現代のフランス社会につながっていくのかを考えたいと思います。

授業の到達目標

フランスがたどってきた社会の変遷を学ぶことで、そこに根ざす精神、文化、思想などを理解することを目指します。また、歴史を知ることで、現代のフランス社会について関心や問題意識を持つことも目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマのいずれかについて、2000字程度のレポートを書いてもらう予定です。
●**平常点**　30%　　出席状況、コメントカード。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	ドイツ文学概論1　戦後ドイツ文学と「詩学」							
担当者名	金　志成							
独文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「詩学」とは「詩作についての教え」と定義されるように、文学テクストを書くための規範ないしルールブックのようなものです。その歴史は長く、古代ギリシアにまで遡り、18世紀まで「詩学」は書くための規範的な体系として存在しましたが、近代の幕開けとともに解体が始まり、第二次世界大戦以降はいわば〈ポスト詩学〉の時代に突入することになりました。しかし〈ポスト詩学〉の時代においては、「詩学」がついにその役割を終えたというわけではなく、むしろその規範性の喪失によって、絶えず問われ続けなければならない問題として現れることになります。とりわけ戦後ドイツ文学においては「アウシュヴィッツ」や東西分裂国家といった政治的・歴史的な文脈が作家たちの創作を条件づけることになりました。また「詩学」の問題を考えることは、「近代」、「作者」、「テクスト」、「メデイアとしての言語」、「パフォーマンス」、「言説制度」といった、文学研究におけるきわめて重要な諸問題を考えることへと繋がります。本講義では、詩論的なテクストをつうじて戦後ドイツ文学の代表的な作家を知りつつ、現代の文学研究におけるさまざまな理論や方法論を学んでいきます。

授業の到達目標

「詩学」の観点から戦後ドイツ文学史の基本的な流れと代表的な作家を知ると同時に、文学一般にかかわる諸問題を批判的・反省的に思考する姿勢を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　期末レポート。
●**平常点**　40%　　出席およびリアクションペーパー。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ文学概論2　文化史から見るドイツ文学							
担当者名	西尾　宇広							
独文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、18・19世紀にドイツ語で書かれた文学を取り上げ、特定の歴史的文脈を補助線としながら、その作品解釈を試みます。その際もちろん「どのテクストを選ぶか」という点は重要なのですが、ここではむしろそれ以上に「どのようなコンテクストを設定するか」のほうを重視してみたいと思います。

一口に歴史的文脈と言っても、その可能性は無数にあります。いわゆる政治史や経済史の観点から作品を読み解くこともできますが、この授業でとくに意識したいのは「文化史」という視点です。たとえば「法律」の歴史や「電気」の歴史と聞けば、すぐに法制史や科学史の問題だと思われるかもしれません。しかし、法律も電気も決して法学や物理学といった専門領域のなかだけで完結する現象ではありません。ある法律が存在している社会、電気という生活手段が活用できる社会には、そうでない社会とはまったく異なる特有の「文化」が成立している可能性があるのです。このような関心にもとづいて領域横断的な枠組みで展開される研究のことを、現在のドイツ語圏では一般に「文化学（Kulturwissenschaft）」という名で総称しています。

この授業の目的は、過去の文学作品のなかに残されたたさまざまな「文化」の痕跡を探し出し、歴史と文学のあいだをつなぐ複数の回路を開通させることにあります。文化史という視点に立って、数回ごとに文脈（テーマ）を変えながら、現代の文学研究においても大きな潮流をなしている「文化学」の一端に触れていきましょう。

授業の到達目標

近代ドイツ文学についての知見を深め、歴史的な文脈のなかで文学を読み解く意義、そして反対に、文学の側から歴史的状況について考察する意義を実感してほしいと思います。また、ふだんはいわゆる政治史として語られがちな歴史を、文学と文化という切り口からとらえ直すことで、政治的・社会的な出来事と同時代の文化的な現象とが密接に連動していることを理解することをめざします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを提出してもらいます。詳細については授業時に指示します。
●**平常点**　40%　　学期中に数回、リアクションペーパーの記入を求める回があります。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

「ドイツ文学」についての前提知識は必ずしも必要ではありません。むしろ、過去に書かれたテクストを手がかりに、その時代の社会や文化について（あるいは、私たちが生きる現代の社会や文化について）批判的に考察することを厭わない、意欲を持った方たちの受講を歓迎します。

科 目 名	ドイツ言語文化論　Kulturelle Aspekte der deutschen Sprache in Literatur, Kunst und Film							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Die Vorlesung eröffnet den literatur- und mediengeschichtlichen Horizont germanistischer Problemstellungen und bietet anhand von literarischen Texten, Bildmaterial, Filmausschnitten und Musikbeispielen unterschiedliche Einblicke in die deutsche Kultur und ihre Geschichte.

授業の到達目標

Anhand von einfachen literarischen Texten sowie von audio-visuellem Begleitmaterial wird den Studierenden ein facettenreiches Spektrum der deutschen Kultur vorgestellt. Gleichzeitig erhalten die Studenten einen Einblick in die Gegenstände und Methoden der germanistischen Forschung.

成績評価方法

●**試験** 50% Report
●**レポート** 0% no
●**平常点** 50% Häufigkeit der Teilnahme
●**その他** 0% no

科 目 名	ウィーン文化論							
担当者名	藤井　明彦　他／飯田　道子／岩谷　秋美／高橋　順一／山本　浩司							
独文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

魅力的でいてどこか冷たく、華やかでいて死の臭いのする街、中欧の土の匂いとカフェの甘い香り、永遠に「昨日の世界」であるかのような保守性とそれを鋭く切り裂く革新性。このように様々な顔を持つ都市ウィーンの文学・美術・音楽・建築・思想・映画に関して、早稲田の内外の専門家が講義を行う、【ドイツ語ドイツ文学コース主催】の総合講座的科目です。

●ウィーンと言えば、まずは音楽。新年恒例の楽友協会ホールでのニューイヤーコンサートの歴代の映像から「これぞWiener Musik（ウィーンの音楽）」という演奏を厳選して鑑賞します。更にウィーンで活躍した作曲家の代表的存在とも言えるモーツァルトを取り上げて，オペラ『フィガロの結婚』に盛り込まれたモーツァルトの作曲技法を分析します。また音楽に例をとりながらウィーンの世紀末文化におけるユダヤ性（ユダヤ系エリートとユダヤ人楽師たちの）について考えます。●戦後オーストリアはアルペンの小国となりましたが，言語批判の伝統を引き継いで、リアリズム志向の強い西ドイツ文学のテーマ主義に対する対抗軸を形成し、バッハマン、ベルンハルト、ハントケ、イェリネクら注目すべき文体の魔術師を輩出しました。彼らの活躍によって戦後ドイツ語圏文学は国際競争力を維持できたと言っても過言ではありません。文学の分野では、この四天王の仕事を検討して、戦後文学における「特殊オーストリア的なもの」の輪郭を捉える試みをします。●ドイツの哲学者、社会学者テオドール・W・アドルノは学位論文を書いた後，新ウィーン楽派のアルバン・ベルクのもとで作曲を学ぶために1925年にウィーンに渡ります。アドルノの仕事は常に音楽と思想の両輪から成っていました。「ウィーンのアドルノ」というテーマで思想と音楽の結び付きを探ります。●美術の分野では、帝国の斜陽の時代にあたる「ウィーン世紀末美術」を取り上げます。まずは前史として、中世から近代まで、ハプスブルク朝が関わった美術の展開を把握します。その上で、クリムトの画業をたどり、「ウィーン世紀末美術」における絵画の革新性や特徴を理解します。またクリムトと同時代の絵画・建築・工芸を広く眺め，世紀末美術の様々な有り方を見ていきます。●映画の分野では「ウィーン映像モザイク」と題して，音楽の都、華やかな宮廷文化、芸術と恋の街…と様々な表情を見せるウィーンがどのように表象されてきたのかを映像で検証します。音楽と恋の都ウィーンをテーマとする古今の映像を見たあと，ウィーンにつきまとって離れない戦争とナチスの影を検証し，更に現代の映像作家たちの描くウィーンの現在の姿を見ていきます。 このように内容は盛り沢山です。詳しくはWeb上の「授業計画」を参照して下さい。

授業の到達目標

世界的な文化都市ウィーンについての洞察を深める。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 60% 字数は3,000字以上とします。
●**平常点** 40% 出席状況を考慮します。
●**その他** 0% 特になし。

科 目 名	ドイツ比較文化論　ロスト・イン・トランスレーション？							
担当者名	山本　浩司　他／荒井　泰／尾崎　有紀子／梶田　裕／金　志成							
独文コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

比較文化論といえば、異文化間の違いばかりを思い浮かべがちですが、映画、美術、音楽、ポップカルチャー、モード、文学などメディア・タイプの比較も対象となりえます。かつては真正（＝神聖）なオリジナルに対してコピーとしての翻訳やアダプテーションを低く見て「誤訳」や「改竄」があげつらわれました。しかし20世紀末のいわゆる「カルチュラル・ターン」以降、むしろコピーのもつ生産性に注目が集まるようになりました。 本オムニバス講義では、各界の新進気鋭の専門家を迎えて、翻訳やアダプテーションの生産性に着目し、独日、独仏、独伊間の文化交流やメディア・タイプ間のインタラクションの諸相をAV資料もふんだんに使って解明していこうと思います。具体的には、ドイツ歌曲の日本における受容と変容、戦前戦中の日本におけるドイツとイタリアのイメージ、日本詩歌のドイツにおける転生、イタリア美術におけるオーストリアやナチの表象、フランスのヌーヴェル・ヴァーグのドイツにおける受容と変容、独仏におけるホロコースト映画の比較、ドイツの暗黒映画のハリウッドにおける転生、服飾モードにおけるドイツ人ジル・サンダーのポジション、ポップ文学と「コピペ」、ポップソングとパラノイアなどのテーマを取り上げます。

授業の到達目標

他文化との比較から、ドイツ語圏文化についての洞察を深める。
ドイツ語圏文化の具体例をもとに、メディア間の相互作用についての洞察を深める。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 80% レポート
●**平常点** 20% 出席点
●**その他** 0% なし

科 目 名	ドイツ語圏の文学　ドイツ文学に見る戦闘美少女の系譜							
担当者名	山本　浩司							
独文コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

意外かもしれませんが、ドイツ文学は戦闘美少女の宝庫です。なかでも、フランス経由で入ってきた「オルレアンの少女」（もっとポピュラーな呼び名はジャンヌ・ダルク）がもっとも有名で、ゲーテと並び称される18世紀末の文豪シラーのお気に入りでしたし、20世紀演劇の革命児ブレヒトも彼らしいひねりを加えた傑作『屠殺場の聖ジャンヌ』を残しています。ベートーヴェン唯一のオペラ『フィデリオ』は手塚治虫ばりの男装の麗人が出てきてピストル片手に監獄破りをしますし、ロマン派の異端者クライストの『ペンテジレーア』では弓を引くために片方の乳房を切り取ったアマゾネス軍団の処女王が愛する男の胸に噛みついて食べてしまいます。20世紀になると性的魅力を武器にして男どもを次々に手玉に取るロリータ系のファム・ファタールたるルル（ヴェーデキント）のほか、性的倒錯者マゾッホを鞭打つワンダ（少女というにはいささかとうが立っていますが）も忘れられません。さらにファンタジーの世界ばかりではなく、現実の政治の世界でもローザ・ルクセンブルクなど女性闘士も登場しました。こうした魅力的な戦闘美少女たちをふんだんに映像資料を交えながら紹介しようと思います。

講義

授業の到達目標

ドイツの戦闘美少女たちに詳しくなる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　80%　　作品論を書いてもらいます。
●**平常点**　20%　　出席点と毎回の感想文。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語圏の思想　類似性の思考とドイツ近・現代文化・文学におけるその系譜							
担当者名	前田　良三							
独文コース	２単位	秋学期	木曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

「類似性」の問題は、文化学における新たなパラダイムをめぐる議論において再び注目を集めている。「類似性」は人間の思考の基本オペレーションの一つである「比較」の相関項として、古代ギリシア以来現代に至るまで、知の刷新において中心的な役割を果たしてきている。17世紀に西洋の思考伝統における「類似の思考の終焉」を見定めようとしたミシェル・フーコー（『言葉と物』）のテーゼも、こうした文脈において批判的に相対化されつつある。特にドイツ語圏においては、18世紀に「類似性の思考」の再活性化が見られた（啓蒙主義、ロマン派、ヴァイマル古典主義）。さらに世紀末から戦間期にかけて、19世紀的な知の細分化を打破しようとする思考運動において、「類似性」は新たな意義を帯びた（哲学的人間学（カッシーラー、マックス・シェーラー）、ゲシュタルト心理学、精神分析学（フロイト、ユング）、文化社会学・芸術哲学（ジンメル、ベンヤミン、アドルノ、クラカウアー）。本講義では、こうした類似性の思考の系譜を、近代から20世紀前半までたどり、その現代的意味を考察する。

授業の到達目標

近・現代ドイツの文化論・美学思想についての基本的な知識を獲得するとともに、現代の社会と文化と知的に向き合うために必要な問題意識・方法意識の涵養をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　60%　　課題レポートを2回提出してもらう。第1回レポート20%、第2回レポート40%で評価。
●**平常点**　40%　　毎回授業の最後にリアクションペーパー兼出席票を提出してもらい、それに基づき平常点を評価。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ドイツ語圏の文化　モーツァルトのオペラを探求する							
担当者名	藤井　明彦							
独文コース	２単位	秋学期	木曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

モーツァルト（1756-1791）の一連の作品によって，オペラはバロック・オペラから近代オペラへと脱皮していったわけだが，その後の，例えばワーグナー（1813-1883）やリヒャルト・シュトラウス（1864-1949）に比べて，モーツァルトの作品は一般的に親しみ易く，また実際に上演の機会も多い。しかしその音楽の造り方，登場人物の造形を詳しく眺めてみると，天才的なひらめきが実に的確な手段によって周到に実現されているのが判る。

半期15回の授業の枠組の中では，多くの作品を取り上げることはできないし，すべきでもないだろう。最も見ごたえ・聴きごたえのある2作品―『フィガロの結婚』（1786年初演）と『ドン・ジョヴァンニ』（1787年初演）―を深く詳しく掘り下げたい。この2作品はモーツァルトのオペラの中で最もイロっぽいオペラであり，オペラはそもそもイロっぽくなければ面白くない。しかしその奥には「人を愛するとはどういうことなのだろう」という人間存在に関する根本的な問いが潜んでいる。また「笑い」もこの2作品に共通する要素だ。喜劇ではないが何処となく可笑しい。よく考えると相当に可笑しい。快活な笑いのうちにメランコリーと官能が明滅し，死とエロスが舞台を覆う。

毎回30分前後DVDやBlu-rayを鑑賞した後で，テキスト，音楽，演出等の解釈をする。何十種類も出ている映像の比較も（楽しみながら）行う予定。

授業の到達目標

音楽文化（特にオペラ）に関する理解を深める

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　50%　　分量は2,000字から3,000字とする予定です
●**平常点**　50%　　出席状況を考慮します

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	ロシア語学　実践ロシア語トレーニング							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法を終えた学生に対して、ロシア語を実践的に運用するのにあたって有益と思われる知識を伝授する。とくに実践的にロシア語を使う場合に最新の注意を要する不完了体と完了体の使い分け、日常的なロシア語の慣用表現を押さえたうえで、詩の暗唱などに挑戦する。

授業の到達目標

ロシア語を実際の場で使えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア語史							
担当者名	丸山　由紀子							
露文コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀初頭までのロシア語の歴史を概説します。現代ロシア語を学ぶ際に、不規則なものとして丸暗記しなければならなかった文法事項も、その歴史的由来を知れば、理解が深まると同時に興味深いものへと変わるはずです。

授業では、ロシア語史、現代ロシア語を理解するための前提知識として不可欠なスラヴ祖語および古代スラヴ語について、かなりの時間を割いて説明します。その際、現代ロシア語と照らし合わせながら解説しますので、現代ロシア語の文法をよりクリアーに理解できるようになるはずです。

適時、古代スラヴ語および中世ロシア語のテクストを読み、授業で習ったロシア語の歴史的変化が実際の文献でどのように反映されるかを、実例を見て確認します。

授業は言語そのものに生じた変化（歴史文法）が中心になりますが、必要に応じて、文化的・歴史的背景に関する解説も行います。

ロシア語史を理解するためには、現代ロシア語の確かな知識が不可欠です。文法に自信がない人は、授業前に一通り復習しておいてください。

歴史的変化を追っていく授業なので、積み木が一つでも抜けてしまうと理解が難しくなります。授業には毎回出席するよう心がけてください。

以下の授業計画はあくまでも目安です。毎回のレスポンスシートなどで受講者の理解度をチェックしますので、それにより授業進度、扱う内容に変更が生じる可能性があります。

授業の到達目標

ロシア語の歴史を学ぶと同時に、歴史的変遷を知ることで現代ロシア語の文法事項等をより深く理解することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　学期末にレポート提出があります。講義内容の正確な理解とその応用力を確認します。
●**平常点**　50%　　毎回の授業で、その日の授業で得られた新たな知見、興味を持った点などをレスポンスシートに記入していただきます。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ロシア中世文学　ロシア的伝統の形成とロシア中世文学							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀におけるロシア文学の爆発的開花は、プーシキン、ゴーゴリ、ドストエフスキイ、トルストイ、チェーホフといった大作家の名前とともに記憶されるが、それを準備した中近世ロシア文学の独自の伝統が存在したことを忘れてはならない。それは、キリスト教正教の価値観が支配的でビザンツの影響が強い記述文学と、キリスト教正教の枠内にとどまらない独自の文化的伝統が息づいている口承文芸の2つの軸からなっており、両者の併存が中世ロシア文学の特徴であった。ロシアの文字文化は、10世紀末のキリスト教受容にはじまったが、両者が融合を遂げるのはようやく17世紀のことであり、ピョートル改革を経験した18世紀にはおもに西欧の影響下でロマノフ家の宮廷を中心に今までの時代と異なる性質の文学が開花した。

この授業ではロシア中世文学の伝統を比較文学的な考察をも交え、イコノロジー、民俗学、歴史学などの関連諸分野にも目を配りながら18世紀までのロシア文学の流れをたどってゆく。

授業の到達目標

ロシア中世文学を成立させた宗教的なファクター（ロシア正教の伝統）に十分な注意を払いながら、11世紀から17世紀にいたる文学的伝統の特徴を、時代を追って把握し、前近代ならびに近現代ロシア文化の基層部分にたいする理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　テクストと向か合えているか、テクストと向き合うことを通じて自分の考えを持ち得ているか、それを的確

な日本語で表現できているかを精査し、評価する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　出席回数、授業中のテクストの音読（音読を聞けばどのくらい理解できているかがわかる）、授業の感想（時々書かせる）等をふまえて、総合的に判断する。
●**その他**　0%　　その他の評価基準はない。

備考・関連URL
特になし。

科 目 名	ロシア現代文学							
担当者名	神岡　理恵子							
露文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
この講義では、戦後のロシア文学の流れを理解し、読解を通して作品を読む力をつけていくことを目指します。まずソ連時代の文学状況（社会主義リアリズム、亡命文学、地下文学など）を把握した上で、戦後の「雪解け」期の文学を現在の視点から捉え直し、以降、新しく生まれていった文学の傾向を概観します。当時公式に認められずアンダーグラウンドで独自に活動した作家たちの創作活動はとりわけ重要であり、彼らの存在なしには成立しえなかった現代ロシア文学を、当時の文化・社会状況も踏まえて読み直していきます。近年、翻訳で親しめる作品も増えているため、多様化した最新の動向まで扱います。
ロシア文学やロシア語の知識は不問、翻訳テクストを使用します。受講生は授業で扱う作品（毎回授業で用意します）をあらかじめ読み、各自積極的な読解を実践してもらいます。

授業の到達目標
戦後ソ連の時代から現在までのロシア文学の流れと基礎知識を習得し、作品を読解する基礎を身に着けることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　該当なし
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　50%　　講義内で扱う作品の読解を毎週レビューしてもらいます。出席は3分の2以上必要となります。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
作品の読解、レビューを通して積極的な授業参加を求めます。

科 目 名	ロシア文学と現代1　『罪と罰』から現代へ：研究のファーストステップ							
担当者名	坂庭　淳史							
露文コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
この欄を見てくれている人の多くは、きっとドストエフスキーやトルストイの小説を読んだことがあるでしょう（あるいは挫折したかもしれません。どうか心配しないでください。「ロシア文学好き」はもちろんですが、「これまでロシア文学に全く触れたことがない方」も歓迎します）。また、ロシアのバレエや音楽、演劇、サーカスに魅せられた人、チェブラーシカのかわいらしさがたまらない、という人もいるかもしれません。しかし、それらを生み出した「ロシア／ソヴィエト」あるいは「ロシアの文学、文化／精神性、世界観」とはどんなものか？　とたずねられたらどうでしょう？

「近くて遠い国」といわれて久しいロシア。この講義では文学作品の中に現れる主人公たちに注目しながら、「ロシア」を現代、現代日本に引きつけてより身近なところからも考えていきます。
毎回、映像資料（映画、アニメ、バレエ、ドキュメンタリー…）を駆使して、文学、文学理論、思想、芸術、歴史、宗教、アイデンティティ、コミュニケーションなどさまざま視点からの最新事情も含めたロシア／ソヴィエト文化の魅力を紹介します。それらが現代においてはどんな意味を持つのか、教室で一緒に考えていきましょう。
この授業でのロシア世界への入り口は、ドストエフスキーの『罪と罰』です。
「ロシアに関する予備知識は全くない受講者もいる」という前提で授業を進めます。ロシア好きの意見はもちろんですが、既存の枠にとらわれない新鮮な意見も歓迎します。

授業の到達目標
芸術や文化に対するアプローチの方法を学びながら、ロシア／ソヴィエト文学の根底にある深い精神性や、現代におけるアクチュアリティ、また日本とロシアの意外な親近性を理解してください。

成績評価方法
●**試験**　60%　　最終授業での試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席、授業への参加度
●**その他**　0%

備考・関連URL
毎回、出席カードの裏に講義についての感想や意見、質問を書いてもらい、いくつかのカードについてはその次の講義で紹介します。ひとつの教室からオリジナリティのある、たくさんの考えが生まれてくることを期待しています。

科 目 名	ロシア文学と現代2　「内容」や「テーマ」のみならず、ロシアの文学作品における「表現」「形式」についても考えていきましょう。							
担当者名	八木　君人							
露文コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
春学期に坂庭先生が担当されている「ロシア文学と現代1」を引き継ぐ科目です。「1」を履修しているのが理想ではあるもの

の、履修していなくても大きな問題はありません。
「2」のほうは、そのときどきの時事ネタや現代文化への影響を視野に入れつつ、「ロシア文学」と「現代」との接点を示しながら、19世紀のロシア文学史の概観について講義していく授業だと考えてください。もっとも「文学（史）」とはいえ、この授業で採り上げるのは、主に「散文」や「小説」です。
ロシア文学の古典は、たんに「古典だからえらい」、「世界的に有名な作品だから教養として知っておくべし」ということではもちろんなく、そこで語られている内容や採り上げられているテーマの多くは、恐ろしいほど現在にも通じるものです（主に2回目から7回目の講義は、こうした（ある意味ではベタな）観点からロシア文学作品をみていきます）。
一方、われわれはすでに「小説」という制度ができあがっている世界に生きているわけですが、その制度は、歴史的に生成してきたものであることはいうまでもありません。メディア環境の変化に伴って「表現」「形式」がかわっていくというのも当然のことです。この授業でいう「文学史」はそういった問題意識を含んでいます（主に8回目から14回目の講義は、こうした観点から作品をみていきます）。ロシアの文学の歴史において、いわゆる「小説」というのがどのように生成・発展していくのか――そうした観点で文学史を考えることは、必然的に、現在、流通している文学についての観念を相対化・歴史化することを伴うはずです。科目名に含まれている「現代」にはそうした意味も含意しています。
また、講義で扱うのは「文学」が中心となりますが、適宜、映画、美術、演劇、音楽といったジャンルにも触れていきます。

授業の到達目標
19世紀を中心としたロシア文学作品やロシア文化についての適切な知識を得て、それらに対して、自分なりの、それでいて独りよがりでない、適切なイメージを持てるようになることが目標です。

成績評価方法
●**試験**　50%　　最後の授業内で、理解度の確認テストを行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　大学の規定により、3分の2以上の出席は必須です（出席数がそれに満たない人は評価の対象になりません）。毎回、出席カードの裏に講義についての感想や意見、質問を書いてもらいます。いくつかのカードについてはその次の講義で紹介しますので、面白いコメントや質問を寄せてください。
●**その他**　0%

備考・関連URL
「ロシア」も「文学」も、残念ながら、おそらく、どちらもそれほどポピュラーなものではなくなってしまいました（もちろん、たくさん読んでいる方もいらっしゃるでしょう）。しかし、「ロシア」も「文学」も、そして「ロシア文学」も、とても面白いものだと思うので、まだロシア文学作品を読んだことがない方は、この授業を契機に、個々の作品を読んでくれればと思います。

科 目 名	ロシア芸術の現在1							
担当者名	八木　君人　他／安達　紀子／日向寺　康雄／村山　久美子							
露文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
ロシアは文学のみならず、音楽、美術、映画、演劇などの芸術諸ジャンルにおいてもきわめて魅力的な活動を続けている国です。本講義の目的は、これら多様なロシアの芸術諸ジャンルの最前線の状況・活動について紹介していくことです。春学期に行われるこの「ロシア芸術の現在1」では、具体的には演劇、ポップス、バレエ、映画などについて、その分野に精通した講師たちが講義を担当していきます。

授業の到達目標
ソ連時代を含めた、広い意味での「ロシア芸術の現在」について知識を得た上で、それぞれの分野において「ロシア芸術の現在」についての自分なりのイメージをもてるようになることが目標です。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　担当教員それぞれが出す課題の中から一つを選択し、2000字程度のレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。但し、大学の規定である、授業回数の3分の2以上の出席は必須になります。
●**その他**　0%

備考・関連URL
ロシア文化に関する積極的な関心を持って受講してもらいたいと思います。

科 目 名	日露比較文化1							
担当者名	源　貴志　他／上野　理恵／桜井　厚二／杉浦　かおり／塚原　孝							
露文コース	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
ロシアは古くから、最も日本に近いヨーロッパ国家として日本と密接な文化的関係を保ってきた。本講義はロシア革命とソ連崩壊という二つの歴史的大転換を経た現在から、新たな視点で日本とロシアの文化的交流をとらえなおそうとするものである。授業は複数教員により様々な日露交流の局面に光をあて、「近くて遠い国ロシア」をあたりまえの隣国として認識できるようにし、そしてまた二つの国の文化的交流がじつはいかに深く広いものであるかを認識し、そこに心血を注いだ先人たちの努力について学ぶことを目的とする。
具体的に扱うテーマは、ロシア映画と日本・日本映画とロシア、日本とロシアの社会制度と宗教、日本語・ロシア語それぞれのリズムから「韻文」の「翻訳」の問題、日本近代文学におけるドストエフスキイ受容、ヨーロッパにおけるジャポニズムとロシアにおけるジャポニズムの差異と共通性、などとなる。

授業の到達目標
日本とロシアの文化的相互交流の歴史について、その概観と注目すべきトピックの詳細を知る。
それらの理解と知識を手がかりにして、異文化交流について広範な知見を得るとともに、柔軟な発想を養う。

成績評価方法
レポート：100%　各講師が提示する題目から任意のものを選び、レポートを提出してもらいます。これと出席状況を勘案

して総合的に評価します（出席回数3分の2以上が、レポート評価の前提条件となります）。

備考・関連URL

ロシア文化がとくに近代の日本文化にいかに大きな影響を与えているか、すでに関心のある人も、予備知識のまったくない人も、ともに積極的に履修してくれることを期待します。ロシア語の知識は必要としません。

また、内容的には秋期の「日露比較文化2」と合わせて全体像が描けるように考慮されていますので、両方ともに履修することを強く推奨します。

科目名	日露比較文化2							
担当者名	源　貴志　他／小俣　智史／高柳　聡子／南平　かおり／籾内　裕子							
露文コース	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは古くから、最も日本に近いヨーロッパ国家として日本と密接な文化的関係を保ってきた。本講義はロシア革命とソ連崩壊という二つの歴史的大転換を経た現在から、新たな視点で日本とロシアの文化的交流をとらえなおそうとするものである。授業は複数教員により様々な日露交流の局面に光をあて、「近くて遠い国ロシア」をあたりまえの隣国として認識できるようにし、そしてまた二つの国の文化的交流がじつはいかに深く広いものであるかを認識し、そこに心血を注いだ先人たちの努力について学ぶことを目的とする。

具体的に扱うテーマは、二葉亭四迷による翻訳『あひびき』の持つ意義の解明、明治・大正の女性と来日ロシア人との文化交流、ロシア思想と日本、日本とロシアで理想とされる女性像、などとなる。

授業の到達目標

日本とロシアの文化的相互交流の歴史について、その概観と注目すべきトピックの詳細を知る。

それらの理解と知識を手がかりにして、異文化交流について広範な知見を得るとともに、柔軟な発想を養う。

成績評価方法

レポート：100%　各講師が提示する題目から任意のものを選び、レポートを提出してもらいます。これと出席状況を勘案して総合的に評価します（出席回数3分の2以上が、レポート評価の前提条件となります）。

備考・関連URL

ロシア文化がとくに近代の日本文化にいかに大きな影響を与えているか、すでに関心のある人も、予備知識のまったくない人も、ともに積極的に履修してくれることを期待します。ロシア語の知識は必要としません。

また、内容的には春期の「日露比較文化1」と合わせて全体像が描けるように考慮されていますので、両方ともに履修することを強く推奨します。

科目名	ロシア思想史　ロシア、そのアイデンティティ、個と普遍							
担当者名	坂庭　淳史							
露文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアと言えば「文学」、そう思っていませんか？　多くの方がドストエフスキーやトルストイの作品を読んだことがある（少なくとも知っている）けれど、ロシアの「思想」となると、具体的なイメージがわいてこないのではないでしょうか？　実は、ロシアにおいて「思想」と「文学」は密接に結びつきながら発展してきました。ほとんどのロシアの文学者の陰には影響を与えた思想家がいますし、「文学」をはぐくんだのが「思想」であるとも言えます。

この講義では、ロシアが東方正教を国教として受け入れた10世紀末から現代まで、その思想の歴史を概観していきます。具体的にはロシアのアイデンティティ、宗教、社会、ロシアとヨーロッパの関係（ヨーロッパからロシアへのまなざし）、個と全体・普遍といったテーマを中心に取り上げ、その周辺にも目を向けていきます。チャアダーエフ、ソロヴィヨフ、ベルジャーエフといった思想家とともに、プーシキン、ドストエフスキー、トゥルゲーネフ、トルストイ、チェーホフなどの作家たちも登場することになるでしょう。

「ロシアに関する予備知識、ロシア語の知識は全くない受講者もいる」という前提で授業を進めていきます。ロシア好きの意見はもちろんですが、既存の枠にとらわれない新鮮な意見も歓迎します。

授業の到達目標

思想史を全体的にとらえることによって、文学をはじめとする芸術作品について表面的な意味だけでなく、その根源にある深い精神性を理解していただこうと思います。

成績評価方法

- **試験**　60%　　最終授業での試験
- **レポート**　0%
- **平常点**　40%　　出席、授業への参加度
- **その他**　0%

備考・関連URL

授業の始めに出席を取ります。また、毎回、出席カードの裏に講義についての感想や意見、質問を書いてもらい、いくつかのカードについてはその次の講義で紹介します。ひとつの教室からオリジナリティのある、たくさんの考えが生まれてくることを期待しています。

科目名	ロシア文化論　ロシア・アヴァンギャルド：映画×美術×フォルマリズム×バフチン×実験音楽							
担当者名	大石　雅彦							
露文コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、ロシア・アヴァンギャルド芸術と呼ばれている一群の芸術を扱います。この芸術運動は表現主義、イタリア未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、バウハウスとともに、20世紀前半の芸術革命を形成するものです。

ロシア十月革命前後の激動期に展開されたロシア・アヴァンギャルド芸術は、他の国のどの芸術運動にもみられない、ダイナミックなうねりと壮大な規模を有しています。詩（アクメイズム、立体未来主義）、小説（オーナメンタリズム）、文学・文化理論（フォルマリズム、バフチン）、映画（ヴェルトフ、エイゼンシテイン）、美術（マレーヴィチ、タトリン、ロトチェンコ）、建築（形式主義、構成主義）、演劇（エヴレイノフ、メイエルホリド）、ダンス（ゴレイゾフスキイ、フォレッゲル）、音楽（ショスタコーヴィチ、ルリエ）、アジ・プロ芸術、街頭ページェント、等々と、その裾野はかぎりなく拡がっています。

メディア・ジャンルを軽々と横断し、同時多発的な芸術革命をめざしたロシア・アヴァンギャルドの軌跡には、20世紀芸術はもちろん21世紀の芸術を考える際にも役立つヒントが、数多く潜んでいます。

授業では、講義と並行して、できるかぎり多くの作品に触れてもらうつもりです。

受講に際しては、ロシア語の知識はとくに必要ありません。

先にあげた人名、流派、術語のうち、ひとつでも知っている受講者には、意味ある講義となるでしょう。また、ひとつも知らないという受講者は、新たな世界感覚を獲得する可能性を手に入れることができるかもしれません。

■

毎回時間の許すかぎり、ロシアにとどまらず、実験的な美術作品・新作映画を紹介してゆきます。

授業の到達目標

実験芸術の基礎的構造の理解

成績評価方法

●**試験**　50%　　最後の授業で試験によって理解度を確認します
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席・レビューシート
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	ロシア芸術の現在2							
担当者名	八木　君人　他／上田　洋子／大島　幹雄／神岡　理恵子／長井　淳							
露文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは文学のみならず、音楽、美術、映画、演劇などの芸術諸ジャンルにおいてもきわめて魅力的な活動を続けている国です。本講義の目的は、これら多様なロシアの芸術諸ジャンルの最前線の状況・活動について紹介していくことです。秋学期に行われるこの「ロシア芸術の現在2」では、具体的にはサーカス、クラシック音楽、美術、パフォーマンス芸術などについて、その分野に精通した講師たちが講義を担当していきます。

授業の到達目標

ソ連時代を含めた、広い意味での「ロシア芸術の現在」について知識を得た上で、それぞれの分野において「ロシア芸術の現在」についての自分なりのイメージをもてるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　担当教員それぞれが出す課題の中から一つを選択し、2000字程度のレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。但し、大学の規定である、授業回数の3分の2以上の出席は必須になります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ロシア文化に関する積極的な関心を持って受講してもらいたいと思います。

科 目 名	ロシア民衆文化論　ロシア民衆の世界観と死生観への展望							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは謎の隣国、大国であるという先入見が日本には流布しているように見える。しかし、ロシア文化に親しみ、彼らの生活を成り立たせている世界観や善悪のバランス感覚に洞察が効くようになると、ロシア人もまた日本人と同じ人間であり、日本人の世界観とはかなり異なるものではありながら、同じような喜怒哀楽、同じような人間的な感情をもって暮らしていることに気づく。このようなロシア民衆独自の世界との対し方は、長い時間をかけて形成されたが、この授業では、その形成過程に配慮しながら、ロシア民衆の世界観の仕組みを明らかにしたい。

授業の到達目標

ロシアの歴史に十分配慮しながら、ロシア人の生活の基層をなすロシア民衆文化への理解をはぐくむ。

成績評価方法

●**試験**　70%　　テクストと向き合えているか、テクストと向き合うことを通じて自分の考えを形成できているか、自分の考えを的確な日本語で表現できているかを精査し、評価する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　出席の状況、授業中の音読（音読を聞けば理解の度合いはわかる）、授業の感想等（時々書かせる）によって総合的に判断する。
●**その他**　0%　　その他の評価基準はない。

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	演劇研究入門							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

演劇を研究するための初歩を学ぶ。

基本的には、東洋と西洋の古典演劇について知ってもらうことを中心とするが、ミュージカルから現代演劇までを視野に収めた上で、演劇とはなにか、演劇を研究するとはいかなることか、をめぐって考察する予定である。

ギリシャ悲劇から近代劇、中国の京劇まで、日本では能楽・文楽・歌舞伎を中心に、いずれも戯曲のあり方や、それを肉づけする様式、伝承と変容について、基本的な知識を身につけることをめざす。

さらに、演劇の構成要素として欠くことのできないのは、観客である。演劇について考察することは、必然、観客について、すなわち我々自身について考察することにもつながる。

授業の到達目標

演劇についての諸条件を学ぶことを通して、演劇という文化がいかに多岐にわたって偏在しているかを知る。

あわせて、演劇を学ぶための基本的な条件について知見を広げる。

講義

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本演劇史1							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の演劇の歩みを概観する。日本の演劇史は、古代から近現代までの演劇ジャンルが重層的に現存しているところに特色があるとされる。

だが、たとえば今日の能は、中世の能と全く同じわけではなく、現在の宝塚と大正時代の草創期宝塚は、およそ異なるジャンルといってもいいほどに違う。

あらゆるジャンルは、それが最前衛であった時代の記憶をとどめながら、伝承の過程で変容しつつ、現在に至っている。

この面倒くさい歴史を解きほぐしながら、今日に至る道筋をともに考えてゆく。

春期は、演劇の濫觴から人形浄瑠璃までを予定している。

授業の到達目標

現在は歴史の果てであると同時に、歴史は現在の目によって再編成される。その関係を、演劇という現在性から離れられない事例を題材として認識すること。

あわせて、日本の文化史のなかにおける演劇の占める位置を認識すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本演劇史2							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の演劇の歩みを概観する。日本の演劇史は、古代から近現代までの演劇ジャンルが重層的に現存しているところに特色があるとされる。

だが、たとえば今日の能は、中世の能と全く同じわけではなく、現在の宝塚と大正時代の草創期宝塚は、およそ異なるジャンルといってもいいほどに違う。

あらゆるジャンルは、それが最前衛であった時代の記憶をとどめながら、伝承の過程で変容しつつ、現在に至っている。

この面倒くさい歴史を解きほぐしながら、今日に至る道筋をともに考えてゆく。

秋期は、歌舞伎の濫觴から現代演劇までを予定している。

授業の到達目標

現在は歴史の果てであると同時に、歴史は現在の目によって再編成される。その関係を、演劇という現在性から離れられない事例を題材として認識すること。

あわせて、日本の文化史のなかにおける演劇の占める位置を認識すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	西洋演劇1　演劇の歴史							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシアから現代に至るまでのヨーロッパの演劇の歴史のエッセンスを半年間に凝縮して講義する。演劇の歴史は、おもしろい戯曲とすぐれた劇作家の歴史だけではない。演劇はどの時代にあっても生きた芸術であり、観客の感覚（とりわけ視線）と理性に訴えかける芸術であり、もっとも人間らしく社会的な芸術であり、19世紀に至るまではもっとも社会的な影響力の強いメディアでもあった。それゆえ、演劇をときに擁護し、ときに規制し、ときに利用しようとした権力との政治的な関係も見過ごすことができないし、国の盛衰と演劇の盛衰とはしばしば一致を見せている。舞台機構や照明など、上演を支える技術的条件が進歩するのに応じても、演劇はその姿を変えていった。演劇の歴史のダイナミズムを感じとってもらいたい。

演劇学を究めたい学生にも、一般教養として演劇を知っておきたい学生にも、受講をお薦めしたい。西洋演劇2と内容は連続しておらず、西洋演劇1のみを受講することは充分に可能であるが、合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

・西洋演劇の歴史の基本知識を身につける。
・演劇が歴史上、生み出してきたすぐれた才能と作品を知り、その特徴を理解する。
・演劇を特徴づけている美学的規範、文化的生産条件が時代と地域に応じていかに変化するのかを理解する。
・所与の社会において、演劇がいかに位置づけられ、実践され、受容されてきたのか、政治的・社会的な変化が演劇にいかなる影響を与えてきたのかを知る。

成績評価方法

授業参加と試験によって総合的に評価する。

科 目 名	西洋演劇2　現代演劇の理論							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代アートは概して分かりにくいと言われる。「ポストドラマ的」と形容される現代演劇もまた、その例外ではない。戯曲のない演劇、台詞のない演劇、ダンスのような演劇、劇場以外の場所で行われる演劇、俳優のいない演劇、たった一人で経験する演劇・・・、今日では演劇の意味は拡大し、演劇らしからぬ演劇が大きな存在感を示している（小説における書物と読者の関係、映画におけるスクリーンと観客の関係とちがって、演劇においては見る者と見られるものとの関係が固定されていないことがその一因だといえるだろう）。そんな現代演劇を見て、読み、理解するために必要になると思われる理論的な知識を、検討に値する具体例（一般的に高く評価されている戯曲・作品記録映像、演劇論・演劇理論）を通じて講義する。 演劇学を究めたい学生にも、一般教養として演劇を知っておきたい学生にも、受講をお薦めしたい。西洋演劇1と内容は連続しておらず、西洋演劇2のみを受講することは充分に可能であるが、合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

・西洋演劇理論の基本知識を身につける。
・テクスト、空間、身体、社会との関係の観点から演劇の特徴を理解する。
・演劇を規定してきた美学的規範、社会的生産条件を理解する。

成績評価方法

授業参加、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	日本の現代演劇							
担当者名	高橋　宏幸							
演映コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「日本の現代演劇」を考えるために、いくつかの軸をもって日本の現代演劇の位置を措定していきます。ひとつは、明治以後の日本の近代演劇の歴史です。狭義では日本の現代演劇は1960年代以後のものと思われていますが、そもそも、そのような見方がなぜ発生したのか。その歴史軸を検証します。ふたつめは、同時代の海外での演劇の動向も視野にいれます。多くの地域で同時代的に現れたいわゆる実験演劇の枠内には否が応でも日本の演劇も入っていました。国際的な関係のなかで、日本の演劇も見ることがあります。最後に演劇をいわゆる批評理論をおいて論じます。国家論、ポスト・コロニアリズム、クィア・スタディーズなど、日本の現代演劇を考える上で必須のものです。日本の現代演劇の現場で理論や歴史、海外の作品との同時代性などは看過されていることが多いことを思えば、状況を説明するだけでもいいような気もしますが、それらが本来、アートを成立させるものであるという前提をもとに講義します。いわば、時代の表象や世相の反映として日本の現代演劇があるだけではないという視点を作るのが授業の趣旨です。映像を見せて解説したり、たんに歴史の講義をしたりといった授業にはならない予定です。

授業の到達目標

俗説的に語られる新劇、アンダーグラウンド演劇、第一世代～第三世代の世代論的演劇観、静かな演劇などなど、それらの用語が作ってしまったわかりやすい演劇史の見取り図を解体していくことによって、歴史という磁場が形成されたことの目的と意図を批判的に検証する。とくに戦後以後の演劇の歴史や巷に溢れるそれぞれの年代についての演劇の文化論的な本を批判的に考える。もちろん、それは現代において盛んであるtwitter界隈であふれる言説、とりあえず舞台を見たらほめるという現象への批判につながるものと思います。少なくとも歴史や理論の基底をおいて、はじめて演劇と批評が成り立つことを考える。それを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　50%　　期末レポートを書いていただきます。予定では4000字以上を考えています。レポートの内容としては基本的に独創性とそれを支える文献調査などがきちんと行われているかを評価の基軸とします。

●**平常点**　50%　　みなさんに毎回いくつか質問をしますが、必ず積極的な発言をしてください。またフィードバックシートも時々書いていただきます。
●**その他**　0%　　とくにないです。

科 目 名	テクストと演出							
担当者名	奥　香織							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今ではごく自然に用いられる「演出」という言葉／概念は、19世紀末のヨーロッパで誕生したものです。それ以前は、例えばモリエールのように作家兼俳優である人物が舞台創造の現場をまとめていたり、コンメディア・デッラルテのように一座の座長が統括したりすることで舞台が作り上げられていました。それが、1900年前後の世紀転換期から、次第に舞台作りを専門的に行う演出家という職分が確立されていきます。その後、「演出」は黄金時代を迎え、演出家たちは同時代のテクストだけでなく過去の作品の「読み直し」も積極的に行い、古典と称される作品の新たな解釈をも提示していきます。

この授業では、まず「戯曲／演劇テクスト」の特異性と「演出」概念の誕生・発展を概観し、その後、古典作品や現代の演劇テクストがどのような構造をもち、どのように演出／舞台化されているのかを具体的にみていきます。また、時代と共に変化し続けるテクストと演出の関係についても検討していきます。

授業の到達目標

演劇のテクストと演出、その関係性についての基礎的な知識を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　授業で学んだ方法論や内容を踏まえ、自分の考えを述べているかどうかを評価する。
●**平常点**　40%　　出席と受講態度を重視する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	舞踊史　舞踊と身体							
担当者名	國吉　和子							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

舞踊の歴史とは、果たしてどのような歴史なのでしょうか。舞踊の歴史といっているものは、私達の身体がこれまでどのように意識されてきたのかの変遷ではないでしょうか。身体に対する私達の意識は、その時代の文化や政治、宗教などによって大きく左右されてきました。現代でも同じことが言えます。

この講義（半期）では、古代ギリシャから現代までという広い範囲を視野にいれています。また、内容は西洋における流れを主にお話しすることとなります。身体意識の比較という視点から、日本のことにも触れますが、十分な時間はとれません。

とにかく、舞踊という表現をより広いコンテクストの中に一度溶かし込んで、捉え直してみたいと思います。

授業の到達目標

身体意識の歴史的背景を理解したうえで、現代の舞踊をはじめとする身体表現を、より豊かに鑑賞できるようになることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　6月末～7月初めに課題を発表する。詳細はその時告知する。
●**平常点**　40%　　出席日数（やむを得ず欠席する場合は、各自欠席届を提出すること）＋　リアクションペーパー（毎週提出してもらう内容から授業への積極性を判断する。）
●**その他**　0%

備考・関連URL

事前・事後の学習内容については、受講者数によって判断させていただきます。

科 目 名	映画研究入門							
担当者名	武田　潔							
演映コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

今日の大学生にとって映画は娯楽として、また芸術として、きわめて身近なメディアの一つである。しかし、その親しみ易さにもかかわらず、あるいはまさにそれゆえに、映画を研究対象としてとらえることについての意識は概ね希薄であり、またそうした志向を持つ者でも基本的な知識や姿勢を身に付けている者は稀である。本科目は、主に1年生を対象とし、平易な授業内容を通して、映画の歴史や特性、映画研究の主要な分野などについて概説する。

授業の到達目標

映画に関心のある学生や、あるいはより専門的に映画の研究を志す学生に、映画を理解し、探究するために必要な基礎知識や、考え方や、勉学姿勢を修得してもらうことが本科目の目的である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　45%　　課題に合致したレポートであり、かつ受講者自らの考えが明瞭に述べられていること
●**平常点**　45%　　出席状況が良好であること
●**その他**　10%　　授業で紹介した映画上映や催しなどについて積極的に参加していること

科 目 名	映画史1　無声映画史（1）							
担当者名	小松　弘							
演映コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画はどのようにして生まれたのか、映画前史から映画の発明を経て、いわゆる初期の映画に至る過程を実際の映像を見ながらわかりやすく説明します。

授業の到達目標

映画の起源に何があったのかを理解し、映画史を批判的に考える思考を養います。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　50%　　出席を重要視します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	映画史2　無声映画史（2）							
担当者名	小松　弘							
演映コース	2単位	秋学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

第一次大戦以降、映画はどのように変化したのか、各国映画史におけるトーキーの出現までの過程を実際の映像を見ながらわかりやすく説明します。

授業の到達目標

無声映画史のディテールを調査しながら、映画史を批判的に考える思考を養います。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　50%　　出席を重要視します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	映画理論1							
担当者名	武田　潔							
演映コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

表象作用としての映画の特質がどのようにとらえられ、論じられてきたかを、映画理論史の主要な流れに即して概観する。映画が誕生したのは19世紀末であるが、映画をめぐる理論的考察の歴史はきわめて古く、少なくとも1910年代には今日の観点から見ても十分に評価に値する論考が展開されていた。「映画理論1」ではサイレント映画時代（特に1920年代）を取り上げ、新しい時代の新しい表現手段として登場した映画が、既存の知や文化や芸術の枠組みを打ち破ると主張した代表的な理論について概説する。なお、秋学期の「映画理論2」と合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

時代を通じ、幾多の論者が築き上げてきた映画理論の成果に親しむことによって、映像を理解し、探究するための基盤を築くことがこの授業の目的である。

成績評価方法

●**試験**　45%　　講義内容を正しく理解していること
●**レポート**　0%
●**平常点**　45%　　出席状況が良好であること
●**その他**　10%　　授業で紹介した映画上映や催しなどについて積極的に参加していること

備考・関連URL

映画理論を学ぶことは、映画を見て楽しむこと自体に比べれば、直ちに快楽や感動に結びつくいとなみではないかもしれない。しかし、いかなる対象であれ、それをよりよく愛するためには、その対象の特性について真摯に考察をめぐらせてみることが不可欠である。自らの映画体験をより豊かなものにするため、そうした努力を惜しまない受講者を期待する。

科 目 名	映画理論2							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サイレント映画時代の理論を扱う「映画理論1」を引き継ぎ、トーキー化以降の映画理論について概説します。新たに獲得した音声を、あたかも初めからそうであったかのように自然なものとして摂り込んだ映画の諸実践と、理論はどう切り結んできたのでしょうか？　そのもっともコアな流れを、人と諸概念の変遷の両方に着目してたどります。時期としては、第二次世界大戦後から現代に至るまでが中心となります。 学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

世界的に映画理論の衰退が叫ばれていますが、映像のテクノロジーとそれをめぐる状況とが激変し、映画の定義が根本から揺らいでいる今日のような時代においてこそ、一時の流行に惑わされることなく、問題の本質を精緻に見極めることがこれまで以上に求められています。一般に、われわれが何か新しいことを考えついた気になっているときでも、そうした考えは過去におい

てすでに十分吟味されている場合がほとんどです。古臭く見えるかもしれない先人たちの思考の歴史に学ぶことの最大の意義はここにあります。目まぐるしく移り変わる現代のメディア環境に腰を据えて向きあうための理論的背骨を鍛えることが本講義の最終的なねらいです。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」として論述式の試験を行ないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

できるだけ「映画理論1」から続けて受講するようにしてください。いきなり本講義から受講することを妨げるものではありませんが、そのために生じる不利益は各人の努力によって補うこと。

講義

科目名	映画作家論　作家主義の歴史と現在							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

集団で製作され、しかも複製されて広まることが前提となっている映画において、誰が作家であるかを特定することは本来不可能です。しかし、批評上の目的からあえて特定の作り手（通常は監督）をそのフィルムの「作家」（auteur）と見なすことがあります。このような批評方針は「作家主義」と呼ばれますが、世界映画史の決定的な転換点であるヌーヴェル・ヴァーグの実践とも切り離すことができない作家主義とは、いったいどのような意義を持つものだったのでしょうか？

本講義では、作家主義の歴史的意義を、その限界までも露呈させるようなクリティカルな事例を通して考察し、現時点での一定の総括を行ないます。「作家」概念が新たなかたちで強化されつつある現状についても視野に入れます。 学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

映画における「作家主義」の問題を、その限界まで見定めたうえで、それでもなお何が可能なのか、実践的に探究してもらいます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　講義内容をふまえ、まとまった分量の作家論の執筆に受講生自ら挑戦してもらいます。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

科目名	映画ジャンル論　「アトラクションの映画」再考							
担当者名	木原　圭翔							
演映コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アメリカの映画研究者トム・ガニングが提唱した「アトラクションの映画（cinema of attractions）」は、映画研究の領域では最もよく知られ、かつ最も頻繁に言及されてきた概念の一つです。映画というメディアは単に物語を伝達するだけでなく、ショックや驚きなどを与えて観客を惹きつける一種のアトラクションとしての性質を持っているというガニングの議論は、論文の中で対象とされている初期映画研究を飛躍的に促進させただけでなく、現代の作品を含めた映画の本質的特性の一つとして認知され、1990年代以降の映画研究に大きなインパクトを与えました。本講義では、「アトラクションの映画」という概念を出発点としながら、様々な時代やジャンルに幅広くみとめられる映画のアトラクション性を概観し、その現代的意義について考察していきます。

授業の到達目標

「アトラクションの映画」に関する議論を通して、映画研究における重要概念の理解を深めるとともに、作品鑑賞や分析のための新たな視点を獲得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容に関連したレポートを執筆してもらい、先行研究に対する読解力と受講者が提起する意見の独創性を評価します。
●**平常点**　40%　　出席とリアクション・ペーパーから総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	大衆映画論　映画史ならびに大衆文化としての映画の諸相を学ぶ							
担当者名	濱口　幸一							
演映コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画は映画館でしか見られなかった時代がありました。その頃について、映画は娯楽の王様であったとも大衆文化の中心とも言われたりもしていますが、映画史においては大衆映画の時代とも称せると考えられます。本講義では、そのような背景の中での大衆文化としての映画の諸相を、アメリカと日本の例を中心にして、たどっていきます。

授業の到達目標

映画の歴史への視野が広がり、過去と現在のつながりについての理解が深まる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　授業内容に関連する複数の質問のうちの1つを任意に選んで、自身の考えをまとめたものを期末に提出。
●**平常点**　40%　　授業各回に関わるレビューシートの提出。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	演劇映像研究1　映画分析の方法							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、テクスト分析の実践を通じてごく基本的なところから映画を問いなおすことにより、まずはいかにわれわれが映画のことを知らないか、思い知っていただきます。具体的には、毎回テーマを設定し、古今東西あらゆるジャンルの映画を取り上げて分析を加えます。受講生は、そこから各々のやり方で映画に接近するためのヒントを掴んでください。 学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

われわれを圧倒的に取り囲んでいる現代の映像文化に対する批判的な視線を鍛えるため、その来歴をしっかり見据えて、現代のわれわれが当たり前だと思い込んでいる事柄を絶えず歴史化し、脱＝自然化していくような姿勢の獲得を目指します。そこからどこへ赴くかは受講生各人に任されます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　講義内容をふまえ、まとまった分量のフィルム分析に受講生自ら挑戦してもらいます。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

科 目 名	演劇映像研究2　'public'/'private'概念からとらえる舞台芸術							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は'public'/'private'概念の位相のもとに、演劇を捉え直してみることを目的とする。「公共」「公」としばしば訳される'public'は、「民間」「私」としばしば訳される'private'の対概念として定義されてきた。'public'とはしかし、多義的な語であり、'public'と'private'は複雑に入り組み合い、簡単に捉えることが難しい概念である（例：早稲田大学のような「私立」大学は、国公立大学からは区別されるがしかし「公教育」の一翼を担い、高い公共性を帯びた存在である。「公共」交通の一部をなす「私鉄」の存在を考えてもよい)。さらに、演劇にとっての'public'とはまず「観客」（the public）を表すものであるが、同時に、利潤の追求を目標とする民間の劇場・演劇（private theatre）に対立する、公共の劇場・演劇（public theatre）の性格を指すものでもある。事実、今日のほとんどの先進国（とりわけヨーロッパ型の福祉国家）では、公権力（public authorities）による文化政策の一環として、国立劇場をはじめとする公共劇場制度、劇場や上演団体に対する公的助成制度、専門人材を育成するための公的教育制度が形成されてきた。しかも、そうした公共劇場・演劇の諸制度は、今日では、資本主義の論理の公的領域への浸透、公共政策全体の効率化が進む傾向のもと、広告・広報の論理の浸透、公共サービスの民営化、民間セクターへの接近、民間資金の活用・・・・・・が模索されていることも国際的に共通した傾向である。このように、'public'/'private'概念という補助線を引いてみたときに演劇の実践が見せる多様なありようを分析・考察することを通じて、演劇に対する理解をさらに深めたい。

授業の到達目標

・演劇全体に対する理解を深め、国際的に共通する特徴、それに対する日本舞台芸術の独自性を把握する。
・演劇の場合と比較しながら、それ以外の芸術（舞踊、音楽劇、美術、映画・・・）における'public'/'private'の問題についても理解を深める。

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	美術史専門講義1（日本美術）　日本近世美術の諸問題							
担当者名	新江　京子							
美史コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では日本の近世絵画を中心に、日本美術の観かたについて取り上げます。
技法やかたちの特性、時代背景、画題にどんな意味が隠され、何を目的として作られたのか、どう評価されてきたのかなど。
作品や作者を様々な視点から考えることで、美術史を詳細に知る上での基本的な方法論を学びましょう。
なお、ひとつの対象を多角的に捉える例として、江戸時代中期の絵師・伊藤若冲を比較的多く取り上げる予定です。

授業の到達目標

近世日本絵画における基礎的な用語や文化的背景などの理解を深め、他者に説明できる。また、作品や作者を多角的に「見る力」「読み解く力」を身につけ、自分の言葉で表現できる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験は行いません。
●**レポート**　50%　　期末レポート。テーマや詳細は学期末に提示します。
●**平常点**　20%　　出席点…出席は全体の3分の2以上を目安とします。 体調不良、就活、部活や課外活動などの理由で欠席

の場合はお知らせください。
●**その他**　30%　　毎回、授業の後でミニレポートを書いていただきます。

備考・関連URL

皆さんの興味・理解度に応じて、シラバスの内容は変更になる場合があります。また、質問やリクエストにも可能な範囲で対応する予定です。

科 目 名	美術史専門講義2（東洋美術）　日本における密教美術の受容と発展							
担当者名	清水　紀枝							
美史コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

平安時代初期、弘法大師空海は唐に渡り、密教の教えとその美術を日本にもたらしました。空海は真言密教を確立し、その教えを伝えるために造形を重視したことで知られ、生き生きとしたエネルギーに満ちた魅力的な仏像や絵画、工芸が次々と生み出されました。

密教に関する知識を基礎から解説しながら、日本における密教美術の展開についてさまざまな角度から論じ、その特質や背景を探ってゆきます。

授業の到達目標

①密教美術に関する基礎知識を習得し、独自の視点で作品と向き合うことができる
②美術史学の研究方法を学び、一つの作品から多様な情報を読み取ることができる
③密教美術の魅力や特質を自身の言葉で語ることができる

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業最終回に理解度を確認するためのテストを行います
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席状況と授業中の小レポートにより判断します
●**その他**　0%

科 目 名	美術史専門講義3（西洋美術）							
担当者名	木川　弘美							
美史コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

15世紀のアルプス以北における芸術活動について、ネーデルラント美術を中心にイタリアや諸外国との関係に注目し文化の交流を学ぶ。

授業の到達目標

ネーデルラントと諸外国の芸術分野での影響関係を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回目に到達度確認テストを行う
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　リアクションペーパーや授業内での発言などで評価する
●**その他**　0%

科 目 名	美術史専門講義4（西洋美術）　美術史におけるシュルレアリスム							
担当者名	長尾　天							
美史コース	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

詩人アンドレ・ブルトンの『シュルレアリスム宣言』（1924年）によって発足したシュルレアリスム（超現実主義）は、しばしば20世紀最大の芸術運動と称されます。本講義ではこのシュルレアリスムを、美術史という枠組みにおいて考えてみたいと思います。

シュルレアリスムを美術史に位置付けようとすると、多くの問題が生じます。シュルレアリスムの美術には美術史の基本的方法論（様式論や図像学）では捉え難い部分が存在するからです。そこで本講義では、記号、イメージ、無意味／多義性などの観点からシュルレアリスムの美術を捉え、その美術史上の意義を考えてみたいと思います。

講義の流れとしては、まずシュルレアリスムとはどのようなものかを紹介し、シュルレアリスムの美術を語る上で生じる問題を確認します。そしてシュルレアリスム美術の前史として何人かの画家と美術動向を押さえた後、シュルレアリスムの代表的画家を取り挙げ、美術史にシュルレアリスムを位置づける試みを行います。

講義では紹介と考察を半々ぐらいで行う予定ですが、第1回にアンケートを取り、その結果次第では紹介重視もしくは考察重視に切り替えます。

シュルレアリスムに関心を持つ方だけでなく、謎めいたもの、不可思議なものの表象をめぐる問題や、イメージとは何かという問題に興味を持つ方、また既存の美術史の方法論とは別の思考方法によって美術史について考えてみたい方を歓迎します。

授業の到達目標

シュルレアリスムの美術及び背景となる20世紀美術史についての知識を修得した上で、自分自身の問題意識を持ち、それについて参考文献を用いながら論理的かつ説得的な方法で分析し、結論を導き出すことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　課題は第1回に提示します。文献等の引き写しではなく、自分自身でどれだけ批判的に思考しているか、また思考した内容を論理的に表現しえているかを評価します。
●**平常点**　30%　　毎回コメントシートを提出してもらい、その内容によって評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	美術史専門講義5（日本美術）　近世初期風俗画と南蛮絵画							
担当者名	成澤　勝嗣							
美史コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、安土桃山時代から江戸時代までの近世日本絵画史について、外国からの影響という視点から取り上げて検討する。桃山時代にポルトガルやスペインとの交流を通じて生まれた南蛮屏風や初期洋風画のような近世初期風俗画、あるいは江戸期に長崎を通じて入ってきた異国趣味の絵画（中国の影響を受けた黄檗絵画や南蘋派、オランダの影響を受けた洋風画など）を中心として、時代思潮の変遷と近世絵画史の関わりを重視しながら探っていきたい。

授業の到達目標

安土桃山～江戸時代の日本絵画史の国際性を理解するとともに、日本人の思考パターンの特性や、異文化に対する受容姿勢の多様さを知る。

成績評価方法

試験　　50%　60点以上を合格の目安とする
平常点　50%　出席3分の2以上を目安とする。

科 目 名	美術史専門講義6（日本美術）　古代・中世絵画と文学							
担当者名	山本　聡美							
美史コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

平安時代から室町時代までの、古代・中世日本絵画史を、仏教や文学との相関関係から理解を深める。絵巻や掛幅画の主題として、仏典に基づく経説や、物語・説話・和歌・漢詩などの文学が大きな役割を果たしている。毎回の講義で取り上げる作品について、その成立背景となったテキストと共によみとくことで、テキストとイメージとが相互に補完しながら一つの世界を紡ぎ出す中世絵画の特質を探る。

授業の到達目標

平安時代から室町時代までの、古代・中世日本絵画史について、仏教や文学との相関関係から理解する。
中世絵画の典拠となった経説、物語・説話・和歌・漢詩について、十分な知識を獲得する。
毎回の講義で取り上げる絵画作品について、その背景にあるテキストとともに理解を深めている。

成績評価方法

●**試験**　60%　　試験内容はガイダンス時に指示する、60点以上を合格の目安とする。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　毎回コメントを提出。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	美術史専門講義7（東洋美術）　中央アジアの美術							
担当者名	森　美智代							
美史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

紀元後一千年紀の中央アジアでは、内陸シルクロードの発達にともない、その幹線上の諸オアシスに多彩な地域文化が展開しました。多言語・多文化環境の中で、当時の国際文化であった仏教をはじめとする外来の諸宗教が受容され、周辺の大文化圏から影響を受けながらも独自の造形美術文化が形成されました。本科目では中央アジア美術への理解を深めるとともに、仏教美術をはじめとするアジアの宗教美術を読み解くための様々な視点を獲得することを目指します。

授業の到達目標

・中央アジアにおける美術の歴史的・地域的展開について把握する。
・仏教美術をはじめとするアジアの宗教美術を読み解くための様々な視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　期末に理解度の確認のペーパーテストを行う代わりに、毎回、授業の後でレビューを書いてもらい、それを以て理解度を確認・評価する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　40%　　出席状況と授業への主体的な参加姿勢をもって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

授業の進捗状況や展覧会の開催状況により、場合によっては、美術館・博物館での関連する展覧会の見学に振り替える可能性もある。

科 目 名	美術史専門講義8（西洋美術）　西洋中世の聖堂壁画							
担当者名	武田　一文							
美史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中世の教会は、フレスコやモザイクで美しく装飾された。描かれた絵画は、文字の読めない信者に、キリスト教の教義を教える役割を果たした。いくつかの聖堂を例にとり、まず壁画全体を眺めた後で、そこに含まれる情報を読みとる。主題はひとつひとつ独立した意味をもちながら、聖堂の複雑な壁面に配されることによって、単独ではもち得ない意味を獲得する。その装飾プ

ログラムにも議論は及ぶだろう。

授業の到達目標

基本的なキリスト教主題を理解し、中世の様式に慣れること。近代美術と異なる中世様式は、決して未熟や稚拙なものでなく、必然的な要素をもっていた。

成績評価方法

●**試験** 100%　キリスト教美術の基本的な知識を問う。聖堂壁画の年代等、暗記の必要はない。
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 0%　なし
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

※2007～2011年度入学者
「美術史専門講義8（西洋美術）」の科目登録は4年次で自動登録されます。

講義

科目名	日本の近世絵画							
担当者名	岡戸　敏幸							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本近世絵画の諸相を、作品と文献資料に沿って考えていく。絵画の歴史の中心を、作品自身が担うことは無論である。多くの作品を知り、実感を伴う鑑賞体験がなければ「研究」は始まらない。そして同時に、絵画の歴史は、それらを求め、受容し、永く伝えた人々の存在にも多くを負っている。本講義では、作品の向こう側に,「つくる側」「みる側」双方の営みを見つめるという視点を大切に考えを進めていきたい。様々な画像の他、教室で提示されるオリジナルな作品や文献資料にも積極的に触れて欲しい。講義科目ではあるが、受講者各自の眼と思考を自分自身の言葉に纏める機会も積極的に設ける。

授業の到達目標

日本近世絵画史の大きな流れを概観し、鑑賞と研究のための基礎的事項を身に付けた上で、受講者各自が、「我がこと」として絵画を楽しみ、自ら考える出発点となることを大きな目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施の予定はありません。
●**レポート** 50%　学期末に提示された課題についてレポートを提出してもらう。テーマは講義内容を出発点に講義中に指示する。受講者自らが提示した問題を、自分自身の言葉で説得的に論じ得ているかが評価の基準となる。他の先行文献、WEB等からの出典表記のない引用、剽窃、盗用などが疑われる場合には不可とする。また、提出期限に遅れたものは受理しないので充分に留意すること。
●**平常点** 50%　出席確認は毎回行う。講義開始後およそ10分を経過した後は遅刻の扱いとする。平常点は、出席・遅刻・欠席を点数化したものを基礎に、受講態度等を勘案し評価とする。なお、出席回数が、全体の2／3に満たない場合には、レポートが提出されても成績評価の対象とならないので充分に留意すること。
●**その他** 0%　特にありません。

備考・関連URL

講義には積極的、能動的態度で臨むことを強く希望する。
展覧会は、特別展、常設展示を問わず、出来るだけ多く鑑賞すること。
会津八一記念博物館、演劇博物館など、学内の展示にも積極的に触れることを勧める。

科目名	仏教美術の歴史　ほとけのイメージの発生と展開							
担当者名	肥田　路美							
美史コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

インドのガンジス河中流域で起こった仏教は、膨大な思想体系と造形美術や実践行を生み出しながらアジア全域に伝播しました。なかでも、インドとは風土も文化もまったく異質な東アジアの土壌に仏教が根付くにあたっては、美術という視覚イメージが大きな役割を果たしました。

ほとけの姿とは人の空想の所産に過ぎませんが、それを実際にありありと目で見たいという欲求が、仏像を造形する原動力になりました。また、そうして造り出された仏教美術が、人々に祈りの心を生じさせ、他のジャンルの美術にもさまざまな影響を与え、時に歴史の証人ともなり、芸術性や精神性を以てなお現代の私たちを魅了する力をもっています。

この授業では、ほとけのイメージの発生から密教美術の成立までを通史的に概観しながら、それぞれの地域や時代に、人々が何を見たいと欲し、どのようにそれを形にしてきたかについて、いろいろな角度から考えていきます。

授業の到達目標

・仏教美術を鑑賞したり考察したりする上で必要な基礎的な知識を習得する。
・仏教美術の歴史的展開について把握する。
・仏教美術を通して、“見たいもの”を目に見えるかたちに表現するという美術の本来的な意味やはたらきについて考えを深める。

成績評価方法

●**試験** 60%　期末に理解度の確認のペーパーテストをおこなう代わりに、毎回、授業の後でレビューを書いてもらい、それを以て理解度を確認・評価する。
●**レポート** 0%　レポートは課さない。
●**平常点** 40%　出席状況と授業への主体的な参加姿勢をもって評価する。
●**その他** 0%　特に無し。

備考・関連URL

本科目に限らず、美術史を勉強する上で最も大切なことは、実際に作品を見る経験を重ねることです。教室では随時、展覧会などの情報を伝えますので、積極的に足を運んで是非自分の目で作品に接して欲しいと思います。

科 目 名	中国の美術							
担当者名	徳泉　さち							
美史コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中国の美術」と聞いた時、具体的な作家や作品が思い浮かばないかもしれません。本講義では、有名無名を問わず様々な用途、場面で用いられてきた美術作品を扱います。儀礼に用いられた青銅器をはじめ、墓中に納められた明器や壁画、人々の肌身を飾った玉器や暮らしに根付く絵画など、そこには想像を絶する技術の蓄積や、当時の人々の自由な発想が隠されています。また、中国美術に固有のジャンルとして「書」が挙げられます。講義の後半では中国書法史上で重要とされる書家や書作品をいくつか取り上げ、それをケーススタディとして中国の美術の特質をみていきます。

毎回トピックを設けながら作品を見てもらい、その作品を生み出した人々の営為、社会や文化との関わりを考えていきます。

授業の到達目標

授業で取り上げる作品を通して、それらが当時如何なる目的、技術により生み出されたのか、そしてその背景にある社会や文化、思想を含めて理解していくことを目指します。中国の美術の歴史の長大さ、多様さ、圧倒的なスケール感に触れ、それらの造形作品の特質を受講する皆さんそれぞれの興味関心に引きつけて考えることを望みます。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に理解度を確認するためのペーパーテストを実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席状況と授業への積極的な参加姿勢により評価する。授業後に提出するリアクションペーパー（ミニレポート）なども加味する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

授業の進捗状況や、受講者の興味関心などにより授業内容を変更することもある。また、関連する展覧会の見学などを以って授業に振り返ることもある。

科 目 名	美術史への招待1　美術作品をどう見るか							
担当者名	児嶋　由枝　他／川瀬　由照／成澤　勝嗣／肥田　路美／山本　聡美							
美史コース	２単位	春学期	水曜日	６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「美術史」とは、どのような学問の分野なのでしょうか。美術の歴史？　しかしそれは、作品の制作年代を覚えることではありません。中学・高校の課程に 「美術史」はないので、馴染みのない人も多いかも知れません。美術史を専門とする全教員が担当し、それぞれの立場から「美術作品を見る」とはどういうことか、考えるのがこの講義です。

各教員が専門とする時代や作品について、毎回視点を変えてお話しします。外国語の文章を読むときに、わからない単語は辞書を引きますが、美術を見るときには何もしなくとも「見る」ことができるような気がします。しかしちょとしたコツや知識をもって作品を見れば、今まで見えなかった側面がきっと見えてくるでしょう。そのための具体的なレッスンをしましょう。毎時間、多数のスライドを鑑賞します。

授業の到達目標

ある美術作品を見て、それが日本・東洋（中国）、西洋のいつ頃の時代のものか、おおよそ見当がつくようになりましょう。さらに一歩進んで、その作品はどのような意味をもっているのか、その意味を考えるためにどのような手続きが必要なのか、鑑賞の技法を身につけて下さい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業の最終回に理解度の確認の試験を行ないます。担当教員がそれぞれ1問出題し、そのうちから2問を選択して答えてください。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席によって評価。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	美術史への招待2　美術作品をどう見るか							
担当者名	児嶋　由枝　他／川瀬　由照／成澤　勝嗣／肥田　路美／山本　聡美							
美史コース	２単位	秋学期	水曜日	６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「美術史」とは、どのような学問の分野なのでしょうか。美術の歴史？　しかしそれは、作品の制作年代を覚えることではありません。中学・高校の課程に 「美術史」はないので、馴染みのない人も多いかも知れません。美術史を専門とする全教員が担当し、それぞれの立場から「美術作品を見る」とはどういうことか、考えるのがこの講義です。

各教員が専門とする時代や作品について、毎回視点を変えてお話しします。外国語の文章を読むときに、わからない単語は辞書を引きますが、美術を見るときには何もしなくとも「見る」ことができるような気がします。しかしちょとしたコツや知識をもって作品を見れば、今まで見えなかった側面がきっと見えてくるでしょう。そのための具体的なレッスンをしましょう。毎時間、多数のスライドを鑑賞します。

授業の到達目標

ある美術作品を見て、それが日本・東洋（中国）、西洋のいつ頃の時代のものか、おおよそ見当がつくようになりましょう。さらに一歩進んで、その作品はどのような意味をもっているのか、その意味を考えるためにどのような手続きが必要なのか、鑑賞の技法を身につけて下さい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業の最終回に理解度の確認の試験を行ないます。担当教員がそれぞれ1問出題し、そのうちから2問を選択して答えてください。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席によって評価。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	現代アート入門							
担当者名	桝田　倫広							
美史コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は「現代アート入門」という表題です。改めて口にすれば、とても不思議な言葉です。現代美術でなく、contemporary artでもなく、現代アート。この言葉は一体なにを指すのでしょうか。授業内容を先取りすれば、アートは、おそらく「美術」という日本語が喚起する意味から逸脱する多様な芸術実践の出現に対応するために、徐々に使われるようになったと考えられます。それでは何が現代アートであって、何がそうではないのか、あるいはcontemporary artとの語義的な差異はあるのでしょうか。こうした思弁的な問いかけも大変重要なことですが、本授業ではさしあたって、いわゆる「現代アート」の領域で仕事をしているとみなされている作家たちの具体的な実践に着目しながら、現代アートについて考えたいと思います。

ところで現代アートと呼ばれているものを、前半期の週1回程度の講義で紹介しつくすというのは不可能です。時間的な制約はもとより、そもそも世界各地でいまこのときにも生み出される芸術的諸実践のすべてを網羅することは到底できないからです。そこで本授業は、実際に私が見た、あるいは経験した作品から出発します。この編成が全体を網羅できないがゆえの消極的な方策であることを否定しません。それでもこのやり方を採用するのは、私の鑑賞体験を話の基点とすることで、受講者の皆さんにも、まだ評価の定まっていない現代アートに直接触れ、そして考えることの面白さを感じてもらいたいからです。したがって、皆さんひとりひとりが授業に主体的に望んでもらうことを期待します。授業の進め方も、できるだけ一方通行にならないように心がけたいと思います。中間・期末のレポートでは、展覧会などに実際に足を運び、作品を見て、そして考え、自分の言葉で整理する練習を行なってもらいます。

授業では、主に90年代以降の動向を紹介することになりますが、必然的に毎回、その歴史的条件を振り返っていきます。現在とは常に過去の蓄積の上に成立しているからです。事実、過去から学ばない現代作家など殆ど存在しませんし、一方で、私たちの鑑賞体験は美術の歴史を知れば知るほど豊かになっていくものです。この授業が、皆さんひとりひとりが自分なりの現代アートの入り口を見つけるきっかけになれば幸いです。

授業の到達目標

現代アートの諸実践、あるいはそれを鑑賞するという行為は、所与の感性やセンスに頼ることでなく、同時に知性をも駆使するものであることを理解すること。
アートが現実や社会と密接につながる実践であることを理解すること。
本授業を通じて芸術を楽しむための手掛かりをひとつでも多く身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　中間レポート（30%）と期末レポート（70%）によって成績をつけます。 課題は、両レポートともに、本授業開講期間中に開催されている展覧会に赴き、そこで見た作品について論じるというものです。 詳細は授業第1回目のガイダンスおよび、授業中にお伝えします。
●**平常点**　0%　　成績を付けるうえで、出席および授業態度を考慮します。
●**その他**　0%

科 目 名	日本美術史入門							
担当者名	山本　聡美							
美史コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

高校までに学修した日本史の知識を再確認し、各時代の文化を特徴づけた政治・経済・宗教的背景を理解する。その上で、縄文時代からはじまり、奈良・平安・南北朝・鎌倉・室町・江戸・明治・現代の美術について、それぞれの時代を代表する作品・作家・注文主・受容史へと関心を広げていく。日本美術史の展開を知り、社会において造形が果たしてきた役割についての考察を深める。

授業の到達目標

各時代の文化を特徴づけた政治・経済・宗教的背景を理解した上で、それぞれの時代を代表する作品・作家・注文主についての基礎的知識を得ている。また、縄文時代からはじまり、奈良・平安・南北朝・鎌倉・室町・江戸・明治・現代へと至る日本美術史の展開を理解し、社会における造形の役割について自ら思考することができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　試験内容はガイダンス時に指示する、60点以上を合格の目安とする。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　毎回コメントシートを提出。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ルネサンス・バロック美術							
担当者名	児嶋　由枝							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

15世紀フィレンツェを中心に開花したルネサンス美術は、西洋美術の歴史のおける一つの頂点であり、また当時にあっては全く新しい革新的な美術であった。今日的な意味での「芸術家/アーティスト」という観念もこの時代に登場している。従来、画家や彫刻家、建築家は職人であった。しかしルネサンス期にはじめて、特別な創造的な営みに従事する人々という意識が出て

くるのである。このルネサンス美術は、大航海時代の幕開けと宗教改革·対抗宗教改革の波に洗われて16世紀から大きく変質し、マニエリスムやいわゆる対抗宗教改革美術が登場する。そして16世紀末から17世紀にかけては、カトリック体制の再興と絶対主義体制の確立を機を同じくしてバロック美術が現れる。

このようなルネサンスからバロックにかけての美術の流れを、授業においては単なる概説としてではなく、毎回テーマを設定して論じる。

授業の到達目標

ルネサンスからバロックにかけての美術の基礎知識を身につけるとともに、その本質を理解する。

成績評価方法

- **試験** 50%
- **レポート** 0%
- **平常点** 50%
- **その他** 0%

科 目 名	西洋近代美術 19世紀パリの美術研究							
担当者名	坂上 桂子							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、近代都市パリの成立と美術とのかかわりを視点として、西洋近代美術の特質を見いだすものです。19世紀のパリでは、新しい都市の整備とともに人びとの生活環境が大きく変化し、美術もまた、そうした社会を反映し新しい動向を次々とみせていきました。近代都市と社会の確立に伴う市民層の台頭、機械文明、消費社会の拡大といった社会的基盤の変容は、美術にも変革をもたらし、それまでのアートの方向性や価値観を大きく転換したのです。その意味で19世紀美術は、20世紀以降の現代アートを導く起点となるものであり、造形芸術の歴史を辿る上でもっとも興味深く、もっとも豊かな作品群を有するといえます。またパリでこの時代に展開された新しい美術は、各国から多くのアーティストたちをひきつけ、西欧諸国はもとより、日本の美術にまで影響を及ぼすことになり、異文化接触の視点からも興味深いものです。ここではこうした19世紀パリにおけるアートの状況を踏まえ、近代西洋美術の特質を浮き彫りにすべく、代表的アーティストとアートをとりあげ、諸問題を検討していきます。

授業の到達目標

19世紀美術の本質を理解し基礎知識を身につけると同時に、作品をいかに読み解くか、美術史の基本的アプローチの手法を学ぶことが目的です。

成績評価方法

- **試験** 50% 確認のテストを行います。近代美術にかかわる基本的知識が身についたかどうかを最後に確認します。
- **レポート** 10% 必要に応じてレポートを出します。レポートのない場合は、この分は平常点評価とします。
- **平常点** 40% 授業のたびに、重要な図像を多く紹介しますので、授業においてまずは図像をよく見ることが必要となります。
- **その他** 0% 必要に応じます。

備考・関連URL

19世紀の流れに沿い、前半から後半にかけてみていきますが、展覧会の開催状況などに応じ、内容を変更したり、順番を入れ替えることがあります。

科 目 名	日本彫刻史							
担当者名	井上 大樹							
美史コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では日本における彫刻の歴史について講義します。日本彫刻史は美術史の一分野になりますが、彫刻作品の造られた時代や製作背景について、文字資料のみならず像の形や様式から考察する学問です。近世以前までの日本における彫刻の歴史は仏教彫刻史であるといっても過言ではありません。それほど美術作品としても名品といえるような仏像が多く伝わっています。その背景には各時代ごとに優れた仏師が存在したことに加えて、仏教思想の進展ともに大陸から新たな技法や様式がもたらされ、その都度消化し発展してきたことがあったと考えられます。したがって日本彫刻の歴史を学ぶことは、我が国の思想や海外との交流の歴史の一端を理解することにもつながります。

本講義は仏教が伝来した飛鳥時代から江戸時代にいたる彫刻の歴史の流れを理解することを目標とし、技法・様式の変遷や時代背景に触れながら通史的に解説します。講義の形式は講義の流れを大まかに記したレジュメを配布するとともに、時代による様式の変遷や作品の提示するためにパワーポイントなどを用いて画像を投影して講述します。

なお、専門用語や基礎知識は美術史を知らない受講生にも配慮して説明します。

授業の到達目標

日本における彫刻の歴史の流れを理解するとともに、様式・技法等の美術史の基礎的な知識、彫刻の鑑賞方法を身につける。

成績評価方法

- **試験** 70% 第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
- **レポート** 0%
- **平常点** 30% 出席等を中心とする平常点評価
- **その他** 0%

科 目 名	日本史講義1（古代） 古代日本の国際環境							
担当者名	田中　史生							
日史コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦後の日本古代史研究は、日本における国家の形成過程に多くの関心を傾けてきました。そのなかにあって、日本史の成り立ちを世界史とのかかわりから捉える対外関係史研究や東アジア史研究は、その議論に大きな影響を与えてきました。しかし近年、国民国家を相対化する研究・議論の進展とともに、「日本」と「外国」を隔てる史的境界を固定的に遡らせ、「日本」の「内」からのみ「外」をみる従来の研究のあり方に様々な批判も出されるようになっています。また、国内外の考古学の進展は目覚ましく、朝鮮半島や中国大陸の様々な歴史の主体に目を向けた研究も盛んとなり、そこから「東アジア」にかわる新たな広域史を模索する動きも活発です。本講義では、列島古代社会を取り巻く国際環境を戦後歴史学がどのように説明してきたかを整理した上で、最新の研究成果から、列島古代社会の多様性と、日本史と世界史を結ぶ多元的・重層的な関係を具体的に追いつつ、「日本史」における「日本」の捉え方についてあらためて考えてみたいと思います。

授業の到達目標

①列島古代の国際交流の多様性について理解する。
②日本古代史を世界史と関連づけて理解する。
③「日本」の枠組みを前近代史から相対化する視点を得る。

成績評価方法

●**試験**　70%　　各設問の配点に基づき評価する。
●**レポート**　0%　　提出を求めない。
●**平常点**　30%　　授業時の理解度確認アンケートによって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本史講義2（中世）「荘園」からみる中世社会							
担当者名	似鳥　雄一							
日史コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中世」とはどんな時代だったのか。何をもって前後の時代と区別するのか。これらの問いに対する答えは決して自明のものではありません。この点を考える上で欠かせない要素となるのが「荘園」です。荘園制は当時の基本的な社会システムですが、研究史がきわめて重厚なこともあり、初学者には難解な印象があるかもしれません。本講義では豊富な史料を有する京都の東寺領を題材に、「荘園」とはいかなるもので、そこで実際に何が起こっていたのか、具体的にみていきたいと思います。主にとりあげるのは備中国新見荘です。新見荘は近年大きく研究が進展した荘園で、東寺から派遣された代官の殺害事件、現地の女性が書いたとされる書状など、話題に満ちています。新見荘をメインに、ほかの東寺領荘園も織り交ぜながら、当時の社会について考えます。

授業の到達目標

日本中世の社会システムである荘園制とその実態について理解する。それによって中世という時代をイメージし、その特質について考える能力を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末の筆記試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の出席状況
●**その他**　0%

科 目 名	日本史講義3（前近代史料学）							
担当者名	下村　周太郎							
日史コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

歴史学の研究は史料に基づいてなされなければならない。特に、現実の体験者がおらず、また、今日まで伝わっている史料の数が限られている前近代の研究にあたっては、論拠となる史料をいかに収集し読解するかが極めて重要となる。本講義では、前近代の史料にはどのような種類のものがあり、それぞれについてどのように取り扱うべきであるかを講じる。

授業の到達目標

史料には様々な種類があり、それぞれに異なる特性を有し、それぞれに取り扱いにあたっての留意点があることを理解する。また、一つの史料に対しても、見方や分析視角を変えることで、多様な情報を引き出すことができることを学び、卒業論文執筆に向けた専門的知見の習得につなげる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　必ず試験を受けなければならない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　随時、リアクションペーパーを配布し、そこに書かれた意見・質問によって、平素における授業への出席状況や理解の度合いを見る。
●**その他**　0%

科 目 名	日本史講義4（近現代史料学）							
担当者名	真辺　将之							
日史コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

学問としての「(近現代）史料学」は、「(古）文書学」や「アーカイブズ学（記録史料学)」に大きな影響を受けながら、しかしそれとは明確に区別された独自の方法論を持って近年発達を遂げた学問です。具体的には、近現代の非現用文書を対象に、その文書処理の過程を再現し、史料群の形成過程や組織の意思決定プロセスを把握することを目的とする学問であるということができるでしょう。ただしまだ誕生したばかりの学問であるため、今後別種の方法論が出てくる余地はおおいにありうると考えられます。

ですが、まだ一次史料に触れた経験の少ない学部学生を対象とする本講義において、いきなり上記のような意味での史料学を講義しても、多くの学生には敷居が高すぎて理解できないであろうと考えます。本講義では、「近現代の史料に関する講義」というような、ある種「史料論」といったほうが適切なような、より広い意味での史料に関する講義を行い、日本の近現代史（明治維新-現代）を研究するために必要な史料（主として文献史料）について、さまざまな史料所蔵機関とその利用方法、各機関所蔵史料の内容、史料の分類や用語・様式などについての一般的知識を学んでもらうことを中心的内容としたいと思います。

また毎回、近現代史料の解読作業に時間を取り、活字史料のみならずくずし字史料の基礎的な解読能力をも身につけてもらいたいと考えています。

その上で、一通り、近現代史料の知識を得ることができた段階で、冒頭で述べたような（狭義の）「(近現代）史料学」の入口にあたる部分についても講義し、さらなる発展への道筋をつけてもらえればと思います。

授業の到達目標

（1）日本近現代史に関する主要史料の所在を知る。
（2）日本近現代史に関する史料の初歩的解読能力を習得する。
（3）日本近現代史に関する史料批判の方法を習得する。
（4）近現代史料学の方法に関する基礎的知識を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　文書（くずし字）の読解力を問う試験を行います。
●**レポート**　0%　　くずし字読解に不安の学生を対象に、実際に史料所蔵機関に出向いて、特定の史料に関する調査レポートを作成・提出してもらいます。(任意提出)
●**平常点**　50%　　出席状況、授業後の質問などの勉学態度などを加味します。遅刻や寝ている場合には出席とみなしません。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	日本史講義5（近世）『葉隠』の日本史							
担当者名	谷口　眞子							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は日本史コース必修講義科目のひとつである。近年の日本史学は専門分化が進む一方、これまで他の学問分野で分析されていた素材も考察対象とするようになり、総合的人文科学のディシプリンとして発展する可能性を秘めている。この講義では、これまで文学や日本思想史学でとりあげられてきた『葉隠』を分析対象とする。その歴史を前近代から現代まで見通すことにより、「歴史を見る目」を育てたい。

授業の到達目標

武士道あるいは武士道精神は、日本文化の典型例としてしばしば言及され、ナショナリズムと微妙な関係を保ちながら、変容しつつ現代まで伝えられている。しかし、その内容は時代や論者によって異なるだけではない。ひとつの作品でも内容の解釈は読み手、受容者によって異なる。ある特定の政治的・社会的・文化的背景のもとに生み出された作品が、そもそもどのような読者層を想定し、いかなる執筆・編纂の経緯をたどったのか、それがいつ、どのような出版形態をとって人々に広まったのか、後世の人々は同じ文言を、それぞれの時代背景のもとで意識的に、あるいは無意識的に、いかに解釈していったのか、その詳細を知ることは、現代の我々が歴史上、どのような位置にいるのかを客観的に考える手がかりともなる。本講義では江戸時代の武士道論として知られる『葉隠』をとりあげ、作者論・作品論を超えた分析手法により、前近代から現代までを見通すパースペクティブを身につけてもらいたい。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業で質問や意見をレビュー・シートに書いてもらい、その内容で評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席10回未満の者は特別な理由がない限り、成績にかかわらず単位を与えない。毎回、レビュー・シートに質問や意見などを書いてもらい、それについて次回の授業冒頭で教員が解説して内容理解を深め、そのあと講義を進める形をとる。授業は一方的に教員が講義するのではなく、出席者も一緒に作っていくものであるから、質問や意見はできるだけたくさん出してもらいたい。なお、参加者の人数やレベルによって、講義予定に一部変更が生じる可能性があることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	日本史講義6（近現代）　近現代日本の政党							
担当者名	真辺　将之							
日史コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

今日の議会政治は、政党を基礎に成立しています。選挙は基本的に政党間によって争われ、議会で最大多数を得た政党が政権を担当し、誰もそのことを不審に思いません。

しかし、現在当たり前のように政権を担っている政党も、約150年前には全く未知の存在でした。幕末、欧米の議会政治を見た福沢諭吉が、「党派には保守党とか自由党と徒党のやうなものがあって、双方負けず劣らず鎬を削って争ふて居ると云ふ。何の事だ、太平無事の天下に政治上の喧嘩をして居ると云ふ。サア分からない。コリヤ大変なことだ。何をしているのか知らん」（『福翁自伝』）と驚かざるをえなかったように、幕末期の日本にとって政党は全く理解しがたい異文化でしかありませんでした。

したがって、日本に議会政治を導入するにあたっても、政党は必ずしも自明の存在ではなく、議会政治の基礎は政党が担うべきだという意見がある一方で、政党に対する批判的な意見や不信感も根強く存在しており、政党が日本社会に根付くに至るまでには、数多くの軋轢を経ることになりました。昭和初期には二大政党が政権を担当する時代がきたものの、それからほどない第二次大戦時には全政党が解散するという事態にもなりました。戦後は憲法で議院内閣制が規定され、政党が政権を担う制度ができましたが、はたして政党政治というものが社会や国民に根付いたものとなっていると言えるかどうかは疑問の余地があるでしょう。

本講義では、幕末から現代にいたるまでの、このような政党の導入・定着と軋轢の過程を、歴史学の立場から検討していきます。

政党は社会・国家の中でさまざまな部分との接点を有し、極めて広い裾野を持っています。この授業においても、政治史を中心にしつつも、思想史・社会史などの諸側面もふまえた多様な視点から近代日本における政党にアプローチしていくことによって、人々がどのように「政党」と向かいあったのか、そこにどのような問題点が孕まれていたのかについて検討していきたいと思います。そしてそのことを通じて、今日の政党を、一歩はなれた場から見つめなおし、政党がいかにあるべきかということを考えてほしいと思います。

講義

授業の到達目標

「政党」をキーワードに、近代から現代にかけての日本の政治と社会の流れを理解してください。

成績評価方法

- **試験** 100%　論述式で、授業の内容を踏まえて自らの意見を書いてもらう形の試験を行います。
- **レポート** 0%　任意提出のレポートを課す場合もあります。
- **平常点** 0%　出席は取らない予定ですが、場合によっては取って成績に参入する可能性もあります。
- **その他** 0%　特になし

備考・関連URL

初学者向けに、前提知識が無くても理解できるよう分かりやすく説明するつもりですが、わからないところがあれば遠慮なく質問するようにしてください。

科目名	日本史講義7（日本文化史1） 柳田国男と日本近代							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

柳田国男（1875～1962）は、日本民俗学の基盤を作った人物として知られる以外に、青年時代は新体詩人として活動したほか、明治期の後半には農政官僚として種々の政策を提案して民衆の生活改善を考えた。この講義では、生い立ちから大正中期までを中心に、柳田と彼を取り巻く同時代の思想、政治の双方から考察する。内容は、 1）故郷の位置付け、2）『文学界』との関わり、3）日露戦争後の農政と「中農」の創出、4）「遠野物語」の「発見」、5）貴族院書記官長への就任、6）『郷土研究』の編集、7）漂泊民の世界、8）官界を去る、の構成を予定している。

授業の到達目標

明治初期から大正中期までの日本民俗学をとりまく政治・思想状況が把握できる。

成績評価方法

- **試験** 80%　学期末に理解度の確認を行うほか、出席点を加味。
- **レポート** 0%　特に行わない。
- **平常点** 20%　学期末に理解度の確認を行うほか、出席点を加味。
- **その他** 0%　特に行わない。

科目名	日本史講義8（日本文化史2） 現代における柳田国男像							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期に続いて、柳田国男の足跡を同時代の政治、思想と交差させながら解説していく。対象となる時期は、官界を退いて以降、柳田が民俗学の組織化に乗り出し、戦時下にあって現在の民俗学研究の基盤を整え、戦後、保守主義者としての相貌を明らかにしていくまでを予定している。構成は、1）退官後の東北紀行、2）沖縄での「祖霊信仰」の発見、3）国際聯盟委任統治委員として、4）雑誌『民族』に集った群像、5）大正デモクラシー下のジャーナリストとして、6）「民間伝承の会」の結成と『民間伝承』の創刊、7）戦時下の「比較民俗」、8）保守主義者としての戦後、9）「海上の道」に到る行程、を予定している。

授業の到達目標

近代・現代史における柳田国男の思想像について、同時代の背景とともに把握できることを目的とする。

成績評価方法

- **試験** 80%　学期末の試験に出席点を加味。
- **レポート** 0%　特に行わない。
- **平常点** 20%　学期末の試験に出席点を加味。
- **その他** 0%　特に行わない。

科 目 名	歴史学　歴史を研究することとは							
担当者名	下村　周太郎							
日史コース	２単位	春学期	火曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の歴史を中心に、学校教育や一般社会でも話題となるトピックや、京都や鎌倉など観光地としても馴染み深い歴史的エリアを取り上げつつ、関連する学術研究の成果について解説する。また、伝統文化の継承や自然との共生といった市民社会の歴史意識に関わる諸問題についても、学術的な立場からの検証を加えていく。これらを通じて、中学校や高等学校までの歴史の教育とは異なり、大学という高等教育機関・学術研究機関における歴史の研究とはいかなるものであるのか。歴史を学び、考えることに、どのような意味や効用があるのか。これら、初歩的でありながら本質的な問題について考える材料を提供し、受講者における歴史学という学問への親しみを涵養する。

授業の到達目標

学校教育や趣味愛好の歴史とは異なる、学問として歴史を研究することとはどのような営為であるのかについて理解する。特に、「過去と現代との往還」ないし「理論と実践との往還」という視点を意識しつつ、必ずしも現代には直結しない前近代／非近代を学ぶことの今日的な意義について認識を深める。

成績評価方法

●**試験**　80%　　必ず試験は受けなければならない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　随時、リアクションペーパーを配布し、意見・質問を書いてもらう。これによって平素からの授業への参加状況や理解の度合いを確認する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本列島の人類史							
担当者名	ティネッロ　マルコ							
日史コース	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、世界史における琉球・沖縄の歴史と文化（近現代）について学ぶ。14 世紀以降の東アジアにおける琉球国の成立と貿易活動をはじめ、琉球と中国・日本との伝統的な関係を学ぶことで、中国・日本だけではなく、その周辺（朝鮮・琉球）の視点からも東アジアの歴史を認識する。特に、琉球の歴史と文化をより国際的な観点から考察するために、沖縄の歴史とサンマリノ・ハワイ・グラム・サイパンなどの歴史との比較を行い、明治政府による琉球併合をグローバルな観点で捉えなおし、世界的な角度から沖縄の現代的な問題をみるアプローチも行う。

授業の到達目標

琉球・沖縄の歴史と文化について基礎的な知識を身に付ける。

日本・東アジアの歴史を国際的・グローバルな視点から考察し、説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　20%　　授業の出席状況
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

初回に、受講に際しての諸注意を行います。
レポート提出方法などについて指示するので、必ず視聴して下さい。

科 目 名	日本戦争史　歴史から何を学ぶのか							
担当者名	上田　美和							
日史コース	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、1931～45年のアジア・太平洋戦争の歴史学的考察に取り組む。
歴史資料（文字による史料のみならず、映像資料等も含む）をふんだんに用いて、戦争という人間の行為を多方面から検証する。
70～80年以上前の出来事だが、アジア・太平洋戦争には戦争の普遍性が集約されている。
現代人が戦争の歴史から学ぶことができるとすれば、それは何だろうか？　各人が考えてほしい。
この長い戦争をできるだけ正確に理解することは、戦争経験者が年々減少していく今日だからこそ、いっそう重要である。
なお、戦争史というと"戦時だけ"のイメージが強いが、戦後との連続性を重視し、戦後史を意識した内容とする。

授業の到達目標

1　アジア・太平洋戦争について基本的な事実関係を正確に理解する。
2　アジア・太平洋戦争期の歴史資料を読み取る訓練をする。
3　戦争について多方面から考える視座を得る。
4　レポートでアジア・太平洋戦争について、現在の自分なりに論じることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　詳細は講義中に説明する。
●**平常点**　40%　　毎回、出席カードに感想・意見・質問等を記入してもらう。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1　受講前の知識があまりなくても大丈夫です。この講義が皆さんにとって、「今後も戦争について考えていこう」というきっかけになることを目指します。

2　事務的な連絡はコースナビのメール送信機能を用いて行いますので、各人の責任で随時チェックできるようにしてください。

3　毎年、受講生の皆さんとのやりとりを大事にしています。出席カードには色々書いてください。

科 目 名	古文書学1							
担当者名	久保　健一郎							
日史コース	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古文書学は、日本史学を学ぶ上で重要であるばかりでなく、総じて日本の過去に関わる数多の事象・事柄を学ぶ際にも資するところ大である。本科目では、古文書を様式から大きく二つの類型に分けた場合の、政治的文書について、公式様文書、公家様文書、武家様文書の順に、成立・内容・機能等を概説し、写真版を用いて実際に解読していく。併せて、解読のために必要な日本史に関する知識・用語等についても解説する。

授業の到達目標

古文書についての体系的知識を学び、実際にある程度解読できるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　古文書の様式やくずし方について、授業内容をどれだけ理解しているか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本科目の受講者は古文書学2も併せて受講することを勧めたい。

科 目 名	日本民俗学							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

民俗学とは日常の中で我々が行う習俗、祭・芸能などの由来・変遷の在り方を検討し、それによって現在の我々の生活を照らし出す学問である。さらに、学問として成立した背景には。、文献資料をもって判断材料とする、既存の歴史学に対する強い批判と対抗意識が介在していた。この授業では、それらの事情を念頭に置き、1）日本の自然宗教の成り立ち、2）日本の年中行事、及びそれに対応する社会構造、3）民俗的な時間・空間・自我意識とは何か、4）日本民俗学における沖縄の位置付け、5)"モノ"に即した民俗学とは何か、6）仏教民俗学の成り立ち、などのテーマを設けて検討を行っていく。このほか、柳田国男、折口信夫、南方熊楠、柳宗悦、渋沢敬三などの民俗学者の仕事についても適宜、取り上げてその思想像の理解につとめる。

授業の到達目標

自分たちが普段、行っているいくつかの日常的な事柄について、その由来を説明することができる。草創期の民俗学を担った群像の仕事について概要を把握することができる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験に、平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　20%　　学期末の試験に、平常点を加味する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	日本環境史							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

我々を取り巻く様々な環境は、有形無形の形で歴史そのものを規定してきた。しかもそれらは、普段、系統立てて説明されることが少なく、無意識のレベルにまで浸透しているため、文献記録に残されないことが多い。この授業では、日本の歴史を考える上で、自然・思想・教育など重要と思われる事象を取り上げながら、それらを背後から規定している要因を探ることを目的とする。具体的なテーマとしては、1）民間習俗からみた日本の仏教受容とはどのようなものか、2）事大主義はなぜ、稲作社会から生み出されるのか、3）民話とはどのような発生形態を持ち、近代に影響を与えたか、4）日本の庭園に見られる美意識とは何か、5）陶磁器の世界から生まれる日本の価値意識などの問題を取り上げ、我々の生活に対して周囲から見えない形で影響を与えている事柄を考察する。

授業の到達目標

我々の日常生活を背後から規定しているいくつかの事象について、その由来と機能を具体的な資料から説明できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験に平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　特に行わない。
●**平常点**　20%　　学期末の試験に平常点を加味する。
●**その他**　0%　　特に行わない。

科 目 名	日本社会経済史　複合的視点で見る日本近現代史							
担当者名	及川　英二郎							
日史コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

植民地主義・ジェンダー・貧困。個々の人間にはさまざまな立場や権力関係が複合的に交錯している。本講義では、日本近現代史に関するテーマを具体的に検討することを通して、そうした複合的な視点で状況をリアルにとらえる方法を学ぶ。

授業の到達目標

講義で紹介する各事例を通して、資史料を使って歴史学的に検証して行く技術や、自らの意見と他者の意見との違いを自覚し、先行研究を批判的に読解する能力を養ってもらう。最終的には、学期末試験で複合的視点について論じてもらうことを通して、以上の目標を実践してもらう。

成績評価方法

●**試験**　100%　　複合的視点について、授業で取り上げた内容から自由にテーマを設定して論じてもらう。講義内容をふまえ、自らの論を説得的に論述できているかどうかを評価する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　6割以上の出席を単位認定の条件とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本女性史							
担当者名	鈴木　裕子							
日史コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の近現代女性史について講義する。歴史は暗記するものではなく、過去の事象を通して、現在を見据え、未来への視点を確立させることを課題とする。この授業では、日本の近現代の女性の歴史を東アジア、特に朝鮮半島、ときに中国との関係を軸に「一国史観」の女性史にならないようにみていくことにする。

以下は予定であり、若干流動的になるかもしれないが、おおよそこの線にそって講義する。参考文献はその都度、指示する。テキストとして事前に日韓「女性」共同歴史教材編纂委員会編『ジェンダーの視点からみる日韓近現代史』(梨の木舎、2005年)使用する。

受講生は、事前に教科書を購入し、昨年までの部分を読んでいただけたら幸いである。

授業の到達目標

近現代日本女性史を一国史観からではなく、比較史的にも捉え、講義する。特に現在も何かと問題が山積する韓国・朝鮮史との絡みで、みていく。目標は、双方の歴史認識の「共有化」と、理解・連帯関係の構築を授業を通して考えてみたい。

成績評価方法

●**試験**　90%
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%
●**その他**　0%

科 目 名	古文書学2							
担当者名	久保　健一郎							
日史コース	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古文書学は、日本史学を学ぶ上で重要であるばかりでなく、総じて日本の過去に関わる数多の事象・事柄を学ぶ際にも資するところ大である。本科目では、古文書を様式から大きく二つの類型に分けた場合の、非政治的文書について、上申文書、証文類の順に、成立・内容・機能等を概説し、写真版を用いて実際に解読していく。併せて、解読のために必要な日本史に関する知識・用語等についても解説する。

授業の到達目標

古文書についての体系的知識を学び、実際にある程度解読できるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　古文書の様式やくずし方について、授業内容をどれだけ理解しているか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本科目の受講者は古文書学1も併せて受講することを勧めたい。

科 目 名	アジア史学発達史2　日本史の中の近代歴史学							
担当者名	廣木　尚							
日史コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

過去の事実を認識し、表現する営みは、古来、様々なかたちで行われてきた。しかし、職業的歴史家集団を担い手とする近代歴史学の歴史は意外に浅く、わずか200年ほどに過ぎない。新しい歴史認識である近代歴史学は、既に存在する多様な歴史認識に対し、どのようにして自らの存在意義を見出し、どのような歴史を描き出したのだろうか。そして、近代歴史学という歴史認識の出現は、国家や社会にどのような影響を与えていったのだろうか。この講義では、日本で近代歴史学が成立した19世紀

後半から20世紀までを対象に、近代歴史学の歩みを国家や社会との相互関係に留意しつつたどりたい。

授業の到達目標

①日本における近代歴史学の展開過程を、国家や社会との関係を踏まえて理解する。
②過去の歴史学の営みを参照して、受講者一人一人が、現在において歴史学を学び、研究する意味を考える。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。
●**レポート** 50% 教場で提示する課題に基づき、学期末に提出する。
●**平常点** 50% 出席状況、及び、毎回行う小レポートの内容で評価する。
●**その他** 0% なし。

科 目 名	日本史概論1 古代・中世を考える							
担当者名	川尻 秋生							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

本講義では、教養としての日本歴史の知識や考え方の獲得をめざし、その概要を解説します。春期は、日本の歴史の原点とも言える古代、そして武家が政権を取った鎌倉・室町時代の歴史について見ていきます。

現在の歴史学は東アジアからの視点はもちろん、考古学や文学など近接分野の研究成果なしには成り立ちません。したがって、本講義でも、これらの成果を積極的に取り入れ、新たな時代像を描き出したいと思います。

授業の到達目標

古代・中世に関する基礎的知識の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 100% 学期末のテストによる
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%
●**その他** 0%

科 目 名	日本史概論2 近世・近現代の歴史を考える							
担当者名	川尻 秋生							
日史コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、教養としての日本歴史の知識や考え方の獲得をめざし、その概要を解説します。秋期は、武家政権が成熟した江戸時代、そして、現代社会につながる近現代の歴史について見ていきます。

現在の歴史学は世界的、とくに東アジアからの視点は欠かすことができません。また、文学など歴史学の周辺にある諸分野との協業も必要です。本講義でも、これらの成果を積極的に取り入れ、新たな時代像を描き出したいと思います。

授業の到達目標

近世・近現代に関する基礎的知識の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 100% 学期末のテストによる
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%
●**その他** 0%

科 目 名	中世日本の「文化史」 生活・慣習・環境の歴史学							
担当者名	似鳥 雄一							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義はタイトルを「文化史」と設定しました。それでは「文化」とはいったい何でしょう。例えば高校の日本史教科書をみたとき、「文化史」が対象としているのは学問・文学・芸術・宗教といった領域が中心ですが、これらは狭義の文化史といってもよいでしょう。それに対して本講義であつかうのは、身分の上下を問わず、中世日本で日々を暮していた人々の生活様式、慣習・習俗など、すなわち広義の文化史というべき分野です。これにより、様々な方向から「文化」にアプローチすることが可能となります。また加えて、彼ら中世人の生き方、さらにいえば精神性に大きな影響を及ぼしたであろう自然環境、あるいは災害の実状についてもみていきます。それら諸相のなかに、現代と共通する面と、全く相違する面がそれぞれあることが理解されるでしょう。

授業の到達目標

中世日本にみられる広義の文化事象について幅広く学び、その歴史的な特質を把握する。それによって現代に通用する常識を相対化し、それらもまた歴史の所産であることを理解する。

成績評価方法

●**試験** 70% 学期末の筆記試験
●**レポート** 0%
●**平常点** 30% 授業の出席状況
●**その他** 0%

備考・関連URL

2016・17年度に「多元文化特論2」の単位を取得した方は、内容が重複しますので本講義を履修しないで下さい。

科 目 名	アジア史特殊講義1（中国古代史） 中国古代文明の形成と展開							
担当者名	工藤　元男							
ア史コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国古代の社会と文化に関して、各時代の主要な問題をさまざまな角度から取り上げて検討する。それによって中国古代文明の過程を明らかにする。

本講義は歴史学・考古学・古文字学・民俗学・民族学などの学際的な視点から、中国古代史像を再構築することをめざしている。

授業の到達目標

中国古代文明が形成され、展開してゆく過程を、主に政治史・文化史の角度から理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場で筆記試験を行う。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　出席三分の二を満たす者を教場試験の対象者とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	アジア史特殊講義2（朝鮮前近代史） 朝鮮前近代史							
担当者名	李　成市							
ア史コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

原始古代から高麗王朝前期までの歴史を論じます。朝鮮前近代史を東アジア史の中に位置づけながら、その展開の特色を論じます。

授業の到達目標

朝鮮前近代史の理解を深めるとともに、それを通じて、東アジア地域の文化的な特色についての考えを深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　事前に課題を題して教場で答案を提出してもらう。
●**レポート**　30%　　中間に簡単なレポートを提出してもらう。
●**平常点**　20%　　出席
●**その他**　0%

科 目 名	アジア史特殊講義3（中国前近代史） 多文化統治と中国史							
担当者名	飯山　知保							
ア史コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

政治経済のグローバル化が急速に展開している現代社会の中で、私たちは、民族、宗教、生命に関わる様々な価値観の相違に起因した諸問題や貧困、発展、環境などの問題に直面している。こうした人類共通の諸課題の解決方法を模索する際、そこにいたるまでの人類の歴史を辿る作業が必要不可欠となり、歴史上の成功例から得た経験と知識だけではなく、成功／失敗の教訓をも生かさなければならない。

この授業では、「なぜ中国はあのように多様な諸文化を統合することができてきたのか？そしてそれは、現在の中国で起こっている様々な文化的・社会的・民族的な問題にどのように関連してきたのか？」という疑問を出発点とし、「多文化統治 Multicultural Governance」の観点から、歴代の中国王朝がいかにしてその領域の中に多種多様な文化圏を組み込んできたのかを考察します。

授業の到達目標

歴史上の中国に興亡した諸王朝の民族政策•多民族支配の制度的基盤をふまえ、それがどのような歴史的経緯をたどり、現在中国の状況に帰結してきたのかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末に行う論述試験（レポート）により理解度を評価する。
●**レポート**　0%　　出る。席およびその都度提出するレビューシートにより聴講内容を確認・評価す
●**平常点**　50%　　出席およびその都度提出するレビューシートにより聴講内容を確認・評価する。
●**その他**　0%　　三分の一欠席で評価対象外とする。

備考・関連URL

なし

科 目 名	アジア史特殊講義4（東アジア近現代史） 清朝をめぐる国際関係							
担当者名	柳澤　明							
ア史コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

18-19世紀、すなわち前近代から近代への移行期における清朝をめぐる国際関係を、特に清・ロシア関係を軸として論ずる。17世紀の最初の接触以来、清とロシアは曲折に富む外交を展開し、独特な二国間関係の枠組みを発展させてきたが、西洋諸国の東アジア進出にともなって、両国関係には大きな変化が生じ、それは現在に連なる「中国」という国家の枠組み形成にも影響を及ぼした。そのダイナミズムを検討する。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「専門講義」に該当する。

授業の到達目標
アジアにおける前近代から近代への移行という問題に対する多面的な理解を深めることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関連するレポートを期末に課す。テーマ設定、先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　30%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL
授業内容の理解を助けるため、画像資料なども積極的に使用し、できるだけわかりやすく進めていきたいと考えています。

科 目 名	フィールド歴史学（東アジア）　資料の「史料化」学							
担当者名	工藤　元男　他／飯山　知保／李　成市							
ア史コース	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要
21世紀の歴史研究は、近代歴史学＝「国民国家の歴史学」の相対化を底流に展開している。東アジア史も例外ではない。本講義は研究手法と史料学の視点からこの底流を検証する。具体的には、「フィールドで獲得した資料はどのようにして史料となりうるのか」という問題意識に基づき、各担当者が出土木簡や石刻・碑文や少数民族地域などの現場で獲得した「資料の史料化作業」を通して、東アジア史研究の主流である文献実証史学再構築をめざす。「泥臭い早稲田」の「汗をかく歴史学」である。

授業の到達目標
史料が所与のものとしての史料ではなく、創造的に「資料を史料化」することによって新しい歴史学が生まれることを理解する。

成績評価方法
出席三分の二以上を満たす者に対して筆記試験を行う。

科 目 名	朝鮮近現代史　近現代東アジア国際関係の中の朝鮮半島							
担当者名	三ツ井　崇							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
近現代における朝鮮半島の歴史を東アジアの視野に立って理解する。概説的部分で歴史の流れを把握し、各論的部分で朝鮮近現代史の論点を理解する。

授業の到達目標
近現代朝鮮半島の歴史を学ぶことで、近年、日本と韓国の間で盛んに論じられている歴史認識問題の背景を理解することができる。また、自ら歴史を叙述する努力を通して、歴史研究の方法や視角を理解する。

成績評価方法
●**試験**　70%　　記述式・論述問題。第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　出席と授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	東南アジア史　環境・経済・文化・社会の変容と課題							
担当者名	太田　淳							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
初めに地域の基層を形成する環境、人々、共通文化について説明した後、古代国家から現代までの歴史を概観する。各国別の出来事の羅列は避け、様々な時代を特徴づける要素の理解に努める。植民地期の宗主国だけでなく、日本を含むアジアの他地域との接触に着目し、外部の影響に対応しながら経済・文化・社会が変容してきた過程を検討する。

授業の到達目標
自然環境、外部世界との接触などにも帰因して独自に展開した東南アジア史の諸相を理解し、現代の東南アジア諸国や日本が抱える課題の解決について、歴史的理解に基づき考察できる力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　70%　　授業内容の理解度と考察力
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の参加態度
●**その他**　0%

科 目 名	基礎漢文1							
担当者名	高井　康行							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
本講義では散文体で書かれた史料をとりあげる（『十八史略』をはじめとした、高校漢文教科書に収録される文章を用いる予定）。一口に散文体の史料といっても、正史に代表される編纂史料、裁判記録や行政文書などの一次史料、あるいは虚実の入り混じった筆記・随筆など、様々なスタイルのものがある。これら多様なスタイルの史料の特徴を紹介し、その講読を通じて基礎的な漢

文の読解力を身に付けてもらいたい。また、史料の読解はただ書かれている文字を解釈するだけではなく、その記述内容から読み取れる様々な事実や背景を明らかにすることにある、それが史料を読むことの面白さでもある。この「面白さ」を講義を通じて感じ取ってもらいたい。

授業の到達目標

1. 工具書（辞書・事典）などを適切に用いた基本的な漢文の読解方法を修得する。
2. たんに漢文の字面の意味を理解するだけでなく、史料を考証する方法の基礎を修得する。
3. 高校の漢文教育における教材研究を行う上で必要な知識・技術を修得する。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験実施予定はありません。
●**レポート** 70%　漢文史料の読解および考証の度合いにより評価する。なお、レポートは複数回提出してもらう予定。
●**平常点** 30%　出席状況および授業中の質疑への対応などから総合的に評価する。
●**その他** 0%　特になし。

科 目 名	基礎漢文2							
担当者名	楯身　智志							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義の目的は、中国最古の正史である『史記』を読みながら、漢文を正確に読むための基本的な知識を身につけるところにあります。『史記』というのは、紀伝体で編纂された中国古代の歴史書です。紀伝体とは人物の伝記を中心に歴史を記録する方法のことですが、それゆえにその内容は物語的で読みやすく、話の流れも明確でオチもついています。注釈書や解説書も多く出版されており、漢文初心者でもそれらを参考に内容読解を進めていくことが比較的容易です。

学生のみなさんも、中学や高校の古典の授業で『史記』を読んだ経験がおありのことと思います。「鴻門の会」や「四面楚歌」の話は聞いたことのある方も多いでしょう。しかしそのときに読んだ漢文は、すでに第三者によって返り点・送り仮名の付されたものであったのではないでしょうか。それを読むことも大事ですが、自分で一つ一つの漢字の意味を調べたり、文章の構造を考えながら漢文を読むことこそ、本当の意味で「漢文読解」と呼べるものです。本講義では、その方法を学習し、習得することを目指します。

確かに「漢文読解」には難しいところも多いです。最初から正確に読むのは無理でしょう。しかし返り点・送り仮名とは、しょせんは中国人の書いた文章を日本人が読みやすくするためにつけたものでしかありません。100人が同じ漢文を読めば、100通りの返り点・送り仮名のつけ方が出てくるというくらい、漢文の読み方には絶対的な正解はありません。もちろん基本的なルールはありますが、それさえ守ればどう読んでも構わないと私は思います。漢文を「正確に読む」のではなく、「自分なりに解釈できるようにする」ことを目指して、自由かつ気軽に楽しく漢文を読んでいきましょう。

授業の到達目標

漢和辞典などの参考資料を用い、自力で漢文を読解する能力を身につける。

成績評価方法

・60%…レポート（講義と同様の方法で漢文に返り点・送り仮名を付し、書き下し文・現代語訳・注釈を作成する）
・40%…出席状況および復習プリントの提出状況、講義中の質疑応答（2/3超＝10回以上の出席が必須）

備考・関連URL

概要にも書いた通り、中国古代漢文の読み方に正解はありません。ですので、講師も含め、受講者全員で議論しながら正解に近い読み方を模索していく感じで講義をしていきたいと考えています。時代やジャンルを問わず、これから漢文を読もうと思っている方はぜひ受講して下さい。

科 目 名	アジア史概論1　東アジア世界の形成と展開							
担当者名	工藤　元男　他／飯山　知保／李　成市							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

全体は三部から構成され、第一部（第1回～第5回）では漢（中国王朝）と南越国（周辺諸民族）の関係史からみた古代の東アジア世界の構造について検討する。第二部（第6回～第10回）では唐宋変革期以後の東アジア世界を対象とし、伝統中国をめぐる諸問題を検討する。第三部（第11回～第14回）では東アジアにおける朝鮮半島と日本列島をめぐる諸問題について検討する。第15回は全体の総括である。

授業の到達目標

中国を中心地域とする「東アジア世界」（中国文明の世界）がどのようにして形成され、展開していったかという、東アジア史の基本問題を、中国古代史を起点として、中世・近世、そして朝鮮半島における歴史展開に主に焦点を合わせ、同時に周辺地域も複合的に考察して、動態的な理解を深めることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 80%　教場試験を行う。
●**レポート** 0%　レポートは課さない。
●**平常点** 20%　出席日数、三分の二以上を要す。
●**その他** 0%　特になし。

科 目 名	アジア史概論2　アジアの多様なひろがり							
担当者名	柳澤　明　他／五十嵐　大介／石濱　裕美子							
ア史コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

歴史世界としてアジアを見たとき、われわれはその多様なひろがりに圧倒される。しかしそれは、単にアジアの内部が多くの

地域に分けられるという意味ではない。異なる切り口――たとえば「イスラーム」、「仏教」、「遊牧民と定住民」のような――を設定することによって、さまざまに異なる像が見えてくるということなのである。この講義では、西アジアから東アジアまで広く目を配り、いくつかの異なる視点から大きな地域世界を設定してその構造と展開を概観することを通じて、アジア史の全体像と、そこに見られる多様性・ひろがりの一端を提示したい。具体的な講義内容は以下のとおりである。

1.エジプトから見るイスラーム史（五十嵐大介）：7世紀半ばに始まるイスラーム共同体の勃興と拡大は、人類の政治・文化・宗教思想地図を一変させ、その流れを大きく変えた世界史上の大事件であった。本講義では、7世紀のアラブの大征服以降イスラーム文明の重要な担い手となったエジプトを座標軸に据え、イスラーム時代の西アジア・中東の歴史を概観する。

2.チベット仏教世界のアジアにおける展開（石濱裕美子）：チベットの王権は仏教の庇護者、あるいは、執行者そのものとしてその普遍的な教義をもってモンゴル人、満州人の皇室の師となり、その社会に転生制度などを植え付けるなど民族をこえた影響力を持っていたことを学ぶ。

3.清帝国から近代へ（柳澤明）：単に中国最後の王朝というにとどまらず、内陸アジア世界の一部をも包摂した清帝国の多元的な姿と、19世紀以降におけるその解体・再編の過程を概観する。それを通じて、現代につながる東アジアの国際秩序が形成されてきた背景を探る。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「専門講義」に該当する。

講義

授業の到達目標

アジアの歴史をさまざまな角度からとらえ、その多様性に対する理解を深めることを通じて、アジア史の全体像を巨視的にとらえる視座を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　期末に1本のレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	アジア史学発達史1							
担当者名	小二田　章							
ア史コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

大学1年生の場合、「史学」の発達史と言われても、おそらくピンとこない方が多いと思います。本講義では、大学のあらゆる「歴史学」を学ぶための入口として、古代から近世に至る中国の歴史編纂の発展過程を、各王朝の編んだ史書を中心に概観します。中国の歴史編纂は、日本を含むアジアのみならず、ヨーロッパにも紹介され影響を与えました。この中国を例に、歴史編纂自体の歴史的経過（＝「史学史」）の一端を知ることによって、歴史がどのように人々に影響し関係を持ちうるのか、根本的には「歴史」とは何か、を考えるきっかけを作りたいと思います。前提となる中国史の知識は問いません。むしろ、中国史に興味を持つ端緒になれば幸いです。歴史学志望以外の方の受講も歓迎します。

授業の到達目標

中国における「史学」の発展過程を概観・理解することで、その特色を説明できるようになり、あらゆる「歴史」を考える上での基礎をつくる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回の授業中に理解度確認試験を実施する。ノート・プリント・レポート原稿持込み可。
●**レポート**　20%　　レポート（1000字程度）を最終回までに提出。課題は第8回ごろ公開。
●**平常点**　40%　　授業への参加度（20%）＋毎回のリアクションペーパー（20%）。
●**その他**　0%　　なし

科目名	アジア史特殊講義5（中国近現代史）　現代中国法論							
担当者名	文　元春							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、現代中国における主要な現行法を取り上げ、且つ、その中の幾つかの重要な制度について概説する。また、必要に応じて、関連映像等の視聴も予定している。

授業の到達目標

中国の法体系を把握し、主要な法律制度の内容および中国における法治の現状を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の内容についての理解度。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出席と授業への取り組み(発言、問題提起、質疑応答等)。
●**その他**　0%　　なし

科目名	西洋史研究1（西洋近現代史）　近現代ドイツの歴史							
担当者名	小原　淳							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、近現代ドイツの歴史を概観する。ドイツ地域は19～20世紀に分裂と統合を繰り返し、また度重なる政治体制の変化を経験しつつも、近代世界システムにおける半周縁的な地位を脱却し、中核地域たる西欧に比肩しうる存在にまで成長していった。その影響力は、EUの中心を占めるこんにちのドイツのように、ヨーロッパの統合と安定に寄与する方向に発揮される場

合もあるが、反対に二度の世界大戦の時代のように、強制的支配と大規模な暴力をもたらす過去もあった。そして、このようなドイツ史の複雑さと両義性は、同国をモデルの一つとして進められた日本の近代化とも無縁ではない。本授業では、現在のドイツ国家・社会の姿を過去に投影するのではく、むしろ歴史のなかでのドイツの領域的な伸縮、国家体制や社会制度の変化、地域や宗派に起因する多様性を重視し、また、政治史・事件史のみならず人々の生活文化や意識、行動様式をも視野に入れ、さらには日本とのつながりや比較を意識した講義を行う。なお、毎回の授業ではナショナリズム、国民国家、市民社会形成、産業革命、帝国主義、ユダヤ人、民族、社会主義・共産主義、大衆民主主義、ファシズム、ジェンダー、環境といった、近現代史の理解に欠かせない諸問題も適宜取り上げる。

授業の到達目標

受講者が、近現代ドイツ史の把握をつうじて、第一に現在のドイツがどのような歴史的過程を経て形成されたのかを理解し、第二に西洋世界、そして日本を含めた世界全体にドイツがいかなる影響を及ぼしたのかを検討し、第三にそこから得られた知見をもとに、現代世界を歴史学的な視点から考える力を養うことを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業の理解度を問う。毎回の授業で配布する資料に記載された事柄のみならず、授業中に板書や口頭で強調した事柄についても、出題の対象とする。
●**レポート**　30%　　毎回の授業の度に、理解度を問う簡単なレポートの提出を求める。
●**平常点**　30%　　遅刻、授業中の入退出、私語、居眠り、スマートフォン等の使用は出席を認めない。
●**その他**　0%　　なし。

科目名	西洋史研究2（西洋近現代史）　フランス革命を考える							
担当者名	森原　隆							
西史コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

18世紀末に勃発したフランス革命の歴史的意義をさまざまな観点から検討してゆきたい。まず、アンシャン・レジーム期から1789年の革命勃発までのフランスの史実を追跡し、とくに政治文化、社会文化の側面から、個々のテーマに基づいた分析を行ないたい。次いで、19世紀から今日までのフランス革命研究の流れを紹介し、従来のブルジョワ革命論から新しいエリート革命論にいたる研究史を整理して考察する。全体を通して、「フランス革命とは何だったのか」を、近年の研究成果をふまえて、再考してゆきたい。

授業の到達目標

「フランス革命とは何か」について、全般的な知識・情報を修得し、西洋の近現代社会の考察への独自の視点や視野の獲得を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はない
●**レポート**　70%　　講義内容に関するレポート作成
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　その他はない

科目名	西洋史研究3（西洋中世史）　中世ヨーロッパと地中海世界							
担当者名	甚野　尚志							
西史コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

初期中世から16世紀頃のヨーロッパ世界は、政治・経済・宗教すべての側面で地中海世界を中心に歴史が動いていた。地中海世界では、教皇権と東西の皇帝権を中心にキリスト教世界の政治的秩序が形成されるとともに、イスラーム世界の異文化とも出会う場であった。また、イタリアの諸都市とコンスタンティノープルとの交易を基軸としてヨーロッパ世界の経済発展を支えた場所でもあり、商人の移動により様々なモノ・人・情報が行きかった。この授業では、ヨーロッパ世界がどのようにして形成されたのかというヨーロッパ史の根幹にかかわる問題について、教皇権と皇帝権、イタリアの諸都市、ビザンツ、シチリアなどの諸国家の動きに注目しつつ、ヨーロッパ史の分岐点となるような重要なテーマを選んで講義をしていきたい。

授業の到達目標

地中海世界の歴史に視点を据えながら、中世ヨーロッパ世界がどのようにして形成され、発展していったのかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の内容について理解度を確認する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回、出席を取る。
●**その他**　0%　　なし

科目名	西洋史研究4（西洋近現代史）　19-20世紀イギリスの政治と社会							
担当者名	松園　伸							
西史コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業計画にあるように、主に3つのテーマを扱う
1　19世紀ヴィクトリア期社会とはなにか
2　19-20世紀イギリスの民主化
3　両大戦間のイギリス

授業の到達目標

授業概要にあげたテーマを理解することで、近現代イギリスの政治、社会とは何であったかを考える。

授業にあたって、英文（平易なものを選びます）、和文の文献、史料を読んでもらうので、予習が必要である。
また随時、BBC制作の歴史教育プログラムを視聴する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　随時提出のもの、期末提出のもの
●**平常点**　30%　　出席状況など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史特別研究1　中近世ヨーロッパの異端と迫害ー「ワルド派」から「魔女狩り」までー							
担当者名	甚野　尚志							
西史コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

この授業では、ヨーロッパの中世から近世にかけての異端や社会的マイノリティに対する統制や迫害について、中世の異端問題から近世の魔女狩りの問題まで考察する。それにより、中近世ヨーロッパのキリスト教社会に独特な宗教と政治との関係を解明したい。具体的にはまず、11世紀に生じた民衆的異端の問題から話を始める。次に、中世を代表する大きな異端集団であるワルド派とカタリ派の運動がなぜ民衆に浸透したのか、そしてまた、なぜ教皇権が異端審問により体系的な異端迫害の制度を創設したのかについて論じる。続いて、中世後期に蔓延した自由心霊派の異端や千年王国主義の異端と、およびユダヤ人などの取り締まりや迫害について述べ、さらに近世における魔女狩りの問題を論じて、西欧キリスト教世界の異端や社会的マイノリティに対する統制と迫害の歴史を11世紀から17世紀まで辿っていきたい。

授業の到達目標

中近世ヨーロッパ世界で生じた異端や魔女などへの教会・国家による統制や迫害について基本的な歴史的知識を獲得することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の内容をを理解したかどうかを確認する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回、出席を取る。
●**その他**　0%

科 目 名	西洋史特別研究2　スコットランド史							
担当者名	松園　伸							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「イギリス史＝イングランド史」であった時代はもはや過去になりました。1960年代以降北海油田の成功もあって、スコットランドは経済的に自立できるとの確信を強め、1997年ついに自治議会の開会に成功しました。そして2014年にスコットランドの完全独立をめぐって住民投票が実施され、これは僅差で否決され連合王国残留が決まりました。しかし英国のEUからの離脱（Brexit)に多くのスコットランド人は不満であり、独立について再度住民投票が行われる可能性は十分にあります。

本講義は、激変するスコットランド状勢が歴史的にいかに生じたかを考察します。中心は近現代史に置かれますが、古代・中世についても触れます。

以下の授業計画で示された、古代、中世、近代、演題のバランスは、受講者の希望も聞きながら、変更する場合がある。

授業の到達目標

これまでイギリス史の中で傍流的な位置づけであったスコットランド史について深く学びます。

成績評価方法

教場試験　50%　レポート30%　出席状況　20%

科 目 名	西洋史概論1							
担当者名	松園　伸　他／井上　文則／小森　宏美／甚野　尚志							
西史コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパの古代から現代までの歴史の流れについて、4人の教員がそれぞれの専門の立場から概説を行います。内容はあくまで入門的なものですが、現在の西洋史研究の動向を反映した概説となります。これから西洋史を深く学びたい学生だけでなく、教養として西洋史の知識を身に付けたい学生にとっても受講して十分理解できる授業です。

授業の到達目標

ヨーロッパ史の古代から現代への歴史の流れを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　コースナビを使い、最後にレポートを提出する。
●**平常点**　50%　　毎回出席を取る。出席し各回の授業を聴講することを評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史概論2　西洋史を鳥瞰する（近現代史篇）							
担当者名	森原　隆　他／小原　淳／高津　美和／中澤　達哉							
西史コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

西洋史学の対象は時代的にも地理的にも多岐にわたるので、この西洋史概論では、学生諸君に西洋史に対してできるだけ幅広い視野を養ってもらうことを目的に、西洋史専攻の教員8名が、古代から近現代まで、それぞれの専門分野を中心に講義する。とくに西洋史コースの2年生は是非とも履修することが望ましい。なお本年度西洋史概論2は、高津美和（イタリア史）、森原隆（フランス近代史）、中澤達哉（東欧史）、小原淳（ドイツ近現代史）が順次担当する。

授業の到達目標

西洋の近世から近現代に至る歴史についての全般的な知識と個別の諸問題についての考察方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポートを作成する。
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	史学概論　歴史とは何か　歴史学とは何か							
担当者名	森原　隆							
西史コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「歴史とは何か」「歴史学とは何か」を念頭におきつつ、主に西洋の古代・中世・近代・現代のさまざまな歴史家、歴史書、歴史考察を取り上げ、歴史研究の意義や意味を再検討したい。さらに、マルクス主義、ウェーバー理論、世界システム論、「反近代化論」、
「市民的公共性論」などに着目し、ポストモダンの世界認識を展望したい。

授業の到達目標

「歴史とは何か」「歴史学とは何か」に関する見解を構築する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はせず
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポート
●**平常点**　30%　　出席回数
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	西洋史学発達史							
担当者名	小原　淳　他／今村　労／大森　北文／加藤　義明／蝶野　立彦／出口　裕子							
西史コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代歴史学は、19世紀ドイツにおいて、歴史家レオポルト・フォン・ランケが創始した。しかし言うまでもなく、人間や社会の歩みを洞察し、記録し、解釈するという営みはランケのはるか前から行われてきたし、ランケ以降の歴史学にも紆余曲折があった。

本授業では、中世から現代にいたるまでの西洋歴史学の歩みを様々な観点から論じ、その特質を考える。本年度は、出口裕子（ドイツ中世史）、蝶野立彦（ドイツ近世史）、大森北文（ドイツ近代史）、今村労（ロシア近代史）、加藤義明（ドイツ近現代史）が順次担当する。

授業の到達目標

西洋史学の展開の過程とその背景にある歴史的事象についての知識を得るとともに、西洋史学の思考法を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポートを作成する。
●**平常点**　30%　　出席状況。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	西洋史特論1　戦争と社会							
担当者名	森原　隆　他／赤松　道子／奥村　優子／中園　恒明／早川　理穂／松原　俊文							
西史コース	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦争によって社会や国家がどう変化するか、戦争はどのように記憶され、その記憶は社会にどのような影響を与えているか、あるいはある社会の戦争観などを、研究史も踏まえつつ、特定の戦争を取り上げながら論じていく。5人が3回ずつ講義を担当する。予定している順序と内容は下記のとおり。

（1）古代ローマの戦争と平和　　松原俊文
（2）フランク王国の軍制度と教会　奥村優子
（3）フランス革命期の独裁と戦争　早川理穂
（4）ブラジルの「国民」形成と領土紛争：シスプラティナ問題とパラグアイ戦争　中園恒明
（5）戦争とロシア・ソ連社会　赤松道子

授業の到達目標

ヨーロッパ社会において、戦争やコンフリクトのもつ意味を再検討することで、講義を通じて、戦争が社会に与えた影響のほどを理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポート作成
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	**西洋史特論2**　近現代ドイツ史ードイツ史におけるナチズムを考えるー							
担当者名	紀　愛子							
西史コース	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

本講義では、近現代ドイツの歴史、特にナチ体制期の歴史を取り扱う。その際、通史的な理解だけでなく、ホロコースト、ナチズムにおける性、優生学など、回ごとに様々なトピックを扱いながら、一つの時代を多角的視点から捉えることを目指す。全15回の授業のうち、まず第1回～第5回において、ヴァイマール期からナチ体制の崩壊までを通史的に概観する。その後、第6回～第12回までの授業では、ユダヤ人、同性愛者、障害者など、ナチスによる迫害の対象となった種々の集団に焦点を当てながら、それぞれの集団とナチ体制との関わりについて講義する。第13回・14回では、戦後ドイツがナチスの過去とどのように向き合っているのかについても検討する。

授業の到達目標

ナチ体制期の歴史についての基礎知識を習得するのはもちろんのこと、近現代ドイツ史や現代世界において、ナチズムの過去がどのような重要性を持つのかを理解できるようになることを目指す。さらに、歴史的事象を多角的視点から検討する姿勢を養う。

成績評価方法

●**試験**　55%　　最終回（第15回）で、授業の理解度を問う試験を行う。
●**レポート**　30%　　毎回の授業の最後に、理解度を問う簡単なペーパーの提出を求める。
●**平常点**　15%　　出席状況、授業態度を評価する（3分の2以上の出席が単位条件。その他、積極的に授業を聞く姿勢を評価する）。授業中の私語、スマートフォンの使用、居眠り、授業中の入退出は出席を認めない場合があるので注意すること。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	**西洋古代史**							
担当者名	井上　文則							
西史コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

2世紀の五賢帝時代に最盛期を迎えたローマ帝国は、3世紀の軍人皇帝時代以後、衰退期に入る。本講義では、この衰退期のローマ帝国史を論じる。本講義は「ディプロマポリシー」に沿って、「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成」することを目指す。

授業の到達目標

本講義で扱う時代は、ローマ帝国の衰退期であるだけではなく、古代社会が崩壊し、新しい時代が始まる時代の転換点でもある。単にローマ帝国についての知識を得るだけではなく、広い視野で歴史を考える力を養うことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　理解度の確認で評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席点で評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	**西洋中世史2**　西欧中世の歴史的諸相							
担当者名	田中　史高　他／唐澤　晃一							
西史コース	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

西欧中世史上の主要なトピックを15取り上げ、毎回読み切りで論じていきます。今年度はとりわけ都市的事象に多めの比重をおく予定です。なお、時間的に可能であれば、DVDやCDなども使用します。

授業の到達目標

この講義は、人類史上における西欧中世の重要性について認識を深め、グローバル世界で活動するための力、異文化地域としての西欧の歴史への理解と洞察力を深めるための一助となることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末に西欧中世について任意のテーマによるレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　60%　　出席状況、授業への取り組みを中心に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	西欧史　スペインの現代史／内戦の背景							
担当者名	渡辺　雅哉							
西史コース	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

1930年代に内戦の悲劇に見舞われたスペイン。そして、現在では、折からのEUの危機と相まって、1970年代に始まった民主化の過程が問い直されているかにも見えるスペイン。そんなスペインについて、あれこれ考える。

授業の到達目標

ピレネーの南に関して、各人が歴史を踏まえたイメージを持つこと。考察の対象は、主として19世紀の初頭から内戦までの現代史。さまざまな側面を扱うが、特に19・20世紀のアンダルシアに目を向けてみることにしたい。「自由主義」をその看板に掲げる国民国家の形成へ向けてひとまずは「離陸」を果たしながらも、国民の共生には失敗したスペイン。1936年に勃発した内戦こそは、その端的な証しだった。この「兄弟殺し」の破局へとスペインがのめり込んでいったプロセスのなかにアンダルシアが占める比重には、とりわけ大きなものがあったように思われる。

成績評価方法

割合　レポート70%と出席状況・授業態度30%の比率で評価する。レポートの内容その他については授業中に指示する。

科 目 名	近現代ロシア史　帝政ロシアの国家と社会							
担当者名	草野　佳矢子							
西史コース	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

1917年革命以前のロシアの政治文化の様相や社会構造を歴史的に考察する。

主にロシア帝国の歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて論じる。関連する映像の視聴も適宜行う。

授業の到達目標

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第15回目の授業時間中に論述式の試験（持ち込み可）を実施し、理解度の確認を行います。試験問題に関しては、第14回目の授業終了後、おおよその内容を発表します。なお、受験は第15回目を除き、10回以上の出席を前提とします。

●**レポート**　0%

●**平常点**　20%　　質問等、授業への参加態度。

●**その他**　0%

科 目 名	科学史　近世における科学の発展と世界観							
担当者名	山本　大丙							
西史コース	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

近世における科学の発展は西欧人々の心に大きな変化をもたらした。地動説の登場や新大陸到達のおかげで、長く続いてきた世界観は大きく揺らぐことになった。その反面、当時は神話や伝説が真実として受け止められる傾向がまだ強かった。多くの地図作成者が架空の島や国を実在のものとして書き込んでいた。聖書に記されていないアメリカ大陸は、ヨーロッパ人にとって意味不明の巨大な謎だった。地動説は注目を集めていたが、キリスト教的な立場からこれを批判する者も多かった。ほとんど全ての人々が世界の年齢を聖書の記述からおよそ6000年と見積もっていた。偉大な業績を残した当時の科学者たちの中にすら、およそ合理的とはいえない思考にとらわれていた者が見いだされる。いわば、17世紀は科学と宗教や神話がせめぎ合う時代であった。この時期における科学の発展を概観すると同時に、当時の神話や伝説、また、時には歩調を合わせ時には対立した科学とキリスト教の関係をも学んでゆきたい。

授業の到達目標

西欧における科学の発展をある程度理解する。また、当時の伝説や神話、あるいは宗教と科学の関係を把握する。

成績評価方法

講義内容の理解と出席

科 目 名	西洋史特別研究3　礫岩国家/複合国家としてのハプスブルク帝国							
担当者名	中澤　達哉							
西史コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる西欧型国民国家の一元的支配にみる「凝集性」とは異なる、ハプスブルク帝国の多元的支配にみる「集塊性」を理解するための授業構成とする。その際、一人の君主が複数の国家・地域の君主を兼ね、その君主のもとで諸国家・諸地域が緩やかに連合している「複合君主政」のシステムを把握することが重要である。「合意」を旨とする複合君主政の政治文化はハプスブルク帝国史のほか、帝国以後の東欧現代史をも規定することになる。

なお、理解の一助のために、ポストコロニアル・スタディーズの分析方法もその都度学ぶとともに、文献史料のほか画像資料、民俗資料、映像資料も活用し、パワーポイントを使用した授業を行う。

授業の到達目標

東欧は「文明の十字路」といわれる。歴史的にはハプスブルク帝国、ポーランド=リトアニア共和国、ロシア帝国、オスマン帝国などの複数の巨大な大陸帝国が交錯した場であった。また、20ほどの諸民族が共存・抗争を繰り広げ、キリスト教の諸宗派（カトリック、ルター派、カルヴァン派、東方典礼カトリック、フス派、ボヘミア兄弟団、正教）がせめぎ合い、これらとユ

ダヤ教・イスラム教とが接触する場でもあった。それゆえに東欧は、文化的な複数性と雑多性を特色とするユニークな場なのである。20世紀前半には二つの総力戦の着火点となり後半には社会主義の実験場ともなるような、人類史のダイナミズムを内包する地域でもあった。

こうした東欧を知るには、この地域に数百年に渡って存在したハプスブルク帝国の歴史を理解することが重要な鍵となる。特に、多民族の複合的国家形態や複合君主政体によって育まれた「合意」の政治文化の特性を理解できるようになること、以上が本講義の到達目標である。そのため、毎回の予習・復習が望ましい。

成績評価方法

●**試験**　40%　　正確かつ論理的な試験答案を作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　60%　　30%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。 30%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。

●**その他**　0%　　特になし。

講義

科 目 名	**西洋史特別研究4**　ハンムラビ王による統合支配体制－世界最古の民営化社会と『ハンムラビ法典』－							
担当者名	川崎　康司							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代メソポタミア世界の支配者が頻繁に「法典」を編纂するようになったウル第三王朝成立（前三千年紀末）からバビロン第一王朝崩壊（前二千年紀中頃）に至る約500年の歴史を概観し、彼らが何故「法典」を布告するに至ったのかをこの時代に起こった社会経済史的な変革に焦点を当てて考察する。新たな大転換期を迎えた前二千年紀前半の社会を伝える代表的史料『ハンムラビ法典』の本質と各条項のもつ社会経済史上の意義を講義する。

バビロン市の王ハンムラビ（在位前1792～1750年）は古代メソポタミア史上3番目の統一国家を築き、新たな統治体制の指針として『ハンムラビ法典』（以下、法典）を編纂させた為政者として有名である。近年、彼の生きた時代は古代メソポタミア史のみならず人類史上の一大変革期であったことが明らかになり、また、最新の資料研究に基づく彼の事績に関する総括的な研究書も再び増えつつある。しかしながら、彼の事績研究において最大の史料であるはずの『法典』の特徴づけは未だ伝統的な法制史解釈に偏り、彼が目指した統合支配体制の実態解明には十分に活かされていないと考える。本講義は『法典』の内容理解を主題とするが、そのような見解に至る理由を明らかにするため、まずはその成立の背景となるウル第三王朝期から古バビロニア時代までの歴史の流れを詳述することから始めてみたい。その後、原文から邦訳した『ハンムラビ法典』を利用して、全280条あまりの法令と前文・跋文を受講者とともに系統的に分析しながら、その特徴と内容を理解していく。「目には目を」あるいは身分法的特徴という漠然とした（刑法）イメージで知られるこの歴史的な史料の持つ真の意味が、果たしてそうなのかを検証するとともに、それ以外の条項（訴訟法・土地制度法・債権法・商法・家族法・契約法）の真意を、様々な副次的史料（プリント配布予定）を活用しながら検討していく。講義の回数が短いため、全てを明らかにすることは難しいと思われるが、最終的には、当時の都市社会に起った社会的・政治的そして経済的変化と『法典』の各条項の相関性、そしてハンムラビの統一国家運営の理念を理解してもらいたい。

授業の到達目標

1．古代メソポタミア文明の世界で展開された歴史の概要とその特徴を知る。

2．古代世界の歴史的な展開とその特徴を具体的な史料から読み解くための思考法を修得し、古代史研究におけるより専門的な史料読解や史料批判の方法、専門研究に必須となる基礎知識や歴史用語を身につける。

3．最新の研究状況を知り、歴史研究におけるテーマの立て方や分析の仕方、レポートの作製法を学習する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　・試験は行わずレポートと平常点評価で採点します。

●**レポート**　70%　　・第15回目の講義日前後に最終レポートを作成・提出してもらいます（事務所提出）。 ・レポート課題の詳細は、6月の授業中に詳細を提示します。 ・本講義で身につけた知識から独自のテーマを導き出し、的確に探求しレポート出来るかを評価します。 ・ 5月末締め切りで簡単な「課題図書読後感想文」を提出してもらいます。

●**平常点**　30%　　・毎回出席を確認します。出席を評価の対象とします。 ・毎回の講義前や講義中に質問や発言時間を設けます。積極的な質問や発言を評価します。

●**その他**　0%　　・平常の発言などを最終的な採点に加味します。

備考・関連URL

関連URL

http://www.oi.uchicago.edu/OI/DEPT/RA/ABZU-REGINDX-MESO.HTML（シカゴ大学オリエント研究所のホームアドレス・但し英文のみ）など

備考

講義で使用するレジュメは毎回配布する予定なので、整理用にA4版ファイルを用意してください。

科 目 名	**西洋中世史1**　中世ヨーロッパ世界とキリスト教：教会の発展と宗教運動の諸相							
担当者名	鈴木　喜晴							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代ヨーロッパは、社会のさまざまな領域で「脱宗教化」が進行し、現在では他の地域と比べても世俗主義の色彩が濃い。しかし歴史的には、キリスト教こそが長期にわたって社会を統合する求心力だった。キリスト教は古代末期から地中海世界より北方へと拡大を始め、中世ヨーロッパ世界の形成とともに西方教会（ローマ・カトリック教会）も制度的に確立していった。中世とは、教会の影響力が社会の隅々にまで浸透していく「キリスト教化」の時代だった。ヨーロッパ世界とキリスト教会はいわば双子の兄弟であり、教会史を学ぶことはヨーロッパの深層を考えることでもある。

本講義は単なる教会史というよりはむしろ、教会と社会とのかかわり、相互の影響関係を検討する。基礎知識を確認するため、

古代末期から中世初期のキリスト教にも簡単に触れるが、時期的には主に8世紀のカロリング期以降を対象とする。特に「キリスト教化」の過程が進行した結果、教皇と教皇庁が封建社会を牽引する普遍的権威へと成長したが、同時に各地で多様な宗教運動が開花した11～13世紀に重点を置く。本講義で扱う地理的範囲は、イタリアとアルプス以北にほぼ限定されるが、西ヨーロッパと地中海世界、特にビザンツ帝国とのかかわりについても時間の許す限り解説を加えたい。

授業の到達目標

中世キリスト教史について一般的知見（学部レベルの教養、または西洋史学コースの専門講義を理解するための予備知識）を得ること。

中世ヨーロッパ社会の成立・統合過程を理解すること。

西方教会がどのような社会・経済的基盤に根差していたのか理解すること。

教皇と教皇庁が中世において果たしていた役割について理解すること。

その他の諸問題についても、受講者自身が自主的に学習を深めていくための足掛かりをつくること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　85%　　期末に授業内容の理解度を確認するため、課題レポートを課す。
●**平常点**　15%　　出席カードを適宜配布する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	考古学概論							
担当者名	近藤　二郎							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学とは、どんな学問分野であるか、その形成期からの歴史をたどりながら、「考古学」の全容を説明していく。特に、ダーウィンの進化論が発表されて以降、近代の所謂、伝統的考古学は、進化論を取り入れて発展してきた。また、考古学は、ヒトの誕生から現代まで極めて広範な時代・地域を扱う分野である。本講義は、考古学の基礎を学ぶとともに、その時代や地域による特徴・特色にも言及していく。

授業の到達目標

考古学史を学ぶことで、現在の考古学研究がどのように研究されていったのかを理解することを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　期末課題レポートの提出をしてもらう。
●**平常点**　60%　　出席、授業態度などを加味して評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本考古学概説							
担当者名	長崎　潤一　他／城倉　正祥／高橋　龍三郎							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

発掘された遺跡・遺構、あるいは土中から出土する考古遺物を駆使して、人類が辿ってきた遥かな道のりを考究する学問が考古学である。本講義では、日本考古学、特に旧石器時代から古代までを対象とし、最新の発掘成果や最先端の研究成果を踏まえて各時代の特色を講義する。日本列島では、高度経済成長期に進んだ開発に伴う発掘調査によって、膨大な考古学的資料が蓄積されている。しかし、考古遺物の分析が精緻化するほど研究も細分化され、通時的な歴史像が描き難くなっているのもまた事実である。本講義では、人類がなぜ立ちあがり、狩猟・採集・漁労の時代を経て稲作へと進んだのか、そして巨大な古墳を作る時代から寺院・都城を造営する国家体制へと変貌を遂げていくのか、各時代の歴史的特色を明らかにする作業を通じて列島に生きた人々の営みとその道のりを通時的に描き出すことを目的とする。

授業の到達目標

本講義では、受講者が日本考古学に関する基礎的な知識を得ると同時に、列島における人々の営みを通時的に位置付ける視点を養うことを目標とする。

成績評価方法

オンデマンド授業の進展に合わせて小テストを課する。また、授業の最後には理解度を確認するための試験を実施するが、実施方法についてはコースナビで通知するため、チェックすること。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	世界の考古学　東南アジアの考古学							
担当者名	田畑　幸嗣							
考古コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

東南アジアの考古学をとりあげます。東南アジアは、熱帯モンスーン気候帯に属し、島嶼と大陸というおおきな地理的・歴史的なまとまりをもっていますが、その歴史や文化は、現在の国境線にとらわれず、華南（台湾）とオセアニアまで視野にいれなければ理解できません。

授業では、このような前提にたち、旧石器時代から古代国家の成立までを中心に、それぞれの地域での調査成果と定説、最新の解釈などについて講義します。また、東南アジアの世界文化遺産についても時間が許せば講義をします。

授業の到達目標

東南アジアに固有の生態学的環境や歴史的文脈を理解したうえで、代表的な時代区分、文化、遺跡、遺物、年代観などを身につけることを目標とします。

成績評価方法

各回ごとの確認テストと最終レポートで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

出席（聴講・小テスト）は100パーセントを基本とし、欠席（未聴講・未受験）はやむを得ない事情以外にはみとめない。本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	現代社会と考古学　現代社会における考古学の役割							
担当者名	長崎　潤一							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

講義

授業概要

フルオンデマンドで行う。 考古学は過去の歴史的な事象について扱う学問であるが、考古学の扱う『遺跡』は現代にまで残ってきた文化財（文化遺産）であり、この文化財としての『遺跡』は現代に属するものである。この授業ではこうした『遺跡』の有する現代的な意義について考える。

近年ではこうした『遺跡』は人類共通の遺産として世界遺産に登録されたり、文化遺産（文化資源）として観光にも活用されたり、地域で一定の役割を果たしている。一方で現代人の建設・開発行為によって日本でも多くの遺跡が失われてきたし、現在でも発掘された後にはほとんどの遺跡は壊される。こうした埋蔵文化財問題についても扱う。

また日本では考古学関連の報道が多く報道によって遺跡の保存の方向性が決まったりもする。考古学と報道の関係はある部分危ういし、ある分依存的である。また国家や地域住民のアイデンティティと遺跡が結びつく場合や、考古学的な解釈が国家に都合良い形で利用されてしまうことがある。こうした事例についても解説する。

●考古学についての専門知識を必要としないので、他学部の諸君の積極的受講を歓迎する。

授業の到達目標

考古学が現代社会においてどのような役割を演じているのか理解できるレベルを目標とする。遺跡が語るメッセージを現代社会がどのように受けとめるのか、また文化資源としての遺跡の価値、考古学報道に対するリテラシーを養成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。

●**レポート**　20%　　期末レポートを課す。なお授業動画を視聴し、小テストで一定以上の成績を取った受講者だけが期末レポートを提出することができる。

●**平常点**　10%　　平常点はその他に記載した小テストで評価するが、授業への質問を書き込みを授業への積極的参加とみなし、平常点に加算する。

●**その他**　70%　　各授業動画には小テストが付属する。この小テストで一定以上の点数を取れなかった場合、授業動画を視聴しなかったとみなし、期末レポートを提出することができない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科 目 名	アジア考古学交流　東アジア古代都城の比較考古学							
担当者名	城倉　正祥							
考古コース	2単位	夏季集中	無	その他	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

多極化が進む現代社会において、東アジア各国の結び付きはますます深く、そして濃密になりつつある。しかし、歴史的にみれば、東アジア世界は常に相互に深い関係を保ちながら発展の道をたどってきた。特に、中国で隋唐帝国が出現する6-8世紀には、東アジア各国が中国の最先端の文化・文物を競って取りいれたことが知られる。都城と呼ばれる中国式の都市もその一つである。皇帝（天皇）の居住空間であると同時に政治・経済・行政の中枢である宮城と皇城、その周囲に整然と区画された碁盤目状の街区で構成される都市空間（里坊）、東アジア各国における都市の成立は、まさに唐帝国を模倣した中央集権体制の成立（日本の律令制など）と不可分の関係にある。

本講では、隋唐期に頂点を迎える都城という都市機能が中国においてどのように成立し発展したか、そして隋唐期の都城がどのように東アジア各国に伝播し、各国の伝統と結びつきながら受容されたかを考古学の発掘成果に基づいて比較検討する。我々の地下に眠る古代都市の復原を通して、文献史学とは異なる角度から古代東アジアの国際交流を考えてみる。

授業の到達目標

本講は、考古学からみた古代東アジアの国際交流について理解を深めると同時に、受講者自身が東アジアの視点で歴史を捉える力をつけることを目標とする。レポートの作成を課題とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　30%　　授業の内容を踏まえ、特定課題のレポートを義務づける。その内容により評価する。

●**平常点**　70%　　授業への出席状況より評価する。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

2019年度は、夏季集中講義として実施するため、受講の際には日程などに注意してほしい。授業終了後にレポートを課すため、レポート作成期間が短くなる点にも注意してほしい。

講義予定日・時限：

8月5日（月）　1～5時限

6日（火） 1～5時限
7日（水） 1～5時限

科 目 名	文化財の保存と活用　埋蔵文化財の保存と活用							
担当者名	西田　健彦							
考古コース	２単位	春学期	土曜日	５時限	３年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の文化財保護法は、その目的を「文化財を保存し、且つその活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する。」とする。日本各地には先人が残した多様な文化遺産が今も豊富に伝えられてきている。それらは地域の誇りであり、地域への愛着をもたらす精神的な拠り所でもあるとともに、地域の歴史的、文化的環境を形作る重要な資産である。その価値は国民、地域住民が直接、間接に享受することが求められ、文化財保護行政は保存と活用のために様々な施策を行ってきている。戦後、我が国の文化財保護行政において大きな役割を果たしてきたのが、遺跡をあつかう埋蔵文化財保護行政の分野である。開発事業から遺跡を保護するために、都道府県だけではなく、市町村も含めて考古学を専攻した専門職員を配置して、多くの発掘調査を行ってきた。その結果、歴史を書き換え、全国各地域に豊かな固有の歴史があることを明らかにしてきた。これまでに蓄積された豊富な成果は、今日の社会が求めている地域づくり、ひとづくりにつながる資産となっている。

授業では埋蔵文化財保護の歴史、法制度、行政施策、世界遺産などについて、我が国の埋蔵文化財保護を中心に概観する。

授業の到達目標

日本の文化財保護について、埋蔵文化財や史跡を中心にして、以下の項目について理解するとともに、これからの地域づくり、まちづくりのために、文化財の保存と活用をどのように展開させるかを学ぶ。

1、 文化財の種類と内容
2、 埋蔵文化財保護の歴史
3、 埋蔵文化財保護の法制度と仕組み
4、 史跡・埋蔵文化財の保存と活用
5、 文化財保護と地域づくり
6、 世界文化遺産と日本

成績評価方法

●**試験**　90%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。試験の解説も同時間内に行います。資料の持ち込みは一部認める。
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%　　出席状況
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

最新の埋蔵文化財保護情報（新たに指定された文化財、発掘調査成果、展覧会など）については、文化庁、奈良文化財研究所、都道府県教育委員会、都道府県の埋蔵文化財発掘調査組織（公立または公益財団法人の埋蔵文化財調査センター）のホームページに掲載されているので、参考にすること。

科 目 名	原始古代の社会と宗教（アジア）							
担当者名	田畑　幸嗣　他／高橋　健							
考古コース	２単位	春学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

原始・古代の社会には、一体どんな宗教が、いや宗教と言わぬまでも、何らかの伝統的な信仰などはあったのだろうか。文献史料を利用できる比較的新しい時代はまだしも、文字のまだない先史時代の社会については、その追求・復原は主に考古学に拠るところとなる。ところが考古学は、遺跡・遺構・遺物といった物質文化を主な資料とするから、こうした物証に基づいて、当時の社会の住居や集落、生業や食生活といった面はかなりの程度明らかにできても、彼らの思想や価値観、信仰や宗教といった面の解明は必ずしも容易ではない。これらは無形の精神文化だからである。

では、原始・古代社会の信仰や宗教に関しては、全くお手上げなのであろうか。決してそうではない。考古学・文献史学を中心に、人類学、民族学、宗教学、神話学その他多くの分野での研究を総合して、かなりのことが明らかにされ、あるいは推測されるに至っている。

本講義では、日本列島を含むアジア諸地域を中心に、原始・古代に生きた人々の精神世界の一端を、彼らの社会や文化との関わりの中で考えてみたい。

授業の到達目標

東アジアの旧石器・縄文時代から古代に至る各時代の精神文化を考古資料から読み解く。無文字社会から歴史時代までの社会と宗教、精神文化を考古学の資料と方法論によって理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　解答が授業内容に即して適切に述べられているかどうか。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　50%　　出席状況と受講態度
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	原始古代の社会と宗教（エジプト・マヤ）　エジプトとマヤの社会と宗教							
担当者名	近藤　二郎　他／寺崎　秀一郎							
考古コース	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学研究は物質文化を通じて、過去に存在した社会の復元を目指すことを原則としているが、人類の営為のすべてが物質的

残滓として、現在を生きる私たちの前に存在するとは限らない。むしろ、多くの情報はすでに失われてしまっていることも多い。そこで、物質文化＝考古資料を手がかりに、遠い過去に暮らした人びとが何を考え、どのような社会に生きていたのかを解き明かしていくことが必要となる。考古学の手法をもとに宗教や信仰などの精神文化を含む過去の社会の“実像”を描き出す方法を紹介する。本年度は、前半にエジプト文明について、後半にマヤ文明に関する講義をおこなう。

授業の到達目標

本講義では、旧世界と新世界を代表する古代文明であるエジプトと中央アメリカのマヤについて取り上げる。時間的空間的に遠く隔たったエジプトとマヤを比較し、人類社会の多様性と普遍性について考えてほしい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　受講者の理解度を確認するための試験を実施する
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　50%　　出席、受講態度等から判断し採点する。なお、受講生は受講後、コースナビ上のレビューシートに記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%　　なし

講義

科目名	環境と考古学　環境考古学の基礎を学ぶ							
担当者名	馬場　匡浩							
考古コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学では主に土器や石器などの遺物、住居址や墓などの遺構から過去を復元する。しかし、遺物や遺構からだけでは、十分に理解することができない。人は自らが生活する周辺の自然環境に、適応または改変する中で必要に応じて様々なものをつくり出す。つまり、遺物や遺構と自然環境をあわせて考えることで、はじめて過去社会の具体像を理解することができる。また、人類史の大きな流れをみても、地球環境の影響は少なくない。人が文化を創出する環境の基盤を明らかにし、さらに人と環境の相互関係を考える学問が環境考古学である。

本講義では、まず環境考古学を学ぶ意義について述べたうえで、過去の自然環境や人間の動植物資源利用を復元する基礎的な方法について説明していく。また後半では、古代文明と環境の問題も扱う。

授業の到達目標

考古学を学ぶうえで必要となる基礎的な環境考古学の知識を身に着け、環境史を学ぶ意義を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場にて、筆記試験を行う
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況および授業における積極性を重視する
●**その他**　0%

科目名	考古学方法論　考古学の基礎概念・研究法・理論							
担当者名	田畑　幸嗣							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

考古学とはどのような考えかたをし、どのような問題が考古学のテーマとなっているのでしょうか。

授業では、考古学の基本的な考えかた、概念、方法論や理論について学びます。実際に遺跡に出かけるところから、発掘調査、データの整理、分析や発表のありかたについて、

具体的な事例をまじえながら解説します。考古学の研究現場で実践されている調査・分析方法を紹介し、物質文化から過去の人類活動を復元するための具体的な方法、問題点、理論的前提について論じていきます。

なお、特定の地域や時代（例えば日本の縄文文化など）を取り扱う授業ではありませんので、注意してください。

授業の到達目標

専門的な学習を開始する際に必要なの基礎知識と方法論を身につけることを目指します。考古学とはどのような考えかたをする学問なのか、について自分の言葉で説明できるようになることが授業の最終的な目標です。

成績評価方法

各回ごとの確認テストと最終レポートで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

出席（聴講・小テスト）は100パーセントを基本とし、欠席（未聴講・未受験）はやむを得ない事情以外にはみとめない。
本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

科目名	文化財行政学　文化財保護の制度と行政							
担当者名	御堂島　正							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

わが国における文化財保護制度と行政の実務について基礎的な知識が身につくよう、文化財保護の基本的事項や各種文化財の保護制度について、文化財保護法をもとに、できるだけわかりやすく解説する。

授業の到達目標

文化財保護の制度と行政実務の基礎を理解し、地方公共団体等の文化財専門職員として必要な基本的知識を得ることができる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業に対する取り組み姿勢（積極的な発言や受講態度など）を評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	野外考古学概論							
担当者名	竹野内　恵太							
考古コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学において、野外調査（フィールドワーク）は研究対象となる資料を収集するための主要な手段である。一般に、考古学の野外調査は、過去人類の痕跡が埋まっている遺跡の発掘調査と同義である。一方で、今日の考古学者たちは、「遺跡分布調査」や「測量調査」、「民族考古学的調査」など、発掘調査の他にもさまざまな方法を用いた野外調査を実践している。また、考古学の野外調査によって得られた資料は、基本的に物質文化（土器や石器、建造物などの「モノ」）から構成される。遺跡に残された痕跡それ自体から過去の人々の慣習や信仰、生活、社会システムなどを直接復元することは難しいため、それらを適切に解釈する枠組みがしばしば必要となる。そこで本講義では、主として野外調査の手法について紹介するとともに、民族誌や歴史文書、文字・図像資料の援用など、物質文化に対する解釈の枠組みを構築する研究手法についてもとりあげる。 さらに、考古学の野外調査と現代社会との関係性およびその問題点についても触れてみたい。いずれにおいても、全ての地域を網羅することはできないため、講師がこれまでにエジプトで実施してきた野外調査の事例を中心として、その実際の様子を紹介しながら進めていく。

授業の到達目標

考古学研究における野外調査の意義と重要性について認識し、その多様な方法に対する理解を深め、考古学と現代社会との関係性について見識を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　予定しない
●**レポート**　70%　　授業の理解度とオリジナリティ、ならびに文章展開の論理的整合性、説得力を重視する
●**平常点**　30%　　出席状況および受講態度による
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	理論考古学							
担当者名	山本　典幸							
考古コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本における理論考古学への関心とその動向を、米英の考古学思想史と比較しながら講義する。理論考古学とは、簡単にいえば考古学研究の中で特に理論・方法論について議論する狭義の分野を指している。狭義の意味での理論考古学は、考古資料の分析によって時間的・空間的な差異や変化などを追究する記述考古学との間で、人類史の再構成といった論理構造にとって双方向的な役割を担うことになる。

本講義でいう理論考古学は狭義の理論考古学に加えて、記述考古学と狭義の理論考古学との間で双方向性をもつ思考の枠組み（思考の過程）も意味している。 狭義の理論考古学と思考の枠組みとしての理論考古学の両方を学ぶということは、考古資料に関する専門的な知識を身につけるだけでなく、その資料はどのような過程で生み出されたのか、なぜ変化や維持が起きるのか、変化は他の技術や社会、観念などにどういった影響を与えるのか、そもそも取り扱う考古資料は文化の中でどのように位置付けられる存在なのかなどを評価する論理力の会得にもつながる。

授業の到達目標

1. 1960年代から米英を中心に本格的に議論されてきた理論考古学の歴史を、欧文書籍を通して知ることができる。
2. 理論考古学の世界的な針路と比較しながら、編年の精緻さと充実した記述考古学に依拠する旧石器／縄文／弥生／古墳時代研究において、日本型の理論考古学の形成が可能か否かを判断することができる。
3. 理論考古学の世界的な水準を理解し、研究対象の時代や地域に関係なく考古資料の分析と理論・方法論との間の双方向性を自ら実践できるようになる。

成績評価方法

期末に提出する課題レポートの内容40%、出席40%、授業時のコメント20%

備考・関連URL

講義の中では、理論考古学に関する欧文書籍を紹介したり、それらの文献に対して学生からのコメントを随時求めていくので、積極的な参加を望みます。また、理論考古学に対する学生の理解度を深める意味から、第7回頃に理論考古学の論点の共有化と整理を目的に、教員と学生の間でフリートークを催します。

科 目 名	考古学と関連科学　A　考古学と自然人類学のリンクを目指して							
担当者名	藤田　尚							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本は火山列島であり、酸性土壌のため古人骨は残りにくい。しかし、縄文時代の貝塚や、江戸時代の遺跡からは、しばしば古人骨が出土する。自然人類学者の数が少ないため、古人骨は考古学者によって取り上げられ、鑑定を依頼することになる。しかし、出土した古人骨の取り上げ方、いわゆる初期対応の良し悪しが、資料としての古人骨の「価値」を決めることが多い。従って、本授業では、古人骨が出土した場合の対処法について解説する。また、考古学者は自然人類学の基礎知識を習得する必要がある。8000万年前に出現した初期霊長類が進化を遂げ、初期人類は700万年前に出現したと考えられている。人類は高度な文明を発達させたが、それは、直立二足歩行とそれによる大脳の巨大化によるものである。初期人類から我々ホモ・サピエンスまでの進化の過程を概説するとともに、日本における旧石器人、縄文人、弥生人などの特徴を解説し、現代日本人がどのような過程によって形成されたのかを学ぶ。

授業の到達目標

日本では、考古学と自然人類学は、文系と理系に分かれているが、欧米圏ではDepartment of Archaeology and

AnthropologyもしくはDepartment of Anthropologyとして、考古学、自然人類学、民俗学、民族学、文化人類学、言語学などは包括した学問としてみなされる。本講義は自然人類学の講義であるので、受講生諸君は、
1)ヒトの進化の概略について理解し、考古学分野において応用することができる。
2)ヒトの骨格の基本的知識を習得し、発掘現場での対応ができるようになる。
3)ヒトの食性や行動の原点が霊長類に見られることを理解し、考古学の立場からヒトを考える際に、その知識を生かすことができるようになる。
4）近代以前の人類は、非常に短命であり、その原因は感染症・寄生虫症での高い死亡率である。現在の長寿社会とは根本的に異なる、近代以前の社会での出産、成長、寿命などを、各種の感染症等から理解し、考古学分野で活用することができるようになる。

成績評価方法

●**試験** 70% 最終授業時間に試験を実施し、理解度の確認を行います。試験の形式は論述試験です。設問に対し、ポイントを的確に押さえた論述力を基本評価としますが、自己学習による、より高い知識習得度はプラス要因となります。
●**レポート** 30% 理解度の中間的意味として、第7回授業終了後にレポートを課します。課題は講義時間に示します。霊長類や初期人類の特徴などが良く理解できているかを確認します。
●**平常点** 0%
●**その他** 0%

備考・関連URL

「出席」についての留意点
・出席は9割以上を目標に、7割（11回）を下回らないように留意してください。パワーポイントを多用する授業ですので、出席回数が少ないと、理解度の低下が予想されます。

講義

科目名	考古学と関連科学 B							
担当者名	小林 謙一 他／佐々木 由香／早田 勉／樋泉 岳二							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

遺跡の発掘調査で出土する様々な自然遺物は、動植物遺体から石材、炭化物など多様なものからなっており、それらは年代や文化、社会を探る上で重要な情報源となる。自然遺物をどのように扱い、そこからどのような情報を引き出すかは専門的な知識と技術を必要とする。講義では、年代、植物遺体、動物遺体、火山灰編年学等について、それぞれの専門研究者が実際の資料をもとに、方法論、分析法、解釈の仕方などについて講義する。

授業の到達目標

考古学研究における関連科学の知識・技術の必要性び関連科学を援用した研究方法・成果を理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 80% 試験またはレポート（各担当者ごとに課す評価を合計する）80%、試験・レポートの別は、講義の際に各担当者が指示する。なお、4名の担当者による理解確認の課題評価を、それぞれ受けなければ成績評価されないので注意されたい。
●**レポート** 0% －
●**平常点** 20% 出席8割以上を必要とする。
●**その他** 0% －

科目名	中東・イスラーム研究入門							
担当者名	佐藤 尚平							
イスコース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、中東やイスラームについてこれから本格的に学ぼうとする学生を対象とし、基礎的な知識と分析視角を提示する。まず、中東とは何か、イスラームとは何かについて基礎から学ぶ。その上で、現代の中東がどのような歴史的な経緯を経て発展してきたのか、世界全体の歴史に位置付けながら検討する。

授業の到達目標

中東やイスラーム教徒について基礎的な知識を得る。その上で、自分の関心に応じて調査を行う方法について学ぶ。さらに、各テーマについて、既存の学説を踏まえつつ複数の視角から検討する批判的な思考力を養う。

成績評価方法

●**試験** 100% 最終回の試験により評価する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%
●**その他** 0%

科目名	中東・イスラーム基礎研究 中東・イスラームから現代社会を考える							
担当者名	安田 慎							
イスコース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中東・イスラーム研究を概観すると、その議論は実に多岐にわたるとともに、人文・社会・自然科学のあらゆる分野から多角的に分析がなされている。本講義では、中東・イスラーム研究における研究潮流について紹介しながら、中東・イスラーム社会を研究する／分析するための視座を受講者自身に養ってもらいたい。

授業の到達目標

1．中東・イスラームに関する基礎概念について説明できる。
2．中東・イスラームの研究動向について説明することができる。

3. 中東・イスラームのテーマについて、中東・イスラーム研究の議論を踏まえたうえで、自らの調べた内容を議論することができる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 「中東・イスラームについての受講者の興味関心のあるテーマを設定したうえで、中東・イスラーム研究の議論を踏まえて調べてきた内容をまとめよ」（4000字）
●**平常点** 60% 講義毎の小レポート課題（A4で1枚程度）
●**その他** 0%

備考・関連URL

・希望者がいる場合、東京都内の中東・イスラームに関連する場所（宗教・文化施設、料理店）へのツアーを実施する。なお、ツアーの費用については参加者の負担となる。詳細は講義内で案内する。

科 目 名	中東・イスラーム前近代史1 中世アラブ・イスラーム史の諸問題1							
担当者名	五十嵐 大介							
イスコース	2単位	春学期	木曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、文学部の中東・イスラーム研究コースの3年時必修講義であり、本コースの学生が専門的な知識を深め、中東・イスラーム研究を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得することを目的とする。 10世紀の中東・イスラーム世界は、アッバース朝カリフの弱体化とともに政治的統一性が失われ、各地に軍人政権が登場する、新たな時代を迎える。本講義では、マムルーク朝時代（1250-1517年）のエジプト・シリアを主たる対象として、中世アラブ・イスラーム史に関する重要なトピックを複数取り上げ、学ぶ。

授業の到達目標

中世アラブ・イスラーム世界の歴史を、イスラーム世界の歴史全体の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。
中世アラブ・イスラーム史の重要テーマについて、その特徴を理解し、説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 100% 学期末の試験で評価します
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 0% なし

科 目 名	中東・イスラーム前近代史2 中世アラブ・イスラーム史の諸問題2							
担当者名	五十嵐 大介							
イスコース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、文学部の中東・イスラーム研究コースの3年時必修講義であり、本コースの学生が専門的な知識を深め、中東・イスラーム研究を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得することを目的とする。 10世紀の中東・イスラーム世界は、アッバース朝カリフの弱体化とともに政治的統一性が失われ、各地に軍人政権が登場する、新たな時代を迎える。本講義では、マムルーク朝時代（1250-1517年）のエジプト・シリアを主たる対象として、中世アラブ・イスラーム史に関する重要なトピックを複数取り上げ、学ぶ。

授業の到達目標

中世アラブ・イスラーム世界の歴史を、イスラーム世界の歴史全体の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。
中世アラブ・イスラーム史の重要テーマについて、その特徴を理解し、説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 100% 学期末の試験で評価します
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 0% なし

科 目 名	イラン・トルコ研究 シーア派（12イマーム・シーア派）の歴史と現在：イラン地域を中心に							
担当者名	杉山 隆一							
イスコース	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

現在信徒数が約15億と推定されるイスラームには、周知のとおり多数の分派が存在する。そのひとつで最大の分派であるシーア派（12イマーム・シーア派）は、信徒数は1億5千万人ほどと少数であるものの、西アジアの大国イランの国教となっていることもあり、中東およびイスラーム教徒が多数派を占める諸地域において大きな影響力を誇っている。この授業では、シーア派の誕生からその独自の宗教思想・共同体の発展、イラン地域での同派の前近代における拡大過程や近代化におけるその役割、加えて同国をはじめに西アジア一帯および国際政治にシーア派が与えている影響などを取り上げ、考察する。

授業の到達目標

シーア派（12イマーム・シーア派）に関する知識の習得を通して、イスラームの多様性の一端について理解を深めることを目標としたい。その上で、シーア派がイランの歴史・現在に与えてきた影響、さらには同派を視点の中心に据えて中東、西アジアの歴史と現在および国際関係の変化を見ることで、宗派という側面から地域とその政治がどう動いてきたのかに関しても考えてゆきたい。

成績評価方法

●**試験**　80%　　原則、全15回の授業終了後に論述試験を実施する予定である。

●**レポート**　0%

●**平常点**　20%　　出席状況の把握を兼ねて授業終了後にリアクションペーパーを記入・提出してもらう。授業に対する感想、疑問、質問などを書いてもらうが、その内容が良いものに関してはテストに加点する形で評価する。

●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者数が少ない場合には、授業の進め方・成績評価法につき変更することがある。

科 目 名	南・東南アジアやアフリカのムスリム社会　東南アジアにおけるイスラームの展開							
担当者名	弘末　雅士							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

東南アジアにおけるイスラームの展開を、1）近世期における東西交易の活性化と港市国家の隆盛、2）植民地支配とムスリム、3）民族主義運動とイスラーム、4）グローバリセーション下の国民統合とイスラーム、の4つの観点から考察する。この地域が、多様な周辺世界との交流をとおして、独自のムスリム社会を形成してきたことに着目し、広域秩序と個別的な社会秩序の関係について検討する。

授業の到達目標

広域秩序原理としてのイスラームと個別的な社会を形成する秩序原理が、緊密に連関していることを理解する。両者を仲介する存在の重要性を考える。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終授業時の試験

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　授業への出席と、配布する用紙に記述された授業内容へのリスポンスを評価対象にします。

●**その他**　0%

科 目 名	アラブ文化研究1　―アラブを知り、アラブを通して世界を見る―							
担当者名	師岡　カリーマ・エルサムニー							
イスコース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「アラブ」と聞いて真っ先に浮かぶイメージは？「石油」、「砂漠」、「イスラーム」、「テロ」、「戦争」・・・でもこれらは、時にメディアなどによって作られたイメージであり、アラブ世界の一面しか語りません。アラブの人々は、何を創り、何を食べ、どのような言葉で語り、何に感動したり涙したり笑ったりするのか。彼らは世界をどのように見つめているのか。アラブ人の視点に立った時、見えてくる世界とは？このコースでは、アラブの詩、文学、映画、芸能、風俗、生活習慣に触れ、メディアからは見えてこないアラブ人の真の姿に迫ります。

授業の到達目標

アラブ・イスラーム世界に対して皆さんが持っているステレオタイプから脱却することが第一の目的です。そこから出発し、アラブのみならず、あらゆる事柄についてメディアの報道などを鵜呑みにせず、自らの想像力と探求力で世界を知り、理解する「批判的な目」を育んでほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　60%　　課題図書：ガッサーン・カナファーニー著、中編　『太陽の男たち』『ハイファに戻って』（河出書房新社）の読後レポート　映像作品鑑賞レポート

●**平常点**　40%　　ディスカッションに積極的に参加してください。出席回数もここに含まれます。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アラブ文化研究2　―アラブを知り、アラブを通して世界を見る―							
担当者名	師岡　カリーマ・エルサムニー							
イスコース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「アラブ」と聞いて真っ先に浮かぶイメージは？「石油」、「砂漠」、「イスラーム」、「テロ」、「戦争」・・・でもこれらは、時にメディアなどによって作られたイメージであり、アラブ世界の一面しか語りません。アラブの人々は、何を創り、何を食べ、どのような言葉で語り、何に感動したり涙したり笑ったりするのか。彼らは世界をどのように見つめているのか。アラブ人の視点に立った時、見えてくる世界とは？このコースでは、アラブの詩、文学、映画、芸能、風俗、生活習慣に触れ、メディアからは見えてこないアラブ人の真の姿に迫ります。

授業の到達目標

アラブ・イスラーム世界に対して皆さんが持っているステレオタイプから脱却することが第一の目的です。そこから出発し、アラブのみならず、あらゆる事柄についてメディアの報道などを鵜呑みにせず、自らの想像力と探求力で世界を知り、理解する「批判的な目」を育んでほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　70%　　ナギーブ・マフフーズ著　塙治夫訳　『バイナル・カスライン』（河出書房新社）又は新訳『張り出し窓の街』（国書刊行会）の読後レポート　映像作品鑑賞レポート

●**平常点**　30%　　ディスカッションに積極的に参加してください。出席回数もここに含まれます。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想1　イスラーム思想論1							
担当者名	小林　春夫							
イスコース	2単位	春学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イスラームにかんする基本知識を確認しながら、思想史のやや専門的内容について考察する。

授業の到達目標

イスラーム思想の多面性や内容について正確に理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポート。授業の内容を踏まえ、発展的な内容になっていることを評価する。
●**平常点**　50%　　授業への積極的参加を評価する。また毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認する。
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想2　イスラーム思想論2							
担当者名	小林　春夫							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イスラーム思想の諸問題について、やや専門的に考察する。

授業の到達目標

イスラーム思想の特徴について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートを課します。
●**平常点**　50%　　毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認します。
●**その他**　0%

科 目 名	中東の移民とイスラームの拡大　ヨーロッパと／のイスラームを中心にして							
担当者名	植村　清加							
イスコース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、中東からの人の移動を軸に、移民の生活世界からイスラームの拡大について考える。ここでは、各地からの移民によりイスラームが第二の宗教となっているフランスをはじめ、歴史的にもアクチュアリティにおいても中東からの移民と関係の深いヨーロッパのムスリム系移民に関する諸事例と、現代の多様な文化的、または社会・経済的な資料を用いて、ミクロかつグローバルな観点から、イスラームの広がりを研究する方法を扱う。移民の生活の場や、ヨーロッパの事例を挟むことで、各地域の個性とイスラームの関わり・現れ方の多様性に出会い、日本と中東の比較にとどまらない「広がり」を知る糸口をつかんでほしい。毎回の講義で中心的に扱うテーマの他に、視点を広げるエクササイズワークや受講コメントのフィードバックにより受講生相互の意見を参照しあう時間をとる。自分の「物事の見方」を知り、異なる生き方や新たな発想と結び付け、自分なりの研究テーマを発見してほしい。

授業の到達目標

・研究書の他、新聞記事・音楽・映画・漫画等の様々な文化的資料を通じて、「中東・イスラーム」世界の広がりを捉えられるようになること。
・移動する人びとと文化的・宗教的なイスラームの拡大から、文化の恣意性や構築的な側面を考察し、人々の生と関連づけてろらえられるようになること。また、「イスラームフォビア」のような、違いに向けられた衝突の構図とともに、イスラームの広がりのなかで示される共生の技法を諸事例から学ぶこと
・「マイノリティ」「移動する人びと」の生活の場から、私たちのいま・現代社会を捉えなおす力。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験（ないしレポート試験）を実施し、理解度と達成度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　事前事後学習として、平常点内で評価する。
●**平常点**　50%　　毎回の授業で提出するコメントシート、事前学習課題、授業内で用いるワークシート等の内容・積極性・貢献度から総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

事前学習やレポート課題の提出をCourse N@viで行うことがある。また、課題によっては授業内およびCourse N@vi内で受講生同士の課題の相互参照を行うことがある。

科 目 名	中東・イスラームの社会研究　ジェンダーをめぐる諸問題							
担当者名	後藤　絵美							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イスラームにおけるジェンダーの問題は、中東各地の社会にとっても、また個々人の生活や人生にとっても重要なものとして、しばしば議論の俎上に載せられてきた。本講義ではそうした議論の具体的な内容に注目し、その検討を通して、イスラームや中

東の諸社会への理解を深める。
前半ではイスラームとジェンダーの関わりを概観する。啓示の書であるクルアーンや預言者の言行録であるハディースといった「聖典」や、古典から現代までのイスラーム法を取り上げ、その中でジェンダーがどのように問題化してきたのかを検討する。後半では、ジェンダーをめぐって中東各地の社会で何が議論されてきたのかを、複数の主題について見ていく。

授業の到達目標

イスラームや中東の諸社会をどう理解しうるのか。ジェンダーという視覚を通して、この問いに対する自分なりの答えを見つけることが本講義の目標である。

成績評価方法

●**試験** 40%　第14回で理解度の確認を行う
●**レポート** 40%　各回の終わりに小レポートを提出する
●**平常点** 20%　グループワークや授業内での発言などの貢献による
●**その他** 0%

講義

科目名	中東・イスラームの政治経済　イスラーム主義から読み解く現代中東政治							
担当者名	横田　貴之							
イスコース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「アラブの春」後の中東諸国における政治変動は、世界の大きな注目を集めています。「アラブの春」後に顕著となった穏健派イスラーム主義運動の政治的台頭は、2013年のエジプトにおけるクーデタを契機に後退しました。最近では、「イスラーム国」など過激派イスラーム主義運動の活動が話題になっています。こうした混乱は中東諸国のみならず、周辺地域、さらには国際社会にも多大な影響を与えています。
本講義では、現代中東の政治・経済へ大きな影響を与えているイスラーム主義に着目することで、諸問題の背景・経緯・現状を考察します。授業では、必要最低限の知識・視座を習得した後、具体的事例に即して現代中東政治の実態解明を目指します。

授業の到達目標

中東諸国の政治・社会・経済に関する知識を深めつつ、20世紀以降の中東地域における多様かつ複雑な政治事象を理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 80%　期末試験（論述式）
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 0%　なし
●**その他** 20%　毎回、リアクションペーパーの提出を求め、良い回答が加点対象とします。 また、履修人数によっては、受講生にプレゼンを課す可能性もあります。

科目名	中東・イスラームの芸術と文学　『アラビアン・ナイト』の国の芸術と文学							
担当者名	小林　一枝							
イスコース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

正式名称を『千夜一夜物語』という『アラビアン・ナイト』は、アラビア語文学の金字塔のように思われているが、
実は中世ペルシア語（パフラヴィー語）の『千物語』を起源とする。
本講座では、『アラビアン・ナイト』と、イランの民族叙事詩である『王書（シャー・ナーメ）』という2つの文学作品を軸として、
イラク、シリア、エジプトを中心としたアラブ美術、および中央アジアやムガル時代のインドを含む
イラン（ペルシア）の芸術を絵画史を中心に概説していく。

授業の到達目標

最近の研究は、細分化された各国美術史を扱うことが多いが、地域・時代を超えて偏在するイスラーム美術の特質を理解することを第一義とする。
生物描写の禁忌の実態やその影響を、イラン・イラクを中心とした東方イスラーム世界における絵画史を概観することによって考察し、学期末には各自が問題意識をもってレポートを作成する。
ミクロの芸術である写本挿絵は、文学とも密接な関連をもつ。
それゆえ、挿絵史を通して中東の文学に親しみ、視覚芸術と併せて基礎知識を習得することを目標とする。

成績評価方法

60%
学期末レポート

40%
積極的な授業参加
読書課題
リアクション・ペーパー（学期中2、3回）

備考・関連URL

毎回、デジタル画像および動画を含む視聴覚資料を使用する予定である。

前後に講義がある学生多数のため
美術館見学会を行えないが、学生の希望によっては実施する可能性もある。
講義内容に、大きな変更はないが、講義内容に細かな変更はありえる。

科 目 名	中東・イスラームのフィールドワーク							
担当者名	鷹木　恵子							
イスコース	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、フィールドワークとは何か、その意義や実践手法、データ分析・考察から成果公表に至るプロセス、調査倫理などについて概説する。それとともに、実際に「中東」や「イスラーム」を対象として、その人々が生きる現場でフィールドワークを実践するとはどのようなことか、幾つかの文化人類学の具体的調査事例を紹介しつつ、またその諸課題について履修者とともに議論し考察していく。

授業の到達目標

・フィールドワークに関する基本的概念や手法、調査者としての倫理について理解し、自分の言葉で説明することができるようになること。

・自ら課題発想した中東やイスラームに関する研究テーマについて、フィールドワークの計画や準備をし、できれば実践を試み、それをレポートにまとめること

・こうした作業を通して、フィールドワークの研究手法の習得とその応用実践への基礎固めをすること。

成績評価方法

●**試験**　40%
●**レポート**　30%
●**平常点**　30%
●**その他**　0%

講義

講 義 内 容

選　択　英　語

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls A							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls D							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls F							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls G							
担当者名	鈴木 貴子							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法
●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf A							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標
Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法
●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf B							
担当者名	赤間 勇雄							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標
Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法
●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf C							
担当者名	鈴木 貴子							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標
Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法
●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf D							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

選択英語

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf F							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.

[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms C							
担当者名	馬 玉晶							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms D							
担当者名	内田　夕津							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms F							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs

Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf C							
担当者名	馬 玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf D							
担当者名	内田 夕津							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf F							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf G							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences

Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.

[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0% .
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls A							
担当者名	金澤　淳子							
英語	２単位	春学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

選択英語

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	２単位	春学期	火曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls D							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	２単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls E							
担当者名	金澤　淳子							
英語	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls F							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

選択英語

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls H							
担当者名	N. K. ウィリアムズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf A							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf C							
担当者名	鈴木 貴子							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf D							
担当者名	ローソン アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf E							
担当者名	金澤 淳子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .

●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf F							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

選択英語

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms A							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms C							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms D							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts

Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms F							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.

[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf A							
担当者名	阿部 敬子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf C							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf D							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf F							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students

[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us B							
担当者名	小林 亜紀子							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students

[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30% 2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us C							
担当者名	カラン ポール							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students

[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法
●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%　.
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.

[CEFR level C1]

授業の到達目標
Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法
●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%　.
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.

[CEFR level C1]

授業の到達目標
Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法
●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%　.
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%　.

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students.

[CEFR level C1]

授業の到達目標
Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法
●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%　.
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls A							
担当者名	N. K. ウィリアムズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

選択英語

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls B							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls C							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls D							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.

[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Lf A							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course covers academic skills at a basic level in listening and speaking, vocabulary and note-taking.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills by hearing and responding to academic lectures.
Develop speaking skills in formal and informal academic situations.
Acquire academic vocabulary.
Learn to take, organize and study from notes.

成績評価方法

●**試験**　30%　Mid-term and final tests will be worth 15 points each
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Lf B							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course covers academic skills at a basic level in listening and speaking, vocabulary and note-taking.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills by hearing and responding to academic lectures.
Develop speaking skills in formal and informal academic situations.
Acquire academic vocabulary.
Learn to take, organize and study from notes.

成績評価方法

●**試験**　30%　Mid-term and final tests will be worth 15 points each
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Lf C							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course covers academic skills at a basic level in listening and speaking, vocabulary and note-taking.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills by hearing and responding to academic lectures.
Develop speaking skills in formal and informal academic situations.
Acquire academic vocabulary.
Learn to take, organize and study from notes.

成績評価方法

●**試験** 30% Mid-term and final tests will be worth 15 points each
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms A							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms B							
担当者名	中尾 照代							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms C							
担当者名	荊 紅涛							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials

Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms D							
担当者名	阿部 敬子							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms F							
担当者名	金澤 淳子							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .

●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms G							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf A							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf B							
担当者名	中尾　照代							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf C							
担当者名	荊　紅涛							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf D							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf F							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf G							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us B							
担当者名	ウィリアムズ 洋子							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us C							
担当者名	馬 玉晶							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention

Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us D							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf B							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0% .

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0% .
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.

●**その他**　0%　.

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf D							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.

[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%　.

選択英語

科 目 名	Intensive Studies 1 (Philosophy 1)　Ideas and Thinkers 1							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core (Western) texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:

1) read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2) recognise core assumptions and wider implications of a text;
3) read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4) ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5) recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6) assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7) distinguish between facts and opinions in a text;
8) identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

30% Final Class Test
30% Participation
40% Presentations

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the authors studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 2 (Philosophy 2)　Ideas and Thinkers 2							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for

granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core (Western) texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:

1) read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2) recognise core assumptions and wider implications of a text;
3) read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4) ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5) recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6) assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7) distinguish between facts and opinions in a text;
8) identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

30% Final Class Test
30% Participation
40% Presentations

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content – the authors studied – is different.

科目名	Intensive Studies 3 (Philosophy 3) Introduction to Political Theory 1							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course examines key ideas in the history of (Western) thought and the questions they raise about the design of the political order. It considers the ways thinkers have responded to political problems of their times and how these dilemmas are inextricably entwined with the social, economic, cultural and ethical aspects of everyday life. Such an approach enables us to understand the strengths and weaknesses of various epochs and philosophical approaches; concomitantly, we gain a critical perspective on our own. Students are therefore expected to master a number of relevant concepts and to assess the form and quality of the influence that certain political theories have had – and may still have – on the contemporary political landscape. Similarly, students are expected to constantly compare past and present, and to discern the connections between other empirical and normative social science and humanities disciplines, from political science, sociology and economics to history, literature, philosophy and cultural studies.

授業の到達目標

The course is much an invitation as an introduction to understanding the "political" and how it harbours the good life and fosters coexistence. While introductions map out a territory and lay the groundwork for more detailed research, invitations invite students to:

1) critically assess key social and political ideas and concepts, both orally and in writing;
2) appreciate the nuances of persuasive and sophisticated language in debates about politics, society, the economy and who we are more generally;
3) develop an ability in scrutinising to what extent theories enable us to understand and explain facts and values, instead of simply learning the facts and values themselves;
4) and, finally, broaden their perspective on many of today's political problems, together with their potential resolution.

成績評価方法

50% Final Class Exam
25% Weekly Multiple Choice Questions
25% Participation

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Introduction to Political Theory 1 (Spring Semester) and Introduction to Political Theory 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content – the concepts studied – is different.

科 目 名	Intensive Studies 4 (Philosophy 4) Introduction to Political theory 2							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course examines key ideas in the history of (Western) thought and the questions they raise about the design of the political order. It considers the ways thinkers have responded to political problems of their times and how these dilemmas are inextricably entwined with the social, economic, cultural and ethical aspects of everyday life. Such an approach enables us to understand the strengths and weaknesses of various epochs and philosophical approaches; concomitantly, we gain a critical perspective on our own. Students are therefore expected to master a number of relevant concepts and to assess the form and quality of the influence that certain political theories have had – and may still have – on the contemporary political landscape. Similarly, students are expected to constantly compare past and present, and to discern the connections between other empirical and normative social science and humanities disciplines, from political science, sociology and economics to history, literature, philosophy and cultural studies.

授業の到達目標

The course is much an invitation as an introduction to understanding the "political" and how it harbours the good life and fosters coexistence. While introductions map out a territory and lay the groundwork for more detailed research, invitations invite students to:

1) critically assess key social and political ideas and concepts, both orally and in writing;
2) appreciate the nuances of persuasive and sophisticated language in debates about politics, society, the economy and who we are more generally;
3) develop an ability in scrutinising to what extent theories enable us to understand and explain facts and values, instead of simply learning the facts and values themselves;
4) and, finally, broaden their perspective on many of today's political problems, together with their potential resolution.

選択英語

成績評価方法

50% Final Class Exam
25% Weekly Multiple Choice Questions
25% Participation

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Introduction to Political Theory 1 (Spring Semester) and Introduction to Political Theory 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content – the concepts studied – is different.

科 目 名	Intensive Studies 5 (Literature 1) Critical Theory (Part 1)							
担当者名	鈴木　理恵子							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course offers a sweeping view of literary theory that either focuses on the text alone or deals with the psyche of the author. Students will familiarize themselves with the various schools of thought and theoretical practices that have dominated literary criticism of the twentieth century. Depending on the critical perspective from which one examines the text, the outcome of criticism varies significantly. While traditional close reading of the text is still valued in literary criticism, theoretical practice cannot be ignored in the academic world today. Such being the case, it is vital and also useful to become acquainted with the various schools of thought that have left a mark in the landscape of literary criticism.

授業の到達目標

Students will have a solid understanding of the way in which literary theory emerged and developed through the course of time. Each theory is, in some sense, time and place specific so that getting to know the background in which it originated will provide students with a better understanding of the nature of theory. The course is intended so that students engage with some of the central concepts of literary criticism.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　A 1500-word essay must be submitted at the end of the course.
●**平常点**　40%　Regular attendance and active participation will be required.
●**その他**　30%　A 20-minute presentation on a given topic is mandatory.

科 目 名	Intensive Studies 6 (Literature 2) Critical Theory (Part 2)							
担当者名	鈴木　理恵子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course offers an overview of literary theory that focuses primarily on the social context of a literary work. Students will familiarize themselves with the various schools of thought and theoretical practices that have

dominated literary criticism of the twentieth to the twenty-first century. Depending on the critical perspective from which one examines the text, the outcome of criticism varies significantly. While close reading of text is still valued in literary criticism, theoretical practice cannot be ignored in the academic world today. Such being the case, it is vital and also useful to become acquainted with the various schools of thought that have left a mark in the landscape of literary criticism.

授業の到達目標

Students will have a solid understanding of the way in which literary theory developed after the new criticism which dominated the literary criticism of the mid decades of the twentieth century. Each theory is, in some sense, time and place specific so that getting to know the background in which it originated will provide students with a better understanding of the nature of theory. The course is intended so that students engage with some of the central concepts of literary criticism.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% A 1500-word essay must be submitted at the end of the course.
●**平常点** 40% Regular attendance and active participation will be required.
●**その他** 30% A 20-minute presentation on a given topic is mandatory.

科 目 名	Intensive Studies 7 (American Studies 1) Popular Culture and Globalization							
担当者名	溝口 彰子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). The course will be conducted entirely in English. Students should be prepared to actively participate in class discussion. Active participation means that each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will improve their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

In-class activities and participation 50%
Presentations (15% each) 30%
Paper 20%

備考・関連URL

Make sure to attend the first class.

科 目 名	Intensive Studies 8 (American Studies 2) Globalization and Popular Culture							
担当者名	チャン エドワード ケイ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized, with particular reference to the United States. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). Topics for the fall semester will include literature, movies, music, slang, sports, technology, tourism, toys, television, and video games. The course will be conducted entirely in English, and each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will improve their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

Reading quizzes (10 x 5 points) 50%
Group presentation 15%
Individual presentation 15%
Participation / In-class activities 20%
TOTAL 100 %

科 目 名	Intensive Studies 9 (Survey of Japanese Literature 1) Classical Japanese Literature							
担当者名	高井 詩穂							
英語	2単位	秋クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course provides an introduction to a variety of Japanese literary genres from the beginning to the Medieval period (-1600), examining major works and themes. Through encounters with primary works, we will consider the cultural, social, and historical background of the time. Students are expected to prepare for the class by reading

the assigned texts(at least 20 pages per class) carefully and participating actively in class discussions. There are also weekly response paper assignments.

The class will be conducted in English.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge of classical Japanese Literature (genres, texts, etc.) and to stimulate students' interest in it.
2. To develop an appreciation of classical Japanese Literature as a significant element of Japanese intellectual history.
3. To outline the possibility of an inter-disciplinary approach to classical Japanese Literature.
4. To enhance students' critical thinking.
5. Last but not least, to increase the pleasure of reading.

成績評価方法

30% Exam

30% Attendance and Class Participation

40% Weekly Assignments, Quizzes, and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 10 (Survey of Japanese Literature 2) Edo and Meiji Literature and Culture							
担当者名	バナード　ジュニア　ピーター　ジョン							
英語	２単位	冬クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	合併科目	—

選択英語

授業概要

In this course we will explore the literature and culture of the Edo（1603-1868）and Meiji（1868-1912）periods. Reading a wide range of works of fiction, drama, and poetry, we will consider the social, political, and economic contexts in which they were produced and consumed.（All readings are in English translation. No knowledge of Japanese is necessary.）

授業の到達目標

1. Read some of the most representative texts written in the Edo and Meiji periods.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the diversity of literary-artistic cultures in Japan during these periods.
4. Use the tools of literary analysis to interpret the readings.

成績評価方法

- **試験**　40%　Midterm and Final Examinations
- **レポート**　0%
- **平常点**　30%　Attendance and Class Participation
- **その他**　30%　Weekly Responses; In-Class Assessments

備考・関連ＵＲＬ

You will need passing grades in all categories（Examinations / Attendance & Participation / Responses & Assessments）in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Intensive Studies 11 (Survey of Japanese Literature 3) Classical Japanese Literature							
担当者名	由尾　瞳							
英語	２単位	春クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

In this course we will read representative works of modern and contemporary Japanese fiction in translation. By working together through the readings we will aim towards two objectives. First, to gain a glimpse at the Japanese experience of the 20th and 21st centuries, including modernization, colonialism, postwar democratization and globalization. Second, to develop tools to critically analyze texts as literary narratives, focusing on how meaning is rhetorically created. We will strive to understand how these two dimensions（thematic and formal）shape and enrich each other, and how they inform the fiction that Japanese writers have created to try and make sense of the world they live(d) in.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English, you are encouraged to consult the material in the original language whenever available.

授業の到達目標

1） Gain familiarity with major authors and works of the 20th and 21st centuries.
2） Recognize the diversity of Japanese literary culture through first-hand encounters with selected works in English translation.
3） Cultivate the tools of formal analysis by critically engaging with primary texts and situating the writings in their historical and cultural contexts.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation（20%）
2. Assignments（40%）
3. Midterm & Final Exams（40%）

科 目 名	Intensive Studies 12 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 1) Culture and Civilization from Prehistory to the Muromachi Period							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	秋クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of Japanese culture and civilization from prehistory through to the end of the Muromachi period, that is, roughly, from the fourth to the sixteenth century. We will look at both secondary material —writing about the history and culture of Japan by modern scholars— as well as English translations of a selection of representative primary sources —premodern texts written by Japanese authors in the period under consideration— and discuss their historical background, as well as their cultural and intellectual significance.

Regarding primary sources, students may read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. All secondary materials looked at in this course are only available in English. No previous knowledge of Japanese language or history is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of the historical development of Japanese culture and thought. Second, by studying Japanese cultural history through English sources and translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 13 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 2)							
担当者名	ブルチャー　ミヒャエル							
英語	２単位	冬クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This class will consider Japan's emergence as a modern state with a focus on the transition from the Tokugawa to the Meiji era. In studying societal and political change predominantly in the nineteenth century (albeit with a view to twentieth-century developments), it will pay particular attention to conceptual shifts in the political and intellectual lexicon of the modern Japanese language.

授業の到達目標

The purpose of this class is to serve as an introduction to the history and political culture of modern Japan. While proceeding roughly chronologically in laying the narrative groundwork, each lecture will apply a topical focus designed to bring larger questions into view. Even as this class will study the emergence of new ways of thinking in response – not solely but also not least – to the impact of Western encroachments and ideas, it will emphasize the extent to which this response could draw on preexisting conceptual resources. Special attention will be paid to how concepts such as 'civilization' and 'culture', 'corporation' and 'society', or 'public' and 'rights', were translated into Sino-Japanese character compounds. A further focus of this class will be the role of the imperial institution in attempts at defining, or contesting, Japanese culture in national terms.

成績評価方法

Two in-class tests (25% each)　50%
Take-home assignment　30%
Attendance and participation　20%

科 目 名	Intensive Studies 14 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 3)							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	春クォーター	火４時限	金４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course examines 20th-century Japanese history through the lens of the urban and the rural, the center and the periphery. Japan has been one of the most urbanized countries in the world since the Edo period, but the rural has always played an outsized part in Japanese politics, conceptions of Japanese nationalism, and Japanese aesthetics, among other things. We will approach questions about tradition and modernity, what constitutes "Japanese-ness," and Japan's place in the world, and consider how answers to these questions have changed over time. Students will gain an overview of Japan's 20th century, from the ideology of nation building in the Meiji period, through the tensions between country and city in the interwar period, to colonization and imperialism, to postwar economic expansion and environmental issues. The last several sessions of the class will discuss

issues in contemporary Japan, including disasters, tourism, and depictions of the urban and rural in popular culture.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese as well.

成績評価方法

●**試験** 30% There will be a mid-term and final exam, each worth 15% of the total grade. These exams will be fact-based, to ensure students have a solid understanding of key events, names, places, etc. of 20th-century Japanese history.

●**レポート** 40% Students will write one final five-page research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor. A series of small writing assignments (350-400 words) throughout the class will prepare the students for the final paper.

●**平常点** 30% Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions, and in-class presentations.

●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 15 (Introduction to Japanese Thought and Religion 1)							
担当者名	グレイス ステファン・ピーター							
英語	２単位	秋クォーター	月６時限	木６時限	１年以上	—	合併科目	—

選択英語

授業概要

This course attempts to take a balanced approach in exploring the unique characteristics of Japanese religion and thought. A strong focus will be placed on the ideas of emic (insider) vs. etic (outsider) descriptions of culture. The course will give equal weight to: 1) close readings of emic essays about Japanese ethnicity, and 2) a broad survey of the scholarship on Japanese religion and thought based on points raised in An Introduction to Japanese Society by Sugimoto Yoshio.

授業の到達目標

Students will gain a broad understanding of the many views on the idea of Japanese uniqueness, from both a "traditional narrative" perspective and a "critical deconstructive" perspective, and will learn to appreciate the dramatic tension between these two opposing worldviews.

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 50% Report on student's understanding of emic vs. etic perspectives on Japanese thought and religion.

●**平常点** 50% Based on participation in class discussion and on short homework reports/summaries, etc.

●**その他** 0%

備考・関連ＵＲＬ

Grading will be primarily focused on students' proactivity. "Stupid" questions are greatly encouraged and valued.

科 目 名	Intensive Studies 16 (Introduction to Japanese Thought and Religion 2)							
担当者名	眞野 新也							
英語	２単位	冬クォーター	月６時限	木５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course provides an introduction of Japanese Buddhist doctrine, and devotes attention to various themes, such as art and ritual. This class will involve interactive lectures, and seminar-like discussions. Students are expected to participate actively, express their thoughts and critically evaluate the sources they study.

本科目は、日本仏教教学の基礎を学びつつ、美術や儀礼に関する諸問題にも注目していく。ティーチングスタイルは講義とセミナー形式のディスカッションとを採用する。学生には授業で用いるテキストを批判的に評価することや、授業に積極的に参加し自分の考えを表明することなどが求められる。

授業の到達目標

At the end of the course, students will acquire;

1) a basic knowledge of Japanese Buddhist Doctrine
2) skills for describing Japanese Buddhism in English
3) an understanding of English necessary for post-graduate studies (for MA students)

本コースの終了時までに、

1) 日本仏教教学の基礎知識
2) 英語で日本仏教思想を解説する技術
3) 大学院レヴェルの英語力（修士の学生）

を習得することが見込まれる。

成績評価方法

Academic Essay 60%
Attendance 40%

備考・関連URL

The above schedule is not entirely fixed. There will be a change in schedule according to level of participants.

科 目 名	Intensive Studies 17 (Introduction to Japanese Thought and Religion 3)							
担当者名	クリステワ　ツベタナ							
英語	２単位	春クォーター	月６時限	木６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course will cover a rather long period in the history of Japanese Religion and Intellectual Thought – from ancient times up to the Early Modern Period.

In the first half the course will introduce the traditional Japanese Religions: Shinto and Buddhism. In the second half the focus will be on the specific forms of development of the intellectual thought in Japan, which deviate from the stereotypes based on the Western tradition.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge on the history of Japanese religion.
2. To outline the specific development of the intellectual thought in Japan by challenging the stereotypes.
3. To enhance students' critical thinking and understanding of cultural diversity.

成績評価方法

●**試験**　40%　The figures provided below are not absolute. They merely give an idea about the importance of each component in the final evaluation.
●**レポート**　20%
●**平常点**　20%
●**その他**　20%

備考・関連URL

For those students who are interested in the course but lack confidence in their knowledge of English: if you were able to read and understand the syllabus, you may consider enrolling in the course.

科 目 名	Intensive Studies 18 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 1)　Japanese Cinema							
担当者名	由尾　瞳							
英語	２単位	秋クォーター	月４時限	木４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course offers a general survey of Japanese cinema through introducing important films and directors from the postwar period to contemporary times. Students will engage in close analysis of the films, as well as learn their historical, cultural, and social contexts. Reading assignments include academic articles and film reviews that will assist students in developing their critical understanding of the films.

The class will be conducted in English. All of the films will be subtitled in English.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese cinema.
- Cultivate the tools to critically analyze cinematic texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social backgrounds.
- Situate Japanese cinema in a global context.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Response Papers (50%)
3. Final Paper (30%)

科 目 名	Intensive Studies 19 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 2)							
担当者名	高井　詩穂							
英語	２単位	冬クォーター	月４時限	木４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This class provides an introduction to various forms of Japanese theater and performance (nō, kyōgen, jōruri, kabuki, and modern theater) through exploring play scripts, visual materials such as actors' prints, and video recordings of performances. The class gives a chronological survey, starting from the religious roots of these performing arts, up through the modern period. Through encounters with primary works, we will consider the cultural, social, and historical background of the time. We will also consider some gender issues, such as women in nō and female-role acting in kabuki. Students are expected to prepare for the class by reading the assigned texts carefully and participate actively in class discussions.

The class will be conducted in English.

授業の到達目標

1. To understand the defining characteristics and development of Japanese theater.
2. To become familiar with the transformations of major topical themes (such as ghosts, warriors, and women) across genre and time.
3. To engage in a synthetic analysis that draws in a variety of media, such as visual arts, performative video clips, and cinema, in addition to textual analysis.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% Final project
●**平常点** 30% Attendance and class participation
●**その他** 40% Assignments, quizzes, response papers, and presentations

科 目 名	Intensive Studies 20 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 3) Seeing and Thinking about Japan through Visual Culture							
担当者名	土金 康子							
英語	2単位	春クォーター	月5時限	木4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The class will introduce you to some dialogues in art history dealing with Japan, and will help you to look at, think and discuss about works of "art," or more broadly, "visual culture," which have been historically and are currently associated with Japan. The central question we will ask ourselves will be what (if anything) is specifically " Japanese" about the making, appreciation and practice of visual culture from the past and present within and outside of Japan. In its application to Japanese culture, is such a national framework timeless or fluid, universally valid or variable, creatively fruitful or rather superficial? Our class will explore this set of large questions regarding various media of visual art, such as painting, graphic art, design, sculpture, calligraphy, ceramics, architecture, gardens, photography and manga through the following two venues: 1) an introductory historical survey of the rise of new artistic tendencies of such a visual culture from the prehistoric period to the present within the current geopolitical territory of Japan, with some major considerations on how Japan's visual culture has interacted with the rest of the world over time; and 2) a thematic approach, highlighting selected visual conventions in Japanese society across time that privilege certain materials, aesthetics, beliefs, and collecting and displaying customs, such as tea ceremony and Zen meditation.

授業の到達目標

1) Introduce the method of art history to visually examine art works in person while learning their historical backgrounds and integrating them with the visual information of the works
2) Introduce major artistic phenomena from Japan's prehistoric to modern/contemporary periods
3) Discuss major works, sites, individuals and institutions within the large historical context of Japanese visual culture (the emphasis is on discussion and analysis, not on the memorization of dates and names)
4) Analyze major typologies and visual strategies from historical, artistic and conceptual points of view
5) Examine various notions of "Japan" in visual culture available in Japan and elsewhere by referring to examples from both premodern and modern/contemporary periods
6) Cultivate cultural sensitivity toward premodern examples of Japanese visual culture (before the beginning of the Meiji period in 1868)

成績評価方法

●**試験** 45% Two Small Quizzes, Midterm and Final Exam. The criteria for grading are based primarily on understanding the contents of the readings, class lectures and discussions, not on the memorization of dates and names.
●**レポート** 20% Two Short Writing Assignments & One Museum Report
●**平常点** 30% Attendance and Class Discussions (Bring a question or answer a question given for each class reading)
●**その他** 5% Short Oral Presentation (5 minutes)

科 目 名	Intensive Studies 21 (Education 1)							
担当者名	ホサイン タニア							
英語	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life.

授業の到達目標

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills through study and discussion of English lectures of varying lengths. Major focus would be on Education. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities.

Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly assignments.

成績評価方法

Book Report……20%
In-class short test……40%
Final Assessment/ Presentations……40%

科 目 名	Intensive Studies 22 (Education 2)							
担当者名	梅宮　悠							
英語	2単位	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life.

授業の到達目標

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills through study and discussion of English lectures of varying lengths. Main focus would be education in different countries. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. To show their active enrollment in this activity, there is going to be a day for the book report where students are required to introduce their readings and share their opinions in class. Students will also develop writing skills in English. In addition, students should aim to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook.

成績評価方法

Book Report……20
In-class activities……40
Final Assessment/ Presentations……40

科 目 名	Intensive Studies 23 (European Thought 1) British and European Landscape and Garden Interactions, 1680-1950							
担当者名	ロビンソン　ピーター							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The process by which landscapes are shaped, whether in the form of medieval royal hunting forests, aristocratic pleasure grounds, public parks, or intimate private gardens, tells us a lot about national identity, cultural priorities, and aesthetic values. This course introduces students to key principles, developments, and transitions in the British and European landscape tradition, spanning the Baroque period to the end of WWII. By studying a range of key concepts, important examples of landscapes, gardens, and their designers as well as the ideals and principles that lay behind them, we will see how the land has been a rich site for political, philosophical, and artistic expression, rivalling other mediums in which ideas are born, develop, and reach maturity.

授業の到達目標

By the end of the course you will understand the key philosophical and aesthetic ideas that underpinned attitudes towards landscape in Britain and Europe from the mid-seventeenth century to the mid-twentieth century, recognize the importance of specific gardens in the process of development and place landscape within the wider intellectual and social framework of the Western Tradition.

成績評価方法

●**試験** 0% None.
●**レポート** 70% End of term paper.
●**平常点** 30% Individual/group presentation.
●**その他** 0% Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	Intensive Studies 24 (European Thought 2)　A Cultural History of Collecting							
担当者名	ロビンソン　ピーター							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course explores the cultural importance of collecting in the Anglophone world. From important institutional collections of plants in botanical gardens and vast museums containing millions of artefacts, to small private 'cabinets of curiosities' first popularized in the 17th century, the desire to collect is timeless. Collections have satisfied inquiring minds throughout the ages, become obsessions and fetishes, and been used to project political power and status. Collections undoubtedly remain important, but are transforming. Many of the insights into the cultures of past societies that we have today, and a whole range of scientific break-throughs, are the result of the existence of collections. This course will address the motivation behind collecting and consider both the great harm collections have done, but also the great benefits they have brought us. A range of indicative collections will be introduced, such as plants, antiques, fossils, natural history, art, as well as examples of popular culture such as American comics.

授業の到達目標

By the end of the course you will have a solid understanding of the importance of collecting, its social and intellectual impact on the Anglophone world, and be familiar with some of the most important collections in their respective fields. The roles played by the concepts of curatorship (the construction of narratives), display, classification, and the impact of digitalization and technology will also be explored.

成績評価方法

1) A short (750 word) paper responding to an assigned question based on session 9 (40% of grade)
2) An end-of-term in-class written examination (60% of grade)

備考・関連URL

Regular attendance is a requirement of the course.

選択英語

科 目 名	Intensive Studies 25 (Critical Theory)　Literary and Cultural Theory: Text, World, Self							
担当者名	マッキン　ゼイン　ディーン　リバー							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course introduces literary and cultural critical theory from the 20th century to the present, with special attention to issues relevant to the study of East Asia. Students will be encouraged to think critically and creatively about any theoretical arguments or issues that emerge in the course of our readings and discussions, rather than treat theoretical idiom as an instrument to be applied to a literary text.
(All readings for this course will be in English.)

授業の到達目標

1. Become familiar with the main theoretical debates relevant to the study of East Asia.
2. Develop the skills necessary to interpret literary, cultural, and historical texts.
3. Develop and practice analytical writing skills.

成績評価方法

●**試験**　30%　Final Exam
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　Attendance and Class Participation
●**その他**　40%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 26 (Japanese Culture and Society 1)　Mapping East Asia: Tracing the Borders of Japan in the Early 20th Century							
担当者名	ハートマン　ナン							
英語	2単位	夏クォーター	月3時限	木2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course serves as an introduction to the entity commonly referred to as "Japan." Focusing on the topic of "extraterritorial" (gaichi), the readings of this course take an intensive look at transculturations of Japanese literature and aims to deepen knowledge of Japanese colonialism(s).They are selected to provide mappings of the colonies in literary languages that inevitably shape our sense of the strange, while requiring us to re-conceptualizethe definitions of nation, language, culture, ethnicity, and self-identity.

授業の到達目標

- familiarize students with the modern nation-state of Japan through literary works
- recognize Japan's shifting geographies across time and space in the early 20th century
- critical reading and analytical skills of texts from various historical contexts

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　Four response papers 4 x 15%
●**平常点**　20%　Attendance and Participation
●**その他**　20%　Presentation

科 目 名	Intensive Studies 27 (Japanese Culture and Society 2) Voices from the Margins: Radical Thought, Protest, and Dissent in Modern Japan							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	夏クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This class will approach modern Japanese history, from the mid-Meiji period to our current day, from the 'margins' of history. We will read primary source documents from suppressed voices, including political radicals, ethnic and cultural minorities, labor movements, feminist activists and others, while investigating the political and cultural contexts that lead to their marginalization and/or suppression.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but as this course emphasizes primary source documents, students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese as well.

成績評価方法

●**試験**　30%　There will be a mid-term and final exam, each worth 15% of the total grade. The format of exams will be multiple choice and short answer.

●**レポート**　30%　Students will write one final five-page research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor. A series of small writing assignments (350-400 words) throughout the class will prepare the students for the final paper.

●**平常点**　20%　Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions and in-class presentations.

●**その他**　20%　Students will give a short (10-15 minute) presentation on one reading. The presentation schedule will be decided during the first meeting of the class.

科 目 名	Intensive Studies 28 (Japanese Culture and Society 3) Sociolinguistic dynamics in Japanese languages and dialects							
担当者名	吉田　健二							
英語	２単位	冬クォーター	火５時限	金５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

In this course, we will review current issues in Japanese languages and dialects focusing on their diversity and sociolinguistic dynamics. We will look at multiple languages spoken in the islands of Japan and overseas, and varieties of dialects with their wide range of interesting features. Some of the topics to be discussed in this course may challenge common perceptions on socio-linguistic situation of Japan, i.e., virtually monolingual, fairly homogeneous culture with the strong standard variety. I hope that this course help students to gain a solid understanding of sociolinguistic theory and analysis and to expand their interest in important and interesting issues related to language and society.

授業の到達目標

The class will proceed with lectures by the instructors and discussion by students. The course materials will be posted on Course Navi. The students will be asked to find their own research questions and develop them throughout the course with the final write-up. The mid-term presentation will be held to help students to start and develop their course project.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　The term final paper will be evaluated using the criteria below:　1) Clear and meaningful research question(s) grounded on the discussion and materials covered throughout the course　2) Coherent essay structure that naturally leads to appropriate answers to the research questions　3) Proper citation of preceding studies

●**平常点**　30%　Contribution to class discussion will be highly evaluated. Students are encouraged to report on materials or their own findings.

●**その他**　0%

科 目 名	Intensive Studies 29 (Japanese Visual Culture and Media 1) Japanese Cinema and Literature							
担当者名	ハートマン　ナン							
英語	２単位	夏クォーター	月５時限	木４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course examines visual adaptations of Japanese literary works. Through comparative analysis of textual and visual media we will discuss issues including the relationship between content and style, politics of representation (such as hyper femininity/masculinity), intended readership/audience, aesthetics, and genre characteristics. Students will learn about Japanese cinema as the artistic expression of individual directors and gain a better understanding of the history of Japanese society as reflected and documented in literature and popular culture.

授業の到達目標

- practice discussing film with reference to story, character, image, and narration
- learn about some of the major directors of Japanese cinema and auteurism

- improve analytical skills by reading primary texts and critical essays on films viewed
- improve writing skills, particularly description, analysis, and refining of arguments about films/stories in question

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60% Six short written responses 6 x 10%
●**平常点** 30% Attendance (15%) and participation in discussion (15%)
●**その他** 10% Final presentation

科 目 名	Intensive Studies 30 (Japanese Visual Culture and Media 2) Anime: The Face of Japanese Popular Culture							
担当者名	ケルツ ローランド ノゾム							
英語	2単位	夏クォーター	土4時限	土5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course provides a critical perspective on Japanese animation ('anime') and its relationship to postwar Japanese history and popular culture. The focus of this course is to develop a nuanced understanding of anime, not only as an aesthetic discipline and form of expression, but also as a cultural product informed by native economic and societal conditions. Through screenings, readings, lectures, discussions and collaborative projects, students will gain a broader and deeper awareness of what lies behind the curtain of such a profoundly hybridized and influential medium — and how it may evolve in the future.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works in the history of anime.
- Cultivate the tools to critically analyze anime narratives and visuals.
- Develop an understanding of historical, cultural and social backgrounds.
- Situate anime in a global context.

成績評価方法

1. Class Participation 30%
2. Homework/Class Preparation 30%
3. Presentations 20%
4. Papers 20%

備考・関連URL

*If you miss more than 5 classes, the university will not grant you credit for the course.
*More than 30 minutes late will count as a missed class, barring urgent reasons.

科 目 名	Intensive Studies 31 (Japanese Visual Culture and Media 3) Global Perspective on Japanese Arts and Culture							
担当者名	柳下 恵美							
英語	2単位	秋クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will focus on the arts, culture, and philosophy of Japan, as well as on the work of Japanese artists active in other countries. In this class, students will study influential aspects of Japanese arts, culture, and philosophy, while gaining a global viewpoint by learning about how other nations perceive Japan and Japanese civilization. We will cover a variety of Japnese topics, including their impact on Western art and thought; Noh theatre; Kabuki; Tea master and tea ceremony; Samurai culture; notable Japanese philosophers, dancers, sculptors, writers, film directors, conductors, painters, government officials, and academicians, etc.

Students are required to develop their own opinions on these subjects and summarize their ideas in oral presentations and writings. At the end of class, different points of view will be compared and discussed. In this course, some illustrations and audio-visual materials will be used to deepen students' knowledge.

授業の到達目標

1. Develop reading, writing, speaking and listening skills
2. Increase vocabulary
3. Understand aspects of Japanese arts and culture
4. Gain a global viewpoint on Japanese arts and culture

成績評価方法

●**試験** 0% N/A
●**レポート** 30% Report
●**平常点** 70% Attendance/Class Participation
●**その他** 0% N/A

科 目 名	Intensive Studies 32 (Comparative Perspectives in Japanese Literature) Japanese Essay Literature							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of Japanese essay literature (zuihitsu bungaku). We will look at English translations of a selection of representative essays, both literary and philosophical, and discuss their historical background, literary features, and contribution to Japanese intellectual history. We will, by way of comparison, look at a number of short essays by writers of other nations, as a means of gaining a broader understanding of our material.

Students may also read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of the historical, literary, and intellectual features of Japanese essay literature. Second, by studying essay literature through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 33 (Creative Writing) Introduction to Creative Writing: Prose & Poetry							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
英語	２単位	秋学期	木曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course is an introduction to creative writing. The course will expose students to a variety of writing styles such as short story, flash fiction, vignette, lyric poetry, and prose poetry. We will learn to read and approach literature from the point of view as writers, not as a finished product but as a process. The course readings will range from canonical to contemporary texts with a goal to introduce students to a wide range of creative work. Your development and growth as a writer, as well as the ability to experiment and revise effectively, are the core components of the class. Class participation and attendance are essential.

This class is taught entirely in English. All of the required readings, class discussions, workshop, and writing will be in English.

授業の到達目標

1) Become familiar with the concepts and techniques of writing prose and poetry.
2) Acquire the techniques of revising creative works.
3) Learn to give productive peer feedback.

成績評価方法

40% Written Assignments
30% Class Participation
30% Final Portfolio

科 目 名	Intensive Studies 51 (Seminar: Topics in Japanese Literature 1) Classical Japanese							
担当者名	高井　詩穂							
英語	２単位	春クォーター	火１時限	金１時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

Classical Japanese (bungo or kogo) is not so remote and foreign as one may think – it was a standard written language in Japan until well into the twentieth century, and has direct connections to modern Japanese language. This class will introduce students to the basic grammar of classical Japanese and we will read together a wide range of original Japanese texts from the eighth to mid-twentieth centuries.The texts are picked on the basis of grammatical points, but they are also selected from representative interesting classical texts, including poetry, tales, legal writings, etc. You will open doors to the rich breadth of historical texts that are only accessible through knowledge of classical Japanese.

The grammatical points for the next class will be provided in each class. Students are required to look up the vocabulary and prepare their own translation for a short historical passage before each class. In class, students

and the instructor discuss the grammatical points and the translation of the historical texts for the class.

Language requirement:
The class is conducted in English. Since this class involves translation from classical Japanese into English, fluent English and a minimum of an intermediate level modern Japanese (about 2 years of Japanese) is required, and a higher level is recommended. Please consult with the instructor if you are unsure about your language level.

授業の到達目標

1. To learn the basic grammar of classical Japanese in different time periods.
2. To be able to read and understand some historical Japanese texts with the help of a dictionary.
3. To appreciate how the knowledge of classical Japanese may enrich your understanding of Japanese literature.

成績評価方法

50% Class Participation, quizzes, written assignments

25% Midterm

25% Final

科 目 名	Intensive Studies 52 (Seminar: Topics in Japanese Literature 2) Reading and Translating Japanese Literature							
担当者名	バナード　ジュニア　ピーター　ジョン							
英語	２単位	春クォーター	火４時限	金４時限	２年以上	—	合併科目	—

選択英語

授業概要

This course is a first introduction to the challenges of Japanese-to-English literary translation. Students will read recent works of short Japanese fiction and produce English translations of selected passages. Class time will be devoted to analyzing the original texts as literary works, and discussing the different choices available in the process of their translation. (An advanced level of both Japanese and English is required for this course.)

授業の到達目標

1. Improve one's ability to produce accurate translations of literary Japanese texts into English.
2. Identify the key features of a literary text and the choices available to its translator.
3. Evaluate the quality of a translation and identify areas of improvement.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　Final Project
●**平常点**　30%　Attendance and Class Participation
●**その他**　40%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 53 (Seminar: Topics in Japanese Literature 3) Gender performances and Femininity in Japanese Literature: From Heian to Meiji							
担当者名	マルティネス・シレス　パウラ							
英語	２単位	冬クォーター	火５時限	金５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

Women writers have played a major role in the development of Japanese literature throughout the centuries. In this seminar we will journey from Heian to Meiji period in order to explore how were femininity or the role of women defined and enacted through several texts (*Kagerō Nikki, The Pillow Book, The tale of Genji*, Abutsu-ni or Higuchi Ichiyō's stories, etc.), and what happened when certain characters performed actions that went against the expectations of the gender they were assigned at birth (*Torikaebaya monogatari, Ariake no wakare, The life of an amorous woman...*).

授業の到達目標

Students should expect to:
1. Develop an understanding of the historical and social backgrounds of the texts.
2. Become familiar with a wide range of Japanese literature and women writers.
3. Achieve a general understanding of how literature reflects gender performativity.
4. Read more analytically, extract relevant information from the readings and improve communication and writing skills in English.

成績評価方法

●**試験**　0%　There is no examination for this course.
●**レポート**　40%　A well-researched and properly presented final paper addressing a question of your choice related to the general course topic. It should be typewritten in a 12-point font and double-spaced, and must be submitted in the form of a hard copy as well as via CourseN@vi.
●**平常点**　30%　Attendance and class participation.
●**その他**　30%　Occasional assignments, response papers, and a presentation.

備考・関連ＵＲＬ

You will need passing grades in all categories (Paper / Attendance & Participation / Responses & Presentations) in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Intensive Studies 54 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 1) Literary Themes in Japan, China, and Korea							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	春クォーター	月３時限	木２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of a number of central literary themes found in premodern Japanese, Korean, and Chinese literature. We will thus consider Japanese literary and intellectual history from a broader East Asian perspective, exploring some of the more striking similarities and differences between Japan, on the one hand, and Korea and China, on the other. We will look at English translations of a selection of representative texts, and discuss both their historical background as well as literary features.

Students may also read materials in the original languages, or through modern translations in languages other than English, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese, Korean, or Chinese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of some of the major literary themes running through Japanese, Korean, and Chinese premodern literature. Second, by studying these literary traditions through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture, and, more broadly speaking, East Asian culture, from the outside, thereby encouraging new and creative interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 55 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 2) Literary Themes in Japan, China, and Korea							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	春クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of a number of central literary themes found in premodern Japanese, Korean, and Chinese literature. We will thus consider Japanese literary and intellectual history from a broader East Asian perspective, exploring some of the more striking similarities and differences between Japan, on the one hand, and Korea and China, on the other. We will look at English translations of a selection of representative texts, and discuss both their historical background as well as literary features.

Students may also read materials in the original languages, or through modern translations in languages other than English, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese, Korean, or Chinese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of some of the major literary themes running through Japanese, Korean, and Chinese premodern literature. Second, by studying these literary traditions through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture, and, more broadly speaking, East Asian culture, from the outside, thereby encouraging new and creative interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class short quizzes held at the beginning of each session: 30%
3. Two written reports, due during the middle and end of the course: 40% (each report being worth 20%)

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 56 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 3) Writing Women in Premondern East Asia							
担当者名	高井　詩穂							
英語	２単位	秋クォーター	火１時限	金１時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

This class is a discussion-based seminar that focuses on women's autobiographical writings in premodern East Asia (China, Japan, and Korea), considering the changing historical and social contexts in which the women wrote. Students are asked to take an active role by critically engaging with assigned texts and by discussing their views on the readings with fellow students and the instructor in every class. This class has at least 20 pages of reading assignments per class and weekly response paper assignments. Please allow yourself sufficient time to read through the materials and think them over prior to and after each class.

This course will be conducted in English. No knowledge of Chinese, Korean, or Japanese is required.

授業の到達目標

1. To be acquainted with some women's autobiographical writings from China, Japan, and Korea.
2. To be able to critically analyze texts in their contexts and in comparison to each other.
3. To be able to communicate one's ideas effectively in class and in writing.

成績評価方法

30% Final Project
30% Attendance and Class Participation
40% Pop Quizzes, Weekly Assignments, and Presentations

選択英語

科 目 名	Academic Skills (Integrated) s A							
担当者名	梅宮　悠							
英語	２単位	春学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course aims to help students develop their 4 skills in a balanced way as well as use English as a tool for global communication.

授業の到達目標

This course aims to help intermediate/ high intermediate students, especially those who are thinking of teaching English as a future career, develop their 4 skills in a balanced way. The other aim is to help students use English as a tool for global communication and develop English ability to think critically and objectively and convey their thoughts and ideas in an organized manner through pair work, discussion, and presentations.

成績評価方法

平常点60%、
プレゼンテーション(準備段階の取り組み、補助レポートも含む)30%
エッセイ(500語以上)10%

科 目 名	Academic Skills (Integrated) s B							
担当者名	斎藤　裕紀恵							
英語	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course aims to help students develop their 4 skills in a balanced way as well as use English as a tool for global communication.

授業の到達目標

This course aims to help intermediate/ high intermediate students, especially those who are thinking of teaching English as a future career, develop their 4 skills in a balanced way. The other aim is to help students use English as a tool for global communication and develop English ability to think critically and objectively and convey their thoughts and ideas in an organized manner through pair work, discussion, and presentations.

成績評価方法

平常点60%、
プレゼンテーション(準備段階の取り組み、補助レポートも含む)30%
エッセイ(500語以上)10%

科 目 名	Academic Skills (Integrated) f							
担当者名	梅宮　悠							
英語	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course aims to help intermediate students, especially those who are thinking of teaching English as a future career, develop their 4 skills in a balanced way.
この科目では、中級の学生で、特に教職を目指すものを対象にして、4技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。

授業の到達目標

This course aims to help students develop their 4 skills in a balanced way.
この科目では、英語4技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　0%　.
●**平常点**　60%　アサインメント、課題レポート、積極的な授業への参加度などを評価
●**その他**　40%　プレゼンテーション　準備段階の取り組み（補助レポート）も含む

講 義 内 容

選 択 外 国 語

科 目 名	フランス語を読む1（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初等文法を履修した学生（一般的には2年生以上、ただし独学や高校以前の既習者はその限りではない）が対象となります。

特に2年生は文法事項を修めたばかりで実際に読むためにその知識を運用した経験がほとんどないでしょう。また3年生以上でもしばらくブランクがある場合も考えられます。したがって前期は、文字数の少ない韻文詩を読みましょう（だからといって簡単には読めませんが）。前半は比較的読みやすい20世紀の作品をいくつか取り上げます。それから、せっかく韻文を読む機会なので、後半は、フランス詩法のイロハにも目くばせをするために、19世紀近代史の幕開けを告げる詩人たち、ボードレール、ランボー等の代表的な韻文作品を読みます。時には、実際に読んだ作品とゆかりのある映像なども観る予定です。

どれも知っておいて損のない作品ばかりです。フランス語力のみならず知識としても還元できればと思います。

フランス語を読む楽しみ、原文でしかわからない味わいを感じること、またそれだけではなく、作品の背後にある、それぞれの歴史、文化にもふれることでより豊かにテキストに接すること、これが当講義の主眼となります。従って、2年生のみならず、3年生、4年生、さらに上の学生の受講も、もちろん歓迎です。またオープン科目でもあります。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。このようにダイレクトにひたすら文学的な作品を読むという講義は他学部ではなかなかお目にかかれるものではないかもしれません。そうした機会を逃さずに、臆することなく参加してください。

試験は期末の教場試験とします。辞書持ち込み可。おおよそ半分は授業で扱ったプリントから、残りの半分は実力テストで基本的には和訳形式になります。

授業の到達目標

フランス語で読む楽しみ、継続して読もうという意欲を感じるようになること。また文化一般にも興味を抱くようになること。

成績評価方法

- **試験**　70%　　辞書持ち込み可
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　30%　　授業での積極性
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む2（哲学）　哲学書のフランス語に慣れる							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

思想・哲学系のフランス語文献を読んでゆきます。

春、秋ともに、それぞれ哲学者のテクストの抜粋（1〜2つ）を読みます。そのつど、新たな哲学者のテクストに入るときには、可能な範囲で、こちらから哲学者の簡単な解説もおこないます。

※ただし登録者や講師の問題関心によっては美学・社会学・分析哲学に関わるテクストや哲学的な文学テクストを扱う場合もあります。

論述文によく出てくる語彙や熟語、文構造というものがあります。それらを少しずつ身につけてゆくと、文面から徐々に意味が汲み取れるようになります。それまでの間、辞書を片手に、フランス語の文章と根気よく向き合える登録者がのぞましいと考えています。なるべく平易なテクストを選ぶつもりですが、哲学という縛りがあるので、どうしてもテクストのレヴェルは中級以上になります。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、哲学書に出てくるフランス語に慣れることです。単に辞書を引くだけでなく、独特の語彙、熟語、文構造をなるべく習得するように心がけてください。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。（ただし哲学や思想そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。）

成績評価方法

- **試験**　45%
- **レポート**　0%
- **平常点**　55%
- **その他**　0%

備考・関連URL

秋期からの登録も歓迎しますが、通年で受講することをお勧めします（春期のテクストの途中からになる場合もあります）。

科 目 名	フランス語を読む3（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力で読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことができるようになる。

フランス文学の有名な作品を、読むにたやすいものから順に取り上げて、数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。

フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。

取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読めるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、持込不可（辞書も不可）の復習テストをおこなう。学期中に読んだフランス語の文章の抜粋を出題するので、それを和訳すること。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。訳文提出については「平常点評価」の項を参照のこと。
●**平常点**　40%　　出席を1回2点として30点、訳文提出を、1回2点、上限5回として10点、計40点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む4（現代文明） フランスの現代社会。							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「移民」のテーマを中心に新聞記事やブログなどの短いテクストを読み、フランスの植民地主義、格差、差別、極右の台頭といった様々な政治的問題について理解を深めていきたいと思います。

授業の到達目標

中級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。また、現在のフランス社会が抱えている様々な問題をより深く理解すること。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

初回の授業の際、辞書を持参すること。

科 目 名	フランス語を読む5（大学院受験のための仏語）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスは、高度なフランス語の読解力を身につけること、ならびに、大学院受験にそなえたフランス語読解の練習をすることを目的にします。従って二つの方向性を持っていますが、その二つがまったく別の方向を向いているわけではありません。原則的には、ある程度の難度をもったフランス語の文章が読めるようになることを目指し、その実践として、これまで都内の主要大学院の入試に出されてきたさまざまなフランス語の問題を取上げ読んでいきます。

ただし、受験予定もなく純粋にフランス語を読みたいという意見もある場合、全時間を入試問題に当てるのでなく、ときには有名なフランス文学作品の抜粋もしくは研究書を読んでいくことも考えています。入試対策と作品講読の時間的配分や、授業で取上げる大学院過去問題あるいは作品など、学期の初めに参加者の意見を聞いて詳しいことを決めるつもりです。

授業の到達目標

大学院入学試験におけるフランス語の問題を読んで、大体の内容を理解し、日本語に訳すことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の記述試験の内容が評価対象。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　40%　　出席状況と予習の状況が評価対象。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	フランス語を読む6（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期（春期）での自信や興味を糧に、後期はより多くのフランス語を読むことを目指します（とはいえ、後期（秋期）からの履修でもまったく問題ありません）。散文詩や小説作品を中心に徐々に難易度の高いテクストへとステップ・アップしていきましょう。名文の誉れ高い作品や、原文で読んでこそ魅力が伝わる文章を取り上げます。時には作品が引用されている映画、映像にも時間が許す限り目を通す予定です。当講義はテクストのつまみぐいのようなものです。フランス語力を培うのみならず、今後の個人的な興味や研究対象を選ぶヒントになるよう期待しています。

対象は、フランス語初級文法を修めた学生となります。またオープン科目でもあります。文学作品を読むことに垣根は有りません。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。

カリキュラムはあくまでも目安です（授業計画は2018年度後期に実際取り上げたテクストを挙げておきます）。というのも、受講者からのリクエストを優先して授業で扱うテクストを選定しているからです。もちろん全員のリクエストにこたえることはできませんが、どしどし読みたいテクストを提案してください。フランス人による作品ではないもの、フランス語「訳」作品を読むこともやぶさかではありません。ただし、アゴタ・クリストフ『文盲』、サガン『悲しみよこんにちは』、カミュ『異邦人』、フローベールは必ず取り上げる予定です（フローベールに関しては、具体的に作品や箇所のリクエストがあるのなら歓迎します）。

試験は期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可。半分は授業で扱ったプリントから、残りの半分は実力テストで和訳形式です。

授業の到達目標

フランス語を読むことに喜びを感じること。語学力のみならず、フランスの文化、ひいてはヨーロッパ全体の文化や歴史への

興味を抱くこと。

成績評価方法

●**試験**　70%　　辞書持ち込み可
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　授業における積極性
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む7（哲学）　哲学書のフランス語に慣れる							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

思想・哲学系のフランス語文献を読んでゆきます。

春、秋ともに、それぞれ哲学者のテクストの抜粋（1〜2つ）を読みます。そのつど、新たな哲学者のテクストに入るときには、可能な範囲で、こちらから哲学者の簡単な解説もおこないます。

※ただし登録者や講師の問題関心によっては美学・社会学・分析哲学に関わるテクストや哲学的な文学テクストを扱う場合もあります。

論述文によく出てくる語彙や熟語、文構造というものがあります。それらを少しずつ身につけてゆくと、文面から徐々に意味が汲み取れるようになります。それまでの間、辞書を片手に、フランス語の文章と根気よく向き合える登録者がのぞましいと考えています。なるべく平易なテクストを選ぶつもりですが、哲学という縛りがあるので、どうしてもテクストのレヴェルは中級以上になります。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、哲学書に出てくるフランス語に慣れることです。単に辞書を引くだけでなく、独特の語彙、熟語、文構造をなるべく習得するように心がけてください。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。（ただし哲学や思想そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。）

成績評価方法

●**試験**　45%
●**レポート**　0%
●**平常点**　55%
●**その他**　0%

備考・関連URL

秋期からの登録も歓迎しますが、通年で受講することをお勧めします（春期のテクストの途中からになる場合もあります）。

科 目 名	フランス語を読む8（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力でサクサク読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本的には、春学期の「フランス語を読む3（芸術・文化）」のつづきであるが、秋学期だけ単独で受講することもできる。（しかし、春学期のつづきではあるので、春学期から履修している人はレベルアップしているはずである。したがって、秋学期から履修する人は、周りのレベルに合わせて自助努力する必要が出てくるかもしれない。）

春学期と同様、フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことに慣れていく。フランス語の有名な作品を、できるだけ難易度順に数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。

フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。

取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。

毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読むのに慣れること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、持込不可（辞書も不可）の復習テストをおこなう。学期中に読んだフランス語の文章の抜粋を出題するので、それを和訳すること。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。「訳文提出」については以下の「平常点評価」の項を参照のこと。
●**平常点**　40%　　出席を1回2点として30点、訳文提出を、1回2点、上限5回として10点、計40点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む9（現代文明）　映画評論を読む。							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代文明がイメージの文明であることは疑いの余地がないように思われます。映画は、最も大衆的なイメージの芸術の一つとして、この文明に様々な形で介入します。それは現実を写し出すだけでなく、現実のある部分を見えなくしたり、反対に、それ

なしには見えなかったであろうものを見えるようにしたりします。映画がこうしたことを行うのは、単に映画作品の中で語られる内容によってだけでなく、それが現実を切り取り、その切り取られたイメージを他の切り取られたイメージと結びつけ、時間の中に配列する仕方によっても行われます。この授業では、Cahiers du cinéma誌や、Trafic誌といったフランスの映画専門誌に掲載された短い論文を読みながら、映画という芸術について考えると同時に、映画を語るための言葉、概念、あるいは技法について学んでいきたいと思います。

授業の到達目標

中級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。映画を論じるための初歩的な技法を学ぶこと。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連URL

初回の授業の際、辞書を持参すること。

科目名	フランス語を読む10（大学院受験のための仏語）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスは、春期に開講している「フランス語を読む5」に続き、高度なフランス語の読解力を身につけること、ならびに、大学院受験にそなえたフランス語読解の練習をすることを目的にします。従って二つの方向性を持っていますが、その二つがまったく別の方向を向いているわけではありません。原則的には、ある程度の難度をもったフランス語の文章が読めるようになることを目指し、その実践として、これまで都内の主要大学院の入試に出されてきたさまざまなフランス語の問題を取上げ読んでいきます。

ただし、受験予定もなく純粋にフランス語を読みたいという意見もある場合、全時間を入試問題に当てるのでなく、ときには有名なフランス文学作品の抜粋もしくは研究書を読んでいくことも考えています。入試対策と作品講読の時間的配分や、授業で取上げる大学院過去問題あるいは作品など、学期の初めに参加者の意見を聞いて詳しいことを決めるつもりです。

授業の到達目標

大学院入学試験におけるフランス語の問題を読んで、大体の内容を理解し、日本語に訳すことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の記述試験の内容が評価対象。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　40%　　出席状況と予習の状況が評価対象。
●**その他**　0%　　特にありません。

科目名	フランス語で表現する1（会話初級）　A							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、現実的な状況や場面に即した会話表現を習い、実際に役立つフランス語を身につけていきます。各テーマの初めに短い動画を見て、理解します（言葉やジェスチャーなど）。その後、その例にならって、会話練習を行います。

授業の到達目標

フランス語の基礎的な知識を獲得し、フランス文化を目と耳で感じながら学ぶこと。
フランス語による初歩的なコミュニケーション能力を身につけること。

成績評価方法

60%：テスト　　各テーマについて、オリジナルなやりとりを考え、演じる＞（ペアの評価＋個人評価）
40%：出席＋宿題＋グループワークにおける貢献度を評価します。

科目名	フランス語で表現する1（会話初級）　B							
担当者名	E. ヴィエル							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

次の二つのことを目指した授業です。

まずは効果的に気持ちを伝えるための初級レベルの表現を身に着けて、旅行でもそれほど困らず、フランス語話者とも関係を築けるくらいになることが目標です。ですから授業の方法は口頭表現を中心にしたものになります。

もう一つは、はっきりとした正確なフランス語の発音を身に着けることも目指します。発音とイントネーションについては、段階的にいろいろな練習をしていきましょう。フランスの演劇学校で使われている練習方法をやりやすい形にアレンジして、発音とイントネーションを鍛えるつもりです。音声を識別する現代的な道具なども使ってみたいと思います。

授業の到達目標

概要に書いた通り、初級レベルの実践的な会話能力と、正確なフランス語の発音を身に着けることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する1（会話初級） C							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	2単位	春学期	金曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語学習歴1年程度の学習者を対象とするクラスです。フランス語でコミュニケーションをとるのに最低限必要な平易な表現を学びます。発音や文法や語彙に関する簡単な練習も並行して行います。

授業の到達目標

フランス旅行やフランス滞在に役立つ、さまざまな場面での基本会話表現を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級） A　日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

発音と聞き取りの復習をしながら、フランス語の自然度を高める。
オーディオやAV資料を参照し、ロールプレーと会話を実地する。

授業の到達目標

日常生活の語彙を身につけて、表現したいことを分かりやすく伝えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級） B							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「フランス語で表現する1（会話初級）A」クラスに引き続き、教科書『TOTEM 3』のビデオ（字幕付き）に基づいて行われる授業です。
中級編のビデオはほとんど、フランスのTVプログラム（コマーシャルなど）からの動画です。流行語、慣用表現などがたくさん出てますので、普段あまり触れる機会のない仏語を身につけましょう。
また取り上げたテーマについて話し、新しい表現を再現できる力を養います。

授業の到達目標

ー自然なフランス語に慣れていくこと。
ー自分の感想をより豊かに、自然に述べること。
ー意見をかわす力を得ること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　会話テスト（2回）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　参加態度
●**その他**　20%　　出席

科 目 名	フランス語で表現する3（作文初級） A							
担当者名	小倉　博行							
仏語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語の初級文法を学び終えた人を対象に、フランス語の作文の方法を学んでもらいます。この授業で用いる予定の教科書（下記参照）は文法事項の復習も兼ねることができるように作られています。
授業の進め方としては、まず各課ごとに挙げられている文法事項を丁寧に説明します。それをふまえた上で練習問題（和文仏訳）に取り組んでもらいます。この教科書はCDが付いていて正解を「耳で」確認することができます。その意味ではリスニング力を鍛える、といった利用の仕方も可能でしょう。
また，教科書とは別に，「どのように書くとフランス語らしいフランス語になるのか」という観点から，オリジナルのプリントを使って教場で仏作文に取り組んでもらうというやり方を三回に一回ないしは二回に一回の割合で行ないたいと思います.

授業の到達目標

フランス語を書いてみるという過程を通して、フランス語文法のさらなる理解を得ることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない予定です
●**レポート**　0%　　レポートは行わない予定です

●**平常点**　100%　　課ごとに附属している練習問題を提出してもらい、20点満点で添削して返却。オリジナルプリントについても同様。両者とも平均点が6割の12点以上を合格とします。
●**その他**　0%　　上記を成績判定の方法とします.

科 目 名	フランス語で表現する3（作文初級） B　フランス語で発信しよう！							
担当者名	中野　茂							
仏語	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、すでにフランス語初級文法を学んだ人を対象に、「フランス語で発信するテクニック」を学んでいきます。この科目の履修を通して様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけ、フランス人との日常的コミュニケーション能力や専門課程で活用できる能力を養います。 まず今までに習った文法事項の復習から始め、それらを実際に活用しながらフランス語で簡単な文章が作れるようになること、自然なフランス語で日常生活の表現ができるようになること、さらには日本文化をフランス語で発信することをめざします。とは言え、フランス語で表現する際にフランス文化の理解も不可欠になってきます。

授業は以下の通り進めていきます。

・フランス文化の紹介。
・穴埋め問題や並び替え問題を中心とした文法項目の復習。
・文をつくる際に必要な基本重要語彙や表現をテーマごとに紹介。
・実際に受講生が作った文の添削。

単に日本語を直訳してもフランス語にならない場合が多くあります。日本語とは違う「フランス語のしくみや発想」を学び、直訳ではなく「フランス語らしい発想」で表現するテクニックを紹介していきます。

＊仏検の4級〜3級を目指している人向けのレベルです。

授業の到達目標

・フランス文化の理解
・フランス語初級文法の復習
・各テーマを語る際に必要な重要表現および重要語彙の習得
・日常生活や日本文化を「フランス語らしい発想」で発信できる能力の習得

成績評価方法

●**試験**　70%　　理解度の確認70%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席点15%　コースナビで提出してもらう課題15%
●**その他**　0%　　特になし

選択外国語

科 目 名	フランス語で表現する4（作文中級） Traduire, écrire, composer							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Deux types d'exercices seront alternativement proposés :

-la traduction en français d'un court passage de japonais,

-la composition d'un texte rédigé directement en français à partir du passage japonais précédemment traduit ou d'un texte français lu en classe.

Une semaine, le cours sera consacré à la reprise des traductions faites à la maison, à des exercices de grammaire portant sur des points spécifiques ainsi qu'à des recherches de vocabulaire. Un nouveau texte sera donné à traduire.

La semaine suivante, les étudiants remettront leur nouvelle traduction et commenceront à produire et rédiger en français leur propre texte, d'après les consignes proposées.

Une présence régulière est souhaitable.

授業の到達目標

Révision et mise en pratique des structures grammaticales.

Révision et apprentissage de vocabulaire.

Entraînement à écrire un récit, à donner son avis et exprimer ses goûts de manière nuancée.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%
●**平常点**　0%
●**その他**　20%

科 目 名	フランス語で表現する5（会話・作文総合） Discuter, s'exprimer en français フランス語で議論する、表現する。							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

À partir de supports variés -- articles de presse, émissions télévisées, films, sites web, etc. -- portant sur des sujets qui concernent la culture et la société françaises, nous nous entraînons à discuter et écrire en français. Une séquence est composée de cinq séances consacrées à un même sujet. Les étudiants doivent rendre un petit

compte-rendu à la fin de la séquence. Les sujets seront choisis en fonction des intérêts des participants.
フランス社会および文化に関するテーマを選び、新聞、雑誌、テレビ、映画、ウェブサイトなど様々な媒体を用いて、フランス語で議論し、また書く練習をします。だいたい5回の授業で1つのテーマを扱い、5回目の授業で扱ったテーマに関するフランス語のレポートを提出してもらいます。テーマは参加者の興味に応じて一緒に選びます。

授業の到達目標

S'entraîner à lire, écrire, écouter, parler en français.
Mieux comprendre la société et la culture française.
フランス語で読む・書く・聞く・話すという総合的な能力を高めること。
フランス社会や文化について理解を深めること。

成績評価方法

Présence et participation aux cours : 40%; comptes-rendus : 60% 授業への参加40%、提出されたレポート60%で評価する。

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） A							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、現実的な状況や場面に即した会話表現を習い、実際に役立つフランス語を身につけていきます。各テーマの初めに短い動画を見て、理解します（言葉やジェスチャーなど）。その後、その例にならって、会話練習を行います。

授業の到達目標

フランス語の基礎的な知識を獲得し、フランス文化を目と耳で感じながら学ぶこと。
フランス語による初歩的なコミュニケーション能力を身につけること。

成績評価方法

60%：テスト　　各テーマについて、オリジナルなやりとりを考え、演じる＞（ペアの評価＋個人評価）
40%：出席＋宿題＋グループワークにおける貢献度を評価します。

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） B							
担当者名	E. ヴィエル							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

次の二つのことを目指した授業です。
まずは効果的に気持ちを伝えるための初級レベルの表現を身に着けて、旅行でもそれほど困らず、フランス語話者とも関係を築けるくらいになることが目標です。ですから授業の方法は口頭表現を中心にしたものになります。
もう一つは、はっきりとした正確なフランス語の発音を身に着けることも目指します。発音とイントネーションについては、段階的にいろいろな練習をしていきましょう。フランスの演劇学校で使われている練習方法をやりやすい形にアレンジして、発音とイントネーションを鍛えるつもりです。音声を識別する現代的な道具なども使ってみたいと思います。

授業の到達目標

概要に書いた通り、初級レベルの実践的な会話能力と、正確なフランス語の発音を身に着けることが目標です。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%
- **その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） C							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語学習歴1年半程度の学習者を対象とするクラスです。春学期の「フランス語で表現する1」に続き、フランス語でコミュニケーションをとるのに最低限必要な平易な表現を学びます。発音や文法や語彙に関する簡単な練習も並行して行います。

授業の到達目標

フランス旅行やフランス滞在に役立つ、さまざまな場面での基本会話表現を身につける。

成績評価方法

- **試験**　60%
- **レポート**　0%
- **平常点**　40%
- **その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） A　日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

発音と聞き取りの復習をしながら、フランス語の自然度を高める。
オーディオやAV資料を参照し、ロールプレーと会話を実地する。

授業の到達目標

日常生活の語彙を身につけて、表現したいことを分かりやすく伝えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） B							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「フランス語で表現する6（会話初級）A」クラスに引き続き、教科書『TOTEM 3』のビデオ（字幕付き）に基づいて行われる授業です。
中級編のビデオはほとんど、フランスTVプログラム（コマーシャルなど）からの動画です。流行語、慣用表現などがたくさん出てますので、普段あまり触れる機会のない仏語を身につけましょう。
また取り上げたテーマについて話し、新しい表現を再現できる力を養います。

授業の到達目標

ー自然なフランス語に慣れていくこと。
ー自分の感想をより豊かに、自然に述べること。
ー意見かわす力を得ること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　会話テスト（2回）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　参加態度
●**その他**　20%　　出席

科 目 名	フランス語で表現する8（作文初級） A							
担当者名	小倉　博行							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春期に引き続き、初級文法を学び終えた人を対象に、フランス語の作文方法を学んでもらいます。授業の進め方も春期と同じです。

授業の到達目標

フランス語を書いてみるという過程を通して、フランス語文法のさらなる理解を得ることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない予定です
●**レポート**　0%　　行わない予定です
●**平常点**　100%　　課ごとに附属する練習問題を提出してもらい、20点満点で添削・返却。オリジナルプリントによるものも同様です．両者とも平均が6割の12点以上を合格とします。
●**その他**　0%　　行わない予定です

備考・関連URL

語学の学習ですが，グループ学習や学習成果の発表など，受講生のみなさんが積極的に授業に参加するような授業構成にします．

科 目 名	フランス語で表現する8（作文初級） B　フランス語で発信しよう！							
担当者名	中野　茂							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、すでにフランス語初級文法を学んだ人を対象に、「フランス語で発信するテクニック」を学んでいきます。この科目の履修を通して様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけ、フランス人との日常的コミュニケーション能力や専門課程で活用できる能力を養います。
まず今までに習った文法事項の復習から始め、それらを実際に活用しながらフランス語で簡単な文章が作れるようになること、自然なフランス語で日常生活の表現ができるようになること、さらには日本文化をフランス語で発信することをめざします。とは言え、フランス語で表現する際にフランス文化の理解も不可欠になってきます。
授業は以下の通り進めていきます。
・フランス文化の紹介。

・穴埋め問題や並び替え問題を中心とした文法項目の復習。
・文をつくる際に必要な基本重要語彙や表現をテーマごとに紹介。
・実際に受講生が作った文の添削。
単に日本語を直訳してもフランス語にならない場合が多くあります。日本語とは違う「フランス語のしくみや発想」を学び、直訳ではなく「フランス語らしい発想」で表現するテクニックを紹介していきます。
＊仏検の4級～準2級を目指している人向けのレベルです。

授業の到達目標
・フランス文化の理解
・フランス語初級文法の復習
・各テーマを語る際に必要な重要表現および重要語彙の習得
・日常生活や日本文化を「フランス語らしい発想」で発信できる能力の習得

成績評価方法
●**試験**　70%　　理解度の確認60%
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　出席点15%　コースナビで提出してもらう課題15%
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語で表現する9（作文中級） Traduire, écrire, composer							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
Deux types d'exercices seront alternativement proposés :
-la traduction en français d'un court passage de japonais,
-la composition d'un texte rédigé directement en français à partir du passage japonais précédemment traduit ou d'un texte français lu en classe.
Une semaine, le cours sera consacré à la reprise des traductions faites à la maison, à des exercices de grammaire portant sur des points spécifiques ainsi qu'à des recherches de vocabulaire. Un nouveau texte sera donné à traduire.
La semaine suivante, les étudiants remettront leur nouvelle traduction et commenceront à produire et rédiger en français leur propre texte, d'après les consignes proposées.
Une présence régulière est souhaitable.

授業の到達目標
Révision et mise en pratique des structures grammaticales.
Révision et apprentissage de vocabulaire.
Entraînement à écrire un récit, à donner son avis et exprimer ses goûts de manière nuancée.

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　80%
●**平常点**　0%
●**その他**　20%

科 目 名	フランス語で表現する10（会話・作文総合） Discuter, s'exprimer en français フランス語で議論する、表現する。							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
À partir de supports variés -- articles de presse, émissions télévisées, films, sites web, etc. -- portant sur des sujets qui concernent la culture et la société françaises, nous nous entraînons à discuter et écrire en français. Une séquence est composée de cinq séances consacrées à un même sujet. Les étudiants doivent rendre un petit compte-rendu à la fin de la séquence. Les sujets seront choisis en fonction des intérêts des participants.
フランス社会および文化に関するテーマを選び、新聞、雑誌、テレビ、映画、ウェブサイトなど様々な媒体を用いて、フランス語で議論し、また書く練習をします。だいたい5回の授業で1つのテーマを扱い、5回目の授業で扱ったテーマに関するフランス語のレポートを提出してもらいます。テーマは参加者の興味に応じて一緒に選びます。

授業の到達目標
S'entraîner à lire, écrire, écouter, parler en français.
Mieux comprendre la société et la culture française.
フランス語で読む・書く・聞く・話すという総合的な能力を高めること。
フランス社会や文化について理解を深めること。

成績評価方法
Présence et participation aux cours : 40%; comptes-rendus : 60% 授業への参加40%、提出されたレポート60%で評価する。

科 目 名	フランス文化を知る1（時事フランス語）							
担当者名	熊木　淳							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語で書かれた新聞やネット上の記事は語彙や表現等、特徴あるものが多く、会話や文学テクストなどで使用されるフランス語とはしばしば大きく異なる。それは政治や経済といった内容に関わるものだけではなく、音楽やゲームのレヴューなどにおいても同様である。そこで当授業では、なるべく様々なジャンルの文章を読むことで文学や他の語学の授業ではあまり触れることのないフランス語の文章を読んでもらうことになる。時事フランス語にはしばしば辞書を調べてもわからない語が多く、そのため授業内でブラウザの画面を投影し、語の調べ方も学ぶ。

授業の到達目標

フランス語のジャーナリスティックな文章における独特な表現を理解することを目的とする。当然そのような表現は当該の事件は文化的背景などの知識を前提としていることが多く、そのためフランス語そのものの運用能力の向上とともにフランスの文化的事象や政治経済的な背景についての知識の蓄積も目的とすることになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　長文の読解および和訳のテストを行う予定である。基本的に正しく訳しているかというよりも、文章を的確に読解しているかということを評価基準として採点する。辞書の持ち込みは可とするが、スマートフォンのアプリは認められない。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　授業内で担当した箇所を適切に理解できているか、また文法事項を理解しているかに注目し、授業態度等も含めて総合的に判断する。

●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る2（フランスを旅する）　パリだけがフランスじゃない―北部篇―							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業ではフランスの地方に焦点を当てて、現地に暮らすのでもなければなかなか触れる機会のないこれら各地方の地理的・歴史的・文化的な豊かさに迫ります。春学期はフランス北西部のブルターニュから旅を始め、英仏海峡に沿って北東へ、東の国境沿いを内陸部に進み、ブルゴーニュまで巡ってゆきます。

授業の中軸となるのは指定教科書のテクスト講読ですが、関連する映像資料も視聴しながらフランス各地の自然や文化、生活がより身近に感じられるコーナーも毎回あります。そして、日本語の字幕がだいたい付いていて、聞き取れそうな箇所ではフランス語の字幕さえ表示される映像を見て抱いた感想や意見や疑問を、みんなで交わします。

授業の到達目標

1. フランス語と日本語の文構造の違いに注意して、こなれた翻訳ができる。
2. 綴り字の正しい読み方を心がけ、たとえゆっくりでもテンポよく音読ができる。
3. 字幕付きの映像視聴を通して、フランス語の聞き取り能力を向上させる。
4. 毎回の授業を扱われる話題について意見や感想を述べる積極性を培う。
5. 各地方の知見を深め、フランスという国土のイメージを根本から変える。

成績評価方法

●**試験**　40%　　理解度の確認

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　40%　　授業への参加度（出席、訳読、音読）

●**その他**　20%　　課題提出

備考・関連URL

この授業では、訳読と同等かおそらくそれ以上に原文の音読を重視しますので、フランス語の綴り字の読み方をある程度マスターしていること、もしくはそうしようとする意欲があることが要求されます。というのも、たしかに毎回視聴する映像には教員が付けた日本語字幕がたいてい表示されますが、いつまでも字幕に頼らずに、映像を見ながら聞こえてくるフランス語の音声に慣れてもらいたいからですし、そのためにはまずご自身でその言語を正しく発音できるようになってもらいたいからです。

科 目 名	フランス文化を知る3（映画・演劇）							
担当者名	キヨタ　リディア　A.							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語を上達するために、継続性をもってできる方法の一つとして、今回は過去から今日に至るフランス映画を通して、社会・文化・ライフスタイル等を同時に理解しながら、興味深く学んでゆく講座です。

内容は

1：現代フランス映画アラカルト

2：戦前から戦後へ

3：ヌーヴェル・ヴァーグ

4：60年代から90年代へ

授業の到達目標

・映画を通して、受講生の会話を上達させ、時として映画の字幕の分析をおこない、フランスの社会文化を学びます。

・語彙の増加

・フランス社会の現代的な側面の理解が目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　講義の中で説明
●**平常点**　20%　　授業の際の発言など
●**その他**　30%　　出席

備考・関連URL

出席は必須です。
レベルは、基礎文法の理解がしっかりしていることが前提です。
フランス映画の講義が中心になります。

科 目 名	フランス文化を知る4（美術・音楽）　美術を通してフランス文化を知る							
担当者名	ベルナール　ミルティル　ロランス							
仏語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では楽しみながら、様々な切り口からフランス文化(美術・音楽)を学んでいきましょう。
この授業の主な目的は以下の2つです。
1）フランス文化を具体的に広く知る機会を持つ
2）異文化を理解するための視野を広げる

授業の到達目標

この授業では「文化」という言葉を「人々が生み出したもの」や「人々の生活習慣」として広く捉え、フランスに関する数多くの事象を扱っていきたいと思います。
映画やアニメーションやドキュメンタリーなどの様々な映像を通して、フランスの文化（主に戦後）を視覚的に学んでいきます。授業では、テーマに沿って幾つかの映画のシーンを補足的に見ますが、あくまで各テーマの理解を深めることが目標です。

春学期は美術を中心に扱います。美術を通して様々な文化の分野に触れること目指します。

成績評価方法

授業への積極的な参加、及び出席率が最も重要です。
出席状況、授業態度、小レポート、小テストなどにより総合的に評価を行います。

備考・関連URL

欠席や遅刻はなるべく避けるようにお願いします。
シラバスの内容は多少変更される場合があります。予めご了承下さい。

科 目 名	フランス文化を知る5（歴史・社会）　フランスの歴史を知る							
担当者名	斎藤　公一							
仏語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスの歴史といっても、世界史という枠の中で手短にしか学んでいない人が多いと思います。フランスという国の存在は知っていても、ではどんな歴史を辿ってきた国かというと大雑把にしか答えられないでしょう。本講義では、フランスの歴史を見通した後、いくつかのテーマについて個々に発表してもらい、そのテーマについてフランス語で書かれたテクストを読み、興味深く重要な時代や出来事を把握、確認して、フランスという国への理解を深めていきます。

授業の到達目標

フランスの歴史の流れを把握し、重要な出来事の経緯を理解し、フランスの現在をよりしっかりと捉えることができるようになる。

成績評価方法

試験 80%、平常点評価（発表、課題）20%

科 目 名	フランス文化を知る6（時事フランス語）							
担当者名	熊木　淳							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語で書かれた新聞やネット上の記事は語彙や表現等、特徴あるものが多く、会話や文学テクストなどで使用されるフランス語とはしばしば大きく異なる。それは政治や経済といった内容に関わるものだけではなく、音楽やゲームのレヴューなどにおいても同様である。そこで当授業では、なるべく様々なジャンルの文章を読むことで文学や他の語学の授業ではあまり触れることのないフランス語の文章を読んでもらうことになる。時事フランス語にはしばしば辞書を調べてもわからない語が多く、そのため授業内でブラウザの画面を投影し、語の調べ方も学ぶ。

授業の到達目標

フランス語のジャーナリスティックな文章における独特な表現を理解することを目的とする。当然そのような表現は当該の事件は文化的背景などの知識を前提としていることが多く、そのためフランス語そのものの運用能力の向上とともにフランスの文化的事象や政治経済的な背景についての知識の蓄積も目的とすることになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　長文の読解および和訳のテストを行う予定である。基本的に正しく訳しているかというよりも、文章を的確に読解しているかということを評価基準として採点する。辞書の持ち込みは可とするが、スマートフォンのアプリは認められない。
●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　授業内で担当した箇所を適切に理解できているか、また文法事項を理解しているかに注目し、授業態度等も含めて総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る7（フランスを旅する）　パリだけがフランスじゃない―南部篇―							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要
　この授業は、春学期「フランス文化を知る2」の続きです。南フランスのプロヴァンスやコート・ダジュールから旅を始め、地中海沿岸を西へ進み、ピレネー山脈を横目にみながら大西洋側に出たあと、ロワール河をさかのぼってフランス中部へ入り、アルプス地方にまで至ります。
　授業の中軸となるのは、春学期同様、指定教科書のテクスト講読です。また関連する映像を毎回何本か見て、文章だけでは到底イメージできない現地の風景や日常にも触れ、感想や意見や疑問をみんなで交わす、そんな時間を設けるのも同じです。春学期との違いは、視聴映像にフランス語字幕が表示される頻度が多くなる点です。

授業の到達目標
1．綴り字の読み方を間違えずにテンポよく音読できる速度を上げる。
2．フランス語の字幕も頼りに、聞き取り能力をさらに向上させる。
3．毎回の話題について日本とも比較しながら意見や感想を述べる。
4．各地方の知見を深め、フランスという国土のイメージを完全に塗り変える。

成績評価方法
●**試験**　40%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　授業への参加度（出席、訳読、音読）
●**その他**　20%　　課題提出

備考・関連URL
　秋学期からの履修を考えている場合は、春学期分のシラバスを読んで、この授業のそもそもの趣旨を理解してください。テキストは比較的平易で、教科書には多くの単語の意味も載っていますから、予習に苦労することはさほどありません。ですがその分、授業中には訳読と同等もしくはそれ以上に、発音の上達具合が評価の対象となります。秋学期からの履修の条件は、ある程度正しく音読できることです。

科 目 名	フランス文化を知る8（映画・演劇）							
担当者名	キヨタ　リディア　A.							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要
　フランス語を上達するために、継続性をもってできる方法の一つとして、今回は過去から今日に至るフランス映画を通して、社会・文化・ライフスタイル等を同時に理解しながら、興味深く学んでゆく講座です。
　内容は
　1：現代フランス映画アラカルト
　2：戦前から戦後へ
　3：ヌーヴェル・ヴァーグ
　4：60年代から90年代へ

授業の到達目標
・映画を通して、受講生の会話を上達させ、時として映画の字幕の分析をおこない、フランスの社会文化を学びます。
・語彙の増加
・フランス社会の現代的な側面の理解が目標です。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　講義の中で説明
●**平常点**　20%　　授業の際の発言など
●**その他**　30%　　出席

備考・関連URL
　出席は必須です。
　レベルは、基礎文法の理解がしっかりしていることが前提です。
　フランス映画の講義が中心になります。

科 目 名	フランス文化を知る9（美術・音楽）　フランスの音楽とミュージカル							
担当者名	ベルナール　ミルティル　ロランス							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要
　この授業では楽しみながら、様々な切り口からフランス文化（美術・音楽）を学んでいきましょう。
　この授業の主な目的は以下の2つです。
　1）フランス文化を具体的に広く知る機会を持つ
　2）異文化を理解するための視野を広げる

授業の到達目標

この授業では「文化」という言葉を「人々が生み出したもの」や「人々の生活習慣」として広く捉え、フランスに関する数多くの事象を扱っていきたいと思います。

映画やアニメーションやドキュメンタリーなどの様々な映像を通して、フランスの文化（主に戦後）を視覚的に学んでいきます。授業では、テーマに沿って幾つかの映画のシーンを補足的に見ますが、あくまで各テーマの理解を深めることが目標です。

秋学期は音楽を中心に扱います。フランスのポップミュージック、ジャッズ、ラップなどいろいろな音楽ジャンルを取り上げます。ミュージカルや映画も紹介する予定です。

成績評価方法

授業への積極的な参加、及び出席率が最も重要です。

出席状況、授業態度、小レポート、小テストなどにより総合的に評価を行います。

備考・関連ＵＲＬ

欠席や遅刻はなるべく避けるようにお願いします。

シラバスの内容は多少変更される場合があります。予めご了承下さい。

科 目 名	フランス文化を知る10（歴史・社会） フランスの社会を知る							
担当者名	斎藤　公一							
仏語	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

外国の情報も手に入れやすくなっている状況にありますが、フランスという国の存在は知っていても、フランスやフランス人についても、まだまだマスメディアが提供するステレオタイプで偏った捉え方が蔓延しているせいで、時にはとんでもない誤解をしていることもあります。本講義では、フランス人の生活の基盤になっている様々な事柄について発表してもらい、その事柄についてフランス語で書かれたテクストを読み、フランス及びフランス人の実像を捉えていきます。

授業の到達目標

様々な事柄を知ることによって、フランスという国、フランス人をより深く理解するようになる。

成績評価方法

試験 80%、平常点評価（発表、課題）20%

科 目 名	フランス語の資格をめざす1（初級） A 確かな文法知識＆語彙力で仏検3級合格							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	２単位	春学期	木曜日	６時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

実用フランス語検定試験（いわゆる仏検）3級レベルの筆記問題にどんどん答えてゆく科目です。毎回の授業は二部構成です。前半は語彙の強化が目的で、その回に習ったことをもとにして次回授業の冒頭にプチ・テストを行います。後半は、動詞の活用や代名詞など、文法力が求められる問題の解答と答え合わせです。達成度の判断は履修者各人にほぼ委ねられます。学期内に2回行う試験も自己判断の材料にすぎず、教員が評価するのは継続的な学習姿勢のみですから、自分の理解度と意欲とにしたがって練習問題にこつこつ取り組むことができます。

授業の到達目標

この授業の"目標"は仏検3級合格です。しかし本当の"目的"は他にあります。1年次に一通り学んだフランス語文法をより確実なものにすること、そして使用頻度の高い単語の数を増やすことです。ですから、3級に合格したからといってこの授業の役割が果たされてしまうわけでもなければ、年度内に仏検を受けて合格することが必須なわけでもありません。しっかりとした文法知識と語彙力という両面からの基礎固めがこの授業の主旨です。そうして、他に受講しているフランス語科目での理解を補えたり、次年度以降も自信をもってフランス語に接してゆけるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　学期内に行う二度の「模擬試験」は自己評価の材料であり、教員による成績評価の対象とはなりません。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　100%　　授業への参加度60%＋小テストの総得点40%

●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

1年次に用いた教科書『新システマティックフランス語文法』は、2年目以降も繰り返し参照するに値する参考書となります。授業でも折に触れて言及するので、問題集と併用してください。

科 目 名	フランス語の資格をめざす1（初級） B 仏検4級合格講座							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	２単位	春学期	土曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

6月におこなわれる実用フランス語技能検定試験4級の合格を目指します。

検定試験を受けない学生も、同程度の実力をつけることができます。

検定試験後は、秋の3級合格を目標として、勉強を続けます。

授業の到達目標

実用フランス語技能検定試験4級合格を目標とします。

さらに、秋の3級合格に向けての土台を作ります。

成績評価方法

●**試験**　90%　　第9回および、第15回の確認テストによって評価します。

●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　小テストや出席回数で評価します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	フランス語の資格をめざす2（中級）　A　DELF中級レベル準備クラス							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
　この授業は、すでにフランス語の基礎的な知識を学んだ学生のためのものです。
　出席者は、フランス人の日常生活で普通に使われるようなテキストを学びながら、書くことと口頭表現の両方について、理解のレベルを上げていけるでしょう。

授業の到達目標
　この授業の目標は、文法と語彙の知識を豊かにすることで、出席者が、手紙を書いたり文章の要約をしたり、あるいはまた割り振られたテーマについて、自分自身の視点を表現したり議論をしたりできるような方法を身につけることです。
　授業の最後のころには、学生はDELFのB2レベルの試験に合格できると思います。DELFとは、フランス政府が実施するフランス語能力の認定試験です。これに合格すると留学のさいに有利になります。

成績評価方法
　出席点：10%
　筆記あるいは口頭での課題：30%
　試験：60%

科 目 名	フランス語の資格をめざす2（中級）　B　資格を受ける自信をつけましょう							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カトリーヌ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
　この授業では今まで勉強してきたフランス語を纏めて、資格獲得を目指す有効な練習をします。1学期に5つの課題を巡り活動し、終わりに小テストを行います。

授業の到達目標
　時事フランス語を使用する文書、音声や映像資料を通して、語彙を増やし、文法の能力を高めます。

成績評価方法
●**試験**　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語の資格をめざす3（初級）　A　確かな文法知識＆語彙力で仏検3級合格							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
　春学期の授業に引き続き、実用フランス語検定試験（いわゆる仏検）3級レベルの筆記問題にどんどん答えてゆく科目です。秋学期も授業は毎回二部構成です。前半はさらなる語彙力と文法教科書では日陰者扱いされがちな前置詞、これらの強化が目的で、次回授業冒頭に行うプチ・テストに同じような問題を出します。授業後半は、会話文・長文の読解といった総合的な理解力が求められる問題の解答と答え合わせです。なお、達成度の判断は履修者各人にほぼ委ねられます。学期内に2回行う試験も自己判断の材料にすぎず、教員が評価するのは継続的な学習姿勢のみですから、自分の理解度と意欲とにしたがって練習問題にこつこつ取り組むことができます。

授業の到達目標
　この授業の"目標"は仏検3級合格です。しかし本当の"目的"は他にあります。1年次に一通り学んだフランス語文法をより確実なものにすること、そして使用頻度の高い単語の数を増やすことです。ですから、3級に合格したからといってこの授業の役割が果たされてしまうわけでもなければ、年度内に仏検を受けて合格することが必須なわけでもありません。しっかりとした文法知識と語彙力という両面からの基礎固めがこの授業の主旨です。そうして、他に受講しているフランス語科目での理解を補えたり、次年度以降も自信をもってフランス語に接してゆけるようになりましょう。

成績評価方法
●**試験**　0%　　学期内に行う模擬試験の結果は評価の対象ではありません。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業への参加度60%＋小テストの総得点40%
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
　1年次に用いた教科書『新システマティックフランス語文法』は、2年目以降も繰り返し参照するに値する参考書となります。授業で使う問題集と併用しましょう。

科 目 名	フランス語の資格をめざす3（初級） B 仏検3級合格講座							
担当者名	小幡 一雄							
仏語	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

11月におこなわれる実用フランス語技能検定試験3級の合格を目指します。
検定試験を受けない学生も、それと同レベルの実力を養成します。
検定試験後は、準2級への土台作りと、文章を読む練習をしますs。

授業の到達目標

実用フランス語技能検定試験3級合格、あるいは、それと同レベルの実力を養成することを目指します。
試験後は、準2級相当の文法を身につけます。

成績評価方法

●**試験** 90% 第8回、および、第15回の確認テストの点数で評価する。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 10% 小テストや出席回数によって評価する。
●**その他** 0% なし。

科 目 名	フランス語の資格をめざす4（中級） A DELF中級レベル準備クラス							
担当者名	オジュロ アン							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、すでにフランス語の基礎的な知識を学んだ学生のためのものです。
出席者は、フランス人の日常生活で普通に使われるようなテキストを学びながら、書くことと口頭表現の両方について、理解のレベルを上げていけるでしょう。

授業の到達目標

この授業の目標は、文法と語彙の知識を豊かにすることで、出席者が、手紙を書いたり文章の要約をしたり、あるいはまた割り振られたテーマについて、自分自身の視点を表現したり議論をしたりできるような方法を身につけることです。
授業の最後のころには、学生はDELFのB2レベルの試験に合格できると思います。DELFとは、フランス政府が実施するフランス語能力の認定試験です。これに合格すると留学のさいに有利になります。

成績評価方法

出席点：10%
筆記あるいは口頭での課題：30%
試験：60%

科 目 名	フランス語の資格をめざす4（中級） B 資格を受ける自信をつけましょう							
担当者名	ヴァンシンテヤン カトリーヌ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では今まで勉強してきたフランス語を纏めて、資格獲得を目指す有効な練習をします。1学期に5つの課題を巡り活動し、終わりに小テストを行います。

授業の到達目標

時事フランス語を使用する文書、音声や映像資料を通して、語彙を増やし、文法の能力を高めます。

成績評価方法

●**試験** 40%
●**レポート** 0%
●**平常点** 60%
●**その他** 0%

科 目 名	フランス語力を強化する1（留学準備） フランスでの留学生活に備えるために							
担当者名	明石 伸子							
仏語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスで充実した留学生活を送るためには、フランス語の文法能力のみが必要なわけではなく、フランスに関する全般的な知識を蓄えておくことが大切です。この授業では、フランスに関するベーシックな情報をインプットするための興味深いテキストを読み進めます。ひとつのテーマには2種類のテキストが用意されます。導入の速読テキストでは辞書なしでフランス語のテキストを理解できるよう試みます（それから対訳と照らし合わせてスピーディーな理解をめざします）。発展の精読テキストは、辞書を用いて内容について細かく取組み、テキストから関連する語彙や表現などへと膨らませてフランス語の力を養います。フランス語会話については、講義の目的に対応した「学校関連のフランス語」に触れる機会を持ちます。留学する予定がある場合はもちろんですが、留学への憧れがある学生も、楽しめる内容になっています。映像資料もふんだんに鑑賞してフランス語を学ぶモーチベーションを高めます。

授業の到達目標

ランス社会に関する興味を養い、簡易なテキストを読んで情報を吸収できる力を身につける。

成績評価方法

●**試験** 60% 教材の内容の理解度を得点で測ります。

●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で取り組んだテキスト理解等の作業を評価します。
●**その他**　10%　　授業への讃歌の姿勢を評価します。

備考・関連ＵＲＬ

授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語力を強化する3（発音の訓練）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語を話すために必要な、発話の基礎となる発音を学ぶクラスです。

この授業は、秋学期に開講する「フランス語を強化する6（聞き取りの訓練）」クラスと連動しており、発話と聞き取りの両面の訓練を通じてフランス語の音に対する感覚を磨き発音の基礎を固めていくことで、フランス語コミュニケーション力養成への導入となるはずです。会話のクラスと並行して受講するのも可能です。

一年以上の学習経験を持つ学生で、発音の規則を最初に習ったものの理解が曖昧であるとか、まだ実践において使えるほど自身がない、身についていないという人を想定して授業を進めていきます。単語やいくらかのまとまりのある語句は読めるが、文の読み方（抑揚や強調箇所）を知らない人、会話で困らないように正しい発音を身につけたい人、1年時の語学の授業で出てきた発音の規則をより詳細に学習したい人など、それぞれの動機に合わせてこの授業を活用してくれることを望みます。授業では毎回学生のみなさんに発音の実践やさまざまな学習のための作業をしてもらいます。授業中は主体的に参加してください。また課題（発音に関するもの）も出す予定なので、意欲を持って取り組んでほしいと思います。

授業の到達目標

まずフランス語のつづりと音の関係をしっかり理解する。次に、単語、語句、文における発音の規則（リエゾン、アンシェヌマン、リズムグループ、抑揚、強調等）を身につける。会話や文章の朗読において、できるだけ自然なイントネーションで発音できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学習のまとめと確認として、中間と期末に口述試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　40%　　中間・期末試験とともに、出席状況と授業への参加度を評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	フランス語力を強化する4（文法）							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語力を強化するため、フランスで子どもから大人まで人気のある『プチ・ニコラ』の物語を読みながら、文法や語彙を身につけていきます。比較的やさしく愉しい読み物です。初級文法をひととおり勉強したあとに読むと、とてもいい勉強になります。「フランス語力を強化する2」とは異なる内容になるので、すでに「2」を受講した学生も歓迎します。

授業の到達目標

文法の土台を確かなものにする。また、文章の構文を把握する能力も身につけます。

成績評価方法

●**試験**　90%　　2回の確認テストをおこないます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　出席や授業内での訳、小テストを考慮します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	フランス語力を強化する5（語彙）　フランス語力のアップに大切なのは語彙力です！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎文法をひと通り学習したあと、語学力を高めるために最も肝心なのは語彙の力です。使いこなせる単語数を増やすこと、重要な定型表現やイデオムなどを身につけることで、「テキストを快適に読む」、「検定を取得する」、「コミュニケーションを楽しむ」などの充実した世界が広がります。この講座では、仏検3・2級レベルで用いられる単語・熟語・表現を対象とした学習を行います。単語や熟語のトレーニングだけでなく、まとまりある文章のディクテ（フランス語の書き取り）を試すことにより、聴いて理解する能力も育てながら、フランス語への学習意欲を立体的に刺激する授業をめざします。語彙に関するイラストいっぱいのフランス製教材は、フランス文化を知る楽しみを刺激してくれます。

授業の到達目標

基礎的な語彙力を定着させ、自力で語彙力をさらに伸ばす方法を発見する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で説いた練習問題等の得点で測ります。
●**その他**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。

備考・関連ＵＲＬ

授業の詳細については、ガイダンスにて詳しく追加します

科 目 名	フランス語力を強化する6（聞き取りの訓練）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、春期の「フランス語を強化する3（発音の訓練）」で学んだことをベースにして、実践的な聞き取りの訓練を行うクラスです。発話の訓練に加えさらに聞き取りの訓練を通じて、フランス語の音に対する感覚を磨いていくことで、フランス語コミュニケーション力養成への導入となるはずです。会話のクラスと並行して受講するのも可能です。なるべく春期の「フランス語を強化する3（発音の訓練）」を受講していることが望ましいのですが、そうでなくても一年以上の学習経験を持つ学生で、実践において聞き取る自身がないという人を想定して授業を進めていきます。ただし発音の規則に関してはある程度身につけておく（自分で復習しておく）必要があります。聞き取りには、発音とはまた違った要素が出てきます。耳に入ってくる音を正確に聞き取り再現できることが基本ですが、さらにその音に意味を与える作業（語句の認識）も必要になります。これは、発音の規則はもちろん、語彙力、動詞の活用規則等文法的知識、あるいは初めて聞く音（語句）も文脈を頼りにその意味を想像する能力にまで関係してきます。とはいえ最初からそこまでは望みません。とにかく正確に音を聞き取りそれを再現する（発音と記述）という訓練を、単語、語句、文レベルにおいて繰返し訓練します。その訓練を通じて、将来的には少し難しいフランス語の聞き取りに対する準備となればよいと考えます。会話で困らないように聞き取りの力を身につけたい人、フランスへの留学を考えている人など、それぞれの動機に合わせてこの授業を活用してくれることを望みます。授業では毎回学生のみなさんに聞き取りの実践やさまざまな学習のための作業をしてもらいます。授業中は主体的に参加してください。また毎回の授業で簡単なディクテーション（dictée）課題も出す予定なので、意欲を持って取り組んでほしいと思います。

授業の到達目標

春期で学習した発音を、今度は聞くことにおいて確認・実践します。単語、語句、文における音の聞き取りの訓練を行い、最終的にさまざまなシチュエーションにおける会話等の聞き取りをに挑戦し、主な内容を理解できるようにします。

成績評価方法

- **試験**　60%　　学習のまとめとして、中間と期末に聞き取り会話試験と簡単なディクテーション（dictée）試験を行います。
- **レポート**　0%　　レポートは実施しません。
- **平常点**　40%　　中間・期末試験とともに、出席状況と授業への参加度も合わせて評価します。
- **その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語1　A							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

アルファベの読み方から始めます。したがって、対象者はフランス語未経験者となります。既習者のなかでも自分の文法の知識を見直したいという人には門戸は開放しますが、後期からを推奨します（簡単すぎるかもしれないので）。ただし、教科書の性格上、フランスの文学作品やフランス史に興味があるなら既修者でも楽しめるでしょう。教科書は　Apprenons le français par les belles expressions！『名句で学ぼう！初級フランス語』を用います。進度とのかねあいで各課ごとの練習問題は宿題として課すことになります（強制ではありませんが、そのほうがより早く上達するでしょう）。またフランス語の発音やリズムにも親しんでもらうために、毎週シャンソンを聞く予定です。フランス語そのものの上達はもとより、フランス語圏の文化への興味がはぐくまれることを何よりも望みます。 試験は定期試験の予定です。

授業の到達目標

フランス語、もしくはフランス語圏文化への興味を持ち継続して学ぶこと。

成績評価方法

- **試験**　70%　　試験
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　30%　　課題の提出や授業における積極性など
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	第三外国語としてのフランス語1　B							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講座は、フランス語の初歩をいちから学んでみたいと思う学生を対象とするものです。まったくフランス語の予備知識のない人（例えば、第二外国語で別の言語を選択した人）が多いですが、それ以外にも、第二外国語でフランス語を選択したことのある人、高校時代にフランス語を少し習ったけれども忘れてしまった人など、毎年いろいろな人が登録しています。

教科書はなるべく平易で簡潔なものを選んでいます。『エリソン』にはイラストが多く収められており、フランス語圏で見かけるフレーズや身体表現を読み解きながら、文化的な背景について理解を深められるような構成になっています。

音源は出版社のウェブサイトでダウンロードできます。

進行方法ですが、教科書のはじめからゆっくりめにスタートして、なるべく一回で一課ずつ進むことになります。

その他、教科書だけでは足りない場合には、別途、文法問題を配布したり、あるいは授業の内容と関連のある資料（映像や音源など）を見せたりすることもあります。

※秋季からの受講者も歓迎しますが、その場合、教科書は途中からになります。フランス語を半期以上の既修者にかぎります。

授業の到達目標

本講座の最大の目標は、フランス語のごく初歩的な運用能力を得ること、それを通じて、多少なりともフランス語圏の文化に触れることです。

成績評価方法
●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL
授業計画は、進行上大幅に前後する場合があります。あくまで目安と考えてください。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語2　A							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
春期からの継続です（Apprenons le français par les belles expressions！『名句で学ぼう！初級フランス語』 第11課～23課）。この秋期で基本的な文法事項全体をおさえることになります。秋期から新規で履修しようとするフランス語未経験者は、不可能ではありませんし（そういう履修者も過去何人もいました）、心より歓迎はしますが、それなりの意欲が必要なのは言うまでもありません。既習者は文法の弱点強化として秋期から登録するのも有効でしょう。
授業の進めかたは前期と同じ要領となります。各課ごとの練習問題は宿題制とし（強制ではありませんが、そのほうがより早く上達するでしょう）、教科書とは別に、フランス語の発音やリズムにも親しんでもらうために、毎週シャンソンを聞く予定です。フランス語そのものの上達はもとより、フランス語圏の文化への興味がはぐくまれることを何よりも望みます。 試験は定期試験の予定です。

授業の到達目標
フランス語、もしくはフランス語圏文化への興味を持ち継続して学ぶこと。

成績評価方法
●**試験**　70%　　試験
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　課題の提出や授業における積極性など
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL
試験に関して、秋期は、カリキュラムの都合上、おそらく定期試験期間中におこなう。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語2　B							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
本講座は、フランス語の初歩をいちから学んでみたいと思う学生を対象とするものです。まったくフランス語の予備知識のない人（例えば、第二外国語で別の言語を選択した人）が多いですが、それ以外にも、第二外国語でフランス語を選択したことのある人、高校時代にフランス語を少し習ったけれども忘れてしまった人など、毎年いろいろな人が登録しています。
教科書はなるべく平易で簡潔なものを選んでいます。『エリソン』にはイラストが多く収められており、フランス語圏で見かけるフレーズや身体表現を読み解きながら、文化的な背景について理解を深められるような構成になっています。
音源は出版社のウェブサイトでダウンロードできます。
進行方法ですが、教科書のはじめからゆっくりめにスタートして、なるべく一回で一課ずつ進むことになります。
その他、教科書だけでは足りない場合には、別途、文法問題を配布したり、あるいは授業の内容と関連のある資料（映像や音源など）を見せたりすることもあります。
※秋季からの受講者も歓迎しますが、その場合、教科書は途中からになります。フランス語を半期以上の既修者にかぎります。

授業の到達目標
本講座の最大の目標は、フランス語のごく初歩的な運用能力を得ること、それを通じて、多少なりともフランス語圏の文化に触れることです。

成績評価方法
●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL
授業計画は、進行上大幅に前後する場合があります。あくまで目安と考えてください。

科 目 名	速習フランス語　A　フランス語初級文法を半期（週2回）で学ぶ							
担当者名	松村　悠子							
仏語	4単位	春学期	月5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
半期週2回（計30回）の授業でフランス語の初級文法を一通り学習します。フランス語を一から学びたい人、一からやり直したい人を対象とする講座です。 文法中心、短期集中型の授業であり、短期間で初級文法全般を扱うため、授業の進め方はかなりスピーディーです。また、詳細な文法事項や幅広い語彙の習得より、基礎的な文法事項の習得を優先します。
発音、動詞の活用、基本的な語彙、その他文法事項に関する小テストを度々行います。受講者は予習・復習に力を入れてください。

その上で、文法学習にも役立つような、ちょっとした会話、文化紹介（映画、歌、社会情勢など）なども授業に取り入れていきます。みなさんの要望に従って、内容・方法を決めますので、どうぞ遠慮せずに言ってください。

皆さんの中には、フランス語文法の習得を本格的に目指している人もいれば、フランス語がどんな言語か知りたいだけ、という人もいるでしょう。この授業は、基本的に、様々な学習目的に合わせて構想されています。前者のタイプの人は、授業で扱った事項を踏まえて、より詳細な文法事項を自習すれば、それなりに詳しい文法知識を身に付けることができるでしょう。教科書には授業で扱わない詳細な文法事項も一通り載っています。翌学期には中級のクラスを履修しても、やっていけるくらいのレベルに達することは可能です。後者のタイプの人は、とりあえず授業をがんばって受けてください。

ただし、通常、文法を短期集中的に学習しただけでは、会話能力は身に付きません。その点は理解した上で履修を考えてください。

授業の到達目標

フランス語初級文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業で扱った問題を中心とする筆記試験（29回目か30回目の授業で実施予定）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出席状況、授業態度、小テスト、宿題
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

仏和辞典と教科書を用意して授業に参加してください。
辞書に関しては、主要なものを初回授業で紹介します。
教科書の紹介ページ（朝日出版社HP): https://text.asahipress.com/french/detail.php?id=1211
教科書の音声ダウンロード : http://text.asahipress.com/free/french/Revolutions1/index.html

科目名	速習フランス語　B　フランス語初級文法を半期（週2回）で学ぶ							
担当者名	松村　悠子							
仏語	4単位	秋学期	月5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

半期週2回（計30回）の授業でフランス語の初級文法を一通り学習します。フランス語を一から学びたい人、一からやり直したい人を対象とする講座です。 文法中心、短期集中型の授業であり、短期間で初級文法全般を扱うため、授業の進め方はかなりスピーディーです。また、詳細な文法事項や幅広い語彙の習得より、基礎的な文法事項の習得を優先します。

発音、動詞の活用、基本的な語彙、その他文法事項に関する小テストを度々行います。受講者は予習・復習に力を入れてください。

その上で、文法学習にも役立つような、ちょっとした会話、文化紹介（映画、歌、社会情勢など）なども授業に取り入れていきます。みなさんの要望に従って、内容・方法を決めますので、どうぞ遠慮せずに言ってください。

皆さんの中には、フランス語文法の習得を本格的に目指している人もいれば、フランス語がどんな言語か知りたいだけ、という人もいるでしょう。この授業は、基本的に、様々な学習目的に合わせて構想されています。前者のタイプの人は、授業で扱った事項を踏まえて、より詳細な文法事項を自習すれば、それなりに詳しい文法知識を身に付けることができるでしょう。教科書には授業で扱わない詳細な文法事項も一通り載っています。翌学期には中級のクラスを履修しても、やっていけるくらいのレベルに達することは可能です。後者のタイプの人は、とりあえず授業をがんばって受けてください。

ただし、通常、文法を短期集中的に学習しただけでは、会話能力は身に付きません。その点は理解した上で履修を考えてください。

授業の到達目標

フランス語初級文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業で扱った問題を中心とする筆記試験（29回目か30回目の授業で実施予定）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出席状況、授業態度、小テスト、宿題
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

仏和辞典と教科書を用意して授業に参加してください。
辞書に関しては、主要なものを初回授業で紹介します。
教科書の紹介ページ（朝日出版社HP): https://text.asahipress.com/french/detail.php?id=1211
教科書の音声ダウンロード : http://text.asahipress.com/free/french/Revolutions1/index.html

科目名	フランス語を読む11（文学2）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

当講座は、おもに文学的または美学的な批評文の講読となります。対象はフランス語既習者です

批評文を原文で読むことで、履修者のフランス語の読解力の向上を目指すのはもちろんですが、内容そのものも訳文で読む以上にしっかり根付いて血となり肉となってゆく、そんなスリルも体感してください。

当講座は「フランス語を読む(文学2)」ですが、「フランス語を読む（文学1)」の批評版です。またレベル設定は「上級」となっていますが、フランス語の難解さにおいて上級なのではなく（文学作品には文学作品の難解さがあります)、内容がより固く、論理的という意味において「上級」だと認識して下さい。したがって、「上級」というレベル設定にひるむ必要はありません(じっ

さいに、これまでにフランス語歴1年という受講者もひとりやふたりではありませんし、結果的に向こう見ずな行為だとも思えません。フランス語力というより意欲の問題です)。批評に、またはフランス語そのものに興味のある学生なら誰でも歓迎します。また当講座はオープン科目でもあります。他学部からも臆することなく参加してください。ともに学びましょう。
基本的にテキストはリクエスト制です。したがって、授業計画など存在しません。初回の授業でアンケートをとります。すべてのリクエストにこたえることはできないかもしれませんが、名案を期待します。参考までに、2018年度春期にじっさいに扱われたものを授業計画として提示しておきます。
なお、学期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可で、おおよそ半分は授業で扱ったものから、残りの半分は実力テストという形式です。問題はすべて和訳です。

授業の到達目標

今後の考えるツールのひとつとして原文で読むことでよりしっかりと根付かせること。

成績評価方法

●**試験** 70%　辞書持ち込み可
●**レポート** 0%　特になし
●**平常点** 30%　授業における積極性
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	フランス語を読む12（文学2）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

後期も引き続き、文学的または美学的な批評文を読みます。対象はフランス語既習者です。もちろん、後期(秋期)からの履修でも、まったく問題はありません。

(以下は、春期のシラバスとほぼ同文です。秋期からの履修を考えている学生用に再掲します。)

批評文を原文で読むことで、履修者のフランス語の読解力の向上を目指すのはもちろんですが、内容そのものも訳文で読む以上にしっかり根付いて血となり肉となってゆく、そんなスリルも体感してください。
当講座は「フランス語を読む(文学2)」ですが、「フランス語を読む（文学1)」の批評版です。またレベル設定は「上級」となっていますが、フランス語の難解さにおいて上級なのではなく（文学作品には文学作品の難解さがある)、内容がより固く、論理的という意味において「上級」だと認識して下さい。したがって、「上級」というレベル設定にひるむ必要はありません(じっさいに、これまでにフランス語歴1年という受講者もひとりやふたりではありませんし、結果的に向こう見ずな行為だとも思えません)。批評に、またはフランス語そのものに興味のある学生なら誰でも歓迎します。また当講座はオープン科目でもあります。他学部からも臆することなく参加してください。ともに学びましょう。
基本的にテキストはリクエスト制です。したがって、授業計画など存在しません。初回の授業でアンケートをとります。すべての案にこたえることはできないかもしれませんが、名案を期待します。参考までに、2018年度秋期にじっさいに扱われたものを授業計画として提示しておきます。
なお、学期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可で、おおよそ半分は授業で扱ったものから、残りの半分は実力テストという形式です。問題はすべて和訳です。

授業の到達目標

今後の考えるツールのひとつとして原文で読むことでよりしっかりと根付かせること。

成績評価方法

●**試験** 70%　辞書持ち込み可
●**レポート** 0%　特になし
●**平常点** 30%　授業における積極性など
●**その他** 0%　特になし

科 目 名	フランス文化を知る11（ファッション・料理） フランス文化。ファッションと料理							
担当者名	C. ヴァリエーヌ							
仏語	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話が持っている基本的な単語を学習します.

授業の到達目標

ファッションと料理の語彙や表現を発見. 学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

成績評価方法

40% クラスで研究テーマに会話を
60% 参加、質問をします

科 目 名	フランス文化を知る12（ファッション・料理） フランス文化。ファッションと料理							
担当者名	C. ヴァリエーヌ							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話が持ってい

る基本的な単語を学習します.

授業の到達目標

ファッションと料理の語彙や表現を発見. 学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

成績評価方法

40% クラスで研究テーマに会話を
60% 参加、質問をします

科 目 名	フランス語で表現する11（メディア・コミュニケーション） フランス語によるメディア・コミュニケーションで世界に飛び出そう！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

デジタルなメディアの誕生により、フランス語圏の人々とコミュニケーションすることはより容易となっています。この講義ではインターネット関連のさまざまな可能性（電子メール、ブログ、フェイスブックなど）に関するスキルを身につけ、フランス語による発信を試みます。フランス語の運用能力をみがくため、あるいはフランス文化を理解するために有益なサイトをめぐり、学習意欲を高めます。立体的なアプローチによって新しいフランス語の学習へと挑戦しましょう。

授業の到達目標

デジタルなメディアを通じてフランス語によるコミュニケーションをはかる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で取り組んだテキスト理解等の作業を評価します。
●**その他**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。

備考・関連URL

授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語で表現する12（メディア・コミュニケーション） フランス語によるメディア・コミュニケーションで世界に飛び出そう！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

デジタルなメディアの誕生により、フランス語圏の人々とコミュニケーションすることはより容易となっています。この講義ではインターネット関連のさまざまな可能性（電子メール、ブログ、フェイスブックなど）に関するスキルを身につけ、フランス語による発信を試みます。フランス語の運用能力をみがくため、あるいはフランス文化を理解するために有益なサイトをめぐり、学習意欲を高めます。立体的なアプローチによって新しいフランス語の学習へと挑戦しましょう。

授業の到達目標

デジタルなメディアを通じてフランス語によるコミュニケーションをはかる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で取り組んだテキスト理解等の作業を評価します。
●**その他**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。

備考・関連URL

授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語力を強化する2（文法）							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語力を強化するため、フランスで子どもから大人まで人気のある『プチ・ニコラ』の物語を読みながら、文法や語彙を身につけていきます。比較的やさしく愉しい読み物です。初級文法をひととおり勉強したあとに読むと、とてもいい勉強になります。「フランス語力を強化する4」とは異なる内容になるので、「4」を受講予定の学生も歓迎します。

授業の到達目標

文法の土台を確かなものにする。また、文章の構文を把握する能力も身につけます。

成績評価方法

●**試験**　90%　　2回の確認テストをおこないます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　出席や授業内での訳、小テストを考慮します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ドイツ語で表現する11（上級の会話・作文） Sprech- und Schreibkurs							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Die Studenten üben das Bewältigen alltäglicher Situationen auf höherem Niveau. Es werden die Grundfertigkeiten Sprechen, Hören, Lesen, Schreiben gleichermaßen geübt.

授業の到達目標

Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten（und ohne elektronische Wörterbücher）möglichst frei sprechen. Durch ergänzende Übungen erweitern die Studierenden ihren Wortschatz und erlernen die Routinen der Alltagskommunikation.

成績評価方法

●**試験**　40%　　Ergebnis der Prüfung am Ende des Semesters
●**レポート**　0%　　no
●**平常点**　60%　　Häufigkeit der Teilnahme（30%）, aktive Teilnahme（30%）
●**その他**　0%　　no

科 目 名	ドイツ語で表現する12（上級の会話・作文） Das 20. Jahrhundert in Bilder – Deutsche Geschichte							
担当者名	ペーカー　トーマス							
独語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

"Ein Bild besagt mehr als 1000 Wort" ist ein Sprichwort und besagt, dass komplizierte Dinge sich mit Bildern einfacher als mit Worten erklären lassen. Deshalb soll in der Veranstaltung das 20. Jahrhundert（mit dem Schwerpunkt auf der Geschichte und Kultur Deutschlands）in Bildern thematisiert werden, d.h., dass Bilder, zumeist aus Massenmedien, wie Zeitungen und Zeitschriften, im Mittelpunkt stehen, die in historische und kulturelle Kontexte eingerückt werden. Einige grundsätzliche Überlegungen zur 'Bildwissenschaft'/Visuellen Kultur sollen die Veranstaltung abrunden.

授業の到達目標

Die Studierenden lernen die Geschichte und Kultur Deutschlands im Überblick kennen. Weiter erhalten sie ein Bewusstsein über die Bedeutung und Relevanz verschiedener Medien（insbesondere Bildmedien）und der Bildwissenschaft vermittelt.

成績評価方法

Teilnahmevoraussetzungen sind: Bereitschaft zur Übernahme eines mündlichen Referats, die regelmäßige Anwesenheit und die Teilnahme an der Seminar-Diskussion. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Komponenten zusammen.

科 目 名	速習ドイツ語1							
担当者名	片山　由有子							
独語	2単位	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講座は、初めてドイツ語を学ぶ学生、あるいはもう一度基礎からやり直したい学生を対象にしたものです。基本的な文法の習得を目指します。半期15回と少ない授業回数で初級文法をすべて学ぶため、授業のスピードは速めです。文法事項をひとつひとつ確実に身につけ、ドイツ語圏の文化や歴史に興味のある学生、ドイツ語の原書を読む必要のある学生、すでに他の第二外国語をある程度習得した上でドイツ語にも興味のある学生がより広い世界に手を伸ばしていけるよう、授業を進めます。

授業の到達目標

ドイツ語文法の基礎を身につける

成績評価方法

●**試験**　70%　　15回目の授業で試験を行います
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席点15%, 課題15%
●**その他**　0%

科 目 名	速習ドイツ語2 アルファベットから接続法へ							
担当者名	柳橋　大輔							
独語	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドイツ語を初めて学ぶ学生、とりわけ第二外国語としてドイツ語以外の外国語を選択した学生を主な対象とし、ドイツ語初級文法の重要事項を一学期という短期間のうちにひととおり学習することを目的とする速習講座です。

授業の到達目標

ドイツ語を運用するための基礎となる知識を習得すること。なお、効率的な学習のためには、たとえばドイツ語技能検定（独検）など、自分なりの具体的な目標を設定することも有効です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　受験しない場合には単位の認定はできません。
●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　50%　　授業への積極的な参加（予習・ペアワークなど）。
●**その他**　0%　　なお、授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件です。

備考・関連URL

・いわゆる「反転授業」という性格上、受講生のみなさんが積極的に授業に参加することが授業運営の大前提となります。まず、事前にしっかりと予習をしてきてください。

・文法の知識を定着させるのに最適なのは文法問題を解くこと（トライアル・アンド・エラー）ですが、教科書の練習問題の数には限りがあります。必要があれば追加練習問題などを用いてさらに解説を加えることにより、速習によって生じかねない説明の手薄な部分をできるかぎりカバーします。

・現在のところ、学期末試験は第14回授業の際に行なうことにしています。最後の第15回で答案を返却しながら授業内容を復習することにより、試験をゴールとせず、さらなるドイツ語学習への土台作りに生かすためです。とはいえ、そのためだけ（?）に大学へ来ることに意味を見出しにくい人もいるかもしれません。そのため、この点は受講生のみなさんの要望に合わせることにします。

ドイツ語技能検定試験（独検）ウェブサイト
http://www.dokken.or.jp/

科 目 名	ドイツ語を読む1（文学）　簡単なドイツ語のテキストを読みながら、ドイツ語に親しむ							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1―5頁の短いテキストを通して、ドイツ語圏の20世紀後半の幾人かの代表的な作家の短編や随筆などを紹介します。

第2次大戦の終戦から1970年代までに刊行されたものを読む予定です。短編の中では、その時代を反映するテーマが扱われています。

授業中そのテキストを一緒に解読します。1回で読む量は1-2頁くらいです。テキストの種類は文学、随筆などです。

語彙と文法の説明は日本語で行います。

授業の到達目標

この講座の目標はドイツ語の読解力を向上させ、受講者が辞書を使いながら、独りでも簡単な文学系のテキストが読めるようになることです。

授業中、語彙と文法を細かく説明しますので、ドイツ語の文法の復習にも役立ちます。

成績評価方法

平常点　50%
和訳の課題　50%

備考・関連URL

語彙と文法の説明は日本語で行います。

科 目 名	ドイツ語を読む2（文学）							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

文学作品を味読しながらドイツ語の読解力の向上を目指す授業です。

今期は短編小説の中でも特に短いもの（長くても4ページ程度、短いものは1ページで終わる「掌編」）を教材にします。19世紀から現代に至るまでの作家の小品から、趣向も文体も異なる何篇かを選んで読みます。Bertolt Brecht（1898-1956）のような有名作家の他、日本ではあまり馴染みのない作家の「名品」も取り上げたいと思っています。必要に応じて文法の復習もまじえながら、丁寧に読み進めていきます。

授業の到達目標

辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読める力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に独文和訳を中心とした筆記試験を実施します（辞書使用可）。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　随時教室で指名し、きちんと授業準備ができているかどうかを確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む3（思想）　様々なドイツ語テキストを読んでみる							
担当者名	高橋　透							
独語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

受講生の希望があれば、基本的にそれに応じます。受講生の趣味関心も多様なので、多様性に対応するつもりでいます。

とはいえ、希望がとくにないという場合もあるので、現在以下を候補として考えています。詳細は初回に決めましょう。様々のテキストを部分的扱うので構いません。

（「ドイツ語を読む3（思想）」となってますが、「思想」を広く取り、何かを考えさせるという意味に解して下記テキストを選んでいます。）

なお、テキストはプリント配布します。

＋ドイツ語圏の精神分析医たちによって書かれた、ハリウッド映画（おもに）の心理分析。（2016年には、『マトリクス』と『アバター』を授業で扱いました。部分的に当該映画を鑑賞しながら進めます。ドイツ語学習歴1年でついて来られます。）
＋グリム童話を読む　＋宮崎駿『風の谷のナウシカ』（漫画版・ドイツ語訳）を読む
＋ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』（翻訳あり。ガチで思想。）

＋ドイツ・ラジオ放送局による外国人ドイツ語初級学習者向けのニュース・テキスト。（これも考えさせるニュースが多い。語彙集が付いています。）

＊必要であれば、初等文法から説明しますので、安心して受講してください。

授業の到達目標
思想にかかわるドイツ語読解力を身につける

成績評価方法
●**試験**　50%　　最終日に簡単なテストをおこないます
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　平常点を見ます
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語を読む4（思想）　ドイツの全体像を知る―生活、社会、文化―							
担当者名	前川　一貴							
独語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要
この授業では、ドイツの一般常識を学びつつ、基礎的な文法事項を固めて、語彙力を増やしていきます。取り扱われるテーマは、授業計画にある通り、多岐に渡っていて、専門分野に偏ることなく、幅広い知識が身に付きます。基本的には、読解が中心にはなりますが、日本について尋ねられたときに、ドイツ語で答えられるように、会話や独作文の練習も、適宜、取り入れていく予定です。このような練習を通じて、ドイツと日本を比較して、双方の生活スタイル、社会制度、文化様式について、理解を深めていきます。

授業の到達目標
・やや長めの文章を理解し、内容に関する質問に答えられる。
・日独の具体的・抽象的なテーマについて、簡単に会話したり、短い文章を書いたりすることができる。

成績評価方法
●**試験**　50%　　教場試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席：15%、単語リストの作成：5%、独作文などの宿題：30%
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
・単位を取得するには、合計で3分の2以上の出席が必要です。

科 目 名	ドイツ語を読む5（ナチ＝ドイツと言語）　ナチ＝ドイツと言語							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要
独裁的な政権が国民をコントロールしようとするとき効力を発揮するのは、物理的・身体的脅迫もさることながら、言葉の力です。言葉を通じて人々を煽り、「民族」としての一体感を演出し、単純な二者択一を迫って合理的判断力を奪い、特定のイデオロギーを個々人の内面にまで浸透させていく。そのような戦略は残念ながらいまなお「有効」なのかもしれません。だからこそ、おぞましい結果を招いた過去を検証することが、我々の変わらぬ課題としてあるのだとも言えます。
この授業では、ナチ統治下のドイツの人々を「魅了」してしまった様々な「言葉」も教材とします。たとえば、ナチ党大会を記録したリーフェンシュタール監督の映画『意志の勝利』の中でのヒトラーの演説などを取り上げます。一方でナチ政権に対する人々の距離感をうかがわせるようなジョークにも目を向けます。そのうえで、ナチ時代に独特の意味を付与されてしまった語彙を現代人がどう扱うべきかを論じた文章も読みたいと思っています。それらのテクストを訳読し、批判的な目で検証しながら、基本文法を学び終えた受講生を対象にドイツ語の読解力をさらに高めていこうというわけです。あくまで「ドイツ語の読解力」向上を第一目標とする授業ではありますが、プロパガンダに惑わされない、広い意味での「読む力」を養う一助になればと願います。

授業の到達目標
辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読解する能力を身につける。

成績評価方法
●**試験**　60%　　学期末に独文和訳を中心とした筆記試験を実施します（辞書持ち込み可）。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業中、随時指名して授業準備をきちんとしてあるか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む6（童話） ドイツ語で子ども向けのストーリーを読む							
担当者名	松永　美穂							
独語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、初級文法の知識がある人を対象に、文法の復習を行いながら、ドイツ語圏の8〜10歳くらいの子を対象に書かれたストーリーを読んでいきます。

授業の到達目標

中級程度のドイツ語を楽に読みこなせるようになること。語彙を増やし、ドイツ語の構文を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最後の授業のときに教場試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは必要ありません。
●**平常点**　50%　　普段の授業では、一人一人に当ててテクストの翻訳をしてもらいます。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ語を読む7（大学院受験のためのドイツ語） 柔軟性のあるドイツ語脳を作ろう							
担当者名	山本　浩司							
独語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスは学部最高レベルの講読の授業として設計されています。「大学院受験のため」と副題にありますが、受験一辺倒の練習ばかりではなく、高度なドイツ語の読解力を身につけることも目的にします。原則として国内主要大学院の入試に出されてきたさまざまなドイツ語テキストと同等以上のレベルのテキストを一回読み切りの形で取り上げます。人文科学分野の様々な研究領域から選ばれたテキストを手当たり次第に読み、語彙力の偏りを是正して柔軟性のあるドイツ語脳を養います。

授業の到達目標

大学院入学試験におけるドイツ語問題を難なく読めるようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　理解度の確認テストの結果
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　出席と参加度
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む8（大学院受験のためのドイツ語） ドイツ語をじっくり読む							
担当者名	柳　勝己							
独語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドイツ語で大学院を受験するために必要な読解力を養います。ドイツ語圏の作家、芸術家たちの書いた短編、エッセイなどを読みます。既に中級科目を受講し上級を目指そうという人、しばらくドイツ語から離れていた人、初級で学んだことを活かしたいと思う人。ドイツ語を読みたい人ならば専攻にかかわらずどなたでも歓迎します。本文にはなるべく注を付けますので、文法的な側面の心配は要らないと思います。一方で内容が難しい箇所はみんなで解釈を試みましょう。

授業の到達目標

腰を落ち着けてドイツ語テキストに接することで文章の構造を理解し、ドイツ語による大学院受験、ひいては大学院においてドイツ語文献の読解が出来るようになることを目標にします。

成績評価方法

試験は行いません。毎回の授業で担当する訳文の質および量により評価します。出席は授業回数の三分の二以上必要ですが、出席点はありません。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る1（都市を巡る） 歴史ある観光都市を巡る							
担当者名	江口　陽子							
独語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ローテンブルク、シュヴァンガウ、チューリヒ、ドレスデン、ブレーメンといったドイツ語圏における主要な観光都市を取り上げます。それぞれの歴史や文化、名所旧跡などについて書かれた文章を、時には映像資料も活用しながら読んでいきます。

周囲を城壁に囲まれた「中世の宝石」と呼ばれるローテンブルクは、「マイスタートゥルンク」の祝祭劇で有名です。ローテンブルクからさらにロマンチック街道を南下し、シュヴァンガウにあるルートヴィヒ2世が造らせた豪華な城、ノイシュヴァンシュタインにも足を伸ばします。チューリヒは、スイス最大の経済・金融都市ですが、宗教改革者ツヴィングリが牧師を務めた教会や、チューリヒ美術館など、重要な文化遺産を擁する都市でもあります。ドレスデンは、バロック様式の建築物で名高いエルベ川沿いの美しい街で、エルベのフィレンツェとも称されています。ハンザ同盟の都市ブレーメンは、古くからの貿易と港の街であり、グリム童話ゆかりの都市をめぐるメルヘン街道の終着点でもあります。街の中心地の建造物が世界遺産となっています。

これらの都市に関する様々な文を読むことを通して、ドイツ語圏の文化により一層接近してみましょう。 教材にはなるべく読みやすいやすいものを用い、文法的な解説や復習は随時行います。

授業の到達目標

・インターネットや新聞・雑誌の記事のような、標準的なレベルのドイツ語で書かれた文章を辞書を使用しながら自力で読解できる力を養うこと。

・都市の歴史や特徴について知識を得ることにより、ドイツ語圏の文化への関心を深める。

成績評価方法

試験50%：15回目の授業で筆記試験を行う（辞書を使用し初見のテクストを読解）。
平常点50%：予習の実行度・授業に取り組む姿勢（小テストや課題提出を課すこともある：平常点のうち20%程度）。
その他：授業回数の3分の2以上の出席を評価の前提とする。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る2（都市を巡る） 旅先にある、いつものごはん							
担当者名	荒井　泰							
独語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

文学を読まなくても、絵画を鑑賞しなくても、映画をみなくても、音楽を聴かなくても、寝ているだけでも、毎日おなかは空くものです。

この授業では、旅をするようにドイツ各地を回りながら、ガイド本に載っているような旅行客向けのレストラン情報を横目に、地元料理や現地のひとたちの通うレストランに関するオンライン記事を読んでみようとおもいます。

ドイツは、北部は海に接し、南部は山地でオーストリアやスイスと接しています。それだけ見ても、ドイツといっても食文化はひとつではなく、それぞれの場所によって採れる食材や料理もさまざまだとわかります。わたしたちの文化の根底には、その土地土地の風土があります。その風土にあった食材があり、それらをおいしく食べる調理法が、それぞれの土地で伝えられてきました。こう考えると、食文化に触れることがその土地を知るための、もっとも確実な手段なのではないでしょうか。なによりも、おいしいものを食べるとしあわせになります。

※ドイツ語の初級文法をひととおり学んだ人を対象にしていますが、あまり自信がない……という場合でもご心配なく。文法事項は確認しながら進めていきます。
※訪れる地域は変更になる可能性があります。

授業の到達目標

料理をとおして、ドイツ各地の風土、文化についての理解を得ること。
ドイツ語圏を訪れた際に、ドイツ語の情報を頼りにレストランが探せるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業最終回に理解度の確認を実施。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席と授業への参加度。
●**その他**　0%

選択外国語

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る3（芸術） トーマス・マン『ヴェニスに死す』を読む							
担当者名	村井　翔							
独語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

トーマス・マンの著作は手紙などを除いて、ほぼ残らず邦訳されていますが、著者自身の思考を追いながら、副文また副文の難しいドイツ語を、まるでクロスワード・パズルを解くように、解きほぐして読んでゆくのは、邦訳では味わえない楽しみです。ヴェニスを訪れた初老の作家が美少年に夢中になるが、彼に自分の気持ちを伝えることもできぬうちにコレラで死んでしまうという『ヴェニスに死す』（1911）。かつては「芸術家と市民」など、トーマス・マンおなじみのメインテーマを反映してはいるものの、彼の作品系列の中ではやや耽美主義に傾いた傍流の小説と見られていました。しかし、公開を禁じられていた作家自身の日記が死後20年の1975年に解禁され、彼がどちらかと言えば同性愛寄りのバイセクシュアルであることが判明して、逆に「ストレートど真ん中」の、ある意味では自伝的ですらある作品だということが明らかになりました。無理をすれば実質13回の授業で読みきれないこともない分量の中編小説なのですが、トーマス・マンの文体そのものが難しいですから、無理を避け、かなり原作をカットして注つきの授業用テキストを自作しました。実際に読むのは原作小説の4割ほどの分量です。

また、この作品は名作の誉れ高いルキノ・ヴィスコンティ監督の映画（1971）、ベンジャミン・ブリテン作曲のオペラ（1973）、ジョン・ノイマイヤー振り付けのバレエ（2003）など、繰り返し舞台化、映像化されていますので、それらも授業中にご紹介しましょう。

授業の到達目標

副文を多用した入り組んだ構造を持ち、同じ対象を絶えず言い換えてゆくことを好むため、語彙もまたきわめて豊富なトーマス・マンのドイツ語の難しさは第一級品、はっきり言って大学院レベルです（この授業は大学院共通科目でもあります）。テキストには語学的な注も豊富に付けていますので、初級文法修了直後の人も、翻訳の助けを借りれば何とか食いつけるとは思いますが、本音を言えば、ドイツ語学習三年目以降の人にお薦めします。

成績評価方法

●**試験**　43%　　最終回の授業（7月22日）が試験。オール持込み可で『ヴェニスに死す』について書かれた別の独文（小説本文ではなく、小説よりはずっと平易なドイツ語です）を訳していただくという試験です。100点満点。
●**レポート**　0%
●**平常点**　57%　　第2回から第14回の授業まで、独文和訳を行った人に1授業につき10点ずつの出席点を差し上げます。全部出席すると130点。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る4（芸術） ドイツ語の映画を通してドイツの文学作品を味わう。							
担当者名	大宮　洋子							
独語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

昨年と精読する作品は変わりますが引き続き、プロイスラーの『小さい魔女』、ゲーテの『ファウスト』、ケストナーの『二人のロッテ』などの作品から教科書数ページ分程度の文章を抜粋して、文法事項を復習しながら精読し、その作品にまつわる映画や映像を鑑賞しつつ、その作品の全体像や時代背景などを概観するとともに、ドイツ語の映画を通してリスニングの力を高めます。さらに映画や作品についての話し合いによっても解釈の幅を広げてゆきたいと思います。

授業の到達目標

既習のドイツ文法を復習しながらドイツ語の文学作品を精読する力をつけ、ドイツ語の映画や映像を通して、ドイツの文化や芸術についての知識を深めつつ、ヒアリング力も高めてゆくことが目標となります。

成績評価方法

●**試験**　80%　　教場テストで、授業中に精読したドイツ語の文章を和訳して、その作品についての短文を書いていただきますので、その点数で評価を出します。

●**レポート**　0%　　特になし。

●**平常点**　20%　　授業中に精読するドイツ語作品の抜粋箇所から担当を決めますので、担当箇所の訳文の発表も点数に加算します。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る5（芸術） ベルリンの壁に関する映像や文献をもとに第二次大戦後から統一ドイツまでの出来事を生活、文化の面から考察することによってドイツ語の読解と聞き取りの訓練をする。							
担当者名	大宮　洋子							
独語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ベルリンに関する記録映像や映画を鑑賞しながら、第二次大戦後のドイツを生活文化の面から具体的に捉えてゆきます。はじめに初級文法終了程度のやさしいドイツ語で書かれたベルリンの歴史を読んでドイツ語の用語に慣れ、そのあとで戦後のベルリンとの再会についてエーリヒ・ケストナーが書いた新聞記事などを読み、その朗読を聞いて、リスニングの練習もできるようにします。それから映画「グッバイ　レーニン」の内容をドイツ語で読みながら、当時の東ドイツ特有の用語をまとめて学ぶことにより、言葉から当時の生活や社会の事情についての知識を獲得します。最終的には映画「グッバイ　レーニン」や「善き人のためのソナタ」、ベルリンの壁を中心とした東西ドイツの記録映像を見ながら、映像を解説するドイツ語を聞けるようになり、映像から具体的に詳細に当時の様子を知ることができるようになることを目指します。

授業の到達目標

初級文法終了程度のドイツ語で戦後のベルリンの歴史を読み、ドイツ語の用語に慣れてゆきます。次にエーリヒ・ケストナーやベルリンの壁に関する解説の文章を読みながら、段階的にテキストのドイツ語レベルをあげてゆき、映画『グッバイ　レーニン』や記録映像のドイツ語を聞き取れるようになり、その内容を理解できるようになることが目標です。

様々な映像や資料から、ベルリンの壁が築かれるまでの段階、東西に分かれたドイツにおける人々の生活の様子、そして壁が崩壊してゆく過程や、その後の統一ドイツの問題点などを具体的に知ることもできると思います。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業中に読んだテキストを和訳する問題を出します。概略ではなく、できるだけ原文に沿って正確に読めるようにすることが目標なので、文章の内容を正確に理解し、和訳できているかどうかチェックします。

●**レポート**　0%　　特になし。

●**平常点**　20%　　授業中に、印刷したテキストを担当者を決めて和訳し、発表してもらうので、その和訳と発表について20%テストの成績に加算します。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る6（芸術） 様々なドイツ語テキストを読んでみる							
担当者名	高橋　透							
独語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

受講生の希望があれば、基本的にそれに応じます。受講生の趣味関心も多様なので、多様性に対応するつもりでいます。

とはいえ、希望がとくにないという場合もあるので、現在以下を候補として考えています。詳細は初回に決めましょう。様々のテキストを部分的扱うので構いません。

「ドイツ語圏文化を知る6（芸術）」となっていますが、「芸術」は幅広く捉えてください。

なお、テキストはプリント配布します。

（ただし、2017年春期「ドイツ語を読む3（思想）」で扱ったものと同じテキストは扱いません。）

＋ドイツ語圏の精神分析医たちによって書かれた、ハリウッド映画（おもに）の心理分析。（2016年には、『マトリクス』と『アバター』を授業で扱いました。部分的に当該映画を鑑賞しながら進めます。映画は当然ながら芸術。ドイツ語学習歴1年でついて来られます。

＋グリム童話を読む

＋宮崎駿『風の谷のナウシカ』マンガ版のドイツ語訳を読む。マンガも芸術。

＋ドイツ語圏ミステリー小説を読む（具体的には、推理小説家として高名なFr.デュレンマットの『約束』。邦訳あり。小説を題材にした映画もあるのでそれを鑑賞しながら。文学も芸術の一種）

＋ドイツ・ラジオ放送局による外国人ドイツ語初級学習者向けのニュース・テキスト。（芸術関連のニュースもあり。語彙集が付いています。）

＊必要であれば、初等文法から説明しますので、安心して受講してください。

授業の到達目標

中級レベルのドイツ語読解力を身につける

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終日に簡単なテストをおこないます
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　平常点を見ます
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る7（芸術）　あの街の美術館、この街のアーティスト							
担当者名	荒井　泰							
独語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ルーブル美術館に「モナリザ」があるみたいにたいがいどのミュージアムにも常設展が設けられ、目玉となる作品がおいてあるはずです。この授業では、ドイツ各地のさまざまなミュージアムに展示されているわりかし有名な作品（もちろんドイツ語圏出身アーティストの絵画・彫刻・ビデオアートなど）や、その土地にゆかりのあるアーティストについてのテクストを読みます。専用サイトの解説だったり、展示を紹介する雑誌・新聞記事だったり。「ミュージアム」といっても、芸術作品はなにも「○○○美術館」に飾られているだけはありません。たとえば、ケルン大聖堂では、第二次世界大戦後の修復にあたり、世界的なドイツ人アーティスト、ゲルハルト・リヒターのデザインをステンドグラスに採用しました。またカッセルという都市では、オリンピックみたいに（とはいっても5年に一度ですが）「ドクメンタ」という芸術祭が行われています。（一番最近では、一昨年2017年に開催されており、次を待ってると3年後になってしまうので、この授業では、このイベントがどんなものなのか、どんな作品が展示されてきたのか、一昨年はどんなものだったのか、そんな感じのテクストを読んでみるつもりです。）

さまざまなテクストを読むことによってそれぞれの芸術作品の意義や文化的背景を理解してもらいたいのはもちろんですが、なによりも、なんとなくその場に行った気になってもらえたらいいなと思っています。

※ドイツ語の初級文法をひととおり学んだ人を対象にしていますが、あまり自信がない……という場合でもご心配なく。文法事項は確認しながら進めていきます。

※訪れるミュージアムは変更になる可能性があります。

授業の到達目標

さまざまなドイツ語圏アーティストの芸術作品に親しむこと。ドイツ語圏のミュージアムを訪れたとき、ドイツ語の作品解説をなんとなく理解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業最終回で理解度の確認をする試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席と授業への参加度。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る8（芸術）　ポピュラー音楽から読む現代ドイツ							
担当者名	伊藤　壮							
独語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

これまで英語を学ぶ際に、英米のポップスやロックなどの歌詞を聞き、読み、または口ずさむことが大きな上達の鍵になったという経験を持つ人は少なくないでしょう。ならばドイツ語においてもこの手が使えないわけはありません。そしてクラシックばかりがドイツ音楽ではありません。ドイツ語圏にはポピュラー音楽にも多様でクオリティの高い豊かな蓄積があります。

ここでポピュラー音楽を通じてドイツ語の学習を深めていこうとするのであれば、また民族問題や社会格差などのように時には我々とも共通する多くの問題を抱えた現在のドイツ社会を直感的に読み解いていくための絶好の機会ともなります。

本講は限られた時間の中でドイツ語圏のポピュラー音楽を主にその歌詞をテキストとして熟読することによって、また世界史のうちにその全体像を把握しようとするものですが、ともあれそれぞれの好きな作品やジャンルを中心として、時には自分で歌いながらこれらの音楽に慣れ親しんでいくことをお勧めしたいと思います。本講終了時までに実演もできるようになればなお一層素晴らしいでしょう。

本講は初級ドイツ語の学習を終えた人が対象となりますが、特にこの分野への強い興味と熱意とがあれば初学者も歓迎します。

授業の到達目標

他の読解のクラスと同様に、まず文法を踏まえた正確な読みができるようになることが最重要であることはもちろんのことですが、しっかり構文をとらえたうえで例えば接続法の用法などからテクストの含意を精読するということは、歌を単に音楽として聴くこととは全く異なる新鮮な体験となるでしょう。また韻律の分析にも踏み入ることにより文学と音楽の橋渡しをすることにもなります。また本講ならではのもう一つの課題は《口語表現に慣れる》ということです。純度の高い音声言語としての歌詞は時には難渋な書物よりも取りつきにくいかもしれませんが、これに習熟していくうちにいずれ例えばインターネットの書き込みを読んだりそれに応えたりする際などにも思いのほか役立つことになるでしょう。ともあれ英米を中心とする世界の主流派の音楽とはいくぶん異なる音楽文化に触れることによって、改めてドイツ語圏の文化・社会・歴史を知ることも本講座の重要な目

的のひとつです。

成績評価方法

●**試験**　55%　　最終週に教場試験（辞書・文法書持ち込み可の歌詞読解）を行います
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　45%　　出席率と熱意
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る9（現代文明）　時事ドイツ語から読み解くドイツ社会の姿							
担当者名	柳　勝己							
独語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級ドイツ語修了者を対象に、ニュース記事を出発点にドイツ語文化圏、主にドイツ社会の姿を読み解きます。聞き取りの練習にもなるDeutsche Welle配信のニュースLangsam gesprochene Nachrichtenを手始めに、同じくDeutsche Welleの主要ニュースを簡潔にまとめたTop-Thema mit Vokabeln、映像付きのVideo-Thema、更にはweb上で読める新聞・雑誌の記事などを読みます。シラバスでは仮に「ポピュリズム」と「ドイツから見た世界」をテーマに挙げましたが、受講生には記事やテーマの選択にも関わってもらいます。取り上げた記事内容や報道に対する意見・感想も毎回書いて下さい。

授業の到達目標

「1年ドイツ語」に合格した学生が、習得した文法の知識を実際の読解に生かせるようになることを目標とします。具体的には独和辞典を引き、単語の意味だけでなく句や文の構造を把握し、文章を理解出来るようになることが目標になります。地味な作業ですが、辞書を繰り返し引かないと語彙は増えません。文の構造は一筋縄ではいきませんが、難しい箇所には注を付けるので心配はいりません。積み重ねによって次第に自力で文章を読めるようになるでしょう。

成績評価方法

試験は行いません。毎回の授業で担当する訳文の質および量により評価します。出席は授業回数の三分の二以上必要ですが、出席点はありません。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る10（現代文明）							
担当者名	片山　由有子							
独語	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講座は初級文法を身につけた方を対象としたものです。現代ドイツの社会・経済・政治に関わるテクストを扱いつつ、さらなる語学力の向上を目指します。テーマへの足がかりとして、朝日出版社『Neuigkeiten aus Deutschland（時事ドイツ語2019年度版）』を用います。これは、現代ドイツに関する15のテクストがおさめられている教科書で、読みやすいドイツ語で書かれている上に脚注も充実しています。授業計画にはテーマの例を記載していますが、受講生の希望や読解力に応じて、これら以外のテーマのテクストを読んでいくことも可能です。

授業の到達目標

中級レベルのドイツ語読解力を身につけます。

成績評価方法

●**試験**　70%　　15回目の授業で試験を行います
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席点15%, 授業参加15%
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語で表現する1（初歩の会話）							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、「ドイツ語で話す」「ドイツ語を聞きとる」ための力をのばすことに重点を置きます。教科書に沿って日常的に用いる表現を学び、ペアワークやグループワークを交えながら、会話と聞き取りの練習を重ねていきます。文法の解説も、適宜行います。

授業の到達目標

日常生活での基本的な表現を理解し、自分のことばで簡単な文を組み立てられる力を身につけることが目標です。ゼロからのスタートとなりますので、ドイツ語の基礎知識は必要ありません。

全12課からなるドイツ語テキストを用いて授業を進めていきます。授業の進捗状況により、スケジュール等は適宜変更されることがあります。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終授業日に試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席・授業への参加、宿題
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語で表現する2（初歩の会話）「ドイツ語で聞き取り、話す」							
担当者名	木戸　芳子							
独語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

一「ドイツ語で聞き取り、話す」ための力を養うことに重点をおきます。一教科書に沿いながら日常使用する表現を学習し、会話を聞き取る練習を積みます。

一ペアーおよびグループワークをしながら学習内容を確認します。

一教科書に従い、文法事項も適宜説明します。

授業の到達目標

日常生活で使用する基本的な表現を理解し、簡単な文を組み立てる基礎力をつけることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　既習表現、語彙に関する筆記考査および聞き取り考査により，達成度確認をします。
●**レポート**　0%　　ありません。
●**平常点**　50%　　出席と授業への参加（宿題を含む）の度合いを評価します。
●**その他**　0%　　ありません。

科 目 名	ドイツ語で表現する3（初歩の作文）　ドイツ語を書いてみよう！							
担当者名	泉　ボグミワ							
独語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では教科書に従って、ドイツ語の基本的な表現を段階的に学ぶと同時に基本的な文法事項と語彙を習得し、ドイツ語の文章を書く練習をします。適宜、教科書以外の資料も用います。また言語の学習には、その言語を用いる文化を知ることが重要ですので、音声・映像の資料も用いてドイツ語圏の文化を学びます。

授業の到達目標

この授業の目標は、ドイツ語の基礎的な作文の能力を養うことです。ドイツ語の基本文法と語彙を習得し、それらを応用して日常生活のさまざまな事柄についての文章を書く能力を身に着けます。

成績評価方法

●**試験**　70%　　中間・期末試験の点数が最低限60点であること。 ただし、平常点が低い場合（出席日数が足りない場合等）は、原則として不合格とする
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　平常点（出席数、遅刻・早退数、授業態度等）を平常点とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語で表現する4（初歩の作文）　ドイツ語を書いてみよう！							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ごく初歩的な文法を終えた学生を対象にしたドイツ語作文の授業です。「ドイツ語の文を作るためには何がわかっていなければならないか」をやさしく解説します。まず講師がポイントを解説し、次に文法表を説明します。そのあと学生が練習問題としてドイツ語作文をします。その際ドイツ語の単語は添え書きされているので、文を作ることに専念できます。その後「自己紹介」などの発信型のテーマ別に、ドイツ語作文をして、語彙と表現を強化します。

作文のために授業中に時間を少々とりますが、予習で作文をしてくることを推薦します。授業中では作文してみて、不確かな点、理解できなかった点について、どしどし質問してください。

授業の到達目標

「名詞の格変化」「現在完了形」などの形を練習することが目的ではなく、「ドイツ語には主語が必要である」「定冠詞は特定できるものにつける」など、正しいドイツ語の文を作るために必要な「文法知識」をとらえなおし、練習問題を通して習得することが目的です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末テストで、授業で扱った文について試験をします。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席を重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語で表現する5（中級の会話・作文）　ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	2単位	春学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業ではドイツ語圏の文化を紹介する短いテキストを読み、そのテキストを口頭と作文で纏める練習します。

同時に1年生の時に習ったものの、まださほど定着していない文法、例えば副文の接続詞、zu不定句、接続法なども練習問題で復習します。

話す、書く練習以外に聴き取りの練習も頻繁に行います。

教材としてはドイツ語圏についての知識を広げる面白いテキストを選びます。

次のテーマを授業で扱います：
1.ドイツ人との付き合い（招待された時のやり取り、礼儀、プレゼントなど）
2.グリム童話(Die Märchen der Gebrüder Grimm)
3.オーストリア＝ハンガリー帝国の皇后。「シシィ」（Sissi）の伝記(Sissi: Ein Leben wie im Märchen)
シシィの人生を扱う映画も鑑賞する予定です。
4. Ödön von Horváth（オーストリアの作家）の滑稽な自伝
5. シルダという町の愚行(Schildbürgerstreiche)（シルダは、市民の愚行で有名になった町の伝説）

語彙と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の文法知識をさらに深め、ドイツ語での発言力や筆記表現力や聴解力を育てること、
すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させ、学生が自主的に簡単な作文を書けることが目標です。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

備考・関連ＵＲＬ

語彙と文法は日本語で説明します。

科 目 名	ドイツ語で表現する6（中級の会話・作文） 日常生活の場面に必要な文章パターンを身につけよう。							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

日常生活で頻繁に出会う場面での情報交換に必要なドイツ語を、ペアワークで練習します。授業は主にペアワークでの会話練習や、短い作文の練習に当てられます。単語と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

日常生活に必要な語彙、文法、文章などのパターンを身につけること。

成績評価方法

- **試験** 40%
- **レポート** 0%
- **平常点** 60%
- **その他** 0%

科 目 名	ドイツ語で表現する7（中級の会話・作文） Sprech- und Schreibkurs							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独語	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

Der Kurs zielt auf den weiteren Fortschritt im Erwerb der deutschen Sprache ab. Die Studenten sollen befähigt werden, alltägliche Kommunikationssituationen auf Deutsch zu bewältigen.

授業の到達目標

Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten（ und ohne elektronische Wörterbücher）möglichst frei sprechen. Durch ergänzende Übungen erweitern die Studierenden ihren Wortschatz und erlernen die Routinen der Alltagskommunikation.

成績評価方法

- **試験** 40%　Ergebnis der Prüfung
- **レポート** 0%　no
- **平常点** 60%　Häufigkeit der Teilnahme 30%, aktive Teilnahme 30%
- **その他** 0%　no

科 目 名	ドイツ語で表現する8（中級の会話・作文） ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう！							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	２単位	秋学期	水曜日	１時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業ではドイツ語圏の文化を紹介する短いテキストを読み、そのテキストを口頭と作文で纏める練習をします。同時に1年生の時に習った、まださほど定着していない文法、例えばzu不定句、現在完了形、接続法II、前置詞的な目的語なども練習問題で復習します。話す、書く練習以外に聴き取りの練習も頻繁に行います。教材としてはドイツ語圏についての知識を広げる面白いテキストを選びます。

授業では次のテーマを扱います：
1. ドイツ人の権利意識
2. 実の親と里親の葛藤 B. BRECHT: Der Augsburger Kreidekreis
3. 日常生活におけるコンピュータ・メディア
4. ドイツ人の食生活と健康についての考え
5. 健康的な栄養という神話

語彙と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の文法知識をさらに深め、ドイツ語での発言力や筆記表現力や聴解力を育てること、すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させ、学生が自主的に簡単な作文を書けることが目標です。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

備考・関連URL

語彙と文法は日本語で説明します。

科目名	ドイツ語で表現する9（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	シュレンドルフ　レオポルト							
独語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Der Kurs stellt die kommunikativen Fertigkeiten ins Zentrum. Dazu wird auch die Grammatik wiederholt. Der Kurs richtet sich im Niveau an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden auf Mittelstufeniveau (B1 - B2) und versucht individuelle Ziele zu formulieren und zu erreichen. Besondere Berücksichtigung finden Gruppen- und Partnerarbeiten, auch im Rahmen der Hausarbeiten.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf

成績評価方法

●**試験**　50%　Test
●**レポート**　0%　none
●**平常点**　50%　Mitarbeit
●**その他**　0%　none

科目名	ドイツ語で表現する10（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	シュレンドルフ　レオポルト							
独語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Der Kurs stellt die kommunikativen Fertigkeiten ins Zentrum. Dazu wird auch die Grammatik wiederholt. Der Kurs richtet sich im Niveau an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden auf Mittelstufeniveau (B1 - B2) und versucht individuelle Ziele zu formulieren und zu erreichen. Besondere Berücksichtigung finden Gruppen- und Partnerarbeiten, auch im Rahmen der Hausarbeiten.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf

成績評価方法

●**試験**　50%　Test
●**レポート**　0%　none
●**平常点**　50%　Mitarbeit
●**その他**　0%　none

科目名	第三外国語としてのドイツ語1							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ人のための入門コースです。週一回、通年の授業（春学期・秋学期連続）で基本文法を一通り習得し、今後さらに本格的に表現力や読解力を磨いていくための確かな基盤を築くことを目指します。春学期はアルファベートや挨拶の表現から始め、動詞の現在人称化や冠詞の格変化、前置詞や助動詞の用法等を中心に学習します。他の外国語を学習している皆さんに、深い奥行きを持ったドイツ語の世界にもぜひ触れていただきたいと思います。ドイツ語を自分の知っている他の外国語と比べることで、背景にある文化や発想の違いを発見することもできるでしょう。

授業の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得し、日常使われる平易な慣用表現を覚える。

成績評価方法

●**試験**　70%　学期末に筆記試験を行います（教科書で学習した内容を出題。辞書持ち込み不可）
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　随時指名して、自宅で授業準備をきちんと行っているか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科目名	第三外国語としてのドイツ語2							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ人のための入門コースです。週一回、通年の授業（春学期・秋学期連続）で基本文法を一通り習得し、

今後さらに本格的に表現力や読解力を磨いていくための確かな基盤を築くことを目指します。他の外国語を学習している皆さんに、深い奥行きを持ったドイツ語の世界にもぜひ触れていただきたいと思っています。ドイツ語を他の言語と比べることで、背景にある文化や発想の違いを発見することもできるでしょう。秋学期は春学期に学んだ事項を土台に、教科書の後半部分（第8課から第14課）を学習します。

授業の到達目標

基本文法を一通り習得し、日常よく使われる言い回しを覚え、比較的平易な文章を辞書を用いて読解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末に筆記試験を実施します（教科書で学習した内容を出題。辞書持ち込み不可）
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　随時指名して、自宅で授業準備をきちんと行っているか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア語を読む1（読解のコツ）							
担当者名	粕谷　典子							
露語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎文法を1年以上学んだ方を対象とし、ロシア語のまとまった文章を初めて読む方を想定して実際に文章を読解していきます。

主にロシアの文化や社会に関するテキストを使用し、昔話などロシア語のリズムも楽しめるようなテキストも取り上げる予定です。

基礎文法の復習と定着を図る一方、1年時には未習の中級文法や熟語、慣用句等も学び、文章読解に必要な基礎知識を身につけていきます。

授業の到達目標

自分で辞書を引きながら簡単なロシア語の文章を読めるようになる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　露文和訳
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　予習の準備具合、授業への参加度
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者の興味やレベルによって、内容や進度を変更する可能性があります。

科 目 名	ロシア語を読む2（文学作品に挑戦）							
担当者名	八木　君人							
露語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

（基礎外国語1年の学習内容に該当する）ロシア語初級文法を習得した履修者を想定し、やさしいロシア語で書かれた文学作品を講読していきます。履修者の顔ぶれ・希望によって取りあげるテキストはかえるつもりですが、絵本、フォークロアからはじめ、プーシキンの詩などもおりまぜながら、古典作家であるレフ・トルストイやチェーホフ、現代作家のウリツカヤなどもとりあげられればと思っています。

授業の到達目標

初級文法を終えた段階では文章を読むことにまだ慣れていないと思いますので、まずは、文章を読むことへの気負いをなくし、比較的やさしい文学関係のテクストを原文で読む力を身につけます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　主に、授業で扱ったテキストから出題するかたちで、露文和訳を中心とした試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。
●**その他**　0%

備考・関連URL

上記シラバスはあくまで予定であり、講読するテキストを含め、受講者に応じるかたちで変更する可能性があります。

科 目 名	ロシア語で表現する1（作文・エレメンタリー）							
担当者名	籾内　裕子							
露語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法の学習を終えた学生を対象とし、中級程度のロシア語力獲得を目指します。この授業は和文露訳が中心となりますが、「書いた文章を読む」「他者の発話を聞く」訓練も合わせて行います。教科書に沿って進行しますが、必要に応じて補助教材（プリント・DVDなど）をこちらで用意します。

語学力をつけるためには地道なくり返しが何より重要です。単語を調べる、文章を書いてみる、スムースに発音出来るようにする、耳を慣らすといった訓練を一緒に重ねていきましょう。記憶を定着させる手段として、毎回小テストを行います。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活に必要な表現を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　90%　　60点以上を合格とします。毎回授業で行う小テストは記憶を定着させる手段として扱いますので、成績判定には直接影響しません。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　10%　　語学の授業は出席が大前提となります（出席状況が悪い場合、期末試験受験を認めない場合があります）。出席状況と取り組みも成績判定に含めます。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

必ず予習をした上で授業に臨んで下さい。欠席した場合でも、後日教科書の該当箇所を解いて提出すれば添削して返却します。模範解答を配布することはしません。

科 目 名	ロシア語で表現する2（会話・エレメンタリー）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語基礎を学んだ学生を対象に、基本会話のさらなる向上を目指します。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力、自由会話力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

具体的には様々な場面を設定し、①基本型の練習②関連の単語の習得③発音練習④文法の復習を行います。一通り基本をマスターした後に、実地で応用できるよう、一対一あるいは複数人で自由会話を行います。ビデオなども多用し、ゲーム感覚で楽しく進めます。なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ロシア語圏での生活および旅行に十分対応できることを目標とします。そのために必要となる基本単語と基本的な言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を、一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　50%　　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語で表現する4（作文・ステップアップ）							
担当者名	籾内　裕子							
露語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期に続いて中級程度のロシア語作文に取り組みます。教科書は同じですが、第Ⅱ部へ進み、より高度な文法を用いた文章表現を学びます。教科書に沿って進行しますが、ロシアでのニュース、映画などもトピックとして取り上げます。必要に応じて補助教材を配布します。また毎回小テストを行います。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活に必要なロシア語力獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　90%　　60点以上を合格とします。小テストは記憶を定着させる手段として扱いますので、成績判定に直接影響しません。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　10%　　語学の授業は出席することが大前提となります（出席状況が悪いと期末試験の受験を認めない場合があります）。出席状況と取り組み方を成績判定に組み込みます。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

必ず予習をして授業に臨んで下さい。欠席した場合でも、教科書の該当箇所を解いて提出すれば添削して返却します。模範解答を配布することはありません。

科 目 名	ロシア語で表現する5（会話・ステップアップ）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語基礎を学んだ学生を対象に、基本会話のさらなる向上を目指します。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力、自由会話力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

具体的には様々な場面を設定し、①基本型の練習②関連の単語の習得③発音練習④文法の復習を行います。一通り基本をマスターした後に、実地で応用できるよう、一対一あるいは複数人で自由会話を行います。ビデオなども多用し、ゲーム感覚で楽しく進めます。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ロシア語圏の長期滞在や留学にも対応できることを目標とします。そのために必要となる基本単語と基本的な言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を、一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語で鑑賞する1（演劇映画）							
担当者名	バルシャイ　ナターリヤ							
露語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本的なテーマとしては、ロシア映画・演劇の歴史と現状、映画の各ジャンル（古典文学の映画化、喜劇、子供向けの映画、アニメ、アートー・シアター系）、ロシア演劇（戯曲、芝居、演出、俳優の技術）を中心に採り上げます。

各回の授業内容の詳細はシラバス（授業計画）を参照してください。但し、授業の内容は、参加する学生の関心や希望、能力によって変更する場合があります。

授業の到達目標

ロシア映画・演劇の歴史や理論を学びながら、また、映画を分析して、実際に戯曲のワンシーンを演じるなどして、ロシア語の実践力を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　ロシア語による教場試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席回数、授業への主体的な参加態度
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. http://russiaeigasha.fc2web.com/
2. http://www.rosianotomo.com/ruscine/kinoguide.htm
3. http://www.theatre.ru/

科 目 名	ロシア語力を磨く1（進学・留学のためのロシア語）　生きたロシア語を身につける							
担当者名	上田　洋子							
露語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

大学院への進学、ロシア語圏の大学への留学、ロシア語を使う就職、あるいは他のかたちでもよいですが、生涯ロシア語に関わっていきたいと考えている学生を対象とします。ロシア語圏の文化や社会のいまを、自分の力で知ることができるだけの語学力をつけることがこの授業の目標です。具体的には、現在と歴史をつなぐインタビューやニュース記事、論文、新しい文学・芸術作品などの講読を通じて、読解力と語彙力、そしてロシア語のセンスを養います。また、テクストの読解とあわせて、動画あるいは音声を通じて耳で聞いたロシア語を理解する力をつけ、実際に使えるロシア語を身につけることを目指します。そのロシア語を日本語に置き換えるとなににあたるのか。論理的かつ柔軟に言葉に対峙する術を身につけましょう。昨年度はウラジーミル・ソローキン編のアンソロジー『ロシア残酷物語　Русский жестокий рассказ』(2014）から、ソローキンとソルジェニーツィンの短編を読み、ひとつのテーマに対する2人の作家の異なるアプローチ、異なる形の緻密な文体を比較しました。今年もソローキンの作品と別の現代作家の作品の2本を読む予定です。そこで描かれている状況を知るために、ニュースやジャーナリズムの文章や映像にもアプローチします。

授業の到達目標

自分のロシア語の知識に自信を持ち、読みたいと思うロシア語の文章にどんどんチャレンジできるような語彙力と読解力をつけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　評価はレポートになります。
●**レポート**　50%　　授業で学んだことを、言葉のレベルと内容のレベルで確認します。
●**平常点**　50%　　予習復習をきちんとやってきているか、これまでに学んだことを身につけて力を伸ばしているかを確認します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

授業内容は受講者のレベルや理解度、また、扱うトピックの鮮度に合わせて調整します。授業計画通りに進むとは限りません。

科 目 名	ロシア語力を磨く2（上級会話）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基本会話を修得したが、さらに磨きをかけたい人のためのクラスです。通じるだけでなく、周囲の人々に不快感を与えない、洗練された振る舞いに裏打ちされた会話を目指します。そのためには、ロシアの生活慣習や常識を十分に身に付けなければなりません。

最初にロシアの生活慣習や常識を、興味深い内容のビデオとテキストを用いて学びます。次にその知識を背景に、より洗練された実際的なロシア語会話を修得します。

一通りテキストを理解した後に、テキストの内容に沿った会話練習を行います。基本をマスターした後に、実地で応用できるよう一対一あるいは複数人で自由会話を行います。絵なども多用し、楽しく進めます。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ネイティブにも違和感のない洗練されたロシア語をマスターします。ロシア語圏への留学やビジネスにも役立つことも目標とします。そのために必要となるロシアの慣習や常識を身に付け、関連の基本単語とより洗練した言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語力を磨く3（さまざまな文体を身につける） Этикет письменного и разговорного русского языка							
担当者名	東井　ナジェージュダ							
露語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Усвоить некоторые приемы, формы, клише публицистического стиля в русском языке

授業の到達目標

Стилистические приемы письменной и разговорной речи

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　100%　　Оценка будет ставиться по письменным работам и выступлениям студентов на занятиях.

科 目 名	ロシア語力を磨く4（上級会話） コミュニケーション能力を鍛える							
担当者名	V. フィラトフ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

選択外国語

授業概要

話す力、聞く力というレベルにおいて、コミュニケーション能力をより完璧なものへと導きます。モノローグ、ダイアローグの能力を鍛え、具体的なもの、抽象的なものについて叙述する方法、さらには互いの質問や意見交換の中で、判断したり、論証したり、評価したりする方法を学んでいきます。

授業の到達目標

受講者には、講義終了までにさまざまな場（家庭、職場、レジャー、私生活、親と子、男性と女性、芸術、政治、社会、自由時間、趣味、旅行）に対応できるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場試験。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への主体的な参加態度。
●**その他**　0%

科 目 名	入門ロシア語1							
担当者名	長井　淳							
露語	2単位	春学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ゼロからスタートし、ロシア語の一番核になる部分を習得します。ロシア語はあまり見慣れない文字で書かれていますが、その文字からどんな世界が見えてくるか、一緒に勉強してみませんか？　ロシア語の習得は、ロシア、そしてロシア語を解する文化圏、人々に開かれた大きな扉です。ロシアの文化や社会に興味を持ったとき、専門的な研究に向かうときも、日本語や英語からは知りえない知識や情報を得ることができます。今後、日露関係がさらに深まることを考えると、将来仕事でロシア語を用いる可能性も十分あり、ロシア語の基礎を学ぶことはその土台作りとなります。

授業ではアルファベットからはじめ、ロシア語文法の基礎を学びながら、「読む・聞く・話す・書く」を総合的に訓練します。ロシア語文法は緻密で美しい体系を持っています。一見複雑で難しく思われるかもしれませんが、文法の構造を論理的・体系的に捉える目を養い、かつ何度も反復練習することで、身につけてゆきましょう。

言語は文化的な土壌の中から生まれており、人々の暮らしや文化、歴史的・社会的背景の理解も不可欠です。授業ではロシアに関する話を交え、時に映像を見たり、音楽を聴いたりする機会も作りたいと思います。ロシアの歌も歌います。また授業進度に応じ、小テストをおこない、自分の理解度・到達度をチェックできるようにします。

全15回と回数が少ないので、毎回の授業を大事にし（つまり極力休まず）、復習を確実にしてもらうことが受講の最低条件です。再入門したいという人の履修も歓迎します。

授業の到達目標

授業の到達目標は、ロシア語の文字と発音に慣れること、基本的な文法構造を理解すること、簡単な文章が読め、簡単な表現ができるようになること、そして何よりロシア語とロシアを身近に感じてもらうことです。

成績評価方法

●**試験**　60%　　定期試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席率、小テスト、授業への取り組み
●**その他**　0%

科 目 名	入門ロシア語2							
担当者名	長井　淳							
露語	2単位	秋学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

入門ロシア語1の後継授業です。春学期の学習を土台に、ロシア語を総合的に学びます。順調に勉強が進めば、ロシア語を読んだり話したりすることが少しずつできるようになる時期です。これまで習得したことを確認しながら、ステップアップしましょう。文法事項もより複雑になりますが、重要なところはゆっくり確実に押さえます。全体像をうまく把握し、ロシア語の森が大きく俯瞰できるように授業を進めます。

春学期同様、学習進度に応じて小テストをおこない、各自、理解度・到達度をチェックしてもらいます。またロシア語の文化的土壌を理解するために、映画を見たり、歌を聴いたり、歌ったりする機会も毎回設けたいと思います。入門ロシア語を1年間受講すると、ロシア語の主要な骨格がマスターでき、基本的な会話表現も身につきます。最終的には中級文法への橋渡しの段階まで進みたいと思います。継続は力なりです。頑張りましょう。

授業の到達目標

ロシア語の基礎文法の体系を理解すること、基本語彙を習得すること、辞書を引けば簡単な文章が読めるようになること、身近な会話表現ができるようになることが到達目標です。

成績評価方法

●**試験**　60%　　定期試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席率、小テスト、授業への取り組み
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア語を読む3（ロシアのいまを知る）							
担当者名	八木　君人							
露語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「ロシアのいま」に関するロシア語テキストを読み、ロシア語の読解力を養うと同時に、現代ロシア社会についての知識・理解を深めていきます。ロシア語文法を習得し、ある程度、文章を読むことに慣れた人を対象にします。

毎回の授業は、主に以下の二つで構成されます：

1．毎回、ロシア語の短いニュース記事を教員が配布するので、初見で、しかも辞書をみることなく、その文章を読んでもらいます。この作業を通して、わからない単語があったとしても、大雑把にでも文章全体の内容を捉えられるような力を養っていきます。

2．現代ロシア社会について採り上げられている長めの、しかしそれほど難しくない文章を講読していきます。3〜4回にわたって、一つの文章を読み切るかたちになるでしょう。ここでは、ニュース記事のように、字義通りの「いま」が扱われるわけではありませんが、「いま」を理解するために必要となる知識を習得することを目指します。

毎回の授業の時間配分は、おおよそ、20分（初見でニュース記事を読む）＋20分（ニュース記事の内容の確認と解説）＋50分（2．のテキストの講読）とします。1．については予習は不要ですが、2．に関しては、予習を要します。

授業の到達目標

それほど長くないロシア語の文章を、一息でストレスなく読める力をつけると同時に、現代ロシア社会に関する知識・理解を深めることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　主に露文和訳を行ってもらいます。授業中に読んできたテキストの中からのものと、（授業では扱っていない、初見の）ニュース記事から出題する予定です。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進度や難易度自体は、実際の受講者の学習歴や顔ぶれに応じてかえていきますが、基本的には、ロシア語学習歴1年半〜2年半程度のロシア語学習者を想定しています。

科 目 名	ロシア語を読む4（現代ロシアの文学）							
担当者名	坂庭　淳史							
露語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎文法を習得している方を対象に、さらに高度な文法事項、慣用表現などについて現代ロシアの文学作品を読みながら解説していきます。また、文学作品を読みこなすのに必要な語彙力を獲得するためにも、毎回の授業の冒頭で単語テストを行います。

ロシアの現代文学に関する予備知識はなくても構いません。「ロシア語を読みたい／理解したい／味わいたい」という気持ちと、予習を厭わない心構えがあれば十分です。

扱うテキストについては皆さんの希望も考慮しながら決定していくつもりですが、まずは、現代ロシアで高い評価を受けている作家レオニード・ユゼフォーヴィチの短編小説「晩い電話」を読む予定です。さらにエヴゲーニー・ヴォドラスキンなどの現代作家をはじめ、詩や歌、絵本などを扱う可能性もありますし、ロシア人ゲストを招いて現代文学の話をうかがう回もあるかもしれません。語学学習が主目的ではありますが、現代ロシアの文学潮流についてもお話しできればと思います。

授業の到達目標

ロシア語の基礎文法を確認しながら、より高度な文法の知識と語彙力、読解力を身につけていきます。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業最終回に、基本的にそれまで読んできたテキストを試験範囲としてテストをします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　予習の状況、出席率、授業中への参加度を総合して評価します。授業の最初に出席を確認します。
●**その他**　0%

科 目 名	練習問題でマスターするロシア語1　語彙を増やすことも目指して							
担当者名	上野　理恵							
露語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の初級文法の学習を終えた人を対象に、練習問題を解きながら、これまで習得した基本的な文法事項を復習し、知識の定着をはかります。初級文法では学ばなかった文法事項にも触れることになるので、初級文法では学ばなかった隙間を埋めていくことになります。

また、そうした学習と同時に、最重要単語の習得も目指します。そのために毎回の授業で単語テストを行います。単語テストの範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。

授業は、基本的に、「単語テスト（20分）」＋「練習問題回答＋解説、あるいは文法事項の説明（70分）」というかたちで行います。

授業の到達目標

ロシア語の初級文法を着実に身につけると共に、初級文法を学ぶ際には採り上げられることが少ない、細かい文法事項についても習得することを目指します。ロシア語能力検定に照準を合わせた授業ではありませんが、文法に関しては、4級・3級レベルは軽くこなせる程度の力をつけましょう。

成績評価方法

●**試験**　50%　　15回目の授業の際に実施
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　単語テスト、出席
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

受講者の語学のレベル・関心に応じて、上記内容は変更される可能性があります。

ただし、授業概要にも記してあるように、本授業で対象とするのは、基本的には、必修外国語科目としての1年生ロシア語を終えた学生、あるいはそのレベルのロシア語基礎文法を修得している学生です。授業はあくまでこのレベルに設定するので、それ以上の実力のある学生にとって生産的な効果が得られるとは思いません（もちろん、制度的には履修可能ですが）。その点はよく考えて、履修するようにしてください。

科 目 名	ロシア語力を磨く5（上級講読）　現代ロシアを読む							
担当者名	上田　洋子							
露語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代ロシアを捉えようとするとき、わたしたちは何を読めばよいのでしょうか。ネット時代になって文学や言語は多様化し、また、その位置づけも変わってきているように思います。この授業では現代の作家、思想家、エッセイスト、劇作家の作品や論考を精読します。また、インターネット上で公開されている現代ロシアを考えるためのプロジェクトなども紹介し、読んだり視聴したりする機会を設けます。

ソ連崩壊後、あらたなアイデンティティを模索し続けてきたロシアは、現在は保守化し、伝統の賛美や歴史への興味が高まっています。他方、たとえばウラジオストクのアフチェンコら、モスクワ・ペテルブルク以外の都市を題材にする文学も外国語に翻訳されるようになってきました。最初の授業の際に現代ロシアを映し出すいくつかのテクストを提示し、そのなかから受講生の興味に合わせて何を読むかを決定する予定です。

授業の到達目標

ロシア語のテクストを読みながら、論理や思考の流れを正確に追えるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　ロシア語が読めるか、日本語にできるか、内容を理解しているかの3点を確認します。
●**平常点**　50%　　予習をやってきているか、これまでに学んだことを理解しているかを確認します。
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア語で表現する7（スピーチ）							
担当者名	バルシャイ　ナターリヤ							
露語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

修辞学・修辞技法の内容、原理、目的。演説のジャンル、その種類・目標・手段・構成方法。ロシア語の演説のジャンルの使い方の習得。ロシア語の演説（スピーチ）の実施。

各回の授業内容の明細はシラバス（授業計画）を参照してください。但し、授業の内容は、参加する学生の関心や希望、能力によって変更する場合があります。

授業の到達目標

学生に修辞学・修辞技法及び演説の各ジャンルに関する知識を与え、ロシア語の演説の各ジャンルを使って演説の準備・実施に関するスキルを習得させることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　ロシア語による教場試験。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への主体的参加態度。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. http://4brain.ru/oratorskoe-iskusstvo/
2. http://ja.wikipedia.org/wiki/修辞技法

科 目 名	ロシア語力を磨く6（上級講読）　ロシア文学における「悪魔」の表象							
担当者名	高柳　聡子							
露語	2単位	春学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、20世紀初頭のモダニズムの時代の作品を中心に、原語での精読を行います。

この時期は、新しい修辞的手法が展開されたこともあり、抽象的なものの具現的表現が豊かです。中でも、人間の精神性を反映した「悪魔」ものが数多く書かれています。そうした作品群の中から、ミハイル・ブルガーコフ、ヴァレーリー・ブリューソフ、フョードル・ソログープなどの抜粋をテキストにし、緻密な文学的テクストを精読しながら、当時の雰囲気を感じとりましょう。翻訳のあるものも多いため、自分の訳と比べてみることもできます。

授業には、毎回、丁寧に予習したうえで臨んでください。毎回の分量は多くはありませんので早く読める必要はありません。ゆっくりと確実に読むトレーニングを行います。

中級以上の講読の授業を履修したことがあり、さらに上達したいという意欲のある学生の参加を希望します。

授業の到達目標

高度に洗練された芸術的な文体を原語で正確に読み解き、原文にふさわしい日本語へと訳出するスキルを身につけること、テクストに書かれた言葉と余白から、その背景にあるもうひとつの現実を読み取ることのできるロシア語力を磨きながら、ロシア文学の背景にある歴史の知識も得ることを目標とします。

初級・中級の文法事項を適宜復習しながら、まだ未習の文法についても学びます。副動詞・形動詞はもちろんのこと、物主形容詞や係り結び、また、語結合や造語を作る際のルールや、翻訳のコツと基本的なスキルなど、高度なテクストを正確に読み解くために必要な知識と姿勢を身につけることを目標とします。

「分からない」ことを楽しみながら、分かるまで調べ・考え抜く自分をみつけます。

成績評価方法

●**試験**　30%　　期末に教場試験を実施します。初見のテクスト（授業では取り上げなかったもの）を訳してもらいます（辞書持ち込み可）。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　70%　　毎回の授業へ丁寧に予習して出席することを重視します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	練習問題でマスターするロシア語2　聞き取りや音読の力を身につける							
担当者名	粕谷　典子							
露語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎文法を1年以上学んだ方を対象とします。春学期の「練習問題でマスターするロシア語1」の後続の授業ですが、秋学期ではリスニングやリーディングなど、ロシア語を主に音の面から学ぶことに主軸をおきます。授業では毎回リスニングとリーディングの練習を行い、音声学的な解説を加えます。授業中の練習課題に取り組むことはもちろん、リーディングの練習に用いるロシア語の文章を予習してくることも授業の一環となります。ロシア語の発音のルールを知るとともに、ロシア語能力検定4級または3級に出題されるレベルの、ロシアの生活に身近な表現や文章の読解力も養成されると期待しています。

授業の到達目標

ロシア語能力検定4級または3級に対応できる程度の聞き取りや音読の力を身につけることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験（リスニング、リーディング）
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席回数、授業への参加度、予習具合
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進度や内容は、受講生のレベルや興味に応じて変更する可能性があります。

科 目 名	速習中国語1　中国語の基礎を身につける							
担当者名	倉持　貴文							
中語	4単位	春学期	水5時限	木6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

速習中国語1は週2回の授業で、速習中国語2とあわせ、一年間で中国語の基礎を身につけることを目指します。（もちろんこの速習中国語1だけの履修だけでもかまいませんが、できるだけ合わせて履修し、基礎をきちんと身につけてほしいと思います。）この授業はそのうちの前期として、発音を中心に基礎の基礎を固める授業です。最初は、拼音（ピンイン、中国語のアルファベット表記）をきちんと認識できるよう努力し、その後、初歩文法の基礎を学び、おおむね、教科書の前半を学習する予定です。

授業の到達目標
中国語の発音を理解し、基本4文型を中心とした文法の基礎を身につける。

成績評価方法
●**試験**　60%　　学期末の理解度の確認（試験）での成績。
●**レポート**　0%　　レポートは原則として実施しません。実施した場合は、平常点評価に組み入れます。
●**平常点**　40%　　授業での発言、作業などの総合評価（宿題・小テストなども含みます）。出席しても、ただ座っているだけでは平常点はつきません。授業に積極的に参加するなかで、発音をチェックし、そのうえ、平常点もたくさんゲットできるのです。
●**その他**　0%　　ミニテストなどは何回か実施しますが、いずれも平常点評価に組み入れます。

備考・関連URL
（1）中国語は、文字・文法でも日本語・英語と大きな差がありますが、発音面では声調、有気音・無気音、そり舌音など日本語にない要素がたくさんあります。そのうえ、拼音（ピンイン）表記も独特の読み方をするものが多いのです。最初は（そして最後まで）教員・CDの音を聞き、大きな声でそのまねをするなかでピンインの読み方を身につけていってください。
（2）その日に学んだことを確認するため小テストを行うことがあります。練習問題を宿題にするなど、作業もたくさんやってもらいます。
（3）教室での学習の妨げとなる行為は授業妨害として禁止します。

科目名	オンデマンド中国語（中級）　A　中国を見る							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	春学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
ナチュラルスピードの中国語を正確に理解でき、平易な表現でコミュニケーションができるようになることが目標です。授業は現在の中国社会を扱った新聞や雑誌の記事などを教材にして、会話、作文を中心に進めていきます。内容は身近なものから最近の社会問題まで、できるだけ広い範囲のものを扱うことを考えています。また、授業のほかに、履修者はオンデマンドシステムにあるコンテンツを予習してくることが必要です。

授業の到達目標
ナチュラルスピードの中国語を聞き取れるようにするのが主たる目的です。平行して自分の意志を表現できる語学力

成績評価方法
●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科目名	オンデマンド中国語（中級）　B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
一年生のとき学んだ単語・文法、そしてこれから学ぶ単語と文法のすべてを「音声化」することを目指す。つまり単なる「知識」として覚えるのではなく、耳で聞き取れる能力を身につける。また、多様な場面を設定、「聴く」と「話す」をセットで練習し、自分の意見を述べられる、コメントすることができるようにしたい。

授業の到達目標
中国語検定試験3～2級、HSK4～5級相当のリスニング力をつける。

成績評価方法
●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL
履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科目名	中国語会話（中級）　A							
担当者名	丸井　憲							
中語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
この授業は、中国語の生の会話を身につけたい方のためのクラスです。会話を進めるためには、回答するとともに、トピックを続けさせるための表現力、正確な発音、さらにリスニング力が要求されます。このため、授業では所定の教科書の本文を朗読するだけではなく、暗記も求められます。その後、質疑応答を通じて、内容についての理解を深めると同時に、会話のやりとりに慣れていただきます。また、教科書だけではなく、随時トピックを設定し、発表していただくことがあります。「聞く」→「話す」→「質問し返す」ことで、これまで学習してきた発音と文法を活用し、会話を長く続けられるように練習しましょう。前半の授業では、日本語と併用しますが、後半は中国語を中心に運営します。受講者は、ミスを気にせず、より多く発言することが求められます。

授業の到達目標
中国語検定3級以上、HSK4級以上の能力を目標とします。

成績評価方法
●**試験**　40%　　試験の成績
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　出席状況および授業の貢献度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語会話（中級）　B　ことばと文化を一挙両得しましょう。							
担当者名	胡　婉如							
中語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
A、やり方
前半：聞き取り練習を行ったり、発音を直したりする。
後半：学習者が主体的に前回の授業の内容に基づいて自力で仕上げていく予定です。
①、教材を朗読して内容の理解を確認する。文型や慣用句などの説明を通して、口頭で短文を造ってもらう。
②、本文の内容に基づいて問答練習や会話発表をしてもらい、ドリルなどを通して、理解度を確認する。
③、授業中、できるだけ中国語を使う。
B、進み度合い
学生の人数やレベルにもよるが、二回で一課のようなペースで、授業を進める予定である。なお、全員に一学期4回ぐらい口頭発表をしてもらう。

授業の到達目標
初級中国語を履修した学生を対象にするこの授業は、基礎的な事項を再確認しながら、会話を中心に授業を進める。
最新中国事情の学習や会話の発表を通して、「聞く」、「話す」能力を養成しながら、中国語という言語の背景にある文化をより理解することを目標とする。
日中間の慣習や大学事情について、中国語で中国人とコミュニケーションが少しでもとれるようにすることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　60%　　会話テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　4回筆記テスト　会話発表や出席および授業に取り組む姿勢も重視する。
●**その他**　0%

備考・関連URL
【受講生に対する希望】
積極的に授業に取り組んで、予習、復習を欠かさぬようにしてほしい。人数が多く、レベルが一様ではないので、一学期にとくにCDを繰り返して聞いてから教室に臨んでほしい。

科 目 名	中国語会話（中級）　C							
担当者名	新田　小雨子							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
この授業は色々なトピックスについて目標言語の中国語で表現する会話能力を高めることを目的としており、この授業を履修するには、中国語の基礎文法を習得した上、ある程度の「読む・書く・話す・聞く」力も必要です。授業中設定されたトピックについて、中国語で意見を述べてもらったりする場合がよくあります。この授業ではスピーキングを重視し、習得した単語・文法をどのように会話に応用するか、トピックスによって使う表現も異なり、この授業を受講することによって、物事について説明したり自分の意見を述べたりする能力をアップすることが期待されます。学期末にスピーキング能力アップ確認として、中国語によるプレゼンテーションも実施する予定です。

授業の到達目標
トピックスに応じた会話能力を高めることができます。

成績評価方法
●**試験**　50%　　期末目標言語によるプレゼンテーション
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　授業への参加度・取り組む姿勢・口頭発表など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語作文（中級）　A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語の初級文法を駆け足で復習しつつ、中級の表現にも触れていく。

授業の到達目標
作文時に犯しがちな簡単な間違いを、極力排除できるようにすることを最大の目標とする。
加えて、少しずつ中級レベルの作文力も身につけて、まとまった文章が書けるようにしたい。

成績評価方法
●**試験**　70%　　特になし
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　毎回の授業時に行われる小テストの合計点を30パーセントに換算する。

●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

必ず家庭学習の時間を設けること。
前後期あわせて受講することが望ましい。

科 目 名	中国語作文（中級）　B　ビジネス文書の作文							
担当者名	王　瑞来							
中語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の勉強においては一定の基礎を築いた後に、文章作成能力の向上を目指した作文訓練が必要となる。この授業では実用性の高いビジネス文書を中心として、それらの種類やスタイルなどを紹介し、簡単な文章から複雑な文章まで、精選した文書の和訳・中訳を受講者全員が行う。これを通して作文能力を鍛える。

授業の到達目標

中国語での実用文章の翻訳能力や作文能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　作文の完成度
●**その他**　30%　　出席率

科 目 名	中国語プレゼンテーション（中級）　スピーチの達人になろう							
担当者名	金　佩華							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の文章を読んだ上で、それを手本に身近なテーマについてスピーチ発表の練習を繰り返します。中国語で授業を進め、分かる学生に通訳になってもらいます。学生全員が分からない時だけ教員が日本語に訳します。授業とは中国語を聞く、読む、訳す、話すことの連続です。なお、授業中、時間の余裕があるときは中国の話もする予定です。

授業の到達目標

中国語の表現力を高め、基本的な応用力を身に付け、日常的な事を中国語で、ある程度述べられるようになることです。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終発表は試験とします。
●**レポート**　0%　　行いません
●**平常点**　50%　　各テーマの発表は平常点とします。
●**その他**　10%　　出席と授業態度の点数です。 欠席1回で2点減点します。5回で失格となります。 遅刻や授業に相応しくない行為がある場合は1点減点します。10点になると失格です。

備考・関連URL

本気で中国語の表現力を身につけたい学生は大歓迎です。
年間計画で授業をすすめますので、春期と秋期を合わせての受講が望ましいです。

科 目 名	中国語ヒアリング（中級）							
担当者名	伴　俊典							
中語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎的な聴力知識を修めた学生を対象に、中級の音声教材を用いて中国語学習を行う授業です。 主に中検4級～3級、HSK3～4級相当の音源を提供し、聞き取りが苦手な受講生は苦手分野の克服を、聴力を伸ばしたい学生はオンデマンドの特性を活かしてさらに難しい課題にチャレンジしてもらいます。

各回の授業はテーマを設け、それに沿った様々な音声素材を使って、

1　教員による音声解説と次回の準備
2　様々な手段を使った定着を目的とした受講生の実習

を行います。

2019年度の授業では、中国の日常会話を扱う予定です。これまで学んだリスニングの音声に比べ、実践的な聴力学習が中心になりますが、受講生の要望や学習進度に応じて補足やバックアップの教材を追加しますので、中国語のヒアリングが苦手だ、という受講生の聴講も歓迎します。また希望者が過半数の場合は中検、HSK対策等の教材を使い授業を行います。

授業の到達目標

『ベーシックチャイニーズ』によって獲得した中国語の聴覚イメージを確実に定着させる。
中検3級、HSK4級の聞き取りを問題なくこなせる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　定着度の確認ごとに実戦形式で様々な課題を行ってもらいます。
●**レポート**　0%　　行いません。
●**平常点**　40%　　出席点と授業中の質疑応答。
●**その他**　0%　　行いません。

備考・関連URL

受講生のレベルや事情に応じて授業内容を変更することがあります。
オンラインで教材を配布する予定ですが、パソコン操作が苦手な学生には適宜紙やCD等の教材を併用して授業を行います。

科 目 名	時事中国語（中級） A 中国語でニュースを読もう！（入門編）							
担当者名	土屋 文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ニュースから学術論文まで広く用いられる中国語の論説体（文章語）に触れ、読解力と文法知識を深めてゆくためのクラスです。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な論説体の文章をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

試験50%　制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
平常点評価50%　毎回のクラスにおける本文の音読と和訳。

科 目 名	時事中国語（中級） B 中国語メディアから読み取る							
担当者名	熊 進							
中語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語で書かれた新聞・雑誌およびインターネット上のニュース記事やSNSなどの中国語メディアから様々なトピックを選び、読解・解説・議論を行います。授業の事前・事後学習では、中国語を使って情報収集および発信を行います。

授業の到達目標

・ 中国語で書かれた新聞や雑誌、インターネット上の記事やSNSなど様々な文章に習熟する。
・ 中国語メディアから必要な情報を読み取るための中国語力を身につける。
・ 読解や議論を通して現代中国の様々な現象について理解を深める。
・ 中国の様々な現象について、自分の考えを中国語で表現できるようにする。
・ 書き手の意図を読み取るためのメディア・リテラシーを身につける。

成績評価方法

小テスト、期末試験、出席状況などによって、総合的に判断する

備考・関連URL

※本授業は、中国語を1年ほど学んだことがあり、さらにステップアップしたい方を対象としています。

科 目 名	中国現代文学に親しむ（中級） 21世紀の中国語小説							
担当者名	土屋 文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年SFやミステリの翻訳紹介により、その面白さが世界的に知られるようになってきた中国語（華文）小説。当クラスでは中国語圏で活躍する20-40代の作家の作品を数編取り上げ、読解を通じてその感性に触れ、また現代中国語の表現および解釈法について理解を深めてゆきます。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な文学作品をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
●**レポート**　0%　　授業で扱った教材すべての訳文を作成し学期末に提出。（通常の成績評価としては実施しません）
●**平常点**　50%　　毎回の授業における本文の音読と和訳。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく大型のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。
取り上げる課題文は講師が適宜選びますが、受講者の希望も可能な限り考慮します。
春・秋両学期をあわせて受講することを勧めます。

科 目 名	映画で学ぶ中国語（中級） A 映画『夜店』で学ぶ中国語							
担当者名	山本 律							
中語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、中国語初級レベルを終了した学生を対象とします。本授業は、映画を教材に中国語のレベルアップをはかり、また中国文化への理解を深めていきます。

授業の到達目標
初級で学んだ中国語の定着とその活用力の強化をめざします。

成績評価方法
●**試験** 30%　授業の理解度の確認
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 70%　出席、宿題の提出、授業態度
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL
学習者の進度に合わせレベルをあげていきます。春期秋期あわせて受講することをすすめます。

科目名	映画で学ぶ中国語（中級） B 様々なジャンルの中国映画に親しむ							
担当者名	段 文凝							
中語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
初級中国語を学び終えた人が対象の授業です。中国映画というとどんなジャンルの映画を思い浮かべますか？カンフー映画、コメディー映画、恋愛映画、時代劇映画・・・。これらの映画は、中国の歴史や文化、流行や社会問題と密接にかかわっています。日本でも有名な陳凱歌（チェン・カイコー）、張芸謀（チャン・イーモウ）監督など、中国映画界「第5世代」の監督たちの作品から、最近の話題作まで概ね2本程度の映画を観て、作品中のシーンやセリフから、様々なシチュエーションや意味合いで使われる、ワンランク上の中国語の活用法を学びます。

授業の到達目標
●映画の中に出て来る平易な話し言葉を、自分でも話すことができる。
●中国映画の中国語字幕を追いながら、ストーリーを概ね理解できる。
●映画についての自分の意見を、平易な中国語で述べることができる。

成績評価方法
●**試験** 30%　授業で学んだフレーズ、授業の内容の定着度を測ります。
●**レポート** 40%　毎回の授業のミニレポート提出で出席をカウントします。しっかりと自分の意見や所見があるかどうかがポイントです。
●**平常点** 30%　出席状況、ディスカッションへの貢献度を測ります。
●**その他** 0%

科目名	オンデマンド中国語（上級）1 中国で、いま							
担当者名	楊 達							
中語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
CCTV（中央電視台）のニュースなどを聞き取りながら、今の中国の変化を見ていきます。

授業の到達目標
テレビのニュースや新聞記事を学習していくことで、日常会話以外に、内容のある議論もできるようになること

成績評価方法
●**試験** 60%
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%
●**その他** 0%

科目名	中国語ヒアリング（上級）1							
担当者名	南 勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
今までマスターした中国語文法知識を活用して、より高い次元で中国語聴力の実力をレベルアップします。そのため、さまざまなジャンルの音声(映像)を素材に、聞く・話す・読む・書くなど多様な練習を通じて、聴覚イメージを総合的に形成します。特に、ネイティブスピーカーの発話で「耳」を刺激し、単語・文法・表現などの知識を内面化します。

授業の到達目標
新HSK6級の合格を目指します。中国語のテレビ番組、映画、演説など基本的に聞き取り、理解できるようにする。

成績評価方法
●**試験** 70%　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 0%　なし。
●**平常点** 30%　授業参与の積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他** 0%　なし。

備考・関連URL
履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語作文（上級）1 ―― 中国語で作文を書いてみましょう ――							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

中国語の基礎文法を覚え、基礎的な作文力を身に付けた学習者を対象に、中国人が書いた作文集を輪読し、複文、複複文の作成を練習し、文章の作成に生かして、作文力の向上を図ります。

中国人の書いた作文の読解　→　複文・複複文の作文練習　→　テーマ作文の提出と発表　という順で進みます。

授業の到達目標

自分で見聞したこと、経験したこと、考えたことを、文字で表現できるように指導します。且つ　HSK5級、HSK6級の作文力を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段作成した作文の提出をもとに評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	中国語翻訳1　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

■授業概要■

1年以上の学習歴を持ち、基礎的な読解力を身につけた上で、中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。

ニュース・論説・文芸などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。

■授業の進め方■

まず課題文の内容を確認したうえで全員に試訳を提出してもらい、毎回のクラスで各訳例について批評と討論を行います。

授業の到達目標

単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法

平常点　60%（授業参加・課題提出）
レポート　40%（訳文の完成度）

備考・関連URL

日中主要コーパス（語料庫）：ある語彙が実際の文中でどのように使われているかを概観するのに役立つデータ集。
少納言（現代日本語書き言葉均衡コーパス）
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/
北大语料库（北京大学中国语言学研究中心）
http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp
北京语言大学现代汉语语料库（汉语国际教育技术研发中心）
http://bcc.blcu.edu.cn/
现代汉语词汇历时检索系统
http://nlp.blcu.edu.cn/others/historical%20computing/
現代漢語平衡語料庫（中央研究院）
http://app.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/

科 目 名	中国語字幕翻訳1　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

配布されたスクリプトを日本語訳し、
一部を字数制限に合わせた日本語字幕に作る。
予習は必須です。

授業の到達目標

登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。

成績評価方法

授業に臨む態度と翻訳の課題提出で総合評価します。

科 目 名	速習中国語2　中国語の基礎を身につける2							
担当者名	倉持　貴文							
中語	4単位	秋学期	水5時限	木6時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

速習中国語1とあわせ、一年間で中国語の基礎を身につけることを目指します。（この速習中国語2だけの履修でもかまいませ

んが、その場合、速習中国語1の既習者あるいはそれと同等の学力を持つ者に限定します。）この授業は1で習った内容を基礎として、発音を完璧なものとし、介詞（前置詞）、能願動詞（助動詞）や補語、連動文、兼語文、存現文などの中国語独特の内容も含め、中国語の基礎をきちんと身につけ、会話・作文能力の向上を目指します。

授業の到達目標

中国語の発音と基礎的な文法事項を理解し、あわせて基礎的なコミュニケーション能力を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の試験。
●**レポート**　0%　　レポートは原則として実施しません。かりに実施した場合には、平常点評価に組み入れます。
●**平常点**　40%　　授業中の作業などの総合評価。
●**その他**　0%　　何回か小テストを実施しますが、これも平常点評価に組み入れます。

備考・関連URL

基本的に春期と同じ方針で授業を行っていきます。速習中国語1の「備考」などを参照してください。

科目名	オンデマンド中国語（中上級）　A　中国を聞く							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ナチュラルスピードの中国語を正確に理解でき、平易な表現でコミュニケーションができるようになることが目標です。授業は春期に引き続き現在の中国社会を扱った新聞や雑誌の記事などを教材にして、会話、作文を中心に進めていきます。内容は身近なものから最近の社会問題まで、できるだけ広い範囲のものを扱うことを考えています。また、授業のほかに、履修者はオンデマンドシステムにあるコンテンツを必ず予習してくることが前提条件です。

授業は初級の復習から始め、限定された語彙の中で、ナチュラルスピードの中国語の聞きとりと会話練習を中心に授業を進めていくと同時に、長い文章の暗記をも行います。また、春期では簡単な作文を通じて、文法の定着をも図ってきましたが、秋期では前期学習したことの定着をはかりながら、記事内容について議論することも取り入れるつもりです。

授業の到達目標

自然な速さの中国語でも聞き取ることができ、かつ、教材として聞いたインタビューの内容について、自分の意見を述べられるようにするのが目標。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学習した内容を中心に出題する
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　出席および課題に取り組む態度
●**その他**　0%　　なし

科目名	オンデマンド中国語（中上級）　B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

一年生のとき学んだ単語・文法、そしてこれから学ぶ単語と文法のすべてを「音声化」することを目指す。つまり単なる「知識」として覚えるのではなく、耳で聞き取れる能

力を身につける。また、多様な場面を設定、「聴く」と「話す」をセットで練習し、自分の意見を述べられる、コメントすることができるようにしたい。

授業の到達目標

中国語検定試験3～2級、HSK4～5級相当のリスニング力をつける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科目名	中国語会話（中上級）　A							
担当者名	丸井　憲							
中語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、中国語の生の会話を身につけたい方のためのクラスです。会話を進めるためには、回答するとともに、トピックを続けさせるための表現力、正確な発音、さらにリスニング力が要求されます。このため、授業では所定の教科書の本文を朗読するだけではなく、暗記も求められます。その後、質疑応答を通じて、内容についての理解を深めると同時に、会話のやりとりに慣れていただきます。また、教科書だけではなく、随時トピックを設定し、発表していただくことがあります。「聞く」→「話す」→「質問し返す」ことで、これまで学習してきた発音と文法を活用し、会話を長く続けられるように練習しましょう。前半の授業では、日本語と併用しますが、後半は中国語を中心に運営します。受講者は、ミスを気にせず、より多く発言することが求められます。

授業の到達目標

中国語検定3級以上、HSK4級以上の能力を目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　試験の成績
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　出席状況および授業の貢献度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語会話（中上級）　B　ことばと文化を一挙両得しましょう。							
担当者名	胡　婉如							
中語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

A、やり方
基本的には学習者が主体的に前回の授業の内容に基づいて自力で仕上げていく予定です。
①、教材を朗読して内容の理解を確認する。文型や慣用句などの説明を通して、口頭で短文を造ってもらう。
②、本文の内容に基づいて問答練習や会話発表をしてもらい、ドリルなどを通して、理解度を確認する。
③、授業中、できるだけ中国語を使う。
B、進み度合い
学生の人数やレベルにもよるが、二回で一課のようなペースで、授業を進める予定である。なお、全員に一学期4回ぐらい口頭発表をしてもらう。

授業の到達目標

初級中国語を履修した学生を対象にするこの授業は、基礎的な事項を再確認しながら、会話を中心に授業を進める。
最新中国事情の学習や会話の発表を通して、日中間の慣習や大学事情について、中国語で中国人とコミュニケーションが少しでもとれるようにすることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　会話テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　4回筆記テスト　会話発表や出席および授業に取り組む姿勢も重視する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

【受講生に対する希望】
積極的に授業に取り組んで、予習、復習を欠かさぬようにしてほしい。人数が多く、レベルが一様ではないので、一学期にとくにCDを繰り返して聞いてから教室に臨んでほしい。

科 目 名	中国語会話（中上級）　C							
担当者名	新田　小雨子							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は色々なトピックスについて目標言語の中国語で表現する会話能力を高めることを目的としており、この授業を履修するには、中国語の基礎文法を習得した上、ある程度の「読む・書く・話す・聞く」力も必要です。授業中設定されたトピックについて、中国語で意見を述べてもらったりする場合がよくあります。この授業ではスピーキングを重視し、習得した単語・文法をどのように会話に応用するか、トピックスによって使う表現も異なり、この授業を受講することによって、物事について説明したり自分の意見を述べたりする能力をアップすることが期待されます。学期末にスピーキング能力アップ確認として、中国語によるプレゼンテーションも実施する予定です。

授業の到達目標

トピックスに応じた会話能力を高めることができます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末目標言語によるプレゼンテーション
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　授業への参加度・取り組む姿勢、口頭発表など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語作文（中上級）　A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級段階で学習した基礎の復習をしながら、各課のポイントに則した練習問題をこなすことにより、さらに豊かな中国語の表現力を養う。
作文がメインの授業ではあるが、テキストに沿った形で、朗読やリスニングも少し取り入れる。

授業の到達目標

作文時に犯しがちな簡単な間違いを排除するとともに、少し難しい表現のセンテンスが書けるようになることを最大の目標とする。
また、毎回簡単な小テストを行い、習った内容の定着を図っていく。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間時に試験を実施し、理解度の確認をする。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　毎回の授業時に行われる小テストの合計点を30パーセントに換算する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

必ず家庭学習の時間を設けること。
前後期あわせて受講することが望ましい。

科 目 名	中国語作文（中上級） B ビジネス文書の作文							
担当者名	王　瑞来							
中語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の勉強においては一定の基礎を築いた後に、文章作成能力の向上を目指した作文訓練が必要となる。この授業では実用性の高いビジネス文書を中心として、それらの種類やスタイルなどを紹介し、簡単な文章から複雑な文章まで、精選した文書の和訳・中訳を受講者全員が行う。これを通して作文能力を鍛える。

授業の到達目標

中国語での実用文章の翻訳能力や作文能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　作文の完成度
●**その他**　30%　　出席率

科 目 名	中国語プレゼンテーション（中上級） スピーチの達人になろう							
担当者名	金　佩華							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の文章を読んだ上で、それを手本に日本の事についてスピーチ発表の練習を繰り返します。中国語で授業を進め、分かる学生に通訳になってもらいます。学生全員が分からない時だけ教員が日本語に訳します。授業とは中国語を聞く、読む、訳す、話すことの連続です。なお、授業中時間の余裕があれば中国の話もする予定です。

授業の到達目標

中国語の表現力を高め、基本的な応用力を身に付け、日本の事に関して簡単な紹介ができるようになることです。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終発表は試験とします。
●**レポート**　0%　　行いません。
●**平常点**　50%　　各テーマの発表は平常点とします。
●**その他**　10%　　出席と授業態度の点数です。 欠席1回で2点減点します。5回で失格となります。 遅刻や授業に相応しくない行為がある場合は1点減点します。10点になると失格です。

備考・関連URL

本気で中国語の表現力を身につけたい学生は大歓迎です。
年間計画で授業をすすめますので、春期と秋期を合わせての受講が望ましいです。

科 目 名	中国語ヒアリング（中上級）							
担当者名	伴　俊典							
中語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語のヒアリングを学び、上級中国語聴力学習への準備を行う授業です。
基礎的な聴力知識を修めた学生を対象に、オンデマンドの音声教材を用いて中国語学習を行います。各課のテーマに沿った様々な音声素材を使って、

1　教員による音声解説と次回の準備
2　様々な手段を使った定着を目的とした受講生の実習

を行います。受講生の学習進度に基づいて、より高度な中国語音源を提供し、様々な質問を介して中国語音から知識を吸収するスキルを養います。

2019年度の授業では中国の日常会話のやや複雑な表現を扱いますが、受講生の要望や学習進度に応じて内容を調節し、希望者が過半数の場合は中検、HSK対策等の教材を使い授業を行います。

授業の到達目標

日常に使用される中国語レベルの聴覚イメージを確実に定着させる。
中検2級、HSK5級の聞き取り問題を解けるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　定着度の確認ごとに実戦形式で課題を行ってもらいます

●**レポート**　0%　　行いません
●**平常点**　40%　　出席点と授業中の質疑応答及び課題
●**その他**　0%　　行いません

備考・関連URL

初回ガイダンス時にアンケートを取り受講生のレベルや事情を確認し授業計画を調整するので、特にヒアリングで伸ばしたい点や要望のある受講希望者は初回の授業に必ず参加するようにしてください。

オンラインで教材を配布する予定ですが、パソコン操作が苦手な学生には適宜紙やCD等の教材を併用しますので心配いりません。

科 目 名	時事中国語（中上級） A　中国語でニュースを読もう！（実践編）							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今や中華圏のみならずBBCやニューヨークタイムズなど世界中の大手メディアが"中文网"を持つ時代。中国語で切り取られる世界の様相も目まぐるしく多角化しています。当クラスでは中国の世相や最新事情が伺えるもの中心に、様々なメディアからピックアップした中文記事を読み、ネイティヴ向けに書かれた"生の"中国語文章表現に親しんでゆきます。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な論説体の文章をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回のクラスにおける本文の和訳。
●**その他**　0%

備考・関連URL

教材は講師があらかじめ用意しますが、扱う題材やメディアについて受講者の希望があれば可能なかぎり取り入れます。

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく大型のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。

科 目 名	時事中国語（中上級） B　中国語メディアから読み取る							
担当者名	熊　進							
中語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語で書かれた新聞・雑誌およびインターネット上のニュース記事やSNSなどの中国語メディアから様々なトピックを選び、読解・解説・議論を行います。授業の事前・事後学習では、中国語を使って情報収集および発信を行います。

授業の到達目標

・中国語で書かれた新聞や雑誌、インターネット上の記事やSNSなど様々な文章に習熟する。
・中国語メディアから必要な情報を読み取るための中国語力を身につける。
・読解や議論を通して現代中国の様々な現象について理解を深める。
・中国の様々な現象について、自分の考えを中国語で表現できるようにする。
・書き手の意図を読み取るためのメディア・リテラシーを身につける。

成績評価方法

小テスト、期末試験、出席状況などによって、総合的に判断する

備考・関連URL

※本授業は、中国語を1年ほど学んだことがあり、さらにステップアップしたい方を対象としています。

科 目 名	中国現代文学に親しむ（中上級）　21世紀の中国語小説							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年SFやミステリの翻訳紹介により、その面白さが世界的に知られるようになってきた中国語（華文）小説。当クラスでは中国語圏で活躍する20-40代の作家の作品を数編取り上げ、読解を通じてその感性に触れ、また現代中国語の表現および解釈法について理解を深めてゆきます。

春学期の中級クラスに比べてやや長めの作品にも挑戦する予定。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な文学作品をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
●**レポート**　0%　　授業で扱った教材すべての訳文を作成し学期末に提出。（通常の成績評価としては実施しません）
●**平常点**　50%　　毎回の授業における本文の和訳。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく大型のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。

取り上げる課題文は講師が適宜選びますが、受講者の希望も可能な限り考慮します。

春・秋両学期をあわせて受講することを勧めます。

科目名	映画で学ぶ中国語（中上級） A　映画『窈窕紳士』で学ぶ中国語							
担当者名	山本　律							
中語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、中国語初級レベルを終了した学生を対象とします。本授業は、映画を教材に、中国語のレベルアップをはかり、また中国文化への理解を深めていきます。

授業の到達目標

初級で学んだ中国語の定着とその活用力の強化を目指します。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　出席、宿題の提出、授業態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

学習者の進度に合わせレベルを上げていきます。春期秋期合わせて受講することをすすめます。

科目名	映画で学ぶ中国語（中上級） B　中国語映画の世界を味わう							
担当者名	段　文凝							
中語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は中国映画（第5世代～最新作の中から2本程度）のシーンやセリフを中心に、俳優のインタビューなども交えながら中国語のレベルアップと、背景にある中国の文化や風習、流行などについての理解も深めていきます。

授業の到達目標

●映画に出て来る中上級レベルの口語フレーズを聞き取り、自らも使える。
●中国映画についての自分の意見を、中国語で述べることができる。
●中国語だけでなく、中国の文化や風習、流行への理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業で学んだフレーズ、授業の内容の定着度を測ります。
●**レポート**　40%　　毎回の授業のミニレポート提出で出席をカウントします。しっかりと自分の意見や所見があるかどうかがポイントです。
●**平常点**　30%　　出席状況、ディスカッションへの貢献度を測ります。
●**その他**　0%

科目名	オンデマンド中国語（上級）2　中国で、いま							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

テレビのニュースの聞き取りや新聞記事の読解を通して、より実用的な語彙を学習して、会話能力を養う。最終的にはより高いレベルの中国語をマスターすることを目指す。 CCTV（中央電視台）のニュースなどを聞き取りながら、今の中国の変化を見ていきます。

授業の到達目標

中国語で自分の意見を述べたり、文章にまとめたりすることができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　60%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科目名	中国語ヒアリング（上級）2							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今までマスターした中国語文法知識を活用して、より高い次元で中国語聴力の実力をレベルアップします。そのため、さまざまなジャンルの音声(映像)を素材に、聞く・話す・読む・書くなど多様な練習を通じて、聴覚イメージを総合的に形成します。特に、ネイティブスピーカーの発話で「耳」を刺激し、単語・文法・表現などの知識を内面化します。

授業の到達目標

中国語のテレビ番組、映画、演説などを聞き取ること、また自分の言いたいことを伝えるようにする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科目名	中国語作文（上級）2 ―― 中国語で作文を書いてみましょう ――							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

中国語の基礎文法を覚え、基礎的な作文力を身に付けた学習者を対象に、中国人の書いた作文集を輪読し、複文、複複文の作成もかねて練習し、その成果を自分の作文に生かして、作文力の向上を図ります。
中国人の書いた作文の読解　→　複文・複複文の作文練習　→　テーマ作文の提出と発表　という順で進みます。

授業の到達目標

自分で見聞したこと、経験したこと、考えたことを、文字で表現できるように指導します。且つ　HSK5級、HSK6級の作文力を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段作成した作文の提出をもとに評価します。
●**その他**　0%

科目名	中国語翻訳2　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

■授業概要■
1年以上の学習歴を持ち、基礎的な読解力を身につけた上で、中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。
ニュース・論説・文芸などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。
■授業の進め方■
まず課題文の内容を確認したうえで全員に試訳を提出してもらい、毎回のクラスで各訳例について批評と討論を行います。

授業の到達目標

単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法

平常点　60%（授業参加・課題提出）
レポート　40%（訳文の完成度）

備考・関連URL

初回の教材は講師があらかじめ用意しますが、2つ目以降については受講者の希望があれば可能なかぎり取り入れます。
日中主要コーパス（語料庫）：ある語彙が実際の文中でどのように使われているかを概観するのに役立つデータ集。
少納言（現代日本語書き言葉均衡コーパス）
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/
北大语料库（北京大学中国语言学研究中心）
http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp
北京语言大学现代汉语语料库（汉语国际教育技术研发中心）
http://bcc.blcu.edu.cn/
现代汉语词汇历时检索系统
http://nlp.blcu.edu.cn/others/historical%20computing/
現代漢語平衡語料庫（中央研究院）
http://app.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/

科目名	中国語字幕翻訳2　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

配布されたスクリプトを日本語訳し、
一部を字数制限に合わせた日本語字幕に作る。
予習は必須です。

授業の到達目標

登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。

成績評価方法
授業に臨む態度と翻訳の課題提出で総合評価します。

科 目 名	中国語検定をめざす（中級） A ——3級の文法を中心に——							
担当者名	李 洵							
中語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語検定試験3級の合格を目指します。
授業は演習の形で進め、文法を解説しつつ過去問題を解いていきます。

授業の到達目標
中検3級筆記の合格。

成績評価方法
●**試験** 90% 期末試験
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 10% 普段の小テスト
●**その他** 0% なし

備考・関連URL
欠席5回以上は、不合格とする。

科 目 名	中国語検定をめざす（中級） B ——3級のリスニングを中心に——							
担当者名	陳 愛玲							
中語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語検定試験3級の合格を目指します。
授業はテーマ別に進み、ポイントなどを確認しながら実際の過去問題を解いていきます。

授業の到達目標
中検3級リスニングの合格。

成績評価方法
●**試験** 40% 学習の到達度
●**レポート** 20% 学習態度と意欲
●**平常点** 40% 出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	HSKをめざす（中級） A ——HSKのリスニングを中心に——							
担当者名	陳 愛玲							
中語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
HSKリスニングの合格を目指します。
授業は毎回まず単語・常用表現などを確認した上でリスニングの実践練習を行い、更にいろいろな演習を取り入れリスニング力を強化していく。
*春期（中級）＝教科書の前半p66まで、秋期（中上級）＝同じ教科書の後半p67から

授業の到達目標
HSKリスニングの合格。

成績評価方法
●**試験** 40% 学習の到達度
●**レポート** 20% 学習態度と意欲
●**平常点** 40% 出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	HSKをめざす（中級） B							
担当者名	南 勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
HSK対策・攻略の視点から中国語文法知識を再整理し、「文法地図」を作成する。そしてHSKの出題者の立場に立って、「この文法ならどう出題するだろう」という問題意識で、解答のテクニックを磨き、正解率をアップする。

授業の到達目標
中国語文法の理解を深め、HSK4～5級の合格を目指す。

成績評価方法
●**試験** 70% 第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 30% 授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
●**その他** 0% なし。

備考・関連URL
履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語検定をめざす（中上級） A ——2級の文法を中心に——							
担当者名	李 洵							
中語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語検定試験2級の合格を目指します。
授業は演習の形で進め、文法を解説しつつ過去問題を解いていきます。

授業の到達目標
中検2級レベルの文法力を身につける。

成績評価方法
●**試験** 90% 期末試験
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 10% 普段の小テスト
●**その他** 0% なし

備考・関連URL
欠席5回以上は、不合格とする。

科 目 名	中国語検定をめざす（中上級） B ——2級のリスニングを中心に——							
担当者名	陳 愛玲							
中語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語検定試験2級の合格を目指します。
授業はテーマ別に進み、ポイントなどを確認しながら実際の過去問題を解いていきます。

授業の到達目標
中検2級リスニングの合格。

成績評価方法
●**試験** 40% 学習の到達度
●**レポート** 20% 学習態度と意欲
●**平常点** 40% 出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	HSKをめざす（中上級） A ——HSKのリスニングを中心に——							
担当者名	陳 愛玲							
中語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
HSKリスニングの合格を目指します。
授業は毎回まず単語・常用表現などを確認した上でリスニングの実践練習を行い、更にいろいろな演習を取り入れリスニング力を強化していく。
＊春期（中級）と同じ教科書を使い、後半p67から始まる

授業の到達目標
HSKリスニングの合格。

成績評価方法
●**試験** 40% 学習の到達度
●**レポート** 20% 学習態度と意欲
●**平常点** 40% 出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他** 0% 特になし

科 目 名	HSKをめざす（中上級） B							
担当者名	南 勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
今まで習得した中国語文法知識を踏まえて、さらに高いレベルの文法に挑戦してみます。授業では新HSKの出題問題を素材に、たくさんの問題を解くことによって、さまざまな文法現象・表現に出会い、文法知識を広げます。同時に、新HSKの文法出題傾向・パターンを分析しながら、試験対策と攻略法を一緒に考え、解答力アップを実現します。

授業の到達目標
中国語文法の理解を深め、HSK5～6級の合格を目指す。

成績評価方法
●**試験** 70% 第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 30% 授業への積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他** 0% なし。

備考・関連URL
履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	スペイン語上級（運用力アップ）1							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
この授業の目的は、できるだけ流暢なスペイン語会話能力を身につけることにある。授業の方法としては、日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めて、そのテーマについての口頭表現の練習、およびその基本となる作文の練習で進行する。

授業の到達目標
日常的な会話能力の獲得にとどまらず、様々な分野のニュースや社会における出来事について正確に聞き取り、またそれを正しいスペイン語で書く能力をも身につける。さらにはそれらのテーマについてスペイン語で討論することのできるレベルを目指す。

成績評価方法
●**試験**　70%　　オラル試験　30%　ペーパー試験　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への参加、宿題の達成度
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語上級（運用力アップ）2							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
この授業の目的は、できるだけ流暢なスペイン語会話能力を身につけることにある。授業の方法としては、日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めて、そのテーマについての口頭表現の練習、およびその基本となる作文の練習で進行する。

授業の到達目標
日常的な会話能力の獲得にとどまらず、様々な分野のニュースや社会における出来事について正確に聞き取り、またそれを正しいスペイン語で書く能力をも身につける。さらにはそれらのテーマについてスペイン語で討論することのできるレベルを目指す。

成績評価方法
●**試験**　70%　　オーラル試験　30%　ペーパー試験　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への参加、宿題の達成度
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語中上級（作文力をつける）1　スペイン語での発信力を高めよう							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
スペイン語による「発信力」「伝える力」を鍛えることを目的とするクラスです。4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じてコミュニケーション力を高めるための基礎作りを行います。パターン化した文の暗記ではなく、状況を感じ取って反応する、簡潔に伝えるストラテジーなどについても学びます。
授業は以下の3種類の活動を組み合わせ、履修者の関心や状況に応じて調整しながら進めます。
1.実際に文を作る際に間違い易いこと、迷うことに焦点を当て、基礎文法の確認をしながら作文力の底固めをする。
2.社会生活の色々な話題に関する短い教材を読み、キーセンテンスを選んだり、自分の考えや経験を簡潔に伝える活動を行う。
3.語彙力・文章力を高めるための活動として、DELE（外国語としてのスペイン語認定試験）A2～B1に準拠した練習問題を取り入れる。

授業の到達目標
1.実際のスペイン語使用場面での基礎文法の運用力を高める。
2.話題を提供する、相手の話に反応する、自分の意見や考えを簡潔に伝えるなど、積極的にコミュニケーションする態度やストラテジーを身に着ける。
3. DELE　A2～B1レベルの語彙力・表現力をつける。

成績評価方法
●**試験**　40%　　文章構成力・語彙力・表現力の習得度を確認するテストを行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　出席率、課題の達成度、自らの意見・関心・疑問を積極的に表現する態度を総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL
クラスでは積極的に発言して、考え方・感じ方をシェアして学べる貴重な場を有効に使いましょう。
教室での活動を効果的なものにするために、作文や教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中上級（作文力をつける）2　スペイン語での発信力を高める							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語による「発信力」「伝える力」を鍛えることを目的とするクラスです。4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じてコミュニケーション力を高めるための活動を行います。直訳ではなく、意味を考え、簡潔に内容を伝える工夫などについて考えます。状況を把握する、相手を気遣う応答、上手に伝えるストラテジーなどについても学びます。

授業は以下の活動を組み合わせていきますが、履修者の関心や状況に応じて適宜調整しながら進めます。

1.日常生活の実際のやり取りでよくあるメール文を作る練習をする。

2.社会生活の色々な話題に関する短い教材を読み、要約を書いたり、簡潔に意見をまとめるなどの活動を行う。

3.語彙力・文章力を高めるための活動として、DELE（外国語としてのスペイン語認定試験）B1～B2に準拠した練習問題を取り入れる。

授業の到達目標

1.日常的な話題であれば、簡単なメールのやり取りができる。

2.話題を提供する、相手の話に反応する、自分の意見や考えを簡潔に伝えるなど、その場に相応しいコミュニケーション・ストラテジーを使える。

3. DELE　B1レベルの語彙力・表現力をつける。

成績評価方法

●**試験**　40%　　文章構成力・語彙力・表現力の習得度を確認するテストを行います。

●**レポート**　0%

●**平常点**　60%　　出席率、課題の達成度、自らの意見・関心・疑問を積極的に表現する態度を総合的に判断します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

クラスでは積極的に発言して、考え方・感じ方をシェアして学べる貴重な場を有効に使いましょう。

教室での活動を効果的なものにするために、作文や教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語上級（近現代史を知る）1　スペインの社会文化事情を読み解く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペインの近現代の重要な歴史的出来事や社会事情の変化に関する様々な記事を読み、スペインやヨーロッパ社会に対する理解を深めながら、スペイン語力、特に読解力のアップを図ります。日本の近現代の出来事や社会事情と対比するなどして、批判的に読み解く能力を高めることも目指します。

授業活動としては、記事の内容確認を全体で行った後、チェックシートを使って理解の確認をする、キーセンテンスを探す、異なる語や表現を使って内容を言い換えるなどしてスペイン語力を高めます。また、関連する補足資料（映画などの映像資料、新聞やネットの記事など）を紹介して背景的知識を補い、興味を持ったこと・疑問に思ったことについて意見を交換します。

履修者の希望や状況に応じて、扱うテーマを調整したり、スペイン語での意見交換を円滑にするために語彙や文法の補足学習を適宜取り入れたりしていきます。

授業の到達目標

1. 歴史的背景を踏まえて、スペインの現代社会事情の概略を理解する。

2. 辞書を使えば、ある程度まとまった内容のスペイン語の資料について、概要を把握し、キーワード・キーセンテンスを認識できる。

3. 既存の知識や自文化の状況を踏まえ、情報を多角的にとらえ、批判的に読み解く態度を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　1. 授業を振り返って関心のあるテーマを選び、概要をまとめる課題を出します。 2. 授業で自分が関心を持ったことについて補足情報を調べ、簡単な報告をします。

●**平常点**　60%　　出席率、授業参加度（自らの疑問・意見・関心を積極的に発言する態度）、授業の準備などを総合的に判断します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

幅広く色々なテーマを扱っていくので、各テーマに関心を向けて世界を広げる一方、自分が深めたいと思うテーマに巡りあうきっかけになればと思っています。身近な問題と比べるなどして積極的に発言する態度を歓迎します。教室での活動を効果的なものにするために、教材の予習などはきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語上級（近現代史を知る）2　ラテンアメリカ諸国の社会文化事情を読み解く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテンアメリカ諸国の近現代の歴史的出来事や社会事情に関する様々な記事を読み、ラテンアメリカ諸国に対する理解を深めながら、スペイン語力、特に読解力のアップを図ります。日本の近現代の出来事や社会事情と対比するなどして、批判的に読み解く能力を高めることも目指します。

授業の活動としては、記事の内容確認を全体で行った後、チェックシートを使ってやりとりしたり、キーセンテンスを探したり、異なる表現を使って内容を言い換えたりして、スペイン語力を高めます。また、関連する補足資料（映画などの映像資料、

新聞やネットの記事など）を紹介して背景的知識を補い、興味を持ったこと・疑問に思ったことについて意見を交換します。
履修者の希望や状況に応じて、扱うテーマを調整したり、スペイン語での意見交換を円滑にするために、語彙や文法の補足学習を適宜取り入れたりしていきます。

授業の到達目標

1. 歴史的背景を踏まえて、ラテンアメリカ諸国の社会文化事情を理解し、興味を持つ。
2. 辞書を使えば、ある程度まとまった内容のスペイン語の資料について、概要を把握し、キーセンテンスを認識できる。
3. 既存の知識や自文化の状況を踏まえ、情報を多角的にとらえ、批判的に読み解く態度を身に付ける。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40%　1. 授業を振り返り、関心のあるテーマを選んで概要をまとめる課題を出します。 2. 授業で関心を持ったことについて補足情報を調べ、簡単な報告をします。
●**平常点** 60%　出席率、授業参加度（自らの疑問・意見・関心を積極的に表現する態度）、授業の準備などを総合的に判断します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

色々な国のテーマを扱っていくので、各国の事情に関心を向けて世界を広げる一方、自分が深めたいと思うテーマに巡りあうきっかけになればと思っています。身近な問題と比べるなどして積極的に発言する態度を歓迎します。教室での活動を効果的なものにするために、教材の予習はきちんと行ってください。

科目名	スペイン語中級（コミュニケーション活動）1　A							
担当者名	アイトモレーノ　イサーク							
西語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」もしくは「初級スペイン語」以上を終えた学習者が対象です。この授業では、学習済みの文法や語彙を実践的に用いながら、会話力を伸ばす練習に集中します。そのために、語彙を増やし、話す練習を多く行います。聴取力は会話力と深い関係を持つため、リスニングも行います。色々なテーマについて話しながら、スペイン語圏の文化について学びましょう。

授業の到達目標

様々な日常的なテーマについて、情報や意見を交換できるようにすることを目指します。

成績評価方法

●**試験** 50%　試験および小テスト。
●**レポート** 0%　-
●**平常点** 50%　授業への積極的な参加。
●**その他** 0%　-

備考・関連URL

中級（コミュニケーション活動）1Bとは同一科目なので、重複履修はできません。
授業に毎回、西和辞書、和西辞書（電子辞書が便利）が必要です。

科目名	スペイン語中級（コミュニケーション活動）1　B							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語圏の人々に自分の意思を伝え、また相手の意思を正確に理解するコミュニケーション能力の獲得を目指します。
教科書およびDVD教材からその日のテーマや重要表現を提示し、その課題について教師と生徒、また生徒同士での口頭実践練習を中心に授業をすすめます。
言語の背景にある文化や習慣、伝統、人生観などを理解することも大切であり、そのためのショートビデオを随時紹介します。

授業の到達目標

スペイン語圏の人々とスペイン語で日常的な話題についてコミュニケーションがとれるレベルを目指します。円滑なスペイン語でなくとも通じるスペイン語、実生活に役立つスペイン語能力を身につけることを目標にします。

成績評価方法

●**試験** 70%　授業内試験（2〜3回）の平均点
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　授業への参加度と宿題提出度
●**その他** 0%

備考・関連URL

中級（コミュニケーション活動）1Aとは同一科目なので重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（コミュニケーション活動）2　A							
担当者名	アイトモレーノ　イサーク							
西語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」もしくは「初級スペイン語」以上を終えた学習者が対象です。
「スペイン語中級（コミュニケーション活動）1　A」と同様に、学習済みの文法や語彙を実践的に用いながら、会話力を伸ばす練習に集中します。そのために、語彙を増やし、話す練習を多く行います。聴取力は会話力と深い関係を持つため、リスニングも行います。色々なテーマについて話しながら、スペイン語圏の文化について学びましょう。

授業の到達目標

中級(コミュニケーション活動)1Aにひきつづき、スペイン語の基礎文法と語彙を復習しながら、会話力を身につけていきます。
修了時には、スペイン語でさらに込み入った会話ができる能力を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50% 試験および小テスト。
●**レポート** 0% -
●**平常点** 50% 授業への積極的な参加。
●**その他** 0% -

備考・関連URL

中級(コミュニケーション活動)2Bとは同一科目なので、重複履修はできません。
授業に毎回、西和辞書、和西辞書（電子辞書が便利）が必要です。

科 目 名	スペイン語中級（コミュニケーション活動）2 B							
担当者名	プラナス ナバロ イネス							
西語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語圏の人々に自分の意思を伝え、また相手の意思を正確に理解するコミュニケーション能力の獲得を目指します。
教科書およびDVD教材からその日のテーマや重要表現を提示し、その課題について教師と生徒、また生徒同士での口頭実践練習を中心に授業をすすめます。
言語の背景にある文化や習慣、伝統、人生観などを理解することも大切であり、そのためのショートビデオを随時紹介します。

授業の到達目標

スペイン語圏の人々とスペイン語で日常的な話題についてコミュニケーションがとれるレベルを目指します。円滑なスペイン語でなくとも通じるスペイン語、実生活に役立つスペイン語能力を身につけることを目標にします。

成績評価方法

●**試験** 70% 授業内試験（2〜3回）の平均点
●**レポート** 0%
●**平常点** 30% 授業への参加度と宿題提出度
●**その他** 0%

備考・関連URL

中級（コミュニケーション活動）2Aとは同一科目なので重複履修はできません。

科 目 名	初級スペイン語1 スペイン語の基礎力をつけ、スペイン語圏社会への扉を開く							
担当者名	四宮 瑞枝							
西語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めてスペイン語を学ぶ人を対象としています。週一度の授業でスペイン語文法の基礎（直説法現在まで）を学ぶので、通常のクラスよりも速度は若干速めです。
4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるように、色々な活動を組み合わせて授業を進めますが、スペイン語圏の社会事情にも触れて、視野を広げる楽しさを体感してもらえればと思います。

授業の到達目標

1. スペイン語初級文法（直説法現在まで）の全体像を理解する。
2. 日常の生活でよく使われる基本語彙を身に付ける。
3. 身近なテーマであればスペイン語で簡単なやりとりができる。
4. スペイン語圏の社会事情に関心を持ち、視野を広げる。

成績評価方法

●**試験** 50% 学期末試験を実施します。
●**レポート** 0% 実施の予定はありません。
●**平常点** 50% 各課終了毎に行う確認の小テスト、出席、授業参加度、宿題の達成度などを総合的に判断します。
●**その他** 0% 実施の予定はありません。

備考・関連URL

週1回だけの授業で進める速習クラスなので、少し大変かもしれませんが、多言語を学んで自分の世界・可能性を広げたい、スペイン語圏に関心があるなど、意欲ある皆さんと、時間を有効に使って、目標レベルへに到達出来ればと思います。そのためには、事前・事後の学習をしっかり頑張りましょう。「基礎スペイン語」を履修中あるいは履修した人は内容が重複するので、履修は薦められません。

科 目 名	初級スペイン語2 スペイン語の基礎力をつけ、スペイン語圏社会への扉を開く							
担当者名	四宮 瑞枝							
西語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「初級スペイン語1」もしくは「基礎スペイン語（Step1）」を履修した人を対象として、スペイン語文法の基礎(直説法過去まで）を学びます。4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるように色々な活動を組み合わせて授業を進めます。春学期同様に通常のクラスよりもスピードは若干速めですが、スペイン語圏の社会文化事情にも触れて、視野を広げる楽しさを体感していきます。

授業の到達目標

1．スペイン語初級文法（直説法現在、直説法過去まで）の全体像を理解する。
2．日常生活でよく使われる基本語彙を身に付ける。
3．身近なテーマであればスペイン語で簡単なやりとりができる。
4．スペイン語圏の社会事情に関心を持ち、視野を広げる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験を実施します。
●**レポート**　0%　　実施の予定はありません。
●**平常点**　50%　　各課終了毎に行う確認の小テスト、出席、授業参加度、宿題の達成度などを総合的に判断します。
●**その他**　0%　　実施の予定はありません。

備考・関連URL

週1回だけで進める速習クラスなので、少し大変かもしれませんが、多言語を学んで自分の世界・可能性を広げたい、スペイン語圏に関心があるなど、意欲ある皆さんと、時間を有効に使って、目標レベルへ到達出来ればと思います。そのためには、事前・事後の学習をしっかり頑張りましょう。「基礎スペイン語（Step2）」を履修中、もしくは履修した者は内容が重複するので、履修は薦められません。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）1　A							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をします。この授業では特に、日本人が不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視します。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本で行いますが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を行います。

授業の到達目標

表現の幅を増やしながら1年次に学習した基礎文法を、特に目的人称代名詞、再帰動詞、線過去・点過去、命令法など習得しにくいポイントを中心に復習し、場面に適切なアウトプットを行えるようになることを目指します。

日本語の逐語訳に頼らずに、文脈の中でスペイン語を理解しながら使える表現を獲得していく学習態度を身に付けることも目標としています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　習熟度テスト 50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト・授業参加・課題
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業は端末室で行われる予定です。PCでのスペイン語入力を学習し、文法や語彙の復習を授業外に自動採点で行えるようにすることで、教室での活動の効率をあげることを目指します。指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行ってきてください。

中級（文法・実践）1Bとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）1　B　未習文法の修得とスペイン語のレベルアップ							
担当者名	宮内　ふじ乃							
西語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、多くのタスクや語彙を含む教科書に沿って授業を進めます。講義前半は基礎文法の復習および接続法の定着を図る学習活動を取り入れ、それをさらに発展させて語彙力と応用力をつけることを目指します。

文法・作文・講読を中心に、スペイン語圏の文化・歴史・自然についての理解を深めると同時に、スペイン語の検定試験に対応する練習問題なども取り入れて、スペイン語力の総体的アップを図ります。

授業の到達目標

1．接続法・条件文とその複雑な構造の文の読解ができ、書けるようになる。
2．スペイン語を使って身近なテーマや関心のあるテーマについての情報を取ることができる。
3．スペイン語検定の合格を目指す。（DELE A2レベル、西語検定3-4級）

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出席、授業参加度、課題達成度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進行は学生の習熟度にもよるので、必ずしもこの通りに進むわけではありません。中級（文法・実践）1Aとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）1　A　ラテンアメリカ諸国について学ぼう！							
担当者名	杉守　慶太							
西語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習のスペイン語の基礎文法事項の定着をはかるとともに、それを応用した読解力を養うことを目的にしています。また、読解力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情についての理解を深めることができます。講読の他に、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画・音楽など）を毎回使用する予定です。

授業の到達目標

1. テキストの内容を正しく理解し、読めるようにする。
2. スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情について知る。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。
中級(社会文化事情を知る）1Bとは同一科目になるので、重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）1　B　Introducción a la Sociedad y Cultura Latinoamericana 1							
担当者名	新谷　ロクサナ							
西語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Clase de español de nivel intermedio para incrementar las habilidades lingüísticas aprendidas durante el nivel básico. Este curso se enfoca en la adquisición no solo de vocabulario y gramática, si no también en el desarrollo de las habilidades lingüísticas, al mismo tiempo que se aprende sobre la sociedad y cultura de Latinoamérica.

Los estudiantes profundizarán sobre el mundo latinoamericano a través de discusiones individuales o grupales de los materiales como lecturas, audios e imágenes. Al final del curso los estudiantes escribirán un reporte y harán presentación final sobre sus investigaciones.

基礎レベルで習得した言語スキルを引き続き向上させるための中級クラス。
話す、読む、聞く、書く、の4技能をバランスよくさらに習得し、同時にラテンアメリカ諸国の社会と文化について学ぶため、より統合的なアプローチで語彙・文法の学習に取り組みます。

個々の意見を発表する、グループでのディスカッションなどを重ね、読み物、オーディオ、映像など異なる素材を総合的に用いる中でラテンアメリカの世界に浸かることになります。コースの最後にはレポートを書き、プレゼンテーションを行います。

授業の到達目標

1. Adquirir conocimientos sobre la sociedad y cultura de los países latinoamericanos.
2. Mejorar las habilidades lingüísticas e incrementar el vocabulario en español.

1. ラテンアメリカ諸国の社会と文化に関する知識を習得する。
2. スペイン語の語学力を向上する.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Examen parcial　中間試験
●**レポート**　50%　　Reporte y presentaciones　レポートとプレゼンテーション
●**平常点**　20%　　Participación y tareas　授業参加と宿題
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）2　A							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期に引き続き、「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をします。この授業では特に、日本人が不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視します。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本で行いますが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を行います。

授業の到達目標

表現の幅を増やしながら1年次に学習した基礎文法を、特に接続法現在・過去、未来・過去未来、間接話法、関係詞などを中心に復習し、場面に適切なアウトプットを行えるようになることを目指します。

日本語の逐語訳に頼らずに、文脈の中でスペイン語を理解しながら使える表現を獲得していく学習態度を身に付けることも目標としています。

成績評価方法
●**試験**　50%　　習熟度テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト・課題・提出物など
●**その他**　0%

備考・関連URL
授業は端末室で行われる予定です。PCでのスペイン語入力を学習し、文法や語彙の復習を授業外に自動採点で行えるようにすることで、教室での活動の効率をあげることを目指します。指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行ってきてください。
中級（文法・実践）2Bとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（文法・実践）2　B　スペイン語で小説を読む							
担当者名	宮内　ふじ乃							
西語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
「基礎スペイン語」および「中級スペイン語」を終えた学生を対象に、スペインの短編小説と映画を通して、スペイン語の読解力や表現力を高めることを目標とします。これまでに習得した基本的な文法知識を使って、文法の用例や文法理解のために書かれた文章とは異なるスペイン語に挑戦します。スペイン語の文学テキストを「読む」（音読と読解）ことによって、スペインの人・社会・歴史についての理解や興味を深めることも目指します。ネイティヴが親しんできた小説を、自分も読めるのだということを実感し、自らのスペイン語力に自信が持てるようになってもらうのも本講義の狙いのひとつです。

授業の到達目標
1．スペイン語で小説が読めるようになる。
2．文学作品を通して、スペインの社会や歴史の理解を深める。
3．映画の中で話されている日常的なスペイン語を聞き取り、使えるようになる。

成績評価方法
●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　10%　　課題提出（1回）
●**平常点**　40%　　出席、授業参加度、課題達成度を総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL
進度などは学生の理解度に合わせ、ある程度の柔軟性を持たせて進む場合があります。中級（文法・実践）2Aとは同一科目になるので重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）2　A　ラテンアメリカ諸国について学ぼう！							
担当者名	杉守　慶太							
西語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
この授業は「基礎スペイン語」、「中級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習の文法事項を確認しながら、読解力をさらに養うことを目的にしています。スペイン語の新聞・雑誌記事を読めるようになることを目指します。また、様々な内容を扱ったテキストの読解を通じて、「読む」力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ）の社会文化事情についての理解を深めることができます。講読の他に、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画・音楽など）を毎回使用する予定です。

授業の到達目標
1．スペイン語で新聞・雑誌の記事、論文を読めるようになる。
2．スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化について知る。

成績評価方法
●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。履修者の希望をできるだけ取り入れて進めていく予定です。
中級（社会文化事情を知る）2Bとは同一科目になるので、重複履修はできません。

科 目 名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）2　B　Introducción a la Sociedad y Cultura Latinoamericana 2							
担当者名	新谷　ロクサナ							
西語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
Clase de español de nivel intermedio para incrementar las habilidades lingüísticas aprendidas durante el nivel básico. Este curso se enfoca en la adquisición no solo de vocabulario y gramática, si no también en el desarrollo de las habilidades lingüísticas, al mismo tiempo que se aprende sobre la sociedad y cultura de Latinoamérica.
Los estudiantes profundizarán sobre el mundo latinoamericano a través de discusiones individuales o grupales de los materiales como lecturas, audios e imágenes. Al final del curso los estudiantes escribirán un reporte y harán presentación final sobre sus investigaciones.

基礎レベルで習得した言語スキルを引き続き向上させるための中級クラス。
話す、読む、聞く、書く、の4技能をバランスよくさらに習得し、同時にラテンアメリカ諸国の社会と文化について学ぶため、より統合的なアプローチで語彙・文法の学習に取り組みます。

個々の意見を発表する、グループでのディスカッションなどを重ね、読み物、オーディオ、映像など異なる素材を総合的に用いる中でラテンアメリカの世界に浸かることになります。コースの最後にはレポートを書き、プレゼンテーションを行います。

授業の到達目標

1. Adquirir conocimientos sobre la sociedad y cultura de los países latinoamericanos.
2. Mejorar las habilidades lingüísticas e incrementar el vocabulario en español.

1. ラテンアメリカ諸国の社会と文化に関する知識を習得する。
2. スペイン語の語学力を向上する.

成績評価方法

●**試験** 30%　Examen parcial　中間試験
●**レポート** 50%　Reporte y presentación　レポートとプレゼンテーション
●**平常点** 20%　Participación y tareas　授業参加と宿題
●**その他** 0%

科 目 名	スペイン語中級（コミュニケーション力アップ） Clase de interacción por medio de juegos de rol							
担当者名	アラストゥルエイ　メリノ　ハビエル　サンティアゴ							
西語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Esta es una clase de interacción total entre los estudiantes, con ayuda del profesor. El medio que utilizamos para crear la interacción es un juego de rol: la clase（profesor y estudiantes）colabora para contar juntos una historia en la que cada capítulo es una sesión（una clase）. El profesor ayuda a crear la narrativa, y los estudiantes controlan las acciones y palabras de los personajes principales en la historia.
（教員の助けを借りて、履修者自身がコミュニケーション活動を主体的に行うクラスです。ストーリー作りなどの共同作業を通じてスペイン語力を鍛えていきます。各回のテーマと学習語彙は効果的学習につながるように配列にしています。）

授業の到達目標

El proceso del juego de rol está diseñado para que los estudiantes tengan que interaccionar con sus compañeros y utilizar nuevo vocabulario. Cada uno de los capítulos está centrado en un grupo léxico.

成績評価方法

La nota de la clase se divide en dos partes: 70% para la interacción a lo largo del curso y 30% para el examen final, en el que se resumen los contenidos vistos a lo largo del curso.

科 目 名	スペイン語中上級（コミュニケーション力アップ） Clase de interacción por medio de juegos de rol							
担当者名	アラストゥルエイ　メリノ　ハビエル　サンティアゴ							
西語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Esta es una clase de interacción total entre los estudiantes, con ayuda del profesor. El medio que utilizamos para crear la interacción es un juego de rol: la clase（profesor y estudiantes）colabora para contar juntos una historia en la que cada capítulo es una sesión（una clase）. El profesor ayuda a crear la narrativa, y los estudiantes controlan las acciones y palabras de los personajes principales en la historia.
（教員の助けを借りて、履修者自身がコミュニケーション活動を主体的に行うクラスです。ストーリー作りなどの共同作業を通じてスペイン語力を鍛えていきます。各回のテーマと学習語彙は効果的学習につながるように配列にしています。）

授業の到達目標

El proceso del juego de rol está diseñado para que los estudiantes tengan que interaccionar con sus compañeros y utilizar nuevo vocabulario. Cada uno de los capítulos está centrado en un grupo léxico.

成績評価方法

La nota de la clase se divide en dos partes: 70% para la interacción a lo largo del curso y 30% para el examen final, en el que se resumen los contenidos vistos a lo largo del curso.

科 目 名	スペイン語中上級（ニュースで学ぶ）1　スペイン語中級 （ニュースで学ぶ）							
担当者名	タランコ　ダビド							
西語	2単位	春学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

En cada lección se presentará un tema de actualidad por medio de artículos de prensa,vídeos o audios. Una vez comprendido el contenido y adquirido el vocabulario,se iniciará una conversación entre los alumnos y el profesor. En el espacio cultural, los estudiantes pensarán en grupo cómo responder de forma sencilla a preguntas sobre la cultura japonesa como ¿qué es el “hanami”?, ¿qué es el “undokai”?o ¿qué es el “mochi”?

毎回よく話題に上る今日的テーマについて紹介します。新聞記事を読んだり、映像を見たり、音声を聞いたりして内容への理解を深め、用語を身に付けた後、会話活動を行います。文化のコーナーでは、「花見って何」、「運動会って何」、「餅って何」等、外国の人に日本の文化を分かりやすいスペイン語で紹介する方法を皆で考えます。

授業の到達目標

El objetivo principal es mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa.
Los estudiantes se familiarizarán con el vocabulario básico de temas de actualidad（economía, política, medioambiente, deporte, etc.）y adquirirán las destrezas necesarias para explicar en español diversos aspectos de la cultura japonesa（celebraciones, costumbres, artes, etc.）.

主な目的は読解力やコミュニケーション力を高めることです。
経済、政治、環境、スポーツ等よく話題に上るテーマの用語に馴染み、祝祭事、習慣、芸術等、様々な面から日本の文化をスペイン語で紹介するための技能を身に付けます。

成績評価方法

授業内ワーク: 40 %
プレゼンテーション: 30 %
テスト: 30 %

備考・関連ＵＲＬ

Es importante tener interés por el mundo de la comunicación y participar activamente durante la clase. Es posible que haya cambios en el orden de los temas según el desarrollo de la clase.

ニュースに対して興味を持ち、積極的に授業に参加する学生が望ましい。
状況に応じて、扱うテーマの内容を調整していきます。

http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/es/

http://elpais.com/

http://www.elmundo.es/

http://www.rtve.es/

http://www.clarin.com/

http://www.eluniversal.com.mx/

http://elcomercio.pe/

科 目 名	スペイン語中上級（ニュースで学ぶ）２　スペイン語中上級　（ニュースで学ぶ）							
担当者名	タランコ　ダビド							
西語	２単位	秋学期	金曜日	１時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

En cada lección se presentará un tema de actualidad por medio de artículos de prensa,vídeos o audios. Una vez comprendido el contenido y adquirido el vocabulario,se iniciará una conversación entre los alumnos y el profesor. En el espacio cultural, los estudiantes pensarán en grupo cómo responder de forma sencilla a preguntas sobre la cultura japonesa como ¿qué es el hatsumode?, ¿qué es el koyo? o ¿qué es el ekiden?

毎回よく話題に上る今日的テーマについて紹介します。新聞記事を読んだり、映像を見たり、音声を聞いたりして内容への理解を深め、用語を身に付けた後、会話活動を行います。文化のコーナーでは、「初詣って何」、「紅葉って何」、「駅伝って何」等、外国の人に日本の文化を分かりやすいスペイン語で紹介する方法を皆で考えます。

授業の到達目標

El objetivo principal es mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa. Asimismo, se espera que los alumnos fortalezcan la capacidad de expresar su opinión.
Los estudiantes se familiarizarán con el vocabulario básico de temas de actualidad（economía, política, medioambiente, deporte, etc.）y adquirirán las destrezas necesarias para explicar en español diversos aspectos de la cultura japonesa（celebraciones, costumbres, artes, etc.）.

主な目的は読解力やコミュニケーション力を高め、自分の意見を述べる能力を伸ばすことです。
経済、政治、環境、スポーツ等よく話題に上るテーマの用語に馴染み、祝祭事、習慣、芸術等、様々な面から日本の文化をスペイン語で紹介するための技能を身に付けます。

成績評価方法

授業内ワーク: 40 %
プレゼンテーション: 30 %
テスト: 30 %

備考・関連ＵＲＬ

Es importante tener interés por el mundo de la comunicación y participar activamente durante la clase. Es posible que haya cambios en el orden de los temas según el desarrollo de la clase.

ニュースに対して興味を持ち、積極的に授業に参加する学生が望ましい。
状況に応じて、扱うテーマの内容を調整していきます。

http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/es/

http://elpais.com/

http://www.elmundo.es/

http://www.rtve.es/

http://www.clarin.com/

http://www.eluniversal.com.mx/

http://elcomercio.pe/

科 目 名	スペイン語中級（芸術・文化を知る）1　スペインの芸術・生活文化に親しもう							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペインの芸術文化や日常の生活文化に焦点を当てた教材を読みながら、基礎文法の定着を図るための復習や接続法の学習を入れ、全体的スペイン語力の底上げを図ります。自文化について説明したり、他の文化圏の情報と比較したりして理解を深め、ステレオタイプの問題についても考えていきます。

授業の到達目標

1. スペインの芸術文化や生活文化に対する基礎的知識を持ち、背景にある歴史的経緯や価値観に目を向けることができる。
2. 自文化について簡単なスペイン語で説明できる。
3. スペイン語の基礎文法を理解し、身近な話題で運用できる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　基礎文法力の確認をするテストを行います。
●**レポート**　30%　　関心を持ったテーマについてのミニレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席率、授業準備、授業参加（自らの意見、関連する情報などを積極的に発言する態度）などを総合的に判断しますs。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者の関心やスペイン語力に応じて扱うテーマを調整していきます。
同じ文化圏に属していても価値観や感じ方に違いがあることに注意して、異文化を理解する目を養いましょう。教室での活動を効果的なものにするために、教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中級（芸術・文化を知る）2　ラテンアメリカ諸国の芸術・生活文化に親しもう							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテンアメリカ諸国の芸術文化や日常の生活文化に焦点を当てた教材を読み、映像資料を活用したり、自文化を説明したり他の文化圏の情報を交えたりしながら、スペイン語力・異文化能力を高めることを目的とするクラスです。必要に応じて接続法も含めた文法学習を入れ、スペイン語力の総体的アップを図りながら授業を進めます。

授業の到達目標

1. ラテンアメリカ諸国の芸術文化や生活文化に対する基礎的知識を持ち、背景にある歴史的経緯や価値観に目を向けることができる。
2. 自文化についてスペイン語で簡単な説明ができる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　語彙、表現力、文法の理解度を確認する小テストを行います。
●**レポート**　30%　　関心を持ったテーマについてミニレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席率、授業準備、授業参加（自らの意見、関連する情報などを積極的に発言する態度）などを総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者の関心やスペイン語力に応じて扱うテーマを調整していきます。
同じ文化圏に属していても価値観や感じ方に違いがあることに注意して、異文化を理解する目を養いましょう。教室での活動を効果的なものにするために、教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中上級（検定試験をめざす）1							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎または初級スペイン語で培ったスペイン語力を基礎に、4つの技能（読む、聴く、書く、話す）をバランスを取りながら

学習し、DELE（Diploma de Español como Lengua Extranjera）のA2レベルのスペイン語力の取得を目指します。できるだけ多くの文章や音声に触れ、文脈から意味を理解し、会話や作文に応用できる自然な表現を選択的に習得していく訓練を行います。

DELE を意識した教材を使用し、DELE取得を目指す学生の試験対策にもなる授業の構成になります。

授業の到達目標

まず、DELEのA2レベルのスペイン語ではどの程度の知識や技能が要求されるのかを把握し、それぞれの学生がそのレベルのスペイン語を習得するにはどのような学習をどの程度行う必要があるのかを理解することが第一の目標です。

その上で課題を含めた授業時間、及び自習時間を効率よく使う方法を検討し、教材の使い方や各単元の勉強にあてる時間配分などをプログラムできるようになることが第二の目標です。

最終目的は自分に必要な学習プログラムをモニタリングしながら実行し、スペイン語力をA2レベルに到達させる、あるいは少しでも多く近づけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　小テスト・習熟度テスト 50%
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席・課題・提出物など　50%
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	スペイン語中上級（検定試験をめざす）2							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎または初級スペイン語及び中級レベルで培ったスペイン語力を基礎に、4つの技能（読む、聴く、書く、話す）をバランスを取りながら学習し、DELE（Diploma de Español como Lengua Extranjera）のB1レベルのスペイン語力の取得を目指します。できるだけ多くの文章や音声に触れ、文脈から意味を理解し、会話や作文に応用できる自然な表現を選択的に習得していく訓練を行います。

DELE を意識した教材を使用し、DELE取得を目指す学生の試験対策にもなる授業の構成になります。

授業の到達目標

まず、DELEのB1レベルのスペイン語ではどの程度の知識や技能が要求されるのかを把握し、それぞれの学生がそのレベルのスペイン語を習得するにはどのような学習をどの程度行う必要があるのかを理解することが第一の目標です。

その上で課題を含めた授業時間、及び自習時間を効率よく使う方法を検討し、教材の使い方や各単元の勉強にあてる時間配分などをプログラムできるようになることが第二の目標です。

最終目的は自分に必要な学習プログラムをモニタリングしながら実行し、スペイン語力をB1レベルに到達させる、あるいは少しでも多く近づけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　小テスト・習熟度テスト 50%
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席・課題・提出物など　50%
●**その他**　0%

科 目 名	イタリア語を読む2（歴史・思想）　イタリア史への招待							
担当者名	三森　のぞみ							
伊語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

都市や地域によって歴史の歩みが大きく異なるイタリア。1861年の「イタリア王国」成立まで、イタリアには統一国家が存在しませんでした。イタリアの文化や社会をより深く知るためには、こうしたイタリア史への理解が欠かせません。そのための一歩として、いくつかの平易なテキストを読みながら、古代ローマ世界の伝統、中世都市社会、ルネサンス、そしてイタリアという「国家」が作られる過程を学んでいきます。これまでのイタリア語の知識の応用、新たな文法や語彙の習得に加え、イタリア語の文章に慣れ、読み方のコツを身につけることで、「読む」のみならず、「聴く」「話す」「書く」力も高めることができるでしょう。また授業では、パワーポイントを活用し、視覚資料によってできるだけ具体的に歴史を捉える作業を行います。さらに学期末には、イタリア史に関連する映画作品を観賞し、その時代背景を考えてみます。

授業の到達目標

「1年イタリア語」既習者あるいはそれと同等の語学力を持つ学生が、リーディングの効果的なトレーニングを行うことで総合的な語学能力を向上させること、また、「イタリア語を学ぶ」という単純な語学学習にとどまることなく、「イタリア語で学ぶ」ために必要なスキルを身につけ、イタリアの歴史や思想、文化、社会に対する理解を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　指定されたイタリア語テキストの和訳を学期末に提出して下さい。
●**平常点**　70%　　通常の授業への参加度（出席、授業態度、予習など）によって評価します。期末試験は行いません。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの歴史、思想、文化、社会に関心を持ち、イタリア語を通してその理解を深めたいと思う人であれば、誰でも歓迎します。異なる分野を学ぶ人たちが集まり、楽しく活気にあふれた授業の場ができることを期待しています。

科 目 名	イタリア文化を知る3（映画）							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代イタリアの映画を日本語字幕で鑑賞する講座です。1作品を3回にわけて鑑賞します。各授業は、前半が作品上映、後半がその日の内容の記述です。3回目の授業では内容とともに感想や意見も書いてもらいます。それを4回目の授業で一緒に見ていき、文法的な間違いなどがあれば正しく直します。

授業の到達目標

この授業の目標は以下の3点です。

1. 映画を通して、現代イタリアの文化や社会を知る
2. 作品の感想や自分の意見を伝えるために必要な表現力の向上
3. これまで勉強した文法などの復習

成績評価方法

- **試験** 0%　なし
- **レポート** 50%　各授業における映画についての記述
- **平常点** 50%　出欠席、授業への参加意欲
- **その他** 0%

備考・関連URL

http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方留学センターへお問い合わせください。

科 目 名	イタリア文化を知る4（映画）							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代イタリアの映画を日本語字幕で鑑賞する講座です。1作品を3回にわけて鑑賞します。各授業は、前半が作品上映、後半がその日の内容の記述です。3回目の授業では、内容とともに感想や意見も書いてもらいます。それを4回目の授業で一緒に見ていき、文法的な間違いなどがあれば正しく直します。

授業の到達目標

この授業の目標は以下の3点です。

1. 映画を通して、現代イタリアの文化や社会を知る
2. 作品の感想や自分の意見を伝えるために必要な表現力の向上
3. これまで勉強した文法などの復習

成績評価方法

- **試験** 0%　なし
- **レポート** 50%　各授業における映画についての記述
- **平常点** 50%　出欠席、授業への参加意欲
- **その他** 0%

備考・関連URL

http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方留学センターへお問い合わせください。

科 目 名	資格を目指すイタリア語　1　レベルA1～B1（初級・準中級）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスでは、イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）とCELI（ペルージャ外国人大学）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSとCELIは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明するものです。この授業中に過去問題「レベルA1-A2」（初級）と「レベルB1」（準中級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSとCELIは、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS/CELI「レベルA1-A2-B1」(*) の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴き取り及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。

*この「A1-A2」及び「B1」（初級/準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

- **試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
- **レポート** 0%
- **平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他** 0%

備考・関連URL

検定試験を受けない方も受講可です。

http://www.iictokyo.esteri.it/IIC_Tokyo/Menu/Imparare_Italiano/Certificazioni/
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	資格を目指すイタリア語　2　レベルA2~B2（初級・中級）、C1（上級）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスでは、イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）とCELI（ペルージャ外国人大学）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSとCELIは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明するものです。この授業中に、CILS/CELI過去問題「レベルA2、B1-B2」（初級、準中級・中級）と「レベルC1」（上級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSとCELIは、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS/CELI「レベルA2、B1-B2、C1」(*）の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴取及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。

*この「A2、B1-B2」及び「C1」（初級～上級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

- **試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
- **レポート**　0%
- **平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

検定試験を受けない方も受講可です。
http://www.iictokyo.esteri.it/IIC_Tokyo/Menu/Imparare_Italiano/Certificazioni/
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語を読む1（文学・社会）　イタリア、そして世界への窓							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イタリアの新聞を一緒に読んでいく中級レベルの授業です。マスコミで使われるイタリア語を通して、さまざまな形式の文章表現を学びつつ、語彙を増やします。政治・経済・文化など様々なジャンルのテキストを扱います。イタリアのオンラインメディア「Il POST」（政治的に中道・信頼性のあるニュースメディア）の記事を基にしたオリジナル教材を用いて読解力を強化します。

授業の到達目標

時事イタリア語に触れながら、イタリアの近現代の社会や文化についてより深い知識を身につけることを目指します。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物による総合評価とします。特に授業態度を重視します。
- **その他**　0%

備考・関連URL

Il POST : www.ilpost.it

科 目 名	イタリア文化を知る1（美術）　ルネッサンス							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、ビデオ教材・マルチメディア教材とオリジナル資料を通して、ルネサンス期のイタリア美術を学びます。

歴史的・文化的背景を考察しながら、ヨーロッパ近代絵画の創始者ジョットから万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチまで、代表的画家の作品を取り上げて解説します。美術史を研究している学生、または関心を持っている学生が対象です。

イタリア美術を学びながら、これまでに学習したイタリア語文法、語彙を活用し、さらにイタリア語力をレベルアップして行きます。

授業の到達目標

これまでに学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして常用表現と語彙を増やしながら、文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法を習得
2. 語彙を増強
3. 新しい表現を習得

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　20%　　グループプレゼンテーションの内容を評価します。

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科目名	イタリア文化を知る2（美術）　ルネッサンスから20世紀まで							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、ビデオ教材・マルチメディア教材とオリジナル資料を通して、ルネッサンスから20世紀までのイタリア美術を学びます。

歴史的・文化的背景を考察しながら、マニエリスムの代表的画家アルチンボルドからボッチョーニのような20世紀の芸術運動を担う芸術家まで、代表的画家の作品を取り上げて解説します。

美術史を研究している学生、または関心を持っている学生が対象です。

イタリア美術を学びながら、これまでに学習したイタリア語文法、語彙を活用し、さらにイタリア語力をレベルアップして行きます。

授業の到達目標

これまでに学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして常用表現と語彙を増やしながら、文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法を習得
2. 語彙を増強
3. 新しい表現を習得

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　20%　　グループプレゼンテーションの内容を評価します。

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科目名	イタリア語中級1							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で、週2コマ履修【春期・イタリア語中級1＋イタリア語中級2（会話）】が可能な授業です。「1年イタリア語」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「A2」（初級）及び「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」のテキストを継続して使用し、初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級2（会話）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で「1年イタリア語」の続きとなるクラスです。週2コマの履修（春期／イタリア語中級1＋イタリア語中級2）が可能です。この授業の目標は次の二つです。一つは1年生で学んだ内容をしっかりと自分のものにすること、もう一つは新たな知識を吸収することです。そのため、会話、リスニング、作文、読解を総合的に学習します。グループワークを中心にイタリア語で積極的に会話することで、イタリア語の能力を総合的に向上させ、イタリアについての知識を深めます。

語学力の向上に真剣に取り組みたい人には、週2コマの履修をお勧めします。

授業の到達目標

「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。この講義では、「A2＊」および「B1＊」レベル（準中級）の教材を使用し、イタリア人講師のもとで、特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」のテキストを継続して使用し、初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSというイタリア政府認定のイタリア語検定試験問題の構成、レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

＊この「A2」（初級）および「B1」（準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」で参照できます。「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」（CEFR）とは、EU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　30%　　学習成果や理解度の確認のために、学期末試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

選択外国語

科 目 名	イタリア語中級3							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で、週2コマ履修【秋期・イタリア語中級3＋イタリア語中級4（会話）】が可能な授業です。「イタリア語中級1・2」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級4（会話）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で「イタリア語中級1，2」の続きとなるクラスです。週2コマの履修（秋期／イタリア語中級3＋イタリア語中級4）が可能です。この授業の目標は次の二つです。一つは1年生で学んだ内容をしっかりと自分のものにすること、もう一つは新たな知識を吸収することです。そのため、会話、リスニング、作文、読解を総合的に学習します。グループ

ワークを中心にイタリア語で積極的に会話することで、イタリア語の能力を総合的に向上させ、イタリアについての知識を深めます。
語学力の向上に真剣に取り組みたい人には、週2コマの履修をお勧めします。

授業の到達目標

「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。この講義では、「B1＊」レベル（準中級）の教材を使用し、イタリア人講師のもとで、特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」で使用したテキストのレベルアップを図るもので初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSというイタリア政府認定のイタリア語検定試験問題の構成、レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。
＊「B1」（準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」で参照できます。「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」（CEFR）とは、EU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　30%　　学習成果や理解度の確認のために、学期末試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中上級							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は「イタリア語中級」の続きとなるクラスです。「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中上級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。
この講義では「B1*」及び「B2*」レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「イタリア語中級」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、中級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。
*この「B1-B2」（準中級・中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語上級							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は「イタリア語中上級」の続きとなるクラスです。
「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語上級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能

力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。
この講義では「B2*」レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「イタリア語中級」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、中上級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。
*この「B2」（中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法
●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科目名	イタリア文化を知る5（都市を巡る） イタリア都市の伝統と文化							
担当者名	高津　美和							
伊語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
世界遺産登録数の国別ランキングで堂々の一位に輝き、多くの旅行者を魅了するイタリア。そんなイタリアの魅力をより良く知る鍵は、「都市」にあります。中世に都市国家として高い自立性を誇ったイタリアの諸都市は、現在もなお豊かな個性をそなえています。この授業では、ヨーロッパ最古の大学を擁するボローニャ、『ロミオとジュリエット』の舞台となったヴェローナをはじめとするいくつかの魅力的なイタリアの都市を取り上げて、その多種多様な歴史や美術、文学、祝祭、食文化などについて学びます。授業では、各都市に関連する内容が記されたイタリア語資料の講読を行います。また、CDやDVDなどの視聴覚資料を活用することによって理解を補います。

授業の到達目標
1．新しい単語・熟語表現の習得
2．既習の文法知識の応用、読解力の向上
3．イタリアの歴史や文化に関する知識の習得

成績評価方法
●**試験** 0%　なし
●**レポート** 40%　レポート
●**平常点** 60%　出席、授業への参加意欲
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL
受講者数や進度に応じて授業内容を変更する場合があります。

科目名	イタリア文化を知る6（都市を巡る） 机上で旅するイタリア							
担当者名	横山　修一郎							
伊語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
机上の旅行者の特権はどこへでも自由に行けること。
せっかくイタリア語の基礎を学んだのだから、言葉が実際に話されている場所に行ってみたい。その望みをかなえるのは、皆さんの一瞬のいきごみ次第、けれど、そのためには準備も必要。本講座が皆さんに提供できることは、これまで以上に「言葉を知ること」と「言葉が話されている場所を知ること」です。
本講座では、イタリアのいくつかの町を描いた映像作品を鑑賞します。また、町に関する説明文や文学作品を読みます。その過程において、イタリア語の語学力の維持とさらなる向上を目指します。そして、履修者の皆さんが、「イタリアの町の姿形」をより身近に捉えるようになること、これが本講座の最終的な目標です。

授業の到達目標
1. イタリア語の基礎学力を維持する。
2. 文法知識や語彙力のさらなる向上をめざす。
3. 映像作品などを通して、言葉そのものや言葉が話されている場所の持つ「雰囲気」をつかむ。

成績評価方法
●**試験** 0%　実施しません。
●**レポート** 40%　日本語レポート
●**平常点** 30%　出席、宿題課題への取り組み、授業への参加意欲
●**その他** 30%　授業内発表

備考・関連URL
グループで読解・練習などする機会も多々あります。知るも知らぬも互いに力合わせる気持ちで授業に参加して下さい。
また、履修者数及び進度の都合で、授業計画を変更することもあります。

科 目 名	第三外国語としてのイタリア語1							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

イタリア語を初めて学ぶ学生を対象に、文法事項の学習と会話練習を行う。イタリア語の語学力を養うには、文法知識の習得に加えて、生きた言葉として実際に使う演習が重要である。授業では、正確な文法知識に基づく会話の反復練習を通して、語彙力の向上と使える言葉としてのイタリア語の習得を目指す。また、さまざまなメディア（インターネットニュース、ビデオなど）を利用して、言葉と文化について学ぶ。

授業の到達目標

初級文法を学びながら、語彙の拡充を図るとともに基礎的なコミュニケーション能力（EU語学基準CEFRのA1レベル）を養う。

イタリア文化と触れあいながらイタリア語の習得を目指す。語彙力を高め文法を正しく学んだ上で、さまざまな場面を想定した会話練習を少人数グループで行う。会話練習を通してさらに語彙を増やし、学んだ知識の運用能力の向上を図る。

「旅行」「日常会話」の場で、自然な会話ができるようになることが、「第三外国語としてのイタリア語」の目標である。

成績評価方法

●**試験** 30%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	第三外国語としてのイタリア語2							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「第三外国語としてのイタリア語1」に引き続き、文法事項の学習と会話練習を行う。イタリア語の語学力を養うには、文法知識の習得に加えて、生きた言葉として実際に使う演習が重要である。授業では、正確な文法知識に基づく会話の反復練習を通して、語彙力の向上と使える言葉としてのイタリア語の習得を目指す。また、さまざまなメディア（インターネットニュース、ビデオなど）を利用して、言葉と文化について学ぶ。

授業の到達目標

初級文法を学びながら、語彙の拡充を図るとともに基礎的なコミュニケーション能力（EU語学基準CEFRのA1レベル）を養う。

イタリア文化と触れあいながらイタリア語の習得を目指す。語彙力を高め文法を正しく学んだ上で、さまざまな場面を想定した会話練習を少人数グループで行う。会話練習を通してさらに語彙を増やし、学んだ知識の運用能力の向上を図る。

「旅行」「日常会話」の場で、自然な会話ができるようになることが、「第三外国語としてのイタリア語」の目標である。

成績評価方法

●**試験** 30%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	朝鮮語中級							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

週4回の授業を1年（週2回の授業を1年半）程度学習した人を対象に、中級レベルの学習を行います。授業は中級の文法と会話を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。

毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と読解や作文の課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定4級〜3級前半レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50%　期末試験
●**レポート** 0%　無し
●**平常点** 50%　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他** 0%　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。

本授業のほか、「朝鮮語会話中級」または「朝鮮語作文中級」の授業を合わせて受講することをお勧めします。

＜留意点＞

・最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。
毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科目名	朝鮮語中上級							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
春学期の「朝鮮語中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業は中級の文法と会話を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と読解や作文の課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標
ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法
●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL
受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業のほか、「朝鮮語会話中上級1」または「朝鮮語作文中上級」の授業を合わせて受講することをお勧めします。
＜留意点＞
・最初の授業の人数でテキストを注文するので、受講希望者は最初の授業に出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科目名	朝鮮語上級1							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
「朝鮮語中上級」履修者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得と会話や発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標
ハングル能力検定準2級前半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法
●**試験**　50%　　中間試験・期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL
受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。
コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科目名	朝鮮語上級2							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
「朝鮮語中上級」履修者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得と会話や発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標
ハングル能力検定準2級後半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法
●**試験**　50%　　中間試験・期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。

●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。
コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科目名	朝鮮語会話中級							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法の学習を終えた学生を対象にし、さらに語彙、文法、表現力を学びながら会話力を磨いていきます。それと並行し聞き取り練習、読解、作文を組み合わせ、総合的な学習を行います。中級教科書はやや易しめのものを用います。その代わり、映像、雑誌・新聞記事など、多様な媒体を使い、朝鮮半島の社会、文化についての理解を深めながら会話中心の学習を進めていきます。授業ではペアワークやグループワークを多く取り入れます。また教科書本文の暗記、発表も毎回行います。学習を通して、履修者同士のコミュニケーションスキルの向上を目指します。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、そのうえで応用的な表現の運用能力を身につけることが目標です。会話においては、少々の間違いがあっても朝鮮語で自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになること、読解においては、簡単な文なら辞書を引かずに推測しながら文意がつかめるようにすることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学期末試験（最終回の授業時に試験を実施します。追試、レポート等による救済措置はありません）
●**レポート**　30%　　小テスト、課題、レポートなど
●**平常点**　25%　　授業への積極的な参加が必須です。理解度確認のために、教科書本文暗記、小テストを毎回実施します。欠席があまりにも多い場合は、試験の成績が良くても評価の対象になりませんので注意してください。
●**その他**　5%　　コミュニケーションカードの作成（詳細はガイダンスの際に説明）

備考・関連URL

朝鮮語学習を通して、朝鮮文化に関する皆さんの興味、関心を広げるような授業を行いたいと思っています。授業外での教科書の復習は必須ですが、知識の詰め込みに終わらず、多角的に朝鮮語へアプローチできるよう皆さんと工夫しながら授業を進めます。授業中の積極的な発言、意見、質問を歓迎します。

科目名	朝鮮語会話中上級1							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は春学期の＜会話中級＞に引き続き、中級会話教科書を用いて進めます。初級文法を確実に身につけながら、さらに語彙、文法、表現力を会話中心に磨いていきます。それと並行し、聞き取り練習、読解、翻訳を組み合わせ、総合的な学習を行います。中級教科書はやや易しめのものを用います。その代わり、映像、雑誌・新聞記事、文学、マンガなど多様な媒体を使い、朝鮮半島の教育、社会、文化についての理解を深めながら学習を進めていきます。
授業ではペアワークやグループワークを多く取り入れます。また教科書本文の暗記、発表も毎回行います。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、そのうえで応用的な表現の運用能力を身につけることが目標です。会話においては、少々の間違いがあっても朝鮮語で自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになること、読解においては、簡単な文なら辞書を引かずに推測しながら文意がつかめるようにすることを目指します。
こうした学習を通し、この授業を履修し終える頃には、朝鮮語で会話ができ、自分の意見および意思を伝えられるようになることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終回の授業時に試験を実施します。追試、レポート等による救済措置はありません。
●**レポート**　30%　　小テスト、レポート、課題など
●**平常点**　25%　　授業への積極的な参加が必須です。理解度確認のために、教科書本文暗記、小テストを毎回実施します。欠席があまりにも多い場合は、試験の成績が良くても評価の対象になりませんので注意してください。
●**その他**　5%　　コミュニケーションカードの作成（詳細はガイダンスの際に説明）

備考・関連URL

朝鮮語学習を通して、朝鮮文化、教育に関する皆さんの興味、関心を広げるような授業を行いたいと思っています。授業外での教科書の復習は必須ですが、知識の詰め込みに終わらず、多角的に朝鮮語へアプローチできるよう皆さんと工夫しながら授業を進めます。授業中の積極的な発言、意見、質問を歓迎します。
また、学習を通してコミュニケーションスキルの向上を目指します。

科目名	朝鮮語会話中上級2							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級1」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級）の文法事項

の習得を終えた学習者を対象に、上級に向けて会話能力の向上を目指します。 テキスト内容と自由討論や発表などを半分ずつの比重で進めて行く予定です。
授業は会話・発表や討論を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。
毎回、授業の題材と関連した課題が多く、授業への積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

中上級レベルの会話能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50% 中間会話試験・期末筆記試験
●**レポート** 0% 無し
●**平常点** 50% 出席、授業への参加度、課題などで総合的に判断します。
●**その他** 0% 無し

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
・受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科目名	朝鮮語会話中上級3							
担当者名	印 省熙							
朝語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級2」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級以上）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、会話能力の向上を目指します。 テキスト内容と自由討論や発表を半分ずつの比重で進めて行く予定です。
授業は会話・発表や討論を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。
毎回、授業の題材と関連した課題が多く、授業への積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

中上級〜上級レベルの会話能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50% 中間会話試験・期末筆記試験
●**レポート** 0% 無し
●**平常点** 50% 出席、授業への参加度、課題などで総合的に判断します。
●**その他** 0% 無し

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
・受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、コースナビを利用した自律学習を促しています。毎回、コースナビ資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科目名	朝鮮語会話上級1							
担当者名	林 周禧							
朝語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

●**試験** 100%
●**レポート** 0%
●**平常点** 0%
●**その他** 0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科目名	朝鮮語会話上級2							
担当者名	林 周禧							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。

会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

- **試験**　100%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科目名	朝鮮語作文中級							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。そのため韓国の社会や文化に関する内容の資料を中心にリーディングをしながら、具体的な表現を学習し、文章の読み方、書き方、言い回しなどの表現について学ぶ。その上、自分の考えや意見について作文・個人発表をし、実践的な語学力の向上を促す。

授業の到達目標

授業では毎回作文学習を行うが、必要に応じて履修者の作文課題を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しや細かい部分について授業教材として利用することもある。授業では履修者のモチベーションを重要視しつつ履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用しながら授業を進める。ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら、自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また文の表現力の幅を広げると同時に、授業で学習した内容を中心にペア学習、個人発表の実践を促し、受講者の実用的な韓国語コミュニケーション力の向上に主力したい。

成績評価方法

試験：　40%　　期末テスト
レポート：　20%　　毎回の宿題、レポート
平常点評価：　30%
その他：　10%　　授業での発言・発表

備考・関連URL

授業への積極的な参加を重要視します。授業計画は、履修人数及び履修者のレベルによって変更することがあります。

科目名	朝鮮語作文中上級							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。

授業では、履修者のモチベーションを高めるため、履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用する。例えば、ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また必要に応じて履修者の作文を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しなど細かい部分について学習する。そのほか、授業では韓国の社会や文化に関する様々な内容の資料を中心としたリスニング&リーディング練習にも力を入れる。

授業の到達目標

文章の読み方、書き方、さまざまな表現を学習し、作文中心の実践的な語学力の向上を目指す。

成績評価方法

- **試験**　30%　　中間試験、期末試験
- **レポート**　10%　　小レポート
- **平常点**　50%　　出席・授業参加度・日々の課題が含まれます。
- **その他**　10%　　毎回の発言

備考・関連URL

・学期に1回ぐらいは韓国の大衆文化映像を鑑賞し、韓国文化および生きた朝鮮語の表現について学びます。
・スキルアップのため卒業まで韓国語スピーチコンテストへの参加を心がけて下さい（特に毎年12月に行われる早稲田大学のスピーチコンテストにも積極的な参加を期待しています。）

科目名	時事朝鮮語　ニュースで学ぶ朝鮮語							
担当者名	黒澤　朋子							
朝語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

新語や時事関連用語をリアルな韓国のニュースを通して習得し、ビジネスシーンにも使える上級朝鮮語の習得を目指す。2年生以上から履修可能となっているが、中級朝鮮語の授業よりレベルが高い。したがって、履修可能な学年よりも、朝鮮語の実力が重要である。ハングル検定で言えば、3級以上のレベルであることが望ましい。秋学期の通訳朝鮮語を履修予定の場合は、履修することが望ましい。

授業の到達目標

新聞記事のように漢字語の多いテキストの場合、日本語ネイティブであれば、理解するのは困難ではないだろう。本授業では、読んで理解するだけでなく、聞いて理解できるようになることを目標とする。そのため、新聞記事ではなくニュース音声に重点

を置いて学習する。一般的な語学力で言えば、ハングル検定準2級レベルに到達することを目標とする（ただし検定には時事用語は頻出しないため、時事朝鮮語の学習が検定合格に直結するわけではない）。

成績評価方法

試験：70%：授業中に2回試験を実施し、理解度の確認を行う。
課題と平常点：30%：課題への取り組み、授業への積極性、出席率を評価する。

備考・関連URL

KBSホームページ　http://www.kbs.co.kr/

科目名	通訳朝鮮語　朝鮮語逐次通訳入門							
担当者名	黒澤　朋子							
朝語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、逐次通訳の入門に当たる。逐次通訳とは、スピーカーの発言が一区切りした後に通訳するという形式の通訳である。ヘッドフォンとマイクを使用してスピーカーの発言にかぶって通訳する同時通訳とは異なる。授業では、自己紹介のような個人的な話題から始め、インタビュー、ニュース原稿、ビジネス会話、イベント司会など様々な場でのスピーチを通訳する練習を行う。語彙を増やすための単語テストも随時行う。通訳をするには、朝鮮語を聞き取れることが必須条件であるため、朝鮮語の聞き取りに重点を置いた授業となる。2年生以上から履修可能となっているが、中級朝鮮語の授業よりレベルが高い。したがって、履修可能な学年よりも、朝鮮語の実力が重要である。ハングル検定で言えば、3級以上のレベルであることが望ましい。本授業は、外国語の授業である。よって、朝鮮語のネイティブスピーカーやそれに準じる者が履修したとしても、朝鮮語学習者のレベルに合わせた授業を行う点に注意されたい。また、本授業は、通訳者を養成するものではない。通訳の練習方法を用いて、受講者の朝鮮語を上級レベルに到達させることが目的である。春学期の「時事朝鮮語」を履修しているとなおよい。

授業の到達目標

①通訳についての予備知識を持つ②日常会話のくだけた表現ではなく、改まった表現や敬語が使える。③通訳の練習方法を用いて語彙を増やし、上級レベルの朝鮮語を目指す。一般的な指標で言えば、ハングル検定準2級以上のレベルに到達する。

成績評価方法

試験：60%：授業中に2回試験を実施し、理解度の確認を行う。
課題と平常点：40%：課題への取り組み、授業への積極性を評価する。また、出席率も重要である。毎回タスクを与えるので、欠席すればその日のタスクを消化しなかったことになるからである。

科目名	アラビア語中級（会話）1							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、1年でアラビア語（Step1）と（Step2）を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の知識がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、一つの場面を想定し、短い文章や練習問題を使い、その場面に使用可能な語彙、文法事項などを確認、学習し、語彙力や場面コミュニケーション能力や表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

自分や他人の行為・習慣・趣味・今後の予定や回りに存在する物・場所などの描写に使用される語彙と表現を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	アラビア語中級（会話）2							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、1年でアラビア語（Step1）と（Step2）を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の知識がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、一つの場面を想定し、短い文章や練習問題を使い、その場面に使用可能な語彙、文法事項などを確認、学習し、語彙力や場面コミュニケーション能力や表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

自分や他人の行為・習慣・趣味・今後の予定や回りに存在する物・場所などの描写に使用される語彙と表現を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語中級（読解・作文）1							
担当者名	平　寛多朗							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法を学んだ学生を対象とした授業です.

授業ではアラビア語圏で古くから親しまれているジョハーの小話を読みます.
読解を通して，今後アラビア語の文章を読んでいく上で必要となる表現や文法などを学びます.

授業の中心となる表現や文法を各回設定していますが，それ以外でも文章の中で出てきた重要な表現・文法などを適宜取り上げていきます.

知識の定着を図るため，授業で取り上げた文法・表現を使った作文をしてもらいます.

授業の到達目標

①辞書を使用し，単語の意味を一人で調べられるようになる.

②母音記号付きのアラビア語の文章を読めるようになる.

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業中に理解度を確認する試験を行います.　なお出席率が6割を切る場合，試験を受けることを認めません.
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出欠席，授業への積極性，予習などをもとに総合的に判断します.　なお原則30分以上の遅刻は，教室への入室を認めないので注意して下さい.
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語中級（読解・作文）2							
担当者名	平　寛多朗							
アラ語	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では『イーサーの昇天』という物語と『クドゥスはアラブ・イスラムの街』というエッセイを読みます.
イーサーとはイエスのアラビア語名であり，『イーサーの昇天』はイスラム教徒の子供を対象に刊行されたイスラムの預言者伝シリーズの一部です.
クドゥスはエルサレムのアラビア語名であり，『クドゥスはアラブ・イスラムの街』は2000年代のエジプトの高校教科書に収録されていたものです.

これらの読み物を通してアラブ世界への関心を高めると共に，読解に必要な文法や重要表現を学びます.
また知識の定着を図るため，授業で取り上げた文法・表現を使った作文をしてもらいます.

授業の到達目標

①母音記号なしでアラビア語の文章を読めるようになる.

②アラブ世界の文化，歴史観に関する理解を深める.

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業中に理解度を確認する試験を行います.　なお出席率が6割を切る場合，試験を受けることを認めません.
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出欠席，授業への積極性，予習などをもとに総合的に判断します.　なお原則30分以上の遅刻は，教室への入室を認めないので注意して下さい.
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語中級（時事アラビア語）1							
担当者名	冨永　正人							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1. アラビア語のメディアを題材に、時事アラビア語の読解を学びます。
2. 時事を読み解き、聴解もできるようになるには、語彙の増強が欠かせません。読解と並行し、作文を通じて基本的な語彙と表現の定着を図ります。

授業の到達目標

1. 現代アラブ世界の時事問題と文化への関心を高め、理解を深める。
2. 自分が関心あるテーマについて、アラビア語のテクストから必要な情報を取り出すことができる。
3. 接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる（CEFR:欧州共通参照枠のA2レベル）。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末に達成度を確認する試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回の確認テスト、授業への参加意欲などを元に総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は、あくまでも扱うテーマの目安です。世間の耳目を集める最新の時事問題をタイムリーに扱い、履修生の興味関心に応えられるよう、変更を加えていきます。

科目名	アラビア語中級（時事アラビア語）2							
担当者名	冨永　正人							
アラ語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1. アラビア語のメディアを題材に、時事アラビア語の読解を学びます。 2. 時事を読み解き、聴解もできるようになるには、語彙の増強が欠かせません。読解と並行し、作文を通じて基本的な語彙と表現の定着を図ります。

授業の到達目標

1. 現代アラブ世界の時事問題と文化への理解・関心を深める。
2. 自分が関心あるテーマについて、アラビア語のテクストから必要な情報を取り出すことができる。
3. 接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる（CEFR:欧州共通参照枠のA2レベル）。

成績評価方法

●**試験**　70%　　各学期末に達成度を確認する試験を実施します。
●**レポート**　0%　　受講者が順番に発表するアラブ各国の基本情報のまとめを、レポート点として評価します。
●**平常点**　30%　　毎回の確認テスト、授業への参加意欲などを元に総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は、あくまでも扱う予定のテーマの目安です。世間の耳目を集める最新の時事問題をタイムリーに扱い、履修生の興味関心に応えるよう、授業計画の内容は変更していきます。

科目名	アラビア語上級（会話）1							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、アラビア語中級を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の能力がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、抽象的または、具体的な話題を想定し、その話題に使用可能な語彙、文法事項などを確認し、語彙力やコミュニケーションや表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

幅広い話題について話す能力を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	アラビア語上級（会話）2							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、アラビア語中級を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の能力がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、抽象的または、具体的な話題を想定し、その話題に使用可能な語彙、文法事項などを確認し、語彙力やコミュニケーションや表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

幅広い話題について話す能力を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	アラビア語上級（読解）1							
担当者名	中野　さやか							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

アラビア語の文章を読むために、初級文法の復習から始める。

次に主文と副文で構成される3〜4行の文章の読解と作文を繰り返し、文章の構造を理解する。

文法と文章構造の理解が進んだら、長文読解を行う。講師がコーランや古典作品、現代アラブ文学、アラブ地域の語学学校の

入試問題、BBCアラビックの記事などを提示し、受講生の希望を聞いて長文を選ぶ。

授業の到達目標

不規則活用動詞の語根が消える活用や派生名詞でもきちんと語根を把握し辞書が引ける状態で、複雑な文章を読解できるようにする。

古典作品から現在のネットで読める文章まで一人で辞書を用いながら読めるようにする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業中に行う小テストの合計点。テストの点数が悪かった場合は、間違えた文法事項の書き取りを提出し、それによって加点する。
●**レポート**　50%　　長文読解のシャクルと和訳をレポートと見なす。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語上級（読解）２							
担当者名	中野　さやか							
アラ語	２単位	秋学期	水曜日	３時限	３年以上	—	合併科目	—

授業概要

アラビア語上級（読解）1で行った長文読解を引き続き行う。
長文読解に区切りが付いたら、フスハーの会話動画を見て発音練習を行う。

また長文読解で学んだ表現を用いた作文や応用問題のテストを行う。

授業の到達目標

アラビア語の文法と文章構造を理解し、一人でも辞書を用いて様々な文章を読解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業中に行うテストの合計点。テストの点数が悪い場合は、間違えた箇所の書き取り問題を行い、加点する。
●**レポート**　60%　　長文に振ったシャクルと和訳をレポートと見なす。また13回から15回の授業で行う応用問題もレポートと見なす。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

講 義 内 容

専　門　演　習

科 目 名	多元文化論系演習（現代中国と道教・民間信仰）『近代中国のシャーマニズムと道教』を読む							
担当者名	廣瀬　直記							
多元	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、参加者全員で志賀市子氏の『近代中国のシャーマニズムと道教』を読みながらディスカッションします。この本は、現代の香港で「扶乩（フーチー）」という降神術を行なう道教系宗教集団について研究したものです。この本を読みながら、宗教とは何か、道教とは何か、民俗宗教とは何か、あるいはそれらの関係はどうなっているのか、などの問題について、みなさんといっしょに議論し理解を深めてゆきたいと思います。また、第十一回以降は、議論を通して浮かび上がってきた問題に関連する論文を読む予定です。

授業の到達目標

専門的な研究書を読み通す力を養います。この優れた研究書を読み通すことで、道教および民俗宗教に関する体系的な知識を獲得することができるはずです。また、この研究書で用いられている文化人類学的、歴史学的研究方法についても意識的に学んでもらいたいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行ないません。
●**レポート**　40%　　2000字程度のレポートを課す予定です。
●**平常点**　30%　　ディスカッションへの貢献度。
●**その他**　30%　　担当個所の発表。

科 目 名	多元文化論系演習（中国の同時代文化）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

中国の同時代文化について、一般的なイメージは海賊版や剽窃など、ネガティブなものではないでしょうか？しかし、それは現象の一面にすぎません。本演習では、中国の同時代文化が抱える諸課題、それに対応するための制度改革や実践などについて、個々の成果に即して、その社会的意味や歴史的経緯、海外文化との関係など、さまざまな側面から検討していきます。

本演習は、受講者の発表を中心に進めます。扱うジャンルは文学・映画・建築・美術・メディアなどを予定していますが、受講者の興味・関心を聞いた上で、幾つかにしぼりたいと思います。

授業の到達目標

本演習の目標は、中国の同時代文化の状況やその社会的・歴史的背景について理解を深め、ジャンルごとに把握することです。またそれを踏まえた上で、個々の文化事象を社会的にどう位置づけたらよいのか、考える力を養うことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　発表をまとめたレポート（3000字程度）を予定しています。幅広く資料調査を行った上で、独自の視点から考察してあるものを評価します。
●**平常点**　50%　　出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となる他、授業内で必ず1回発表してもらいます。
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

中国語の知識は特に求めませんが、日本語で読める中国同時代文化の資料はごくわずかです。中国語資料を積極的に利用することを期待しています。

科 目 名	多元文化論系演習（現代英語圏フィクション）英語で書かれた小説の読み方							
担当者名	小田島　恒志							
多元	２単位	夏クォーター	月１時限	木１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

イギリスの短篇小説を読む。

ただ読んで内容を理解するのではなく、いかに様々な「読み」が可能か、グループ別に話し合って発表してもらう。と、今度はグループごとに様々な「読み」をしていることが分かる。では、どうしてそうなるのか・・・実は、指定の小説には巧みな「語り」の誘導があって、唯一無二の真実を提示してはいない。各自それぞれ「私はこう読む。なぜなら・・・」と自己主張するつもりで参加して欲しい。

授業の到達目標

原書を正確に読む語学力をつけると同時に、「正確」に読みながらも「読み」にはさまざまな可能性があることを体感する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終授業で試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　グループ発表など、activity を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	多元文化論系演習（現代ヨーロッパの諸問題） 現代ヨーロッパの諸問題を研究するにあたっての基礎を学ぶ							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

これまでの大学での学修を基礎に、受講生自身の興味や関心に沿ってテーマを定め、現代ヨーロッパ史研究の第一歩を踏み出すための演習である。研究の設定、進め方、手続きのほか、プレゼンテーションの仕方、レポートや論文の作成方法、各種文献・学術論文・図表などの扱い方や読解方法など、具体的かつ詳細に学ぶ。以上の手続きの他、ゼミ論文に向けての導入となるオリエンテーションも行う。これによって、ゼミ論文を控えた大学生に不可欠なアカデミックスキルを習得することができるだろう。

具体的なスケジュールとしては、まず演習前半において、ゼミ論文に向けた研究テーマの設定のために、現況において関心のあるいつくかのテーマに関する複数の著書・学術論文を自らの手で収集する。収集の前提として、本学図書館のほか国立国会図書館の蔵書検索システムや、国立情報学研究所の学術論文検索システム（CiNii Articles）の利用方法を演習で学ぶ。その知識を踏まえ、数冊の著書、数本の論文を入手し、ここから読み込みをはじめ、研究テーマを絞る作業を行う。

授業の到達目標

以上のプロセスにおいては、レジュメ作成あるいはパワーポイントによる研究報告が不可欠である。より良いレジュメ作成の方法やパワーポイントによる効果的なプレゼンテーション方法を習得する。要点を簡潔にまとめ、それを適切な言葉を使用して、明白に他者に伝える技能は、現代ヨーロッパ史研究研究にとって不可欠なアカデミックスキルであるが、就職後においても重要なソーシャルスキルにもなる。将来に有用な技能やノウハウを学ぶことも本演習の目的となる。つまり、アカデミックスキルとソーシャルスキルの双方を習得することができるであろう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。 正確かつ論理的なレジュメ、パワポを作成することができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	多元文化論系演習（フランス近現代文化） フランスとは何か・フランスを考える							
担当者名	森原　隆							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「フランス」を文化、歴史、政治、思想などさまざまな観点から検討することで、今日の現代世界、及び、西洋世界における「フランス」のもつ普遍性や特殊性を考察してゆきたい。とくに、フランスの歴史の流れに基盤をおきながら、多方面に展開する「フランス文化」の意義や意味を再考する。

演習は主に次の3点を適宜あわせながら行ないます。

とくにグループ（個別）プレゼンテーションが中心となりますので、いずれも出席者の自発的、積極的な参加が必要です。

1．フランスに関する文献（和文または英文）の輪読
2．フランスに関する個別テーマでのレクチャー
3．フランスに関するグループまたは個人でのプレゼンテーション

授業の到達目標

「フランス」について、さまざまな角度から検討することで、受講生がそれぞれ独自のフランス像を構築することを目指す。

成績評価方法

試験: 0%
レポート: 0%
平常点評価: 100%　出席と平常点
その他: 0%

科 目 名	多元文化論系演習（ドイツ近現代文化） ドイツ語圏と中欧の建築文化							
担当者名	藤井　明彦							
多元	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

9世紀に建てられたアーヘン大聖堂から21世紀ベルリンのユダヤ博物館にいたるまで、ドイツ・オーストリア・スイスというドイツ語文化圏には数多くの興味深い建築物があります。参考文献に挙げた『死ぬまでに見たい世界の名建築1001』でも、約1割がドイツ語文化圏から選ばれています。観光ガイドを読み建物を見て写真を撮って終わり、それだけではもったいないというもの。建築物は勉強すればするほど、多くを語り多くを明かしてくれます。100点程度を選んだリストを作成しますので、そこから好きな建物を選んで、それについて発表して下さい。建築物を読み解くための基本的な知識は、最初の数回の授業で勉強します。なお、ドイツ語圏と関係の深い中欧の都市（プラハやブダペスト）の建築物も視野に入れていきます。

初回の授業で必要な資料を配布しますので，初回は必ず出席して下さい。

授業の到達目標

文化事象としての建築物を手がかりにして、ドイツ語圏および中欧の歴史と地誌に関する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　0%　　不要です
●**平常点**　100%　　1）各自の発表内容と，2）課題付きレビューシート（毎回授業終了時に提出）の内容を重視します。なお正当な理由なしに発表を欠席した場合は不合格になります。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	多元文化論系演習（西洋古典研究） 伝アリストテレス『アテナイ人の国制』を読む							
担当者名	内川　勇海							
多元	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

古代ギリシアの哲学者アリストテレスの著作を読む。アリストテレスは論理学、生物学、政治学、倫理学など様々な学問分野における著作で知られる。本演習ではアリストテレス自身あるいは彼の弟子が執筆したと考えられている『アテナイ人の国制』を読み、その内容について報告・討論を行う。

授業の到達目標

西洋古典全般についての知見を深めるとともに、古代ギリシア史とアテナイの政治・司法制度についての知識を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　4000字程度のレポートを課し、その内容によって評価する。
●**平常点**　60%　　出席状況や発表・討論内容によって評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	多元文化論系演習（神話の発生と社会）							
担当者名	工藤　浩							
多元	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本神話を記載する『古事記』『日本書紀』は、1300年の享受と研究史を持つ文献です。第1～5回は、先ず授業担当者が『古事記』『日本書紀』について概説します。第6～14回は、主な神話と歴史叙述に登場する神々に関する重要な論文1編を分担して、受講者による演習を行います。第15回は授業担当者によるまとめを行います。

授業の到達目標

『古事記』『日本書紀』について、概要を理解する。
神話の機能と社会に与える影響を考える。
日本神話と日本人の神観念、宗教観について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業への参加状況（出席状況と他の受講者に対する質疑など）
●**その他**　60%　　演習の発表（資料、発表内容、質疑への応答）

科 目 名	多元文化論系演習（経書研究） 『列女伝』の世界							
担当者名	仙石　知子							
多元	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

前漢の劉向が著した『列女伝』は、前近代の中国を通じて、女性の規範たるべき「経書」とされてきました。しかし、紀元前に著された『列女伝』が、20世紀までそのままの形で中国女性の規範足りうることは難しく、やがて俗本の『列女伝』が多く出版されていきます。本講義では、明の馮夢龍が著したとも言われる『列女伝演義』と、劉向の著した『列女伝』とを比較・検討することにより、女性の規範がどのように展開していくのか、そこにどのような社会風潮が反映されているのかをお話します。

授業の到達目標

・中国だけではなく日本にも大きな影響を与えた女性の「経書」とも言うべき『列女伝』の内容を理解する。
・『列女伝』を通じて漢文の素養を涵養する。
・『列女伝』と『列女伝演義』との比較から、社会風潮が「経書」の受容に与える影響を考察する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の内容を理解できているか、確認します。
●**レポート**　0%　　ありません。
●**平常点**　20%　　積極的な発言を求めます。
●**その他**　0%　　ありません。

科 目 名	多元文化論系演習（超領域的伝統形成） 『伝習録』を読む―陽明学の世界―							
担当者名	永冨　青地							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

陽明学は明代中期に誕生し、明代後期、そして江戸期の日本の思想界に大きな刺激を与えた。
本演習では、江戸期に刊行された和刻本によって、陽明学の基本的文献である『伝習録』を巻首より読んでいく。
本演習の内容は、中国思想および江戸期の思想に興味を有する学生にとって有用であると信じる。
意欲のある学生諸君の参加を得れば幸いである。

授業の到達目標

和刻本とそれに付された注釈とによって、思想的文献の読解を可能とすることを目指す。

成績評価方法

授業中の応答に、出欠および遅刻などを加味して評価を行う。

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの伝統と宗教文化）							
担当者名	林　佳恵							
多元	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

東アジアの伝統を考える時、そこに占いの存在を認めないわけにはいかないであろう。現代社会では、新聞雑誌、TV、インターネットなどでも様々な占いが提供されている。そうした占いの中で、易占を筆頭に、四柱推命、紫微斗数、九星気学等を、東アジアの伝統に連なる占いとして挙げることができよう。占いが単なる迷信として見られてしまうことは、巷間に行われる“占い”と称するものの大部分が、実は類型的認識理論による性格判断や運勢判断に過ぎないと言う事実に端を発している。しかし、それらの“占い”の理論にも、東アジアの伝統文化の土台を成す、古代中国で形成された八卦、陰陽、五行、干支、九星等の要素が含まれており、それらの“占い”を成立させている思想的背景には、中国思想を淵源とする東アジアの伝統的な世界観、時空観があることを指摘できる。授業では、「易経十翼」のひとつである『説卦伝』を読む。『説卦伝』が説く八卦に配当される天地自然の象（象徴(シンボル)）をはじめとする様々な象は、現在行われている所謂「東洋の占い」で、占いの判断の根拠の大本となっている。なじみにくい八卦の象を理解する補助的手段として、授業では受講生各自に九星気学による実占を行って頂き、その占断の根拠が『説卦伝』に由来することを実際に確かめる。『説卦伝』を読み終えた後は、占いと宗教文化の関わりという視点から、道教を取り上げる。占いの大部分は、生年月日等の特定の時間が人の命運や事柄の結果を決定する、と考える一種の定命論的理論によって成り立っている。そのような占いは古代中国で発生し、その後、特定の年月日時（四柱）を以て占う四柱推命や紫微斗数等の占術へと展開し、現在に至っている。授業では、中国南北朝隋唐期に成立した道教文献の幾つかを参照しつつ、道教がこのような占いに対してどのような態度を示しているのかを考える。なお、『説卦伝』は短い文献なので、授業では必要に応じて、『易経』や「易経十翼」のひとつの『繋辞伝』その他の文献の関連個所も参照する。内容的に受講生による分担発表は難しいと考えられるので、教場では資料を輪読しつつ、講師が補足説明を行う。但し、受講生に対しては、分担発表を行わない代わりに、授業内容の理解の為に必要な最低限の事項をあらかじめ講師が提示し、それを調べてくるという予習を課す。

授業の到達目標

身近にある占いを通して、そこに窺える東アジアの伝統に目を向けて頂き、東アジアの伝統の根底にある中国思想や中国土着の宗教である道教にも興味を持って頂く。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　レポートのテーマは第八回の授業までに提示する。3000～4000字程度にまとめて、授業の最終回である第十五回の授業の時までに、教場にて提出のこと。授業終了以降の提出は受け付けない。
●**平常点**　50%　　第四回から第十一回までと第十三回の授業の前に、授業内容理解の為に最低限、予習しておくべき事項を提示する。該当回の授業終了時に毎回、予習した内容を提出して頂き、それを評価の対象とする。
●**その他**　0%　　大学規則により、2／3以上の出席が必要。その要件を満たさなければ評価対象としない。

科 目 名	多元文化論系演習（日本宗教の伝統と変容）　日本の法華経行者達―『法華験記』を読む―							
担当者名	佐藤　晃							
多元	２単位	秋学期	金曜日	２時限	３年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

仏教は、インドで誕生し、中国・朝鮮半島を経由して日本に伝わりました。本演習では、日本仏教独自の伝統の形成とその後の変容を見ていきますが、本年度は、平安時代中期（長久年間、1040-1044年）に鎮源によって書かれた『大日本国法華経験記』（以下、『法華験記』）を輪読します。

『法華験記』は、仏教を代表する経典である『法華経』に関する霊験を集めた平安時代を代表する仏教説話集です。その内容は、聖徳太子や行基（「菩薩」）にはじまり、最澄等の僧（「比丘」）、剃髪し沙弥戒を受けた在家（「在家沙弥」）、尼僧（「比丘尼」）、男女の在家信者（「優婆塞」「優婆夷」）、さらに蛇や猿といった人間以外のもの（「異類」）にまで至る、多彩な説話を収めています。また、その成立に関しては、中国で成立した同種の法華伝記類、日本の浄土系の往生譚等からの影響が既に指摘されていますが、本書の精読を通して、『法華験記』とそれら先行する書物との差異、また著者の意図を探りつつ、日本仏教の伝統とその変容の一端について考えていきたいと思います。

授業の到達目標

・『法華験記』の精読を通して、仏教思想の基礎知識、また平安期の仏教説話集の特徴を学び、日本仏教の伝統と変容について考察する。
・口頭発表及びレポートの書き方を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　50%　　・本演習の内容に応じて、期末にレポートを課します。
●**平常点**　50%　　・3分の2以上の出席が必須。　・発表内容、また授業への積極的な参加を評価します。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	多元文化論系演習（宗教の文化史）　Religion and American Society							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	２単位	夏クォーター	火５時限	金６時限	３年以上	—	—	—

授業概要

This course will provide an overview of the various religious traditions in the United States, including American Indian religions, Christianity, Judaism, Islam, Scientology / new age religions, and atheism. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標

Students will learn about the various religious traditions and their social contexts in the United States.

Students will also utilize their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

Reading quizzes (6 x 10 pts) 30%
Group presentation 25%
Project 25%
Participation/In-class activities 20%

科 目 名	多元文化論系演習（海域文化交流史） ルイス・フロイス『日本史』を日本語でよむ・第3期							
担当者名	伊川　健二							
多元	２単位	夏クォーター	火２時限	金２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

ルイス・フロイスは1563年に来日し、1597年に没するまでの多くの期間を日本布教に従事したイエズス会士で、その著作『日本史』は著名である。

その一方で、柳谷武夫訳は第3部まであるなかの第1部のみの重訳であり、松田毅一,川崎桃太訳は原書の秩序を再構成しており、第1部から第3部までを原秩序に沿って読むことができる邦訳は存在しない。

本演習では、既存の邦訳に依拠しつつ、原秩序にしたがい、ふたつの邦訳を比較しながら読み進めていく。報告者は、担当箇所の要約を作成するとともに、追加情報を補い、書面で共有することで、フロイス『日本史』への理解を深める。

本演習は1学期間で完結するが、フロイス『日本史』は伊川が担当する他の演習でも継続して読み進めていく。本演習では、第1部38章から第1部第52章までを予定しているが、適宜変更することがありうる。

授業の到達目標

フロイス『日本史』が描き出す、戦国から織豊期にかけての日本を、可能な限り日本側の情報を照合することで、虚実にせまり、異文化理解の複雑さを理解する。

口頭報告に使用した書面の資料は、保存してフロイス『日本史』を主たる素材とする他の演習や、出版にも使用することがありうる。

以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　演習における報告内容（40%）およびレポート（30%）
●**平常点**　30%　　出席および授業時間中における発言
●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として事情の如何を問わず不合格とする。　・初回の割振りに欠席した者　・発表担当回に欠席、あるいは出席しても発表できなかった者　・出欠を確認した回の半数以上を欠席した者（半数を含む）　・締切時点におけるレポート未提出者

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの国際秩序） 18世紀末の東アジア							
担当者名	柳澤　明							
多元	２単位	夏クォーター	月２時限	木２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

ヨーロッパがフランス革命で揺れていたころ、東アジアでは何が起こっていただろうか？ そこには、清朝を中心とする「朝貢システム」が生き続けていたが、一方で、ヨーロッパ勢力の進出とともに、変動への兆しが少しずつ見えはじめていた。この演習では、1790年代に清朝とヨーロッパの3つの国との間で生起した接触・交渉に関するテキスト（史料）を手がかりに、清朝の多面的な「外交」の実態を探究する。

進め方は、受講者にテキストを参考にして適当なテーマを設定して発表してもらい、質疑応答・討論を行う。

テキスト（史料）については、「教科書」の項を参照。英語・日本語以外のテキストについては、あらかじめ日本語訳したものを使用する。

本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「専門演習」に該当する。

授業の到達目標

近代直前の東アジアにおける国際秩序の実相を、現在の視点・価値基準から描いた物語としてではなく、同時代のテキストを通じて理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　各自が授業時に発表した内容を、その際の質疑やディスカッションを踏まえて増補改訂し、レポートとして提出してもらう。どの程度レベルアップできたかを、主な評価対象とする。
●**平常点**　40%　　授業時の発表内容、他の受講者の発表に対する質疑やディスカッションへの参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

※日程や発表のトピックスは、受講者数や各人の希望などに応じて適宜調整していきます。
※テキストには一部は英語が含まれますが、それほど高い英語能力は必要としません。

科 目 名	多元文化論系演習（仏教文化交流） 『今昔物語集』震旦部を読む							
担当者名	吉原　浩人							
多元	２単位	春学期	火曜日	６時限	２年以上	—	—	—

授業概要

【注意】
本演習は、一人一回の発表を義務づけており、発表日程は4月に決定する。しかし、発表の直前になって就職活動などのため、

日程変更を申し出る学生がいる。二週間以上前ならば対応できるが、直前の申し出には対応できないので、そのような可能性のある学生は、登録を遠慮していただきたい。

【校外学習】

本演習は「文化交流創成コーディネーター資格」認定制度2019の選択科目として指定されている。そこで、仏教文化交流を仏像や絵画などの文物を鑑賞することによって体感してもらうため、東京国立博物館などにおいて二回程度の、校外学習を実施する。時期は未定であるが、座学の演習に振り替える形で、金曜日の夜など、多くの学生が参加できる時間帯に設定する。指定日時に授業などで参加できない学生は、各自の都合のよい時間に参観し、後日小レポートを提出してもらう。早稲田大学学生は、「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」となっているので、特別展以外は無料のため、学生証を忘れないこと。

【内容】

本演習では、大陸と日本の仏教文化交流についての、さまざまな事象を取りあげる。本年度は、仏教あるいはインドの文化が、どのように日本に受容されたかを探るため、『今昔物語集』天竺部(巻一〜五）のうちの何話かを、担当を決めて輪読していく。

日本最大の説話集『今昔物語集』は全三十一巻からなり、天竺・震旦・本朝の三部構成からなり、エピソードで綴る世界仏教史といった趣きを持つ。そのうち震旦部は、中国仏教史ばかりでなく、孝子譚や老荘思想、あるいは秦の始皇帝・漢の武帝・唐の玄宗皇帝などの著名な人物も多く登場する。本集を一話一話精読することによって、平安後期の中国仏教ならびに中国思想・中国史理解の実態に迫っていきたい。

最初に、『今昔物語集』の基礎知識について概説し、調査・発表の方法についても指示する。その後、いくつかの話を提示した上で、担当希望箇所を決める。毎回の学生諸君による発表と、全員参加の質疑・討論により授業を進めていくため、積極的に授業に参加することが必要になる。

なお、オンデマンド授業において、辞書の使い方、参考文献検索の方法などについて講義する。

授業の到達目標

『今昔物語集』震旦部の精読によって、仏教史の基礎知識を身につけ、平安時代における大陸と日本の文化交流の具体相を知ることができる。また、東京国立博物館の所蔵品などを通して、中国・日本の文物を参観し、その背景について学習する。

成績評価方法

レポート60%：校外学習小レポート2回、発表についてのレポート1回。小レポートを期限までに提出しない場合は、以後の出席資格がなくなる。

平常点評価40%：発表内容を重視するが、質問を積極的に行い、授業に参加する態度も採点に加味する。当然のことであるが、三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となる。

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要である。例年、発表の義務を果たさず、他の学生に迷惑をかける学生が多い。勉学に対する意欲ある学生のみ、登録してほしい。

なお、本演習は「文化交流創成コーディネーター資格」認定制度2019の選択科目として指定されている。

科目名	多元文化論系演習（アジア地域文化交流） ルイス・フロイス『日本史』を日本語でよむ・第4期							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

ルイス・フロイスは1563年に来日し、1597年に没するまでの多くの期間を日本布教に従事したイエズス会士で、その著作『日本史』は著名である。

その一方で、柳谷武夫訳は第3部まであるなかの第1部のみの重訳であり、松田毅一,川崎桃太訳は原書の秩序を再構成しており、第1部から第3部までを原秩序に沿って読むことができる邦訳は存在しない。

本演習では、既存の邦訳に依拠しつつ、原秩序にしたがい、ふたつの邦訳を比較しながら読み進めていく。報告者は、担当箇所の要約を作成するとともに、追加情報を補い、書面で共有することで、フロイス『日本史』への理解を深める。

本演習は1学期間で完結するが、フロイス『日本史』は伊川が担当する他の演習でも継続して読み進めていく。本演習では、第1部53章から第1部第67章までを予定しているが、適宜変更することがありうる。

授業の到達目標

フロイス『日本史』が描き出す、戦国から織豊期にかけての日本を、可能な限り日本側の情報を照合することで、虚実にせまり、異文化理解の複雑さを理解する。

口頭報告に使用した書面の資料は、保存してフロイス『日本史』を主たる素材とする他の演習や、出版にも使用することがありうる。

以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　演習における報告内容（40%）およびレポート（30%）
●**平常点**　30%　　出席および授業時間中における発言
●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として事情の如何を問わず不合格とする。　・初回の割振りに欠席した者　・発表担当回に欠席、あるいは出席しても発表できなかった者　・出欠を確認した回の半数以上を欠席した者（半数を含む）　・締切時点におけるレポート未提出者

科目名	多元文化論系演習（東アジアの言葉と書物） 日本に伝来した漢籍をめぐって							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

中国、韓国、ベトナム、日本など、東アジアの国々では、今でこそ異なる言語、文字が用いられているが、かつては広く漢字を共通の表記文字として使用していた。漢字で書かれた書物は、国を越え、海をわたり、文化の伝播に大きな役割を果たしたのである。しかし、それらの書物は、すべての地域においてひとしく中国語で読まれたわけではない。同じ書物であっても、それ

ぞれの地域ごとに、それぞれの言葉や文化背景のもとに読み解かれていったのである。
本演習では、このいわゆる漢字文化圏における言葉と書物の問題にせまる手がかりとして、日本に伝えられた中国の古典籍（漢籍）をとりあげる。はじめに、日本に伝来した漢籍に関する基本事項や研究史、研究の対象となりうるテーマなどについて概説し、その後、各人の関心にしたがって分担調査して発表を行っていく。
たとえば、中国古典を代表する作品である『論語』は、『古事記』に既に日本への伝来記事がみえる。それでは、古代日本で『論語』はどのように読まれたのであろうか。中国語で読まれたのか。訓読はいつから行われたのか。そして、どのような人々が何を目的としてどのように『論語』を学んだのか。また、かつて『論語』はどのような姿の書物であったのか。現代の注釈書や日本語訳は何に基づいて作られているのか。また、日本人の著作に『論語』の影響はどのように現れてくるのか。さらには、現代を生きる我々にとって『論語』とはいかなる存在なのか。
書物の伝播は、さまざまな文化的事象を伴い、新たな変化をも引き起こす。中国、日本、そして東アジアの言葉と書物をめぐる諸問題について、さまざまな角度から考察を試みていきたい。

授業の到達目標
漢籍の伝来がもたらした日本語や日本文化への影響を多面的に検討することによって、東アジアに展開した漢文化の特質を理解することをめざす。また、各自の興味関心を出発点として資料を調査、収集、整理、分析し、学術的な口頭発表を行うまでのスキルを身につける。

成績評価方法
●**試験**　30%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　70%　　発表（40%）、授業への参加状況（30%）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
漢文資料を含むさまざまな文献に触れることになろうが、調査・発表を通じてそうした文献の取り扱いにも習熟できるよう配慮しながら進めていきたい。

科 目 名	多元文化論系演習（遊牧・オアシス文化論） 中央ユーラシアの環境と歴史							
担当者名	塩谷　哲史							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要
テキストの講読を通じて、現在の中央アジア5カ国および中華人民共和国の新疆ウイグル自治区、モンゴルにかけての地域を主対象に、中央ユーラシア全域における環境と人間社会の関わりの歴史的変遷を学ぶ。本演習では、窪田順平（監修）『中央ユーラシア環境史』（全4巻）（臨川書店、2012年）をテキストとする。受講者はテキスト内の該当箇所を要約し、その内容を踏まえて、各自の関心のある研究テーマについて自身で調べたことを報告する。必要な工具書等については授業内で紹介・解説する。

授業の到達目標
1. 南部の乾燥地域に点在するオアシスに成立した都市民・農耕民を主体とした定住社会と、北部の草原地帯で興亡を繰り返した騎馬遊牧民社会との相互関係への理解を軸に、中央ユーラシア史の通史的理解が可能になる。
2. 中央ユーラシア史に特徴的な環境変動と人間社会の変遷の相互の関わりの歴史を知ることにより、新たな世界史像を描く構想力を獲得できる。
3. 自らの力で文献を探し、読解し、それをもとに自身の関心を論理的に説明できる技術、およびそれを聞き手に伝えるプレゼンテーションの技術を高める。

成績評価方法
レポート50%
発表内容をもとに、A4（40字×30行、11ポイント）3枚以上（400字詰め原稿用紙換算で9枚以上）のレポートを作成する。
平常点評価50%
授業で報告すること、および3分の2以上の出席を単位を出す条件とする。

備考・関連URL
報告担当の章と日程を決めるため、初回の授業には必ず出席すること。

科 目 名	多元文化論系演習（歴史の遺産と表現） 日本近世の漢詩と浮世絵							
担当者名	長田　和也							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
過去について知識を深めることは自己を相対化することに繋がり、それによって現代を見る目が養われる。文芸作品の読解を通じて異なる時代の文化を知るためには、対象となる作品を多角的な視点から分析する必要がある。本演習ではその「異なる時代」に日本近世（江戸時代）を設定する。近世中期に出版された市河寛斎著『北里歌』は、竹枝詞と呼ばれる漢詩に浮世絵風の挿絵を添えた書物である。竹枝詞は元々中国で発生した風俗詩である。『北里歌』は吉原を題材とした作品で、同作の登場以降日本でも各地の遊廓を詠ずる形で竹枝詞が流行した。『北里歌』を読解するためには、漢詩文を解釈する能力、浮世絵を読み解く能力、そして当時の文化に関する知識が必要となる。受講生各自で『北里歌』の漢詩及び挿絵について注釈を作成し、発表することで上記の知識を深めてゆくことを本演習の目的とする。

授業の到達目標
注釈を作成する過程で、漢詩や近世の文化を調べるための工具書を知り、その使い方に慣れる。また、原本の漢詩はくずし字で記されているため、その解読能力向上も目標である。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　発表を踏まえて、各自が興味のある題材を見つけて文章化する。その完成度（問題を設定し、その解決に至るまでの論理構成など）によって評価する。

●**平常点**　60%　　各自が担当箇所について、適切な調査に基づいて資料を作成し、発表出来ているかを評価の基準とする。また、授業内での他者の発表に対する積極的な発言も評価の対象とする。
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（海外華人文化）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

中国の移民の歴史は長く、移住先も東南アジアを中心に世界各国に広がっています。大量の移民が流出するようになったのは近代、とりわけ文革が終わった1970年代末以降のことで、現在もその流れは続いています。その一方で、1990年代後半に入ってからは、発展めざましい中国に将来性を見いだし、香港や台湾などの出身者を含む多くの華人が、中国のさまざまな場面で活躍するようにもなってきました。こうした国境や国籍に縛られることなく移動・連携する海外華人の問題は、グローバル化が進む今日において、私たち自身の問題でもあるのではないでしょうか？

本演習では、海外華人が抱える社会的事情や歴史的背景について概観した上で、彼らが果たしている社会的・文化的役割などを、受講者の発表を中心に具体的事例に沿って考えていく予定です。

授業の到達目標

本演習は2つの目標を設けています。1つは、海外華人の歴史的変遷、移民先の社会で移民が抱える問題や果たしてきた文化的役割などについて、基本的な理解を得ることです。もう1つは、その基本的理解を踏まえた上でそれぞれ資料調査等を行い、具体的な事例の分析に応用する力を養うことです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　発表で扱ったテーマを更に発展させたレポート（3000字以上）を提出してもらいます。先行研究を丁寧に調査し、それを踏まえて独自の考察をしているかどうかを評価します。
●**平常点**　50%　　出席の他、発表の内容、および発表に対する質疑など、授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席を評価の対象とする他、授業内で必ず1回発表してもらう予定です。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

中国語など外国語の知識は特に求めません。ただし日本語で読める資料は限られているので、積極的に外国語資料を利用することを期待しています。

科 目 名	多元文化論系演習（ヨーロッパとアジアの接触）							
担当者名	源　貴志							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

ヨーロッパとアジアの、とくに文化的な面での接触について、さまざまなトピック・事件を、あらためて今日的な視点から検証し、異文化接触の現場に思いを馳せ、ひとつの文化がどのようにして多元的・多層的な構造として成立していくかを考える手がかりとします。

授業としては、各自、興味を持っている接触（トピック・事件）について、できるだけ実証的な資料の検討に基づいた口頭発表をしてもらい、ディスカッションを通じて、その歴史的・文化史的な意味を考察していきます。

とりあつかう事件・トピックは、ヨーロッパとアジアそれぞれの、どの国・地域のあいだのものでもかまいませんし、また、古代から現代まで、時代も限定しません。

授業の到達目標

演習形式の授業ですので、履修者にそれぞれの興味にもとづいてテーマを設定してもらい、他の履修者の興味を効果的に喚起する、個性を生かした発表を進めることができるようにすることが目標となります。もちろん、教員の側から随時研究上の基礎知識が得られるような情報提供を行ないます。

成績評価方法

各自の発表をもとに、他の履修者から得られた意見などを取り入れて学期末までにレポートを作成してもらいます（40%）。また、教場での口頭発表の内容やディスカッションの実践を評価します（60%）。なお、教室での発表とディスカッションが中心の授業ですから、出席重視です。

備考・関連URL

口頭発表で扱うトピックは各自の関心で自由に選んでもらいますが、1年次に履修する基礎外国語を専門科目で活かす機会としても考えることができると思います。

科 目 名	多元文化論系演習（ミュージアムにみる「ヨーロッパ」-文化触変の形跡を探る-）　文化触変の形跡を探る							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	集春	水1時限	土その他	2年以上	—	—	—

授業概要

「ヨーロッパ」という言葉を聞くと、なにやら統一された一地域のようなイメージをもつ者も少なくないだろう。それはヨーロッパ各国が協調、議論を重ねて作り上げた欧州連合(EU)に付随する印象かもしれないし、その申し子ともいえる同一通貨ユーロの影響かもしれない。しかし、近年のEUは、ユーロ圏北部と南部の大きな経済格差や地域的な諸問題を全世界に露呈したかたちとなり、数十年発展をともにしたイギリスは離脱の道を選ぶという、まさに混沌の渦中にある。ヨーロッパとはやはり、あくまで異種雑多な国々がひしめき合う場所でしかないのであろうか。それとも、多様ななかになにか普遍的な共通性を保持した存在なのだろうか。

この授業では、そんな「ヨーロッパ」が形成されるにいたった文化史を、ミュージアムのなかに見出していく。たとえば、古

代ギリシアやペルシアでの文化的対照要素がいかに融合していったのか、宗教改革によりカトリックとプロテスタントに分岐したキリスト教の影響とはどのようなものだったのか、さらには人文主義や啓蒙思想、そして戦争が、ヨーロッパ文明と呼ばれるものをどのように変容させたのだろうか。ミュージアムとは、有史以来の多様な文化が収集・保存された、いわば「タイム・カプセル」である。そこに所蔵された工芸品や美術品を実地調査することにより、いま述べたような「文化触変」が概念や実体としての「ヨーロッパ」の文化芸術をいかに生み出していったのかを、あらためて考えてみたい。

本授業では、校外学習の時間を設けることで、都内の主要ミュージアムでフィールドワークを行う機会が生まれる。早稲田大学は「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ（関東3館）に加入していることから、これら主要ミュージアムに無料入館できるメリットを最大限に活用したい。

授業の到達目標

・フィールドワーク（校外学習）を通じて、ミュージアムの機能と役割を理解し、「ヨーロッパ」を形成するにいたった多様な文化の混交を実感する。
・校外実習の事前リサーチを入念に行い、実習の成果を効果的にプレゼンする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　下記の出席点を満たしていること。
●**平常点**　50%　　平常点は、授業時の発表成果と出席点で評価される。 ※教場授業の出席は3分の2以上。校外学習への参加は必須である。（よって、二度の校外学習に欠席した場合は、たとえ教場授業で3分の2以上の出席を満たしていても、単位は与えられない。）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本演習は、多元文化論系で本年度より導入された資格制度「文化創成コーディネーター（ICCO）」のフィールドワーク科目である。本資格を取得したい学生は、必ず履修しなければならない。

科 目 名	多元文化論系演習（ギリシア世界） 古代ギリシアの世界観と人間観（おもに哲学の観点から）							
担当者名	宮崎　文典							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習は古代ギリシアのさまざまな議論を読み解くもので、おもに哲学・思想の文献を扱います。古代ギリシアの哲学・思想の文献には自然哲学、認識論（知識論）、死生観、倫理学、政治哲学、教育論など、多様なトピックがみられ、しかもそれら諸々のトピックが相互に深く関連し合っています。これらさまざまなトピックの理解を通して、古代ギリシアの世界観や人間観を把握していきたいと思います。

授業の基本形式は履修学生による発表とディスカッションです。原則として、履修者には教場での発表を最低1回おこなってもらう予定です。授業各回にとりあげる課題テキストは教場で配布しますので、各回の発表担当者は課題テキストを分析したレジュメを作成し、発表をおこなってください。発表者以外の履修者も課題テキストを熟読したうえで授業に臨んでください。

授業の到達目標

・古代ギリシアの文献（特にそのうちでも哲学・思想の文献）を読み解く力の基礎を身につける。
・古代ギリシアの哲学・思想を通して、古代ギリシアの世界観や人間観の基本を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末レポートを提出してもらい、テーマの適切さ、論述の客観性・明確さ、考察内容等をもとに総合的に評価します。
●**平常点**　60%　　十分な出席を前提として、授業への参加度と授業での発表をもとに総合的に評価します。（内訳：授業への参加度20%　　授業での発表40%）
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（ローマ世界）							
担当者名	藤澤　明寛							
多元	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ヨーロッパの歴史・文化を学ぶ者にとっては、その遡源の一つである古代地中海世界、とりわけ「古代ローマ」を理解することは、有意義であろう。古代ローマ帝国は滅亡したあとも、様々な形で継承・再生されており、今日においてもいたるところに「古代ローマ」を見つけることができる。本演習では、「古代ローマ」に関して受講者が各自の関心あることについて発表し、それについて全員が質疑・討論に参加するという形で進める。

授業の到達目標

古代ローマに関して一定の理解を得ると同時に、その後の展開にも関心をもってもらいたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　学期末に発表をもとにしたレポート（4000字程度）を提出
●**平常点**　60%　　発表・討論内容による評価
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

演習科目であることから、受講者の積極的な参加が求められます。
授業の初回までに発表予定のテーマについて考えてきてほしい。
発表のテーマの参考として、『西洋古代史料集』（東京大学出版会、第2版、2002年）があるが、「古代ローマ」に関するも

のならば、自由にテーマを設定してもよい。

科 目 名	多元文化論系演習（ヨーロッパの芸術）							
担当者名	源　貴志							
多元	２単位	夏クォーター	火３時限	金１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

当科目はクォーター科目です。6月・7月（夏クォーター）に週2回（火・3、金・1）授業を実施します（開始日は6月9日）。

ひろくヨーロッパの芸術について、履修者それぞれが関心を持っている分野について、その創作方法や歴史などについて、文献資料などを調査し、その面白さ、すばらしさを他の履修者に伝えるプレゼンテーションを行なうことを内容とします。

プレゼンテーションはまず最初に少人数のグループで行ないます。

取扱う「芸術」については、美術、音楽、演劇、バレエなどから、本の装訂のような装飾芸術まで、とくに分野・時代を限定しません。

授業の到達目標

演習形式の授業ですので、専門的な知識を得ることよりも、自分で興味を持った芸術作品（あるいはその創作者）について、第三者にその面白さ、すばらしさを伝えるコミュニケーションの能力を磨くことを目標とします。

成績評価方法

各自の発表をもとに、他の履修者から得られた意見などを取り入れて学期末までにレポートを作成してもらいます（40%）。また、教場での口頭発表の内容やディスカッションの実践を評価します（60%）。なお、教室での発表とディスカッションが中心の授業ですから、出席重視です。

備考・関連ＵＲＬ

当科目はクォーター科目です。6月・7月（夏クォーター）に週2回（火・3、金・1）授業を実施します（開始日は6月9日）。

科 目 名	多元文化論系演習（ロシア文化論）							
担当者名	八木　君人							
多元	２単位	春クォーター	火３時限	金１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

★当科目はクォーター科目です。週2回授業を実施し、4月・5月で完結します（但し、最終回は6月4日になります）。ご注意ください。★

この授業は、映画、美術、パフォーマンス、音楽、バレエ、アニメーション、文学、宗教、歴史、（諸）民族、政治、経済といった、ロシア・旧ソ連邦におけるあらゆる文化事象の中で、受講者の興味・関心にあわせて、グループによる課題図書の輪読と、その内容およびそれを展開した発表を行ってもらいます。また、希望者には、グループ発表をしてもらった上で、上記のテーマに沿ったかたちで、自身の関心のあるテーマで個人発表をしてもらいます。

教員による講義も行いますが、講義部分で扱うテーマは「ソ連時代」を中心に採り上げます（もちろん、必要に応じて、他の時代についても触れます）。現在のロシアを考える上でもソ連を知ることは有益ですし、また、現在、われわれが生きている社会と比較し、類似点と相違点とを見出すことにより、今後、みなさんが、社会や世界のオルタナティブな在り方を構想するための糸口になるかもしれません。

もう少し身近な話でいえば、ロシアやソ連を学ぶことは、多元文化論系に席をおくみなさんにとって、これからのご自分の研究のテーマとして、あるいは、ロシアやソ連を主題にするのではないにせよ、「多元」を構成する一つのヴァリアントとして、有益なものになるのではないかと思います。

専門演習

授業の到達目標

教員による講義も行いますが、基本的には演習形式の授業ですので、受講者には積極的な課題への取り組みが求められます。

課題図書の正確な読解、グループ内での適切なディスカッション、その結果を他のグループに属する受講者の前で「発表」する、そうした能力を獲得するのが一つの目標です。

また、他の受講者の報告を聴き、それに対して的確な応答・生産的な議論ができるような力もつけていきましょう。

最後に、この授業全体を通して、「ロシア」に関する知識や理解を深め、文化の多様性を学ぶことのみならず（「ロシア」はやはり「多元」うちの一つにすぎません）、それらを通して、「別の仕方で思考する」という習慣を獲得していくことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　期末までに4000字程度のレポートを作成してもらいます。 内容は、グループで扱った課題図書の内容を発展させるかたちでもいいですし、課題図書とは関係なく、ご自身の興味・関心にそったロシアや旧ソ連圏、あるいはソ連時代の文化事象に関するものでもかまいません。

●**平常点**　50%　「演習」なので、グループ内外で自らの発表等を行うことが義務なのはいうまでもありませんが、ご自分（たち）が中心にならないときにも、ディスカッション等、積極的な授業への参加が求められます。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

演習の授業ですので、上に記した「授業計画」や授業スタイル、内容は大きくかわってきます。基本的には「概要」や「シラバス」に記したかたちで授業を行いますが、履修者の顔ぶれやモチベーションに応じて、臨機応変に授業運営を行いたいと思っています。その上で、週二回授業をおこなうクォーター科目の特性の活かし方も考えていきます。みなさんもそのつもりで履修してください。

そうしたスタイルの授業になりますので、初回のオリエンテーション（と2回目の授業）は必ず出席するようにしてください。

なお、履修にあたっては、ロシア語の知識があるにこしたことはありませんが、必要とはしません。

科 目 名	多元文化論系演習（東欧の歴史から） 東欧史を研究するにあたっての基礎を学ぶ							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

これまでの大学での学修を基礎に、受講生自身の興味や関心に沿ってテーマを定め、東欧史研究の第一歩を踏み出すための演習である。研究の設定、進め方、手続きのほか、プレゼンテーションの仕方、レポートや論文の作成方法、各種文献・学術論文・図表などの扱い方や読解方法など、具体的かつ詳細に学ぶ。以上の手続きの他、ゼミ論文に向けての導入となるオリエンテーションも行う。これによって、ゼミ論文を控えた大学生に不可欠なアカデミックスキルを習得することができるだろう。

具体的なスケジュールとしては、まず演習前半において、ゼミ論文に向けた研究テーマの設定のために、現況において関心のあるいつくかのテーマに関する複数の著書・学術論文を自らの手で収集する。収集の前提として、本学図書館のほか国立国会図書館の蔵書検索システムや、国立情報学研究所の学術論文検索システム（CiNii Articles）の利用方法を演習で学ぶ。その知識を踏まえ、数冊の著書、数本の論文を入手し、ここから読み込みをはじめ、研究テーマを絞る作業を行う。研究テーマを確定させている演習後半においては、入手済みの資料をもとに学説史の整理方法、すなわち「学説批判」の方法を学ぶ。自己の研究テーマにおいて相対する2つの学説を探す作業を行い、当該テーマの論点は何か、新たに研究するとすれば、何が研究史上新たな貢献になるのかを確定させる。この過程と同時に行うのが、史料探しである。史料収集は同時に「史料批判」を伴うので、史料批判の方法も学ぶ。

授業の到達目標

以上のプロセスにおいては、レジュメ作成あるいはパワーポイントによる研究報告が不可欠である。より良いレジュメ作成の方法やパワーポイントによる効果的なプレゼンテーション方法を習得する。要点を簡潔にまとめ、それを適切な言葉を使用して、明白に他者に伝える技能は、東欧史研究にとって不可欠なアカデミックスキルであるが、就職後においても重要なソーシャルスキルにもなる。将来に有用な技能やノウハウを学ぶことも本演習の目的となる。つまり、アカデミックスキルとソーシャルスキルの双方を習得することができるであろう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。 正確かつ論理的なレジュメ、パワポを作成することができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	多元文化論系演習（イスラーム社会論） 中東とイスラームの歴史と社会							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、中東やイスラーム教徒の歴史と社会について、知識と考察を深める。参加者による発表（グループ発表とクラス全体への発表）を中心にする。教員が講義を行うこともある。

※受講者全員が参加するグループ発表を多く含みます。受講者が積極的に討論に参加することが前提になります。

授業の到達目標

中東やイスラーム教徒の歴史と社会について、基礎的を知識を得て、考察を深める。さらに、自分で調べるための基礎的な情報源と調べ方に親しむ。

成績評価方法

参加者による調査、グループ発表、他の参加者の発表に対するコメント、クラス全体への発表、さらにそれらをまとめたレポートの提出を求める。

備考・関連URL

2年生を主な参加者として想定している。参加者による主体的な参加が求められる授業である。参加者が中東やイスラーム教徒の社会と歴史について積極的な関心を持っていることが前提となる。

科 目 名	多元文化論系演習（地中海・イスラーム世界） 暮らしから学ぶイスラーム							
担当者名	砂井　紫里							
多元	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、生活文化の観点から、イスラームと地域社会の基礎的な考え方を学ぶとともに、履修者自身でテーマを設定して調べ、まとめ、発表して討論を行うことで、「気付き」と想像力を大切にしながら、学びを深め合うことを目指す。

授業の到達目標

① イスラームの多様性と普遍性を理解することができる。
② 文献・資料・情報を検索する方法を身につける。
③ みずからの問題関心にもとづいて課題を設定し、考察し、伝えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　70%　　発表を踏まえた個人レポート
●**平常点**　30%　　ふりかえりシート、ワークシート、発表の構成と内容
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・本演習では、履修者による発表と討論が中心となるため、授業時間外の作業が多い。各自の主体的、積極的な参加が求めら

れる。
・適宜、CourseN@viを活用する。
・なお、履修者の数や状況に応じて、授業計画を適宜、変更・調整する場合がある。

科 目 名	多元文化論系演習（アメリカ文化史）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	２単位	春クォーター	火５時限	金６時限	２年以上	—	—	—

授業概要
This course will provide a survey of American cultural history in the second half of the twentieth century, including the beginning of the twenty-first century. We will try to understand the historical, social, economic, political, and artistic forces that shaped American culture during the second half of the twentieth century. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標
Students will learn about significant events, people, and trends that occurred in the United States during the twentieth century. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法
Two exams　60%
Presentation　20%
Participation/In-class activities　20%

備考・関連ＵＲＬ
http://www.ushistory.org/us/index.asp
http://www.digitalhistory.uh.edu/era.cfm?eraID=20&smtID=1

科 目 名	多元文化論系演習（イギリス文化史） 現代イギリス文化の入門と探究							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	２単位	春学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要
現在のイギリス社会について、その入門書であるChristopherの*British Culture: An Introduction*を読む。本書はよりオーソドックスなタイプの概説書であるが、言語、文学、演劇、映画、テレビ、音楽、ファッション、芸術、建築など、現代イギリスの多様な文化事象に関する多様な情報を得ることができるだろう。
授業では、担当する章について概略をまとめ、各自が関心をもったトピックについてさらなるリサーチを行ってもらいたい。とくに、現代のイギリス社会の文化形態がいかに形成されていったかのを、その歴史に辿ることは有用であろう。まず学生による発表形式で進め、その後履習者全員で活発な意見交換を行っていく。なお、発表とは別に、3週ほど<Discussion topics and activities>として、実際の文化事象を紹介・鑑賞し、議論する時間を設けたい。

専門演習

授業の到達目標
たんに英語論文の読解に努めるだけでなく、その要旨を的確に把握すること。さらに、現代イギリス社会における小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに触れることで、改めて「連合王国」であるイギリスの多様性についても考え直すこと。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席は3分の2以上。発表と授業における貢献度。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ
★可能であれば、春学期第１クオーター開講の「英語圏文化研究1」、秋学期セメスター開講の「思想の文化史」をあわせて履修すると、理解がさらに深まるであろう。
★本演習で使用するテキストはそれほど難解ではないものの、担当する箇所の分量は多めである。英語力向上への意欲のない学生、担当分の発表を責任をもってこなせる自信がない学生は、履修を控えていただきたい。くれぐれも時間割の都合だけで登録しないこと。
★Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。
★あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。
※近年とくに安易かつ無責任な学生の当日欠席（例：どういうわけか発表日に限って高熱が出る学生<多発>）によって、授業の進行に支障をきたすというゆゆしき事態が起きている。真面目に出席している学生への配慮から、原則として、割り当てられた発表日・発表時間に欠席した場合、単位の取得はほぼ不可能となることを銘記したうえで、履修するかどうか決断いただきたい。病気の場合は後日診断書、インフルエンザは事務所からの書類、忌引も当該箇所からの書類が提出されれば「セカンドチャンス」は与えるが、その場合には新たな担当箇所が指定される可能性が高くなることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	多元文化論系演習（アイルランド文化史） アイルランド文化を概観する							
担当者名	小林　広直							
多元	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要
4人のノーベル文学賞作家（イェイツ、ショー、ベケット、ヒーニー）だけでなく、20世紀最大の小説家と称されるジェイムズ・ジョイスを輩出した、「聖人と学者の国」アイルランド――その豊かな文化を、受講者の皆さんの興味関心に基づいて学

んでいきます。上述したアイルランド文学はもちろん、所謂「ケルト文化」を代表する神話や伝説、『ガリバー旅行記』のYahoo表象、オスカー・ワイルドと近代、エンヤやU2といった音楽、近年ますます注目されるアイルランド映画、イースター蜂起やIRAのテロリズムと深くかかわる歴史、「ケルティック・タイガー」と称されるバブル経済と今日のEUとの関わり、同性婚や中絶を巡るカトリック教会の問題、移民とアイリシュ・ディアスポラ、パブとギネスとリバーダンスと……などなどの問題を幅広く、そして深く、貪欲に学んでいきましょう。

アイルランドにはあまり興味はないんだけれども…という人も、ご心配なく。初回の授業でお互いに「自己紹介」をしながら、興味が持てそうなテーマを選んでみましょう。文化と一口に言っても、神話・伝説・歴史・文学（詩・戯曲・小説）・音楽・映画・スポーツ・食・宗教・経済など多岐にわたりますね。この中で1つでもあなたのアンテナに引っかかるものがあるはず、です。そして、何より大事なのは、自分で調べて、読んで、考えること――この演習を経て、アイルランド文化について何か一つでもいいから語れるようになることを目指します。

授業は毎回、受講者の皆さんの発表と質疑応答によってすすめていきます。発表担当者は、プリントあるいはスライドを作成して準備をすること（初回の授業でやり方は説明します）。

「演習」は、受講者の皆さん、つまり、あなたが作りだすものです。発表者はもちろん、オーディエンスのあなたの「質問」する力も問われますね。人見知りでもネクラでも勿論結構ですが、常に「参加」するという意識を持って授業に臨んでください。私自身、ジョイス（アイルランド文学）の専門家ということに一応（？）なっていますが、言うまでもなく、まだまだたくさん学ぶことが多いと自覚しています("I have much, much to learn")。決して汲みつくすことのできないアイルランド文化の魅力を、みなさんと一緒に学んでいきたい、と思います。

授業の到達目標

アイルランドの文化について、概略的に説明できるようになるだけでなく、個別具体的な知識を持ってもらうことを目指す。
すなわち、自分の興味と関心に基づいて、アイルランドに関する本や映画、音楽や芸術をどのように「解釈」するかを、第三者に向かって語れるようになることを目標とする。また、自分自身で調べたことを口頭発表し、ペーパー（レポート）にまとめる能力を身につけることも目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　リサーチペーパーとして、内容・形式ともに整っているかどうかを評価する（内容・形式・論理・文章・締切の5項目、各10点）。
●**平常点**　50%　　出席回数と授業への貢献度（出席点30点＋発表20点）を評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

https://www.stephens-workshop.com/

科目名	多元文化論系演習（英語演劇の文化史）　現代イギリス演劇入門							
担当者名	小田島　恒志							
多元	2単位	春クォーター	月1時限	木1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2010年にロンドンのリリック・ハンマースミス劇場他全国で上演された Richard Bean の戯曲 *The Big Fellah* を読む。イギリス人が書いた芝居だが、舞台はニューヨーク、ある消防士のアパート。そこで70年代から現代（ラストシーンは2001年9.11）まで、北アイルランド紛争におけるIRAの活動にアイルランド系アメリカ人として遠くから援助活動をしていた者たちの話。政治的な事実にも触れつつ、会話は「おふざけ」な所も多く、いわゆる「ブラックコメディ」と称される。
英国演劇の文化のみならず、イギリス、アメリカ、アイルランドそれぞれの英語圏文化をも読み解いていきたい。個人個人のテキスト解釈が大切だが、授業ではグループによる発表形式も考えている。

授業の到達目標

上記のとおり、テキストから英国演劇の文化および英語圏文化を読み解き、知識とすることと、そのような読解の技術を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　14回目の授業の日に試験をして、理解度を確認します。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　グループ発表などの activity を総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.outofjoint.co.uk/prods/bigfellah.html
http://setagaya-pt.jp/news/2013/11/the_big_fellah.html

科目名	多元文化論系演習（思想の文化史）「文化」とは？文化「の研究」とは？							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「文化(culture)」とはなにか。人文科学の学問分野において、この言葉ほどその歴史的・現代的意義を論じる上で、多様な含意をもつものはそう多くはないだろう。そして、文化構想学部に入学してきた学生さんたちは、少なくともなんらかの理由で、こうした文化のありように関心をもっているはずである（と、信じたい）。とはいえ、実際にこれをどうとらえて、どう批判的に研究していくものか・・・、と、ある種の行き詰まり感を抱いてはいないだろうか。
この演習では、「文化」とはなにか、そしてこれを研究するにはどのようなアプローチ方法があるのかということを、文化史

的な視点も含めながら学んでいくことを目的とする。授業では、イギリスを中心にこのテーマを探る研究書*Studying Culture: A Practical Introduction*をテキストに用いる。発表者は、担当する章について概略をまとめ、各自が関心をもったトピックについてさらなるリサーチを行ってもらいたい。まず学生による発表形式で進め、その後履習者全員で活発な意見交換を行っていく。なお、履修者数にもよるが、発表とは別に、2週ほど<Discussion topics and activities>として、実際の文化事象を紹介・鑑賞し、議論する時間を設けたい。

授業の到達目標

・文化にまつわる諸問題を研究する視点を養う。
・英語の精読および多読の能力を身につける。
・効果的なプレゼンテーションを行う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席を重視。担当箇所の発表と授業における貢献度を総合的に評価。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

★Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

★本演習で使用するテキストはそれほど難解ではないものの、担当する箇所の分量は多めである。英語力向上への意欲のない学生、担当分の発表を責任をもってこなせる自信がない学生は、履修を控えていただきたい。くれぐれも時間割の都合だけで登録しないこと。

★あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

※近年とくに安易かつ無責任な学生の当日欠席（例：どういうわけか発表日に限って高熱が出る学生<多発>）によって、授業の進行に支障をきたすというゆゆしき事態が起きている。真面目に出席している学生への配慮から、原則として、割り当てられた発表日・発表時間に欠席した場合、単位の取得はほぼ不可能となることを銘記したうえで、履修するかどうか決断いただきたい。病気の場合は後日診断書、インフルエンザは事務所からの書類、忌引も当該箇所からの書類が提出されれば、「セカンドチャンス」は与えるが、その場合には新たな担当箇所が指定される可能性が高くなることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	多元文化論系演習（英語圏の言語政策） Looking Beyond the Surface							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will focus on language policy in the English-speaking world beyond the USA and UK. It mainly focuses on the language policies of Australia, Canada, Ireland and the Caribbean. English is the dominant language of these countries as a consequence of their colonial heritage, and all of them have neglected the languages spoken by the indigenous people. This course will explain how the power of English within these countries is played out in terms of official language status and internal relations among groups and individuals who use native and other official languages.

専門演習

授業の到達目標

The aim of this course is to give an idea about the language policies, reasons for language policies, and the cultural politics of these language policies in a selection of geographically diverse English-speaking countries. Students will be expected to conduct further research to develop their knowledge and understanding of areas which are of particular interest to them.

成績評価方法

Small presentation …… 20
In-class writing …… 20
Long paper ……40
Portfolio, homework, participation ……20

科 目 名	多元文化論系演習（英語の構造） 言語の構造と英語の特徴							
担当者名	森田　彰							
多元	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この講座の目的は、構造とは何か、言語の構造とは何かを理解しながら、英語の特徴を考えることです。現在の英語とその古い時代の姿との比較をしたり、同時代（現代）の近い言語あるいは日本語との比較をしたりすることによって、英語の構造を浮き彫りにし、さらに言語の構造とは何か、それをどう記述するかを考えます。英語は、1500年の歴史の中で、極めてドラスティックな変化を遂げた言語です。それは、かつての英語と現代英語では、全く違った系統に属す言語であると見られてもおかしくないくらいの変化でした。ある意味で、英語は、他のヨーロッパの言語からは孤立した言語である、と言っても良いでしょう。しかし、その激しい変化の中で生き残った様々な「英語らしさ」もありますし、また、英語が獲得した特質もあります。それらを、以下の授業計画に沿って、明らかにしていきます。

更に、英語の構造を理解することが、どう英語の運用能力の向上に資するかについても、考え応用していきます。それによって、今までの英語学習とは違った学習の方法論が見えてくるでしょう。

半期の講義なので、扱う項目の奥行きと広がりは、受講者の構成によって、柔軟に考えるつもりです。つまり、単純な講義科目と考えず、自ら考え取り組む演習として受講してください。

言語に対する興味があれば、英語以外の言語に関する深い知識は特に必要としません。

授業の到達目標

・構造とは何かが理解できること。
・言語にとって構造とは何かが理解できること。
・英語の構造について理解する。
・英語の構造の変化とその要因について理解する。
・英語の構造を理解し、運用能力の向上につなげられる。
・科学的「記述」方法とは何かが理解できる。

成績評価方法

構造とは何かを理解し、英語の構造を分析できるかどうかについて理解度の確認を行いますが、受講者の人数、演習の進度等によりレポートあるいは、試験と簡単なレポートのいずれかになります。レポートのみとなった場合は、レポート80%から90%、平常点（演習への参加度）20% 以内としますが、後者の基準は、単に出席だけではありません。従って、プラスの評価となる部分と考えてください。試験を行った場合は、試験の成果が80%、その他の要素が 20% 以内が目安です。

備考・関連URL

当然の事ですが、受講者の人数、構成によって講座の進め方、評価の方法は変えざるを得ません。第1回の講義には必ず出席してください。その時に調整します。また、Course N@vi のチェックも忘れないようにしてください。また、演習ですから、出席して討議に参加することも評価の対象となります。極力欠席をしないようにしてください。なお、この講座は、早稲田キャンパスで実施されるうようになると思いますから、必ず事前に確認してください。

科 目 名	多元文化論系演習（英語教育の諸問題）							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
多元	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise and academic prose. We will be using readings from articles to launch our inquiries. From there, we will be drawing on a variety of media to help us explore these questions. Research, and the collection of ideas and materials, will be very important. You will be given the opportunity to use our texts from the class and follow interests of your own that will help to explain and expand the points that we are making. You will be making reference to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. We will learn how to use such sources to advance our thinking and our ideas, cite them correctly, and use them in creative written argumentation, evaluation, and explanation.

授業の到達目標

There is no official definition of "global" or "world" language, but it essentially refers to a language that is learned and spoken internationally, and is characterized not only by the number of its native and second language speakers, but also by its geographical distribution, and its use in international organizations and in diplomatic relations. A global language acts as a "lingua franca", a common language that enables people from diverse backgrounds and ethnicities to communicate on a more or less equitable basis. This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the global development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently developing in and across diverse societies.

成績評価方法

Group presentation……20%
In-class writing……20%
Long paper……40%
Portfolio, home work, participation……20%

科 目 名	多元文化論系演習（英語圏の映像文化） American Auteurs							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore American cinema in relation to the concept of the auteur: the director as primary author of the film despite working in a collaborative studio system. We will survey films by those directors who are typically thought of, or could be thought of, as auteurs, starting in the silent era and continuing up to the beginning of the twenty-first century. Films will have subtitles in Japanese; however, the course will be conducted entirely in English. Students need to commit to spending the time and the money to view at least one film per week (see "Assigned work before/after class" below).

授業の到達目標

Students will learn to discuss films from an academic perspective and learn about various aspects of American life and culture. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, presenting, and discussion skills.

成績評価方法

Weekly quizzes (14 x 5 points) 70%
Group presentation 20%
Participation 10%

備考・関連URL

https://www.waseda.jp/library/assets/uploads/2016/12/no13_av_room_2013.12.1.pdf

科 目 名	多元文化論系演習（外国語学習者の心理）							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	２単位	春学期	月曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

This seminar considers why some people are able to learn a foreign language more quickly and to a higher level than others. We will discuss topics such as personality, identity, emotions, and motivation, and think about how they affect learning. The seminar will help students' understand the important role of psychological factors in successful language learning and encourage students to think about their own experiences as language learners.

授業の到達目標

At the end of this course students should be able to:
1) Understand the importance of psychology in language learning
2) Have a knowledge of some of the most important ideas from psychology and their role in language learning
3) Discuss how these ideas connect to their own learning experience

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　70%　　One written research report　One oral presentation
●**平常点**　30%　　Active class participation
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

科 目 名	Contemporary Japanese Fiction in English Translation (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	２単位	春クォーター	火２時限	金２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

This course offers students an opportunity to read contemporary Japanese fiction in English translation, published in a variety of international print and online venues. We will read a range of authors including Haruki Murakami, Yoko Ogawa, Hiromi Kawakami, Mieko Kawakami, and Yoko Tawada. Through a close study of the fiction as well as the publication venues, we will explore the diverse themes and styles of contemporary Japanese literature and how selected works have been introduced and circulated in the global market.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English translation, you are encouraged to read the stories in the original Japanese as well.

専門演習

授業の到達目標

1)　Acquire exposure to contemporary Japanese fiction in English translation.
2)　Become familiar with international literary journals and popular magazines.
3)　Situate contemporary Japanese literature in a global context.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Response Papers (50%)
3. Final Paper (30%)

科 目 名	Women's Coming-of-Age Narratives (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	２単位	秋クォーター	月２時限	木２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

This class will explore coming-of-age narratives by a diverse group of women writers and artists from around the world. Through a close analysis of short stories, novellas, films, and visual arts, we will address themes such as gender roles, puberty, sexuality, socialization, romance, marriage, and family. We will consider how some themes are shared across cultures, while other are tied to their cultural contexts. Through the course, we will explore how coming-of-narratives have represented women's lives, constructed or deconstructed ideals of girlhood and womanhood, and played a role in the development of feminism.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English, you are encouraged to consult the material in the original languages whenever available.

授業の到達目標

1)　Acquire exposure to coming-of-age narratives written by women.
2)　Critically analyze literary works by exploring issues of gender, sexuality, identity, and race.
3)　Understand how literary works have critiqued or shaped women's gender roles.
4)　Situate the coming-of-age narratives in their local and global contexts.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Response Papers (50%)

4. Final Project & Presentation (30%)

科 目 名	Global Tokyo (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	冬クォーター	月4時限	木4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course explores the modern city of Tokyo by examining a variety of material produced in Japan and overseas, ranging from literary texts, films, photographs, advertisements, guides, and other media. We will explore how Tokyo has developed and changed over time from the standpoint of global and comparative perspectives, and understand the interplay between traditional and modern, and global and local. Throughout the course, students will pay particular attention to issues of gender, class, ethnicity, and national identity. You will be encouraged to go out into the city and think critically about aspects of Tokyo that you discover throughout the course, as Japan prepares for the 2020 Tokyo Olympics.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English translation, you are encouraged to consult the material in Japanese whenever available.

授業の到達目標

1) Understand how Tokyo has developed and changed over time.
2) Become familiar with cultural works depicting Tokyo.
3) Develop critical ways of thinking about urban space.
4) Explore the interplay between traditional and modern, and global and local.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (40%)
3. Final Project (30%)
4. Final Group Presentation (10%)

科 目 名	Global Science Fiction (TCS quarter seminar)							
担当者名	スミス　ジョーダン・アントニー・ヤマジ							
多元	2単位	秋クォーター	月4時限	木4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will examine science fiction as a genre that engages with our experience of the modern world. We will consider how, by purportedly narrating the future, science fiction provides a rich language to think through very present issues, and allows creators to play out fears and fantasies about the relationship between humans and technology, and their impact on our planet. Through a close reading of literary and visual texts, we will think about the particular ways each medium contributes to the creation of a shared imaginary that goes beyond specific works. Special attention will be devoted to works of science fiction produced in Japan and East Asia.
(All readings are in English. No knowledge of Japanese, Chinese or Korean is required.)

授業の到達目標

1. Become familiar with the development of science fiction and its main topics.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the specificity and commonalities of science fiction imagery in diverse media.
4. Practice analyzing literary and visual texts, paying attention to the interplay of the thematic and the formal.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　Final Project
●**平常点**　30%　　Attendance/Class participation
●**その他**　30%　　Weekly Responses/Presentations

科 目 名	Youth Culture in Modern East Asia (TCS quarter seminar)							
担当者名	バナード　ジュニア　ピーター　ジョン							
多元	2単位	冬クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will examine how young men and women have been imagined and represented in modern East Asia, through an analysis of literary works from the late nineteenth century to the present. Throughout this period of change and uncertainty, "youth" has functioned as a rich space to consider issues of modernity, identity, sexuality, family relations, and commodity culture. We will think about the connections between the personal and the political, paying attention to how coming-of-age stories gain an allegorical dimension within the processes of nation building and modernization. We will examine how modern consumer culture has fetishized the idea of youth through fashion and music. We will also pay special attention to constructions of adolescence and youth as a period of idealism and purity, and to the many forms through which the idea of youth has been mobilized for political activism in the modern period. (All readings are in English. No knowledge of Chinese, Japanese, or Korean language is required.)

授業の到達目標

1. Consider the role of young people in East Asian modernity, both as agents of change and as objects of representation.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the specificity and commonalities of the experiences of young people throughout East Asia.
4. Use the tools of literary analysis to interpret the readings.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% Final Project
●**平常点** 30% Attendance and Class Participation
●**その他** 30% In-Class Assessments and Presentations

科 目 名	Ghosts and the Supernatural in Japanese Culture (TCS quarter seminar)							
担当者名	高井　詩穂							
多元	2単位	秋クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will examine representations of ghosts and supernatural elements in various genres of classical Japanese literature from the beginning until the nineteenth century, such as myths, narrative tales, Buddhist anecdotes, theater, and early modern popular fiction. We will explore the roles and functions of ghosts and the supernatural in Japanese literature under each historical and cultural context. While ghosts and the supernatural are about the other world, they also are closely related to the real world, people's psyches, and social issues of each time. The themes we will consider include gender roles, class, censorship, didacticism, entertainment, satire, and humor.

This course will be conducted in English. No knowledge of Japanese is required.

授業の到達目標

1. To acquaint yourself with classical Japanese literature in translation through the theme of ghosts and the supernatural.
2. To analyze and understand the use of ghosts and supernatural elements in classical Japanese literature through close reading of the texts with consideration of the cultural, religious, and historical context.
3. To be able to effectively use secondary readings to analyze the primary texts.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% Final paper
●**平常点** 30% Attendance and class participation
●**その他** 40% Response Papers, Presentations, Quizzes

専門演習

科 目 名	Adaptations of Classical Japanese Literature (TCS quarter seminar)							
担当者名	高井　詩穂							
多元	2単位	冬クォーター	月2時限	木2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

Japanese classics have been constantly revisited and remade into new works throughout the history of Japanese literature. This class will examine modern adaptations of classical Japanese works.We will examine literature, theater, and film, paying attention to how the Japanese past is revisited and reimagined in various genres, and for what purposes. The class explores themes such as genre conventions, authorship, the modes of reception, and media.

All readings are in English. No knowledge of Japanese is required.

授業の到達目標

1. To learn about adaptations of classical Japanese literature in various time periods and genres.
2. To understand classical Japanese literature as it relates to modern society through the theme of adaptation.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% Final paper
●**平常点** 20% Attendance and class participation
●**その他** 50% Quizzes, Presentations, Response Papers

科 目 名	Japanese Mystery Fiction (TCS quarter seminar)							
担当者名	ハートマン　ナン							
多元	2単位	春クォーター	月2時限	木2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore the development of mystery fiction in Japan, focusing mostly on its literary form, but considering also its presence in other media (film, TV, manga, etc.). We will consider both the formal characteristics of the genre (such as the different techniques creators have deployed to create suspense), and

also its potential for social and political commentary.
(All readings are in English translation. No knowledge of Japanese is required.)

授業の到達目標

1. Become familiar with the development of mystery fiction in modern Japan and its main topics.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the specificity and commonalities of mystery fiction in diverse media.
4. Practice analyzing literary and visual texts, paying attention to the interplay of the thematic and the formal.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% Final Project
●**平常点** 30% Attendance and Class Participation
●**その他** 30% 30

科 目 名	Japan's Living Theater (TCS quarter seminar)							
担当者名	高井 詩穂							
多元	2単位	春クォーター	月4時限	木1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

In this course, we will consider the representations of different types of women depicted in Japanese theater from the fourteenth through nineteenth centuries, mainly focusing on the three major traditional Japanese theatrical forms, nō, jōruri, and kabuki, and how they are adapted into modern stories, movies, and contemporary performances. Students are required to read at least 20 pages for each class and write weekly response papers. The class will be conducted in English.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:
1) Understand the key elements of the three major traditional Japanese theatrical forms, nō, jōruri, and kabuki, through exploring the issues of gender and women in these theatrical traditions.
2) Become familiar with the transformations of major topical themes across genre and time.
3) Appreciate traditional Japanese theater as a living art that inspired modern Japanese literature and art, and is still appreciated in theaters today.

成績評価方法

30% Final Project

30% Attendance and Class Participation

40% Weekly Assignments and Presentations

科 目 名	複合文化論系演習（芸術思潮の越境） 越境する芸術—ポスト・メディウム的映画を構想する							
担当者名	田中 綾子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

20世紀以降の芸術にとって「越境」とは新たな創造の源泉です。
「越境」は、国境・エスニシティ・ジェンダー・文化的領域・ジャンル・メディウムなどの既存の形式・制度・枠組みを横断し、時に侵犯・撹乱することで新たな芸術を生み出す力となっています。単に二つ以上の領域（絵画と音楽、芸術と科学など）に股がって作品を制作している、またはマルチメディアを使用している作品だから「越境」的なのではありません。「越境」性を持つ芸術とは、異種の新たな結合によってその作品の背後から立ち上る思想とその表象される形に内在的な撹乱性と創造性を持つものです。
この授業では、前半で、上記のような意味での「越境」性を持つ芸術家を各自1人取り上げて、その芸術家について発表してもらいます。後半では、前半の個人発表の中からとりわけ興味を引いた「越境の芸術家」を選び、その芸術家についてのアート・ドキュメンタリー作品（映画）をグループごとに企画・構想し、発表してもらいます。
発表とディスカッションを通して、芸術における「越境」とは何か？について、考えを深めていきたいと思います。

【発表について】
前半：個人発表。「越境する芸術家」をテーマに、20世紀以降の国内外の芸術家の中から自由に選出してもらいます。一度発表された作家は再度選べません。その芸術家について（概要と代表的作品とコンセプト、その作家の越境性は何か？）発表してもらいます。発表はビジュアルを使用したプレゼンテーション形式とします。レジュメを作成して下さい。

後半：グループ発表。前期の個人発表の中から投票で数名の芸術家を選び、グループに分かれます。（※選出する芸術家の数やグループの人数は受講者数により決定します。）班ごとに、その芸術家の映画を企画・構想します。その企画案を発表してもらいます。前半同様、発表はビジュアルを使用したプレゼンテーション形式とします。プレゼンテーションの方法もクリエイティブなものになるよう自由な発想を求めます。レジュメを作成して下さい。

授業の到達目標

1、パワーポイントや映像などのビジュアルを使用したプレゼンテーションが行えるようになる。
2、班で構想する映画は、単なる紹介映像に留まらず、映像作品として「越境」性を持つものを構想することを目指す。
3、芸術における「越境」性を理解すると共に、自らも「越境」的な発想を持ち作品の企画ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、発表、質疑応答やディスカッションへの積極的な参加の姿勢から総合的に判断します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	複合文化論系演習（時代の刻印）　冒険物語とその時代							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ここで言う「冒険物語」（Adventure Story）とは，主人公が，偶然，もしくは必然によって，あるいは自ら求めて，日常性を離れた場所で苦難を味わい，それを運と努力と才覚によって克服し，帰るべき場所に帰り，もしくは達成すべき目的を達成する物語のことであり，古代から「ギルガメシュ叙事詩」，ホメロスの『オデュッセイア』などが知られる．これらの影響により，ヘレニズム時代，ローマ時代，中世，ルネサンス期，近現代に多くの，「冒険物語」もしくは，その関連作品が創作された．代表的なものにダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソーの生涯と冒険（1719年）』がある．『オデュッセイア』と『ロビンソン・クルーソー』には共通点も多く，後者は前者の何らかの影響を間違いなく受けているが，2500年の時代差がある以上，その意味するところや，読後感は自ずから異なる．個々の作家の資質，個性が異なることは言うまでもないが，それらが創作された時代背景が大きな意味を持っていると思われる．『オデュッセイア』と『ロビンソン・クルーソー』という代表的な「冒険物語」を中心に，幾つかの文学作品を取り上げ，その背景となる文化，思想，価値観がどのように影響したかを考えていく．

授業の到達目標

ギリシア，ローマ，キリスト教中世，ルネサンス，近現代の「冒険物語」から，地域，時代に固有の文化，思想，価値観を考察する

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価する
●**レポート**　40%　　授業で発表した内容を，学期末にレポートとして，提出してもらう
●**平常点**　60%　　「冒険物語」について調べて，その結果を授業で発表してもらう．また，毎回授業内容のもしくは発表内容の要約，感想を書いたものを提出してもらい，平常点とする
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	複合文化論系演習（主題系の研究）「主題」としてのルネサンス							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

絵画、彫刻、建築、映画、音楽、詩、思想に現れた「人文主義」（ヒューマニズム）について、中世、イタリア・ルネサンスから現代まで続くその影響を考察します。遠い日本の現代の日常にも「人文主義」は見られます。できるだけ多くの題材を取り上げていきたいと思っています。

イタリア・ルネサンスを支えた理念は「人文主義」（ヒューマニズム）と言われます。キリスト教中心の中世に、ギリシャ・ローマの人間中心の価値観が復活して、近代の芽生えであるルネサンスが花開いたとされ、実際にその通りである面は確かにあると思われます。しかし、現代に至るまでヨーロッパではキリスト教中心の価値観が維持され、宗教改革を経て、プロテスタントのキリスト教も大きな力を持っていますが、ローマ・カトリックの影響力は決して小さくありません。さらに、イタリアのルネサンスを芸術方面から考察するとき、現代のベルギーなどがある北方のフランドル地方の影響が大きかったことに気づかされます。そもそも中世初期のゲルマン的要素や、中期の南仏の影響も無視することはできません。ルネサンスにおけるギリシャ・ローマの影響（ヘレニズム）に関する知識を整理して、なおかつそれ以外の要素を点検して、その上でルネサンスの現代における意義を考えたいと思います。

授業の到達目標

文化史に現れる、主題としてのルネサンスの文化・芸術を通じて、その変容と展開を考察します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価します
●**レポート**　40%　　学期末に、3000字程度で学習成果の報告を求めます（コースナビ提出）
●**平常点**　60%　　授業の際に参考にした映像や、発表の内容をまとめ、それに対する見解を記したレビューシートの提出を求め、自分の発表、他の受講者の発表の際の討議などと合わせて平常点として評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	複合文化論系演習（国民文学から世界文学へ）　海外文学原作の「テレビドラマ（化）」を読みとく　【翻案（アダプテーション）としてのテレビドラマ】							
担当者名	柿谷　浩一							
複合	2単位	秋学期	金曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

昨年、世界的な"名作"として長く親しまれ評価を受ける海外文学を、設定やテーマ、モチーフ、キャラクター等のあらゆる面で、見事に「現代日本の物語」へと変換＝翻案してみせた一つのドラマ作品がありました。それが、アレクサンドル・デュマの同名小説を原作とした、ディーン・フジオカ主演『モンテ・クリスト伯〜華麗なる復讐〜』（フジテレビ）です。視聴率は高くあり

ませんでしたが、原作との興味深い異同とともに、時代や地域をこえた「普遍的な主題」の描き方や表現方法、演出など見所が多く、秀逸な作品でした。その数は決して多くはありませんが（それゆえ、考察の意味も出てくるわけですが）、これら海外文学原作のテレビドラマ作品は《異文化／異言語の対話・葛藤・接触》の場に他なりません。

本演習では、世界的に有名な文学作品を「ドラマ化」した作品について、その作品生成や受容のあり方を、「翻案」「脚色」「リメイク」さらには「メディアミックス」といった問題とともに、多角的に考察していきます。具体的に取り上げる作品は、『モンテ・クリスト伯』（2018、フジテレビ）のほか、近作からノーベル賞作家のカズオ・イシグロ原作の、綾瀬はるか主演の『わたしを離さないで』（2016、TBS）。またダニエル・キイス原作の、山下智久主演『アルジャーノンに花束を』（2015、TBS）、ユースケサンタマリア主演『同』（2002、フジテレビ）を予定します。これ以外にも、希望する作品があれば、発表対象として検討してもらっても構いません。

【授業の具体的な進め方】

・受講人数にもよりますが、「個人発表＋ディスカッション」の形式を中心とします。その前後で、ミニ講義回（教員による発表）を挟みます。

・発表は1人「30分」の個人発表。それを受けて、毎回、受講者全員でディスカッションを行います。レポート提出等はありません。

・これ以上の制限はあまり設けず、可能な限り皆さんの意向や要望を尊重し、取り入れていく形にしたいと思いますが、単なる作品論ではなく、演習のテーマに掲げられている通り、作品の関連性・互換・影響等に少しでも触れて、言語表現や異文化接触といった「複合文化論系」らしい問題の中で自由な考察をしてほしいと願います。

・講義回以外は、私もディスカッションの参加者のひとりです。日本文学・文化、ポップカルチャーの観点から発表に対してコメント等はもちろんしますが、それ以降は「先生」というよりは、一緒に考える「仲間」でありたいというのが願いです。活発に、対等に、対話をし合えたら素敵じゃないですか。

・講義『愛の諸相』の対話・議論篇のような教室になれば、とも思っています。

授業の到達目標

世界的評価をうける表現（者）と、国内作品との繋がりを学術的に検証できる。
「（国民／世界）文学」という概念を拡張する感性を磨く。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　個人発表と、毎回のディスカッションへの取り組み。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・毎回のディスカッションへの参加をもって、出席とします。その回の、ミニ講義または他の人の発表に積極的に反応し、「声」を発して下さい。

（例年、最初はなかなか全員の声は出てきません。その気持ちもよく分かります。ですが、次第に授業時間が足りないぐらい活発な議論になっていきます。今年もそうした「無理のない、楽しく、充実したディスカッションの場」を目指したいと思っています。そのために、私も教室・雰囲気作りに工夫を凝らします）　・平常点100%ですので、欠席は単位に影響してきます。どうにも出られない時は、しっかりと礼節とルールを守り、事前に連絡をするようにして下さい。

・発表内容が充実していないと判断した場合には、やり直しを指示することもあります（これまではいませんでしたが）。だからといって、凝り固まって悪い意味での「ちゃんと」したレジュメをきって、発表しなければ、と窮屈になることはありません。むしろ、ディスカッションの土台やきっかけを提供するような発表や報告が望まれます。

☆受講者数や学生の関心、授業の展開、さらには2019年のカルチャーシーンの動向によって、内容や計画の一部を変更する場合があります。予め了解のうえ、履修して下さい。

専門演習

科目名	複合文化論系演習（現代日本語研究1）　類義語の研究							
担当者名	苅宿　紀子							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「サケル」と「ヨケル」、「オコル」と「シカル」、「ニンゲン」と「ヒト」、「ナルホド」と「タシカニ」、「セッカク」と「ワザワザ」、「トテモ」と「ヒジョウニ」と「スゴク」などの類義語を、わたしたちは普段なにげなく使い分けている。しかし、それぞれの類義語の違いを的確に説明できるだろうか。

日本語を話したり書いたりする際には、意味の似ている語の微妙な違いを区別し、的確に使い分けることが必要である。本授業では、単に言葉の使い分けができるだけでなく、微妙な意味や語感の違いを具体的に説明する力を身につけることを目標とする。類義語について考えることで、言語感覚をみがき、言語の分析能力を高めていきたい。

類義語の使い分け・分析方法などについて考えを深めるために、履修者による発表形式で授業を進める。発表後には必ずディスカッションを入れる予定である。また、毎回コメントシートの記入により授業の振り返りをする。

授業の到達目標

・類義語の意味・語感の違いを説明できるようになる。
・類義語について用例をもとに分析できるようになる。
・言語研究の基本を身につける。
・言語研究の論文を読めるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　論文の要約・用例の分析ができているか、オリジナルな研究であるか
●**平常点**　50%　　分担発表の内容、ディスカッションへの参加状況、毎回のコメントシート
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（現代日本語研究2） 現代日本語の文字・表記について考える							
担当者名	澤崎　文							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文字や表記は言語にとって本来的なものではなく、音声言語の副産物と言われることすらある。しかし現代の日本においては、身の回りに文字があることや文字を情報の伝達手段として用いることが当たり前になっている。文字を用いることなく生活するのはほとんど不可能であると感じられ、文字・表記は言語生活における大きな領域を占めていると言ってよい。また、文字・表記は音声言語にはない特徴をもつことも事実である。たとえば、漢字で「日本」と書いた時と平仮名や片仮名で「にっぽん」「ニッポン」と書いた時とでは与える印象が異なるし、同じよみをする漢字でも「大学」と「大學」では異なって感じられるのではないだろうか。このような音声言語にはない独特のニュアンスを情報として伝達できることからも、文字・表記を言語における一領域として観察する意義があると言える。

本授業では、まず現代日本語における文字・表記に関連する日本語学の論文を読み、文字・表記について日本語学の研究テーマとなりうる課題を発見する。さらに受講者はそれぞれの興味に沿ったテーマについて身近な文字・表記を対象として調査・報告し、受講者全員でその内容について検討する。扱うテーマとしては、たとえば以下のようなものが想定される。

字体・字形　固有名詞と文字　同訓異字　音読み・訓読み　字種　送り仮名　振り仮名　句読法　現代仮名遣い　符号　漢字仮名交じり文　方言と文字　日本語の中のローマ字　手書きの文字　文字とデザイン　縦書きと横書き　教育と文字　多様な媒体と文字

授業の到達目標

・先行研究をふまえて自らテーマ設定をおこない、調査・考察することができる。
・日本語の文字・表記がもつ性質を理解し、発表や質疑応答に取り組むことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末の課題として、レポートを課します。
●**平常点**　30%　　授業内での発表内容と、質疑応答における参加度を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（日本地域言語研究1） 現代日本の地域言語を分析する視座を養う							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代日本語（共通語や地域言語）における、様々な言語的事象を取り上げ、その基礎を学ぶとともに検討する。春学期に扱うテーマは、現代日本の地域言語をテーマとする。教材は、雑誌『日本語学』に掲載された論文を10篇プリントして用いる。受講生は班ごとに論文1篇を分担して、その内容を解説する。さらにその論文を批判的に論評し、発展的な研究の方向を提案できるようにし、場合によっては秋学期の発表に備える。このような取り組みによって、現代日本の地域言語について理解を深めることとする。

授業の到達目標

現代日本語（共通語や地域言語）を言語的に分析するための基礎的な視座を養い、自身で現代日本語を分析することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　テーマの選定、資料・データの集め方、記述の論理性、結論の妥当性。なお、レポートは最後の授業内で書くこととする。
●**平常点**　30%　　発表と討論を中心に構想される授業であるから、積極的に授業に参加しているかを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（日本地域言語研究2） 現代日本の社会言語を分析する視座を養う							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代日本語（共通語や地域言語）における、社会言語学的な様々な言語的事象を取り上げ、その基礎を学ぶとともに検討する。秋学期に扱うテーマは、現代日本の社会言語をテーマとする。教材は、雑誌『日本語学』に掲載された論文を11篇プリントして用いる。受講生は班ごとに論文1篇を分担して、その内容を解説する。さらにその論文を批判的に論評し、発展的な研究の方向を提案できるようにする。このような取り組みによって、現代日本の社会言語について理解を深めることとする。

授業の到達目標

現代日本語（共通語や地域言語）における社会言語学的なテーマを分析するための基礎的な視座を養い、自身でも分析することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　テーマの選定、資料・データの集め方、記述の論理性、結論の妥当性。なお、レポートは最後の授業内で書くこととする。
●**平常点**　30%　　発表と討論を中心に構想される授業であるから、積極的に授業に参加しているかを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（比較言語学研究） 言語を比較するとは、どういうことか。言語の変化とはどのようにして起こるか。							
担当者名	森田　彰							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

碩学高津春繁は、『比較言語学入門』で「およそいかなる科学といえどもそれが実証的・帰納的であるかぎり、比較方法を使用せずには成立しえない。」と言っています。その比較方法が言語の探求にどう用いられてきたか、また用いるのかを学びながら、曰く全ての学問に通ずる比較の方法論を学びます。

言語を比較することには、勿論いくつかの目的、対象、方法があります。しかし、これとは別に、「比較文法」と言い、同系統の複数の言語を比較し、その言語間の関係を探ったり、それらの共通の祖先（祖語）や元の形を想定しようとする学問分野が、伝統的に比較言語学とほぼ同義で用いられて来ました。そこで、本演習では、言語における「比較」の原点であった比較文法の概要を理解した上で、さらにそこから発展した言語の通時的（歴史的）研究、特に言語変化の様相を見ていきます。また、比較を重要な研究の手法とする言語接触についてもその要点を学びます。一つの言語の中の変種 variation と標準化 standardization についても可能な限り触れたいと思います。

後半には、学んだ幾つかのテーマに従って、討議形式の発表を行ってもらいます。やり方については、講座の中で説明します。

授業の到達目標

・ 全ての科学に通ずる比較の方法論を言語を例にして学ぶ。
・ 似ていないものが似ていることを知る。
・ 言語の変化とその様相について理解を深める。
・ 一次資料、二次資料の収集と扱い方（引用）、その区別ができる。

成績評価方法

一応、理解度を測るテストを20%程度、発表を60%程度、演習への貢献（所謂平常点）を20%程度と考え、総合的に評価します。が、受講者の人数により、テストの比重を高めたり、発表の比重を高めたりすることがあります。また、発表とレポートによる評価にする場合もあります。人数が多くなれば、別にテストを行う可能性もあります。受講者数によって登録者確定後に正式に決定しますから、第1回の授業には必ず出てください。

備考・関連URL

比較文法の何たるかを、特に印欧（インド・ヨーロッパ）語比較文法を本当の意味で知るには、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などの印欧諸語の複数に関する深い知識、さらに言えば、ラテン語、古典ギリシャ語、サンスクリット語の知識が必要です。しかしながら、言語間の比較は、比較文法の範囲に留まるものではありません。それを理解し、中途半端に言語を比べてみる、と言うことではなくしっかりとした方法論と資料の収集と活用を身につけてください。学生の発表に関しては受け身にならず、積極的に討議に参加してください。また、受講者の人数によって、討議にかける時間（授業回数）と学ぶ内容と方法については、調整が必要になります。この調整への対応も含め演習は、受講者の参加度、積極性も重要な評価の基準になります。欠席は極力しないように。

科 目 名	複合文化論系演習（言語と文化）							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「言語を学ぶとはすなわち文化を学ぶことである。」これまでみなさんは何度となくこのような話を聞いたことがあると思います。しかし、これらの主張は、雰囲気としてはなんとなく分かるような気もしますが、「いったいどういうことなのか具体的に説明してください」と言われると困ってしまうのではないでしょうか。この講義では、こうした主張の起源と発展をたどり、その妥当性を検討することを通じて、その正しい解釈について考察します。

授業の到達目標

1.「言語の違いにかかわらず、人間がもつ概念は普遍的である」とする普遍主義の考え方を理解する。
2.「言語が異なれば概念（さらには世界観）も異なる」とする相対主義の考え方を理解する。
3. 極端な普遍主義・極端な相対主義に陥ることなく、言語と概念、言語と文化の関係を正しく捉えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末のレポートを評価対象とします。
●**平常点**　60%　　教科書の各章の内容についてのグループ発表、および討論への参加の度合いを評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

秋学期開講「ヨーロッパのことばと文化」「認知言語学入門」をあわせて履修すると、いっそう理解が深まるでしょう。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	複合文化論系演習（日常言語の論理学）							
担当者名	峯島　宏次							
複合	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「人間の言葉を形式的に分析する」という考え方は、G.フレーゲ、N.チョムスキー、R.モンタギューらの研究を経て、形式文法・形式意味論という分野に発展し、現在では論理学・哲学・言語学の境界領域で活発に研究されています。この講義では、現代的な観点からその成果の重要な部分を見通しよく提示し、主に日本語と英語を対象にして、私たちがふだん使っている言葉（自然言語）を論理的手法によって分析することの意義について考えます。これは形式意味論の分野で現在標準的な考え方の基本を学ぶと同時に、その基礎を問い直す試みでもあります。

論理学や言語学の特別な知識は仮定せず、授業と平行して、言語分析への応用を念頭に置きつつ、現代論理学の基礎を学ぶ予

定です。

授業の到達目標

(1)現代論理学の考え方に基づく言語分析の基本的な方法を学ぶ。
(2)その背景にある言語学・言語哲学の主要な課題、言語学者・哲学者の間で論じられてきた主要な言語現象について概観を得る。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%
●**平常点** 50%
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

自然言語の文法・意味論に興味のある人、形式言語・論理学に興味のある人、言語一般について哲学的な興味を持っている人など、幅広い背景・専門をもつ人を含めて、言語に関心のある学生の参加を期待します。

科目名	複合文化論系演習（意味と文脈）							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「ことばの意味」を研究する学問分野には「意味論」のほかに「語用論」があります。「意味論」はその名のとおりですが、どうしてこれとは別に「語用論」なる分野が存在するのでしょうか。それは、言語表現が実際の文脈中で用いられることにより、プラスαの意味が伝わることがあるためです。そこで従来、「意味論 = 言語表現の辞書的意味（文脈独立的意味）を扱う分野」、「語用論 = 言語表現が文脈中で使用されたことによって伝わるプラスαの意味を扱う分野」という棲み分けが行われてきました。しかし、近年の語用論では、文脈中でプラスαの意味が生まれるだけでなく、辞書的意味自体が変容することがある（あるいは常に変容する）ことが指摘され、意味論と語用論の棲み分けは従来考えられてきたほどすっきりしたものではないと考えられるようになっています。さらに、1980年代に成立した認知言語学では、意味論と語用論の間に明確な境界線を引こうとすること自体に意味がないと考えられています。この演習では、意味論と語用論の関係についての議論を読み解き、日常なんとなく言われる「ことばの意味は前後の文脈に依存する」ということが具体的に何を意味するのか考えます。

授業の到達目標

1. ことばの意味に対する多面的な見方を身につける。
2. 「ことばの意味は文脈に依存する」という言い方が何を意味するかを厳密に理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 学期末のレポートを評価対象とします。
●**平常点** 60% 講読する論文の内容についてのグループ発表・グループワークへの参加・レビューシート・討論への参加の度合いを評価の対象とします。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

春学期開講「語用論入門」および秋学期開講「認知言語学入門」をあわせて履修すると、いっそう理解が深まるでしょう。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

専門演習

科目名	複合文化論系演習（文法の理論） 生成文法入門							
担当者名	上野　義雄							
複合	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、生成文法による統語論の基礎を英語を中心に適宜問題演習をまじえつつ学習します。教科書に基づいて主流派生成文法の基礎（GB理論の概要とミニマリスト・プログラムへの入門）を学びます。知的好奇心さえあれば、予備知識は一切不要です。授業中にすべて説明します。なお、クラスの理解状況を見ながら進みますから、場合によってはGB理論だけで、MPを扱う時間がないかもしれません。

授業の到達目標

生成文法における統語論の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験** 0% 期末試験は行わない。
●**レポート** 50% 学期末レポート
●**平常点** 50% 授業中のディスカッション・質疑応答
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

理解できない点は、授業中に積極的に質問してください。質問大歓迎です。

科目名	複合文化論系演習（文化人類学入門）							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学は、人間の営みについて文化的側面から研究する学問で、世界の人びとの生活や文化、社会を考える視点を提示してきました。フィールドワークを基盤として描かれてきた各地の社会・文化の様相は、時に私たちの「常識」と異なるでしょう

が、これに気がつくことは、私たち自身の文化、さらには「人間とは何か？」をとらえ直すことにもつながります。本演習では、文化人類学を初めて学ぶ人を対象として、具体的にいくつかのテーマを取り上げ、世界各地の文化や社会の多様性について理解を深めると同時に、私たち自身の文化や常識について改めて考えてみたいと思います。全体を通じ、文化人類学の基本的なものの見方・考え方を学び、専門研究に取り組む為の基礎的な力を養うことを目指します。

なお、本科目は演習ですので、まず授業前半では、教科書となる文献を購読し、担当者による報告と全員でのディスカッションを通じて理解を深めます。さらに授業の後半では、3〜4人のグループごとに授業と関連したトピックを選び、それについて調べたことを発表してもらう時間をもうけます。一連の作業により、文化研究の方法のひとつを実践的に学ぶことができるでしょう。

授業の到達目標

文化人類学の基本的なものの見方・考え方を理解し、自らの「文化」を絶対視することなく、研究・考察する姿勢を身につける。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は行いません。
●**レポート** 40%　学期末にレポートを提出してもらいます。授業内容を充分に理解した上で考察し、正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点** 60%　報告および発表の内容やディスカッション等への参加状況を評価の対象とします。
●**その他** 0%　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（フィールドワーク入門）							
担当者名	磯野　真穂							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学とは他者を理解するための学問の1つであり、「フィールドワーク」は、文化人類学者がその目的を達成するために用いる調査方法のことを指す。

「フィールドワーク」は、一般的に、調査対象の人々の生活空間に入り込み、そこでの日常生活をつぶさに観察する「参与観察」と、調査対象の人々に対する 「インタビュー」の2本柱により成り立つ。参与観察とインタビューにより得られた調査結果により描かれたものは通常「エスノグラフィー」と名付けられる。

通常のフィールドワークは1年以上かけて行われるが、本講義に参加する学生は、それを圧縮した「『小さな』フィールドワーク」をグループごとに実施する。

授業では、序盤においてフィールドワークの基本的な方法と調査設問の立て方を、机上だけでなく、実際に体験しながら学び、中盤から終盤では各自が進めているフィールドワークの中間報告を中心に進められる。学外で行うフィールドワークと学内で行う学生同士の議論を柱とした参加型の授業である。

授業の到達目標

・フィールドワークを通じて、身近な問いを学術的なものに昇華する方法を身に付ける。
・プレゼンテーションとライティングスキルを高める。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 30%　期末レポートではなく、授業中に提示される課題の提出のことを指す。
●**平常点** 30%　出席率と授業態度
●**その他** 40%　40

備考・関連URL

以下を留意の上受講を検討すること
①学期を通じたグループワークである。
②細かい課題が多く課される。
③授業中の発言を常に求められる。
④受講人数に応じて、授業計画と課題を変更することがある。

科 目 名	複合文化論系演習（文化人類学学説史）							
担当者名	小田島　理絵							
複合	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

大航海時代以降、世界は拡大し、異文化接触の機会が高まると、異文化を研究する専門分野として民族学・文化人類学・社会人類学が誕生しました。

20世紀にはいると、世界の様々な地でフィールドワークを行うことが文化人類学の方法論となりました。そこで得たデータを基に、各文化に備わる仕組み、論理の解明、文化的知識の蓄積、翻訳、理解を試みながら、文化の多様性を検証してきました。

現代、歴史的な営為に関する様々な批評や自己省察を経て、文化人類学は、自己と他者を考察に包摂しながら文化事象を研究する人文社会科学の一分野として再輪郭化を図っています。

本演習では、文化人類学的知見が築かれた道程＝学説を辿りながら、世界の文化に関わる知識が、誰によって、どのようなフィルターを通して見つめられ、翻訳され、理解されてきたかを学んでいきます。また、教場では実際に、受講生自らが、文化について自分で書く実践を行います。その作業を通して、文化人類学学説と文化研究への接近を試みると同時に、文化を表すことの意義や難しさも学んでいきます。

授業の到達目標

（1）文化人類学の基礎的視座と知見の理解

（2）文化研究の初歩的実践

成績評価方法

授業への積極的参加を50%、中間課題と最終レポートを50%の割合で評価の対象とします。中間課題と最終レポートは、講義、講読文献、グループでの議論の内容を基に仕上げることになりますので、授業の予習や復習が必須となります。

科 目 名	複合文化論系演習（ジェンダー人類学） ジェンダー視点からの通文化的な比較研究							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習授業では、人類学的調査に基づいたジェンダーに関する論文（英文）についての発表、そしてデスカッションを毎回行う。人類学におけるジェンダー研究の射程を把握し、さらに、現代社会を生きる我々にとって、それら研究がいかに重要なのかについて共に考えることを目的とする。履修者は複数の英論文を事前に読み込んで、その内容について授業で発表するという課題をこなすことに加えて、他の履修者が担当するエッセイも事前に読んでおいて、授業のディスカッションに参加することが求められる。

授業の到達目標

この授業の到達目標は、人類学におけるジェンダー研究の動向について学ぶことだけなく、英語で書かれたものを日本語に翻訳する作業を通じて、ゼミ論・卒論執筆で必要となる文章力を鍛えることも目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　発表内容とディスカッションへの参加度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	複合文化論系演習（資源・グローバリゼーション・その崩壊） 経済人類学から今の問題を見る。							
担当者名	西村　正雄							
複合	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

経済活動は人間にとって欠かすことの出来ないものである。このため文化を考える際の基本といえる。したがって文化人類学を学ぶものにとって、経済活動の分析は必須の事項となっている。本演習では、文化人類学が経済活動をどのように見てきたのか考えてゆく。特に経済活動といえば、市場経済に基づいてものを考えがちであるが、市場の原則のそわない経済活動もまた、文化人類学が研究してきたものである。そうして部分を含めて演習では学生の自主研究調査を含めて考えてゆく。

授業の到達目標

まず経済人類学とは何を十分理解してもらい、その上でその視点をもって現代の問題、特に環境破壊、資源争奪、金融危機などの問題を分析して、代替の解決策を模索できる能力を身につけることを目指す。

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　60%　　授業中出す課題をレポートとしてまとめてもらう。それを評価の対象とする。
●**平常点**　40%　　授業中課題を出す。それをこなし、クラス内で発表してもらう。その達成具合を評価の対象とする。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

すでに文化人類学の基礎的な知識を持った学生の受講がのぞましい。演習のため、すべての授業で学生の発表、意見の表明が求められる。積極的な研究態度が望まれる。2009年度以前に「複合文化論系演習（経済人類学）」の単位を修得済みの方は、この科目を登録できません。

科 目 名	複合文化論系演習（植民地主義と人類学） ポストコロニアル研究の現在							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習授業では、ポストコロニアル研究のショートエッセイ（英文）についての発表とデスカッションを毎回行う。ポストコロニアル研究の射程を把握し、さらに、現代社会を生きる我々にとって、それら研究がいかに重要かについて共に考えることを目的とする。履修者は複数の英文エッセイを事前に読み込んで、その内容について授業で発表するという課題をこなすことに加えて、他の履修者が担当するエッセイも事前に読んでおいて、授業のディスカッションに参加することが求められる。

授業の到達目標

この授業の到達目標は、ポストコロニアル研究の動向について学ぶことだけなく、英語で書かれたものを日本語に翻訳する作業を通じて、ゼミ論・卒論執筆で必要となる文章力を鍛えることも目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　発表の内容とディスカッションへの参加度を重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	複合文化論系演習（カルチュラル・スタディーズと人類学）							
担当者名	松平　俊久							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

カルチュラル・スタディーズは、「高級文化」（ハイ・カルチャー）ではなく、学問的には等閑視されがちであったテレビや広告、映画、ポップミュージック、ファッション、アニメ、ゲームなどの「大衆文化」（ポピュラー・カルチャー）・若者文化を主たる対象として、それらを日常生活（実践）との関わりのなかで捉え、さまざまな学問の理論や概念、方法を借用して理解・考察し、文化の問題にとり組むことを基本としてきた研究領域です。そのスタンスは、さまざまな民衆の文化を対象とし、調査結果から実証的にアプローチしていく学問である文化人類学とけっして無関係ではなく、むしろ両者には相互性がみられるといえます。本授業では、そうした関係をもつカルチュラル・スタディーズと文化人類学双方の基本的な特徴・性格を踏まえて、文化の多様性に触れ、その見方・考え方についてともに学び、考えていきます。

授業形式は、導入として数回講義を実施しますが、演習であることに鑑み、各自が関心をもつ身近な対象・テーマについて個人ないしグループ発表をし、発表後に質疑応答・議論をおこなってもらうという、履修者主体の実践的なものとなります（今年度は各発表にコメンテーターもつける予定）。その際、講師からは発表へのフィードバックとしてコメントを出します。そして最終的には、発表内容をブラッシュアップし、レポートとして文章化するという作業をおこなってもらいます。

授業の到達目標

各自が関心をもつ身近な対象・テーマについて調べて（調査をして）考察をおこない、その内容を発表して、なおかつほかの履修者の発表でとりあげられるさまざまな対象・テーマと履修者間の質疑応答（議論）を介して、文化の多様性を理解することと、カルチュラル・スタディーズと文化人類学双方の立ち位置からの文化の見方・考え方を実践的に身につけてもらうことを目標とします。

また、学術的な思考法や発表構成の組み立て方をはじめとして、発表の仕方（レジュメやpptのスライドの作り方などを含む）や発表内容の文章化（レポート化）といった、自身の考えをアウトプットする能力を身につけることも目標に設定しています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　35%　　発表の内容を的確にレポートに（文章化）できているか、質疑応答で指摘されたことや講師のコメントがうまく踏まえられ、発表時よりも内容がさらによくなっているかなどを評価基準とします。

●**平常点**　65%　　発表を35%、質疑応答への参加度を15%、出席状況を15%とします。 発表は、構成が論理的に考えられているか、限られた時間のなかで的確に内容を伝えられているか、自分なりの考察があるか、質疑応答で質問に答えられているか、レジュメやpptが適切に作成されているのかなどを評価基準とします。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

授業中では十分な時間が確保できないため、履修者間の質疑応答（議論）と講師による発表へのフィードバックにはCourse Navi上のBBSも使用する予定です。

また、第1回のオリエンテーションでは、発表に関して注意事項の説明をおこなうとともに発表日程を決めますので、欠席しないようにしてください。

なお、履修者数などの都合により、授業内容・計画が多少変更となる場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（開発人類学）　開発援助・国際協力・文化人類学の視座							
担当者名	小田島　理絵							
複合	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、様々な文化社会において推進された開発、進行中の開発の在り方に関する文化人類学研究の講読、研究内容に関する受講生の発表、受講生同士の議論を通して、異なる文化と社会における進歩や発展に対する考えを深めていく。

進歩、発展の概念が移り変わりを遂げてきたように、人類学と開発の関わり方も変化を遂げている。人類学者は、立案者的立場、査定者的立場、自身を含めた開発へのすべての関与者の政治性を考慮に入れながら社会づくりへの参加を目指す立場など、様々な立場から社会の発展に関与、協働しようとしている。本演習では、現代、多様化する文化人類学と開発との関わりについても学んでいく。

授業は、（1）文化人類学による開発の見方・関わり方に関する一般講義、（2）近代化理論と都市開発、（3）持続可能な発展と観光開発、（4）モラルエコノミー・ネオリベラルエコノミーと貧困の見方・あり方、（5）市民社会の形成と人間的発展に向けた共同体の在り方の模索、（6）総合まとめ、の全6部から構成されている。

おもにアジア諸国の事例をもとに、考察を進めていく。この流れを通して、開発問題に取り組むための人類学的視野や方法論を身に付けていくことを目標とする。

授業の到達目標

（1）開発と開発に関わる諸問題の文化人類学的見方を鍛え、身に付ける。
（2）開発に関わる諸問題に対する自分の見方を発信する力を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　定期試験は行わない。

●**レポート**　50%　　中間課題として、各自が授業の内容に基づいた小調査を行い、その結果を簡単な報告書としてまとめ、データの見方や取り扱い方法の練習をする。期末には最終レポートの提出が求められる。最終レポートでは、授業の理解度、独自の調査の進め方、文章の構成、参考文献や資料の用い方などを評価する。

●**平常点**　50%　　授業では各自がノートを付けることを習慣づけ、それを基に、文献要約発表や議論へ積極的に参加することが求められている。とくに、受講生が小グループとなり、意見を交換する議論の時間が設けられており、その際には、限られた時間でグループごとに他の人の意見に耳を傾け、話し合い、発表することが求められる。この作業に対し、積極的に参加することが求められる。講読文献を読む際には、その文献で著者が述べているポイントを要約していくことが必要となる。そのポイ

ントを授業で発表する。授業の進度とともに、各自、要約の仕方を鍛えていくことが望まれる。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	複合文化論系演習（物質文化論） ヒトとモノの文化誌							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

私たち人類はこの地球上に誕生以来、周囲の環境に働きかけ、石器や骨角器、果ては外宇宙に飛び出す無人探査機までさまざまな道具＝モノを造り出してきた。貧弱な肉体しか持ち得ない人類はそれらを用いて他の強力な生物との競争に打ち勝ち、今では私たちの身の回りはモノで溢れかえっている。多くの人びとはそれらのモノがどのような必要から、どうやって生み出されてきたのかを問うことすらしないだろう。しかし、モノは単に私たちの生活を豊かにし、彩るだけではなく、私たちヒトの社会/文化のあり方とも深く関わっている、ということも忘れてはならない。本演習では、私たちの身の回りにあるモノの起源、機能や形態の変化などを通じて、社会/文化がどのようにそれらを受け入れ、あるいは社会/文化そのものの変化を引き起こしたのか等々、さまざまな角度からヒトとモノの関わりを考察していくことにしたい。受講生の人数にもよるが、個人、もしくはグループでの研究報告を主とする予定である。

授業の到達目標

モノを通じて、周囲の世界への理解とヒトの文化の多様性と普遍性について学ぶことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　研究報告の達成度、討議への参加状況等、総合的に判断する。なお、受講生は受講後、コースナビ上のレビューシートに記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	複合文化論系演習（医療人類学）							
担当者名	磯野　真穂							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

生きている限り私たちは必ず心や身体の不調を抱えます。そのような不調には、「うつ病」や「糖尿病」のような疾患名がつけられ、それに応じた治療法がとられることが私たちの社会では一般的ですが、このような医療システム（＝生物医療）は世界ある医療システムの1つにしかすぎません。中には病名のつかない不調、精霊や呪いによって起こると考えられる不調もあります。

医療人類学は、生物医療を最も優れた医療システムとして捉えるのではなく、世界にある数多くの医療システムの1つとして相対化し、ひとが抱える心身の不調を、生物学的な異常ではなく、個人の後ろ側にある社会や文化、政治・経済状況までもが包括的に絡み合った苦しみとして捉えます。

本演習では、生物医療以外の医療システムや、摂食障害、ストレス、トラウマといった最近よく耳にする用語や、死や老化といった問題を扱い、心と身体の不調を、世界の中で試行錯誤をしながら生きる人間という大きな視野でとらえる見方を学びます。

授業の到達目標

身体や心の不調を医療人類学的に分析する視点を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　テーマごとに提出。期末レポートはなし。
●**平常点**　40%　　出席と授業参加態度
●**その他**　40%　　40

備考・関連URL

受講に当たっては下記を留意すること
1．テーマごとに課題が出される
2．テーマごとにグループに分かれ、グループそれぞれが講師のアドバイスのもとディスカッションを行いながら授業を運営する形式である
3．グループワークへの積極的な参加が求められる。
4. 扱い内容に若干の変更を加える場合がある。

科 目 名	複合文化論系演習（コミュニティとナショナリズム） 現代世界におけるコミュニティとナショナリズム							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ナショナリズムは近代と強く結びつく現象であるが、現代のグローバル化の時代にあって、再びこうした動きが世界各地で目立つようになってきたと言われる。とりわけ近年では、移民や難民に対し、あるいは、外部に由来すると考えられる理念や価値観に対し、「われわれ」―われわれの利益や価値観、あるいは「われわれのコミュニティ」―を守ろうとする動きとして現れているように思われる。他方、「コミュニティ」という言葉も、さまざまなレベルの多様な集団をさすことがある多義的なものでありながら、昨今「地域コミュニティの再生」が目指されるなど、社会的に注目されている。こうした状況への理解に近づくために、本演習ではまず、ナショナリズム論の古典であるベネディクト·アンダーソン『想像の共同体（Imagined Communities）』を購読する。さらに、3~4人のグループごとに、現代世界においてコミュニティとナショナリズムを考えるための事例を選び、それについて調べたことを発表してもらい、全体でのディスカッションを経て、このテーマへの理解を深めたい。

専門演習

授業の到達目標

①「ナショナリズム」および「コミュニティ」という今も注目される概念について、基本的な知識を得る。

②現代世界における「ナショナリズム」と「コミュニティ」をめぐる問題系について、自ら調べて理解を深め、自分なりにアプローチする力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　40%　　学期末にレポートを提出してもらいます。レポート内容が、授業内容を充分に理解したうえで、正確に論理的に記述されているかをもとに評価します。

●**平常点**　60%　　授業での報告・発表の内容とディスカッションへの参加状況を評価の対象とします。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（多文化社会論）　多文化共生社会を生きるためのライフシフト							
担当者名	砂田　薫							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化の進展によって、多様な文化的背景をもつ人々が共生していくダイバーシティの重要性はますます高まっています。また、デジタルテクノロジーの急速な普及に伴い、人びとの働き方、暮らし方には大きな変化が起こっています。一方で、平均寿命は延び続けています。私たちは、多様性が増し、変化の激しい環境のなかで、長い人生を歩んでいくことになります。

本演習では、リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット著『ライフシフト　100年時代の人生戦略』（東洋経済新報社）を教科書として、社会の変化に関する理解を深めると同時に、今後の生き方、働き方について考えます。

授業の到達目標

（1）社会や雇用環境の変化に関する理解を深めましょう。

（2）ディスカッションを通じて、自分ひとりで考えていたら得られないようなアイデアや考え方について学びましょう。

（3）発表やプレゼンを通じて、自分の意見をわかりやすく明確に発信する力をつけましょう。

（4）大学卒業後の自らの人生や仕事について深く考えてみましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　教科書を読んだ感想、演習に参加して気づいたことと自ら館得たことをA4版1枚程度のレポートで期末に提出してください。詳細は演習時に伝えます。

●**平常点**　50%　　積極的な演習への参加を評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（近代文化の相互交流）　越境するモダニズム							
担当者名	上野　理恵							
複合	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

20世紀初頭の産業社会の成熟や大衆文化の形成は、世界各都市のモダニズムに新たな展開をもたらしました。絵画、彫刻、文学、音楽、演劇といった既存の芸術ジャンルを越えて、それまで誰も見たことがなかったような実験的な作品をつぎつぎに生み出していったのです。芸術に生産性や実用を求める動きは、工業的素材や複製技術の利用を促し、さらにデザインという新たな分野を確立しました。また作品に対する観者の一方的な関係の否定は、パフォーマンスという身体表現を生み、舞台芸術にも変革をもたしました。このような現象はイタリアの未来主義、ロシアの未来主義や構成主義、ドイツのダダやバウハウス、そして日本の〈マヴォ〉や〈三科〉に共通するものです。舞踊の世界に目を向けると、フランスではバレエ・リュスがピカソやコクトーをはじめさまざまな国籍の芸術家たちを引き入れてバレエを刷新し、ドイツやロシアではダンカンのモダン・ダンスやダルクローズのリトミックの受容からモダン・ダンスの新たな潮流が形成されています。

国境やジャンルを越えた芸術家たちの交流は、各都市のモダニズムを互いに刺激し、新しい動きを産む原動力になったのです。この授業ではモダニズムを担った芸術家たちの相互交流に着目し、その歴史的意義を考えます。

授業の到達目標

各国で展開されたモダニズムを比較対照しながら、近代文化の越境や相互交流について考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　20%　　自分の考えを述べていることを重視します。

●**平常点**　40%　　出席状況、授業への参加度。

●**その他**　40%　　発表

科 目 名	複合文化論系演習（メディアと異文化コミュニケーション）　メディアテクノロジーの進化と未来社会							
担当者名	砂田　薫							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人工知能（AI）、モノのインターネット（IoT）、ロボット、拡張現実/仮想現実（AR/VR）といった新しいメディアテクノロジーの開発と普及が急速に進んでいます。人間の身体や五感に働きかけるこれらの技術は、異文化コミュニケーションを支援する役割を果たすと期待される一方で、様々なリスクをもたらすことも予想されます。

本演習では、テクノロジーの進化の恩恵を受けられる未来社会をいかにつくっていくかについて、グループディスカッションを行い考察を深め、望ましい未来を構想します。

授業の到達目標

（1）テクノロジーがもたらす恩恵とリスクについての分析力、さらに未来社会についての構想力を養いましょう。
（2）グループメンバーとのディスカッションを重視して、自分の考えを広げていきましょう。
（3）プレゼンテーションを通じて効果的な情報発信の方法を学びましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、グループワークへの貢献度、プレゼンテーションによる総合評価を行います。グループごとに最終プレゼン資料を提出してください。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（創造の交流点）　美術に見る異文化交流の問題							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

異文化交流の問題を、美術の視点から学びます。19世紀フランスの印象派は、日本美術と出会い「印象主義」を生み出しました。20世紀スペインのピカソはアフリカ美術に触れることで「キュビスム」を生み出しました。美術の歴史を見てみると、こうした例は枚挙にいとまがありません。新しい偉大な創造は、異質な文化が出会い交流するところでこそ生み出されてきたと言えます。異文化の出会いとは何か、他者に学ぶとは何かといった問題を、創造の交流する地点に立って考察していきます。異文化接触と美術、ここでは二つの問題について学びます。

授業の到達目標

美術の創造が、自身に固有の伝統や社会的背景からだけではなく、さまざまな異文化との接触によって生まれてきたことを具体的な例によって知り、それについて考えることが目的です。日本、東洋、西洋といった枠を超えて、広い視野のもと、横断的にイメージ（図像）の創造を考える必要があります。従ってここでは、①異文化接触と交流により、何が生まれるのか、具体的に考察することが一つ目の目的です。同時に②美術史や、美術作品、イメージ（図像）の見方を身に着けることが二つ目の目的です。授業は発表形式としますので、図像を用いたプレゼンテーションができるようになることも必要です。

成績評価方法

平常点で評価します。発表内容、発表原稿、レジュメおよび、授業中に積極的に質疑応答に加わっているかにより、総合的に評価します。

科 目 名	複合文化論系演習（若者、メディア、グローバリゼーション）　グローバル時代・デジタル時代における好機とリスク							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化とデジタル化によって、日常生活は好機とリスクに満ちています。新たな技術の発展によって、多様な形式のメディアが私たちの日常生活に入り込んできています。特に子どもや若者たちは、様々な調査結果から多くの時間をスマートフォンやソーシャルメディア、ゲームなどのデジタル・メディアに費やしていることが明らかになっています。そのため、「デジタル・ネイティブ」や「サイバー・キッズ」などと呼ばれています。

本演習では、グローバル社会、デジタル社会における好機とリスクについて注目していきたいと思います。文献や、調査およびフィールドワークなどから好機とリスクを明らかにし、グループプロジェクトによって、マテリアルを企画・作成することによって、デジタル時代における新たな文化を創造するためのスキルを高めていきたいと思います。

授業の到達目標

1．さまざまな文献、フィールドワークを通して、現代社会における好機とリスクを理解し、その対処法を提示することによって、デジタル・リテラシーを高めていきましょう。
2．グループワークやプレゼンテーションなどを通して、グローバル人材に必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（広告にみる異文化コミュニケーション）							
担当者名	砂田　薫							
複合	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化、デジタル化が進む社会において、広告はますます多様化してきました。伝統的な新聞・雑誌・テレビのマスメディア広告に加えて、今日ではインターネットを通じて、個々人の関心やニーズに対応した広告が表示・配信されるようになりました。記事と広告の区別がつかないコンテンツも増加しています。

本演習では、デジタル社会において広告が果たす役割、人びとや社会に広告が与える影響、広告に見る異文化コミュニケーショ

ンについて、グループごとに調査テーマを設定し、グループワークを通じて考察を深めていきます。

授業の到達目標

（1）文献調査、社会調査を通じて、調査テーマに関する全体像を把握し、問題点を分析しましょう。
（2）グループのメンバーとの協力を大切にして、情報共有やディスカッションを通じて相互にレベルを高めていくようにしましょう。
（3）プレゼンテーションを通じて、効果的な情報発信の方法を学びましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションへの参加度や貢献度、プレゼンテーションによる総合評価を行います。グループごとに最終プレゼン資料を提出してください。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（東アジアの思想世界）　東アジアの思想世界							
担当者名	土田　健次郎							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

東アジア近世の思想文化を取り上げる。中国の宋代に新たに起こった新儒教（Neo-Confucianism）は、仏教や道教の問題意識や議論形態をも取り込みつつ、それまで無かった体系性の強い哲学を構築した。本授業は、その代表である宋の朱子学と明の陽明学を中心に進めていく。この両思想はその完成度と深度、後世への影響の強さにおいて中国思想史上突出した存在であり、その理解無くしては中国のみならず近世東アジア思想を考究することは不可能であると言ってよい。なお随時、その日本や朝鮮への展開にも及び、最後には朱子学の影響と反発から登場した新たな日本近世の思想運動にも触れる予定である。

授業は原資料を味読し、その内容を解説しながら進めるが、漢文の知識があまり無くてもついていけるように配慮する。

本演習は、ディプロマポリシーに則り、文化研究の方法を専門的、実践的に学ぶものであり、またカリキュラムポリシーに則り、文献講読を通して文化研究の学力を確かなものにすることを目的とする。

授業の到達目標

朱子学と陽明学を理解するとともに、東アジア近世の思想世界についての基礎的知識を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　第15回目の授業の時にレポートを提出する。
●**平常点**　50%　　テキストの読解と思想的理解、また授業への参加姿勢を見る。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

原典を読みながら授業を行うが、原典解読に慣れていない受講生のことも配慮する。

科 目 名	複合文化論系演習（ギリシア思想の伝播）							
担当者名	村上　寛							
複合	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「西洋哲学の歴史は全てプラトンの注釈に過ぎない」と言われるように、またアリストテレスが「万学の祖」と呼ばれるように、西洋思想、文化についてギリシャ思想の影響を抜きに語ることは出来ない。ルネサンス以前の中世ヨーロッパ世界においてはプラトンの著作全てが継承され、読まれていたわけではないが、その思想はプラトン哲学のある種の解釈の産物である新プラトン主義としてキリスト教思想に流入し、甚大な影響を与えている。アリストテレスの著作にしても、新プラトン主義者による解釈研究、アラブ・イスラム世界での解釈伝統の存在、12世紀以降のヨーロッパ世界での再受容など、その思想の伝播は広範かつ根本的なものである。またギリシャ思想を広義の意味でとるなら、詩や文学、神話などの様々な要素についてもその伝播に含めることが出来るだろう。

本演習は主に受講者による発表形式となるため、テーマは受講者の関心に従うことになる。「ギリシャ思想の伝播」に沿うものであれば時代も内容も問わないが、単なる事実の羅列にならず、もとになるギリシア思想について、或いはその思想を受容する側についての理解が深まる発表になることが求められる。

授業の到達目標

西洋思想におけるギリシア思想の影響や位置付けについて具体例を学び、西洋思想・文化についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　発表をもとにしたレポートの作成。
●**平常点**　50%　　発表及び出席状況、授業態度、参加状況。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（東アジアの文化遺産）　オリエンタルさと異国情緒を伝えるもの							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会において、グローバル化とは、往々にして西洋文化を基軸とした文化体系への同調、とイメージされがちであるように見受けられますが、その逆のベクトルをもつ事例も多々あります。この演習では、芸術や宗教など過去の文化交流の事例にとどまらず、サブカルチャーやオタク文化といった現代的な現象、さらには落語や漫才といったかたちをもたない話芸も含めて、

まず受講生に自身の興味と感性にしたがって「これぞ東アジアの文化遺産」というものを選定してもらいます。その後、関連する資料を探し出し、異文化圏との影響関係や社会的影響を整理し、自分なりの考察を加えてその魅力や問題点をプレゼンテーションというかたちで発表してもらいます。毎回、発表者から提示された題材をもとに、受講生間の議論を通して「オリエンタルさとは何か」を考えながら、ナショナル・アイデンティティに関する考察をおこなっていきます。

授業の到達目標

ここでいう文化遺産とは、文字通り、先人が残した文化的な財産のことです。そしてそれを、いま自らが暮らしている東アジア文化圏のものに限定したとき、主観的な意見と客観的な視点を区別しながら、その財産の魅力や問題点をどのように他者に伝えることができるのか。あるいはどのように伝えるべきなのか。自分なりの筋道を立てながらプレゼンや議論をすることで、自他の文化理解に関する主体的な意見をもてるようになることを目指します。

成績評価方法

平常点で評価します。ここでいう平常点とは、パワーポイントとレジュメによるプレゼンの訴求力、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうか、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のことを指します。

科 目 名	複合文化論系演習（アジアの美術と思想） 想いと願いをデザインする							
担当者名	楢山　満照							
複合	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

造形化されたイメージは、ときに言葉よりも雄弁です。美術はコミュニケーション・ツールとしても機能し、識字率が低かった時代においては、現代以上に特定の思想を伝達するためのものでもありました。この演習では、受講生自身がアジア全域の美術の中から各々の興味にそって「かたちのある」作品を選定し、「かたちのない」思想というものを、どのように造形化していったのか、受講生間の議論を通してその理論と工程を考察し、アジア文化圏と西洋文化圏の相違を主体的に学んでいきます。

西洋文化圏からみたアジア美術、あるいはアジア全般のイメージとは、具体的にどのようなものなのでしょうか。奇異なもの、異質なもの、それでいてどこかエキゾチックで魅惑的なもの。こうしたイメージは、高度に情報化しグローバルな環境が確立された現代では、あまりにもステレオタイプに過ぎるかもしれません。ですが、宗教、思想の不一致による国際紛争が絶えず、人種や性別による差別にようやく敏感になってきた現代だからこそ、アジア人がこれまでどのような想いをどのようなかたちで表現してきたのか、それをあらためて考えることは極めて現代的かつ実践的な考察になり得るはずです。

授業の到達目標

ここでいう美術とは、辞書的な意味でいうならば、「美の視覚的・空間的な表現」ということになります。よってその範疇は広く、現代アートはもちろんのこと、特定の思想や想いを伝えるためのもので、なおかつ「かたちのある」ものであれば、舞台芸術なども含みます。アニメやマンガも含みますが、他のジャンルの美術と同様に、授業の中でおこなってもらうプレゼンテーションでは、自分なりの筋道と理論を立てて、なぜそれが美術であるのかを明確に説明する必要があります。

成績評価方法

平常点で評価します。ここでいう平常点とは、パワーポイントとレジュメによるプレゼンの訴求力、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうか、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のことを指します。

専門演習

科 目 名	複合文化論系演習（世界の工芸にみるデザイン） 日用品から芸術品まで							
担当者名	楢山　満照							
複合	２単位	秋学期	水曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

日々手に取る日用品から、特殊な素材と技巧を駆使した高価な品まで、工芸品には各民族が育み営んできた伝統文化がデザインされています。そしてそこには、その文化を象徴するシンボルが隠されていることも多いように思われます。ただその一方で、普遍的なデザインが、民族や文化の枠を超えて広く踏襲されていることもあるのが、工芸デザインの面白いところです。昨今では、障害者、高齢者、健常者の区別なしに全ての人が使いやすい「ユニバーサルデザイン」という言葉もよく耳にするようになりました。目には見えない思いやり。それをデザインすることさえ可能なのです。

この演習では、まず受講生に自身の興味にそってシンボリックなデザインをもつ対象を選定してもらい、関連する資料を精査したのち、その由来と魅力についてプレゼンテーションというかたちで発表してもらいます。その後、受講生間の議論を通して工芸デザインの機能について考えていきます。

授業の到達目標

各自に選定してもらう工芸に関しては、「実用の品としての機能性に、美的装飾が加えられたもの」と自身が判断したのであれば、時代、地域、素材、用途は一切問いません。また、工芸とは一般に小規模なものをいい、辞書的な意味でいうならば建築はそれに含めないということになるようですが、各種の建築意匠は工芸デザインに他なりませんので可とします。この演習では、自分なりの道筋を立てながらプレゼンや議論をすることで、お気に入りの工芸デザインの機能性と装飾性について、主体的な意見を客観的に説明できるようになることを目指します。

成績評価方法

平常点で評価します。ここでいう平常点とは、パワーポイントとレジュメによるプレゼンの訴求力、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうか、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のことを指します。

科 目 名	複合文化論系演習（感性文化基礎論） 香りと感性							
担当者名	宮崎　薫							
複合	２単位	春学期	水曜日	１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

香りは、日本の文化や芸術に大きく関わる感性です。日本では、仏教とともに伝来した香りを、貴族社会、武家社会の中で育み、香道という独特の香りの文化を構築しました。本演習では、香りを哲学、文学、美術、生活美学の各領域で、日本と西洋を比較しながら検証します。香りにまつわるさまざまな作品や資料を紹介します。 本演習は、ディプロマポリシーの中の「多様

な文化・価値観の交流を育む」に対応し、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養います。

授業の到達目標

この演習で、発表や議論することを通じて、参加者自身が日本の文化や芸術、生活における香りと感性の関わりについて検証し、各々の研究テーマにつなげることを目指します。哲学、文学、美術、生活美学など、学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究を構想する視野を得ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験** 0%　-　-　-
●**レポート** 0%　-　-　-
●**平常点** 100%　授業終了後にコメントや感想を書いてもらい、その評価を集積して総合的に成績を判断します。その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。また、演習発表、出席状況、議論への参加度等も考慮します。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。

科目名	複合文化論系演習（感性哲学）							
担当者名	小林　信之							
複合	2単位	夏クォーター	火4時限	金4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習科目は、感性に関するさまざまな考察にとって重要な基礎資料を紹介するとともに、その資料の解釈をふまえた演習発表と議論にみちびくことを主眼としています。

テーマの多くは、従来の美学・芸術学研究と重なりますが、より広く多様な文化現象をも視野に収めています。

わたしたちの目の前にひろがる世界は、自然科学的にとらえられたり、社会的・公共的・倫理的領域として行為の対象になったりするばかりでなく、つねに感性を通じて美的世界として現象しています。しかもその場合、風景を眺めるように単に受身的に観照するだけではなく、能動的な創造性が、つまりは芸術表現が、問題になるのです。洞窟に野獣の似姿を刻みつけ、色とりどりの装飾を身にまとい、太鼓と笛の音にあわせて舞い踊るようになって以来、人間は世界にある自分の存在を表現してきました。現代アートにまでいたるイメージの歴史は、この世界が何よりわたしたちによって「創造」すべきものであることを教えてくれます。

この演習では、アートをはじめ具体的にさまざまな文化現象を考察していきますが、単に歴史的事実を勉強するというのではなく、哲学的・美学的視点から思考しつつ作品を見つめる目を養うことを目標としています。文字通り「感性」を研ぎ澄ませることが重要なのです。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、感受性を研ぎ澄ませることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**平常点** 50%　演習発表、出席状況、議論への参加度等より判断します。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

煩瑣な哲学的議論もふくまれますが、それにとどまらず、直接感じとることの魅力を知ってもらえればと思っています。演習発表をふくめ、能動的な参加が必要です。

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科目名	複合文化論系演習（日本の美意識）							
担当者名	常田　槙子							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

19世紀後半の日本では、海外から御雇外国人や外交官が訪れるようになり、様々な日本の藝術が彼らの目に留まるようになった。たとえば、そのなかの一人アーネスト・フェノロサが日本美術を高く評価したことはよく知られているだろう。20世紀になると、反対に日本人自らが日本の文化にみられる「美」を海外に発信したり、西洋との対比のなかで日本文化を見つめ直す動きも見られるようになってゆく。本演習では、海外との邂逅のなかで見出だされ、とらえられ、生み出されてきた日本の美意識について考えてみたい。

本演習では、まず講義形式で、日本古典文学のなかで生成されてきた「美」について概説するとともに、海外でそのような美意識がどのように紹介されていったかについていくつかの例を紹介する。そののち、受講者に授業計画に示した著書のなかから一つを選び、発表してもらう。詳細は第1回目のオリエンテーションで説明する。

授業の到達目標

日本的「美」とされるものがどのようにとらえられてきたのかを、時代的・社会的背景などに照らしながら理解するとともに、一人ひとりが日本の美意識について批判的にとらえなおしつつ深く探究することを目指す。

成績評価方法

●**試験** 50%　最終回の授業時間に試験を実施する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 50%　授業での発表内容、質疑における発言内容、出席状況等を総合的に判断する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

古典作品の読解能力については、高等学校の国語科（古典）で学んだ程度の基礎的な知識さえあれば良い。なお、受講者の人数等により、授業内容に若干の変更を加えることがあり得る。

科 目 名	複合文化論系演習（生活環境感性論） 空間演出と感性の関係を考える							
担当者名	利根川　由奈							
複合	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

スタンリー・キューブリック監督の映画『シャイニング』では、同じ模様を繰り返す床の敷物の描写が執拗なほど登場します。こうした空間の演出と表象は、鑑賞者にどのような感情を抱かせるでしょうか。この授業では、空間の演出とその表象がその場にいる人、あるいは鑑賞者にどのような感性的効果を与えるか、を考えていきます。本授業では、空間の演出とその表象の歴史と理論を学んだあと、受講者に空間の演出あるいはその表象の例をひとつ選んで発表してもらいます。発表の際に受けた講師や受講者のコメントを活かし、最終レポート（授業最終回に実施）を書いてもらいます。その際、論点となるのは、①その空間の演出あるいは表象の具体的にどの部分が体験者／鑑賞者の感性に影響を与えるか、②空間の演出と表象はどのように体験者／鑑賞者の感性を変化させるか、です。

授業の到達目標

空間演出が人間の感性にいかなる影響を与えるか、を批判的に検討できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回目授業で行うレポートを評価します。発表時のコメントを受けて、どれだけ自分の考えを発展させたかを評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の出席、ディスカッションへの参加を評価します。
●**その他**　30%　　30

科 目 名	複合文化論系演習（日本古典文化の受容と変容） 翻訳される日本古典文学							
担当者名	常田　槙子							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本の古典作品は、時空を越えて現代もなお読み継がれている。特に海外で読まれるようになるには、翻訳が必要不可欠であった。いつ、誰が、何を、どのように翻訳したのかといったことを考えてみると、そこには翻訳者の思想や狙い、社会的事情などが反映されていることがわかる。本演習では翻訳を通して、変容しながらも次の時代へとつながっていく古典文学の可能性を考えたい。

専門演習

本演習では、まず、英語など様々な言語に翻訳された『源氏物語』を取り上げ、欧米における『源氏物語』を中心とした古典文学の受容状況について講義形式で概説する。そののち、日本古典文学の翻訳からいくつかを課題とし、受講者にそのうちの一つを担当して発表してもらう。詳細は第一回目のオリエンテーションで説明する。

授業の到達目標

原文およびその他のテクストと比較したり、時代的・社会的背景なども考慮しながら作品を理解しようとするなかで、分析力を高め、物事を複合的にとらえる力を養うことを目指す。また、一人ひとりが翻訳に向き合うなかで、それぞれの言語のもつ背景や感性、発想に触れることを期する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回の授業時間に試験を実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業での発表内容、質疑における発言内容、出席状況等を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

古典作品の読解能力については、高等学校の国語科（古典）で学んだ程度の基礎的な知識さえあれば良い。また、高等学校卒業程度の英語力があることが望ましい。英語以外の諸外国語については、知識を必須としない。なお、受講者の人数等により、授業内容に若干の変更を加えることがあり得る。

科 目 名	複合文化論系演習（集合的アイデンティティ論） グローバル現代社会論							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

個人主義化、個人化の進展する現代社会では、個人のアイデンティティも集合的なアイデンティティもさまざまなゆらぎをきたしている。またその反動として、エスニック文化やナショナリズムへの志向も強く見られるようになった。そしてそうした傾向は、グローバル化が進めば進むほど顕著なものとなってくる。そこでこの演習では、指定するテキストを講読・検討しながら、このグローバル時代にあたって眼前に広がる多様で流動的な現代社会のありようを深く見据え、さらに今日的なアイデンティティをめぐる諸問題にもアプローチしていきたい。

用いるテキストは『グローバル現代社会論』（担当教員編、文真堂刊、2600円＋税）で、これは参加者全員必携となる。各回は、担当となった章の要約ならびに独自の探究の結果を小グループで発表してもらう予定。また各発表の回には、必ず討論者群を付けることとする。刺激的な発表ならびに活発な討議が期待される。科目の性質上、毎回の演習への出席ならびに主体的な探究姿勢が肝要になる。

（上述のように教科書を使用することになりますので、その点承知しておいてください。）

授業の到達目標

グローバル社会における集合的アイデンティティ現象の豊かさに触れること、グローバル化に関連する主要なトピックを見極めること、社会学をはじめとする学術的な探究法に馴れ親しむこと、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、グローバル化の進む現代社会の諸問題に対して独自の視点からアプローチできるようになること。

成績評価方法

演習への参加状況を総合的に勘案して評価する。なお通常の発表の他にレポートを提出してもらう可能性もある。

科 目 名	複合文化論系演習（視覚文化論） 絵画というメディアを通じて、美術の自己言及性を考える							
担当者名	利根川　由奈							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

パイプのイメージの下に「これはパイプではない」というテクストが書かれている絵を見たとき、あなたはどのような感想を抱くでしょうか。「この絵に描かれているのはパイプなのでテクストの内容と矛盾している」と思う人もいれば、「絵のパイプは実物のパイプではないのでテクストの内容と矛盾しない」と考える人もいるでしょう。こうした様々な解釈が生まれる理由は、この絵画が自己言及性を持つからです。ここでいう自己言及性とは、絵画が自ら、絵画を成立させる制度に言及していることを指します。すなわち、例に挙げたパイプの絵画は、イメージとテクストの内容が矛盾しているがゆえに、絵画を成立させる制度（たとえば、絵画のタイトルと画中イメージとの一致）を鑑賞者に疑わせ、その意味で自己言及性を持つと言えるわけです。本授業では、このように自己言及性を持つ絵画の歴史と理論を学んだあと、受講者に自己言及性を持つ絵画をひとつ選んで発表してもらいます。発表の際に受けた講師や受講者のコメントを活かし、最終レポート（授業最終回に実施）を書いてもらいます。その際、論点となるのは、①その絵画において「絵画を成立させる制度」の前提条件は何か、②その絵画はどのように「絵画を成立させる制度」に言及しているか、です。

授業の到達目標

絵画というメディアを通じて、美術の自己言及性について批判的に検討できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回目授業で行うレポートを評価します。発表時のコメントを受けて、どれだけ自分の考えを発展させたかを評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の出席、ディスカッションへの参加を評価します。
●**その他**　30%　　30

科 目 名	複合文化論系演習（現代文化研究）							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的に受講生の興味関心に基づいて発表をしてもらいます。テーマは、複合文化系にかかわるものであれば、各自、自由に設定してください。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて説得力のあるプレゼンをおこなうことができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業で各自が発表した内容を仕上げてレポートを作成してください
●**平常点**　50%　　授業での発表
●**その他**　0%　　0

科 目 名	複合文化論系演習（現代文化の諸相）							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的に受講生の興味関心に基づいて発表をしてもらいます。テーマは、複合文化系にかかわるものであれば、各自、自由に設定してください。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて説得力のあるプレゼンをおこなうことができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業で各自が発表した内容を仕上げてレポートを作成してください
●**平常点**　50%　　授業での発表
●**その他**　0%　　0

科 目 名	複合文化論系演習（現代哲学の諸相） ポストモダンと現代							
担当者名	渡辺　洋平							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

1980年代頃、「ポストモダン」という言葉がしきりに語られていた時期がありました。論者によってその意味するところは

さまざまでしたが、誰もが当時の社会的・文化的・思想的状況を表すために用いていたことは間違いありません。それではポストモダンとは何だったのか、それから30年以上が経過した現代はどのような時代なのか。この演習ではポストモダンとは何だったのかを今一度考えてみることで、20世紀後半の文化的、知的状況を見直すとともに、それと対照する形で現代の思想的な位置を考察してみたいと思います。

具体的には、ジャン=フランソワ・リオタール、ウンベルト・エーコ、ジル・ドゥルーズ、リチャード・ローティといった20世紀後半を代表する思想家・哲学者の言葉をとりあげ、ポストモダンの内実を探った後、現代を代表する哲学者としてマルクス・ガブリエルの思想を考察します。ポストモダンと呼ばれる思想家とガブリエルの思想の位置関係を考察することで、現代の知的状況を測定することが狙いです。

参加者には、適宜簡単なミニッツペーパーを書いてもらい、次の回でそれを元にした議論を行います。またテクストの要約等を発表してもらうかもしれません。

授業の到達目標

哲学的な思考法に親しみ、それを用いて自分の考えを表明できるようになること。
哲学的テクストを批判的に読解することができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に、演習で考えたことについてのレポートを提出してもらいます。自分なりの考えを説得的に展開できているかどうかを評価します。
●**平常点**　50%　　出席・ミニッツペーパー・議論への参加度などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（現代フランス思想） フーコー『監獄の誕生』から「自由」を考える							
担当者名	西山　達也							
複合	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

フランスの哲学者ミシェル・フーコーの『監獄の誕生』は、狭い意味での監獄だけでなく、学校、職場、病院といった私たちが日常的に関わりをもつ施設や、そこで行われる行為について考察した書物です。本演習では、この著作から出発して、「自由」とは何かを考えるとともに、文学、芸術、宗教、科学にまたがる様々な領域を複眼的に見るための視点を獲得することを目指します。何か知識を詰め込むのではなく、難解な文章のなかから、ふと気になる一言を拾うことができる面白さを共有したいと考えています。大学時代に哲学書を何か一冊読みたいと思っている人におすすめの一冊を、皆で読みましょう。

授業の到達目標

現代フランス思想の普遍性と特殊性を学び、現代社会や文化のなかでの意義を理解する。

成績評価方法

演習への定期的・積極的な参加を基準とする。

専門演習

科 目 名	複合文化論系演習（美学研究）							
担当者名	渡辺　洋平							
複合	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ヨーロッパの諸言語において、「美学」をあらわす言葉は、「感覚」や「感性」をあらわす古典ギリシャ語「aisthesis」に由来しています。このことからもわかるように、美学とは本来「感性論」を意味し、まさしく感性の働きを考察するものでした。やがて美学は芸術を特権的考察対象とするようになりますが、それは芸術作品が感性を通してしか与えられることができず、感性を通じて日常的なものとは異なる知覚や情動、想像や思考を与えてくれるからに他ならないでしょう。

本演習では芸術作品を享受するという経験、すなわち鑑賞／体験し、解釈し、批評するという行為を考察・実践します。芸術作品はそれだけで完結したものではありえず、かならず受け手の作用を受け入れる余地を孕んでいます。そうした芸術のあり方を探求すると共に、みずからも芸術の過程へと参入し、創造的なプロセスへと至ることを目指します。

最初の数回は、講師がこれまでの美学理論や芸術作品をいくつか紹介し、考察します。その後は学生によって、具体的な対象を分析してもらいます。対象は狭義の芸術作品にとどまらず、文学や映画、漫画やアニメ、音楽、ファッションなど、各自の興味関心に応じて自由に選んでもらって構いません。理論的な考察も歓迎します。

授業の到達目標

芸術作品をはじめとする感性に与えられる対象を、独自の視点で理論的に考察できるようになること。
他人の発表を聞き、的確にコメントできるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回、他人の発表についてコメントを書いてもらい、それを次の回で発表者にフィードバックします。成績は発表、出席、コメント、フィードバックへの応答などを総合的に評価します。 受講者の人数によってはレポートを書いてもらう場合があります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

昨年度の発表テーマ一覧
ベルクソン、ドビュッシー、李禹煥、涙の美しさについて、メタルコア、日本の廃墟、ジョン・ケージ、雪舟、 Vaporwave、日本文学における自殺、マリー・シェーファー、イーストウッド、日本の国立博物館、シャネル、交響詩、妙立寺、K-POP、古着、雑誌『鶴と亀』、幽霊

科 目 名	複合文化論系演習（サブカルチャーにみる異文化コミュニケーション） クールジャパンのグローバル戦略							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

現代のデジタル社会において、若者はメディアと多様に関わり、中でも「参加型文化（participatory culture）」の生成が注目されています。YouTubeなどの動画共有サイトやソーシャルメディアによって、アニメ、ゲーム、音楽、ファッションなどの領域のどれをとってみても、グローバル化が進んでいます。日本のアニメ、ファッション、ゲーム、初音ミク、アプリ等はクールジャパンと呼ばれ、海外での高い人気から、官民主導でグローバル戦略が推し進められています。本演習では、グローバルな地平におけるサブカルチャーを対象とし、その変容と重層性、文化の生成、グローバル戦略を複合的な観点から検討していきたいと思います。

授業の到達目標

1．本演習では、学術的な文献の講読、経産省や企業などの資料やデータ、フィールドワークやリサーチなどを通して、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理論的かつ経験的に理解を深めて行きましょう。

2. グループワークやディスカッション、プレゼンテーションマテリアル（動画を含む）の製作などを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

3．世界に配信すべき日本のコンテンツや対象国を設定して、実践的なプロジェクトを企画することによって、企画力、分析力、表現力、発信力を身につけましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。

●**その他**　0%　　—

備考・関連ＵＲＬ

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（世界のなかの日本のイメージ） 日本の表象							
担当者名	坂上　桂子							
複合	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

日本について、表象されたイメージ（図像）から考える授業です。最近ではクール・ジャパンとして、アニメや「かわいい」文化、「おもてなし」文化などを日本独自の「良い」イメージとして積極的に世界にアピールし、売り出そうとする動きがあります。しかし、海外からみた日本のイメージは、原発、歴史認識問題にまつわるものなど、必ずしも私たちが考えるほど「良い」イメージばかりではありません。外国からみた日本や日本人に関する固定概念は、国や個人レベルにおける国際交流、コミュニケーションなど、さまざまな場面において影響を及ぼすものです。私たちは、しばしば「良い」イメージとしての日本ばかりを見がちですが、海外では日本や日本人についてどのように見ているのか、実際のイメージを正しく把握していくことが必要でしょう。ここでは、美術館の芸術作品から食文化、ファッションなど幅広く多様な対象において、日本に関し、いわゆるイメージ（図像）として表象されたものを考察の出発点とし、世界のなかで日本や日本人がどのような存在であり、どのように捉えられているかを見いだし、考察していきます。その上で、これからの日本の社会についてしっかり見据え、ともに考えます。

授業の到達目標

世界を視野に入れたとき日本がどのように見えているのか、受講生には、まず自分が一番関心のもてる具体的テーマを見いだしてもらいます。その際、適切な「図像（イメージ）」を用い、これを手がかりとして問題を考察してもてもらいます。すなわち、ここでの一つのねらいは、テキストだではなく、図像から何かを考察する手法を学んでもらうことにあります。またその成果を、図像を使ったパワーポイントにまとめ、発表してもらいます。ほかの受講生がとりあげたテーマについて積極的に意見を述べ問題を共有することで、つねに大きな視点で日本と世界の関係を捉えられる問題意識をもてるようになることを目標とします。

成績評価方法

平常点で評価します。発表内容、発表原稿、レジュメおよび、授業中に積極的に質疑応答に加わっているかにより、総合的に評価します。

科 目 名	複合文化論系演習（アートコミュニケーション）							
担当者名	宮崎　薫							
複合	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、アートを介した新たな関係性や創造的なコミュニケーションについて共に考えます。人と作品、人と作家、人と人、人と地域、人と社会といったアートを介して生まれるさまざまな関係性を探ります。キュレーターやギャラリスト、作家等、アートの最前線の方とも交流します。 本演習は、ディプロマポリシーの中の「多様な文化・価値観の交流を育む」に対応し、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養います。

授業の到達目標

この演習での議論や発表を通じて、参加者自身がアートに対する理解を深め、その結果を言語化し表現する力が高まることを目指します。アートを切り口に、学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究を構想するための視野を得ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-　-　-

●**レポート**　0%　　-　-　-

●**平常点**　100%　　授業の各単元終了後にコメントや感想を書いてもらい、その評価を集積して総合的に成績を判断します。

その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。また、課題の発表、出席状況、議論への参加度等も考慮します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（聴覚文化論）							
担当者名	福田　貴成							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

聴覚文化論に関連する文献の講読をおこなう。今期取り上げるのは谷口文和・中川克志・福田裕大『音響メディア史』（ナカニシヤ出版、2015年）である。本書は、エディソンによるフォノグラフの誕生以前にまで遡りながら、21世紀の今日にまでいたる音響メディアの歴史をコンパクトに概観した一冊である。同時代の社会的・産業的動向や自然科学的な背景、そしてメディアを通じた各種表現活動についても満遍なく触れられており、この講読によって身につけておくべきひととおりの知識を得ることができるであろう。

本演習は、担当者（第1回の授業で担当箇所と発表日を決める、なお受講者多数の場合はグループでの担当とする）による発表を基本とし、その後参加者全員で議論をおこなう。なお発表の際には、教科書の担当箇所をまとめたレジュメの準備を必須とし、必要に応じて音声・動画などの紹介も歓迎する。また担当者には、担当箇所の内容とみずからの関心を結びつけて、議論の発展に努めることを期待したい。

授業の到達目標

聴覚文化論の基本的文献の講読、および関連事項の検討を通じて、聴覚文化論を学ぶにあたって必要とされる知識および理論の基礎を習得する。同時に、それらの知識や理論を、受講者自身の議論にも応用できるようになることを目指したい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末に講読対象図書の内容と自身の関心をからめたテーマでレポートを提出してもらう。
●**平常点**　60%　　発表の内容、および演習への貢献度によって評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（言葉とイメージ1）　文学と映画							
担当者名	谷　昌親							
表象	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

文学と映画は、異なるジャンルでありながら、たがいに影響を与えあってきました。後発のメディアである映画は、当初こそドキュメンタリー的に現実をほぼありのままに映す場合が多かったものの、やがて物語を映像で語る形式が主流になっていくにつれて、文学を模範と仰ぐようになります。最も早い例のひとつが、ジュール・ヴェルヌの小説を翻案したメリエスの『月世界旅行』（1902）でしょう。以後、文学作品の映画化が頻繁におこなわれるようになっていきます。

一方、文学の側も、それこそ映画が誕生する以前から、映画的とも言える表現を模索してきました。たとえば、19世紀に書かれたフローベールの『ボヴァリー夫人』には、映画を思わせる描写が散見されます。そして19世紀末にリュミエール兄弟が映画を発明してからは、文学はこの新しいメディアから少なからぬ刺激を受け、それまでになかった表現のかたちを見つけ出してきたのです。

しかしながら、文学と映画は、たんに影響しあうだけでなく、一種の葛藤の場を形成することもありました。1950年代にフランスの映画雑誌『カイエ・デュ・シネマ』に集い、のちに自身も映画制作を始め、ヌーヴェル・ヴァーグと呼ばれる映画史上きわめて重要な運動の中心となっていったゴダール、トリュフォー、シャブロル、リヴェット、ロメールといった若き映画批評家たちは、脚本重視で文学的な色合いを求めがちだった当時のフランス映画のあり方に反発し、映画独自の表現を求め、監督を映画の作者とみなす「作家主義」を標榜しました。

このように、文学と映画のあいだの緊張関係が、それぞれのジャンル特有の表現の探求に向かう場合も存在するのです。そうした例は、フランスにかぎらず世界の各地に見られるでしょうし、現代にまで続く問題でもあります。たとえば、最近の日本に例を探してみた場合、吉田修一の小説を李相日の監督で映画化した『怒り』（2016年）、島尾敏雄と島尾ミホの小説をもとに越川道夫監督が映画作品にした『海辺の生と死』（2017年）などでも、小説と映画のあいだの緊張関係が、それぞれのメディアの表現について再考させる契機になっていたと言えるでしょう。

この授業では、最初に映画における「作家主義」の成立過程で浮上してきた、文学と映画のあいだの問題点を紹介した上で、おもに文学作品の映画化という観点から、具体的な作品を例にあげつつ、文学と映画におけるそれぞれ固有の表現形式を探っていきたいと思います。演習の授業ですので、学期の後半は学生による発表が中心となりますが、そこで取り上げる作品については、こちらで候補を絞ったうえで、教室で相談して決めていく予定です。ただ、文学と映画の緊張関係を維持した作品を選ぶという意味では、もともと映画的な表現が入りやすいエンターテイメント系の小説ではなく、原則として、いわゆる純文学系の小説を原作にしたケースを取り上げたいと思います。

授業の到達目標

文学と映画の関係を見ていく授業ですが、たんに影響関係を見るだけでなく、両者の比較をとおして、それぞれのメディアでの独自の表現、そして各々の作家の個性を見極めるようになれればと考えています。

さらには、そうした文学と映画の違いをとおして、世界を見つめる視線のあり方、そしてその延長上に生じる表現のあり方についても考えてみたいものです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業での発表とは別に、新たに自分なりに作品を選び、文学作品の映画化という観点から学期末レポートを書いてもらいます。口頭発表の経験を踏まえたうえで、新たな対象についてどれだけ真摯に取り組み、どれだけ論理的に考

え、説得力のあるかたちでまとめているか、といった点がおもに評価の対象となります。また、口頭発表の時点で出てきた問題点をどれだけ解決しているか、ということも重要な要素になります。
●**平常点**　20%　　演習の授業ですので、単に出席するだけでなく、議論などにどれだけ積極的に参加したかが問われます。
●**その他**　30%　　口頭発表において、自分の選んだ作品についてどれだけ調べ、また自分なりに考え、それをどのように論理的にまとめたかが大事になってきます。また、発表におけるプレゼンテーションの仕方の工夫なども評価の対象となります。

備考・関連URL

谷のホームページ　：　http://www.f.waseda.jp/masachika_1622/

科 目 名	表象・メディア論系演習（ジェンダーとイメージ1）　映像文化におけるジェンダー表現							
担当者名	久保　豊							
表象	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、主に映画・アニメ・テレビドラマ・写真を主な題材に、ジェンダーが現在の映像文化においてどのように表現されているかについて考察する。分析にあたっては、単純に物語のプロットを解説したり直観的な意見を述べるのではなく、カメラワークや編集、音響や色、さらには空間や衣装といった要素が、ジェンダーの表現に対していかに作用しているのかを詳細に分析することが求められる。

本演習には二つの柱がある。一つは、履修者による口頭発表である。発表テーマは上記の題材の中から履修者が自由に設定できるが、授業進度に合わせて講師と相談のうえ調整しても構わない。発表時の質疑応答では、履修者同士のコメントを通じて学び合う姿勢が重要であるため、授業への積極的な参加が求められる。学期の冒頭、映像分析におけるジェンダー批評の動向について基礎的な文献紹介や用語解説を交えて講義した後、履修者の口頭発表の参考として、講師がケース・スタディを行う。

もう一つの柱は、口頭発表をもとにした期末レポートである。履修者は、各自のテーマに関する資料を調査・収集・分析のうえ、オリジナリティのある考察を行う。

以上二本の柱を通じて、映像文化とジェンダーの密接な関係性を考察することを試みる。

キーワード：ジェンダー／セクシュアリティ／クィア批評／映画／メディア／ポピュラーカルチャー／LGBTQ／表現とテクノロジー

授業の到達目標

・映像文化におけるジェンダーの表現に関する先行研究の効率的な収集方法、読解および引用のスキルを身につける。
・各自が関心のある対象について、客観的な視野から具体的で多角的な分析に応用する力を身につける。
・他者へ適切に伝える発表スキルを身につける。
・他者の発表や意見に対して、敬意を払いつつ建設的にコメントする能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　第15回授業日に提出する期末レポート（文字数：4000字以上）により評価。
●**平常点**　30%　　出席状況および授業への貢献度。＊正当な理由なく4回以上欠席した場合は、成績評価の対象とはならない。
●**その他**　30%　　授業内での口頭発表とコメントシートにより評価。

備考・関連URL

・オフィス・アワー（個別相談）は設けない。希望する場合は、授業前後に口頭で、あるいは初回授業で示す講師のメールアドレスへ余裕をもって事前に連絡し、アポイントをとること。
・学内でのインターネット環境へのアクセス方法を把握していること、また電子メールやパワーポイント等のプレゼン用ツールも使えることが望ましい。
・口頭発表もしくはレポートの内容に剽窃（plagiarism）が認められた場合は、成績評価の対象から外す。

・授業中に意図的な差別的言動を繰り返し、他の履修者の学習を妨げる者については退室を求める。平常点も認めない。

科 目 名	表象・メディア論系演習（表象文化の政治経済学1）　レヴィナスを読む							
担当者名	渡名喜　庸哲							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、20世紀フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスのテクストの講読を行います。レヴィナスの哲学は、「顔」「他人」「倫理」といった概念を提示した哲学者として有名ですが、同時にその思想は難解なことでも知られています。この授業では、レヴィナス哲学の入門としては最適という評価のある、レヴィナス自身による対談『倫理と無限』（ちくま学芸文庫）をまずは取り上げます（日本語による講読ですが、希望者にはフランス語版も配布します）。毎回1章ごとに、担当者がレジュメを作成しそれをもとに議論をします。短い本なので、読み終わったら、受講者の関心に合わせてレヴィナスのほかの著作に移る予定です。

演習を通じて、レヴィナスの思想および関連する現代哲学の議論を理解することが目標です。

入門書とは言え難解な箇所もありますが、初学者でも理解できるよう適宜解説を加えます。前提知識は問いません。内容に関心のある方、哲学的な文章や思考を厭わない方の参加を期待します。

授業の到達目標

・さまざまな概念・事象について哲学的な議論を踏まえて多角的な考察をすることができる
・レヴィナス哲学に関する基本的な議論をおさえる
・議論されている問題を自分自身の関心に引きつけて展開できる

成績評価方法

●**試験**　0%　　・教場試験は実施しません。

●**レポート**　50%　　・レポートの基本的な書き方を抑えている。　・資料やデータを適切に読解している。　・参考文献を適切に踏まえて問題を設定し、議論を進めている。　・独自の見解を説得的に示している。
●**平常点**　50%　　・事前準備をしている。　・議論に参加している。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（映画文化論1）							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要
1970年代から1980年代にかけてのパーソナル文化の隆盛によって映画文化は大きく変容した。その後の映画は、ひとびとが暮らしのなかで共有する大衆文化ではなく、個々人の内面の世界にかかわる文化になった、この授業では、そのような文化的変容が起きる前の1960年代から70年代にかけて、まだ暮らしのなかで見られていた映画が何だったのか。そのとき人々は暮らしのなかでどのように映画を見ていたのかを考えたい。取り上げるのは、一方で股旅映画やアルドリッチの映画など古典的な映画と他方でスピルバーグやコッポラなどのポスト古典的な映画である。

授業の到達目標
映画の歴史を技術の発達史や単純な進化論とは違った視点で捉えるようになること。

成績評価方法
出席、班ごとの報告、レポートの三つを総合的に判断する

科 目 名	表象・メディア論系演習（映画文化論2）　映画批評入門							
担当者名	廣瀬　純							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要
毎回、映画作品を鑑賞し、教員の指導の下でそれについてのディスカッションを行う。授業で学んだことを踏まえ、学期末に批評文を作成する。

授業の到達目標
映像を見る力、音声を聴く力、見たもの及び聴いたものを分析・綜合し言葉にする力を身につける。

成績評価方法
平常点（出席＋発言）70%
レポート（批評文）30%

科 目 名	表象・メディア論系演習（写真論）							
担当者名	長島　有里枝							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要
本演習では、1990年代に起こったガーリーフォトムーブメントの実践を参照しながら、写真を用いた表現についての理解を深めることを目標とします。美術批評家のスーザン・ソンタグは、「厳密にいえば、ひとは写真から理解するものはなにもない」ともいいます。この言葉には、どのような意味があるのでしょうか。
写真（機）はその黎明期から長らく選ばれた人々のものでしたが、機材の小型軽量化やデジタル化などにより、その特権性は失われたかのように言われます。スマートフォンで撮影された美しい写真と、高価な機材が可能にした美しい写真を一緒くたに語ることは、果たして本当に可能でしょうか。
ガーリーフォトを理解するには、1990年代にアメリカやイギリスを中心に興った第三波フェミニズムについて知る必要があります。写真家が「若い」ことや「女性」であることが、写真表現とその解釈にどう影響を及ぼしたのかについて、歴史的背景（写真史、女性史、サブカルチャーの動向）を参照しながら学びましょう。ジェンダーやエスニシティ、年齢や社会階層の違いによって、表現の可能性が異なることがわかるはずです。受講者のみなさんには、それぞれどのような写真表現が開かれているのか一緒に考えましょう。 また、本演習は写真を言語的に解釈することや説明することを重視します。アートというと「言葉がなくてもわかってもらえる」とか「言語以前の感覚的な領域（自然状態）を表現できる」と考える人が多いと思いますが、本演習はそのような言説を疑問視するスタンスを取ります。したがって、必要だと思われる文献を随時配布しますので、宿題で読んでもらいます。他には、エクササイズとしての撮影課題の宿題があります。どちらも、翌週の授業で発表やディスカッションをおこないます。そこでの学びを参照し、最終課題をおのおの決めてもらいます。課題はその年のテーマ（授業内で発表します）に沿った、10点程度の組み写真を基本形とします。演習の最後に、作品の講評会をおこないます。
授業中は意見や質問、活発な議論を歓迎します。採点は、出席の頻度と課題提出の有無に基づいておこないます。
注意点が二つあります。まず、この授業ではカメラ（または写真が撮れるデバイス）が一台以上必要です。それから、課題はプリント（写真用紙などに）して提出してもらうのでその費用がかかります。この二点について了承の上、授業に参加してください。

授業の到達目標
・写真を通じて、自己表現の方法を学ぶ。

・写真表現と社会情勢の関連性や、テクノロジーの発展による表現の変遷について学ぶ。

・自分の置かれた状況や好みに適した機材や、制作の手法を選択できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　10%　　展覧会を鑑賞してもらい、それについての感想レポートを提出してもらいます。内容は評点に影響しま

せんが、提出がないと採点不可になります。
●**平常点**　45%　　授業の欠席日数が五日以上に到達した場合には採点不可となります。授業内外での取り組みの積極性をみます。
●**その他**　45%　　最終課題として組写真の作品を制作し、講評を受けてもらいます。

科 目 名	表象・メディア論系演習（テレビ文化論）　平成のテレビドラマ史							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
2019年度中に平成が終わり、新しい元号へと切り替わる。この演習では、平成のドラマ史を振り返る。
平成はバブル経済で幕を開けたが、90年代に突入するとバブルが崩壊し湾岸戦争が起こるなど、不穏な空気が漂い始める。90年代半ばには阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が起き、さらに神戸連続児童殺傷事件などいわゆる「劇場型犯罪」も増え、そうした理不尽な事件がさらに暗い影を落とす。それに呼応するように、ドラマにもデヴィッド・リンチの『ツイン・ピークス』などのアメリカン・カルト・ドラマの影響下にカルトドラマ、サイコドラマが頭角を現す。その一方で北川悦吏子による『愛していると言ってくれ』、『ロング・バケーション』などの日常的な恋愛ドラマが人気を博し、連来ドラマ全盛期となる。ゼロ年代にはいって長い不況で世相が混迷を極め日常のドラマが成り立ちにくくなった時、宮藤官九郎が登場して非日常を通して日常を描くという方法を獲得してゆく。だが、刑事ものや病院ものなど、非日常だけを描くドラマも増えてゆく。2011年の東日本大震災後は、家族の幽霊が登場するドラマが増える。これらのドラマでは、生と死が断絶ではなく連続したものとして描かれ、大震災後の視聴者の心情を反映させたものとなっている。
このようにドラマは常に社会を映す鏡であり続けてきた。この演習では、ドラマが平成という時代をどう可視化してきたかを通じて、テレビドラマが社会の中で果たしうる役割について考察する。
★なお、通常の「テレビ文化論」演習とは異なり、教員による解説の割合が大きいことに留意されたい。また、2017年度に岡室が担当した「テレビ文化論」講義を受講した者は、重なる部分が多いので受講を勧めない。

授業の到達目標
本演習では、毎回教員が平成を代表するドラマの一部を見せて解説し、それについてディスカッションする。テレビドラマの研究方法を身につけるとともに、現実と密接に関連しつつもフィクションとして提示されるテレビドラマの意味と可能性について、各自が自分の見解を持つことを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　演習でとりあげた作品について、独自の視点から深く分析できているかどうかをみる。
●**平常点**　30%　　出席率、ディスカッションでの発言、リアクションペーパー等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL
「授業概要」でも述べたように、通常の「テレビ文化論」演習とは異なり、教員による解説の割合が大きいことに留意されたい。また、2017年度に岡室が担当した「テレビ文化論」講義を受講した者は、重なる部分が多いので受講を勧めない。
また、授業で取り上げる作品は授業時間外にできるだけ全編視聴してほしい。

科 目 名	表象・メディア論系演習（芸能文化論）「変身」と日本の古典芸能							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要
「変身」というとウルトラマンや仮面ライダーのそれを思い浮かべるだろうと思いますが、観客の目の前で「変身」するシーンは特撮ヒーローに限ったものではありません。
日本の古典芸能は、「変身」を舞台上で表現するためのものといえ、また、ひろく演劇が役者と役という関係を前提とする以上、「変身」なしには成り立たないのです。
特撮ヒーローの「変身」を生み出した日本の文化的基盤を考えてみたいと思います。

授業の到達目標
「変身」をキーワードに、日本の古典芸能についての基礎的知識を習得する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　古典芸能/演劇における変身についてのレポートで評価します。
●**平常点**　50%　　出席と発表で評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL
実際に古典芸能を見に行く機会を作れればいいと思っています。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ポピュラー音楽論1）							
担当者名	小沼　純一							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要
「ポピュラー音楽」といいます。知ったような気になっています。
ほんとうでしょうか？
いろいろディスカッションして、考えていければとおもいます。

授業の到達目標
ひとつの名称・概念がどうひとつでないかを確認できれば。
成績評価方法
演習ですから、参加が重要になります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ポピュラー音楽論2） 新譜の研究							
担当者名	佐々木　敦							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要
講師が指定したその時々の新譜（主に邦楽）について論じ、ディスカッションする。
授業の到達目標
音楽への興味を賦活させる。
成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%　　出席
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（デザイン論） デザインの理論と歴史							
担当者名	河村　彩							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要
現在のライフスタイルの基礎は大衆文化と都市文化が誕生した20世紀初頭に形成されました。この授業では、家具や道具、建築物、グラフィックなど、さまざまなデザインを対象とし、その理論と歴史を考察します。
授業は講義と文献講読を交互に行う予定です。講義では欧米の代表的なデザイン運動を取り上げ、理論および実践面から考察します。講読では読むべき文献をあらかじめ決定し、担当者にレジュメを作成して発表してもらいます。講読の会では参加者全員文献を読んで来ることを前提とし、ディスカッションを行います。
授業の到達目標
20世紀のデザインに関する基本的知識を身につける。
イメージや造形を分析できるようになる。
成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%　　0

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア・アート論） 未知の価値をキュレーションする							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要
この演習では、メディア・アートとは何か、ということを意識しながら、架空の展示・イベントの企画を作成し、そのカタログ（印刷＋ウェブ）を制作、そしてプレゼンテーションをグループで行う。

メディアアートとは単にメディア技術を作品制作に利用したアート作品と同義ではないし、デジタル技術の使用を意味するものでもない。メディアの歴史的変遷や現在の情報メディア社会に対する問題意識を踏まえた上で、作者のコンセプトを作品あるいはプロジェクトという形で展開するものである。そこではメディア技術は、メディアのありよう、メディアの意味に着目して意識的に用いられる。インターネットやスマホなど情報メディア技術が生活の基盤となっている現在、メディアアートは「美術館や劇場で鑑賞する」古典的な芸術よりむしろ、日常生活に隣接するもの、もしくは埋め込まれたものになってきた。
TV、コンピュータ、インターネット、ゲーム、バーチャルリアリティなどのように、商業的に利用され、社会的に大きな影響を持つメディア技術を、アーティストたちはどのように異なる視点から切り取って見せるのか？そこから我々は何を読み取ることができるだろうか？　メディアアートの成立過程や存在理由は？「メディアアート」と日本型の「メディア芸術」とはどう異なり、どのような関係にあるのか？デジタル技術がもたらした複製・編集可能性は映像・音楽表現に何をもたらしたか？考えるべきテーマは多い。
この演習では、パブリックアート、ネットプロジェクト、デザイン、ポップカルチャー など、関連領域との関係性を視野に入れつつ、メディアアートについて理解を深め、その社会的・文化的な意味について考える。
演習の課題は、これらに関連したテーマの展覧会あるいはイベントの「バーチャル企画」作成とプレゼンテーションである。関心を共有するメンバーで班を形成し、その成果を発表する。また、そのプロセスにおいてメディア・リテラシーを身につけ、調査・研究の手法、グループワークの方法、プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業の到達目標
メディアアートについて、歴史と現在の両面から理解し、その表現と社会的役割、今後の方向性について考えるだけでなく、オリジナルなアプローチから企画し、発信する力を身につける。
成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　40%　　グループでテーマを決めてバーチャル展示企画のカタログ制作と発表を行う。期末課題としてこの発表

内容をレポートにまとめる。中間課題として展示見学レポートを提出する。
●**平常点**　60%　　所定の回数以上の出席、グループ活動への積極的な参加、他のグループの発表に対するフィードバックを重視する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（バレエ・ダンス論）							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、ダンスとは何かを様々な仕方で考えるのが主題です。舞台芸術の分野においては近年ドラマトゥルクという役割が取り入れられつつあります。ダンスでのドラマトゥルクとは振付家をその創作過程から支え、劇場での番組構成や教育普及などの仕事を行う役職です。この授業では、ダンスとは何かを歴史やテーマに沿って考えながら、ダンスドラマトゥルクの具体的な役目である、ダンスの理論と実践を融合させていくことを試みます。受講生の発表で取り上げていく関連テクストやダンス、パフォーマンスは一回目の授業で提示しますが、受講生の希望も受け付けます。

授業の到達目標
ダンスとは何かを考えることによって、自分と社会や環境との関わりや、他者への理解に繋げていくことを目指します。欧米と日本、アジアのダンス的なものを概観しつつ、それを理論的に上演分析し議論する過程で、ダンスにおいてドラマトゥルクが果たす役割への理解も深めます。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業で発表した内容をどこまで深化させているか。
●**平常点**　50%　　担当する発表の中で、ダンスの理論と実践をどこまで説得力をもって繋ぎ合わせているか。また、他の発表での議論に積極的に関わっているか。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（ファッション・モード論）　装いの理由							
担当者名	筧　菜奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
私たちはなぜ裸ではいられず、衣服を身にまとうのだろうか。ファッションとはどのような社会的意義を持つのだろうか。本講義では、こうした問いに答えるために、まず基礎的な文献の講読と議論を行う。テーマとなるのは、裸とは何か、衣服の歴史、模様が持つ意味、20世紀のモードについてである。以上の過程を通して、ファッションに対する観点を共有した後、グループワークを行う。グループワークでは、文献講読から得られた観点や疑問点をもとに、各グループが衣服ブランド/デザイナーを自由に選出してプレゼンテーションをする。文献講読で主に扱う文献は以下を予定している。

E. ルモワーヌ・ルッチオーニ『衣服の精神分析』産業図書、1993年
バーナード・ルドフスキー『みっともない人体』鹿島出版会、1979年
ミシェル パストゥロー『悪魔の布――縞模様の歴史』白水社、1993年
ロラン・バルト『モードの体系』みすず書房、1972年
深井晃子『ファッションから名画を読む』PHP研究所、2009年
深井晃子『ファッションの世紀―共振する20世紀のファッションとアート』平凡社、2005年
山田登世子『ブランドの世紀』マガジンハウス、2000年
鷲田清一『ひとはなぜ服を着るのか』筑摩書房、2012年
鷲田清一『最後のモード』人文書院、1993年

授業の到達目標
衣服を身にまとう意味や、衣服の歴史、ブランドが存在する理由について理解し、自分で説明できるようになる。文献やインターネットを利用した史料調査を実践できるようになる。ブランドの歴史や理念、デザインの意味について考察し、プレゼンテーションできるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　文献講読の際には、内容に対する発言を毎回求める。 最低1度のグループ発表と、他グループの発表に対する発言を毎回求める。 以上に鑑みて総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（サブカルチャー論1）							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要
サブカルチャーはしばしば、「サブカル」と略されて言葉にされることが多い。けれど、そうした話法で単純に語られるのは正しいだろうか。たしかに「正しい」という価値や基準で、〈もの〉や〈こと〉を規定することが本来、非サブカルチャー的だ。では、学生個々は、その言葉をどう捉え、どのような感覚で口にするか。そして自身の関心領域をあきらかにし、より深く興味を掘り下げることが、自身を知ること、またサブカルチャーへの理解を深めることになるはずだ。

授業の到達目標

自身の「関心領域」にあるものを、いかに他者に理解してもらえるか。音楽、映画、演劇、文学、コミック、アニメ、同人誌、コミケ……、どんな種類の発表でもまったく問題はないが、それをプレゼンテーションすることで、自分の興味をいかに他者に伝えることができるかもまた、大事な到達点だ。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しません。
●**レポート** 30%　講義で学んだことの確認。
●**平常点** 70%　発表がどのようになされたか。いかに授業に貢献できたか。
●**その他** 0%　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（サブカルチャー論2）							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

サブカルチャーはしばしば、「サブカル」と略されて言葉にされることが多い。けれど、そうした話法で単純に語られるのは正しいだろうか。たしかに「正しい」という価値や基準で、〈もの〉や〈こと〉を規定することが本来、非サブカルチャー的だ。では、学生個々は、その言葉をどう捉え、どのような感覚で口にするか。そして自身の関心領域をあきらかにし、より深く興味を掘り下げることが、自身を知ること、またサブカルチャーへの理解を深めることになるはずだ。

授業の到達目標

自身の「関心領域」にあるものを、いかに他者に理解してもらえるか。音楽、映画、演劇、文学、コミック、アニメ、同人誌、コミケ……、どんな種類の発表でもまったく問題はないが、それをプレゼンテーションすることで、自分の興味をいかに他者に伝えることができるかもまた、大事な到達点だ。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しません。
●**レポート** 40%　他の学生の発表から、自身がどんな刺激を受けたかを確認する。
●**平常点** 60%　いかに発表したか。授業への貢献、出席。
●**その他** 0%　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（広告イメージ論） テレビCMの歴史							
担当者名	高野　光平							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本のテレビコマーシャルの歴史について、豊富な映像資料を提示しつつ詳しく解説する。また、初期のテレビコマーシャルの保存・公開の状況についても解説し、映像アーカイブスの意義や今後のあるべき姿について考える。

専門演習

授業の到達目標

映像広告史の基本的な流れを理解する。
映像アーカイブスの現状と課題を理解する。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は実施しない
●**レポート** 100%　評価基準は授業中に指示する
●**平常点** 0%　平常点評価は実施しない
●**その他** 0%　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（スポーツ文化論） 歴史的・社会的構築物としてのスポーツ							
担当者名	石井　昌幸							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、スポーツを人文・社会科学の研究対象として扱うことを試みる。たとえば、何らかのスポーツの歴史をより大きな時代の変化と対応させて社会史的に考察する、近代社会におけるスポーツの意味や位置を、ひとつの近代社会論として展開するなどの試みが可能であろう。あるいは、ある社会におけるスポーツに共通する諸特質やそれが映し出している地域文化（アメリカにおけるとか、日本におけるとか）などについて論じることもできるかもしれない。また、「○○とスポーツ」のような課題設定も可能である。○○のなかに、ナショナリズム（国民意識）、ジェンダー表象、マスメディア、階級、人種、政治、マンガ、芸術などの語句を入れてみよう。このようなテーマ設定を通してスポーツを「文化」として考えてみる。

授業の到達目標

スポーツというものを歴史的・社会的構築物としてとらえ、現代スポーツを相対化する視点を獲得すること。また逆に、スポーツをとおして私たちの暮らす（近代）社会の特質について考える力も磨くこと。

成績評価方法

最低1回の発表および学期末のレポートを中心に、授業への参加態度・貢献度などを加味して総合的に判断する。

備考・関連URL

受講者数の多寡により多少の内容変更を加えることがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（エロティシズム論） エロティシズムの「力」とは何か							
担当者名	鷲谷　花							
表象	２単位	春学期	水曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、視覚的要素を含むエロティックな表象／創作を主に取り上げる。各回のトピックや対象作品について、まず教員が所見を述べた上で、各受講者が独自の興味関心とリサーチに基づく分析・考察の発表を行い、然る後に質疑応答を行う。

エロティックな表象／創作物は、不均衡な力関係（「能動／受動」、「S／M」、「攻／受」）や、超えることを禁じられた境界を突破する力など、しばしば「力」とコントロールを中心的に扱う。一方、エロティックな表象／創作の場における力には、しばしば「攻撃」「加害」のリスクが孕まれることは、近年の性的表現に対する社会的批判、あるいは#MeToo運動など性的加害の告発が、それぞれに問題としてきたところである。エロティックな表象／創作には、禁じられた境界を超え、他者の身体に働きかける力の、創造的及び破壊的な複数の側面が潜在するが、この授業ではそうした「力」及びそれに対する抑制・規制・コントロールの問題についての思考を喚起してゆく。

授業では、各回ごとに大まかな発表テーマを指定するので、受講者は自分の関心に近いテーマを選択し、自分の担当回には任意の作品や現象を取り上げて20分ほどの発表を行う。授業内発表及び発表に対するコメンテーターを一回ずつ担当し、学期末レポートを提出することが、成績評価の条件となる。

授業の到達目標

■ジェンダー、セクシュアリティ、エロティシズムに関する基本的文献を読み、内容を的確に理解したうえで、自分の興味関心に関連づけつつ、その知見を基に、学術的なルールに即して口頭発表を行い、レポートを執筆・提出する。

■画像・映像作品の表現／造型／表象についての具体的な分析・考察を明快に言語化・文章化する

■図像・映像資料を適切に用いたプレゼンテーションのスキルを身につける

■現代社会における《性》をめぐる諸問題についての基本的な知識を得る

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施せず、学期末レポートにより最終的な成績評価を行う
●**レポート**　50%　　学期末レポートを期日通りに提出しなかった場合の単位は認定しない
●**平常点**　15%　　発表後の質疑応答への参加状況、コメントシートの提出状況、Course N@vi上の討議への参加状況などにより判断する
●**その他**　35%　　35

備考・関連ＵＲＬ

初回授業時に、希望する発表テーマ・日時に関するアンケートを行ない、それにより発表スケジュールを決定する。発表者1名に対してはコメント担当者1名がつき、各担当者による発表後、コメント担当者のコメントに続いて全体討議を行う
シラバス上のスケジュール予定は暫定的なものであり、アンケートの希望内容に応じて適宜調整する

科 目 名	表象・メディア論系演習（言葉とイメージ2） 花札の図像学							
担当者名	兼築　信行							
表象	２単位	秋学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

花札は、南蛮渡来のカードと、日本古来の物合とが合体し、さらに賭博の具として特異な発達を遂げたゲームである。明治以降、朝鮮半島へも伝播し、「花闘」として韓国で現在も盛んに行われている。またハワイへも持ち込まれて、独自の図像展開をしたことが知られる。

花札の十二か月の図像の背景には、和歌や物語、漢籍、あるいは演劇の影を見出すことができる。古い花札や地方札には和歌入りの札が存在し、五月菖蒲のカス札には、「唐衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ」が記されている。『伊勢物語』第九段の歌だが、つまりタネ札に描かれている場所は八橋なのであり、よく見ると水辺に掛けられた板橋が確認できる。また八月芒は、俗に「坊主」と呼ばれるが、これも和歌によって、武蔵野が描かれていることが分かる。

本演習では、文学・言葉と図像イメージとの関係を、花札を素材に、徹底的に調査することにしたい。参加者はチームを作り、担当の札について調べたことがらを順次発表してもらうことになる。

発表準備には数時間を要する。発表者以外も、事前Course N@vi 上にアップされるpptやハンドアウトにより、事前学習を課すが、60〜90分程度を要するか。演習の場では積極的な質疑、討議への参加を求めたい。

授業の到達目標

図像のもつ表象と、文字テクストとの関係を考察するうえで必要な、各種データベースや専門辞典類を使いこなすスキルを身につけることを目指す。

成績評価方法

担当の発表内容30%、レポート（学期末にCourse N@vi上へ提出）50%、出席および演習への参加状況20%により成績評価する。

科 目 名	表象・メディア論系演習（ジェンダーとイメージ2） ポピュラーカルチャーにおける表象／現実／ファンタジー							
担当者名	溝口　彰子							
表象	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

どんな表象も誰かの現実がそのまま反映されているものはなく、必ず何らかのファンタジー（ドリーム、思い込み、偏見などとも言い換えられる）が関与しているという基本的な認識のもとに、ポピュラーカルチャーを分析、考察していく。とくに、「現

実」におけるジェンダー（社会、文化的な性差）がどう作用しているのかについて、それを攪乱し、そこから逃避しているケースも含め、注意を払う。
学期の冒頭に基本理論の講義、受講者発表の参考をかねてケース・スタディの講義を行うが、本演習のメインは学生による研究発表と、質疑応答である。つまり、学生が相互に学び合うセッションを講師が調停しつつ導いていく。（毎週、登場した論点に応じて、追加して参考文献や用語説明を配布する）

なお、本授業におけるポピュラーカルチャーとは、今日、大衆が消費者として比較的容易にアクセスし楽しむことができるもの――映画、マンガ（BL、少女、少年…）、アニメ、アイドル、スポーツ、宝塚、ミュージカル、ファッション――など、必ずビジュアル要素を持つものとする。分析にあたっては、何が(what)描かれているかだけではなく、どのように(how)描かれているかについて、例えば映画であれば具体的な場面におけるカメラワークや編集の分析などを含めることが求められる。（映画化された小説原作と映画版の比較検討などを扱うことや、とある小説家がテレビや雑誌のインタビューで自らのイメージをビジュアル的にどのように演出しているかの分析などは良いが、小説のみの分析は本授業の課題としては適さない）
発表とレポートで扱う内容については、以上をふまえて受講者が自由に選ぶこととするが、必要に応じて講師と相談し調整する。

授業の到達目標
ポピュラーカルチャーにおける表象／現実／ファンタジーの関連性についての先行研究を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。
ジェンダーについて精神分析的主観性と社会的主体の違いと関係を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。
自らが愛好家として好き、あるいは強い興味を持つポピュラーカルチャーについて、主観的な熱意と客観的な分析眼をもって、他者に対して適切かつ具体的な分析を発表するスキルを身につける。
学術論文を書くためのトレーニングとして、先行論文や評論の戦略的な読解能力、適切な調査能力と資料参照、引用能力を身につける。
他者の発表に対して、即興的に生産的な質問やコメントをする能力を養う。

成績評価方法
授業内発表(20%)
学期末レポート（40%)
授業貢献(40%) 質疑やコメントの回数および内容的な貢献度を見る。

備考・関連ＵＲＬ
第1～3回の授業には必ず出席すること。
発表予定日に無断で欠席した場合は自動的に20%がマイナスとなる。
発表およびレポートの内容に剽窃が認められた場合は成績評価の対象から外す。
個別相談を希望する人は、授業前後に口頭で、あるいは初回に示すメールアドレスにメールで、アポイントをとってください。

専門演習

科目名	表象・メディア論系演習（表象文化の政治経済学2） レヴィナスを読む（II）							
担当者名	渡名喜　庸哲							
表象	２単位	秋学期	月曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、20世紀フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスのテクストの講読を行います。レヴィナスの哲学は、「顔」「他人」「倫理」といった概念を提示した哲学者として有名ですが、同時にその思想は難解なことでも知られています。この授業では、春学期に講読するレヴィナス哲学の入門としては最適という評価のあるレヴィナス自身による対談『倫理と無限』（ちくま学芸文庫）を踏まえ、レヴィナスの別の著作について講読を行います。受講者の関心にできるだけ合わせる予定ですが、『実存から実存者へ』（ちくま学芸文庫）、『全体性と無限』（岩波文庫）あたりを想定しています。毎回1章ごとに、担当者がレジュメを作成しそれをもとに議論をします。
演習を通じて、レヴィナスの思想および関連する現代哲学の議論を理解することが目標です。
場合によっては難解な箇所もありますが、初学者でも理解できるよう適宜解説を加えます。前提知識は問いません。内容に関心のある方、哲学的な文章や思考を厭わない方の参加を期待します。

授業の到達目標
・さまざまな概念・事象について哲学的な議論を踏まえて多角的な考察をすることができる
・レヴィナス哲学に関する基本的な議論をおさえる
・議論されている問題を自分自身の関心に引きつけて展開できる

成績評価方法
●**試験**　0%　　・教場試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　・レポートの基本的な書き方を抑えている。　・資料やデータを適切に読解している。　・参考文献を適切に踏まえて問題を設定し、議論を進めている。　・独自の見解を説得的に示している。
●**平常点**　50%　　・事前準備をしている。　・議論に参加している。
●**その他**　0%　　0

科目名	表象・メディア論系演習（ゲームデザインの考現学） ゲームについて学問的に考える							
担当者名	村井　翔							
表象	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要
ゲームにはボードゲーム、カードゲームなどもあり、約五千年の歴史があると言われますが、今日ではゲーム専用機ないし携帯電話やPCを使って行われるコンピューターゲーム、テレビゲームないしビデオゲーム（欧米での一般的呼称は後者）が圧倒的な比重を占めており、ここでいう「ゲーム」もそのことです。この種のゲームが現在見られるような形態を整えたのは1980

年代以降ですから、ゲームについての学問的研究はアニメ、漫画と比べても遥かに遅れていますが、一方、ゲームは現在、きわめて多様なジャンルに分化しており、そのすべてを包括しうるような研究の視点は見出しがたいとも言えます。それでもRPG（ロールプレイング・ゲーム）など何らかの意味でストーリーのあるゲームに対しては物語論（ナラトロジー）という文学研究の方法が適用できることは明らかであり、たとえば東 浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』（2007、講談社現代新書）は実際にはゲームよりもライトノベルがもっぱら論じられているとしても、特筆すべき優れた成果と言えます。ゲーム研究専門家の書いた本ではイェスパー・ユール『ハーフリアル』（2016、ニューゲームズオーダー）が、やや古びた感はあるものの（原著、英語版は2005）、広く浅くの概括的入門書として良く書けています。また中川大地『現代ゲーム全史』（2016、早川書房）は日本で発売されてきた膨大なゲームの大半について、当時の社会情勢や業界事情などとからめて論じた大作。約600タイトルのゲームが論じられた、なかなか凄い本です。この授業ではゲームと小説のストーリーはどう違うのか、といった基本的な事柄から出発して、現代のゲームデザイン（システム面を含めたゲームの内容、またその設計のこと）を考察してゆきたいと思います。演習参加者にも発表を求めますので、まずは自分の好きなゲームについて熱く語るところから始めてください。担当者はもともと精神分析の研究者なので、いまだに非科学的な議論が横行している「ゲーム脳」「ゲーム有害論」についての発表も歓迎します。

授業の到達目標

演習内における発表（できればそれに加えてレポートの提出）

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%　　任意(後述の通り、加算点があります)
●**平常点**　100%　　必ず授業内で1回の発表を行うこと。発表の際にレジュメを配った場合、それをそのままレポートの代わりとして構いませんが、別途、レポートを出せばさらに加算点があります。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア原論1） メディア未来学：メディア・コンピューター（AI）・生命、そして「私」							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代は情報メディアや先端テクノロジーの驚異的な発展によって、従来の世界観・人間観が覆されつつある人類史上画期的な時代です。地球上に張り巡らされた情報ネットワークはグローバル化と地球全体の村化（マクルーハンが言う「グローバル・ビレッジ」）とを同時に促進し、「人類」というリアリティを今までになく高めていると同時に、異文化間の軋轢を生んでいます。また、コンピューター技術によるAIの発展は、これまであらゆる生物の長と自認してきた「人類」の根拠である知性の優越性を揺るがしています。さらに遺伝子工学は、神の領域と考えられてきた生命の創造＝工作をも可能にしてきています。このように従来の社会設計や価値観・倫理の前提だった「人間」の個別性や有限性、外部宇宙の改変不可能性や生命の工作不可能性が崩れる時、いったい「人間」や「わたしたち個人」はどうなるのでしょうか？

本演習は、先端メディアとテクノロジーの基本構造を学び、それが社会や文化、人間や個人をどのように変容させていくかを考察します。最終的には、受講生それぞれが、来たるべきメディア社会、先端テクノロジー社会のなかで「自分」らしく生きるための将来構想を描けるようになることを目指します。

「メディア未来学」への入門的な演習ですので、メディア論や情報社会論が初めての学生にも身近な例を取って分かりやすく解説します。基本的に2年生向けの授業ですが、もちろん3年生以上の受講も歓迎です。テクストにもとづいた学生の発表と教員による解説がメインですが、授業テーマにあった映画やアニメ作品も分析・考察します（4作品を観てもらって、テクストと同様に発表・討論をしてもらう予定です）。

授業の到達目標

メディア社会・先端テクノロジー社会の基礎構造を理解し、未来の情報メディア社会における文化や思想の可能性を知ること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　詳細は授業中に指示します。
●**平常点**　40%　　平常点とは、出席、発表の評価、授業中における討論への参加度合い、等々のことを指し、それらを総合的に判断して評価を出します。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（複製メディア論1）							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

映画、写真、レコード、活版印刷物といった複製メディアの大量の普及が19世紀後半から20世紀前半の人びとの社会生活を大きく変化させた。例えば写真という機械の視線によって自分自身の姿を客観的に眺めることを人類はそこで初めて学んだわけである。最初多くの人々は写真に写った自分の姿が自分の想像しているイメージと違っているために、自分であるとは理解できなかったという。むろん現代の私たちは、もはや写真を伝達や記録の道具として使いこなしているつもりになってはいる。たとえばパスポートや学生証や免許証の証明写真を自分であると認めて持ち歩いている。しかし実は、それを笑いの種にするとき、感受性の深いところで私たちは、それが自分でないように思えるという19世紀の人々と同じ感覚にも捉えられているのではないか。こうしたメディアによる世界の知覚様式の変化の問題をもっとも深く考えた論考が、ヴァルター・ベンヤミンの「複製技術時代の芸術作品」であろう。この授業はこの論文を読みこなせるようになることを目指しつつ、複製メディア時代の具体的な芸術文化現象を取り上げて、複製メディアの歴史的意味に少しづつ馴染んでいく作業を行いたい。

授業の到達目標

ベンヤミンの提起している複製技術時代の芸術作品という問題を自分の問題として考えられるようになること

成績評価方法

授業への出席、報告、授業内容にかかわるレポートを総合的に判断する

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア作品分析1） 家族の肖像――疑似家族の形成							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	―	―	―

授業概要

この演習は、これまでの「表象・メディア論系演習（メディア考古学1）」をより内実に合致するように名称変更したものであるが、内容的には、演劇、映画、テレビドラマ、小説、漫画など多様なジャンルの作品を分析し、各メディアの特性に留意しながら深く味わうことを目的とするものであり、従来の「メディア考古学」演習を踏襲するものである。

2019年度中に平成が終わり新しい元号へと切り替わるが、この30年のあいだに、日本のドラマや映画における家族の表象は大きく変化した。テレビドラマで言えば、60年代から70年代のホームドラマから、70年代後半から80年代前半に活躍した山田太一や向田邦子の家族の亀裂を描くドラマを経て、90年代以降、特に東日本大震災以降は、血縁によらない疑似家族が形成されるプロセスが頻繁に描かれるようになったと言える。そこには、子どもを育てることのできない親たちに代わって誰が子どもを育てるかという社会全体の問題が関わっているように思われる。本演習では、各メディアにおける疑似家族の表象について考察し、それらが提示する社会の現在と未来について考える。

取り上げる作品の候補としては、『万引き家族』（2018年）、『海街ダイアリー』（2015年）、『誰も知らない』（2004年）などの是枝裕和監督による映画、『anone』（2018年）、『Mother』（2010年）などの坂本裕二脚本によるテレビドラマ、『奇跡の人』（2016年）、『ホームドラマ！』（2004年）などの岡田惠和脚本によるテレビドラマのほか、羽海野チカによる漫画『三月のライオン』（2007年～、漫画は完結していないため、アニメ版、映画版もありうる）なども視野に入れているが、受講者の希望も聴きながら、初回に決定する。できればドラマや演劇や小説も取り上げたい。

授業の到達目標

映画・演劇・テレビドラマ・小説等のジャンルにかかわらず、それぞれの作品は、作者が意図した以上に多くの情報を含んでいる。しかし私たちは多くの場合作品と1回しか出会わないため、たくさんの情報を受け取り損ねている。この演習では、一つの作品と何度も出会い直すことによって、一つの作品が別のものに見えてくるという体験を受講者にしてもらうことを目指す。

また、ジャンルの異なる作品それぞれの分析の手法を身につけることを目指す。

最終的には、疑似家族の表象が私たちに何を投げかけているのかを作品分析を通して明らかにしたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点**　30%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

受講者には授業時間外にもDVD等映像資料や図書を視聴する／読むことを求めることになるので、そのつもりで受講されたい。作品はできるだけ論系室にも置いてもらうようにするが、レンタルショップで借りる、オンデマンドで視聴する、買ってもらうなど、お金がかかる場合もあることをあらかじめ了承の上、受講されたい。

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（消費社会とメディア1） 私をメディアする、私のかたち・時間を造形する―アートのつくり方―							
担当者名	中村　理恵子							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	―	―	―

授業概要

「メディアとしての私・身体」を考えます。いくつかのワークショップを通し、ソーシャルな文脈にさらされた自分を観察し、消費社会に巻き込まれた自分の目線をずらし、批評的に見る術を習得します。

実際の制作を通して、自分の立ち位置や独特な目線を獲得します。メディア環境によって作られた「私」とは違う「私」の像をそれぞれが会得し、その痕跡が作品として残ることを目指します。

「わたし」、「アーティスト目線」、「美人再構築」、「身体」、「日日アート」・・・などをテーマに進めます。

授業の到達目標

日日の中にしばしば見落される物事をアートに変換する"まなざし"を鍛えて、多様な画材、技術、道具をじゃぶじゃぶ使いながら、新たなアートの兆しをつかまえ、作品を生み出します。

成績評価方法

試験は、ありません。
授業参加点（30%）
課題に対する取組み、レポート・リアクションペーパーの内容（30%）
グループワークへの貢献、発言、発想力、個人の作品・成果物（40%）
※ 毎回の講義を「座＝セッション」と考え、コラボレーションやワークショップへの貢献度を総合的に評価します。

備考・関連URL

【なかむらLab.】 http://rieko.jp/lab/
※遅刻厳禁、動きやすい服装で。
※授業内容やテーマは、受講者との相互作用によって変更する可能性があります。
※ワークショップ及び作品制作に必要な画材や道具を個人で準備いただきます。
※アートイベント、ライブなど、実際にその場へ行き情報収集、体験することを宿題、課題として出すことがあります。
※ワークショップ、講義内容及び成果物を、インターネットやほかで公開することがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア原論2） 情報社会の光と影							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

情報社会における先端メディアと先端テクノロジーがどのように人々のリアリティや関係性を変容させ、文化に影響を及ぼすかを考察します。現代は、人類が長い間縛られてきた土地や肉体といった物質財から情報財へと、大きく社会や文化の構造が変化する画期的な時代です。物質的なものから情報的なものへとテイクオフするとき、いったい何が起こるのか？　AIやデジタル・メディア、サイボーグ技術やゲノム技術といった「情報」化や「電脳」化のなかで、人間とマシーン、身体や心、社会や文化はどうなるのか？　テキストや映像作品を分析しながら、先端メディア・テクノロジーが織り成すネットワーク世界における「個」のあり方（特異性）を考察し、人間のもつ「欲望」の根源的なあり方について考えます。 授業はテキスト講読と映像作品分析との二本立てになります。

授業の到達目標

現代と未来の情報メディア社会・先端テクノロジー世界の基礎構造を理解し、メディアとテクノロジーの可能性と限界について学ぶこと。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　詳細は授業中に指示します。
●**平常点**　40%　　平常点とは、出席、発表の評価、授業中における討論への参加度合い、等々のことを指し、それらを総合的に判断して評価を出します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（複製メディア論2） 映像文化の社会学							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

長谷正人編『映像文化の社会学』有斐閣（2016年春出版予定）をテキストにして映像文化について多角的に分析する。

授業の到達目標

映像文化に対する批判的視点を身につけること。

成績評価方法

出席、授業での報告、授業に関わるレポートで総合的に評価する

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア作品分析2） 生と死のドラマ――『アンナチュラル』『透明なゆりかご』など							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習は、これまでの「表象・メディア論系演習（メディア考古学1）」をより内実に合致するように名称変更したものであるが、内容的には、演劇、映画、テレビドラマ、小説、漫画など多様なジャンルの作品を分析し、各メディアの特性に留意しながら深く味わうことを目的とするものであり、従来の「メディア考古学」演習を踏襲するものである。

本演習では、生と死にかかわる現場を深く描いた作品を取り上げる。近年、出産をめぐる作品で秀逸なものが増えている。出産の喜びだけではなく、生まれなかったこどもや望まれなかったこどもの問題などを深く掘り下げる作品である。また、その対極にある死者をめぐるドラマにも優れたものがある。本演習では、医療機関を舞台としながらも生死を消費の対象とせず、また、安易なヒューマンドラマにもせず、生と死をめぐる医療の現場を鋭くリアルに描いた優れた作品を分析し、それらの作品をとおして、生と死の表象のあり方について考える。

取り上げる作品の候補は以下のとおり。出産とめぐる作品としては、『コウノドリ』（鈴ノ木ユウ原作、坪田文らの脚本により2015年、2017年にドラマ化。取り上げるならドラマ版第2シリーズか？）、『透明なゆりかご』（沖田×華原作、安達奈緒子脚本により2018年にドラマ化。取り上げるなら2018年版ドラマか？）など。死者をめぐるドラマとしては、『アンナチュラル』（野木亜紀子脚本、2018年）、『きらきらひかる』（郷田マモラによる漫画、1998年に井上由美子脚本によりドラマ化）など。曽野綾子の小説『神の汚れた手』など、テレビドラマ以外もできれば取り上げたい。

授業の到達目標

映画・演劇・テレビドラマ・小説等のジャンルにかかわらず、それぞれの作品は、作者が意図した以上に多くの情報を含んでいる。しかし私たちは多くの場合作品と1回しか出会わないため、たくさんの情報を受け取り損ねている。この演習では、作品を深く、かつ豊かに受容し、独自の視点から分析する方法と力を身につける。

本演習では、作品分析をとおして命について考察し、生と死の表象のあり方について、各自が一定の見解を持つことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　演習で取り上げた作品について、独自の視点から深く分析できているかどうかをみる。
●**平常点**　30%　　研究発表の内容、出席状況、ディスカッションでの発言等を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（消費社会とメディア2） Revolutionary 2030 : Speculative Design for the Other 90%							
担当者名	長谷川　愛							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文明の発達と人類の幸福は必ずしもイコールではありません。アートとデザインと科学技術によって世界はどのように変化するのか、したいのか？

何をもって幸福なのか？そもそも私たちの存在する目的は幸福になることなのか？このような根本的な問いから始まるアートからデザイン、社会実装までを網羅する授業です。

様々なゲストによる社会問題や社会を変える方法、それらににまつわるアート、デザイン作品等の講義とディスカッションを行います。

授業の到達目標

最後に課題の発表をしていただきます。「2030年の革命家」として様々な国に振り分け、歴史＆未来予測リサーチ（未来の盲点やブラックスワンを探す）をしてもらい、どのような問題をどう解決するか作品やプレゼン、パフォーマンスにして発表してもらいます。

最終課題の制作と発表および授業での他学生へのフィードバックなどを評価対象とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席率
●**その他**　50%　　課題制作と発表: 35%　他の学生の課題への意見だし：15%

科 目 名	表象・メディア論系演習（デザイン・フィクション・ワークショップ） 近未来のメディアを構想する							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代はインフォメーション・オーバーロード（情報過多）の時代だと言われています。多様な快楽や苦痛が浮遊する膨大な情報の海のなかで、様々な問題が複雑に絡み合っています。この授業では、そのような複雑な社会との適切な距離感を取り、自己の創造性を最大化するために、個人的な動機を基に、その物語（narrative）の中で未知の情報技術の姿を浮かび上がらせるデザイン・フィクション（サイエンス・フィクションを参照しながら、架空のメディア・テクノロジーに注目する方法）やスペキュラティブ・デザイン（問題解決ではなく、議論を喚び起こすためのデザイン）の手法を用いた一連のワークショップを行います。ペイン（ストレスや苦痛と感じること）を掘り下げ、その解決策=ペインキラーを考えたり、好き過ぎること＝偏愛・妄想を深掘りながらそれを支援する技術を考えたりしながらプロトタイプ（試作品）を構想し、「自分の物語」を社会に接続する方法を身に付けていきます。多様な経験や背景の学生の参加を歓迎します。

専門演習

※ 受講者全員が参加するグループ発表やディスカッションなどを多く含むので、主体的な参加を臨む方のみ受講してください。

授業の到達目標

個人的なペインを認識し、そのペインキラーとしての技術を構想し、デザインする力を育みます。

具体的には以下の能力を鍛えます：

・当事者としての研究テーマの探求
・課題のリサーチと代替案のデザイン
・提案のプレゼンテーション

成績評価方法

出席、積極的な参加と発言、最終発表プレゼンテーションの完成度の総合的な評価を行います。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体原論1） 人間の身体と機械・テクノロジー							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

我々の身体は絶えず機械によって取り囲まれ、機械に多くを依存した社会の中に置かれています。そうした状況は映像・文学・演劇・マンガ・アニメ等のさまざまな作品に影響を与え、アイデアの源泉ともなってきました。この演習では映像・文学・演劇・マンガ・アニメ諸作品における人間の身体と機械の表象、及びその系譜について概観・討論していきます。

授業の到達目標

毎回の演習内容を十全に理解した上で、分析対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　分析対象となる様々な作品・事象に関して、自分独自のオリジナルな観察・批評が出来ているかどうかを判断・評価する。
●**平常点**　50%　　出席が全体の2/3に満たない者は、最終的な評価の対象としない。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

最終授業で包括的にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（音声身体論） マンガの吹きだしを考える							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この講義では、マンガの吹きだしについて考えることを通して、人間の音声と動作の関係について考える。一般に、マンガは絵によって性格づけられ、物語を進行させると考えられがちである。実際、マンガ家はその画力によって認められることが多いし、吹きだしを排したアーティスティックなマンガも存在する。しかし、ほとんどのマンガにおいて、わたしたちが予備知識もないのにその作品をすらすら読めてしまうのは、読みながら吹きだしの時間を無意識のうちに再構成し、会話の時間として感じているからに他ならない。

本講では、マンガの表現史を通観しながら、吹きだしの来歴と現在を考え、吹きだしを分析するための枠組みを構築する。

授業の到達目標

・マンガ史のさまざまな表現を比較できるようになる。
・マンガの中のことばをマンガ史から論じることができるようになる。
・音声が書き言葉になるときにどのような表現が可能かをマンガに即して論じることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　各自が作品分析を行い、レポートを作成する。
●**平常点**　50%　　小レポートやリスポンスカードをもとに評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体文化論1） 祭りの身体を映像でとらえよう							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

かつて祭りは、日頃抑制されている身体を解放する場でした。そこには当時流行のさまざまな芸能が取り入れられました。
現在では祭りの機能も意義も変わってきていますが、かろうじて日常と異なる身体を維持しているものもあります。
この授業では、そうした祭りの身体を各自/グループで撮影に行き、映像コンテンツとしてまとめていただきます。
その他に、各自でレポートを提出して下さい。

実際に祭りの場に足を運ぶ必要があり、多くの祭りは土日祝日に行われるので、余裕があるかどうか確認のうえ履修して下さい。

授業の到達目標

祭りに残されている特異な身体を知り、その背景となった文化を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　祭りや芸能の特色、映像記録の意義などを各自レポートにまとめる。
●**平常点**　20%　　授業での出席や発表によって評価します。
●**その他**　40%　　個人または数人のグループで、実際に祭りを撮影に行き、15分程度の映像コンテンツを作成する。撮影時のカメラは貸出可能。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体原論2） 人間の身体と機械・テクノロジー							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

我々の身体は絶えず機械によって取り囲まれ、機械に多くを依存した社会の中に置かれています。そうした状況は映像・文学・演劇・マンガ・アニメ等のさまざまな作品に影響を与え、アイデアの源泉ともなってきました。この演習では映像・文学・演劇・マンガ・アニメ諸作品における人間の身体と機械の表象、及びその系譜について概観・討論していきます。

授業の到達目標

毎回の演習内容を十全に理解した上で、分析対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　分析対象となる様々な作品・事象に関して、自分独自のオリジナルな観察・批評が出来ているかどうかを判断・評価する。
●**平常点**　50%　　出席が全体の2/3に満たない者は、最終的な評価の対象としない。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

最終授業で包括的にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体文化論2） うたのしくみ							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちが現在楽しんでいる「うた」にはいくつか重要な源流がある。こうした音楽について、従来は音楽的構造と歌われる歌詞とをそれぞれ個別に分析することが多かった。しかし、本来は、ことばの韻律と音楽の構造とのあいだには互いに関係があり、双方を参照することで初めて、なぜそのメロディが選ばれるのか、そのことばが選ばれるのかが理解できることが多い。また、うたには多くの場合身体動作が伴い、それがうたに言語化されにくい意味を与えていることがある。この演習では、さまざまポピュラー音楽の中から代表的な「うた」を毎回1-2曲取り上げ、その歌詞と音楽構造、身体性を分析する方法について考える。また、受講生自ら課題曲や自由曲を対象に分析する機会を設ける。

授業の到達目標

・ポピュラー音楽の歌詞や音楽の構造を記述し、分析することができるようになる。
・歌とメロディ、アレンジ、身体動作との間の相互作用について考えることができるようになる。
・興味を持った歌について、分析に基づく批評が書けるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　随時、分析課題を課す。
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体と現在1） 都市の"からだ"と、いまの時代							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的には学生が大学の外に出て、フィールドワークすることから、「身体知」のようなものを発見してほしいと考える。簡単なことを言えば、坂道を登るのはきつい。それでようやく自分のからだの状態を知ることができるだろう。それと同様、では、「現在」という枠組みのなかでは、どんな「身体」を発見できるかに焦点をあてる。それは街でもいいが、たとえば、ダンサーがいるかもしれない。アスリートの身体はどうなっているか。風俗に勤める人たち、夜に生きる人たち、早朝から働く人たちはどうか。生々しい、身体を大学の外でいかに発見できるか。そのつどテーマを与えフィールドワークする。

授業の到達目標

見ることがなにより大きな意味を持っていると考える。人は歩く。だが、ひとりひとり、まったく歩き方は異なる。その差異に気がつくことでようやく、視界は広がる。都市のなかに現在のからだはある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　20%　　授業で学んだことをどれだけ把握しているか。
●**平常点**　80%　　授業への貢献度、積極性から判断する。
●**その他**　0%　　0

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体と現在2）							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的には学生が大学の外に出て、フィールドワークすることから、「身体知」のようなものを発見してほしいと考える。簡単なことを言えば、坂道を登るのはきつい。それでようやく自分のからだの状態を知ることができるだろう。それと同様、では、「現在」という枠組みのなかでは、どんな「身体」を発見できるかに焦点をあてる。それは街でもいいが、たとえば、ダンサーがいるかもしれない。アスリートの身体はどうなっているか。風俗に勤める人たち、夜に生きる人たち、早朝から働く人たちはどうか。生々しい、身体を大学の外でいかに発見できるか。そのつどテーマを与えフィールドワークする。

授業の到達目標

見ることがなにより大きな意味を持っていると考える。人は歩く。だが、ひとりひとり、まったく歩き方は異なる。その差異に気がつくことでようやく、視界は広がる。都市のなかに現在のからだはある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　20%　　授業で学んだことをどれだけ把握しているか。
●**平常点**　80%　　いかに発表にいたる作業に積極的に参加したか。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体行為分析） 発声と身体動作の時系列分析							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

静止している一つの身体ではなく、互いに刻々と変化する複数の身体の分析を行う。具体的にはELANを用いた身体動作、声のコーディングを学び、コミュニケーション内の相互行為が時間を追ってどう変化するかを論じる力を身につける。

授業の到達目標

・発声と身体動作を記述するためのソフトウェアの使い方に習熟する。
・相互行為分析の基本であるトランスクリプトの書き起こしができるようになる。
・書き起こされたトランスクリプトのもとに、相互行為について議論できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　随時、分析課題を課す。
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージ原論1）　ジョージ・クブラー『時のかたち』を読む							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「事物の歴史をめぐって」という副題をもつジョージ・クブラーの『時のかたち』（George Kubler, "The Shape of Time"）は、1962年に原著、2018年に日本語訳が刊行され、美術史を超えた関心をひきつけてきた書物である。先コロンブス期から植民地化時代に至るイベロアメリカ美術史家であり、かつフランスの美術史家アンリ・フォションのアメリカ合衆国における弟子であったクブラーは、フォションの方法論的著作といえる『形の生命』の英訳者としても知られている。

本演習では、『時のかたち』が『形の生命』に対する批判的応答とみることができること、そして同時に1960年代アメリカ美術の作家たち、とりわけランドアートを代表するロバート・スミッソンの思考に示唆を与えた点に着目しつつ、同書を読み解いていく予定である。

授業の到達目標

1『時のかたち』をイメージの理論として読解する
2芸術についての理論的テクストを精読することで、作品読解との接点についての知見を深める

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%　　コメントシートや発表を加味する
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（図像学1）　図像の言葉							
担当者名	丹尾　安典　他／石井　香絵							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「鳩」は何を表わす、と問えば、多くは「平和」とこたえることであろう。しかし、中世やルネサンスの絵画に描かれた「鳩」は「平和」ではなく「聖霊」の象徴である。日本のアジア・太平洋戦争期に制作された作品に表現された「鳩」は「兵士」を意味する。時代や地域によって、図像が語る意味内容はことなる。狭い範囲の知識に依りながら図像を目にすることは、そこに託された意味内容の理解をさまたげる。

授業の到達目標

図像による伝達言語の理解をうながし、さまざまな図像の読解の基礎的態度を培うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートをもって試験とする。
●**レポート**　70%　　授業の理解度と、それにもとづいた展開力による評価
●**平常点**　30%　　発表の内容による評価
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

毎時間スライドを使用

科 目 名	表象・メディア論系演習（ヴィジュアル・カルチャー論1）							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、写真家とその作品、或いはグラフ雑誌の時代を象徴したLIFE誌の名高いフォト・エッセイやニュース記事などを手がかりとしながら、人間を取り巻く様々な行為とそれを伝える表象の政治性について考察する。

報道の即時性に関して、文字媒体・印刷媒体に対するテレビやインターネットの優位性がいくら喧伝されたとしても、報道の場で文章記事と写真とが手を携えることを止めたわけではない。多種多様なメディアが発達しても、依然として報道写真の重要性を疑うことはできないだろう。身体表象と活字メディアとの重要な結節点としてのフォト・ジャーナリズムも同様である。そして、そうした写真が「いま、ここ」に存在する人間を巡る出来事を、その場に居なかった多くの人に伝える点で、様々な問題が中間項目として介在する。

毎回の演習はフォト・エッセイやニュース記事に関するグループ発表とその検討を中心とするが、学期末には、受講生一人一人に簡単なフォトエッセイ/フォトドキュメンタリーを作成してもらう。これをレポートとして提出してもらうが、これについては授業の際に説明する。カメラを持っていない受講生には、使い捨てカメラ（レンズ付きフィルム）などを自分で用意してもらうことになるが、受講に際して写真の経験の有無はまったく問わない。また、携帯電話やスマートフォンに付属したカメラ機能等を利用して撮影し、プリントした写真を素材としても構わない。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される演習の内容を十全に理解した上で、ヴィジュアル・カルチャー論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　50%　　演習の内容を十全に理解した上で、ヴィジュアル・カルチャー論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評の視点を有しているかどうか。

●**平常点**　50%　　グループ発表に積極的に参加しているかどうか、また、出席が全体の3分の2に達しているかどうかで判断する。

●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

最終授業で包括的にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージ原論2）　ジョージ・クブラー『時のかたち』を読む							
担当者名	石岡　良治							
表象	２単位	秋学期	月曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「事物の歴史をめぐって」という副題をもつジョージ・クブラーの『時のかたち』（George Kubler, "The Shape of Time"）は、1962年に原著、2018年に日本語訳が刊行され、美術史を超えた関心をひきつけてきた書物である。先コロンブス期から植民地化時代に至るイベロアメリカ美術史家であり、かつフランスの美術史家アンリ・フォションのアメリカ合衆国における弟子であったクブラーは、フォションの方法論的著作といえる『形の生命』の英訳者としても知られている。

本演習では、『時のかたち』が『形の生命』に対する批判的応答とみることができること、そして同時に1960年代アメリカ美術の作家たち、とりわけランドアートを代表するロバート・スミッソンの思考に示唆を与えた点に着目しつつ、同書を読み解いていく予定である。

授業の到達目標

1『時のかたち』をイメージの理論として読解する

2芸術についての理論的テクストを精読することで、作品読解との接点についての知見を深める

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%

●**平常点**　40%　　コメントシートや発表を加味する

●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（図像学2）　日本美術の「図像」と表現							
担当者名	岡戸　敏幸							
表象	２単位	秋学期	木曜日	６時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「図像」とは、ある特定の内容を表現する際に拠り所となる「かたち」のことである。

「図像」を知っていれば、不特定多数の人びとの間でも、意味をもった「かたち」のやりとりが可能となる。

さらに「図像」の一部を改変すれば、「見立て」や「パロディ」といった表現も可能となるが、それを性格に理解し、深く味わうためには「図像」の基礎的知識が必須となる。本講義では、日本美術を中心に図像の基礎を紹介したあと、いくつかの個別テーマを扱い、図像学の方法を示す。これに続いて、受講者各自が自ら定めたテーマによる演習発表を予定している。

演習発表の具体的内容や方法については、講義開始後、受講者と相談の上、改めて通知する。

授業の到達目標

日本美術を中心とした「図像」表現についての基礎的知識と、これを扱う方法を習得し、それらを土台に受講者各自の関心に沿った図像理解を深めることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　予定していません。

●**レポート**　50%　　各自の演習発表の内容を発展させた期末レポートを予定しています。 丁寧な作品比較がなされているか、自分自身の見解が明確に提示されているか等を評価の軸とします。

●**平常点**　50%　　出欠席の状況だけでなく、講義への能動的参加を重視します。 特に各発表後の質疑応答は重要なので、積極的に行ってください。

●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	表象・メディア論系演習（ヴィジュアル・カルチャー論2）　視覚イメージの読み方							
担当者名	丹尾　安典							
表象	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

現在目に見えているコトは、過去の体験とも結びつきながら、そこにある。視覚文化は今そこに現存している事柄のみにかかわるのではなく、消えてしまった過去とも結びついている。また早稲田の未来の建物との関係でいうならば、現在の文学学術院校舎は、あらたに建設された早稲田アリーナの今後の姿とも緊密な関係を有しながら、存立している。この演習では、我々を取り巻く身近なる視覚文化を例にあげながら、その読解のきっかけを与えるように心がける。ごく身近にあるもろもろの視覚文化群への注視さえもできぬならば、遠い国の遠い過去の文化の考察などは不可能であろう。この演習が、過去と未来を内包する現在の視覚文化を読み解く鍵を提供する場になれば、と思っている。

授業の到達目標
できあいの型にはまった視座をはなれて、自分固有の目で見ることができるようにすること。

成績評価方法
●**試験** 0%　提出されたレポートを評価の基準にすえる。
●**レポート** 70%　提出されたレポートが授業の内容を咀嚼しているかどうかによって評価する。
●**平常点** 30%　授業でおこなう見学、指示した展覧会見学等への参加を評価対象とする。
●**その他** 0%　0

科 目 名	表象・メディア論系演習（デジタルコンテンツ技術1） デジタルと音楽							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要
デジタルとは何か。そして、デジタルは万能なのだろうか。
この授業では、デジタルとアナログの基本的な相違をわきまえたうえで、さまざまなデジタルコンテンツを支える技術の基礎を体験する。
春学期は、主としてデジタル音声と画像について取り上げる。グループごとに実際に音楽・音声を録音して編集し、画像の編集の基礎を学ぶ。

授業の到達目標
デジタルコンテンツ技術について、基本的な知識を学ぶと同時に、実際に音声の編集を体験し、正しいコンテンツ運用方法を身につけることを目標とする。

成績評価方法
●**試験** 0%　試験は実施しない。
●**レポート** 50%　デジタルという概念と技術の変遷を正しく理解できたかどうかを評価する。
●**平常点** 50%　グループ発表への貢献と日常的な学習態度を評価する。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL
テクニカルな興味がないとついて行くのが厳しいでしょう。秋学期は動画とWebページを作成する予定です。

科 目 名	表象・メディア論系演習（デジタルコンテンツ技術2） 動画とWebページ							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要
デジタルとは何か。そして、デジタルは万能なのだろうか。
この授業では、デジタルとアナログの基本的な相違をわきまえたうえで、さまざまなデジタルコンテンツを支える技術の基礎を体験する。
秋学期は、主として動画編集とWebページの作成について取り上げる。グループごとに動画を撮影し、Webページを作って編集した動画を掲載する。

授業の到達目標
デジタルコンテンツ技術について、基本的な知識を学ぶと同時に、実際に静止画・映像編集などを体験し、正しいコンテンツ運用方法を身につけることを目標とする。

成績評価方法
●**試験** 0%　試験は実施しない。
●**レポート** 50%　デジタルという概念と技術の変遷を正しく理解できたかどうかを評価する。
●**平常点** 50%　グループ発表への貢献と日常的な学習態度を評価する。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL
テクニカルな興味がないとついて行くのが厳しいでしょう。春学期の履修を前提とするわけではありませんが、継続している方が理解はしやすいと思います。

科 目 名	表象・メディア論系演習（視覚イメージの読み方1） 描き変えられる記憶を「読む」こと──「見えるもの」と「見えないもの」のあいだを探る							
担当者名	田口　かおり							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要
美術館や博物館に出かけて美術作品を見るとき、あるいはTVのなかに映る何がしかの映像を見るとき、私たちは一体何を、どこまで「見よう」としているのでしょうか？かの有名な《モナ・リザ》を見るとき、私たちは、それがレオナルド・ダ・ヴィンチによって描かれたこと、油絵の具で描かれていること、描かれているのが謎めいた微笑みを浮かべる美女であることなど、既存の知識や視覚情報を脳内で結びつけて「《モナ・リザ》だ」と認識します。しかし、これだけでは、私たちは作品を「読んだ」ことにはなりません。《モナ・リザ》を横や裏から観察し、紫外線や赤外線を照射すると、そこには肉眼による観察のみでは知り得なかった多くの情報が浮かび上がってきます。繰り返し行われた絵具の塗り直しは紫外線の下で黒く浮かび上がり、盗難被害にあった時の傷は完全に消えることがありません。蝶々の形をした楔が打ち込まれた様子からは、何世紀も前に行われた修復の痕跡を探り当てることが可能でしょう。観客が酸を浴びせかけて損傷した左腕が水彩絵具で補彩されていることも、光の加減を変えて観察をすれば、確認できるのです。 このように、作品を「読む」ためには、まず、「肉眼で見えるものがすべてではない」ことを知り、「見えないもの」を見るための工夫と訓練をする必要があります。私たちが良く知っているはずの美術作品のほとんどすべてには、過去のいずれかの時点で修復の手が入り、改変が施されています。言い換えるなら、私たちが目の前にしてい

る美術作品のイメージは、その作品の一番上の「顔」にすぎません。その下には、私たちの知らない過去が、時間が、記憶が、お菓子のパイの生地のように積み重なり、眠っているのです。

本演習では、絵画、彫刻、写真、映画などを中心に、個々の対象のイメージが歴史的変遷のなかでいかに破壊され、中断され、再生あるいは改変されたのかを分析することで、メディアと記憶が切り結ぶ関係性を明らかにしていきます。肉眼で確認できる情報を超えて、イメージを「読む」ためには、物理的な意味あいにおいてだけではなく、作品を縦から横から裏から知り、見えるものと見えないものの意味を思考しなくてはなりません。授業と発表を手がかりに、一緒にイメージの深みを切り開いていきましょう。

授業の到達目標

本演習では、古代から現代まで様々な時代に現れたメディアを対象に、多様なイメージの生成と変遷の過程を明らかにすることを目標としています。

絵画や彫刻、写真、映画が示すひとつひとつのイメージが、一体何故その時代に生まれ、何故評価を受け、あるいはされないままに現代にまで辿り着いたのか。その過程でどのような改変が加えられてきたのか。こうした情報すべてを多様な方法を用いて「見て」「読みとり」「分析し」「語る」訓練を行います。表層のイメージを超えて、対象を総合的に認識し、時に隠蔽され忘却されてきた過去や記憶を拾い集め、ひとつの歴史を語る（ディスクリプション）ことができるようになるよう、講義を積み重ねていきます。

成績評価方法

●**試験**　30%　　14回目の授業の際に、理解度を確認するため、自由論述式の試験を行います。詳細は追って解説します。
●**レポート**　20%　　毎回授業終了時に、授業で取り扱った内容を踏まえた上でのコメントや質問を書く「ミニレポート」のための時間を設けます。独自の視点からの鋭い考察を評価します。
●**平常点**　50%　　グループワークへの積極的な参加、貢献度を評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

・シラバスの内容は、受講者の人数や関心により変更する場合があります。
・出席者全員が発表を担当します。グループ分けやテーマ設定については、授業内で追って説明します。・授業開講日が月曜日にあたるため、美術館見学は補講として別の曜日に行う可能性があります。受講者の関心や都合に鑑みて、詳細は開講後に決定します。

科 目 名	表象・メディア論系演習（視覚イメージの読み方2）　感覚と知性によるイメージ世界の把握							
担当者名	丹尾　安典							
表象	２単位	秋学期	木曜日	６時限	２年以上	—	—	—

授業概要

図書館には美術全集や写真集や展覧会図録などが架蔵されており、それらをひもとき、解説を読めば、絵画にせよ写真にせよ、なんらかの理解ができたような気にもなってくる。しかし、たとえばもし我々が1888年にアルルという南仏の町にいたとしたら、そこで絵を描いているほとんど無名のゴッホの絵を理解するだろうか。当時の99パーセントの人たちが無視したこの画家を現代の我々が評価しているとすれば、それはすでにゴッホ評価がゆらぎないものとなっており、その評価に漫然と追随しているからではないのか。われわれが自分自身の目で、作品から発せられるメッセージをしっかりと受け止め、それを感受し理解し語りうるには、どのような手続きや訓練が必要となるのだろうか。この演習はそのような問題意識を基底にすえながら、視覚イメージ群に対峙してゆく。作品の理解が知的にも感性的にもうながされるように配慮するつもりではあるが、例として取り上げる作例は、既成の評価が確立していないものをあえて選んでみようと考えている。

専門演習

授業の到達目標

作品から発せられるメッセージを自分自身の目で受け止められる感性と知性の向上。

成績評価方法

毎回記述してもらうレポートにより評価。

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア演劇論）							
担当者名	辻　佐保子							
表象	２単位	秋学期	水曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、いくつかのアメリカン・ミュージカルを取り上げて、いかに歌い踊る行為がキャラクターや関係性を媒介するものとして機能しているかを、作品を精緻に分析し、考えていきます。 アメリカン・ミュージカルにおける歌やダンスを考えるにあたってしばしば、歌詞やメロディによって表現されることと、歌い踊る行為によって表現されることが混同され、両者の間に生じる連携や齟齬がどのように作用しているかという論点は見落とされがちです。

その歌や踊りは、誰が誰に（何に）向けたものなのでしょうか。それは誰かとともに行うものでしょうか。途中で誰か加わるでしょうか。はたまた一人きりでしょうか。あるいは、最初から加われないキャラクターはいるでしょうか。歌う人・踊る人は作品のどこに位置づけられているのでしょうか。作品の物語世界の中でしょうか、劇中劇の中でしょうか、それとも別の位相でしょうか。歌い踊る行為はどのようなタイミングで作品に挿入されているでしょうか。歌や踊りの前後で作品に何か変化は生じているでしょうか。歌やダンスという表現をとることは、作品においてどのような意味を持つのでしょうか。

本演習では、歌詞やメロディ、ダンスのスタイルへの注目からは少し距離をとり、作品の進展において歌うこと・踊ることがどのような働きを担っているかを分析し考察していきます。特に、キャラクターの関係性の構築や変化を歌・ダンスが媒介している作品に焦点をあてて、テクストの精読・映像分析・グループ発表・ディスカッションを通して歌い踊る行為のダイナミックな働きを徹底的に考察していきます。

取り上げる作品の候補としては、『王様と私』（演劇：1951年、映画：1956年）、『マイ・フェア・レディ』（演劇：1956年、映画：1964年）、『ジプシー』（演劇：1959年）、『カンパニー』（演劇：1970年）、『思いがけない幸せ』（ドラマ：1978年、映画：1981年）、『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』（演劇：1998年、映画：2001年）、『ビリー・エリオット』（演劇：2009年）、『ラ・ラ・ランド』（映画：2016年）などを考えていますが、受講生からの提案も聴きながら3作品を決めていき

ます。

授業の到達目標

ミュージカルは誕生から現在に至るまで隆盛を誇る演劇ジャンルであるものの、批評的な分析・考察を抜きに好悪で判断がくだされる傾向にあります。本演習を通して、受講生全員がミュージカルを学術的に分析・考察する方法論を獲得することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性を判断する。
●**平常点**　40%　　研究発表の質、ディスカッションでの発言の量と質、授業への貢献度、出席日数を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（戦争の視覚文化論）							
担当者名	奥間　政作							
表象	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「戦争」のイメージは絵画や映画などに描かれた視覚的な媒体を通じて社会に広められることが多く、それを享受する側もこうしたイメージによって「戦争」を理解するという側面があります。一方で「平和」に対するイメージも時として対極にある「戦争」との結びつきを持つものも少なくありません。こうした戦争や平和に関する視覚的な作品を通じて、「戦争」イメージの成立や特性について理解し、学生自らが自発的にこうしたイメージについて考察し、成果を発表する場を提供します。

授業の到達目標

戦争に関する視覚的な作品の読み解きを通じて、対象とする作品に対して学生自らの見解を発表し、内容について学生相互の議論を深めることを目標とする。

成績評価方法

レポート　50%　個々人の発表をもとに、学期末にレポート（3000字以上）を提出。詳細は講義内で解説します。
平常点　　50%　発表およびレビューシートの提出を含む授業への参加態度を総合的に判断します。

備考・関連URL

※最新の授業計画は初回に提示します。登録者数等によってスケジュールを変更する場合もあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（モダニズム論）　造形芸術におけるモダニズム批評とその後							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「モダニズム（modernism）」という「イズム」のドグマ性が批判されるようになって久しい。だがモダニズム批判として現れた「ポストモダニズム」もまた、現在ではしばしば「1980年代の消費文化」や「バブル文化」と結びつけられ揶揄されるようになっている。「モダニズム」をめぐるこうした状況は、「西欧近代における芸術革命」を主として「モダニズム」と呼ぶ通念に由来するように思われる。本演習では「モダニズム」を、「モダニティ（modernity）」すなわち「近代という状況」ないしは「現代性」をめぐる問いの構造から考察しつつ、様々な批評テクストを読解していく。とりわけ造形芸術についてのモダニズム批評から現在に至る流れを扱い、「批評理論（Theory）」が興隆し衰退していく過程を辿ることで、現在におけるその意義について捉え直すことを目指す。

授業の到達目標

1「モダニズム」の批評がもつ魅力と陥穽を学ぶ。
2「モダニズム」を狭隘なドグマとしてではなく、「モダニティ」をめぐる問いかけとして見出す。
3　二十世紀批評理論の「可能性の中心」を探る

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末レポート
●**平常点**　30%　　コメントシートと発表
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージの分析1）　写真イメージの流通とその起源							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アルフレッド・アイゼンスタットが撮影し、1945年8月27日の『LIFE』誌上に掲載された、ニューヨークのタイムズ・スクエアで水兵と看護師がキスをする写真は、『勝利のキス』と呼び習わされ、第二次大戦の終結を象徴する祝祭的なイメージとして広く流通し、人々に記憶されてきた。恋人同士のキスのように思われてきたこの写真は、近年の研究によって、通りすがりの兵士が、見ず知らずの女性に強引にキスをする瞬間を写したものであることが明らかにされている。このように写真とは、撮影当初の文脈を離れて、さまざまな意味をまといながら流通してしまう。本演習では、このようなイメージの流通に対する批判的な眼差しを身につけることを目指す。グループワークにより実施される本演習が、各グループに課す課題は主に以下の2つである。①写真イメージのイコノグラフィー。誰もが一度はどこかで目にしたことのあるような、写真史上の傑作について、誰がいつそれを撮影したのか、どこで最初に発表されたのか等を、可能な限り詳細に特定する。②心的イメージの系譜学。エッフェル塔、富士山、ピースサイン、夕日、青い地球……。これらのキーワードを耳にすれば、誰もが多かれ少なかれ似たり寄ったりのイメージを頭に思い浮かべることができる。こうしたイメージにも、起源があるはずである。それは誰がいつどこで作り出したものなのか。その起源にまで到達することを目指す。

授業の到達目標

巷に氾濫するイメージに対して、批判的な眼差しを向ける能力を獲得する。データベース等によるイメージの特定や分析の技能を獲得する。

成績評価方法

履修者には半期の授業期間中に2回のプレゼンテーション（グループによる）が求められる。それらの内容や提出状況、および出席などの平常点を総合的に判断し、成績評価とする。

備考・関連URL

Nineteenth Century Collections Online
http://www.wul.waseda.ac.jp/DOMEST/db_about/gale/ncco.html
コメント提出用リンク
https://drive.google.com/drive/folders/1hhOLg7RpEBH7H5DKA_9krgNX5rtlxAqE?usp=sharing

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージの分析2） イメージの場と機能の関係を探る							
担当者名	古川　萌							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

21世紀に生きるわたしたちが過去の時代の美術作品を見たいと思うとき、まずおもむくのはおそらく美術館ではないかと思います。しかし、ルネサンス期のイタリアにまだ美術館と呼べる施設はなく、美術作品は美術館に収められるために制作されたものではありませんでした。絵や彫刻は生活のなかのさまざまなところで見るものであり、その場所に応じてそれぞれ異なった機能を有していたのです。

したがって、ある美術作品がもともとどこに置かれていて、いったい誰がその作品を見ることができたのか、あるいはどのように周囲とインタラクトしていたのか確認することで、その作品がいかなる機能をもって生活に寄与していたのか知ることができます。

本演習では、15〜16世紀のフィレンツェを中心に、ルネサンス期イタリアの都市生活に欠かせないさまざまな場所を取り上げて、それぞれのイメージがどのように機能し、受容されていたのか探ります。今でこそ美術館で鑑賞するものとなっている絵画や彫刻が、単なる装飾や自己表現のためのオブジェではなく、生活に密着したアイテムであったことが明らかとなるでしょう。

授業の到達目標

1. ルネサンス期イタリアにおける多様なイメージの在り方を理解する
2. イメージと場の密接な関係について説明できるようになる
3. 特定の美術作品の来歴やもともとの場所を調査できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　毎回授業終了時に提出をお願いする授業内容についてのコメントに基づいて評価します。
●**平常点**　30%　　自分が担当する発表への取り組み方に基づいて評価します。
●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージの記号論） 未来派×ダダ×シュール×東京1920							
担当者名	大石　雅彦							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、20世紀前半のモダニズム・アヴァンギャルドを対象とします。具体的には、イタリア未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、構成主義、バウハウスといったようなものです。これらの主義から適宜抜きだした、映画、絵画、写真、デザイン、建築、音楽、パフォーマンス等をもとに、芸術について考察してゆきます。手掛かりとなる特性は、抽象、コラージュ、モンタージュ、無意味、ノイズ、機能性といったもので、これらは21世紀文化の基底にも横たわっています。

こうした芸術と共に、モダン東京の文化・ライフスタイルを扱います。

■

授業としては、まず最初に短い論文を一編輪読します。そのあと、いくつかのテーマを設定し、テーマ別に班を編成します。そしてテーマ毎に、鑑賞と説明、班の発表という形で進みます。

毎回レビューシートを書いてもらいます。

授業の到達目標

モダニズム・歴史的アヴァンギャルド芸術に親しむ

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席回数・発表の状態、毎回のレビュー
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現1） 短篇小説を読む。							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

1934年から1943年のあいだに書かれた作品を精読する。
グループ発表の後、精読を行う。

授業の到達目標
小説の読みに「正しい解」が存在しないことを理解する。
成績評価方法
出席、発表レジュメ、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現2） 短篇小説を読む。							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要
1944年から1953年のあいだに書かれた作品を精読する。
グループ発表の後、精読を行う。
授業の到達目標
小説の読みに「正しい解」が存在しないことを理解する。
成績評価方法
出席、発表レジュメ、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現3） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
とにかく書いて、書いて、書いて、自分の小説をみつける。すでに書き始めている人はそれを深める。
授業の到達目標
自分の文学をみつける。
成績評価方法
重視するのはまず、課題提出。その努力。作品の質。出席。合評への関わり方・・・外向的・内向的、しゃべるのが苦手・得意、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現4） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
とにかく書いて、書いて、書いて、自分の小説をみつける。すでに書き始めている人はそれを深める。
授業の到達目標
自分の文学をみつける。
成績評価方法
重視するのはまず、課題提出。その努力。作品の質。出席。合評への関わり方・・・外向的・内向的、しゃべるのが苦手・得意、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現5） 小説の語り							
担当者名	滝口　悠生							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
小説の文章は、どのようにはじまり、持続し、終わるのか。
視点や時制、人称など、いくつかの具体的なポイントをおさえながら、実際に文章を読み、書くことを通して、文章の発生源であるところの語り手、そして動力となるところの語り方について考えます。

受講者の発表と、発表を受けてのディスカッションを主としますが、具体的な小説作品などを取り上げての講義も行います。
また、実際に散文（小説ではない）を書いてみること、そしてそれを全員で読み合う作業を行います。具体的には教室を出て全員で学校周辺を散策し、その記録を文章にしてもらうことなどを予定しています。同じ時間、同じ場所を歩いた経験が、複数の書き手によって文章という形になる時、そこには自ずとそれぞれの「語り方」が、そしてそれぞれの「語り手」の有り様が現れるはずです。 発表については、教員が指定した作品について、担当箇所を割り当てて精読のうえ、着眼点や考察を示してもらうものにしようと思います。
昨年度は、自作の創作物を提出してもらったり、各自好きな作品を取り上げて発表してもらったりして、それはそれで楽しく有意義だったのですが、限られた時間のなかではそれぞれの議論にも発表にもじゅうぶんな時間がとれなかったので、その反省をいかし、今年は一文一文、一語一語についてできるかぎり丁寧に、時間をかけて考えることをしてみたいと思います。
本授業の教員（滝口）は研究者ではなく実作者＝「書き手」なのですが、小説の語りについて考えることは、書くことと読むことの両方から考えることが重要だと思っています。なので、創作に興味があるひと、批評や研究を主眼におくひと、いずれも歓迎します。書くと読むが相互に作用し、せめぎ合うような議論、また、それをうながす受講者からの問題提起を期待します。
授業の到達目標
小説の読み方の幅と射程を広げること。そのうえで、受講者それぞれが小説の文章に対する自分なりの着眼点や批評性を見つけ、作品の読みや、創作・研究につなげること。
成績評価方法
発表内容、提出物、授業内での発言、参加度などを総合的に評価します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現6） フランス語のエッセイを読み、翻訳する。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

フランス語で書かれたエッセイを精読する。
レバノン出身で、フランス語で執筆する作家アミン・マアルーフのエッセイ*Le dérèglement du monde*を題材とする。
履修者は全員、課題として指示された箇所の訳を作成する。
発表担当者は、テクストの理解に必要な社会的・歴史的背景について調査し、報告を行なう。
受講者は、フランス語の文法についての知識があることが望ましい。

授業の到達目標

中級程度のフランス語を読めるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、発言、課題への取り組みから総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現7） 書く・読む・改稿する							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

一編の小説を書き上げたときのよろこびは、何にも替えがたいものだろう。担当講師も実作者の端くれとして、それはよくわかっているつもりである。けれど、そのよろこびをひととき噛みしめたあとで、自らにこんなふうに問いかけてみてはどうだろう。「手直しをしたら、さらによくなるんじゃないか？」。本演習では、学生諸君に小説の改稿を繰り返しやってもらう。テキスト（というより、徹底的に書き直されるための「元ネタ」のような存在）は、担当講師の掌編小説である。すでに一冊の書物に収められ、「確定」したかのような既存の小説も、じつは、さまざまな角度から改稿することでまったく別の相貌を見せる可能性を秘めている。視点を変えたり、場面に出てくる人物を一人増やしたり、エピソードを追加したり、登場人物のその後を想像したり……。10人の書き手がいれば、10通り（もしくはそれ以上）の可能性が広がる。それを肌で感じ取って、学生諸君自身の創作の、もしくは小説を読む際の糧にしてもらいたい。

授業の到達目標

既存の小説の改稿を通じて、小説を書くことや読むことへの理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出する小説や、学期内に課す数編の「改稿作品」の内容（詳細は授業計画の欄を参照）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「改稿作品」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%　　0

専門演習

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現8） 書く・読む・改稿する							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

一編の小説を書き上げたときのよろこびは、何にも替えがたいものだろう。担当講師も実作者の端くれとして、それはよくわかっているつもりである。けれど、そのよろこびをひととき噛みしめたあとで、自らにこんなふうに問いかけてみてはどうだろう。「手直しをしたら、さらによくなるんじゃないか？」。本演習では、学生諸君に小説の改稿を繰り返しやってもらう。テキスト（というより、徹底的に書き直されるための「元ネタ」のような存在）は、担当講師の掌編小説である。すでに一冊の書物に収められ、「確定」したかのような既存の小説も、じつは、さまざまな角度から改稿することでまったく別の相貌を見せる可能性を秘めている。視点を変えたり、場面に出てくる人物を一人増やしたり、エピソードを追加したり、登場人物のその後を想像したり……。10人の書き手がいれば、10通り（もしくはそれ以上）の可能性が広がる。それを肌で感じ取って、学生諸君自身の創作の、もしくは小説を読む際の糧にしてもらいたい。

授業の到達目標

既存の小説の改稿を通じて、小説を書くことや読むことへの理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出する小説や、学期内に課す数編の「改稿作品」の内容（詳細は授業計画の欄を参照）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「改稿作品」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現1） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代詩のboot camp。書く、書く、書く、書く。毎週（!!）作品を提出する。
ここでは読むより書く方を重視する。水曜日2時限の「短詩型文学論1」をとっておいてくれると話は早い。
自分に必要な詩を発見する力、読み解く力、疑う力、逸脱する力を養い、書いて発表し、朗読し、合評する。
基本は現代詩だが、俳句、短歌、その他短詩型創作も歓迎。逸脱する詩（のようなもの）はなんでも歓迎。最終的に詩誌「繭3」にまとめよう。
詩を書くというのは自分の解剖である。

授業の到達目標

自分の詩を発見し、書きまくることで自分を確認する。

成績評価方法

重視するのはまず、課題提出。その作品の質。出席。努力。合評への関わり方。朗読の度胸。外向的・内向的、しゃべるのが得意・苦手、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現2） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代詩のboot camp。書く、書く、書く、書く。毎週（!!）作品を提出する。
ここでは読むより書く方を重視する。水曜日2時限の「短詩型文学論1」をとっておいてくれると話は早い。
自分に必要な詩を発見する力、読み解く力、疑う力、逸脱する力を養い、書いて発表し、朗読し、合評する。
基本は現代詩だが、俳句、短歌、その他短詩型創作も歓迎。逸脱する詩（のようなもの）はなんでも歓迎。最終的に詩誌「繭4」にまとめよう。
詩を書くというのは自分の解剖である。

授業の到達目標

自分の詩を発見し、書きまくることで自分を確認する。

成績評価方法

重視するのはまず、課題提出。その作品の質。出席。努力。合評への関わり方。朗読の度胸。外向的・内向的、しゃべるのが得意・苦手、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（シナリオ表現1） 井上ひさしの『父と暮せば』を読みながら、横目でこうの史代の『この世界の片隅に』を見る							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

井上ひさし（1934—2010）は膨大な数の戯曲、小説を世に送り出してきましたが、そのなかでも明治から昭和にかけての日本の近代の問題は、彼の大きなテーマのひとつでした。この演習では井上ひさしの戯曲『父と暮せば』を精読します。1945年8月6日に広島で被爆した美津江とその父・竹造の姿を全編広島弁で描くこの戯曲は短い作品ですが、「劇場の機知」が詰め込まれた傑作です。

井上ひさしの戯曲は、笑いあり、涙ありの誰にでもわかる大衆演劇のノリで書かれているにもかかわらず、よく知られているように膨大な資料を徹底的に収集し、読みこなした上で、それらの事実を想像力で昇華し、戯曲を構築しています。「劇場の機知」はそのような結果として生まれてきます。『父と暮らせば』も例外ではありません。

井上ひさしが作品に散りばめた「劇場の機知」を丁寧に受け取り、その機知を2019年の世界にも応用してみたいと思います。また『父と暮せば』を立体的に理解するために舞台映像、こうの史代の『この世界の片隅に』にも触れる予定です。

授業の到達目標

この演習では、戯曲を読み込むこと、戯曲の中に仕掛けられた演劇という方法を仔細に観察すること、舞台映像を見ること、時代背景を知るためのドキュメンタリー映像を見ること、1945年8月の広島を知るためにこうの史代の『この世界の片隅に』に触れること、事実を調べあげることを通して、井上ひさしの偉業の一端に触れ、最終的には履修者ひとりひとりがあの「過去」に対して、自分の見方を作ることが目標と言えば目標となります。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　作品論。（ただし、5回以上欠席した受講者は評価の対象としない）
●**平常点**　30%　　演習内での発言、発表など。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2019年1月6日現在の〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（シナリオ表現2） ソーントン・ワイルダーの一幕劇『長いクリスマス・ディナー』の上演台本を翻訳する							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習ではアメリカの劇作家、ソーントン・ワイルダーの一幕劇、The Long Christmas Dinner を翻訳し、演劇として上演できる翻訳台本を作ります。この戯曲はすでに1970年代に翻訳が出版されていますが、その翻訳を参考にしながら、新たに2019年度に演劇として上演するとしたら、という設定で翻訳し直してみます。

ワイルダーは20世紀の前半に活躍した劇作家ですが、アメリカ演劇においては珍しく実験色の強い演劇を書き続けた人です。この『長いクリスマス・ディナー』が出版されたのは1931年ですが、具体的なセットを組んだ舞台が主流だったその当時としては異色の何もない舞台の上で上演され、さらにその内容は90年に及ぶベヤード家のクリスマスの様子を約30分の一幕劇に凝縮したという変わったものでした。

ワイルダーは終生、演劇とはどのような表現方法であるのかを考え、そのことを作品として書き続けてきた人ですから、この一幕劇を翻訳することで演劇という表現方法、「劇場の機知」「演劇知」により深く触れることになるでしょう。

演習は、あらかじめ決められた担当者が作ってきた翻訳台本を受講者全員でチェックするというやり方で進めて行きます。

授業の到達目標

戯曲の翻訳を通して、劇場の機知、演劇知に触れ、世界を見直せるようになることが目標と言えば目標になります。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　作品論、翻訳論。（ただし、5回以上欠席した受講者は評価の対象としない）
●**平常点**　50%　　演習内での発表、発言など。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2019年1月6日現在の〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現1） 英語で書かれた現代小説/エッセイを読み、翻訳する。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

英語で書かれた現代小説を精読する。毎回、指示された箇所を受講者全員が翻訳し、担当者の訳文について全員で議論する。

授業の到達目標

よりよい翻訳についての考察を深める。

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　発表者だけでなく、参加者全員が毎回、翻訳課題を行ない、積極的に発言することが求められる。
●**その他**　0%　　出席、課題への取り組み、発言を総合的に判断する。

備考・関連URL

秋学期の「翻訳表現2」を受講することが望ましい。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現2） 英語で書かれた現代小説/エッセイを読み、翻訳する。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

英語で書かれた小説とエッセイを精読する。毎回、指示された箇所を全員が翻訳し、担当者の訳文について全員で議論する。

授業の到達目標

よりよい翻訳についての考察を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　発表者だけでなく、参加者全員が毎回、翻訳課題を行ない、積極的に発言することが求められる。
●**その他**　0%　　出席、課題への取り組み、発言を総合的に判断する。

備考・関連URL

春学期の「翻訳表現1」を受講することが望ましい。ただし、義務ではない。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現3） 文芸翻訳について考える。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

翻訳者を主人公にした英語の小説の前半部を読む。翻訳という仕事はどのようなものか考えながら、この小説の翻訳も試みる。同時に、そこで取り上げられている他の作品について調べて、それらの作品も随時読んでいく。

授業の到達目標
文芸翻訳という行為についての理解を深める。
成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　学期末レポート
●**平常点**　70%　　発表者だけでなく、参加者全員が毎回、翻訳課題を行なってくること、積極的に発言することが求められる。
●**その他**　0%　　出席、課題への取り組み、発言、学期末レポートを総合的に判断する。
備考・関連URL
秋学期の「翻訳表現論4」を受講することが望ましい。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現4）　文芸翻訳について考える。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要
翻訳者を主人公にした英語の小説の後半部を読む。翻訳という仕事はどのようなものか考えながら、この小説の翻訳も試みる。同時に、そこで取り上げられている他の作品について調べて、それらの作品も随時読んでいく。
授業の到達目標
文芸翻訳という行為についての理解を深める。
成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　学期末レポート
●**平常点**　70%　　発表者だけでなく、参加者全員が毎回、翻訳課題を行なってくること、積極的に発言することが求められる。
●**その他**　0%　　出席、課題への取り組み、発言、学期末レポートを総合的に判断する。
備考・関連URL
春学期の「翻訳表現論3」を受講することが望ましい。ただし、義務ではない。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（近代からの日本の文学1）　近代日本の短篇小説							
担当者名	鳥羽　耕史							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要
様々な「仕事」を扱っている小説群であると同時に、近代日本の短篇小説の「名作」が集められている教科書を用い、小説の論じ方を学ぶ。作品を論じる際の参考文献の探し方や読み方、レジュメの作り方や発表方法も実習しながら学べるようにしたい。
授業の到達目標
先行研究を踏まえながら小説を読み、自分なりの考察を発表できるようになる。
成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　演習での発表と議論を踏まえた上で、自分なりの読解ができているか。
●**平常点**　30%　　講義や他の学生の発表を理解してコメントできているか。
●**その他**　0%

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（近代からの日本の文学2）　日本近現代文学に描かれた〈異界〉を読む							
担当者名	金子　亜由美							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
本演習では、『近代小説〈異界〉を読む』に収録された15篇の短編小説から履修者が任意に選択した作品について、自らの問題意識に基づいて調査・考察を行った結果を発表していただく。「〈異界〉を読む」とある通り、このアンソロジーに収録された作品は、いずれも、なんらかの〈異界〉＝非日常・非現実的な世界が描かれた、幻想小説であると考えられる。
幻想小説を書くことは、我々が「現実」と信じている日常的な世界を、言語によって組み替え、批判的に捉え返す営為である。「現実」と「幻想」は相互に排他的な関係にあるのではなく、「現実」の成立を可能にする条件を「幻想」が構成しているのであり、その意味で、「幻想」は「現実」にとって不可欠のものですらある。
本演習においても、作品内に描かれた〈異界〉を所与のものとして取り扱い、鑑賞するのに留まるのではなく、そのような〈異界〉が言語によってどのように組み上げられているのか、いわば〈異界〉を可能にする条件自体を分析し、考察するような発表を行っていただけることを期待する。そして、自らの問題意識に即して、作品を購読し、調査を行う過程で、日本近現代文学の研究を行うのに必要な基礎的な知識や方法論等を学んで欲しい。同時に、他者の問題意識に接することで、自他の視点の差異と重なりを踏まえ、自らの考察を更に深めていくような議論を行って欲しい。

【本演習で扱う予定の作品】
・泉鏡花「龍潭譚」
・永井荷風「狐」
・佐藤春夫「西班牙犬の家」
・芥川龍之介「奉教人の死」
・谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
・夢野久作「瓶詰の地獄」
・江戸川乱歩「押絵と旅する男」

・太宰治「魚服記」
・萩原朔太郎「猫町」
・岡本かの子「川」
・梶井基次郎「Kの昇天」
・井伏鱒二「へんろう宿」
・中島敦「狐憑」
・川端康成「水月」
・井上靖「補陀落渡海記」

授業の到達目標

作品を購読し、考察・調査することを通じて、日本近現代文学研究を行う上で必要となる基礎的知識・方法論等を理解する。

自らの問題意識を明確にし、それに基づいた考察を発表することで、発表資料の作成方法や、プレゼンテーションの作法を理解する。

質疑応答を適切に行うことで、学術的な議論のルールを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　50%　　演習での発表内容を元に、質疑応答の内容や教員・他履修者のコメントなどを参考にしつつ、自らの問題意識に即して作品を解釈しようとしているかという点を重視する。

●**平常点**　50%　　演習に主体的に参加しているかという点を重視する。つまり、自分の発表の回だけではなく、他履修者の発表の回にもきちんと参加し、その内容を理解した上で、質疑応答での発言やコメントシートによってアドバイスをすることができているかを評価する。

●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論1） 散文の方へ――島崎藤村『千曲川のスケッチ』精読（1）							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	―	―	―

授業概要

「同時代文学」とは何か。はたして現在刊行されつつある文学だけを意味するのか。100年以上前の散文を読みながら「同時代」を考える。また、詩人藤村がいかにして散文へと向かったのかを、精読によって追体験する。

授業の到達目標

全体を読むことと細部を読むことを両立させる。

成績評価方法

出席、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する

備考・関連URL

国立国会図書館デジタルコレクション　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/932898

専門演習

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論2） 散文の方へ――島崎藤村『千曲川のスケッチ』精読（2）							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	―	―	―

授業概要

「同時代文学」とは何か。はたして現在刊行されつつある文学だけを意味するのか。100年以上前の散文を読みながら「同時代」を考える。また、詩人藤村がいかにして散文へと向かったのかを、精読によって追体験する。

授業の到達目標

全体を読むことと、細部を読むことの両立。

成績評価方法

出席、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する。

備考・関連URL

国立国会図書館デジタルコレクション　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/932898

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論3） 正岡子規最晩年の随筆精読							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	―	―	―

授業概要

人は誰しも同時代のうちに身を置かざるを得ません。同時代のうちにあって同時代を見つめるというのが常道です。

しかしときに、強いられて同時代の「欄外」に身を置かざるを得ない者が現れます。病牀にあった正岡子規（1867-1902年）は、その最晩年の三代随筆（『墨汁一滴』『病牀六尺』『仰臥漫録』）最初の一篇『墨汁一滴』を、新聞『日本』紙上の「欄外文学」だといいます。

この自己規定が示しているのは、自己卑下などではありません。そこにあるのは、強いられて同時代の「欄外」に身を置く者が、新聞という同時代の中心的メディアに「欄外」から忍び込む、という力学です。20世紀のはじまりの年である1901年（明治34年）に書き起こされるこの特異な「同時代文学」に、現在時への単なる参加・没入とは異なる視座を学びながら、文語体と口語体の混淆する高密度な散文を、一語一語を大切に、超低速で読んでいきたいと思います。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

授業の到達目標

読むこと、調べること、書くことの基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。

●**平常点**　50%　　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

2019年度秋学期の「同時代文学論4」も併せての受講を推奨します。

また授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論4）　正岡子規最晩年の随筆精読							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人は誰しも同時代のうちに身を置かざるを得ません。同時代のうちにあって同時代を見つめるというのが常道です。

しかしときに、強いられて同時代の「欄外」に身を置かざるを得ない者が現れます。病牀にあった正岡子規（1867-1902年）は、その最晩年の三代随筆（『墨汁一滴』『病牀六尺』『仰臥漫録』）最初の一篇『墨汁一滴』を、新聞『日本』紙上の「欄外文学」だといいます。

この自己規定が示しているのは、自己卑下などではありません。そこにあるのは、強いられて同時代の「欄外」に身を置く者が、新聞という同時代の中心的メディアに「欄外」から忍び込む、という力学です。20世紀のはじまりの年である1901年（明治34年）に書き起こされるこの特異な「同時代文学」に、現在時への単なる参加・没入とは異なる視座を学びながら、文語体と口語体の混淆する高密度な散文を、一語一語を大切に、超低速で読んでいきたいと思います。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

授業の到達目標

読むこと、調べること、書くことの基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。

●**平常点**　50%　　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

2019年度春学期の「同時代文学論3」も併せての受講を推奨します。

授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸1）　言葉と身体							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

いまさら言うまでもないが、小説は、観念的思想内容や物語・ストーリーをたんに絵解きしたものではない。小説は言葉を媒介として登場人物とそれを取り巻く時間・空間を造形化・表象化したものにほかならない。そこでは視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚などあらゆる身体感覚が言葉によって表現されているのである。

そこで、この授業では、ラカンやメルロ＝ポンティ、リカルドゥーやバフチン、さらにグロスツ、ディディ＝ユベルマン、ストイキツァ、アガンベン、ドゥルーズをも参照しながら、小説における、このような言葉による身体表象の特性について多角的に考えてみたい。

小説における身体性や感覚の問題を考えるさいにきわめて重要なのは、言葉と身体表象のあいだにある決定的な齟齬であろう。ちょっと考えればすぐわかることだが、言葉は写真や映画のように視覚的イメージを直接伝えることはできないし、ダンスや音楽、料理、恋愛のように時間・空間・身体感覚を共有することも不可能だ。ロマン主義や19世紀リアリズムの作家にも直感されていたこのような言葉の不自由さ、不可能性を自覚的・戦略的にいかに逆転し、利用してゆくか――それが20世紀以降の小説の可能性と限界を決定づける最大の要因だったと言ってもよいだろう。

この授業では、こうした文学における言葉と身体の関係を、理論的テクストと小説テクストをもとに検討してゆく。

授業の到達目標

授業は、身体についてのさまざまな理論的テクストや小説作品を受講者に読んでもらい、それについて文章を書き発表してもらって、討議するかたちで進める。

理論や読解技術、文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

受講生には、週に最低1冊本を読んでもらい、学期中数度の文章執筆を課すので、読むことや書くこと自体が苦手な学生には向かない。登録のさいじゅうぶん注意すること。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（サウンド批評論） 音と音楽、そして書くこと							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	春学期	木曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

サウンドという語を用いることで、狭義の音楽ではなく、もっと広い意味で音・音楽を捉えようとする試み。

実際に書かれた音楽批評を読むこともあるでしょうが、それ以上に、音・音楽を聴いて、文章を書いてみることが多くなります。

音に対して距離をとり、音の表情をことばにする。

ですから、聞く・聴くことと書くこと、考えることを併行しておこなってもらいます。

授業の到達目標

音・音楽に、また、文章にある音・音楽の描写に敏感になること。

成績評価方法

●**試験**　30%　　あくまで「理解度の確認」です。
●**レポート**　30%　　ときどき教場で何かを書いてもらいます。それを「平常点」とともに勘案します。
●**平常点**　40%　　上記レポートとあわせての評価となります。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論1（イメージと批評）） ポール・ゴーギャンの絵画とその批評							
担当者名	北村　陽子							
文ジャ	２単位	春学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

宮川淳『ゴーギャン』（新潮美術文庫、1974年初版）を読みながら、ポール・ゴーギャンの絵画と、画家についての批評の問題を考える。ゴーギャン（1848 - 1903）は19世紀フランスを代表する画家のひとりであり、宮川淳（1933 - 1977）は日本で最もすぐれた美術史家・美術批評家である。

ゴーギャンの絵は、《説教の後の幻影》《黄色いキリスト》《われわれはどこから来るのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか》など、日本にも様々な形で紹介され、展覧会も開かれているので、目にした者も多いことだろう。国立西洋美術館（早稲田の学生は無料！）にも何点か所蔵されているので、ぜひ実物を見に行ってほしい。2017年から2018年にかけては、シカゴとパリで大規模なゴーギャン展が開催された。絵画だけでなく、陶芸、彫刻、版画、書物、室内装飾など、きわめて多岐にわたる制作が紹介された素晴らしい展覧会だった。

ゴーギャンといえばブルターニュとタヒチ、ゴッホの「耳切り事件」との関係など、いかにも《芸術家》らしい神話を提供してくれる物語に事欠かない。だがそれゆえ逆に、彼の絵画と思想を冷静に理解し批評することが難しくなってしまうところがある。宮川はそうしたロマンティックな解釈を極限まで排除し、ゴーギャンが制作のために選んだ場所、同時代の文化、主題、画面構成、色彩、美術史的な文脈に正統にのっとりながら作品を解釈し、同時にゴーギャンが残した文章を的確に引用しながら、この「画家にして文明批評家」の思想を批評している。ゴーギャンがしばしば作品の中に文字を描き込んでいる点に着目しているのも興味深い。

授業の到達目標

宮川の思考をたどりながらゴーギャンの作品を見ることで、この画家の作品を理解し、同時に絵画を批評することの困難について考える。

成績評価方法

発表、授業への参加度、レポートを総合的に勘案して評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論2（表象論）） テクストと沈黙							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	２単位	春学期	木曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

テクストに書いてあることから語りうることのみを語り、その他のことについては沈黙しなければならない――「テクスト論」と呼ばれるこの手法は、読むことの訓練として、確実に役立つ方法論である。批評として成立していない批評（印象批評）の大半は、作品に由来しない自分の考えや思い込みを作品に投影してしまい、そのことによって逆に、作品そのものを経験しそこなうことに由来しているからである。

本演習の前半5，6回をかけて、「テクスト論」の批評のうち、たとえば、形式主義（フォルマリスム）、主題論（テマティスム）、比喩論などのテクストを、数篇読んでゆく（具体的には、バルト、ジュネット、リカルドゥー、ヤコブソン、リシャール、ド・マン等）。テクストはひとまず担当者から提案するが、受講者から希望があれば、話し合いのうえ、随時取り入れてゆく。

演習の後半では、そうした批評テクストを受けて、受講者みずから作品読解に取り組む発表を行ってもらい、その後、討論をとおして議論を深めてゆく。発表に際して選ぶ作家、作品は基本的に自由である。

授業の到達目標

語らないこと／正確に語ることの美徳

成績評価方法

●**試験**　0%　　.
●**レポート**　30%　　学期末に2000字程度のレポート
●**平常点**　70%　　発表と、討論での発言内容

専門演習

●**その他**　0%　.

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論3（生成論）） 20世紀の小説を変えたフローベールとプルーストを読む							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

20世紀の小説を切り開いたのは、二つのフランス小説です。フローベールの『ボヴァリー夫人』とプルーストの『失われた時を求めて』です。この二作が、それぞれに小説の歴史に革命ともいえる変化をもたらしました。その二つがもたらしたものを見ていくことで、文学的創造に潜む構造と方法にふれ、小説の流れとその多様性を体験する。

授業の到達目標

二つの小説へのアプローチの仕方により、テクスト論の一端にふれる。

成績評価方法

●**試験**　50%　「達成度確認」の試験による
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　出席と授業対応による総合評価
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論4（相関論）） 小説を書く視点から読む							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

小説テクストを、書く視点から読む。扱う小説は、内外の二作。アルベール・カミュの『異邦人』と大岡昇平の『野火』である。ともに、物語の一つの中心とも言える「殺人」の場面にその特徴が集約的に出ている。冒頭から、二作を読んでゆき、そこで作者は何をどう書いたかを考える。また、内外の二つの小説を読み比べることで、文化・文学の多様性にふれ、小説創造の仕組みを学ぶ。

演習の特徴を生かし、質問を主にしながら授業を組み立ててゆく予定なので、その積りで指示された個所を事前に呼んで授業にのぞむこと。

授業の到達目標

小説を読むときに、その内容だけをみるのではなく書く方法を見抜くスキルを高める。

成績評価方法

●**試験**　50%　「達成度確認」の試験による
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　授業時の質問への対応や出席による総合評価
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文学のフィールドワーク（先端）） 日本の小説の今を読む							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本の小説は現在どのように書かれ、どのように読まれているのか――それをなるべくアクチュアルなかたちでとらえることがこの演習の最大の目的である。

文芸・ジャーナリズムの授業なので、ここでは、アカデミックな古典文学研究というよりも、むしろ小説や批評を実際に書きたい学生や、現代文学のナマの動きに関心を持つ学生を対象に、現代日本の小説、なかでも90年代以降の重要な作品を読んでもらい、それについてみずから文章を書き発表してもらう。

とりわけ注意を向けたいのは、現代の小説のなかで作家たちが今いったい何を表現しようと欲望し、またそれをどのような言葉で織り上げようとしているのか、その軌跡を緻密なテクストの読みのなかで具体的に追うことである。だから、受講生諸君には、同時代の作家たちが小説の言葉の細部をどのように組み立てているかを読み解く繊細で鋭い眼を養ってもらいたい。

授業の到達目標

授業は学生による文章の執筆、発表を中心におこなわれる。小説読解と文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」(?!) ことが到達目標である。

文章を読むこと、書くことは、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

受講生には、週に最低1冊本を読んでもらい、学期中数度の文章執筆を課すので、読むことや書くこと自体が苦手な学生には向かない。登録の際十分注意すること

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（エディター文学論1） 世界の同時代文学を、読み、論じ、書く。							
担当者名	和久田　頼男							
文ジャ	２単位	春学期	土曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

世界の同時代文学について論じましょう。

映画や演劇やTVなどで「実写化される原作」について、編集という観点から読みこむ授業です。また、ノベライゼーション（小説化）という文学のあり方について学んでもらいたいと思います。 戯曲や脚本やシナリオと、原作小説や原作漫画とを「比較文学研究」したい人にもおすすめです。

まずは、テキスト・マイニングと計量文献学の最新技術にふれながら、読者や観客を魅了する「秘密のDNA」にアプローチします。

そして、感情グラフに基づいたインフォグラフィックスの作成により、人気作における「時制のマネジメント」を身につけましょう。

学生による発表／ディスカッション／ディベート／ワークショップが軸となるため、①文学作品を深く読み込み、②自発的にディスカッションやディベートに参加することが求められます。また、③「動画」をノベライズする能力も必要となります。各種レポート、個人／グループ発表に加えて、ワークショップ（ノベライズなど）の課題提出もあります。

映画や演劇やTVなどの第一線で活躍しているゲスト講師によるレクチャーの場も設けるつもりですので、プロフェッショナルの流儀というものを知ることもできるでしょう。

授業での使用言語は日本語です。

授業の到達目標

世界の同時代文学作品を読みこみ、「時制のマネジメント」を身につける。

成績評価方法

20%レポート
20%発表
30%課題
30%出席・参加度

備考・関連ＵＲＬ

演習科目のため、授業計画は受講者の人数・水準・関心などに合わせて変動する可能性があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（エディター文学論2） 世界の「物語」の探究							
担当者名	和久田　頼男							
文ジャ	２単位	秋学期	土曜日	３時限	３年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

世界の「物語」について編集という観点から読みこみ、「物語力」を身につける授業です。 宗教や神話をはじめ、文学作品はもちろん、映画や演劇やTVのナラティブ、音楽のトラックメイクなどについて、編集という観点から、実践的に学んでもらいたいと思います。

NetflixやAmazon Primeなど同時代における物語のあり方や、音楽の「薬としての効能」などに関心がある人に。

学生による発表／ディスカッション／ディベート／ワークショップが軸となるため、①「物語」を深く読み込み、②自発的にディスカッションやディベートに参加することが求められます。また、③「動画」をノベライズする能力も必要となります。各種レポート、個人／グループ発表に加えて、ワークショップ（ノベライズなど）の課題提出もあります。

ワークショップの成果は、冊子として、期末にまとめます。

映画や演劇やTVや音楽などの第一線で活躍しているゲスト講師によるレクチャーの場も設けるつもりですので、プロフェッショナルの流儀というものを知ることもできるでしょう。

エディター文学論1の応用篇です。同時履修がのぞましいですが、エディター文学論2のみの受講も可とします。

授業の到達目標

世界の「物語」を探究し、「物語る」という能力を身につける。

成績評価方法

20%レポート
20%発表
30%課題
30%出席・参加度

備考・関連ＵＲＬ

演習科目のため、授業計画は受講者の人数・水準・関心などに合わせて変動する可能性があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集というメチエ） ジェンダー／セクシュアリティ、表象、暴力							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

暴力と表象の連関は根深い。表象すること、とりわけ暴力の表象には、様々な疑念や疑惑がつきまとい、その手法をめぐっても様々な葛藤が、欺瞞が生まれてきた。また、表象するという行為そのものに内在する暴力もあり、また、表象しないこと、隠蔽することの暴力もある。対象との距離をめぐる問題もある（近すぎる／遠すぎる、表象したと思っても対象が遠ざかる）。暴

力と非暴力の境界はどこにあるのか、というきわめて繊細な問題もある。
おそらくこうした問題に対しては、明白な誤答と言えるものはあるものの、はっきりした正解はない。それだけに、大きな問題となってきたのである。
本演習では表象と暴力に加え、さらにジェンダー／セクシュアリティを扱うことで、三重の問題としたい。この三つの主題のうち、少なくとも二つ以上を組み合わせながら――そしてその場合も、残りの主題にたえず目配せしつつ――、本演習を進行してゆくことにする。
この三つの問題をめぐって、まず参加者全員で理論的／批評的なテクストをいくつか読み、議論したうえで、そののちに受講者に発表してもらうこととする。
現在のところ、学期最初の3分の1から半分程度をテクストの読解に当て、そのあとの授業を受講者の発表に当てる予定である。
講読テクストは、担当者の方から提案したうえで、受講者からのさらなる提案や希望を募集し、相談のうえで随時決めてゆくこととする（現在、担当者の念頭にあるのは、ヴァージニア・ウルフ、ジュディス・バトラー、ミシェル・フーコー、岡真理といった人々のテクスト）。
各受講者の発表において、対象となる作家や作品は、基本的に発表者の自由とする。その発表を受けて、参加者全員で討議し、議論を深めてゆく。

授業の到達目標

表象／権力の絡まりを顕在化させるまなざしを獲得すること

成績評価方法

●**試験**　0%　　.
●**レポート**　40%　　学期末に2000字程度のレポート
●**平常点**　60%　　発表と、討論での発言内容
●**その他**　0%　　.

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践1） ZINEの製作を通じて〈本〉を見据える							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	２単位	秋学期	土曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

単行本、雑誌、同人誌といった出版物の洪水のなか、自分ひとりで一冊の〈本〉を作るという実践を経験する者は、決して多くはないと思います。本演習では、最小8頁の小冊子（ZINE）を自作してもらうことで、自身がやがて作るであろう一冊の〈本〉を製作するための視座を獲得することを目指します。
その際、冊子という物理的・空間的拘束、半期の授業という時間的拘束と、自分の知識・能力の限界との関係を常に考えるのみならず、自身がこれまで触れてきた〈本〉や、他の履修生の意見・企画・制作物とも向き合って、「ひとりで作る」ことにも必ず付随する、「他者との関わり」を意識することが求められます。こうした様々な拘束、影響と向き合うことが、必然的に「編集」の「実践」となるでしょう。
もちろん、小冊子（ZINE）は未だ〈本〉ではない、ということではありませんが、最小のかたちを生み出すことによって、履修者それぞれが〈本〉というものになくてはならないと考える最小限のもの（著者名、版元名、本文、ノンブル、「綴じ」などの有無）とは何かを見出だし、自身にとって、また他者にとって〈本〉とは何なのか、と問いかけ合う契機を得ることが課題となります。

授業の到達目標

自主制作を通じて、編集や執筆に必要な基礎と、ものを見る目を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　自作の小冊子の提出を求めるとともに、コメントシート程度のものを最小限として、製作を通じて自身が考えたことを言語化してもらうことになるかと思います。提出の要領については、教場にて詳細に指示します。
●**平常点**　50%　　出席とプレゼンはもちろんのこと、他の履修者へのアドバイスをはじめとして、授業参加への積極性を重視します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

「ひとりで作る」ことの自主性と、「他者との関わり」への積極性、そして課題提出の意志が大前提となる授業であることを念頭に置いて履修してください。なお、授業計画は履修者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践2） 雑誌をつくる							
担当者名	北原　美那　他／奥定　泰之							
文ジャ	２単位	秋学期	土曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

いかに問いを立て、情報を集め、整理し検め、ねらい通りに他者に伝えていくか。
「編集」という行為は、出版のなかでの実務作業という意味をこえて、情報社会に生きる個人にとって必須であり、すでに日々無意識下にもおこなっている重要な営みといえるでしょう。
出版の産業化のなかで職能として分化され可視化されてきたこの「編集」という行為は、複数の記事が混在し、さまざまな人間が関わりながら一冊の形にまとめられる「雑誌」という物理メディアについて考えるとき、よりその意義を顕在化させます。

この授業では、実際に雑誌を作る前提で、編集に関する基礎的な知識を学んでいきます。
20世紀後半に成熟をきわめた雑誌文化が、いかに与えられた条件や制約や欲望……複数のオーダーに応えながら成り立っているか、いくつかの雑誌を見ながら確認していきます。
さらに、企画や編集、執筆、制作進行、校正校閲、デザインといったセグメントが、どのような作業を行い、全体のなかでどのように機能しているか、共同作業による模擬特集の制作を通じて体得していきます。

雑誌文化に関心のある人はもちろん、他者とコミュニケーションを図りながらものを作る営みについて、実践を通じて考え、学びたい受講生を歓迎します。

授業の到達目標

企画、編集、ライティング、デザインーの初歩的な知識と経験を身につけること。雑誌の完成。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし。
●**レポート** 0%　なし。
●**平常点** 100%　クラス・グループへの貢献度や特集の完成度などを総合的に判断します。
●**その他** 0%　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（モノとしての書籍2）							
担当者名	奥定　泰之							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

書かれた言葉が本（モノ）になるということは、その程度はどうあれ、ある形態の影響を受けた言葉が、読み手に届けられるということです。モノの質感によって読みの質感も変わってしまう。この講義ではそのような「モノとしての書籍」の事例を、より具体的に確認、考察していきます。また、そのような着想で作られた実際の本や、それにまつわる技術なども紹介しつつ、本という読む装置をバラバラに分解してみます。本のデザインを入り口に、言葉が読まれること、物が見られることの自明さを解きほぐしていきます。

授業の到達目標

「モノとしての書籍」を形成するさまざまな要素（紙、書体、余白、レイアウトなど）の役割を正確に理解し、かつそれらを使うことにより、効果的な「モノとしての書籍」を考え、実際に自分で設計することができるようになります。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70%　講義最終日にレポートを提出
●**平常点** 30%　出席と課題発表
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

この講座では普段見ることのないようなさまざまな角度から本を見ていきます。また色々なテーマを決めて、実際に造本のプランを作ってもらいます。本を読むこと、書くこと、作ること、編集すること、印刷やデザインの好きな人はぜひ。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸3） 笑いと語りの文学							
担当者名	安部　達雄							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

（安部達雄）担当者は、漫才コンビ米粒写経のサンキュータツオの名前で芸人活動もしており、メディアまたライブなどのフィールドワークと、博士課程までの研究活動を並行して行ってきました。

前半の「笑いと文学」では、笑いとテキストの研究にまつわる諸問題を整理します。

「笑い」は身近なテーマでありながら、心理学、哲学、社会学、言語学などが横断的に乗り入れるテーマです。自分の身の回りで起こったこと、見かけたこと、読んだものなどといったものなどから、どこにおもしろみを見出したか発表してもらうことを通して、テキストの扱い方と、笑いの研究の諸問題を明らかにしていきます。ぬるい覚悟の方は来ないでください。エンタメではなくガチの授業です。

授業の到達目標

文献の講読とミニプレゼンを通じて、文学研究の対象として笑いや語りを取り扱う上での基礎的なルールを身につけ、批評・論考の執筆へと繋げる。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし。
●**レポート** 50%　（安部達雄）授業内容を踏まえ、笑いの資料を採集、分析例を2000字程度にまとめる。
●**平常点** 50%　（安部達雄）やる気ある人のみ。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

授業内容は履修者数や理解度に応じて一部変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸4） コラムの書き方							
担当者名	小田嶋　隆							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本講義では、単に平明で論理的な文章とは一線を画する、真に「自分らしい」文章を書くための基礎的な方法論を探求する。

管理教育が徹底され、QC思想が人事にまで及んでいる昨今、いわゆる「自分らしい」表現は、多くの場面で、単に悪文として忌避される傾向にある　しかしながら、本講では、適切な技巧に裏打ちされた魅力的な悪文をむしろ高く評価し、受講生が真に自分らしい文体を獲得することを最終的な目標とする。

それゆえ、授業では、小論文でも作文でもない「コラム」という刀で世界を自在に切り取るための具体的な手順をお伝えするつもりでいる。

授業の到達目標

個々の学生が自身のオリジナルの文体に到達し、その文体を駆使して文章を書き、ものを考えられるようになることを目指しています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　50%　　最終日に演習課題を提出
●**平常点**　50%　　出席状況とレビューシートの内容を評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

講師ブログ：http://takoashi.air-nifty.com/講師ツイッターアカウント：https://twitter.com/tako_ashi

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ライターという仕事1）							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ラジオは発信するものを自らの中に持っているのではない。番組を発信しているのはあくまでも放送局であり、ラジオは外から来た（目に見えない）電波をとらえ、それを音声に変換して我々に伝えてくれる、いわば中継の装置なのである。本演習では、「ライター」をラジオに重ね合わせて「中継者」と解釈する。自分の外にあるものを文章によって読者に伝えていくこと、それがライターの仕事なのである。よって、本演習では、自らの主張や思いを表現するライティングは取り扱わない。伝えるべきものは自分自身の外にある、というのが大前提で、それに従って講義や課題の内容も設定される。

担当講師は30年以上にわたってフリーライターをつづけてきた。フィクションを書く仕事が日常の中心になったいまも、「ライター的な仕事」は一定の割合でつづけているし、自分の書くフィクションは「創作」ではなく「中継」のほうが近いだろう、とも思っているし、なによりライターの仕事に、ひいては自分がライターであった／あることに、強い誇りを持っている。

そんな講師が担当する演習であるからには、とにもかくにも、受講する学生諸君にはたくさんの文章を書いてもらわなくてはならない。それもラジオで言うならチューナーの端から端まで、さまざまな文章に挑んでもらう。題材、スタイル、分量、与えられた時間、伝えるべき読者……制約は数多い。学生諸君がふだん使っていない筋肉も酷使することになるかもしれない。「理論」よりも「実戦」に重心を置いた演習になる。しかし、さまざまな文章をまずはとにかくひたすら書いてみることで、「書く」力のみならず、「読む」力、さらにはそんな（いくつもの声が響く）各種の文章を集めて編む「編集する」力をも鍛えることができる、と講師は信じている。それを踏まえて、受講されたい。

授業の到達目標

さまざまな題材やスタイルの文章を書くことで、「書く」「読む」「編集する」力を鍛えていく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出するレポートの内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「レポート」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸2）　メディアと短歌							
担当者名	東　直子							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現在、商業誌に掲載されているプロの作品や投稿歌など、各メディアに登場する短歌を中心に読み解き、創作の現状と言葉の深度を探る。

一方で、実作の演習を行い、批評をフィードバックする。

授業の到達目標

詩歌を中心とした現代の文芸に関する読解力及び創作力を高める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　30%　　最終課題の連作短歌
●**平常点**　70%　　授業への参加度　各課題
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（書物の経済学）							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

知識の源であり愉悦の泉である私たちの「書物」。けれども同時にそれは、価格がつけられ流通する「商品」であり、さまざまな原価やそれにかかわる人たちの労働価値の注ぎ込まれた「製品」でもあります。

「書く」ことと「読む」ことの狭間にある、書物の「製品／商品」としての側面を、書籍・雑誌など形態上の分類や、過去から現在への歴史、書物を構成する素材や執筆から広報などの人的コストに至るまで、様々な角度から追ってゆき、その構造を知るのがこの演習です。

授業の到達目標

「製品／商品としての書物」を理解し、そこから逆算して書物を書き／読むことにもういちど辿り着ける俯瞰的な視野を身に

つける。

成績評価方法

発表やレジュメ・ディスカッションへの参加度合や発言内容、レポートなど。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ジャーナリズム論1） クリエイティビティを巡って							
担当者名	津田　大介							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

出版、新聞、テレビ、ラジオ、その他コンテンツビジネスの現場でどのように記事やコンテンツが作られているのか、伝えるために考慮すべき要素とは何か。クリエイティブの現場に携わる一流クリエイターを毎回ゲストスピーカーとして招いて幅広く議論を行い、コンテンツ制作やジャーナリズムを多角的に捉えられるようにする。春学期は記者やクリエイターを中心にゲストを招いて授業を行う。

毎回講義前にゲストスピーカーの著書や作品などを事前に十分予習することを課題とし、講義ではゲストスピーカーにそれぞれが「インタビュー」をする形式で行う。講義後、インタビューを踏まえたミニレポートを翌週の講義までに提出する必要あり。規定回数以上ミニレポートを提出しない場合、単位は与えられないので注意。インタビューの質問内容や積極性も評価につながるため、やる気のある学生のみ受講すること。

授業の到達目標

取材相手の作品や記事を読み込み、適切なインタビューできるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　毎回ゲストスピーカーの講義やインタビュー内容を踏まえたレポートを翌週の講義までに提出（全13回）。
●**平常点**　50%　　ゲストスピーカーへの質問回数や内容、グループディスカッションの発表を総合的に判断する
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業後、ゲストとアフタートークの機会を設ける場合がある。

※履修の参考としてこれまでの同講義ゲスト講師陣を以下に示す。
＜2017年度＞
・初沢亜利（写真家）　・安部敏樹（社会起業家、一般社団法人リディラバ代表理事／マグロ漁師）　・西谷雷佐（たびすけ合同会社西谷代表）　・塩倉裕（朝日新聞編集委員）　・古川英気（テレビ朝日プロデューサー）　・市川真人（文芸評論家、早稲田大学文学学術院准教授）　・山嵜一也（山嵜一也建築設計事務所代表／建築家）　・宮武久佳（ジャーナリスト、東京理科大学大学院イノベーション研究科教授、元共同通信記者）　・藤えりか（朝日新聞「GLOBE」記者）　・小寺信良（AV機器評論家／コラムニスト）　・田中幹人（早稲田大学政治経済学術院ジャーナリズムコース准教授）　・中川淳一郎（PRプランナー／編集者）

＜2018年度＞
・中川淳一郎（PRプランナー／編集者）　・大山卓也（編集者、株式会社ナターシャ創業者）　・竹下隆一郎（ハフィントンポスト日本版 編集長）　・佐久間裕美子（NY在住ライター）　・小松洋介（特定非営利活動法人アスヘノキボウ代表理事）　・里咲りさ（ソロアイドル、シンガーソングライター、レーベル&個人事務所代表）　・安部敏樹（一般社団法人リディラバ代表理事、マグロ漁師）　・柳瀬博一（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授、編集者）　・藤村はるなさん（ライター）　・竹熊健太郎さん（編集者、多摩美術大学非常勤講師）　・岡映里（作家）　・長嶋りかこさん（グラフィックデザイナー）　・でんすけのかいぬし（書店員）

専門演習

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ジャーナリズム論2） 編集・プロデュースの極意							
担当者名	津田　大介							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

出版、新聞、テレビ、ラジオ、その他コンテンツビジネスの現場でどのように記事やコンテンツが作られているのか、伝えるために考慮すべき要素とは何か。クリエイティブの現場に携わる一流クリエイターを毎回ゲストスピーカーとして招いて幅広く議論を行い、コンテンツ制作やジャーナリズムを多角的に捉えられるようにする。秋学期は編集者やプロデューサーを中心にゲストを招いて授業を行う。

毎回講義前にゲストスピーカーの著書や作品などを事前に十分予習することを課題とし、講義ではゲストスピーカーにそれぞれが「インタビュー」をする形式で行う。講義後、インタビューを踏まえたミニレポートを翌週の講義までに提出する必要あり。規定回数以上ミニレポートを提出しない場合、単位は与えられないので注意。インタビューの質問内容や積極性も評価につながるため、やる気のある学生のみ受講すること。

授業の到達目標

取材相手の作品や記事を読み込み、適切なインタビューできるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　毎回ゲストスピーカーの講義やインタビュー内容を踏まえたレポートを翌週の講義までに提出（全13回）。
●**平常点**　50%　　ゲストスピーカーへの質問回数や内容、グループディスカッションの発表を総合的に判断する
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業後、ゲストとアフタートークの機会を設ける場合がある。

※履修の参考としてこれまでの同講義ゲスト講師陣を以下に示す。
＜2017年度＞
・小寺信良（AV機器評論家／コラムニスト） ・速水健朗（ライター、編集者） ・亀松太郎（ジャーナリスト） ・初沢亜利（写真家） ・瀬尾傑（講談社第一事業広告部長） ・加賀谷友典（プランナー） ・野口理香（編集者） ・仲俣暁生（編集者、文芸評論家） ・河野通和（編集者、「ほぼ日の学校」学校長） ・軍地彩弓（編集者、Numero TOKYO エディトリアル・ディレクター） ・森山裕之（編集者、STAND! BOOKS代表） ・浅井茉莉子（編集者） ・猪谷千香（ジャーナリスト、作家）

＜2018年度＞
・渋谷和宏（経済ジャーナリスト、作家、編集者） ・安田菜津紀（フォトジャーナリスト） ・中村文則（作家） ・武田俊（編集者） ・前田豊（デザイナー、氏デザイン代表取締役） ・田原総一朗（ジャーナリスト） ・亀松太郎（DANRO編集長） ・川内有緒（ノンフィクション作家） ・小田嶋隆（コラムニスト） ・福嶋麻衣子（音楽プロデューサー） ・北川悦吏子（脚本家、映画監督）

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践3） フィールドスタディで編集を学ぶ							
担当者名	津田　大介							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

報道、雑誌、文芸、編集の現場やノウハウを紹介し、実践的な取材にまつわるコミュニケーションスキルと、原稿の書き方を身につけることを目的とする。

演習では最初に具体的な取材のやり方と原稿の書き方を学び、次の段階で日本が抱える社会課題、地域振興にスポットを当て、創造的な課題解決や地域振興を行っている事例を紹介する。

座学で一方的に授業を聴くだけでは、社会に出たあとの実践的な応用力は身につかないため、この授業ではアクティブラーニングの手法を用いたフィールドスタディを学期中2回行う（フィールドスタディへの参加は必須。詳細は備考を参照のこと）。

授業は参加型で実施する。教わるだけでなく、自分で問題を調べ、当事者にインタビューを行って得た情報を学生同士で共有し、ディスカッションすることを目的としているので、積極的な参加を前提とする。

授業の到達目標

自らの力で興味のある事象に対してさまざまな方法で調べ、調べた結果を論理的な文章にできるようにする。インタビューや取材などを行い、ルポルタージュを執筆、あるいはガイドブックをまとめられる編集スキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　6月末と学期末にフィールドスタディのルポルタージュあるいは紀行文をレポートとして提出
●**平常点**　50%　　授業のディスカッションやフィールドスタディへの積極的参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

●フィールドスタディについて
5/17（金）～19（日）「いわき万本桜」（福島県いわき市）
8/2（金）～4（日）「あいちトリエンナーレ」（愛知県名古屋市・豊田市）

上記日程で現地を訪問する。これらに参加できる人のみ履修登録できる。社会課題解決と地域振興を独自の手法で行っているこれらの地域を取材し、現地の作業を手伝うことで社会への視野を広げる。

●参加費用について
「いわき万本桜」の参加費は1万円程度。交通費は5000円（高速バス利用）～7000円（JR利用）前後。
「大地の芸術祭」の参加費は1万5000円程度。交通費は2500円（高速バス利用）～1万1000円（新幹線・JR利用）前後

※2つのフィールドスタディ参加は演習の単位取得には必須だが、なんらかの事情で1つしか参加できないながら本演習を履修したい場合は、ガイダンス時に相談すること。事情に応じて検討する。5/17（金）、5/18（土）にほかの授業を履修している場合の対応は応相談。2つとも参加できない場合は履修・単位取得不可とする。

※フィールドスタディのみ「現代文芸講義5」との合同授業とする。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践4） フィールドスタディで編集を学ぶ							
担当者名	津田　大介							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

報道、雑誌、文芸、編集の現場やノウハウを紹介し、実践的な取材にまつわるコミュニケーションスキルと、原稿の書き方を身につけることを目的とする。

演習では最初に具体的な取材のやり方と原稿の書き方を学び、次の段階で日本が抱える社会課題、地域振興にスポットを当て、

創造的な課題解決や地域振興を行っている事例を紹介する。

座学で一方的に授業を聴くだけでは、社会に出たあとの実践的な応用力は身につかないため、この授業ではアクティブラーニングの手法を用いたフィールドスタディを学期中2回行う（フィールドスタディへの参加は必須。詳細は備考を参照のこと）。

授業は参加型で実施する。教わるだけでなく、自分で問題を調べ、当事者にインタビューを行って得た情報を学生同士で共有し、ディスカッションすることを目的としているので、積極的な参加を前提とする。

授業の到達目標

自らの力で興味のある事象に対してさまざまな方法で調べ、調べた結果を論理的な文章にできるようにする。インタビューや取材などを行い、ルポルタージュを執筆、あるいはガイドブックをまとめられる編集スキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　11月末と学期末にフィールドスタディのルポルタージュあるいは紀行文をレポートとして提出
●**平常点**　50%　　授業のディスカッションやフィールドスタディへの積極的参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

●フィールドスタディについて
10/25（金）～27（日）「阿蘇」（熊本県南阿蘇村）
12/12（木）～15（日）「沖縄」（沖縄県沖縄本島）

上記日程で現地を訪問する。これらに参加できる人のみ履修登録できる。社会課題解決と地域振興を独自の手法で行っているこれらの地域を取材し、現地の作業を手伝うことで社会への視野を広げる。

●参加費用について
「阿蘇」の参加費は2万円程度。交通費は2万円（LCC利用）～5万円（JAL/ANA利用）前後。
「沖縄」の参加費は3万円程度。交通費は2万円（LCC利用）～5万円（JAL/ANA利用）前後

※2つのフィールドスタディ参加は演習の単位取得には必須だが、なんらかの事情で1つしか参加できないながら本演習を履修したい場合は、ガイダンス時に相談すること。事情に応じて検討する。10/25（金）、10/26（土）、12/12（木）、12/13（金）、12/14（土）にほかの授業を履修している場合の対応は応相談。2つとも参加できない場合は履修・単位取得不可とする。

※フィールドスタディのみ「現代文芸講義6」との合同授業とする。

専門演習

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（21世紀と文学の古典1）　エーリッヒ・アウエルバッハのダンテ論を読む							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

20世紀を代表する文献学者・比較文学研究者エーリッヒ・アウエルバッハのダンテ論を、『世俗詩人ダンテ』からはじめて読んでいきます。

アウエルバッハのダンテ論は、ダンテの作品に鏤められたアレゴリーを解読していくのではなく、その言語表現・修辞に密着した、のちの主著『ミメーシス』に繋がるもので、ダンテという西洋古典の大物を読む杖であるだけでなく、文学テクストを読む際に必須の、言語に即した読みの実践の好例です。これを精読していくことで、読みの「解像度」を高めることを目指します。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

外国語の知識は必要としませんが、しばしば原文併記で様々な作品が引用されます。そのため、言語を含めた「未知」への興味を持つ履修者を歓迎します。

授業の到達目標

単なる教養やネタ帳として古典を消費するのではなく、みずからの現在時からより大きな時空間へ出ていくための杖として、古典を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。
●**平常点**　50%　　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（21世紀と文学の古典2） サミュエル・フラーの映画							
担当者名	北村　陽子							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

ハリウッド50年代を代表する監督、サミュエル・フラー（1912 - 1997）の映画を取り上げる。

『サミュエル・フラー自伝 わたしはいかに書き、闘い、映画をつくってきたか』の帯には、黒沢清のこのような言葉がある。「史上もっとも過激なアクション映画と、もっとも前衛的な西部劇と、もっとも偉大な戦争映画を撮ったサミュエル・フラー。悔しいが、この男こそ映画そのものだと認めよう。」フラーの作品はこの言葉に的確に要約される。「もっとも過激なアクション映画」とは、『東京暗黒街・竹の家』。「もっとも前衛的な西部劇」とは、『四十挺の拳銃』。「もっとも偉大な戦争映画」とは、『最前線物語』だろうか。ゴダールの『気狂いピエロ』に出演したフラー自身が言う、伝説的なセリフも忘れるわけにはいかない。「映画は戦場のようなものだ。愛、憎悪、アクション、暴力、死。一言でいえばエモーションだ。」彼が映画を「戦場」に例えるのは自明の理由がある。映画監督になる前のフラーは犯罪事件記者だったが、第二次大戦が始まると歩兵として従軍、ノルマンディー上陸からヨーロッパを転戦するという体験をしている。強制収容所の解放に立ち会い、その光景を映像に記録してもいる。

自慢してしまうが、私は80年代にフランスで出版されたフラーのインタビュー集を訳したことで、当時パリに住んでいたフラーと何度も会う機会があった。（本当にカッコいい人なので、ぜひ調べて見てください。）東京で「フラー映画祭」が開かれ、彼が来日したときはお手伝いをした。フラーは俳優として、ゴダール以外にもスピルバーグ、ヴェンダース、ジャームッシュ、ミカ&アキ・カウリスマキの映画に出演しているが、なぜ錚々たる監督たちがフラーに出演してもらいたくなるのか、本人に一目会えばよくわかる。（いや、会う前にもよくわかっていたが。）フラーの映画は、ただの娯楽でありながら映画狂の映画であり、倫理的なジャーナリズムでありながら、時には実にいい加減なので笑ってしまう。それは彼の風貌と声そのものだ。上記の自伝とインタビュー集、さらに、フラーは小説も書いているので、映画だけでなく彼の言葉を聞いて、読んでほしい。

授業の到達目標

トリュフォーはフラーの映画を「調教」と言ったが、たしかに、「教育」よりも「調教」の方が正直で誠実なことがある。映画を見ながらそんなことを考える機会もあってよいだろう。

成績評価方法

授業への取り組み、発表、レポートなどを総合して評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（思想と文学1） 資本主義の〈その先〉はあるのか							
担当者名	大澤　真幸							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

一見、個人的な問題に見えることでも、本質的で深刻な問題はほとんど社会そのものの基本的な構造に根ざしている。したがって、社会を変えることができなければ、問題を解決することはできない。社会はどのようにして変わるのか。社会をどのように変えるのか。

特に、今年度は、資本主義は人類にとって最後の選択肢なのか、それ以外の社会システムは構想できるのか、あるいは資本主義の「よい所」だけを取って、その根本的な「欠陥」だけを取り除いたシステムはありうるのか、という問いを念頭におきながら、探究する。

毎回、誰か一名が指定されているテキストの内容を紹介し、それをもとに全員で討論する。報告者以外の参加者もテキストを読んでおくこと。大部な著作の場合には、どこか適当な部分や章を抜き取り、そこを中心に議論する。

授業の到達目標

何ごとかがうまくいかなかったとき、生きづらさを感じたとき、何が真の問題なのか、どこに問題の究極の原因があるのか。こうしたことを、哲学や社会学の理論や概念を用いて深く正確に洞察することができるようにする。

さらに、そうした洞察を前提にしたとき、どのような社会を構想すべきなのか、あるいは構想できるのか。社会についての大胆で斬新な想像力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は特に行わない。以下のレポートが試験の代わりになる。
●**レポート**　50%　　①自分自身が発表に使用したレジュメ等の資料を発表後にヴァージョンアップしたもの。 ②授業で読んだテクストについて、それぞれ、1000字程度のレヴュー。
●**平常点**　50%　　普段の演習での討論にどのように生産的な貢献ができたか。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（思想と文学2） オーシプ・マンデリシターム『言葉と文化』を読む							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	２単位	秋学期	水曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

20世紀ロシアを代表する詩人オーシプ・マンデリシターム（1891-1938年）の批評的散文を、主として詳細な注釈の付いた邦訳『言葉と文化』（水声社、1999年）で読んでいきます。

マンデリシタームの散文はその詩に劣らず難解ですが、同時代の文学のみならず古今の文学的古典と呼びかわしながら、読む者を大きな時空間へと連れ出し、世界と出会わせてくれる稀有なものです。その難解さを誤魔化し、わかるところだけを繋ぎ合わせていくのが精一杯ですが、本演習ではむしろ、「ここがわからない」という点の抽出を積極的に行なっていけたらと考えています。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

ロシア語の知識は必要とせず、論じられている作家や時代背景などについては上記の通り適宜補足していきますが、言語を含めた「未知」への興味を持つ履修者を歓迎します。

授業の到達目標
理解に努めることと、理解できていないものの認識との両立。

成績評価方法
●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。
●**平常点** 50%　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL
授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（横断文学論）「サド」をめぐる冒険							
担当者名	森井　良							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要
サド侯爵を知っていますか？（阿刀田高風に）

名前ぐらいは聞いたことがあるでしょう。言わずと知れた「SM」の「S」、すなわち「サディズム（嗜虐症、加虐聖愛）」の語源となった十八世紀フランスの作家です。由緒ある貴族の家柄に生まれながら、自らの「変態」の本性を隠さず、生涯の大半を「狂人」として監獄や精神病院で過ごすはめに陥りつつも、タブーなき「作家」としての活動を執念くつづけたマルキ・ド・サド――『ジュスティーヌあるいは美徳の不幸』『ジュリエットあるいは悪徳の栄え』『ソドム百二十日』といった彼の作品には、人間の「内なる地獄」を容赦なく引き写した黙示録的世界がこれでもかと繰り広げられています。
とかく「エロ作家」と見なされがちなサドですが、彼が我々の生きる「現代」に与えたインパクトはことのほか大きい。それは単なる「サディズムle sadisme」という意味を超えた「サド的なるものle sadien」の布置にかかわる問題であり、とりもなおさず、我々はサドをどのように捉えてきたかという本質的な問いにつながってきます。

本授業では、そういった「サド的なるもの」のゆくえを、時代や地域だけでなく、様々な領域をも横断しながら追いかけていきたいと思います。サド受容の変遷と言ってもいいかもしれませんが、このテーマは決して過去の話で終わるものではなく、二十一世紀の現在にまでつながるものとしてあるでしょう――さぁ、あなたはサドとどう向き合いますか？

以下のスケジュールはあくまでテーマの関連で扱うであろうトピックを並べただけで、このとおり進むかどうか、本当にやるかどうかはわかりません。正直、担当者は「横断文学論」というのが何なのかもよくわかってない。ただ是が非でもやりたいのは、パゾリーニ『ソドムの市』の鑑賞と分析。そして受講生のみなさんの発表（希望者のみ）と議論の場は最後に確保したいと思っています。文ジャ演習、R18指定、六限＝「闇」の時間……あぁ、お察し！どうかお含みおきを。

専門演習

授業の到達目標
「サド」が惹起する様々な主題を通時的かつ共時的に把握する。「サド」をどう捉えるかという問題を自らに引きつけて考えながら、受講者各自が「サド的なるもの」のゆくえを見定めていってほしい。なにより「サド」という安易な共感を超えた経験をとおして、「他者」や「世界」への向き合い方を鍛えてもらえればと思います。

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 70%　授業で扱ったテーマやトピックを発展させたレポートあるいは口頭発表。口頭発表を選んだ学生はその内容を評価対象とし、レポートを免除する。
●**平常点** 30%　出席点、コメントカードなど。
●**その他** 0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（比較翻訳論） 文芸翻訳を精読する。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要
すぐれた文芸翻訳を精読し、ときに原文と付き合わせながら、どのような点に工夫が凝らされているかを分析する。
以下の二つの翻訳書を比較しながら精読する。
J.D.サリンジャー『キャッチャー・イン・ザ・ライ』村上春樹訳、白水社。
J.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』野崎孝訳、白水社。

授業の到達目標
翻訳者の技術的な工夫を理解できるようになること。

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 30%　期末レポート。
●**平常点** 70%　自分が出席・発表するのはもちろんのこと、他履修者の発表に対するアドバイスができているかどうかも重視する。
●**その他** 0%　出席、発言、期末レポートを総合的に判断する。

科 目 名	現代人間論系演習（宗教と共同体） 神秘思想を読む							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、神秘的思索（宗教、哲学、スピリチュアリティ）にかかわるテクストを選び、それらを精読する。主なテーマとして、20世紀にスイス、マッジョーレ湖のほとりアスコナで開催された神秘主義の国際学術シンポジウムであるエラノス会議を枠組みとして設定し、それに関連する人物（アンリ・コルバン、ゲルショム・ショーレム、ミルチア・エリアーデ、井筒俊彦など）のテクストを題材とする予定である。そのため演習で取り扱う可能性のあるテーマとしては、宗教学、神秘思想、神話学、哲学と幅広い。

本演習においては、初回に提示したテクストのなかから参加者が選び、それらをまとめ発表した上で議論するというスタイルを採る予定である。参加者の選択によって、実際に読まれるテクストにはある程度ばらつきが出ることが予想されるが、人文科学とはおよそ人間の生（活動・思索・実践）すべてを包括するものであると考え、自分の興味関心の幅を広げていって欲しい。

授業の到達目標

・神秘思想の大要を掴む。
・実際のテクストを精読することにより、テクストを読み読解する能力を身に着ける。
・テクストを出発点として、幅広い知識にアクセスする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表および議論への参加。（備考参照）
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習ではテクスト読解をおこなうため、各回で担当者を選び、その担当者による発表をもとに授業を進めてゆく。受講人数によっては発表の担当がない学生も出てくるため、発表を行わない場合は任意でレポートを執筆すること。発表の上レポートを執筆することはとくに問題ない。

発表は以下の様式にて行う。

1.　要約：検討するテクストの内容を箇条書きでまとめ、全体像を明らかにする。
2.　解説：テクストで取り扱われている内容を、外部資料などを参考にして解説する。
3.　考察：上記の作業をおこなった後に、発表者自身の考察を述べる。

科 目 名	現代人間論系演習（宗教と言語）							
担当者名	吉村　均							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

私たちは、異なる価値観がぶつかり合い、対立が生じ、対話が求められる世界に生きている。

宗教と言語の関係は、宗教によって大きく異なる。「神は言葉と共にありき」（ヨハネによる福音書）という宗教もあれば、さとりの境地を言葉であらわすことはできない、教えの言葉は「月を指す指」、向こう岸に渡るための「筏」でしかない（仏典）と説く宗教もある。

それは正しさ、善さとは何か、どうやってそれを知りうるか、という問題とも関わる。

この授業は演習であるので、今年度はこのような問題意識をもちつつ、ダライラマ『思いやりのある生活』を読んでいく。これは、仏教の実践を心の訓練として捉える伝統を、西洋人に対して紹介したもので、ダライラマは西洋社会では、仏教を代表する存在と見なされている。

授業の到達目標

宗教による言語観の違いについて理解を得る。
仏教の実践についての基本知識を得る。

成績評価方法

演習であるので、出席・参加の度合いが成績評価に反映される。成績評価の30～40パーセント

授業時間中の発表、あるいは（履修人数にもよるが）授業の終わりにおけるレポートを義務付ける。成績評価の50パーセント

授業中にアンケートや小テストを実施して、それを平常点として、成績評価に反映させることがある。成績評価の0～10パーセント

科 目 名	現代人間論系演習（現代人のアイデンティティーの心理） 就職活動を考える							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代を生きる人々にとって、アイデンティティの達成はひとつの大きな目標となっている。大学生諸君にとって，もっとも身近なアイデンティティ達成に繋がる行動のひとつは「就職活動」であろう。この授業では，近年出版された「就職活動」に関連する3冊の新書を講読しながら，現代を生きる人々，特に大学生におけるアイデンティティの意味を探ることを目的としている。3冊の講読を通して，今という時代に職に就く意味を俯瞰して眺め，自分自身のアイデンティティについて考えてもらいたい。

授業では，受講生を複数のグループに分け（4～6グループ），各書籍につき1回（計3回）の発表を行う。各発表においてディスカッションテーマを定め，残りの時間でディスカッションを行う。その内容に基づき，授業後に小レポートを提出する。

授業の到達目標

現代社会におけるアイデンティティの様相ついて知識を深め、自分なりの考えを持つことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない

●**レポート**　50%　　毎回の小レポートを評価の対象とする。ディスカッションテーマにそって適切に考察がなされているかを評価する。

●**平常点**　50%　　授業への参加，発表内容、ディスカッションへの参加の度合いを総合的に評価する。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（セクシュアリティ研究の実践）　皮膚に関すること							
担当者名	草野　慶子							
人間	２単位	秋学期	月曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「セクシュアリティ」の概念を広くとって、いえ広すぎるくらいにとって、この演習では、「皮膚に関すること」をとりあげます。

セクシュアリティという概念を立ち上げるにあたって、性的欲望、性的事象と深く本質的にかかわる「皮膚」は、重要な考察の糸口となります。

皮膚の思考、皮膚の文化、皮膚の快楽、皮膚と自我　などのテーマに即し、さらに具体的には、

恋愛、生殖行為、性的快楽にかかわる皮膚、

あるいは皮膚の自己表現、たとえばメイクやタトゥーなど、

またあるいは自己と他者の境界となり、世界における自己の位置を定める皮膚、よって快・不快の感覚の最大のよりどころとなり、ときに自我の不安を思いもよらないかたちで表出する皮膚について（私はいやなことがあるとすぐに湿疹が出ます……）

いくつかの短い文献を読んだり、あるいはリサーチをしていただくことによって、考えていきます。

担当者の専門が文学なので、文学・芸術における皮膚感覚の表現をとりあげることが多くなるはずですが、理系の研究者の文章なども、少し読んでみる予定です。

授業の到達目標

上記「授業概要」に記した諸点について、演習という場を通してお互いの関心領域が広がり、多層化し、豊かに展開すること」を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　0%　　実施しません。

●**平常点**　100%　　1）出席状況　2）授業中の発表への評価。十全に準備されているか。オリジナリティはあるか。　＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、コースナビにアップロードしていただき、評価の対象とします。　3）授業中のディスカッションへの参加への評価。十分に積極的であるかどうか。

●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

レベル的には、けっして難しくはありませんが、えらく簡単でもない、といった程度にするつもりですので、

それでもなお「自信ない」という方で、だけども草野の演習に興味なくもないなあ、という方は、同じ秋期月曜の「生の詩学／生の解釈」を履修してみてください。ただし1限。

まあだいじょうぶなんですけども。ふつうにまじめにやっていさえすれば。

なお、「授業計画」はあくまで仮のものです。受講者数によって変更の可能性が大いにあります。

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（ジェンダー研究の実践）　現代日本社会におけるジェンダー表象の観察　～身の回りにツッコミを入れまくってみる～							
担当者名	中島　万紀子							
人間	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

広告をなにげなく見ていて、エプロンをした女性が男性もののワイシャツを洗って干している写真について何か考えたり、カードローンの広告はなぜ中年男性と若い女性の組み合わせなんだろうと考えたりしたことがある人にはぜひ来てほしいし、そうでない人にもぜひ来てほしい。

毎回担当者を決めて、発表をしてもらおうと考えている。さらに、それについて皆で話し合えればまことに幸甚である。

テーマはジェンダーに関することであれば自由だが、多少こちらからヒントやネタの提供はしようと考えている。

授業計画のところに、わたし自身が興味を持っている題材を書いておくことにする。

授業の到達目標

ジェンダーに関することに限らず、世の中のさまざまな表象に接したときに、客観的に分析できるようになると単純に面白いし、今後の人生を送っていくうえで自分たちにとってより住みよい社会（というか、もはやここまでくると、さらに住みにくい社会にならないよう防ぐ、と言ったほうが妥当だが）を作っていくヒントも得られるのではないかと考えている。自分の身を守ることにつながる観察力と、考察のための材料の集めかたを身につけられるようになる…といいな。

成績評価方法

発表55%、出席＋レビューシート提出を1回3点満点として45%とする。

科 目 名	現代人間論系演習（性的欲望・性的快楽を考える）							
担当者名	堀江　有里							
人間	２単位	春学期	水曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちの社会には性をめぐる規範が存在する。性をめぐる欲望や快楽にも、〈正常〉なものを確定するために時代や文化のなかで〈異常〉や〈逸脱〉というカテゴリーが生み出されてきた。プライベートな領域に属すると考えられることの多い性の領域の諸現象をめぐって、たえずこのような峻別（線引き）が繰り返されてきた歴史をみると、その背景には政治的な状況が存

在していることがわかりる。本演習では、テクストの精読をとおして、性的欲望・性的快楽についての事例や現象を取り上げ、フェミニズムやクィア理論の視点から考察する。

授業の到達目標

・性的な欲望や快楽が時代や文化のなかで政治的な背景をもっていることを知る。
・〈異常／正常〉、〈私的領域／公的領域〉など二元論で語られる性的欲望・性的快楽を学問的に理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　演習科目のため、学期末試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　期末レポート
●**平常点**　50%　　グループ発表への貢献度、授業への貢献度や参加度合いなどを含めて総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（愛の技法）							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人々は平等に処遇すべきであり、合理的な理由なしにその扱いに差を設けてはならない、との原則にもとづく近代社会において、理由なしに他者の選別をよしとするのが性愛に基づく関係である。

この特異な「例外規定」のメカニズムを様々な社会的現実に着目しつつ検討することによって、近代社会を支えるもう一つの隠れた基本原則を明らかにしていく。

演習全体を通じて、広範なトピックを論じるために必要な広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・「愛」にまつわるさまざまな現象が「信じる」対象ではなくそのメカニズムを把握すべき対象であることを理解する
・「愛」にまつわるさまざまな現象への人々の意味付けを分析できるようになる
・「愛」にまつわるさまざまな現象を、なぜ人々が必要とするのかを考察できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　・グループワークへの貢献度　・発表の質　・リアクションペーパーでのコメント　などを総合的に判断して成績を評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・期末レポートを課さない分、（学期末の）グループ発表の完成度をきわめて重視します。事前・事後学習に努めてください。

科 目 名	現代人間論系演習（共在の技法）							
担当者名	須永　将史							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では，エスノメソドロジーという社会学の研究プログラムのうち，「会話分析」という研究を，演習形式の授業を通じて学ぶ．「会話分析」は，ことばのやりとりを丁寧にみることを通じてひとびとが相互行為の秩序を成立させる方法を分析する．よって会話分析は実際の会話データを分析の対象とする．その習得には，実際に手を動かし，丹念にデータと向き合う姿勢が求められる．とりわけ本授業では，映像データを使用し，対面的相互行為における身体性（視線・ジェスチャー・体の向き等々）を分析する．授業前半では，教員が用意した映像データを素材に，データを分析するための概念の習得と実践を学ぶ．授業後半では，前半で学んだ概念を用いて，履修者が独自にテーマを設定し，全体での議論を通じて考察を深める．

授業の到達目標

この授業では，学生に次のような知識・能力を身につけてもらうことを目標とする．
・会話分析が目指す理念の理解
・会話を分析するための知識
・会話分析で用いられる概念の正確な運用能力
また，以上の知識・能力をふまえたうえで，他の学生との議論を通じ，問題意識を共有し，さらに深めることを目標とする．

成績評価方法

プレゼンテーション，レポート，および出席状況をふまえ総合的に評価する．

備考・関連URL

グループワークや討論によって演習が進められるため，毎回必ず出席することが求められる．
履修者が前期の須永担当授業（エスノメソドロジーの技法）と重複する場合，内容を変更することがある．

科 目 名	現代人間論系演習（身体理解の諸相）「わたし」のからだを取り戻す―ソマティック（身心）教育と内側から捉える身体の試み							
担当者名	吉田　美和子							
人間	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

身体はわたしたちの存在そのものであり生の基盤である。そのため身体の捉え方（身体観）は、そのまま世界をどのように捉えるかという問いでもある。身体観の歴史には、解剖生理学的な「身体（body）」を客観的に捉えるだけでなく、もう一つの身体観－身体、心、スピリチュアリティの総体としての「からだ（soma）」を主観的、現象学的に捉える身体観がある。

本講義では、1970年代にトマス・ハナにより提唱された「ソマティクス」理論に基づき、その実践法である多様なソマティッ

ク教育の体験を通して、今ここに在る身体を内側から捉える試みを実践していく。
「身体」について考えるのではなく、「身体」で考える授業である。座る、立つ、歩く、呼吸する、骨格をトレースして骨で立つ、内臓の重さを感じて腎臓から動いてみる、生後一年の動きを再体験するなど、多様な身体経験と毎回のテーマに関連する文献講読を通じて「身体」とは何かを探っていく。

授業の到達目標

多様な「からだ（soma）」の在り方に出会うことが目標である。そして解剖生理学や運動発達学、身体心理学を基盤としたソマティック教育の経験を通して、一人ひとりが個の経験としての身体から考える基盤を持つこと。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　課題は第14回の授業で提示。与えられた課題と、演習内での体験をどのように結びつけ考察を展開しているかを評価する。
●**平常点**　60%　　・授業参加の積極性　・毎回の授業で提出する実習ノートを評価する。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・初回のオリエンテーション以外は、基本的に動きやすい服装で受講すること。
・4回以上の欠席は評価の対象としない。

科目名	現代人間論系演習（死生学と現代社会）　応用倫理としての死生学							
担当者名	浅見　昇吾							
人間	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会は、価値観の多様性を大きな特徴している。生と死にまつわる問題に対しても、幾つもの考え方が併存している。このような状況下で、生と死に関する問題にどのように対応するべきだろうか。死生学や生命倫理学の理論を参照しつつ、生と死に関連する諸問題について議論を交わすことで、現代社会で生と死の問題に取り組むための新しい視点を模索していきたい。

授業の到達目標

現代社会の特徴を理解し、身近な問題を社会的コンテクストの中で理解できるようになること、さらには生や死にまつわる問題に対して、自分なりの考えを社会に発言できるようになること――これが本講義の目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　課題を正確に理解し、説得力のある議論で自分の考えを提示できるているかによって評価する。
●**平常点**　50%　　出席および授業中の議論への貢度を基準とする。
●**その他**　0%

専門演習

科目名	現代人間論系演習（道徳意識の研究）　倫理学入門							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

私たちが「いい」あるいは「悪い」と考え、感じる、その基準はひとつではありません。倫理学でもっとも基本的な基準は三つ（義務倫理学・功利主義・徳倫理学）あります。授業では、具体的なケースを検討しながら、三つの基本的な倫理思想を学んでいきます。
マイケル・サンデル、『これからの正義の話をしよう』を使用し、テキストが提示する例を中心にグループで討議しながら、倫理的な思考を身につけます。

授業の到達目標

「善」と「悪」についての様々な異なる見解を学ぶことで、規範倫理学のオリエンテーションをつけ、倫理学、実践哲学を学ぶ基礎を獲得することが一つの目的です。また、テキストを偏見なく批判的に吟味する姿勢を身につけることが、もう一つの重要な目的です。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　全員に一度は、口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

演習は、学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。したがって、積極的に授業に参加する学生を求めています。授業は、グループに分かれて議論することが中心となりますから、皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。また、汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。

科目名	現代人間論系演習（実存と他者の倫理）　自己・他者・身体・実存							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では「人間とは何か」を実存理解から考えます。私たちは、単に生物学的ヒトではなく、人間としてそれ以上の存在です。それを「実存哲学」は、実存と呼んでいます。この演習は、実存としての人間に固有な特徴を考察するとともに、そこに本質的に属している身体理解、他者の影響を考えていきます。したがって、実存理解とともに、自己にとって他者や身体とはなにかを考えていくことになるでしょう。
今年は、メルロ=ポンティの「幼児の対人関係」を読みながら、身体とは何か、他者とはどのような存在か、また、感情とは

他者、身体とどのように関係するか、などを考えていきます。

授業の到達目標

人間存在に対する理解を深めることから、私たちの現代社会が抱える問題を考えていく一つの礎石を手に入れることが目的の一つです。また、テキストを偏見なく批判的に吟味する姿勢を身につけることが、もう一つの重要な目的です。

成績評価方法

レポート：60パーセント

平常点評価：40パーセント　全員に一度は、口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

演習は、学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。したがって、積極的に授業に参加する学生を求めています。授業は、グループに分かれて議論することが中心となります。皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。また、汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。

哲学のテキストですので、やさしくはありませんが、一所懸命に取り組めば、必ず皆さんにとっての知的武器となります。そういうつもりでがんばりましょう。

科 目 名	現代人間論系演習（生命・医療の論理と倫理） 現代社会における生命・医療倫理							
担当者名	森　禎徳							
人間	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

生命・医療倫理は、「応用倫理学」の一分野として1960年代に成立しました。その背景には、科学技術、特に医療技術の劇的な進歩に伴う生命観、死生観の変化にどう対応すればよいか、という現代に特有の切実な問題意識がありました。本講義では、現代社会で「幸福な生を送る」ため、そして「幸福な死を迎える」ために生命・医療倫理がいかに重要な意味を持っているかを踏まえたうえで、さまざまな問題について具体的に考えていきます。

授業の到達目標

（1）生命・医療倫理という学問分野の特徴、その現代的意義を理解できる。
（2）科学技術の進歩がもたらした影響力の大きさ、深刻さに対する健全な問題意識を養うことができる。
（3）善悪の基準や価値観の多様性、文化や信仰の多元性を理解したうえで成熟した判断を行うことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　70%　　講義内容から各自論じたいテーマを一つ選択し、そのテーマについて1200～2000字程度で自分の主張を述べてもらいます。評価基準としては「主張の妥当性」「根拠の説得性」「参考文献など資料の有効活用」を重視します。

●**平常点**　30%　　出席状況、講義での積極的な発言、さらに自由提出の小レポートを評価します。出席状況に関しては減点もありうるので注意してください。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	現代人間論系演習（環境問題の論理と倫理）							
担当者名	石田　安実							
人間	２単位	秋学期	木曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「環境問題」と呼ばれるもの――たとえば環境汚染（あるいは自然破壊）――は、現在、日本のみならず世界中で無視できない社会問題となっている。しかも、人々の生活や命を脅かす深刻なものとなるだけでなく、その現時点での直接的な生活環境を超えて被害をもたらす（たとえば温暖化による異常気象）。もちろん、こうした「環境問題」が生まれた背景には、人間が経済・生産活動をたゆまず行い、そしてそのおかげで豊かな経済発展を成し遂げたということがある。したがって、たとえば多量のゴミや車から出る排気ガスは、私たちの生産・経済活動で不可避なものように見える。そうだとすると、人間の社会や経済が発展する以上、「環境問題」が起こることは避けられないのだろうか。

これは、私たちが経済活動を維持しようとする以上、「環境問題」が私たちに突きつける根本的な問題である。そして、ある種の倫理的課題――すなわち、「何らかの経済活動を続けなければならない私たちは、環境問題を前にして何をすべきか」という倫理的課題を提示していると見ることができる。本演習は、この根本的問題を、経済発展vs環境汚染、開発vs保護（保全）、自然vs人間、人間中心主義vs非人間中心主義などの「二項対立」（または「ジレンマ」）の観点から解読することで、環境問題の倫理学的性格を探ることを目的とする（ただし、この場合、「二項対立」は恣意的なものでなく、説得性をもって指摘できるものでなくてはならない）。この「二項対立」は、できれば二つの原理の対立と捉えたい。たとえば、人の消費を支えるために魚を捕獲（乱獲）vs. 将来世代のために海洋資源の保全。

そのような観点から「環境問題」の性質を理解した上で、できれば倫理的解決の方向性も模索できればと思う。

計画としては、まず環境問題の事例と倫理学の基礎概念や理論を学んだ後、第3回以降、各受講者に具体的な環境問題の中にどのような「二項対立」が見て取れるのかについて発表してもらい、そこに見て取れる倫理的問題について一緒に議論する。発表を単独で行うのかグループで行うのかは、受講者の数によって決定する。

参加者は、発表の後、発表内容に対する他の参加者からの指摘・コメントなどを考慮してレポートにまとめたものを学期末に提出すること。また、演習であるので、発表に対して述べる意見やコメントも評価の材料とする。

授業の到達目標

環境倫理の基礎概念を習得し、具体的なケースの検討を通して環境問題がどのような点で倫理（学）的問題と見なせるのかを学ぶことができる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　・自ら選んだテーマに関しての発表（プレゼン）によって評価する。

●**レポート**　20%　　・クラスでの発表、他の参加者からの指摘やコメントなどをふまえてまとめたものを、レポートとして学期末に提出のこと。

●**平常点**　40%　　・3分の2以上の出席を義務とする。（さらに、貢献度が高ければ、プラスアルファで）。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

★　参加者の意見やコメント期待するが、発言はなくとも、毎回、RPに簡単なコメントを書いて提出してもらう。
★ 携帯スマホ使用や私語は禁止。

科 目 名	現代人間論系演習（企業行動の論理と倫理）　現代社会の変革期における企業行動の在り方							
担当者名	内野　好郎							
人間	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近年予想できないような出来事が世界で起きている。イギリスのEU離脱、アメリカでのトランプ大統領の誕生である。この現象の背景にあるのは、移民により、自分たちの職業が奪われているという危機感である。何故なら、人は働かないと生きてはいけないのであり、そのことは、現代社会においては、職業につかないと生きていけないということだからである。人が雇用されるためには健全で競争力のある企業の存在が不可欠である。

経済発展とグローバリゼーションの進展により、産業構造や社会構造も大きく変化し、それによって、非正規雇用の増加や格差の拡大、職業のミスマッチといった問題も生じている。

この授業の目的は、社会学、経済学、経営学、政治学といった多面的な視点から、現代社会においてグローバルに活動する企業の行動とその背景を分析し、企業論理と企業倫理の在り方を再検討することである。特に経営者による企業論理と企業倫理の認識不足による不祥事が企業の存続そのものを危うくする事例が起きており、事例研究によりその背景を分析し、そこから得られる教訓は何かを考える。

授業の到達目標

現代社会が大きな変革の時期にあり、企業を取り巻く環境が大きく変化していることを理解し、そうした中で望ましい企業行動はどのようなものかを考え、企業論理と企業倫理の両立の必要性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験は行わない
●**レポート**　60%　　期末の課題についてレポートを作成し、最終授業時に提出
●**平常点**　40%　　平常テスト、個別発表、グループ討議への貢献度合いによって評価する
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

講師が前半講義をし、その課題に基づき、後半は学生によるディスカッションを行う。また事前に課題を与え、学生がその発表を行うケースもあるので、事前に資料や文献等を読んでくることが必要である。

講師の銀行での14年間の欧米、アジアでの海外勤務経験をもとに、日本企業と海外企業の行動の特徴についてもお話しする。

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（消費社会の論理と倫理）							
担当者名	廣瀬　毅士							
人間	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代の経済社会を特徴づける人々の行為として「消費」を位置づけ、研究対象とする。前半では文献の輪読を行い、後半では調査研究を行う。

前半の輪読では、20世紀の消費について語られてきた言説を批判的に検討するとともに、それらの現象を貫くメタ理論について議論する。

後半の調査研究においては、前半の輪読を通じた議論を念頭に、それらと関連する現在の消費現象について学生が調査し、報告を行う。その際、たとえばいま注目されている店は何かといった個別事例をただ記述するのではなく、マクロな消費社会における人々の選好や傾向といったものを念頭において考えていく。また、それらの傾向が現象として「ある」ということだけでなく、それらが「どのような人々に」「なぜ」「どのような仕組みで」起きているのか、といったことについて人々の社会経済的要因、地域の文化的要因、マクロの経済的要因などをキーにして議論を進める。

授業の到達目標

「消費社会」として位置付けられる現代社会において、人々の行う消費活動がどのような傾向や特徴を帯びているのかを自ら見つけ出すこと、またそれらの消費活動に人々がいかなる意味を見出し、いかなる価値を求めているのかを多角的に考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　60%　　後半の調査研究のテーマ、調査枠組み、調査方法、調査結果、考察などについて適切にまとめた内容とします。 各自が調べた内容を、前半で輪読した文献やその他の先行研究の内容と絡めて考察しているかを評価します。
●**平常点**　40%　　演習全体を通じた貢献度を評価します。 自身の担当回における報告内容や作成した資料はもちろん、他者が報告した内容に対する質問やコメントなどの積極性も評価します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（科学技術の論理と倫理）　先端技術と政治思想							
担当者名	西川　麻樹							
人間	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

先端技術が、制度設計や政治・統治の思想にどのようなインパクトをもたらすかを考えます。

世間的には、先端技術の一種であるAIやブロックチェーンのブームは、一段落ついた感があります。
しかし、多くの研究者が2050年までにAIが人を超えると推測しているというアンケート結果が発表されるなど、
時代の気分とは無関係なところで技術の進歩は続いています。

ブロックチェーンやAIも、やがては生活や制度に浸透していくでしょうが、我々は、それに対してどのような態度を取れるのでしょうか？
技術はたんなる技術なので、ブラックボックスで良く、思想とは無関係に「使えればいい」のでしょうか？

この講義では、この点について、既存の政治思想を参照しながら、技術によって新しい論点が生じるかどうか、
考える訓練をします。技術に比べ政治思想的論点の進歩は遅く、人間が制度設計の主要なアクターである限り、
しばらくは似たような選択が問われ、陳腐化しにくいからです。

具体的には、

・統治技術として、AIやブロックチェーンによってどのような制度設計が新しく可能になるか？
・その新しい制度設計は、既存の政治思想上の論点とどう関連するか？

・・・・という観点の講義を行い、同時に、簡単な制度設計の演習、ディスカッションをしながら、思想を考えます。

授業の到達目標

・技術を利用した制度設計を構想できる。
・構想した制度が、どのような思想に基づくもので、何を選び、何を諦めたのかを説明できる。

成績評価方法

毎回講義＋演習という形式をとります。その参加度、成果物などが出席と成績評価を兼ねます。
これらとは別に簡単なレポートを出すこともあります。

備考・関連ＵＲＬ

※予備知識は特に仮定しません
※理解度によって進行の仕方は随時変化します。

科 目 名	現代人間論系演習（親密圏の論理と倫理）							
担当者名	平野　直子							
人間	２単位	春学期	月曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

社会学では、家族、恋人、友人といった親密な関係やそれらが織りなされる空間が、どのような社会的な条件のもとでどのように変容してきたかを議論してきた。本演習はテキストにもとづき、これら「親密なつながり」の現代日本における実態を読み解いてゆく。なお、以下の計画は履修者の人数や授業の進行具合に応じて変更することもある。

授業の到達目標

身の回りの親密な関係について社会学的視点から考察を深めることを目標とする。

成績評価方法

授業での報告、グループ討論への参加、学期末レポート、授業参加状況をもとに総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

授業はグループ討論と報告を軸に進められます。そのため、毎回の出席が求められます。きちんと出席できる人が履修してください。
皆さんの日常生活でも身近な親密な社会について、他の人と議論したいと考えている人の参加を歓迎します。
なお、授業の進め方はあくまで目安なので、履修者の人数や進行具合に応じて柔軟に変更します。

科 目 名	現代人間論系演習（サイバー空間の論理と倫理）							
担当者名	酒井　貴広							
人間	２単位	秋学期	火曜日	１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

情報技術の加速度的な発達は、多くの人々がサイバー空間（cyber-space）を利用し得る社会を生み出した。サイバー空間とは、コンピューターソフトやコンピュータネットワークに代表される仮想的データ空間を指し、「インターネット」、「ネトゲ」、「SNS」、「ソシャゲ」などの呼称で私たちの日常生活に深く入り込んでいる。

サイバー空間が整備されることによって、私たちの用いるコミュニケーションに2つの大きな変化がもたらされた。1つは、サイバー空間の登場以前から存在する従来のコミュニケーションが、時と場所を選ばず随時利用できるようになったことである。
もう1つの変化とは、サイバー空間内における非対面での接触機会が格段に増えた点であろう。従来のコミュニケーションが相手を特定した上での接触（対面接触）を想定していたこととは対照的に、サイバー空間内でのコミュニケーションは、身体的接触や特定された相手を想定しないまま進められる場合も多い。これは、「コミュニケーション」の在り方そのものを創り変える重要な変化とみなせるだろう。
加えて、もはやサイバー空間におけるコミュニケーションを切り捨てて生活することはきわめて難しくなっており、私たちはこの新たなコミュニケーションの場と向き合い、適切な付き合い方を模索せねばならない。

本演習では、刻一刻と変化していく現代社会をいかに過ごしてゆくべきかを、文献の輪読と個人の発表を軸に検討していく。なお、履修者の人数や授業の進行具合に併せて計画を変更することもある。

授業の到達目標

・サイバー空間の独自性と普遍性を理解する。
・情報社会についての理解を深め、ソーシャルメディアの誤った利用を避ける知識を身につける。

成績評価方法

授業は履修人数、進行速度に応じて変更します。
必要な資料は随時授業内で指定します。コースナビを通じてやりとりをする機会が増えるのでまめにチェックしてください。
グループ課題とレポートを通じて授業が進むので、しっかりと出席できる方の履修を望みます。

科 目 名	現代人間論系演習（こころとからだの関係を考える）							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が大きく変容しており、ストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も多様化、複雑化している。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本演習では、心と身体の関係やあり方をめぐる主題について、文献講読を通して学ぶ。具体的に取り上げられるテーマは、哲学、仏教、芸道、臨床心理学、生理心理学、東洋医学など、多岐にわたる。これらを踏まえて、主に東洋における心と身体の見方が、心理学や脳神経科学といった現代の心の研究にどのように貢献しうるかについても考える。本演習の内容は、生命の根源としての場所、名人芸をみちびく直観、東洋の医学・生命観など、人間の心身と生命の本質に深く切り込むきわめて大切な内容を含んでいる。これらを、予備知識を前提とせず、心身論にはじめて触れる履修者も理解できるように講読する。

各回の進め方は以下を予定しているが、履修者数などを考慮して調整する。(1) 各回の講読箇所のテキストについて、要点をノートに整理する。(2) グループに分かれて講読部分の内容確認および討論を行う。(3) テキストの要点および討論内容を各グループの代表者が発表し、全体討論を行う。

授業の到達目標

(1) 心と身体の関係やあり方をめぐる主題について、東洋と西洋を含めた幅広い視点から理解できる。
(2) 講読するテキストについて、理解した内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　各回の授業で、講読文献の要約や討論内容をまとめたノートを提出する。
●**平常点**　50%　　発表、討論を含む、演習参加への積極的態度を総合的に評価する。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

本演習の関連内容をさらに学習する意欲のある学生には、講義「心身論」(春学期)、「生活世界と身体」(秋学期)、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」(春学期)、「他者と身体、身体から見た人間」(秋学期) と合わせての履修を勧める。
2018年度に担当教員の演習のいずれかを履修した学生は、2019年度の内容をよく確認し、重複がないよう注意すること。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（他者と身体、身体から見た人間）　心と身体の心理学を探求する							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちと他者、社会との関係のあり方が大きく変容している一方で、ストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も大きな社会問題となっている。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本演習では、心と身体、他者と社会などに関わる研究分野の文献講読を行い、心身に関連する諸問題への理解を深めていく。心と身体についての研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持つものである。そのため、演習で具体的に取り上げられるテーマは、心と身体の心理学（身体心理学、ソマティック心理学)、脳神経科学、マインドフルネスと健康・幸福、哲学、仏教、身体的実践（ボディーワーク)、東洋医学、生命科学など、自然科学、社会科学、および人文学を幅広く包括するものとなる見込みである。

授業では、グループに分かれて講読文献を選定し、レジュメによる発表とグループ討論、および全体討論を行う。心理学以外の幅広い関心を持つ履修者も含まれることを考慮し、予備知識は前提とせず、必要に応じて補完資料や解説を加え、全体の理解が進むように授業を行う。

授業の到達目標

(1) 心と身体に関連する諸問題について、文献講読を通して理解を深める。
(2) 講読する文献について、その要旨と各自の論点を的確に伝え、内容についての議論ができるようになる。
(3) みずからの研究に必要な文献を検索できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　レジュメ発表の機会がなかった履修者に課す。課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　80%　　発表資料、プレゼンテーション、討論を含む、演習参加への積極的態度を総合的に評価する。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

本演習は、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」(春学期) の学習内容を応用、発展させたものと位置づけられるが、

単独で履修することも可能である。
本演習の関連内容をさらに深く学習する意欲のある学生には、上記科目に加え、講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「こころとからだの関係を考える」（春学期）と合わせての履修を勧める。
2018年度に担当教員の演習のいずれかを履修した学生は、2019年度の内容をよく確認し、重複がないよう注意すること。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	現代人間論系演習（生活世界・社会と身体） 心と身体の心理学を概観する							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちの生活世界を取り巻く人間関係や社会との関係のあり方が大きく変容している一方で、ストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も大きな社会問題となっている。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。
本演習では、心と身体のつながりや調和、統合に関連する研究分野について、文献講読を通して概観する。心と身体についての研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持つものである。そのため、演習で具体的に取り上げられるテーマは、臨床心理学、心理療法とトラウマ、認知心理学、生理心理学、脳神経科学、マインドフルネスと瞑想、東洋医学、身体実践技法（ボディーワーク）など、自然科学および身体的実践に関わる分野を幅広く含むことになる見込みである。
授業では、グループに分かれて講読文献を選定し、レジュメによる発表とグループ討論、および全体討論を行う。これらにより、予備知識を前提とせず、当該分野を基礎から概観するとともに、一般教養や日常の実践にも役立つ心身の心理学の見取り図を得ることを目指す。

授業の到達目標

（1）心と身体のつながりや統合について、心理学、脳神経科学や身体的実践を含む幅広い分野の知見を概観し、見取り図を得る。
（2）レジュメ作成と発表、討論を通して、文献の要旨と各自の論点を的確に伝え、学術的な議論ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　レジュメ発表の機会がなかった履修者に課す。課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　80%　　発表資料、プレゼンテーション、討論を含む、演習参加への積極的態度を総合的に評価する。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

本演習の関連内容をさらに学習する意欲のある学生には、講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）、「こころとからだの関係を考える」（春学期）と合わせての履修を勧める。
2018年度に担当教員の演習のいずれかを履修した学生は、2019年度の内容をよく確認し、重複がないよう注意すること。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	現代人間論系演習（スクールソーシャルワークの理論と実践） 子どもの生活と学びをつなぐ							
担当者名	山田　恵子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年、教育と福祉をつなぐ仕事として、スクールソーシャルワークが注目されています。この授業では、スクールソーシャルワークの拠点である学校と、子どもや家族の現状を理解していきます。スクールソーシャルワークの価値・知識・技術を実践的に捉えるとともに、理論化していくことができる能力を身につけることを目指します。事例に基づいてディスカッションやグループワークを行います。

授業の到達目標

学校現場および子どもと家族の生活の現状を理解する。
子どもを自律的な個人として見つめ直す。
子どもにとっての学びの意味について考察を深める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回の授業出席状況およびグループワークへの参加状況を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（生きづらさの論理と倫理） 生きづらさと現代社会							
担当者名	草柳　千早							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会で生きることは容易ではない。広く知られているいわゆる「社会問題」から、日々の生活で感じるさまざまな困難、不満、不安や違和感まで、私たちの日常には問題が山積している。各人にとって直面する問題の内実や原因はそれぞれ様々でも、その違いをこえて共通の問いが立てられよう。私たちの生きづらさは社会のあり方とどのようにつながっているのだろうか。私たちは自分や他者の生きづらさといかに向き合い、それに対していかにふるまいうるのだろうか。そこからいかによりよく生きることへと向かうことができるのだろうか。
本演習では、現代社会における生きづらさを考察している文献、主に社会学の文献を読みながら、上の問いについて考えてい

きたい。とても大きな問いであり、正解があるような問いではないが、皆で共に考えていくことに意味があると考えている。
毎回の演習は出席者が「いまここ」を共にする相互作用である。他の人と相互作用することで自分1人では得られないことが得られる。1回1回大切に参加して下さい。

授業の到達目標

各自の生活上の諸問題・生きづらさを現代社会のあり方と結びつけて捉え、1人1人の問題・生きづらさを、個人的な課題としてのみならず社会の課題として多様な角度から考えていく、そのための視点・思考を身につける。

成績評価方法

毎回の演習への参加状況、個人発表（レポート）により総合的に評価する。

科 目 名	現代人間論系演習（子ども文化と社会病理） 子ども・若者の生活世界の把握と課題・困難に処する方策の展望							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人は社会の影響を受けつつ生きていくが、特に自分で生きる環境を選べない子どもが社会・家庭・学校から受ける影響は非常に大きいものとなる。現代の日本社会では、無縁社会などと呼ばれるよう"つながり"の希薄化が指摘されるなかで、さまざまな社会病理が存在している。子ども・若者が育っていく上で直面する課題や困難にも社会病理の影響を受けているものは少なくない。

そこで、この演習では、子どもが育っていく上で直面する課題について、子どもたちの生きる文化と社会病理という視点から検討し、考察を加えていく。それによって、子ども・若者の生活世界を見る視点をつちかい、子ども・若者が直面する課題・困難に処する方策を展望していく。

授業の到達目標

・子ども・若者の直面する課題・困難の現状を把握する。
・子ども・若者の直面する課題・困難と社会病理とを結びつけてとらえられるようになる。
・子ども・若者の生活世界を見る視点をつちかう。
・子ども・若者が直面する課題・困難に処する方策を具体的に提案できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　テーマを選んでレポートを作成していただきます。またレポート報告もします。
●**平常点**　60%　　授業での議論への積極的な発言を期待します。また、授業内外の時間を使ってグループ作業なども共同してすすめていってください。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

子ども・若者の文化と社会病理を関連づけて具体的に考えるために、小説やマンガ、映画などにもふれていきます。研究書、一般書のみでなく、幅広い文化に関心をもって授業にあたってください。

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（子どもの生活と子育て支援） 子どもを真ん中にすえた「育ち」の環境づくりにむけて							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、自ら育っていく主体として子どもをとらえ、その育ちを支援する「子育ち支援」、子どもを育てる保護者や環境を支えていく「子育て支援」の両方の視点をもって、子どもが大人へと育っていく道筋全体のサポート（支援）のあり方について、具体的なトピックにもとづいて検討していきます。講義をベースにしながら、「子どもの貧困」、「ワンオペ育児」、「イクメン」、「保活（／妊活）」、「児童虐待」、「学童保育／全児童対策」、「不登校」、「ひきこもり」、「非行」、「自立支援」など、受講者の関心のあるテーマごとにグループをつくり、それぞれのテーマを深めていき、意見・構想を発表していただきます。

なお、1限での演習となりますが、グループ活動なども実施しますので、原則15分以上の遅刻は認めず、欠席とみなします。

授業の到達目標

・子ども・若者の育ちの全体状況と社会状況の関連をつかむ。
・子ども・若者の育ちを支える制度・施策・取り組みをつかむ。
・子ども・若者をめぐるトピックについて知識を深め、それに対する自分の意見・考えを構想し、発表できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　グループ作業のうえ、レポートを作成
●**平常点**　50%　　授業内での発言やグループ活動への参加など、学習への積極的参加
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（ケーススタディの方法） フィールドワーク・質的調査の基礎知識と実習							
担当者名	熱田　敬子							
人間	2単位	春学期	水曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

質的研究を行なう際には、「客観性」、「科学性」に対する量的調査研究や自然科学モデルの研究と異なる立場について理解し、研究者自身の無意識の前提、社会的な立場（とそれが及ぼす調査への影響）などを常に問いなおさねばならない。

また、インタビュー、フィールドワークなど、生身の人とかかわる研究においては、研究に協力していただく方への倫理的配慮、研究者自身の身の守り方などを含め、様々な実際的な注意が必要になる。

本講義では、こうした様々な質的調査・研究法の方法論の特性を知り、学生が自らの研究テーマにあった調査法を見つけることを目的とする。
各回様々なケースワーク、グループワーク、実習を交えながら、質的研究を行うものにとって必要な態度や技法について学ぶので、各学生の積極的な参加を期待する。
また、適宜課外活動を課すことがありえるので、あらかじめ了解すること。

授業の到達目標

各自がゼミ論などで将来研究したいテーマにあった質的調査・研究法を見つけること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　45%　　期末レポートを課す。
●**平常点**　35%　　授業時に課す小課題や授業への参加度、毎回のコメントシート記入で評価する
●**その他**　20%　　演習内での課題への取り組み、発表などで評価する。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と家族）							
担当者名	安藤　藍							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「家族」と聞いたとき、皆さんは何を思い浮かべるだろうか。父親や母親といった「人」や、あたたかさのような「雰囲気」だろうか。
「家族」こそが一番大切だという人もいれば、そこに生きづらさを覚える人もいるはずだ。

それぞれに違いはあれど、皆さんの多くは何らかのかたちで「家族」と深く関わりをもち生活してきただろう。
あまりに日常に根差したテーマゆえに、改めて「家族」について思考するとき、自分が過ごしてきた身近な生活体験をもとに「家族というのはこのようなもの」と自然視してしまいがちである。
しかし、「家族」は誰にとっても、いつ、どこでも普遍的なものとはいいがたい。また、「家族」はきわめて個人的なことがらのようでいて政治的なものでもある。
たとえば、恋愛結婚して子どもを一人かふたりもつ、という"よくある"生き方が日本で大衆化したのは第二次大戦後しばらくたってからのことである。

本演習では、家族に関わる文献輪読、自由報告、ディスカッション等を通じ、自明視しがちな「家族」を解きほぐす視点を獲得していく。
前半では課題文献輪読とディスカッションで基本事項の共通理解をはかり、後半では履修者の関心を考慮しつつトピックを設定してグループの自由報告をおこなう。
こうした作業のなかで生じたさらなる疑問について、期末レポートでは自分で問いを定め、思考し、他者にわかるように説得的な文章にまとめていってもらう。
本演習をひとつのきっかけに、現代家族にかかわる諸事象の問題構制を理解し、自分なりに疑問をもってこれを探求していってほしい。

演習でのトピックは、「性別役割分業」「出産」「子育て」「家族介護」「セクシュアリティ」「ひとり親」等の想定があるが、
参加者の人数や希望をふまえて適宜変更する。
ケアする・されること、生活・福祉問題、ジェンダー等に関するテーマに関心のある人にも広く参加を勧めたい。

授業の到達目標

1）「家族」を素材に、日常生活において自明視しやすい事柄を問い、改めて思考の俎上にあげる社会学の基本視点を身に着けること。
2）家族社会学の知見や社会学の基礎概念を用いて、現代を生きる私たちにとって「家族」の意味を考察すること。
3）自ら問いを立て、関連する知見を調べ、説得的な文章を展開して問いにこたえる力を身に着けること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートは、担当した自由報告のなかから独自に問いを設定し、これに考察を行ったものを提出してもらう。評価基準は、テーマ設定の着眼点、文献検索の程度、論文構成、適切な引用ルールの遵守、演習での学びの応用の程度などだが、詳細は授業中に説明する。
●**平常点**　50%　　課題文献や自由報告での担当、ディスカッションへの参加度、各回のリアクションペーパーを主たる対象とする。詳細は授業中に説明する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と職業）							
担当者名	田ナビキ　裕祐							
人間	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会を生きる多くの人々は，職業に就き仕事をしながら社会生活を営んでいる．どのように働くのかということは，私たちの大きな関心事であると同時に，近年そのあり方をめぐって様々な問題提起がなされている．この演習では，労働市場や企業の人事管理といった構造的・制度的な問題とともに，キャリア形成や就労意識・労働観のような個々の働き手が直面する問題にも目を配りながら，現代社会における労働のあり方と，関連する社会問題について議論する．
スケジュールの前半では，担当教員が準備する資料や文献などを通して，働くことをめぐる様々な論点を整理する．後半は，

履修者が独自に問いを設定し，グループや全体での討論を通して考察を深め，レポートを執筆する.

授業の到達目標

この演習では，現代社会における労働のあり方と，関連する社会問題について学び，論理的に考え，他者と議論する力を身につける．統計資料や社会学・労働経済学の専門的な文献の読解だけではなく，グループ討議やプレゼンテーションといったような，問題意識を共有して理解を深めていくための技法を修得する.

成績評価方法

プレゼンテーション，レポート，および出席状況をふまえ総合的に評価する.

備考・関連ＵＲＬ

グループワークや討論を中心に演習を進めるため，毎回かならず出席することが求められる.

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会と心の機能） 心理学の俗説について考える							
担当者名	小塩　真司							
人間	２単位	春学期	火曜日	１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

この授業では，書籍を読み進めながら，現代社会において重要な概念の理解を深めることを目的とする。2019年度は心理学に関連した俗説を取り上げ，授業をすすめる。現代社会では，さまざまな俗説が蔓延しており，心理学の研究知見とはかけ離れたものも数多く存在する。そしてこのような俗説は時に，さまざまな場面で事実であるかのように喧伝されることもある。本演習では，そのような俗説に関するトピックを集めた書籍を読み進めながら，心理学や周辺領域の知識を深め，なぜそのような俗説の広まりが生じるのかを考察する。 授業においては，2～3名のグループを作り，半期の間に複数のトピックについて発表を行う。テキストの内容だけではなく，ニュースや記事など，世の中にどのような書き方がされているかを加味してまとめる。

授業の到達目標

現代社会において重要だとされる心理学的構成概念や研究について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　毎回のテーマに関する小レポートを評価対象とする。
●**平常点**　50%　　ワークシートの記入および授業内のディスカッションの参加の程度を評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（発達の生得性と環境効果）							
担当者名	大藪　泰							
人間	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

人間の行動やその発達の個人差は、遺伝と環境のどちらからの影響が強いのでしょうか。この氏か育ちかの古くからある論争は、今もなお続いています。どちらを重視するかによって、生得説（遺伝論）と経験説（環境論）という対立する見解に分かれますが、現在では人間の行動や発達のほとんどのものが遺伝と環境の両方から影響を受けていると考えられていることは、皆さんもご存知だろうと思います。しかし、遺伝と環境の効果がどの程度影響し、発達を支えたり、発達を損なうのはどのような条件なのかということについてはまだまだ不明なことが多いのです。

この演習では、人間の行動や能力の発達に違いを生み出す原因を分かりやすく扱った論文を読み、自ら調べ、発表し、ディスカッションしながら、さまざまな視点から人間の行動や発達を支える生得性と環境の効果について考えてみたいと思います。

授業の到達目標

人間の発達に影響する生得要因と環境要因がもつ効果と、その相互作用の複雑さを理解すること。

成績評価方法

出席状況、グループ発表、最終レポートによる。

科 目 名	現代人間論系演習（心をみる）							
担当者名	大藪　泰							
人間	２単位	春学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

私たちには、人の振る舞いを見て、その人の心を感じ取ることができます。人間の心は、他者の心を見ようとする仕組みを備えているからです。人の心を科学的に理解しようとする心理学は、こうした人の心の仕組みを利用して、人間の心の世界を客観的に理解する方法を生み出してきました。それを「行動観察法」と言います。人間の行動を観察して記録するのですから、簡単にできる方法だと思われるかもしれません。しかし、行動を科学的に記録したり、行動の背後にある心の意味世界を推測可能にさせる観察データを得るにはそれなりの知識とスキルが必要になります。

この演習では、行動観察法の基礎を学びます。行動観察法の理論に触れ、自分たちで実際の行動データを取ること、発達障害児などの動画データを使ってそこに映し出された行動の意味を探ること、子どもの愛着行動の動画データから観察記録を取って解釈することなど、心理学研究に欠かせない行動観察法の基礎を学んでください。

授業の到達目標

人間の行動を観察する方法の基礎的な知識とスキルを学ぶこと。

成績評価方法

演習への参加状況とレポートを評価する。

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（自己形成と無我）							
担当者名	越川　房子							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

受講者は、心理学、精神医学、哲学、社会学、宗教などの諸分野から、自己・自我・無我に関わる理論を選び、各理論の自己・自我の定義やとらえ方を相互に発表し合う。研究発表を通じて得られた知識を基に、それらの類似点・相違点について考察する。また、西洋における自己変容の技法、東洋における無我への変容の技法の体験を通して、自己とは何かについて、またその形成過程について、そして無我という東洋的な自己・自我のとらえ方の意義と効用についてディスカッションする。最後に、演習の総まとめとして、それぞれの受講者が「（自分にとっての）自己の定義」を創出する。

授業の到達目標

受講者各自が、自己の定義を新たに創出すること

成績評価方法

●**試験**　40%　　40点：定義が明確で、その理由も説得的に記述されている、30点：定義は明確だが、その理由の論拠が弱い、20点：定義が明確さに欠け、その理由の論拠が弱い、10点：定義が明確さに欠け、理由も提示されていない、0点：試験を欠席した

●**レポート**　10%　　発表で使用したパワポファイルをCourse N@viの指定フォルダーにアップする

●**平常点**　50%　　発表内容が優れている場合は30点、平均的である場合は20点、不十分な場合は10点とする。また、出席回数（上限10点）と授業内での発言の様子（上限10点）も評価対象とする。

●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（子育ての文化比較）							
担当者名	根ケ山　光一							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

子育てとは、哺乳類である私たちにとっていうまでもなく重要な営みである。それには種による差があるが、その差は生息する生態学的環境の差とも不可分に関連する。私たちの子育ては、その基盤を霊長類の中のヒトという種の枠組みに準拠しながらも、文化や時代によって大きな多様性をもっている。その多様性とそれによる自由度の大きさが私たちの子育ての重要な特徴であるが、同時にそれは、私たちの子育てをずいぶん悩ましくまた難しくする要因ともなっている。高度な知能をもって環境を人工的に改変することができるという私たちの能力と、一方で直立二足歩行を進化させた結果、子どもが行動能力の未熟な状態で生まれ落ちてきて、親子の間に間隙が生じる機会がたくさんあるということがその背景にある。

価値のシステムとしての文化は、私たちを取り巻く具体的な道具や生活空間、対人関係、そしてそれを取り巻く社会的制度といった具体的な形をとって私たちの生活に立ち現れる。そして子育てもそれらの「モノ」「ヒト」「シクミ」の多様性に重層的に取り巻かれて実現されており、そういった多様な事物は、「離れつつ守る」という親子間にとって「インターフェイス」となっている。そしてまた、そういう環境で育った人が大人となって、次世代にその文化を継承していく。

そのような文化と子育ての関係を読み解くにあたって、本講義では二つの軸を定める。一つは空間軸であり、もう一つは時間軸である。空間軸のわかりやすい例として国際比較があげられ、時間軸の例としては歴史的変遷があげられる。それらの軸はさらに、同じ日本国内での地域差や、同一家庭での時間推移という形へと掘り下げることもできる。

本演習ではそのような私たちの多様な育児の特徴・現状と課題について、霊長類との比較をふまえつつ、発達行動学的観点から、とくに身体・環境・行動の関連性に注目して議論する。授業の前半部ではそれらのトピックに関して講義を行うが、演習であるため後半部ではそれをふまえ、受講生が自らの興味関心に応じテーマを選んで研究発表するという形式をとる。

授業の到達目標

人が多様な文化を創出しながら生き、またその文化の中で自己形成していく存在であることを理解できる。

そのような文化的存在としての人間を具体的な生活の中から実証し、考察する力をつける。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%

●**平常点**　70%　　発表内容，授業の参加度

●**その他**　30%　　出席状況

備考・関連URL

初回授業はオンデマンドで行う。また，最終授業で全体について講評する。

科 目 名	現代人間論系演習（心をしらべる）							
担当者名	鈴木　公啓							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

心理学は，心のメカニズムを明らかにしようとする学問です。そのために，心という直接的には見えない概念を何かしらの方法で扱っていく必要があります。本演習では，まず，心理学で用いられている基本的な方法論や，それに関連する内容を説明します。その後，実際に演習を通して，理解を深めてもらいます。

授業の到達目標

心理学における方法論についての知識を学んだうえで，実際に体験し理解を深める。

成績評価方法

演習への参加の積極性などを考慮しつつ，発表内容を基本に評価をおこないます。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と孤独）							
担当者名	竹中　均							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

孤独とは、単に他者がいないというだけのことではないように思われる。孤独の視点に立って初めて見えてくる社会の風景もあるはずである。豊かな孤独というのはありえるだろうか。どう孤独と向き合うべきだろうか。

理論的著作・実証的著作・小説などのフィクションや文化的産物を素材として、演習参加者には、「現代人と孤独」というテーマで個人発表をしてもらう（受講者数によっては、他の発表形態もありうる）。発表のための文献や資料などは、各自が自力で探してきてもらいたい。

授業の到達目標

孤独という、ある意味で自明な現象について、常識的な決めつけにとどまらない多面的な視点を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　原則的になし。
●**平常点**　100%　　出席状況と発表内容。（受講生人数によっては、期末レポートを課す場合もありうる。）
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と社交）							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

個人の生活を時間の面から考えると、それは家族の時間、仕事の時間、社交の時間、孤独の時間の4次元から構成されている。ここで問題となるのは時間の配分のバランスである。第一の個人化の時代（高度成長期がそのピークだった）では家族と職場が絶大な重力をもっており、個人がいかにそれに抗してサードプレイス（インフォーマルな公共空間＝その典型はカフェ）での社交の時間や孤独の時間を持てるかが課題であった。しかるに第二の個人化の時代（現代）では、未婚者や非正規雇用者の増加によって、家族と職場という従来の生活の足場がもろくなってきている。ここではサードプレスでの社交の時間や孤独の時間がいかに存在論的不安から個人を救済しえるかが課題となるだろう。こうした問題意識に立って、本演習では、「現代人と社交」というテーマに、理論的かつ実践的にアプローチしていく。

なお、「現代人と孤独」については別途演習が用意されている。

授業の到達目標

社交というものの重要性を理論的に認識し、実践的に社交に取り組めるようになること。

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の最後にレポートを課す。既存の研究をレビューして、そこに自分なりの知見が加味されていること。
●**平常点**　50%　　グループ発表および毎回の演習への積極的参加度で評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（心の回復と成長）							
担当者名	上野　雄己							
人間	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

心理的に困難な状況（例えば，環境の変化や対人関係の問題など）に直面した際，同じような出来事を経験しているにも関わらず，逆境から心理的に回復し適応に至る人とそうでない人がいます。そうした心の回復に寄与する概念として，本授業で取り上げるレジリエンス（resilience）があります。レジリエンスは誰もが身につけられる能力で，個人が置かれている状況や環境に応じて獲得していくレジリエンス要因が異なります。本授業ではそうしたレジリエンスの構造や機能を学術的に理解するだけでなく，個人や集団ワークを通して体験的に理解してもらいます。そして，受講者の興味関心に合わせてレジリエンス・プログラムを作成し，実践していきます。

授業の到達目標

レジリエンスの概念および測定方法，介入方法を理解できる。
レジリエンスの多様性について体験的に理解できる。
レジリエンスの概念を自らの生活や人間理解に応用することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　40%　　毎回のミニレポート及びレポートの内容
●**平常点**　20%　　授業内ワーク及びディスカッションへの積極的取り組み
●**その他**　40%　　グループワーク及びプレゼンテーションへの取り組み

科 目 名	現代人間論系演習（人間関係の生涯発達）							
担当者名	川本　哲也							
人間	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

人は社会的な動物であり，他者との関係性は私たちの生涯にわたる発達において重要なものである。本演習では，特に異性との間に築かれる親密な関係性に着目し，そのような関係性が私たちの生涯発達においていかに形成されるのかについて，関連する書籍を講読することを通じて理解し，考察していく。特に，異性との親密な関係において生じる行動がどのような意味を持つのか，進化心理学的な観点から考察を行っていきたい。受講生は指定された書籍の分担箇所について発表を行う。担当でない受講生もかならずその箇所を講読するようにし，質疑応答や議論を行う。

授業の到達目標

人の生涯発達において，異性との間の親密な関係性がいかに構築され，その中で人はどのようにふるまうのか，理解・説明できるようになること。

成績評価方法

授業への参加やディスカッションへの参加の度合いおよび担当箇所発表時のレジュメをもとに，総合的に判断する

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会における心理学の意義） 心理学の研究知見をどう解釈するか							
担当者名	武田　美亜							
人間	２単位	春学期	火曜日	１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「心理学」に対して，人々は心にまつわる様々な問題が解決できることを期待している。しかし学術としての心理学研究の知見は，個人が抱える個々の問題に対して直接的に具体的な答えを提示することはできない。また，経験的にはよく知られていて「わざわざ調べなくてもそんなの当たり前」といわれることもある。

本演習では，心理学の研究がどのようになされているかを知り，研究知見からどこまでものが言えそうかを見直すことを通して，心理学の意義を考える。

なお，こうした問題は心理学に限らずほかの学術分野の研究知見にもいえることである。そこで，科学コミュニケーションやトランスサイエンスの観点から，各分野について素人である市民が専門分野の知見や研究活動をどう捉えればよいのかについても考えたい。

授業の到達目標

心理学の研究知見と日常生活との間のギャップを理解すること

心理学に限らず様々な学術分野の研究知見を，その分野の専門家でない人々はどう捉えるべきか，自分なりの考察ができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　所与の課題に対して，妥当な資料を用いて考察できているか
●**平常点**　50%　　出席，議論への参加，授業中の課題，発表など
●**その他**　0%　　0

科 目 名	現代人間論系演習（社会福祉の論理と倫理） 婚姻制度と社会福祉							
担当者名	熱田　敬子							
人間	２単位	秋学期	水曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

なぜ私たちは結婚したいとおもい、結婚しようとするのか？

現代の日本社会で結婚とは単なる愛情による結びつきではない、国家による社会福祉の最小単位を構成する契約である。 日本の社会福祉制度の多くは、結婚と、日本国籍を持ち、婚姻関係にある異性愛の男女から生まれる子どもを対象としており、そこから外れる人々への対応は非常に脆弱である。

こうした状況は新自由主義的政策が、国家の社会福祉コストを削減し、個人の自助努力と家族間の助け合いを重視する傾向のなかでさらに強化されてきた。

結婚が社会福祉の代替品と捉えられることは、私たち1人1人の生き方を大きく制限している。

人々の生き方が多様化し、結婚するかどうかが個人の選択になったといわれる一方で、子どもの養育、介護などの社会化は進まず、あるいは後退し、結婚した異性カップルを中心とする家族関係がケアの負担を負うことになる。

日本の婚姻制度がモデルとして想定する男性片稼ぎ／専業主婦／子どもの世帯構成自体が、正社員減少、平均年収の低下、晩婚化、非婚化、家族の個人化によって崩壊しつつある一方、婚姻を前提としない個人単位の福祉制度の構築は進まない。

さらに、婚姻にまつわる問題は、結婚が愛情の制度である／でなければならないというロマンチック・ラブイデオロギーに基づいた規範意識によって、見えにくいものとなっている。

ヘテロセクシュアルな夫婦関係、婚姻関係にある両親と子の関係が結婚を通じて親密な関係性として保護される一方、その他の親密な関係性は社会的に不可視化される。

本演習では日本の社会福祉の中核である結婚制度の成り立ちと、結婚が人々に与える影響、結婚と恋愛の関係といった視点から、強くジェンダー化されている日本の社会福祉を問い直すことをめざす。

授業の到達目標

・人々が生き方の自明の前提としがちな結婚制度と、結婚制度が社会福祉の単位とされている現状を多角的、批判的に捉えなおし、新たな社会関係に対する想像力はぐくむこと。

・男女、セクシュアリティを問わず私たちの人生を構造化するジェンダー作用について、反省的に捉える視点を持つこと。また、ジェンダー化作用と深く関わって複合差別を形成する、経済階層、エスニシティ、シチズンシップ、ディスアビリティなど

の要素についても理解を深めること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを課す。
●**平常点**　30%　　授業への積極的な参加、コースナビでの意見記入で評価する。
●**その他**　20%　　グループワーク、授業内の課題への取り組みで評価する。

科 目 名	現代人間論系演習（世代間交流の理論と実践）							
担当者名	齋藤　史夫							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人間関係の希薄化のもとで「あらゆる世代が心身ともに健全に育つことが出来る家庭や地域を作り出すことは社会全体に課せられた責務」となっている（日本世代間交流学会）。

動物としてのヒトが人間になるにあたって、社会的な生活の営みが大きな意味を持った。とりわけ、子ども期・青年期・成人期・高齢期という重層的な世代構造を持っていることの重要性が指摘されている。未来に向かって「健康で文化的な生活」を実現する一つの鍵として「世代間交流」の試みが進められている。

「世代間交流」の理論を学ぶとともに、東京都中野区の「なかの生涯学習大学」の高齢者と共通するテーマをさだめて共に学び・交流する「世代間交流」を実践することから、その意義を深め可能性を考える。

授業の到達目標

世代間交流の実践に裏付けられた考察から、これからの社会形成の方向を考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　グループ研究発表、世代間交流実践の記録・考察など、随時課題を出す。
●**平常点**　30%　　毎回の授業レビューシートの内容と出席状況にもとづいて評価する。
●**その他**　30%　　交流を充実させるための行動など演習の充実への貢献度。

科 目 名	現代人間論系演習（クィア・スタディーズ）　Queer StudiesとQueer Temporality							
担当者名	宮永　隆一朗							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

セクシュアル・マイノリティに関するさまざまな研究が発展して生まれたクィア・スタディーズは、性に関する多様な現象に対して、ある特定のアプローチから考察を加えるものである。

そこでこの授業では、クィア・スタディーズの視座をわかりやすく表す基本用語をいくつか取り上げ、その適切な具体例をグループワークの中で探りつつ理解していく。

結果として、性に関する現象に対するクィア・スタディーズ特有の「光のあて方」を体得してもらう。 特に焦点を当てるのは、クィア・スタディーズの中でも過去10年間大きく話題となったクィア・テンポラリティ（Queer Temporality）と呼ばれる議論である。

昨年7月、杉田水脈議員の「LGBTカップルには『生産性』がない」という発言が大きく問いただされたが、「異性愛でないこと」を「未来がないこと」と同一視する見方は実は彼女に限ったものではなく、私たちの社会に潜む強力なイデオロギーなのではないだろうか。

この講義では、こうした問題意識から、クィアであることと時間のあり方について、共に考えていきたい。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズの基本用語を理解できる
・性に関する多様な現象・文化をクィア・スタディーズの視座から考察できる
・性に関する任意の研究がクィア・スタディーズの視点を踏まえているかを吟味できる
・性に関する文化・現象をクィア・テンポラリティの視座から分析できる

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　・グループワークへの貢献度　・発表の質　・リアクションペーパーでのコメント　などを総合的に判断して成績を評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・期末レポートを課さない分、（学期末の）グループ発表の完成度をきわめて重視します。事前・事後学習に努めてください。

科 目 名	現代人間論系演習（福祉社会の臨界）							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

社会の構成員がケアや再分配について十分な配慮をもっている社会が〈福祉社会〉である。権力的で中央集権的な〈福祉国家〉＝「大きな政府」から、私たちひとり一人の生が毀損されない〈福祉社会〉＝「分配する最少国家」への移行が求められている。しかし、グローバリズムと金融資本主義の進展は、能力主義・私的所有・自己責任論に裏打ちされた「小さな政府」へと私たちを追い立てている。

本演習ではこのような問題意識を踏まえ、福祉社会の臨界にせめぎあうさまざまな課題について以下の4つのテーマを設定し、講義や映像の視聴、ディスカッションを繰り返しながら多面的に検討していきたい。

・いのちを分ける：出生前診断／臓器移植／「尊厳」死
・老い／呆けること：〈認知症〉と社会的入院／の世界／の政策
・〈貧困〉問題のリアル：連鎖／マイノリティ／生活保護
・臨界を超えて：ヘイトスピーチ／社会的企業／「同性婚」法制化

授業の到達目標

福祉社会の臨界にせめぎあうさまざまな課題の検討を通じて、生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続すること。

成績評価方法

演習への参画姿勢と毎回のコースナビからの小レポート（レビュー）により総合的に評価する。

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/　岡部耕典研究室

科目名	現代人間論系演習（貧困と社会的排除）							
担当者名	大西　連							
人間	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、現在の日本社会に拡がる「貧困」と「社会的排除」について、それらの問題の理解を深めるとともに、その背景、社会的課題、政策の現状について検討する。特に、「ホームレス」「生活保護」「子どもの貧困」に着目し、当事者が抱える困難さ、支援現場で起きていること、社会的背景や政策的課題について、講義、ディスカッション、グループワーク等を通じて学ぶ。

授業の到達目標

・「貧困」「社会的排除」という概念を理解する。
・「ホームレス」「生活保護」「子どもの貧困」についての基本的な知識を習得する。
・それらが起きる社会的背景について、社会的課題について、印象や思い込み、偏見などで語るのではなく、文献をあたり、現状を分析し、能動的にその解決を検討することを通して、自らの見解を持つことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末のレポートの内容により評価する。
●**平常点**　50%　　報告・コメントを含む演習への参画姿勢により総合的に評価する。（備考にあるように欠席の上限を設ける）
●**その他**　0%

備考・関連URL

・本演習は出席を重視する。1／3以上を欠席した場合、単位は不可とする。・授業スケジュール、グループ編成等は受講人数等によって変更することがありうる。

科目名	現代人間論系演習（エスノメソドロジーの方法）							
担当者名	須永　将史							
人間	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では，エスノメソドロジーという社会学の研究プログラムのうち，「会話分析」という研究を，演習形式の授業を通じて学ぶ．「会話分析」は，ことばのやりとりを丁寧にみることを通じてひとびとが相互行為の秩序を成立させる方法を分析する．よって会話分析は実際の会話データを分析の対象とする．その習得には，実際に手を動かし，丹念にデータと向き合う姿勢が求められる．授業前半では，教員が用意した音声データを素材に，データを分析するための概念の習得と実践を学ぶ．授業後半では，前半で学んだ概念を用いて，履修者が独自にテーマを設定し，全体での議論を通じて考察を深める．

授業の到達目標

この授業では，学生に次のような知識・能力を身につけてもらうことを目標とする．
・会話分析が目指す理念の理解
・会話を分析するための知識
・会話分析で用いられる概念の正確な運用能力
また，以上の知識・能力をふまえたうえで，他の学生との議論を通じ，問題意識を共有し，さらに深めることを目標とする．

成績評価方法

プレゼンテーション，レポート，および出席状況をふまえ総合的に評価する．

備考・関連URL

グループワークや討論によって演習が進められるため，毎回必ず出席することが求められる．

科目名	現代人間論系演習（調査データ　収集・分析の手法）　社会調査の実施とデータ分析の基礎を学ぶ							
担当者名	高橋　かおり							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本授業では社会調査およびデータ分析の方法論の基礎的な部分を理解し、量的、質的両側面についてデータを分析する力を身に付けることを目指す。

まず、授業の序盤では表計算ソフトExcelの利用方法と、基礎統計量の計算方法などについて理解する。続いて、官公庁のホームページで公表しているデータを参照し、それを加工して表を作成・説明する方法を学ぶ。

授業中盤では、統計分析用の専門ソフト（SPSS）を利用し、既存の公開調査データを用いて、単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、それらの計算や作成の仕方について理解する。
そして授業終盤では、質的分析の実践として簡単なインタビューを実際に受講生に行ってもらい、そのデータの取り扱い、加工、レポートへのまとめ方などについて学ぶ。
これらを実践的に取り扱うことを通じて、社会学における量的調査と質的調査の特性を理解し、それぞれのデータの扱い方と、レポート・論文などへのまとめ方を習得する。

授業の到達目標

①社会調査の基礎知識を学び、論文作成におけるデータ分析の方法を習得する。
②量的調査と質的調査の特性を理解し、それぞれのデータの読み方と扱い方に関する注意点、および複眼的思考法の重要性を学ぶ。
③レポート、卒業論文、卒業研究などにおいて活用できる、調査リテラシーを深める。

成績評価方法

●**試験** 0%　　レポート提出でおきかえる
●**レポート** 75%　　授業内で課す3つの課題レポートの提出・実施状況。
●**平常点** 25%　　授業への参加度、関与度。
●**その他** 0%　　0

備考・関連URL

本講義では、特に量的調査の分析（統計データの読み方等）において数学的知識を必要とする。ただし、初歩から説明するため、数字（数学）が苦手な学生でも興味関心や必要性があれば受講してほしい。ただし、各回で段階的に分析方法や統計ソフトの使い方について説明していくため、欠席・遅刻があると授業内容についていけなくなることがある。

科目名	現代人間論系演習（近代的人間観の論理と倫理） アダム・スミス『道徳感情論』を読む							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、近代倫理学の一つの流れを形成している、道徳感情の問題を検討します。「道徳感情」は倫理学に接する人が必ず深い関心を寄せるテーマのひとつです。この問題を中心的に扱ったのはスコットランドの哲学者たちですが、その中でも中心的な人物がアダム・スミスです。彼の『道徳感情論』は、最近、読みやすい翻訳が複数刊行されたことで、アプローチが容易になっています。そこで、この演習では、同書の主要部分を読み進めることで、近代の人間観を学ぶとともに、各人が専門研究に取り組むための基礎的な能力を養います。 有名な書物でも、厚い本となると、なかなか一人では読めないものです。しかし、それを読まずにいること自体が、各人の内面にコンプレックスを生みます。この際、思い切って、厚い本と取り組んでみようというのが、この演習の試みです。

授業の到達目標

近代的人間観を理解するための手掛かりとして、スコットランドの哲学者が「道徳感情」をどのように論じたかを見定めることを目標にします。

専門演習

成績評価方法

●**試験** 0%　　試験は行いません。
●**レポート** 50%　　学期末に、2,000字程度のレポートを課します。内容は、アダム・スミス『道徳感情論』にかんするものです。
●**平常点** 50%　　演習に参加して、自分の疑問点などを積極的に発言しましょう。
●**その他** 0%　　特にありません。

備考・関連URL

特にありません。

科目名	現代人間論系演習（生の詩学／生の解釈）「家族」と「性」をめぐる、現代日本の女性作家の作品を読む							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

家族」そして「性」。このふたつの、緊密に連関する主題にかかわる、現代日本の女性作家の作品を読みます。
「お父さんが外で働いて、お母さんが家事と育児をする。子どもが幾人かいる」「長じた子どもは、やがてただひとりの異性を選び、結婚して、子どもができて、父母に倣った家族を再びつくる」といった家族観、性愛観からもっとも遠いところにあるのが、もしかしたら、現代の女性作家たちの作品かもしれない、と考えたのが、その動機です。
松浦理英子、吉本ばなな、村田沙耶香……などの作品を読んでいる方、関心のある方はご参加ください。
といっても、読書は基本的にはひとりでするもので、大学の演習という場でなにをするかと言えば、それはもう、すでに読んできた作品について報告していただく、ということになるかと思います。
担当者（草野）自身は、上に名前を挙げた作家たちの作品を好んで、あるいは関心をもって読んできましたが、ほかにも読むべき作品がたくさんあることはもちろん知っています。
受講者の皆さんには、それぞれの関心、読書体験から、自由に作品をご紹介いただくことになります。（ただし、現代日本の女性作家の作品から）
演習という場を通して、お互いの関心領域が広がり、多層化し、豊かに展開することを目指したいと思います。

最後に、この演習は月曜1限です！　多少の遅刻や居眠りは許容範囲ですけれども、どうかがんばって教室にいらしてください。

授業の到達目標

上記「授業概要」に書いたとおり、家族、そして性という主題をめぐり、「演習という場を通して、お互いの関心領域が広がり、多層化し、豊かに展開すること」を目指」します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　1）出席状況　2）授業中の発表への評価。十全に準備されているか。オリジナリティはあるか。 ＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、コースナビにアップロードしていただき、評価の対象とします。 3）授業中のディスカッションへの参加への評価。十分に積極的であるかどうか。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

月曜1限の演習！
登録者はわずかと予想されますが、なんとか楽しく、やっていきましょう。
なお、「授業計画」はあくまで仮のものです。受講者数によって変更の可能性が大いにあります。

科 目 名	現代人間論系演習（生きて働くことの臨界） 生きて働く、と／の福祉							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

生きて在るために働き、そこで稼ぐ／“生きがい”を得ることについて考える。就活や非正規雇用の“生きづらさ”、若者の労働運動、能力主義や分配的正義、生活保護バッシングなどの福祉社会のイシューを参照しつつ、働くことを含む生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方やそのために必要なシステムを構想する。

以下の4つのテーマ別グループを設定し、前半は講義や映像の視聴とグループディスカッション、後半はグループ研究の報告と議論によって演習を進める。

・生存：「働くこと」と私たちの「生きづらさ」の関係について考える。
・労働：現代社会において「働く」とはどういうことなのか。
・制度：「生きて働く」ために必要な制度や政策とは何か。
・社会：誰もが排除されない／自由と平等が二者択一ではない社会は構想可能か。

授業の到達目標

働くことを含む生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　期末レポートにより評価する。
●**平常点**　60%　　報告・毎回のレビューを中心とする演習への参画姿勢により総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

本科目は前年度まで開講していた現代人間論系演習（現代人と福祉）の後継科目であり、内容の多くが共通しているため、重複履修はできない。

科 目 名	現代人間論系演習（不死の様式） 妊娠・出産・育児のナラティヴ							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

子を産み、育てること、すなわち次世代再生産は、死すべき者としての人間が不死を実現する手段であり、
社会を維持する基盤であり、
また、生物としての人間が、他のすべての生物と同じく、そこに生存の真の意味があるとさえ見なしてきたことでもあります。

この演習ではこうした前提に立ちながら、妊娠・出産・育児のナラティヴを考察します。具体的には、
望まれる妊娠（不妊）、望まれない妊娠、中絶、生殖補助医療技術、出生前診断、シングルマザー、イクメン、児童虐待、育児ノイローゼ、恋愛と結婚、物語としての母性と父性、女性のライフコース
こうしたトピックを語る、フィクション、ノンフィクション、すべてのナラティヴを考察の対象とします。
最後に、この演習は1限です！　多少の遅刻や居眠りは許容範囲ですけれども、どうかがんばって教室にいらしてください。

授業の到達目標

上記「授業概要」に記した問題意識を共有し、文化研究の手法でそれに相対することができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　主体的・積極的な授業参加度　個人およびグループ発表の充実度：発表内容と提出されるパワーポイント資料　＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、コースナビにアップロードしていただき、評価の対象とします。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

1限の演習！
登録者は多くないと予想されますが、なんとか楽しく、やっていきましょう。
なお、「授業計画」はあくまで仮のものです。受講者数によって変更の可能性が大いにあります。

科 目 名	現代人間論系演習（現代的人間観の論理と倫理） 遺伝子改変と人間							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習は「人間とは何か」を主題として取り上げます。今年は、急速に発展する遺伝子操作技術に対して、人間の何が変えてはいけないのか、人間の本質、人間の尊厳、自由、などについて考えます。まず、わかりやすく遺伝子操作についての説明を行った後、サンデルの『完全な人間を目指さなくてもよい理由　ー遺伝子操作とエンハンスメントの倫理ー』を読んでいきます。

授業の到達目標

「人間とは何か」を哲学・思想の観点から深く理解する問題意識を育てます。その際3つの目標を設定します。

1）理解力：まず正確にテキストの内容を理解する力を養います。

2）問題意識：理解した内容に基づき、何が問題なのか、どこに困難な点があるのか、把握する力を養います。

3）発表（Presentation）：理解し、問題意識をもつとともに、自ら発言し、議論し他者の批判にさらされなければいけません。発表から、討論、レポートの作成にいたるPresentationのための一連の技法を身に着け、表現する力を養います。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。

平常点評価：40パーセント　一度は、全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

演習は学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。したがって、積極的に授業に参加する学生を求めています。

授業は、グループに分かれて議論することが中心となります。皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。また、汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。

科 目 名	現代人間論系演習（障害とクィア） クィア・ディスアビリティ論入門							
担当者名	飯野　由里子							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2000年代に入ってから、ジェンダー・セクシュアリティ、ディスアビリティ（障害）が交差する地点に着目する新しい学問領域（クィア・ディスアビリティ論）が登場してきています。そこではどのような議論が展開されているのでしょうか。また、それらは既存のクィア理論やディスアビリティ理論、あるいは両者の関係に、どのような変容を迫っているのでしょうか。本授業では、クィア領域と障害領域に共通するテーマとして「優生学/優生思想」と「文化とアイデンティティ」に焦点をあて、それぞれのテーマに即した文献の購読を行います。

授業の到達目標

1）ジェンダー・セクシュアリティや障害の社会構築性を

2）「クィア」と「障害」の両視点から「優生学/優生思想」の歴史を捉えること

3）障害者運動とクィア・ムーブメントの共通点や共闘可能性について考えること

成績評価方法

出席点：20%

ミニ・レポート：30%

期末レポート：50%

専門演習

科 目 名	社会構築論系総合演習2 東京で再発見するアジア							
担当者名	金　敬黙							
構築	4単位	秋学期	木曜日	5-6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

東京におけるアジアンコミュニティ（例えば、新大久保エリア、池袋エリア、上野エリアなど）を歩きながら、今までは通り過ごしてきたグローバル都市TOKIOにおけるアジア文化の再発見を試みます。

また、フィールドワークの方法を身に付けます。

授業の到達目標

何よりも、グローバル都市TOKYOがどのように変化しているのかについて学ぶ必要があります。

同時に、質的研究の方法として活用される参与観察やフィールドワークを行いつつ、履修者が自ら社会調査を経験してみることを目標とします。

問題意識の設定に始まり、調査と分析、そして研究成果をまとめるための訓練を行うことも大切な目標です。

成績評価方法

演習への参加と議論（50%）

最終的な成果物（50%）

備考・関連URL

この科目は、キャンパスアジア「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」プログラムの関連科目でもあります。この科目の4単位を含む、計12単位以上のキャンパスアジアプログラム科目（含：北京大学もしくは高麗大学校への留学）を履修・取得すると、キャンパスアジア修了証が授与されます。

キャンパスアジアプログラムの詳細：https://www.waseda.jp/campus-asia/

科 目 名	社会構築論系総合演習1　太平洋に消された日本統治の記憶 植民地主義とジェンダーを考える							
担当者名	豊田　真穂							
構築	4単位	春学期	金曜日	3-4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2016年夏に大ヒットした映画「シン・ゴジラ」の元となるゴジラが、どのようにして生まれたのか知っているだろうか？

ゴジラ・シリーズの第1作目となった1954年11月公開の映画『ゴジラ』によれば、ゴジラは、絶滅したはずの恐竜が海底の洞窟に潜んで生きながらえていたのだが、度重なる核実験によって生活環境を完全に破壊され安住の地を追われて、東京近海にあらわれたという。東京にやってきては、人びとを踏みつぶし、口から放射能の火を吐いて街を焼き尽くしていった。つまり、ゴジラは核実験の被害者なのである。

でも核実験の被害者は、ゴジラだけではない。1954年3月、マーシャル諸島のビキニで行われた核実験によって、焼津のマグロ漁船「第五福竜丸」の乗組員23名が被爆し、うち1名が死亡している。この事件によってゴジラの着想が得られたという。

しかし、日本では「第五福竜丸事件」と呼ばれるこの事件は、世界的には「ビキニ事件」と呼ばれている。そこでは、マーシャル諸島北部の人びともまた、死の灰を浴びていた。そして、マーシャル諸島を含む太平洋北部ミクロネシアは、日本との接点がいくつも存在する。特に、現在のミクロネシアの大部分は、第一次世界大戦時に日本が占領し、その後、日本政府は1922年から、国際連盟委任統治領としてパラオ諸島コロール島に「南洋庁」をおいて統治していたことは記憶しておいて良いだろう。本演習では、「ゴジラ」とは何かを考えます。その際、南洋諸島における日本統治についての知識を備えた上で、日本の人びとが南洋諸島をどのようにみていたのかをオリエンタリズムの視点から分析し、さらに南洋諸島の人びとが日本統治をどのように理解しているのかを知り、最後に第五福竜丸事件について学んだ上で、「ゴジラ」を読み解くことを目指します。2019年5月にアメリカで公開予定の Godzilla: The King of Monters もまた、比較対象として検討しても良いかもしれません。

授業の到達目標

さまざまな表象を植民地主義およびジェンダーの視点から読み解くことができる

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論1）　天皇と天皇制を考える							
担当者名	岩本　健寿							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本年は天皇の代替わりが予定されており、天皇や天皇制に対する社会的関心も高まっています。では、天皇・天皇制は、どのように形成され、どのように継承され、どのように変化してきたのでしょうか。

本演習では、歴史学研究会編・加藤陽子責任編集『天皇はいかに受け継がれたか-天皇の身体と皇位継承』（績文堂出版、2019年）を使用して、主に歴史学的観点から天皇・天皇制について参加者の皆さんとともに考えてみたいと思います。

方法としては、当該書籍を読んで発表者各位が興味をもった学説や考え方を取り上げ、それに関して調べて発表し、その後、議論していきたいと考えております。

なお、発表は4〜6人のグループで担当していただく予定です。グループごとに話し合って発表するテーマを設定し、手分けして参考文献や史資料を探し、発表を練り上げていってください。

教科書・参考文献を多角的に考察・批判し、天皇・天皇制に対する各位の認識を深化させていただきたいと思います。

授業の到達目標

天皇や天皇制についての理解を深める。

それらと現代社会との繋がりについて考察する。

グループで協働して参考文献や史資料を探し、調べ、まとめ、発表する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末のレポートによる。
●**平常点**　50%　　出席・発表・討論への参加状況による。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論2）　論文と史料から読みとく前近代日本社会の国家と宗教							
担当者名	徳永　健太郎							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

前近代日本社会における国家と宗教について、論文講読と史料講読から考えていきます。前近代日本社会において、宗教が大きな社会的影響力と独自の存在感をもっていた時代は中世です。特に中世前期、鎌倉時代には、京都に朝廷、鎌倉に幕府という相対的に分立した政治権力がある一方、宗教勢力である寺社もそれぞれ独自の権威や実力を有しており、民衆もまた地域の中で自律的な秩序を構築していました。

この演習では、まずそうした社会のあり方を論文講読から概観するとともに、前近代日本社会の国家・社会と宗教に関する研究史上の論点・争点を把握します。また史料講読では、京都近郊での農業用水をめぐる住民トラブルから宗教権門、はては幕府や朝廷をも巻き込んだ一大紛争に発展した事件についての史料を講読します。この史料講読を通じて、前近代日本社会における宗教と国家や社会のあり方を、具体的に、そして動態的にとらえていきます。

またこの講読を通じて、先行研究や史料から論点が導き出され議論を構築していくという、歴史学的な思考や議論のあり方も学んでもらいたいと思います。

授業の到達目標

論文講読では歴史学の研究論文に触れ、それを分析的に読解していく能力を身につけます。また講読を通じて、中世の権力と社会についての主要な先行研究とその論点を把握することを目指します。史料講読では、まず文書・記録といった中世の史料に

触れ、その史料としての特質を理解します。また講読を通じて、中世史料の基本的な読み方、史料を解釈していくのに必要な辞書類、辞典類の使い方を習得します。さらに、論文や史料から論点を導き出し考察を加えるという歴史学的な議論の構築の基礎を身につけることをめざします。

成績評価方法

講読担当部分の報告…70%
※原則としてみなさんに報告を担当してもらう予定ですが、受講者数によってはレポートに振り替える場合もあります。

演習時の質疑・議論への参加・コメントの提出…30%

科目名	社会構築論系演習（社会構造論3） 前近代の戦争と社会							
担当者名	久保　健一郎							
構築	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本前近代の戦争について、その社会との関わりや及ぼした影響について、具体的な戦争の事例を取り上げながら、歴史的な視点から多角的に検討していく。中心となるのは前近代のなかでも最も戦争が頻発した中世とする。参加者は報告を分担し、その報告について全員で討論を行うのが授業の軸となる。

授業の到達目標

日本前近代の戦争についての理解を深め、自分なりに歴史的位置づけができるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業で担当した報告の内容や、質疑などへの参加姿勢
●**その他**　0%　　0

科目名	社会構築論系演習（社会構造論4） 社会構築論系風に「憲法」を考える							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

社会構造を研究するための方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための能力を養います。また、参加者が互いに刺激し合う環境を通じて、社会の本質に迫るための柔軟で豊かな発想力を養います。そのため、今、大きな話題になっている「憲法」に焦点を定め、人間と社会の関係を考えてみることにします。憲法とは、国家という統治体の存在を基礎づける基本法であり、また、個人の権利・自由を保障する規範であると考えられています。ですから、国家・社会のあり方を構想・構築するうえで、真剣に考えることが求められる切実なテーマです。この演習では、法学部とは少し違った角度や方向で憲法について考えます。文化構想学部風にいえば、憲法を文化として、社会構築論系風にいえば、過去―現在―未来の流れのなかで、社会のあり方の問題として考えます。天皇と国民、戦争と平和、人権のあり方、家族のかたち、人と人との共生、人間・社会と環境・自然の関係など、考えてみたいテーマはいろいろあります。それらについて、結論を急いだり、性急に判断を迫ったりするのではなく、まず、一緒に考えてみたいと思います。それぞれの関心に沿って検討してみたい条文を選び、その条文と、歴史的な背景や現実の推移を対照させながら、解読していきたいと考えています。

授業の到達目標

世界のあり方、国家・社会のあり方、人間のあり方、個人の生き方などを、憲法を鍵として考え、社会認識を深めることをめざします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　期末のレポート
●**平常点**　50%　　発表内容と討論状況
●**その他**　0%　　0

科目名	社会構築論系演習（社会構造論5） 日本現代史研究における民衆史の意義と方法							
担当者名	戸邉　秀明							
構築	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

社会の構造と動態を捉えようとする時、歴史学的アプローチはもっとも基礎的かつ有用といえる。だがそれは、事実の“発掘”だけでは成り立たない。むしろ重要なのは、どのような視角から歴史に接し、対象とする時代をどのように描くかという、歴史認識とその具体化である歴史叙述の水準である。そこでこの「専門演習」では、日本現代史の近年の研究成果に立った具体的な歴史叙述の読解を通じて、歴史学の視点と方法を学ぶ機会を提供する。特に、「民衆史」という歴史研究の潮流にもとづいて、ある時代の全体像を捉えた通史作品を、集団的な講読と討論とによって読み解く。それにより、広義の文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養うことを目的とする（本学部ディプロマポリシー参照）。

具体的には、まず1930～50年代という日本現代史のもっとも重要な転回期を扱った大門正克氏による通史シリーズ中の1冊『戦争と戦後を生きる』をとりあげる。その作品がどのような視点と方法で構成されているのか、それによって、当該期の一般的なイメージはどのように覆るものか、叙述の意図と効果を測りながら読んでいく。

演習後半では、同書で意識的に採られたオーラル・ヒストリーによる民衆史の叙述が、どのような方法的背景を持っているのか、同じ大門氏による『語る歴史、聞く歴史』を読み解くことで、さらに掘り下げていく。そのために必要なテクストの「読み方」や議論の仕方についても、随時解説・指導していきたい。積極的な参加をお願いする。

＊具体的な進め方は以下の通りである。
1．初回を含めて初めの2回は、（1）演習のねらい・概要、（2）発表方法等について指導し、参加者の発表分担（＝教科書講読の分担）を決定する。また関連映像について視聴・討論を通じて講読に向けた態勢を整える。
2．演習参加者には、いずれかの回を担当してテキストの読解・報告をしてもらう。第3回から第14回まで、教科書を順に講読する。参加者多数の場合は、グループによる準備・発表の場合がある（詳細は参加人数に応じて決定する）。報告準備の仕方については事前に指示するが、報告や作成されたレジュメの内容・表記についても評価の対象とする。
3．参加者には報告をめぐる討論への積極的参加に加え、毎回終了時に簡単な感想や意見を書いてもらう（用紙＝レスポンスシート配布）。これに対して、次回の冒頭で討論に反映させていく。なお、レスポンスシートへの記入・提出をもって出席とみなす。
4．最終回に、各回の討論で出された論点や疑問点を参加者全員で討議し、全体を通じたまとめとする。またこれをふまえて期末レポートを作成・提出する。

授業の到達目標
1．1930～50年代の日本史の展開について理解し、その全体像を把握できるようにする。
2．「通史」という歴史叙述の方法を理解し、研究書の読解能力を向上させる。
3．オーラル・ヒストリーの方法的特質への理解を通じて、民衆史の視点を獲得する。
4．1冊の書物の綿密な講読により、テクスト読解の能力を向上させる。
5．各回での指導を通じて、報告・討論に習熟できるようにする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　以下の2つのレポートにより評価する。 1．映像視聴レポート：第2回に、今後の参考となる映像を観てもらい、これに関するレポートを課す。 2．期末レポート：教科書の講読を通じて得られた知見をもとにして、演習テーマをめぐる考察を論じること（書式など詳細は授業中に指示する）。
●**平常点**　60%　　以下の3点を総合的に評価する。 1．出席状況：レスポンスシート（毎回要提出）の記入内容によって評価する。 2．発表内容：報告者作成のレジュメ自体も評価対象とする。 3．討論への参加状況（司会等の担当も含む）。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL
1．レポートやレスポンスシートに対しては随時フィードバックを行う。 2．参加者は、教科書を事前に購入し、第1回授業から持参して参加すること。また2つの教科書の冒頭にある「はじめに」に眼を通しておくこと。
3．参加者は、教科書の目次を参考にして、興味の湧くトピック（自身にとって報告に積極的に取り組みやすい主題）を探しておくこと。
4．演習の性格上、出席と討論への参加を重視する。
5．参加者の人数に応じて、授業計画を変更する場合がある。

科目名	社会構築論系演習（社会構造論6）　内藤湖南『支那論』にみる中国社会論							
担当者名	澁谷　由里							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
日本における中国史研究に多大な貢献をした、内藤湖南（1866-1934）の代表作を読みます。ジャーナリストから研究者に転じた内藤は、同時代にも鋭い観察眼を向け、観察結果に対して歴史的考察を加えるという稀有な人物でした。現在では20世紀初頭の中国社会論としても有名な本作を通じて、中国の歴史・政治の本質を考察していきましょう。
第5回以降は、事前に決定した報告者が、指定された箇所の講読や、検討結果の報告をおこなう形をとります。ほかの受講者も、同じ箇所をあらかじめ読んできたうえで、報告に対する質疑をしてください。

授業の到達目標
1、中国社会の歴史的な特徴を考えられるようになる。
2、中国における、社会と政治の関係を考えられるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わず、レポートと平常点にて評価を行う。
●**レポート**　60%　　報告担当時における報告内容（テキストに対する正確な理解、レジュメの出来具合、記述内容への考察、語句の調べ具合、独自の見解等）を評価する。
●**平常点**　40%　　授業への主体的参加（報告への積極的な質問や意見、質疑に対する応答を含む）を評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
なし

科目名	社会構築論系演習（社会構造論7）「多元社会」アメリカの意思決定							
担当者名	奥広　啓太							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要
多元的なアメリカ社会において、その「意思」決定がどのようになされているのかを考える。選挙や政策といった政治的な「意思」決定に限らず、経済や文化に関するものなど、多種多様な「意思」決定について考えてみたい。まず数回の講義と全体ディスカッションを通して現代アメリカについて一定の知識を共有した後、少人数のグループに分かれて独自にテーマを選び、プレゼンテーションの準備をしてもらう。テーマ選択の自由度はきわめて高い（映画や音楽の賞レースなどもテーマになりうる）が、いずれを選ぶにしても人口構成から法制度や伝統にいたるまで、さまざまな要素が複合的に作用して社会の「意思」決定がなされていることを分析してもらいたい。

授業の到達目標

①アメリカ社会を多面的に理解する。
②社会制度と社会構造の相互作用についてアメリカ社会を例として学ぶ。
③学術論文に限らず、幅広い資料に基づいてレポートを作成する。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 35%　グループレポート 15%　個人レポート 20%
●**平常点** 65%　平常点（出席＋レビューシート） 50%　全体ディスカッションへの参加やディスカッサントとしての発言 15%
●**その他** 0%　0

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論8） イギリス帝国の周縁部							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、近世イギリス帝国において焦点が当てられることの少ない帝国周縁部について、ナショナル・ヒストリーにとらわれない観点から考えていきます。リンダ・コリー『虜囚』を講読しながら、イギリスが帝国として膨張していく中で、その周縁部では「他者」とどのような関係を構築していたのかを様々な面から考察します。授業は発表とディスカッションを軸に進めていきます。

授業の到達目標

文献購読を通じて、近世イギリス帝国についての多面的な理解を獲得する。
文献の読み込み、自らの意見の構築し、それらをプレゼンテーションという形で論理的かつ明快に発表する力を養う。
主体的にディスカッションに参加することで、生産的な議論を構築する力を養う。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%　授業の内容に応じてレポートを課します。
●**平常点** 40%　発表内容及びディスカッションへの参加度から総合的に評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論9） 現代イギリス社会について							
担当者名	松園　伸							
構築	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2011年度まで社会構築論系の演習を担当してきました。12年度は私がオックスフォード・ウォルフソンカレッジでの特別研究期間のためお休みしましたが、13年度以降はまたずっと担当しています。産業の停滞、超高齢化社会、金融危機、財政危機はイギリスも例外ではありません。この国の現状を半年かけて一緒に考えていきましょう。スコットランド独立問題や英国のEU離脱問題（Brexit）についても触れたいと思います。

授業の到達目標

極力レクチャーを最小限にして受講したみなさんがみずから演（じて）習（う）ことで現代イギリスの抱える諸問題を考えていきます。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しません
●**レポート** 20%　授業期間中、短いレポートを課します。
●**平常点** 20%　ただ受け身で出席するのではなく、発表を聴いてレビューシートで意見、感想、評価を書いてください。
●**その他** 60%　演習での報告内容で評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論10）							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動により、既存の社会科学の方法論では分析が難しい社会現象が頻出している。たとえば、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大などの社会現象に、社会科学は挑戦を余儀なくされている。そのうち本演習では、ポピュリズムに焦点を当て、前半は文献購読を通じてポピュリズムががどのような社会現象でなぜ生起し、なぜ望ましくないのかを考えていく。続いて、受講生自身にポピュリズムに関する自由発表をしていただくことにする。 この過程を通じて、受講生は自らの興味のある社会現象を分析する方法論を学ぶことを期待されている。なお、授業の内容と構成は受講生の反応により柔軟に対応することに留意されたい。

授業の到達目標

ポピュリズムとはどのような社会現象か、なぜ生起するのか、どのような意味で望ましいまたは望ましくないのかを考えることで、社会現象の分析方法を習得することが到達目標である。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%　学期末に自由発表に基づいた最終レポートを提出していただく。
●**平常点** 40%　通常授業時のレポートおよびコメント、ディスカッションへの参加度合いにより判断する。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL
授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論11） 歴史学の理論と方法							
担当者名	岡田　泰介							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
まず、歴史学の基礎的な教科書である福井憲彦『歴史学入門』（岩波書店、2006）を輪読して歴史学の基本的な方法と概念を理解した後、各自の問題関心に即してリサーチを行い、その結果をプレゼンテーションする。輪読は担当者をあらかじめ決めずに随時指名するので、ゼミ参加者全員があらかじめ参考図書に目を通しておくことが求められる。プレゼンテーション担当者はゼミ受講者全員にレジュメを配布する。PPTを使用してもよいが、事前に連絡すること。各自のプレゼンテーションの割り当て時間は、受講者の人数にもとづいて調整する。

授業の到達目標
歴史学の基本的な方法と概念を理解し、それをもとに各自の問題関心に即してリサーチを行い、その結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける。

成績評価方法
輪読およびプレゼンテーションにおける授業への貢献度、および学期末のレポートにもとづいて評価する。配点は平常点70%、レポート30%である。

備考・関連URL
上記の授業計画は受講者の人数等に応じて一部変更されることがある。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論12） アジア社会の変容：「近世」から「近代」へ							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
「近代とは何か」という問題は、さまざまな角度から論ずることができるが、この演習では、主として国際関係と地域社会の相互作用という面から、東アジアにおける前近代から近代への移行のダイナミズムと、そこに見られる諸特徴を探る。今年度は、清朝とそれを取り巻く東アジアの秩序が大きく変動する契機となった1850年代に焦点を当てて、アロー戦争やロシアの極東進出などのトピックスを扱ったテキスト（史料）を手がかりに、受講者各人にテーマを設定して発表してもらい、それに基づく質疑応答・討論を行う。テキストについては、「教科書」の項を参照。
本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「専門演習」に該当する。

授業の到達目標
アジアにおいて現代社会につながる「近代」的な枠組みが成立してきた過程を、現在の視点・価値基準から描いた物語としてではなく、同時代のテキストを通じて理解することを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　授業時の発表内容を基礎としたレポートを期末に提出してもらう。テーマ設定の明確さ、テキスト・先行研究の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　40%　　授業時の発表内容、討論への参加度等による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL
※日程や発表のトピックスは、受講者数や各人の希望などに応じて適宜調整していきます。
※テキストには一部英語が含まれますが、それほど高い英語能力は必要としません。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論13）							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要
グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。このなかで、本演習では多文化社会の困難さに焦点を合わせて考察していく。特に排外主義の各国間比較を取り上げる。近日出版予定の教科書が入手できないときには学術雑誌論文を教科書として使用する。授業の内容や構成については、受講生の反応を見ながら柔軟に対応する。

授業の到達目標
国際移民の増大による多文化社会化にどのような問題があるのかを理解すること。特に、ネガティヴな反応である排外主義がどのような社会問題なのかをわれわれの生活に関係づけて理解できるようになること。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末に自らのコメントに基づいた最終レポートを執筆し、提出していただく。
●**平常点**　40%　　通常の授業中に行うレポート、コメント、およびディスカッションによって判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL
授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論14） 社会科学の方法論を学ぶ							
担当者名	樽本　英樹							
構築	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動により、既存の社会科学の方法論では分析が難しい社会現象が頻出している。たとえば、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大などの社会現象に、社会科学は挑戦を余儀なくされている。どのようにそれら社会現象の生起メカニズムを解明したらよいのだろうか。そのように解決策を模索できるのだろうか。

本授業は受講生に自らの興味のある社会現象を分析する方法論を学ぶため、文献購読と自由発表を組み合わせて展開していく。授業の内容と構成は受講生の反応により柔軟に対応することに留意されたい。

授業の到達目標

社会現象を分析する方法論にはどのようなものがあるか、それらをどのように使うと分析が可能なのかを習得することが到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末に自らのコメントに基づいた最終レポートを執筆し、提出していただく。
●**平常点**　40%　　通常の授業中に行うレポート、コメント、およびディスカッションによって判断する。
●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論15） 近代世界経済形成におけるヨーロッパとアジア							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	２単位	秋学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、近代世界における世界経済の形成について、「グローバル・ヒストリー」の見地を加えながら検討していきます。ケネス・ポメランツ『大分岐』を講読し、イギリスを中心にしつつ、東西比較やヨーロッパ諸国間の比較の視点を持ちながら、市場経済や資本主義の勃興と発展について考えていきます。

授業は、グループ発表とディスカッションを軸に進めていきます。また、受講生数によって進め方については変更する可能性があります。

授業の到達目標

比較史的視点から、現代世界に通ずる世界経済の形成についての理解を深める。
文献の読み込み、自らの意見の構築し、それらをプレゼンテーションという形で論理的かつ明快に発表する力を養う。
主体的にディスカッションに参加することで、生産的な議論を構築する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容に応じてレポートを課します。
●**平常点**　40%　　発表内容及びディスカッションへの参加度から総合的に評価します。
●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論16） グローバリゼーションと現代社会							
担当者名	森田　貴子							
構築	２単位	秋学期	月曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

今日、政治・経済・文化・社会の多様な側面において、地域や国家の枠を越えた、地球規模での活動が注目されるようになってきている。世界経済がグローバル化する中で、日本企業もグローバル経営を必要とされている。

本演習は、経済活動のグローバル化を取り上げ、日本企業をテーマに、企業の成立と経営の特徴、発展過程について明らかにし、日本の未来へ向けてのあり方を考察する。

主な企業とテーマは第1回目に提示する。対象とする企業は、広く設定したいと考えている。受講者は関心のある企業を選び、第3回目以降、担当した企業についてテーマを設定し、文献・史料を調査し、論点を発展させて報告する。特に関心のある企業があれば、相談の上、取り上げても良い。

授業の到達目標

経済活動のグローバル化を取り上げ、日本企業をテーマに、企業の成立と経営の特徴、発展過程について明らかにし、日本の未来へ向けてのあり方を考察することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート
●**平常点**　70%　　演習への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

備考・関連ＵＲＬ

第1回目は、本演習のガイダンスと報告担当者を決める。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論1） 近現代の日本都市を歴史的に解読する							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地域・都市のあり方を研究するための方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための能力を養います。また、参加者が互いに刺激し合う環境を通じて、地域・都市の本質に迫るための柔軟で豊かな発想力を養います。そのため明治維新から高度成長期まで、変貌を続ける都市の姿を、東京を対象として解読します。具体的には、1868年から1967年までの100年間に生まれた様々な文学作品を、文学としてではなく、都市社会史の資料として読み解くことに挑戦します。そのためには、都市史の成果に学びながら、文献・資料や地図・図像・写真などを作品のうえに重ねあわせ、丹念に解読していく作業が不可欠です。そうした手法を駆使することによって、作品の背後にある各時代の歴史に迫り、制度、文化、世相・風俗など、多彩な切り口から都市社会の姿を明らかにしていきたいと考えています。

テキストに用いる『東京百年物語』は、第1巻「Ⅰ　江戸からトウケイへ－開化への自負ととまどい」・「Ⅱ　江戸の名残－進歩と格差のはざま」・「Ⅲ　東京の黎明－大国化の陰影」、第2巻「Ⅰ　東京の虚実－世界都市への野心」・「Ⅱ　東京スナップ－モダニズムの夢」・「Ⅲ　東京の陰鬱－発展と孤立」、第3巻「Ⅰ　東京に根ざす－出征と銃後」・「Ⅱ　東京車中－復員と占領」・「Ⅲ　東京で生きる－遠ざかる焼け跡」から構成されています。収録作品全46点のなかから、解読対象とする作品を選び出し、調査・発表と討論を重ねながら、「江戸から明治へ」、「震災からの復興」、「戦争から平和へ」と、歴史を重ねてきた東京の歩みを、そこに暮らしていた人びとの視点から浮かび上がらせます。

授業の到達目標

都市に注ぐ多様な視線や都市をとらえる豊かな着想を育むことを目ざします。また、歴史的な文献や資料を読む力を養うことを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　期末のレポート
●**平常点**　50%　　報告内容と討論状況
●**その他**　0%　　0

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論2） 都市研究の視座と理論を学ぶ							
担当者名	宮田　伊知郎							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

急速にすすむ都市化――世界的に進行するこの現象をわたしたちはどのように理解すれば良いのか。この授業では、おもにアメリカないしは日本で公刊された研究論文、ルポルタージュ、ドキュメンタリーや映画の読解や視聴を通し、都市化がかかえる限界と可能性について考える視座の獲得を目指す。現代都市空間とはいかなる特徴を持ち、だれがどのようにつくりあげてきたものなのか。そこにはどのような問題があり、いかなる可能性があるのか。こうした点について考察することで、都市論、都市史、思想史の基本的知識の涵養を図ることを本演習の目的とする。

授業の到達目標

・公共空間、（人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティの差異や障がいの有無による）排除と包摂、ネイティヴィズムに関して、具体的に考察する能力を習得する。
・英語圏で刊行された文献の内容を理解し、議論の題材にできるようになる。
・歴史学、社会学、地理学の理論を理解し、応用する能力を身につける。
・文献のインプットと当時に、ディスカッションへの参加などアウトプットの作法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

各回のトピックに関しては変更の可能性がある。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論3） 都市研究を実践する							
担当者名	宮田　伊知郎							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

急速にすすむ都市化――世界的に進行するこの現象をわたしたちはどのように理解すれば良いのか。授業の前半では、東京を初めとする諸都市に関する文献ならびに映像資料を読み、かつ視聴することによって現代の東京の特徴や問題について理解を深める。後半では、文献購読で身につけた理論や視座をもとに、東京が持つ問題と可能性を示す具体的な題材を選び、調査、プレゼンテーション、そしてリサーチペーパーの執筆を行う。

授業の到達目標

・公共空間、（人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティの差異や障がいの有無による）排除と包摂、ネイティヴィズムに関して、具体的に考察する能力を習得する。
・英語圏で刊行された文献の内容を理解し、議論の題材にできるようになる。
・歴史学、社会学、地理学の理論を理解し、応用する能力を身につける。
・文献のインプットと当時に、ディスカッションへの参加ならびに個人研究の発表、ペーパーの作成などアウトプットの作法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

各回のトピックの内容ならびに実地調査のスケジュールについては、変更の可能性がある。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論4）　20世紀以降の大都市郊外空間							
担当者名	未定							
構築	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

20世紀以降の郊外空間の来歴と現状、今後のあり方について、基礎的な文献を読みながら考えていきます。日本だけでなく、外国の郊外空間との共通点と相違点や20世紀前半と後半、21世紀と時代の推移を意識しながら議論を深めていきたいと思います。

授業の到達目標

大都市の郊外空間の来歴を考えていくことで現代都市の直面する問題を相対化して考える力を身につけるとともに，学術的な発表と討論の技能を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　各自の報告内容と討論への寄与で評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論5）　コミュニティ／地域課題の発見・探求							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習は、この領域をはじめて学ぶ学生を対象に、地域社会論や都市論への問題関心を高め、そこで起きている基本的な現象に触れ、それを考える手がかりや視点・方法を探り出してもらうための演習である。地域社会や都市空間は、歴史の中で大きく変貌してきた。とくに都市空間は、時代を動かすさまざまな舞台を演出し人々を引き付け、多くの創造とともに矛盾をも生み出してきた。政治と経済、文化のさまざまな葛藤が、まさにこうした空間を中心に展開していったのである。この演習では、そうした地域・都市社会を背景に繰り広げられる人間の営みを理解し解明することを通じて現代社会を読み取っていくことにしたい。本演習では、ドキュメンタリーなどの身近な教材や素材を手がかりにしながら、とくに実際に自分たちの身の回りのコミュニティで起こっている事柄を理解し、そこでの地域課題を発見・探求し、その社会背景やそこに働いているさまざまな力について考えていけるようなカリキュラムを想定している。

専門演習

授業の到達目標

この演習授業は、地域社会論や都市論への問題関心を高め、そこで起きている基本的な現象に触れ、それを考える手がかりや視点・方法を学生自身に探り出してもらうことを目標としている。自分たちの身の回りのコミュニティで起こっている事柄を実際に理解し、そこでの地域課題を発見・探求し、その社会背景やそこに働いているさまざまな力について考察する能力を養うことがこの演習の目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末の最終論文の評価
●**平常点**　60%　　出席点及び授業中（及びコースナビ上）の討論参加と討論内容
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習は、地域社会や都市に関心のある学生を対象にして、小説やドキュメンタリー、エッセイ、論文などのさまざまな媒体による作品を手がかりとしながら、地域社会で進行している諸問題を真摯に受け止め理解していく能力を養おうとしています。学生には、この領域でのルポルタージュなどの作品を積極的に読み、フィールドワークなども試みてもらいたいと思います。本演習は、演習参加者の発表をベースとし、それを踏まえた質疑応答やディスカッションを軸にして、授業を進めていきますので、演習参加者は討論への積極的な参加が要求されます。また、この演習は、学生の質疑応答やディスカッション能力を引き出すことに主眼があるため、討論の展開次第によっては、授業時間を超えて運営されることがあります。

なお、コースナビの利用は必須であり、BBSはもちろん教材についてもコースナビで提供されるものを前提として授業を進めていきます。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定です。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論6）　都市・地域社会の解読							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地域社会は、人間の生活が具体的に営まれる場である。わが国では、戦後の高度経済成長とそれに並行しておこった全国的な都市化と産業化の波が、地域社会を大きな変動の渦に巻き込み、従来の都市、村落という2つの性格の異なる地域社会を、緊密な内部構造をもち、かつ一定の共通性をもつ都市化社会に変質させていった。現在では、グローバル化の中での都市化社会の変容、大都市と地方中小都市との関係の変容、市町村合併などにみる自治体経営と生活地域の再編、地域の活性化、地域社会にお

ける安全や安心を担保するしくみなど、地域社会はさまざまな問題を抱えている場でもある。
この演習では、主としてこの地域社会の構造、地域住民の生活と意識、地域社会の変動の様相などを扱っていくが、学生には、まずこの領域の基本的な文献を、現実の問題と絡ませながら豊かに、かつ批判的に読み込むことを通じて、地域に関わる社会現象を捉える目を養ってもらいたいと思っている。視点としては、＜都市--農村（中央--地方）＞関係、＜先進国経済--第三世界＞関係、都市の歴史的発展、現代の日本の都市が抱える諸問題等に注目していきたい。

授業の到達目標

授業の到達目標は、地域社会研究の基本論文及び著作の読解能力とそれを踏まえた討議能力を養うことである。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　最終課題レポート評価
●**平常点**　60%　　授業への出席及び質疑応答・討論などの評価。なお、授業における質疑応答の延長としてのコースナビのBBS書込みも重要な評価対象であり、毎回の発言が義務付けられる。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習では、社会学の方法を学びかつ慣れてもらうために、社会学の基礎的な文献も扱う予定なので、意欲があれば初学者でも参加が可能であるが、レベルとしては主として関連専門領域の上級生を対象とした授業内容を想定している。コースナビの利用は必須であり、BBSでの発言はもちろん、教材についてもコースナビで提供されるものを前提として授業を進めていく。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定である。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論7）　共同体を考える～地域、都市、農山村							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

気候変動やテロ、増え続ける難民、排他的な潮流など、今の社会には不安な要素が山積している。しかしこうした行き詰まり感や、未来に向けた危機感は、理由こそ違っていても、今に始まった事ではない。それぞれの時代で人々はより良い社会を目指して動いてきたであろう。
そして私たちも今、どのような社会を目指して動くべきかを問われている。グローバル化を見過ごすことはできないが、同時に地域社会に目を向ける必要がある。なぜなら、そこは私たちの生活が具体的に営まれる場であるから。地域を考えることは、共同体の意味やあり方を考え直すことでもある。 この演習では、最初に地域社会学の基礎的な概念と分野を押さえた上で、共同体のとらえかた、人と自然の関係、地域社会の変動の様相などを扱っていく。都市も農村も、そしてその両者の関係から見える日本社会・経済の仕組みも範疇となるが、広い分野すべてを捉えることはできないので、農山村へのフィールドトリップを核とした思考の展開が想定されている。
一般的に、概念の理解の度合いは、本人の体験の幅と深さによって大きく異なってくる。「地域社会」を考える上で、履修生全員の共通体験としてのフィールドトリップは本演習で重要な位置を占める。（＊必須となっているフィールドトリップについては備考を参照。）
農村での体験を通して見える都市やその諸問題にも注目し、どのような社会を目指すのか、大きな枠組みについての議論につなげる。
授業は参加型で実施し、「教わる」のではなく、「調べて共有する」。ディスカッションをベースにするので積極的な参加が前提となっている。

授業の到達目標

地域社会学の基礎の一端を学ぶ。日本社会の都市と地方の関係についての認識を深める。農山村の現状を理解し、共同体の基礎理論について考察する。多角的な視点を持つ力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　授業全体を通しての最終レポート
●**平常点**　70%　　授業やフィールドトリップへの積極的参加
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

＊フィールドトリップについて：6月8-9日の週末（1週間前になる可能性もある）に新潟県南魚沼市の農山村を訪れる。これに参加できる人のみ履修登録できる。費用は、交通費抜きで1万5千円前後。交通費は方法しだいで約6000円から12,000円まで。田んぼでの作業を手伝いながら、現代の中山間地の実態に触れる。予定では「農都交流」「農によるまちづくり」の参与観察と考察の機会となる。
＊フィールドトリップ参加は演習の単位取得には必須だが、なんらかの事情でどうしても参加できないながら本演習を履修したい場合は、事前に高野までメールにて相談すること（takano@aoni.waseda.jp）。事情に応じて検討する。登録日までにゆとりを持ってコンタクトすること。 ＊4回以上の欠席、フィールドトリップ欠席は単位を認めない。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論8）　文化遺産と地域社会（文献講読）							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年、世界遺産の世界では「持続可能な開発（sustainable development）」、「地域社会（local communities）の役割」という二つのテーマに焦点が当てられていいます。この二つのテーマは「人口増加と開発の圧力」という文脈で捉えられることが多いようですが、その他にも地域社会の様々な文脈と結びついています。 この演習では、文化遺産（世界文化遺産）と地域社会に関する基本文献をいくつかとりあげ、講読をおこないます。具体的にはグループ（履修人数によっては個人）で文献をよみこみ、発表とディスカッションを通じて理解を深めていき、レポートにまとめてもらいます。

授業の到達目標

文化遺産の歴史的・文化的環境という側面が、地域社会とどのような関係にあるのかについての知識を深めることと、文献調査の技術を向上させることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は基本的に行いません。
●**レポート**　40%　　レポートの内容で評価します。
●**平常点**　60%　　発表および演習への積極性で評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・授業初回にグループ分けや発表順番、発表日の確認があるので、欠席をした場合非常に不利になります。欠席しないように。
・例年、出典の明らかでないレポートや、本人が出典を明示しているつもりでも、まったく出来ていないレポートが見受けられます。文献一覧と引用符（著者　発行年：ページ番号が明示されていること）を適切に用い、出典を明らかにすることを徹底してください。このルールが守られていないものは、どれほど内容が良くても、レポートとして認めないので注意してください。よく誤解をしている学生がいますが、参考文献表を文末につけただけのレポートは、出典が明らかになっているとは言えません。ルールの守られていないレポートが提出された場合、内容や出席の如何に関わらず、すべて成績評定はFになります。
・出典の示し方に自信がない場合は、1年生の時の必修基礎演習テキストを読み直すか、教育学部が公開している引用のルール（http://www.waseda.jp/fedu/edu/assets/uploads/2014/07/20120620_教育学部レポート作成の手引き.pdf）を参考にしてください。とくに、教育学部のレポート手引きは大変よく出来ているので、自信がある人でも一読を強く推奨します。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論9）　グローバル化社会の中で「場所性」について考える							
担当者名	佐藤　桂							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

高度に情報化した現代社会において、グローバル化はますます進展し、それに伴い「場所」の概念も徐々に変化しつつある。インターネット上では、世界のあらゆる「場所」が均質化した情報として扱われ、グーグルを使えば空中散歩も、擬似的な訪問も容易に体験できる。しかしその一方で、土地に根ざした固有の「場所性」を掘り起こし、その記憶や風土を活かした地域再生への取り組みも、近年は盛んに行われるようになった。

この演習では、現代の私たちを取り巻く地域・都市環境に対して、俯瞰的な視点（鳥の目）と、草の根的な視点（虫の目）をもち、その現状を相対化して、世界の中に位置付けていくことを目的とする。大都市・東京を例にとり、その地理的・歴史的な背景を踏まえながら、様々な顔をもつ各地域の「場所性」について、フィールドワークを通して考察してもらう。また、現在進行中の文化財保存修復・整備事業の紹介も行い、伝統文化の保存再生や東京と地方との関係、国際都市とは何か、といった諸問題についても考える機会としたい。

授業の到達目標

・東京の地理と歴史の全体像をつかむこと
・それぞれの地域に蓄積された記憶と「場所性」について考察すること
・それぞれの地域における都市開発の現状を把握し、その将来像について考えること
・文化財（文化遺産）の保存をめぐる議論や理念を把握し、伝統と開発の未来について考えること
・日本文化を世界の中で相対化し、国際都市に関する自分の考えをもつこと

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レポートの内容で評価する。
●**平常点**　50%　　出席、受講態度等で評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

第1回の演習で発表分担を行いますので、必ず出席して下さい。やむを得ない理由で欠席する場合は、教員（katsura.sato@aoni.waseda.jp）まで事前に連絡すること。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論10）　文化遺産と地域社会（文献講読）							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年、世界遺産の世界では「持続可能な開発（sustainable development）」、「地域社会（local communities）の役割」という二つのテーマに焦点が当てられていいます。この二つのテーマは「人口増加と開発の圧力」という文脈で捉えられることが多いようですが、その他にも地域社会の様々な文脈と結びついています。 この演習では、文化遺産（世界文化遺産）と地域社会に関する基本文献をいくつかとりあげ、講読をおこないます。具体的にはグループ（履修人数によっては個人）で文献をよみこみ、発表とディスカッションを通じて理解を深めていき、レポートにまとめてもらいます。

授業の到達目標

文化遺産の歴史的・文化的環境という側面が、地域社会とどのような関係にあるのかについての知識を深めることと、文献調査の技術を向上させることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は基本的に行いません。
●**レポート**　40%　　レポートの内容で評価します。
●**平常点**　60%　　発表および演習への積極性で評価します。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

・授業初回にグループ分けや発表順番、発表日の確認があるので、欠席をした場合非常に不利になります。欠席しないように。

・例年、出典の明らかでないレポートや、本人が出典を明示しているつもりでも、まったく出来ていないレポートが見受けられます。文献一覧と引用符（著者　発行年：ページ番号が明示されていること）を適切に用い、出典を明らかにすることを徹底してください。このルールが守られていないものは、どれほど内容が良くても、レポートとして認めないので注意してください。よく誤解をしている学生がいますが、参考文献表を文末につけただけのレポートは、出典が明らかになっているとは言えません。ルールの守られていないレポートが提出された場合、内容や出席の如何に関わらず、すべて成績評定はFになります。

・出典の示し方に自信がない場合は、1年生の時の必修基礎演習テキストを読み直すか、教育学部が公開している引用のルール（http://www.waseda.jp/fedu/edu/assets/uploads/2014/07/20120620_教育学部レポート作成の手引き.pdf）を参考にしてください。とくに、教育学部のレポート手引きは大変よく出来ているので、自信がある人でも一読を強く推奨します。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論11） 文化財経営論：過去との共存／未来の構築							
担当者名	寺崎　秀一郎							
構築	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「文化財」と称した場合、たとえば、日本の文化財保護法第2条に定義されているが、その対象となるものは多岐にわたる。なかでも過去における人類の活動の所産である「遺跡」とされるものは、近年、観光資源として世界的に注目されている。

従来、1987年に「環境と開発に関する世界委員会」で示された「持続可能な開発」という概念が、とりわけ、発展途上国においては、観光産業の振興、特にエコツーリズムとして注目を浴びてきたが、その延長線上に遺跡観光を「持続可能な開発」としてとらえ、新たな外貨獲得手段として認識されるようになってきた。日本国内においても同様の傾向があり、遺跡観光を含む歴史的景観などの「文化財」が重要な地域振興のファクターとなっている例も珍しくない。

しかし、同時に資源としての「遺跡」の活用には未だ幅広い議論が必要である。単に保存修復、景観保存に留まらず、その成果をどのように地域にフィードバックしていくのか、あるいは、どのように次世代に継承していくのか、課題は多い。本演習では、具体例をもとに「遺跡」やその開発の抱える問題を明らかにし、その上で、現在に生きる私たちになし得ることは何かについて、広い視野からの議論を期待したい。

また、開講期間中に教室を離れ、「文化財」の現状を実見する機会を設ける予定である。詳細については、教場で説明する。

授業の到達目標

「文化財」とは守るべきもの、と考えられがちだが、なぜ守らなければならないのか、あるいは、ただ保存すればそれで十分なのだろうか。現代に生きる私たちが過去の営為の結果である「文化財」にどのように向き合うことが求められているのか、「文化財」を取り巻くさまざまな社会状況を考慮し、「文化財」の未来を考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　0%　　実施しない

●**平常点**　100%　　出席状況、ならびに研究報告の達成度、討議への参加状況等によって総合的に判断する。なお、受講生は受講後、コースナビ上のレビューシートに記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。

●**その他**　0%　　0

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論12） 子ども支援の実地学習（1）子どもの遊び支援							
担当者名	喜多　明人							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

子どもは「教えられて育つ」だけでは人間にはなれない。子どもは親や教師の作品ではない。子どもは、自分の育ちや生き方、人生そのものを、自分自身の意思と力でデザインしていく権利があります。子どもには誰でも生まれながらにして「自分で自分を育てる力」がある。その力に気づき、その力を信頼し、その力を生かして自分らしく成長し、生きていくことは、子どもの人間としての権利です。子ども自身がそんな自分育ちをしていくために欠かせない活動、とくにその能動的な活動意欲の源としての「自己肯定感」の獲得を支援していく活動を、「子ども支援」実践と呼びます。

この演習12（および演習14）は、以上のような子ども支援実践を実地に学習することをねらいとします。

とくに演習12では、学生の皆さんが「忘れてきた世界」、「取り残してきた世界」に注目します。

最近、「やりたいことが見つからない」「生きているのが面倒」と悩む学生が増えてきました。しかし、本当は、子ども期に「やってみたいこと」がたくさんあったはずです。しかし、親やまわりの期待に応えようと、「やりたいこと」を我慢し、先送りしてきた結果ではないでしょうか。

子ども期の「やってみたい」の中心は「遊び」です。「遊びたい」という子どもの頃の素直な気持ちを思い出して、「子ども固有の遊び支援」に取り組んでみませんか。

もちろん、この演習は、「子どもの遊び」一般を対象にはしません。子どもにとって遊ぶことは権利です。1994年に日本も批准した子どもの権利条約の31条に「子どもの遊ぶ権利」が掲げられています。子どもの意思、「やってみたい」を大切にし、子どもの創造的な遊び、手作りの遊び、とくに日本で広がってきているプレーパーク（冒険遊び場）の遊び支援を対象にします。

授業の到達目標

演習12では、プレーパーク（冒険遊び場）などにおける子どもの遊び支援者、プレーワーカーの養成を目標とします。そのために、A　事前準備：特別講義をもとにしたグループワーク、招聘講師の特別講義、ミニFWなど、 B　実地演習：グループごとに、冒険遊び場での実地演習を行います。さらには可能な限り、全員参加の行事・イベント支援の実地演習を行う。 C　ふりかえり：各グループのふりかえりとグループ報告会を行う予定です。

なお、事前準備（第1回～第3回）に参加できなかった学生は、実地演習の基本条件を満たしていないことから、プレーパークイベントの一般参加者として体験レポートを提出することになります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習は"参加と意見表明"がもっとも大切です。ゼミ員が一生懸命準備してきた報告、意見発表をみんなで聞き、相互批判し、深めていく。単なるアットホーム的な雰囲気だけでなく、互いの考えの違いや異なるパーソナリティをぶつけ合いながら切磋琢磨していけるような仲間をつくってもらいたい。

今までの自分を見つめ直し、"本当の自分"を発見したい、そんな意欲のある人たち、あるいは、人前で意見が言えないことで悩んでいるような人たち、大歓迎。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論13）　子ども支援実践論―子ども時代をふりかえり、これからの実践の軸をつかむ―							
担当者名	安部　芳絵							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	―	―	―

授業概要

本授業の目的は、子ども支援の実践力を身につけることにある。実践力の獲得にあたっては、フィールドで経験を積むことはもちろん、理論を学ぶことも同じくらい重要である。本授業では、子どもの権利条約を学び、子ども支援を理論的に検討することにより自分なりの支援の軸をつかむことをめざす。

授業では、子ども支援実践の現場で、支援者が直面する「ゆらぎ」と「省察」に焦点を当て、どのような専門性が求められるのかを探りたい。そのためにまず、子ども支援とは何か、子ども支援者とはどのような存在であるのか、支援者にとっての「ゆらぎ」や「省察」の意味とは何か、についてテキストを用いて、グループごとに発表する形式で、読み解いていく。

次に、演習に参加する学生の自らの「子ども時代」を省察する。私たちは、具体的な指導・支援場面を考えるとき、自分がされてよかったと思う指導・支援を選択しがちである。しかし、子ども支援実践の現場では、その指導・支援が目の前の子どもにとって最もよいものであるのか、という視点から検証されねばならない。そこでまず、支援者をめざす学生自身の経験を省察せねばならないだろう。

授業の到達目標

本演習では
1）子ども支援の「ものさし」である子どもの権利条約を理解し、使えるようになること
2）自らの子ども時代をふりかえり客観視すること
3）これからの子ども支援の軸を自分なりに見つけること
以上3点を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　授業最終日に提出するレポートの内容を評価。
●**平常点**　50%　　授業への参加（発言、コメントシートの記入、グループ発表など）はどうか。
●**その他**　0%　　0

専門演習

備考・関連URL

あなたは、自分のことを子どもだと思いますか。それともおとなだと思いますか。この演習では、子ども支援について学びますが、それは、おとなとして自立するための学びでもあります。 将来親になりたい人、親が大好きな人、親のことを好きになれない人、親離れしたい人、親との関係を客観的にみてみませんか。子どもが好き！という人だけでなく、子どもが苦手な人、嫌いな人も歓迎です。自分の将来を考える上で、これまでの成育歴や育った家庭から少し距離を置き、自分なりの生き方を考えるきっかけになればと思います。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論14）　子ども支援の実地学習（2）　学校外の多様な学び支援							
担当者名	喜多　明人							
構築	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	―	―	―

授業概要

子どもは「教えられて育つ」だけでは人間にはなれない。子どもは親や教師の作品ではない。子どもは、自分の育ちや生き方、人生そのものを、自分自身の意思と力でデザインしていく権利があります。子どもには誰でも生まれながらにして「自分で自分を育てる力」がある。その力に気づき、その力を信頼し、その力を生かして自分らしく成長し、生きていくことは、子どもの人間としての権利です。子ども自身がそんな自分育ちをしていくために欠かせない活動、とくにその能動的な活動意欲の源としての「自己肯定感」の獲得を支援していく活動を、「子ども支援」実践と呼びます。

この演習14（および演習12）は、以上のような子ども支援実践を実地に学習することをねらいとします

とくに子どもにとって学びとは、自己の成長要求に根差した自発的な行為であって、「教える」行為とは相対的に区別される子ども固有の営みです。しかし、実際にはおとな社会の圧倒的な期待感、要求を背負って、子どもたちは教えられすぎて、自分の本来的な学びへの要求を見失いがちです。たとえば、おとな社会が良かれと用意した学校についても、義務教育段階だけで年間14万4000人、高校段階までであれば、中退を含めて20万人の子どもたちが学校を離れている。その高止まり傾向は20年近く続いています。

このような学校の「教える」行為の限界の中で、地域や市民の中でこれを学校外から支える多様な学びの場が創られてきました。2016年12月7日には、普通教育機会確保法が成立し、学校外の多様な学びの場に対する公的支援の道が拓かれました。たとえば、学校外の多様な学びの場としては、日本国内だけでも、フリースクールやフリースペース、ホームエデュケーションさらには、欧米市民社会から発展してきたサドベリ、シュタイナー、フレネなどのオルターナティブな学びの場が創られてきました。

演習14は、講義「子どもの参加と学び支援論」とセットとなる実地学習の場です。普通教育機会確保法をうけて、日本の教

育界、とくに学校外の多様な学びと子ども参加を支えるスタッフ、支援者の育成等のために、実地に学習していくことを主なねらいとします。2018年度の演習14では、前年度の経験を踏まえて、学校外の多様な学びの場の中でフリースクール、フリースペースのスタッフ・人材養成とかかわる実地学習にしぼり、かつ定員制をとる予定です。

授業の到達目標

演習14では、日本の教育界とくに学校外の多様な学びの支援者として不可欠な資質、力量の形成を図ることなどを目標とします。そのために、A　事前準備：講義をもとにしたグループワーク、招聘講師の特別講義、ミニFWなど、 B　実地演習：各自の希望により6グループ程度に分け、フリースクール（東京シューレ等）、フリースペース（川崎市子ども夢パーク等）などでの学習支援ボランティア、行事・イベント支援ボランティアなどの実地演習を行う。C　ふりかえり：各グループの報告検討会を行う予定です。

なお、事前準備（第1回～第3回）に参加できなかった学生は、実地演習の基本条件を満たしていないことから、フリースクールイベントの一般参加者として体験レポートを提出することになります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論15） 子ども支援の実践と施策・制度（子どもの生活世界と権利保障）							
担当者名	安　ウンギョン							
構築	2単位	春学期	金曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

子どものいのちや暮らしが危機にさらされている現実の中で、子どもたちは、ストレス、孤立、疎外、不安など、深刻な生きづらさを抱えています。こうした状況を変え、子どもたちを支えようとする様々な取り組みが展開されています。 一人ひとりの子どもが幸せに成長する権利を保障し、子どもの置かれている危機的な状況を変える、いわば子どものつよい味方であるのが、子どもの権利条約です（1989年に国連総会で採択、1994年に日本政府の批准）。子どもの権利条約は、子どもに関するあらゆること、例えば、子育て・教育・福祉・医療などにおける実践や施策の模索と実施の際の準拠、原則でもあり、あらゆる取り組みにおいてもっとも大事な視点です。

本演習では、地域における子ども支援の実践を取り上げ、子どもの権利条約の視点から現状と課題について深めていきます。なお、自己の育ちと学びを振り返る機会をつくり、そこからみえる、新しい発見または解決の糸口を大事にしていきます。そのため、学生同士の対話と参加型の授業を中心に進めます。また、グループ研究により課題を深く掘り下げていきます。

子ども支援には、子どもの生きづらさにどう向き合うか、子どもの現実をしっかり把握し、それを解決していく実践や制度づくりが必要です。本演習はそのための基礎的な内容を一緒に考えていく時間です。

子どもたちが生きやすい社会をつくることは、すべての人々が生きやすい社会をつくることであります。子どもたちが生きやすい社会をつくる豊かな想像力を働かせていきましょう。

授業の到達目標

1）子どもの権利条約の基礎的な事柄を学び
2）自己の育ちと学びを振り返る
3）地域における子ども支援の実践を学ぶ
3）それによって、子どもの生を支えることについての考察

成績評価方法

試験:　0%
レポート:　50%（教場レポートの内容を評価）
平常点評価:　50%　授業への参加（出席、コメントシートの記入、グループ発表、自己評価と相互評価など）
その他:　0%

備考・関連URL

この演習は「話し合いと参加」がもっとも大切です。それをもとに互いに「啐啄同時（そったくどうじ）」の喜びを味わってもらいたいです。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論16） 子どもの居場所に関わるスタッフ養成のための基礎演習							
担当者名	西野　博之							
構築	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習は、将来、フリースクール・フリースペースなど学校外で育ち・学ぶ子どもたちの支援にかかわろうと思っている人、児童館、学童保育・放課後デイサービス・児童養護施設等での就職を希望している人、プレーパーク（冒険遊び場）など放課後の子どもの遊びや育ちに興味・関心がある学生を主たる対象としている。

不登校・いじめ・虐待・貧困・非行など、生きづらさやさまざまな困難を抱える子どもたち。家庭・学校・地域の中に自らの居場所を見つけられない子どもたちの現状を知り、その子どもたちにとって必要な「支援」とはいったいどういうものなのかを考える。

川崎市が制定した「子ども権利条例」の条文（第27条）の中に、居場所とは「ありのままの自分でいること、休息して自分を取り戻すこと、自由に遊び若しくは活動すること又は安心して人間関係をつくり合うことができる場所」と記されている。条文策定にあたって議論・検討された子どもたちが生きづらい社会環境に触れつつ、希望者には、その条例をもとに建設された「川崎市子ども夢パーク」と不登校児童生徒の居場所「フリースペースえん」でのフィールドワークの場を用意する。また受講生の中で生活困窮家庭の中学生を対象とした夜の無料学習支援の現場や児童相談所で子どもと個別に学習や遊びを通して関わる「ふれあい心の友」でのボランティア活動に興味がある学生には、実践的にその現場との橋渡しも行う。 この演習では、グループによるディスカッションを基本とする。若者たちの生きづらさ・自己肯定感の低さの背景には何があるのか。例えば「親から植

え付けられた価値観」「他人の視線」、育った地域での「あたりまえ」「スクールカースト」「毒親」など、テーマをみんなで選びながら語り合う。同時期を生きる他者の考え方に出会いながら、自分を縛ってきた「ものさし」にゆさぶりをかけるのも狙いの一つである。また「校則」なども取り上げながら、学校教育のあり方を人権の視点から問い直す作業も行ってみたい。

人を「支援」するということの中には、相手の思いをそのまま受け止める力、「聴く力」が求められている。そのためには、「援助者」が持っている自分の価値観を点検する必要がある。グループワークを通じて、ひとの話を聴き、自分の考え方のクセを知り、怒りなど感情のコントロールをどうしたらいいかなどを学びながら、自分自身の「問題」に向き合うことができたらと考えている。

この演習を通じて、子どもの居場所についての認識を深めつつ、子ども関連の施設等で働くスタッフが手に入れたい「まなざし」とスキルの獲得を目指す。

授業の到達目標

＊子ども・若者たちの生きづらさについて、講義やグループディスカッションを通じて理解を深める。
＊地域の中で子どもたちが遊び、育つ環境がどのようになっているか、現状を把握する。
＊障がいのある子どもと共に育つことの積極的な意味について考える。
＊子どもの居場所づくりに取り組むNPOの活動と、行政との協働・連携のしくみを学ぶ。
＊子ども施設で働くスタッフとして必要なハートとスキルを身につける
＊知識として「正論」を吸収することが目標ではない。グループワークやフィールドワークなどを通じて、様々な背景をもつ多様な子どもたちの生きざまにふれ、それまで自分が手に入れてきた「ものさし」を問い直し、自分自身の問題に気づくきっかけをつかむことを目標とする。
＊現場での33年に及ぶ私の経験を材料に、よりよい子ども「支援」のあり方をともに模索したい。

成績評価方法

試験　0 %
レポート　40 %　評価基準：演習で学んだ中からテーマを選び、レポートにまとめる。（フィールドワークを通して学んだことの報告・考察も可）
平常点評価　60 %　評価基準：講義およびグループディスカッションに積極的に参加したか。授業後に毎回ふりかえりシートを提出。
その他　0 %

備考・関連URL

http://www.yumepark.net （川崎市子ども夢パーク）
http://www.tamariba.org　（NPO法人フリースペースたまりば）
希望者には 「川崎市子ども夢パーク（プレーパーク）」・「フリースペースえん」でフィールドワークを実施する。また生活困窮家庭・ひとり親家庭の中学生を対象とした夜の無料学習支援の現場や児童相談所で子どもと個別に学習や遊びを通して関わる「ふれあい心の友」でのボランティア活動に興味がある学生は申し出てください。将来的に子どもと関わる仕事に就きたいと考えている人やボランティアを希望する人の積極的な参加を歓迎します。（ここに掲げた授業計画はこちらからの一つの案であり、参加者の主体的な問題意識によって、各回テーマが変わる可能性あり）

専門演習

科目名	社会構築論系演習（共生社会論1）							
担当者名	内田　雅克							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「当たり前」「普通」は「そうでないもの」に対して境界線を引きます。本演習ではこの境界線からの逸脱が嫌悪、排除、蔑視、そして暴力の対象となる現象をジェンダー、セクシュアリティといった視点から読み解いていきます。

「普通」からの逸脱が、なぜこうした対象とならなければいけないのか。境界線はいかに引かれた（る）のか。なぜ嫌悪されるのか。それらを考察し、そしてこれまで看過してきた「当たり前」を壊していく試みです。

具体的なテーマは以下です。

1　ジェンダーの歴史的構築性
2　ホモソーシャルとミソジニー
3　「らしさ」とセクシュアリティ
4　ジェンダー規範からの逸脱と制裁
5　トランスジェンダー

授業の到達目標

本演習の目的は、以下です。

1　ジェンダーの視点を用いて、「常識」というものによって不可視にされてきた「差別」「苦悩」「排除」「暴力」を見る。
2　柔軟な思考力を養う。
3　基本的なアカデミックスキルを身につける。

成績評価方法

授業時のワークシート提出、ディスカッション、発表などの平常点　70%
レポート　30%

備考・関連URL

1　ジェンダー、セクシュアリティといった問題に興味・関心のある学生の受講を望みます。
2　「規定のワークシートを期日に提出しない」「欠席などによりディスカッションに参加しない」などは大きな減点対象とします。
3　欠席が3回を超えた場合、評価の対象外とします。
4　特別な理由がない限り、遅刻は認めません。
5　受講生数、ゲストの都合などにより、予定に若干の変更の可能性があります。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論2） 優生保護法と強制不妊手術							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2018年は、優生保護法の強制不妊手術をめぐるメディア報道が活発化した年だった。その背景には、同年、宮城県を始め各地方裁判所で当事者（やその家族）による国家賠償請求訴訟が提出されたことがある。日本政府は、優生保護法が1996年に廃止（母体保護法に改称・改正）されてから20年が経ち、「賠償請求権はない」などと回答している。一方、ドイツやスウェーデンなどでは政府による補償がなされてきた。そこで、国会議員の超党派プロジェクトチームなどによって優生保護法によって強制不妊手術の対象となった人びとに対する救済制度を立法化する試みが始まった。この法案は、2019年の通常国会で提出される見込みである。そこで本演習では、優生保護法がどのような法律であったのかを理解することを目的とする。その際、特に優生保護法が、基本的人権や法の下の平等を定めた新憲法、およびアメリカによる占領のもとで制定されたことに注目したい。

授業の到達目標

1）歴史資料を読み解くことができる。
2）過去を見据えた上で現在の問題を知ることができる。

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論3） アジアン・ディアスポラ							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アジア地域の域内外から（へ）の難民、移住者などの流入と流出の事例、背景、傾向などを学びます。

日本からアジア諸国へ、そしてアジア諸国から日本へ、さらにアジアの域外から日本を含むアジア地域への人の移動について学ぶきっかけを作ります。

学生たちのプレゼンテーションと討論を通じて参加型の授業をも進めます。

具体的には北朝鮮難民（脱北者）をとりまくディアスポラの事例や日本に暮らす難民や「デカセギ」労働者などの事例を数多く活用します。

授業の到達目標

グローバルな課題として浮上している難民・移住者のテーマを日本を含むアジア地域の事例を中心に理解し、今後の政策や現象問題への理解を深めることを主なねらいとします。

日本の難民政策や移民受け入れ政策の今までと今後を理解し、グローバルな視点から日本とアジア諸国（地域）の在り方を検討します。

成績評価方法

平常点が50%（出席、報告、討論）、残りの50%はレポートや最終課題（試験またはレポートなど）で評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論4） コンピュータを用いて社会統計を学ぶ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

いわゆる統計計算を、コンピュータを自由に駆使して行うことは、順序を踏んで学んでいけば、まったく難しいことではない。そして、みなさんが、これから生きていく過程で、絶対に必要なスキルである。講義で、一方的に知識の伝授を受けるのは、たいていの場合、先生の教え方が面白くなく、授業も退屈でつまらない。そうではなく、目の前にあるコンピュータを用いて、自らデータを分析し加工していくスキルを身につけていくトレーニングを積んでいく。

これまでに統計学関係の授業を取ったことがない、まったくの初心者でも、また高校卒業とともに数学と縁を切ってきた人でも、興味をもってデータ分析のスキルを身に着けることに積極的な意志のある人、そしてこの種の分析はグループワークで行っていくことが重要であるので、グループワークをすることが得意、あるいはこの演習を機会にやっていこうと思う人であれば、十分にやっていくことができるように各回、順序を踏んで進めていく。

授業の到達目標

ソフトウェアのスキル習得とともに、社会現象を観察し分析していく根本的な興味・関心を高めていくことが、この演習の到達目標である。

統計学の基礎知識を学びながら、実際にデータを整理し分析する基礎的技法を習得する。加えて社会調査の基本から少々難しい多変量解析までひととおり習得していく。表計算ソフトウェアExcel、統計計算ソフトウェアSPSS（Statistical Package for the Social Sciences）について、その基本を習熟する。

成績評価方法

- **試験**　0%　.
- **レポート**　30%　最終課題レポートの内容。
- **平常点**　70%　各回の課題への積極性。
- **その他**　0%　.

備考・関連URL

出席はとらないが、欠席をすると、次からわからなくなる。

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

森元孝ゼミナールプロモーションビデオ http: //www. f. waseda. jp/wienmo-

to/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

なお、2018年度までに「社会構築論系共通演習」において単位を取得している場合、この科目を履修できません。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論6） 多文化共生に向けて							
担当者名	黒川　悠輔							
構築	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

多文化共生社会とはどのような社会を指すのか。ひとつのイメージとしては、さまざまな違いを持つ人びとが互いに認め合い、対等な立場で関わり合う理想的な状態を思い描くことができる。しかしながら、政府を含む多くの主体によって多文化共生が標榜されてきた日本社会において、特定の人びとの直面する差別や不平等や抑圧といった問題状況が数多く指摘されている。そうした状況に置かれた人びとの例を挙げるとすれば、ニューカマーやオールドカマーと呼ばれる外国人、難民、外国につながる子ども、言語的マイノリティ、性的マイノリティ、障がい者など、さまざまな観点からのカテゴリー化が可能である。このような問題状況を踏まえて、わたしたちが到達するべき、あるいは到達可能な多文化共生社会とは何かを繰り返し問う必要があるのではないか。

本演習では、参加者相互のやり取りを通して、上記の問いに取り組んでいくことになる。その際、グループ内でのディスカッション、グループ発表、そして参加者全体でのディスカッションが演習全体を通しての中心的な活動になる。基本的な内容は、社会における人びとの多様性と結びついた問題事例を取り上げつつ、それとの関連で多文化共生の理念について具体的なレベルで考察していくことである。どのような事例を扱うかは参加者の問題関心に即して決定していくが、基本的には共通のテーマとして、社会において不利な立場に置かれているマイノリティに焦点を当てる予定である。また、演習全体の最後には各個人で選んだテーマについてレポートを作成する。

授業の到達目標

多文化共生の理念について、さまざまな立場の見解を踏まえながら具体的に論じられるようになることが本演習の到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　問いの立て方、論理性、アカデミックなレポート作成方法の適切さなど、複数の観点から総合的に評価する。詳細については、授業内で提示・説明する。

●**平常点**　50%　　ディスカッションへの参加状況、出席状況、グループ発表の内容、コメント用紙の記述内容、その他の課題などをもとに総合的に評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論7） 教育と環境 — 持続可能な社会の文脈で							
担当者名	高野　孝子							
構築	２単位	秋学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

さまざまな課題に直面する現代、持続可能な社会への模索が国内外で続いている。

教育はどんな役割を果たせるのか。

価値観に影響を与え、社会変革のために重要だとされる「教育」について、イリイチやフレイレ、ソベルなどの批判的な見方を含めて、多角的に検討する。その中で、持続可能な社会を求める中で発生してきた、環境教育や「持続可能な開発のための教育」の流れを概観する。「教育は社会を変えることができる」のか、それとも「主流の価値観や体制を維持する道具」なのか、社会を変えるにはどのような教育が必要か、自分たちの経験も踏まえて考える。

また「場」「場所」について検討し、「地域に根ざした教育」「場の教育」について議論する。教育を通した地域づくりの可能性と課題について考察し、それをグループごとまたは個々人で、授業内で発表する。互いの評価とディスカッションでフィードバックとする。

すべてを統合して考察し、それぞれレポートを作成する。

授業は参加型で実施し、「教わる」のではなく、「調べて共有」し、「討論で掘り下げる」。履修生たちが、文献を批判的に読み込み、自分たちの経験に照らし合わせ、かつ想像力も駆使して考察し、発表し、意見交換しながら授業が進行していく。また英語での文献も読み、ディスカッションしていく。

「サステナビリティ」の理解を前提として進めるので、春期の「サステナビリティ論」を履修していることが望ましい。

授業の到達目標

自分たちに身近である「教育」について捉え直す。「場」への認識を高める。読解力と思考力、それを踏まえた討議力、表現力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　0

●**レポート**　20%　　伝えたいことを明快に書けているか、レファレンスのつけ方は適切か

●**平常点**　80%　　授業への積極的参加、発表と討議の内容など、総合的に判断

●**その他**　0%　　0

備考・関連ＵＲＬ

履修を希望する場合は、積極的に関わる意欲を持ち、英語を含む文献を読み、グループワークするための時間をきちんと作り、かつマネジメントできる人であること。 4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論9） 共生社会とことば							
担当者名	横田　和子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、共生社会の構築、創造において、ことばが持つ可能性や課題を検討していきます。私たちは誰しもことばと無縁に社会生活を営むことはできません。にもかかわらず、ことばをめぐる権力や格差の再生産、差別、排除などについて検討する機会はそうあるわけではありません。対話や熟議の必要性は叫ばれていますが、その実現はどのように可能なのでしょうか。ここでは、そうした課題をめぐり、またことばを軸にしつつも、「ことば」中心主義に陥らないように、身体性・非言語、ときにはアートとのつながりなども視野にいれながら、共生社会とことばとがどのような関わりにあるのか、参加者それぞれの関心にもとづき、テーマを見出し、参加者間でシェアしながら深め、検討していきます。

通じ合える、わかりあえる、だけでなく、通じない、わかりあえないけれども、一緒に居る、あるいは共に問題を解決するための、共生社会とことばの<あいだ>について考えていけたらと思います。

授業の到達目標

共生社会とは何か、考察を深めるとともに、またその構築のために必要なことばをめぐる課題、可能性を見出し、自らの課題として引き受け、それを深めていくことを目指します。

成績評価方法

試験　0%

レポート　30%　設定したテーマの質と、またそのテーマに対し、どれだけ葛藤し、らせん状に学びを深められたかどうか、を基準とします。

平常点評価　60%　出席、担当の発表内容、およびレビューシートのコメントにおける、思考の言語化への意思、発表の聞き手として、教室内で共に考えていくプロセスにいかに貢献できたかどうか、を基準とします。

その他　10%　自己評価および参加者の相互評価を行います。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論10） 災害後の地域社会の分断と共生							
担当者名	川副　早央里							
構築	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年、国内外ともに地震、津波、風水害などの災害が頻発しており、私たちは常に災害の危険と隣り合わせで暮らしている。災害後の被災地では、被害からの復旧と復興に向けて、地域社会全体で協力して被災者を支援することが期待されるが、さまざまな社会的分断により、社会関係が崩壊し、被災者支援や地域復興が困難となる現実がある。とりわけ、2011年に発生した東日本大震災及び原発事故では、被災者への差別や、避難者と受け入れ社会との間のコンフリクトなど、さまざまな社会問題が生じた。本演習では、原発事故を事例として取り上げ、災害後の地域社会内で生じる分断やコンフリクト、そして被災者支援や新たな共生社会の構築の可能性について検討する。誰しもが被災者となりうる現代社会において、必要とされる被災者支援や災害復興、地域づくりについて考える。

授業の到達目標

災害後の分断が生じるメカニズムについて理解し、災害時の社会状況についての想像力を養うことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　期末レポートを課します。課題について、授業内容を踏まえて深く考察しているかどうかを評価します。

●**平常点**　50%　　出席状況、グループワークの参加度、授業の理解度などで評価します。

●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

授業内容・計画は、受講生の興味と理解度に応じて変更する可能性があります。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論11） 身近なサステナビリティを意識化する							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

＊本演習は春期科目「サステナビリティ論」と深く関連するので、合わせて履修することが望ましい。

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。「持続可能な開発目標（SDGs）」と呼ばれ、17の目標と169のターゲットからなる。すべての国連加盟国は、このアジェンダを元に、2030年までに目標達成のための努力をすることになっている。

アジェンダを見るとまるで他人事のように思われるが、サステナビリティは私たちの日々と密接に関わっている。それらを自ら発見し、「可視化」する作業をしていく。

前半に何度か基礎的な学習をしたあとは、グループごとにテーマを設定し、発表とディスカッションを行う。グループワークでは、役割分担ではなく、グループとしての協議と思考が求められる。履修生が自ら掘り下げ、課題を見つけていく作業が必要となり、積極的な学習と参画が前提となる。

授業の到達目標

「持続可能な社会」（開発ではなく）とはどのような状態であり、どうやって実現されうるのかを学習と協議を通して考え、指針となるような何らかのヒントを得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　0

●**レポート**　20%　　総合的に学んだことを記述。内容と明確さで測られる。

●**平常点**　80%　　授業への関与の姿勢や発表内容などを総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

＊4回以上の欠席は単位を認めない。

国連広報センター
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/
アジェンダファクトシート
http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/15775/

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論12） 少子化とリプロダクティブ・ライツ							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本で「少子化」が問題になって久しい。そして「少子化対策」という名の人口政策が立案されてきた。日本における人口政策といえば、戦前／戦中には、「産めよ殖やせよ」の政策を思い浮かべる人も多いだろう。このとき、「産児制限」つまり避妊方法の普及などを目指す運動が国策に反するとして制限／弾圧されていた。戦後は一転、人口爆発を懸念して、主に中絶によって子供の数の制限が推奨された。また「不妊治療」と呼ばれる生殖補助医療は、すべての人にアクセスがあるわけではない。このように、「産む・産まない」の決定は、国家の政策によって形作られている。

しかし産む・産まないの決定は、本来、リプロダクティブ・ライツとして個人に保障されるべきものなのではないか。リプロダクティブ・ライツとは、すべてのカップルと個人が、子どもをつくるのか／つくらないのか、つくるのならいつどのくらいの間隔で何人つくるのかを決める権利で、1994年、カイロ人口開発会議でリプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康・権利）として提唱されたものの一部である。

こうしたリプロダクティブ・ライツを保障するための／しながらの少子化対策とはどのようなものであり得るのか。本演習ではこうした問いを検討すると同時に、リプロダクティブ・ライツとは何かを考える。

授業の到達目標

リプロダクティブ・ライツを理解する

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論13） 戦後アジアの紛争と和解－朝鮮戦争、ベトナム戦争、カンボジア紛争、そして「対テロ戦争」							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

日本は戦後70年以上も直接、戦争を行うことがありませんでした。しかし、朝鮮戦争、ベトナム戦争において日本におかれている米軍基地を通じて多くの戦争物資や兵力がアジアでの戦争に関わってきた経緯があります。いわゆる兵站国家として市の機能を果たしてきました。

沖縄の基地問題をはじめ、最近では「対テロ戦争」と関わる安全保障問題が問われています。また、1990年代にはカンボジア紛争の処理をめぐり日本のPKOが海外派兵〈派遣〉を行う転機を迎えました。これは、憲法9条や安保法制などとも密接に関連します。

本演習では、戦後アジアの紛争と和解をテーマに、日本とアジア、そしてアジアと世界におけるケースを扱いつつ、履修者の理解を深めます。

授業の到達目標

具体的な歴史的な史実を現代史、国際関係論、平和研究の視点から学びます。
そのために、平和研究のアプローチを理論面でも学び、現場中心の学びを行います。

成績評価方法

授業への参加と発表、討論などで50%の評価を行います。
定期レポートや試験（課題レポートの場合もある）で残りの50%の評価を行います。

講 義 内 容

論　系　ゼ　ミ

科 目 名	中東・イスラーム文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	２単位	春学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての理解を深めるために、教員による講義、共通テクストの輪読、参加者自身による調査と発表、討議を行います。

授業の到達目標

中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての知識を深めるとともに、参加者自身による調査に基づくゼミ論文を執筆するための能力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

アラビア語などの諸言語を学ぶことを推奨する。

科 目 名	中東・イスラーム文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての理解を深めるために、教員による講義、共通テクストの輪読、参加者自身による調査と発表、討議を行う。

授業の到達目標

中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての知識を深めるとともに、参加者自身による調査に基づくゼミ論文を執筆するための能力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

アラビア語などの諸言語を学ぶことを推奨する。

科 目 名	異文化受容論ゼミ （春学期）							
担当者名	小田島　恒志							
多元	２単位	春学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

外国の文化に触れるには、単に情報伝達を目的とした媒体以外にも、様々な機会、方法がある。それは、たとえば文学、演劇、映画、音楽、絵画などのように、知識としてではなく直接感性に訴えてくる場合もある。だが、その感性の持ち主がもともと異文化を背景に持っている以上、その伝わり方はどこまで有効なのだろうか。本国の人々が感じているものと同じ感覚で受容しているとは到底言えないのではないだろうか。

では、100%同じように感じることができないからと言って、それは無駄な行為かといえば決してそうではない。日本人が日本の文化を背景として外国文化を受け止める場合、それがプラスに働くこともあり得るだろうし、伝えようとする人間は、それを効果的に活用する場合もあるだろう。

担当教員自身は英語文化圏の演劇や小説の翻訳作業を通して常に上のようなことを考えている。たとえば、南アフリカの作家アソル・フガートの戯曲を日本で上演した際には、原文から読み取れる様々な文化をいかに日本語のセリフで表わせるか様々なレベルで苦心したが、演劇の場合、言葉で表わしきれない要素を、舞台美術や演出の力で見せることも可能であった。もちろん役者の技量によるものも大きい。

このように、異文化理解と受容が起こる実際の場（たとえば翻訳）において、とりこぼされる要素と、それに対して伝達者（たとえば翻訳家）がいかに工夫を施しているか、実際の作品を通じてのリサーチと、より効果的な伝達／表現法の更なる可能性を模索、提示することが本ゼミの目的である。

授業の到達目標

最終的に研究成果をゼミ論にまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　きちんと提出すること。
●**平常点**　80%　　授業中の activity。BBSへの参加を含む。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	異文化受容論ゼミ （秋学期）							
担当者名	小田島　恒志							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

外国の文化に触れるには、単に情報伝達を目的とした媒体以外にも、様々な機会、方法がある。それは、たとえば文学、演劇、映画、音楽、絵画などのように、知識としてではなく直接感性に訴えてくる場合もある。だが、その感性の持ち主がもともと異文化を背景に持っている以上、その伝わり方はどこまで有効なのだろうか。本国の人々が感じているものと同じ感覚で受容しているとは到底言えないのではないだろうか。

では、100%同じように感じることができないからと言って、それは無駄な行為かといえば決してそうではない。日本人が日本の文化を背景として外国文化を受け止める場合、それがプラスに働くこともあり得るだろうし、伝えようとする人間は、それを効果的に活用する場合もあるだろう。

担当教員自身は英語文化圏の演劇や小説の翻訳作業を通して常に上のようなことを考えている。たとえば、南アフリカの作家アソル・フガートの戯曲を日本で上演した際には、原文から読み取れる様々な文化をいかに日本語のセリフで表わせるか様々なレベルで苦心したが、演劇の場合、言葉で表わしきれない要素を、舞台美術や演出の力で見せることも可能であった。もちろん役者の技量によるものも大きい。

このように、異文化理解と受容が起こる実際の場（たとえば翻訳）において、とりこぼされる要素と、それに対して伝達者（たとえば翻訳家）がいかに工夫を施しているか、実際の作品を通じてのリサーチと、より効果的な伝達／表現法の更なる可能性を模索、提示することが本ゼミの目的である。

授業の到達目標

最終的に研究成果をゼミ論にまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　きちんと提出すること
●**平常点**　80%　　授業中のactivity。BBSへの参加を含む。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	アジア近世史ゼミ （春学期）							
担当者名	柳澤　明							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

※本ゼミは、社会構築論系の社会構造論ゼミ2（近代アジア社会の形成）に合併されるため、当該ゼミのシラバスと同一内容（4年生向けの部分）を掲載します。2018年度以前とは文面が異なりますが、共通点も多いので、あまり難しく考えなくても大丈夫です。

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での歴史的条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

また、このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げることも可とする。日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。 本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

前学期までの調査・発表内容を踏まえて、ゼミ論文の問題設定を確立し、必要な資料・データの収集・分析を進める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	アジア近世史ゼミ （秋学期）							
担当者名	柳澤　明							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

※本ゼミは、社会構築論系の社会構造論ゼミ2（近代アジア社会の形成）に合併されるため、当該ゼミのシラバスと同一内容（4年生向けの部分）を掲載します。2018年度以前とは文面が異なりますが、共通点も多いので、あまり難しく考えなくても大丈

論系ゼミ

夫です。
　このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。
　アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。
　もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での歴史的条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。
　また、このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げることも可とする。日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。 本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

　前学期までに収集した資料に基づく分析・論証を進め、ゼミ論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

　日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生・教員からのコメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	現代中国文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

　本ゼミは、現代中国の社会や文化に関心があり、これに関連するテーマに取り組む学生を対象とします。大陸だけでなく、台湾・香港・日本・東南アジア・欧米など、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れながら、現代中国をさまざまな視点から考え、理解を深めていきます。
　授業は、一つは共通のテクストの読解と議論、もう一つは受講者の発表と議論によって進めます。前者については、3年生が中心となります。共通のテクストについては、受講者の関心や語学力等を考慮した上で具体的な内容を決めます。後者については、おもに4年生が中心で、各自の関心に基づき資料を読解し、要約する作業を繰り返すことを通じて、ゼミ論文の構想を練り、完成させます。

授業の到達目標

　3年次生については、現代中国の社会や文化、歴史的背景について基本的な知識、資料収集の方法を身につけることを目標とします。4年次生については、基本的な知識を踏まえた上で、ゼミ論の準備および発表を通じてさまざまな論点に触れ、より幅広い視野から現代中国を語る視点を獲得することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　3年生は春学期に講読した資料の要約をA4レポート用紙1～2枚で作成し、提出してもらいます。秋学期の講読分をあわせ、1年の成果をまとめる予定です。4年生はゼミ論の章立て(案)と途中経過報告を提出してもらいます。
●**平常点**　60%　　出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となります。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	現代中国文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

　本ゼミは、現代中国の社会や文化に関心があり、これに関連するテーマに取り組む学生を対象とします。大陸だけでなく、台湾・香港・日本・東南アジア・欧米など、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れながら、現代中国をさまざまな視点から考え、理解を深めていきます。
　授業は、一つは共通のテクストの読解と議論、もう一つは受講者の発表と議論によって進めます。前者については、受講者の関心や語学力等を考慮した上で具体的な内容を決めます。後者については、各自の関心に基づき資料を読解し、要約する作業を繰り返すことを通じて、ゼミ論文の構想を練り、完成させます。

授業の到達目標

　3年次生については、現代中国の社会や文化、歴史的背景について基本的な知識を身につけるとともに、ゼミ論執筆に向けて各自のテーマを見つけることを目標とします。4年次生については、ゼミ論の準備や経過報告でさまざまな意見や論点に触れることを通じて、現代中国を語る視点を広げ、ゼミ論の完成を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　40%　　3年生は各自のゼミ論計画書と参考文献リストなどを作成してもらう予定です。4年生はゼミ論完成に向けてアウトラインや草稿などを段階的に提出してもらいます。
●**平常点**　60%　　出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となります。3年生は各自のゼミ論の準備を進め、ゼミ論構想を発表する他、1年間学んだことを総括する内容のプレゼンテーションをまとめてもらいます。4年生は草稿をもとにした発表をしてもらいます。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （春学期） A 中国の宗教的伝統を考える							
担当者名	森　由利亜							
多元	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本年度、当ゼミでは、中国の伝統的な民衆信仰の一部をなす「媽祖信仰」について考察することを共通課題として設定したます。中国福建の沿岸地域で発達した女神・媽祖に対する信仰は、中国本土のみならず、対岸の台湾や、香港、さらに日本を含む華人社会を擁する世界の諸都市に広がっている。一見、極めて狭い考察対象であるかのように見えるかもしれませんが、媽祖信仰とそれに関わる人々の生活や社会について視野を広げるのであれば、極めて多くの事柄にリンクしているはずです。ゼミ生には、媽祖信仰に関わる事柄の中に、自分が興味をもてる対象を見つけ出し、それについてゼミで報告していただきます。二コマ連続授業なので、受講生には両方とも受講できるように授業選択を調整していただけるようお願いします。

また、本ゼミでは例年海外での研修旅行を行っています。積極的に参加してください。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　原則としてレポートを課することはないが、ゼミの中で課題を設定する際に、レポート提出を求めることもあり得る。
●**平常点**　90%　　日頃の授業に積極的に参加しているかどうかを評価する。
●**その他**　10%　　10

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （春学期） B 中国の宗教的伝統を考える							
担当者名	森　由利亜							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本年度、当ゼミでは、中国の伝統的な民衆信仰の一部をなす「媽祖信仰」について考察することを共通課題として設定したます。中国福建の沿岸地域で発達した女神・媽祖に対する信仰は、中国本土のみならず、対岸の台湾や、香港、さらに日本を含む華人社会を擁する世界の諸都市に広がっている。一見、極めて狭い考察対象であるかのように見えるかもしれませんが、媽祖信仰とそれに関わる人々の生活や社会について視野を広げるのであれば、極めて多くの事柄にリンクしているはずです。ゼミ生には、媽祖信仰に関わる事柄の中に、自分が興味をもてる対象を見つけ出し、それについてゼミで報告していただきます。二コマ連続授業なので、受講生には両方とも受講できるように授業選択を調整していただけるようお願いします。

また、本ゼミでは例年海外での研修旅行を行っています。積極的に参加してください。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　原則としてレポートを課することはないが、ゼミの中で課題を設定する際に、レポート提出を求めることもあり得る。
●**平常点**　90%　　日頃の授業に積極的に参加しているかどうかを評価する。
●**その他**　10%　　10

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （秋学期） A 中国の宗教的伝統を考える							
担当者名	森　由利亜							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本年度、当ゼミでは、中国の伝統的な民衆信仰の一部をなす「媽祖信仰」について考察することを共通課題として設定したます。中国福建の沿岸地域で発達した女神・媽祖に対する信仰は、中国本土のみならず、対岸の台湾や、香港、さらに日本を含む華人社会を擁する世界の諸都市に広がっている。一見、極めて狭い考察対象であるかのように見えるかもしれませんが、媽祖信仰とそれに関わる人々の生活や社会について視野を広げるのであれば、極めて多くの事柄にリンクしているはずです。ゼミ生には、媽祖信仰に関わる事柄の中に、自分が興味をもてる対象を見つけ出し、それについてゼミで報告していただきます。二コマ連続授業なので、受講生には両方とも受講できるように授業選択を調整していただけるようお願いします。

また、本ゼミでは例年海外での研修旅行を行っています。積極的に参加してください。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　原則としてレポートを課することはないが、ゼミの中で課題を設定する際に、レポート提出を求めることもあり得る。

●**平常点**　90%　　日頃の授業に積極的に参加しているかどうかを評価する。
●**その他**　10%　　10

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ　（秋学期）　B　中国の宗教的伝統を考える							
担当者名	森　由利亜							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本年度、当ゼミでは、中国の伝統的な民衆信仰の一部をなす「媽祖信仰」について考察することを共通課題として設定したます。中国福建の沿岸地域で発達した女神・媽祖に対する信仰は、中国本土のみならず、対岸の台湾や、香港、さらに日本を含む華人社会を擁する世界の諸都市に広がっている。一見、極めて狭い考察対象であるかのように見えるかもしれませんが、媽祖信仰とそれに関わる人々の生活や社会について視野を広げるのであれば、極めて多くの事柄にリンクしているはずです。ゼミ生には、媽祖信仰に関わる事柄の中に、自分が興味をもてる対象を見つけ出し、それについてゼミで報告していただきます。二コマ連続授業なので、受講生には両方とも受講できるように授業選択を調整していただけるようお願いします。

また、本ゼミでは例年海外での研修旅行を行っています。積極的に参加してください。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　原則としてレポートを課することはないが、ゼミの中で課題を設定する際に、レポート提出を求めることもあり得る。
●**平常点**　90%　　日頃の授業に積極的に参加しているかどうかを評価する。
●**その他**　10%　　10

科 目 名	思想文化論ゼミ　（春学期）　A　漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、日本もしくは中国・台湾・韓国・ベトナムなど、漢字文化圏における前近代の思想・宗教・文学・美術などに興味を持つ学生を対象に設置します。

3年生は、まず漢字文化圏のあらゆる文献を読解するための基礎となる、古典漢文を正しく読むための訓練から入ります。漢文は、東アジアの共通言語として、様々な局面に用いられ、影響を与えていますが、漢文は基本的な法則と調査方法さえ身につければ、それほど難しいものではありません。四六駢儷文読解の基礎を身につけるため、長年培ったノウハウを、丁寧に伝授します。辞書の使い方や資料の調査方法ばかりでなく、パソコンを利用した検索方法をも指導します。また、大学院進学希望者に対しては、必要なアドバイスを与えます。

具体的には、平安朝漢文学の精華、『本朝文粋』から短い作品を選んで輪読しますが、きちんと指導するので、初学者でも不安を持つ必要はありません。

夏期には、3・4年生合同のゼミ合宿を実施し、東洋文化についての見聞と理解を深めます。また、希望者に対しては漢字文化圏への海外研修旅行も実施します。

授業の到達目標

漢文読解を通じて、東アジア文化全般についての理解を深めます。また、ゼミ論執筆に向けての指導を行います。

成績評価方法

レポート40%：春期末にレポートを課します。
平常点60%：ゼミの各種発表、参加態度、出席などを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ　（春学期）　B　漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、日本もしくは中国・台湾・韓国など、漢字文化圏における前近代の思想・宗教・文学・美術などに興味を持つ学生を対象に設置します。

4年生は、応用的な作品の輪読を行いつつ、ゼミ論の完成に向けて、個別の指導を行います。読解する作品については、学生の希望を聴いて決定します。また、辞書の使い方や資料の調査方法ばかりでなく、パソコンを利用した検索方法を指導し、大学院進学希望者に対しては、必要なアドバイスを与えます。

夏期には、3・4年生合同のゼミ合宿を実施し、東洋文化についての見聞と理解を深めます。また、希望者に対しては漢字文化圏への海外研修旅行も実施します。

授業の到達目標

ゼミ論の完成を最終目標に、指導を行います。また、漢文や日本古典読解を通じて、東アジア文化全般についての理解を深めます。

成績評価方法

平常点100%：ゼミの各種発表、ゼミ論計画発表、参加態度、出席などを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ （秋学期） A 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原 浩人							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春学期に同じ。

授業の到達目標

春学期に同じ。

成績評価方法

レポート40%：秋期末にレポートを課します。

平常点60%：ゼミの各種発表、参加態度、出席などを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ （秋学期） B 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原 浩人							
多元	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

合同授業以外は、ゼミ論の個別執筆指導を行います。

授業の到達目標

ゼミ論の完成を、最終目標とします。

成績評価方法

平常点100%：ゼミ論執筆指導に積極的に参加したか、ゼミ論公開口頭試問会できちんと発表できたかなどを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （春学期） A							
担当者名	河野 貴美子							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまでの日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を構築していきたいと考えています。東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察していきます。具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を読み深めると同時に、実際の作品・文献の輪読も合わせて行います。また、ゼミ論文に向けての準備を進め、構想発表を行います。

授業の到達目標

漢字・漢文文化を中心に、東アジア文化研究を進めていくために必要な知識や方法の習得を目指します。基本的な参考文献の利用法や、情報の収集方法を身につけるとともに、実際の作品・文献を通して基本的な読解作業、資料の活用にも取り組みます。また、各自のテーマにしたがってゼミ論文の構想に向けての調査、研究を合わせて進めていきます。

成績評価方法

●**試験** 0% 行わない。

●**レポート** 30% 内容、構成、資料の使い方などを総合的に評価します。

●**平常点** 70% 授業への参加状況および討論の内容。

●**その他** 0% 0

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （春学期） B							
担当者名	河野 貴美子							
多元	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

漢字・漢文文化に関する先行研究への理解を深めるとともに、作品・文献の輪読を行います。また、ゼミ論文の執筆、提出に向けて具体的な作業を進め、中間報告などを行っていきます。

授業の到達目標

東アジア文化研究に関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析検討する力を身につけます。漢字・漢文による作品・文献の読解にも習熟するとともに、より発展的な思考に展開できる応用力の獲得を目指します。そのうえで、各自のゼミ論文の中間報告を行い、ゼミ論文の完成に向けて執筆を進めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業への参加状況、発表等。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （秋学期） A							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまでの日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を構築していきたいと考えています。東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察していきます。具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を読み深めると同時に、実際の作品・文献の輪読も合わせて行います。また、ゼミ論文に向けての準備を進め、構想発表を行います。

授業の到達目標

漢字・漢文文化を中心に、東アジア文化研究を進めていくために必要な知識や方法の習得を目指します。基本的な参考文献の利用法や、情報の収集方法を身につけるとともに、実際の作品・文献を通して基本的な読解作業、資料の活用にも取り組みます。また、各自のテーマにしたがってゼミ論文の構想に向けての調査、研究を合わせて進めていきます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　30%　　内容、構成、資料の使い方などを総合的に評価します。
●**平常点**　70%　　授業への参加状況および討論の内容。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （秋学期） B							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

漢字・漢文文化に関する先行研究への理解を深めるとともに、作品・文献の輪読を行います。また、ゼミ論文の執筆、提出に向けて具体的な作業を進め、中間報告などを行っていきます。

授業の到達目標

東アジア文化研究に関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析検討する力を身につけます。漢字・漢文による作品・文献の読解にも習熟するとともに、より発展的な思考に展開できる応用力の獲得を目指します。そのうえで、各自のゼミ論文の中間報告を行い、ゼミ論文の完成に向けて執筆を進めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業への参加状況、発表等。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	日本文化史ゼミ （春学期）							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、2017年4月に発足した新しいゼミで、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論し、ゼミ論文完成に到達するための場所である。ここにいう「文化」は芸術や文学などの狭義の内容はいうまでもなく、特定の社会で共有される生活様式一般を含んでいる。受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていく。それらの活動を通じて、学問としての歴史学の方法論に触れ、ゼミ論文の完成を目指す。

【3年生】

春期：歴史学の出発点となる史料について、『日本史史料論』に基づく口頭報告により概観する。
　　また、『文学に現はれたる我が国民思想の研究』を通じて文化史への理解を深める。

秋期：春期の学習内容や夏季休暇期間中の学習を踏まえて、各自の研究テーマを設定し、先行研究などについて報告をする。

【4年生】

春期：前学期に設定したテーマについて、春期休暇などの時間を使用して論文の全体構想を練り、発表し、その適否を議論する。

秋期：夏期休暇などの時間を使用して1章分を目安に論文の一部を執筆、その独自性について発表し、提出にむけての最終的

な準備とする。
【その他】
木曜6限を次の用途に使用することがありうる。
・3年生・4年生のうち希望者がいる場合、和製漢文の読解などのさらに高度な研究・学習の場とする。
・4年生秋期には、論文指導に使用することがありうる。
・外部の講師を招聘する際に、講演時間に使用することがありうる。
授業計画における「研究発表」の一部を、現地見学などの活動に振り替えることがありうる。

授業の到達目標
ゼミ論文完成を最終目標として、各段階における内容を着実に消化することで、その準備を進める。
以上および以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 60% ゼミにおける報告内容
●**平常点** 40% 出席および授業時間中における発言
●**その他** 0% ※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として不合格とする。 ・主として欠席または遅刻により、初回授業終了時点で割振りが未定である者 ・当該学期のすべての発表担当回において、欠席、あるいは出席しても発表ができなかった者 ・出欠を確認した回の半数以上の欠席が認定された者（半数を含む）

科 目 名	日本文化史ゼミ （秋学期）							
担当者名	伊川 健二							
多元	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
本ゼミは、2017年4月に発足した新しいゼミで、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論し、ゼミ論文完成に到達するための場所である。ここにいう「文化」は芸術や文学などの狭義の内容はいうまでもなく、特定の社会で共有される生活様式一般を含んでいる。受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていく。それらの活動を通じて、学問としての歴史学の方法論に触れ、ゼミ論文の完成を目指す。
【3年生】
春期：歴史学の出発点となる史料について、『日本史史料論』に基づく口頭報告により概観する。
また、『文学に現はれたる我が国民思想の研究』を通じて文化史への理解を深める。
秋期：春期の学習内容や夏季休暇期間中の学習を踏まえて、各自の研究テーマを設定し、先行研究などについて報告をする。
【4年生】
春期：前学期に設定したテーマについて、春期休暇などの時間を使用して論文の全体構想を練り、発表し、その適否を議論する。
秋期：夏期休暇などの時間を使用して1章分を目安に論文の一部を執筆、その独自性について発表し、提出にむけての最終的な準備とする。
【その他】
木曜6限を次の用途に使用することがありうる。
・3年生・4年生のうち希望者がいる場合、和製漢文の読解などのさらに高度な研究・学習の場とする。
・4年生秋期には、論文指導に使用することがありうる。
・外部の講師を招聘する際に、講演時間に使用することがありうる。
授業計画における「研究発表」の一部を、現地見学などの活動に振り替えることがありうる。

授業の到達目標
ゼミ論文完成を最終目標として、各段階における内容を着実に消化することで、その準備を進める。
以上および以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 60% ゼミにおける報告内容
●**平常点** 40% 出席および授業時間中における発言
●**その他** 0% ※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として不合格とする。 ・主として欠席または遅刻により、初回授業終了時点で割振りが未定である者 ・当該学期のすべての発表担当回において、欠席、あるいは出席しても発表ができなかった者 ・出欠を確認した回の半数以上の欠席が認定された者（半数を含む）

科 目 名	ヨーロッパ文化論ゼミ（春学期） なぜ人びとは国民や民族の名のもとに争うのか？争えるのか？争わねばならないのか？①							
担当者名	中澤 達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
なぜ二つの世界大戦はヨーロッパで始まったのか？ なぜ近現代ヨーロッパの人びとは国民や民族（ネイション）のために命を賭してまで戦いあえたのか？ このような問いをたてるとき、必ず議論となるのが、そもそもヨーロッパの国民/民族は太古の昔から存在する共同体なのかどうか、あるいは、近代以降に創られた人工物なのかどうか、という論題である。現在の学説はふたつに割れている。前者は、国民/民族の起源を古代に置き血縁的・社会的連続性を重視する「原初論系本質主義」であり、後者は、18世紀の産業革命に際して国民/民族が構築ないしは捏造されたと理解する「近代論系構築主義」である。
近現代ヨーロッパ史研究において最大のテーマの一つとされる、近代国民/民族とそのナショナリズムの根源に関する研究方法（主にE・ゲルナー、B・アンダーソン、E・ホブズボーム、A・スミスの学説）を学び、近世後期以降のヨーロッパ文化を考察する際に必要な観点や諸学説の整理の仕方など、総合的な分析力を高める。

授業の到達目標

ヨーロッパ近現代史に関する日本語・欧語の著書や論文が、はたして原初論に依拠して書かれているのか、それとも近代論に基づき書かれているのか、しっかりと読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。 正確かつ論理的な研究発表をすることができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ヨーロッパ文化論ゼミ（秋学期） なぜ人びとは国民や民族の名のもとに争うのか？争えるのか？争わねばならないのか？②							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

1980年代以降のヨーロッパ・ナショナリズム研究は、近代論（modernizationtheory）と原初論（primordialism theory）ないしはエスノ象徴主義（ethnosymbolism）という図式のもとで論争が繰り広げられ、文化人類学・社会人類学・民族学・政治学・社会学・歴史学の領域を超えて世界レベルで深化した。なかでも「近代論系構築主義」の文化研究には、カルチュラル・スタディーズやポストコロニアル・スタディーズも加わり、2010年前後まで国民国家に関する論壇は活況を呈していた。しかし現在では、こうした盛況もいささか昔日のものとなった。なによりも注視しなければならないのは、原初論・近代論ともに理論的な限界が指摘されはじめていることである。

本ゼミでは、両学説の内実を詳細に検証し、その利点と問題点を史料分析も交えながら把握する。これによって、文献を解読する際に必要な実証力や諸学説の整理の仕方など、総合的な研究力をさらに高める。そのうえで、ナショナリズムのほか、愛国主義・自民族中心主義・排他主義・難民問題・移民問題・地域主義・EUの今後まで考えたい。

授業の到達目標

学説整理のうえでナショナリズムに関する実証的な論文を書くことができるようになること。簡潔で的確なプレゼンテーションができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、ゼミ論文とあわせて総合的に判断する。 正確かつ論理的な研究発表をすることができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ユーラシア文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	源　貴志							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

まずゼミ全体のなかで、つづいて少人数のグループのなかで、ゼミ生それぞれがどのような関心と知的背景を持つかを披瀝しあうことになる。春学期中はそれぞれのグループに4年生がコメンテーターとして参加してする。

なお、3年生にとってはまだ「広い関心」ということが、すなわち「関心が1点にさだまらない」状態であることが予想されるので、夏期休業中がテーマを絞っていくための読書・調査・思索の期間となるだろう。その手がかりをゼミ参加者や担当教員から得られるように、夏期休業中に2泊の合宿を設定する予定。

4年生は3年生への助言などを行ないながら、一方でゼミ論文執筆に向けての準備を進める。

授業の到達目標

3年生については、まずなによりもみずから興味をもつものの魅力を、それぞれの個性を生かしたかたちで第三者に伝えられるようになることが目標となる。

4年生については、ゼミ論文のテーマの確定と、核になる部分の執筆、全体の目次立てなどに目途をつけることが目標となる。

成績評価方法

平常点評価：100%　ディスカッションなど、日頃の活動の様子に加えて、発表資料などを評価の対象とする。

科 目 名	ユーラシア文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	源　貴志							
多元	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3年生にとっては、絞り込んだテーマをゼミ員に対して説明するようなプレゼンテーションの期間であり、同時に、ゼミ論文作成に向けて必要な、文献収集・調査などの計画を立てる期間となる。この期間は、ゼミ参加者それぞれと担当教員との個別の対話が重きをなすようになるだろう。1月から春休み期間中にかけては、計画に沿って文献収集・調査に当たる期間となる。

4年生はこの期間に個別指導を受けつつ、ゼミ内で論文執筆の途中経過を発表し、ゼミ員による反応を論文の最終稿に反映させることになる。

授業の到達目標

3年生については、4年次におけるゼミ論文執筆のためのテーマ設定がおぼろげながらも見えてくるようになることが目標となる。

4年生の目標は、言うまでもなく、ゼミ論文の完成であり、書き終わった瞬間に、みずからが達成感を得ることにある。

成績評価方法

平常点評価：100%　ディスカッションなど、日頃の活動の様子に加えて、発表資料などを評価の対象とする。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （春学期） A　イギリス諸地域に関する通時的な知識を身につけよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

前期はイギリス通史として、なんと新石器時代(!)から最近の出来事までを網羅したDargieの*A History of Britain*を扱う。大きな本ではあるが、さまざまな歴史項目をコンパクトに見開きでまとめ読みやすい体裁づくりを目指した"'A"History'に仕上がっている。ゼミ生一人ひとり（あるいはグループ）が担当の時代区分をまずは時系列的に概説した上で、関心のある歴史事象についてさらにリサーチを行い発表する。その際、プレゼンの体裁やスピーチ技術の向上にも留意してもらいたい。

なお、一年を通じ授業のはじめには、毎回ウォーミングアップとして欧米に古くから伝わる伝承童謡('nursery rhymes' or 'Mother Goose')を紹介する。まずは解釈を行い童謡の内容を把握した後、発音やメロディーに注意しながら暗記・暗唱してもらう。こちらに関しては予習の必要はないが、履修者の積極的なコミットメントが期待される（独唱、合唱、輪唱などなど…）。

※授業内では、日本語・英語を「公用語」として、積極的に発言してもらいたい。

授業の到達目標

ゼミ要項にも記したとおり、このゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「イギリス帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱い、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象に関する知識を深めることが目的である。

また、「ナーサリーライムズ」に親しむことによって、欧米の民衆文化だけでなく、文学をはじめ、映画、新聞など、現在でも数多くの場面に顔を出す、さまざまな伝承童謡の現代的意義や歴史性についても考える。

成績評価方法

●**試験**　10%　　授業の冒頭で行う「ナーサリーライムズ」に関するテスト
●**レポート**　40%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席を重視するほか、原則として、個人発表と授業における貢献度を評価基準とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （春学期） B　論文作成の基礎を身につけ、独創的な「自分だけの」ゼミ論を書き上げよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

4年生対象のこの「発展ゼミ」では、3年次の「基礎ゼミ」で培った基礎知識をふまえ、論文の形式や情報収集方法を学んだ上で自分自身のテーマに取り組み、最終的にゼミ論文としてまとめる。前期は論文執筆のための基礎能力育成と研究の経過報告を行う。

しかし、このゼミは、必ずしも「結果」としての論文や、それを執筆する行為だけを求めているわけではない。むしろ、(1)テーマの設定、(2)本や雑誌論文などの資料の収集・整理、(3)資料の正確な理解とその批判的考察、(4)収集した情報と各自の考察の報告と討論、(5)調査内容や自分の考えを論文として適切な構成と形式の文章にまとめあげる、といった「過程」を重視する。

イギリス・アイルランド・英連邦諸国を扱うゼミであるため、当然のことながら資料は日本語のもの（翻訳も含む）だけでなく英語のもの（原典）にもあたることが要求される。また、トピックや先行研究の紹介だけでなく執筆者自身の独創的な視点や解釈が求められることにも留意すること。

授業の到達目標

イギリス・アイルランド・英連邦諸国に関連するトピックから、論文として適切なテーマを設定し、十分な情報収集を行い、自分の考えをまとめ、論を組立て、それを文章および口頭で発信する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、提出物（※ゼミ論文自体は別評価）、発表と討論における貢献度により評価する。ゼミ論文の内容については、テーマと調査方法の適切さ、収集資料とその理解度、論理構成、論文形式、独創性などについて評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （秋学期） A　イギリス諸地域に関する共時的な知識を身につけよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期はおもに、多くの学生が関心を寄せている現在のイギリス社会を中心に、ナショナリズム、人種、階級、ジェンダーなどに関する現代的問題を扱った諸論文を読んでいく。まずは正確な英文読解をめざし、問題意識を培ったうえで、各自がリサーチ

論系ゼミ

を行う。学期の後半では、次年度に控えたゼミ論文の構想を練る段階まで到達したい。
なお、前期同様、授業のはじめには、毎回ウォーミングアップとして欧米に古くから伝わる伝承童謡('nursery rhymes' or 'Mother Goose')を紹介する。まずは解釈を行い童謡の内容を把握した後、発音やメロディーに注意しながら暗記・暗唱してもらう。こちらに関しては予習の必要はないが、履修者の積極的なコミットメントが期待される（独唱、合唱、輪唱などなど…）。
※授業内では、日本語・英語を「公用語」として、積極的に発言してもらいたい。<英語によるプレゼンテーション>もトレーニングの一環に含まれることになるだろう。

授業の到達目標

ゼミ要項にも記したとおり、このゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「大英帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱い、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象に関する知識を深めることが目的である。
また、「ナーサリーライムズ」に親しむことによって、欧米の民衆文化だけでなく、文学をはじめ、映画、新聞など、現在でも数多くの場面に顔を出す、さまざまな伝承童謡の現代的意義や歴史性についても考える。

成績評価方法

●**試験**　10%　　授業の冒頭で行う「ナーサリーライムズ」に関するテスト
●**レポート**　40%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席を重視するほか、原則として、発表と授業における貢献度を評価基準とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。
あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科目名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （秋学期） B　論文作成の基礎を身につけ、独創的な「自分だけの」ゼミ論を書き上げよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

4年生対象のこの「発展ゼミ」では、3年次の「基礎ゼミ」で培った基礎知識をふまえ、論文の形式や情報収集方法を学んだ上で自分自身のテーマに取り組み、最終的にゼミ論文としてまとめる。後期は中間発表を通じて検討をかさねながら、ゼミ論完成を目指す。しかし、このゼミは、必ずしも「結果」としての論文や、それを執筆する行為だけを求めているわけではない。むしろ、(1)テーマの設定、(2)本や雑誌論文などの資料の収集・整理、(3)資料の正確な理解とその批判的考察、(4)収集した情報と各自の考察の報告と討論、(5)調査内容や自分の考えを論文として適切な構成と形式の文章にまとめあげる、といった「過程」を重視する。イギリス・アイルランド・英連邦諸国を扱うゼミであるため、当然のことながら資料は日本語のもの（翻訳も含む）だけでなく英語のもの（原典）にもあたることが要求される。また、トピックや先行研究の紹介だけでなく執筆者自身の独創的な視点や解釈が求められることにも留意すること。

授業の到達目標

イギリス・アイルランド・英連邦諸国に関連するトピックから、論文として適切なテーマを設定し、十分な情報収集を行い、自分の考えをまとめ、論を組立て、それを文章および口頭で発信する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、提出物（※ゼミ論文自体は別評価）、発表と討論における貢献度により評価する。ゼミ論の内容については、テーマと調査方法の適切さ、収集資料とその理解度、論理構成、論文形式、独創性などについて評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Course N@viを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。
あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科目名	言語・文化・英語教育ゼミ （春学期）							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life. The focus of this seminar will be English Language Education Policy in Southeast Asia, special focus will be on the language policy of Japan. This course examines the role of English education in the social construction of national identities as well as in the global realities.

授業の到達目標

We will read three articles from which we have the glimpse of different societies. These articles will help us to understand the educational systems, successes, and problems of different countries. We will also learn how

education creates inequalities in the society. This course will enable you to understand global realities.

成績評価方法

Group presentation……20%
In-class writing……30%
Long paper……40%
Portfolio, home work, participation……10%

科 目 名	言語・文化・英語教育ゼミ （秋学期）							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life. On the other hand, some research has shown negative impact of education, as unequal school opportunities create discrimination based on wealth, gender, and socioeconomic role. The focus of this seminar will be English Language Education Policy in East and Southeast Asia. This course examines the impact of globalization in the language policies of East and Southeast Asia.

授業の到達目標

We will read three articles from which we have the glimpse of different societies. These articles will help us to understand the demands of globalization and the need to preserve the national identities. Sometimes English is linked with anti-Western cultural identities, sometimes with the global capitalism and sometimes with individual opportunity. We will learn what roles have language policies played in different countries in response to the globalization.

成績評価方法

Group presentation……20%
In-class writing……30%
Long paper……40%
Portfolio, home work, participation……10%

科 目 名	地中海文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ギリシア・ローマ文化を初めrとする地中海文化の諸問題について考える。受講生各自が設定したテーマを報告し、参加者で討論する。「カリキュラムポリシー」の「論系ゼミ」に当たる科目であり、「学生同士が互いに刺激し合い切磋琢磨する環境を通じて、・・・「ゼミ論文」」を完成させることを目指す。

論系ゼミ

授業の到達目標

ゼミ論文の作成および、地中海地方の諸文化についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・報告・討論内容によって総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	地中海文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ギリシア・ローマ文化を初めrとする地中海文化の諸問題について考える。受講生各自が設定したテーマを報告し、参加者で討論する。「カリキュラムポリシー」の「論系ゼミ」に当たる科目であり、「学生同士が互いに刺激し合い切磋琢磨する環境を通じて、・・・「ゼミ論文」」を完成させることを目指す。

授業の到達目標

ゼミ論文の作成および、地中海地方の諸文化についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・報告・討論内容によって総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	アメリカ文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

3rd-year students: (NOTE: The content and format of this seminar has changed from previous years.) The content and format of this seminar has changed from previous years.) The seminar will be an introduction to American studies, which is an interdisciplinary field of study focused on various aspects of American culture. We will organize our study of America around key topics (many of which are overlapping), such as national identity, race and ethnicity, class, gender, sexual orientation, globalization, immigration, regionalism, foodways, consumerism, countercultures, and so on. The seminar will emphasize "active learning," meaning students are expected to actively contribute to the class through participation, discussion based on homework assignments, presentations, among other things. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

4th-year students: The main focus of this course is to conduct research and produce a draft of the Graduation Thesis (4,000 words) to prepare for the final version (final version: 8,000 words) in the fall semester. Students will conduct research for the graduation thesis each week and do informal status reports and a presentation on their research to both 3rd-year and4th-year students during the semester. The class format will be research/writing workshops meeting with 3rd-year students. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

授業の到達目標

3rd-year students: Students will learn about various aspects of American culture and how to analyze culture from an academic perspective. They will also develop critical thinking, analytical skills, and English-language discussion skills. The main objective is to prepare students for researching and writing the Graduation Thesis during the fourth year.

4th-year students: Students will learn and practice academic research and writing skills for the main objective: to produce the graduation thesis.

成績評価方法

Evaluation for 3rd-year students:
Final paper 40%
Presentations (2 x 20 points) 40%
Participation/In-class activities 20%
TOTAL 100 %

Evaluation for 4th-year students:
Annotations (4 x 10 points) 40%
Bibliography 10%
First draft 20%
Thesis presentation　20%
Participation/In-class activities 10%
TOTAL 100 %

科 目 名	アメリカ文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

(NOTE: The content and format of this seminar has changed from previous years.)

3rd-year students: Students will begin doing research for the Graduation Thesis. Readings, discussions, and assignments will revolve around students' thesis topics. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

4th-year students: The main focus of this course is to conduct research and produce the Graduation Thesis. Each week, students will conduct research for the Graduation Thesis and share their research with the other students. The class format will be workshops. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

授業の到達目標

3rd-year students: Students will learn about various aspects of American culture and how to analyze culture from an academic perspective. They will also develop critical thinking, analytical skills, and English-language discussion skills. The main objective is to prepare students for researching and writing the Graduation Thesis during the fourth year.

4th-year students: Students will learn and practice academic research and writing skills for the main objective: to produce the graduation thesis.

成績評価方法

Evaluation for 3rd-year students:
Final paper 20%

Research reports (3 x 20 points) 60%
Participation/In-class activities 20%
TOTAL 100 %

Evaluation for 4th-year students:
First complete draft 60% (all or nothing)
Second complete draft (required to pass course)
Final draft (required to pass course)
Printed and bound copy (required to pass course)
Participation/In-class activities 40%
TOTAL 100 %

科 目 名	Seminar on Japanese Popular Culture and Media （Spring）							
担当者名	バナード　ジュニア　ピーター　ジョン							
多元	２単位	春クォーター	火３時限	金３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

This course introduces key themes, ideas, and methodologies in the study of media texts and networks, with special attention paid to issues relevant to contemporary Japanese popular culture. Students will be encouraged to think critically about the theoretical arguments that emerge in the course of our readings and discussions, and to apply these findings productively to their individual areas of interest within the field of media studies. (All readings for this course will be in English.)

授業の到達目標

1. Become familiar with the main theoretical and methodological currents in the field of media studies.
2. Develop the skills necessary to analyze media texts and networks from a variety of perspectives, including formal analysis.
3. Develop and practice analytical writing skills.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　Final Project
●**平常点**　30%　Attendance and Class Participation
●**その他**　30%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Japanese Popular Culture and Media （Fall）							
担当者名	センラージ・ラキ							
多元	２単位	秋学期	金曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

Students will begin doing research for the Graduation Thesis. Readings, discussions, and assignments will revolve around students' thesis topics.

授業の到達目標

Students will choose a suitable material for their graduation thesis and develop a productive research question to guide their thesis writing.

成績評価方法

Attendance and Participation: 30%
Written Assignments and Presentations: 40%
Final Project: 30%

論系ゼミ

科 目 名	Seminar on Performing Arts Culture in Japan （Spring）							
担当者名	高井　詩穂							
多元	２単位	春クォーター	火２時限	金２時限	３年以上	—	—	—

授業概要

In this zemi, we approach classical to contemporary Japanese culture from a global perspective, through aspects of visual culture, performance, and performing arts. "Performing arts" here are not limited to only performing arts in a narrow sense, such as Japanese theater, film, dance, music, festivals, etc., but also include literature, religion, folklore, art, history, thought, customs, contemporary society and popular culture. Students with similar interest will be forming subgroups to work together to deepen their understanding of the topic and research methods. The content of the class will be adjusted according to the needs and interests of the students.

授業の到達目標

In the Spring quarter, the students will focus on reading together basic primary and secondary works of the related topic in order to acquire basic knowledge and research methodology to find their own theme for the graduation thesis. By the end of the quarter, students will have a more focused research topic for their senior thesis to start doing their research.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　30%　　Larger writing assignments
●**平常点**　30%　　Attendance and participation
●**その他**　40%　　Presentations, quizzes, and per-class assignments

科 目 名	Seminar on Performing Arts Culture in Japan　(Fall)							
担当者名	高井　詩穂							
多元	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

In this zemi, we approach classical to contemporary Japanese culture from a global perspective, through aspects of visual culture, performance, and performing arts. "Performing arts" here are not limited to only performing arts in a narrow sense, such as Japanese theater, film, dance, music, festivals, etc., but also include literature, religion, folklore, art, history, thought, customs, contemporary society and popular culture. Students with similar interest will be forming subgroups to work together to deepen their understanding of the topic and research methods. The content of the class will be adjusted according to the needs and interests of the students.

授業の到達目標

In the Fall semester, the students will focus on refining their own theme for the senior thesis. By the end of the semester, the students will have a working thesis statement and bibliography, and have started writing their senior thesis.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　Larger writing assignments
●**平常点**　30%　　Attendance and participation
●**その他**　40%　　Presentations and per-class assignments

科 目 名	Seminar on Diversity in Japanese Culture　(Spring)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	２単位	春クォーター	月３時限	木３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

In Year One, students will read and discuss key scholarly works on diversity and multiculturalism, and gain a crucial understanding of the themes explored in this zemi. Students will be expected to choose their zemi thesis topic by the end of Year One. In Year Two, students will focus on their own research topics and ultimately write their graduation thesis. Through individual and collaborative group work, students will learn from their classmates and dig deeper into exploring their own topics from interdisciplinary and global perspectives.

授業の到達目標

【 Year One 】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with important scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【 Year Two 】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources, and interpret and incorporate them in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (40%)
3. Final Papers & Presentation (40%)

科 目 名	Seminar on Diversity in Japanese Culture （Fall）							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

In Year One, students will read and discuss key scholarly works on diversity and multiculturalism, and gain a crucial understanding of the themes explored in this zemi. Students will be expected to choose their zemi thesis topic by the end of Year One. In Year Two, students will focus on their own research topics and ultimately write their graduation thesis. Through individual and collaborative group work, students will learn from their classmates and dig deeper into exploring their own topics from interdisciplinary and global perspectives.

授業の到達目標

【 Year One 】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with important scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【 Year Two 】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources, and interpret and incorporate them in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (40%)
3. Final Papers & Presentation (40%)

論系ゼミ

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの歴史・ことばの地理）（春学期）							
担当者名	平田　彩奈恵							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3・4年生合同でゼミを行う。
3年生は文献を読み、概要の紹介と問題点、関連する問題について発表を行う。
4年生はゼミ論文の執筆に向けて構想をかため、ゼミ生の前で発表し、質疑応答を受けることで質の向上に努める。

授業の到達目標

3年生―文献を読み、自分なりに問題点を設定する力を身につける。「ことば」への問題意識を深める。
4年生―ゼミ論文の構想をかためる。章立てを確定し、春学期中にゼミ論文の一部を書き上げることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　3年生はそれぞれの問題意識に沿って、春学期に扱った文献にかかわるレポートを、4年生はゼミ論文の一部を書き上げ、提出する。
●**平常点**　50%　　授業での発表内容と、他の学生の発表に対する積極的な質疑を評価する。それぞれの研究で知ったこと、他の講義等で得た知識など、ゼミ生の間で積極的に情報を交換することを期待する。

●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの歴史・ことばの地理）（秋学期）							
担当者名	平田　彩奈恵							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3・4年生合同でゼミを行う。春学期に引き続き、3年生は文献を読み、その報告と関連する問題についての発表を行うが、秋学期は各自の関心に応じて文献を設定する回も設ける。

4年生はゼミ論文の中間発表を行い、質疑応答を通して各自の論文の質の向上に努める。

授業の到達目標

3年生―ゼミ論文執筆に向けて各自の問題意識を深め、その追究に必要な知識を身につける。

4年生―質の高いゼミ論文を執筆する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。

●**レポート**　50%　　3年生は授業中に扱った文献にかかわるレポートを作成する。

●**平常点**　50%　　授業中の発表内容および他の学生の発表に対する積極的な質疑応答を評価する。それぞれの研究で知ったこと、他の授業で得た知識等の情報を受講生同士で交換し、主体的に取り組むことを期待する。

●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（春学期）　A							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。

●**平常点**　70%　　発表（複数回）とディスカッションへの参加度を評価対象とします。

●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（春学期）　B							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。

●**平常点**　70%　　発表（複数回）とディスカッションへの参加度を評価対象とします。

●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（秋学期） A							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　70%　　発表（複数回）とディスカッションへの参加度を評価対象とします。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（秋学期） B							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　70%　　発表（複数回）とディスカッションへの参加度を評価対象とします。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

論系ゼミ

科 目 名	文化人類学ゼミ（＜伝統＞文化とその変動）（春学期） 下町を文化人類学的に歩いて、見る、調べる。							
担当者名	西村　正雄							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学をより専門的に知ってもらうため、基礎理論の確立を目指す。特に文化のもつ保守性とそえを変えてゆこうとする力、およびそうした環境の変化への適応の仕方について、理論的な文献学習とディスカッションを通して知識を深める。その上で、東京の下町についての先行研究検討、東南アジアの社会と文化についての先行研究検討を行い、東京、そして時に応じて東南アジアでのフィールド調査の検証準備を行う。

授業の到達目標

本ゼミでは、文化人類学的考え方、それをもとにどのように問題意識を持つか、問題を解決するための情報を収集するための方法、といった基本的なことを教える。そのうえで、下町をフィールドとして、各学生が自分で問題を見つけてそれを解決することを目標とする。その結果としてゼミ論の完成をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　授業全体の理解度を対象とする。
●**平常点**　50%　　ゼミのディスカッションの参加度を対象とする。フィールドワークでの参加態度が特に重要である。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

文化人類学関連の講義、演習を幅広く履修することを推奨する。

科 目 名	文化人類学ゼミ（<伝統>文化とその変動）（秋学期）「伝統」文化について考える。							
担当者名	西村　正雄							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学をより専門的に知ってもらうため、基礎理論の確立を目指す。特に文化のもつ保守性とそれを変えてゆこうとする力、およびそうした環境の変化への適応の仕方について、理論的な文献学習とディスカッションを通して知識を深める。その上で、東京の下町についての先行研究検討、東南アジアの社会と文化についての先行研究検討を行い、東京、そして時に応じて東南アジアでのフィールド調査の検証準備を行う。

授業の到達目標

本ゼミでは、文化人類学的考え方、それをもとにどのように問題意識を持つか、問題を解決するための情報を収集するための方法、といった基本的なことを教える。そのうえで、下町をフィールドとして、各学生が自分で問題を見つけてそれを解決することを目標とする。その結果としてゼミ論の完成をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　授業全体の理解度を対象とする。
●**平常点**　50%　　ゼミのディスカッションの参加度を対象とする。フィールドワークの参加態度が特に重要である。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

文化人類学関連の講義、演習を幅広く履修することを推奨する。

科 目 名	文化人類学ゼミ（文化ツーリズム論）（春学期）　A							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は学期開始前に配布する予定の文献リストを参照にしながら、各自の問題意識を実体化し、春学期中に具体的なフィールドを選定する。そのプロセスについては、研究報告という形で発表し、その内容について討議をおこなう。その結果に基づき、夏期休業期間を中心に各自でフィールドワークをおこなう。

なお、夏期休業中にゼミ合宿を予定している。詳細な日程等については、授業中に指示する。

授業の到達目標

ゼミ論文のテーマ設定、予備調査のための計画立案と実施。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（文化ツーリズム論）（春学期）　B							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は、3年次の研究計画に基づき、各自のフィールドワーク、文献調査を継続し、ゼミ論文の完成を目指す。途中経過については逐次研究報告をし、その内容についてはゼミ参加者による討議の上、修正等をおこなう。

授業の到達目標

ゼミ論文の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（文化ツーリズム論）（秋学期）　A							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は学期開始前に配布する予定の文献リストを参照にしながら、各自の問題意識を実体化し、各自の調査を継続するとともに、詳細かつ具体的な本調査に向けての研究計画書の作成に向けて準備を進め、1月末には、各自、研究計画書（レポート）を提出する。

授業の到達目標
各自の調査に基づく研究報告と討議を経て、ゼミ論文計画書としてのレポート（8000字）を提出。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（文化ツーリズム論）（秋学期） B							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は、3年次の研究計画に基づき、各自のフィールドワーク、文献調査を継続し、ゼミ論文の完成を目指す。途中経過については逐次研究報告をし、その内容についてはゼミ参加者による討議の上、修正等をおこなう。

授業の到達目標
ゼミ論文の完成。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（春学期） A							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、宗教の人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標
宗教人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　フィールドワークの報告書を対象とする。
●**平常点**　50%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（春学期） B							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、宗教の人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標
宗教人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　研究計画レポートを対象とする。
●**平常点**　50%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（秋学期） A　Anthropology of Religion							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、宗教の人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実

施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標

宗教人類学の射程を把握し、各自の研究テーマを設定することを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　研究計画レポートを対象とする。
●**平常点**　50%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化人類学ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（秋学期） B　Anthropology of Religion							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。テキストの講読や、各自のフィールドワークを踏まえて、宗教なるものについての独自の考察の成果を、ゼミ論文としてまとめ上げることを目的とする。

授業の到達目標

宗教人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　100%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文化人類学ゼミ（移動・移住の人類学）（春学期） A							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 春学期には、移動・移住に関する文化人類学および隣接分野の基礎研究を購読し、担当者に報告してもらった後、全員で討議を行います。そして、その過程で各自が研究テーマを絞り、学期後半には今後（ゼミ論文）の調査研究に向けた計画を立て、発表してもらう予定です。

授業の到達目標

①移動・移住という現象に関して、文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献から学び、基本的な知識を得る。
②関連するフィールド調査を通じて移動・移住の実証的な研究の可能性を探って、各自の研究テーマを絞り、研究計画を作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　20%　　学期末に、ゼミ論文に向けた調査計画を提出してもらいます。
●**平常点**　80%　　発表や報告の内容およびディスカッションへの参加状況から評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

参加者の希望により、予定を調整した上で、授業時間外（週末など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	文化人類学ゼミ（移動・移住の人類学）（春学期） B							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討していきます。 春学期には、3年次に立てた研究計画にもとづき、フィールドワーク、文献調査、執筆を進めるとともに、進捗状況を報告してもらいます。そして、全員でのディスカッション等から、適宜内容を修正し、論文の完成を目指します。

授業の到達目標

①自身の設定したテーマにもとづき、必要な文献調査とフィールドワークを計画し、実施できる。
②調査内容を学術論文の形式にのっとってまとめ、論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　学期末のレポート課題はありません。
●**平常点**　100%　　発表や報告の内容およびディスカッションへの参加状況、ゼミ論文への取り組みから評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

参加者の希望により、予定を調整した上で、授業時間外（週末など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	文化人類学ゼミ（移動・移住の人類学）（秋学期）　A							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 秋学期は、各自の関心にそってさらに関連文献を購読し、報告・討議を行うとともに、ゼミ論文完成に向けて研究テーマを絞り込み、各自の調査研究を開始する予定です。

授業の到達目標

①各自が選んだテーマについて、文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献を調べ、基本的な知識を得る。
②関連するフィールド調査を通じ、移動・移住の実証的な研究の可能性を探り、最終的には各自の関心を明確にして、ゼミ論文完成に向けた調査研究を開始する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　学期末に、ゼミ論文に向けた中間レポート（8000字程度）を提出してもらいます。正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点**　60%　　報告および発表の内容、ディスカッションへの参加状況によって評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

参加者の希望により、予定を調整の上、授業時間外（週末など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	文化人類学ゼミ（移動・移住の人類学）（秋学期）　B							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 秋学期は、各自、論文完成に向けて必要な補充調査（文献調査およびフィールドワーク）を実施したうえで論文を執筆し、ゼミでの報告とディスカッションを通じて内容を適宜修正しながら、論文を完成させます。

授業の到達目標

①自身の設定したテーマにもとづき、必要な文献調査とフィールドワークを計画し、実施できる。
②調査内容を学術論文の形式にのっとってまとめ、論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　学期末のレポート課題はありません。
●**平常点**　40%　　報告や発表の内容およびディスカッションへの参加状況、ゼミ論文への取り組みによって評価します。
●**その他**　60%　　ゼミ論文によって評価します。

備考・関連URL

参加者の希望により、予定を調整の上、授業時間外（週末など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	異文化接触ゼミ（都市と美術）（春学期）　A							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

都市と美術の諸問題を多角的に考えていきます。私たちの暮らす都市が、安全で便利であることは穏やかで安心できる暮らしを支える重要な要件です。しかし、質の高い、豊かな生活を実現するためには、ただ、安全で便利である、ということだけでは十分とはいえません。美術やアートの力は、美しい街並みや環境を創造し、私たちの暮らしや生活の質を高め、私たちの人生を豊かにしてくれる重大な要素です。都市のなかにおける美術や美的な力について、ここでは皆で一緒に見つけ、考察していきます。具体的には、都市のなかの街並み、建築、美術館、ギャラリー、パブリックアート、アートイベントなどを中心に、都市を

総合的に俯瞰してみていきます。授業では、こうした問題を具体例に探るべく、見学会などを実施しつつ、グループ学習を中心に進めます。なお春学期には、韓国の大学（漢陽大学、慶熙大学、成均館大学）との交流授業をソウルで実施する予定です。そのため、前半はとくに、ソウルの各大学にて行う交流授業のための準備を中心に行います。

授業の到達目標

都市と美術を研究する基本的アプローチの手法を身につけることを目標とします。パワーポイントによる発表や、他の受講生の発表に対する質問、議論などができるようになることもここでの目的です。

成績評価方法

授業への参加度に応じる。

科 目 名	異文化接触ゼミ（都市と美術）（春学期） B							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

都市と美術の諸問題を多角的に考えていきます。私たちの暮らす都市が、安全で便利であることは穏やかで安心できる暮らしを支える重要な要件です。しかし、質の高い、豊かな生活を実現するためには、ただ、安全で便利である、ということだけでは十分とはいえません。美術やアートの力は、美しい街並みや環境を創造し、私たちの暮らしや生活の質を高め、私たちの人生を豊かにしてくれる重大な要素です。都市のなかにおける美術や美的な力について、ここでは皆で一緒に見つけ、考察していきます。具体的には、都市のなかの街並み、建築、美術館、ギャラリー、パブリックアート、アートイベントなどを中心に、都市を総合的に俯瞰してみていきます。各自、こうした問題意識を養い、自身の研究テーマを見いだし、ゼミ論執筆に向けての準備を進めます。

授業の到達目標

ゼミ論執筆に向けてテーマの設定を行います。続いて、文献の準備、内容の構成、執筆へと、自身のテーマに基づき進め、ゼミ論が書けるようにします。

成績評価方法

授業への参加度、レポートなどによる。

科 目 名	異文化接触ゼミ（都市と美術）（秋学期） A							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春学期に引き続き、都市と美術の諸問題を考えます。展覧会見学のほか、秋学期には、国内の都市を数日間合宿で訪れ、美術館、および地域と美術の問題を考える授業を実施する予定です。グループごとに建築、現代アート、伝統美術、工芸など、アートかかわるテーマ設定を行い、それぞれその地域における特性について事前学習にて学んだのち、計画を立て、実見・調査します。また創造理工学部・建築学科の学生たちと進めているプロジェクトとして、丸の内地区に関わる調査・研究をさらに進めます。

授業の到達目標

日本の地方都市における美術館や街を訪問、調査することで、都市とアートの問題を東京、および春に訪れたソウルと比較検討することで、私たちの生活や社会におけるアートのあり方について問題意識をもち、考えることができるようにします。また、こうしたゼミの活動を通して、各個人のゼミ論のテーマについて設定ができるようにします。

成績評価方法

授業への参加度に応じる。

科 目 名	異文化接触ゼミ（都市と美術）（秋学期） B							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

展覧会見学を織り交ぜながら、その都度、現在のアートの状況に触れていくようにします。とくに、国内の地方都市を合宿にて数日訪れ、グループ学習します。建築、街並み、現代アート、美術館、伝統美術、工芸など、各グループごとにテーマを設定し、あらかじめ事前調査を行い、現地ではそれに沿って実見・調査します。また同時に、春学期に引き続き、ゼミ論の執筆を進め、完成を目的とします。また創造理工学部・建築学科の学生たちと共同で行っているアート・プロジェクトを進めます。

授業の到達目標

最終的なアート・プロジェクトの完成を目指します。ゼミ論ではそれぞれのテーマについての研究を完成します。

成績評価方法

授業への参加度、レポートに応じる。

科 目 名	異文化接触ゼミ（文化変容論）（春学期） 文化の伝播、接触、変容、そして創造							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

過去と現在に接触を持ち、それによって相互または一方的な影響を通じて変容した文化の有り方について、多様な興味のメンバーによる発表と討議を通じて、様々な文化の変容について学んで行きたいと思います。担当教員の興味はヘレニズムとルネサンスにありますが、受講者の皆さんとともに、古今東西の文化、教養、芸術について考えながら、それぞれが興味を持っている文化のあり方の接点を探り、その関係性を考察し、論じ合い、それらについてまとめて行こうと考えています。「言語と文化」、

「宗教と文化」、「絵画、彫刻、建築、音楽、映画、思想、文学に見られる文化の変容と影響」などをテーマとして授業を進めていきます。

授業の到達目標

異文化との接触と変容による創造行為を通して、比較文学を含む文化活動について広い視野から学んでいく。

成績評価方法

●**試験** 0%　平常点で評価します。
●**レポート** 0%　平常点で評価します。
●**平常点** 100%　ゼミ発表と討論への参加度を平常点として評価します。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	異文化接触ゼミ（文化変容論）（秋学期） 文化の伝播、接触、変容、そして創造							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

過去と現在に接触を持ち、それによって相互または一方的な影響を通じて変容した文化の有り方について、多様な興味のメンバーによる発表と討議を通じて、様々な文化の変容について学んで行きたいと思います。担当教員の興味はヘレニズムとルネサンスにありますが、受講者の皆さんとともに、古今東西の文化、教養、芸術について考えながら、それぞれが興味を持っている文化のあり方の接点を探り、その関係性を考察し、論じ合い、それらについてまとめて行こうと考えています。「言語と文化」、「宗教と文化」、「絵画、彫刻、建築、音楽、映画、思想、文学に見られる文化の変容と影響」などをテーマとして授業を進めていきます。

授業の到達目標

異文化との接触と変容による創造行為を通して、比較文学を含む文化活動について広い視野から学んでいく。

成績評価方法

●**試験** 0%　平常点で評価します。
●**レポート** 0%　平常点で評価します。
●**平常点** 100%　ゼミ発表と討論への参加度を平常点として評価するが、3年生はゼミ論の計画書を提出し、それも評価の対象とする。
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	異文化接触ゼミ（メディア・コミュニケーション論）（春学期） 人とAI・ロボットが共生する社会の構想							
担当者名	砂田　薫							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

AI（人工知能）が社会の様々な分野で活用されるようになり、いよいよ人とAIの共生が重要な課題となってきました。また、テクノロジーの進展によって、フィジカル（物理）空間とサイバー（仮想）空間の融合はさらに進んでいくと予想されています。産業・分野における既存の境界が消失し、人間と機械の境界ですら曖昧になりつつあります。こうした大きな変化によって、私たちはあらためて学び方、働き方、そして生き方そのものに再考を迫られる時代となりました。

本ゼミでは、このような問題意識を出発点として、人や社会が直面する諸課題を分析し、未来の社会を構想します。ゼミ生は年間の共同プロジェクトへの参加し知識や方法論を共有しながら、個人のテーマをみつけ、ゼミ論に向けて個人プロジェクトを立ち上げます。

授業の到達目標

（1）AI社会に直面するプライバシー、雇用、教育・福祉などの諸課題について研究し理解を深めましょう。
（2）プレゼンや報告書作成を通じて、ゼミ論執筆に必要な基礎能力を身につけましょう。
（3）ディスカッション、プレゼン能力を高めましょう。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30%　ゼミ論または報告書の担当箇所を評価します。
●**平常点** 70%　ゼミにおけるプレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの参加度と貢献度を総合評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	異文化接触ゼミ（メディア・コミュニケーション論）（秋学期） グローバル化とデジタルメディア							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期は、前期並びに夏休み中に行った「若者とメディア」に関するフィールドワークの結果を参加者全員で共有し、分析し、プレゼンテーションやディスカッションを通して、最終的に一つの報告書の形にまとめていきます。報告書の作成を通して、テーマの設定、概念装置の抽出、調査項目の作成、フィールドワーク、データ分析、理論化など、ゼミ論執筆に必要な基礎能力を身につけましょう。一年間の共同プロジェクトに参加し知識や方法論を共有しながら、自分の関心にあったテーマを見つけ、ゼミ論に向けて個人プロジェクトを立ち上げます。学年末には参加者は全員、ゼミ論に関するテーマに関するプレゼンテーションを

行い、プロポーザルを提出します。
4年生は、夏休み中に行ったフィールドワークの分析について、ゼミ論発表会を行います。個人プロジェクトの発表によって、プレゼンテーションスキルを磨くと共に、参加者から得られたフィールドワークをもとに論文の書き直しや推敲を行い、よりよいゼミ論を完成させていきましょう。

授業の到達目標

1.「若者とメディア」に関する共同プロジェクトを通して、グローバル化、デジタル化された現代社会における好機とリスク、メディアの役割について理解を深めましょう。
2. 報告書の作成を通して、テーマの設定、概念装置の抽出、調査項目の作成、フィールドワーク、データ分析、理論化など、ゼミ論執筆に必要な基礎能力を身につけましょう。
3. グローバル人材に必要とされる「他者」への理解とコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験** 0% ―
●**レポート** 30% ゼミ論または報告書の担当章をレポートとして評価します。
●**平常点** 70% ゼミにおけるプレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの参加度と貢献度などの総合評価
●**その他** 0% ―

科 目 名	異文化接触ゼミ（アジアの思想交流）（春学期） アジアの思想交流							
担当者名	土田 健次郎							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	―	―	―

授業概要

アジアにおける思想文化交流を中心に取り上げるが、ヨーロッパ思想などアジア以外の思想との交渉や比較も視野に入れていく。文献講読や、報告・質疑応答を通して、受講生が基礎学力を身につけ、自分の研究テーマに対する学識と理解を深めるようにしていきたい。
なお本ゼミは、ディプロマポリシーに則り文化交流に深い理解を持つ人材を育成し、カリキュラムポリシーに則り受講生の相互研鑽の中で各自の文化研究をゼミ論文に結実させるためのものである。

授業の到達目標

アジアの思想交流についての学識を深めながら、卒業時に提出するゼミ論につながるゼミレポートを書き上げる。

成績評価方法

授業における報告と質疑応答の内容をもとに総合判定する。

科 目 名	異文化接触ゼミ（アジアの思想交流）（秋学期） アジアの思想交流							
担当者名	土田 健次郎							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	―	―	―

授業概要

アジアにおける思想文化交流を中心に取り上げるが、ヨーロッパ思想などアジア以外の思想との交渉や比較も視野に入れていく。文献講読や、報告・質疑応答を通して、受講生が基礎学力を身につけ、自分の研究テーマに対する学識と理解を深めるようにしていきたい。
なお本ゼミは、ディプロマポリシーに則り文化交流に深い理解を持つ人材を育成し、カリキュラムポリシーに則り受講生の相互研鑽の中で各自の文化研究をゼミ論文に結実させるためのものである。

授業の到達目標

アジアの思想交流についての学識を深めながらゼミ論を書き上げる。

成績評価方法

授業における報告と質疑応答の内容をもとに総合判定する。

科 目 名	感性文化ゼミ（現代の文化哲学）（春学期）							
担当者名	小林 信之							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	―	―	―

授業概要

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり「共生」することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。具体的なテーマとしては、以下のテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわっています。すなわち、「自己と他者」「時間と物語」「空間と身体」「エロスとタナトス」「美と創造性」「日本の美学」といったテーマ系です。
（授業計画はWebシラバスに記載した通りですが、順番と内容は随時変更されます。）

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%

●**平常点**　100%　　演習発表、出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

哲学的思考によって深く考える力を養成すると同時に、具体的な芸術文化現象に触れることで、文字通り感性を研ぎ澄ますことをめざしています。なにより、「学ぶことの喜び」が感じられるようなゼミにしていきたいと思います。美術館やギャラリー、劇場などを実際に尋ねたり、また遠隔地へのゼミ旅行等も企画していく予定です。
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	感性文化ゼミ（現代の文化哲学）（秋学期）							
担当者名	小林　信之							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり「共生」することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。具体的なテーマとしては、以下のテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわっています。すなわち、「自己と他者」「時間と物語」「空間と身体」「エロスとタナトス」「美と創造性」「日本の美学」といったテーマ系です。
（授業計画はWebシラバスに記載した通りですが、順番と内容は随時変更されます。）

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　演習発表、出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

哲学的思考によって深く考える力を養成すると同時に、具体的な芸術文化現象に触れることで、文字通り感性を研ぎ澄ますことをめざしています。なにより、「学ぶことの喜び」が感じられるようなゼミにしていきたいと思います。美術館やギャラリー、劇場などを実際に尋ねたり、また遠隔地へのゼミ旅行等も企画していく予定です。
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	感性文化ゼミ（日本の美意識）（春学期）							
担当者名	陣野　英則							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

論系ゼミ

授業概要

遠い過去から現代にいたるまで、日本の諸文化を生成した人々、またそれらを積極的に享受した人々はどのような感性をはたらかせ、またどのような美意識をもっていたのだろうか。このゼミでは、感性と美意識とを手かがりにしつつ日本文化の特質について考えてゆく。あわせて、学生相互の討論と教員の指導を通じ、おのおのの研究テーマを確立してゆく。
考察の対象は、古典から近現代の文学、藝能、藝術、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまでわたることがありうるし、アプローチのしかたも多岐にわたってよいのだが、このゼミにおいては、特に次の①～③の点を重視しながら、各人の研究テーマを明確なものにしてゆく。
① 前近代の文化におけるものの見方、感じ方、考え方をおさえることに努める。
② 近代以降、西欧の文化（特に言葉・観念・思想など）との接触がもたらしたものを意識する。
③ 日本文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかということをとらえる。
春学期は、特に①を重視して関係する文献をとりあげ、3年生に発表してもらう。 また、4年生についてはゼミ論の中間発表が課される。

授業の到達目標

ステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心を真にはたらかせるようになることと、煩をいとわずに参照すべき文献にあたる習慣をつけることをめざす。また4年生は、これらに加え、自身のテーマに基づいたゼミ論の構想を明確なものとし、12月の完成に向けて一部の章の内容をかためてゆくことをめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミでの発表内容、討議の時間における発言内容、出席状況などによる。
●**その他**　0%

備考・関連URL

夏休み中（例年は9月中旬）にゼミ合宿を行う予定（日程については4月に相談する）。

科 目 名	感性文化ゼミ（日本の美意識）（秋学期）							
担当者名	陣野　英則							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

遠い過去から現代にいたるまで、日本の諸文化を生成した人々、またそれらを積極的に享受した人々はどのような感性をはたらかせ、またどのような美意識をもっていたのだろうか。このゼミでは、感性と美意識とを手かがりにしつつ日本文化の特質について考えてゆく。あわせて、学生相互の討論と教員の指導を通じ、おのおのの研究テーマを確立してゆく。

考察の対象は、古典から近現代の文学、藝能、藝術、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまでわたることがありうるし、アプローチのしかたも多岐にわたってよいのだが、このゼミにおいては、特に次の①～③の点を重視しながら、各人の研究テーマを明確なものにしてゆく。

① 前近代の文化におけるものの見方、感じ方、考え方をおさえることに努める。
② 近代以降、西欧の文化（特に言葉・観念・思想など）との接触がもたらしたものを意識する。
③ 日本文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかということをとらえる。

秋学期は、特に②と③を重視して関係する文献をとりあげ、3年生に発表してもらう。 また、4年生についてはゼミ論の中間発表と草稿(一部)の提出が課される。

授業の到達目標

ステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心を真にはたらかせるようになることと、煩をいとわずに参照すべき文献にあたる習慣をつけることをめざす。また、3年生は、次年度のゼミ論執筆に備え、自身の研究テーマを明確なものにしてゆくことをめざす。4年生は、質の高いゼミ論の完成をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミでの発表内容、討議の時間における発言内容、出席状況、ゼミ論の構想に関わる提出物(3年のみ)などによる。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	感性文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（春学期）　A							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。春期は主に文献講読を通じて学術的なアプローチの基礎を鍛錬していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので(他学部等でも可)社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する)。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	感性文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（春学期）　B							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現

象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。
演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。春期は主に文献講読を通じて学術的なアプローチの基礎を鍛錬していく予定。
科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	感性文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（秋学期） A							
担当者名	山田　真茂留							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。
集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。
演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。秋期は主に各人ないし各グループが独自に行った探究の成果を報告していく予定。
科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つを、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	感性文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（秋学期） B							
担当者名	山田　真茂留							
複合	２単位	秋学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。
集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。
演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。秋期は主に各人ないし各グループが独自に行った探究の成果を報告していく予定。
科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つを、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	感性文化ゼミ（現代文明への視座）（春学期）							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3年生へ：ゼミ論へ向けて最初の助走を開始します。したがって、基本的には春期と秋期を通じて、ゼミ参加学生に自分のテーマに関して発表をしてもらいます。ゼミ開始までに、自分の関心事を整理しておいてください。4年生へ：昨年度の発表を発展させて、ゼミ論へつなげていきます。

授業の到達目標

ゼミ論という最終目標のために、各自ゼミ論へ向けて準備をする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業時に発表のものを仕上げて提出
●**平常点**　50%　　各自のプレゼンをおこなう
●**その他**　0%　　0

科 目 名	感性文化ゼミ（現代文明への視座）（秋学期）							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3年生へ：各自の春期発表を発展させて、ゼミ論へつなげていきます。4年生へ：各自の春期発表を発展させて、最終的にゼミ論へつなげていきます。

授業の到達目標

ゼミ論という最終目標のために、各自ゼミ論へ向けて準備をする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業時に発表のものを仕上げて提出
●**平常点**　50%　　各自のプレゼンをおこなう
●**その他**　0%　　0

科 目 名	メディア社会論ゼミ （春学期） A							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

写真、映画、テレビという視覚的なメディアを中心にして、メディアが「社会」にどのように影響を与えてきたのかを、メディア史・メディア論の文献を中心にして考察する。その後で、メディア研究に関する共通の研究目的をたてて、共同で調査・研究を行い、報告書を作成する。社会がメディアとして構成され、メディアが社会そのものと化すような事例を取り上げる予定である。

授業の到達目標

社会がメディア的に構成されていることを批判的に理解すること。

成績評価方法

ゼミへの出席と参加度などで総合的に評価する

科 目 名	メディア社会論ゼミ （春学期） B							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3年生で学んだメディア社会学的思考を自分で試すため、自ら決めた研究テーマに沿ってゼミ論を書く。したがってゼミは各自の中間報告と議論を中心に展開される。ただし、できる限りでゼミAにも出席して、3年生の研究をサポートすること。

授業の到達目標

各自がゼミ論を完成させること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	メディア社会論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	長谷 正人							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

写真、映画、テレビという視覚的なメディアを中心にして、メディアが「社会」にどのように影響を与えてきたのかを、メディア史・メディア論の文脈から考える。メディア研究に関する共通の研究目的をたてて、共同で調査・研究を行い、報告書を作成する。

授業の到達目標

メディア研究のアイロニーを理解すること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	メディア社会論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	長谷 正人							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

各自のゼミ論を報告して、議論する。

授業の到達目標

各自がゼミ論を完成させること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	幻影論ゼミ （春学期） A 多様なメディアの作品を分析する							
担当者名	岡室 美奈子							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

対象とする作品は、教員とゼミ生が推薦するものから合議の上決定する。

尚、春期は4年生以上と合同で行う。

授業の到達目標

作品分析の技法を学び、知識と想像力を駆使して一つの作品を深く考察することの喜びを味わう。また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。
●**レポート** 50% 作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点** 50% 研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

■夏合宿で映像作品を制作する。春期の間に脚本を検討する。
■6限も2学年合同で行う場合もあるので、6限は原則として授業をとらず空けておくこと。
■上記の予定は変更の可能性があるので、必ず教室等で確認すること。

科 目 名	幻影論ゼミ （春学期） B 満足のいくゼミ論を目指して							
担当者名	岡室 美奈子							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

幻影論ゼミBでは、満足のいくゼミ論の完成に向けて、経過発表を行ない、問題点を共有し、ディスカッションをとおして解決しながら進める。

授業の到達目標

内容・表現ともに充実したゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。
●**レポート** 50% ゼミ論の計画と序論の内容を見る。
●**平常点** 50% 発表の状況やゼミへの貢献度などを総合的に見る。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

春期は5限に3・4年生合同で作品研究ゼミを行ない、6限を4年生のみのゼミ論指導とする。

科 目 名	幻影論ゼミ （秋学期） A 多様なメディアの作品を分析する							
担当者名	岡室 美奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

秋期は基本的に3年生のみで行う。

授業の到達目標

作品研究の技法を学び、知識と想像力を駆使して一つの作品を深く考察することの喜びを味わう。ゼミ論集に収録できるレベルの小ゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。
●**レポート** 50% 小ゼミ論として論集に掲載しうるレベルに達しているかどうかを問う。
●**平常点** 50% ディスカッションでの発言状況やゼミへの貢献度などを総合的に見る。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

■上記シラバスはあくまで予定であり、教室で話し合って決めるので、常に予定を確認すること。

科 目 名	幻影論ゼミ （秋学期） B 満足のいくゼミ論の完成に向けて							
担当者名	岡室 美奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

ゼミ論完成に向けて、指導を行う。ジャンルごとにグループに分かれ、ゼミの時間に各自がプレゼンテーションを行い、教員と他のメンバーによる批評を受けるほか、グループ間で相互批評を行ない、ブラッシュアップする。

また、提出後には3年生、4年生以上合同で合評会を行う。

授業の到達目標

密度が濃く、オリジナリティに富み、作品を深く考察したゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験** 0% なし。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 100% 研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL

優れたゼミ論には、岡室賞、投票による幻影論ゼミ賞、デザイン賞等が授与される。

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （春学期） A							
担当者名	チェン ドミニク							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。

このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。

方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の春期には、「課題と方法論のリサーチ」に特化して、まずは情報のシャワーを浴びて吸収することに専念し、秋期から

のアウトプット段階を準備していきます。なお、表メ演習「デザイン・フィクション・ワークショップ」はアウトプットの練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。
春期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：
・未知の情報とツールの学習
・当事者としての研究テーマの探求
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・課題のリサーチ

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します
・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （春学期） B							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。
このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。
方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。
デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。
21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の春期には、「課題と方法論のリサーチ」に特化して、まずは情報のシャワーを浴びて吸収することに専念し、秋期からのアウトプット段階を準備していきます。なお、表メ演習「デザイン・フィクション・ワークショップ」はアウトプットの練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。
春期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：
・未知の情報とツールの学習
・当事者としての研究テーマの探求
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・課題のリサーチ

論系ゼミ

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します
・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （秋学期） A							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。
このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。
方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデ

ザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の秋期には、「クリエイティブ・メディアのデザイン」に特化して、春期で摂取した情報を表現へと代謝していく過程に入ります。なお、表メ選択基礎演習「読むことは書くこと」は摂取した情報の表現の練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。

秋期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・課題に基づいた表現全般
・文章表現
・ビジュアル／サウンド表現
・アーキテクチャ（構造）の表現
・アルゴリズム（論理）の表現
・ゼミメンバーとのコミュニケーション

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （秋学期） B							
担当者名	チェン ドミニク							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。

このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。

方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の秋期には、「クリエイティブ・メディアのデザイン」に特化して、春期で摂取した情報を表現へと代謝していく過程に入ります。なお、表メ選択基礎演習「読むことは書くこと」は摂取した情報の表現の練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。

秋期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・課題に基づいた表現全般
・文章表現
・ビジュアル／サウンド表現
・アーキテクチャ（構造）の表現
・アルゴリズム（論理）の表現
・ゼミメンバーとのコミュニケーション

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	身体表象論ゼミ （春学期） A							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 100% 100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	身体表象論ゼミ （春学期） B							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 100% 100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	身体表象論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし

●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　100%　　100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	身体表象論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　100%　　100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	文化身体論ゼミ （春学期） A 虚学への長く不合理な道							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。

混沌とした授業内容にしたいと考えている。というのも、文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっているのを感じるからだ。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。だが、「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなものを、さまざまな例示（フィールドワーク、映画、演劇など作品鑑賞）のなかから発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標

なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　ゼミへの貢献度、出席。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化身体論ゼミ （春学期） B 虚学への長く不合理な道							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。

Aと同様に、混沌とした授業内容にしたいと考えているが、4年生は、すぐれたゼミ論の完成を到達目標にする。

文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっている。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。だが、「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなものを、さまざまな例示（フィールドワーク、映画、演劇など作品鑑賞）のなかから発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標

なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　ゼミへの貢献、出席。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化身体論ゼミ　（秋学期）　A							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。

混沌とした授業内容にしたいと考えている。というのも、文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっているのを感じるからだ。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。だが、「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなものを、さまざまな例示（フィールドワーク、映画、演劇など作品鑑賞）のなかから発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標
なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　ゼミへの貢献度、出席。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	文化身体論ゼミ　（秋学期）　B　虚学への長く不合理な道							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。

Aと同様に、混沌とした授業内容にしたいと考えているが、4年生は、すぐれたゼミ論の完成を到達目標にする。
文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっている。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。だが、「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなものを、さまざまな例示（フィールドワーク、映画、演劇など作品鑑賞）のなかから発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標
なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　授業への貢献度、出席。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	身体行為論ゼミ　（春学期）　マイクロ・コミュケーション分析の基礎							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
日常生活で人と人が関わりあうとき、何気なくやりとりされる声や動作は当人も意識しないうちに巧妙にコントロールされている。こうした意識からこぼれ落ちる「マイクロ・コミュニケーション」がどのようなものかは、質問紙やインタビューを用いるだけでなく、そこで交わされている声や動作を直接観察し、精緻に分析することで初めて明らかになる。
このゼミではこのような日常観察のための基本的な方法と考え方を文献で学んだ上で、実際に日常のいくつかの場面を撮影し、共同で一つの場面について分析を行う。また、小説、マンガ、映画、音楽などさまざまな視聴覚メディアに描かれたやりとりの中に、日常のどのような声や身体が写し取られているか、それが作品に何をもたらすかについて考える。

授業の到達目標
・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。
・メディア作品に表れる人の行為、人がメディアを扱う行為を、そこで交わされている声と身体を観察することで批評できるようになる。
・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。

・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　随時、分析課題を課す。
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	身体行為論ゼミ　（秋学期）　マイクロ・コミュケーション分析の応用							
担当者名	細馬　宏通							
表象	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で人と人が関わりあうとき、何気なくやりとりされる声や動作は当人も意識しないうちに巧妙にコントロールされている。こうした意識からこぼれ落ちる「マイクロ・コミュニケーション」がどのようなものかは、質問紙やインタビューを用いるだけでなく、そこで交わされている声や動作を直接観察し、精緻に分析することで初めて明らかになる。

このゼミではこのような日常観察のための基本的な方法と考え方を文献で学んだ上で、実際に日常のいくつかの場面を撮影し、共同で一つの場面について分析を行う。また、小説、マンガ、映画、音楽などさまざまな視聴覚メディアに描かれたやりとりの中に、日常のどのような声や身体が写し取られているか、それが作品に何をもたらすかについて考える。

授業の到達目標

・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。
・メディア作品に表れる人の行為、人がメディアを扱う行為を、そこで交わされている声と身体を観察することで批評できるようになる。
・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。
・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　ゼミ生全員がそれぞれ分析対象を決めて発表を行う。発表後にレポートを作成し、評価対象とする。
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	イメージ論ゼミ　（春学期）　イメージ読解論							
担当者名	丹尾　安典							
表象	２単位	春学期	金曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

一枚の画像は、さまざまな角度から眺めることが可能である。たとえば、ゴッホの《向日葵》をごく単純に植物のイメージを表現したものであるとみることもできよう。また太陽のイメージを象徴的に描いたととらえることもできる。ゴッホはキリスト教者であったがイエスの姿を描くことはほとんどなかった。《ラザロの復活》を描いたときに、イエスのいるべき位置にゴッホは太陽を据えた。だから太陽にはキリストの姿がかさねられているのだろう。太陽はフランス語でsoleil。この語はまた向日葵を意味する語でもある。ならば《向日葵》は太陽でありキリストであり神をも指示する花となる。こうした読解は知的作業によってひらかれてくることになるのだが、はたしてそれでゴッホの《向日葵》がある程度わかったことになるのか。画像がわれわれにもし感銘をあたえるということがありうるとすれば、われわれ自身の感性による享受のありかたや、われわれ自身の生き方そのものと深い関連があるに相違ない。このゼミでは、脳の表面による解釈によって「わかる」ということの先に、われわれ個々人との全人的な関係のなかで画像が成立している様態を把握してゆこうと思っている。画像理解は受身では、所詮表面的なレベルにしか到達しえない。ゼミでは、画像に対して能動的にかかわることを、指導してゆく。

はじめから、こうと決めてかかって、融通のきかぬ授業とするつもりは毛頭ない。何が起こるかわからない将来に、柔軟な態度でのぞむのも、このゼミの基本姿勢であるかもしれない。

授業の到達目標

既製の知識の受け売りではなく、自分自身の目と頭で把握したコトを、論文としてまとめうる力を養うこと。

成績評価方法

発表、レポート、出席などによって、総合的に評価する。

科 目 名	イメージ論ゼミ　（秋学期）　イメージ読解論							
担当者名	丹尾　安典							
表象	２単位	秋学期	金曜日	６時限	３年以上	—	—	—

授業概要

一枚の画像は、さまざまな角度から眺めることが可能である。たとえば、ゴッホの《向日葵》をごく単純に植物のイメージを表現したものであるとみることもできよう。また太陽のイメージを象徴的に描いたととらえることもできる。ゴッホはキリスト教者であったがイエスの姿を描くことはほとんどなかった。《ラザロの復活》を描いたときに、イエスのいるべき位置にゴッホは太陽を据えた。だから太陽にはキリストの姿がかさねられているのだろう。太陽はフランス語でsoleil。この語はまた向日葵を意味する語でもある。ならば《向日葵》は太陽でありキリストであり神をも指示する花となる。こうした読解は知的作業によってひらかれてくることになるのだが、はたしてそれでゴッホの《向日葵》がある程度わかったことになるのか。画像がわれわれにもし感銘をあたえるということがありうるとすれば、われわれ自身の感性による享受のありかたや、われわれ自身の生き方そのものと深い関連があるに相違ない。このゼミでは、脳の表面による解釈によって「わかる」ということの先に、われわれ個々人との全人的な関係のなかで画像が成立している様態を把握してゆこうと思っている。画像理解は受身では、所詮表面的なレベルにしか到達しえない。ゼミでは、画像に対して能動的にかかわることを、指導してゆく。

はじめから、こうと決めてかかって、融通のきかぬ授業とするつもりは毛頭ない。何が起こるかわからない将来に、柔軟な態度でのぞむのも、このゼミの基本姿勢であるかもしれない。

授業の到達目標

既製の知識の受け売りではなく、自分自身の目と頭で把握したコトを、論文としてまとめうる力を養うこと。

成績評価方法

発表、レポート、出席などによって、総合的に評価する。

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （春学期） A 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：自分が択んだ一冊の本について発表、論文輪読
6限：4年生の発表を聴く

7月初頭に2泊3日の合宿

＊5，6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

芸術文化の基本的理解

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 50% 鑑賞、輪読に関して課します
●**平常点** 50% 出席、発表
●**その他** 0% なし

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （春学期） B 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：自主ゼミ
6限：ゼミ論発表、論文輪読

7月初頭に2泊3日の合宿

＊5、6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

ゼミ論のさらなる深化

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 50% 春休みのリポート
●**平常点** 50% 出席、発表
●**その他** 0% 0

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （秋学期） A 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：ゼミ論発表、論文輪読
6限：自主ゼミ

＊5，6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

ゼミ論のテーマをかためる

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 50% 夏休みのレポート
●**平常点** 50% 出席、発表
●**その他** 0% 0

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （秋学期） B 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：自主ゼミ
6限：ゼミ論発表、論文輪読

＊5、6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

ゼミ論のさらなる深化

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 50% 夏休みのレポート
●**平常点** 50% 出席、発表
●**その他** 0% 0

科 目 名	現代思想ゼミ （春学期） A メディアの文化と思想							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	現代思想ゼミ （春学期） B メディアの文化と思想							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	現代思想ゼミ （秋学期） A メディアの文化と思想							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類

が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。
最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。
授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。
多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。
3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。
4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	現代思想ゼミ （秋学期） B メディアの文化と思想							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。
最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。
授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。
多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。
3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。
4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	イメージ分析ゼミ （春学期） A ファッションとアイデンティティ							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

衣服は単なる物ではなく、時として自分自身を体現するものです。しかしながら、既製服が全盛の現代においては、服装の自由は、それほど大きくはありません。本ゼミでは、私たちが知らぬ間に身についてしまった「私らしさ」から脱却して、衣服とアイデンティティの関係を、より自由で柔軟なものにすることを目指します。ファストファッションとして消費される「モノ」と化した衣服とは違うあり方を模索することが目標です。

授業の到達目標

衣服とアイデンティティの関係について、総合的に理解し、他人に説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% 出席のほか、授業への貢献度を総合的に評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

春学期は基本的に3年生と4年生の合同で行います。履修登録は5限（3年生）か6限（4年生）のいずれかに自動的になされますが、5限・6限を通じて行うこともありますので、どちらの時間もゼミに参加できるようにしておいてください。

科 目 名	イメージ分析ゼミ （春学期） B ファッションとアイデンティティ							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

衣服は単なる物ではなく、時として自分自身を体現するものです。しかしながら、既製服が全盛の現代においては、服装の自由は、それほど大きくはありません。本ゼミでは、私たちが知らぬ間に身についてしまった「私らしさ」から脱却して、衣服とアイデンティティの関係を、より自由で柔軟なものにすることを目指します。ファストファッションとして消費される「モノ」と化した衣服とは違うあり方を模索することが目標です。

授業の到達目標
衣服とアイデンティティの関係について、総合的に理解し、他人に説明できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席のほか、授業への貢献度を総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL
春学期は基本的に3年生と4年生の合同で行います。履修登録は5限（3年生）か6限（4年生）のいずれかに自動的になされますが、5限・6限を通じて行うこともありますので、どちらの時間もゼミに参加できるようにしておいてください。

科 目 名	イメージ分析ゼミ （秋学期） A イメージ分析ゼミ論集作成							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
広く「イメージ」に関係するテーマを一つ定めて、各人がそのテーマに関連する発表を行い、レポートを執筆し、最終的には論集を刊行します。これまでのテーマは「ゾンビ」、「ピエロ」、「アイドル」、「模様」、「変身」、「モテとモエ」、「顔」です。いずれも、誰もが耳にしたことのある言葉で、何らかの共通するイメージを持っているのに、その歴史や意味については、深く考察されることがあまりないテーマでした。今学期もそのようなテーマを一つ選んで、卒論の準備となるようなゼミ論を執筆します。

授業の到達目標
「イメージ」とは何なのかを、具体的な例を通して考察し、説得力のあるレポートを執筆する。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、共同作業により論文集を作成する。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末までにレポートを執筆し、小論文集として刊行する。
●**平常点**　60%　　出席のほか、授業への貢献度を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	イメージ分析ゼミ （秋学期） B ゼミ論執筆：その方法と内容							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
3年次のゼミで執筆した論文を踏まえつつ、ゼミ論のテーマを決め、各自がそのテーマについてプレゼンテーションを行うとともに、論文の書き方の基礎を確認します。

授業の到達目標
「イメージ分析」の手法に則って、ゼミ論に相応しいテーマを決定し、その内容についてわかりやすいプレゼンテーションを行うとともに、4年間の学生生活の集大成としての卒業論文を完成させる。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席や授業への貢献度などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	イメージ批評ゼミ （春学期） A イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標
個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法
出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	イメージ批評ゼミ （春学期） B イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標
個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法
出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科目名	イメージ批評ゼミ （秋学期） A イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標
個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法
出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科目名	イメージ批評ゼミ （秋学期） B イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標
個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法
出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科目名	身体の精神分析ゼミ （春学期） 様々な視点から「身体」にアプローチする							
担当者名	村井　翔							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
春学期は予定通り、指定の書物を皆で分担発表しつつ読み進めます。その間には、この本で論じられている映画（クリストファー・ノーラン『ダークナイト』）も抜粋ながら授業時間中に見ます。

授業の到達目標
教科書は村上春樹論から始まって、特に詳細な平成仮面ライダー論など現代日本のサブカルを論じたものですが、ゼミ生のゼミ論、プレゼミ論のヒントになればよいと願っています。

成績評価方法
平常点評価（100%）：教科書の割り当て部分について発表することが単位取得の条件です。

科目名	身体の精神分析ゼミ （秋学期） 様々な視点から「身体」にアプローチする							
担当者名	村井　翔							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
秋学期、3年生は自分の興味あること、おそらくゼミ論のテーマになるであろうことについて発表（プレゼン）してもらい、最終的には1月末までに4000字ほどのプレゼミ論（ゼミ論のひな型）を書き上げることを目指します。4年生はゼミ論の最終プレゼンを行い、12月中旬までにゼミ論を書き上げる必要があります。

授業の到達目標
3年生に関しては、プレゼミ論の完成が目標です。4年生はもちろん、ゼミ論を書き上げること。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　3年生はプレゼミ論、4年生はゼミ論（ゼミ論の評価は科目としては一応、別建てになりますが）の出来ばえによって評価します。
●**平常点**　50%　　出席回数、議論参加率などによって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ1 （春学期） イギリスと日本の文学に学ぶ							
担当者名	梅宮　創造							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

イギリスと日本の近代小説や散文、戯曲のさまざまな例に接して、とことん読みくだき、吸収すべき養分を貪欲に吸収し、ぬすみ取るべき宝をぬすもう。本講では、そのための眼の付けどころを学ぶ。「今」の自分自身に直結する何かを獲得しよう。何でもいい。自分の身丈にぴったり合った、自分専用の洋服のようなものを、ぜひ見つけよう。冒険小説あり、悪漢小説あり、グロテスクものから、エキゾティックもの、歴史や風俗に根をおろした小説、さてはユーモア作品、空想譚、児童もの、ミステリー仕立て、センセーショナルな娯楽本、といろいろある。とくに範疇にはこだわらない。体系的に読んでまとめるようなことも敢えてやらない。強いていうなら、言葉の海にどっぷりと浸かって、そこから自分の言葉を、またこの人間世界を切りさばく自分固有の文体を発見していけばよい。主に翻訳書を用いることになる。怠けてはいられないはず。何よりも、自分自身にきびしくなろう。やがて大きな果実を手に入れるために、今こそ基礎をしっかりと築こう。毎回の授業にあっては、テーマを絞った発表とディスカッション、そこからまた次のテーマや、新しい課題が生れて発展して、どんどん膨らんでいくように運ぶ。4年生どうし、胸を借りたり貸したりしながら、ともに切磋琢磨しよう。さらに上記に加えて、提出レポートに関する個人指導を折々におこなう。こちらは、いわゆる書く方面に密着した指導ということになる。扱うべき具体的作品、その他の詳細については初回時に提示する。

授業の到達目標

批評精神をもって文学に接することができるようになること。各作品の味わいのちがいや、それぞれの作品の本質的特色を理解すること。

成績評価方法

毎回の授業が評価の対象となる。それに加えて、レポートや作品提出がある。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ1 （秋学期） イギリスと日本の文学に学ぶ							
担当者名	梅宮　創造							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

イギリスと日本の近代小説や散文、戯曲のさまざまな例に接して、とことん読みくだき、吸収すべき養分を貪欲に吸収し、ぬすみ取るべき宝をぬすもう。本講では、そのための眼の付けどころを学ぶ。「今」の自分自身に直結する何かを獲得しよう。何でもいい。自分の身丈にぴったり合った、自分専用の洋服のようなものを、ぜひ見つけよう。冒険小説あり、悪漢小説あり、グロテスクものから、エキゾティックもの、歴史や風俗に根をおろした小説、さてはユーモア作品、空想譚、児童もの、ミステリー仕立て、センセーショナルな娯楽本、といろいろある。とくに範疇にはこだわらない。体系的に読んでまとめるようなことも敢えてやらない。強いていうなら、言葉の海にどっぷりと浸かって、そこから自分の言葉を、またこの人間世界を切りさばく自分固有の文体を発見していけばよい。外国ものは主に翻訳書を用いることになる。怠けてはいられないはず。何よりも、自分自身にきびしくなろう。やがて大きな果実を手に入れるために、今こそ基礎をしっかりと築こう。毎回の授業にあっては、テーマを絞った発表とディスカッション、そこからまた次のテーマや、新しい課題が生れて発展して、どんどん膨らんでいくように運ぶ。4年生どうし、胸を借りたり貸したりしながら、ともに切磋琢磨しよう。さらに上記に加えて、提出レポートに関する個人指導を折々におこなう。こちらは、いわゆる書く方面に密着した指導ということになる。とくにゼミ論の完成をめざして、もろもろの助言を行うことにもなるだろう。

授業の到達目標

批評精神をもって文学に接することができるようになること。各作品の味わいのちがいや、それぞれの作品の本質的特色を理解すること。自分の考えを正確かつ効果的に表現する文章力を身につけよう。

成績評価方法

毎回の授業が評価の対象となる。それに加えて、レポートや作品提出がある。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （春学期） A 読み、書く。							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。

授業の到達目標

ゼミ機関誌「L'Atelier304」を刊行する。掲載作品を11月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、12月から1月にかけて全作を合評する。

成績評価方法

平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （春学期） B 読み、書く。							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。

授業の到達目標

ゼミ機関誌「L'Atelier304」を刊行する。掲載作品を11月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、12月から1月にかけて全作を合評する。

成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （秋学期） A 読み、書く。							
担当者名	堀江 敏幸							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。
授業の到達目標
ゼミ機関誌「L'Atelier304」を刊行する。掲載作品を11月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、12月から1月にかけて全作を合評する。
成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （秋学期） B 読み、書く。							
担当者名	堀江 敏幸							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。
授業の到達目標
ゼミ機関誌「L'Atelier304」を刊行する。掲載作品を11月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、12月から1月にかけて全作を合評する。
成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （春学期） A 創作・批評・理論							
担当者名	貝澤 哉							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。
それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。
そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

論系ゼミ

授業の到達目標
授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」(?!) ことが到達目標である。
職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。
成績評価方法
授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （春学期） B 創作・批評・理論							
担当者名	貝澤 哉							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。
それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。
そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉

の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標

授業の到達目標　授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」(?!) ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （秋学期） A　創作・批評・理論							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。

それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。

そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標

授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」(?!) ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （秋学期） B　創作・批評・理論							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。

それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。

そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標

授業の到達目標　授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」(?!) ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ1 （春学期）							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

外に開かれた一貫性と風通しのよい雑多性を追究しながら、国内外問わず文学、批評、思想のテクストを読み、発表と討議を行う。また機会を見て、厳選された映画を見る。

授業の到達目標
教養と批評性を兼ね備えた書き手／読み手となること

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 60%　学期末のレポート
●**平常点** 40%　発表と討論における発言
●**その他** 0%

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ1 （秋学期）							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
春学期と同じく、文学、批評、思想のテクストを読み、発表と討議を行う。

授業の到達目標
教養と批評性を兼ね備えた書き手／読み手となること

成績評価方法
●**試験** 0%　なし
●**レポート** 60%　学期末のレポート
●**平常点** 40%　発表と討論における発言
●**その他** 0%　0

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （春学期） A							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。

授業の到達目標
幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法
そのときどきの参加度がそのまま評価につながります。

備考・関連URL
ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （春学期） B							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。

自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。

授業の到達目標

幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法

参加度が成績に反映します。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ２ （秋学期） A							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。

授業の到達目標

幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法

参加度合いが成績に反映します。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ２ （秋学期） B							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆

毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。

授業の到達目標
幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法
参加度が成績に反映します。

備考・関連URL
ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科目名	文芸研究・批評ゼミ2 （春学期） A 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。三年次のあいだに行って欲しいのは、授業内外の学習を通じて自らのゼミ論のテーマとなる対象を見出すことと、その対象に対する独自の問いを立てて検証してみることです。授業では、これらの成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の準備を段階的に進めていきます。なお、「文芸研究・批評ゼミ2B」と二時間続きで、三年生は五時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標
受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0% 0

論系ゼミ

科目名	文芸研究・批評ゼミ2 （春学期） B 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、「文芸研究・批評ゼミ2A」と二時間続きで、四年生は六時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標
受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0% 0

科目名	文芸研究・批評ゼミ2 （秋学期） A 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究

課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。三年次のあいだに行って欲しいのは、授業内外の学習を通じて自らのゼミ論のテーマとなる対象を見出すことと、その対象に対する独自の問いを立てて検証してみることです。授業では、これらの成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の準備を段階的に進めていきます。なお、「文芸研究・批評ゼミ2B」と二時間続きで、三年生は五時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標

受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0% 0

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （秋学期） B 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、「文芸研究・批評ゼミ2A」と二時間続きで、四年生は六時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標

この授業では、受講生が様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0% 0

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （春学期） A 翻訳論を学ぶ							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

前期のゼミでは、指定した図書を使って3年生に発表をしてもらい、翻訳とはどういう行為であるか、翻訳が与える社会的影響にはどのようなものがあるか、などのテーマについて考えます。また、3年生には夏休みに訳す絵本、4年生にはゼミ論で使う本を前期のあいだに選んでもらいます。ゲストの来訪も予定しています。（何回目の授業にゲストが来るかについては、ゲストの予定に合わせて変更になる可能性があります）

授業の到達目標

翻訳という概念への理解。どのような翻訳を「最適」と判断すべきかについて、さまざまな基準を学ぶ。さらに、書籍の翻訳出版の流れについて理解する。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 0% レポートの提出は必要ありませんが、自分の発表のときにはレジュメを作って下さい。
●**平常点** 100% 出席プラス授業への参加度（3年生の場合は課題発表を必ず行ってもらいますが、全体的な出席も重視します）
●**その他** 0% 0

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （春学期） B 翻訳論を学ぶ							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

前期のゼミでは、指定した図書を使って3年生に発表をしてもらい、翻訳とはどういう行為であるか、翻訳が与える社会的影響にはどのようなものがあるか、などのテーマについて考えます。また、3年生には夏休みに訳す絵本、4年生にはゼミ論で使う本を前期のあいだに選んでもらいます。ゲストの来訪も予定しています。（何回目の授業にゲストが来るかについては、ゲストの予定に合わせて変更になる可能性があります）

4年生は金曜4限にゼミが自動登録されると思いますが、原則として3年生と合同の授業を金曜3限に行い、4限はゼミ論指導などにあてます。

授業の到達目標

翻訳という概念への理解。どのような翻訳を「最適」と判断すべきかについて、さまざまな基準を学ぶ。さらに、書籍の翻訳出版の流れについて理解する。

成績評価方法

●**試験** 0% 行いません。

●**レポート**　0%　　自分の発表のときにレジュメを作って下さい。
●**平常点**　100%　　出席プラス授業への参加度。4年生は特に、3年生の発表に対して積極的にコメントしていって下さい。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （秋学期） A 翻訳実践と、その批評							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期のゼミは夏休みの成果発表が中心となります。絵本訳の完成に向けて、お互いの訳文について気づいたことを指摘しあいます。最終的には、出版社の方に絵本訳を見てもらいます。4年生はゼミ論として未邦訳のテクストの翻訳をするか、翻訳についての論文を執筆します。後期も出版について、講演会などを予定しています。なお、シラバスの予定は、ゲストの都合などにより変更の可能性があります。

授業の到達目標

お互いの訳文を検討しつつ、自分の翻訳作品を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　レポートではありませんが、翻訳などの課題を提出してもらいます（3年は絵本の翻訳、4年生はゼミ論）。
●**平常点**　100%　　出席プラス授業への参加度。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （秋学期） B 翻訳実践と、その批評							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期のゼミは3年生の成果発表が中心となります。絵本訳の完成に向けて、お互いの訳文について気づいたことを指摘しあいます。4年生はゼミ論として未邦訳のテクストの翻訳をするか、翻訳についての論文を執筆します。ゼミ論について、10月から11月にかけて、4限を使った中間報告会で全員発表してもらいます。後期も出版について、講演会などを予定しています。なお、シラバスの予定は、ゲストの都合などにより変更の可能性があります。

授業の到達目標

お互いの訳文を検討しつつ、自分の翻訳作品を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　100%　　出席プラス授業への参加度。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	戯曲研究・批評ゼミ1 （春学期） A 「ことば」と「からだ」が交わるところ A−1							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

言葉を意図的に発することで成り立つ演劇、映画、落語、歌などで、言葉が果たす役割を考えていきます。役者、演者、歌手を通すことで、言葉は時に制約を受ける一方で、時に思わぬ次元へと観る者、聞く者を誘います。このゼミでは、「感動」などという少々古臭いこと見捨てずに、そこでどのようなことが生起しているのかを探る作業をしたいと思っています。また戯曲の「古典」を精読することにより、学生の若い息吹で「古さ」に新しい生命を吹き込める場を作れればと願っています。

今年度は古典の読解と並行して積極的に現代演劇や「演劇」そのものの意味を考える場にしていきたいと考えています。その中で、「時間・歴史」を一つのキーワードに、出口のない近代を検証できる視座を作れればと願っています。

最終的な目標は、4年次にゼミ論を完成することにありますが、3年次においては、戯曲の読み方、論を立てる場合の切り口を身につけることが中心となります。春学期は戯曲を2編、精読し、ディスカッションを重ねることで、戯曲を研究する切り口を探ります。夏休みにはその成果を小論文としてまとめ、長い文章を書く訓練をします。

授業の到達目標

戯曲を読み、舞台空間を想像して、さらに実際の舞台に多く触れて、演劇の虚構世界と自分や現実世界をつなげられる脳回路を開発し、演劇脳を育て、良き観客・読者になることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　学期末に提出してもらうレポート。作品論になる予定。
●**平常点**　30%　　授業中の発表など、授業への貢献度。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2019年1月6日現在における〈予定〉にすぎません。

科 目 名	戯曲研究・批評ゼミ1 （春学期） B 「ことば」と「からだ」が交わるところ B−1							
担当者名	水谷 八也							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

言葉を意図的に発することで成り立つ演劇、映画、落語、歌などで、言葉が果たす役割を考えていきます。役者、演者、歌手を通すことで、言葉は時に制約を受ける一方で、時に思わぬ次元へと観る者、聞く者を誘います。このゼミでは、「感動」などという少々古臭いこと見捨てずに、そこでどのようなことが生起しているのかを探る作業をしたいと思っています。また戯曲の「古典」を精読することにより、学生の若い息吹で「古さ」に新しい生命を吹き込める場を作れればと願っています。

今年度は古典の読解と並行して積極的に現代演劇や「演劇」そのものの意味を考える場にしていきたいと考えています。その中で、「時間・歴史」を一つのキーワードに、出口のない近代を検証できる視座を作れればと願っています。

最終的な目標は、今年度中にゼミ論を完成することにありますが、春学期においては、戯曲の読み方、論を立てる場合の切り口を身につけることを確認しつつ、ゼミ論の準備をします。

授業の到達目標

戯曲を読み、舞台空間を想像して、さらに実際の舞台に多く触れて、演劇の虚構世界と自分や現実世界をつなげられる脳回路を開発し、演劇脳を育て、3年次よりもより良い観客・読者になることが目標です。
さらにゼミ論の骨格を固めることが目標です。

成績評価方法

- **試験** 0% なし。
- **レポート** 70% 学期末に提出してもらうレポート。作品論になる予定。
- **平常点** 30% 授業中の発表など、授業への貢献度。
- **その他** 0% なし。

備考・関連URL

以上は全て、2019年1月6日現在における〈予定〉にすぎません。

科 目 名	戯曲研究・批評ゼミ1 （秋学期） A 「ことば」と「からだ」が交わるところ A−1							
担当者名	水谷 八也							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

言葉を意図的に発することで成り立つ演劇、映画、落語、歌などで、言葉が果たす役割を考えていきます。役者、演者、歌手を通すことで、言葉は時に制約を受ける一方で、時に思わぬ次元へと観る者、聞く者を誘います。このゼミでは、「感動」などという少々古臭いこと見捨てずに、そこでどのようなことが生起しているのかを探る作業をしたいと思っています。また戯曲の「古典」を精読することにより、学生の若い息吹で「古さ」に新しい生命を吹き込める場を作れればと願っています。

今年度は古典の読解と並行して積極的に現代演劇や「演劇」そのものの意味を考える場にしていきたいと考えています。その中で、「時間・歴史」を一つのキーワードに、出口のない近代を検証できる視座を作れればと願っています。

最終的な目標は、4年次にゼミ論を完成することにありますが、3年次においては、戯曲の読み方、論を立てる場合の切り口を身につけることが中心となります。秋学期は春学期の流れを踏まえて、できる限り大きな視点で演劇と近代の関係を考察する予定です。またゼミ論へ向けての構想を練り始めます。

授業の到達目標

戯曲を読み、舞台空間を想像して、さらに実際の舞台に多く触れて、演劇の虚構世界と自分や現実世界をつなげられる脳回路を開発し、演劇脳を育て、春学期以上に良き観客・読者になることが目標です。

成績評価方法

- **試験** 0% なし。
- **レポート** 70% 学期末に提出してもらうレポート。作品論になる予定。
- **平常点** 30% 授業中の発表など、授業への貢献度。
- **その他** 0% なし。

備考・関連URL

以上は2019年1月6日現在における〈予定〉にすぎません。

科 目 名	戯曲研究・批評ゼミ1 （秋学期） B 「ことば」と「からだ」が交わるところ A−1							
担当者名	水谷 八也							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

言葉を意図的に発することで成り立つ演劇、映画、落語、歌などで、言葉が果たす役割を考えていきます。役者、演者、歌手を通すことで、言葉は時に制約を受ける一方で、時に思わぬ次元へと観る者、聞く者を誘います。このゼミでは、「感動」などという少々古臭いこと見捨てずに、そこでどのようなことが生起しているのかを探る作業をしたいと思っています。また戯曲の「古典」を精読することにより、学生の若い息吹で「古さ」に新しい生命を吹き込める場を作れればと願っています。

今年度は古典の読解と並行して積極的に現代演劇や「演劇」そのものの意味を考える場にしていきたいと考えています。その中で、「時間・歴史」を一つのキーワードに、出口のない近代を検証できる視座を作れればと願っています。

最終的な目標は、ゼミ論を完成することにあります。

授業の到達目標

戯曲を読み、舞台空間を想像して、さらに実際の舞台に多く触れて、演劇の虚構世界と自分や現実世界をつなげられる脳回路を開発し、演劇脳を育て、春学期以上により良い観客・読者になることが目標です。

さらにゼミ論の骨格を固め、その結果をゼミ論に反映させ、定められた期日に提出することが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　学期末に提出してもらうレポート。作品論になる予定。
●**平常点**　30%　　授業中の発表など、授業への貢献度。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2019年1月6日現在における〈予定〉にすぎません。

科目名	批評・創作実践ゼミ2 （春学期） A 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

受講者のみなさんが触れていないと思われる重要なテクストを読みながら、そのつどテーマを設定して、各自の物語の構想力・展開力を養い、文芸の創造を実践します。

小説に対する許容度を少しでも広げ、各自の嗜好の幅を広げることを目指す。

基本的に、文庫版になっているものは各自用意してもらい、それ以外はプリントで用意します。

授業の到達目標

読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指す。少なくとも、短いものを読み手の視点から書けるようにする。

成績評価方法

出席と取り組みから総合評価する。

科目名	批評・創作実践ゼミ2 （春学期） B 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

受講者のみなさんが触れていないと思われる重要なテクストを読みながら、そのつどテーマを設定して、各自の物語の構想力・展開力を養い、文芸の創造に向き合う。

小説に対する許容度を少しでも広げ、各自の嗜好の幅を広げることを目指す。

基本的に、文庫版になっているものは各自用意してもらい、それ以外はプリントで用意します。

授業の到達目標

読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指す。

成績評価方法

出席と取り組みから総合評価する。

科目名	批評・創作実践ゼミ2 （秋学期） A 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

受講者のみなさんが触れていないと思われる重要なテクストを読みながら、そのつどテーマを設定して、各自の物語の構想力・展開力を養い、文芸の創造を実践します。

小説に対する許容度を少しでも広げ、各自の嗜好の幅を広げることを目指す。

基本的に、文庫版になっているものは各自用意してもらい、それ以外はプリントで用意します。

授業の到達目標

読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指す。少なくとも、短いものを読み手の視点から書けるようにする。

成績評価方法

出席と取り組みから総合評価する。

科目名	批評・創作実践ゼミ2 （秋学期） B 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

こちらの用意したテクストを読み、課題の短文を書く授業とは別に、夏休みにゼミ論のもとになるものを書いてもらい、それをもとに何回かの面談で、その当人のゼミ論について助言をし、次回の面談の前までに推敲し、それを読んだ上で次の面談でさらなるゼミ論の完成を目指し、文芸創造に向き合う。

授業の到達目標

読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指しますが、今回は、小説を読むとき、いかに複数の異なる視点が必要なのかを学ぶ。

そして各自のゼミ論の完成につなげる。10000万字ていどの創作を書けるところまでもっていく。

成績評価方法
出席と課題の創作による総合評価。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （春学期） A イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標
自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法
授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （春学期） B イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標
自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法
授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （秋学期） A イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標
自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法
授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （秋学期） B イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標
自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法
授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	編集と批評ゼミ （春学期） A							
担当者名	市川 真人							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
「読むこと」が誰もに開かれたのが〝近代〟の特徴であったのに対し、「書くこと（作ること）」と「編むこと」が誰にも開かれつつあるのが「訪れつつある〝近代以後〟」の特徴であることは、みなさんも、実感していることでしょう。「書くこと（作ること）」も「編むこと」も単にそれ自体として特別なことではもはやありえず、構造的にあらゆる言説が短い期間で浮き沈みする――そのような環境下で、なお抜きんでた「書かれたもの（作られたもの）」と「編まれたもの」はいかにありうるのか、そのようなものがありうる環境はそもそも構築できるのか、できるとすればどのように、などについて考えるゼミです。
過去の価値観を検証し、それらの有意味な点をただしく受け継ぎながら、現在時に適合したかたちにリファインし新たなものを付け加えつつ、それが受容される環境じたいをつくりあげてゆくこと。そこにおいては「創作」と「批評」と「編集」とは分

割不可能なもの、そのいずれでもあってどれでもないものとなります。
　具体的には、批評理論を学び、それを援用して批評を書き、ときに先行して第一線で活躍する書き手／作り手／広げ手たちの話を聞き、ときにそれらの結果としての創作を行い、紙の、あるいは電子の書籍を作り、それを広めるための手段についてフィールドワーク的に街を、あるいは電子の世界を歩く……ということになります。
　もちろん、二十歳そこそこのみなさんに、そのすべてが可能な予備条件を求めることなどできはしません（担当教員だってむろんすべてを持ってなどいませんし）。ゼミの二年間でそれらがすべて手に入り、達成されることも九分九厘ないでしょう。しかし／だからそれは、ゼミを終え、大学生活を終えても続く、十年単位の、あるいはみなさんの人生の全期間の、もしかするとそれぞれの人生ひとつでは収まらないスパンの歩みの、最初の一歩となる二年間だと捉え、そのつもりできてくれるひとを求めます。
　4限配当のゼミAでは、主として現代思想を対象に、文学やメディアを通して人間と社会の本質を考えるための思考力や知識をつけてゆきます。

授業の到達目標
「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法
出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

科 目 名	編集と批評ゼミ （春学期） B							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
5限配当のゼミAでの学習を踏まえ、「理想のメディア」とはなにかを考えることから、実際に手がけてゆくまでの流れを、長期計画で組み立ててゆきます。同時に、ゼミ論文の執筆にむけて、準備稿の執筆や発表、ディスカッションなどを行います。

授業の到達目標
「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法
出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

科 目 名	編集と批評ゼミ （秋学期） A							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
「読むこと」が誰もに開かれたのが〝近代〟の特徴であったのに対し、「書くこと（作ること）」と「編むこと」が誰もに開かれつつあるのが「訪れつつある〝近代以後〟」の特徴であることは、教える僕たち以上に教わるみなさんの方が、よく実感していることでしょう。「書くこと（作ること）」も「編むこと」も単にそれ自体として特別なことではもはやありえず、構造的にあらゆる言説が短い期間で浮き沈みする――そのような環境下で、なお抜きんでた「書かれたもの（作られたもの）」と「編まれたもの」はいかにありうるのか、そのようなものがありうる環境はそもそも構築できるのか、できるとすればどのように、などについて考えるゼミです。
　過去の価値観を検証し、それらの有為の点をただしく受け継ぎながら、現在時に適合したかたちにリファインし新たなものを付け加えつつ、それが受容される環境じたいをつくりあげてゆくこと。そこにおいては「創作」と「批評」と「編集」とは分割不可能なもの、そのいずれでもあってどれでもないものとなります。
　具体的には、「そこでなにが行われるべきなのか」「どうすることで目的が達成されるか」を探すこと自体がゼミの目的である、というトートロジーが出発点となり、そのために、過去の作品（あくまでも、広義の「テキスト」をフィールドとすることだけは決めておきます）を参照し、批評し、その先にある未到のテキストについて考え、ときに書き、そしてそれらが伝わり生きてゆくためのメディアや環境＝社会について考え、実際にそれをつくりだしてゆく（ためには何が必要かを議論する）、ためのあらゆることをする、ということになります。より具体的に言えば、批評理論を学び、それを援用して批評を書き、ときに先行して第一線で活躍する書き手／作り手／広げ手たちの話を聞き、ときにそれらの結果としての創作を行い、紙の、あるいは電子の書籍を作り、それを広めるための手段についてフィールドワーク的に街を、あるいは電子の世界を歩く……ということです。
　もちろん、二十歳そこそこのみなさんに、そのすべてが可能な予備条件を求めることなどできはしません（担当教員だってむろんすべてを持ってなどいませんし）。ゼミの二年間でそれらがすべて手に入り、達成されることも九分九厘ないでしょう。しかし／だからそれは、ゼミを終え、大学生活を終えても続く、十年単位の、あるいはみなさんの人生の全期間の、もしかするとそれぞれの人生ひとつでは収まらないスパンの歩みの、最初の一歩となる二年間だと捉え、そのつもりできてくれるひとを求めます。
　4限配当のゼミAでは、主として現代思想を対象に、文学やメディアを通して人間と社会の本質を考えるための思考力や知識をつけてゆきます。

授業の到達目標
「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法
出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

備考・関連URL
ゼミ志望者は、1・2年時に担当教員の「編集論1・2」、「現代文学史1・2」いずれかを受講ないしは聴講していることが望ましい。

科 目 名	編集と批評ゼミ （秋学期） B							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

同ゼミ春期を参照のこと。

授業の到達目標

同ゼミ春期を参照のこと。

成績評価方法

同ゼミ春期を参照のこと。

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （春学期） A 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪を翌年に控え、「平成」が終わり、新しい元号が始まる2019年の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

授業の到達目標

東京や周辺の街を舞台に、「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末にレポート（作品）を提出してもらう
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （春学期） B 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪を翌年に控え、「平成」が終わり、新しい元号が始まる2019年の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。そして、4年生の諸君にとって、この春学期は、ゼミ論に向けて大きく歩を進めなくてはならない時期になる。

春学期前半はトライ＆エラーを繰り返していただきたい。後半からは焦点を絞っていってもらいたい。担当講師は、助言を惜しまない。

授業の到達目標

東京や周辺の街を舞台にして「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。ゼミ論のターゲットを絞る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末にレポート（作品）を提出してもらう
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （秋学期） A 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪を翌年に控え、「平成」が終わり、新しい元号が始まる2019年の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

授業の到達目標

東京や周辺の街を舞台にして、「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末にレポート（作品）を提出してもらう
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も斟酌なしの「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （秋学期） B 街を読む、街を描く							
担当者名	重松 清							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪を翌年に控え、「平成」が終わり、新しい元号が始まる2019年の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

そして、4年生の諸君にとって、この秋学期は、ゼミ論を仕上げる時期になる。

秋学期開始前の夏休み期間中も含めて、取材・執筆に励んでいただきたい。担当講師は、助言を惜しまない。

授業の到達目標

ゼミ論の完成。

成績評価方法

●**試験** 0% おこなわない

●**レポート** 0% ゼミ論をもってレポートに替える

●**平常点** 100% 出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も斟酌なしの「欠席」として扱うので、ご注意を。

●**その他** 0% 0

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （春学期） 翻訳について考え、実践する。							
担当者名	小野 正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

指定したテクストの翻訳を受講生全員で行なう。担当者の翻訳を叩き台にして、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考える。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 0%

●**平常点** 100% 出席、課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。

●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （秋学期） 翻訳について考え、実践する。							
担当者名	小野 正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

指定したテクストの翻訳を受講生全員で行なう。担当者の翻訳を叩き台にして、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考える。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 0%

●**平常点** 100% 出席、課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。

●**その他** 0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（春学期） A							
担当者名	草野 慶子							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春期3限・ゼミAは、3・4年生合同ゼミとし、主に文献講読、共通テーマに関する発表を行います。

2019年度も

現代文化のジェンダー表象分析、ジェンダー文化論（アート、文学、ファッション、美容等とジェンダー）、性的表現の可能性、性的表現の規制、性差別等の問題生殖、ART，再生医療 その他の「性とユートピア／ディストピア」にかかわる主題群、、

女性と男性のライフコースの諸問題、

「性とアイデンティティ」「性の多様性」

といったテーマに取り組んでいきます。

授業の到達目標

ゼミ共通のテーマにそくして文献を読み、学術調査を進めることで、アカデミックスキルの向上を達成し、さらに、テーマにそくした考察の深化を経験すること。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しません。

●**レポート**　30%　　3年生には期末にレポートを課します。指定テキストの要約と考察です。
●**平常点**　70%　　出席状況、各自の発表の内容、他の学生、グループの発表時のディスカッションへの取り組みから総合的に評価します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（春学期） B							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
4限のゼミBは原則として4年生のみとなりますが、3年生の参加はもちろん自由。
4年生それぞれのゼミ論指導を行います。

授業の到達目標
ゼミ論文完成に向けて豊かな時間を過ごすこと

成績評価方法
出席状況。各自の発表の内容。他の学生発表時のディスカッションへの取り組み。これらを総合的に評価する。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（秋学期） A							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
秋期3限・ゼミAは、3年生主体によるゼミとし、主に文献講読、共通テーマに関する発表を行います。
4年生ももちろん自由に出席くださって結構ですが、出席は義務ではありません。

2019年度も
現代文化のジェンダー表象分析、ジェンダー文化論（アート、文学、ファッション、美容等とジェンダー）、性的表現の可能性、性的表現の規制、性差別等の問題、生殖、ART，再生医療　その他の「性とユートピア」にかかわる主題群、
女性と男性のライフコースの諸問題、
「性とアイデンティティ」「性の多様性」
といったテーマに取り組んでいきます。

授業の到達目標
ゼミ共通のテーマにそくして文献を読み、学術調査を進めることで、アカデミックスキルの向上を達成し、さらに、テーマにそくした考察の深化を経験すること。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　出席状況、各自の発表の内容、他の学生、グループの発表時のディスカッションへの取り組みから総合的に評価します。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（秋学期） B							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
4限のゼミBは原則として4年生のみとなりますが、3年生の参加ももちろん大歓迎です。
4年生それぞれのゼミ論指導を行います。

授業の到達目標
ゼミ論文完成に向けて豊かな時間を過ごすこと

成績評価方法
出席状況。各自の発表の内容。他の学生発表時のディスカッションへの取り組み。これらを総合的に評価する。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（春学期） A							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
3限は3年生のみのゼミとなるので、文献講読を中心におこなう（ただし、春学期は3年生は4限にも参加してください）。
受講生の興味・関心に即して柔軟に文献は選定するが、基礎的な知識の取得のため、講読文献は「ジェンダー」「セクシュアリティ」「クィア」「差別」に関するものを担当教員が指定する。
また、受講生の希望に応じて、個人の研究発表も柔軟に設定することとする。
ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標
・クィア・スタディーズに関する基礎的な知識を、議論やレポート作成で「使える」レベルで習得する。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。

・「(自称)論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・指定された文献についての発表　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（春学期）　B							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

4限は4年生対象のゼミとなる(ただし、春学期は3年生が4限にも出席する)。 ゼミ論執筆に向けての個人発表をおこなう。テーマは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ(ディプロマポリシーより)を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「(自称)論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（秋学期）　A							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3限は3年生対象のゼミとなる(ただし、秋学期は4年生が3限にも出席する)。 先行研究に関するレビュー(個人発表)をおこなう。各レビューは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

また、学年末課題としてレビュー論文(ゼミ論の一部となる)の提出を課す。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ(ディプロマポリシーより)を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「(自称)論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

論系ゼミ

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業中におこなった個人発表を、授業での議論を踏まえて改稿し期末課題として提出する。詳細については授業中に述べる。
●**平常点**　50%　　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（秋学期）　B							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

4限は4年生対象のゼミとなる(ただし、秋学期は4年生は3限にも積極的に出席すること)。 ゼミ論執筆に向けての個人発表をおこなう。テーマは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ(ディプロマポリシーより)を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「(自称)論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間）（春学期） 人間を超えたものと向き合う宗教哲学							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代において我々は、物質的な世界に生きていると言っても過言ではない。目で見て、手で触ることのできる、堅固な「モノ」に取り囲まれて日々暮らしている。自然科学や科学技術の発展に伴い、物質的な世界に収まり切らないものは迷信や不合理として切り捨てられてきた。しかし一方で、我々は人間を超えたもの、目に見えないものへの憧れをいまだにもち続けている（魂であったり、精神的（スピリチュアル）なものであったり、はたまた神であったり…）。このゼミでは、そういった「目に見える世界を超えたもの」にたいする人間の営みを幅広く取り扱う。

人間を超えた存在とどう向き合うかという問題は、宗教だけでなく哲学においても古くから大きな問題とされてきた。「善のイデア」、「不動の動者」、「一者」、「能動知性」、「世界の魂」等々。古来から人間は、自らを超えたものを何とかして言葉によって（ときには言葉を捨てて）表現しようと努力してきた。また一方で、物理学者や数学者のなかには、「普遍」や「数」や「無限」といった問題と取り組むうちに、人間を超えた存在を取り扱わざるを得なくなった者たちもいる。コペルニクスの地動説は彼の新プラトン主義的世界観に基づいており、ニュートンは錬金術を研究し、20世紀の数学者ゲーデルは「神の存在証明」に挑戦した。

以上のようなことを踏まえながら、このゼミでは「宗教と哲学」「超越と人間」「神秘思想」「スピリチュアリティ」「普遍者」といったテーマを参加者と共に学んでゆく予定である。

授業の到達目標

・四年次のゼミ論文を完成させる。
・文献、テクストに触れることにより、学問的文章の読解および執筆ができるようになる。
・物質的な世界のなかで生きる人間として、精神的な世界への眼差しを得る。
・世界における人間の立ち位置について考察する力を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　普段のゼミへの参加によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間）（秋学期） 人間を超えたものと向き合う宗教哲学							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代において我々は、物質的な世界に生きていると言っても過言ではない。目で見て、手で触ることのできる、堅固な「モノ」に取り囲まれて日々暮らしている。自然科学や科学技術の発展に伴い、物質的な世界に収まり切らないものは迷信や不合理として切り捨てられてきた。しかし一方で、我々は人間を超えたもの、目に見えないものへの憧れをいまだにもち続けている（魂であったり、精神的（スピリチュアル）なものであったり、はたまた神であったり…）。このゼミでは、そういった「目に見える世界を超えたもの」にたいする人間の営みを幅広く取り扱う。

人間を超えた存在とどう向き合うかという問題は、宗教だけでなく哲学においても古くから大きな問題とされてきた。「善のイデア」、「不動の動者」、「一者」、「能動知性」、「世界の魂」等々。古来から人間は、自らを超えたものを何とかして言葉によって（ときには言葉を捨てて）表現しようと努力してきた。また一方で、物理学者や数学者のなかには、「普遍」や「数」や「無限」といった問題と取り組むうちに、人間を超えた存在を取り扱わざるを得なくなった者たちもいる。コペルニクスの地動説は彼の新プラトン主義的世界観に基づいており、ニュートンは錬金術を研究し、20世紀の数学者ゲーデルは「神の存在証明」に挑戦した。

以上のようなことを踏まえながら、このゼミでは「宗教と哲学」「超越と人間」「神秘思想」「スピリチュアリティ」「普遍者」といったテーマを参加者と共に学んでゆく予定である。

授業の到達目標

・四年次のゼミ論文を完成させる。
・文献、テクストに触れることにより、学問的文章の読解および執筆ができるようになる。
・物質的な世界のなかで生きる人間として、精神的な世界への眼差しを得る。
・世界における人間の立ち位置について考察する力を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　普段のゼミへの参加によって評価する
●**その他**　0%　0

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス）（春学期） 現代社会問題の倫理的性格を把握する							
担当者名	御子柴　善之							
人間	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

私たちは、ともに生きている。すなわち、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになるが、この行為規範に対して問いを向け、その根拠に対して問い抜くのがこのゼミの内容である。

さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして私たちが自分の生きる社会に道徳的問題（環境問題、医療問題、介護問題など）を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどうやって保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を的確に把握し、その解決の方向性を目がけて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的思惟の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。春期は、一冊の著作を輪読するとともに、ゼミ生の要望があれば、いくつかのグループ研究を組織し、グループ発表を準備・実施する。（秋期も同様の作業を行う場合がある。）また、参加者が海外文献・新聞記事から見つけた倫理問題の紹介を紙面で行う。4年生には、授業時間外にゼミ論文指導を行う。全体として、学生相互の討論などを通じて、ゼミ生が自らの研究テーマを確立し、それを追及することを課題とする。

授業の到達目標

このゼミの到達目標に関しては、3年生は倫理学的「問い」をしっかり問えるようになること、4年生はそうした問いに基づいたゼミ論文の研究を前進させることである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　レポートはゼミ論文を目掛けて、しっかり書こう。
●**平常点**　50%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とする。討議への積極的参加が求められる。また、毎回の討議を経てさらに考えたことを、コースナヴィに書き込む。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

各回90分では時間が不足する。そこで、参加者には6時限の前半程度までの時間延長を許容してもらいたい。また、サブ・ゼミを充実させることを心がけてもらいたい。そのためには、授業の空き時間にグループで集合し、研究を進めることが必要となる。 授業の枠外で、「関係を生きる人間」論プログラムの合同ゼミが開催される。それにも必ず出席して欲しい。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス）（秋学期） 現代社会問題の倫理的性格を把握する							
担当者名	御子柴　善之							
人間	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

私たちは、ともに生きている。すなわち、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになるが、この行為規範に対して問いを向け、その根拠に対して問い抜くのがこのゼミの内容である。

さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして私たちが自分の生きる社会に道徳的問題（環境問題、医療問題、介護問題など）を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどうやって保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を適確に把握し、その解決の方向性を目がけて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的思惟の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。また、要望がある場合、いくつかのグループ研究を組織し、グループ発表を準備・実施・発表する。さらに、参加者が海外文献・新聞記事から見つけた倫理問題の紹介を紙面で行う。さらに、4年生に対してはゼミ論文執筆の指導が行われる。全体として、学生相互の討論などを通じて、ゼミ生が自らの研究テーマを確立し、それを追及することを課題とする。

授業の到達目標

このゼミの到達目標に関しては、3年生は倫理学的「問い」をしっかり問えるようになること、4年生はそうした問いに基づいたゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　3年生のレポートは論文形式を採用します。4年生はゼミ論文をもって代替します。
●**平常点**　50%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とする。討議への積極的参加が求められる。また、毎回の討議を経てさらに考えたことを、コースナヴィに書き込む。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

各回90分では時間が不足する。そこで、参加者には6時限の半ば程度までの時間延長を許容してもらいたい。また、3年生はサブ・ゼミを充実させることを心がけてもらいたい。そのためには、授業の空き時間にグループで集合し、研究を進めることが必要となる。 授業枠の外で、「関係を生きる人間」論プログラムの合同ゼミが開催される。それにも必ず出席して欲しい。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格）（春学期） こころとからだを生きる人間を考える							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代人間論系、「心身を生きる人間」論プログラムの一つに位置づけられるゼミです。
人間の身体、コミュニケーションのあり方など現代の倫理が直面する具体的問題を取り上げながら、人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

授業の到達目標

倫理学、思想についてのSpecialistとしての一面をもつとともに、Generalistとしての判断力、問題解決能力を身につけることが、このゼミの目的です。
とりわけ、理念的な観点と現実の問題解決の両面が要請されるGeneralistの育成を図ります。次の三点が目的です。
哲学的、倫理学的な基本的知識と視点、考え方を身につけることで深くものを考える姿勢を養うこと。
資料の収集の仕方を学ぶこと。
適切で効果的な発表とPresentationの能力を養うこと。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　一学期に一度は、ゼミ生全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。
その他：試験は目下のところ考えていません。

備考・関連URL

とにかく、積極的に自ら取り組むこと。ゼミレベルでは、もはや「お勉強」ではなく、自分で情報を集めて自分で課題を見つけ、自分で解決していくことが求められています。
このゼミをとることを考えている学生は、できるだけ現代人間論系演習「道徳意識の研究」、「現代的人間観の論理と倫理」などをとってみてください。ゼミでの議論の仕方、雰囲気がわかると思います。また、講義の「応用倫理学」、「生命倫理」なども履修するようにしてください。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格）（秋学期） こころとからだを生きる人間を考える							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代人間論系「心身を生きる人間」論プログラムに属するゼミです。
人間の身体、コミュニケーションのあり方など現代の倫理が直面する具体的問題を取り上げながら、人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

授業の到達目標

倫理学、思想についてのSpecialistとしての一面をもつとともに、Generalistとしての判断力、問題解決能力を身につけることが、このゼミの目的です。とりわけ、理念的な観点と現実の問題解決の両面が要請されるGeneralistの育成を図ります。次の三点が目的です。
哲学的、倫理学的な基本的知識と視点、考え方を身につけることで深くものを考える姿勢を養うこと。
資料の収集の仕方を学ぶこと。
適切で効果的な発表とPresentationの能力を養うこと。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　一学期に一度は、ゼミ生全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。
その他：試験は目下のところ考えていません。

備考・関連URL

とにかく、積極的に自ら取り組むこと。ゼミレベルでは、もはや「お勉強」ではなく、自分で情報を集めて自分で課題を見つけ、自分で解決していくことが求められています。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（春学期） A 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。2017年度のテーマは授業のなかで検討してゆきます。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
夏休みには合宿を行います。日程については授業の最初に調整します。

合同ゼミについては、関係を生きる人間論プログラムで実施する予定です。参考までに前年度は1月に実施しました。 授業の詳細はゼミ内で提示します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（春学期） B 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。4年生中心の本講義はゼミ論文の歓声を目標とします。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
夏休みには合宿を行います。日程については授業の最初に調整します。
4年生は5限まで指導を延長することがあります。なるべく当該の時間帯は空けてください。 詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（秋学期） A 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。なお、設定すべき課題、テーマの進行具合に応じて柔軟に計画を変更します。秋期は合同ゼミを実施する予定です。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

グループ課題、討論、個別課題、出席状況などで総合的に評価します。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
学内の他のゼミとの合同発表会を行う予定です。 詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（秋学期） B 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
4年生は5限まで指導を延長することがあります。なるべく当該の時間帯は空けてください。関係を生きる人間論プログラムで合同ゼミを実施する予定です。 詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期） A 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、トラウマや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ
現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について
3年生では、基本となる文献を講読したうえで、グループで心理学の実際の研究を体験する。また、日本語に加えて英語での論文講読や、表計算・統計ソフトなどの活用に馴染めるよう、基礎から要点を学習する。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を深めるとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標
（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法
各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する積極的態度を総合的に評価する（100%）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL
本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。
ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1, 2」「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」
現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期） B 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
（1）ゼミの概要
現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、トラウマや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ
現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について
4年生では、3年生までの学習を踏まえて、各自のゼミ論文に取り組む。ゼミ論文は、心理学の調査、実験に基づくものや、ゼミでの学びのまとめや文献を踏まえた論考を含め、可能な限り各自の関心を反映させる。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を促すとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標
（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法
各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する積極的態度を総合的に評価する（100%）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL
本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・

社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。
ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1, 2」「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」
現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（秋学期） A 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

（1）ゼミの概要
現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、トラウマや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について
3年生では、基本となる文献を講読したうえで、グループで心理学の実際の研究を体験する。また、日本語に加えて英語での論文講読や、表計算・統計ソフトなどの活用に馴染めるよう、基礎から要点を学習する。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を深めるとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する積極的態度を総合的に評価する（100%）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL

本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。
ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1, 2」「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」
現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（秋学期） B 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

（1）ゼミの概要
現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、トラウマや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ
現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例

として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について
4年生では、3年生までの学習を踏まえて、各自のゼミ論文に取り組む。ゼミ論文は、心理学の調査、実験に基づくものや、ゼミでの学びのまとめや文献を踏まえた論考を含め、可能な限り各自の関心を反映させる。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を促すとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標
（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法
各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する積極的態度を総合的に評価する（100%）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL
本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。
ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1, 2」「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」
現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（春学期） A							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。
子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。
たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会的なものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。
子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。
そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。
3年生、4年生合同での授業も予定していますので、3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標
①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　おこないません
●**レポート**　0%　　レポートは課しませんが、授業で報告をしていただきます
●**平常点**　100%　　授業への参加度、文献講読や研究（計画）報告での内容をもとに評価します
●**その他**　0%　　ありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（春学期） B							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会を強化するものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3年生、4年生合同での授業も予定していますので、3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。

②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。

③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。

④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこないません
●**レポート**　0%　　レポートは課しませんが、授業で報告をしていただきます
●**平常点**　100%　　授業への参加度、文献講読や研究（計画）報告での内容をもとに評価します
●**その他**　0%　　ありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（秋学期） A　文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

論系ゼミ

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会を強化するものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3・4年生合同ゼミを実施予定ですので、3・4時間目をともにあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は実施しません
●**レポート** 30%　個人レポートは課しませんが、グループ論文を執筆していただきます
●**平常点** 70%　授業への参加度、個人発表での内容をもとに評価します。
●**その他** 0%　特にありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（秋学期） B 文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会を強化するものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3・4年生合同ゼミを実施予定ですので、3・4時間目をともにあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は実施しません
●**レポート** 50%　ゼミ論を執筆していただきます
●**平常点** 50%　授業への参加度、個人発表での内容をもとに評価します。
●**その他** 0%　特にありません

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（春学期） A							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめ

られる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。
3年春学期の目標は社会学的思考になれること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（春学期） B							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。
4年春学期の目標は、インタビュー調査（2回目）を通して、各自のゼミ論のテーマを確定すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%　　0

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（秋学期） A							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。
3年秋学期の目標はライフストーリー・インタビュー調査をやりとげること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（秋学期） B							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。

4年秋学期の目標はゼミ論の完成。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
- **その他**　0%

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（子どもの関係発達論）（春学期）							
担当者名	大藪　泰							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

子どもの発達は2つの視点からとらえることができます。個体能力の視点からとらえようとするものと、個体間の関係の視点からとらえようとするものです。ここでの関係とは、相手の心の世界への気づきに基づく間主観的な関わりをさしています。例えば、関係発達論的な見方では、子どもの言葉が養育者からの言葉かけによるというより、子どもと養育者との関係が深まっていく過程で、両者のコミュニケーションをより豊かにする手段として発達すると考えます。このゼミでは、こうした人間に特有な「当たり前」の関係性の中で発達する子どもの心の世界を取り上げ、そこに「当たり前ではない」世界があることを問題にします。そこにこそ人間の心の不思議な世界が展開する根源があると考えるからです。子どもの心は、他者との相互作用をどのように必要としているのでしょうか。それはなぜでしょうか。そしてそこにはどんなダイナミズムが働いているのでしょうか。子どもと他者との関係の世界を丁寧に解きほぐす努力をともにしながら、子ども心の不思議さに出合い、子どもの心を豊かに育てるものは何かを探ってみようと思います。

授業の到達目標

子どもの精神機能と発達を人と人との関係性の視点から理解できるようになること。

成績評価方法

ゼミへの積極的な参加の程度を評価します。

備考・関連URL

戸山キャンパス近隣にある保育所「ポピンズナーサリー早稲田」での保育活動にサポーターとして参加します。

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（子どもの関係発達論）（秋学期）							
担当者名	大藪　泰							
人間	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

子どもの発達は2つの視点からとらえることができます。個体能力の視点からとらえようとするものと、個体間の関係の視点からとらえようとするものです。ここでの関係とは、相手の心の世界への気づきに基づく間主観的な関わりをさしています。例えば、関係発達論的な見方では、子どもの言葉が養育者からの言葉かけによるというより、子どもと養育者との関係が深まっていく過程で、両者のコミュニケーションをより豊かにする手段として発達すると考えます。このゼミでは、こうした人間に特有な「当たり前」の関係性の中で発達する子どもの心の世界を取り上げ、そこに「当たり前ではない」世界があることを問題にします。そこにこそ人間の心の不思議な世界が展開する根源があると考えるからです。子どもの心は、他者との相互作用をどのように必要としているのでしょうか。それはなぜでしょうか。そしてそこにはどんなダイナミズムが働いているのでしょうか。子どもと他者との関係の世界を丁寧に解きほぐす努力をともにしながら、子ども心の不思議さに出合い、子どもの心を豊かに育てるものは何かを探ってみようと思います。

授業の到達目標

自らのゼミ研究論文の概要を発表し、ゼミ生相互の発表を理解して、ゼミ研究論文の執筆をめざす。

成績評価方法

ゼミへの積極的な参加の程度を評価します。

備考・関連URL
戸山キャンパス近隣にある保育所「ポピンズナーサリー早稲田」でほ保育活動にサポーターとして参加します。

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理）（春学期） 現代の様々な課題に対し心理学的にアプローチする							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
現代人特有の心理的発達とはどのようなものなのだろうか。このゼミでは人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ的側面や認知的側面）を重視しつつ，現代社会を生きる人びとに共通する発達的変化について検討する。発達時期に関しては青年期以降の時期に注目する。
人間の性格にはどのような次元があるのか，どのように把握されるのか，どこにその起源があるのか，どのように変化していくのか，なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミでは大きくこのような問題意識を持ちつつ，より詳細な個別の問題に取り組みたい。

授業の到達目標
本授業の到達目標は，(1)人間の発達に関して理解を深めること，(2)必要な文献を検索することができるようになること，(3)適切に各種資料をまとめることができるようになること，(4)調査を計画し実施・分析することができるようになることである。

成績評価方法
授業内での課題の取り組み方を総合的に判断する（100%）

備考・関連URL
小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理）（秋学期） 現代の様々な課題に対し心理学的にアプローチする							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
現代人特有の心理的発達とはどのようなものなのだろうか。このゼミでは人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ的側面や認知的側面）を重視しつつ，現代社会を生きる人びとに共通する発達的変化について検討する。発達時期に関しては青年期以降の時期に注目する。
人間の性格にはどのような次元があるのか，どのように把握されるのか，どこにその起源があるのか，どのように変化していくのか，なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミでは大きくこのような問題意識を持ちつつ，より詳細な個別の問題に取り組みたい。
秋期ではそれぞれの問題意識に基づき，研究プロジェクトを進めることで人間の発達と個人差を理解する。

授業の到達目標
本授業の到達目標は、(1)人間の発達に関して理解を深めること、(2)必要な文献を検索することができるようになること、(3)適切に各種資料をまとめることができるようになること、(4)調査を計画し、実施・分析することができるようになることである。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　50%　　各自の問題意識に基づき、調査・考察をまとめたレポートを提出する。適切にまとめられているかどうかを評価の対象とする。
●**平常点**　50%　　各個人やグループに割り当てられたテーマに関する発表姿勢やその内容を評価の対象とする。また、授業への積極的態度も評価の対象とする。
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL
早稲田大学　小塩真司研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html
心理データ解析Basic：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/edu/data_b/top.html
心理データ解析Case Study：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/edu/data_c/top.html

論系ゼミ

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（春学期）　A							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。
3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自

由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】
春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。
秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】
春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。
秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）
岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（春学期） B							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。
3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】
春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。
秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】
春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。
秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）
岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（秋学期） A							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。

3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】
春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。
秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】
春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。
秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連URL

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）
岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（秋学期） B							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。
3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】
春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。
秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】
春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。
秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連URL

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）

期末にゼミ論文集の作成及びフルペーパーのHP掲載を行います。

科 目 名	社会構造論ゼミ1（日本社会の成り立ちを考える）（春学期）　歴史学から見た日本社会							
担当者名	久保　健一郎／川尻　秋生							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そしてその特質について、検討すること目的とします。本年度のテーマ（大テーマ）については、ゼミ員との話し合いによって、設定する予定です。手順としては、本年度のゼミの共通テーマを決めてからゼミ員の班分けを行い、各班が大テーマに沿った小テーマを設定します。そして、班ごとに報告していただき、教員・ゼミ員相互が討論を行い、大テーマの理解を深めます。 なお、4年生についてはゼミ論の準備報告をし、3年生も報告を聞き討論に参加して、ゼミ論に備えていただきます。

授業の到達目標

日本の歴史を通史的にとらえるとともに、各自の関心ある時代・分野についての基本的知識を身につけた上で、さらにゼミ論文に仕上げるための専門的技術・知識を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席・発表による
- **その他**　0%　　0

科 目 名	社会構造論ゼミ1（日本社会の成り立ちを考える）（秋学期）　歴史学から見た日本社会							
担当者名	久保　健一郎／川尻　秋生							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そしてその特質について、検討すること目的とします。本年度のテーマ（大テーマ）については、ゼミ員との話し合いによって、設定する予定です。手順としては、本年度のゼミの共通テーマを決めてからゼミ員の班分けを行い、各班が大テーマに沿った小テーマを設定します。そして、班ごとに報告していただき、教員・ゼミ員相互が討論を行い、大テーマの理解を深めます。 なお、4年生についてはゼミ論の準備報告をし、3年生も報告を聞き討論に参加して、ゼミ論に備えていただきます。

授業の到達目標

日本の歴史を通史的にとらえるとともに、各自の関心ある時代・分野についての基本的知識を身につけた上で、さらにゼミ論文に仕上げるための専門的技術・知識を身につける。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　100%　　出席・発表による
- **その他**　0%　　0

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（春学期）　A　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。

テキスト講読と共同研究を行う。各自、担当部分に関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①テキスト講読を行い、関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

- **試験**　0%　　—
- **レポート**　0%　　—
- **平常点**　100%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
- **その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（春学期）　B　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。

ゼミ論文執筆に向けて、研究発表を行う。研究テーマに関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①研究テーマに関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を

構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（秋学期） A　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。テキスト講読と、日本経済に関する共通テーマに関連した参加者の研究発表を行う。

授業の到達目標

①テキスト講読を行い、関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート
●**平常点**　70%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（秋学期） B　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
ゼミ論文の完成に向けて、研究発表を行う。

授業の到達目標

①研究テーマに関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート
●**平常点**　70%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ2（近代アジア社会の形成）（春学期）							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などあらゆる側面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での歴史的条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

また、このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げることも可とする。日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表と質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得する。
【4年生】前学期までの調査・発表内容を踏まえて、ゼミ論文の問題設定を確立し、必要な資料・データの収集・分析を進める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	社会構造論ゼミ2（近代アジア社会の形成）（秋学期）							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などあらゆる側面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での歴史的条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

また、このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げることも可とする。日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表と質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得する。

【4年生】前学期までに収集した資料に基づく分析・論証を進め、ゼミ論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（春学期）　A							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたい。特に今回のテーマ候補は二重国籍である。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、ゼミ論文などの形で自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになることである。またその過程で、受講生は英語の文献を読みこなすスキルを身につけることであろう。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（春学期）　B							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたつつ、論文執筆の方法を中心に学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようにな、ゼミ論文を完成に近づけることである。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（秋学期） A							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたい。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、ゼミ論文などの形で自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになることである。またその過程で、受講生は英語の文献を読みこなすスキルを身につけることであろう。

成績評価方法

樽本英樹編著 2018『排外主義の国際比較－先進諸国における外国人移民の実態』ミネルヴァ書房.
樽本英樹 2016『よくわかる国際社会学』（第2版）ミネルヴァ書房.
樽本英樹 2012『国際移民と市民権ガバナンス－日英比較の国際社会学』ミネルヴァ書房.
西原和久・樽本英樹編 2016『現代人の国際社会学・入門 －トランスナショナリズムという視点』有斐閣.
John Rex and Gurharpal Singh (eds.) Governance in Multicultural Societies, Aldershot: Avebury.
Thomas Lacroix and Amandine Desille (eds) 2017 International Migrations and Local Governance: A Global Perspective, Basingstoke: Palgrave Macmillan.

科 目 名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（秋学期） B							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしつつ、ゼミ論文集の執筆を学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになり、ゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法

樽本英樹 2016『よくわかる国際社会学』（第2版）ミネルヴァ書房.
樽本英樹 2012『国際移民と市民権ガバナンス－日英比較の国際社会学』ミネルヴァ書房.
西原和久・樽本英樹編 2016『現代人の国際社会学・入門 －トランスナショナリズムという視点』有斐閣.
John Rex and Gurharpal Singh (eds.) Governance in Multicultural Societies, Aldershot: Avebury.
Thomas Lacroix and Amandine Desille (eds) 2017 International Migrations and Local Governance: A Global Perspective, Basingstoke: Palgrave Macmillan.

論系ゼミ

科 目 名	地域・都市論ゼミ1（地域・都市社会史）（春学期） 地域・都市社会の歴史的形成を考える							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

学生同士が互いに刺激しあい、切磋琢磨する環境を通じて、柔軟で豊かな発想力を養い、社会の本質に迫ります。そのため、直面している課題は何なのか、それを解決するためには何が必要なのかを、生活の場＝拠点である地域、とくに都市の歴史に即して考えます。具体的には、日本の近現代都市に照準を定めて調査・分析を重ね、その歴史と問題点・課題を照射します。授業では、具体的なテーマ群を設定して調査を重ねながら、互に発表しあい、討論しあいます。また、授業とは別に、随時、フィールドワークなどを実施し、さらに合宿などを活用して集中的に調査・討論を行ないます。また、こうした過程を通じて、3年生は自らの研究テーマを発見し、4年生は確立した研究テーマに即してゼミ論文執筆のための調査・研究を重ねます。

授業の到達目標

近現代の都市史に関する基本的な文献や資料などを集団的に読み込みながら、問題意識を鮮明にし、追究すべき全体課題と個別課題を発見することをめざします。また、グループを編成して調査・分析しながら、歴史的な調査・分析の方法や手続きを学びます。さらに、現地での見学・調査なども組み込んで、集中的に報告・討論する機会を設定します。これらを通じて、発想力・調査力・分析力を磨くことを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　ゼミ運営・グループワークへの参加状況、報告・討論等への参加状況
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

現実的な感覚を磨くこと、能動的・行動的であること、学究的な態度を大切にすることが求められます。また、徹底的に調査にこだわる執着力、問題提起的な発表をめざす挑戦力と、本音をぶつけ合う真摯な討論に期待します。
論文指導などを含め時間を延長することが多々ありますので、6時限も出席可能な態勢をとってください。

科 目 名	地域・都市論ゼミ1（地域・都市社会史）（秋学期）　地域・都市社会の歴史的形成を考える							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

学生同士が互いに刺激しあい、切磋琢磨する環境を通じて、柔軟で豊かな発想力を養い、社会の本質に迫ります。そのため、直面している課題は何なのか、それを解決するためには何が必要なのかを、生活の場＝拠点である地域、とくに都市の歴史に即して考えます。具体的には、日本の近現代都市に照準を定めて調査・分析を重ね、その歴史と問題点・課題を照射します。授業では、具体的なテーマ群を設定して調査を重ねながら、互に発表しあい、討論しあいます。また、授業とは別に、随時、フィールドワークなどを実施し、さらに合宿などを活用して集中的に調査・討論を行ないます。こうした過程を通じて、3年生は自らの研究テーマを固め、4年生は学修の集大成としてゼミ論文を執筆・完成させます。

授業の到達目標

春期に獲得した基礎力をふまえ、それぞれの問題意識・課題意識を尊重しながらグループを編成し、集中的に調査・分析する体制を構築して、歴史的な調査・分析の方法や手続きを鍛えます。現地での見学・調査なども組み込みながら、豊かな発想力と確かな調査力・分析力を獲得し、年度末に研究報告をまとめることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　40%　　年度末の研究報告（3年生）・ゼミ論文準備報告（4年生）
●**平常点**　60%　　ゼミ運営・グループワークへの参加状況、報告・討論等への参加状況
●**その他**　0%　　0

備考・関連URL

現実的な感覚を磨くこと、能動的・行動的であること、学究的な態度を大切にすることが求められます。また、徹底的に調査にこだわる執着力、問題提起的な発表をめざす挑戦力と、本音をぶつけ合う真摯な討論に期待します。
論文指導などを含め時間を延長することが多々ありますので、6時限も出席可能な態勢をとってください。

科 目 名	地域・都市論ゼミ2（コミュニティ論）（春学期）A　コミュニティ---現代の地域・都市とローカル・ガバナンス							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、わたしたちが現実に生活している都市や地域社会を対象にして、人々の生活の実相と動態的に変化していく地域社会の姿を解読し、現代の地域や都市が抱えるさまざまな課題を探求していきます。文献研究に加えてインタビュー調査などを含むフィールド・ワーク、統計データの収集・分析・解読などを通じて実地に地域生活の課題に触れ、地域住民が自ら活動を構築しながら、ボランティア・NPO活動、市場セクターや公共セクターとさまざまな連携をとりつつ対応していこうとするすがたを考え学んでいきます。

授業の到達目標

到達目標は、上記の関連文献を渉猟し正確にかつ批判的に読解する力、実地の社会調査を進めて地域の実態を把握し分析していく力、一定の問題意識に沿いながら説得的なプレゼンテーションや論文にまとめていく力をつけていくことです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、社会調査などのゼミ活動、ゼミでの日常的な課題への対応など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本ゼミナールは、ゼミナール参加者の自発的な発案で企画し、文献の読解と運営企画、実地調査などを含めた形式で授業を進めていく予定なので、ゼミナール参加者はこうした過程全般への積極的な参加が要求されます。本ゼミナール参加者は、地域に関して自ら問題を設定して考え、かつじっくりとまとめてある程度の内容と長さの論文にしていくことが要求されるので、そうした意欲のある学生を期待しています。履修する学生と相談しながら、授業日以外に適宜集中授業を行うことがあります。授業計画はおよその目安で、学生との相談のうえ適宜進めていきます。

科 目 名	地域・都市論ゼミ2（コミュニティ論）（春学期）B　コミュニティ---現代の地域・都市とローカル・ガバナンス							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、わたしたちが現実に生活している都市や地域社会を対象にして、人々の生活の実相と動態的に変化していく地域社会の姿を解読し、現代の地域や都市が抱えるさまざまな課題を探求していきます。文献研究に加えてインタビュー調査などを含むフィールド・ワーク、統計データの収集・分析・解読などを通じて実地に地域生活の課題に触れ、地域住民が自ら活動を構築しながら、ボランティア・NPO活動、市場セクターや公共セクターとさまざまな連携をとりつつ対応していこうとするす

がたを考え学んでいきます。とくに4年次生を対象にするこの授業では、ゼミ論文の指導に力をいれ、論理的で説得力のある論文を書く指導をしていきます。

授業の到達目標

到達目標は、関連文献を渉猟し正確にかつ批判的に読解する力、実地の社会調査を進めて地域の実態を把握し分析していく力、一定の問題意識に沿いながら説得的なプレゼンテーションや論文にまとめていく力をつけていくことです。とくに4年次生を対象にするこの授業では、論理的で説得力のある論文を書けるようにすることが目標となります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、社会調査などのゼミ活動、ゼミでの日常的な課題への対応など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本ゼミナールは、ゼミナール参加者の自発的な発案で企画し、文献の読解と運営企画、実地調査などを含めた形式で授業を進めていく予定なので、ゼミナール参加者はこうした過程全般への積極的な参加が要求されます。ゼミナール参加者は、地域に関して自ら問題を設定して考え、かつじっくりとまとめてある程度の内容と長さの論文にしていくことが要求されるので、そうした意欲のある学生を期待しています。履修する学生と相談しながら、授業日以外に適宜集中授業を行うことがあります。授業計画はおよその目安で、学生との相談のうえ適宜進めていきます。

科 目 名	地域・都市論ゼミ2（コミュニティ論）（秋学期） A　コミュニティ---現代の地域・都市とローカル・ガバナンス							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、わたしたちが現実に生活している都市や地域社会を対象にして、人々の生活の実相と動態的に変化していく地域社会の姿を解読し、現代の地域や都市が抱えるさまざまな課題を探求していきます。文献研究に加えてインタビュー調査などを含むフィールド・ワーク、統計データの収集・分析・解読などを通じて実地に地域生活の課題に触れ、地域住民が自ら活動を構築しながら、ボランティア・NPO活動、市場セクターや公共セクターとさまざまな連携をとりつつ対応していこうとするすがたを考え学んでいきます。

授業の到達目標

到達目標は、上記の関連文献を渉猟し正確にかつ批判的に読解する力、実地の社会調査を進めて地域の実態を把握し分析していく力、一定の問題意識に沿いながら説得的なプレゼンテーションや論文にまとめていく力をつけていくことです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、社会調査などのゼミ活動、ゼミでの日常的な課題への対応など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本ゼミナールは、ゼミナール参加者の自発的な発案で企画し、文献の読解と運営企画、実地調査などを含めた形式で授業を進めていく予定なので、ゼミナール参加者はこうした過程全般への積極的な参加が要求されます。本ゼミナール参加者は、地域に関して自ら問題を設定して考え、かつじっくりとまとめてある程度の内容と長さの論文にしていくことが要求されるので、そうした意欲のある学生を期待しています。履修する学生と相談しながら、授業日以外に適宜集中授業を行うことがあります。授業計画はおよその目安で、学生との相談のうえ適宜進めていきます。

論系ゼミ

科 目 名	地域・都市論ゼミ2（コミュニティ論）（秋学期） B　コミュニティ---現代の地域・都市とローカル・ガバナンス							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、わたしたちが現実に生活している都市や地域社会を対象にして、人々の生活の実相と動態的に変化していく地域社会の姿を解読し、現代の地域や都市が抱えるさまざまな課題を探求していきます。文献研究に加えてインタビュー調査などを含むフィールド・ワーク、統計データの収集・分析・解読などを通じて実地に地域生活の課題に触れ、地域住民が自ら活動を構築しながら、ボランティア・NPO活動、市場セクターや公共セクターとさまざまな連携をとりつつ対応していこうとするすがたを考え学んでいきます。とくに4年次生を対象にするこの授業では、ゼミ論文の指導に力をいれ、論理的で説得力のある論文を書く指導をしていきます。

授業の到達目標

到達目標は、関連文献を渉猟し正確にかつ批判的に読解する力、実地の社会調査を進めて地域の実態を把握し分析していく力、一定の問題意識に沿いながら説得的なプレゼンテーションや論文にまとめていく力をつけていくことです。とくに4年次生を対象にするこの授業では、論理的で説得力のある論文を書けるようにすることが目標となります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、社会調査などのゼミ活動、ゼミでの日常的な課題への対応など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本ゼミナールは、ゼミナール参加者の自発的な発案で企画し、文献の読解と運営企画、実地調査などを含めた形式で授業を進めていく予定なので、ゼミナール参加者はこうした過程全般への積極的な参加が要求されます。ゼミナール参加者は、地域に関して自ら問題を設定して考え、かつじっくりとまとめてある程度の内容と長さの論文にしていくことが要求されるので、そうし

た意欲のある学生を期待しています。履修する学生と相談しながら、授業日以外に適宜集中授業を行うことがあります。授業計画はおよその目安で、学生との相談のうえ適宜進めていきます。

科 目 名	地域・都市論ゼミ3（文化遺産論）（春学期）							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

地域・都市空間は、絶えず変化しているが、これらは一瞬の時間の中で形成されたものではない。それまでの長い歴史の中で作り上げられてきたものである。私たちは、知らず知らずのうちに過去を背負いながら、現在に生きているのだ。そうした過去からの繋がりをすべて断ち切って、あらたな地域・都市空間を創造することは、私たち自身の否定ともいえるものである。私たちの先人たちの残した痕跡を見出し、現在の地域の中で活用していくことが重要である。身近な文化資源を掘り起こし、その価値を考え、将来に生かす努力をしていくためのアプローチを学ぶ。

授業の到達目標

地域・都市の中で文化財をいかに活用していくかを考えることを目標とする。

成績評価方法

ゼミへの参加、積極性、発言、行動などを総合的に評価する。春学期終了時に課題レポートを提出してもらう。

科 目 名	地域・都市論ゼミ3（文化遺産論）（秋学期） 社会の中の文化財							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現在、私たちが生活している地域・都市の中で、これまで私たちの「先人たち」によって形作られてきた所謂「文化遺産」をどのような形で位置付けていくかを考えていくゼミである。2017年度秋学期の本ゼミでは、ひとつは、早稲田周辺の文化遺産・文化財の問題。そして、日本だけでなく世界における文化遺産の問題を調べることで広い視野を養っていくことを目指す。具体的には、グループワークとして早稲田周辺の文化財調査を実施する。また、文化遺産の分野で各自の興味あるものを抽出し、ゼミ論文へ向けて研究を進展させていく。書籍による知識だけではなく、自らの目や足で得ることを大切にしていきたい。

授業の到達目標

地域・都市の中で文化財をいかに活用していくかを考えることを目標とする。

成績評価方法

ゼミへの参加、積極性、発言、行動などを総合的に評価する。春学期終了時に課題レポートを提出してもらう。

科 目 名	地域・都市論ゼミ4（子ども支援とまちづくり）（春学期） 子どもの権利条約ゼミナール							
担当者名	喜多　明人							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは、「子ども支援とまちづくり一子どもの権利条約ゼミナール」として開設します。ユニセフは、1994年に日本政府も批准した国連子どもの権利条約に依拠した都市運営システムを、「子どもにやさしい都市」と表現し、子ども支援のまちづくりを提唱してきました。では「子どもの権利条約」は、日本と世界の子どもにとってどのような役割が期待され、また果たされているのか。子ども支援のまちづくりの内実が問われます。条約では、子どもに対して、教育への権利だけでなく、子どもの意見表明、参加の権利、遊び、文化、休息の権利、障害児や外国人などマイノリティの権利、虐待や体罰を受けない権利、性的な搾取や麻薬から守られる権利、法を犯したとされて自由が奪われている少年の権利など、総合的に権利保障していこうとしている子どもの人権章典です。このような国際的な子ども支援の動きをふまえつつ、日本各地の地域における子どもの現状、権利問題の現状などを分析しつつ家庭や学校、福祉施設、地域の実践と課題、制度と条件など幅広く学び合っていきたいと思います。そのため、適宜に「まちづくり」フィールドワークをグループおよびゼミ全体で行います。

授業の到達目標

このゼミナールは、以上のようなゼミ学習活動により培った教養、能力を、将来、家庭や職場、地域や国際社会などで広く活用すること、とくに子ども支援事業を展開していける自治体職員として、あるいは子どもを支える市民活動、子どもNPO活動などに活かしていけるような実践力、行動力を養っていくことを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　60%
- **平常点**　40%
- **その他**　0%

備考・関連URL

ゼミへの参加意欲や共同研究報告書・ゼミ論づくりなどゼミ活動の平常点などで総合評価します。

授業実施時限

3・4年生とも火曜日5時限（6時限に延長する場合あり）に行なう。

●社会構築論系の2年生の方々へ

地域・都市論ゼミ4（子ども支援とまちづくり）は、担当教員である喜多が、2019年度をもって定年となるため、2020年度ゼミ選考（2019年10月―11月実施）は行いません。ご了承ください。

科 目 名	地域・都市論ゼミ4（子ども支援とまちづくり）（秋学期） 子どもの権利条約ゼミナール							
担当者名	喜多　明人							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは、「子ども支援とまちづくり一子どもの権利条約ゼミナール」として開設します。ユニセフは、1994年に日本政府も批准した国連子どもの権利条約に依拠した都市運営システムを、「子どもにやさしい都市」と表現し、子ども支援のまちづくりを提唱してきました。では「子どもの権利条約」は、日本と世界の子どもにとってどのような役割が期待され、また果たされているのか。子ども支援のまちづくりの内実が問われます。条約では、子どもに対して、教育への権利だけでなく、子どもの意見表明、参加の権利、遊び、文化、休息の権利、障害児や外国人などマイノリティの権利、虐待や体罰を受けない権利、性的な搾取や麻薬から守られる権利、法を犯したとされて自由が奪われている少年の権利など、総合的に権利保障していこうとしている子どもの人権章典です。このような国際的な子ども支援の動きをふまえつつ、日本各地の地域における子どもの現状、権利問題の現状などを分析しつつ家庭や学校、福祉施設、地域の実践と課題、制度と条件など幅広く学び合っていきたいと思います。そのため、適宜に「まちづくり」フィールドワークをグループおよびゼミ全体で行います。

授業の到達目標

このゼミナールは、以上のようなゼミ学習活動により培った教養、能力を、将来、家庭や職場、地域や国際社会などで広く活用すること、とくに子ども支援事業を展開していける自治体職員として、あるいは子どもを支える市民活動、子どもNPO活動などに活かしていけるような実践力、行動力を養っていくことを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

備考・関連URL

ゼミへの参加意欲や共同研究報告書・ゼミ論づくりなどゼミ活動の平常点などで総合評価します。
授業実施時限
火曜日5時限（ゼミ論ゼミのため、6時限に延長する場合がある）に行なう。
●社会構築論系の学生の方々へ
地域・都市論ゼミ4（子ども支援とまちづくり）は、担当教員である喜多が定年のため、2019年度をもって終了します。

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（春学期） A 理論社会学から未来社会学へ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

最新の理論社会学の基本を学び、未来社会を構想していくための準備演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、課題を11回提供し、それに対してグループで各回、研究報告をしていく形式で進めていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を6月に提示する。7月初旬の夏合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。さらに7月、夏休み前までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標

変貌する社会を精確に捉える視点を身につけることが到達目標である。そのためには最新の理論社会学を身につけることが必要であり、それは、社会学の基本思考を徹底的に学び取るということである。

成績評価方法

●**試験**　0%　.
●**レポート**　50%　プロシーディングスの制作と完成。
●**平常点**　50%　各回のゼミへの積極性。
●**その他**　0%　0

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（春学期） B 理論社会学から未来社会学へ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

最新の理論社会学の基本を学び、未来社会を構想していくための準備演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、課題を11回提供し、それに対してグループで各回、研究報告をしていく形式で進めていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を6月に提示する。7月初旬の夏合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。さらに7月、夏休み前までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標

変貌する社会を精確に捉える視点を身につけることが到達目標である。そのためには最新の理論社会学を身につけることが必要であり、それは、社会学の基本思考を徹底的に学び取るということである。

成績評価方法
●**試験** 0% .
●**レポート** 50% プロシーディングスの制作と完成。
●**平常点** 50% 各回のゼミへの積極性。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL
森 元孝のウェブページ http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（秋学期） A 未来社会学の応用展開							
担当者名	森 元孝							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
最新の理論社会学の基本をもとに、未来社会について構想していく演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、春学期に習得した基礎知識をもとに、理論的に、また経験的、実験的に構想をしていく。、それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を11月に提示する。12月中旬の冬合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。そして1月、学期終了までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標
理論的・論理的思考を養う。

成績評価方法
●**試験** 0% ,
●**レポート** 50% プロシーディングスの作成と、その内容。
●**平常点** 50% 各回のグループワークによるレポートと議論の状況。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL
森 元孝のウェブページ http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（秋学期） B 未来社会学の応用展開							
担当者名	森 元孝							
構築	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
最新の理論社会学の基本をもとに、未来社会について構想していく演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、春学期に習得した基礎知識をもとに、理論的に、また経験的、実験的に構想をしていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を11月に提示する。12月中旬の冬合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。そして1月、学期終了までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標
理論的・論理的思考を養う。

成績評価方法
●**試験** 0% .
●**レポート** 50% プロシーディングスの作成と、その内容。
●**平常点** 50% 各回のグループワークによるレポートと議論の状況。
●**その他** 0% 0

備考・関連URL
森 元孝のウェブページ http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（春学期） A 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西 優二							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
文化構想学部でのゼミの11年目を迎える。新たな4年生･3年生そして教員が協働する中で、これまでの10年間を踏まえつつ、さらに新しいゼミの可能性を模索する年にしたい。
このゼミのテーマは「文化･地域･学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間・民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。
ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。
ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない
●**レポート** 50%　ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点** 50%　ゼミ参加
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（春学期） B 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西　優二							
構築	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化構想学部でのゼミの11年目を迎える。新たな4年生·3年生そして教員が協働する中で、これまでの10年間を踏まえつつ、さらに新しいゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化·地域·学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間·民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない
●**レポート** 50%　ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点** 50%　ゼミ参加
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（秋学期） A 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西　優二							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

論系ゼミ

授業概要

文化構想学部でのゼミの11年目を迎える。新たな4年生·3年生そして教員が協働する中で、これまでの10年間を踏まえつつ、新たなゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化·地域·学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間·民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会の実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない
●**レポート** 50%　ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点** 50%　ゼミ参加
●**その他** 0%　0

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（秋学期） B 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西　優二							
構築	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化構想学部でのゼミの11年目を迎える。新たな4年生·3年生そして教員が協働する中で、これまでの10年間を踏まえつつ、新たなゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化·地域·学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間·民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究·協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会の実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　ゼミ協働研究発表·報告書作成
●**平常点**　50%　　ゼミ参加
●**その他**　0%　　0

備考·関連URL

3年生·4年生が協働し、5時限·6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（春学期） A							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

「優生思想」ときくと、2016年7月に相模原市の障がい者施設で起きた殺傷事件を思い出す人も多いでしょう。優生思想とは、(1)優れた形質をもつ者／適者と、(2)劣った形質を持つ者／不適者を選別する、20世紀初頭に世界を席巻したイデオロギーです。そして、この事件の被疑者は「ヒトラーの思想が降りてきた」「障害者は居なくなればいい」と言っていたことから、優生思想の持ち主といえるでしょう。では果たして、優生思想とは、ナチス·ドイツの「安楽死」計画に代表されるように、戦時の狂気の沙汰であって、今回の事件も特異な考えをもつ異常な人物による行為なのでしょうか。

このゼミでは、優生思想は、現在のわたしたちがいまなお抱えている問題であり、現代の日本社会において、例えば出生前診断や婚活ビジネスなど、個々人のレベルにおいても生き続けているということを考えます。その際、特に、優生思想の歴史をひもときながらジェンダーの視点から考察します。最終的には、現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を、歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望することを目指します。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（春学期） B							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

「優生思想」ときくと、2016年7月に相模原市の障がい者施設で起きた殺傷事件を思い出す人も多いでしょう。優生思想とは、(1)優れた形質をもつ者／適者と、(2)劣った形質を持つ者／不適者を選別する、20世紀初頭に世界を席巻したイデオロギーです。そして、この事件の被疑者は「ヒトラーの思想が降りてきた」「障害者は居なくなればいい」と言っていたことから、優生思想の持ち主といえるでしょう。では果たして、優生思想とは、ナチス·ドイツの「安楽死」計画に代表されるように、戦時の狂気の沙汰であって、今回の事件も特異な考えをもつ異常な人物による行為なのでしょうか。

このゼミでは、優生思想は、現在のわたしたちがいまなお抱えている問題であり、現代の日本社会において、例えば出生前診断や婚活ビジネスなど、個々人のレベルにおいても生き続けているということを考えます。その際、特に、優生思想の歴史をひもときながらジェンダーの視点から考察します。最終的には、現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を、歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望することを目指します。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法
レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（秋学期） A							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要
秋学期は、ゼミ論文執筆のためのレッスンを中心にゼミ活動を行います。

授業の到達目標
現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法
レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（秋学期） B							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
秋学期は、ゼミ論文執筆のためのレッスンを中心にゼミ活動を行います。

授業の到達目標
現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法
レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（春学期） A　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標
ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。
学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法
出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（春学期） B　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標
ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。
学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法
出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（秋学期） A　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。

学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法

出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（秋学期） B　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。

学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法

出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（春学期） A　サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	水曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、全員で議論し、考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。

「サステナビリティ」はある意味で当たり前な、基本的な考え方であり、コンテンツとしてはなんでも含まれる極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業にもなります。

春期は基礎研究とし、後期のアクションにつながるテーマを決定します。後期は、ゼミ論につながる個々人のテーマ設定と計画立ても考えます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

高野の春学期の講義・演習科目は基礎的なものとなるので、履修することを薦めます。特に「サステナビリティ論」は全体を網羅するのでできるだけ履修してください。サステナビリティ以外の演習科目も関係づけられ、新しい視点と知識を取り込むことにつながるので、自分の興味関心が動くものを取ってください。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

備考・関連URL

2−3年生で、高野が担当する「サステナビリティ論」と「演習　地域・都市論7」を履修していることが望ましいです。

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（春学期） B サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	水曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、全員で議論し、考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。

「サステナビリティ」はある意味で当たり前な、基本的な考え方であり、コンテンツとしてはなんでも含まれる極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業にもなります。

春秋学期を通して、個人としてはゼミ論に取り組みます。ゼミ全体としては、春期は3年生の基礎研究を組み立て必要なことを教示。後期は共同研究の一環として、アクションにつながるテーマを決定します。常に3年生のサポートを意識することで、自分の学びと成長につなげます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

備考・関連URL

＊高野が担当する「サステナビリティ論」や「演習　地域・都市論7」は2－3年生で履修していることが望ましいですが、これまで履修していない場合、基礎的な理解を振り返りたいようであれば登録してください。

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（秋学期） A サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、全員で議論し、考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。

「サステナビリティ」はある意味で当たり前な、基本的な考え方であり、コンテンツとしてはなんでも含まれる極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業にもなります。

春期は基礎研究とし、後期のアクションにつながるテーマを決定します。後期は、ゼミ論につながる個々人のテーマ設定と計画立ても考えます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

高野の秋学期の講義・演習科目は、いずれもサステナビリティと関係していますが、基盤科目は春学期に終えています。応用的なものとなるので、履修すればゼミ論や共同研究の参考にはなるかもしれませんが、他の科目で新しい視点と知識を取り込み、ゼミで活かしてもらうのも歓迎です。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（秋学期） B サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、全員で議論し、考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。

「サステナビリティ」はある意味で当たり前な、基本的な考え方であり、コンテンツとしてはなんでも含まれる極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業にもなります。

春秋学期を通して、個人としてはゼミ論に取り組みます。ゼミ全体としては、春期は3年生の基礎研究を組み立て必要なことを教示。後期は共同研究の一環として、アクションにつながるテーマを決定します。常に3年生のサポートを意識することで、自分の学びと成長につなげます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力

が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社旗を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

講 義 内 容

自由科目（講義算入可）

※初期設定は自由科目ですが登録制限単位内であれば所定の手続きを経て「講義」として
卒業所定単位に算入可能な科目群です。

科 目 名	憲法　A							
担当者名	中島　純子							
共通	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

憲法は、国家の根本法規として国内のあらゆる法の基礎となる重要な法規範です。法律、政令などといったものがこの憲法に反してはならないことはすでに学習済みのことと思います。講義では、アメリカ独立革命、フランス革命以降広く諸国に取り入れられてきた「立憲主義憲法」の考え方を踏まえて、国家は何をすべきか、すべきでないかということについて判断する力の基礎を養いたいと考えています。

立憲主義憲法は国家権力をコントロールし、個人の尊厳を最重要価値として国民の人権保障を実現させることを基本的な内容とするものです。改憲の意図を明らかにしている自民党が、「天賦人権」という立憲主義における人権の考え方を否定している今、この講義を通じて、立憲主義憲法の有する理念やその条文の多くが持つ「重さ」を感じて頂けたらと思います。

授業内容としては人権を保障するという憲法の存在意義を軸に、日本国憲法の内容とそれをめぐる状況を学習します。なるべく皆さんの発言を頂きながら、考えを深めていければと思っています。また、授業後に提出していただくレビューシートは簡単なものですが、皆さんがその日の内容を振り返るきっかけとなり、理解度や疑問点を伝えていただく手段ともなりますので、ぜひ活用をお願いしたいと思います。

授業の到達目標

1　いわゆる「常識」とは異なる規範であり判断基準である「法」の存在を学ぶことで、多角的な視点からの判断力を身につける一助とすること。

2　人権理論の基本を学び、国家の存在意義や社会のあり方について考える際の一つの指針を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　70%　　人権に対する理解。問題意識。授業、参考文献を通じた学習量など。
●**平常点**　30%　　授業に積極的に参加しているか。レビューシートへの記載回数やおよびこちらで掲載した資料の閲覧等も参考にします。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

授業で扱う項目については、出席者の要望、また時事的な現象などに応じて、必要と考えれば内容を変更してゆきます。

法学原論との同時履修はお勧めしません。

科 目 名	憲法　B							
担当者名	中島　純子							
共通	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

憲法は、国家の根本法規として国内のあらゆる法の基礎となる重要な法規範です。法律、政令などといったものがこの憲法に反してはならないことはすでに学習済みのことと思います。講義では、アメリカ独立革命、フランス革命以降広く諸国に取り入れられてきた「立憲主義憲法」の考え方を踏まえて、国家は何をすべきか、すべきでないかということについて判断する力の基礎を養いたいと考えています。

立憲主義憲法は国家権力をコントロールし、個人の尊厳を最重要価値として国民の人権保障を実現させることを基本的な内容とするものです。改憲の意図を明らかにしている自民党が、「天賦人権」を否定している時代です。この講義を通じて、立憲主義憲法の有する理念やその条文の多くが持つ「重さ」を感じて頂けたらと思います。

授業内容としては人権を保障するという憲法の存在意義を軸に、日本国憲法の内容とそれをめぐる状況を学習します。なるべく皆さんの発言を頂きながら、考えを深めていければと思っています。また、授業後に提出していただくレビューシートは簡単なものですが、皆さんがその日の内容を振り返るきっかけとなり、理解度や疑問点を伝えていただく手段ともなりますので、ぜひ活用をお願いしたいと思います。

授業の到達目標

1　いわゆる「常識」とは異なる規範であり判断基準である「法」の存在を学ぶことで、多角的な視点からの判断力を身につける一助とすること。

2　人権理論の基本を学び、国家の存在意義や社会のあり方について考える際の一つの指針を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　70%　　人権に対する理解。問題意識。授業、参考文献を通じた学習量など。
●**平常点**　30%　　授業に積極的に参加しているか。レビューシートへの記載回数やおよびこちらで掲載した資料の閲覧等も参考にします。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

授業計画にも記載した通り、授業で扱う項目については、出席者の要望、また時事的な現象などに応じて、必要と考えれば内容を変更してゆきます。

法学原論との同時履修はお勧めしません。

科 目 名	書道（書写）1　A							
担当者名	橋本　栄一							
共通	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、主として教育職員免許法に対応するものである。現在の学校教育において、書道に関する内容の学習としては、

小学校、中学校が国語科「書写」、高等学校が芸術科「書道」として実施されている。
　また、書道は、生涯学習においても多くの人々に愛好され、学ばれている。
　それらを踏まえた上で、まず、書道とはどのようなものかについて考え、それが学ばれてきた歴史を知る。その後、毎時の授業内で、講義と実技を並行して行い、書道や書写に関する知識を理解し、技能を身につけていく。さらに、近年重要視されてきた書道の古典作品等を中心とする「鑑賞」についても適宜触れ、東アジアの伝統的な文化として捉える視点を養っていく。

授業の到達目標

生涯学習及び学校教育における書道、書写に関する基礎的な知識や技能を修得する。

成績評価方法

●**試験**　20%　　適宜小テストを行い、基礎的な知識の確認を行う。
●**レポート**　40%　　指示された作品、レポート等について評価をする。
●**平常点**　40%　　出席および授業への取り組み方等を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	書道（書写）1　B							
担当者名	橋本　栄一							
共通	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

　この授業は、主として教育職員免許法に対応するものである。現在の学校教育において、書道に関する内容の学習としては、小学校、中学校が国語科「書写」、高等学校が芸術科「書道」として実施されている。
　また、書道は、生涯学習においても多くの人々に愛好され、学ばれている。
　それらを踏まえた上で、まず、書道とはどのようなものかについて考え、それが学ばれてきた歴史を知る。その後、毎時の授業内で、講義と実技を並行して行い、書道や書写に関する知識を理解し、技能を身につけていく。さらに、近年重要視されてきた書道の古典作品等を中心とする「鑑賞」についても適宜触れ、東アジアの伝統的な文化として捉える視点を養っていく。

授業の到達目標

生涯学習及び学校教育における書道、書写に関する基礎的な知識や技能を修得する。

成績評価方法

●**試験**　20%　　適宜小テストを行い、基礎的な知識の確認を行う。
●**レポート**　40%　　指示された作品、レポート等について評価をする。
●**平常点**　40%　　出席および授業への取り組み方等を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	書道（書写）2　A							
担当者名	宮崎　肇							
共通	2単位	秋学期	土曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

　書は、美と実用の一致する文字の芸術であると同時に、日常生活に欠くことの出来ない技術である。今日まで日本の文化を下支えしてきた「文字を書く」という行為について、講義と実習を通して考察する。
　毎回の授業ごとに実習を行う。また、適宜講義も行う。
　実習では、日本・中国の古典の臨書を中心に、書道の基礎的技術の修養を目指したい。またそれを通じて、自分なりに書を学び楽しむ方途を追求していきたい。
　講義では、書の歴史的変遷について概観する。学書においては、とかく名筆・優品ばかりに目が行きがちだが、その背後にある社会、無名の数多の書の存在を意識し、その文字・書風のもつ意味についても考察する。
　書は手習いと同時に目習いも重要である。時に展覧会見学を課し、書跡の鑑賞も併せて行う。
　古典の学書を通じて、ひとくちに楷書・行書・草書とはいっても、それぞれの書体の中には書き手によって或いは遺品によってさまざまな書風があり、それぞれ特有の魅力をもっていることに気付かされるだろう。つまり、書の“お手本”は一様ではないのである。本授業において最も重視したいのがこの点であり、書字に対する受講者個々人の意識である。“お手本”は与えられるものではなく、自らが選びとるものだという意識をもつことが大切である。

授業の到達目標

　吉田兼好は『徒然草』の中で「古人の書に接することは見ぬ世の人を友とする思いがする」と述べているが（第13段）、本授業を通して、そうした古人との出会いを楽しみ、それぞれの感性に任せて、書の古典の豊かな世界を追体験してほしい。そして、自分の好きな書跡を見つけるきっかけ、文字を書くことを好きになるきっかけ、自分自身の手跡を見つめ直すきっかけを得てほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　学期末のレポート。
●**平常点**　80%　　各回課題への取り組み状況。提出された臨書作の巧拙にはよらない。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

　書道具を用意のこと。道具は手持ちのもので構わない。持っていない人については、初回の授業時に指示する。

〜自由科目　講義　算入可〜

科 目 名	書道（書写）２　B							
担当者名	宮崎　肇							
共通	２単位	秋学期	土曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

書は、美と実用の一致する文字の芸術であると同時に、日常生活に欠くことの出来ない技術である。今日まで日本の文化を下支えしてきた「文字を書く」という行為について、講義と実習を通して考察する。

毎回の授業ごとに実習を行う。また、適宜講義も行う。

実習では、日本・中国の古典の臨書を中心に、書道の基礎的技術の修養を目指したい。またそれを通じて、自分なりに書を学び楽しむ方途を追求していきたい。

講義では、書の歴史的変遷について概観する。学書においては、とかく名筆・優品ばかりに目が行きがちだが、その背後にある社会、無名の数多の書の存在を意識し、その文字・書風のもつ意味についても考察する。

書は手習いと同時に目習いも重要である。時に展覧会見学を課し、書跡の鑑賞も併せて行う。

古典の学書を通じて、ひとくちに楷書・行書・草書とはいっても、それぞれの書体の中には書き手によって或いは遺品によってさまざまな書風があり、それぞれ特有の魅力をもっていることに気付かされるだろう。つまり、書の“お手本”は一様ではないのである。本授業において最も重視したいのがこの点であり、書字に対する受講者個々人の意識である。“お手本”は与えられるものではなく、自らが選びとるものだという意識をもつことが大切である。

授業の到達目標

吉田兼好は『徒然草』の中で「古人の書に接することは見ぬ世の人を友とする思いがする」と述べているが（第13段）、本授業を通して、そうした古人との出会いを楽しみ、それぞれの感性に任せて、書の古典の豊かな世界を追体験してほしい。そして、自分の好きな書跡を見つけるきっかけ、文字を書くことを好きになるきっかけ、自分自身の手跡を見つめ直すきっかけを得てほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　学期末のレポート。
●**平常点**　80%　　各回課題への取り組み状況。提出された臨書作の巧拙にはよらない。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

書道具を用意のこと。道具は手持ちのもので構わない。持っていない人については、初回の授業時に指示する。

科 目 名	自然地理学１　－ 地球表層部の成立ちと地震被害 －							
担当者名	渡辺　満久							
共通	２単位	春学期	木曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

我々が生活の場としている、地球表層部の成立ちを解説し、日本列島の特徴を明確にします。まず、宇宙を概観して地球の特徴を明らかにし、地球の歴史の視点から現在の気候環境を解説します。次いで、地球表層部では大規模な水平移動が起こっており、そのことによって地震が発生していることを紹介します。地球における日本列島の位置や特徴を明らかにし、日本で地震が多い理由を解説します。最後に、地震被害を軽減するための基礎的な資料を提示します。日本の原子力関連施設の安全性評価に関わる問題にも言及する予定です。いずれの講義においても、多数の具体的な事例をスライド等で提示します。

授業の到達目標

（1）地球表層部の特徴を説明できる。
（2）日本列島の特徴を述べることができる。
（3）活断層の性質・地震被害発生の要因を説明できる。
（4）地震被害軽減策を説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験（理解度の確認）は3回（いずれも持ち込み不可）行います。それらの採点結果を総合（第1回目：30%、第2回目：30%、第3回目：40%）して評価します。いずれも、選択問題と論述問題から構成されます。選択問題では60%以上の正解率が必要です。論述問題では、暗記してきた内容を箇条書きにしたような答案や、数行程度の答案は評価対象とはなりません。何故そう考えるのかを丁寧に記述する必要があります。
●**レポート**　0%　　－
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　－

備考・関連ＵＲＬ

私語を繰り返す学生は、単位を取得できません。

科 目 名	自然地理学2　－ 土砂災害、自然環境変化と人類の活動・地形形成 －							
担当者名	渡辺　満久							
共通	２単位	秋学期	木曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

地形形成と土砂災害などの自然災害、自然環境変化と地形形成との関係などを解説します。まず、地形の特徴と概要を解説します。その上で、山の浸蝕・土砂の運搬がどのように起こり、その結果としてどのような地形が形成されるかを解説します。地形形成過程をもとに、自然災害は普遍的な現象であることを述べ、どこにどのような自然災害が発生するのか、その予測についても紹介します。次に、現在の気候環境の特徴とその成因を明らかにしたうえで、過去から現在までの環境変遷の様子を紹介し、環境変化と人類との関係を考察します。最後に、気候環境の変化の様子は、土地の起伏に記録されていることを述べます。いずれの講義においても、多数の具体的な事例をスライドなどで紹介するほか、講義と作業を組み合わせて解説します。

授業の到達目標

（1）地形形成と自然災害の関係を説明できる。
（2）現在の自然環境の地域性を説明できる。
（3）自然環境変化と人類の活動を述べることができる。
（4）自然環境変化と地形形成の関係を説明できる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験（理解度の確認）は3回（いずれも持ち込み不可）行います。それらの採点結果を総合して（第1回目：30%、第2回目：30%、第3回目：40%）評価します。いずれも、選択問題・作業問題・論述問題から構成されます。選択問題では60%以上の正解率が必要です。作業問題では、判読結果が正確に図示されてない場合などは評価対象とはなりません。論述問題では、何故そう考えるのかを丁寧に記述する必要があり、暗記してきた内容を箇条書きにしたような答案や数行程度の答案は評価対象とはなりません。
●**レポート**　0%　　－
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　－

備考・関連URL

私語を繰り返す学生は、単位を取得できません。

科 目 名	人文地理学1　日本の都市問題							
担当者名	高柳　長直							
共通	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

我々の社会や経済は，国境の垣根を越えて，ますますグローバル化しようとしている。その結果，地球は相対的にますます小さくなり，地理の終焉といったことも言われている。しかし，果たしてそうであろうか。人文地理学は、位置・場所・地域・空間など土地に関する知識の体系化を行なってきた学問分野である。本講義では最初に，地理学の基礎的な考え方を提示する。それをふまえ，都市をテーマに具体的な課題を考察していく。

授業の到達目標

日本の都市問題をみていく場合の視点を理解する。
論理的な思考を醸成する。
地理学的方法論の基礎を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容に即して理解しているか。論理的な説明であるか。一定以上のボリュームがあるか。
●**レポート**　30%　　課題に即しているか。テーマの設定が妥当であるか。論理的な説明であるか。自分で調査したものであるか。
●**平常点**　0%　　とくになし。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

教職科目の一つとして履修する場合は、3年次までに行うことが望ましい。

科 目 名	人文地理学2　アメリカ合衆国の人文地理							
担当者名	高柳　長直							
共通	2単位	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本で最もよく知られている外国の一つはアメリカであるが，意外と誤解していることも少なくない。日本に伝えられるアメリカ像は画一的なものが多いが，実は地域に多様性をもっている。本講義では，人間の諸活動の場所的差違形成の論理や地域問題に対する視点をアメリカ合衆国を事例に提示していくことにする。具体的には，自然環境と人間生活，人口と民族問題，都市問題，政治と地理との関係，食料と健康などのサブテーマに関して人文地理学的考察を行なっていく。

授業の到達目標

世界の中のアメリカ合衆国の位置づけを理解する。
日本（日本人）とアメリカ合衆国（アメリカ人）の相違を理解する。
アメリカ合衆国の地域的多様性を理解する。
地理学的方法論を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容に即して理解しているか。論理的な説明であるか。一定以上のボリュームがあるか。
●**レポート**　30%　　課題に即しているか。テーマが妥当であるか。論理的な説明であるか。自分で調査したものであるか。
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

アメリカ合衆国に興味のある方や将来留学等を考えている方の受講も歓迎する。
教職科目の一つとして履修する場合は、3年次までに行うことが望ましい。

〜自由科目（算入可）〜

科 目 名	地誌1							
担当者名	本木　弘悌							
共通	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本や世界には様々な地域が存在しており、二つとして同じ地域は存在せず、それは諸地域が多様な風土と諸条件の上に特色ある展開を示しているからである。本講義では各地域の特色について事例を通して考察しながら、地域を総合的に把握するという地誌学のアプローチを学び、地域的視点を養う。

授業の到達目標

1）日本と世界の諸地域の理解を深めること。
2）地誌的アプローチについて考察できるようにすること。
3）中学校や高校で学んだ地理の意義を再認識すること。

成績評価方法

●**試験**　30%　　15回目の授業時間内に実施する
●**レポート**　10%　　授業を踏まえて、教科書の内容に関連するテーマについてレポートを作成する
●**平常点**　30%　　通常講義に関連したテーマ記述を提出
●**その他**　30%　　中間時点において、それまでの授業のまとめを記述して提出する

科 目 名	地誌2　熱くて冷たいアジア							
担当者名	齋藤　正憲							
共通	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ひとは環境と向き合い、その強い規制を受けつつも、独自の生活文化を築き、固有の歴史を紡いできた。環境との関わりのなかで醸成される「風土」はだから、地域ごとにじつにさまざまな相貌をみせる。そのような地域性／地域らしさを、自然地理学と人文地理学の両面から読み解こうとするのが、世界地誌というアプローチである。気候や農業、食文化、産業、社会といった地理的諸事象を整理・概観しつつ、それぞれの地域文化の特性（歴史的背景を含む）にも配慮し、相互に比較・検討する。結果として、地域性を踏まえた異文化理解への道筋が示され、一定の文化観（アジア観や日本文化観など）が受講生の裡に像を結ぶことを期待したい。

授業の到達目標

自然環境との関わりのなかでひとはどのように暮らしているのか。そこにはどのような固有の戦略が見出されるのか。社会の変化は地域の文化伝統にどのような変容を強いるのか。これらの事柄について、いくつかの民族誌事例を取り上げつつ、考えてみたい。この試みを通じて、目まぐるしく変化する世界情勢を理解するための怜悧な観点を培ってもらいたい。なお、本講義ではとくにアジアに焦点をあてる。受講生諸君の裡に、日本文化をも視野におさめた、それぞれの「アジア観」が涵養されることを期待してやまない。

成績評価方法

●**試験**　80%　　「理解度の確認」を重要視する。講義内容を踏まえ、自身の地誌観を論述で説明する形式を考えている。
●**レポート**　0%　　レポートを課すことは考えていない。
●**平常点**　20%　　授業への積極的参加を勘案する。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	法学原論　A							
担当者名	中島　純子							
共通	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「法学原論」と銘打っていますが、内容は憲法の学習となります。刑法、民法等を学習するものではありませんので、注意してください。

憲法は、国家の根本法規として国内のあらゆる法の基礎となる重要な法規範です。法律、政令などといったものがこの憲法に反してはならないことはすでに学習済みのことと思います。講義では、アメリカ独立革命、フランス革命以降広く諸国に取り入れられてきた「立憲主義憲法」の考え方を踏まえて、国家は何をすべきか、すべきでないかということについて判断する力の基礎を養いたいと考えています。

立憲主義憲法は国家権力をコントロールし、個人の尊厳を最重要価値として国民の人権保障を実現させることを基本的な内容とするものです。改憲の意図を明らかにしている自民党が、「天賦人権」という立憲主義における人権の考え方を否定している今、この講義を通じて、立憲主義憲法の有する理念やその条文の多くが持つ「重さ」を感じて頂けたらと思います。

授業内容としては人権を保障するという憲法の存在意義を軸に、日本国憲法の内容とそれをめぐる状況を学習します。人数の関係で講義形式になると思いますが、レビューシートを皆さんの理解度や疑問点を知るなどの意思疎通に役立てたいと思っています。

授業の到達目標

1　いわゆる「常識」とは異なる規範であり判断基準である「法」の存在を学ぶことで、多角的な視点からの判断力を身につける一助とすること。
2　人権理論の基本を学び、国家の存在意義や社会のあり方について考える際の一つの指針を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない予定です。
●**レポート**　70%　　人権に対する理解。問題意識。授業、参考文献を通じた学習量など。
●**平常点**　30%　　レビューシートへの記載およびこちらで掲載した資料の閲覧等。
●**その他**　0%　　ありません。

備考・関連URL

授業で扱う項目、配分についてはシラバスにこだわらず、出席者の要望、また時事的な現象などに応じて臨機応変を心がけています。

憲法Aとの同時履修はお勧めしません。

科目名	法学原論　B							
担当者名	中島　純子							
共通	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

講座名は「法学原論」ですが、内容は「憲法」です。法学一般を扱うものではありませんので、履修の際は注意してください。

憲法は、国家の根本法規として国内のあらゆる法の基礎となる重要な法規範です。法律、政令などといったものがこの憲法に反してはならないことはすでに学習済みのことと思います。講義では、アメリカ独立革命、フランス革命以降広く諸国に取り入れられてきた「立憲主義憲法」の考え方を踏まえて、国家は何をすべきか、すべきでないかということについて判断する力の基礎を養いたいと考えています。

立憲主義憲法は国家権力をコントロールし、個人の尊厳を最重要価値として国民の人権保障を実現させることを基本的な内容とするものです。改憲の意図を明らかにしている自民党が、「天賦人権」という立憲主義における人権の考え方を否定している今、この講義を通じて、立憲主義憲法の有する理念やその条文の多くが持つ「重さ」を感じて頂けたらと思います。

授業内容としては人権を保障するという憲法の存在意義を軸に、日本国憲法の内容とそれをめぐる状況を学習します。人数の関係で講義形式になると思いますが、レビューシートを皆さんの理解度や疑問点を知るなどの意思疎通に役立てたいと思っています。

授業の到達目標

1　いわゆる「常識」とは異なる規範であり判断基準である「法」の存在を学ぶことで、多角的な視点からの判断力を身につける一助とすること。

2　人権理論の基本を学び、国家の存在意義や社会のあり方について考える際の一つの指針を得ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない予定です。理解度確認などはレビューシートで行いますが、評価は目的としていません。

●**レポート**　70%　　レポート: 70%　　人権に対する理解。問題意識。授業、参考文献を通じた学習量など。

●**平常点**　30%　　レビューシートへの記載およびこちらで掲載した資料の閲覧等。

●**その他**　0%　　ありません。

備考・関連URL

授業で扱う項目については、シラバスの内容にかかわらず、出席者の要望、また時事的な現象などに応じて臨機応変を心がけるつもりです。

憲法Bとの同時履修はお勧めしません。

科目名	政治学原論　A　現代政治理論入門							
担当者名	金田　耕一							
共通	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

一般に、政治学では各国政治の権力構造や行政組織、その国の政治の歴史、あるいは国家間の政治外交関係の問題などが扱われます。これらは、いうなれば「政治という現象」に関する研究です。これに対してこの講義では、暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのか、公正な社会とはどのような社会かなどをめぐる「規範や理念」を主題としています。前者の「現象」に関する研究を「経験的・実証的研究」とすれば、「原論」では「規範的・原理的研究」をおこなうことになります。

現在、私たちはさまざまな政策課題に直面しています。それらはいずれも、たんに権力構造の秘密を知ったり、歴史的背景を理解したからといって、簡単に解決できるような問題ではありません。もっとも、いずれにしても簡単に解決できるような問題はないのですが。

しかし、具体的な政策課題（たとえば年金制度や税制といった）はいずれもその根底に規範的・理念的問題を抱えています。たとえば、なぜ私たちは、一方では激しく対立・競争しながら他方では協力し、助け合わなければならないのでしょうか。デモクラシーはこのような人と人のあいだの問題を解決する最善の方法なのでしょうか。あるいは、かりにそうであるとして、なぜデモクラシーはつねにうまく機能していないように見えるのでしょうか。ただ事実を列挙したところで、このような問題の本質・原理を理解することはできません。一見するところ抽象的な規範や理念がどれほど私たちの目の前の問題を規定しているかを理解できるよう、現代の政治理論の諸成果について学びます。

授業の到達目標

暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのかなどについて、現代の政治理論の諸主題の概要を理解し、それをつかって現代の政治的問題について規範的に考えることhができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　100%　　講義を基にして、政治的理解が進んでいるかどうかを確認する。

●**平常点**　0%　　出席はとらない。

●**その他**　0%

〈自由算入科目〉

科 目 名	政治学原論　B　現代政治理論入門							
担当者名	金田　耕一							
共通	２単位	秋学期	月曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

一般に、政治学では各国政治の権力構造や行政組織、その国の政治の歴史、あるいは国家間の政治外交関係の問題などが扱われます。これらは、いうなれば「政治という現象」に関する研究です。これに対してこの講義では、暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのか、公正な社会とはどのような社会かなどをめぐる「規範や理念」を主題としています。前者の「現象」に関する研究を「経験的・実証的研究」とすれば、「原論」では「規範的・原理的研究」をおこなうことになります。

現在、私たちはさまざまな政策課題に直面しています。それらはいずれも、たんに権力構造の秘密を知ったり、歴史的背景を理解したからといって、簡単に解決できるような問題ではありません。もっとも、いずれにしても簡単に解決できるような問題はないのですが。

しかし、具体的な政策課題（たとえば年金制度や税制といった）はいずれもその根底に規範的・理念的問題を抱えています。たとえば、なぜ私たちは、一方では激しく対立・競争しながら他方では協力し、助け合わなければならないのでしょうか。デモクラシーはこのような人と人のあいだの問題を解決する最善の方法なのでしょうか。あるいは、かりにそうであるとして、なぜデモクラシーはつねにうまく機能していないように見えるのでしょうか。ただ事実を列挙したところで、このような問題の本質・原理を理解することはできません。一見するところ抽象的な規範や理念がどれほど私たちの目の前の問題を規定しているかを理解できるよう、現代の政治理論の諸成果について学びます。

授業の到達目標

暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのかなどについて、現代の政治理論の諸主題の概要を理解し、それをつかって現代の政治的問題について規範的に考えることhができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　講義を基にして、政治的理解が進んでいるかどうかを確認する。
●**平常点**　0%　　出席はとらない。
●**その他**　0%

科 目 名	経済学原論　ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩							
担当者名	熊谷　善彰							
共通	２単位	秋学期	金曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

経済学の体系の概要を説明するとともに、我々が日常接する経済の現実問題について経済学的理解を深める。経済問題が、我々の日常生活にいかに密接に結びついているか、そしてそれらを理解するための道具として経済学がいかに有効か、いかなる制約の下にあるかについて明らかにする。ミクロ経済学、マクロ経済学のそれぞれについての基礎的な部分を扱う。

授業の到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的な部分を理解する。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験により授業内容の理解度を評価
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	社会教育方法論1　参加体験型学習と支援者の役割							
担当者名	新井　浩子							
共通	２単位	春学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年、学校教育では、対話や問題発見、問題解決型の教育が注目され、学習者が主体的にテーマについて探求する学習や主体的な学習能力の育成を目的とするアクティブラーニングが導入されるようになりました。一方、社会教育では以前から、学習者が主人公となる学習が重視されており、そのための学習支援の方法が開発されてきました。この授業では社会教育で実施されている学習方法の一つである参加体験型学習（ワークショップ）を取り上げ、その構造や支援者（ファシリテーター）の役割について学びます。授業では、実際にワークショップを体験し、その経験をもとに学習としての構造や効果について考えていきます。学習者が主人公となる学びとはどのようなものか、どうしたら実現するのか、支援者はどのような役割をはたすのか、一緒に考えましょう。

授業の到達目標

①参加体験型学習について基礎的な理解を得る。
②参加体験型学習の学習プロセスについて、自身の経験を踏まえて説明できるようになる。
③成人の学習方法とその支援に関する基礎的な知識と技能を得る。

成績評価方法

レポート（評価割合80%）：授業で学んだことをふり返り、学ぶ人が主人公となる学習のデザインについて考察するレポートを課します。
授業への参加・貢献度（評価割合20%）：グループワークや話し合いへの積極的な参加を評価します。

科 目 名	社会教育方法論2　学習支援の方法と支援者の役割							
担当者名	新井　浩子							
共通	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会教育は「国民の自己教育・相互教育」と表現されます。社会教育の目的は、地域で暮らす普通の人々が自らの課題を解決する主体としての力量形成にありますが、その第一歩は学習者が主人公となる学習の場づくりにあります。この授業では、そうした学習の場をつくる人＝学習支援者、に焦点をあて、学ぶ人自身が主人公になれる学習の場づくりについて考察を深めます。

具体的な授業方法としては、①講義、に加えて、②地域の社会教育関連施設や団体などを訪問し現場の支援者へのインタビューを行い、レポートを作成します。

授業の到達目標

社会教育における学習支援と支援者の役割について、自身の経験を踏まえて説明できるようになる。

成績評価方法

レポート（評価割合80%）：①社会教育関連施設訪問＆支援者インタビュー調査にかんするレポート　②授業で学んだことをふり返り社会教育における学習支援と支援者の役割について考察するレポート、の2点を課します。

授業への参加・貢献度（評価割合20%）：グループワークや話し合いへの積極的な参加を評価します。

（自由科目／講義算入可）

自由科目（講義算入可）

自由科目（講義算入可）